第Ⅷ章　縄文時代早期の調査

第１節　概要

縄文時代早期の遺構・遺物は，薩摩火山灰直上の黒褐色土であるⅧ層，明茶褐色土のⅦ層及びアカホヤ火山灰直下のⅥa層より出土する。Ⅶ層とⅥa層の間には桜島起源のＰ-11テフラが良好な堆積を示し，縄文時代早期後葉の指標となっている。

遺構は，検出面を優先して掲載してあるが，土坑・落し穴状遺構については埋土状況を検出面より優先して配置してある。

Ⅷ層段階の遺構は，桐木遺跡で竪穴住居４軒，土坑30基，落し穴状遺構２基と集石遺構34基を検出した。耳取遺跡では土坑７基，落し穴状遺構１基と集石遺構10基を検出した。

Ⅶ層段階の遺構は，桐木遺跡で竪穴住居１軒，落し穴状遺構１基と集石遺構68基を検出した。耳取遺跡では土坑３基，集石遺構86基と配石遺構１基を検出した。特に，耳取遺跡の３～６区にかけては集石遺構が集中し，足の踏み場もないくらい散礫が広がっていた。

Ⅵ層段階の遺構は，桐木遺跡で土坑１基，集石遺構13基，耳取遺跡で集石遺構11基を検出した。

第２節　遺構

遺構については，検出面を優先して掲載してある。ただし，土坑や落し穴状遺構については，埋土状況から時期認定できたものについてはそれに基づき掲載した。

Ⅷ層段階の遺構は，薩摩火山灰であるⅨ層上面で検出した。集石遺構以外の遺構については，Ⅷ層からⅨ層を掘り抜いており，20cm位上位からの掘り込みと推測される。埋土と周囲の土色が同じのため，集石遺構以外の遺構はⅧ層中で検出できなかった。

Ⅶ層段階の遺構は，微妙な埋土の違いにより遺構検出している。集石遺構については，Ⅷ層とⅦ層の境界で検出されるものも多く，境界検出の集石遺構はⅧ層とⅦ層の線引きが微妙である。

１　Ⅷ層の竪穴住居跡

竪穴遺構は，桐木遺跡で４軒検出されている。遺構内の遺物は非常に少なく，炉跡及び柱穴痕はいずれも検出できなかった。このような遺構を住居として認定してよいかの課題も残るが，ここでは竪穴住居跡として掲載した。

１号竪穴住居(第25図)

桐木遺跡Ｄ-12区からⅨ層上面で検出された。平面プランは，237.5cm×187.5cmの隅丸方形状を成す。検出面から床面までの深さは，22.5cmで，埋土はⅧ層の黒褐色土で，白色岩片の混入状態で分層してある。

１号住居内遺物(第25図)

１～４は，口縁部から胴部にかけて直線的な形態を呈し，平底の底部を形成する円筒形の深鉢形土器である。口唇部は平坦面を形成し，底部は円盤状の底面部分と，底面端部から胴部下端の立ち上がり部とが一体化し断面形がＬ字状を呈する部分とを，接合して整形している。施文的特徴としては，口唇上端部に刺突文を，口縁部外面には篦状工具により縦長の刻みを横位方向に一列巡らし，胴部から底部外面にかけては貝殻腹縁部による横位方向の条痕文を施す。内器面の調整は口縁部から胴部にかけては主に縦方向の，胴部下端部では主に斜方向のケズリ調整を行う。以上の特徴からこれらの土器は，第１群土器第２類土器に属し，径の大きさの違いから，１と２は第３種土器に，３は第１種土器に，４は第２種土器に分類できる。１と４は住居廃絶後の埋土２層から，２と３は住居埋没段階の埋土１層からと，いずれも住居埋土上層から出土したものである。５は石鏃である。脚部と頭部を欠損している。黒曜石Ⅲ類を使用し，丁寧な調整剥離によってシンメトリーに仕上げている。

２号竪穴住居(第26図)

桐木遺跡Ｆ-９・10区で検出し，平面プラン245cm×175cmの隅丸長方形を成し，検出面から床面までの深さは45cmである。床面はＸⅠ層まで掘り込んでいるが，貼り床構造は見られない。壁の立ち上がりは明瞭で，床面に３基のピットと２基の土坑を検出した。ピットについては，深さ，径共に不規則なため柱穴とは認定しがたい。

土坑①は，長軸54cm，短軸30cm，深さ12cmの浅い掘り込みがあり，炭化物を多く含んだ埋土であった。現時点では炉かどうかは不明である。

土坑②は，長軸100cm，短軸64cm，深さ115cmの掘り込みを持ち，土坑①を切っており，土坑①より新しい。住居に伴う施設なのかどうかは，現時点では不明である。

２号住居内遺物(第27図)

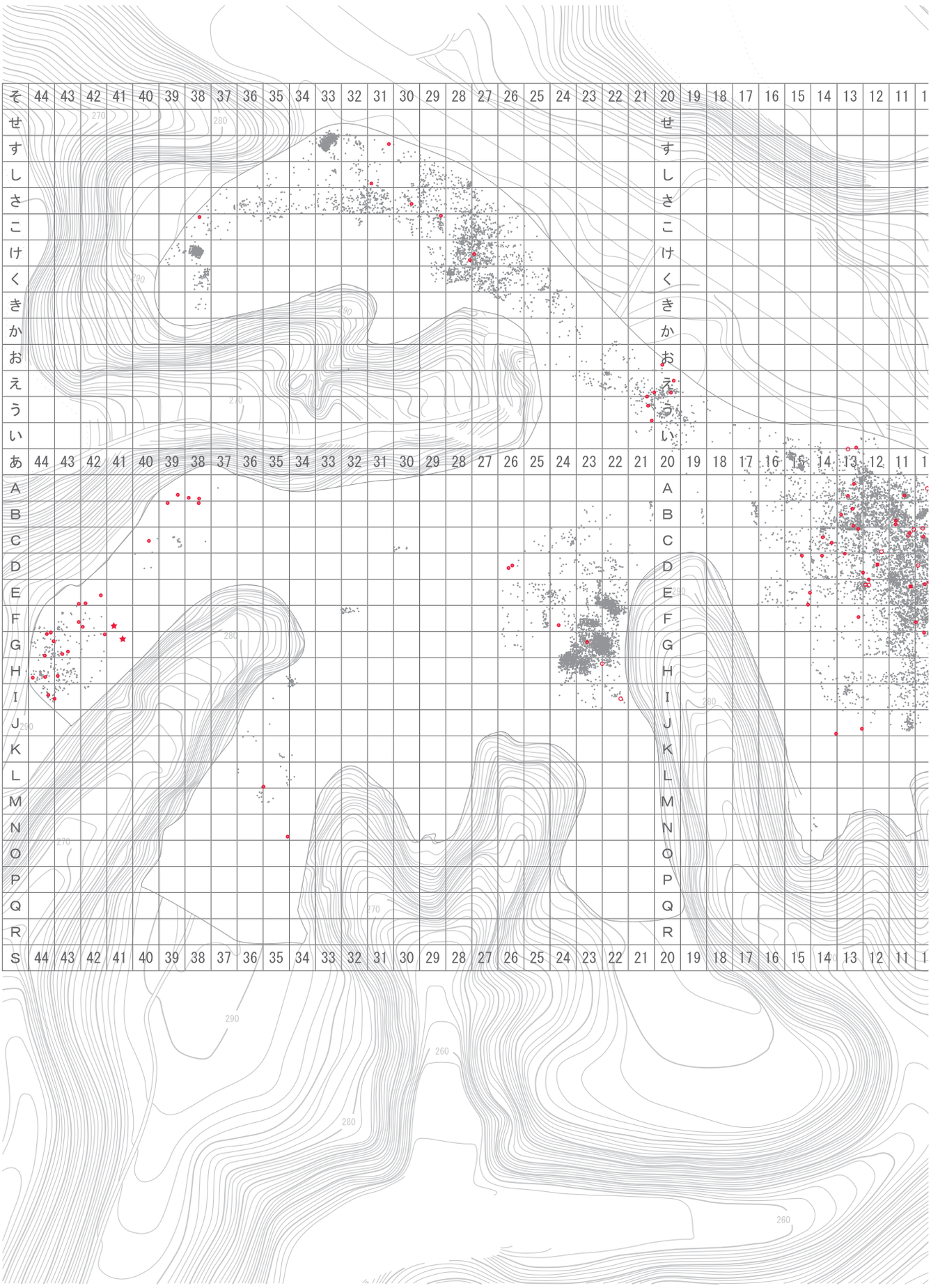
６は，波状口縁の口縁部が直行し，口唇部は平坦面を形成する角筒形土器で，口縁部には縦方向の貝殻刺突文を２列，胴部には斜方向の貝殻条痕上に斜格子状の貝殻条痕文と縦方向の流水文とを重ねる。第１群土器第４類土器に分類できる。

３号竪穴住居(第27図)

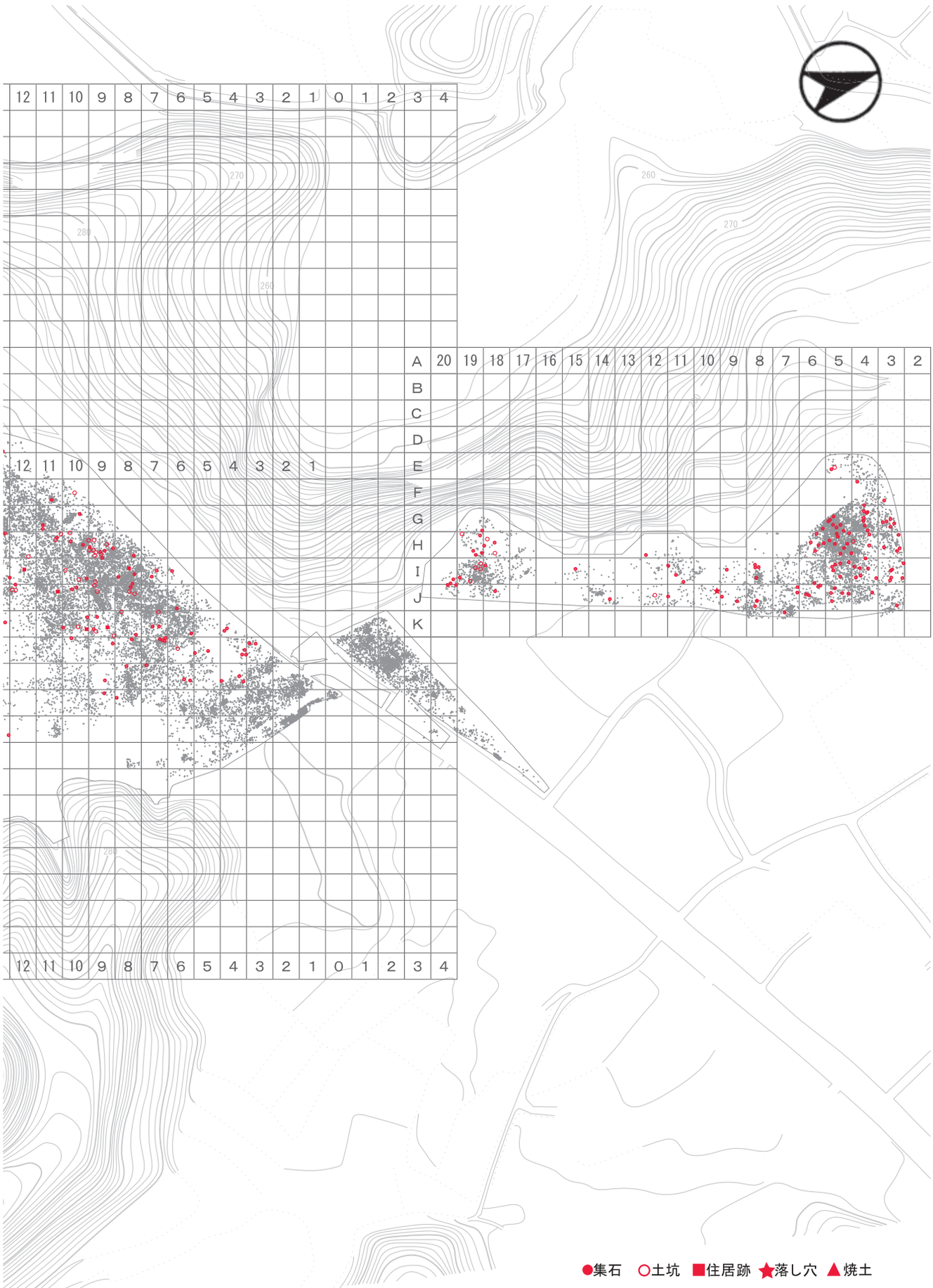
桐木遺跡Ｆ-９区で検出し，平面プラン217cm×197cmの隅丸方形を成し，検出面からの深さ30cmである。貼り床は見られず，掘り込んだ地山面が当時の床面と考えられる。壁の立ち上がりは明瞭である。床面及び遺構周辺にはピットを検出できなかった。埋土は黒褐色土のⅧ層で，白色岩片の混入状態で分層した。２号竪穴住居とは８mの距離がある。

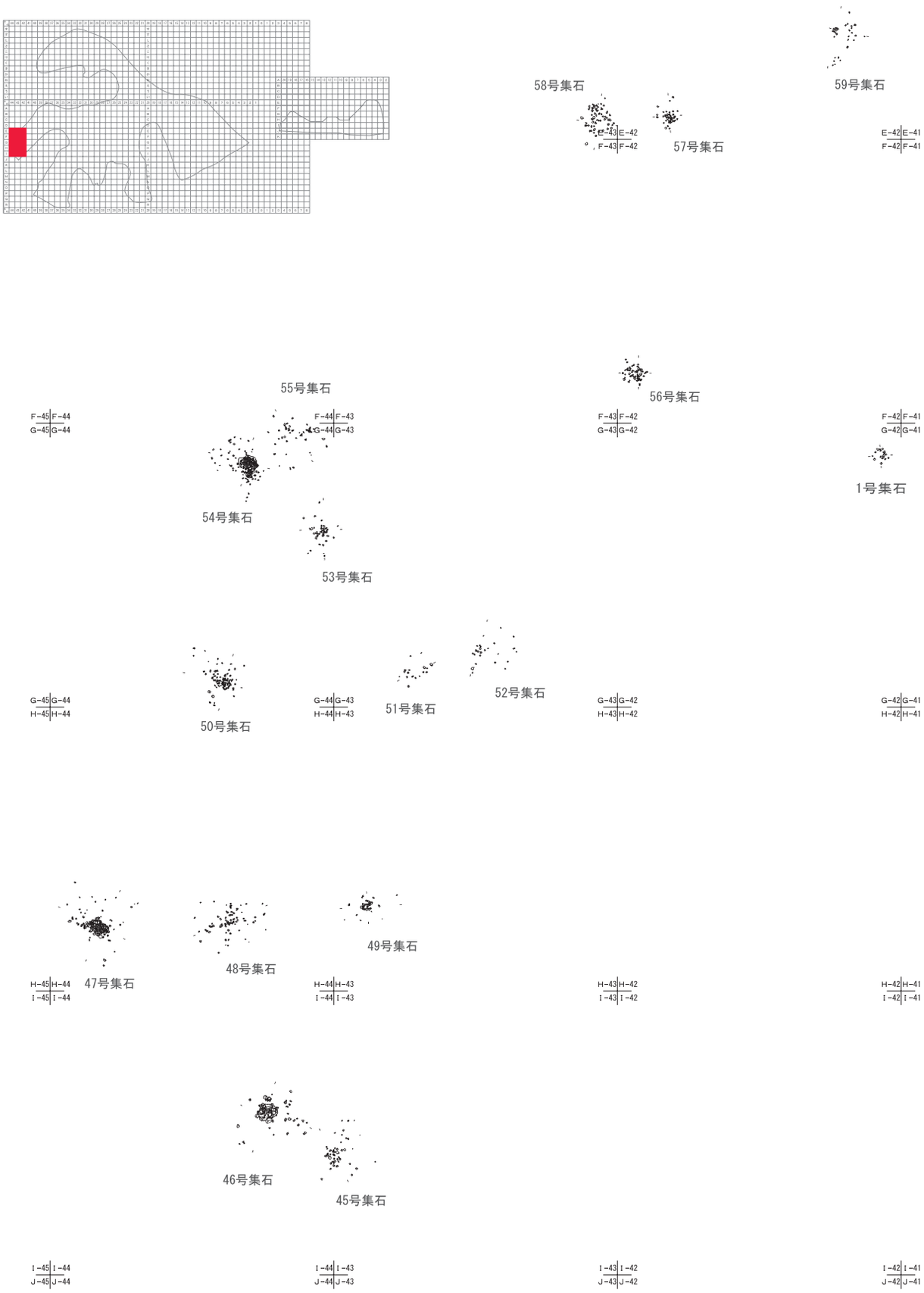
３号住居内遺物(第27図)

７は，口縁部から胴部にかけて直線的な形態を呈する円筒形土器で，口唇部は平坦面を形成する。口唇上端部に刺突文を，口縁部外面には篦状工具により縦長の刻みを横方向に一

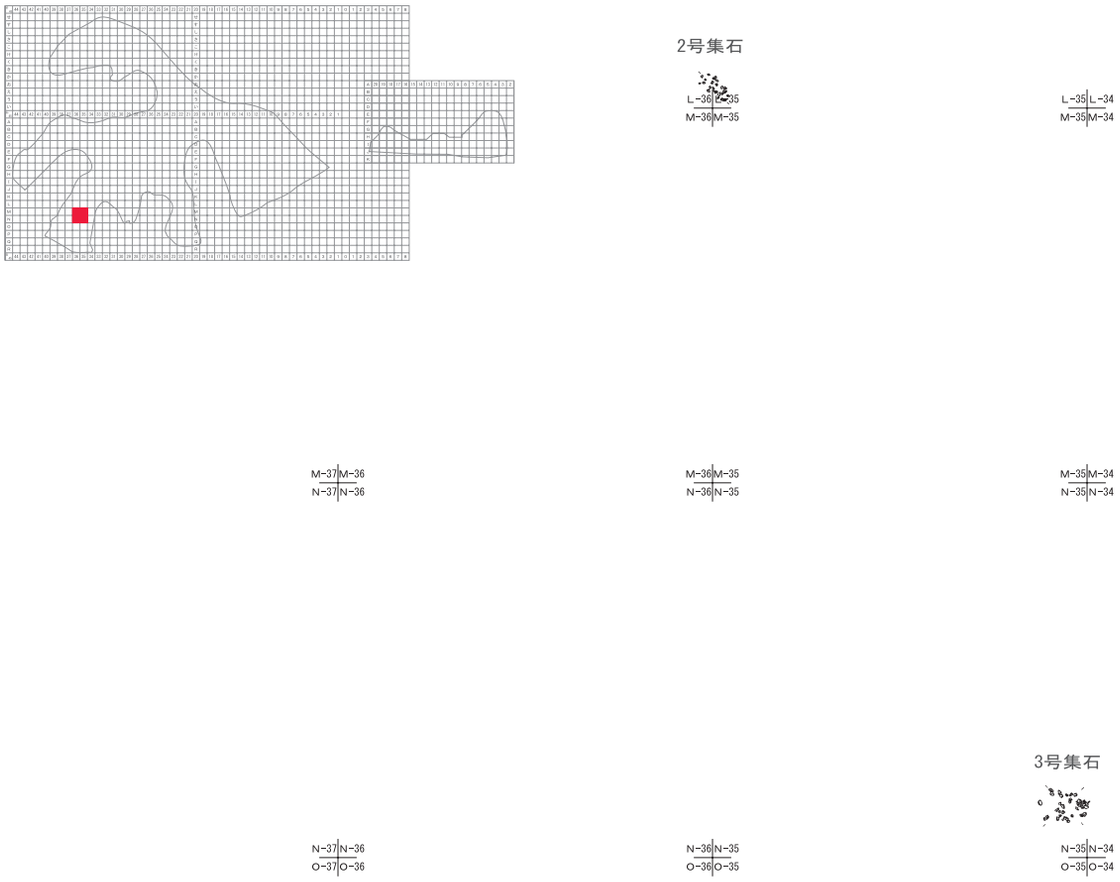


第１図　Ⅷ～Ⅵ層全体図（1/2000）

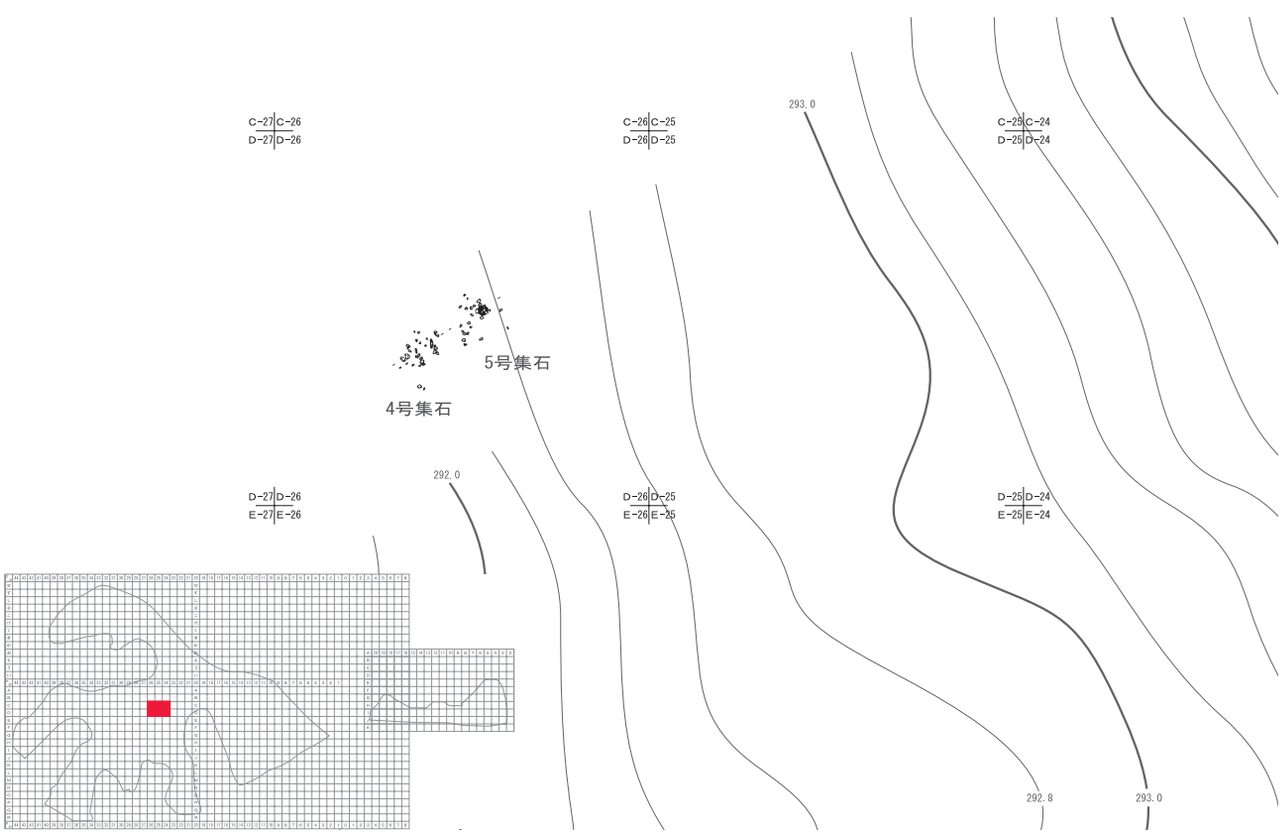

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
●集石 ○土坑 ■住居跡 ★落し穴 ▲焼土



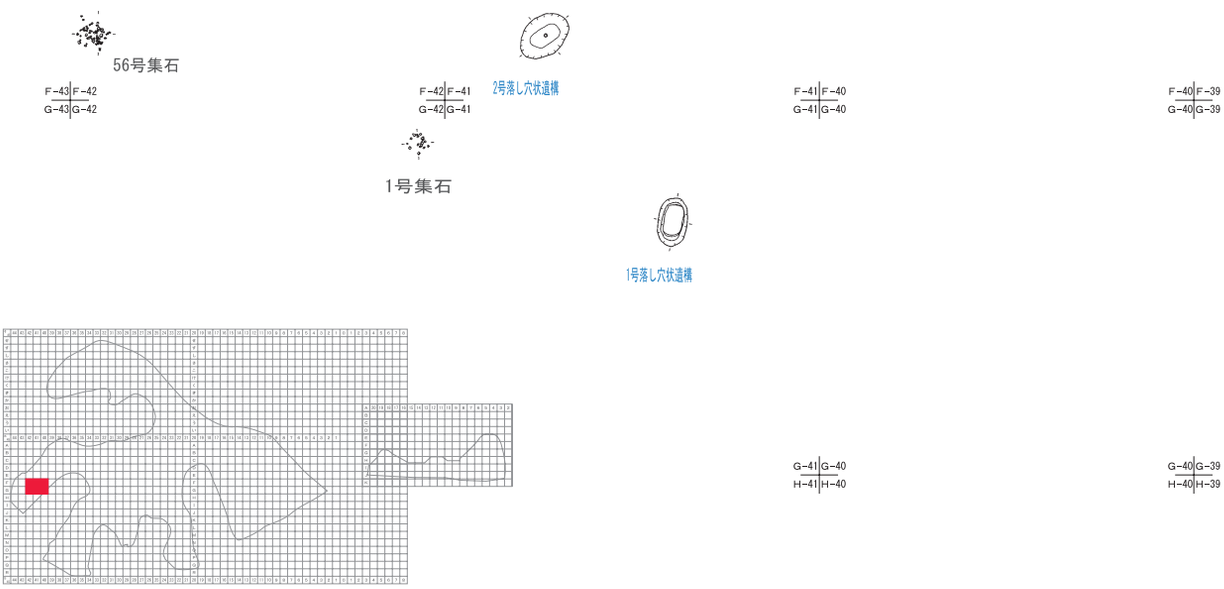
第２図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図１（1/200）



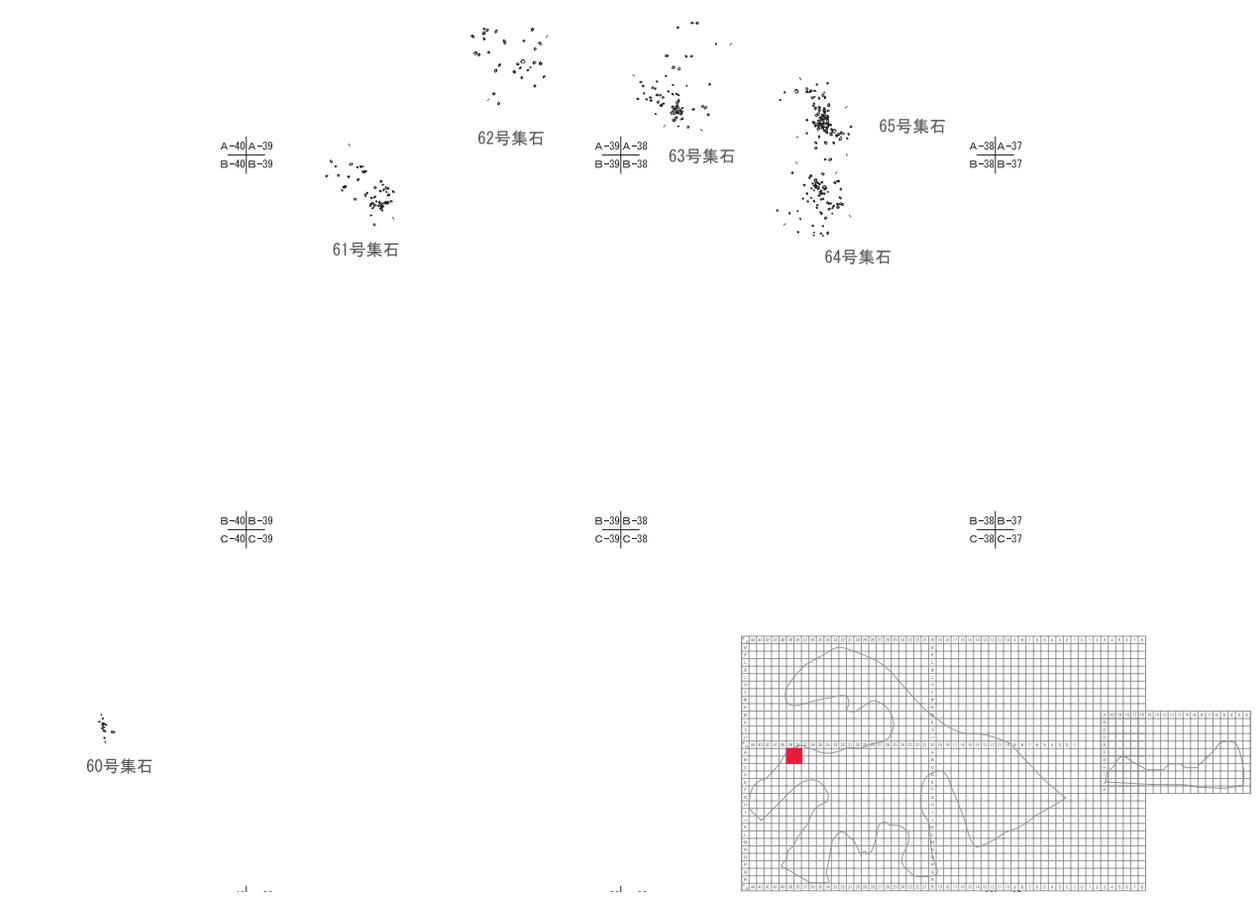
第３図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図２（1/200）



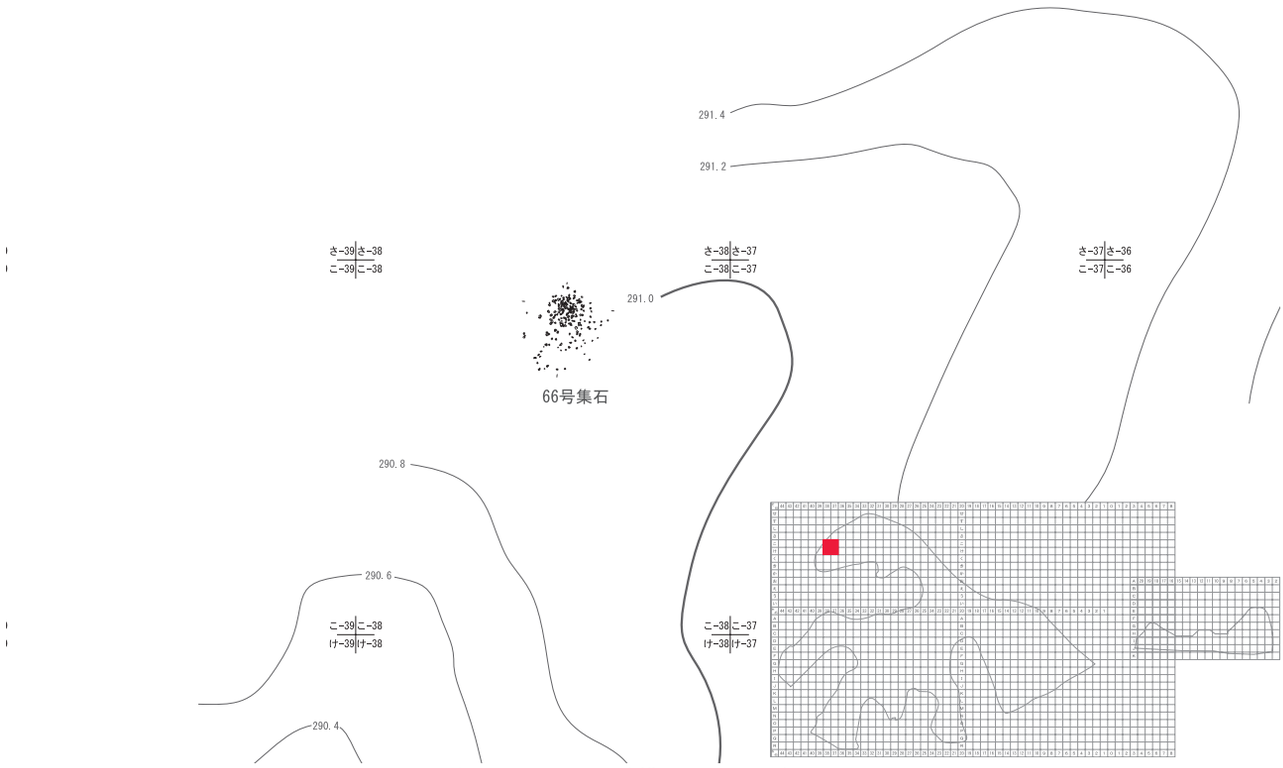
第４図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図３（1/200）



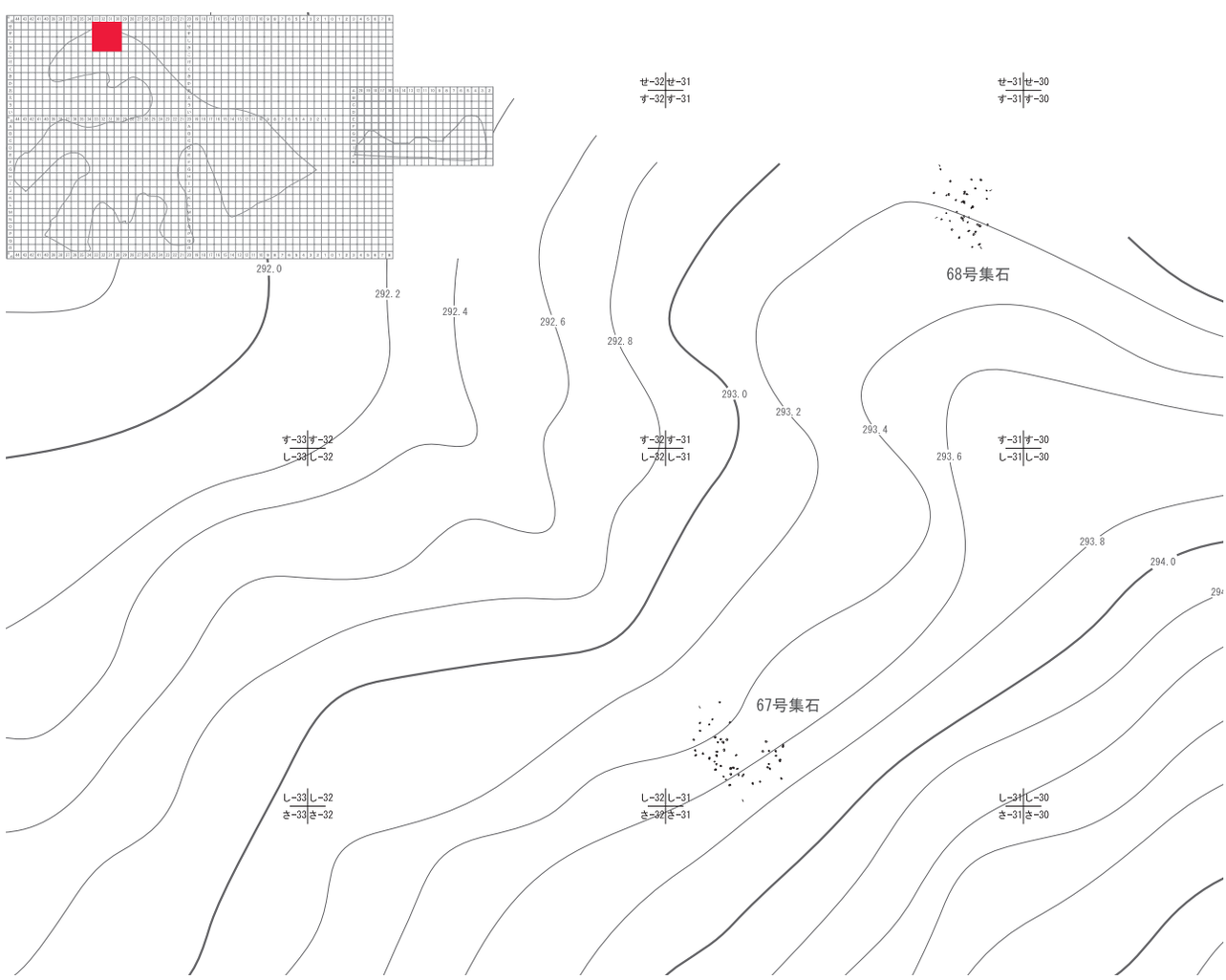
第５図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図４（1/200）



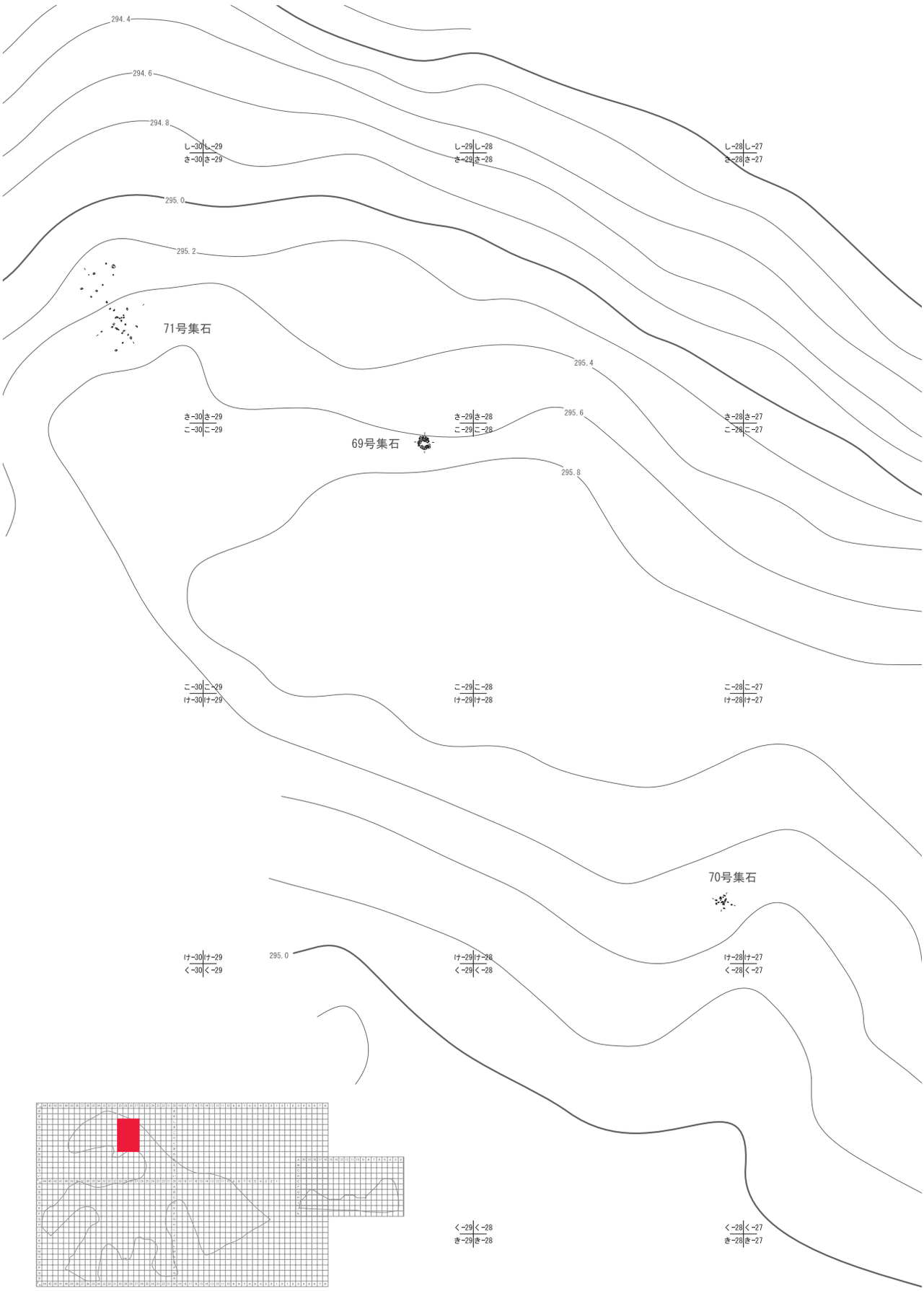
第６図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図５（1/200）



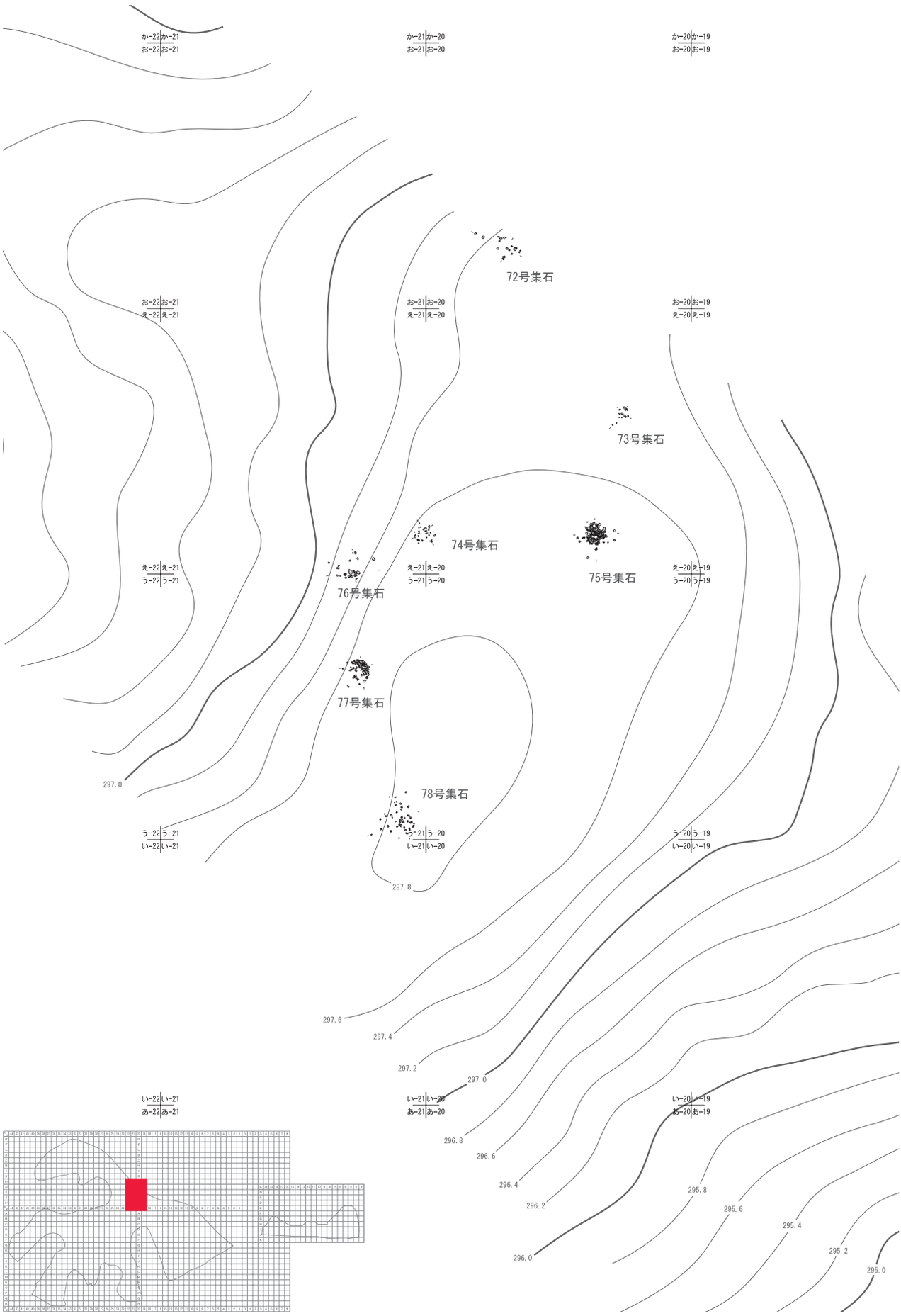
第７図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図６（1/200）



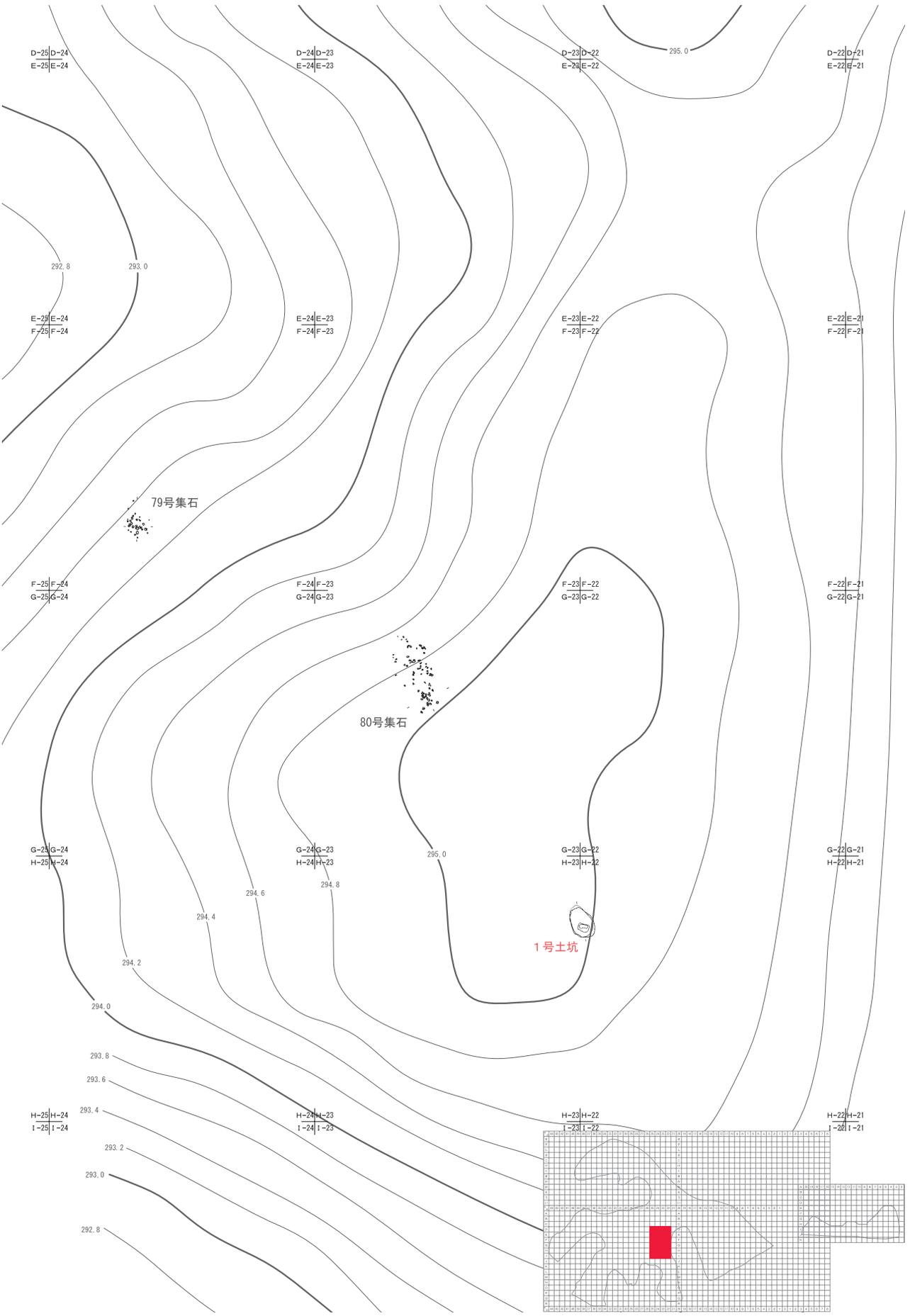
第８図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図７（1/200）



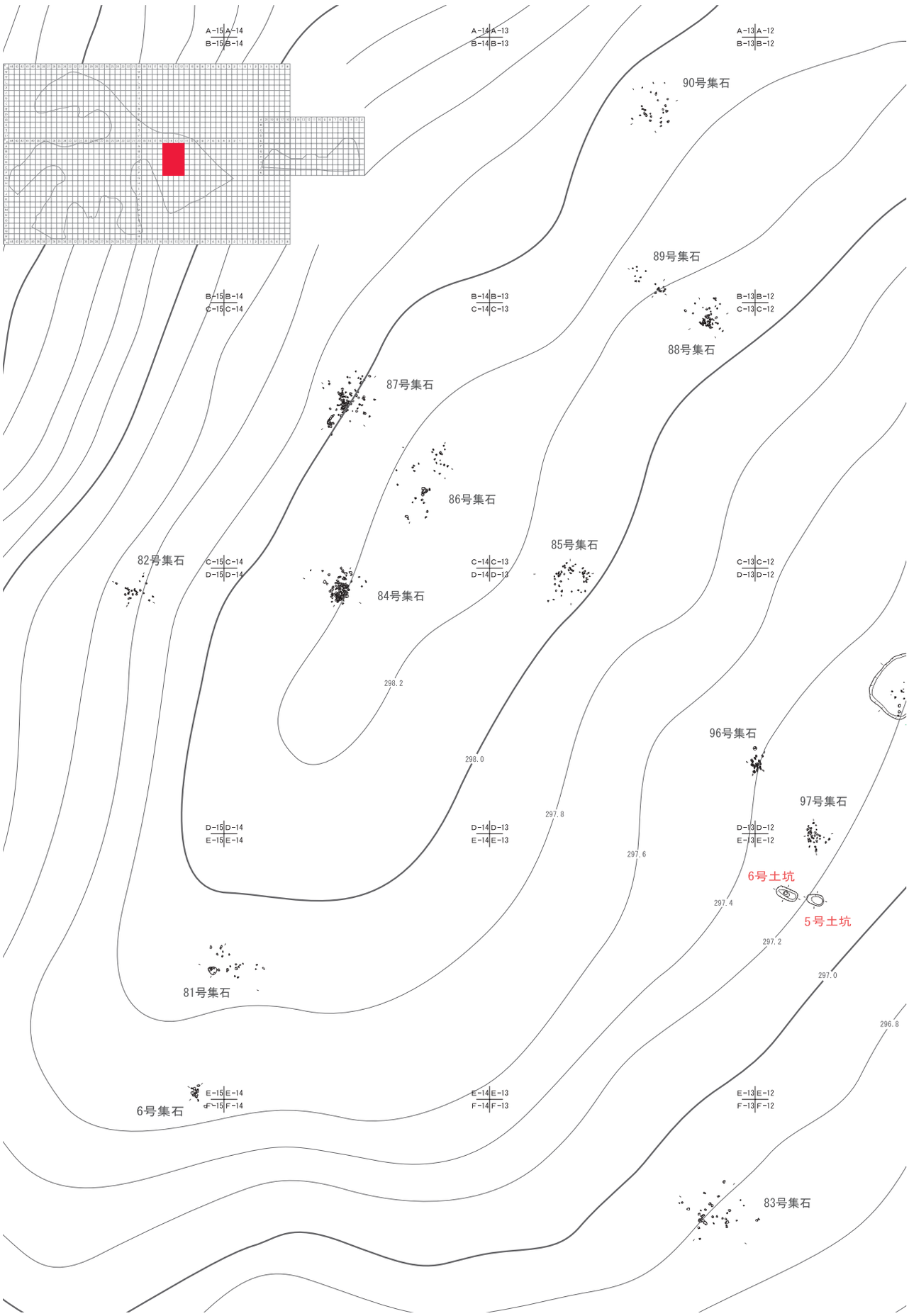
第９図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図８（1/200）



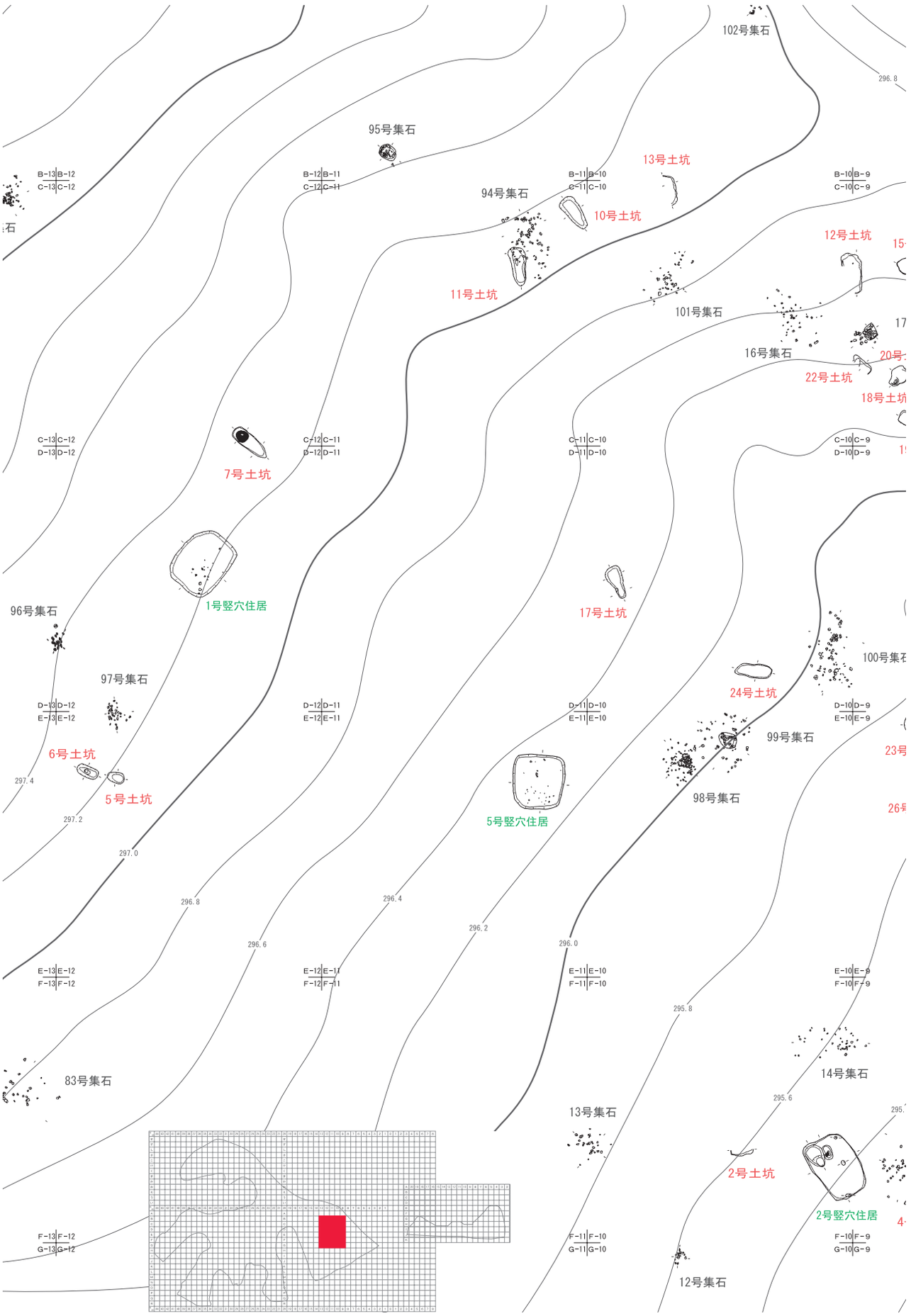
第10図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図９（1/200）



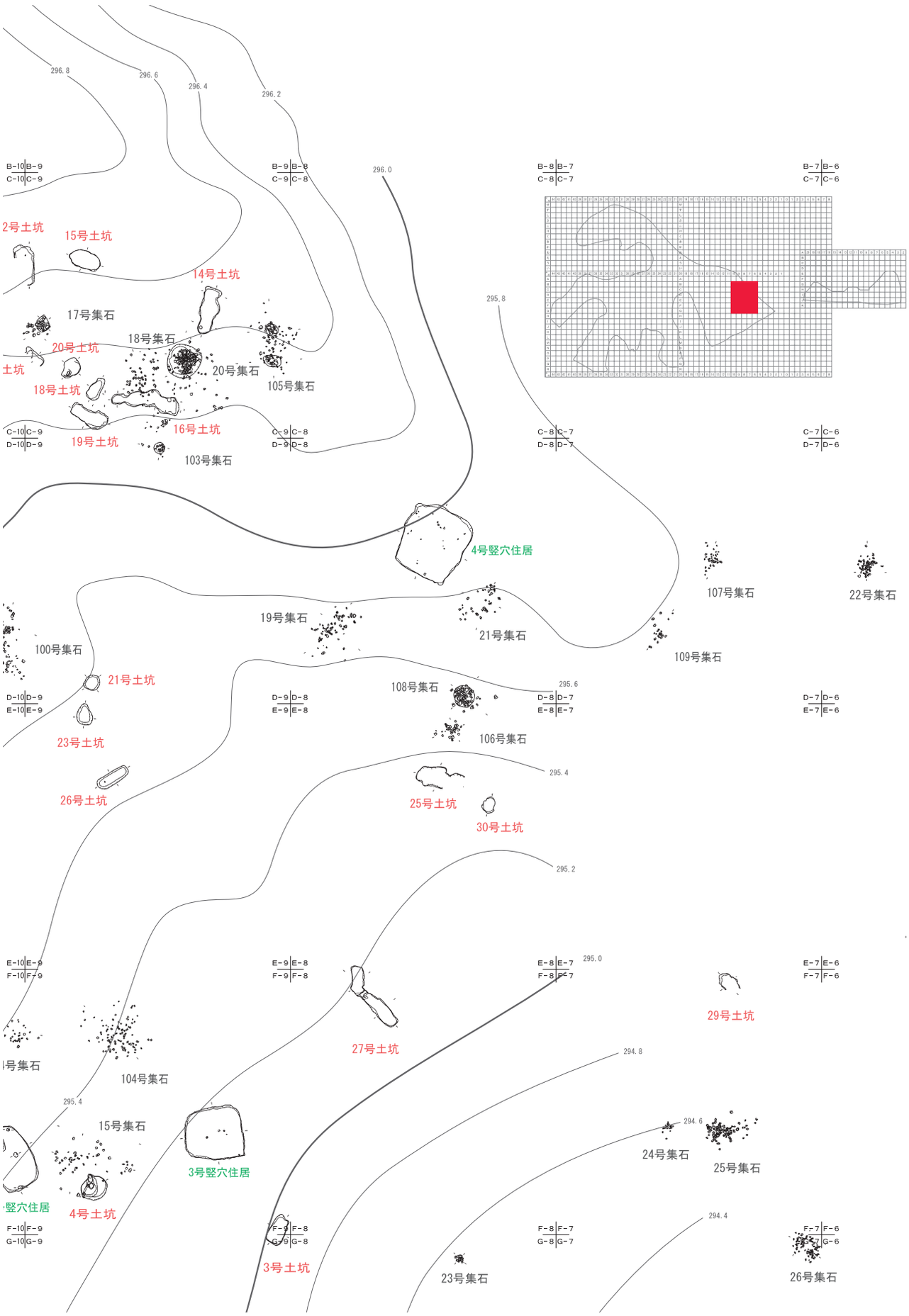
第11図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図10（1/200）



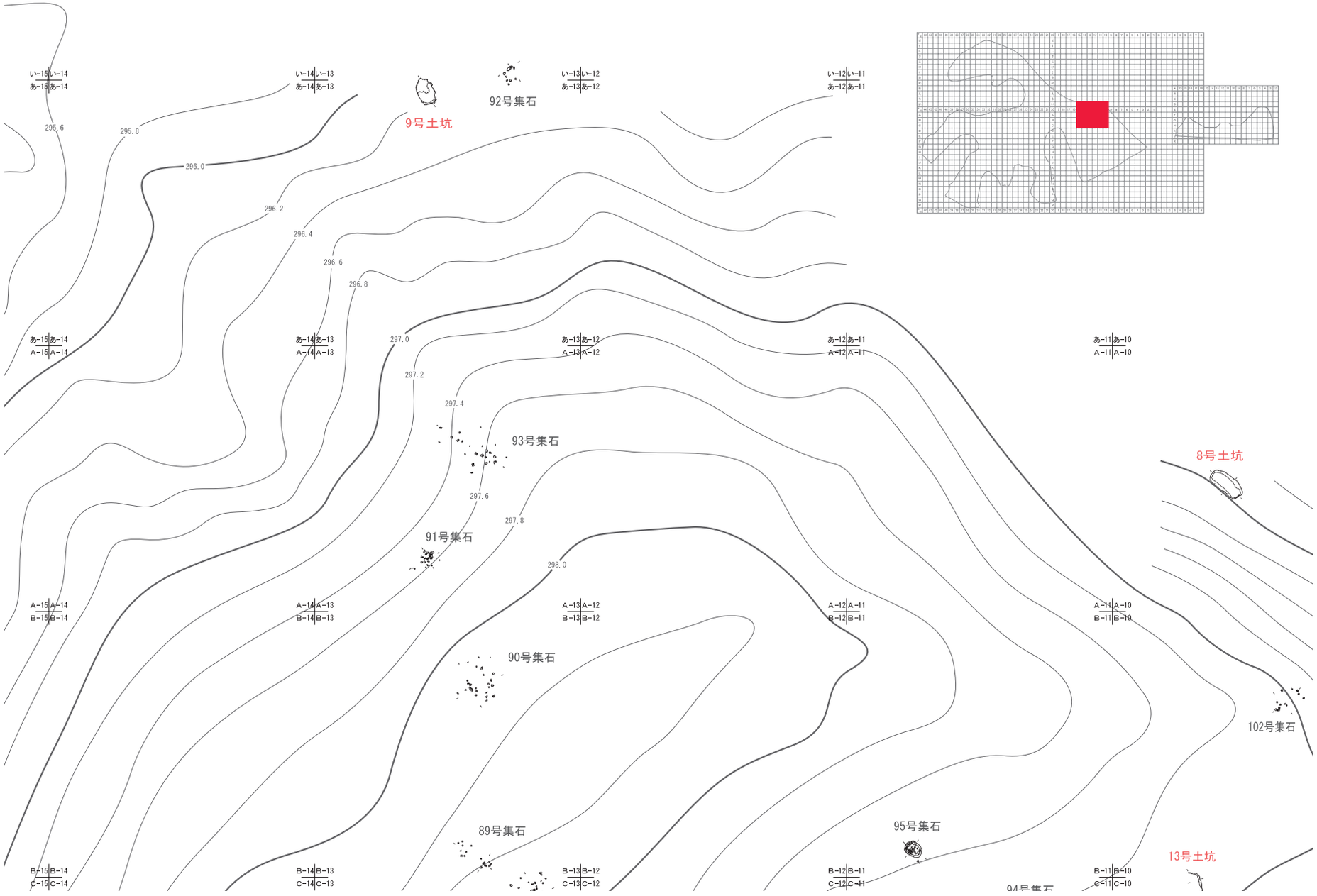
第12図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図11（1/200）



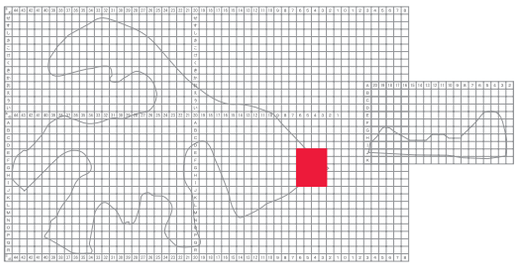
第13図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図12（1/200）



第14図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図13（1/200）



第15図　Ⅷ〜Ⅶ層遺構配置図14（1/200）



D-5 | D-4
E-5 | E-4

D-4 | D-3
E-4 | E-3

110号集石

E-6 | E-5
F-6 | F-5

E-5 | E-4
F-5 | F-4

E-4 | E-3
F-4 | F-3

111号集石

28号集石

31号集石

F-6 | F-5
G-6 | G-5

F-5 | F-4
G-5 | G-4

F-4 | F-3
G-4 | G-3

34号集石

112号集石

28号土坑

30号集石

33号集石

29号集石

32号集石

G-6 | G-5
H-6 | H-5

G-5 | G-4
H-5 | H-4

G-4 | G-3
H-4 | H-3

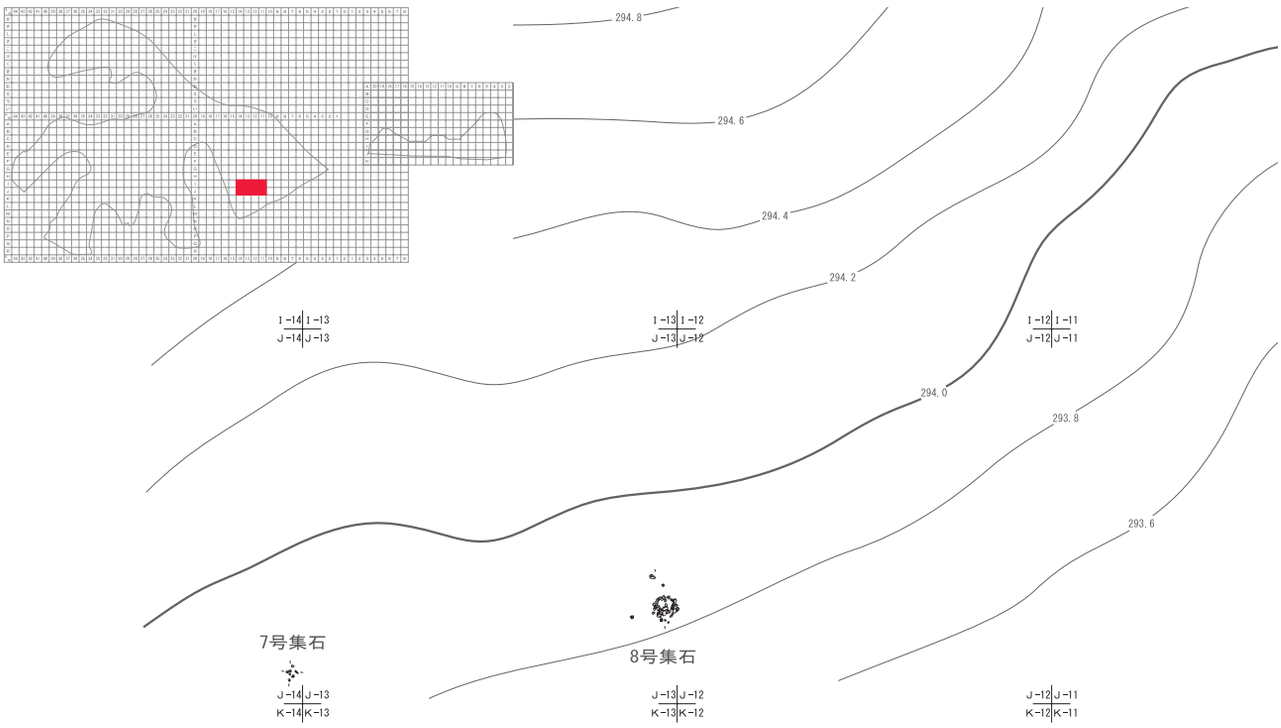
27号集石

H-6 | H-5
I-6 | I-5

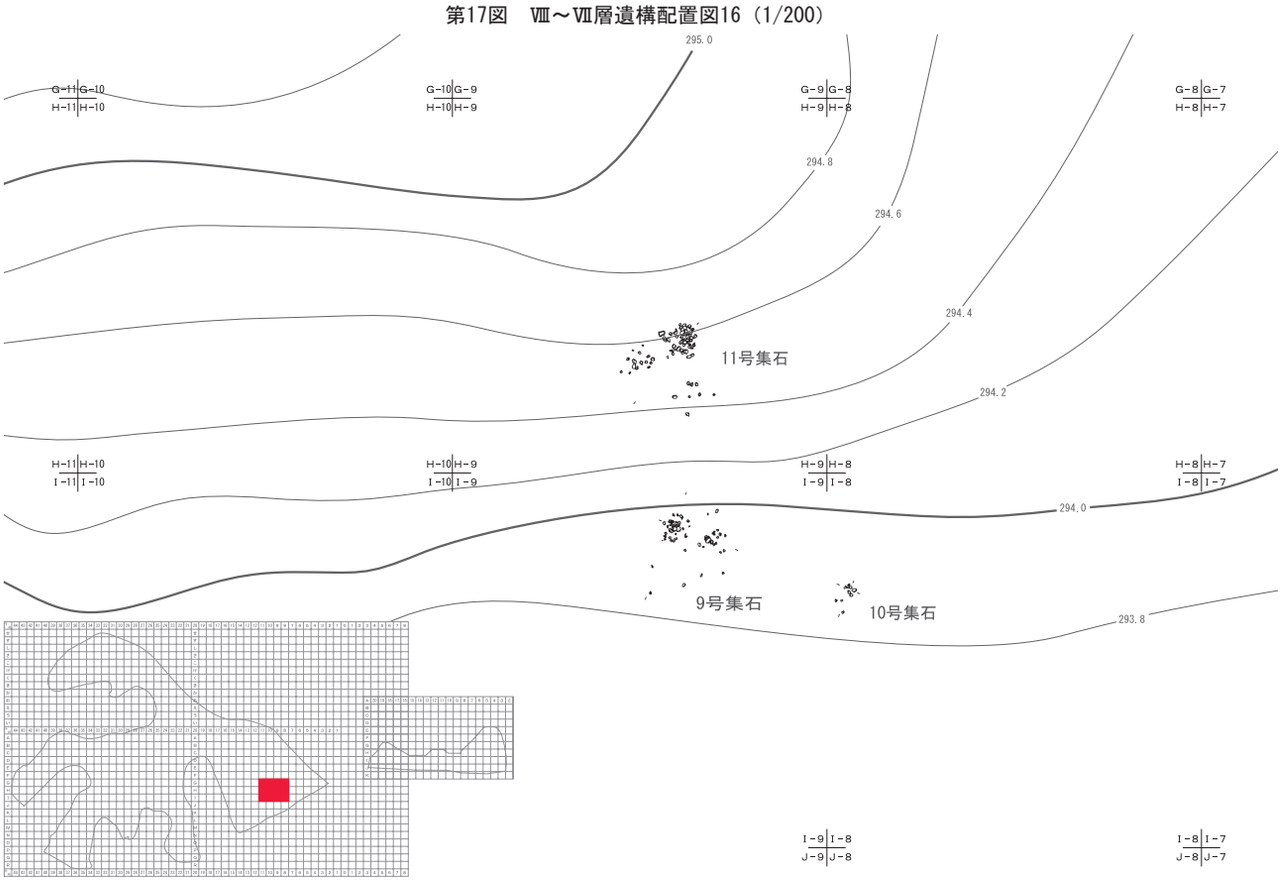
H-5 | H-4
I-5 | I-4

H-4 | H-3
I-4 | I-3

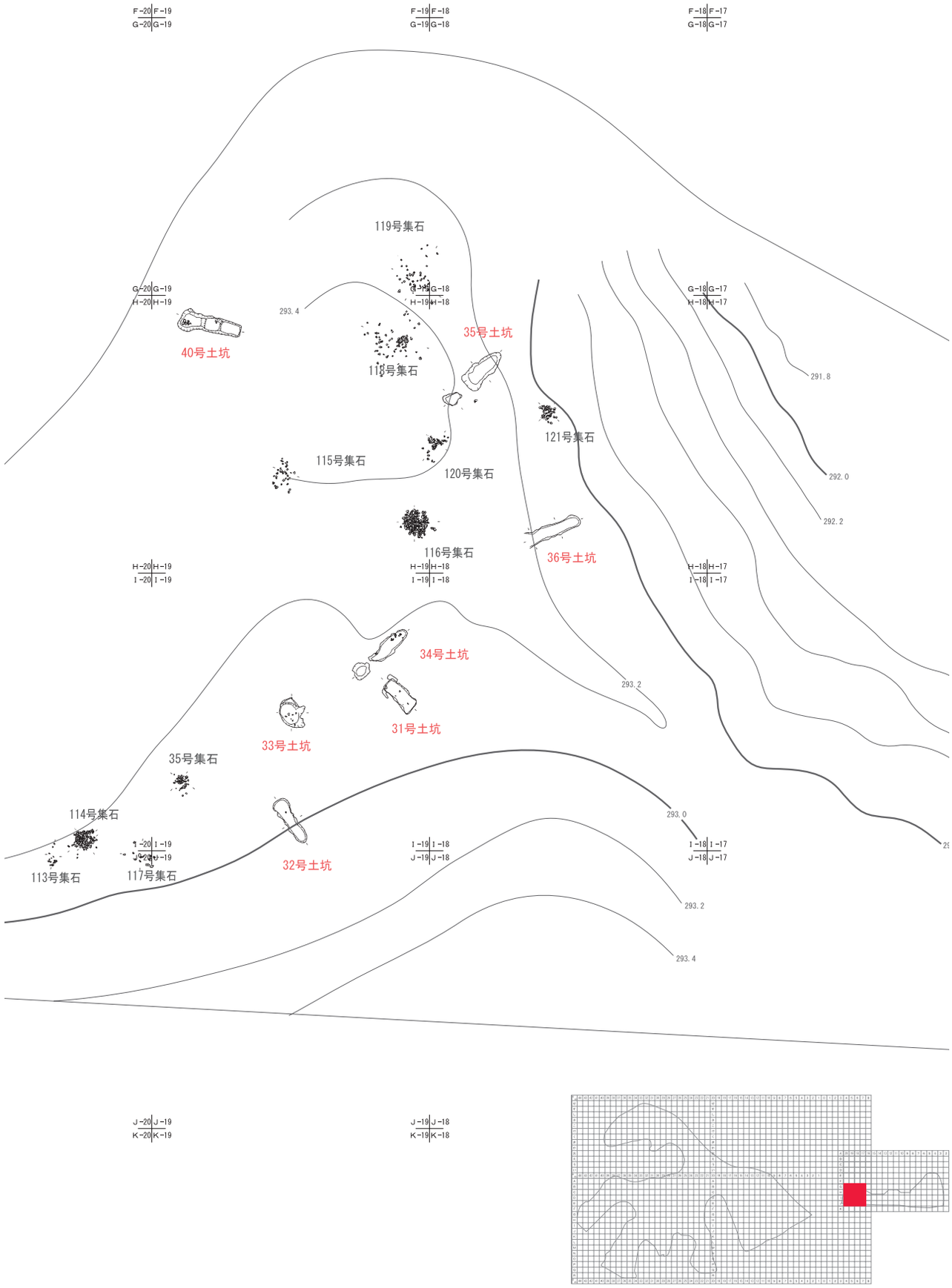
第16図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図15（1/200）



第17図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図16（1/200）

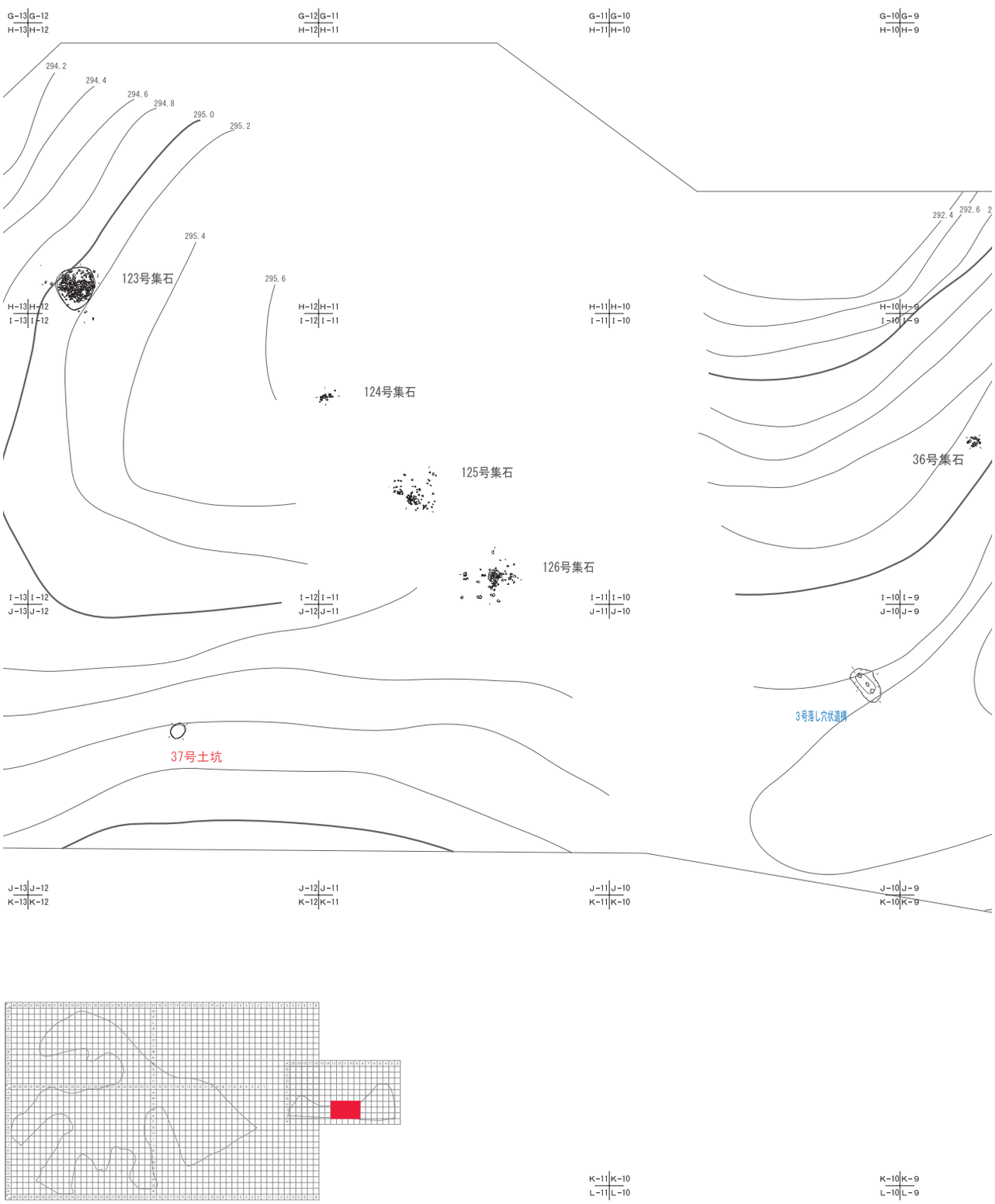


第18図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図17（1/200）

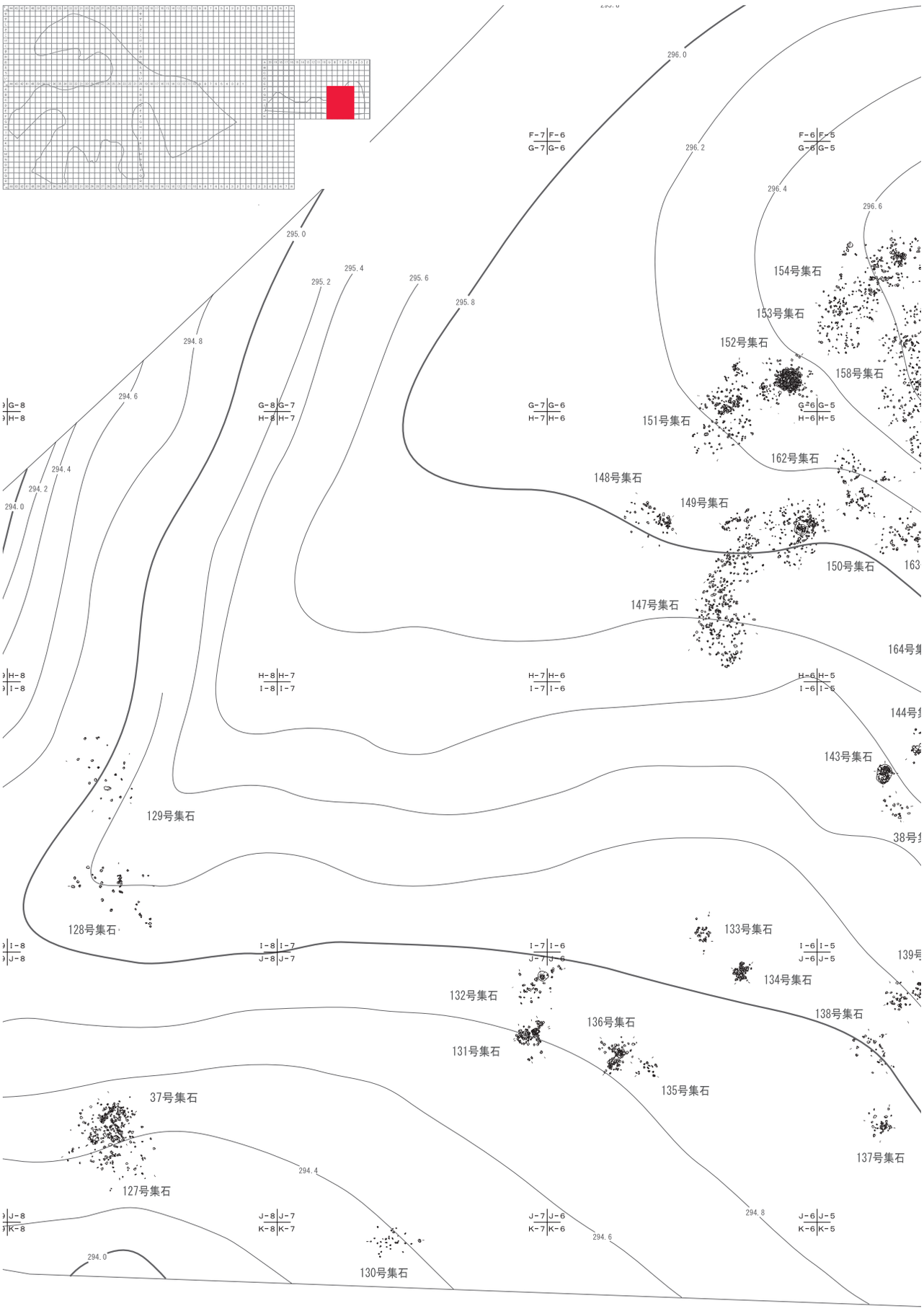


第19図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図18（1/200）

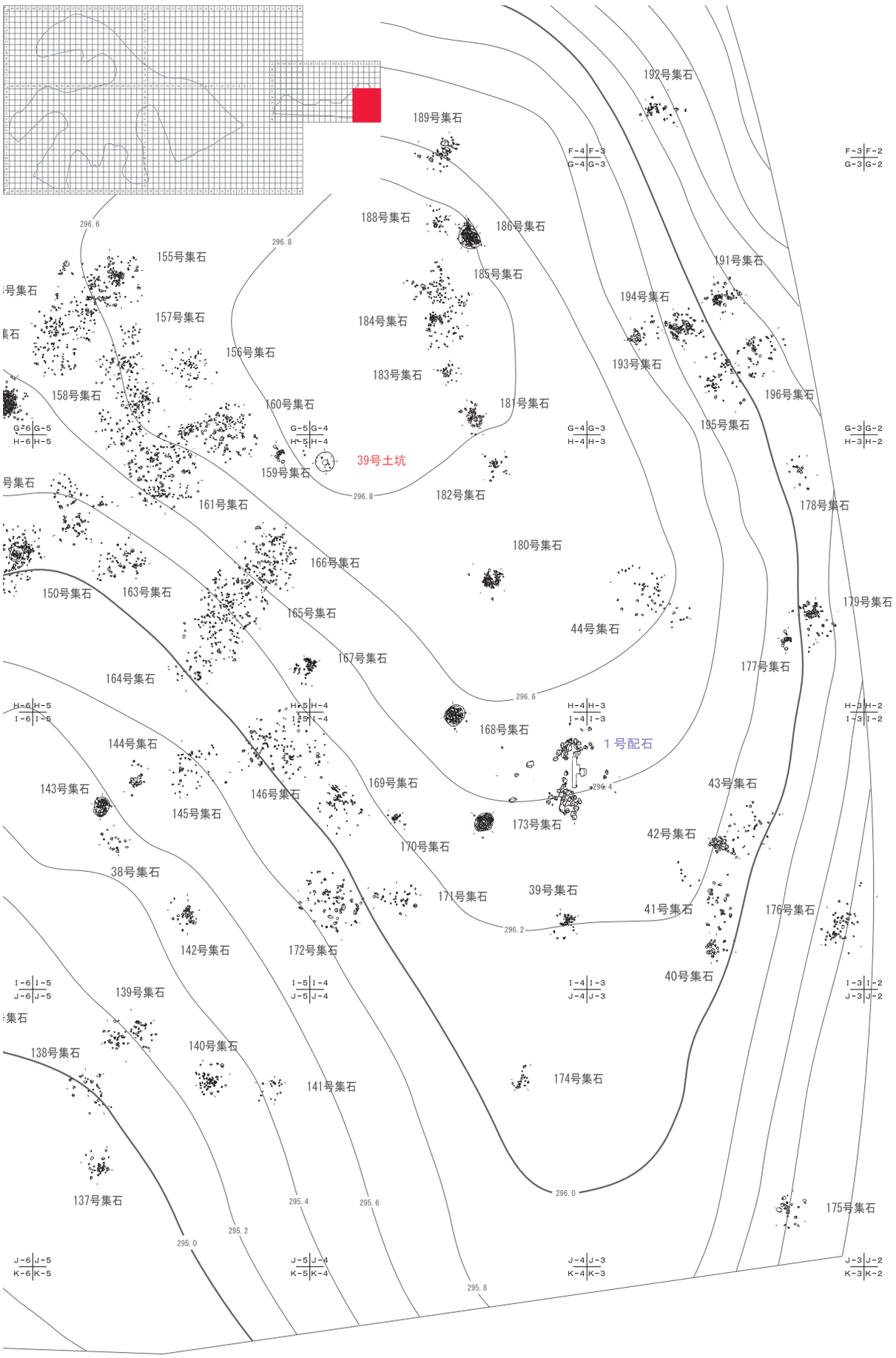
第20図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図19（1/200）



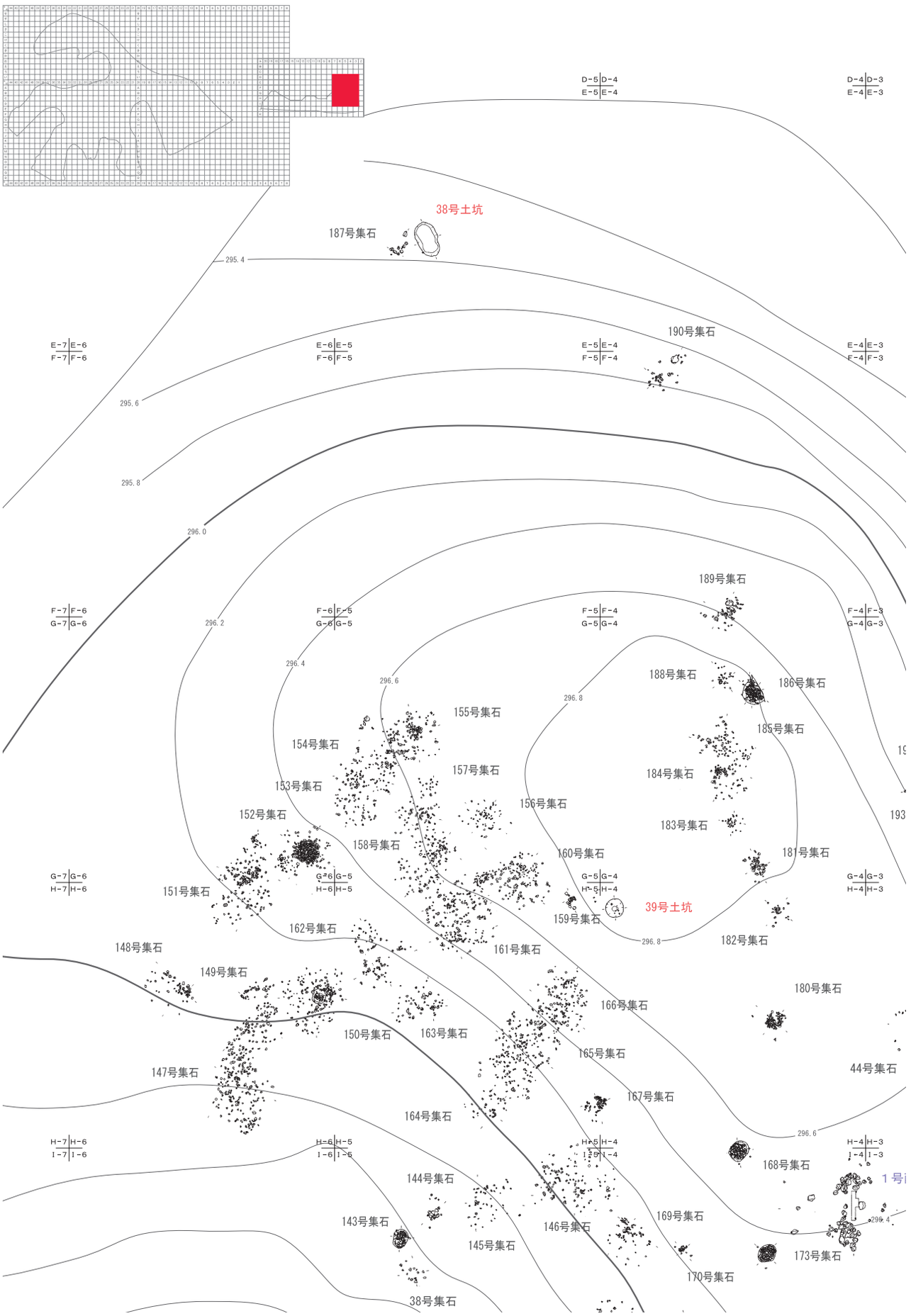
第21図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図20（1/200）



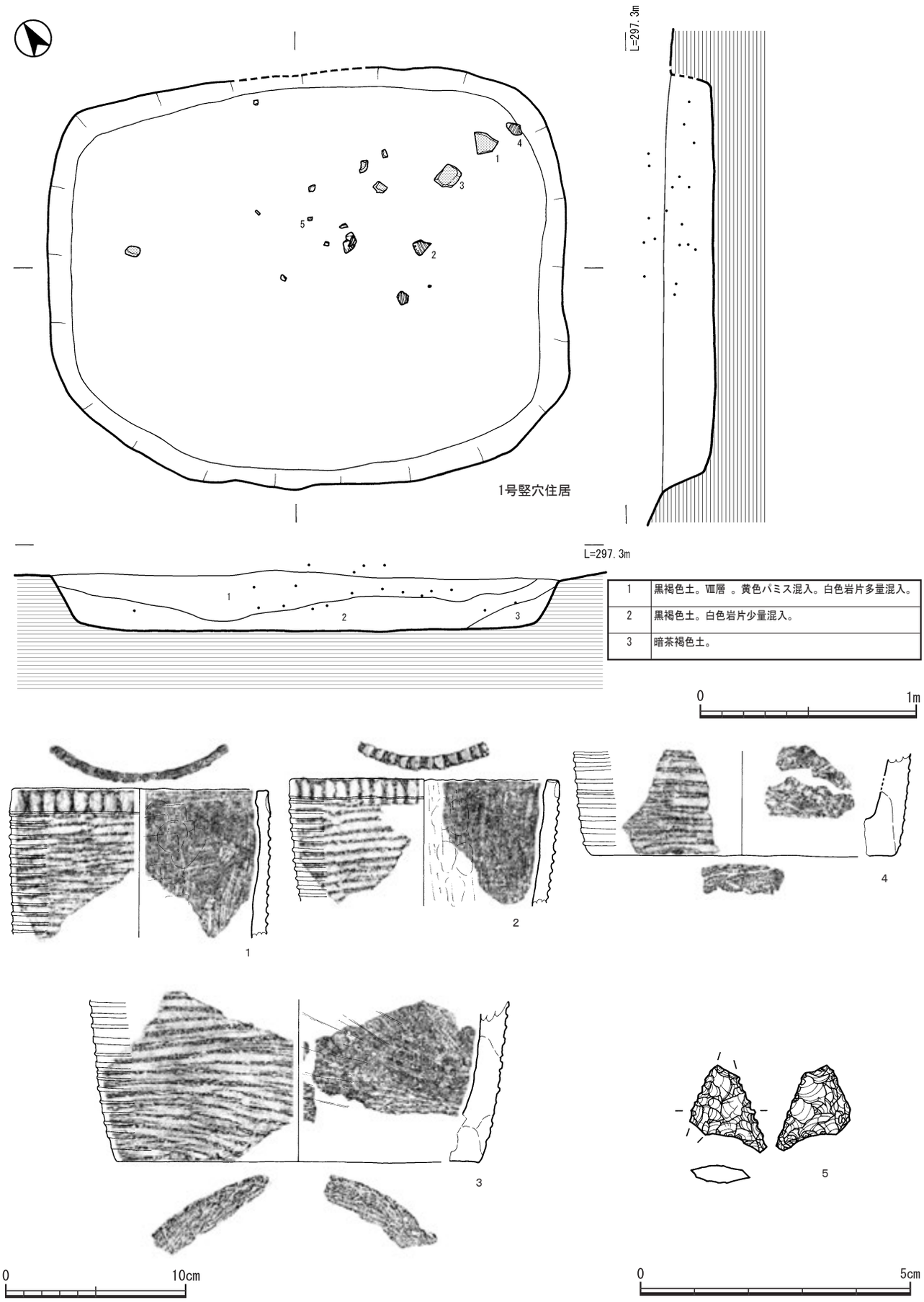
第22図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図21（1/200）



第23図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図22（1/200）

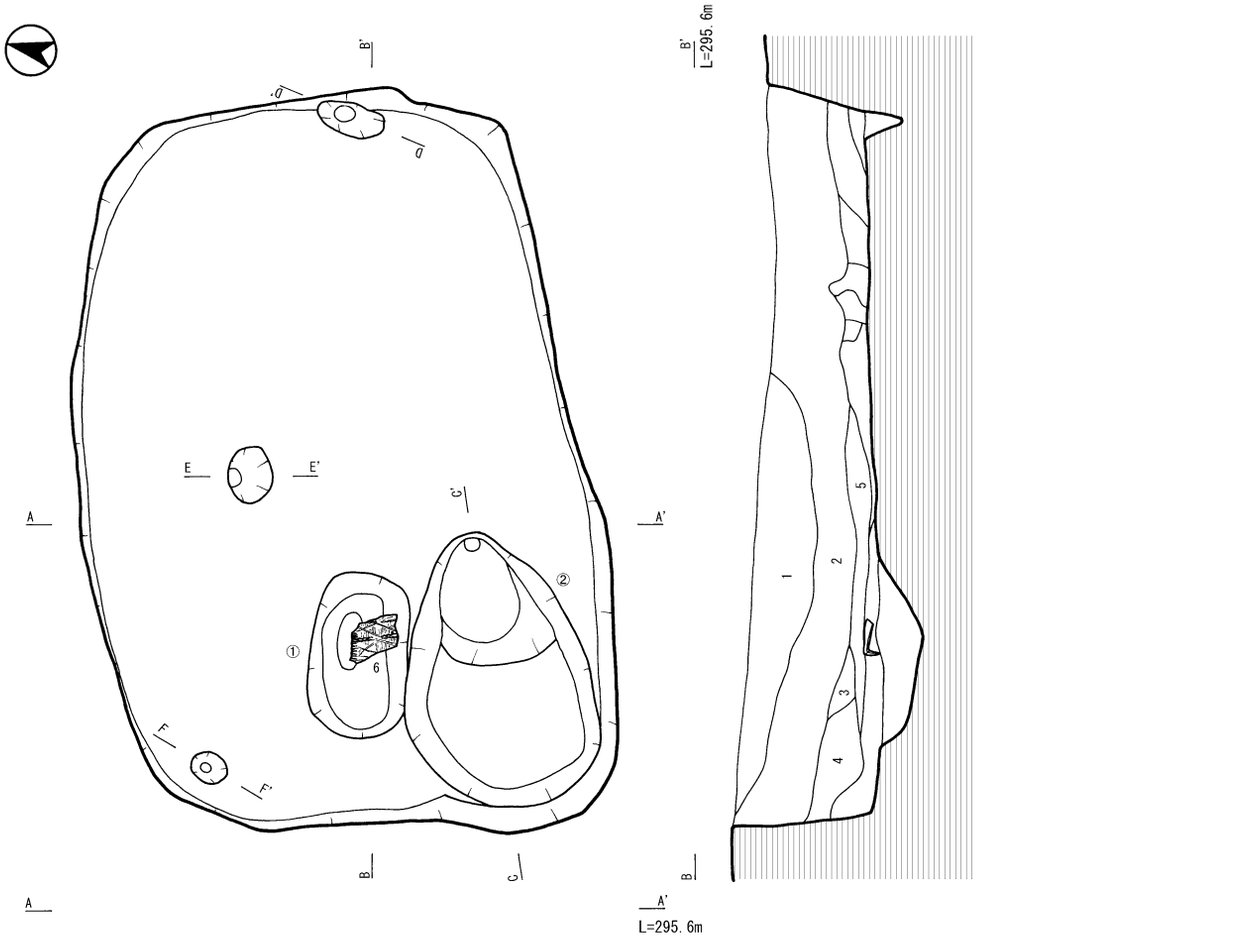


第24図　Ⅷ～Ⅶ層遺構配置図23（1/200）



1	黒褐色土。Ⅷ層 。黄色パミス混入。白色岩片多量混入。
2	黒褐色土。白色岩片少量混入。
3	暗茶褐色土。

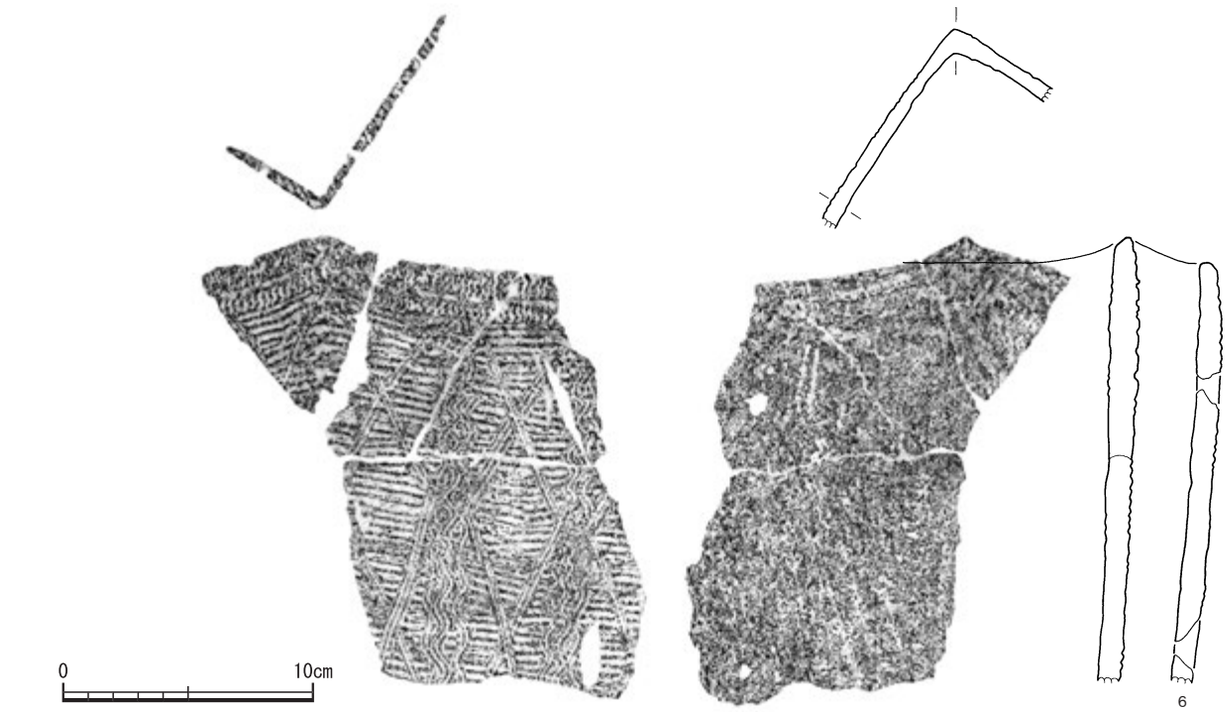
第25図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（１）

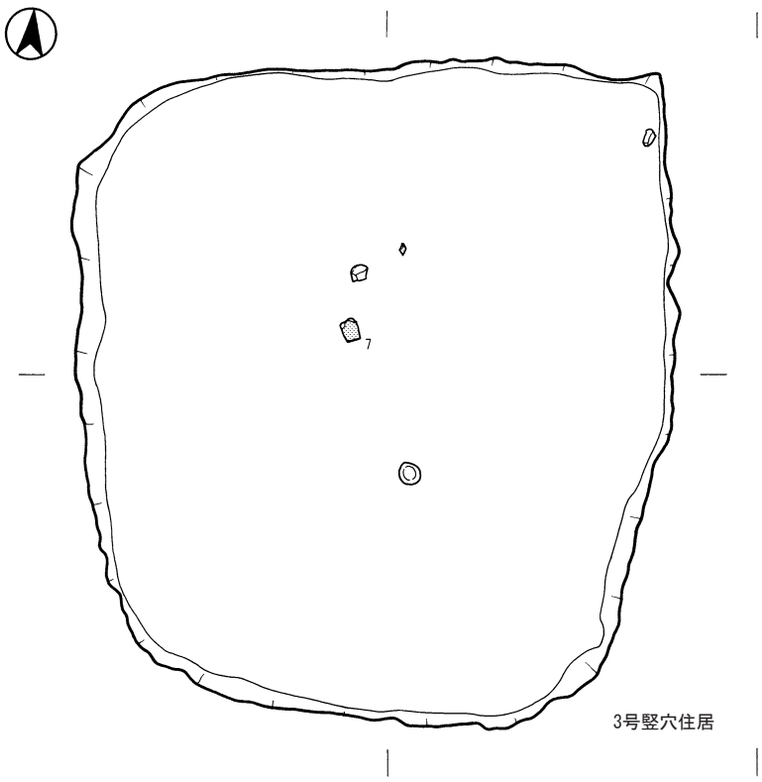


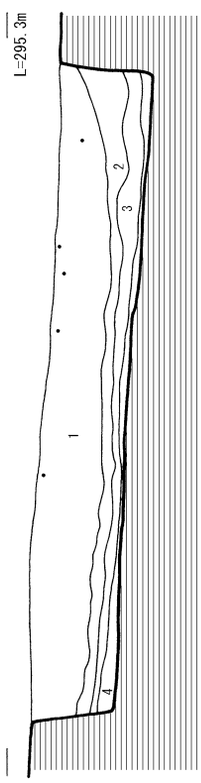
2号竪穴住居

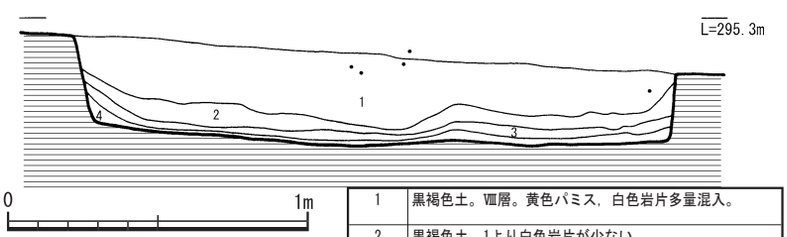
1	黒褐色土。Ⅷ層。黄色パミス，白色岩片多量混入。
2	黒褐色土。黄色パミス，白色岩片少量混入。
3	黒褐色土。ＸＩ層が多量に混入。
4	黒褐色土。ＸＩ層が少量に混入。
5	黒褐色土。ＸＩ層がわずかに混入。
6	褐色土。軟質ローム。

第26図　Ⅷ層遺構実測図（２）

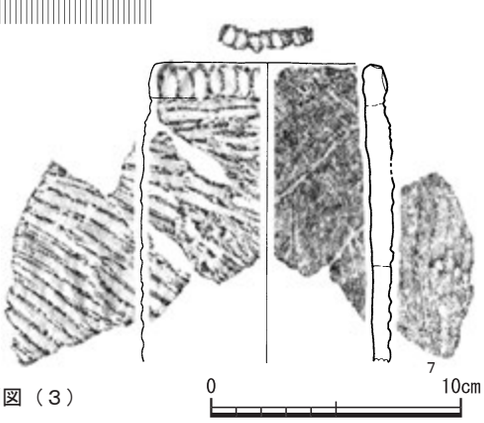




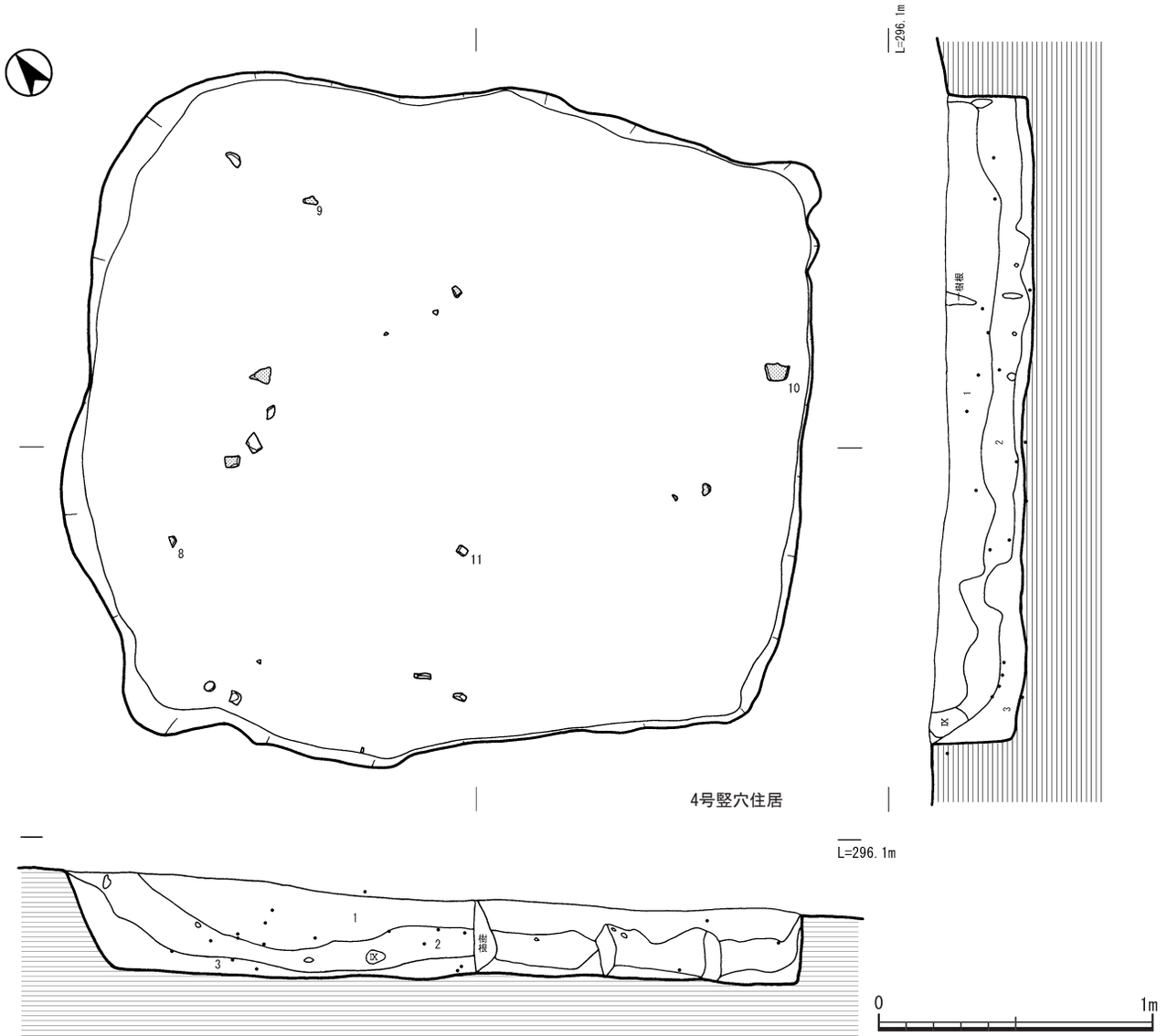




1	黒褐色土。Ⅷ層。黄色パミス，白色岩片多量混入。
2	黒褐色土。1より白色岩片が少ない。
3	黒褐色土。白色岩片無し。
4	褐色土。軟質ローム。



第27図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（３）



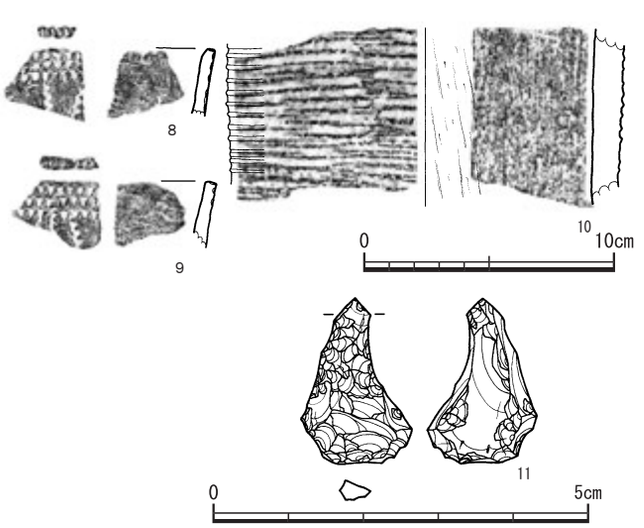
1	黒褐色土。Ⅷ層。白色岩片多量。
2	黒褐色土。白色岩片少量，薩摩火山灰ブロック混入。
3	褐色土。ローム状でややしまった土。

第１表　遺構内土器観察表（１）

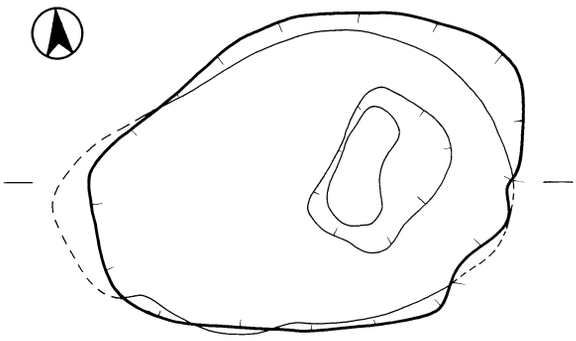
挿図No	図No	分類記号	取上No（グリッド/層位）	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
25	1	1.213	1号住(D-12/Ⅷ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
25	2	1.213	1号住(D-12/Ⅷ)	角,雲	指頭痕→縦ケズリ	-	-
25	3	1.211	1号住(D-12/Ⅷ)	角,雲,細粒,赤粒	ケズリ	-	-
25	4	1.212	1号住(D-12/Ⅷ)	角,雲,細粒	斜ケズリ→ナデ	-	-
27	6	1.42	2号住(F-9,10/Ⅷ)	角,細粒,雲	ナデ	-	-
27	7	1.214	3号住(F-9/Ⅷ) 42218(C-8/Ⅷ) 41947(D-9/Ⅷ)	輝,砂粒	斜工具ケズリ,縦ケズリ	-	-
28	8	1.41	4号住(D-8/Ⅷ)	雲,輝,細粒	丁寧なナデ	-	-
28	9	1.41	4号住(D-8/Ⅷ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
28	10	1.213	4号住(D-8/Ⅷ)	雲,角,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-

第２表　遺構内石器観察表（１）

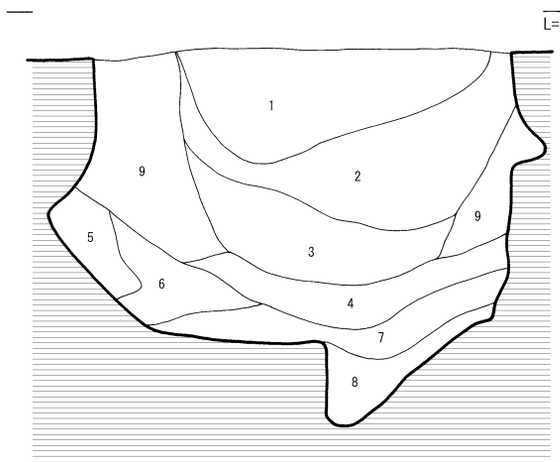
挿図No	図No	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
25	5	石鏃	-	OB3	17.7	11.4	3.7	0.46	○１号住(D-12/Ⅷ)
28	11	ドリル	未製品	OB3	22.2	12.5	6.2	1.70	○４号住(D-8/Ⅷ)



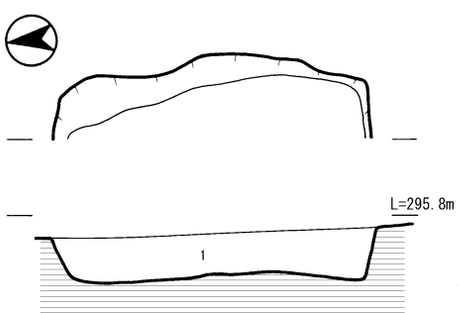
第28図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（４）



1号土坑

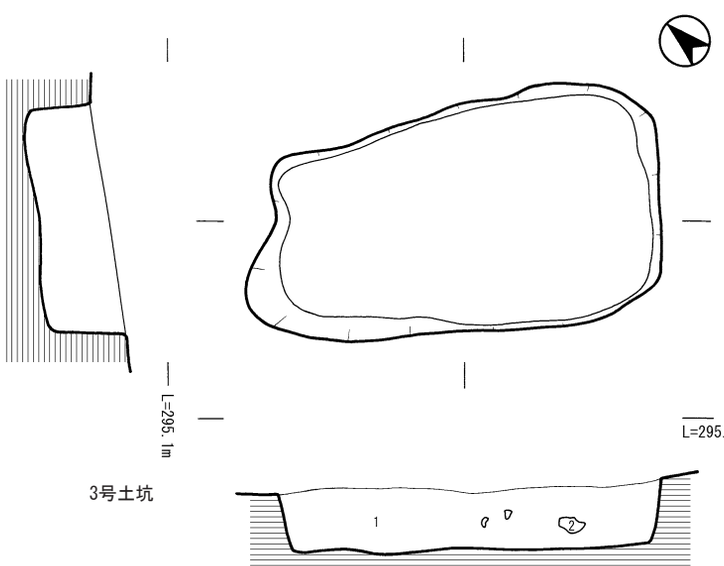


1	黒色土。3～4㎜大の薩摩火山灰ブロックが混ざる。2㎜大の白色，黄色パミスも多量に混ざる。
2	黒色土。2㎜大の白色，黄色パミスが多量に混ざる。ローム(ＸⅠ層土)も少量混ざる。
3	黒色土。2に類似するがローム(ＸⅠ層土)が２より多量に混ざる。
4	暗褐色土。3に類似するが白色，黄色パミスは少量。ＸⅠ層ロームが多量に混ざる。
5	暗黄褐色土。2㎜大の薩摩火山灰ブロックを微量含む。
6	黒色土。2に類似するが白色，黄色パミスは少量。
7	暗褐色土。6に類似するがシラスを多量に含む。
8	暗褐色土。7に類似するがシラスは混ざらない。
9	暗褐色土。4に類似するがローム(ＸⅠ層土)は少量で4より若干明るい。



2号土坑

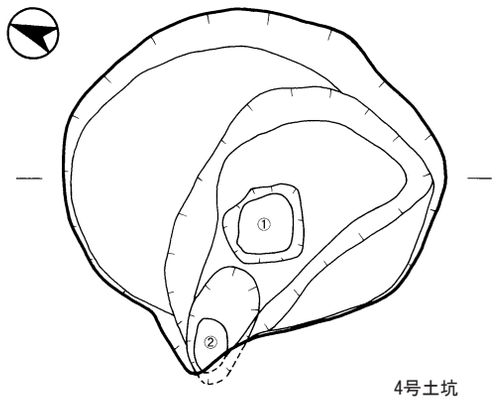
1	黒褐色土。Ⅷ層。黄色パミスと白色岩片を多量に含む。



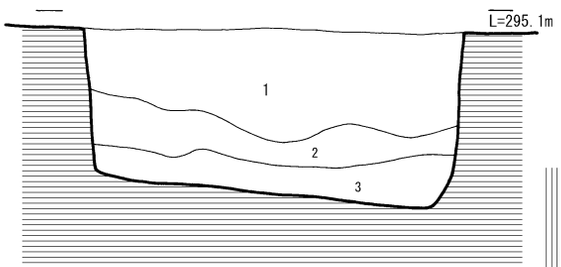
3号土坑

1	黒色土。Ⅷ層。黄色パミス，白色岩片が混ざる。
2	Ⅸ層。

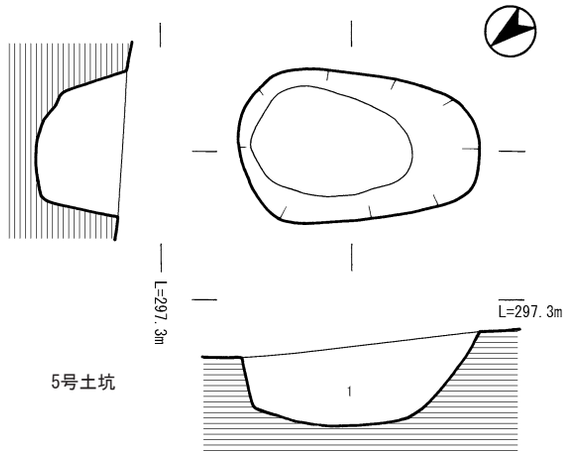
第29図　Ⅷ層遺構実測図（５）



4号土坑

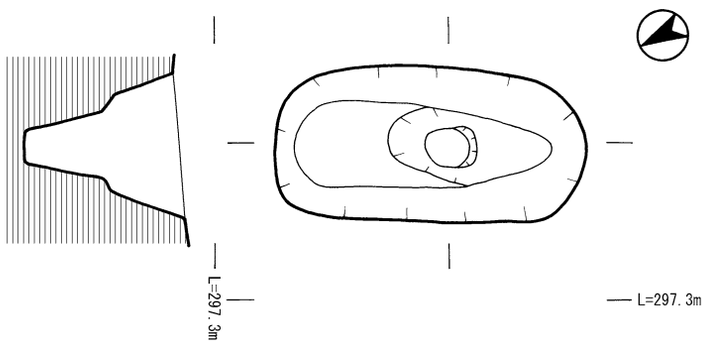


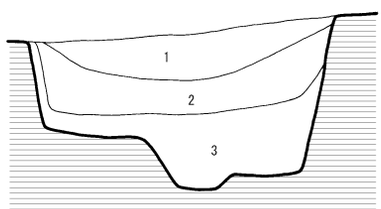
1	黒色土。Ⅷ層。黄色パミスが少量。白色パミスが多量に混ざる。炭化物少量含む。
2	黒色土。白色，黄色パミスが少量混ざる。
3	暗褐色土。ローム(ＸⅠ層)が混ざる。白色，黄色パミスを微量含む。



5号土坑

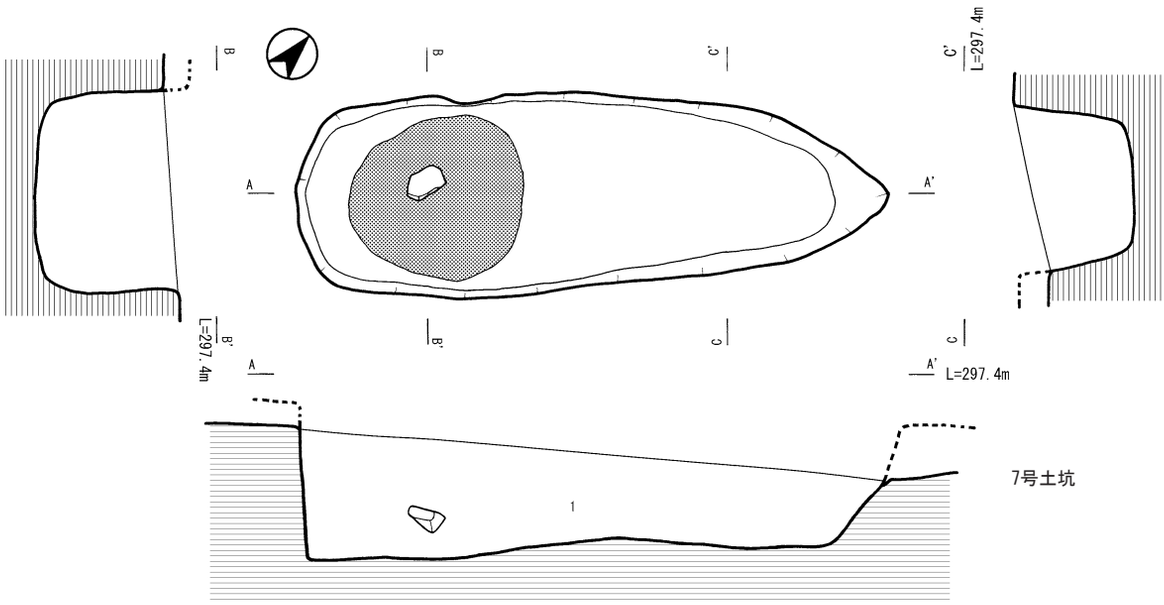
1	黒褐色土。Ⅷ層。





6号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。
2	黒褐色土。1より明るい。柔らかい。
3	暗茶褐色土。

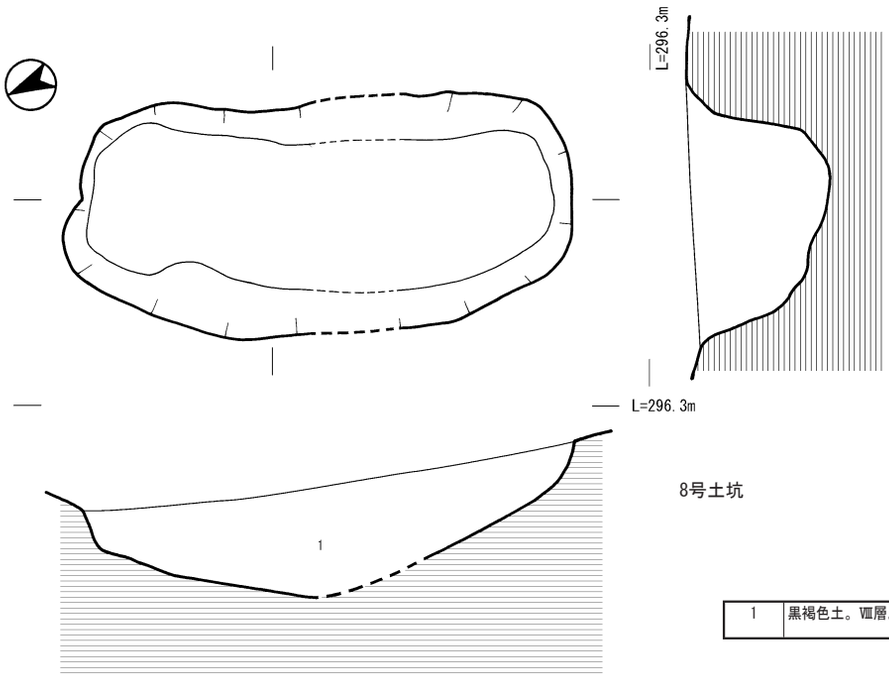


7号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。床面に炭化物多い。

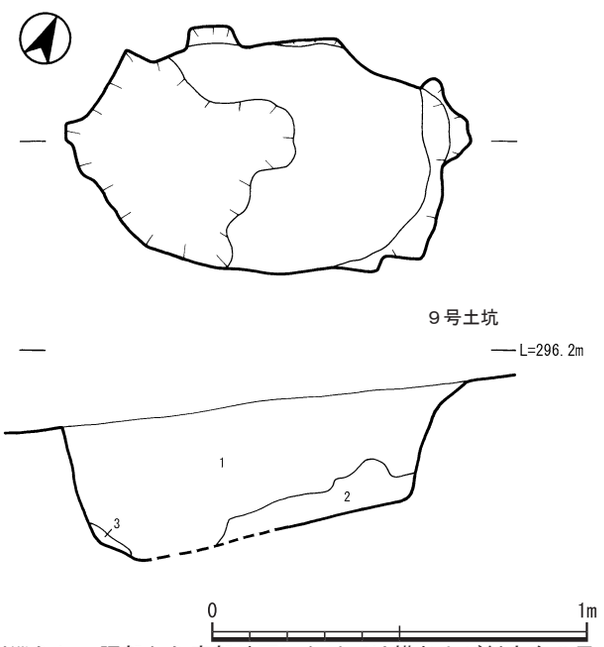
0 1m

第30図　Ⅷ層遺構実測図（６）



8号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。薩摩火山灰が点在。炭化物多い。



９号土坑

1	暗茶褐色土。Ⅶ層とⅧ層が混在。黄色パミス，白色粒子が混ざる。
2	淡暗褐色土。Ⅶ層，Ⅷ層，Ⅹ層が混在。黄色パミス，白色粒子が混ざる。
3	暗茶褐色土，軟質ローム。ⅩⅠ層，ⅩⅡ層が混在。

列巡らし，胴部から底部外面にかけては横および斜方向の貝殻条痕文を施す。以上の特徴から第１群土器第２類土器に属し，径の大きさから第４種土器に分類できる。この土器は埋土１層から出土し，住居埋没段階に流入したものである。

４号竪穴住居(第28図)

桐木遺跡Ｄ-８区で検出し，平面プラン265cm×237cmの隅丸方形を成し，検出面からの深さ33cmである。貼り床は見られず，他住居と同様掘り込み面が当時の床面と思われる。壁の立ち上がりも明瞭であるが，床面及び住居周辺には柱穴らしきピットは検出できなかった。

４号住居内遺物(第28図)

８・９は，口縁部が直行する円筒形土器で，口縁部には横方向の貝殻刺突文を，胴部には斜方向の貝殻条痕上に斜方向の貝殻刺突文を重ねる。第１群土器第４類土器に分類できる。10は，直線的な胴部形態で，横方向の貝殻条痕文を施す土器で，第１群土器第２類土器に属し，径の大きさの違いから第３種土器に分類できる。埋土２層から出土し，住居廃絶後に流入したものである。11はドリルとみられる。裏面には自然面を残し，自然面から直接調整剥離を施している。先端部まで加工が施されておらず，未製品の可能性も高い。

２　Ⅷ層の土坑

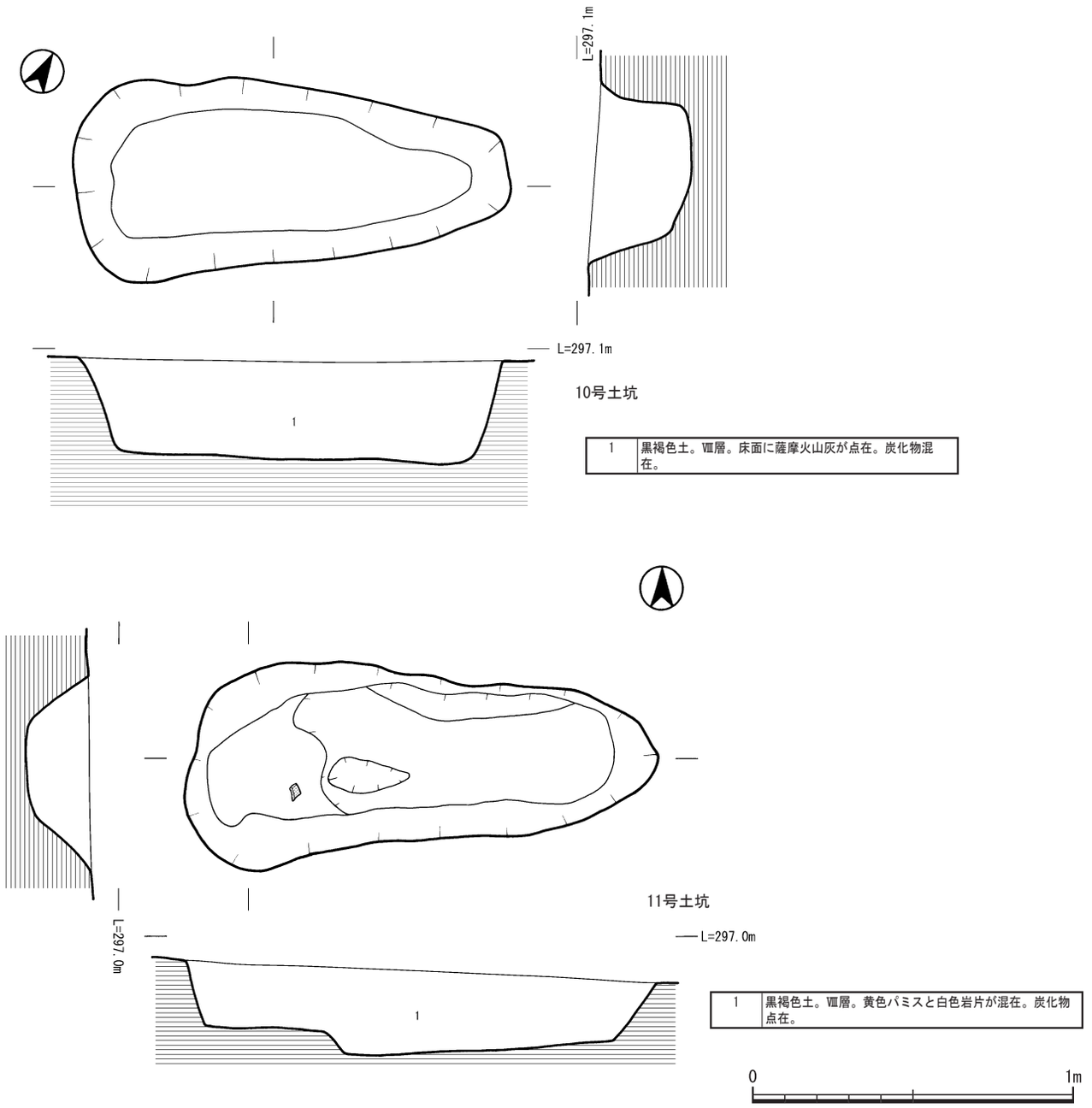
土坑は，桐木遺跡で30基，耳取遺跡で７基(内２基についてはセットとしてカウント)，落し穴状遺構は，桐木遺跡で２基，耳取遺跡で１基検出した。

１号土坑(第29図)

桐木遺跡Ｈ-22・23区のⅩⅠ層で検出した土坑で，東側から八つ手状の大きな谷が入り込んでくる縁辺部に，単独で掘られていた。平面プラン115cm×83cm，検出面からの深さ100cmである。福山町城ケ尾遺跡でも同様の土坑が報告されている。

埋土は自然堆積しており，最終埋土に薩摩火山灰のブロック及びⅧ層に見られる白色岩片が見られることから，早期段階の土坑として扱った。

第31図　Ⅷ層遺構実測図（７）



第32図　Ⅷ層遺構実測図（８）

２号土坑(第29図)

桐木遺跡Ｆ-10区のⅨ層の薩摩火山灰上面で検出した土坑で，半截して調査を進めた。長軸86cm，短軸23+αcm，検出面からの深さ14cmである。埋土は白色岩片を多量に含んだⅧ層の黒褐色土である。２m東側に２号竪穴住居がある。

３号土坑(第29図)

桐木遺跡Ｆ・Ｇ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸104cm，短軸60cmで，検出面からの深さ22cmである。埋土は２号同様白色岩片を多く含んだⅧ層である。

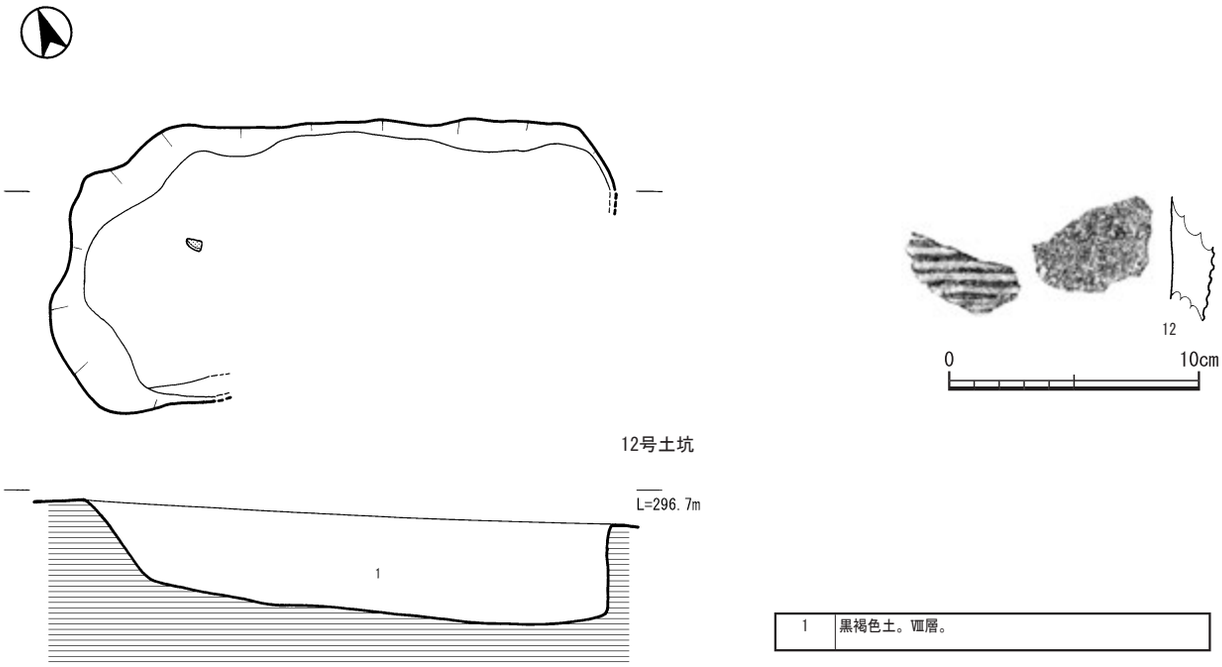
４号土坑(第30図)

桐木遺跡Ｆ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸102cm，短軸96cmで，検出面からの深さ48cmである。さらに下場から２基のピットが検出され，ピット①の深さが約20cm，ピット②の深さが約32cmであった。埋土の大半は黒色土のⅧ層で，白色岩片の量で分層している。最下層の埋土は，ＸⅠ層の暗褐色ロームが混ざっている。

Ｆ-９区には遺構が集中しており，４号土坑は２号竪穴住居と３号竪穴住居の中間に位置し，２号竪穴住居から約160cmの距離である。また，15号集石遺構も隣接する。

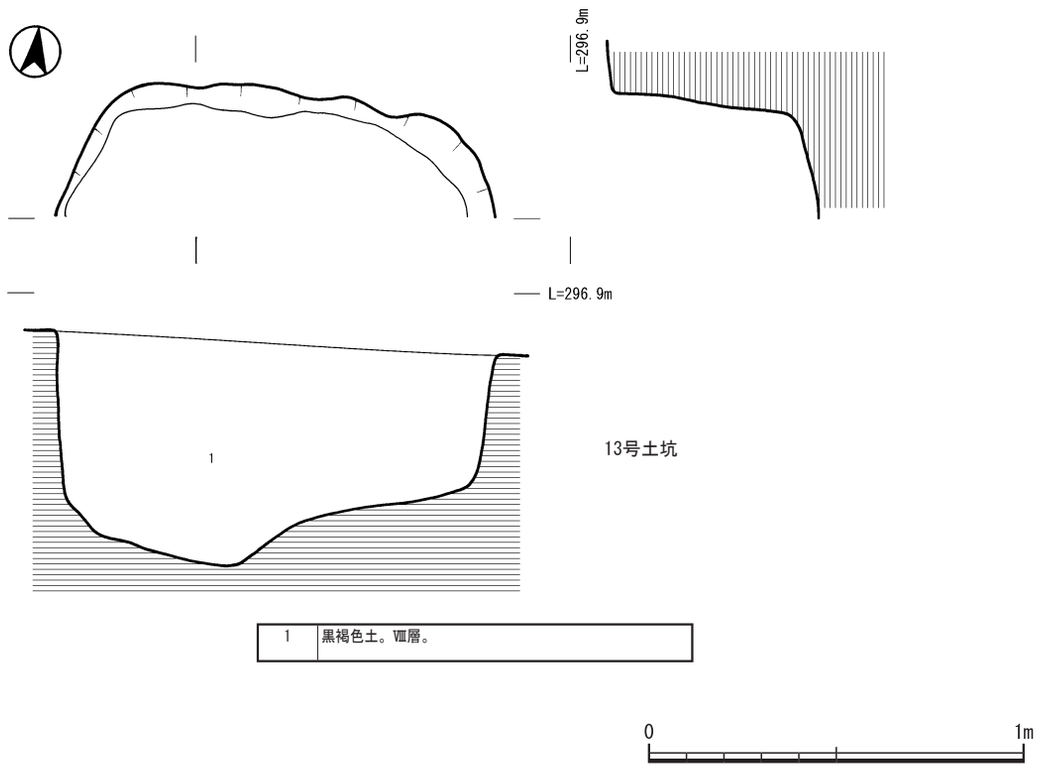
５号土坑(第30図)

桐木遺跡Ｅ-12区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長

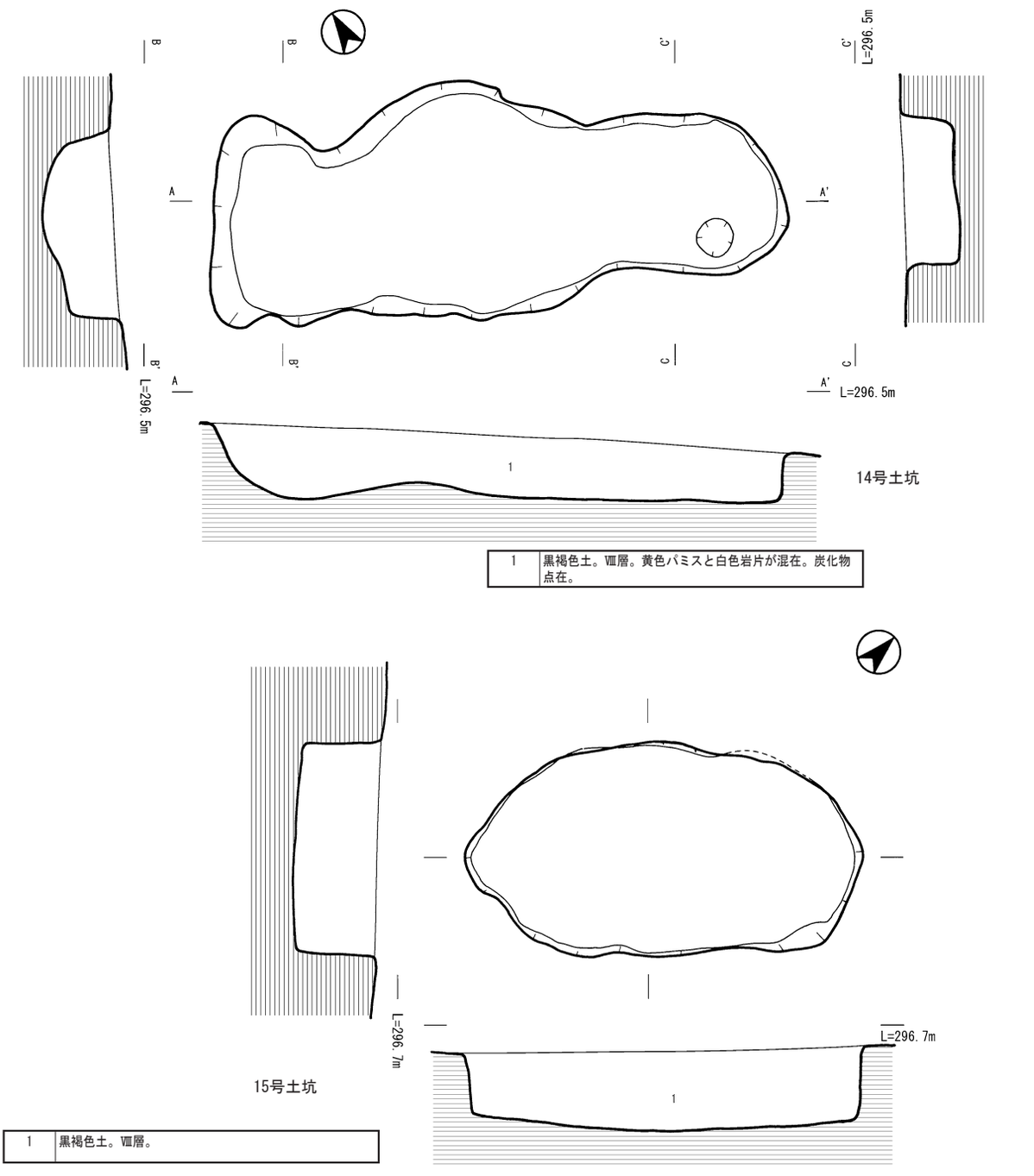


第３表　遺構内土器観察表（２）

挿図No	図No	分類記号	取上No（グリッド/層位）	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
33	12	1.215	12号土(C-9/Ⅷ)	輝,角,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-



第33図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（９）



軸64cm，短軸40cm，検出面からの深さ約20cmである。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

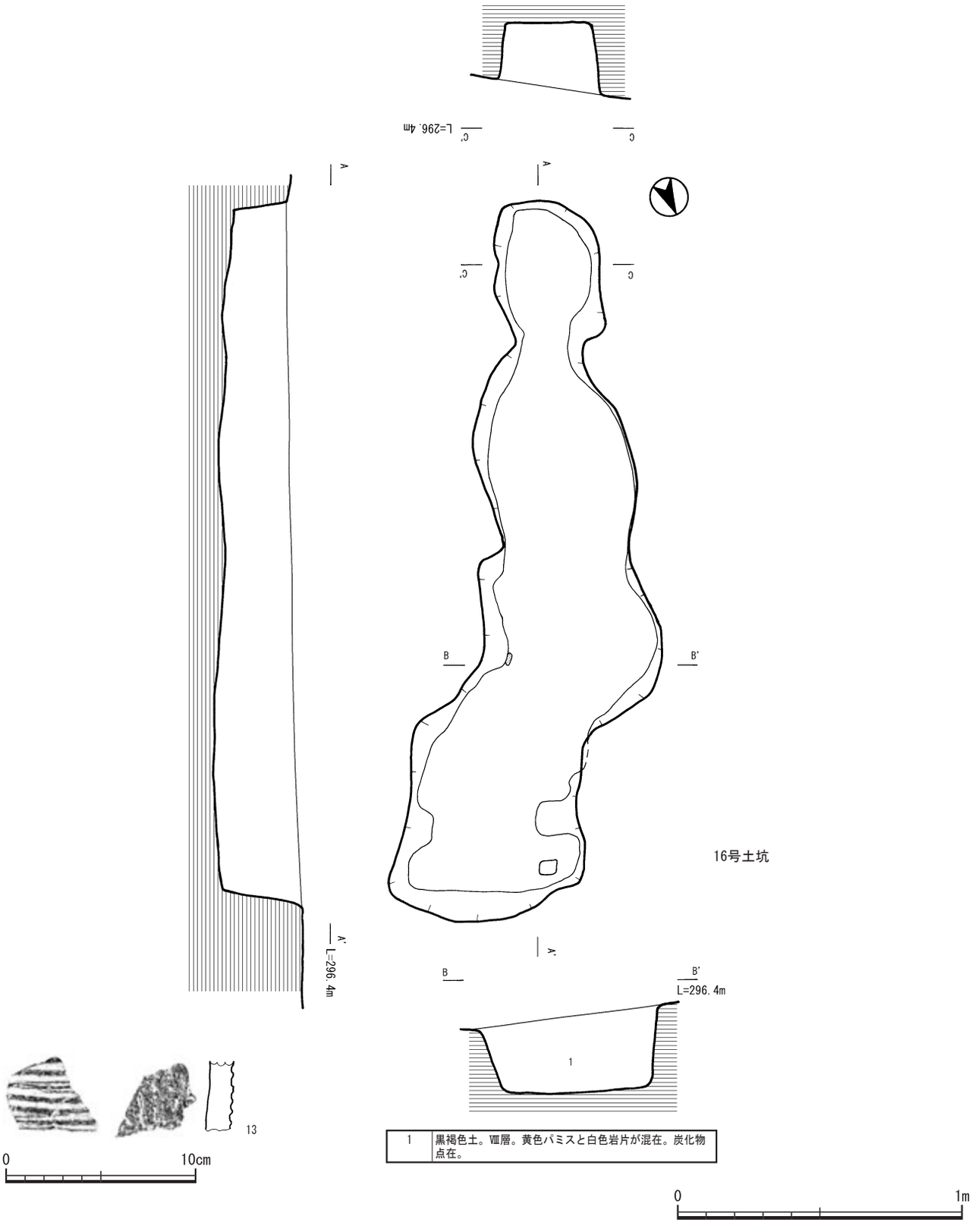
６号土坑(第30図)

桐木遺跡Ｅ-12区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸84cm，短軸42cm，検出面からの深さ約30cmで，さらに約14cmの掘り込みがある。埋土はⅧ層の黒色土で，白色岩片の量で分層してある。最下層の埋土は，Ⅷ層に薩摩火山灰が混ざった暗茶褐色土である。

７号土坑(第30図)

桐木遺跡Ｃ・Ｄ-12区のⅨ層上面で検出し，平面プランは長軸160cm，短軸54cmの舟底形で，検出面からの深さ約36cmである。網掛け部分は，床面が硬化していた部分で，炭化物も多く検出された。また，この部分には薩摩火山灰が陥没したように堆積していた。連結土坑の様相を呈するが，現時点では性格は不明である。３m南側には，１号竪穴住居があるが，関連性は現時点では検証できていない。

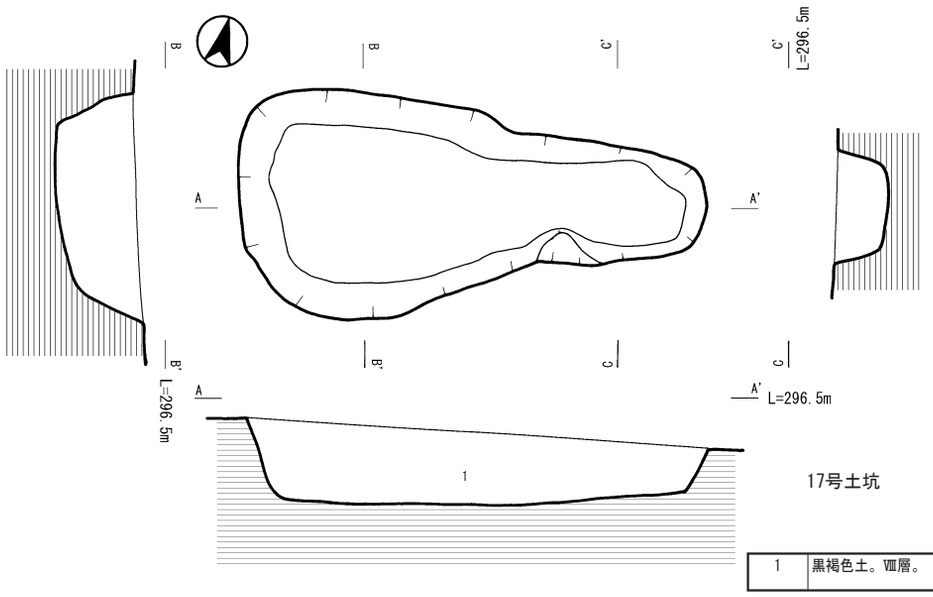
第34図　Ⅷ層遺構実測図（10）



第４表　遺構内土器観察表（３）

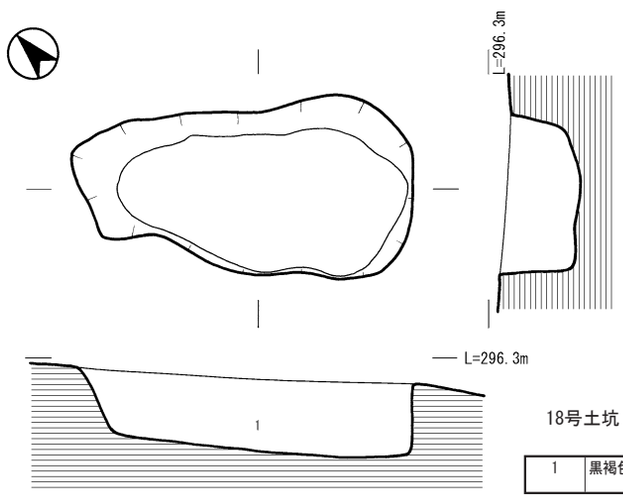
挿図No	図No	分類記号	取上No（グリッド/層位）	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
35	13	1.215	16号土(C-9/Ⅷ)	輝,雲	斜,横ケズリ→ナデ	-	-

第35図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（11）



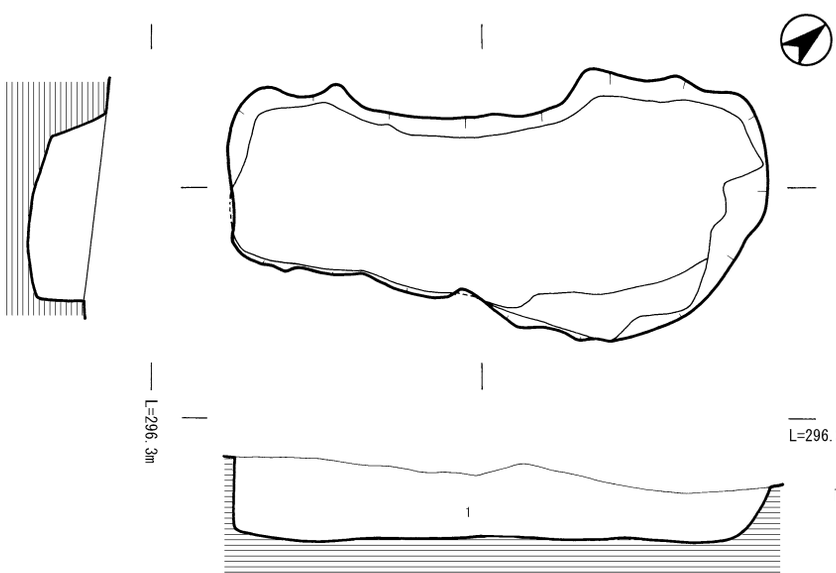
17号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。



18号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。

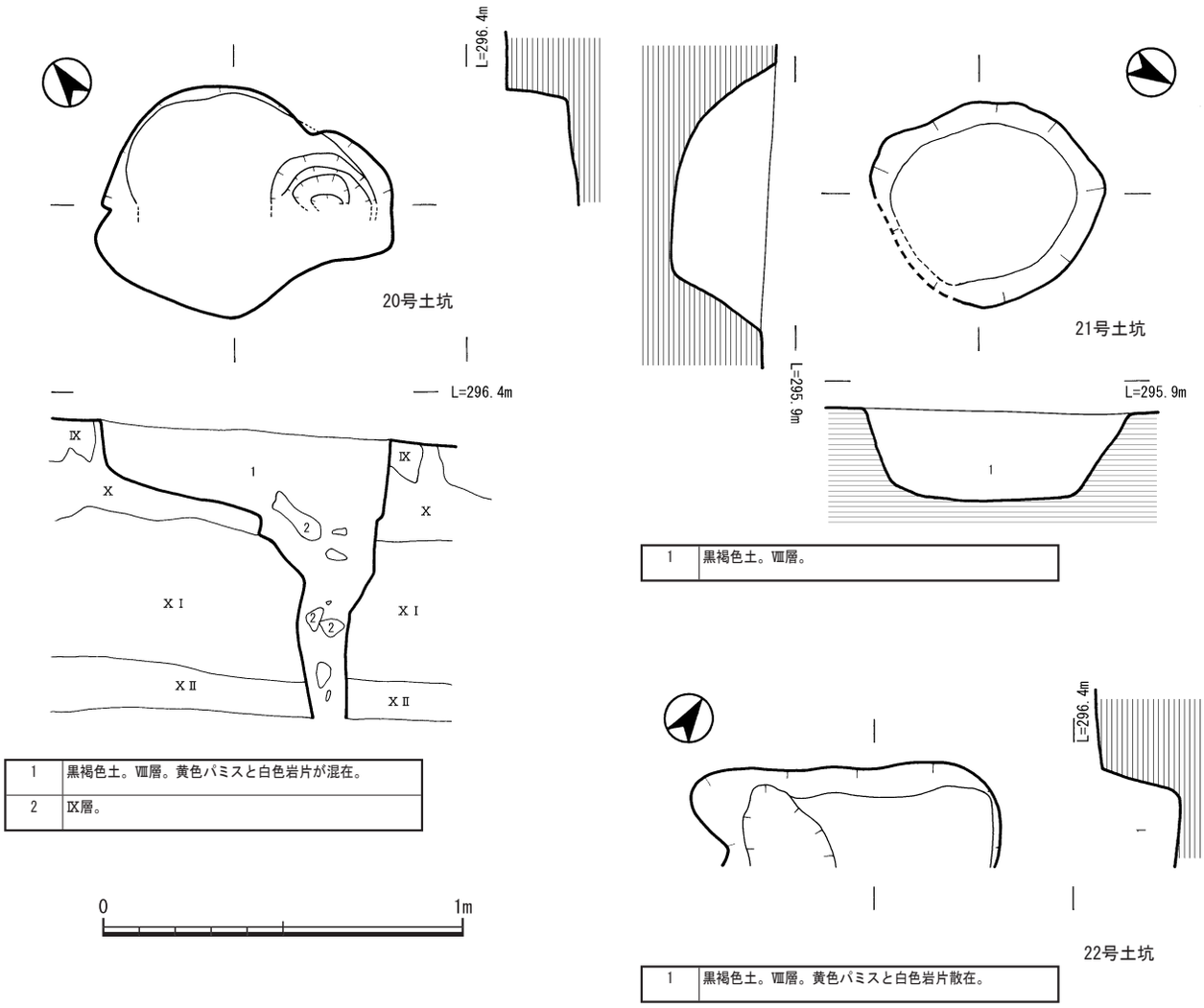


19号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。　床面に薩摩火山灰が点在。

0　1m

第36図　Ⅷ層遺構実測図（12）



第37図　Ⅷ層遺構実測図（13）

８号土坑(第31図)

桐木遺跡Ａ-10区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸132cm，短軸61cmで，深さ約38cmの隅丸長方形である。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚で，炭化物も多く混ざっていた。

９号土坑(第31図)

桐木遺跡あ・い-13区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸108cm，短軸62cmの楕円形で，深さ約39cmである。埋土の大半が白色岩片混ざりのⅧ層である。

10号土坑(第32図)

桐木遺跡Ｃ-11区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸136cm，短軸56cmの舟底形で，検出面からの深さ約31cmである。埋土はⅧ層の一枚で，炭化物が混在していた。

11号土坑(第32図)

桐木遺跡Ｃ-11区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸146cm，短軸60cmの舟底形で，検出面からの深さ約26cmである。埋土はⅧ層の一枚で，炭化物が点在していた。10号土坑とは約2.4mの距離で，形態も類似する。

12号土坑(第33図)

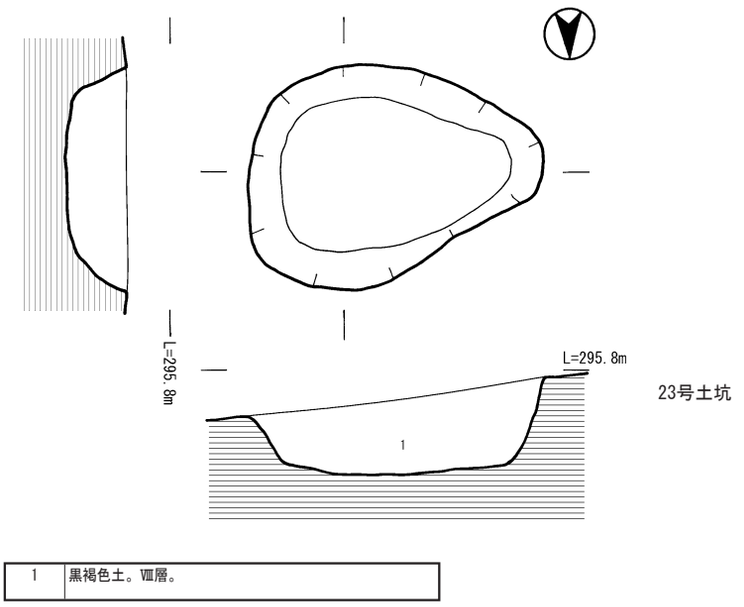
桐木遺跡Ｃ-９・10区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸144cm，最大幅74cmの隅丸長方形である。深さは約24cmで，埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。埋土中に貝殻条痕文系の土器小片が包含されていた。

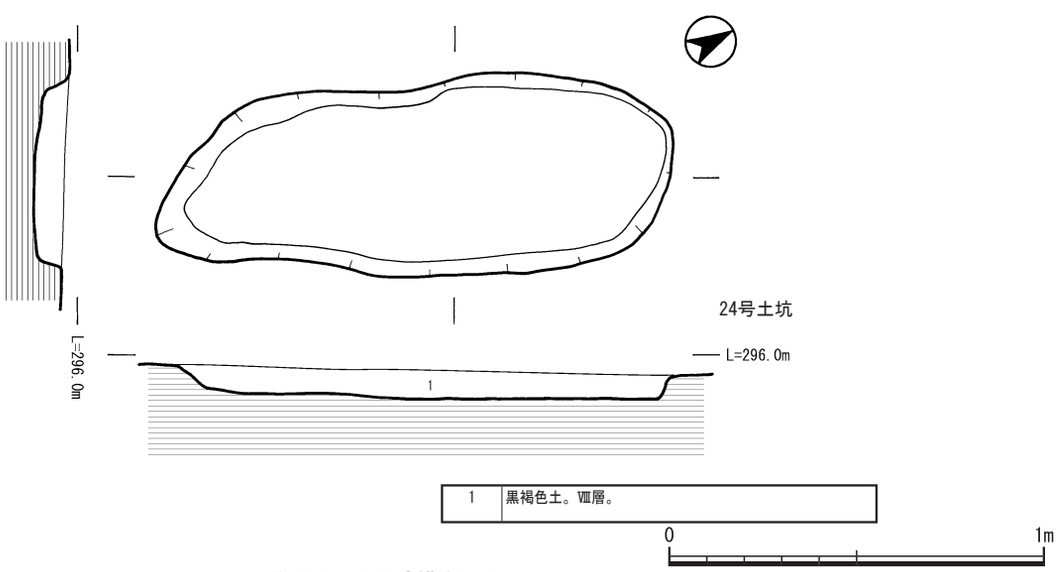
12号土坑内遺物(第33図)

12は，直線的形態を呈する円筒形土器の胴部で，横位方向の貝殻条痕文を施す。内器面の調整は主に縦方向のケズリ調整を行う。この特徴から第１群土器第２類土器に分類できる。

13号土坑(第33図)

桐木遺跡Ｃ-10区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸118cm，短軸35cm+α，深さ約62cmである。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。





第38図　Ⅷ層遺構実測図（14）

14号土坑(第34図)

桐木遺跡Ｃ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸178cm，短軸60cmで，検出面からの深さ約22cmである。埋土はⅧ層の黒褐色土，炭化物が点在していた。９号から11号の土坑の形態に類似する。

15号土坑(第34図)

桐木遺跡Ｃ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸124cm，短軸66cmの楕円形で，深さ約24cmである。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

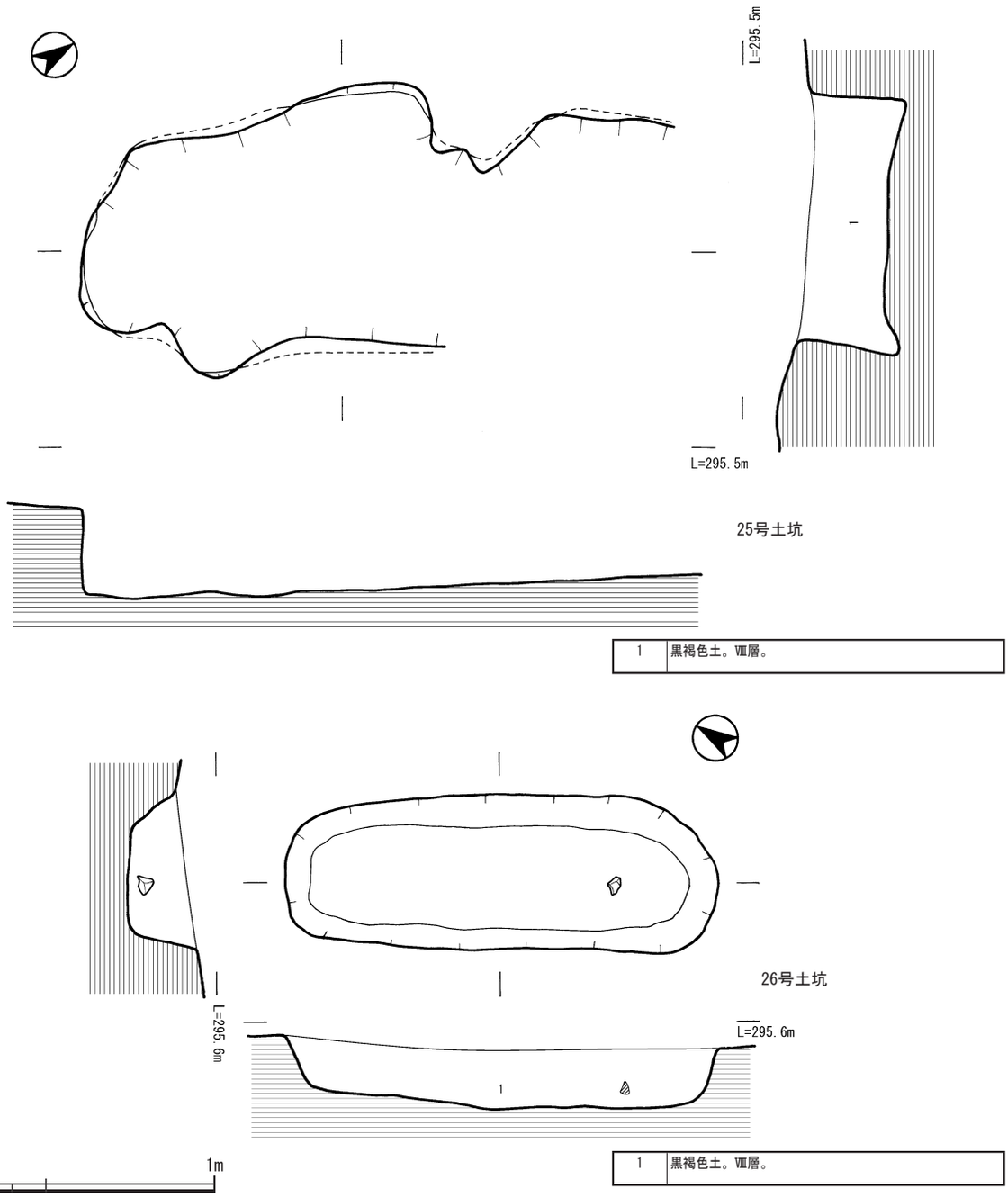
16号土坑(第35図)

桐木遺跡Ｃ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸248cm，短軸66cmで深さ約28cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚で，炭化物が点在していた。北側壁の中央寄りには，薩摩火山灰10cm前後のブロックも入っていた。連穴土坑と推測されるが，検証するまでには至らなかった。また，この一画は集石遺構や土坑が密集している地域であるが，一番近い４号住居からは10mの距離がある。

埋土中には，貝殻条痕文系の土器小片が包含されていた。

16号土坑内遺物(第35図)

13は，直線的形態を呈する円筒形土器の胴部で，主に横位方向の貝殻条痕文を施す。内器面の調整は主に縦方向のケズ



リ調整。この特徴から第１群土器第２類土器に分類できる。

17号土坑(第36図)

桐木遺跡Ｄ-10区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸126cm，短軸60cmで深さ約22cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

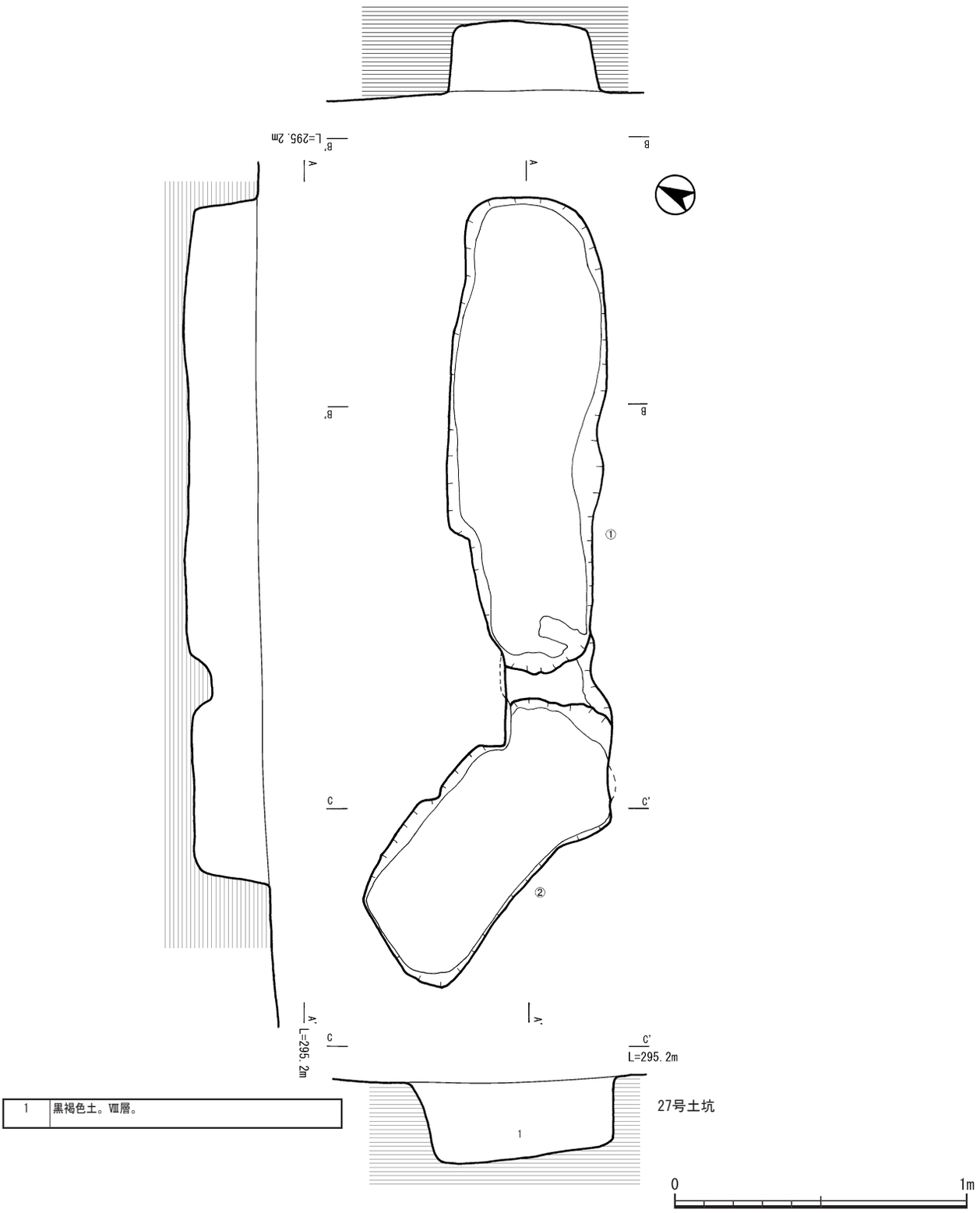
18号土坑(第36図)

桐木遺跡Ｃ－９区のⅨ層上面で検出し，16号同様，遺構密集地にあり16号，19号，20号土坑に囲まれている。平面プランは，長軸88cm，短軸44cmで深さ約20cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

19号土坑(第36図)

桐木遺跡Ｃ－９区のⅨ層上面で検出し，18号土坑とは40cmの距離である。平面プランは，長軸144cm，短軸50mで深さ約20cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚で，床面には薩摩火山灰が点在していた。

第39図　Ⅷ層遺構実測図（15）



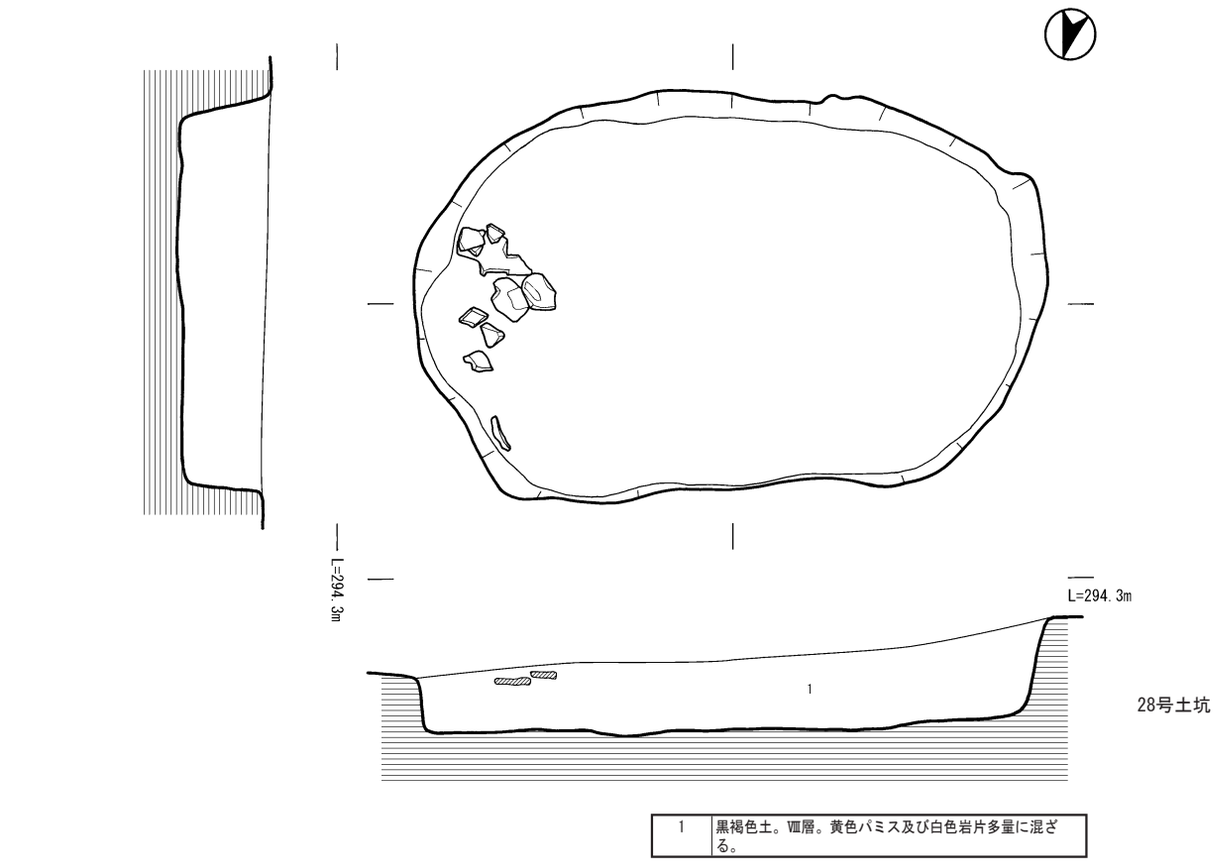
20号土坑(第37図)

桐木遺跡Ｃ－９区遺構密集区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸80cm，短軸64cmで深さ約24cmであった。東壁には樹痕があり，薩摩火山灰の小ブロックが落ち込んでいる。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

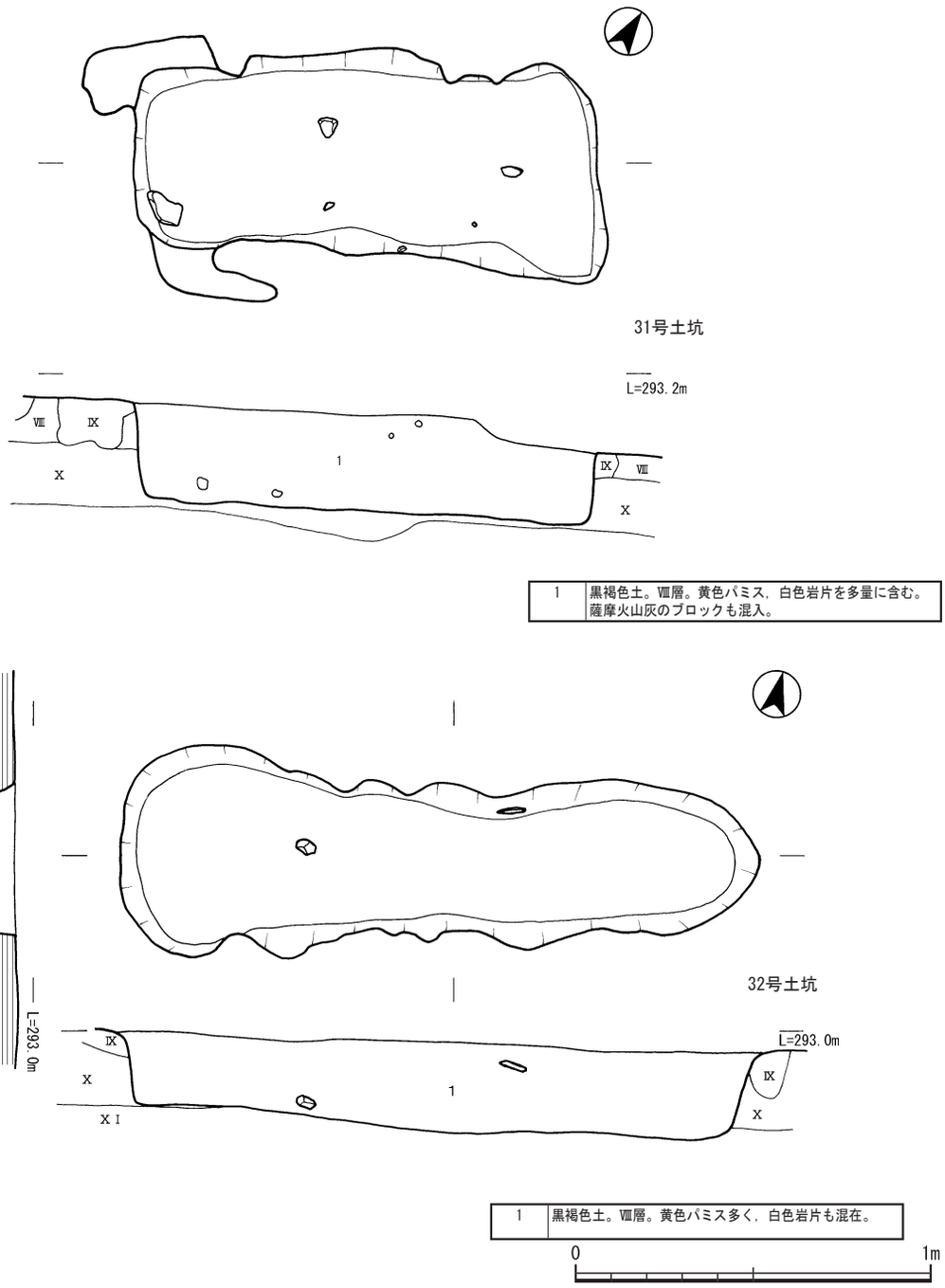
21号土坑(第37図)

桐木遺跡Ｄ－９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸64cm，短軸58cmの楕円形で，深さ約26cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

第40図　Ⅷ層遺構実測図（16）



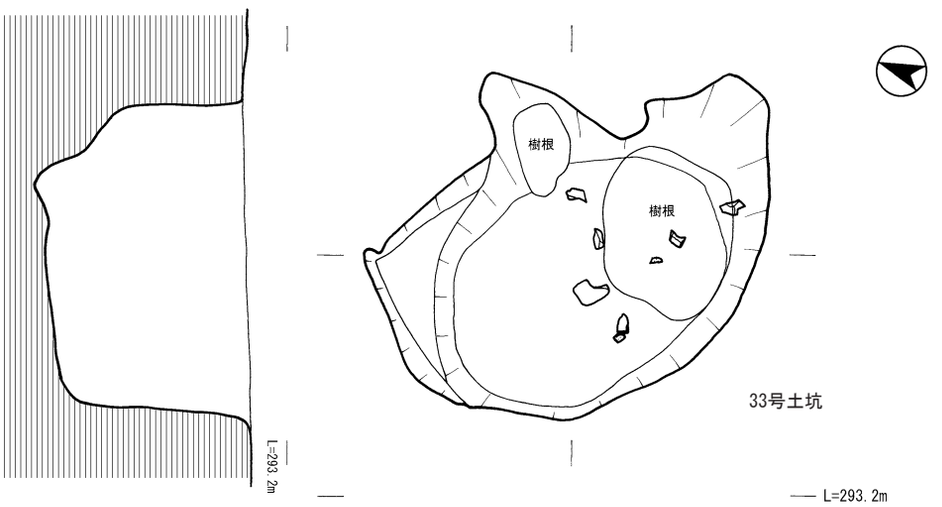
第41図　Ⅷ層遺構実測図（17）



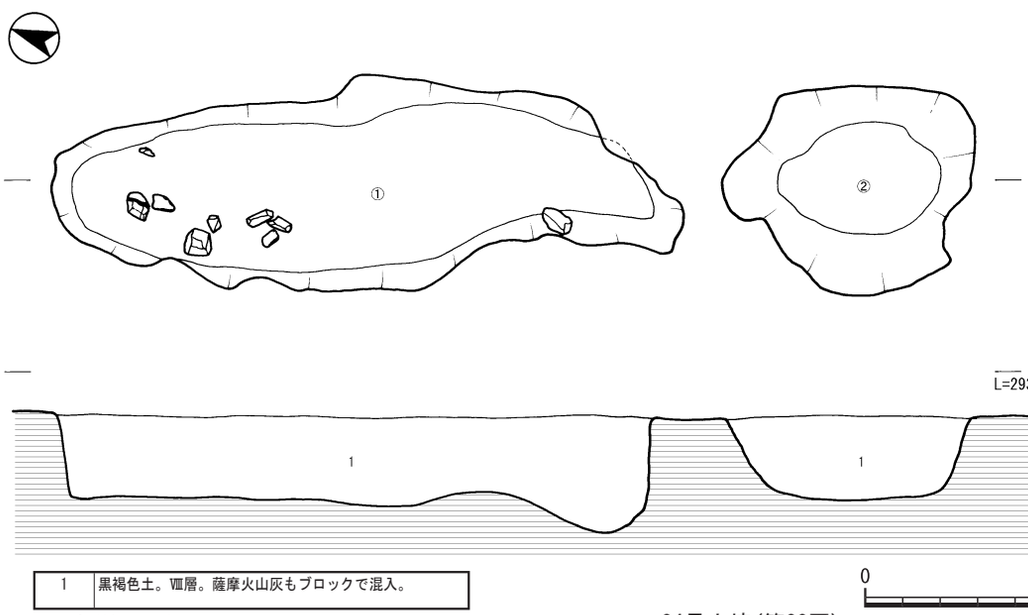
第42図　Ⅷ層遺構実測図（18）

第５表　Ⅷ～Ⅶ層土坑観察表（１）

報告書No	挿図No	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅
1	29	115	83	100	(120)	70
2	29	86	23+α	14	(79)	(17)
3	29	104	60	22	103	60
4	30	102	96	48	95	73
5	30	64	40	20	42	28
6	30	84	42	30	77	23
7	30	160	54	36	140	49
8	31	132	61	38	123	40
9	31	108	62	39	97	60
10	32	136	56	31	112	38
11	32	146	60	26	100	35
12	33	144	74	24	141	(60)
13	33	118	35+α	62	(105)	(30)
14	34	178	60	22	168	68
15	34	124	66	24	118	63
16	35	248	66	28	240	48
17	36	126	60	22	110	42
18	36	88	44	20	77	37
19	36	144	50	20	130	50



1	黒色土。白色岩片が多く混入。しまり無し。この部分は樹根と思われる。
2	明褐色土。Ⅶ層とⅧ層の混ざり。黄色パミス，白色岩片を含む。
3	黒褐色土。Ⅷ層。黄色パミス，白色岩片を含む。
4	明黄褐色。Ⅷ層にＸＩ層の混ざり。
5	にぶい黄褐色。ＸＩ層と黒色土の混ざり。
6	薩摩火山灰。



1	黒褐色土。Ⅷ層。薩摩火山灰もブロックで混入。

22号土坑(第37図)

桐木遺跡Ｃ－９・10区のⅨ層上面で検出し，半截して調査を進めた。平面プランは，長軸76cm，短軸27cm+αの楕円形で，深さ約26cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

23号土坑(第38図)

桐木遺跡Ｅ－９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸78cm，短軸60cmの楕円形で，深さ約24cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。東側60cmの所に21号土坑がある。

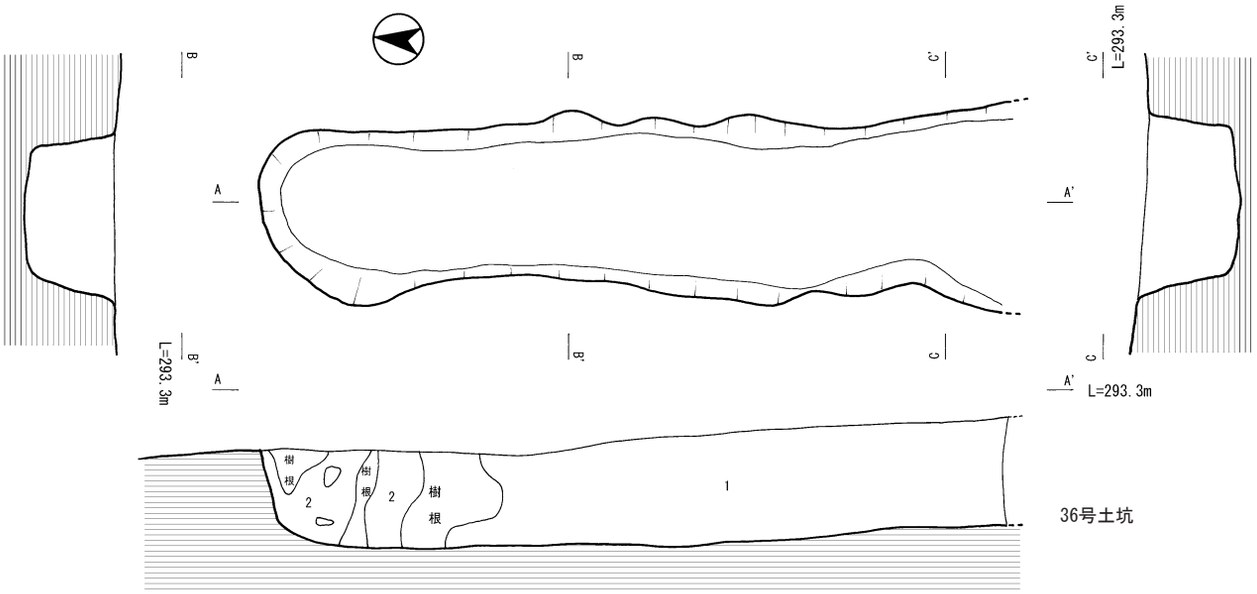
24号土坑(第38図)

桐木遺跡Ｄ-10区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸132cm，短軸52cmの隅丸長方形で，深さ約６cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。周辺に98号，99号，100号の集石がある。

25号土坑(第39図)

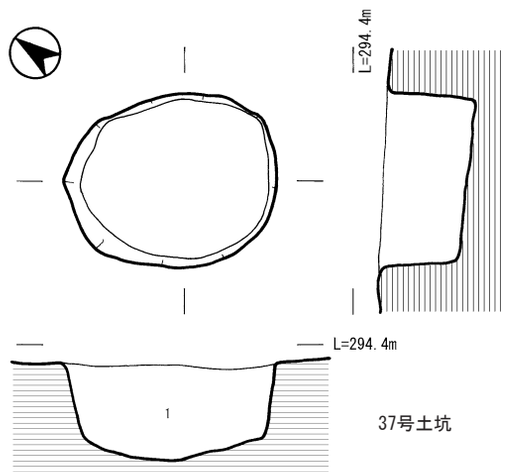
桐木遺跡Ｅ－８区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸173cm+α，短軸74cmで一部掘削している。検出面からの深さ約30cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。１m北東の所に30号土坑がある。

第43図　Ⅷ層遺構実測図（19）



36号土坑

1	黒褐色土。上部は黄色パミスや白色岩片が多く，下部は黄色，白色岩片少ない。
2	暗褐色土。薩摩火山灰混ざる。黄色パミス，白色岩片混じる。粘質強く，硬い。



37号土坑

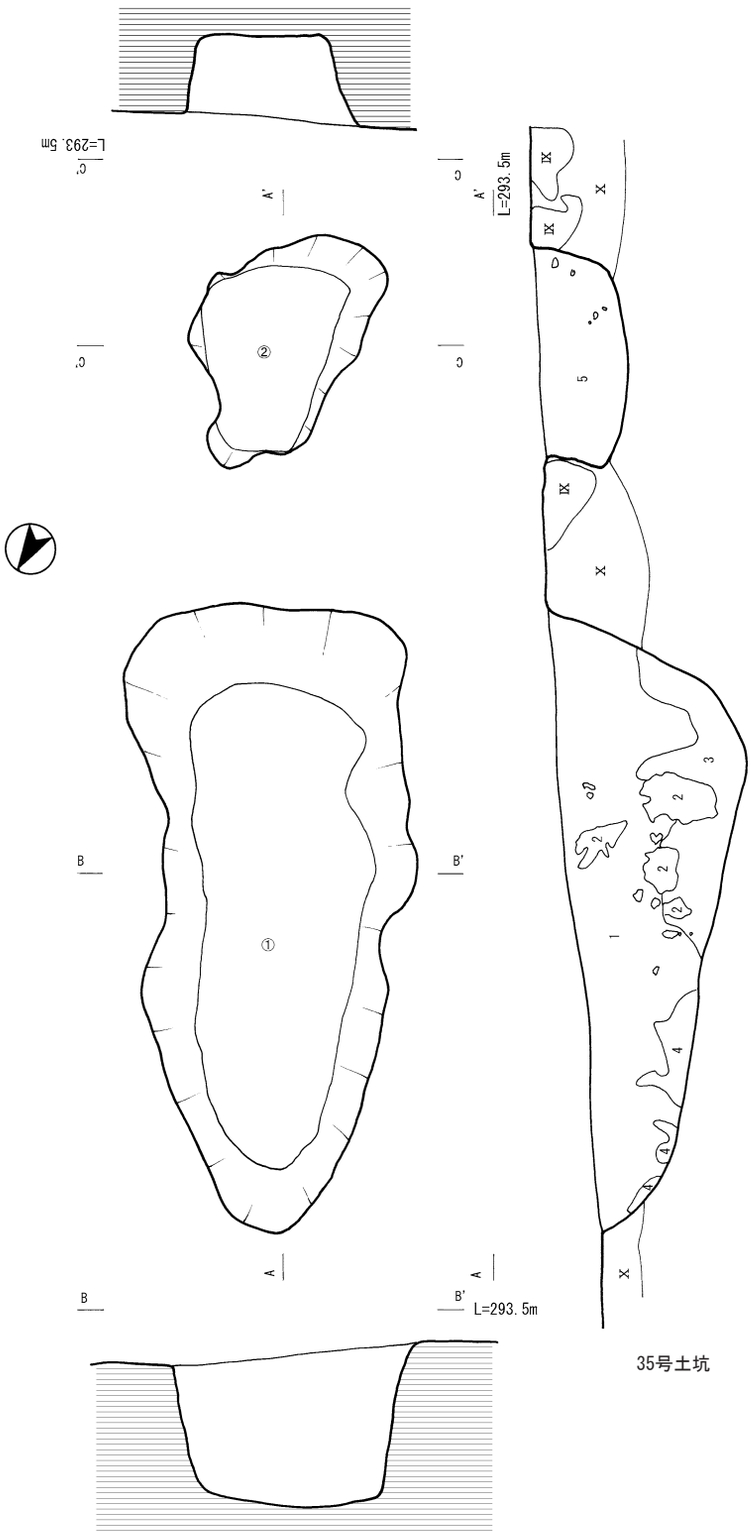
1	暗黒褐色土(Ⅶ・Ⅷ層混ざり)。白色パミスが全体に混ざる。

0 1m

第44図　Ⅷ層遺構実測図（20）

第６表　Ⅷ～Ⅶ層土坑観察表（２）

報告書No	挿図No	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅
20	37	80	64	24	(65)	(32)
21	37	64	58	26	50	42
22	37	76	27+α	26	(67)	(20)
23	38	78	60	24	60	40
24	38	132	52	6	128	42
25	39	173+α	74	30	(180)	(72)
26	39	128	46	20	112	30
27	40	162・108	53・47	24・28	152・100	48・38
28	41	168	106	26	157	98
29	41	88+α	55	38	(57)	(45)
30	41	64	48	28	52	38
31	42	130	60	28	123	45
32	42	180	42	24	165	38
33	43	106	84	54	70	65
34	43	162・66	57・56	30・22	150・44	48・30
35	45	166・56	68・46	50・23	128・50	45・32
36	44	202+α	48	28	(195)	(32)
37	44	58	47	26	112	51



35号土坑

1	黒褐色土。Ⅷ層。白色岩片を多量に含む。
2	薩摩火山灰。
3	茶褐色土。1に比べ白色岩片が少ない。
4	明茶褐色土。灰を混ぜたような色。白色岩片無し。
5	黒色土。白色岩片無し。どんぐりの炭化した物が多量に混入。

0 1m

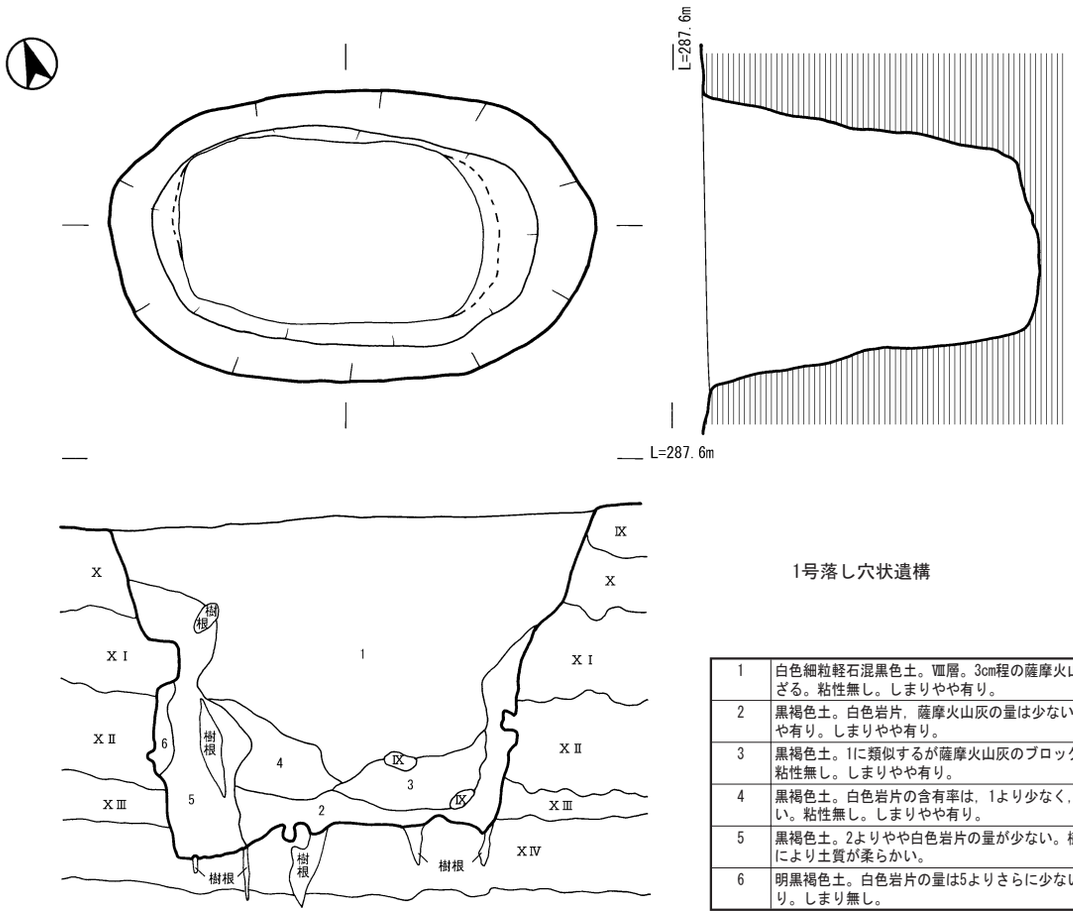
第45図　Ⅷ層遺構実測図（21）

26号土坑(第39図)

桐木遺跡Ｅ-９区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸128cm，短軸46cmの隅丸長方形で，深さ約20cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。埋土中に礫１個が包含されていた。

27号土坑(第40図)

桐木遺跡Ｅ・Ｆ-８区のⅨ層上面で検出し，当初一つの遺構と捉えて検出していたが，断面状況等から二つの遺構が隣接したものと判断した。境界部分の薩摩火山灰が喪失し，Ⅷ層埋土が堆積した状況である。土坑①と②の境目部分の地山が６cmほど残っていた。焼土跡や炭化物が見られないことから，連結土坑とは考えにくい。南東へ約６m60cmの所に３号竪穴住居がある。



1号落し穴状遺構

1	白色細粒軽石混黒色土。Ⅷ層。3cm程の薩摩火山灰も混ざる。粘性無し。しまりやや有り。
2	黒褐色土。白色岩片，薩摩火山灰の量は少ない。粘性やや有り。しまりやや有り。
3	黒褐色土。1に類似するが薩摩火山灰のブロックを含む。粘性無し。しまりやや有り。
4	黒褐色土。白色岩片の含有率は，1より少なく，2より多い。粘性無し。しまりやや有り。
5	黒褐色土。2よりやや白色岩片の量が少ない。樹根の影響により土質が柔らかい。
6	明黒褐色土。白色岩片の量は5よりさらに少ない。粘性有り。しまり無し。

0 1m

28号土坑(第41図)

桐木遺跡Ｇ－６区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸168cm，短軸106cmの楕円形で，深さ約26cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。埋土上部に礫10個が包含されていた。

29号土坑(第41図)

桐木遺跡Ｆ－７区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸88cm+α，短軸55cmで，深さ約38cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

30号土坑(第41図)

桐木遺跡Ｅ－８区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸64cm，短軸48cmの楕円形で，深さ約28cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。

31号土坑(第42図)

31号から37号まで，耳取遺跡Ⅷ層検出の土坑である。

耳取遺跡Ⅰ-19区のⅨ層の薩摩火山灰上面で検出し，平面プランは，長軸130cm，短軸60cmの隅丸長方形である。埋土は黒褐色土のⅧ層一枚で，白色岩片が多量に入っていた。また，礫数個も包含されていた。

32号土坑(第42図)

耳取遺跡Ⅰ-19区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸180cm，短軸42cmの舟底形で，深さ約24cmであった。埋土はⅧ層の黒褐色土一枚である。埋土中に礫２個が包含されていた。

33号土坑(第43図)

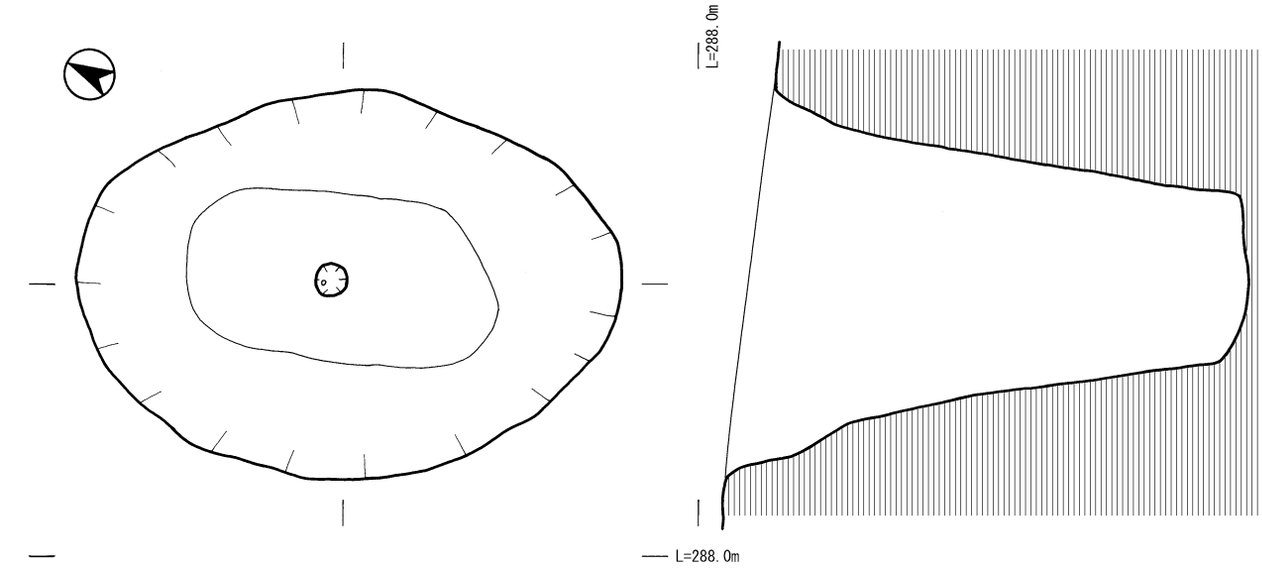
耳取遺跡Ⅰ-19区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸106cm，短軸84cmの楕円形で，深さ約54cmであった。樹根が二か所遺構内に入り込んでいる。埋土はⅧ層の黒褐色土が主体で，白色岩片の混入状態とＸⅠ層の混ざり具合で分層してある。埋土中には礫７個が包含されていた。

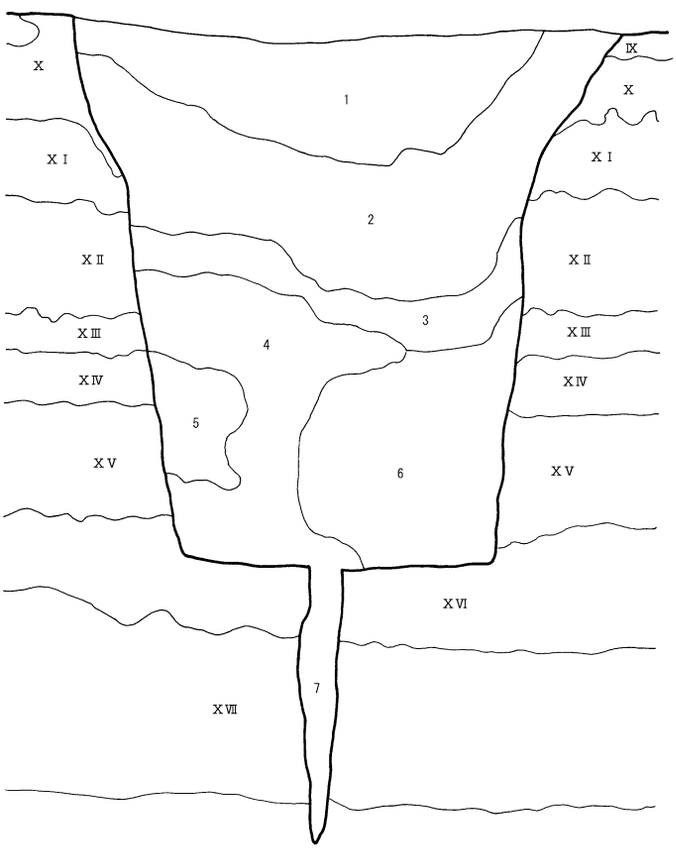
34号土坑(第43図)

耳取遺跡Ⅰ-19区のⅨ層上面で検出し，セットと捉えるには十分な検証がなされていないが，同様な形態の土坑35号が西側8.6mの所にありレイアウト上では一緒に掲載した。セットとして機能したかどうかは，今後発掘調査で類例が増えれば解明されるであろう。

土坑①は，平面プラン長軸162cm，短軸57cmの舟底形で，深さ約30cmであった。土坑②側の床面及び壁面には焼土と炭化物が検出された。また，上場から50cm位センター

第46図　Ⅷ層遺構実測図（22）





2号落し穴状遺構

1	白色細粒軽石混黒色土。Ⅷ層。3cm程のオレンジパミス(薩摩火山灰)も混ざる。
2	暗茶褐色土。1cm程のオレンジパミス(薩摩火山灰)が散在する。
3	茶褐色土。1,2に比べ粘質が強。
4	明茶褐色土。粘質強。オレンジパミス(薩摩火山灰)がわずかに混ざる。
5	明茶褐色土。2に類似するが薩摩火山灰がみられない。
6	明茶褐色土。2に類似するが薩摩火山灰は少ない。
7	淡黄褐色土。軟質土。上に黒褐色のブロックが混ざる。

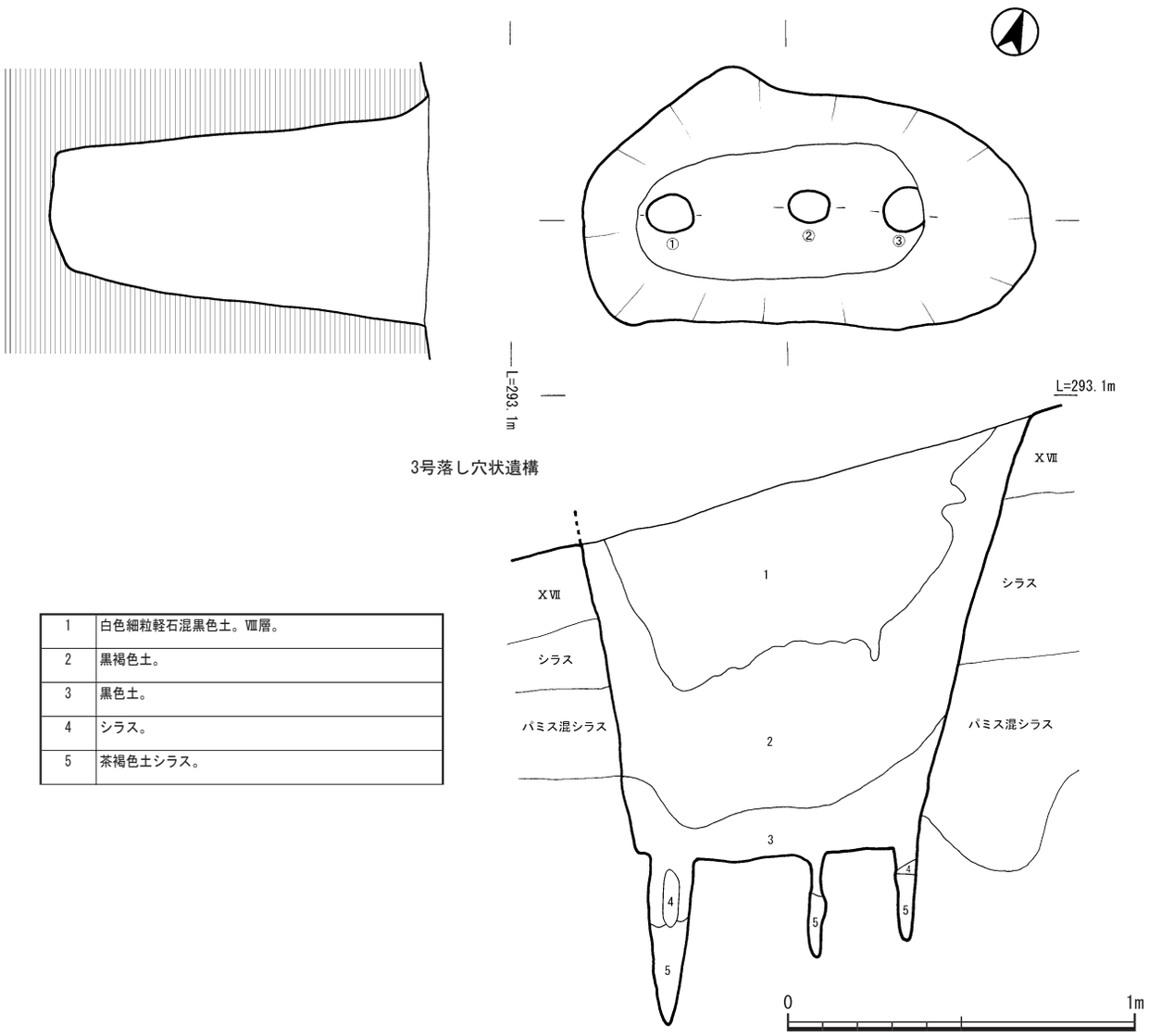
第47図　Ⅷ層遺構実測図（23）

寄りの所にⅨ層の薩摩火山灰がブロック状に落ち込んでいたことより，連穴土坑と判断した。炉部約48cm，煙道部約36cm，足場部分で約82cmの構造である。

土坑②は土坑①の南側約40cmの所にあり，①の長軸に合わせたように並んでいる。66cm×56cmの楕円形で，検出面からの深さは22cmである。埋土は黒色土のⅧ層であるが，土坑①には白色岩片が多量に混入していたのに比べ，土坑②は種実の炭化したものが多数混入し，白色岩片はほとんど見られなかった。種実遺体同定を行った結果，クリの破片であることが分かった。（付編参照）

１号落し穴状遺構（第46図）

桐木遺跡Ｇ-41区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸128cm，短軸76cmの楕円形で，検出面からの深さ88cmである。最終埋土は薩摩火山灰混じりのⅧ層である。逆茂木らしきピットは検出できなかった。西側約５mのところに



3号落し穴状遺構

1	白色細粒軽石混黒色土。Ⅷ層。
2	黒褐色土。
3	黒色土。
4	シラス。
5	茶褐色土シラス。

第48図　Ⅷ層遺構実測図（24）

第７表　Ⅷ～Ⅶ層落し穴状遺構観察表（１）

報告書No	挿図No	長径	短径	深さ	小ピットNo	小ピット径	小ピット深さ
1	46	128	76	88	-	-	-
2	47	146	104	140	1	8	74
3	48	130	67	106	1	13	48
					2	12	30
					3	(12)	26

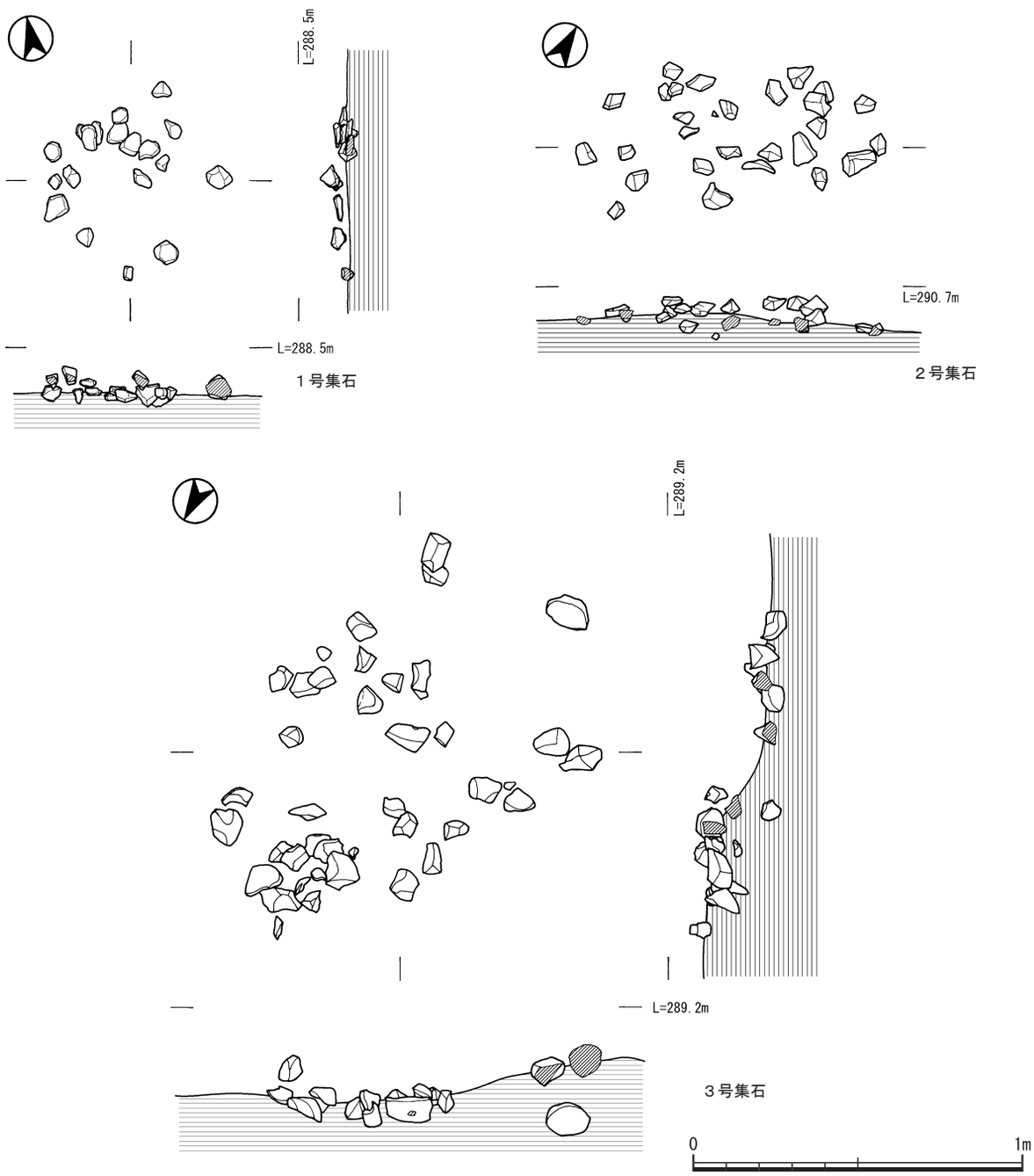
は，２号落し穴状遺構がある。

２号落し穴状遺構(第47図)

桐木遺跡Ｆ-41区のⅨ層上面で検出し，平面プランは，長軸146cm，短軸104cmの楕円形で，検出面からの深さ140cmである。最終埋土は薩摩火山灰混じりのⅧ層である。中央部に径８cmの逆茂木らしきピットがあり，床面から約74cmの深さを計測した。

３号落し穴状遺構(第48図)

耳取遺跡Ｊ-10区のⅩⅦ層上面で検出し，平面プランは，長軸130cm，短軸67cmの楕円形で，検出面からの深さは中央部で106cmである。最終埋土がⅧ層相当の白色岩片混ざりの黒色土のため，縄文時代早期の落し穴状遺構と判断した。このエリアは層堆積があまり良くなく，一部の層は堆積していない。逆茂木らしきピットは３基検出できた。



３　Ⅷ層の集石遺構

集石遺構は，桐木遺跡で34基（１号～34号），耳取遺跡で10基(35号～44号)である。

縄文時代の集石遺構も，ⅩⅦ層の旧石器時代の分類方法で分類を行った。

Ⅰ類集石遺構　掘り込み遺構を伴い，礫の詰まり方で３類に細分した。

・ＩＡ類(掘り込み遺構を伴い，礫が詰まっている)

・ＩＢ類(掘り込み遺構を伴い，礫が少ない)

・ＩＣ類(掘り込み遺構内礫は０～数個)

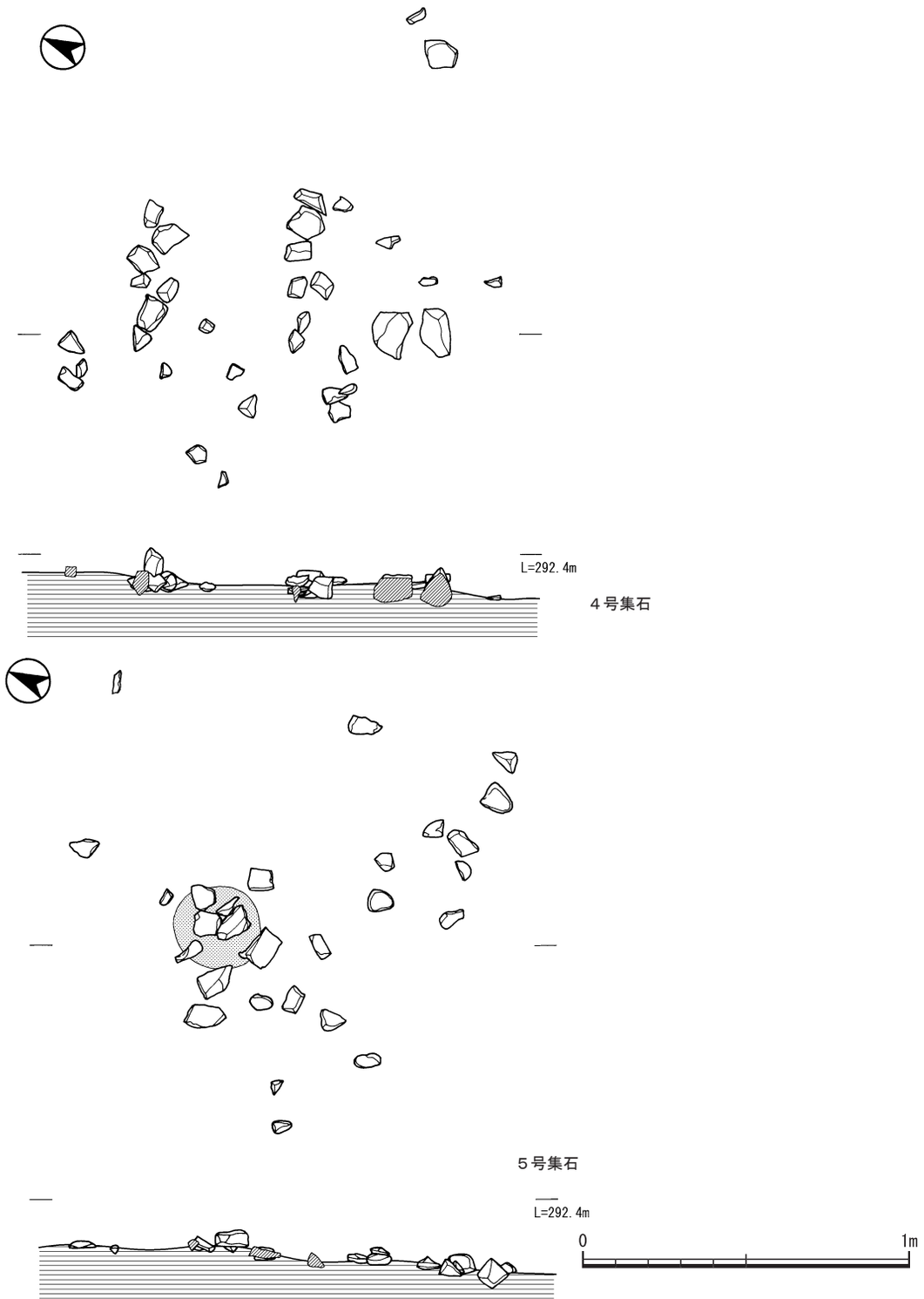
Ⅱ類集石遺構　掘り込み遺構は確認できないが，礫の在り方から掘り込み遺構が想定できるもの。

Ⅲ類集石遺構　礫で構成し，礫の残存状況から２類に細分した。

・ⅢＡ類(礫集中が想定できる)

・ⅢＢ類(散礫状態)

第49図　Ⅷ層遺構実測図（25）



１号集石遺構(第49図)

桐木遺跡Ｇ-42区で検出し，径61cm×57cmで掘り込み遺構は確認できなかった。分類はⅢＡ類とした。約４m北側には２号落し穴状遺構がある。

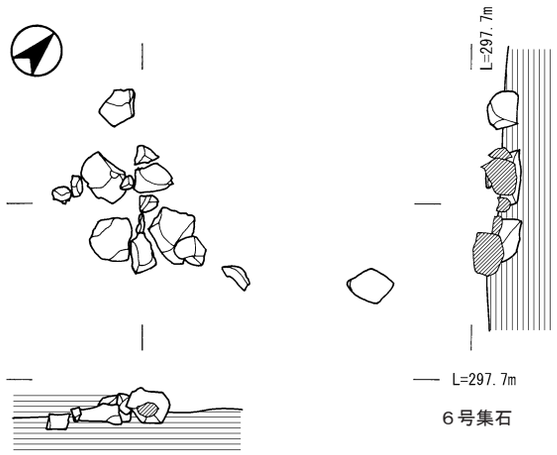
２号集石遺構(第49図)

桐木遺跡Ｌ-35・36区で検出し，径94cm×50cm内に礫28個の集中が確認できる。ⅢＡ類

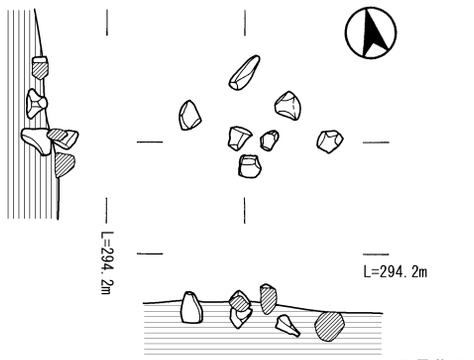
３号集石遺構(第49図)

桐木遺跡Ｎ-35区で検出し，径124cm×119cm内に礫40個で構成する。ⅢＡ類

第50図　Ⅷ層遺構実測図（26）



６号集石



７号集石

４号集石遺構(第50図)

桐木遺跡Ｄ-26区で検出し，径147cm×136cm内に礫35個を確認するが，礫は散在。ⅢＢ類

５号集石遺構(第50図)

桐木遺跡Ｄ-26区で検出し，径141cm×137cm内に礫28個で構成する。炭化物エリアを検出した。礫は散在するが中心が想定される。ⅢＡ類

６号集石遺構(第51図)

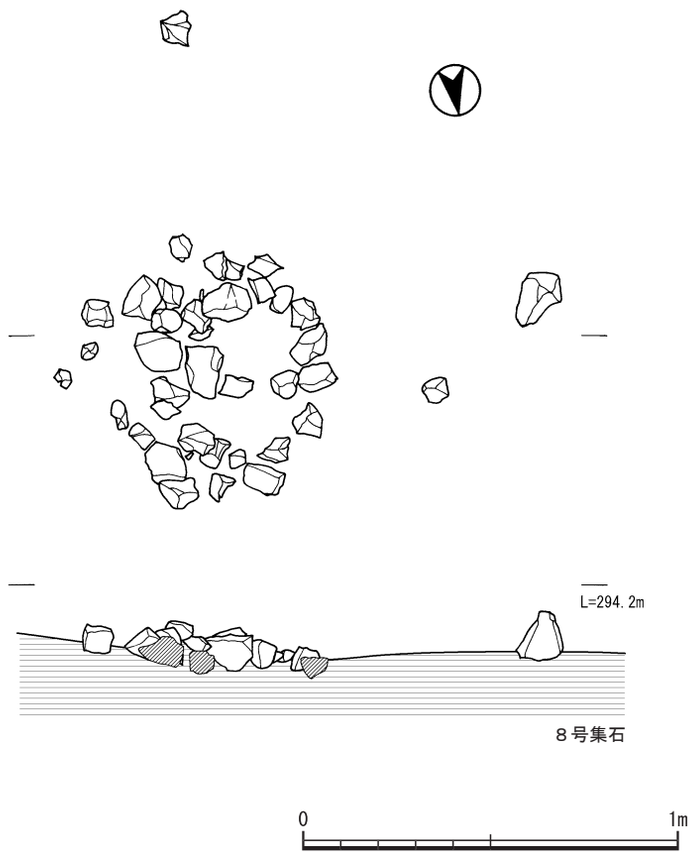
桐木遺跡Ｅ-15区で検出し，径91cm×57cmの大きさで，礫15個で構成する。掘り込み遺構は確認できなかったが，10cm前後の礫が一部集中し，掘り込み遺構を推定できる。Ⅱ類

７号集石遺構(第51図)

桐木遺跡Ｊ-14区で検出し，径44cm×33cm内に礫７個を確認するが，礫は散在する。ⅢＢ類

８号集石遺構(第51図)

桐木遺跡Ｊ-12・13区で検出し，径136cm×133cm内に礫40個で構成される。掘り込み遺構は確認できなかったが，礫の集中状況から掘り込み遺構が想定される。Ⅱ類

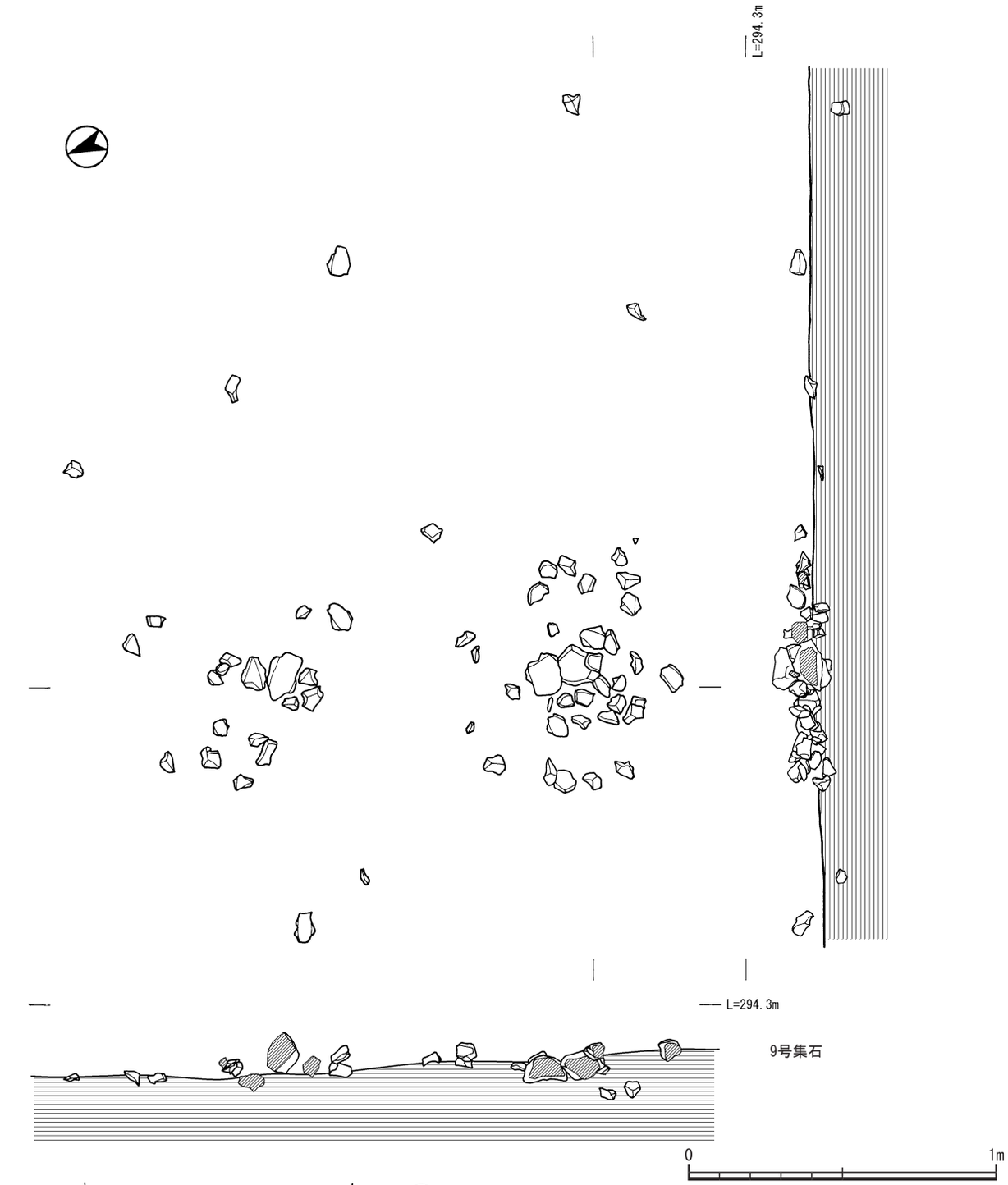


８号集石

第51図　Ⅷ層遺構実測図（27）

第８表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（１）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
1	49	ⅢA	61	57	－	－	－	－	－
2	49	ⅢA	94	50	－	－	－	－	－
3	49	ⅢA	124	119	－	－	－	－	－
4	50	ⅢB	147	136	－	－	－	－	－
5	50	ⅢA	141	137	－	－	－	－	－
6	51	Ⅱ	91	57	－	－	－	－	－
7	51	ⅢB	44	33	－	－	－	－	－
8	51	Ⅱ	136	133	－	－	－	－	－



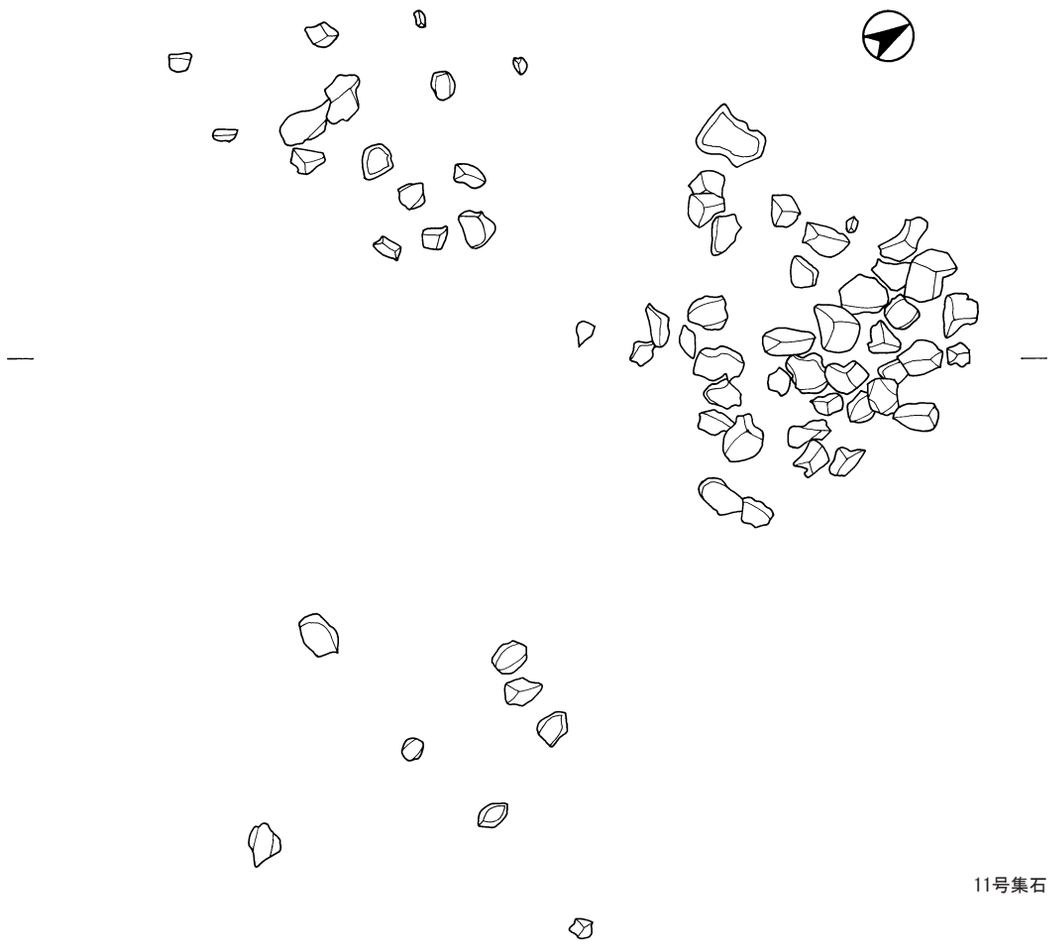
９号集石遺構(第52図)

桐木遺跡Ⅰ－９区で検出し，径275cm×201cm内にの礫62個で構成する。二つのまとまりがあり，南側のまとまりは掘り込みは無いが礫が集中している。北側のまとまりは，散逸しているが中心が想定できる。Ⅱ類

10号集石遺構(第52図)

桐木遺跡Ⅰ－８区で検出し，径80cm×43cm内に礫９個を確認するが，礫は散在する。ⅢＢ類

第52図　Ⅷ層遺構実測図（28）



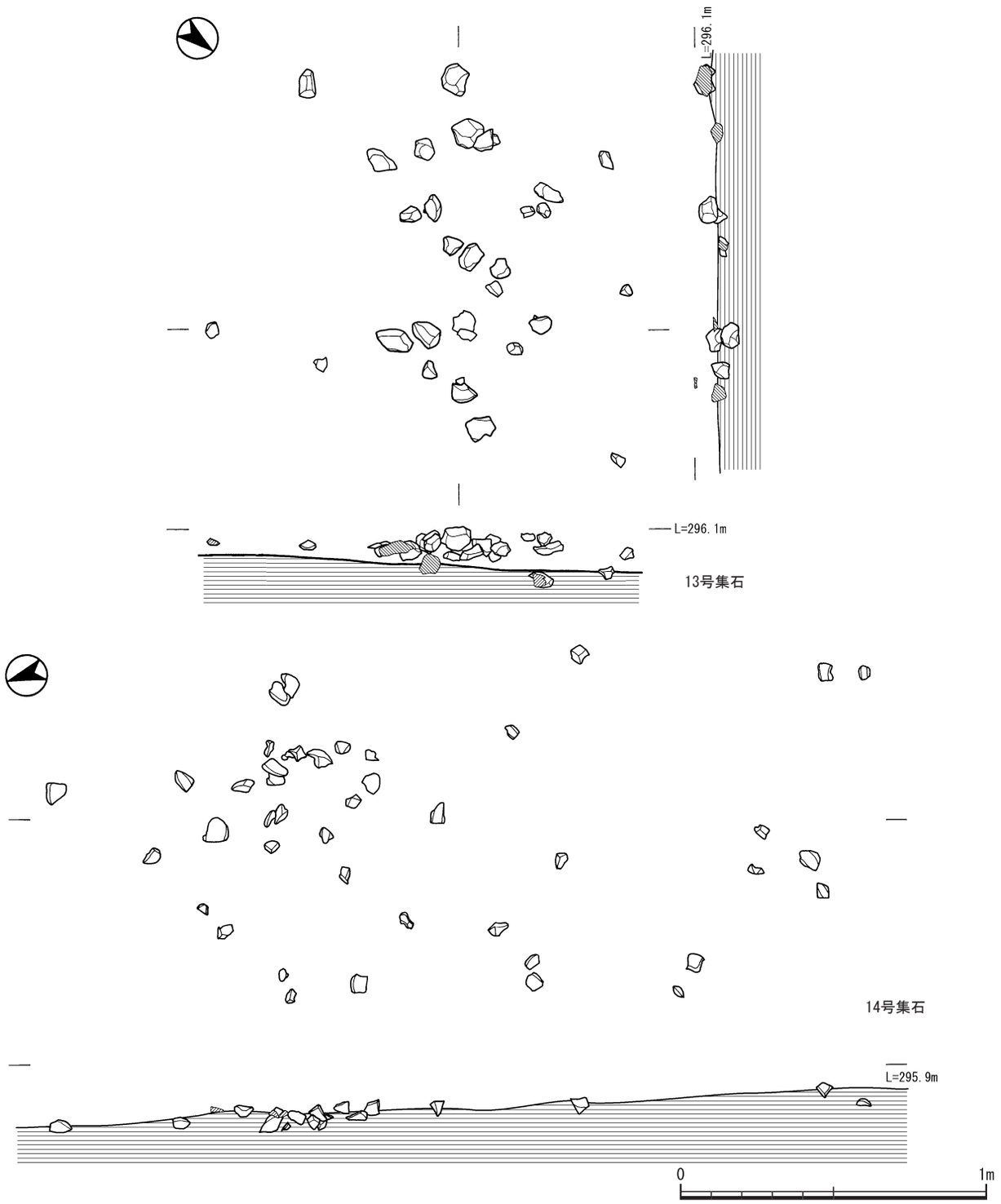
11号集石遺構(第53図)

桐木遺跡Ｈ－９区で検出し，径247cm×217cm内に礫66個で構成する。掘り込み遺構は確認していないが，礫の集中部分と散逸礫が南と西に広がる。Ⅱ類

12号集石遺構(第53図)

桐木遺跡Ｇ-10区で検出し，径62cm×44cm内に礫15個で構成する。礫の集中が想定される。ⅢＡ類

第53図　Ⅷ層遺構実測図（29）

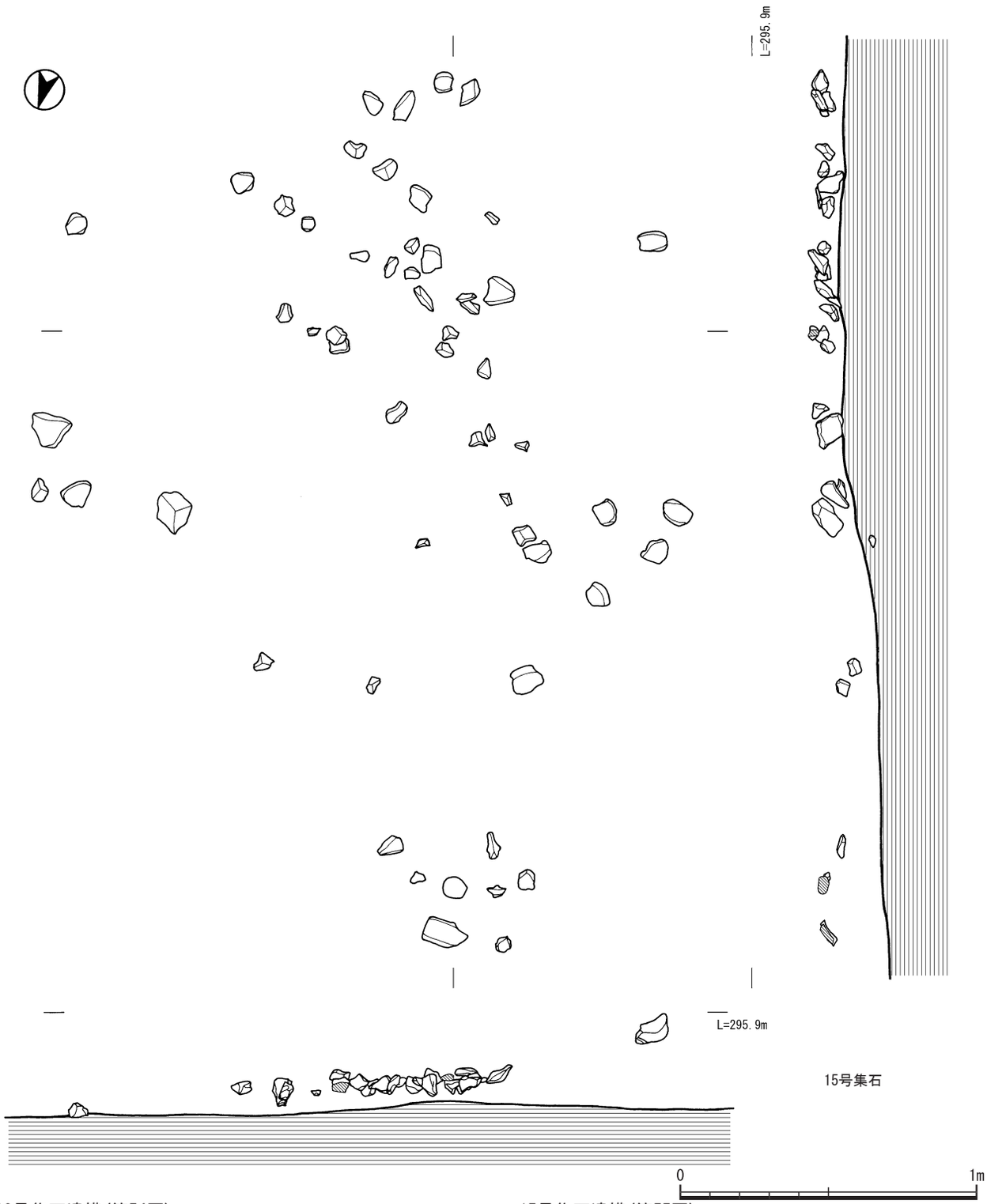


第54図　Ⅷ層遺構実測図（30）

第９表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（２）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
9	52	Ⅱ	275	201	-	-	-	-	-
10	52	ⅢB	80	43	-	-	-	-	-
11	53	Ⅱ	247	217	-	-	-	-	-
12	53	ⅢA	62	44	-	-	-	-	-

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
13	54	ⅢB	140	133	-	-	-	-	-
14	54	ⅢB	270	117	-	-	-	-	-
15	55	ⅢB	296	223	-	-	-	-	-



13号集石遺構(第54図)

桐木遺跡Ｆ-10・11区で検出し，140cm×133cm内に礫31個で構成する。ⅢＢ類

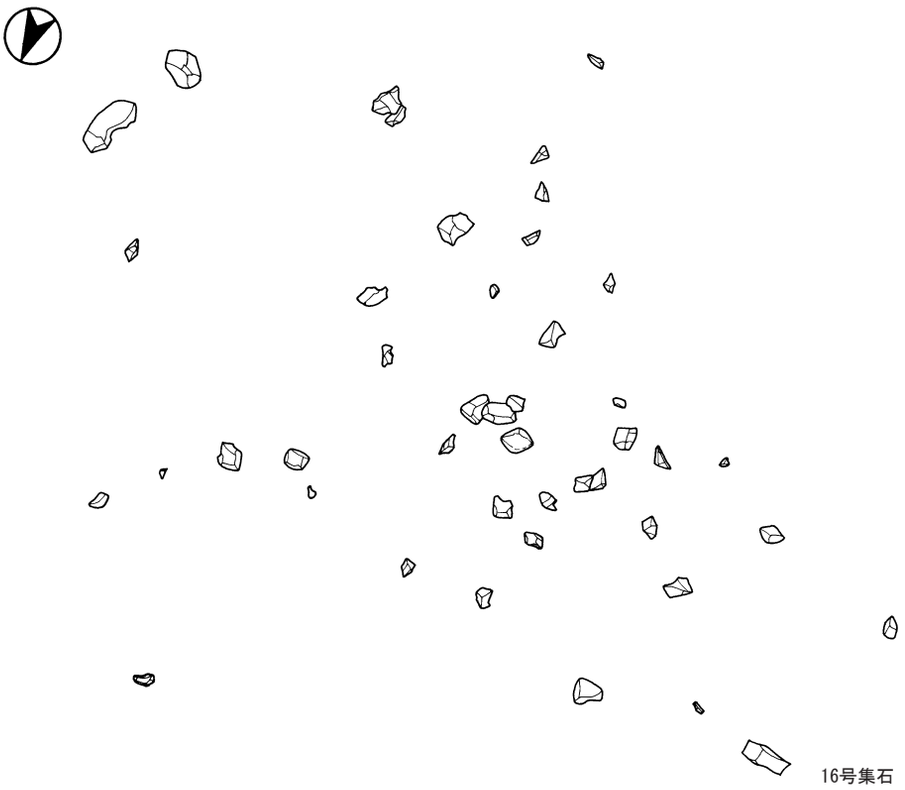
14号集石遺構(第54図)

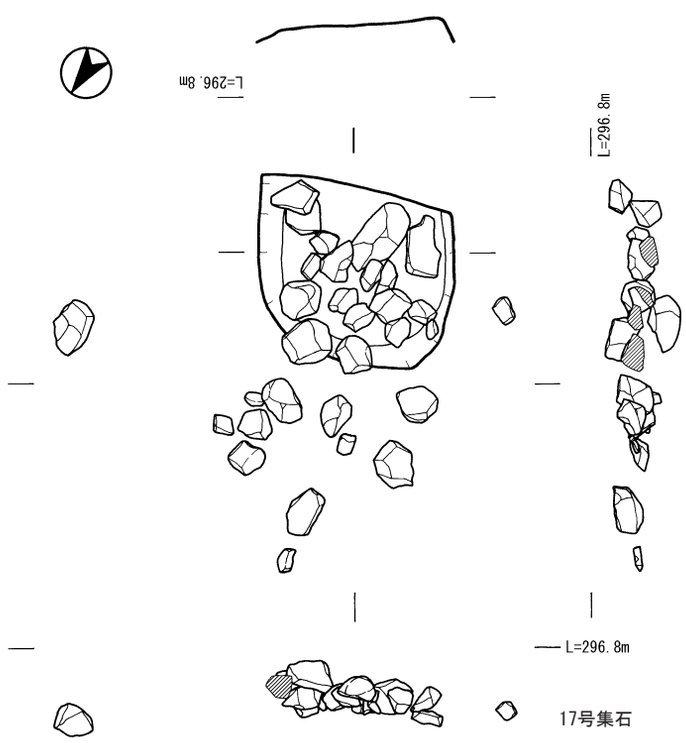
桐木遺跡Ｆ-９・10区で検出し，270cm×117cm内に礫43個で構成する。南西方向へ散逸した集石である。東側へ２mの所に２号竪穴住居がある。ⅢＢ類

15号集石遺構(第55図)

桐木遺跡Ｆ-９区で検出し，296cm×223cm内に礫56個で構成する。北側へ散逸した集石である。隣接して４号土坑があり，３号と４号の竪穴住居の中間に位置する。ⅢＢ類

第55図　Ⅷ層遺構実測図（31）





16号集石遺構(第56図)

桐木遺跡Ｃ-10区で検出し，218cm×194cm内に礫44個で構成する。遺構集中区にあり，22号土坑及び12号土坑が隣接する。東西方向に散逸する。ⅢＢ類

17号集石遺構(第56図)

桐木遺跡Ｃ-９・10区の遺構集中区で検出した。径58cm×52cmの規格で，10cm前後の大きな礫を掘り込み遺構で18個確認している。掘り込みから掻き出されたように北西側へ礫が広がる。22号土坑が隣接する。ＩA類

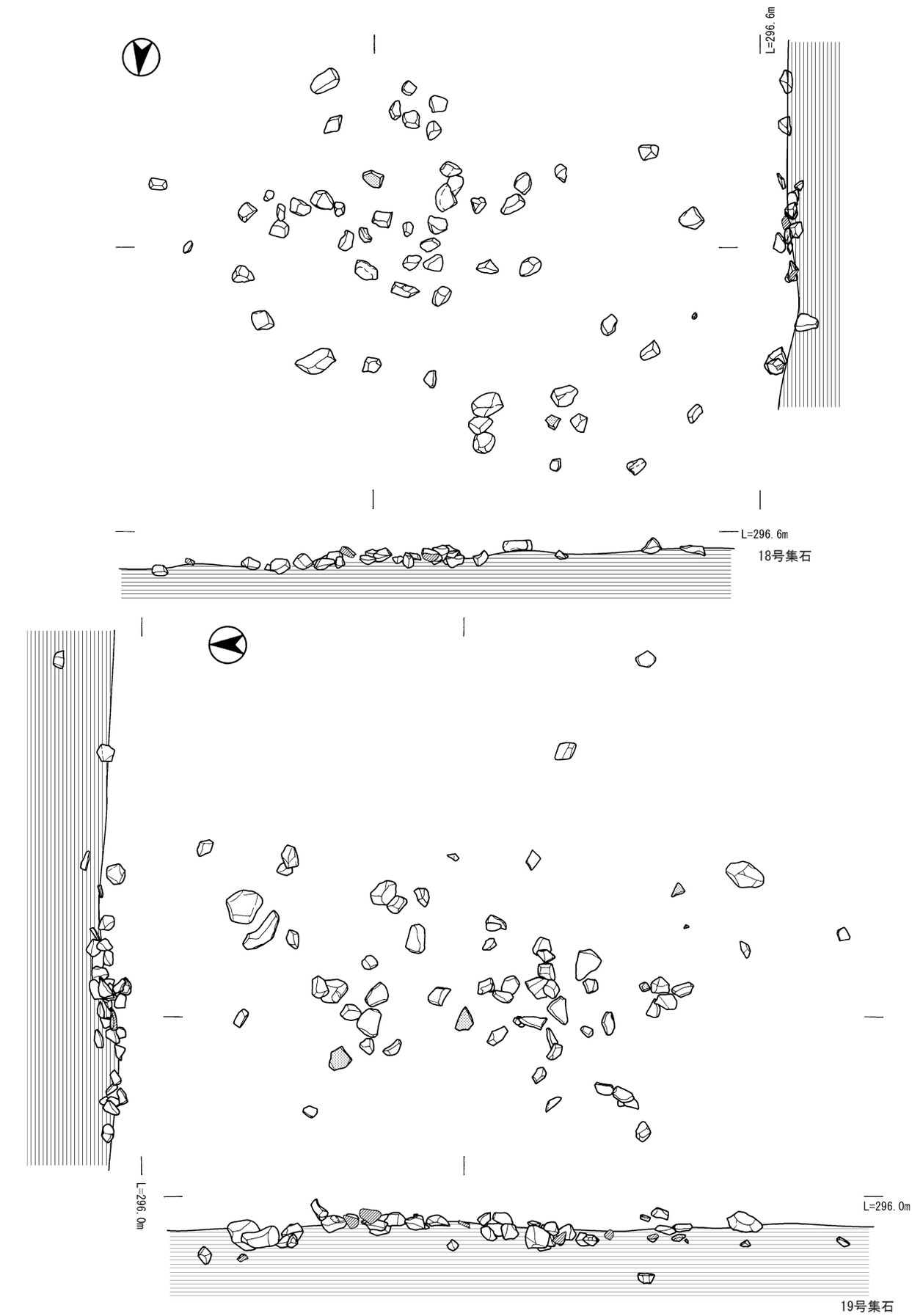
18号集石遺構(第57図)

桐木遺跡Ｃ-９区で検出し，202cm×147cmのエリア内に礫56個で構成する。16号土坑の上に一部重なっている。また20号集石とも隣接しており，周辺散礫は一部共有する。ⅢＢ類

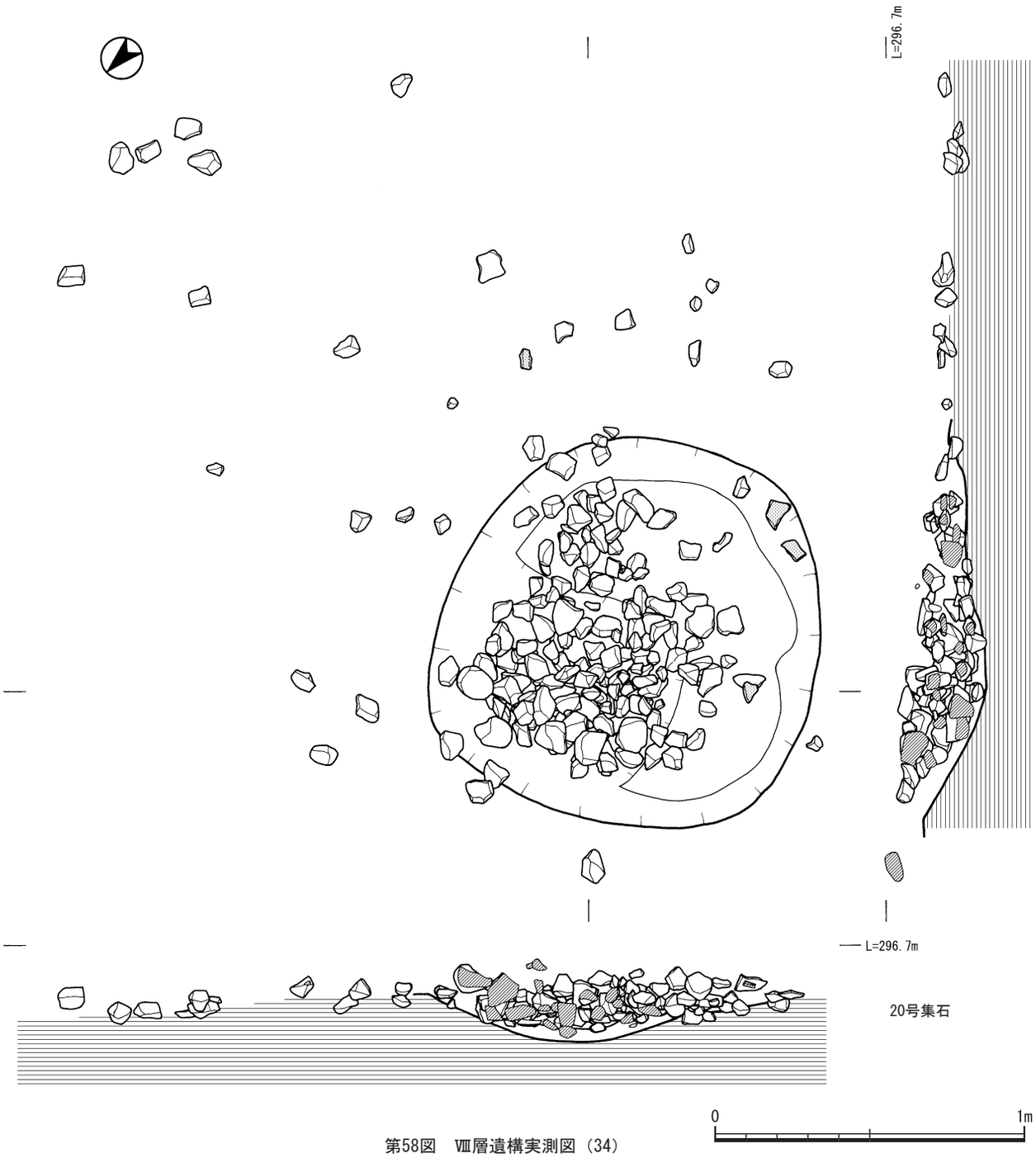
19号集石遺構(第57図)

桐木遺跡Ｄ-８区で検出し，238cm×179cm内に礫64個で構成する。南西方向へ散逸した集石である。北側へ260cmの所に４号竪穴住居がある。ⅢＢ類

第56図　Ⅷ層遺構実測図（32）



第57図　Ⅷ層遺構実測図（33）



第58図　Ⅷ層遺構実測図（34）

20号集石遺構(第58図)

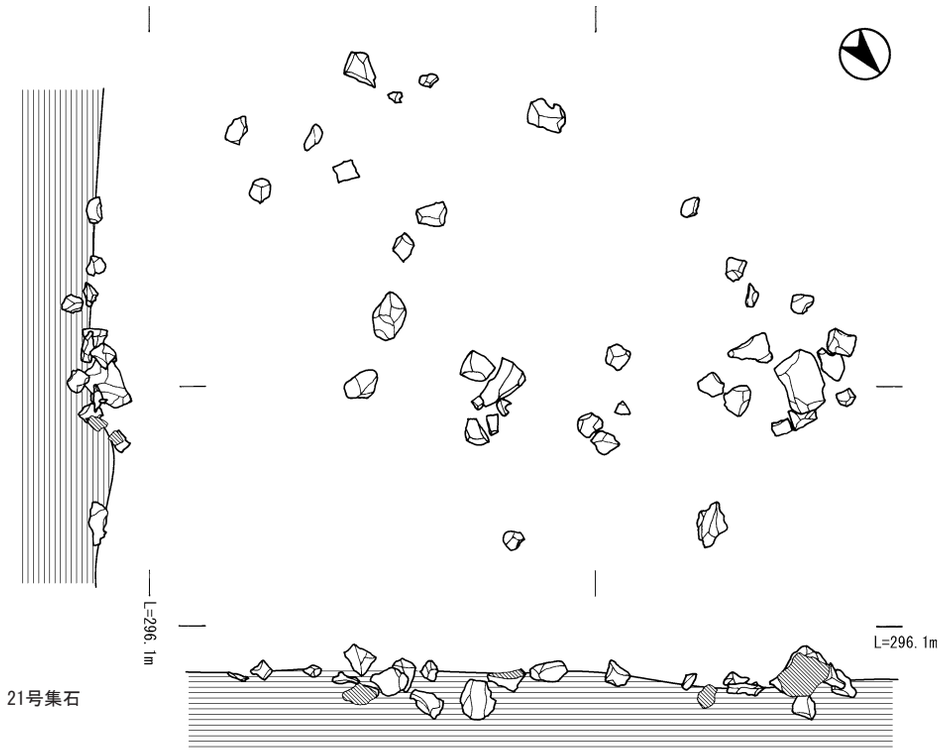
桐木遺跡Ｃ－９区で検出した。124cm×122cmの円形の掘り込み遺構内で拳大の礫135個が確認され，遺構の深さは約18cmで，南半分は礫が少ない。東側へは散逸した礫が広がっている。14号と16号土坑の中間に位置し，その距離約１mである。ＩＡ類

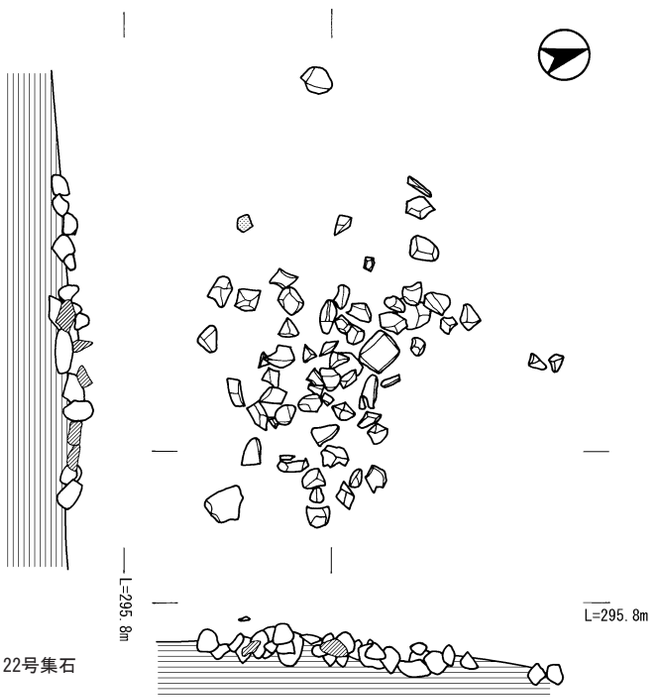
21号集石遺構(第59図)

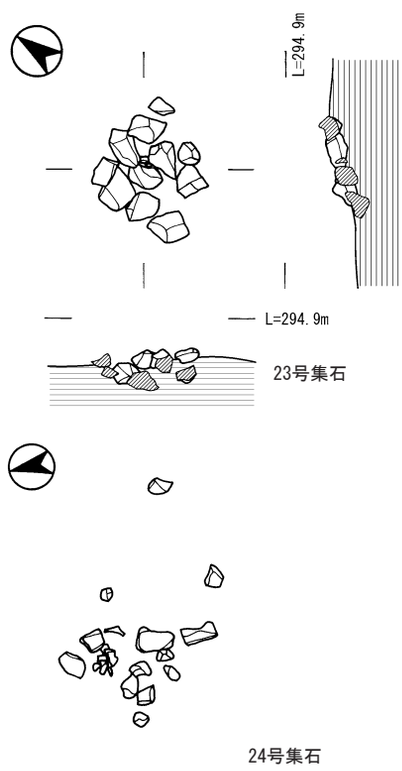
桐木遺跡Ｄ－８区で検出し，166cm×133cm内に礫38個で構成する。１m西側に４号竪穴住居がある。ⅢＢ類

第10表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（３）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
16	56	ⅢB	218	194	－	－	－	－	－
17	56	ＩA	123	108	1	58	52	7	18
18	57	ⅢB	202	147	－	－	－	－	－
19	57	ⅢB	238	179	－	－	－	－	－
20	58	ＩA	262	248	1	124	122	18	135
21	59	ⅢB	166	133	－	－	－	－	－







22号集石遺構(第59図)

桐木遺跡Ｄ－６区で検出した。122cm×97cm内に礫64個を確認し，礫は比較的まとまっている。ⅢＡ類

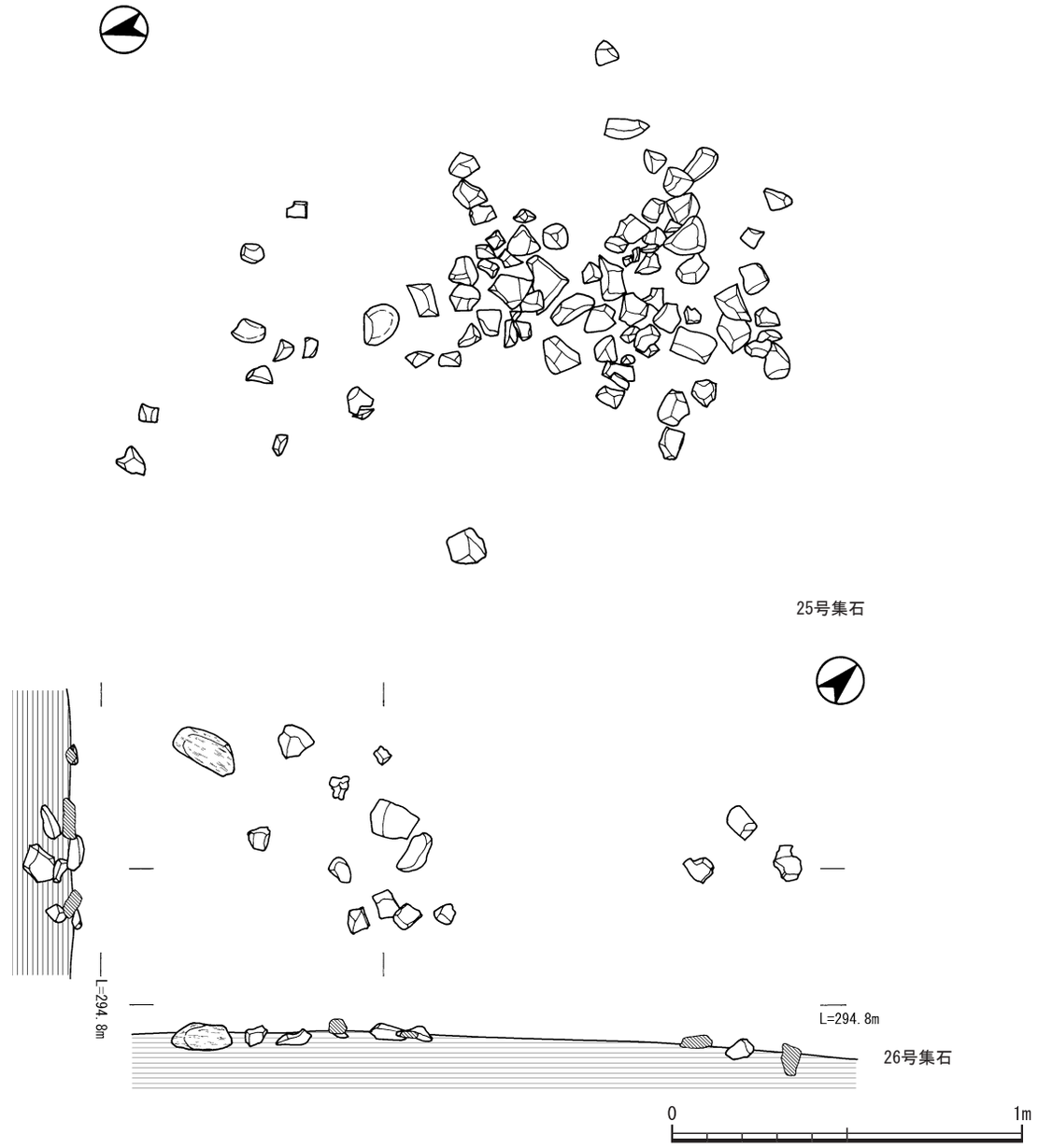
23号集石遺構(第59図)

桐木遺跡Ｇ－８区で検出し，径39cm×31cm内に約10cmの礫12個が確認され，礫の残存状況から掘り込み遺構が想定できる。Ⅱ類

24号集石遺構(第59図)

桐木遺跡Ｆ－７区で検出し，66cm×44cm内に礫20個で構成する。120cm北東方向に25号集石がある。ⅢＡ類

第59図　Ⅷ層遺構実測図（35）



25号集石遺構(第60図)

桐木遺跡Ｆ－７区で検出し，194cm×150cm内に礫84個が比較的集中するが，北側へ散逸した状況が見られる。ⅢＡ類

26号集石遺構(第60図)

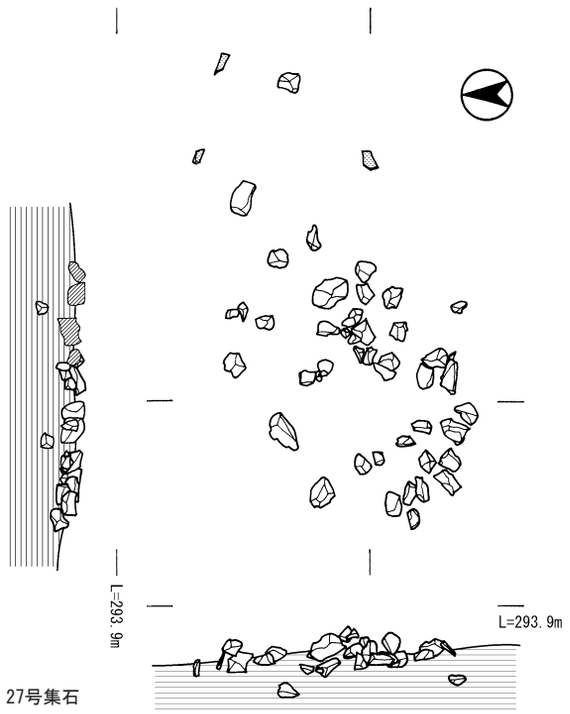
桐木遺跡Ｇ－７区で検出し，179cm×59cm内に礫15個で構成する。輝石安山岩で構成するが，1個は20cm程の軽石を用いている。ⅢＢ類

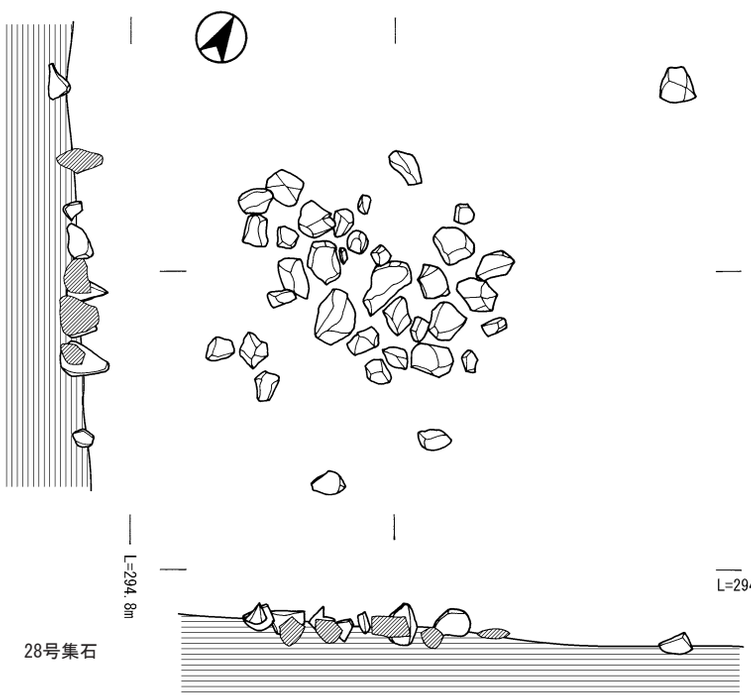
第60図　Ⅷ層遺構実測図（36）

第11表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（４）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
22	59	ⅢA	122	97	－	－	－	－	－
23	59	Ⅱ	39	31	－	－	－	－	－
24	59	ⅢA	66	44	－	－	－	－	－

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
25	60	ⅢA	194	150	－	－	－	－	－
26	60	ⅢB	179	59	－	－	－	－	－





構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
296.8	100%	96%	輝石安山岩(64%),砂岩(4%),頁岩(32%)

0 1m

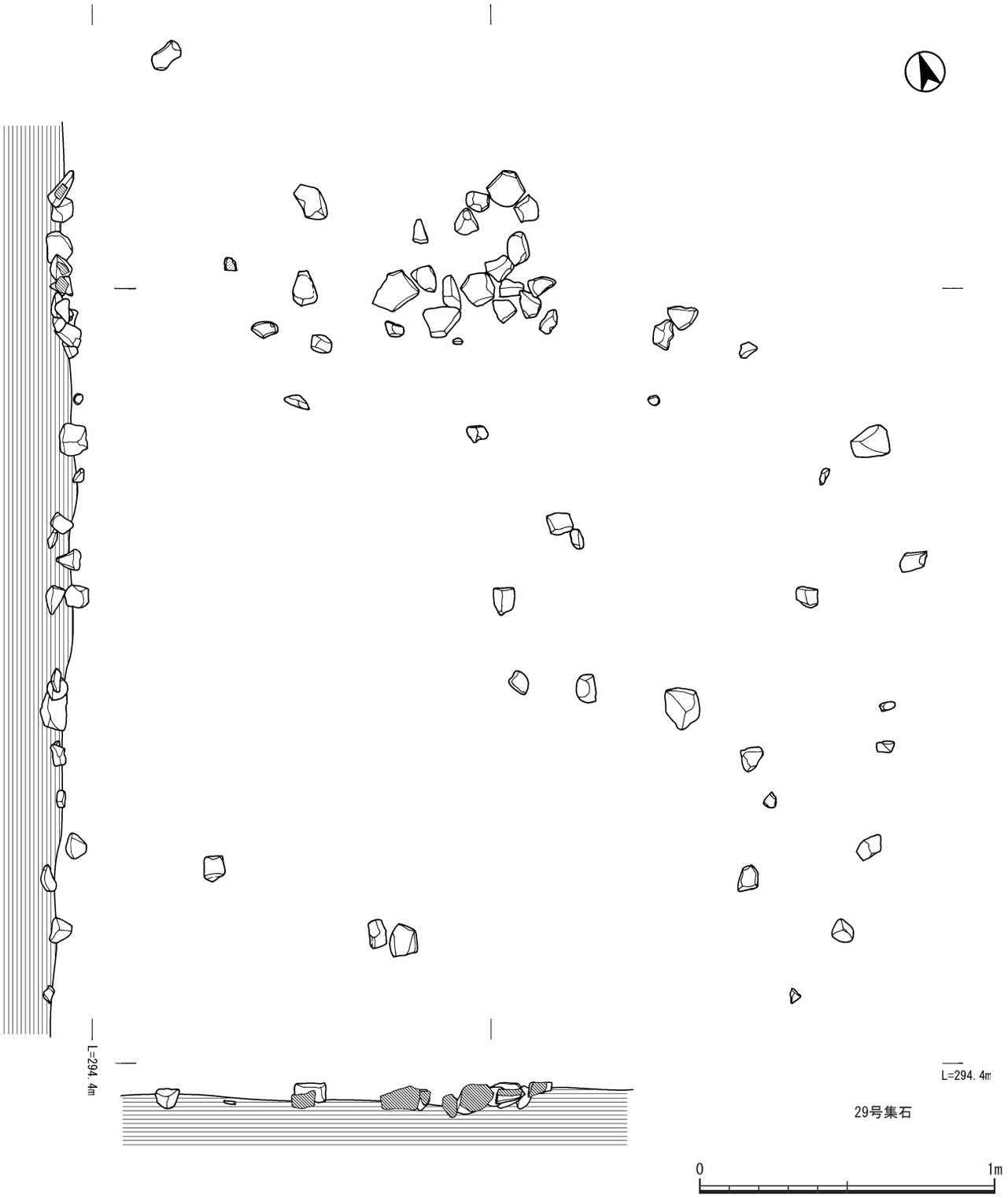
27号集石遺構(第37図)

桐木遺跡Ｈ－５区で検出し，126cm×76cm内に礫46個で構成する。礫は集中して残される。ⅢＡ類

28号集石遺構(第37図)

桐木Ｆ－６区で検出し，131cm×114cm内に礫36個で構成する。礫は集中して残される。ⅢＡ類

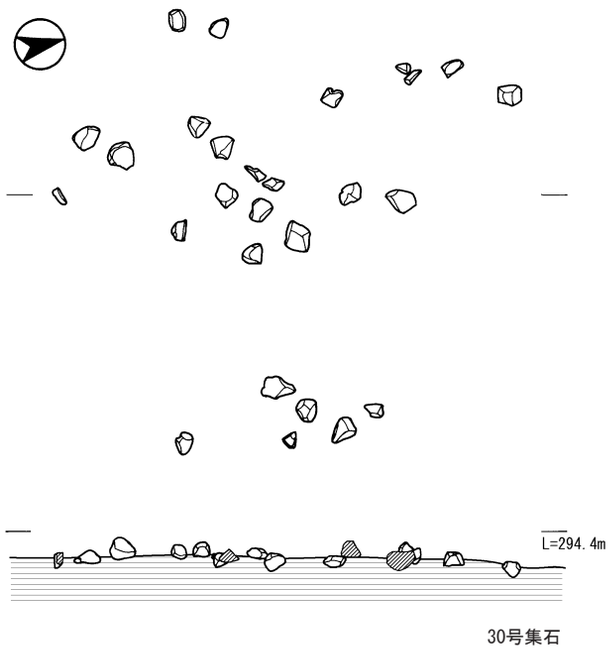
第61図　Ⅷ層遺構実測図（37）



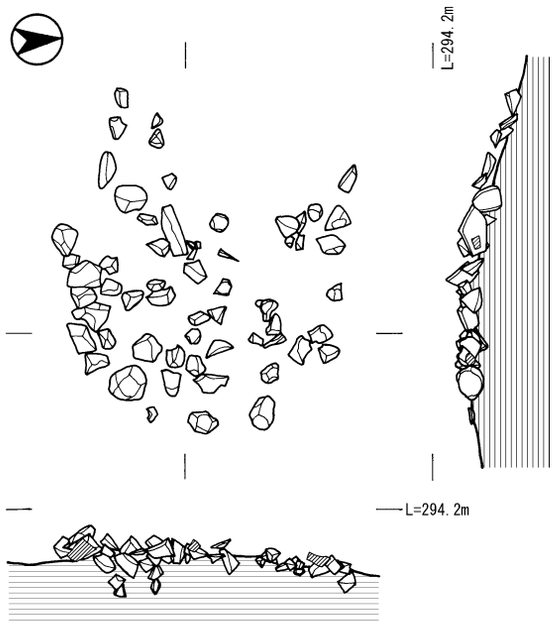
第62図　Ⅷ層遺構実測図（38）

第12表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（５）

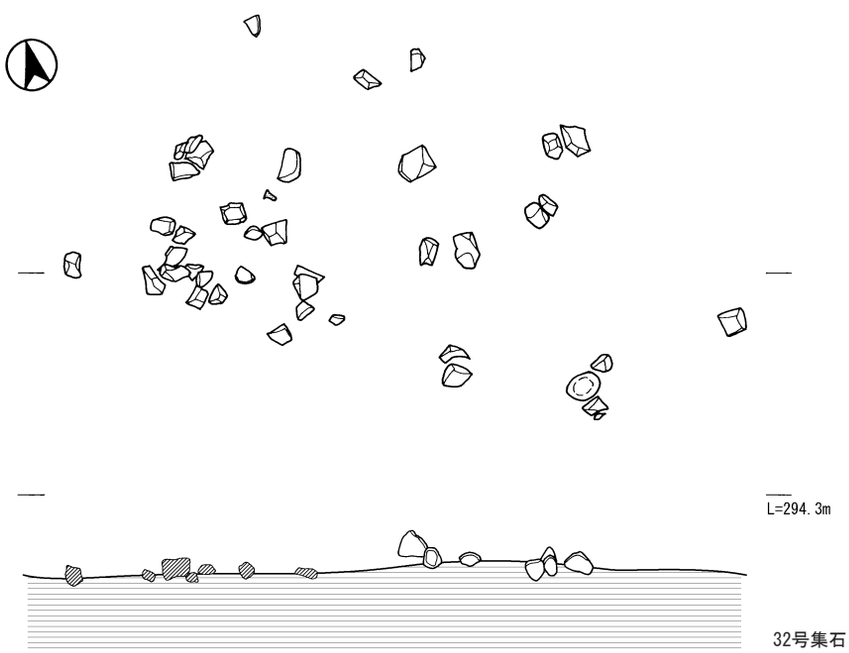
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
27	61	ⅢA	126	76	－	－	－	－	－
28	61	ⅢA	131	114	－	－	－	－	－
29	62	Ⅱ	326	262	－	－	－	－	－
30	63	ⅢB	125	119	－	－	－	－	－
31	63	ⅢA	92	82	－	－	－	－	－
32	63	ⅢB	182	108	－	－	－	－	－



30号集石



31号集石



32号集石

29号集石遺構(第62図)

桐木遺跡Ｇ−５・６区で検出し，326cm×262cm内に礫53個で構成する。礫はまとまっているが，南側へ散逸している。断面観察から掘り込み遺構が推定できる。Ⅱ類

30号集石遺構(第63図)

桐木遺跡Ｇ−５区で検出した。125cm×119cm内に小型の角礫27個で構成し，礫は散在する。ⅢＢ類

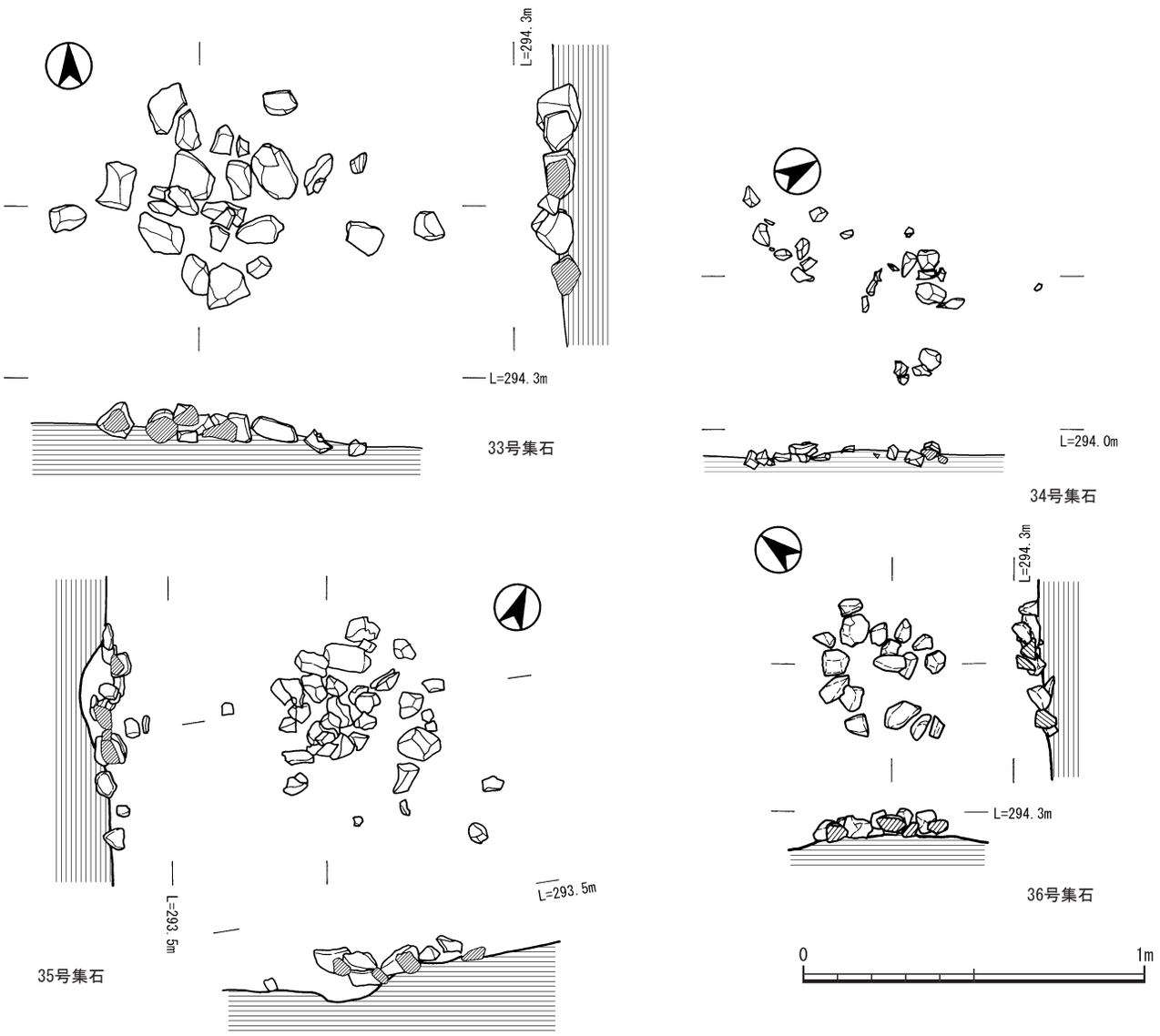
31号集石遺構(第63図)

桐木遺跡Ｆ−４区で検出した。92cm×82cm内に小型の角礫61個で構成し，礫は比較的集中するが，掘り込み遺構は確認できていない。ⅢＡ類

32号集石遺構(第63図)

桐木遺跡Ｇ−４区で検出し，182cm×108cm内に小型の角礫42個で構成するが，礫は散在する。50cm北東側に33号集石がある。ⅢＢ類

第63図　Ⅷ層遺構実測図（39）



33号集石遺構(第64図)

桐木遺跡Ｇ－３・４区で検出し，116cm×66cm内に礫26個で構成する。礫は拳大以上の角礫を多く使用している。Ⅱ類

34号集石遺構(第64図)

桐木遺跡Ｇ－３区で検出した。88cm×58cm内に礫27個で構成し，破砕した小角礫が多い。ⅢＢ類

35号集石(第64図)

耳取遺跡Ⅰ-19区で検出し，隣接して113号・114号・117号集石遺構が確認されている。82cm×67cm内に礫36個で構成し，礫は集中を見せるが，東方向へ一部散逸している。礫の残存状況から，掘り込み遺構を備えていた可能性が高い。Ⅱ類

36号集石遺構(第64図)

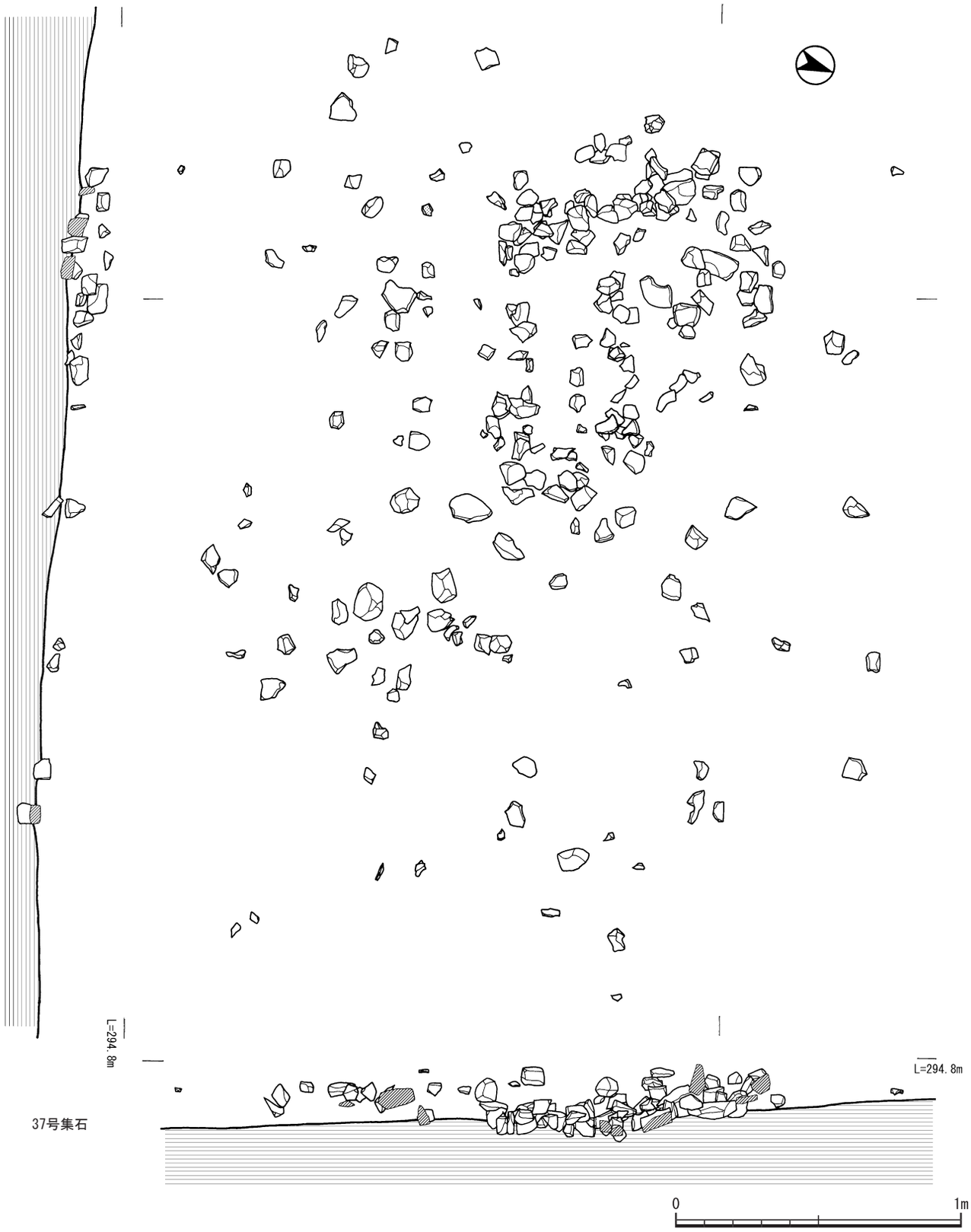
耳取遺跡Ⅰ－９区で検出し，42cm×39cmの範囲に礫17個が確認され，中央部に空白域がある。掘り込み遺構は確認していない。Ⅱ類

第64図　Ⅷ層遺構実測図（40）

第13表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（６）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
33	64	Ⅱ	116	66	－	－	－	－	－
34	64	ⅢB	88	58	－	－	－	－	－

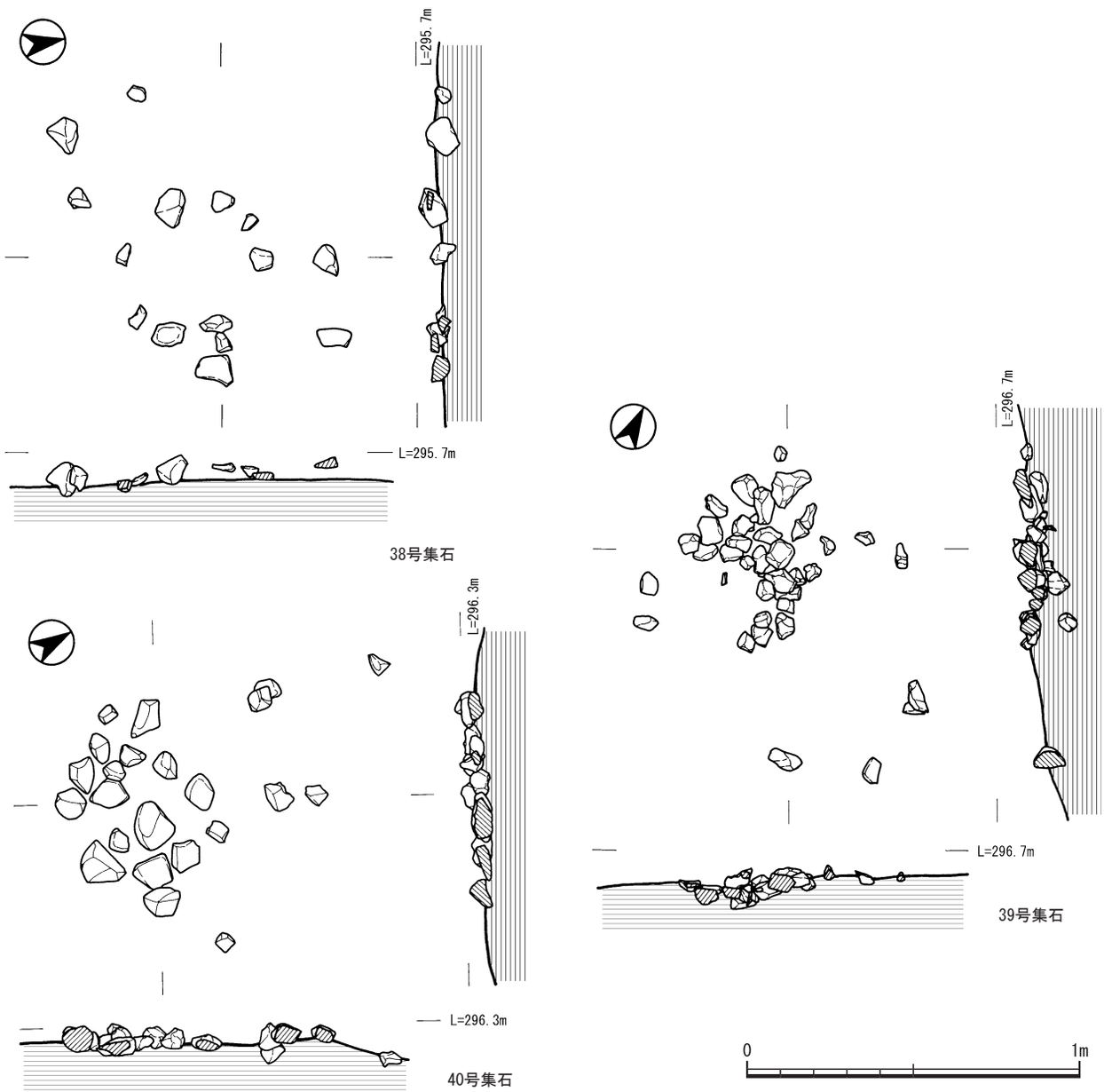
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
35	64	Ⅱ	82	67	－	－	－	－	－
36	64	Ⅱ	42	39	－	－	－	－	－



第65図　Ⅷ層遺構実測図（41）

37号集石遺構(第65図)

耳取遺跡Ｊ－８区で検出した。338cm×255cmと広範囲に残され，礫の集中と散逸した礫で構成される。いわゆる集石が壊され，構成礫が周辺に拡散した様相を呈している。礫集中か所の下面を検証したが，掘り込み遺構等は確認できなかった。Ⅲ Ａ類



38号集石遺構(第66図)

耳取遺跡Ⅰ－５区で検出し，92cm×90cm内に10cm前後の礫15個で構成される。ⅢＡ類

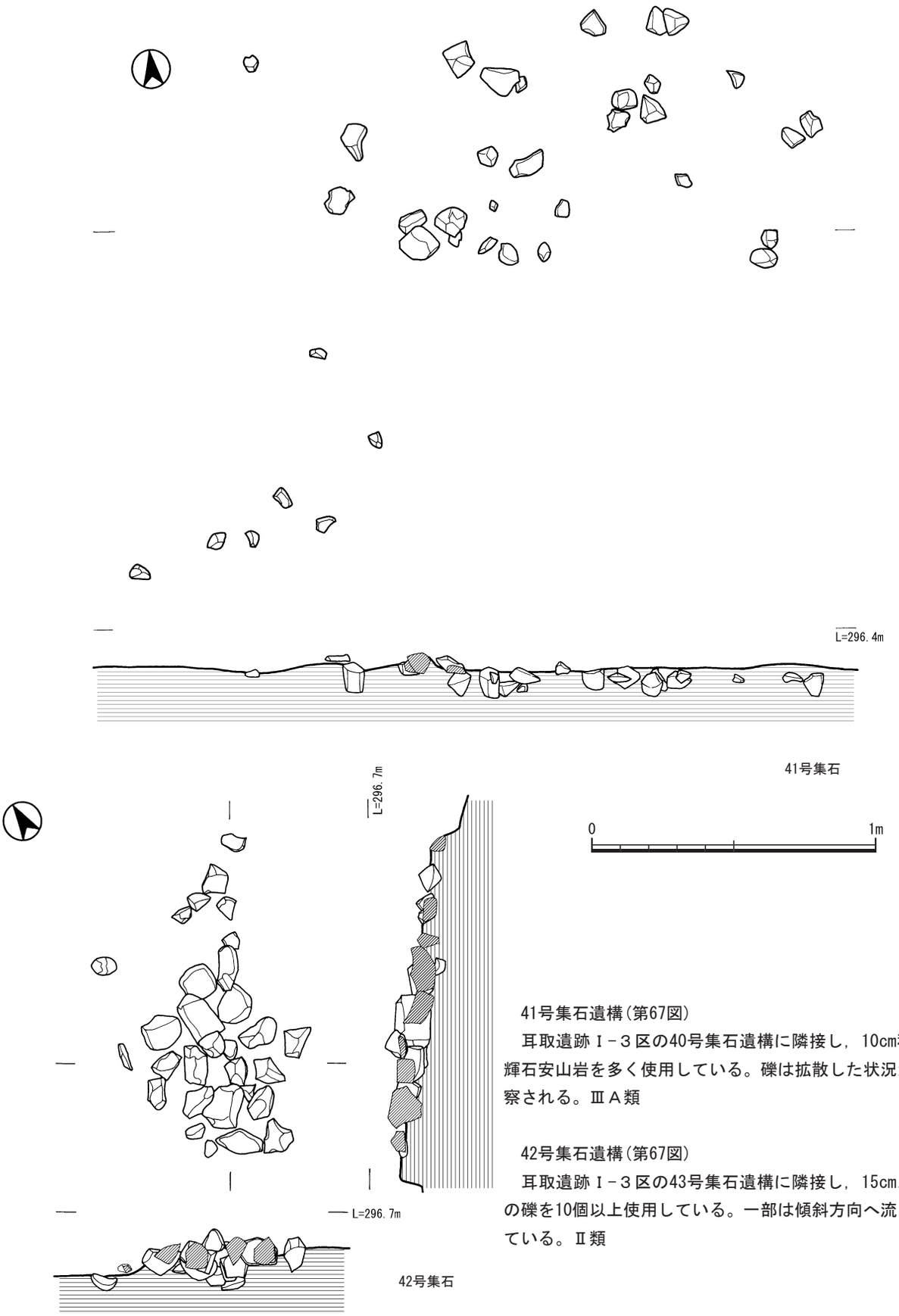
39号集石遺構(第66図)

耳取遺跡Ⅰ－４区で検出した。54cm×46cmの集中域と周辺の散逸礫で構成し，10cm弱の礫が中心である。礫の残存状況及び断面観察で，掘り込み遺構が想定できる。Ⅱ類

40号集石遺構(第66図)

40号～43号は，Ⅸ層コンタの296.0m沿いに設置されている。なお，これより北側にかけては傾斜が強くなっている。耳取遺跡Ⅰ－３区で検出し，64cm×48cm内に10cm程の礫が集中する。北側への傾斜方向へ一部礫が拡散する。ⅢＡ類

第66図　Ⅷ層遺構実測図（42）



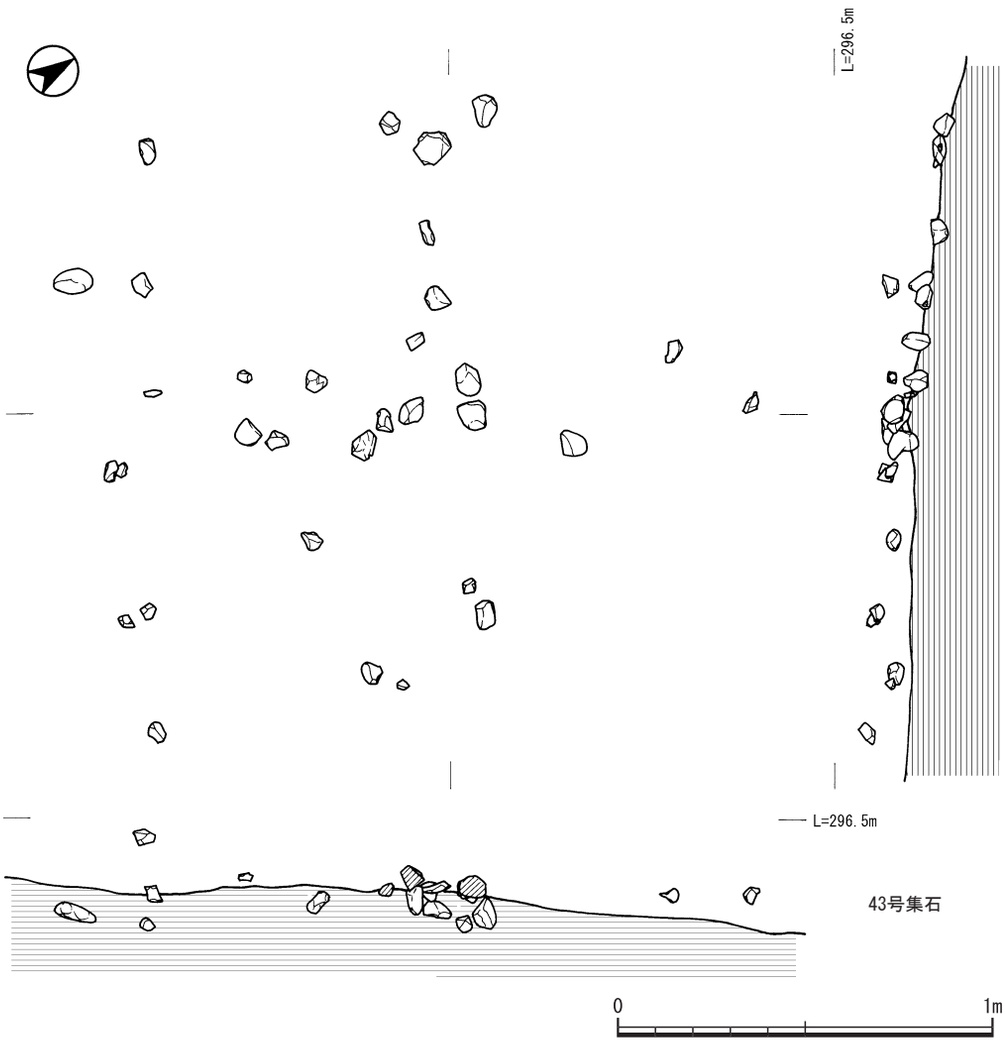
41号集石遺構(第67図)

耳取遺跡Ⅰ－３区の40号集石遺構に隣接し，10cm程の輝石安山岩を多く使用している。礫は拡散した状況が観察される。ⅢＡ類

42号集石遺構(第67図)

耳取遺跡Ⅰ－３区の43号集石遺構に隣接し，15cm以上の礫を10個以上使用している。一部は傾斜方向へ流出している。Ⅱ類

第67図　Ⅷ層遺構実測図（43）



43号集石遺構(第68図)

耳取遺跡Ｉ－３区の42号集石遺構に隣接しているが，42号から拡散した礫の可能性もある。10cm程の礫が187cm×172cmの範囲に点在する。ⅢＢ類

44号集石遺構(第69図)

耳取遺跡Ｈ－３区で検出した。径180cmのサークル状に礫が点々と並び，傾斜方向へ一部礫が流れているように観察できる。なお，掘り込み遺構は確認できていない。ⅢＢ類

４　Ⅶ層の竪穴住居跡

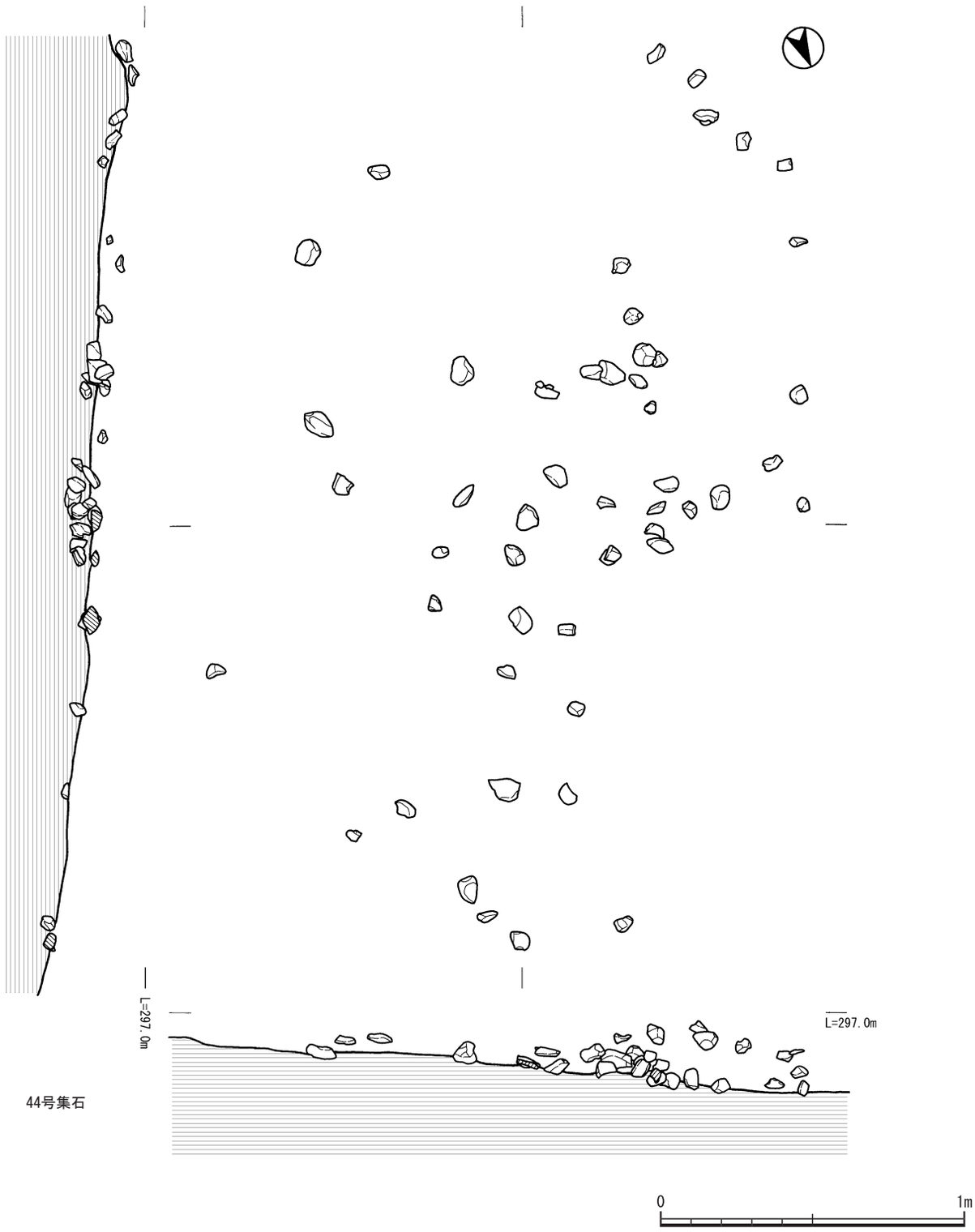
Ⅶ層該当の竪穴住居１軒を，桐木遺跡で検出した。埋土中から前平式土器の小片が検出されていることから，時期設定に疑問を残すが，検出面からⅦ層段階の遺構と認定した。

５号竪穴住居(第70図)

桐木遺跡Ｅ-11区で検出した。明茶褐色土のⅦ層中で，色調や周辺より乾燥具合の異なる部分が観察され，散水しながら水分浸透の観察を１週間程度継続した。その結果，人工的掘り込みの可能性が高いとの判断から，プランを設定し，竪穴中央部から立ち上がり面を検出する作業を実施した。

平面プランは，長軸202.5cm，短軸190cmで検出面からの深さは約25cmである。

第68図　Ⅷ層遺構実測図（44）

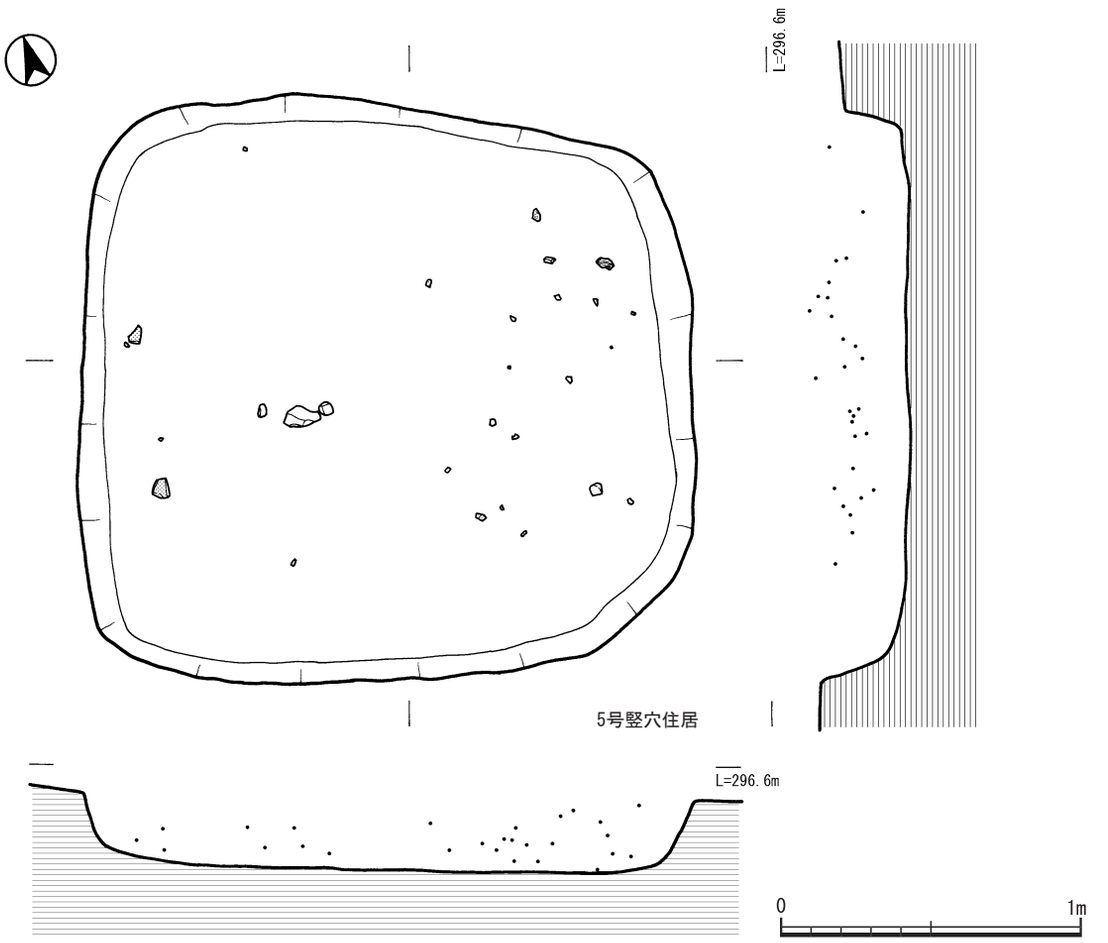


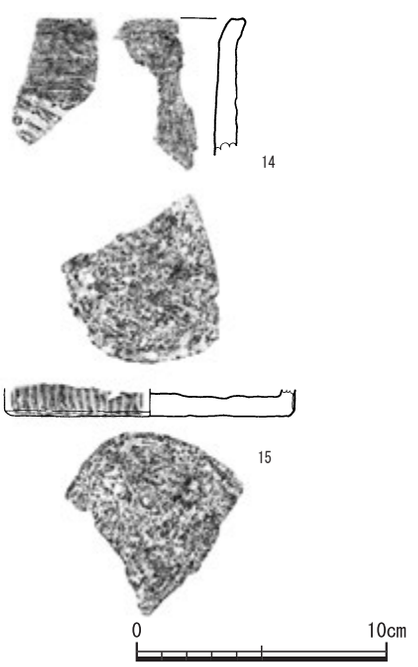
第69図　Ⅷ層遺構実測図（45）

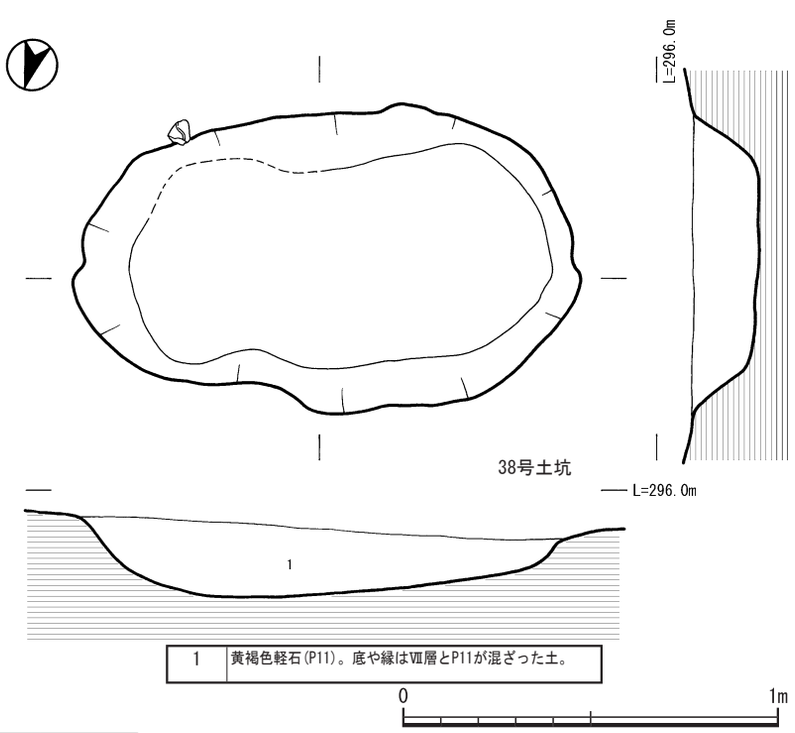
第14表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（７）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
37	65	ⅢA	338	255	-	-	-	-	-
38	66	ⅢA	92	90	-	-	-	-	-

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
39	66	Ⅱ	102	89	-	-	-	-	-
40	66	ⅢA	101	90	-	-	-	-	-





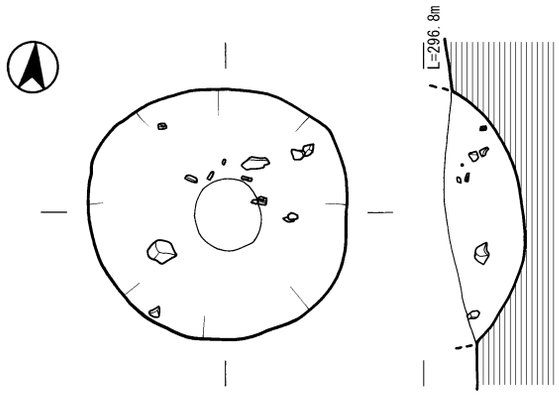


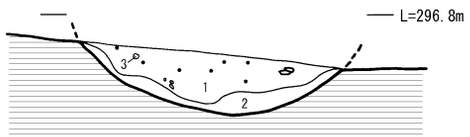
1	黄褐色軽石(P11)。底や縁はⅧ層とP11が混ざった土。

第15表　遺構内土器観察表（４）

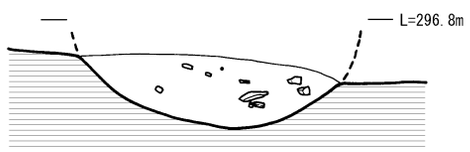
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
70	14	-	5号住(E-11/Ⅷ)	角,微粒	ハケ→ナデ	斜ケズリ→ナデ	-
70	15	1.43	5号住(E-11/Ⅷ)	雲,輝,細粒	指頭痕→ナデ	ハケ→ナデ	-

第70図　Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図（１）

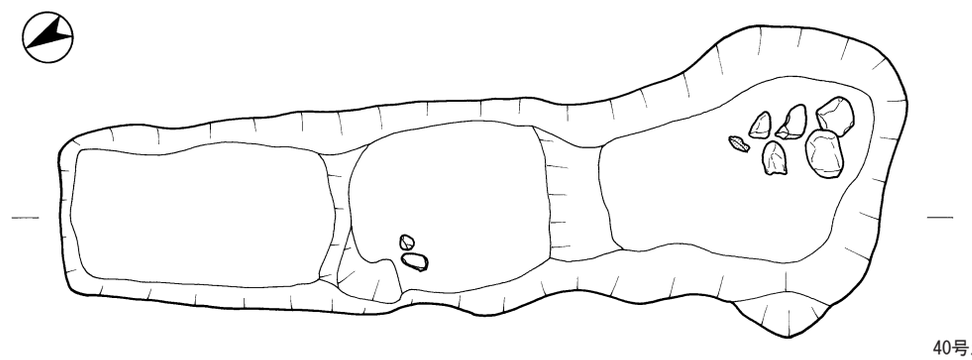




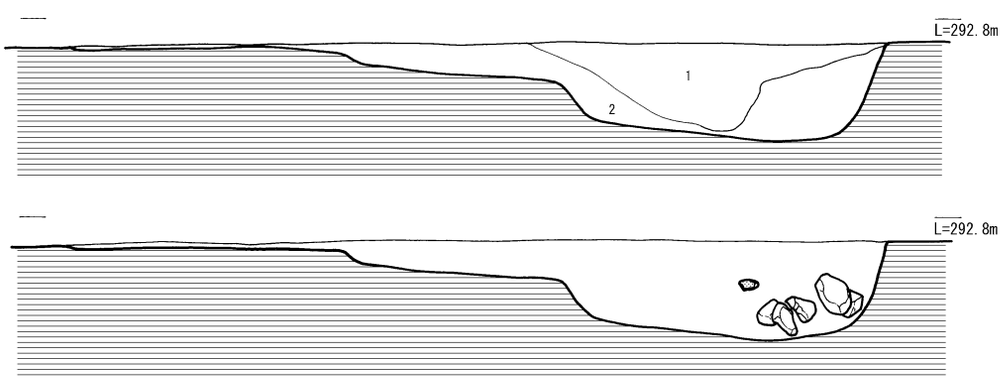
1	暗褐色粘質土。薩摩パミス，炭化物多数混入(断面中の黒点は直径3mm～4mmの大粒炭化物)。
2	明褐色粘質土。1にＸＩ層が混入したような土。床付近には大きめの炭化物あり。
3	薩摩パミス(黄白色)。



39号土坑



40号土坑

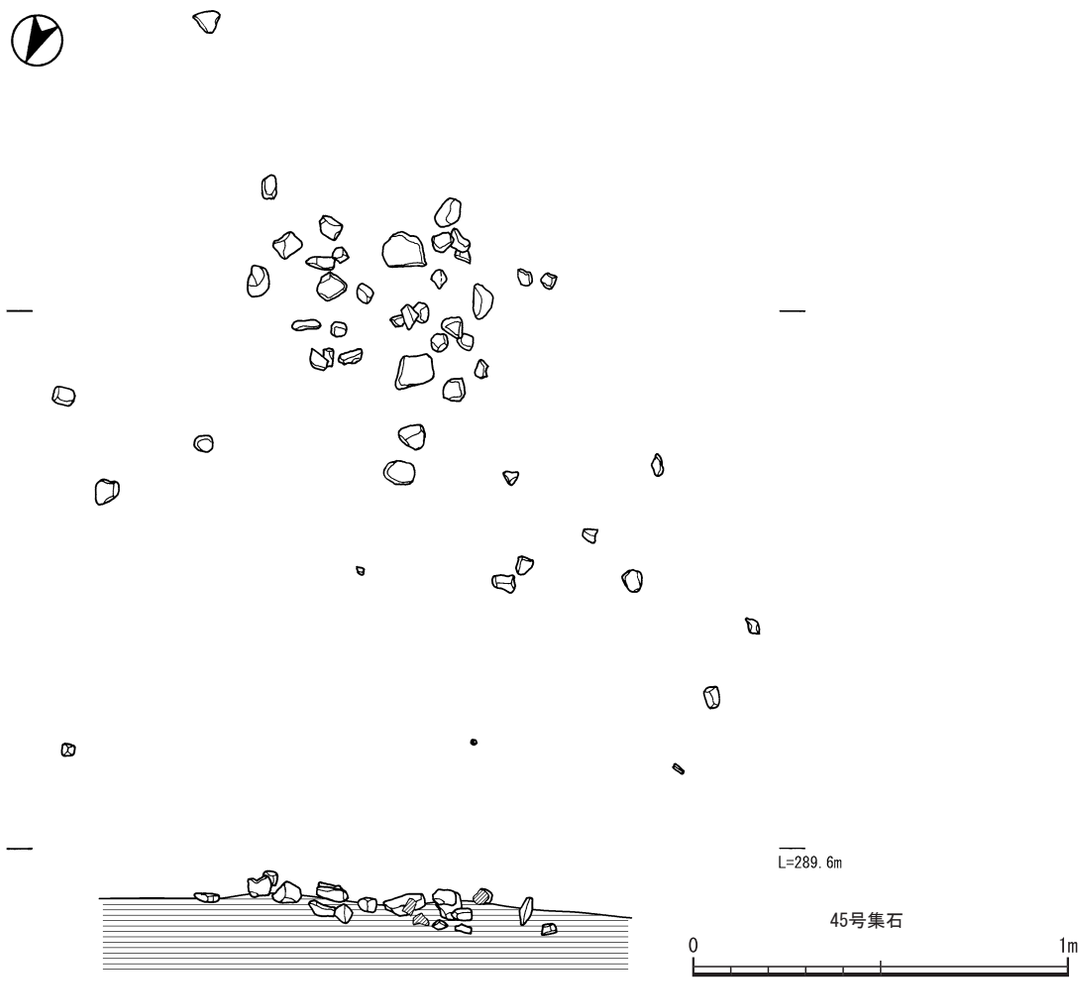


1	明茶褐色粘質土。P11が点在。粘質は強い。Ⅶ層に比定。
2	暗茶褐色土(Ⅶ層相当)。1より暗い。粘質は弱い。底部付近に炭化物混在。

第71図　Ⅶ層遺構実測図（２）

第16表　Ⅷ～Ⅶ層土坑観察表（３）

報告書No	挿図No	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅
38	70	135	79	20	19	18
39	71	68	67	16	78	52
40	71	217	83	25	(72)	(30)



５号住居内遺物(第70図)

14は口唇部は平坦面を形成し，口縁部が外反する円筒形深鉢形土器で，口縁部には横方向の，胴部には斜方向の貝殻条痕を施す。倉園Ｂ式土器に分類できる。15は不整円形(レモン形とも考えられる)を呈する平底の底部土器で，胴部下端部には縦方向の刻みを施す。胴部下端部の器壁の厚さが極端に薄いことから，第１群土器第４類土器に分類できる。

５　Ⅶ層の土坑

土坑３基は耳取遺跡で検出している。39号土坑については，ＸＩ層で検出したが，埋土状況よりⅦ層相当時期の土坑と認定した。

38号土坑(第70図)

耳取遺跡Ｅ－５区で検出した土坑である。平面プラン135cm×79cmの長楕円形で，検出面からの深さ約20cmである。土坑内はＰ-11軽石が充填し，その直前まで開口していたものと推測される。隣接して187号集石遺構があり，土坑立ち上がり面の礫(輝石安山岩)はこの集石遺構の構成礫の可能性が高い。

39号土坑(第71図)

耳取遺跡Ｈ－４区のＸＩ層で検出した。平面プラン68cm×67cmの円形で，検出面からの深さは約16cm，浅い碗状を成している。埋土は，Ⅶ層土に炭化物を多数含むことから，Ⅶ層該当の土坑として認定した。床面にも大きめの炭化物があり，火を使用した可能性を想定している。また，遺構内の礫は安山岩が使用され，全て破砕している。周辺に集石遺構が集中していることを考慮すると，掘り込み遺構を伴った集石遺構であった可能性もある。

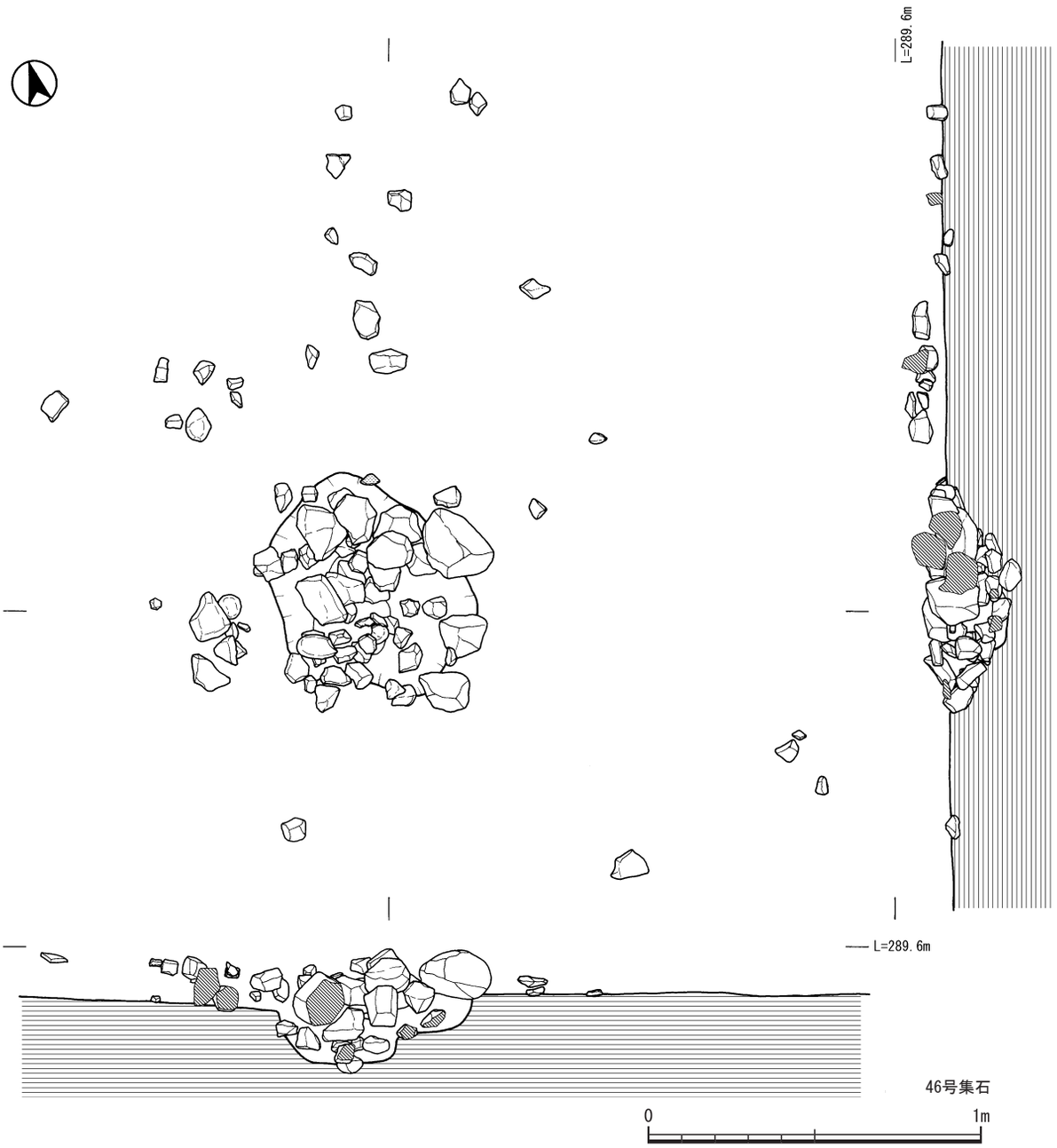
40号土坑(第71図)

耳取遺跡Ｈ-19区のⅨ層上面で検出した。平面プラン217cm×83cm(最大幅)で，検出面からの深さは約25cm，土坑内は三つの区画の構造が観察される。南側の区画が一番大きく，床面から被熱した礫と10cm前後の軽石４個が検出され，同時に炭化物も混在することを確認している。床面は北から南に深くなり，中央の区画内に礫２点，北側の区画では確認していない。なお，北側の区画では２cm位掘り込みがある。

６　Ⅶ層の集石遺構

桐木遺跡で68基(45号～112号)，耳取遺跡で86基(113号～198号)の154基検出した。桐木遺跡では，Ｂ～Ｈ－４～14区の

第72図　Ⅶ層遺構実測図（３）



北側谷を見下ろせる箇所に集中しており，旧石器時代ⅩⅦ層礫群と同様の配置である。耳取遺跡では，東西の台地に二分されて遺構が存在するのは旧石器時代から縄文時代を通じて同じである。場の使い方が，西側谷部を見下ろせる台地西縁辺部に旧石器時代の礫群が多かったのに対し，Ⅶ層段階は台地全体に広がって遺構が存在する。また耳取遺跡Ｆ～Ｈ-５～８区にかけて空白域があるが，削平により層が残っていなかった部分である。

Ⅶ層の集石遺構については，紙面の関係上特記すべき遺構だけを記載する。分類については，Ⅷ層の集石遺構に準じる。

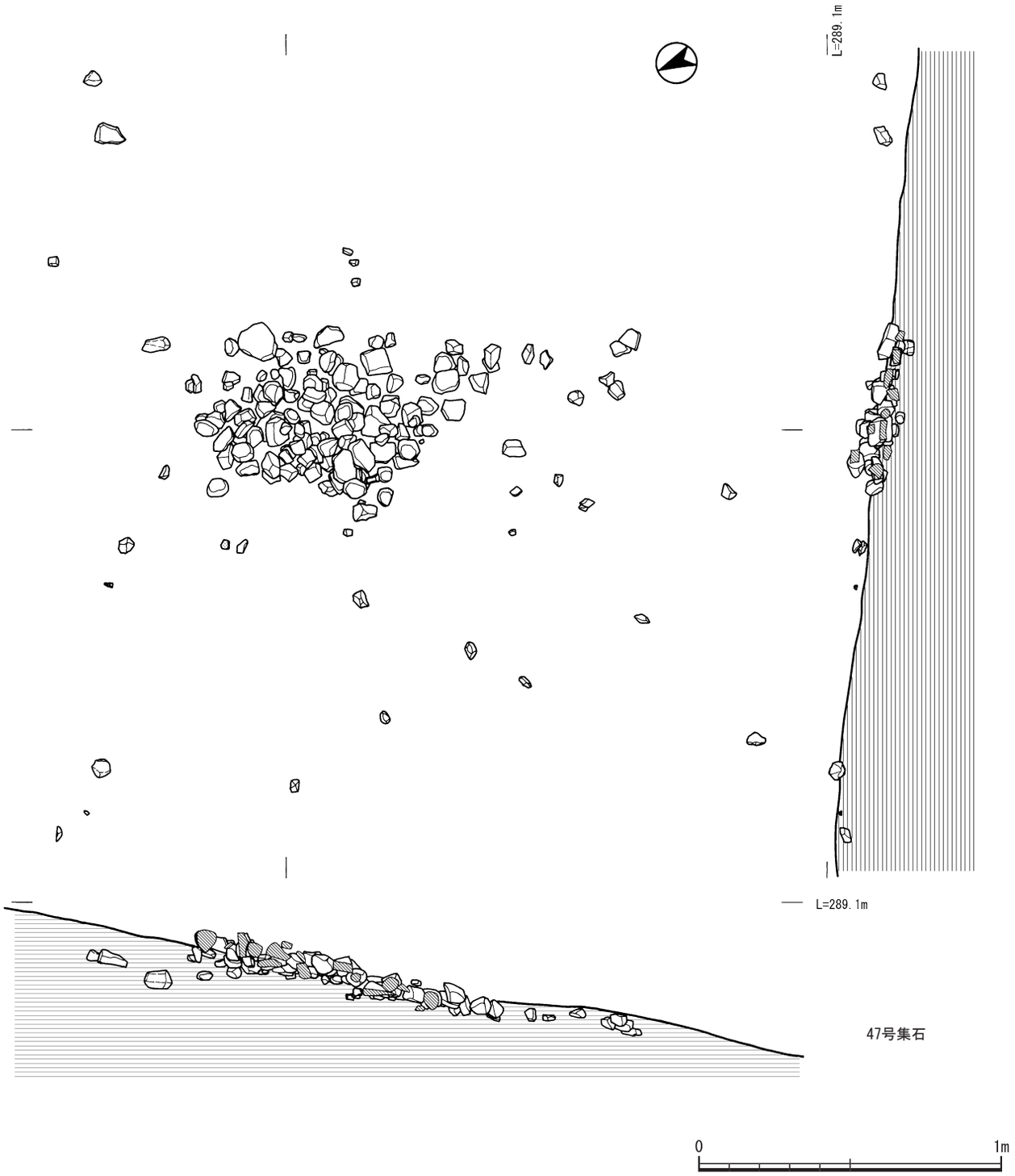
46号集石遺構(第73図)

桐木遺跡Ⅰ-44区で検出した。桐木遺跡の最南端部の谷に面した台地縁辺部で，15基まとまって検出された中の１基である。59cm×55cm，深さ約20cmの掘り込み遺構に礫51個が集中し，礫は20cm程と大きめのものを多数使用している。北側方向へ礫の一部が散逸している。ＩＡ類

47号集石遺構(第74図)

桐木遺跡Ｈ-44区の傾斜面で検出した。80cm×54cmの集中範囲に10cm程の礫を多数使用し，周辺に拡散した礫が散在している。掘り込み遺構は確認できなかったが，断面観察ではその可能性も残る。Ⅱ類

第73図　Ⅶ層遺構実測図（４）



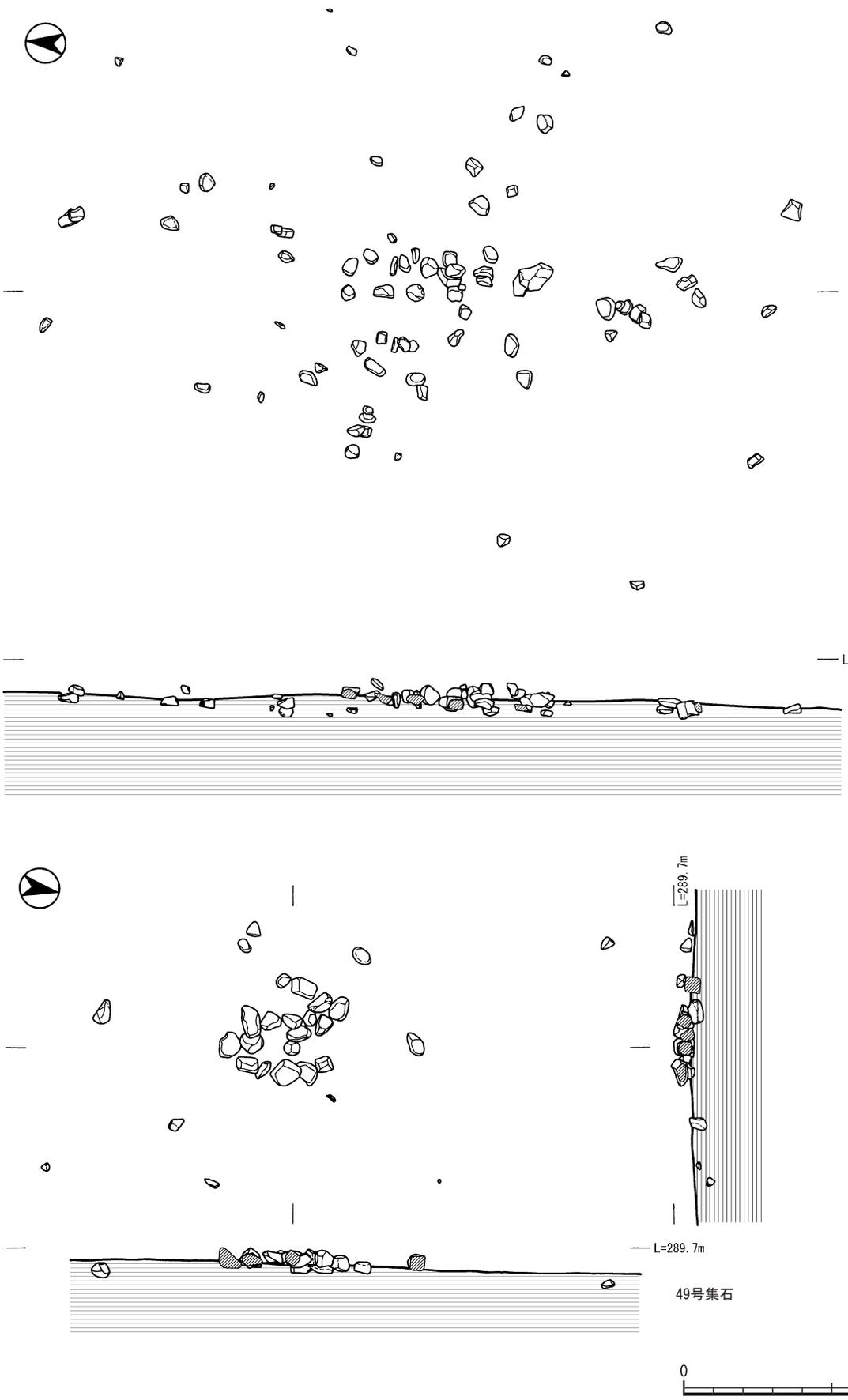
第74図　Ⅶ層遺構実測図（５）

54号集石遺構(第78図)

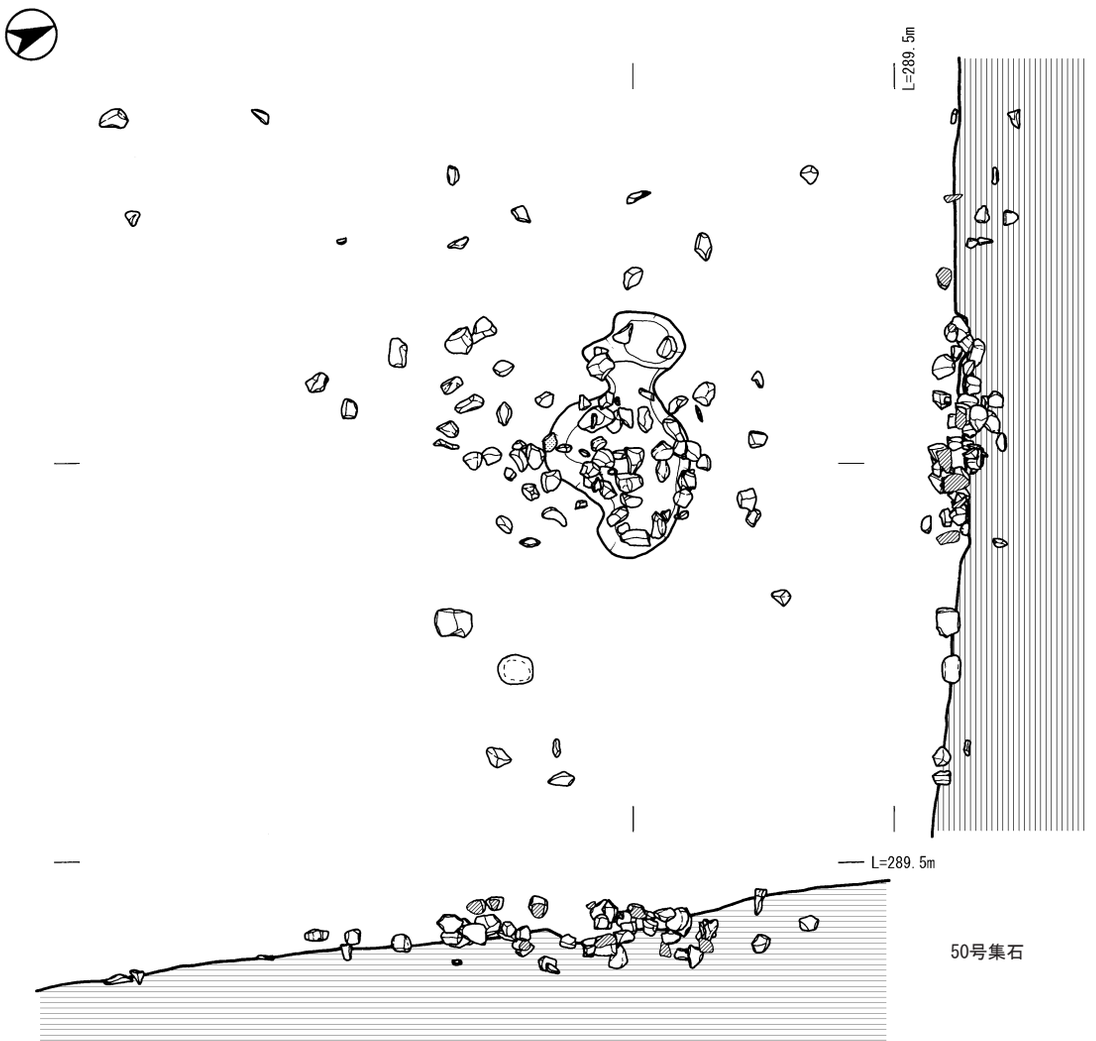
桐木遺跡Ｇ-44区で検出した。73cm×45cmで掘り込み遺構を確認し，２基が重なる状況も見られたが，明瞭な区分が出来なかった。検出面からの深さは約９cmで，掘り込み遺構内に５cm程の礫を121個確認し，一部は北側方向へ拡散している。ＩＡ類

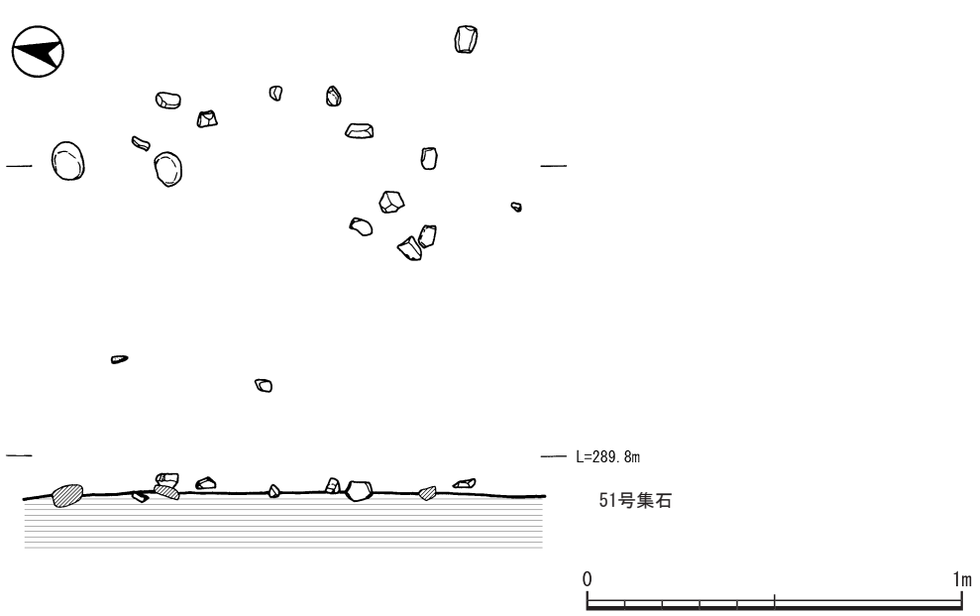
69号集石遺構(第87図)

桐木遺跡こ-29区で検出し，51cm×48cmのほぼ円形を呈し，10cm前後の礫を27個使用している。中央部は礫が欠落し，設置当初から意図的に空白部を設けた感がある。掘り込み遺構については明かでない。Ⅱ類

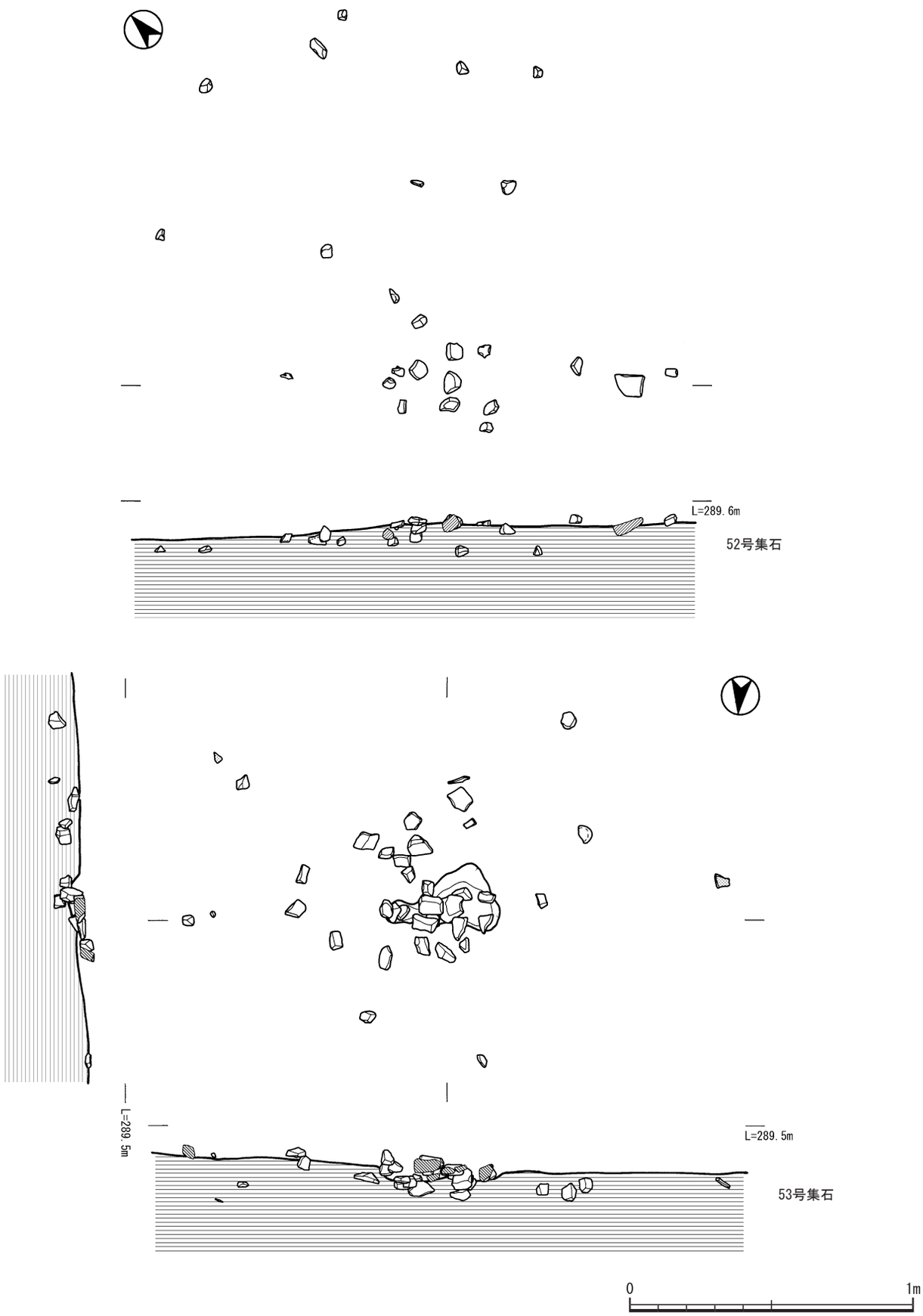


第75図　Ⅶ層遺構実測図（６）

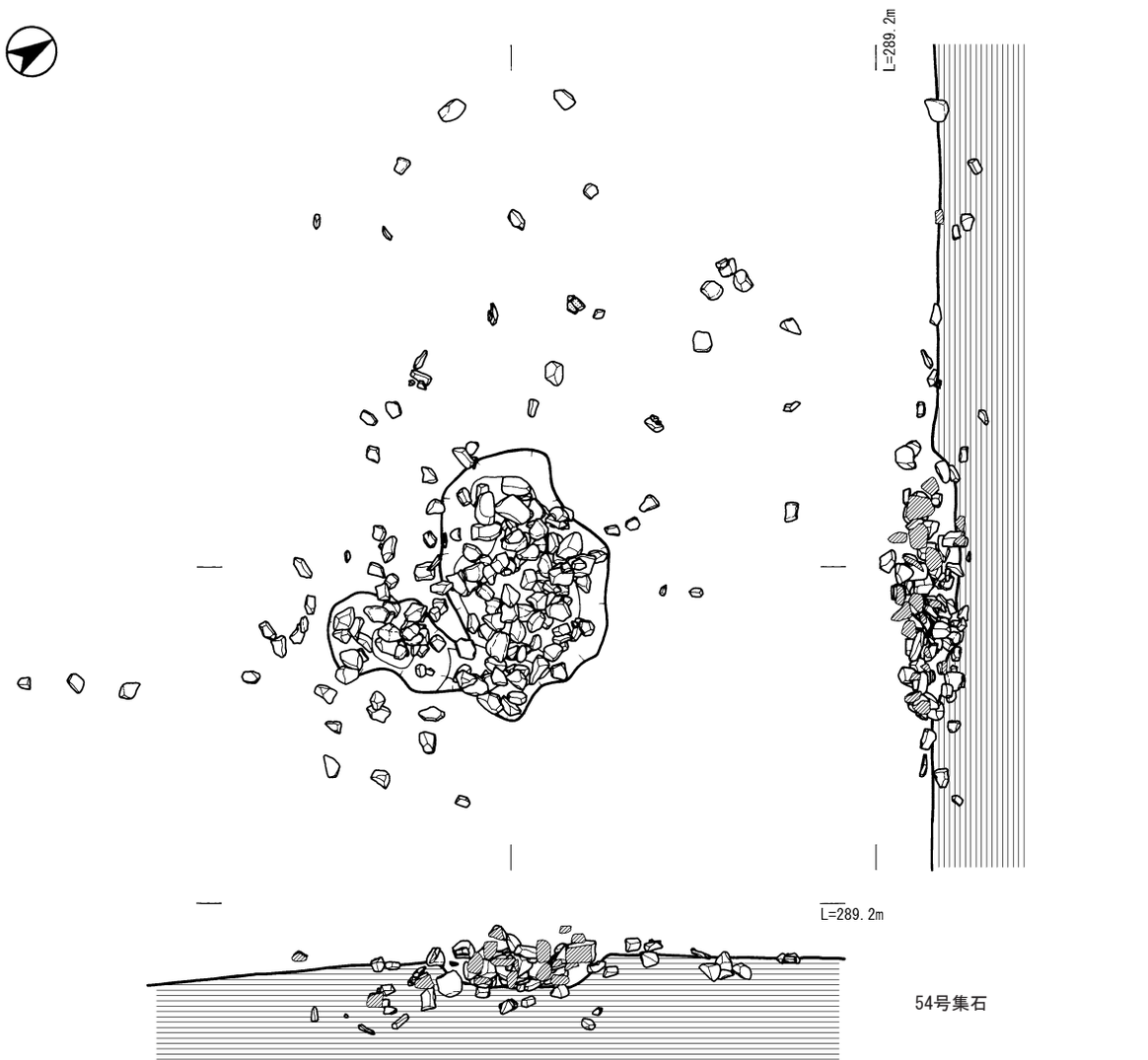




第76図　Ⅶ層遺構実測図（７）



第77図　Ⅶ層遺構実測図（８）

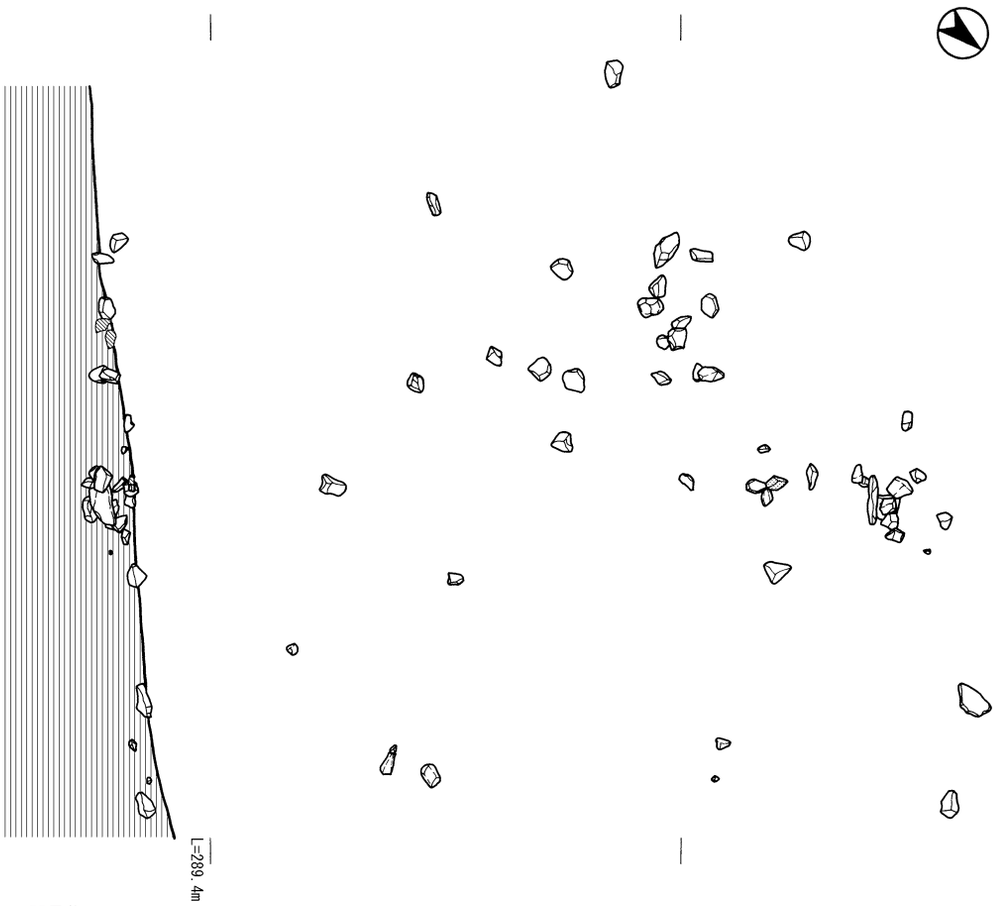


第78図　Ⅷ層遺構実測図（９）

第17表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（８）

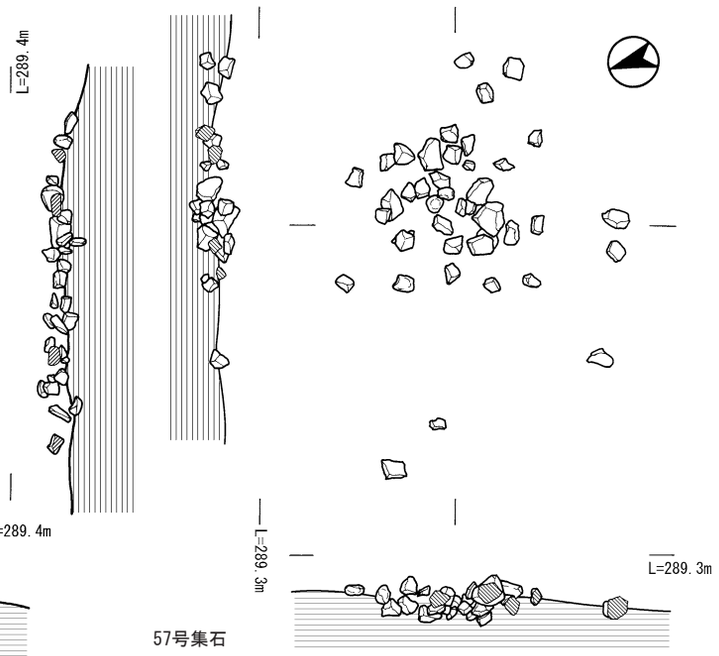
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
41	67	ⅢA	244	202	－	－	－	－	－
42	67	Ⅱ	114	78	－	－	－	－	－
43	68	ⅢB	187	172	－	－	－	－	－
44	69	ⅢB	299	198	－	－	－	－	－
45	72	ⅢA	204	189	－	－	－	－	－

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
46	73	ⅠA	241	237	1	59	55	20	51
47	74	Ⅱ	255	238	－	－	－	－	－
48	75	ⅢB	257	196	－	－	－	－	－
49	75	ⅢA	193	90	－	－	－	－	－
50	76	ⅠA	192	181	1	66	37	5	40



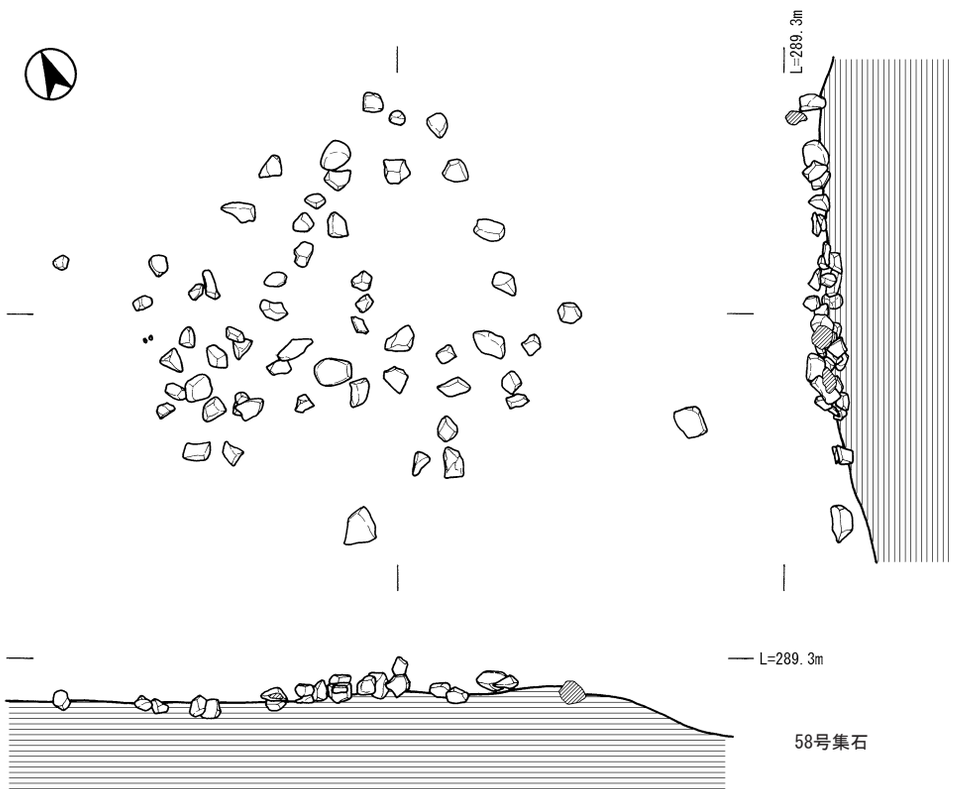
55号集石

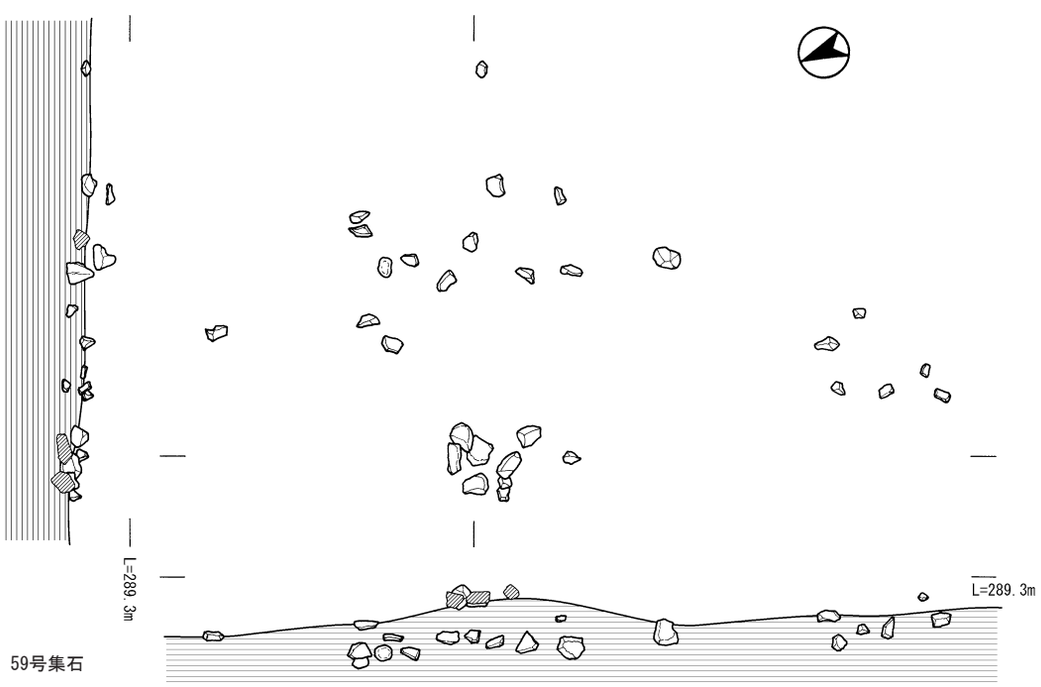
56号集石



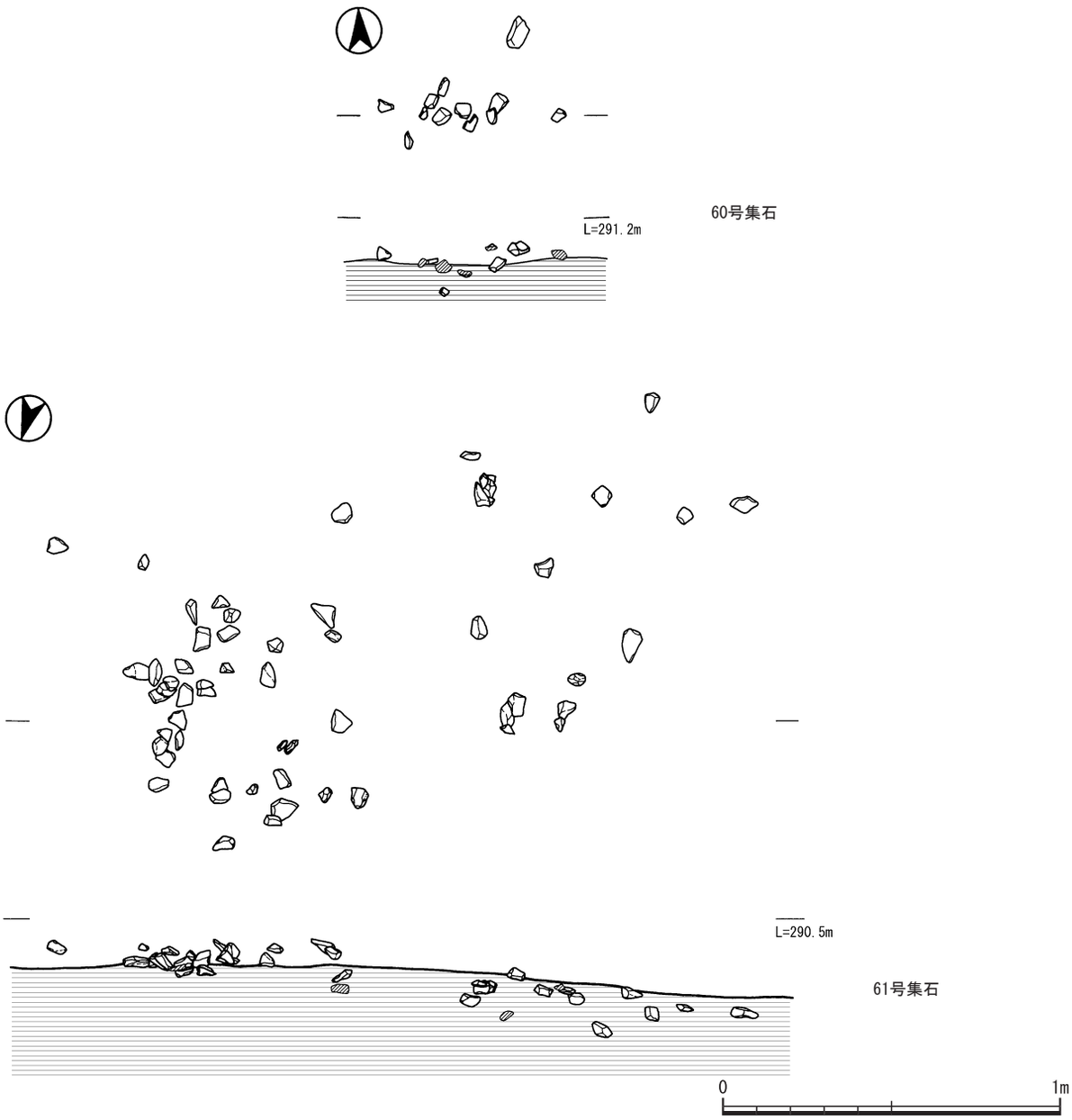
57号集石

第79図　Ⅶ層遺構実測図（10）





第80図　Ⅶ層遺構実測図（11）



75号集石遺構(第89図)

桐木遺跡え-20区で検出し，86cm×78cmの礫集中と散逸礫で構成する。礫集中は５～６cmの角礫を100個以上使用し，掘り込み遺構は確認できなかったが，可能性は残される。Ⅱ類

77号集石遺構(第90図)

桐木遺跡う-21区で検出した。７～８cm程の角礫を使用し，集石の一部が抜き取られたような状況である。礫群の下位には炭化物も検出し，明確な掘り込み遺構は確認できなかったが，存在した可能性が高い。Ⅱ類

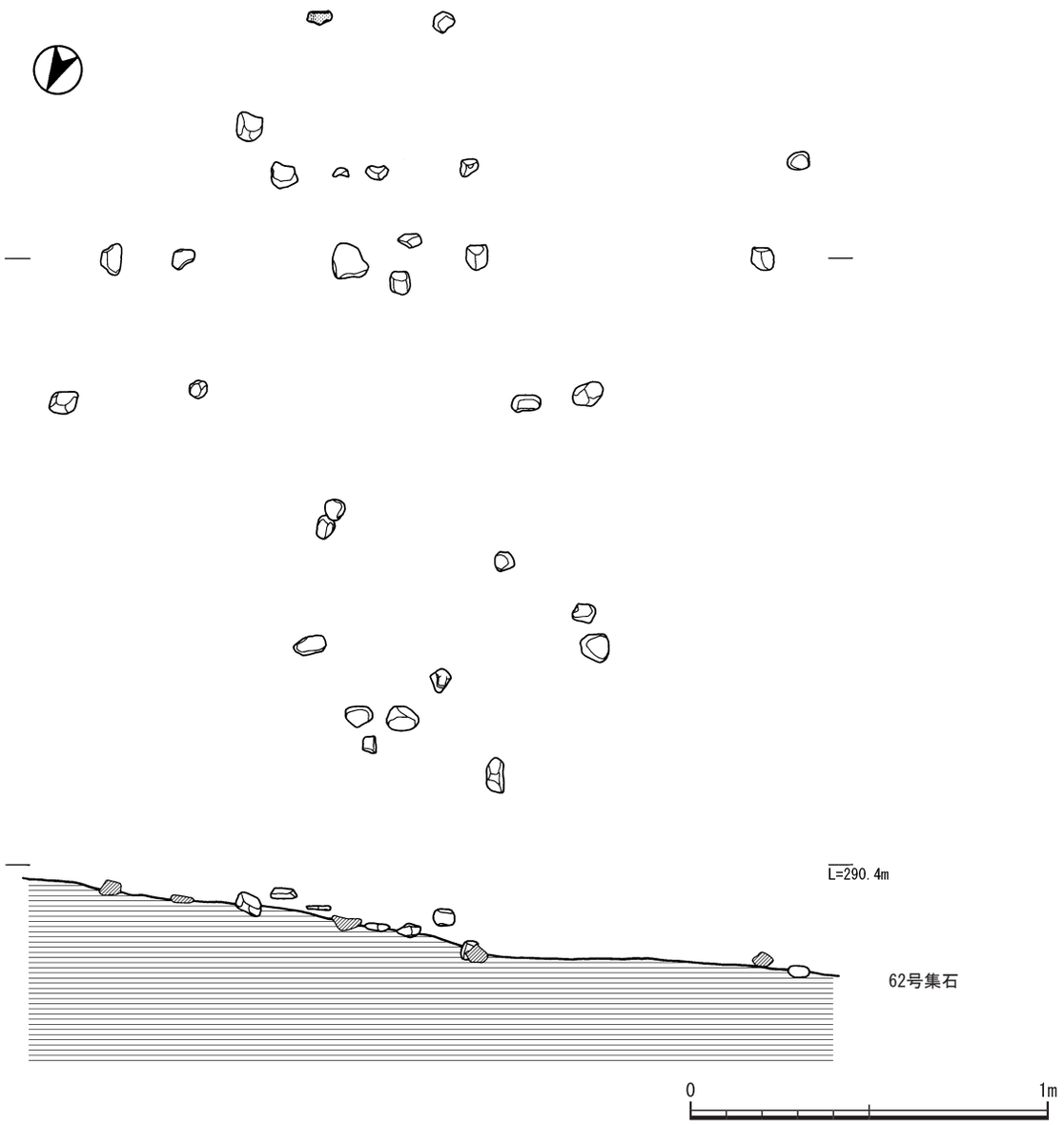
81号集石遺構(第93図)

桐木遺跡Ｅ-14・15区で検出した。径34cm×29cm，深さ７cm程の浅い皿状の掘り込み遺構で，10cm前後の安山岩５個を確認している。周辺に散在する礫は，掘り込み遺構から北側方向へ散逸したとみられる。一部頁岩があるが，安山岩が中心で熱を受た痕跡が著しい。ＩＣ類

84号集石遺構(第95図)

桐木遺跡Ｄ-14区で検出し，比較的大きめの角礫を122個使用し，炭化物も点在している。礫は輝石安山岩が多く，礫のほとんどが被熱している。明確な掘り込みは確認できなかったが，存在した可能性が高い。Ⅱ類

第81図　Ⅶ層遺構実測図（12）

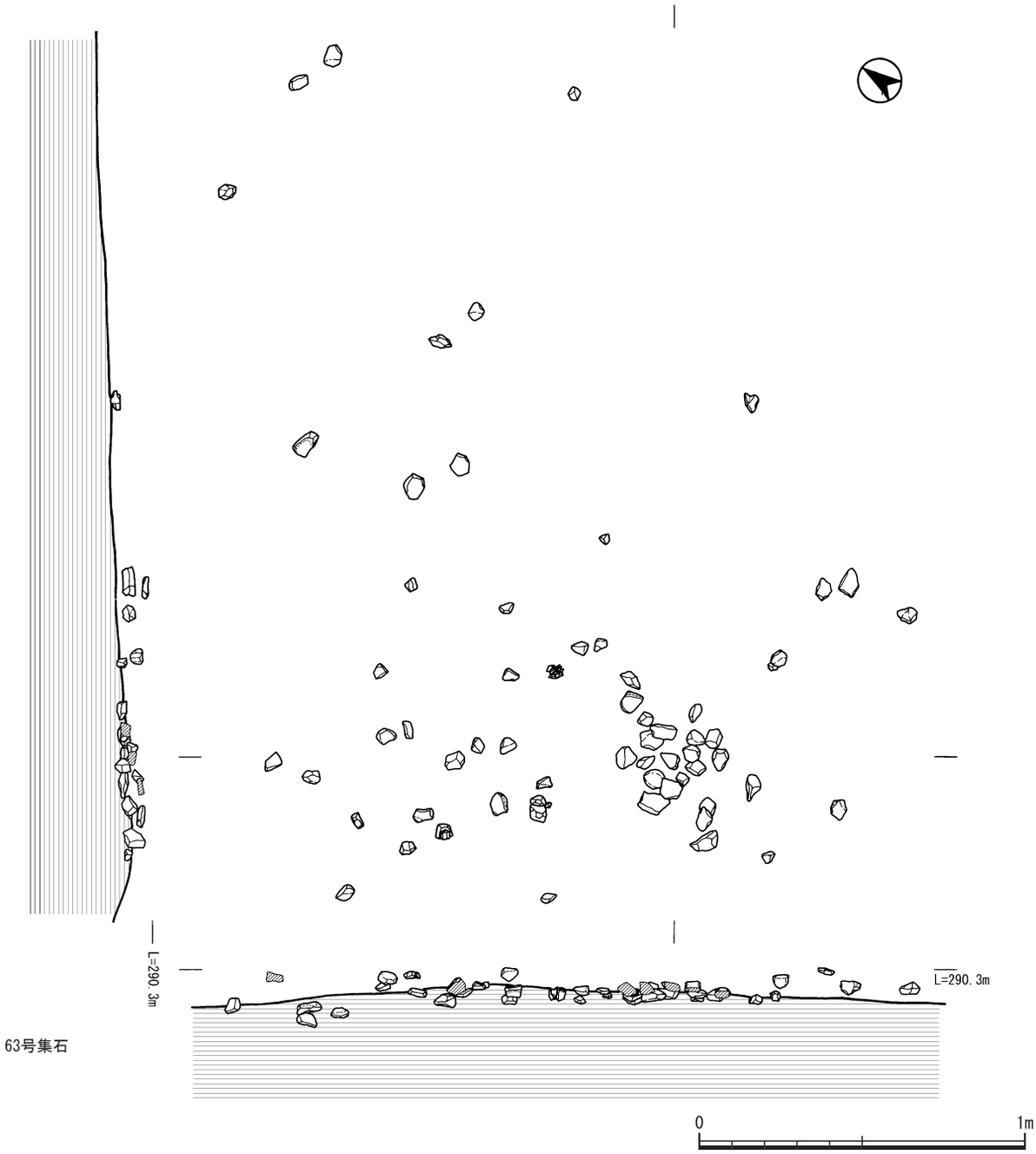


第82図　Ⅶ層遺構実測図（13）

第18表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（９）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
51	76	ⅢB	125	97	－	－	－	－	－
52	77	ⅢB	185	149	－	－	－	－	－
53	77	ⅠB	193	128	1	40	17	4	11
54	78	ⅠA	212	194	1	73	45	9	121

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
55	79	ⅢB	202	188	－	－	－	－	－
56	79	ⅢA	93	91	－	－	－	－	－
57	79	ⅢA	114	79	－	－	－	－	－
58	80	ⅢB	175	120	－	－	－	－	－



88号集石遺構(第98図)

桐木遺跡Ｂ・Ｃ-13区で検出し，６cm前後の角礫を使用している。大半が安山岩で被熱しており，炭化物は点在していた。掘り込みは確認できなかったが，断面観察からは掘り込みが想定される。Ⅱ類

95号集石遺構(第100図)

桐木遺跡Ｂ-11区で検出し，掘り込み遺構は70cm×54cmの楕円形で，深さ９cmの浅い皿状をなす。遺構内に10cm前後の角礫が残される。ＩＢ類

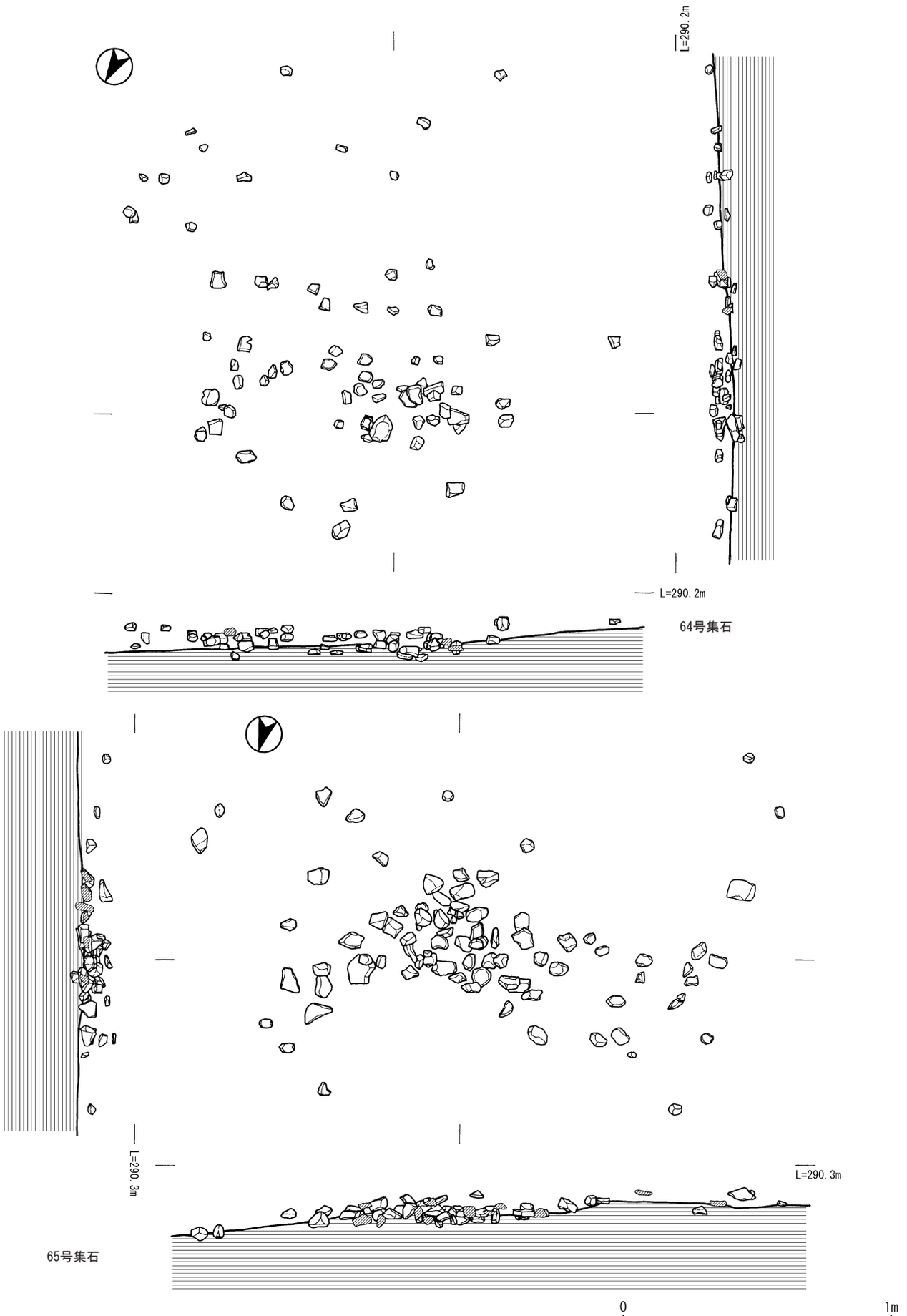
98号集石遺構(第101図)

桐木遺跡Ｅ-10区で検出し，掘り込み遺構は42cm×35cmの円形で，深さ12cmに掘り込まれる。５cm程の角礫を多数使用し，礫が周辺にも拡散している。隣接して同様の形状の99号集石遺構があり，南側には５号竪穴住居がある。ＩＡ類

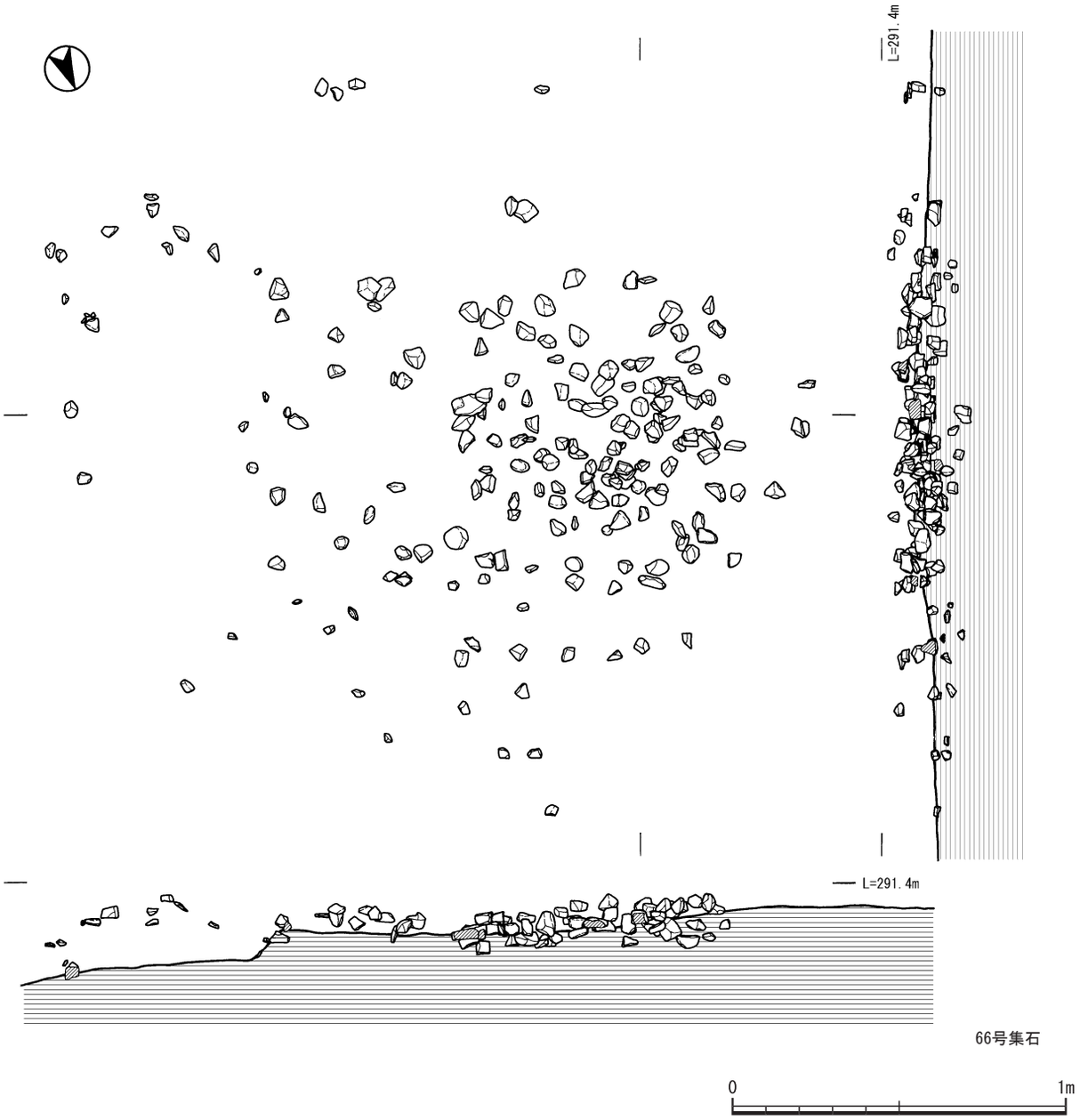
99号集石遺構(第102図)

桐木遺跡Ｅ-10区の98号集石遺構に隣接して検出した。掘り込み遺構は74cm×57cmの楕円形で，深さ９cmの浅い皿状を呈す。10cm前後の角礫を使用し，遺構周辺に礫が拡散し，炭化物は点在していた。ＩＢ類

第83図　Ⅶ層遺構実測図（14）



第84図　Ⅶ層遺構実測図（15）



103号集石遺構(第105図)

桐木遺跡Ｄ－９区で検出し，掘り込み遺構は42cm×40cmの円形で，約７cmの浅い皿状を呈している。北側には拡散した散礫がある。なお，この周辺は，Ⅷ層段階の遺構が集中している箇所である。ＩＢ類

105号集石遺構(第106図)

桐木遺跡Ｃ－８・９区で検出した。２か所の掘り込み遺構があり，①48cm×45cm・円形で深さ７cm・礫20個。②は70cm東側にあり，②54cm×43cm・楕円形で深さ５cm・礫27個である。①では10cm以上の大きな礫を使用しているが，②は６cm前後の礫を使用している。中間部の散乱礫は①，②のどちらに所属するか線引きができない。ＩＡ類

108号集石遺構(第107図)

桐木遺跡Ｄ・Ｅ－８区で検出した。掘り込み遺構は81cm×78cmの円形で，深さ約６cmの浅い皿状を呈している。遺構内には58個の礫が残され，その殆どが被熱している。炭化物は点在する状況で確認される。ＩＡ類

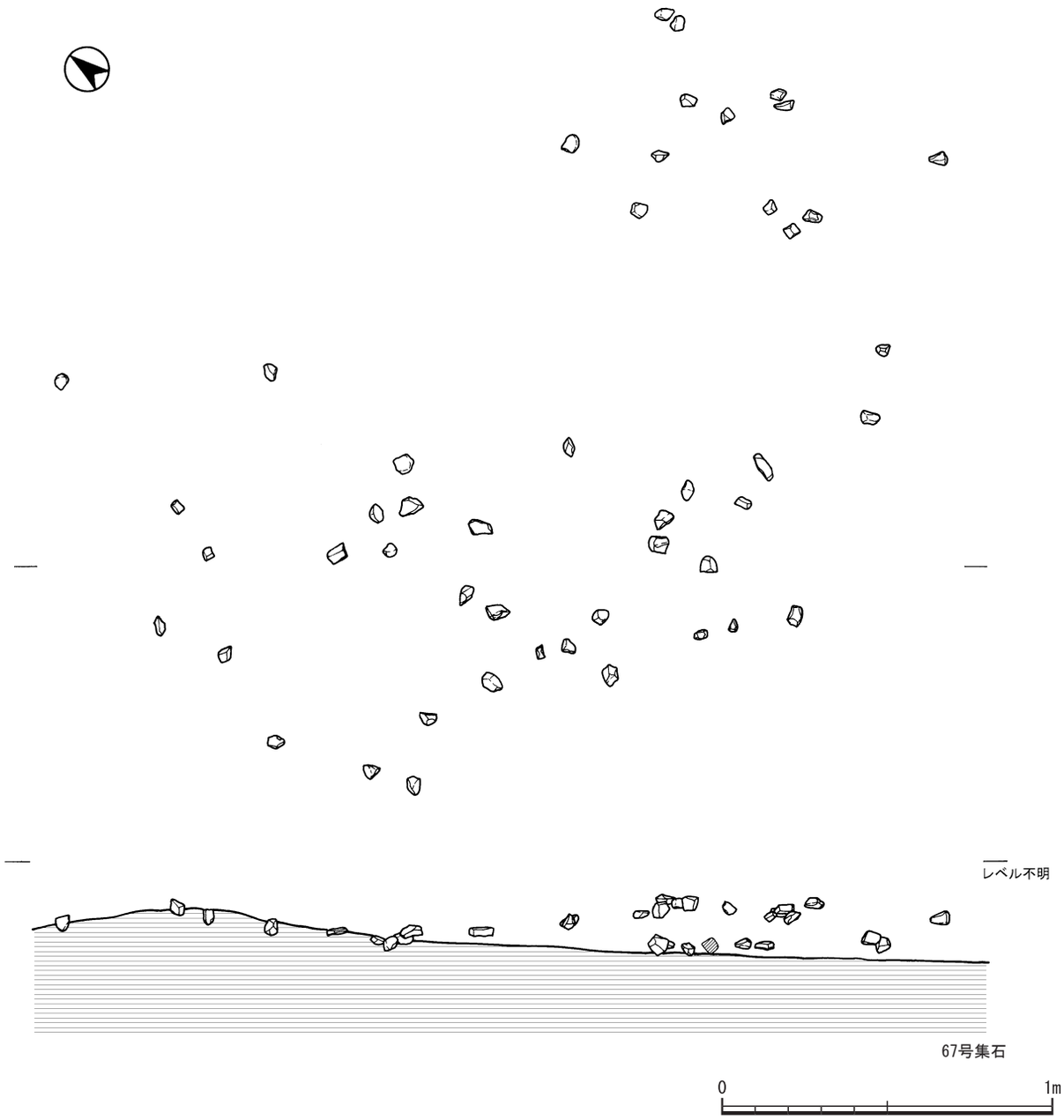
112号集石遺構(第108図)

桐木遺跡Ｇ－３区で検出し，66cm×59cmの範囲に57個の礫が集中する。掘り込み遺構は確認していないが，礫の残存状況から存在を想定できる。Ⅱ類

114号集石遺構(第109図)

耳取遺跡Ⅰ-20区で検出した。当初想定した中央ライン(Ａ-Ａ')で断面実測を開始したが，残存する下位の礫群の検出の

第85図　Ⅶ層遺構実測図（16）



結果，礫群が東方向にズレルことが判明した。したがって，礫群の上部が西方向に移動したものと判断している。なお，下位には，４cm程の浅い掘り込み遺構を確認している。ＩＡ類

116号集石遺構(第109図)

耳取遺跡Ｈ-18・19区で検出した。131cm×106cmの範囲に10cm程の礫102個が集中し，平地に積み上げられた状況を呈していた。Ⅱ類

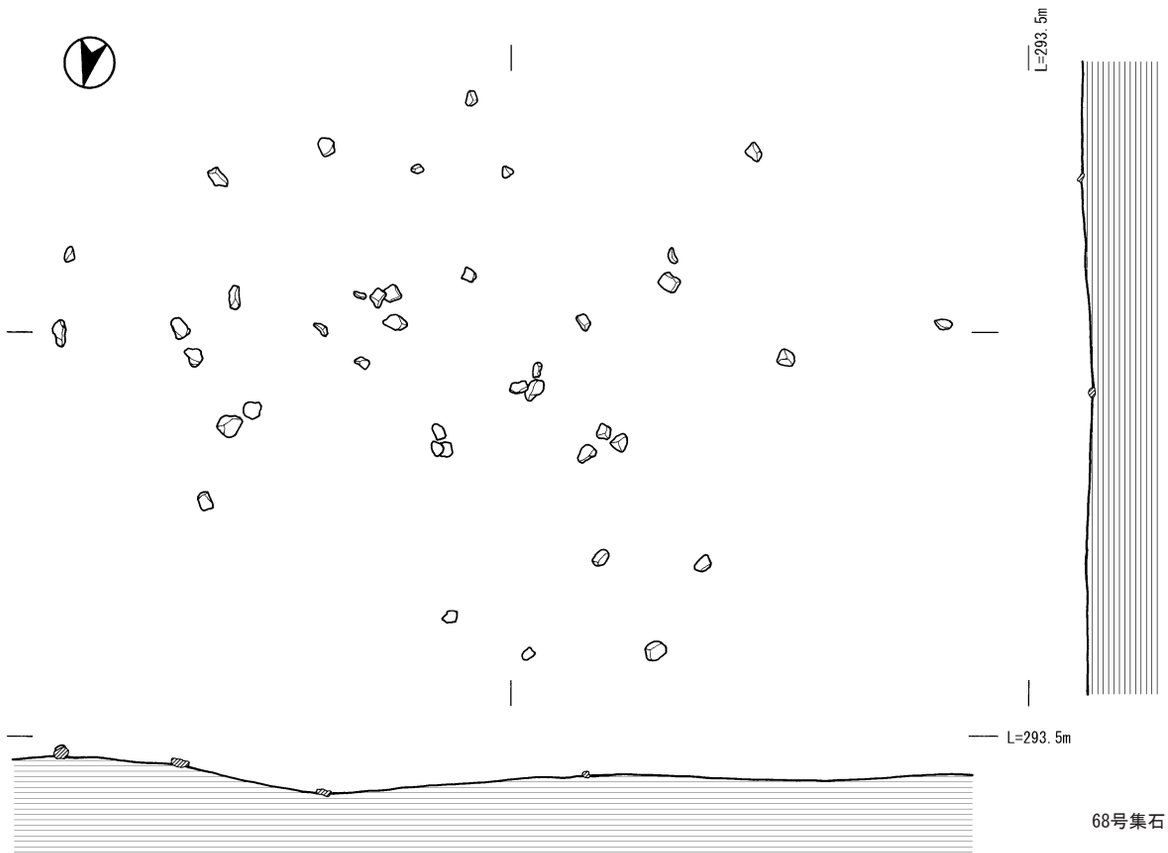
123号集石遺構(第113図)

耳取遺跡Ｈ-12区で検出した。掘り込み遺構は151cm×133cm，深さ19cmの皿状を呈し，314個の角礫が充填されていた。詳細な観察を行ったが，炭化物は検出できなかった。ＩＡ類

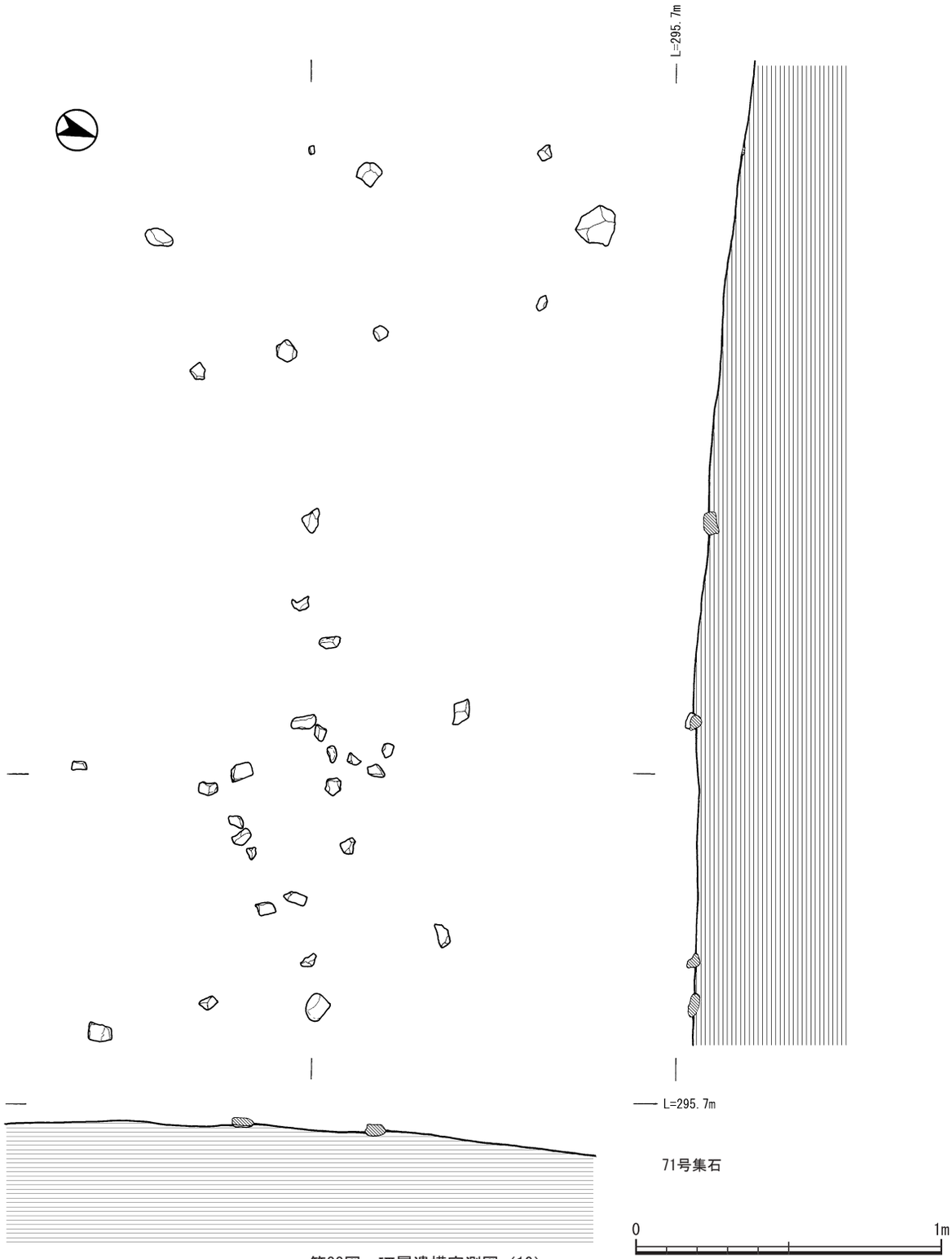
126号集石遺構(第115図)

耳取遺跡Ｉ-11で検出し，39cm×39cm，深さ10cmの掘り込み遺構を中心に礫を確認している。遺構内で角礫23個を確認し，遺構外は北と東方向へ礫が拡散している。ＩＡ類

第86図　Ⅶ層遺構実測図（17）



第87図　Ⅶ層遺構実測図（18）

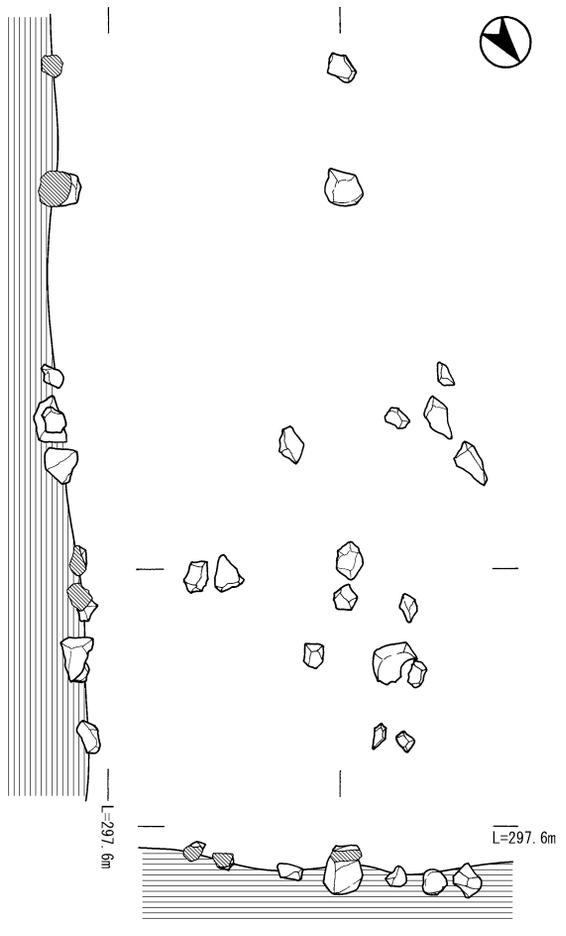


第88図　Ⅷ層遺構実測図（19）

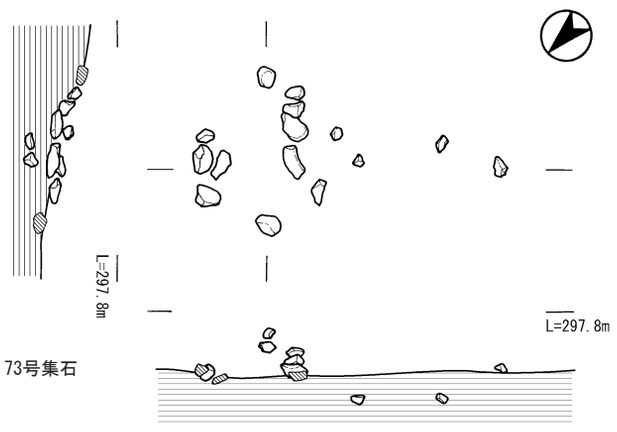
第19表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（10）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
59	80	ⅢB	199	117	–	–	–	–	–
60	81	ⅢB	56	40	–	–	–	–	–
61	81	ⅢB	211	135	–	–	–	–	–

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
62	82	ⅢB	219	214	–	–	–	–	–
63	83	ⅢA	264	214	–	–	–	–	–
64	84	ⅢB	186	177	–	–	–	–	–
65	84	ⅢA	222	135	–	–	–	–	–

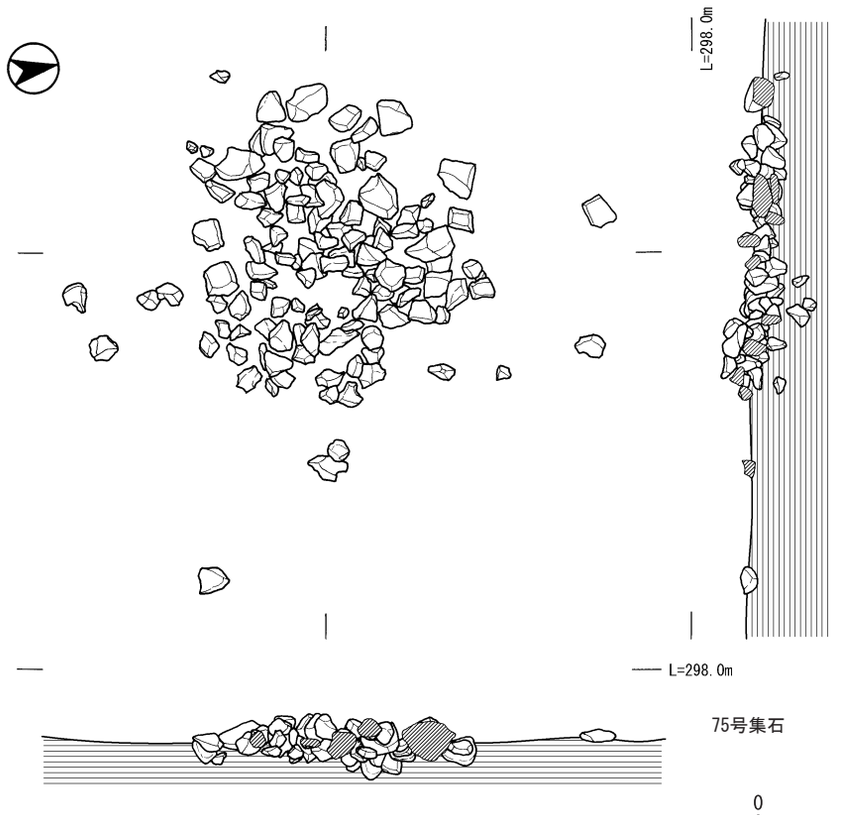


72号集石



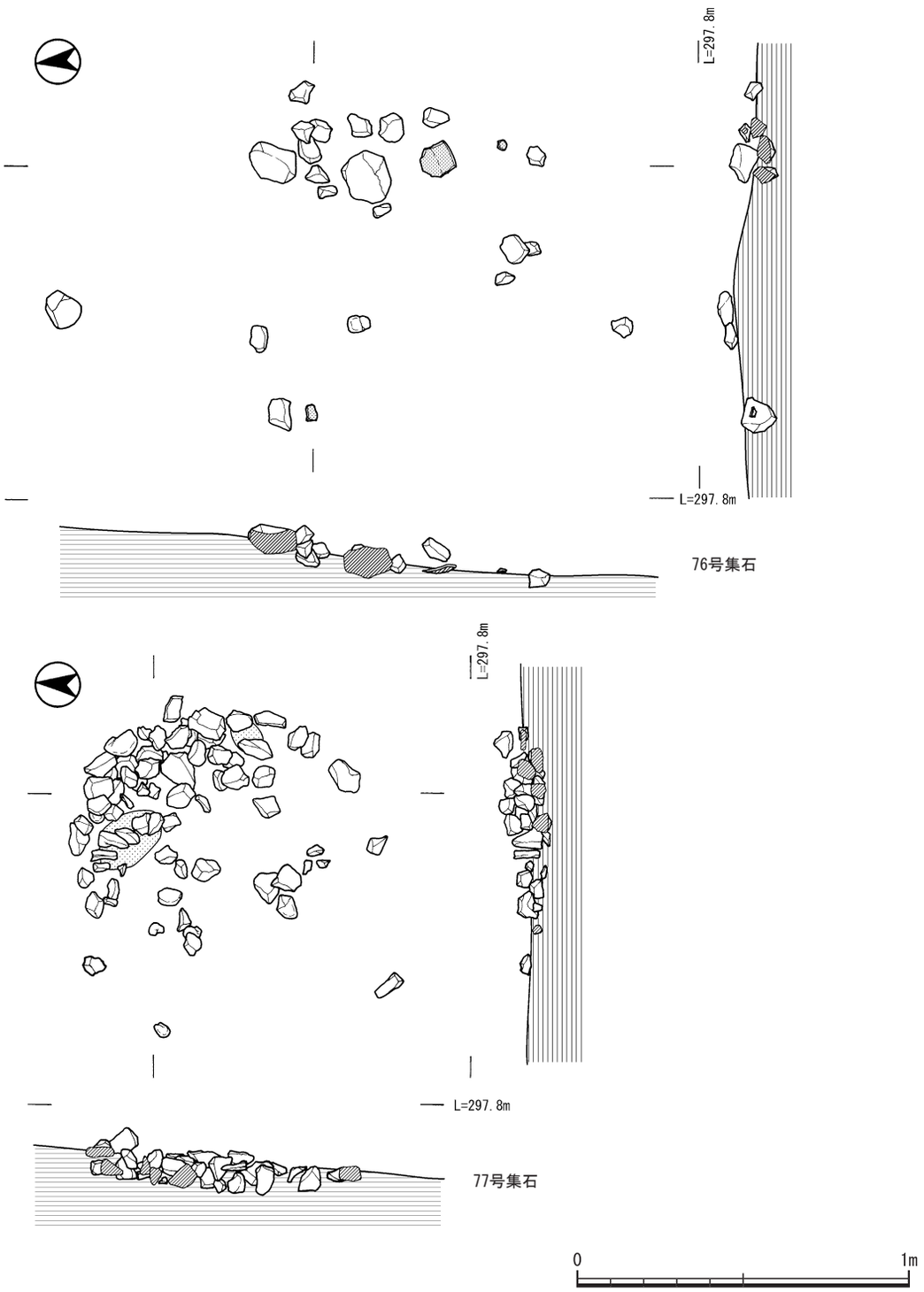
73号集石

74号集石



75号集石

第89図　Ⅶ層遺構実測図（20）

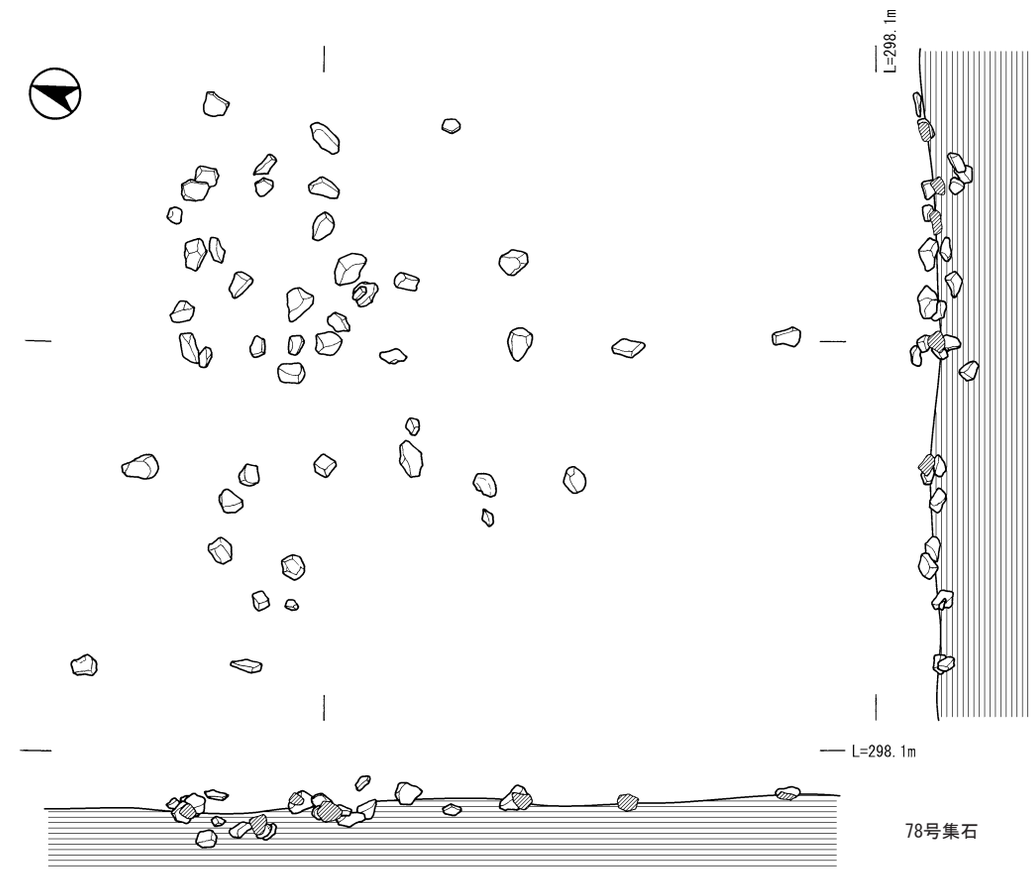


第90図　Ⅷ層遺構実測図（21）

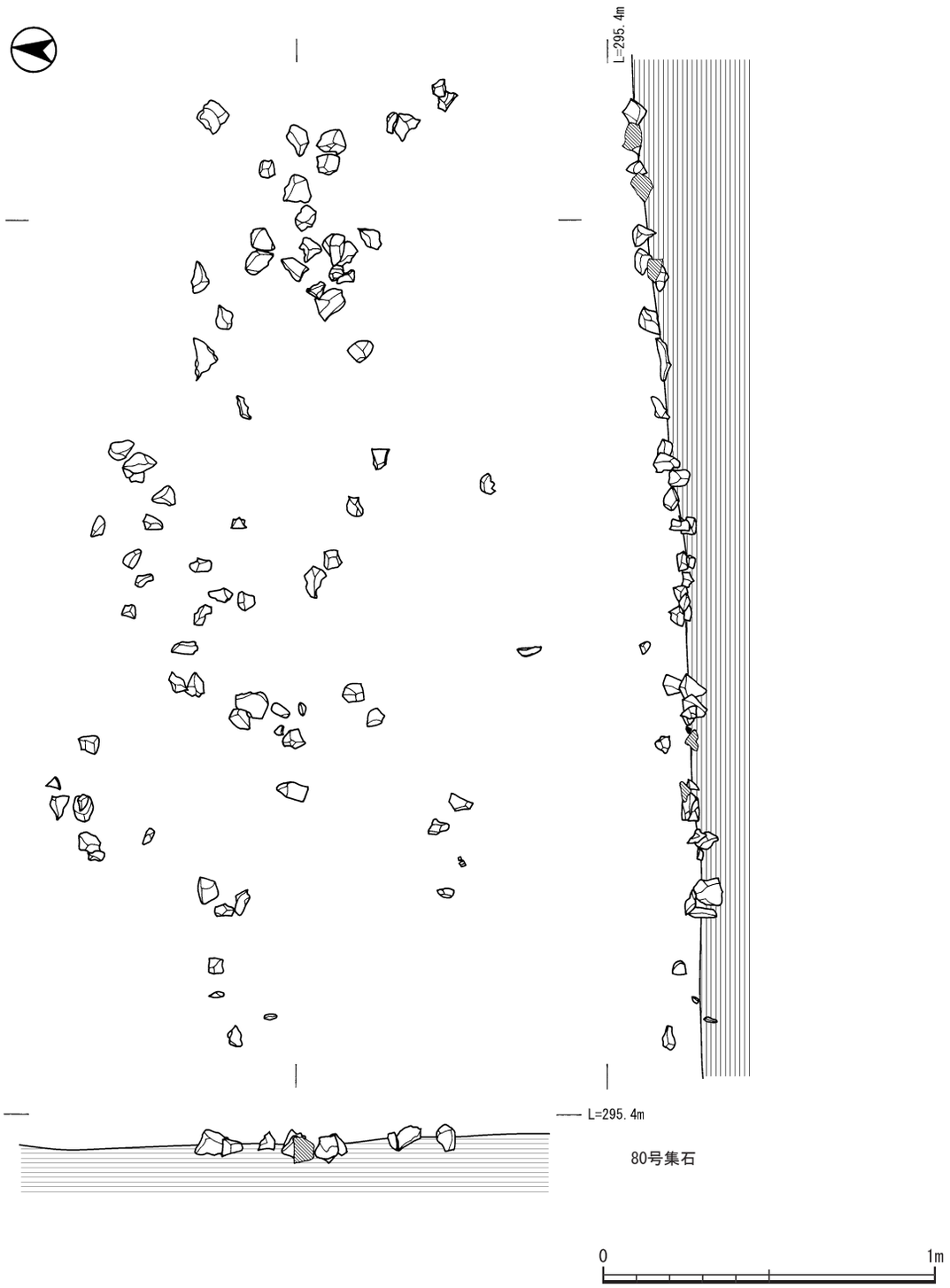
第20表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（11）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
66	85	ⅢA	230	221	−	−	−	−	−
67	86	ⅢB	271	238	−	−	−	−	−
68	87	ⅢB	241	152	−	−	−	−	−

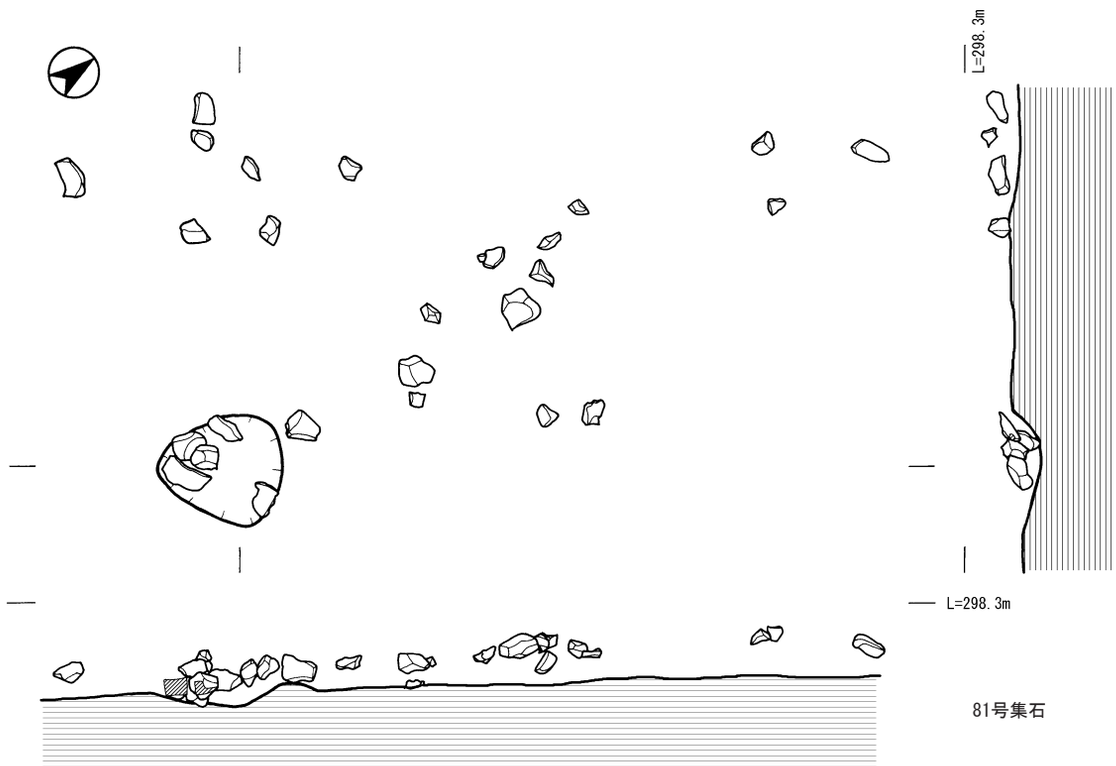
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
69	87	Ⅱ	51	48	−	−	−	−	−
70	87	ⅢA	66	49	−	−	−	−	−
71	88	ⅢB	294	179	−	−	−	−	−

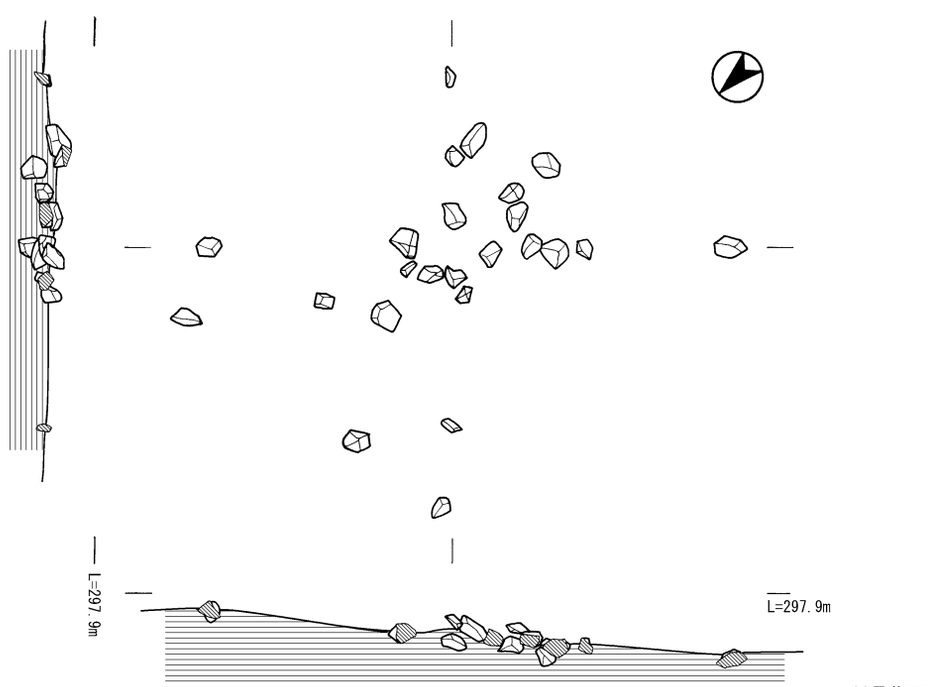


第91図　Ⅶ層遺構実測図（22）

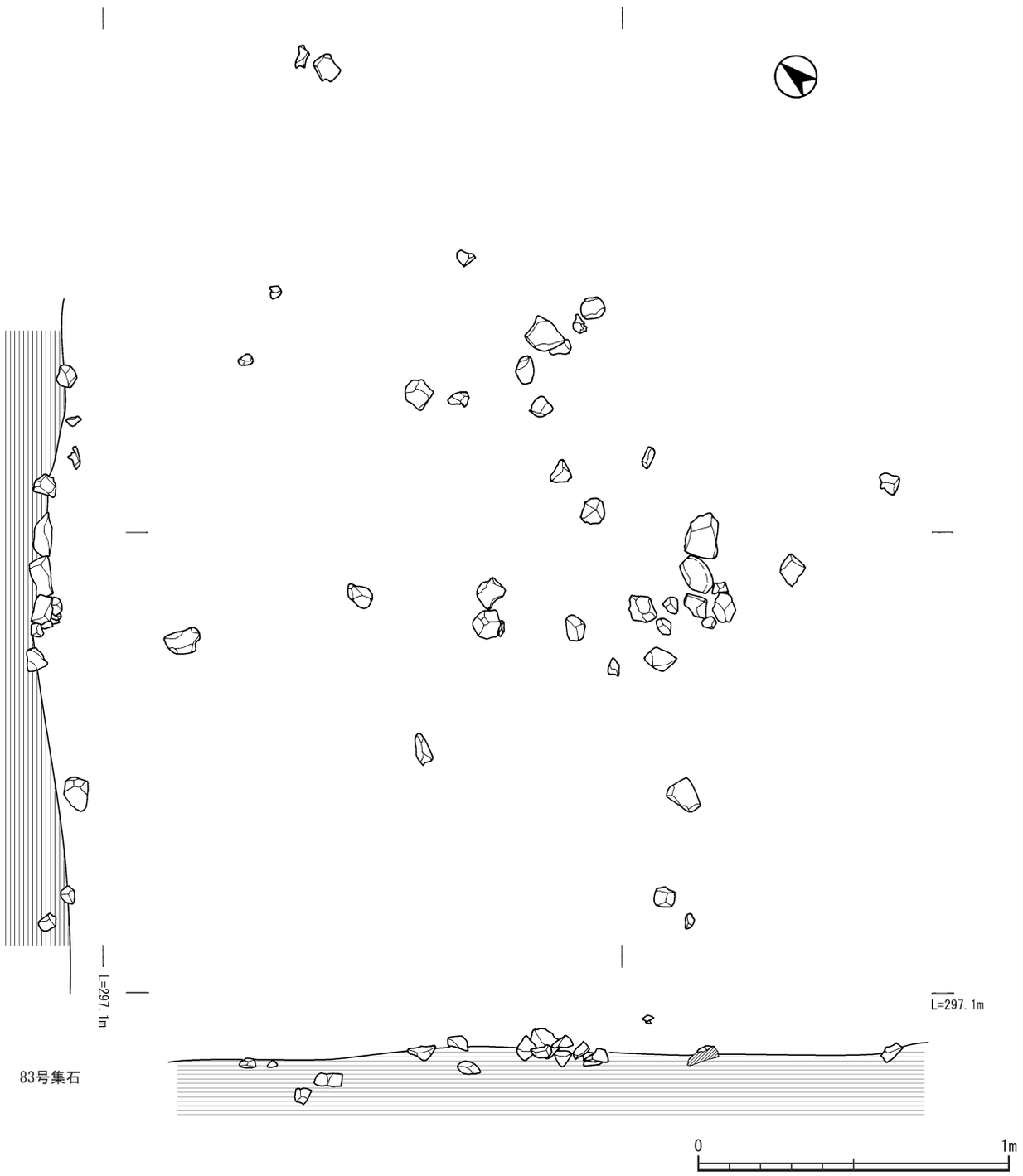


第92図　Ⅷ層遺構実測図（23）





第93図　Ⅶ層遺構実測図（24）

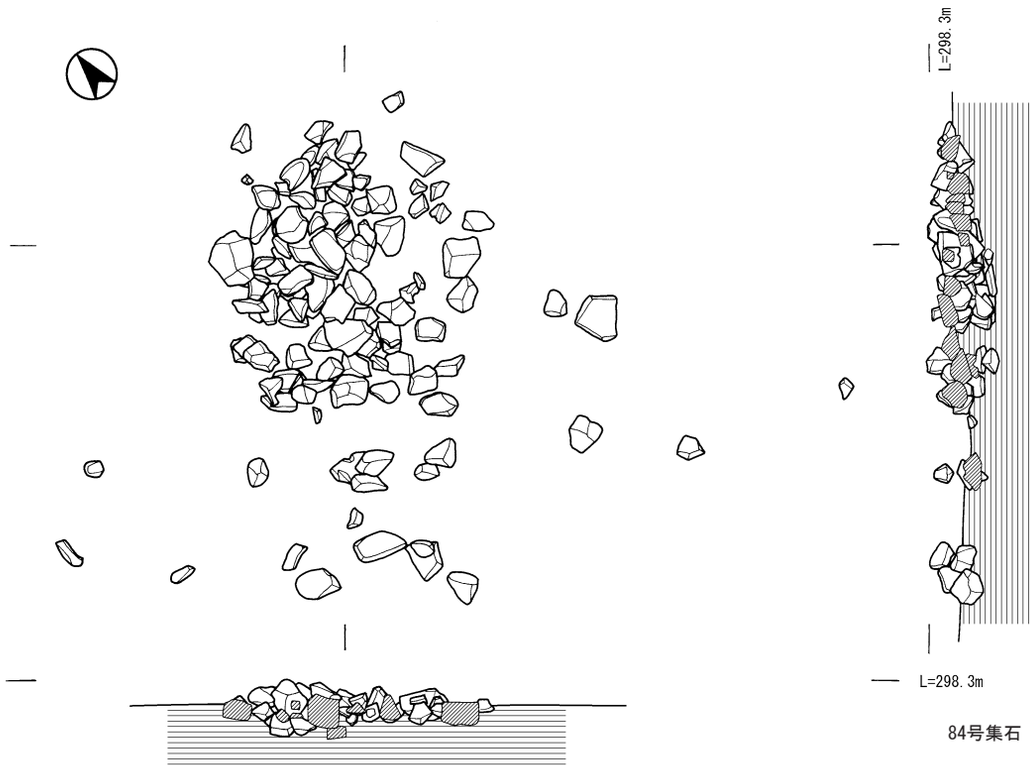


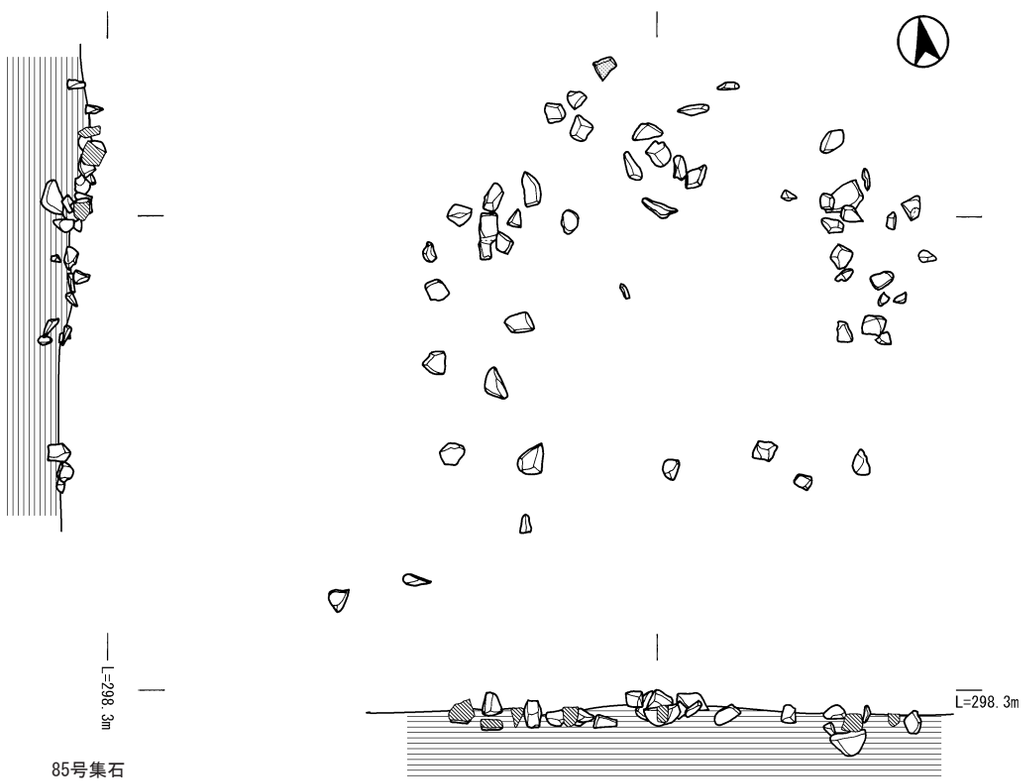
第94図　Ⅶ層遺構実測図（25）

第21表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（12）

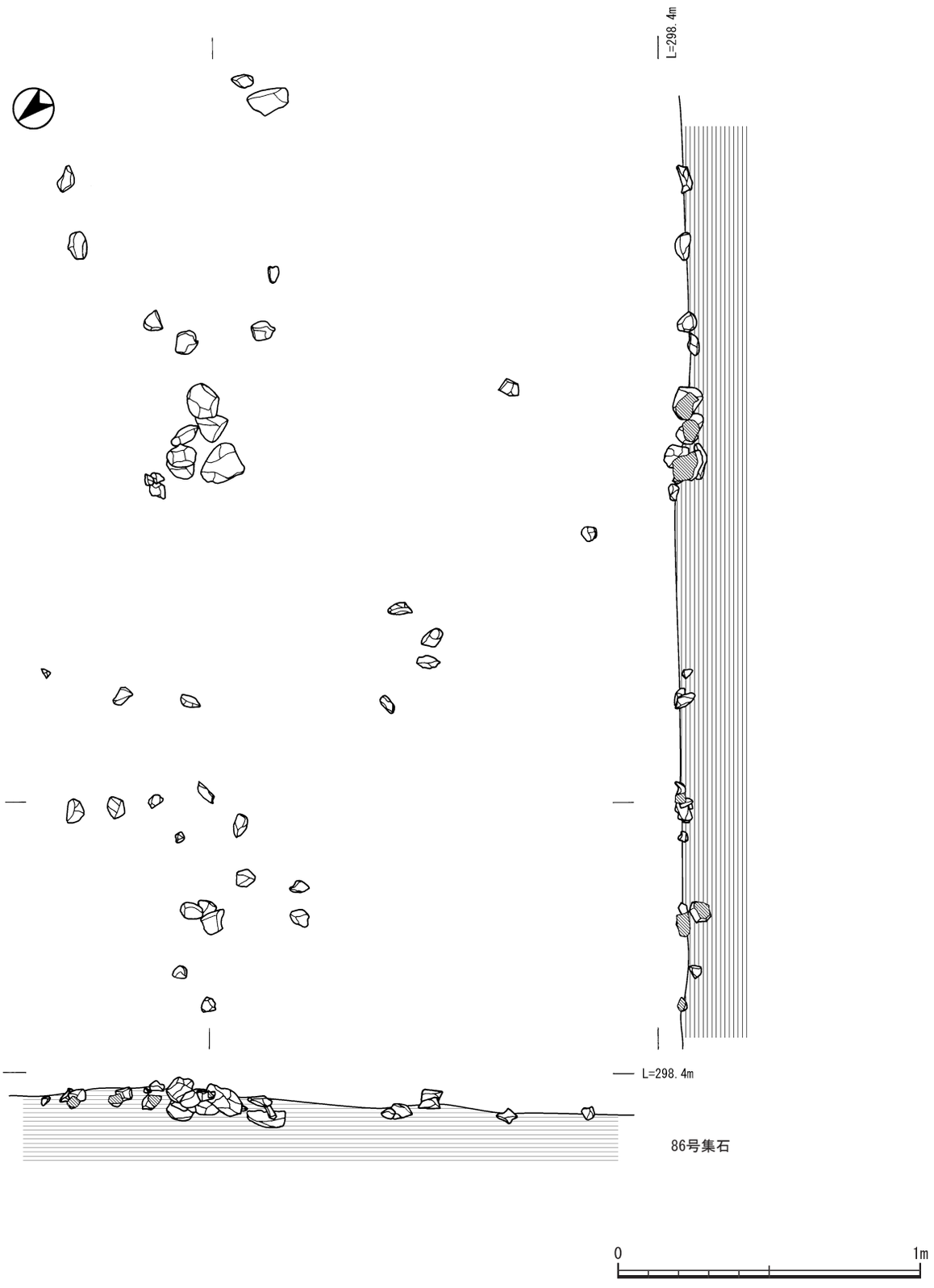
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
72	89	ⅢB	186	81	–	–	–	–	–
73	89	ⅢB	84	45	–	–	–	–	–

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
74	89	ⅢB	89	73	–	–	–	–	–
75	89	Ⅱ	147	139	–	–	–	–	–

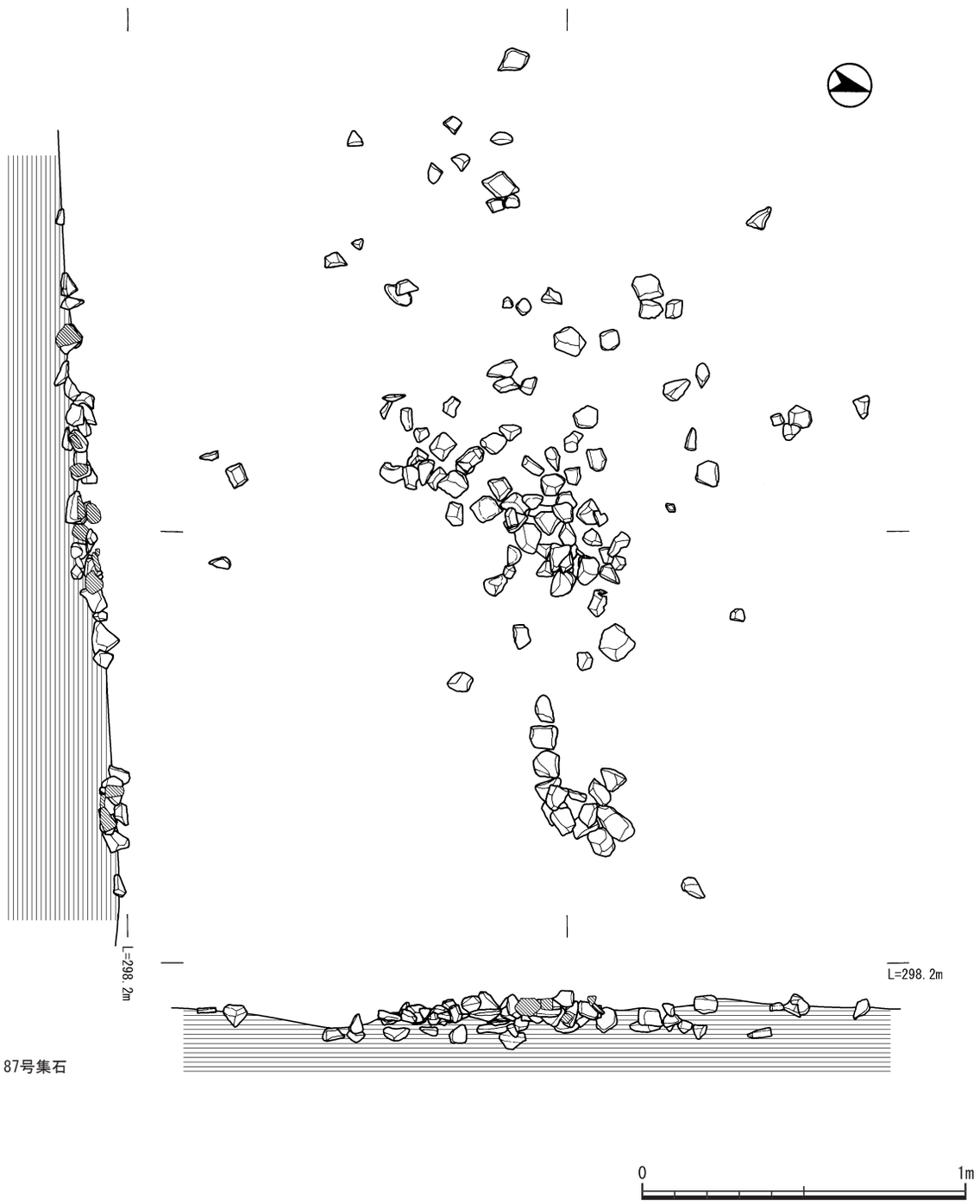




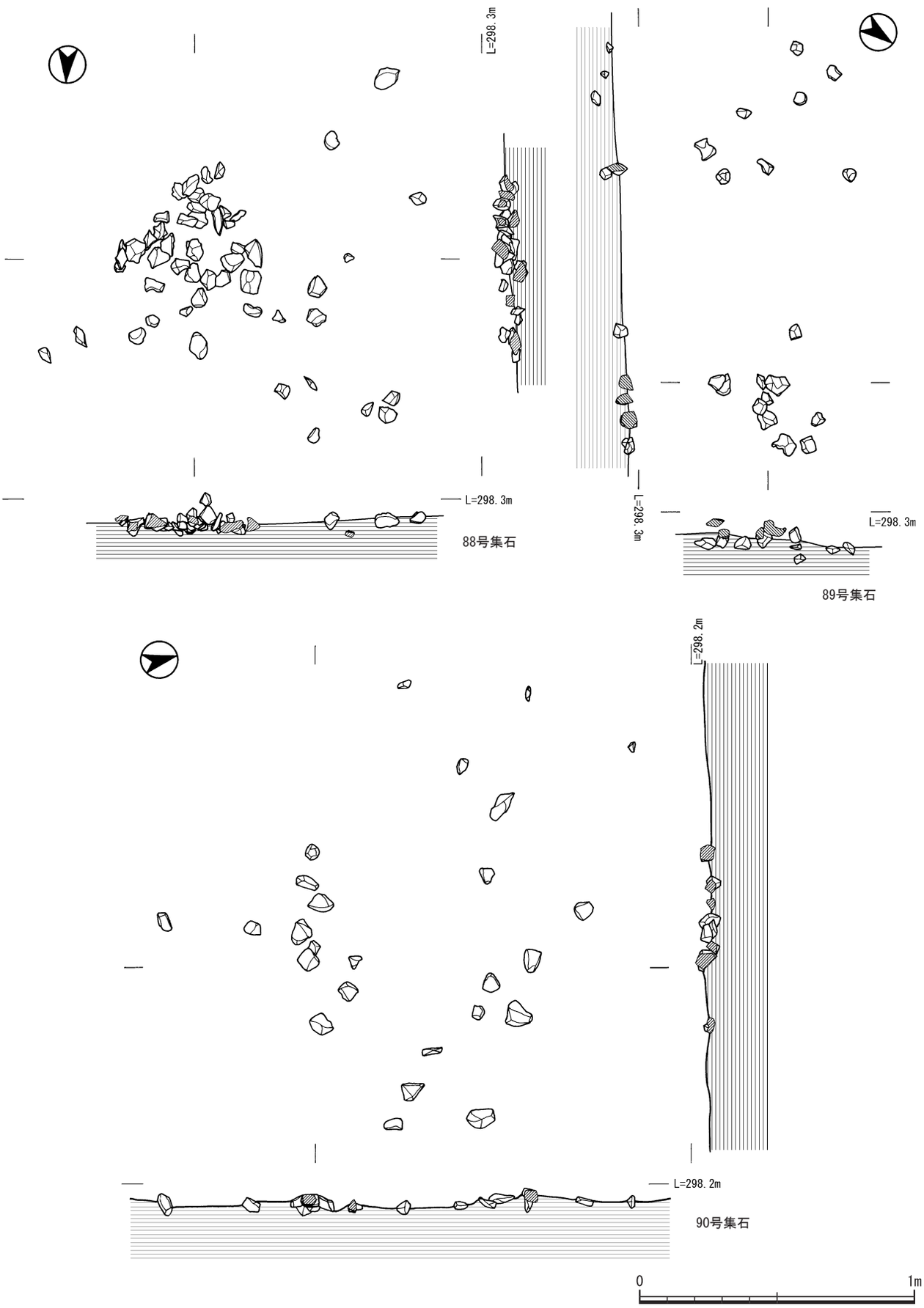
第95図　Ⅶ層遺構実測図（26）



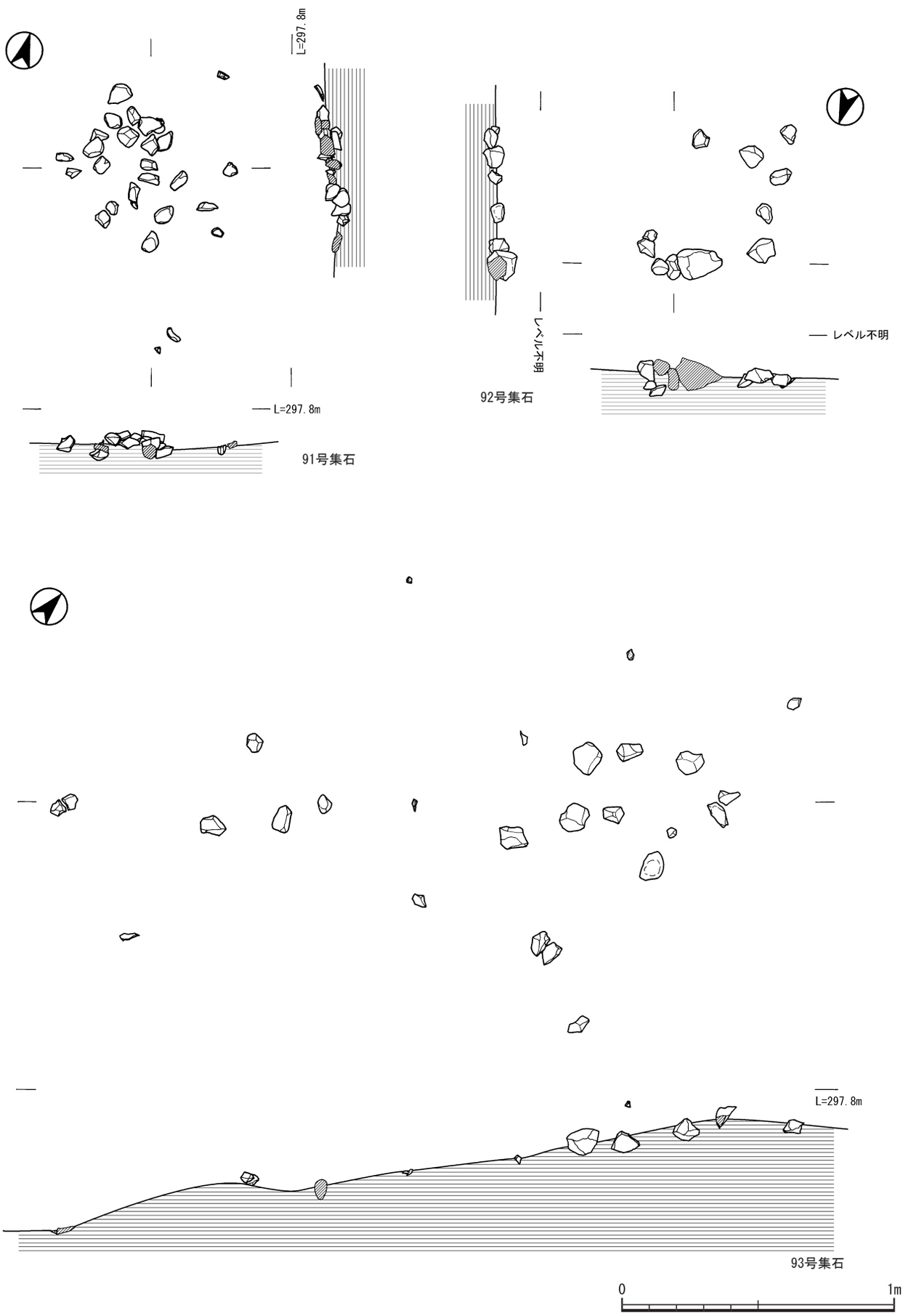
第96図　Ⅶ層遺構実測図（27）



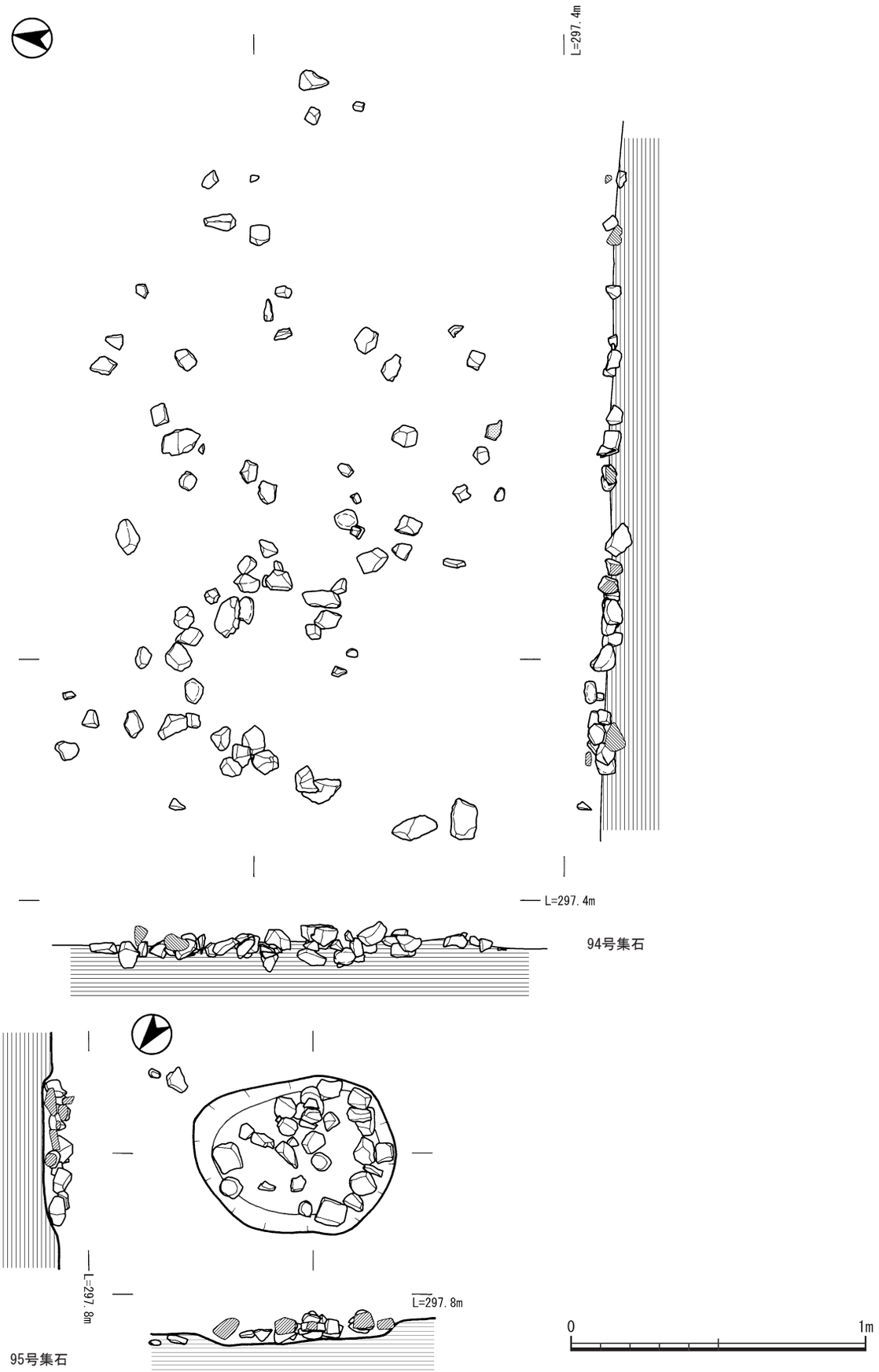
第97図　Ⅶ層遺構実測図（28）



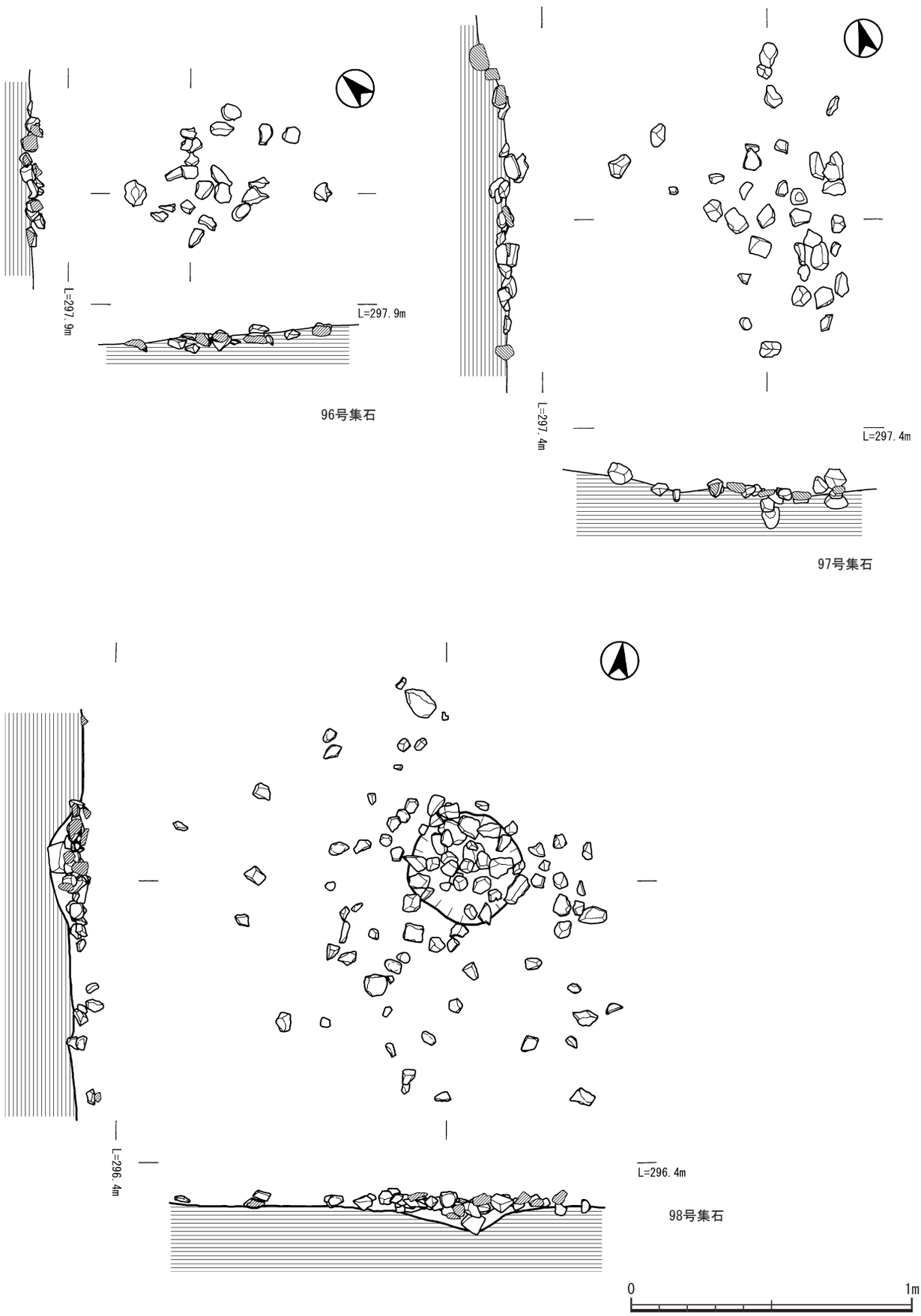
第98図　Ⅶ層遺構実測図（29）



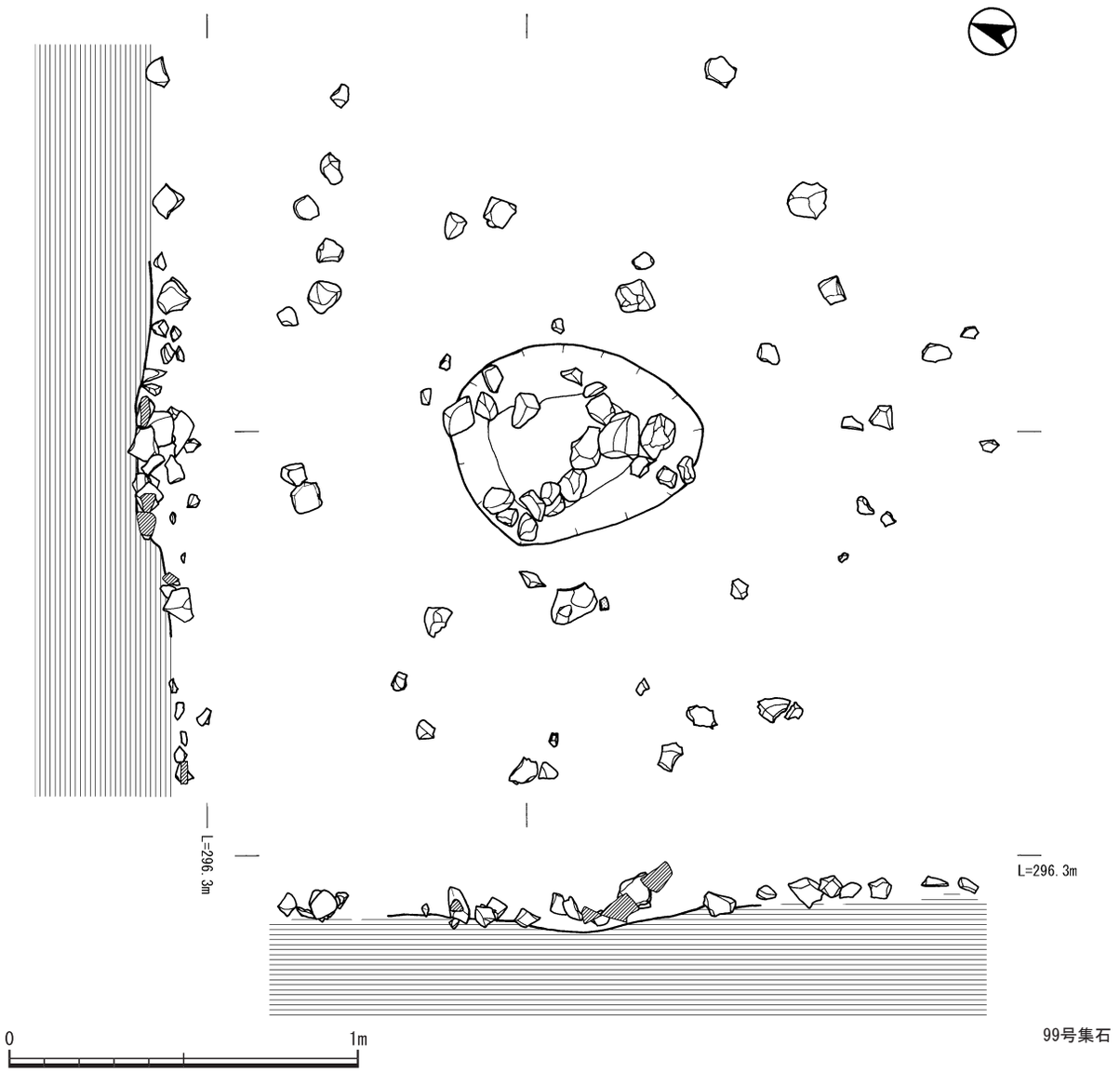
第99図　Ⅶ層遺構実測図（30）



第100図　Ⅶ層遺構実測図（31）



第101図　Ⅶ層遺構実測図（32）

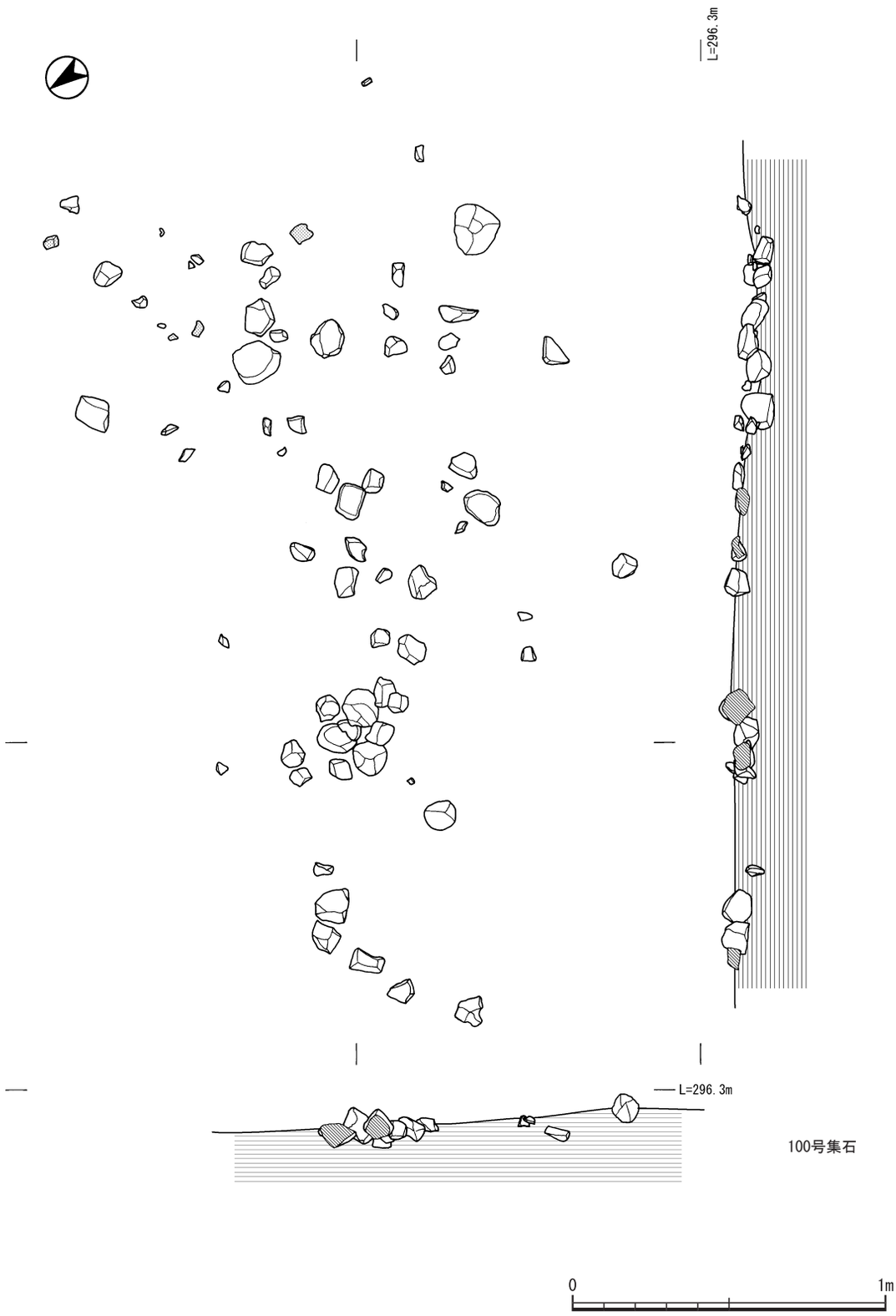


第102図　Ⅶ層遺構実測図（33）

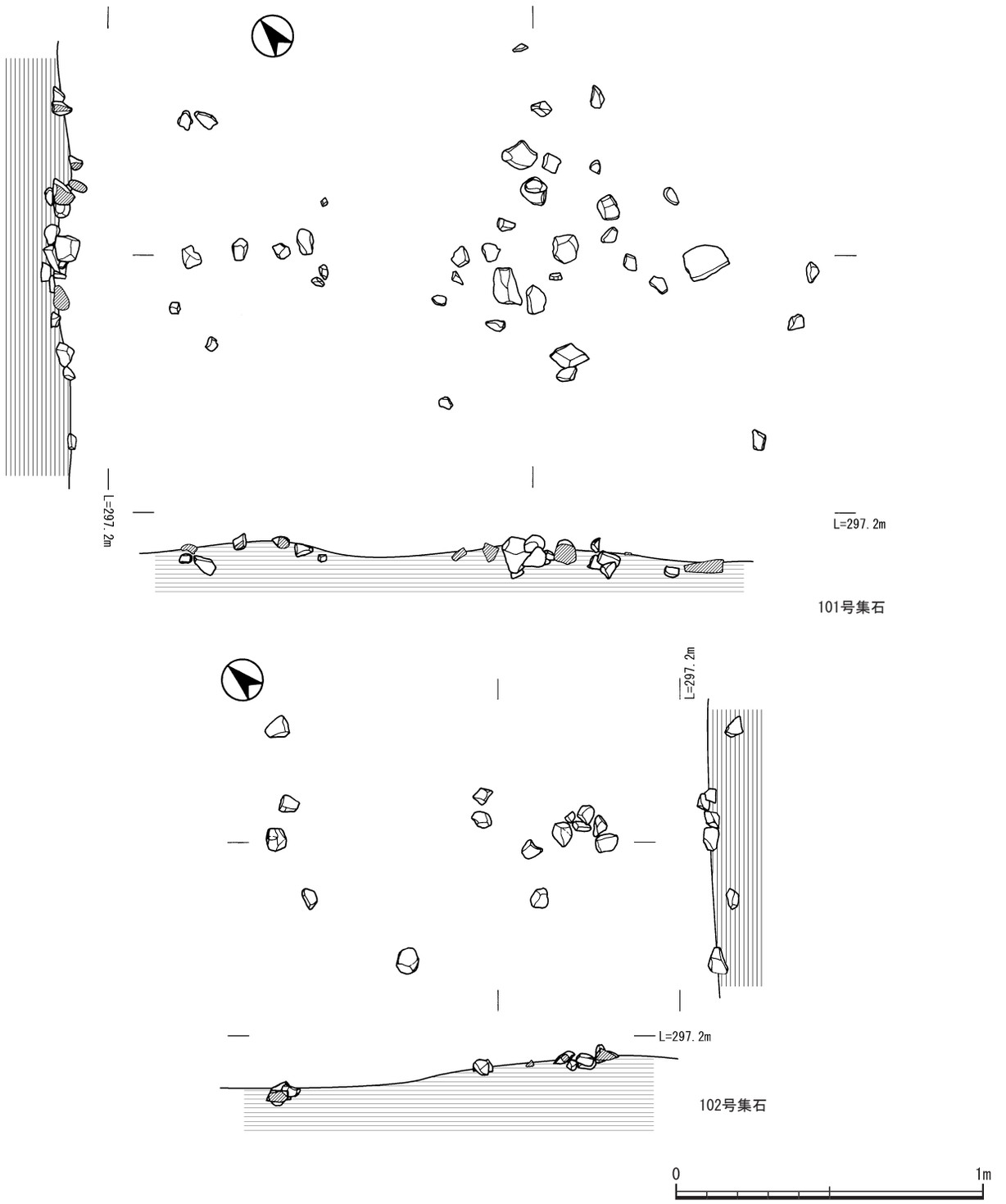
第22表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（13）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
76	90	ⅢB	177	106	–	–	–	–	–
77	90	Ⅱ	103	101	–	–	–	–	–
78	91	ⅢB	194	156	–	–	–	–	–
79	91	ⅢB	142	84	–	–	–	–	–
80	92	ⅢB	292	150	–	–	–	–	–
81	93	ⅠC	223	113	1	34	29	7	5
82	93	ⅢB	154	121	–	–	–	–	–
83	94	ⅢB	285	236	–	–	–	–	–

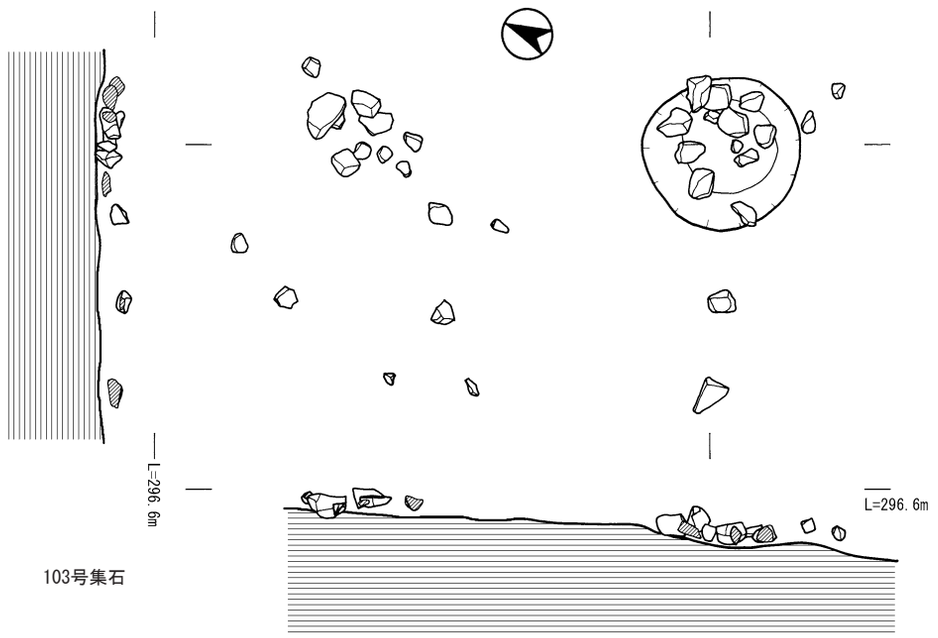
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
84	95	Ⅱ	213	137	–	–	–	–	–
85	95	ⅢB	162	148	–	–	–	–	–
86	96	ⅢA	310	184	–	–	–	–	–
87	97	Ⅱ	262	208	–	–	–	–	–
88	98	Ⅱ	142	136	–	–	–	–	–
89	98	ⅢB	151	59	–	–	–	–	–
90	98	ⅢB	174	164	–	–	–	–	–
91	99	ⅢA	104	67	–	–	–	–	–



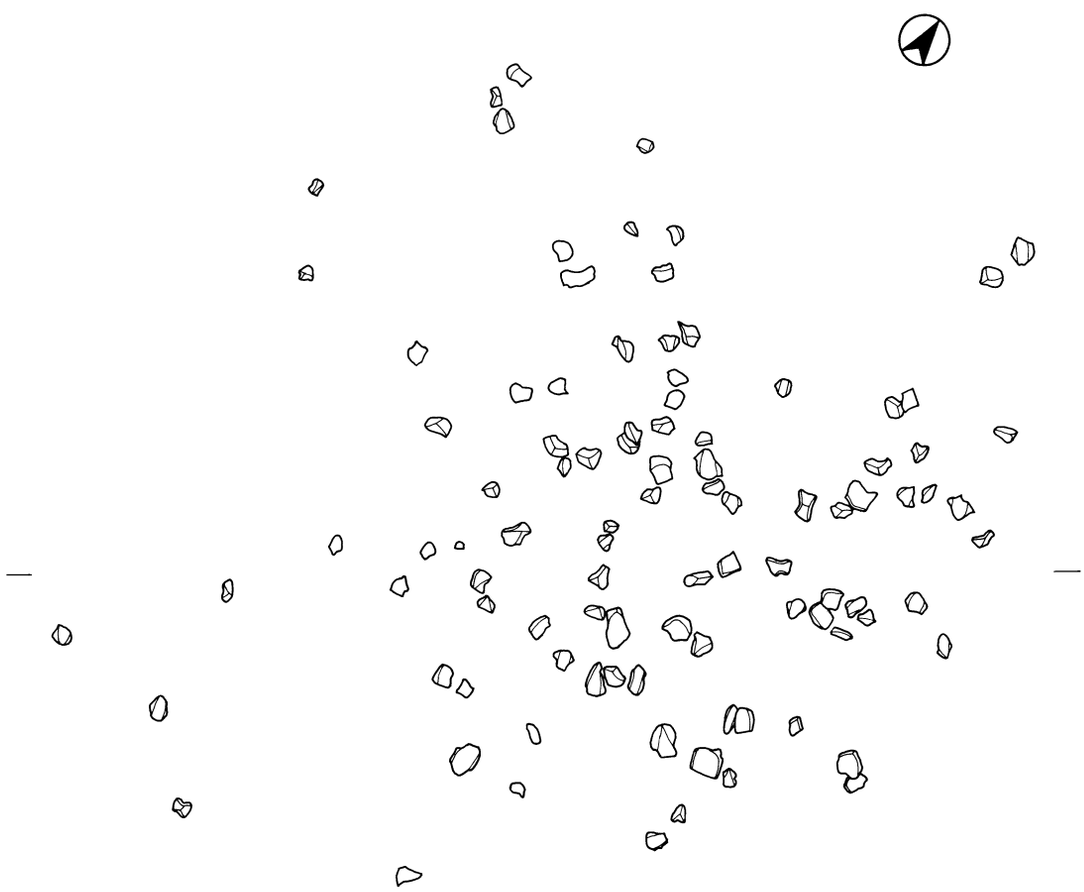
第103図　Ⅶ層遺構実測図（34）



第104図　Ⅶ層遺構実測図（35）

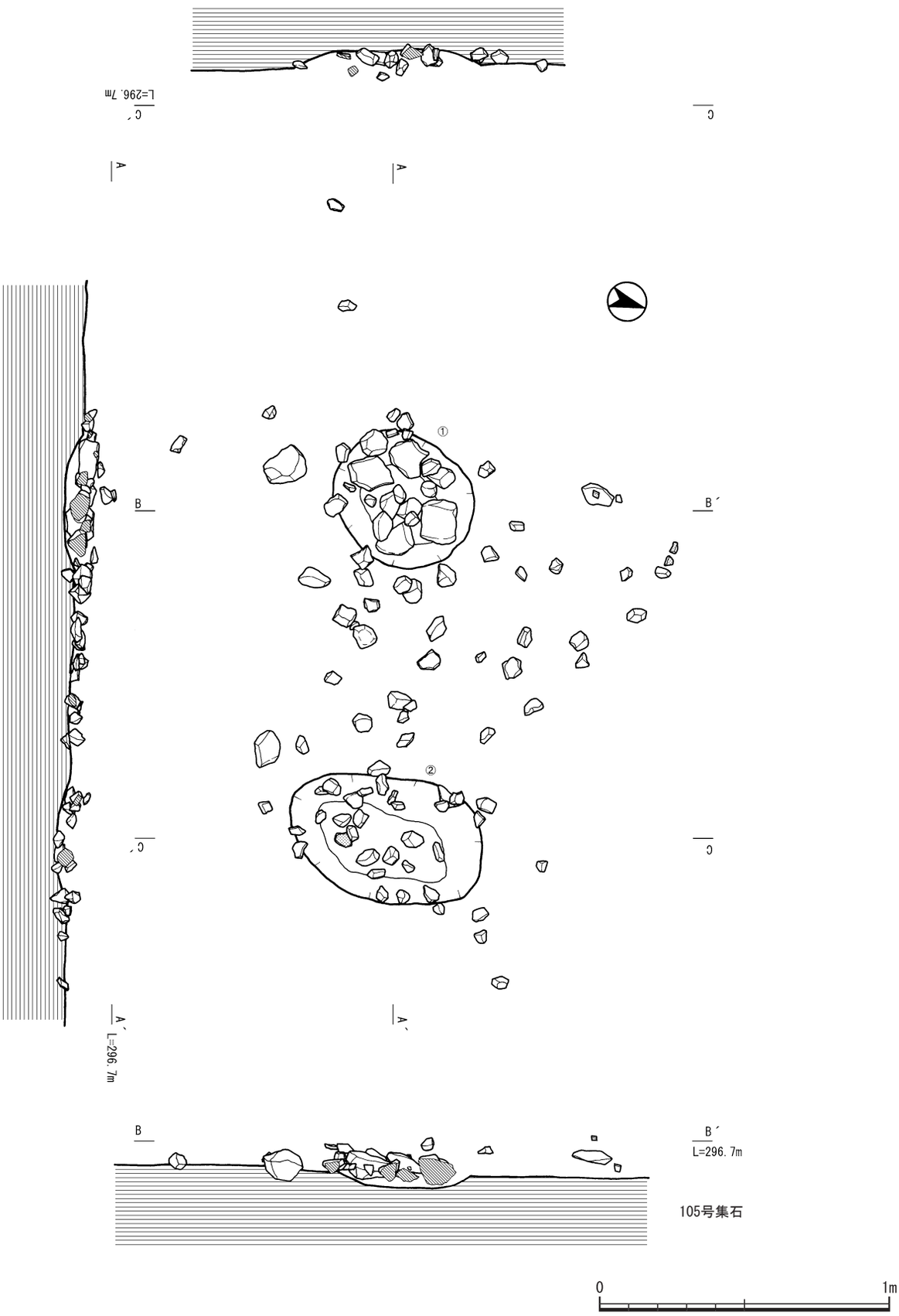


103号集石

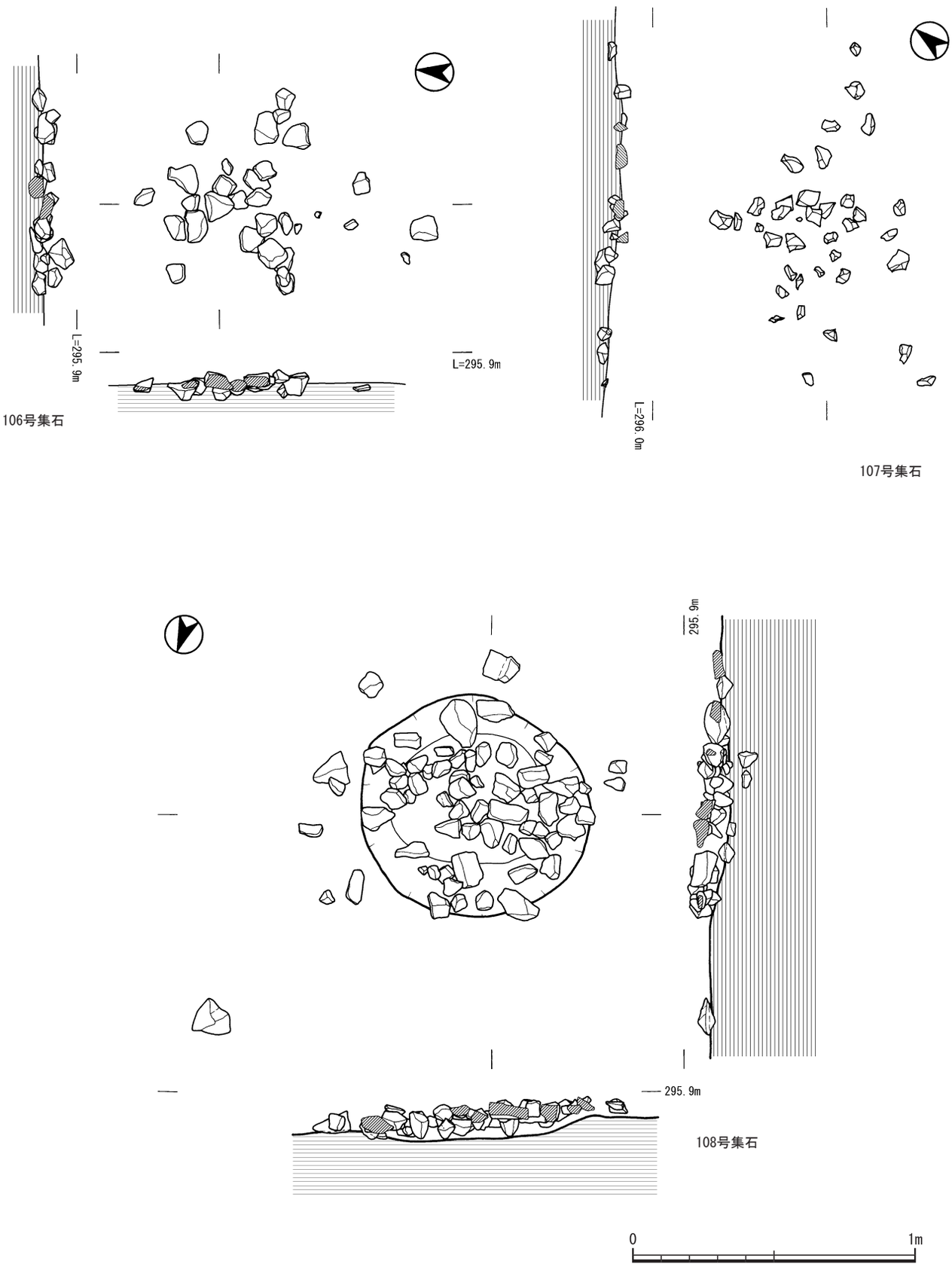


104号集石

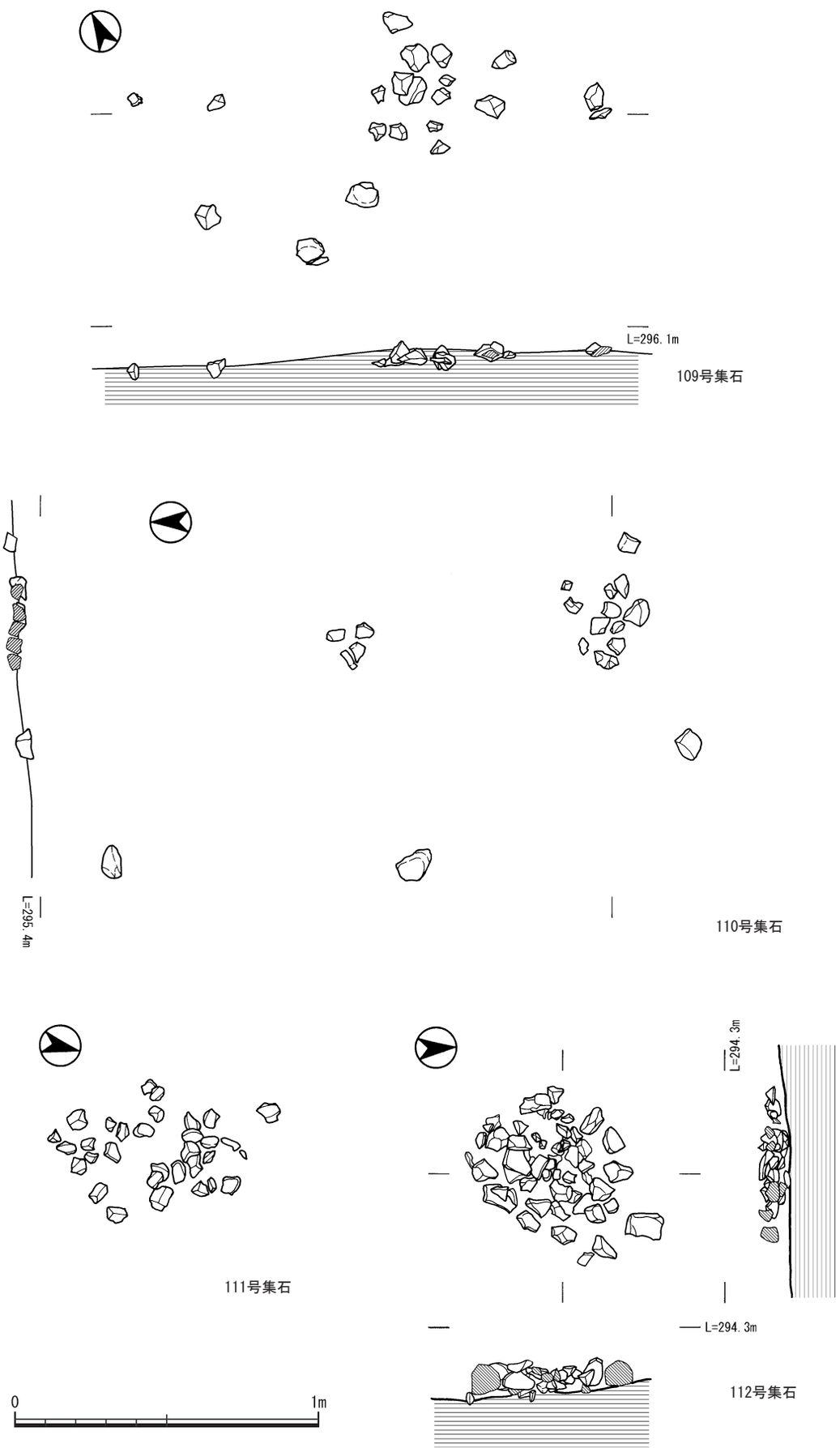
第105図　Ⅶ層遺構実測図（36）



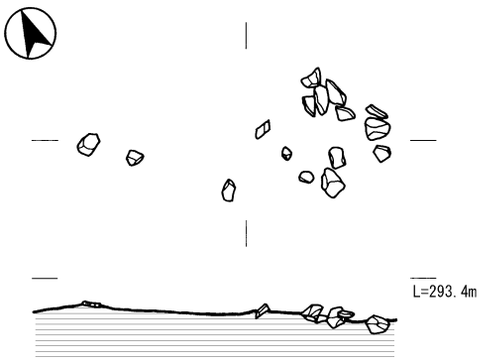
第106図　Ⅶ層遺構実測図（37）



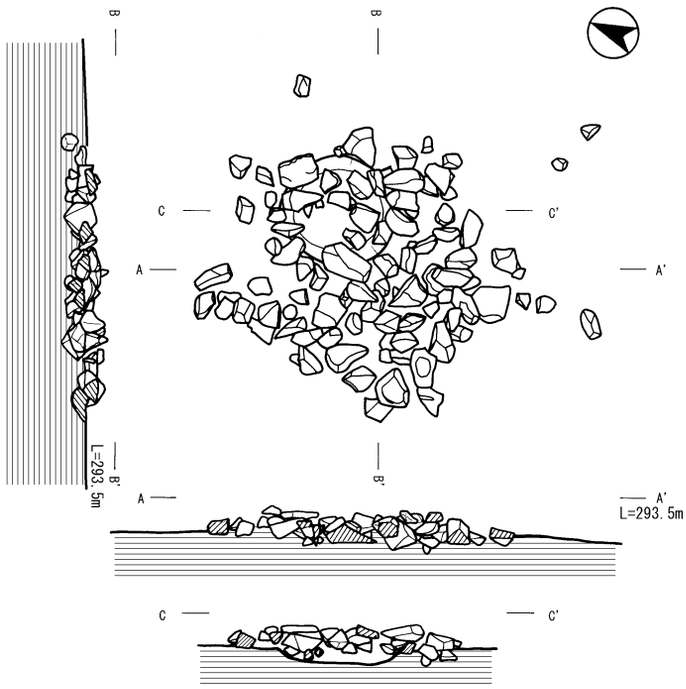
第107図　Ⅶ層遺構実測図（38）



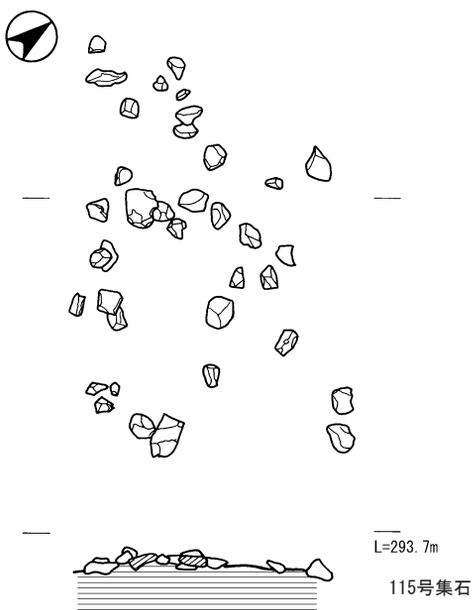
第108図　Ⅶ層遺構実測図（39）



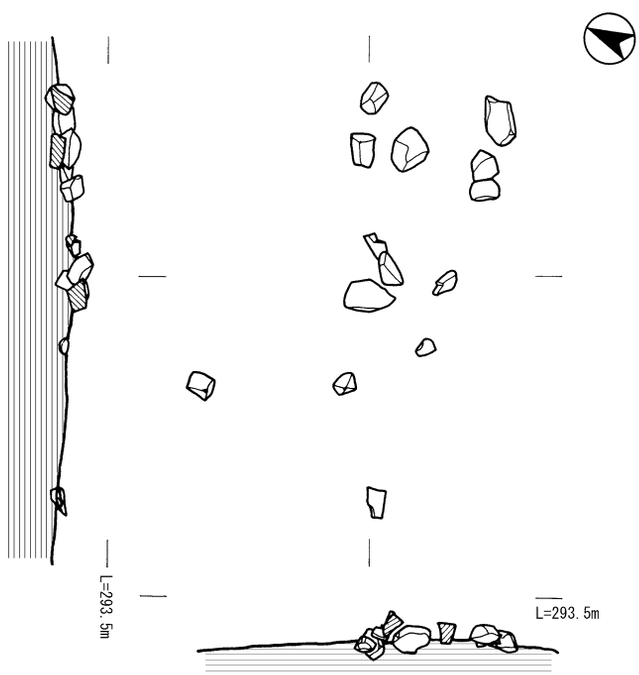
113号集石



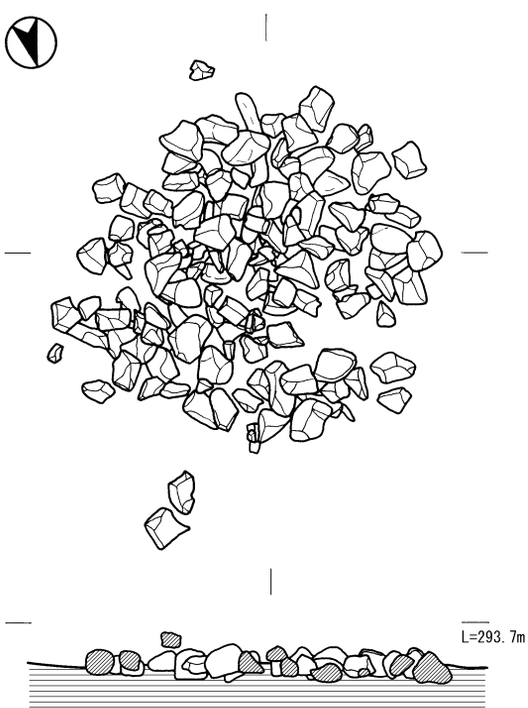
114号集石



115号集石

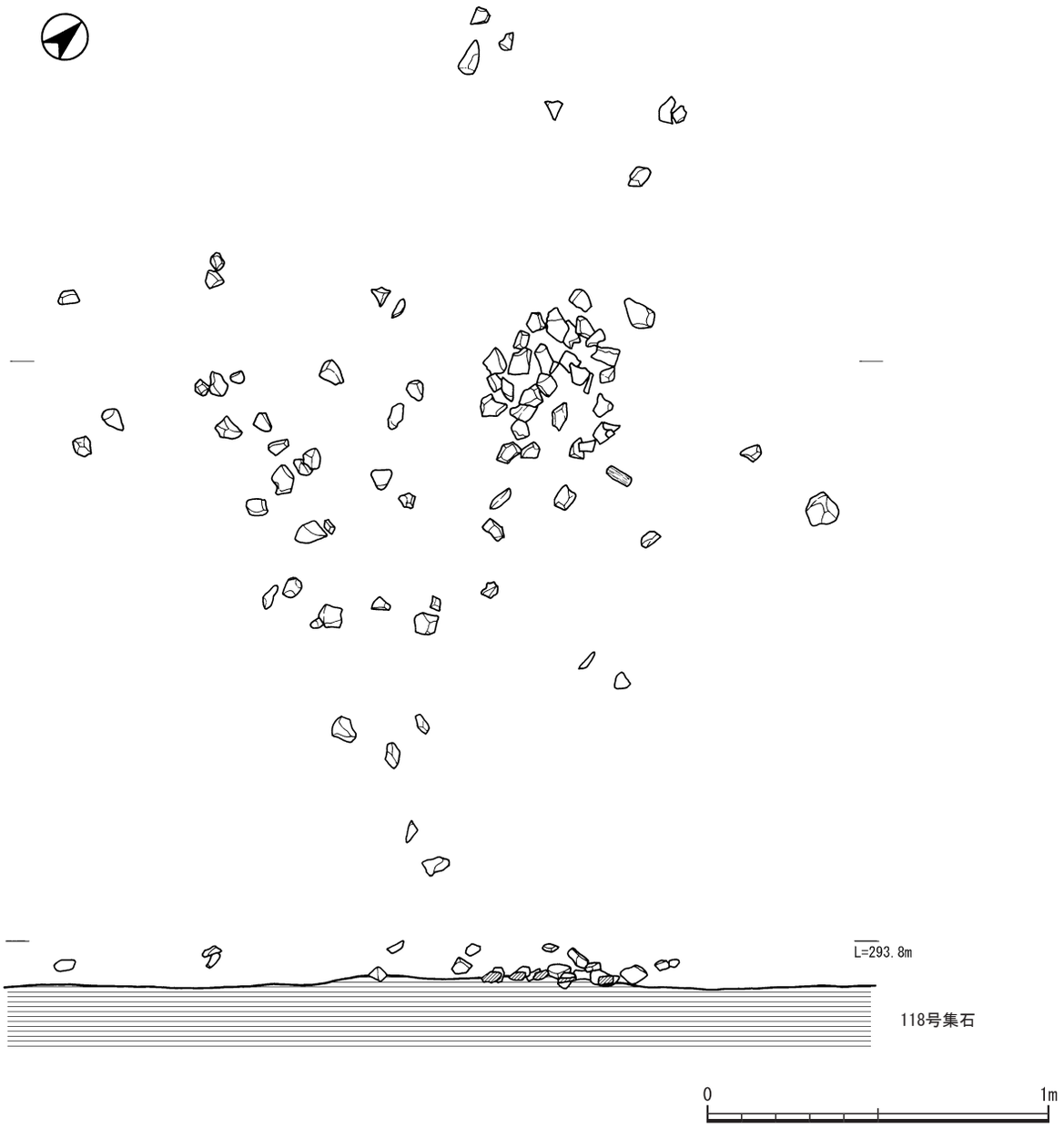


117号集石



116号集石

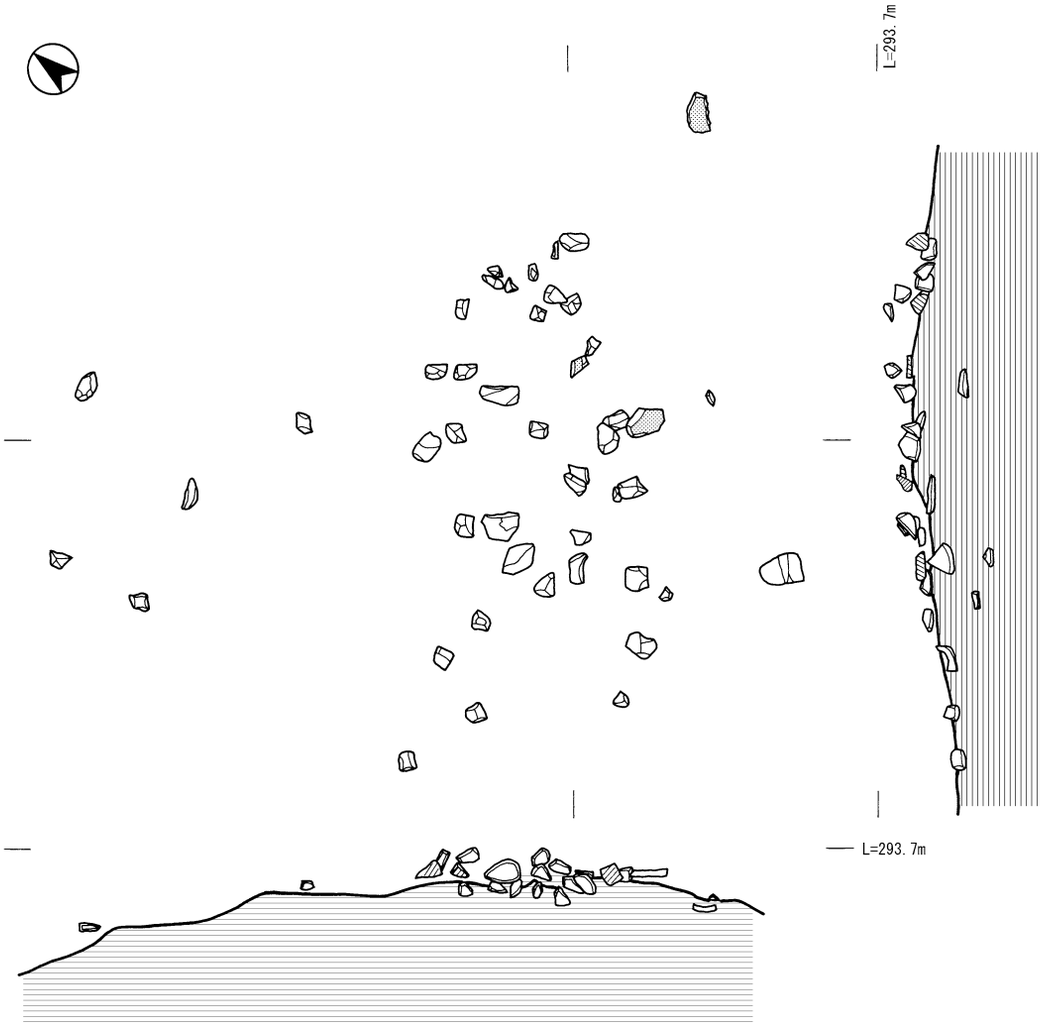
第109図　Ⅶ層遺構実測図（40）



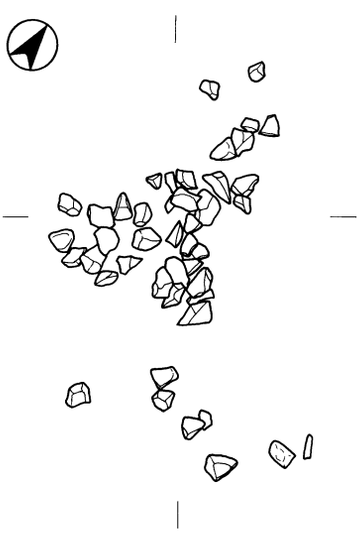
第110図　Ⅶ層遺構実測図（41）

第23表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（14）

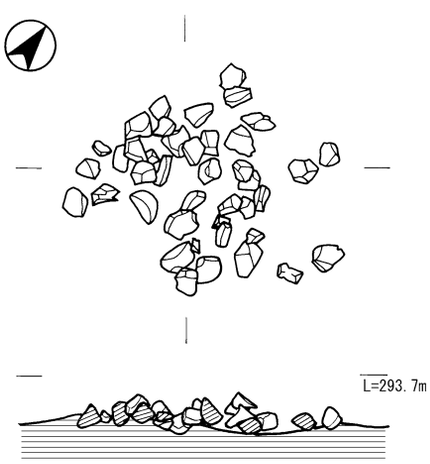
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
92	99	ⅢB	58	58	－	－	－	－	－
93	99	ⅢB	276	167	－	－	－	－	－
94	100	ⅢB	261	154	－	－	－	－	－
95	100	ⅠB	84	55	1	70	54	9	31
96	101	ⅢB	74	51	－	－	－	－	－
97	101	ⅢB	112	86	－	－	－	－	－
98	101	ⅠA	158	153	1	42	35	12	33
99	102	ⅠB	209	207	1	74	57	9	20
100	103	ⅢA	303	190	－	－	－	－	－
101	104	ⅢB	212	132	－	－	－	－	－
102	104	ⅢB	116	84	－	－	－	－	－
103	105	ⅠB	165	96	1	42	40	7	12
104	105	ⅢB	262	220	－	－	－	－	－
105	106	ⅠA	273	175	1	48	45	7	20
					2	54	43	5	27
106	107	ⅢB	107	73	－	－	－	－	－
107	107	ⅢB	121	80	－	－	－	－	－
108	107	ⅠA	154	136	1	81	78	6	58
109	108	ⅢB	160	84	－	－	－	－	－
110	108	ⅢB	196	114	－	－	－	－	－



119号集石

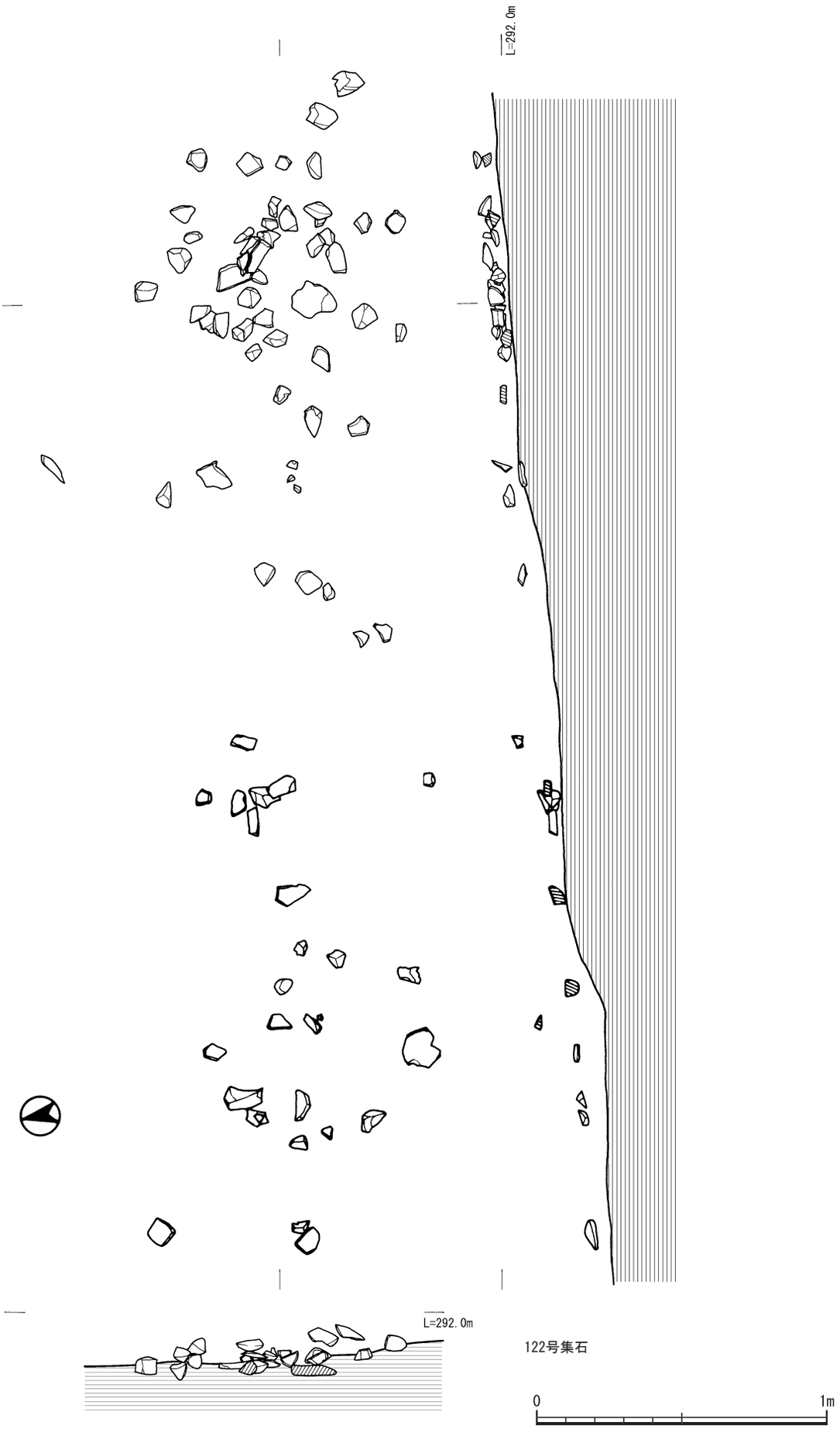


120号集石



121号集石

第111図　Ⅶ層遺構実測図（42）



第112図　Ⅶ層遺構実測図（43）

131号集石遺構(第119図)

耳取遺跡Ｊ－７区で検出した。131cm×118cmの範囲に礫が確認できるが，①明瞭な掘り込み遺構32cm×28cm，深さ約16cmを伴うものと，②４cm程の浅い掘り込み遺構の礫群の２か所に区分される。①の掘り込み遺構には10cm程の礫が充填し，②の礫群は円形の形状を残している。明確な説明材料は持ち合わせていないが，これらが一連で機能したものと判断している。礫の大半は被熱及び破砕し，礫の間には炭化物も確認された。ＩＡ類

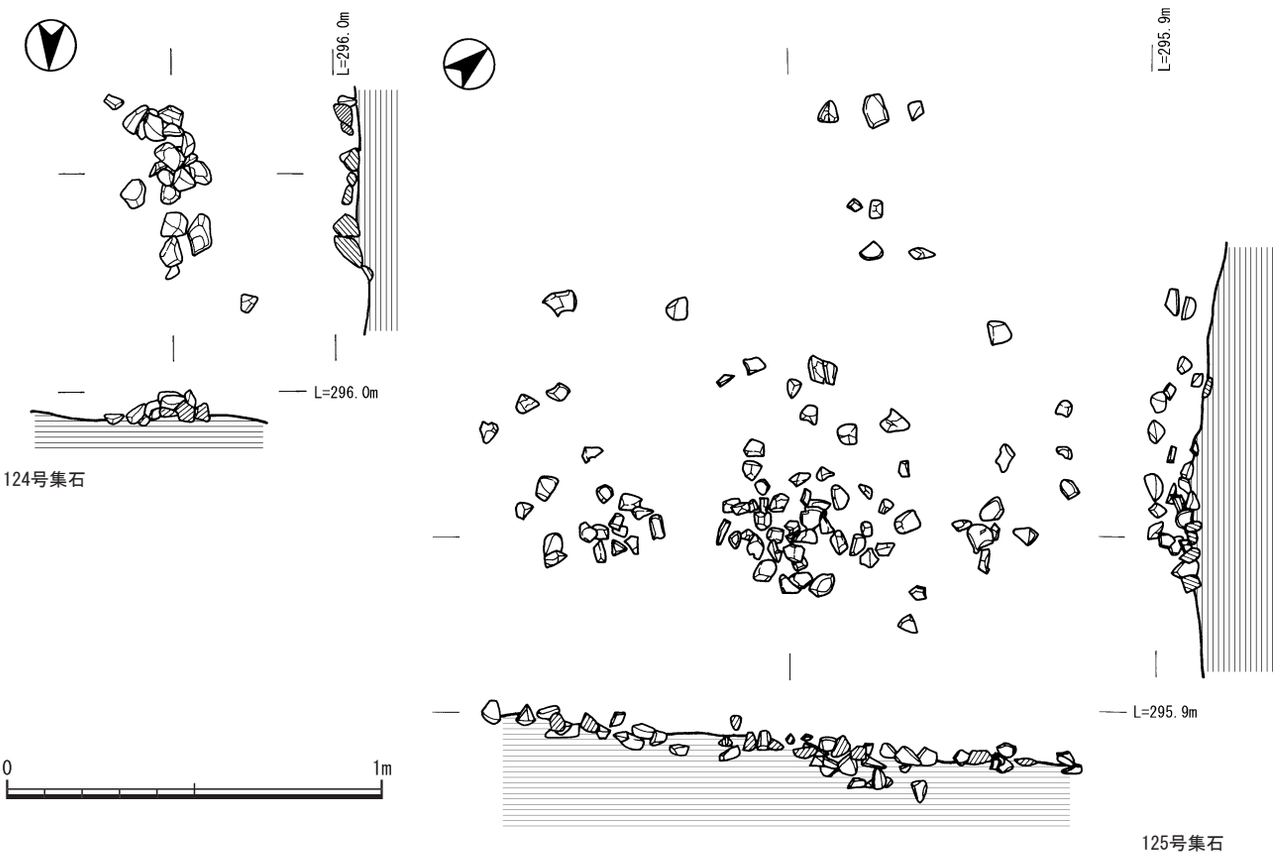
132号集石遺構(第120図)

耳取遺跡Ｊ－６・７区のⅦ層上面で検出した。187cm×166cmの範囲で礫を確認し，範囲内に38cm×38cm，深さ10cmの掘り込み遺構がある。遺構内に残る礫は少なく，掻き出されたとみられる礫が周辺に拡散している。礫は輝石安山岩で，周辺には炭化物が点在する。ＩＢ類

133号集石遺構(第120図)

耳取遺跡Ｉ－６区で検出し，拳大の輝石安山岩を使用し，ほとんどが赤化し破砕している。礫の下位には炭化物が多く見られるが，炭化物が最も集中する場所と礫は重ならない。残される礫が散漫なことも併せて，礫が持ち出された可能性もある。ⅢＡ類

第113図　Ⅶ層遺構実測図（44）



第114図　Ⅷ層遺構実測図（45）

134号集石遺構(第121図)

耳取Ｊ－６区で検出し，133号集石遺構と隣接する。83cm×66cm内に，拳大の礫55個を確認している。掘り込み遺構が存在した可能性は高い。Ⅱ類

136号集石遺構(第121図)

耳取遺跡Ｊ－６区で検出し，隣接して131号と132号集石遺構がある。165cm×129cm内に礫が広がり，中央部に40cm×27cm，深さ９cmの浅い掘り込み遺構がある。比較的大きな礫を使用し，掘り込み遺構周辺にも礫が分布し，遺構を中心に拡散した状況が観察される。ＩＡ類

143号集石遺構(第124図)

耳取遺跡Ｉ－５区で検出した。径73cm×55cm，深さ24cmの掘り込み遺構に拳大の礫が充填している。礫は輝石安山岩が使用され，被熱で破砕した礫も確認される。炭化物は礫の下位に確認される。ＩＡ類

150号集石遺構(第130図)

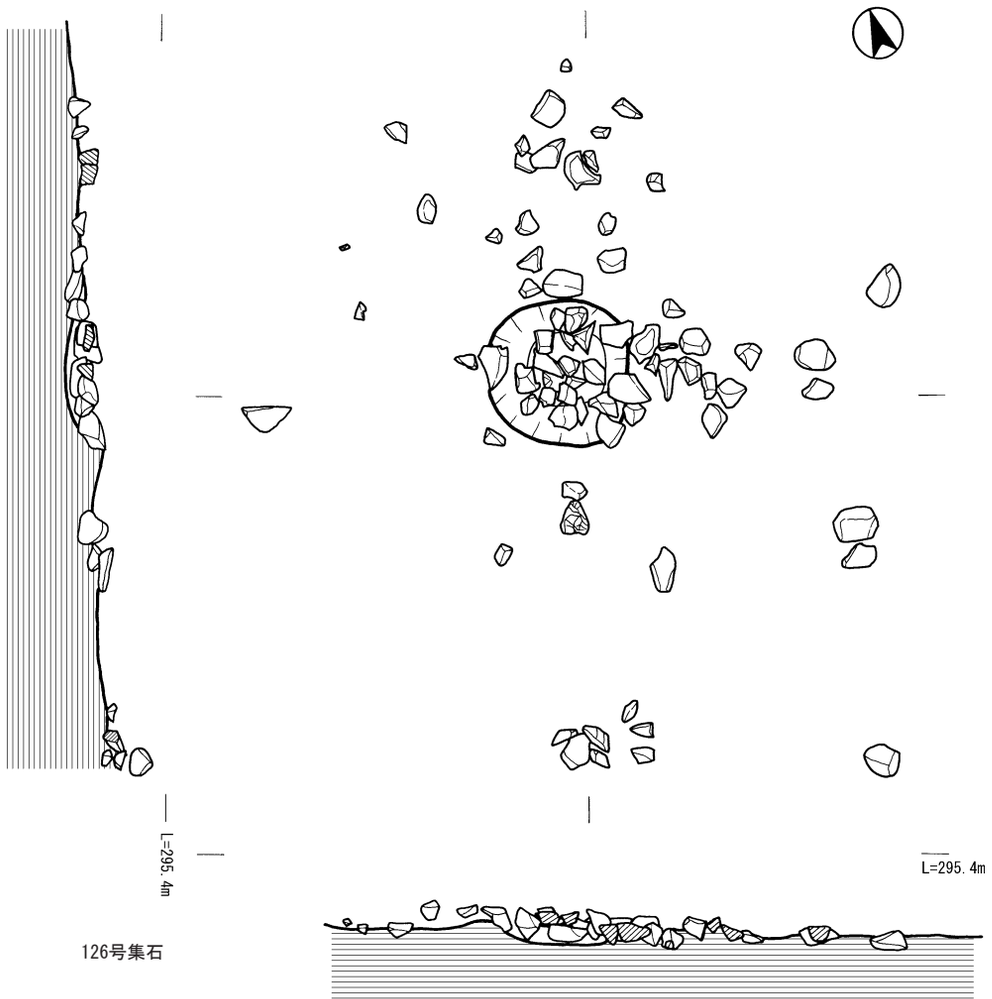
耳取遺跡Ｈ－５・６区で検出し，発見当初は礫の集中と見られたが，その後，礫群の下位で掘り込み遺構を検出した。礫は250cm×235cmの範囲に分布し，中央部に55cm×49cm，深さ12cmの掘り込み遺構と37個の礫を確認している。周辺に散逸する礫は20cm以上の比較的大きな礫もある。炭化物は掘り込み遺構周辺に集中し，２か所の集中箇所も確認された。ＩＡ類

151号集石遺構(第131図)

耳取遺跡Ｇ・Ｈ－６区で検出し，152号集石遺構と隣接する。礫は367cm×221cmの広範囲に広がり，10cm程の角礫181個が確認される。ⅢＡ類

第24表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（15）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
111	108	ⅢA	77	48	－	－	－	－	－
112	108	Ⅱ	66	59	－	－	－	－	－
113	109	ⅢB	83	36	－	－	－	－	－
114	109	ＩA	109	92	1	31	30	4	16
115	109	ⅢB	112	75	－	－	－	－	－
116	109	Ⅱ	131	106	－	－	－	－	－
117	109	ⅢB	117	88	－	－	－	－	－



152号集石遺構(第132図)

耳取遺跡G-６区で検出した。上面観は100cm×100cm程の円形状に拳大の礫が密に集中し，礫群の下位から55cm×49cm，深さ12cmの掘り込み遺構が検出された。礫群の中央部に若干礫が粗になる状況が観察され，礫移動の可能性を提示している。なお，礫密集帯から外側の礫は，二次的に拡散したと見られる。ＩＡ類

155号集石遺構(第135図)

耳取遺跡G-５区で検出し，154～151・148号集石遺構の５基が傾斜に沿って直線状に並んでいる。289cm×196cmの範囲に比較的大きめの142個の礫が分布し，20cmを越す礫も認められる。明確な掘り込み遺構を確認していないが，残存状況や礫の配置から掘り込み遺構の存在が想定される。Ⅱ類

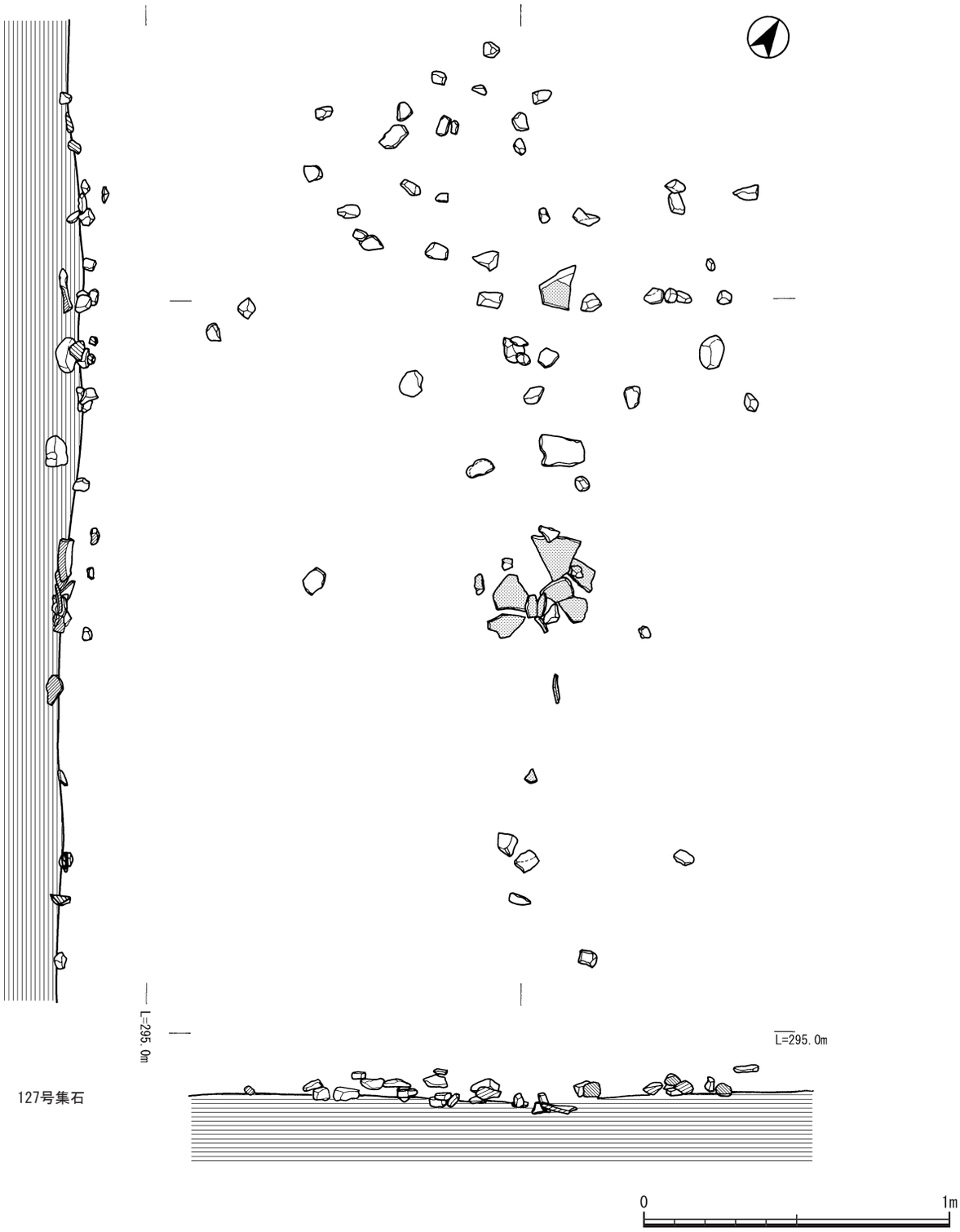
161号集石遺構(第139図)

耳取遺跡Ｈ-５区で検出した。この一帯は集石遺構の密集する部分で，155号・157号・158号・160号集石遺構等が一連の流れで繋がっているかのように分布している。いずれも明確な掘り込み遺構は確認されず，広範囲に礫が散礫状態で広がる状況である。しかし，これらの集石遺構は，各々明確な範囲を確保している。161号は，278cm×242cmの範囲に94個の礫が拡散した状況で確認される。ⅢＢ類

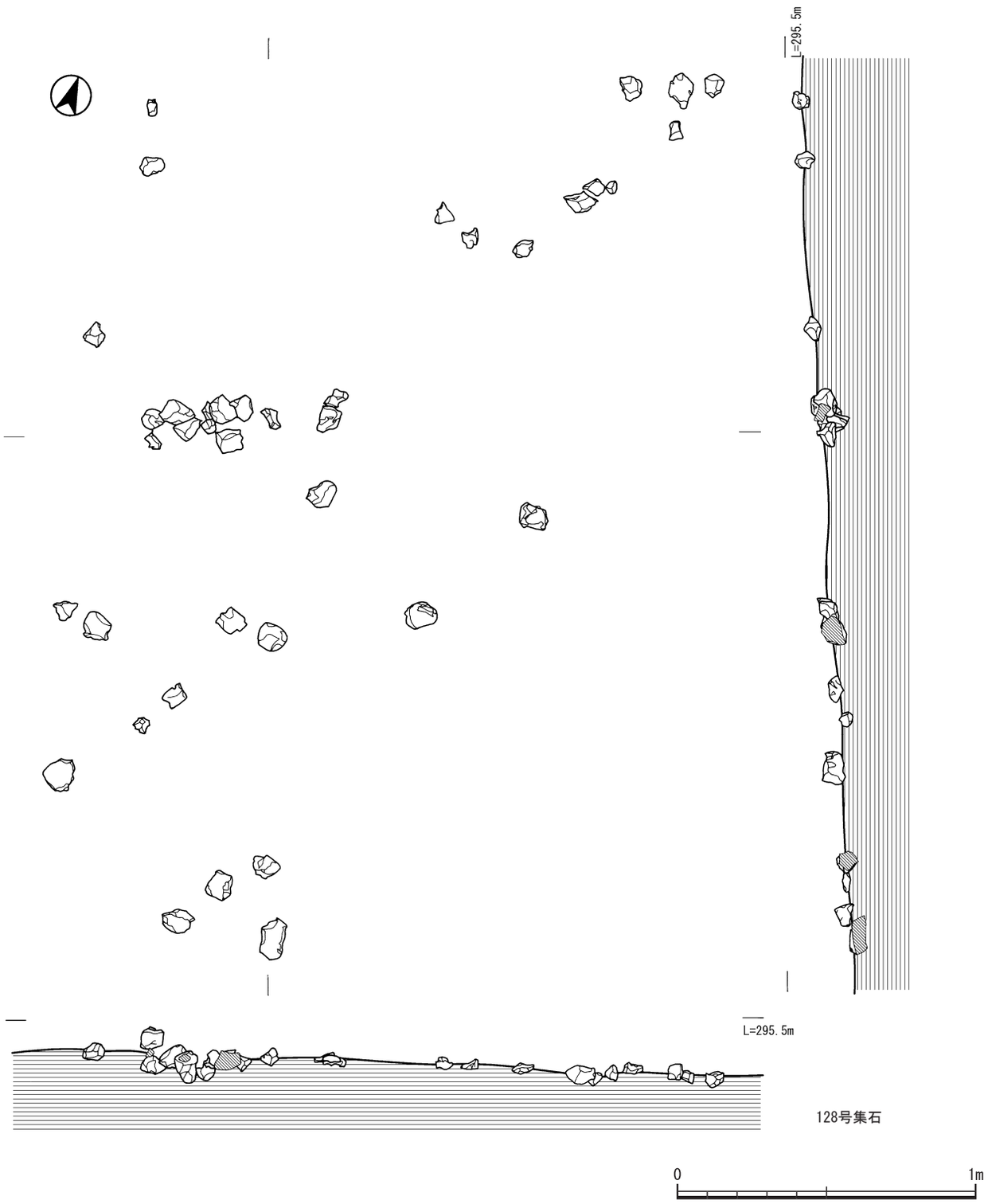
165号集石遺構(第142図)

耳取遺跡Ｈ-５区で検出した。上記の161号集石遺構と類似した構造で，礫は広範囲に分布している。166号集石遺構と接触し，307cm×234cmの範囲に195個の礫が拡散し，散乱する状況である。ⅢＢ類

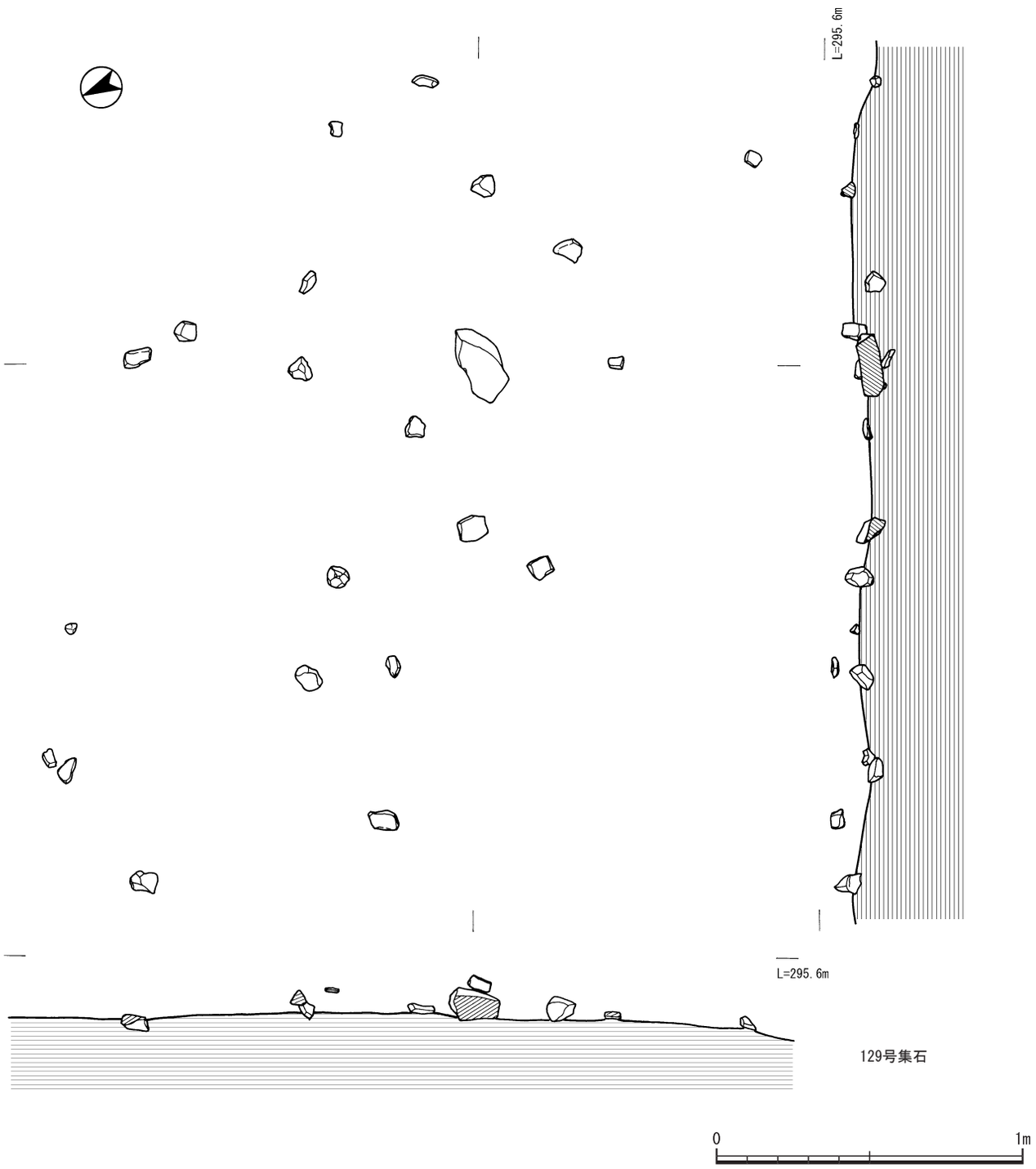
第115図　Ⅶ層遺構実測図（46）



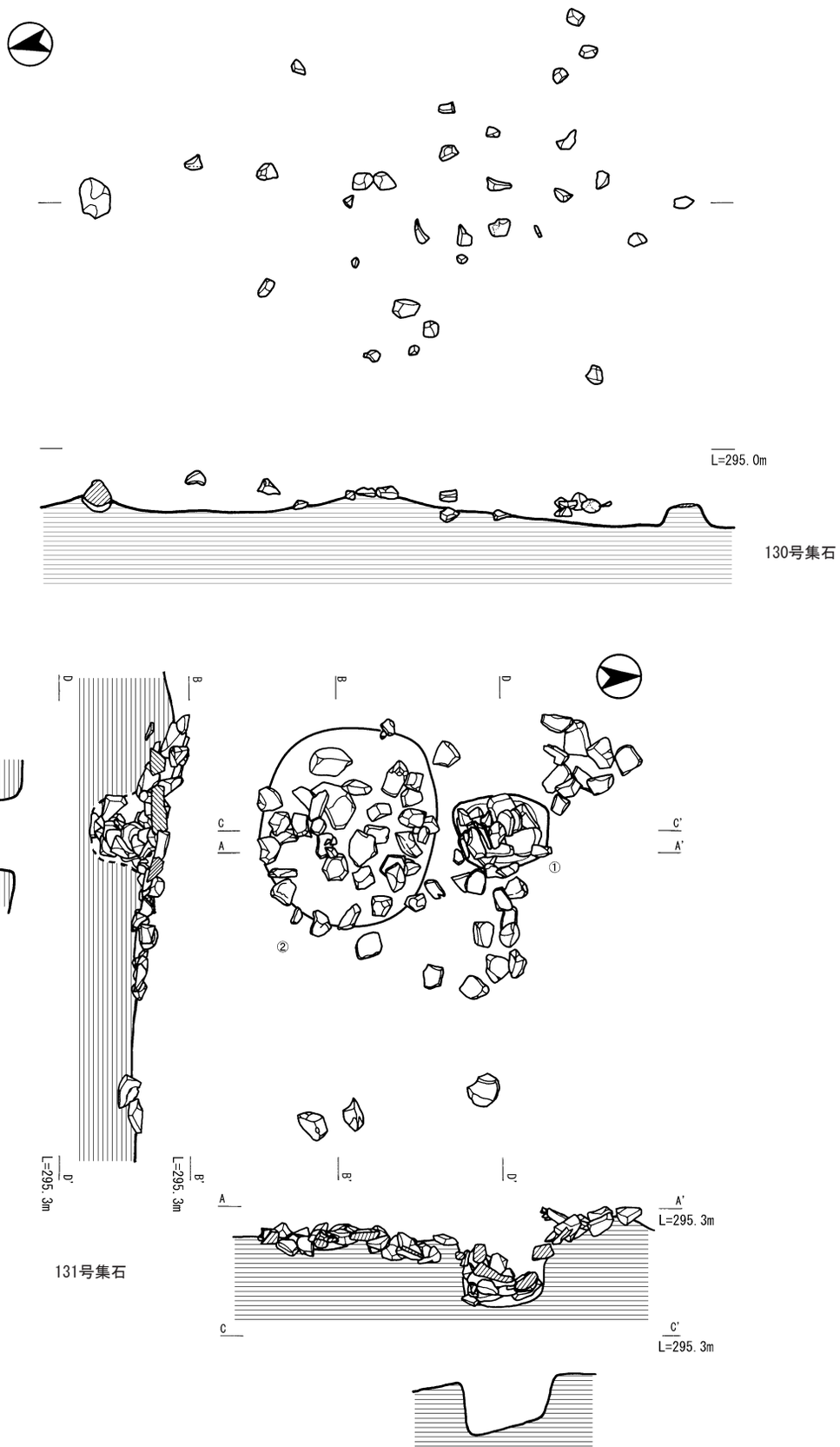
第116図　Ⅶ層遺構実測図（47）



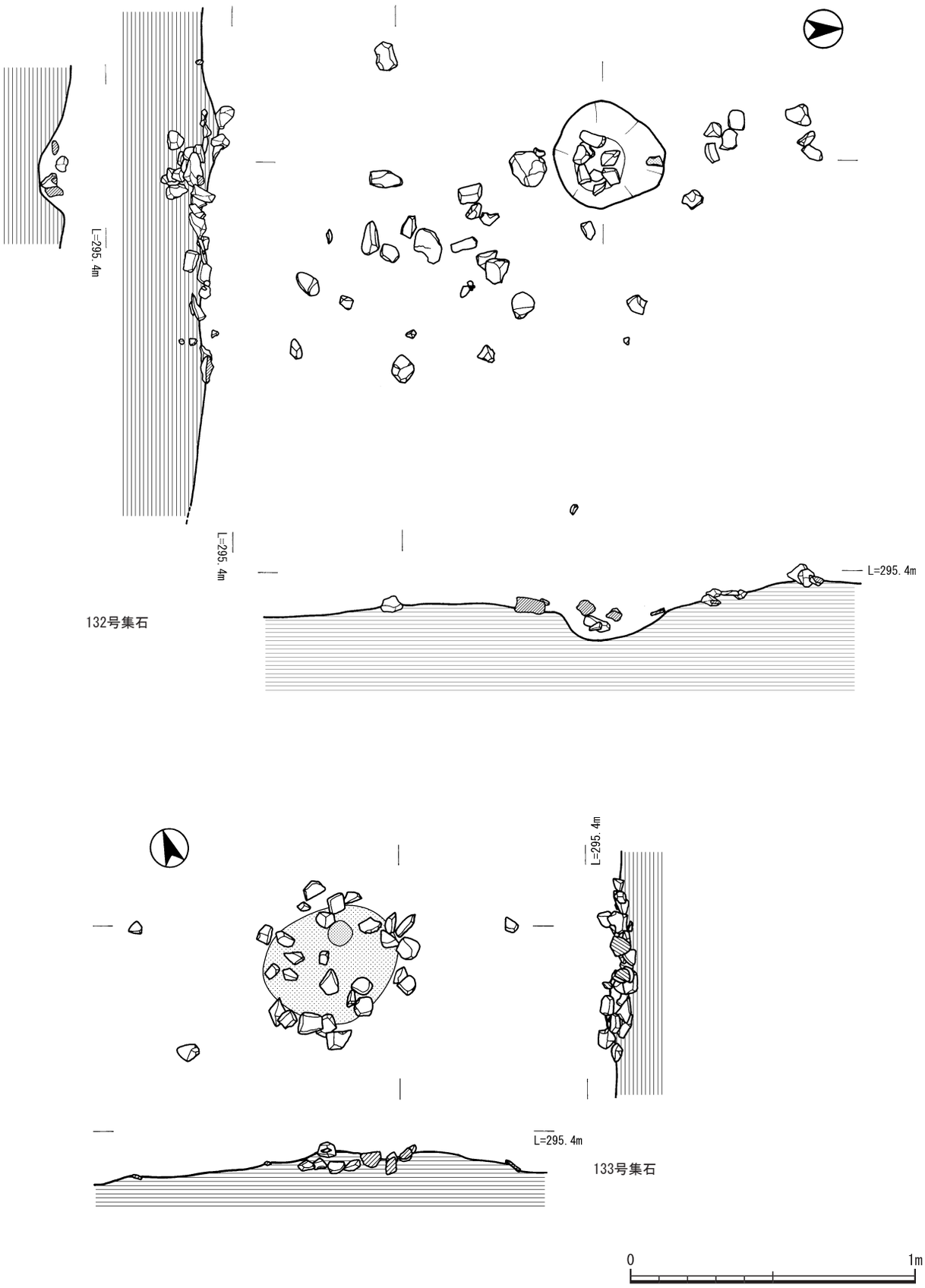
第117図　Ⅶ層遺構実測図（48）



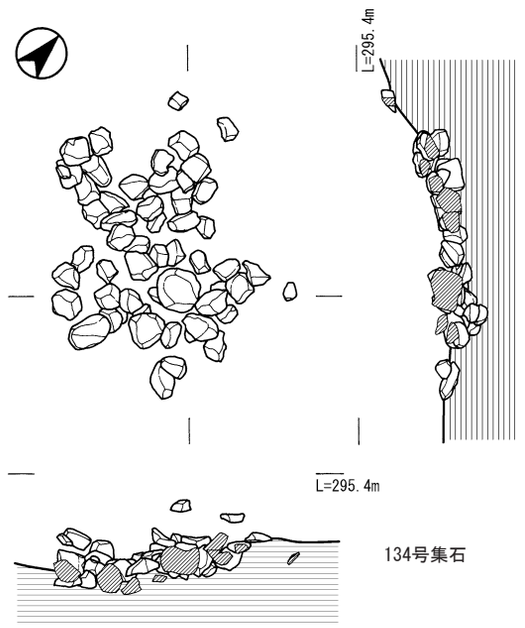
第118図　Ⅶ層遺構実測図（49）



第119図　Ⅶ層遺構実測図（50）

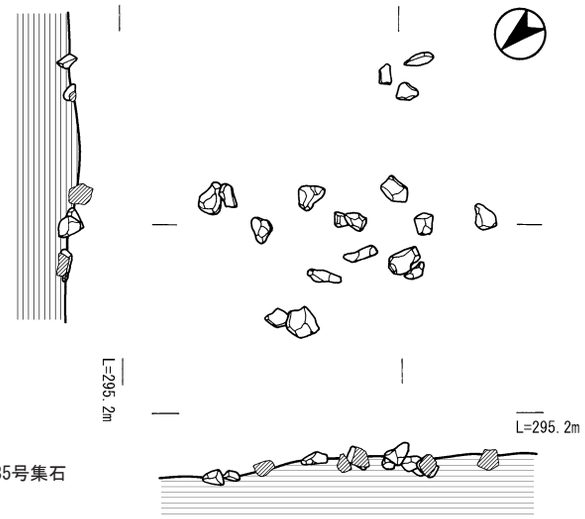


第120図　Ⅶ層遺構実測図（51）



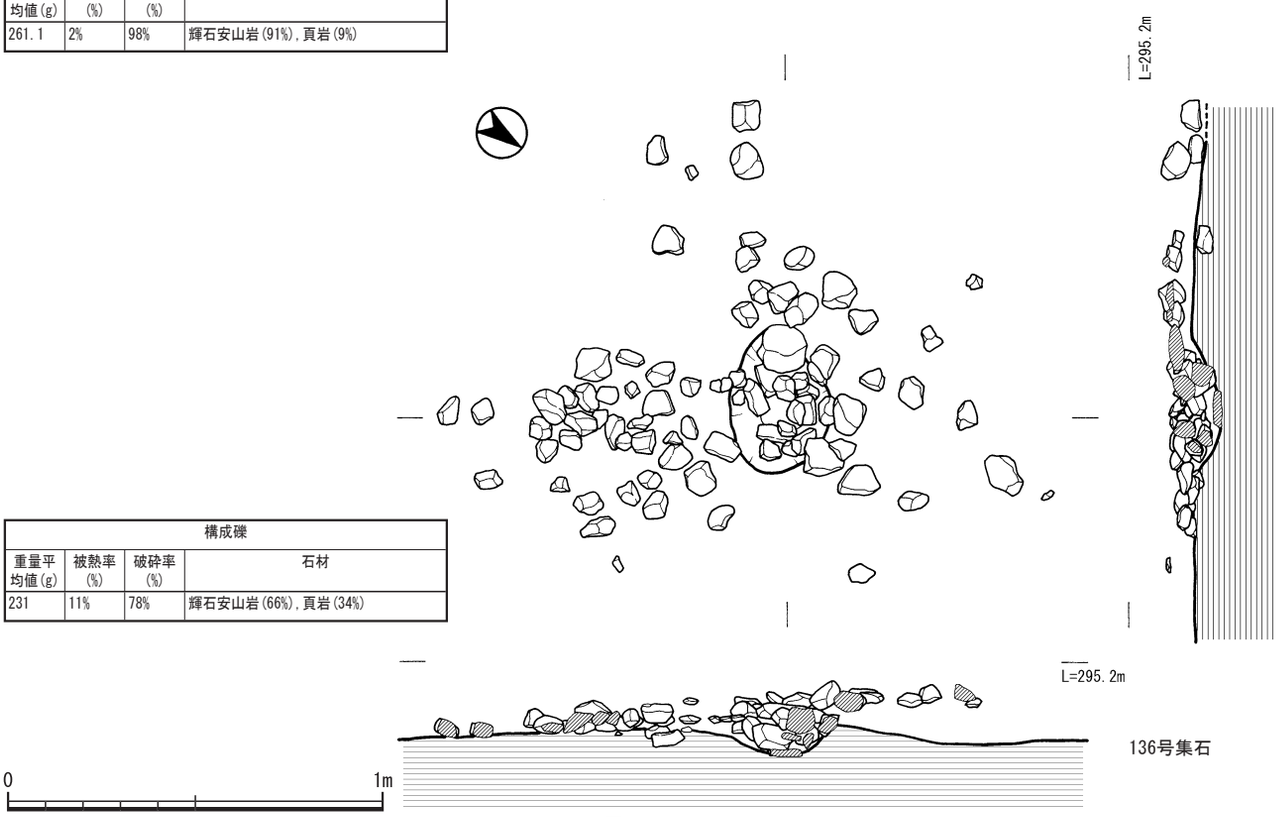
134号集石

構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
261.1	2%	98%	輝石安山岩(91%),頁岩(9%)



135号集石

構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
178.5	0%	100%	輝石安山岩(80%),頁岩(20%)



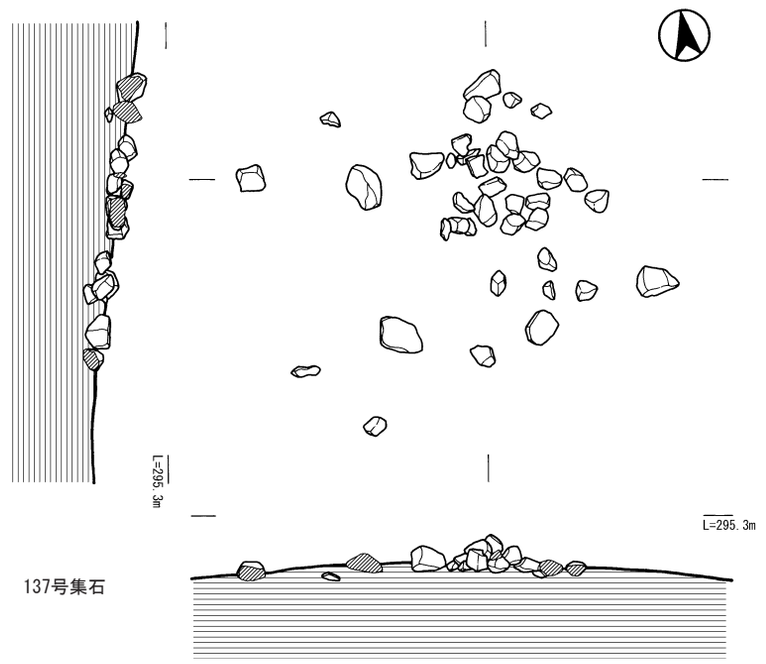
136号集石

構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
231	11%	78%	輝石安山岩(66%),頁岩(34%)

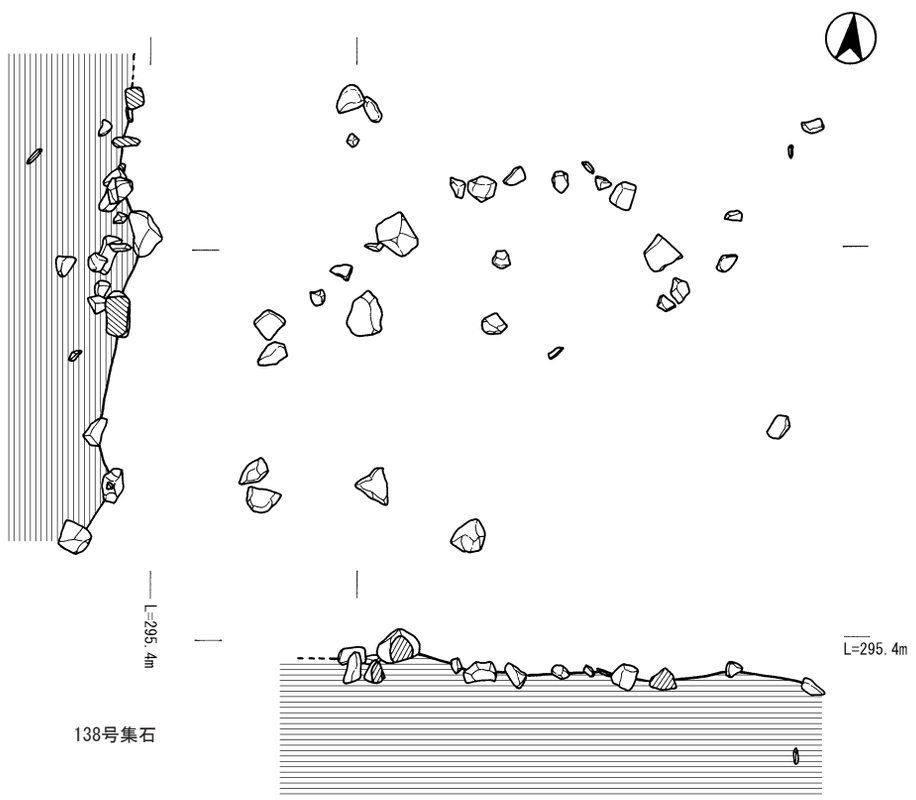
第121図　Ⅶ層遺構実測図（52）

第25表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（16）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
118	110	ⅢB	255	229	-	-	-	-	-
119	111	ⅢB	202	181	-	-	-	-	-
120	111	ⅢA	112	71	-	-	-	-	-
121	111	Ⅱ	75	62	-	-	-	-	-
122	112	ⅢA	408	138	-	-	-	-	-
123	113	ⅠA	186	178	1	151	133	19	314
124	114	ⅢA	58	41	-	-	-	-	-
125	114	ⅢA	159	142	-	-	-	-	-
126	115	ⅠA	191	176	1	39	39	10	23
127	116	ⅢB	302	181	-	-	-	-	-
128	117	ⅢB	297	229	-	-	-	-	-

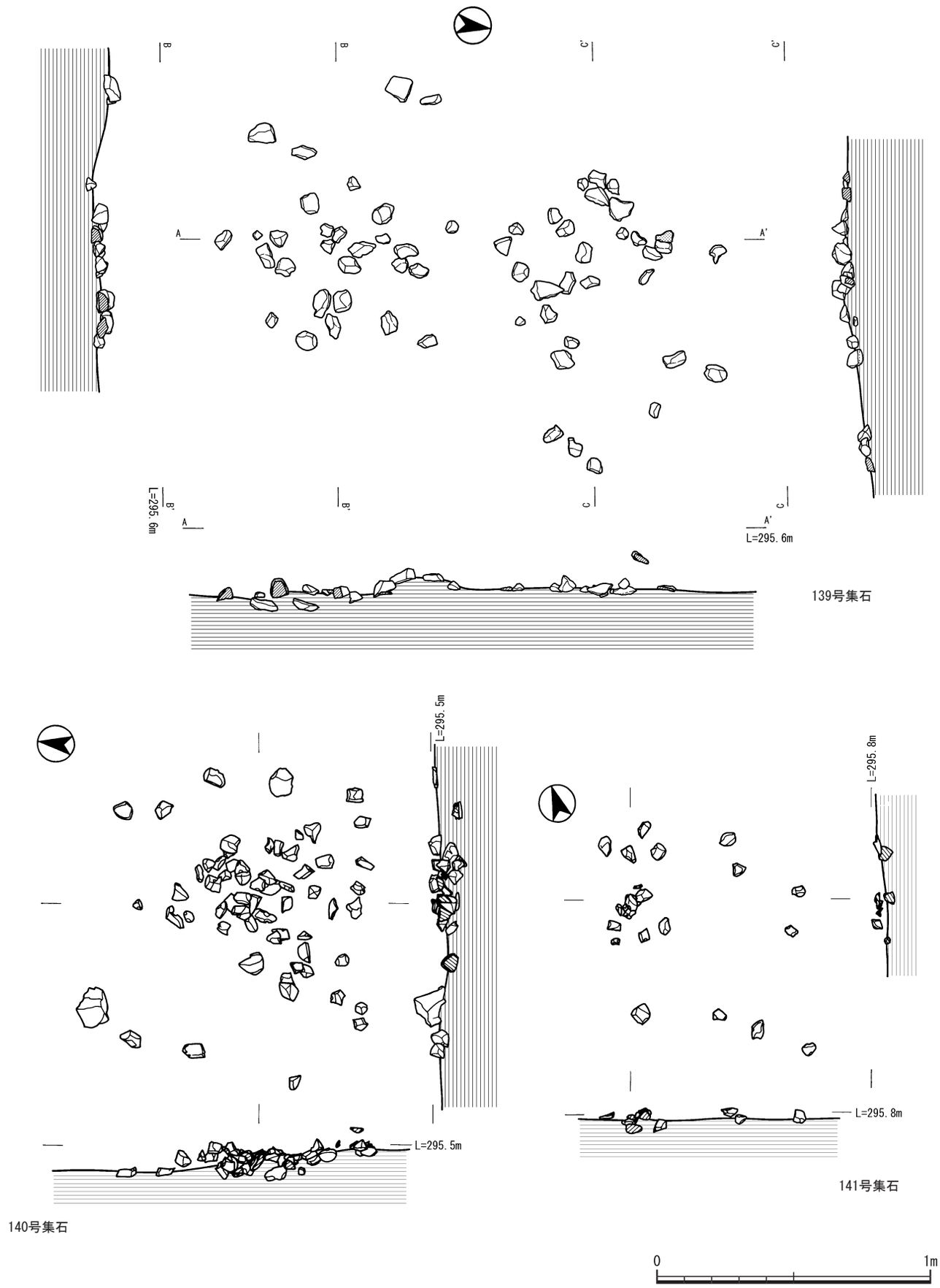


137号集石

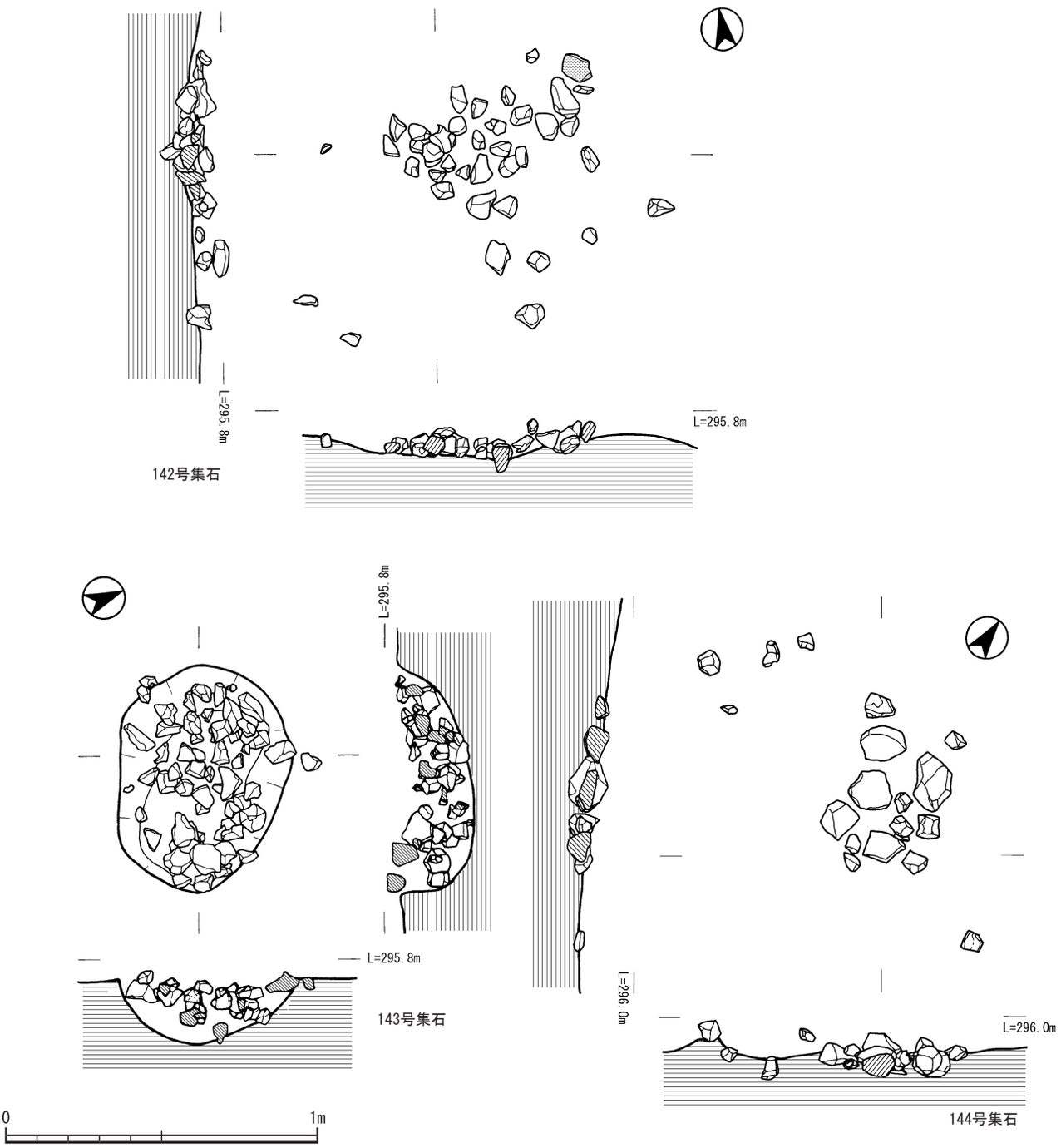


138号集石

第122図　Ⅶ層遺構実測図（53）



第123図　Ⅶ層遺構実測図（54）



第124図　Ⅶ層遺構実測図（55）

第26表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（17）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
129	118	ⅢB	267	235	–	–	–	–	–
130	119	ⅢB	188	116	–	–	–	–	–
131	119	ⅠA	131	118	1	32	28	16	22
					2	60	52	4	38
132	120	ⅠB	187	166	1	38	38	10	8

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
133	120	ⅢA	137	64	–	–	–	–	–
134	121	Ⅱ	83	66	–	–	–	–	–
135	121	ⅢB	80	76	–	–	–	–	–
136	121	ⅠA	165	129	1	40	27	9	26

第125図　Ⅶ層遺構実測図（56）

構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
147.2	97%	100%	輝石安山岩(88%)，頁岩(12%)

0　1m

167号集石遺構(第144図)

耳取遺跡Ｈ－４・５区で検出した。径60cm位の集石遺構の礫が，取り除かれ二分された状況を呈している。拳大の礫49個を使用し，掘り込み遺構は明確に確認できなかったが，その可能性は高い。Ⅱ類

168号集石遺構(第144図)

耳取Ｈ・Ｉ－４区で検出し，径76cm×74cm，深さ22cmの明確な掘り込み遺構内に拳大の角礫108個が充填されている。類似する形態を173号集石遺構で見ることができる。
ＩＡ類

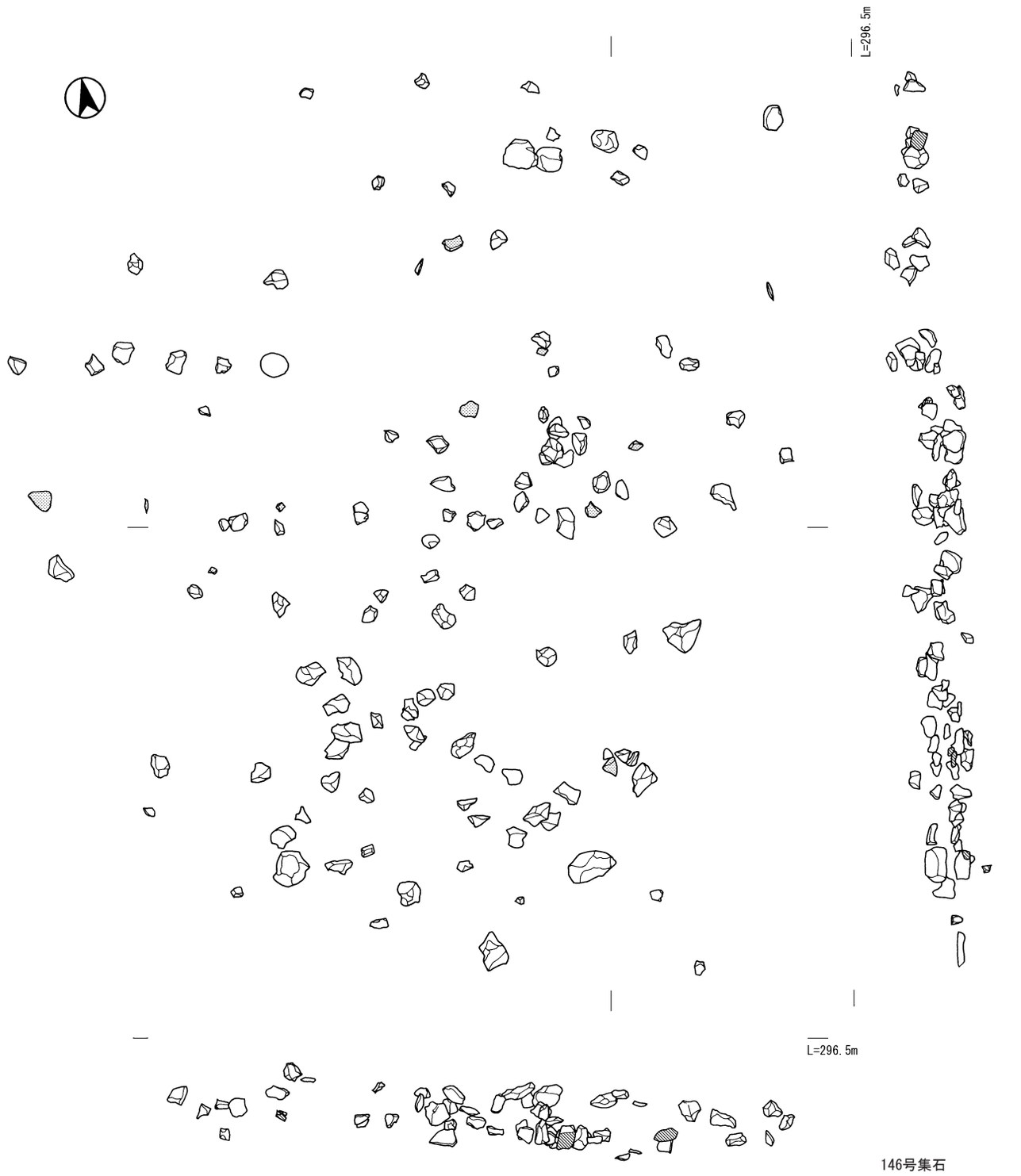
170号集石遺構(第144図)

耳取遺跡Ｉ－４区で検出した。５～６cm大の礫を17個使用し，掘り込み遺構及び炭化物は確認できなかった。礫はほとんどが輝石安山岩を使用し，全部の礫が被熱している。礫の残存状況や断面観察からは掘り込み遺構の存在が予測される。Ⅱ類

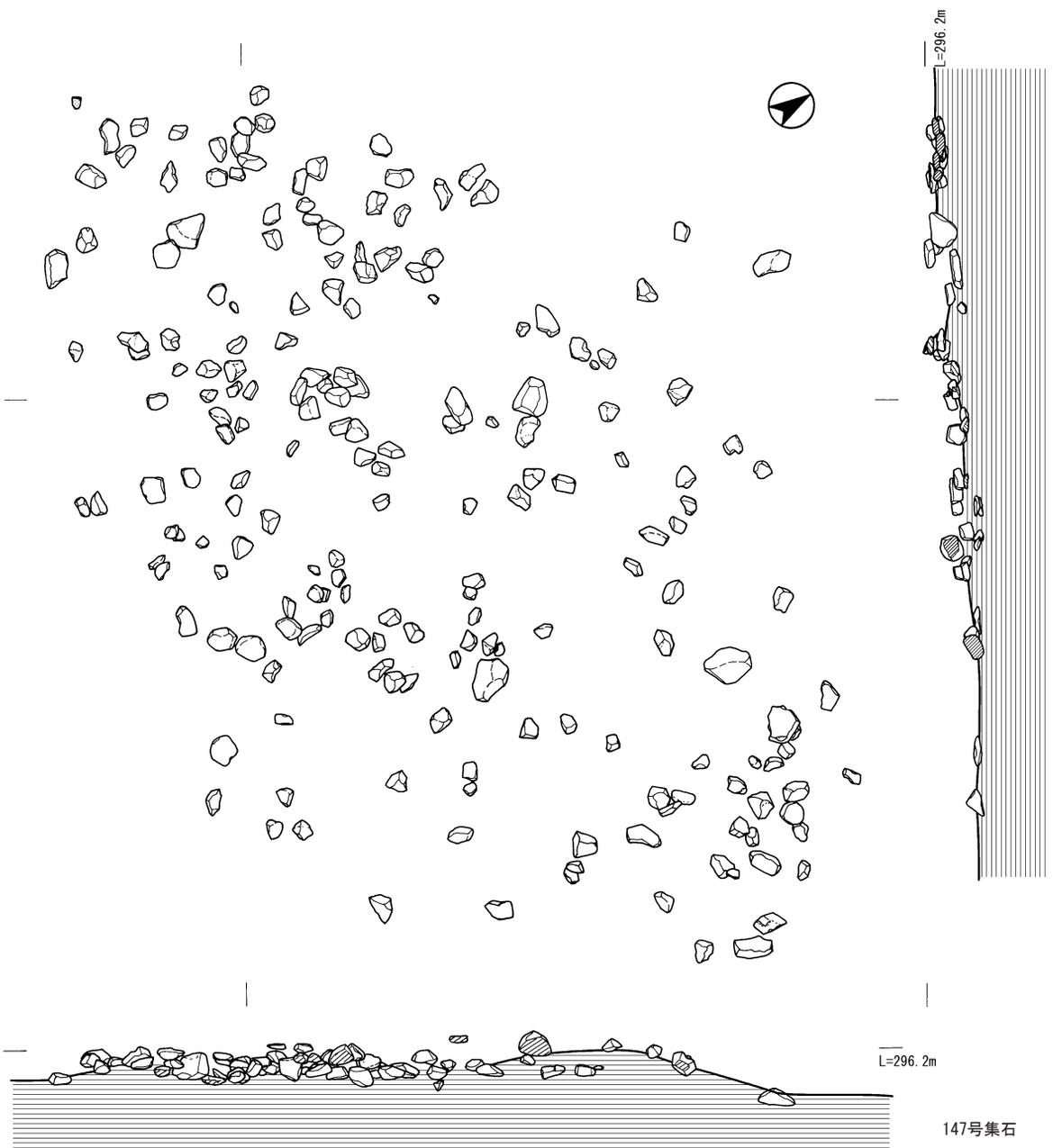
173号集石遺構(第146図)

耳取遺跡Ｉ－４区で検出した。この区画には同様の形態の168号集石と，配石遺構がある。配石遺構とこれらの集石の関係は現在のところ不明である。

173号は，径78cm×63cm，深さ23cmの掘り込み遺構の中に拳大の礫162個が充填されている。ＩＡ類

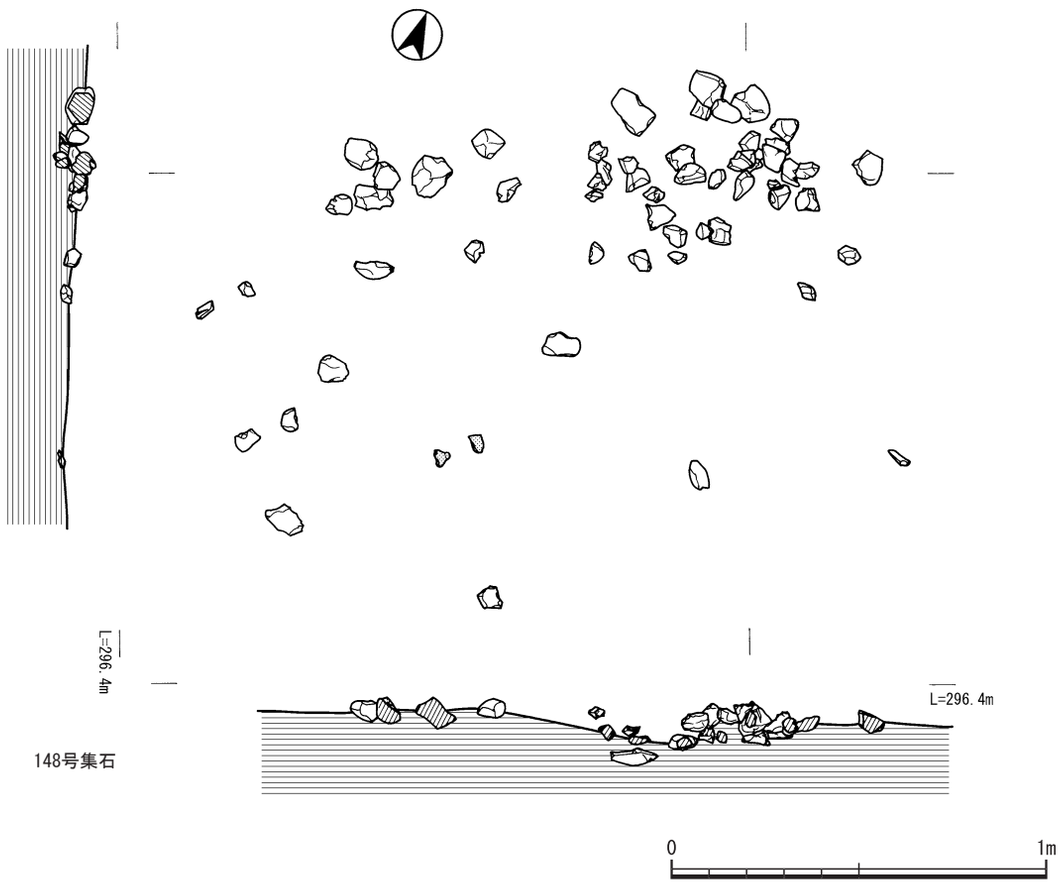


第126図　Ⅶ層遺構実測図（57）



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
105.7	82%	96%	輝石安山岩(50%),頁岩(50%)

第127図　Ⅶ層遺構実測図（58）



179号集石遺構(第148図)

耳取遺跡Ｈ－３区，北側へ傾斜する位置で検出した。この一帯は不安定な層堆積を展開し，特にⅧ層及び薩摩火山灰の堆積状況は極めて悪い地域である。輝石安山岩を主体に10cm前後の礫を使用し，礫の全てに被熱を確認できた。微細な炭化物が散在し，掘り込み遺構の存在が想定される。Ⅱ類

180号集石遺構(第149図)

耳取遺跡Ｈ－４区で検出した。東側へ延びる尾根状に展開する集石遺構群の一基である。上面観は円形を呈し，70cm位の集石遺構であったと思われる。中央部で礫が粗になることから，意図的に礫を移動していると思われる。掘り込み遺構が存在した可能性は高い。Ⅱ類

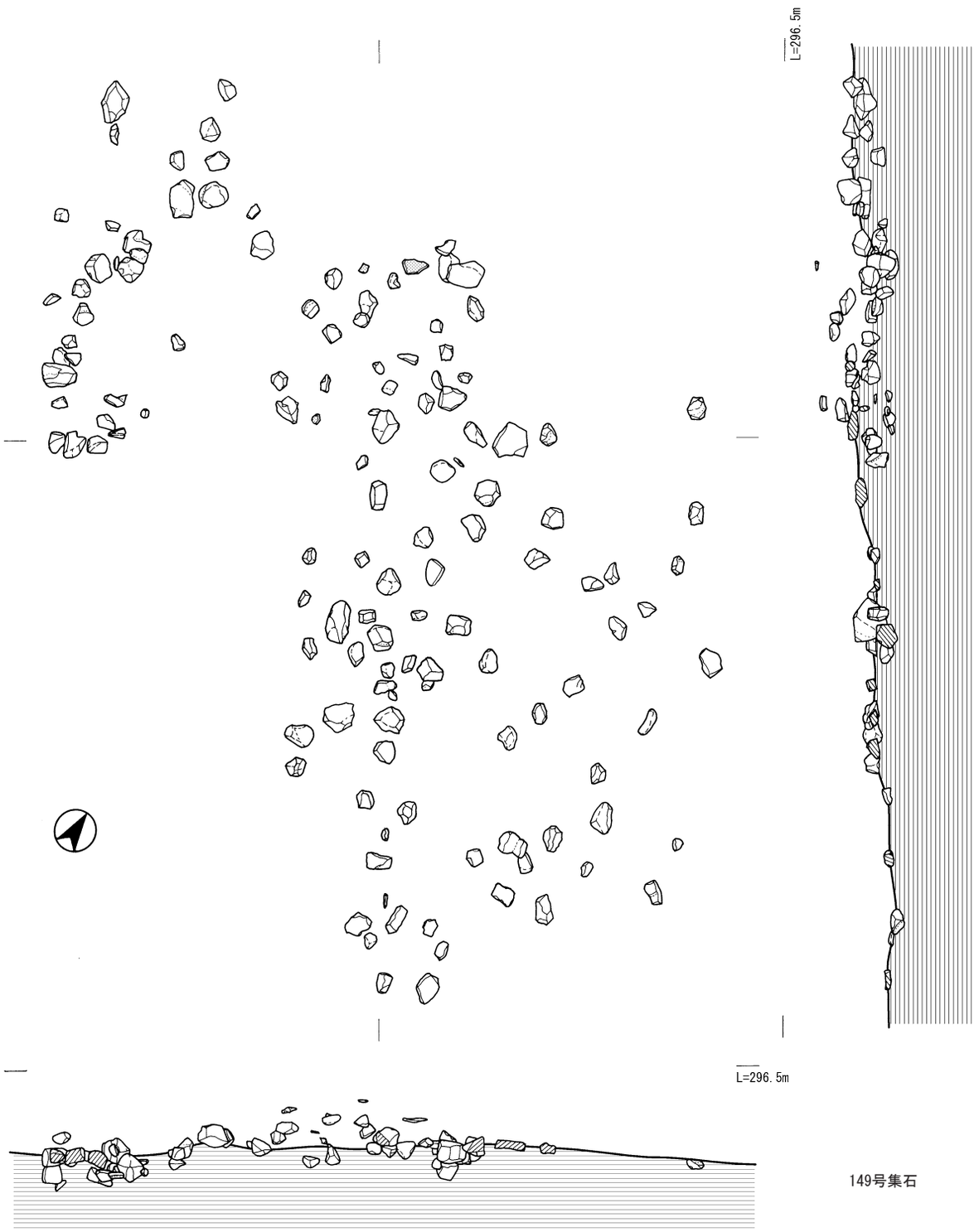
181号集石遺構(第149図)

Ｇ－４区，耳取遺跡で一番標高の高い所で検出した。10cmを越す角礫を多用し，他の集石遺構と様相が異なる。明確な遺構は確認できていない。礫が配石炉状に構築されていた可能性もある。Ⅱ類

第128図　Ⅶ層遺構実測図（59）

第27表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（18）

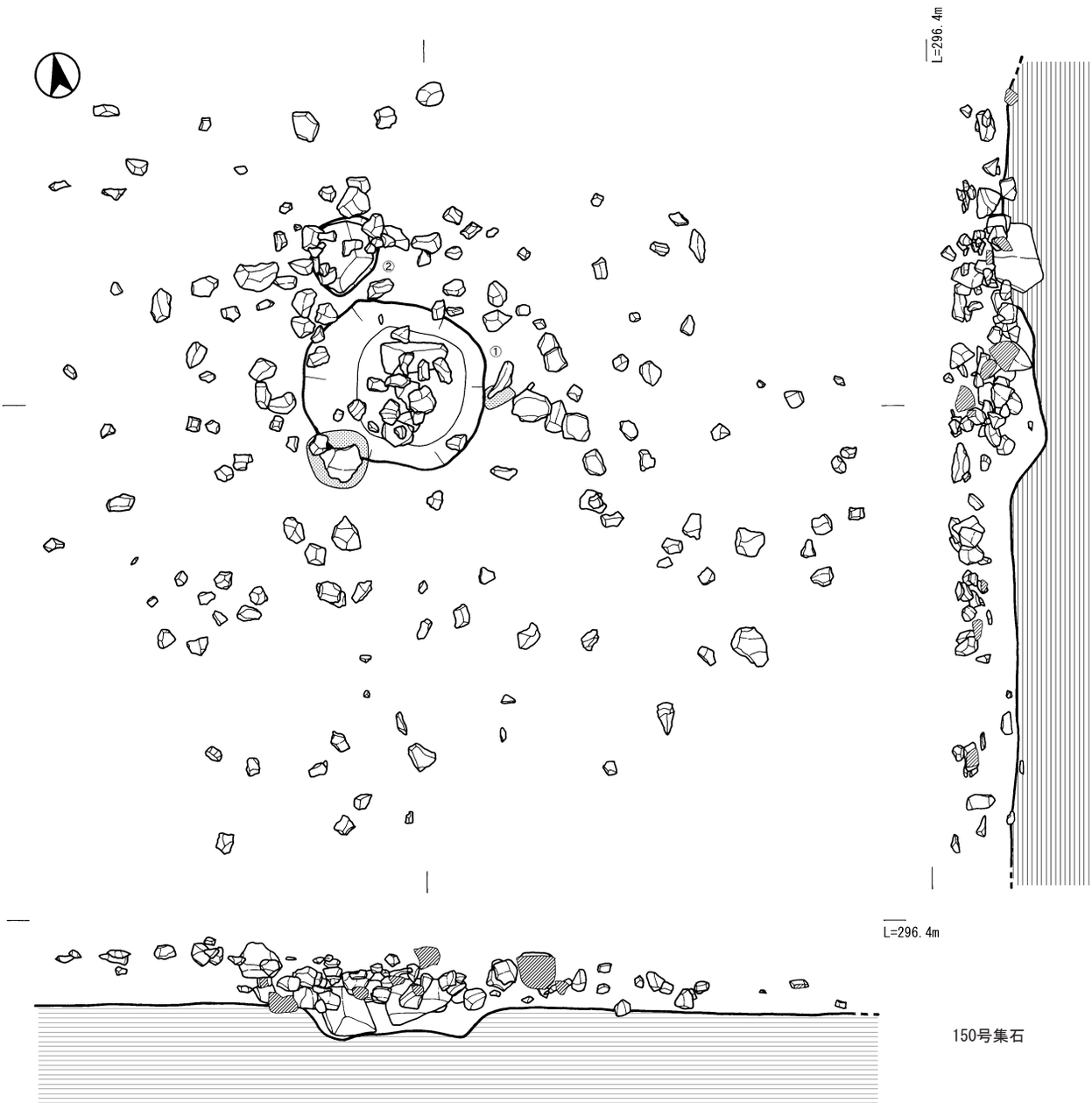
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
137	122	ⅢA	118	98	－	－	－	－	－
138	122	ⅢB	156	125	－	－	－	－	－
139	123	ⅢB	187	145	－	－	－	－	－
140	123	ⅢA	118	109	－	－	－	－	－



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
200.9	41%	95%	輝石安山岩(79%), 頁岩(20%), 不明(1%)

0 1m

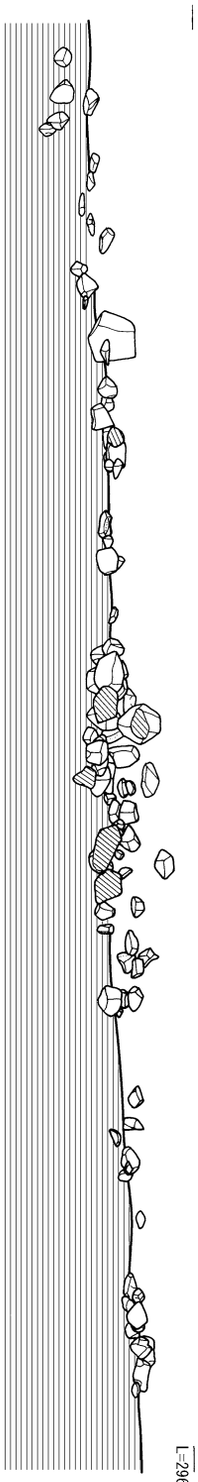
第129図　Ⅶ層遺構実測図（60）



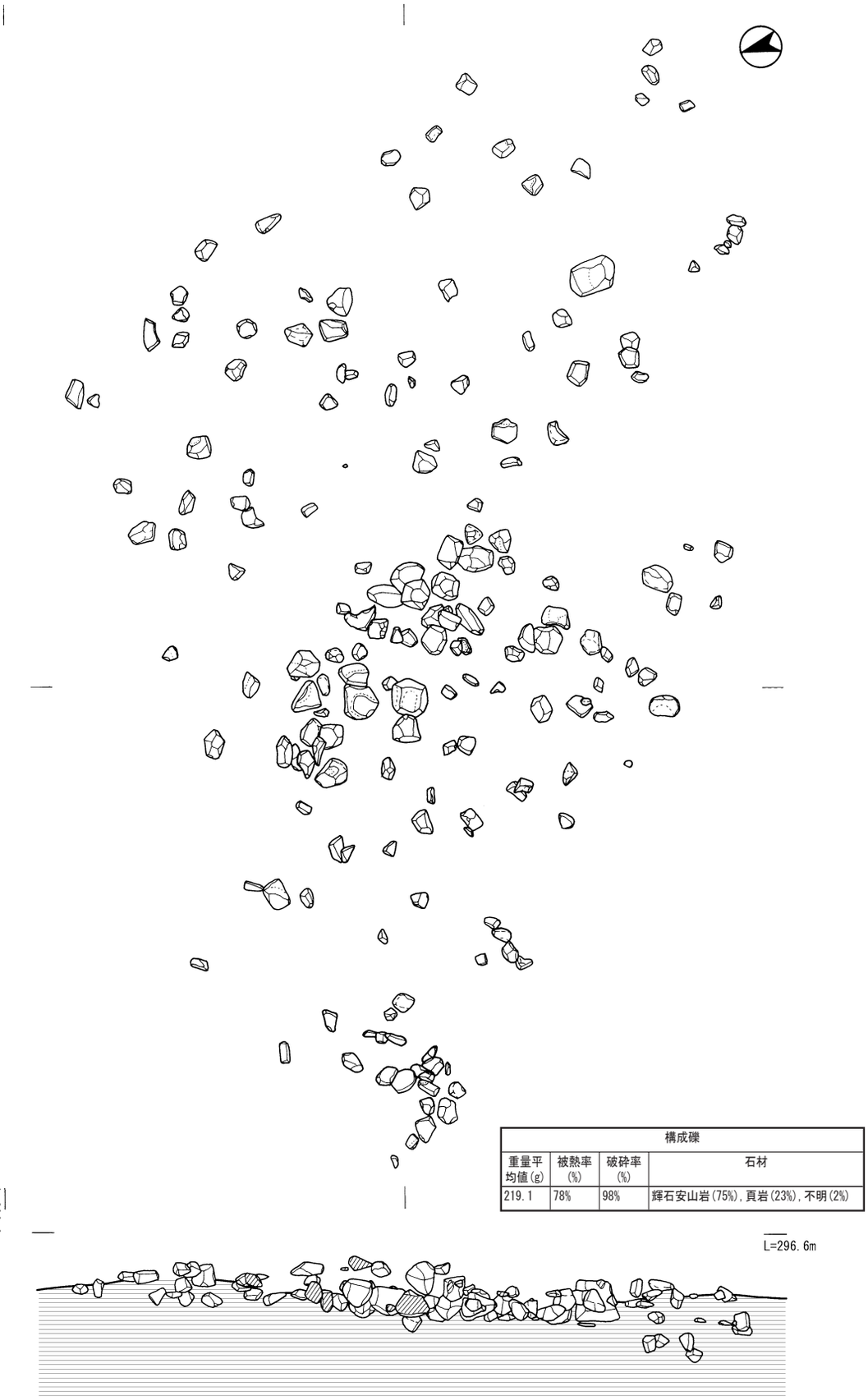
構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
236.2	53%	92%	輝石安山岩(67%),頁岩(33%)

0 1m

第130図　Ⅶ層遺構実測図（61）

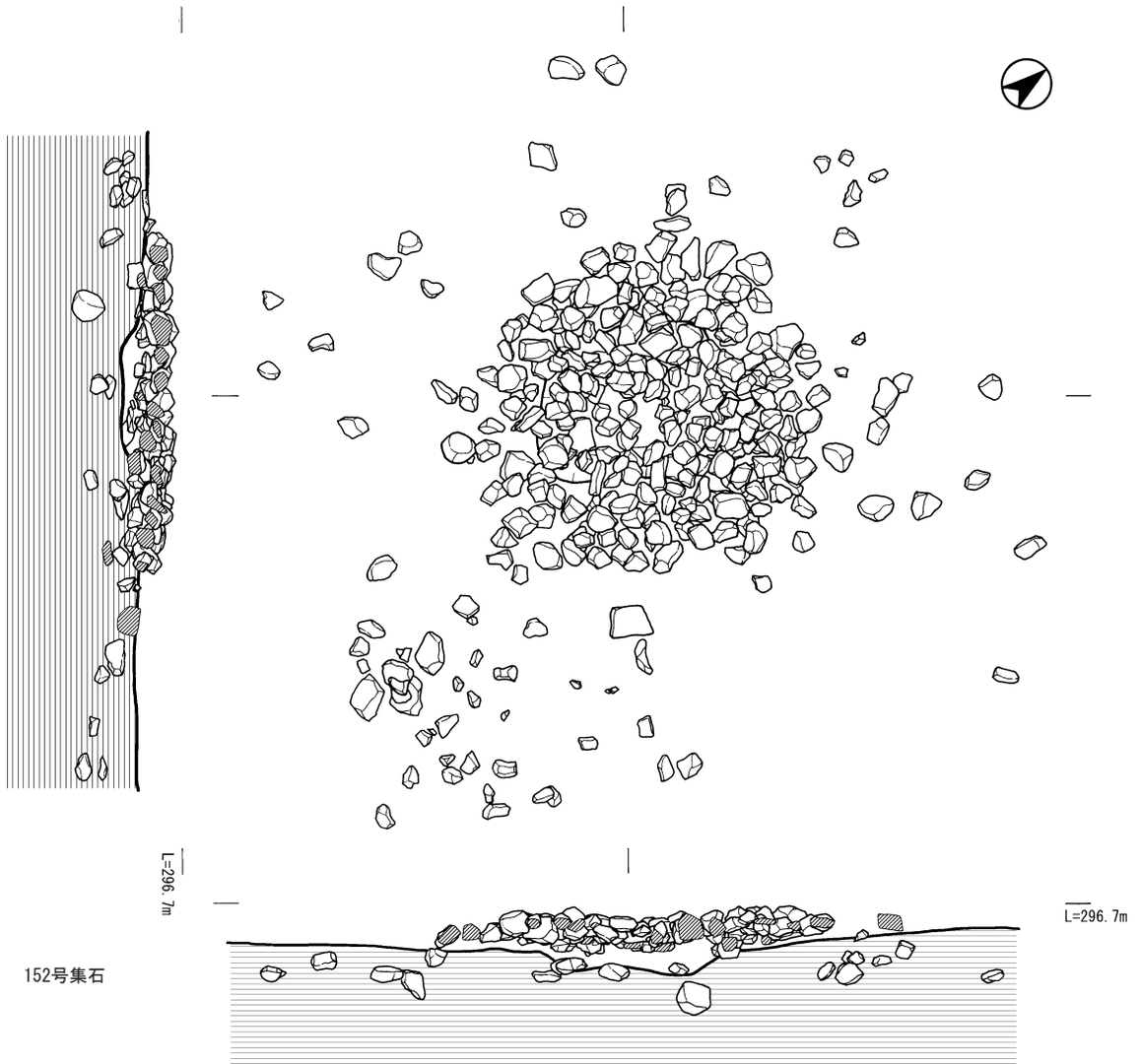


151号集石



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
219.1	78%	98%	輝石安山岩(75%)，頁岩(23%)，不明(2%)

第131図　Ⅶ層遺構実測図（62）



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
164.9	71%	95%	輝石安山岩(67%),頁岩(30%),不明(3%)

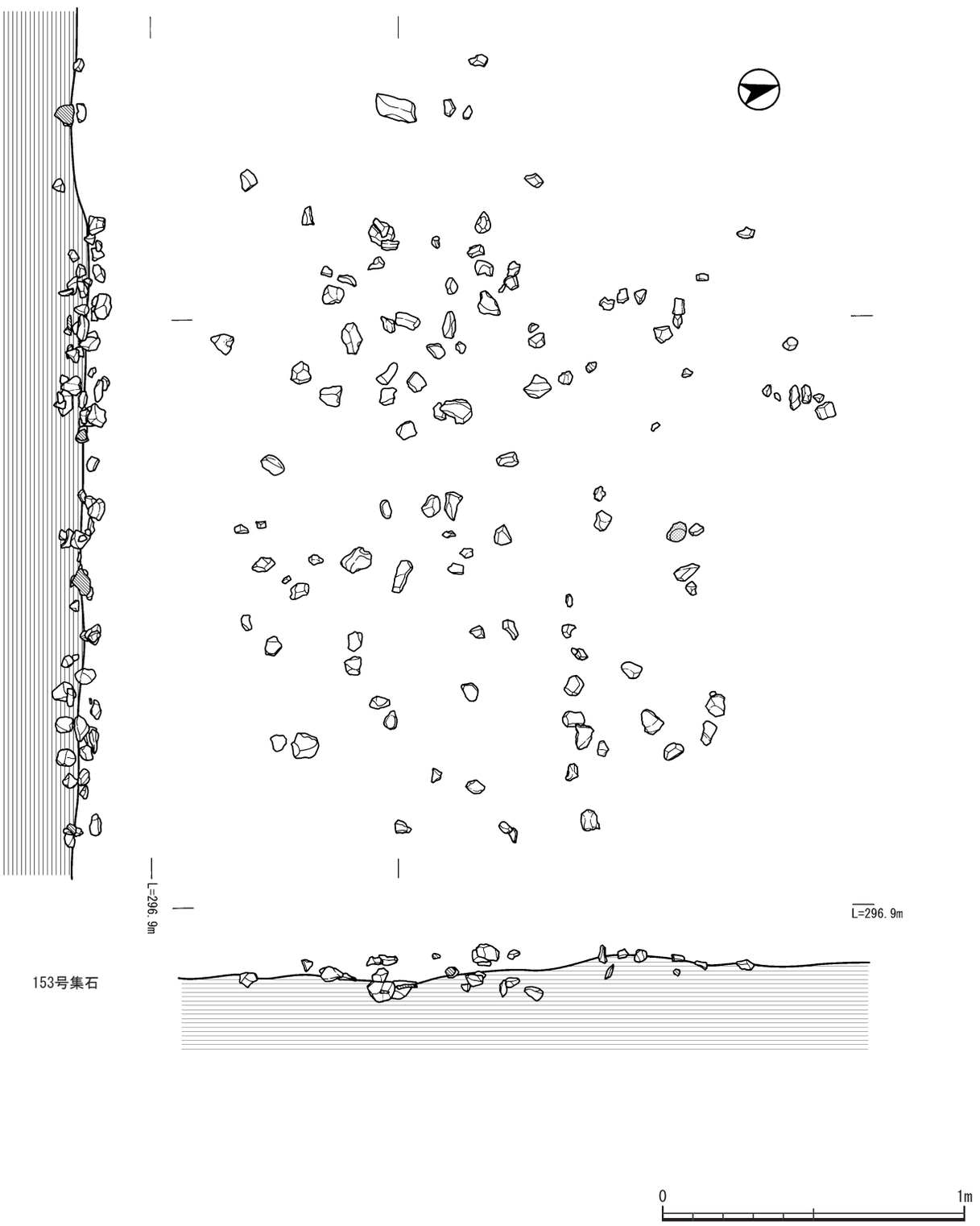
186号集石遺構(第151図)

耳取遺跡G-４区で検出した。径90cm×76cm，検出面からの深さ約10cmの掘り込み遺構を確認し，遺構内に礫140個が残されていた。礫は５～６cmの小礫である。ＩＡ類

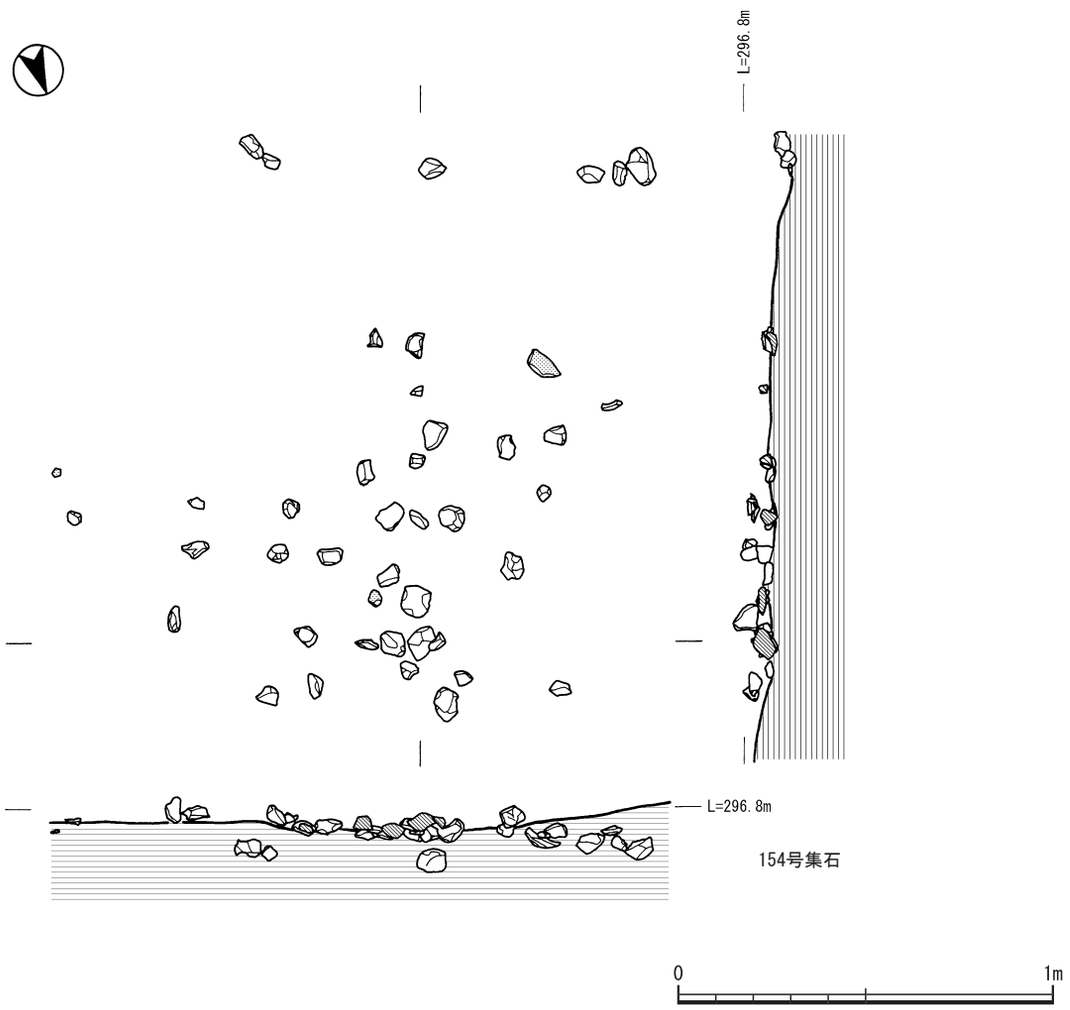
189号集石遺構(第152図)

耳取遺跡Ｆ・G-４区で検出した。東側へ延びる尾根伝いに並ぶ集石遺構の西端に位置する。30cmを越す礫２個と15cm前後の礫６個，拳大の礫で構成し，礫は輝石安山岩が使われる。掘り込み遺構は確認できなかったが，181号集石遺構同様，配石炉状の構造が想定される。ⅢＡ類

第132図　Ⅶ層遺構実測図（63）



第133図　Ⅶ層遺構実測図（64）



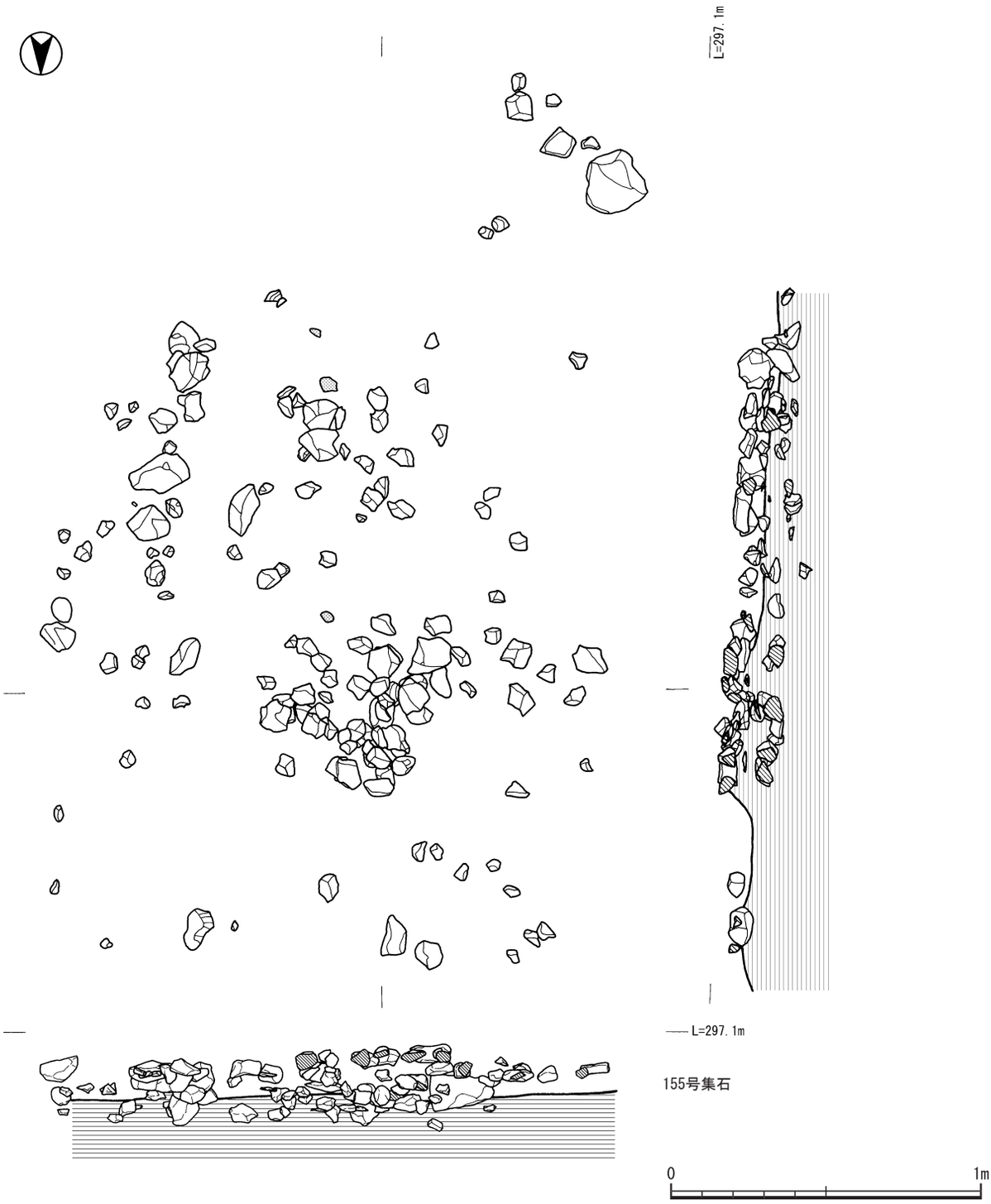
193号集石遺構(第154図)

耳取遺跡Ｇ-３区で検出された。径58cm×50cmの範囲に，20cm程の礫が集中して残され，輝石安山岩を使用し，全ての礫が被熱している。一部は北側の傾斜方向へ礫が散逸しているが，配石炉的構造が想定される。また，炭化物の散在も確認される。Ⅱ類

197号集石遺構(第156図)

197号・198号集石遺構は，耳取遺跡Ｈ-18区のⅦ層で検出したが，位置を落としていなかったため，全体配置図には掲載できなかった。197号と198号は近接し，皿状の浅い掘り込み遺構に礫が22個入っていた。ＩＡ類

第134図　Ⅶ層遺構実測図（65）

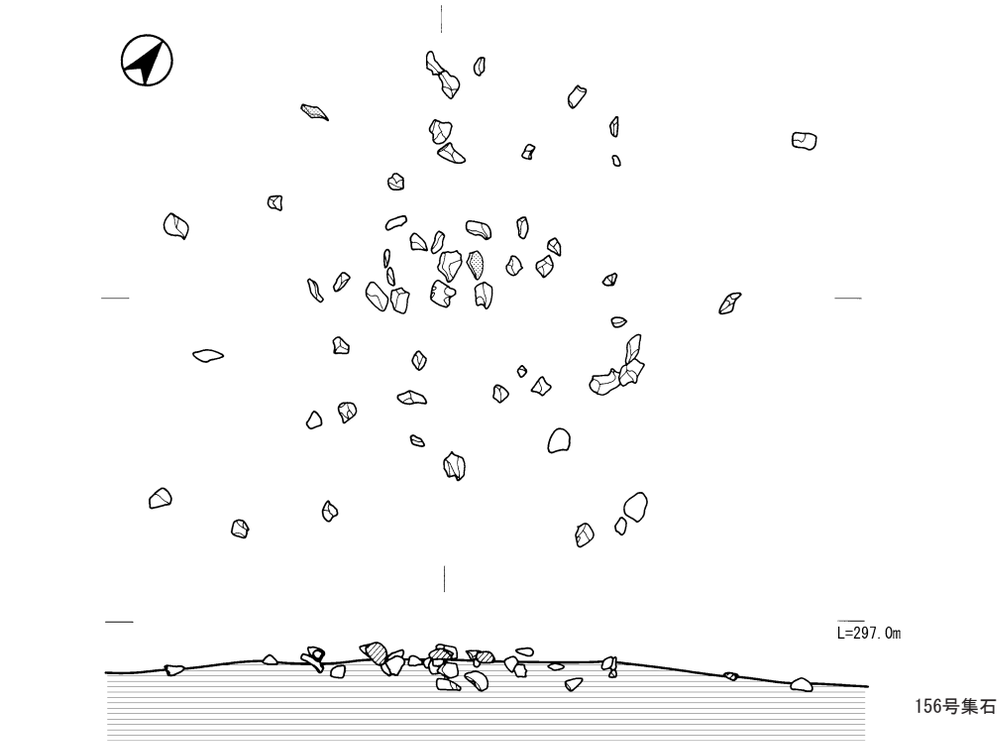


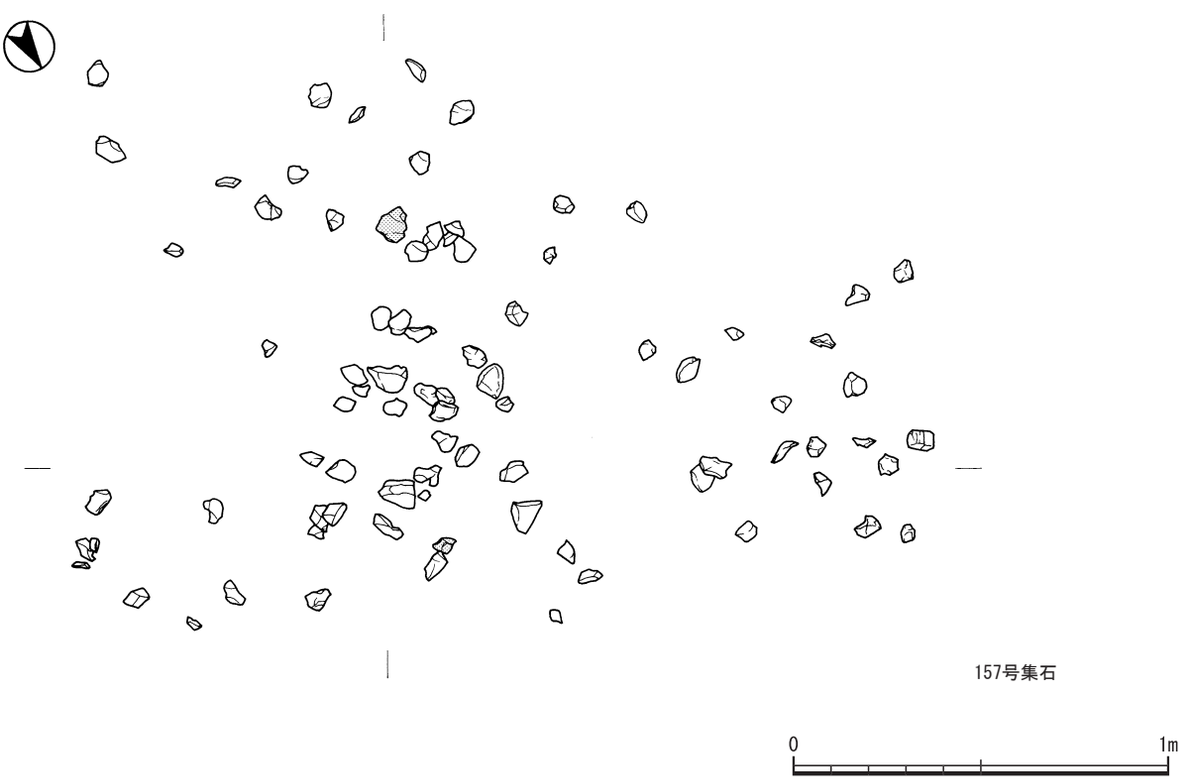
第135図　Ⅶ層遺構実測図（66）

第28表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（19）

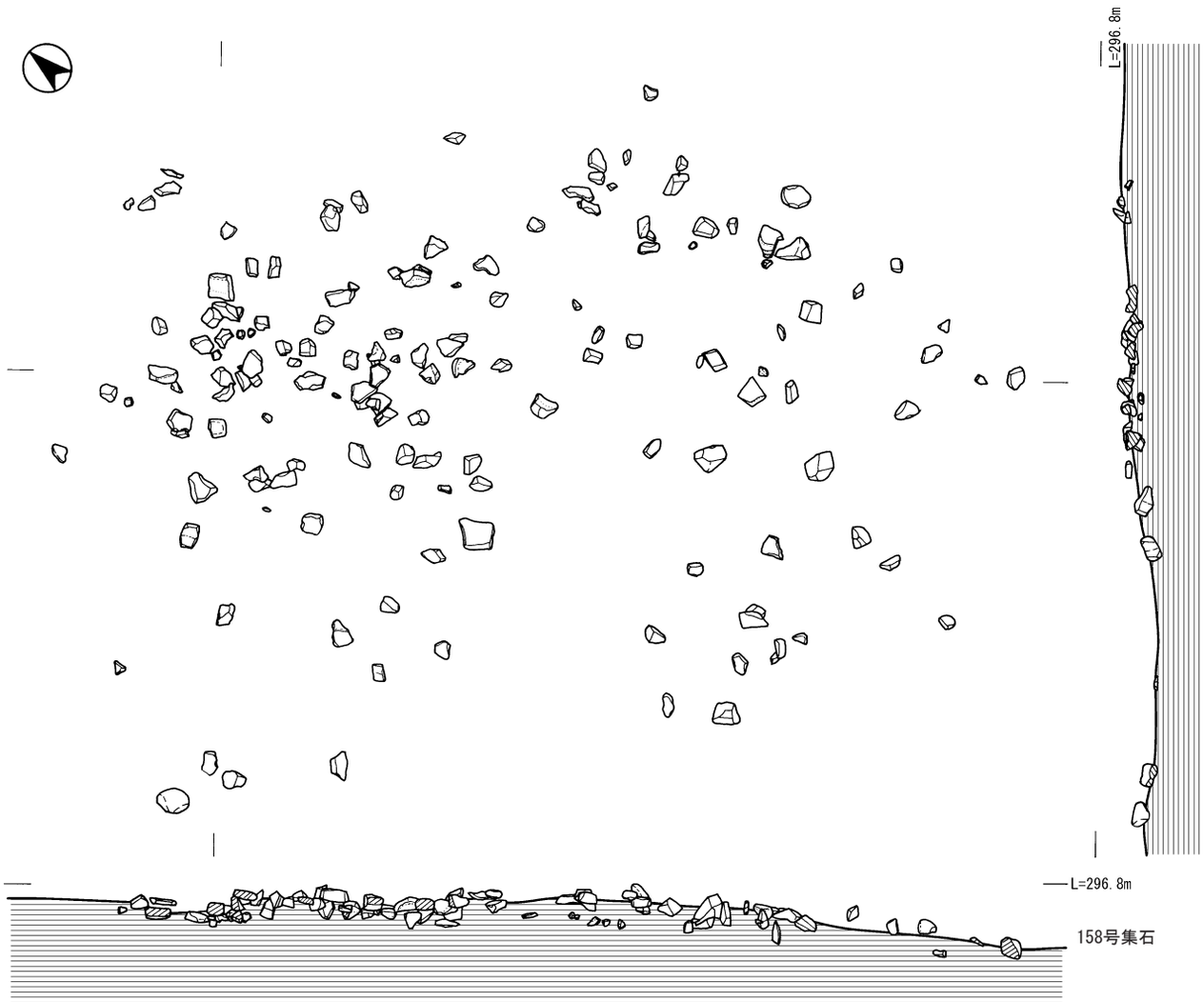
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
141	123	ⅢB	85	80	-	-	-	-	-
142	124	ⅢA	123	96	-	-	-	-	-
143	124	ⅠA	69	64	1	73	55	24	75
144	124	ⅢA	103	92	-	-	-	-	-

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
145	125	ⅢB	199	186	-	-	-	-	-
146	126	ⅢB	303	264	-	-	-	-	-
147	127	ⅢB	260	242	-	-	-	-	-

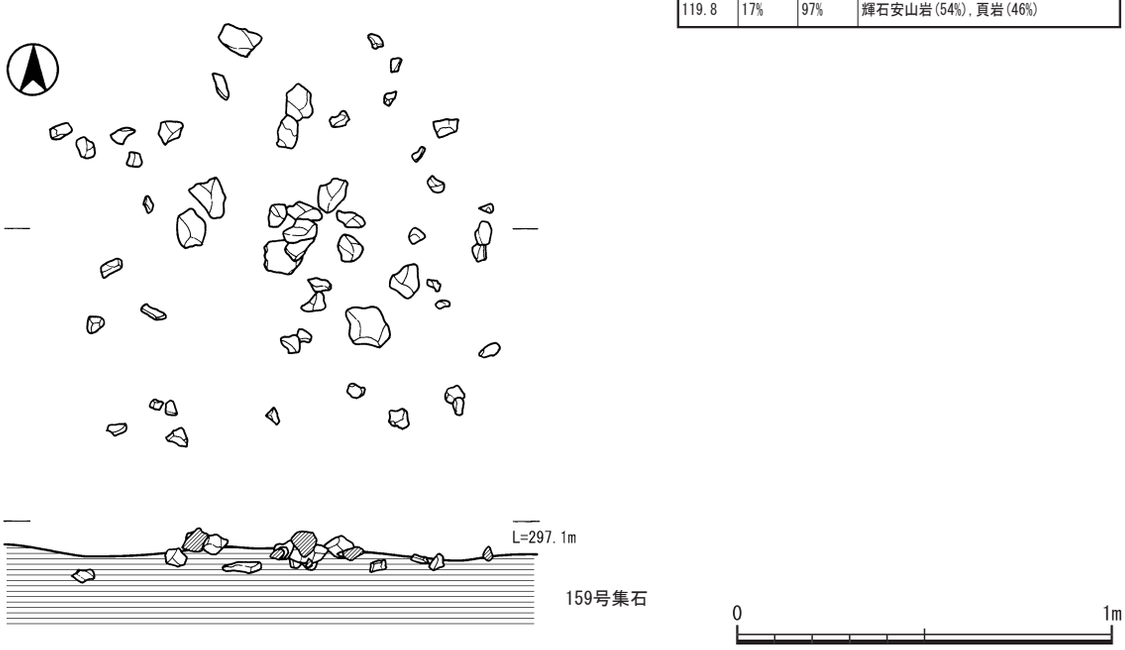




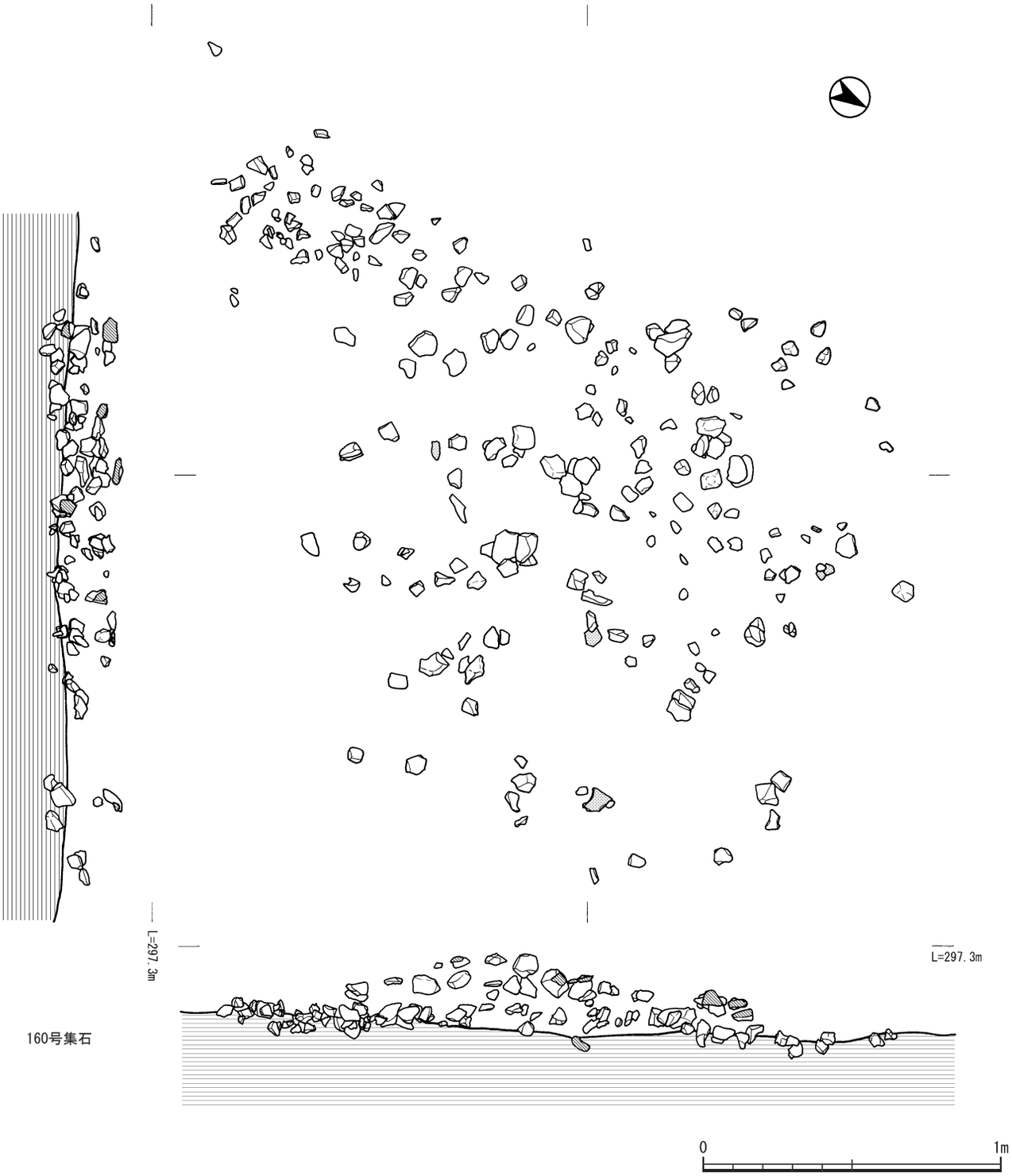
第136図　Ⅶ層遺構実測図（67）



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
119.8	17%	97%	輝石安山岩(54%),頁岩(46%)



第137図　Ⅶ層遺構実測図（68）

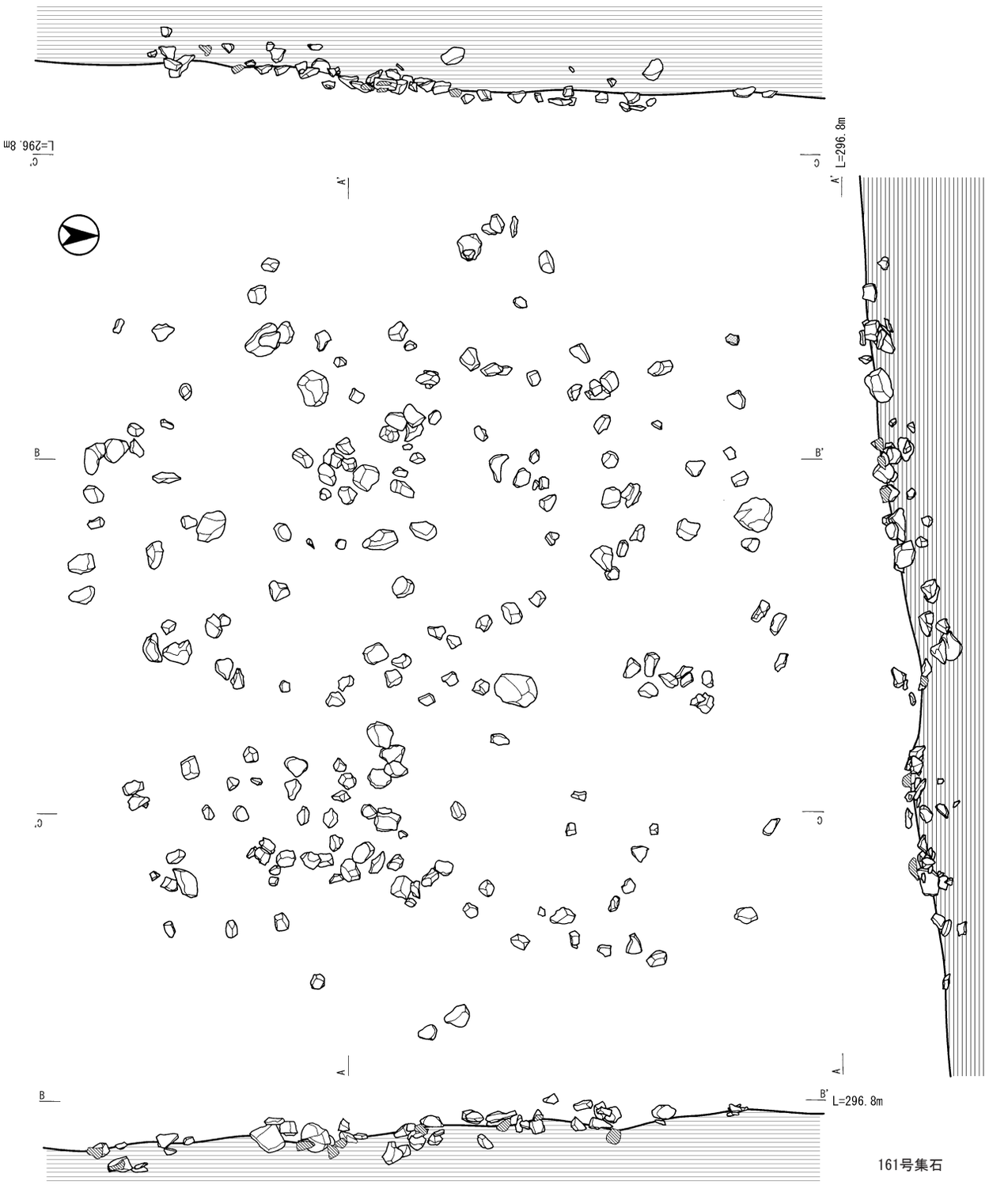


第138図　Ⅶ層遺構実測図（69）

第29表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（20）

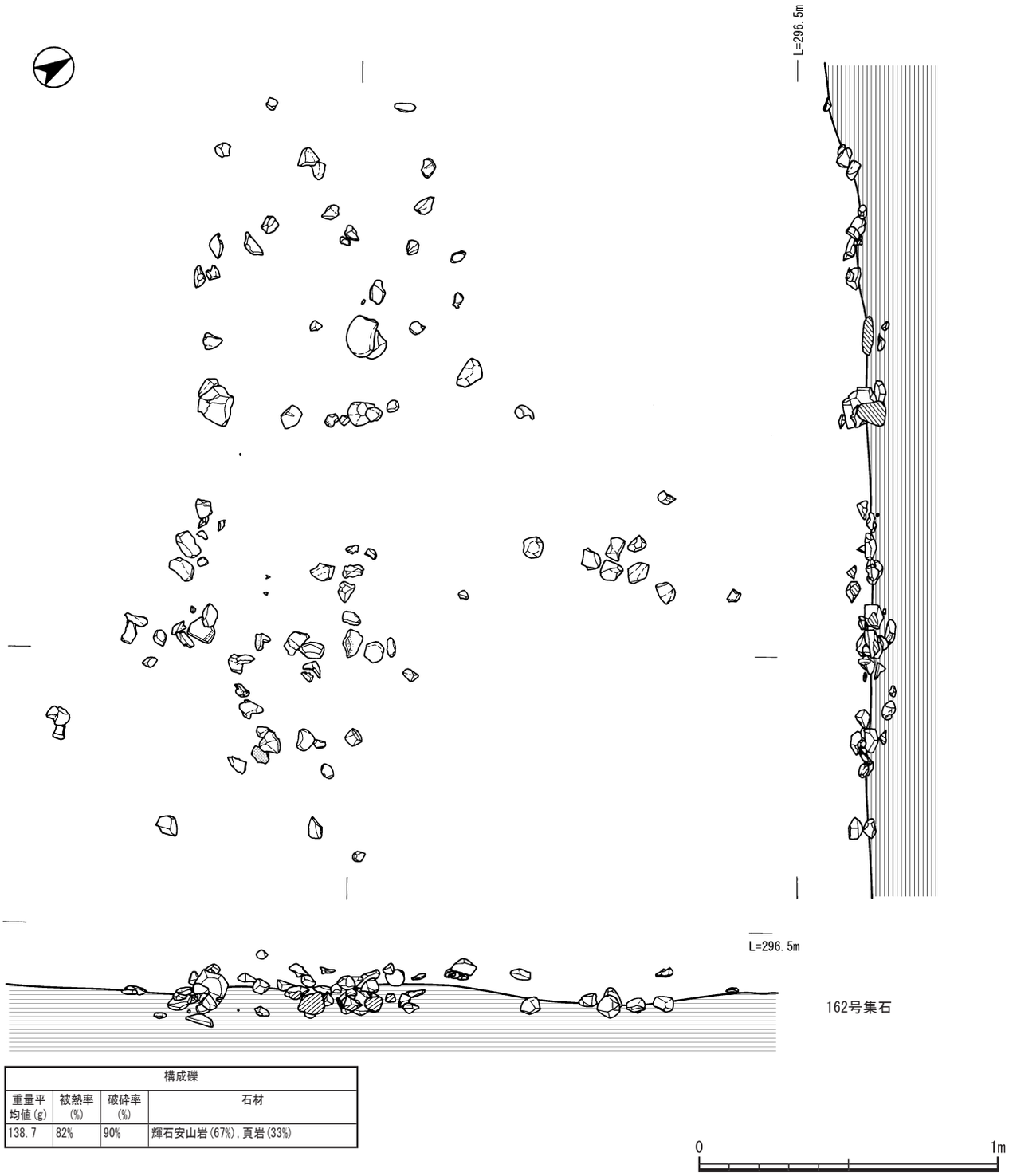
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
148	128	ⅢA	190	144	-	-	-	-	-
149	129	ⅢB	298	218	-	-	-	-	-

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
150	130	ⅠA	250	235	1	55	49	12	37
					2	22	20	12	12
151	131	ⅢA	367	221	-	-	-	-	-
152	132	ⅠA	214	209	1	55	49	12	72



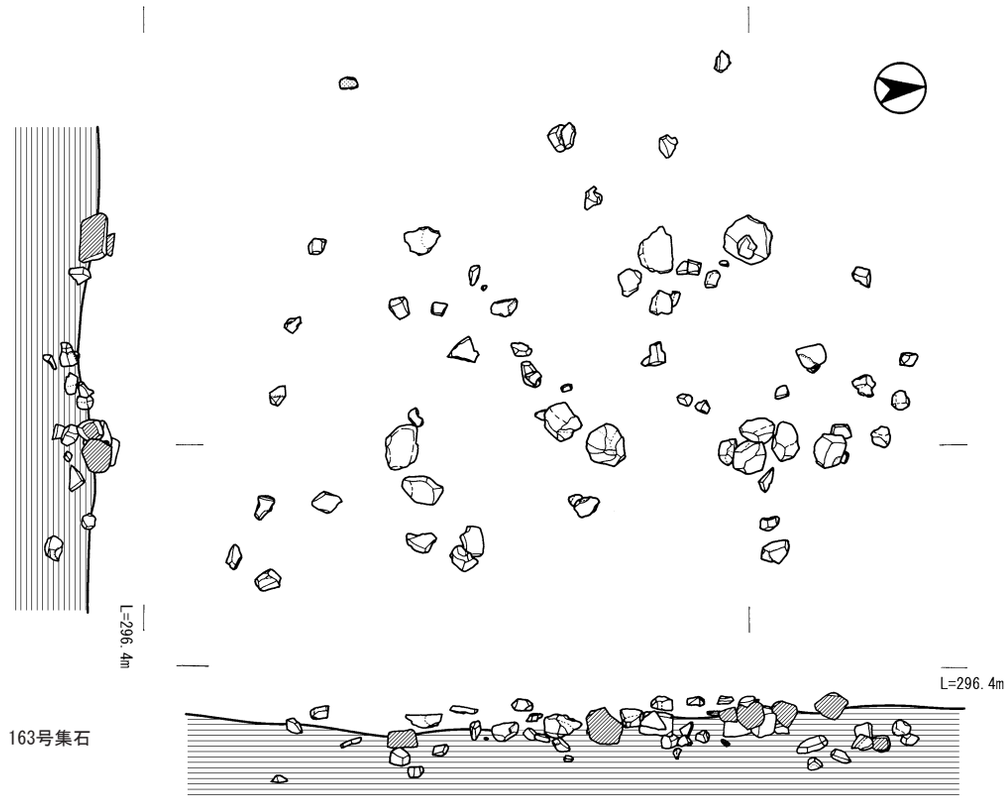
構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
125.6	59%	96%	輝石安山岩(64%),頁岩(36%)

第139図　Ⅶ層遺構実測図（70）



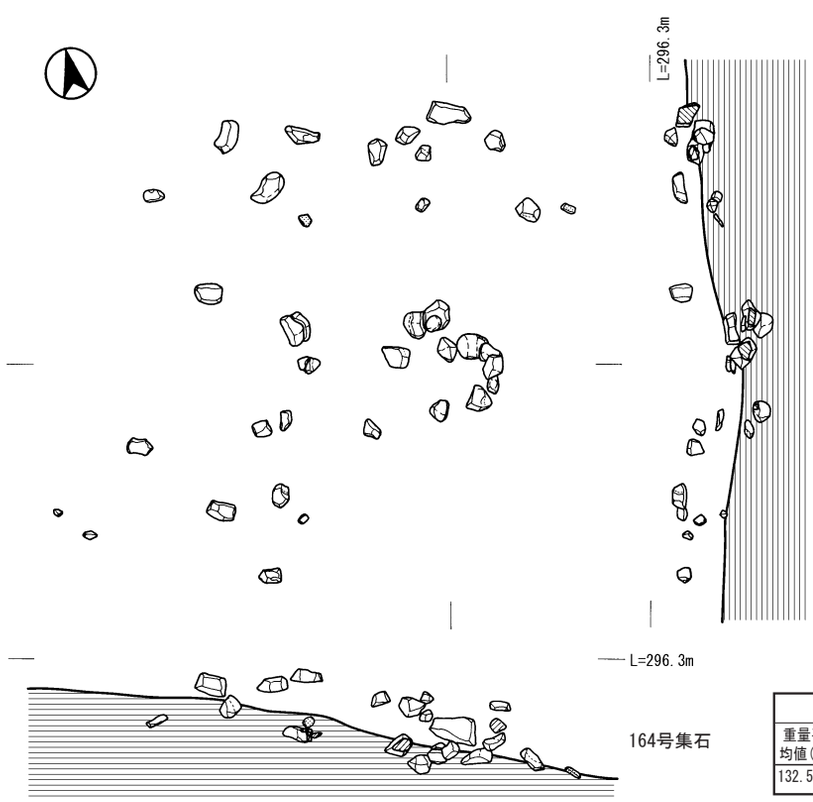
構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
138.7	82%	90%	輝石安山岩(67%)，頁岩(33%)

第140図　Ⅶ層遺構実測図（71）



163号集石

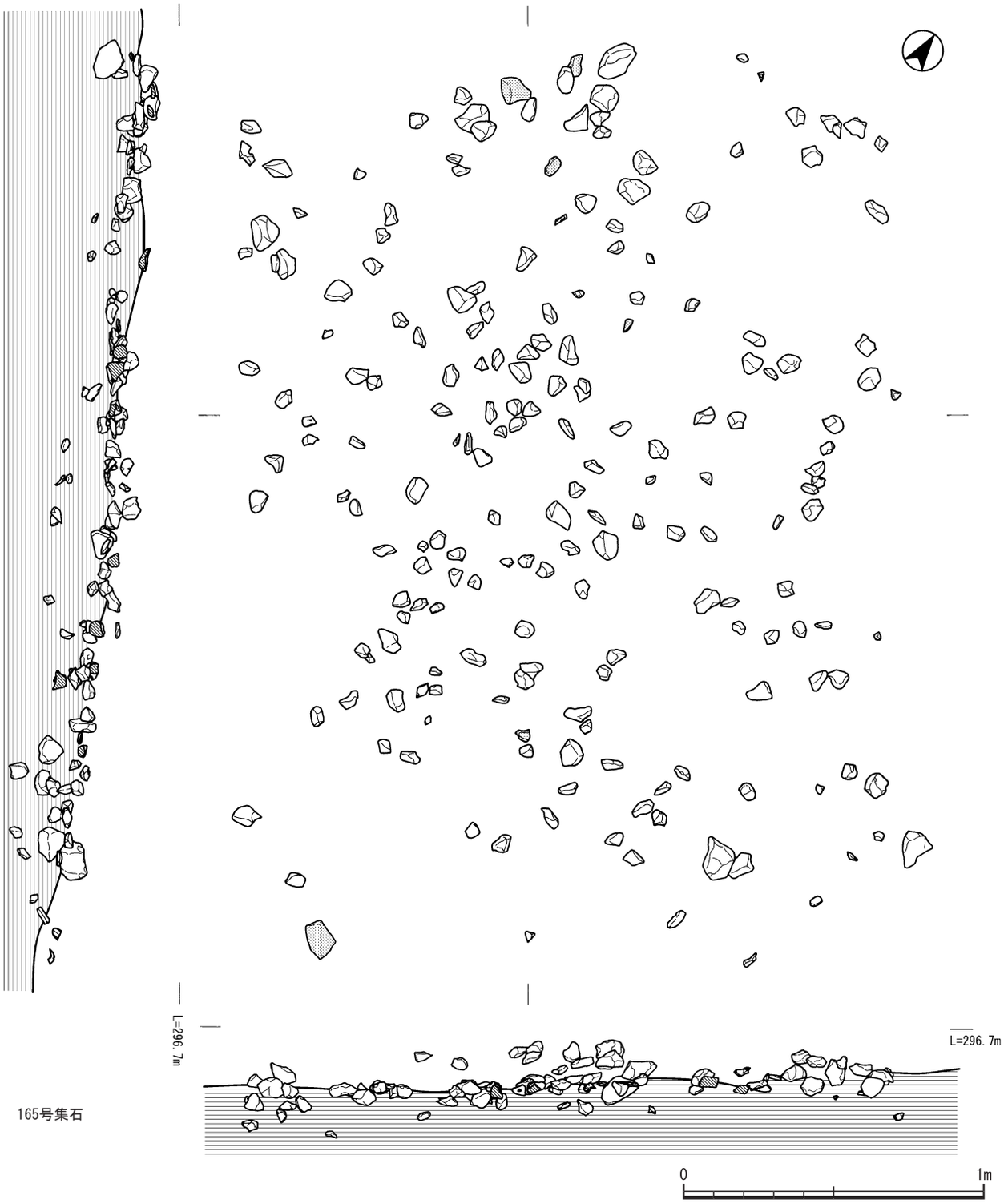
構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
223.4	2%	92%	輝石安山岩(84%),頁岩(16%)



164号集石

構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
132.5	94%	97%	輝石安山岩(71%),頁岩(29%)

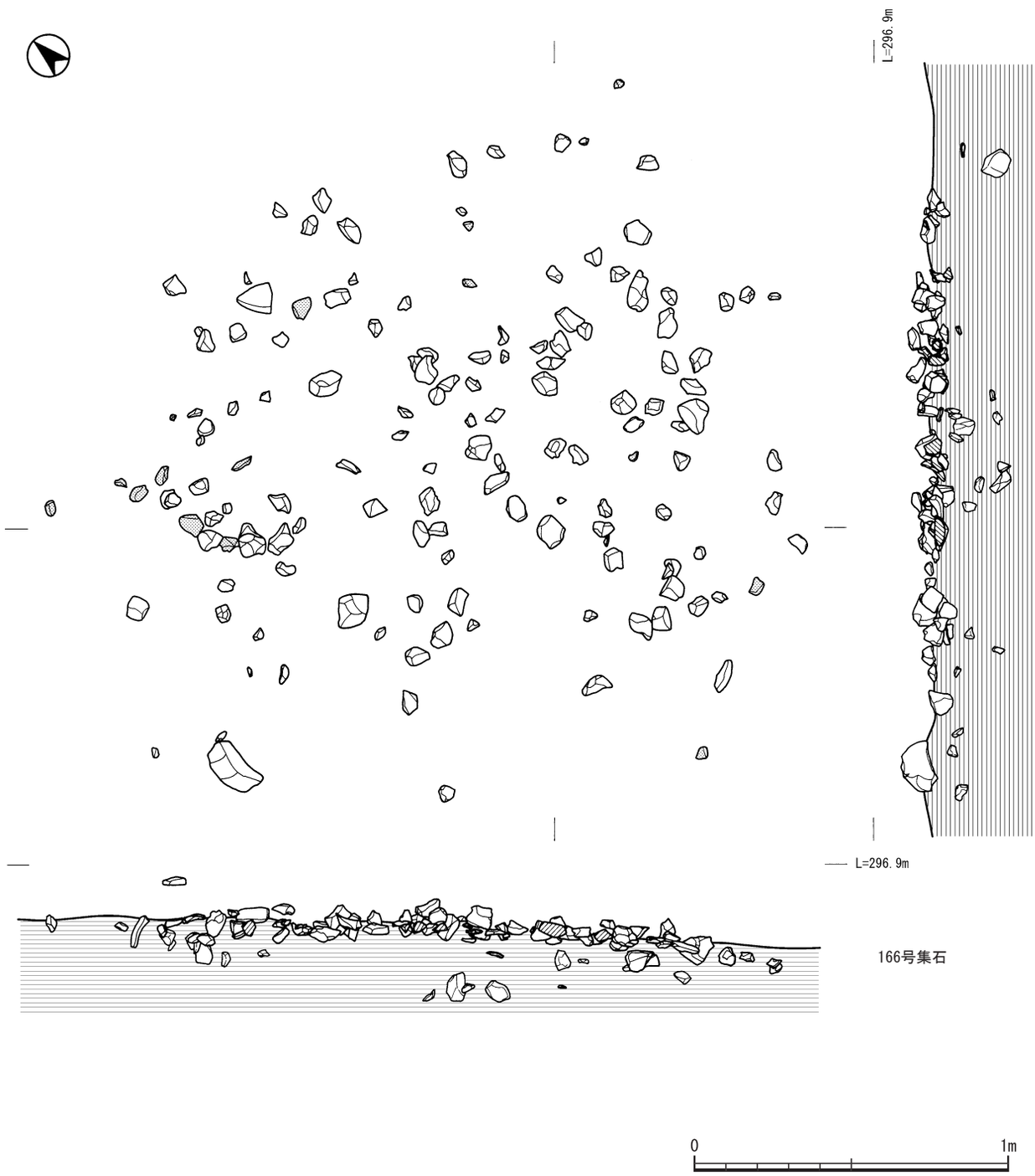
第141図　Ⅶ層遺構実測図（72）



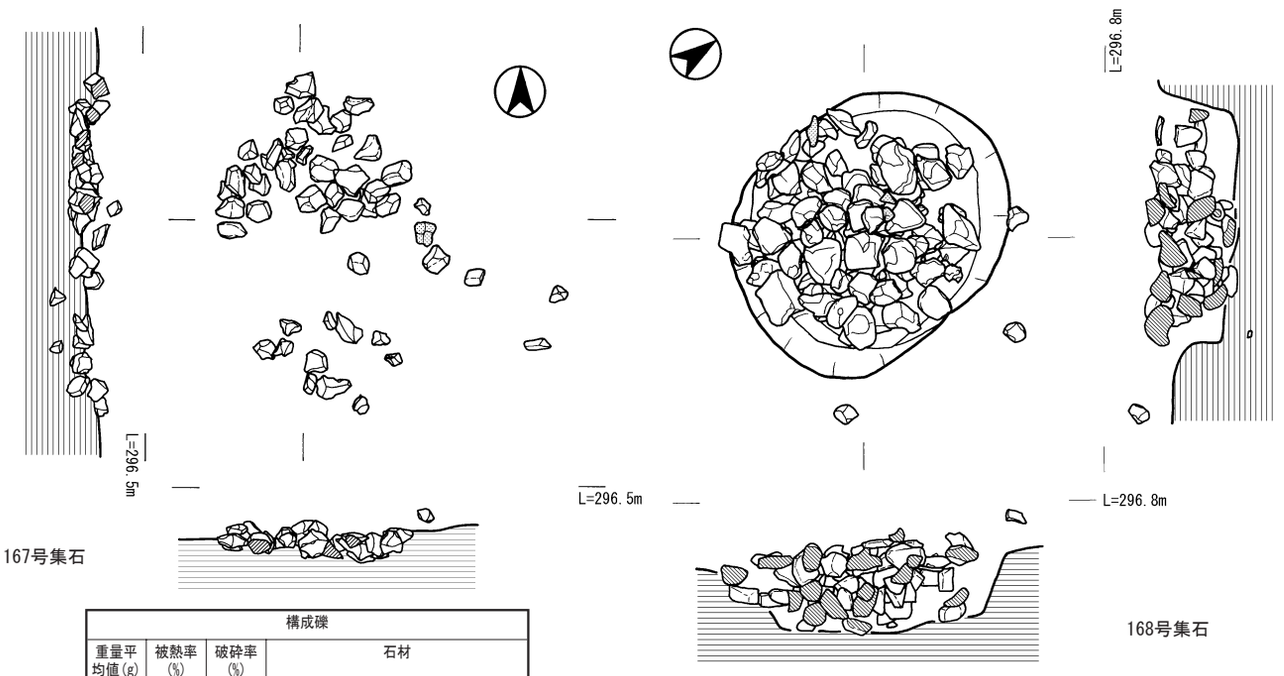
第142図　Ⅷ層遺構実測図（73）

第30表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（21）

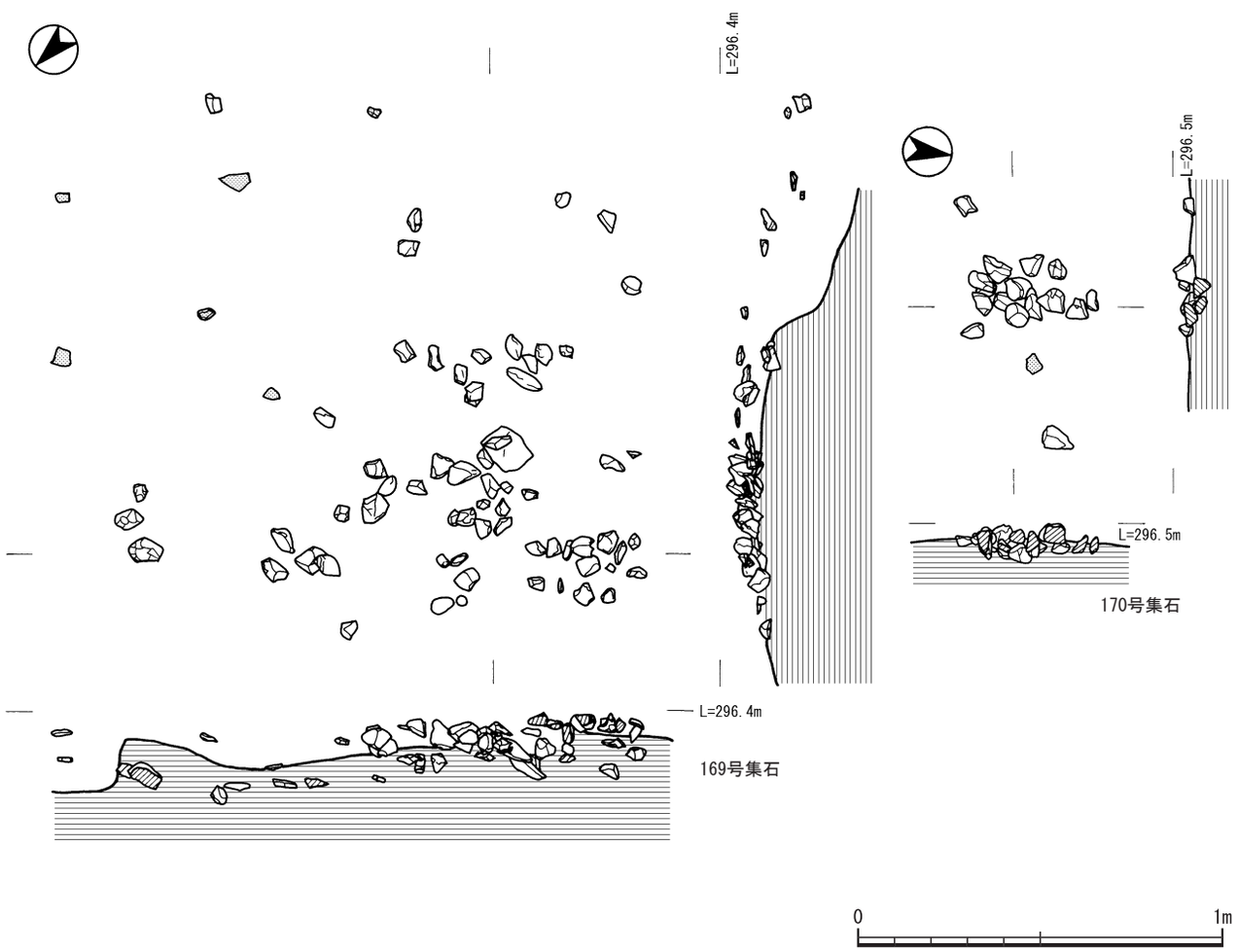
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
153	133	ⅢB	261	207	–	–	–	–	–
154	134	ⅢB	161	157	–	–	–	–	–
155	135	Ⅱ	289	196	–	–	–	–	–
156	136	ⅢB	178	132	–	–	–	–	–
157	136	ⅢB	230	152	–	–	–	–	–



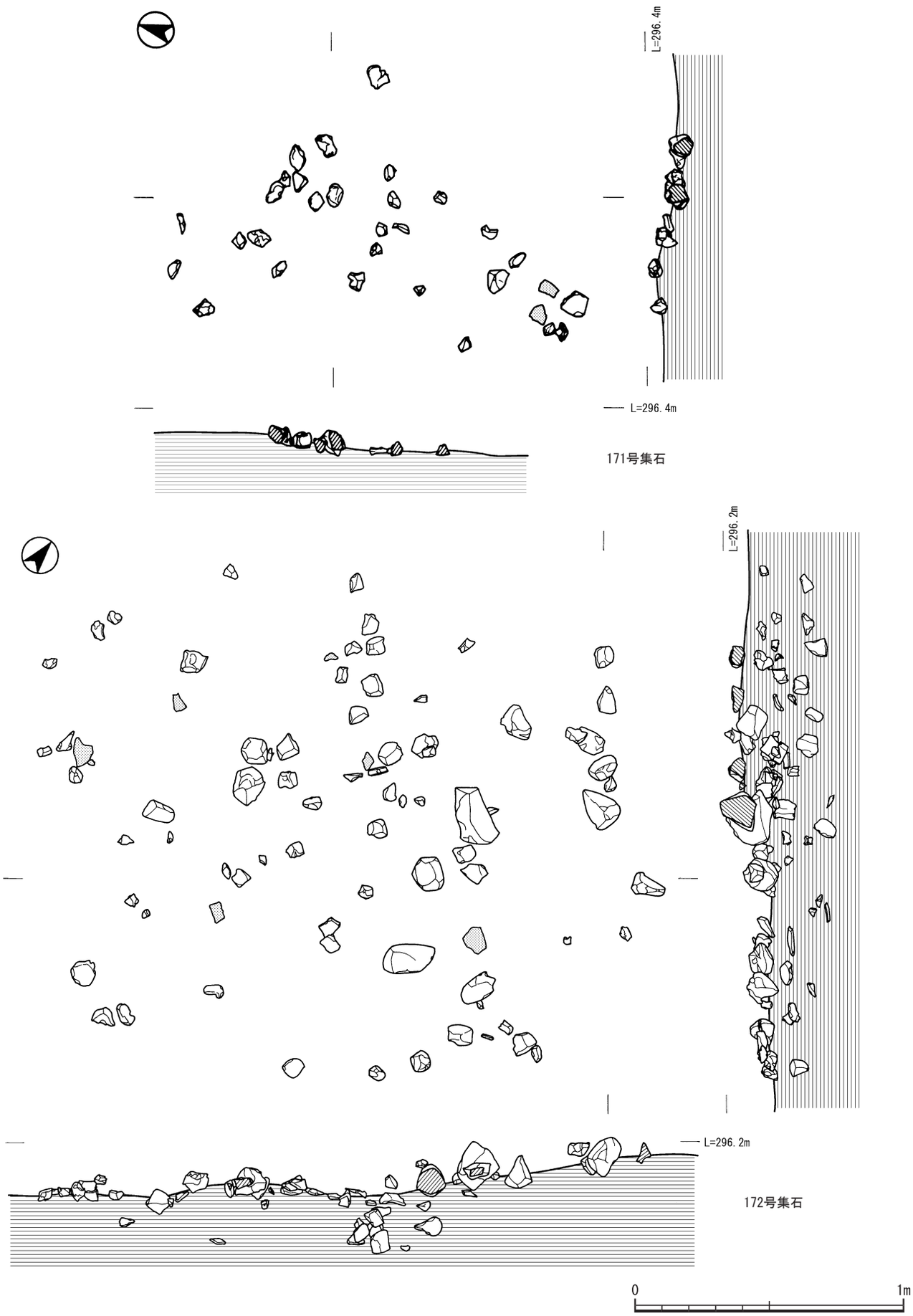
第143図　Ⅶ層遺構実測図（74）



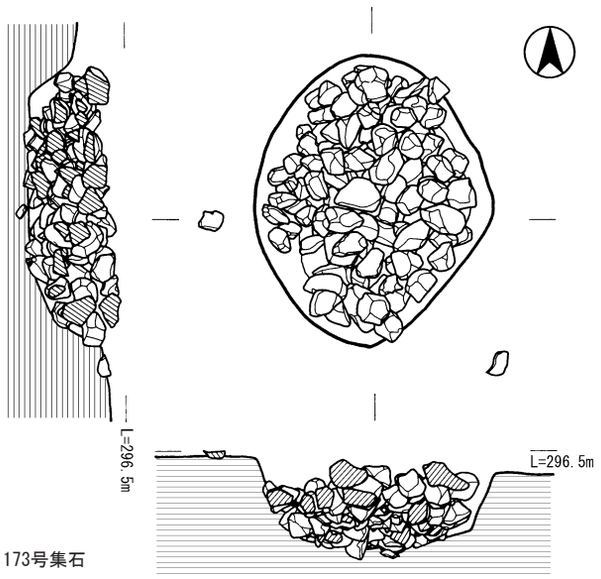
構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
143.1	4%	98%	輝石安山岩(84%), 頁岩(16%)



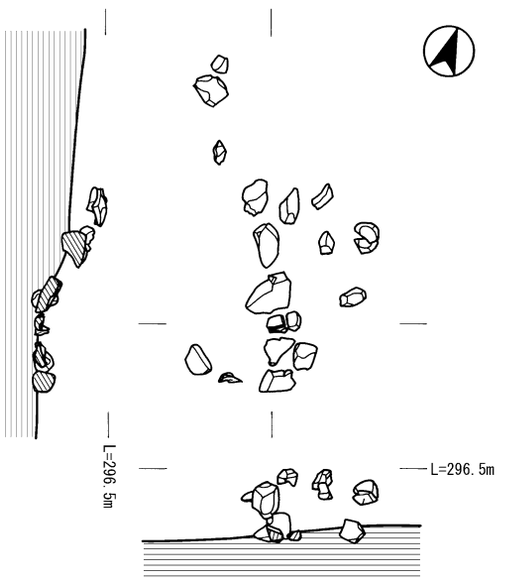
第144図　Ⅶ層遺構実測図（75）



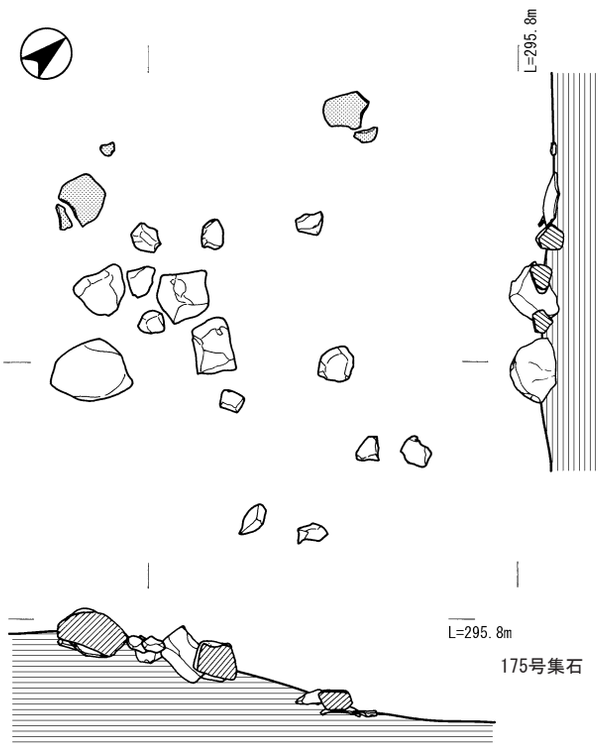
第145図　Ⅶ層遺構実測図（76）



173号集石



174号集石

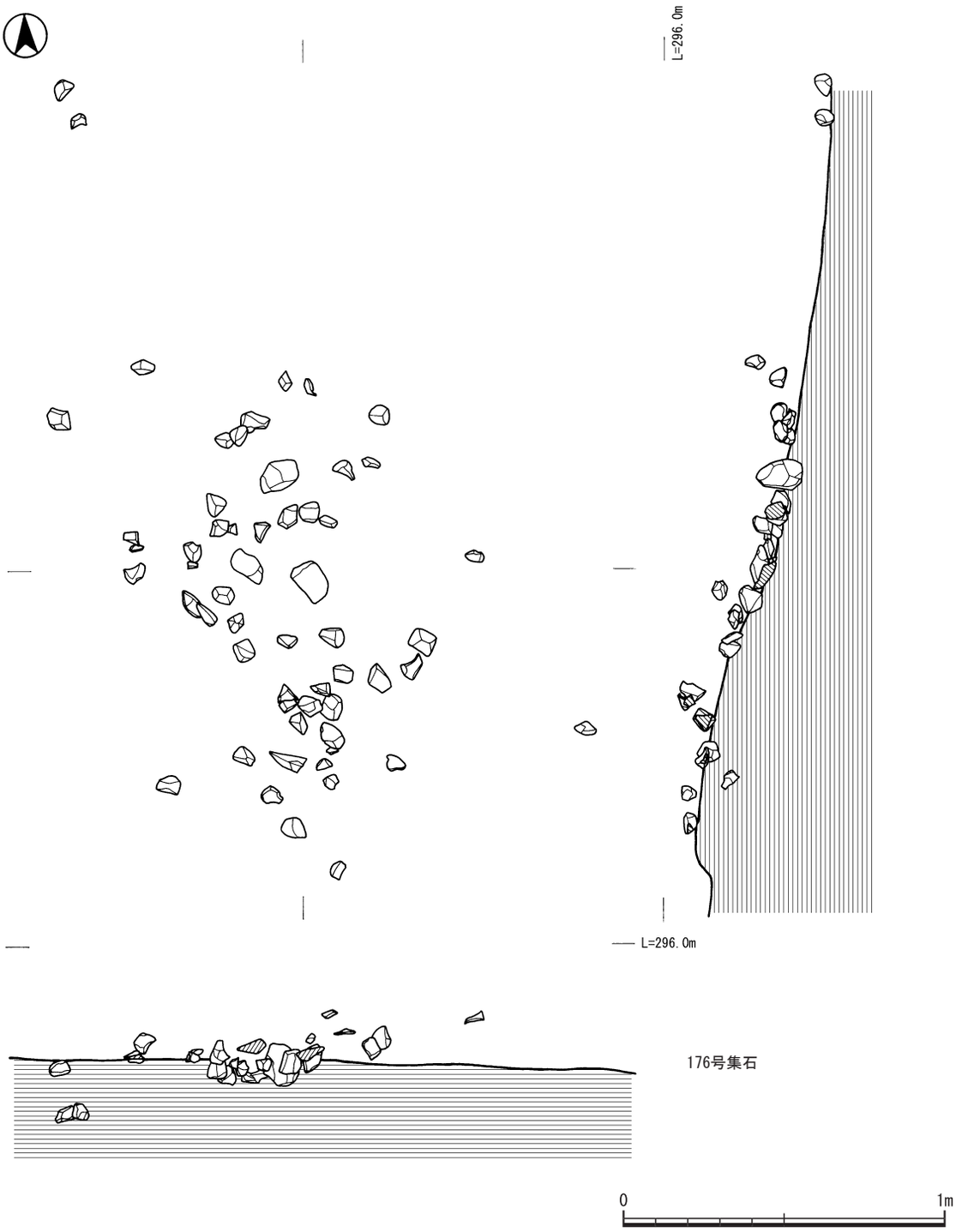


175号集石

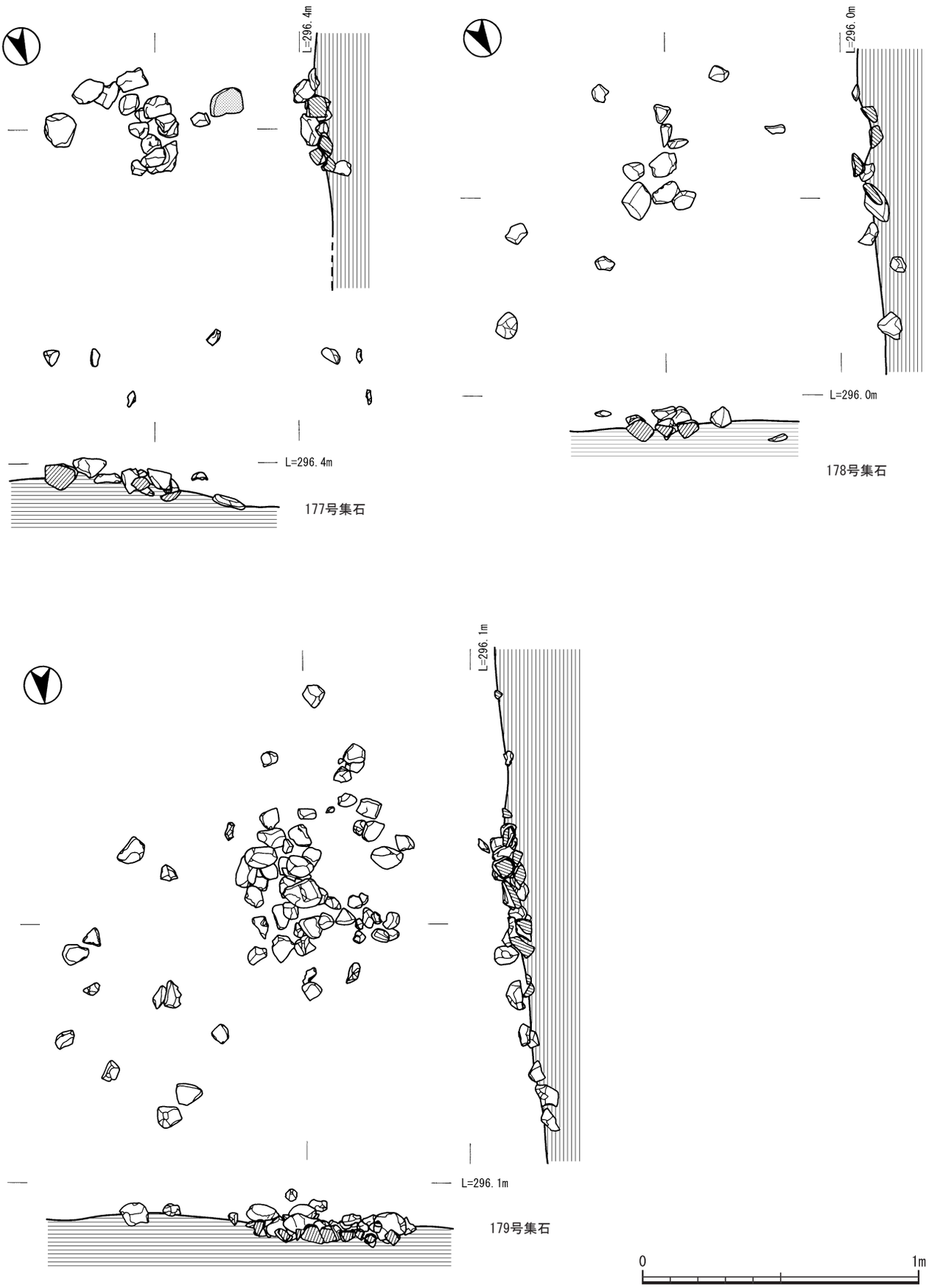
第146図　Ⅶ層遺構実測図（77）

第31表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（22）

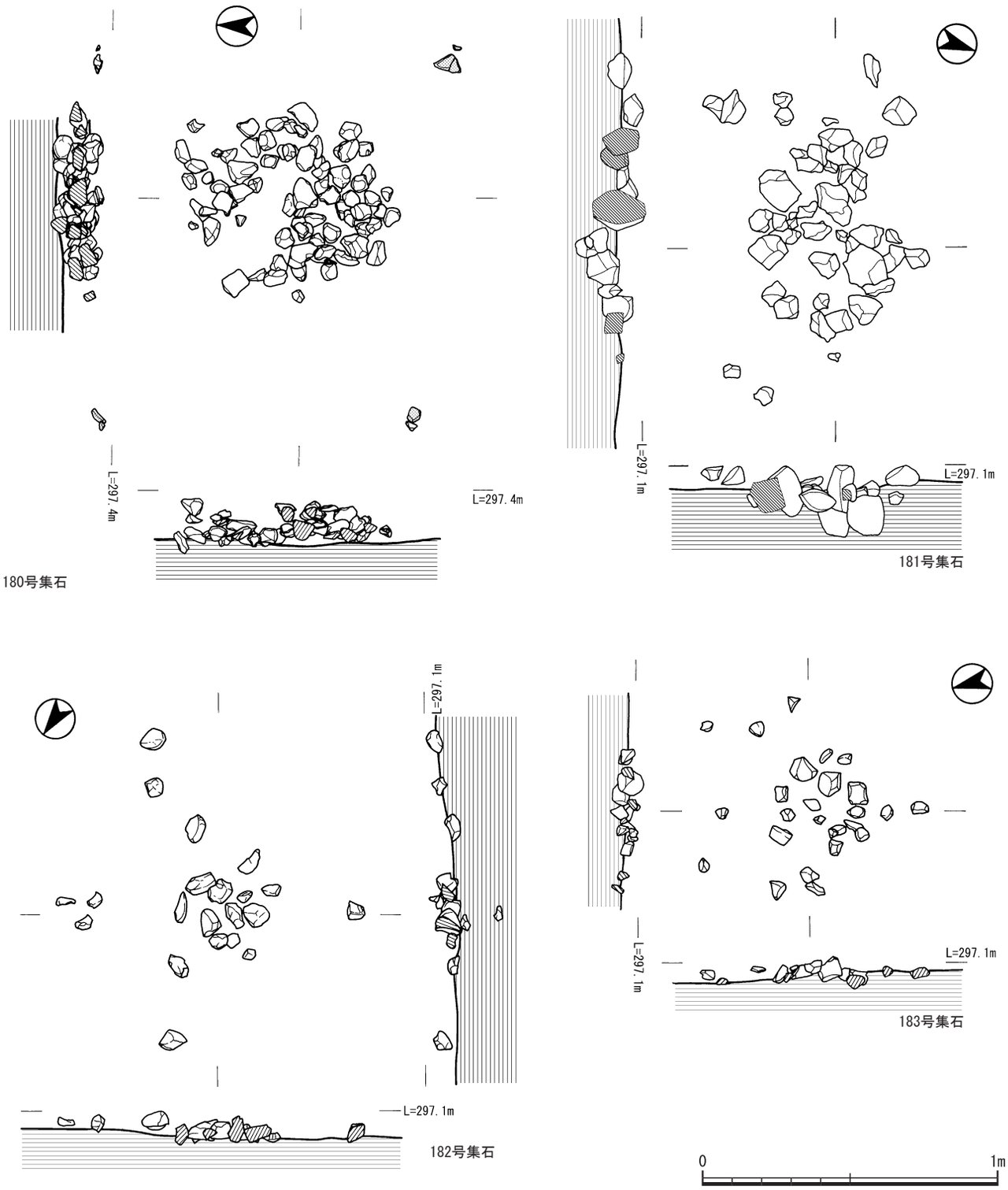
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
158	137	ⅢB	273	204	–	–	–	–	–
159	137	ⅢB	120	112	–	–	–	–	–
160	138	ⅢB	283	236	–	–	–	–	–
161	139	ⅢB	278	242	–	–	–	–	–
162	140	ⅢB	256	233	–	–	–	–	–
163	141	ⅢB	185	144	–	–	–	–	–
164	141	ⅢB	140	128	–	–	–	–	–
165	142	ⅢB	307	234	–	–	–	–	–
166	143	ⅢB	244	230	–	–	–	–	–
167	144	Ⅱ	94	91	–	–	–	–	–



第147図　Ⅶ層遺構実測図（78）



第148図　Ⅶ層遺構実測図（79）

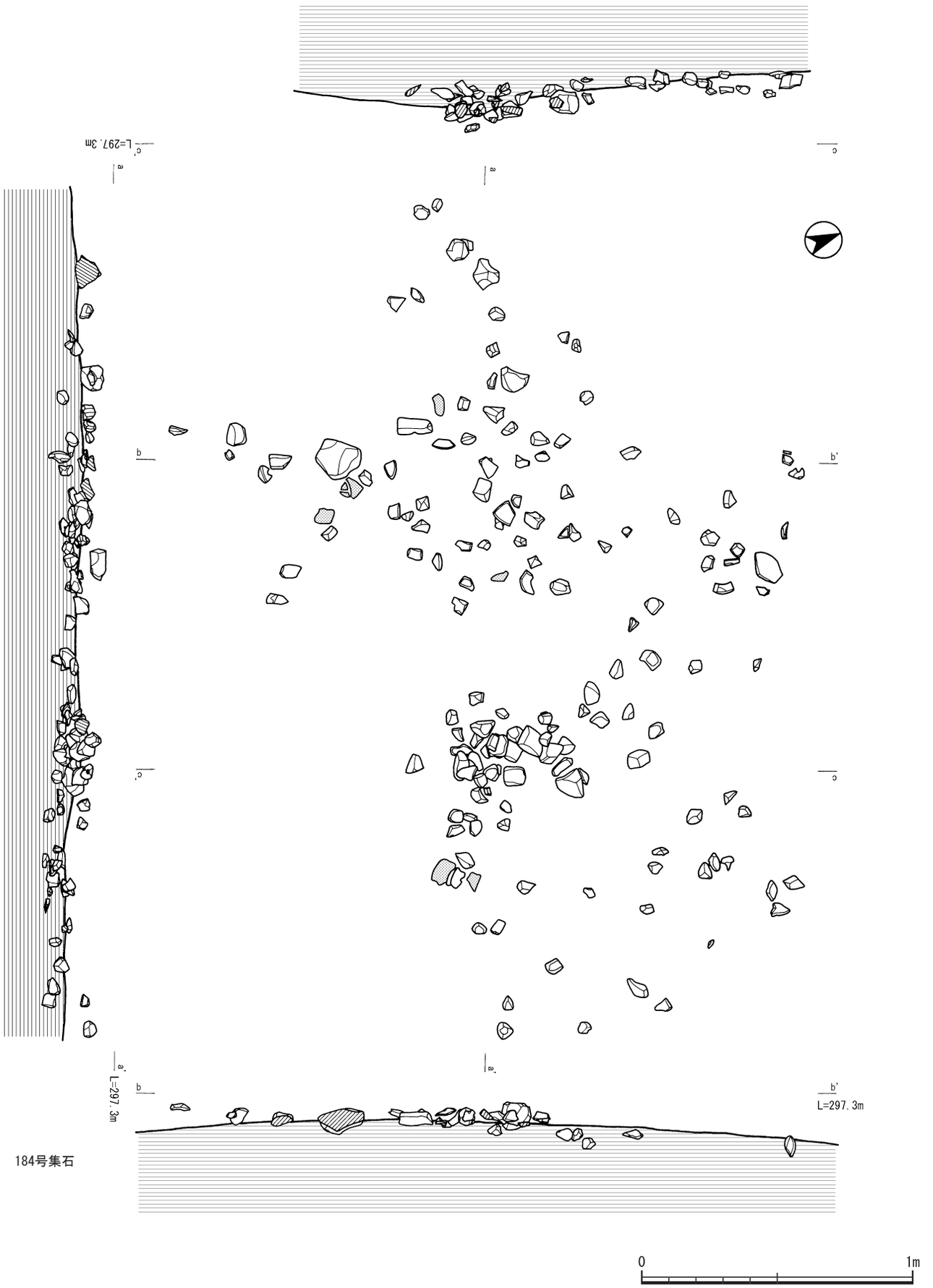


第149図　Ⅶ層遺構実測図（80）

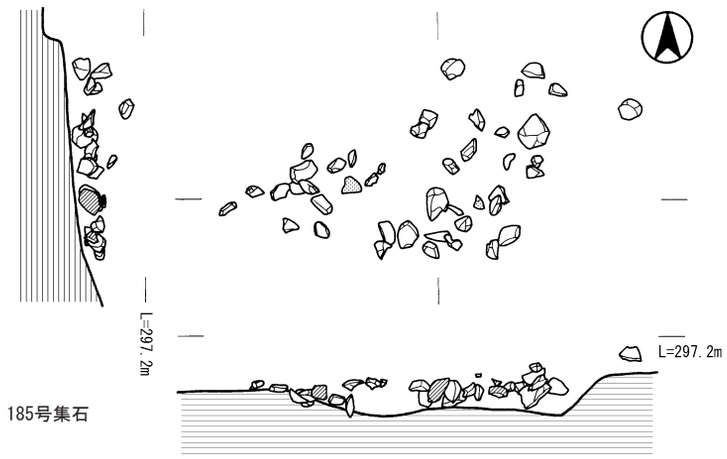
第32表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（23）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
168	144	ⅠA	84	82	1	76	74	22	108
169	144	ⅢB	164	150	–	–	–	–	–
170	144	Ⅱ	70	40	–	–	–	–	–
171	145	ⅢB	157	106	–	–	–	–	–

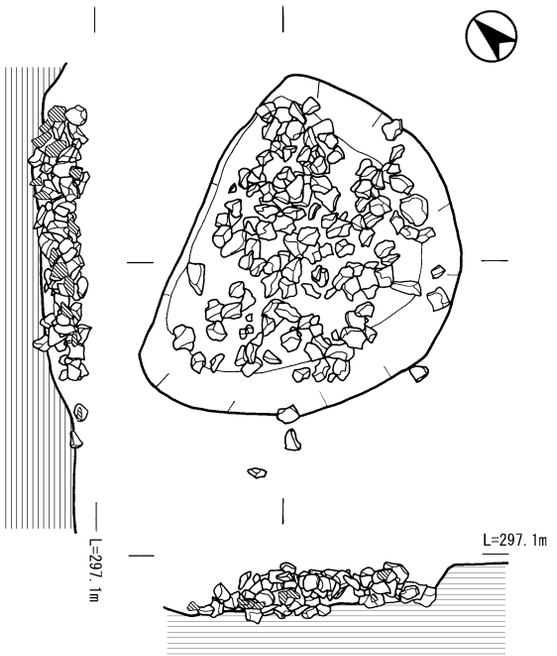
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
172	145	ⅢB	234	192	–	–	–	–	–
173	146	ⅠA	83	83	1	78	63	23	162
174	146	ⅢB	90	52	–	–	–	–	–



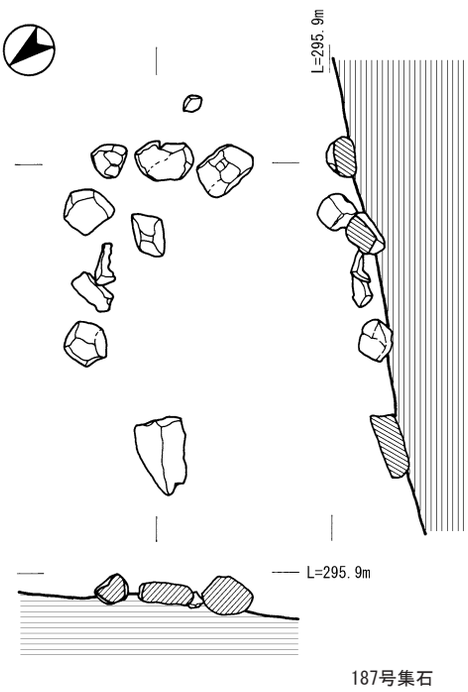
第150図　Ⅶ層遺構実測図（81）



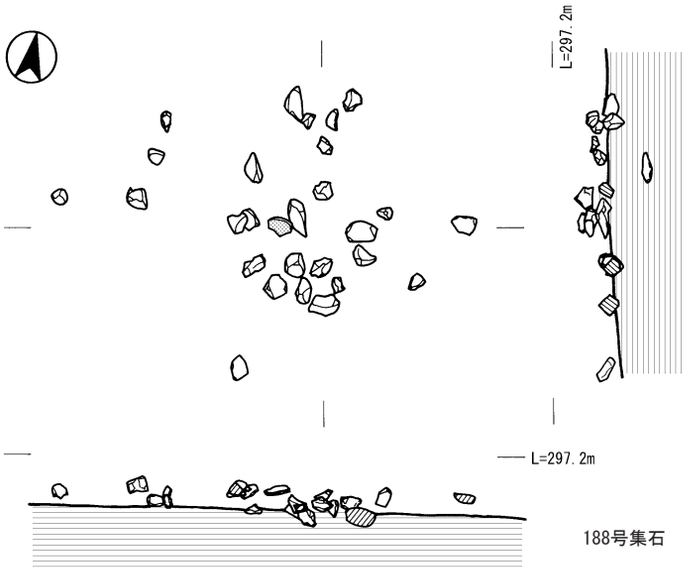
185号集石



186号集石

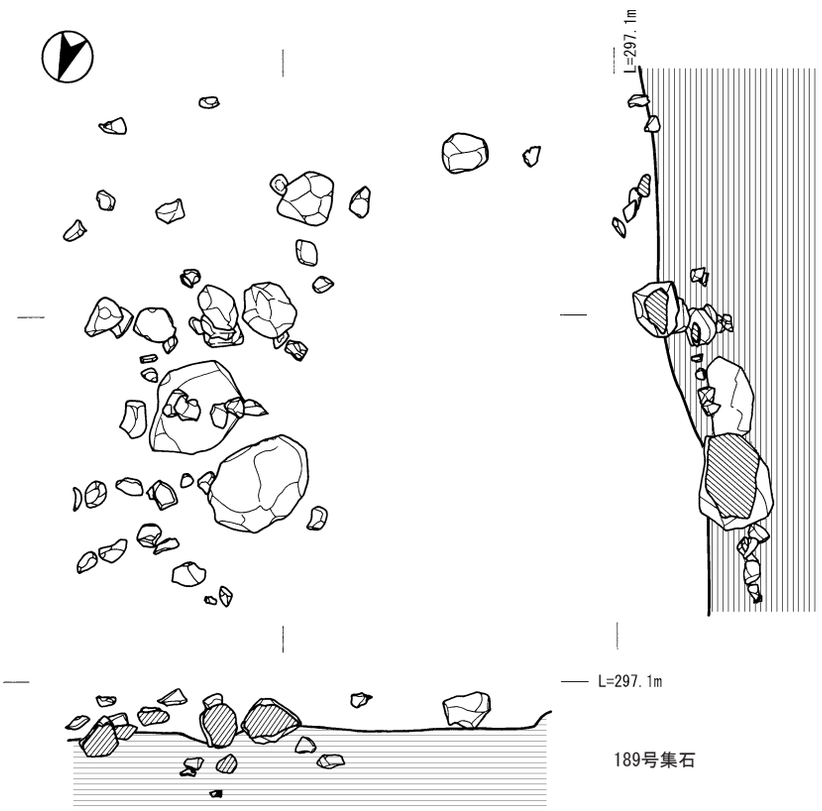


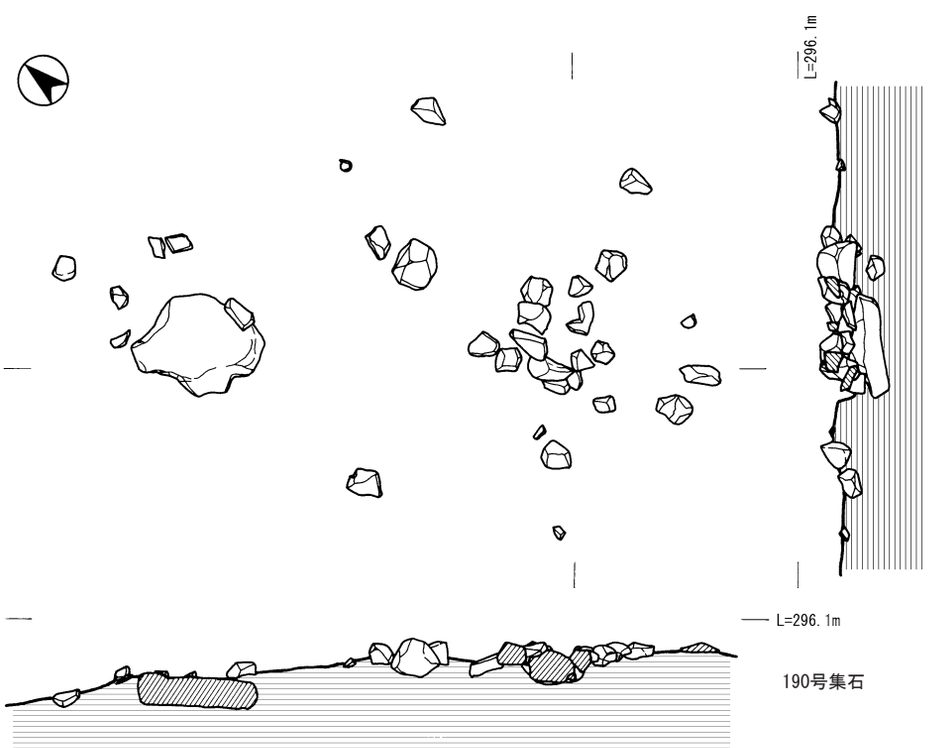
187号集石



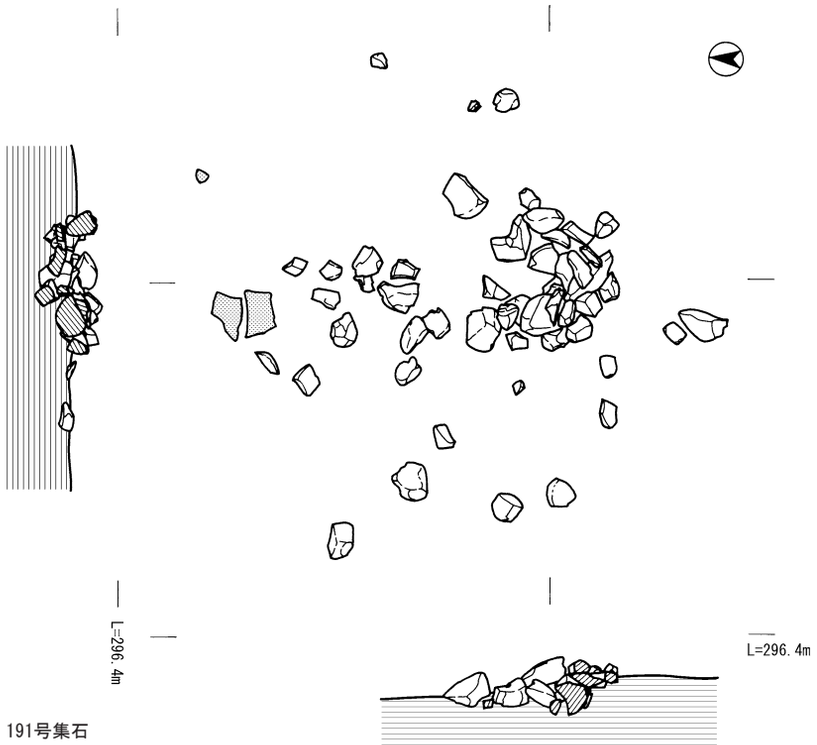
188号集石

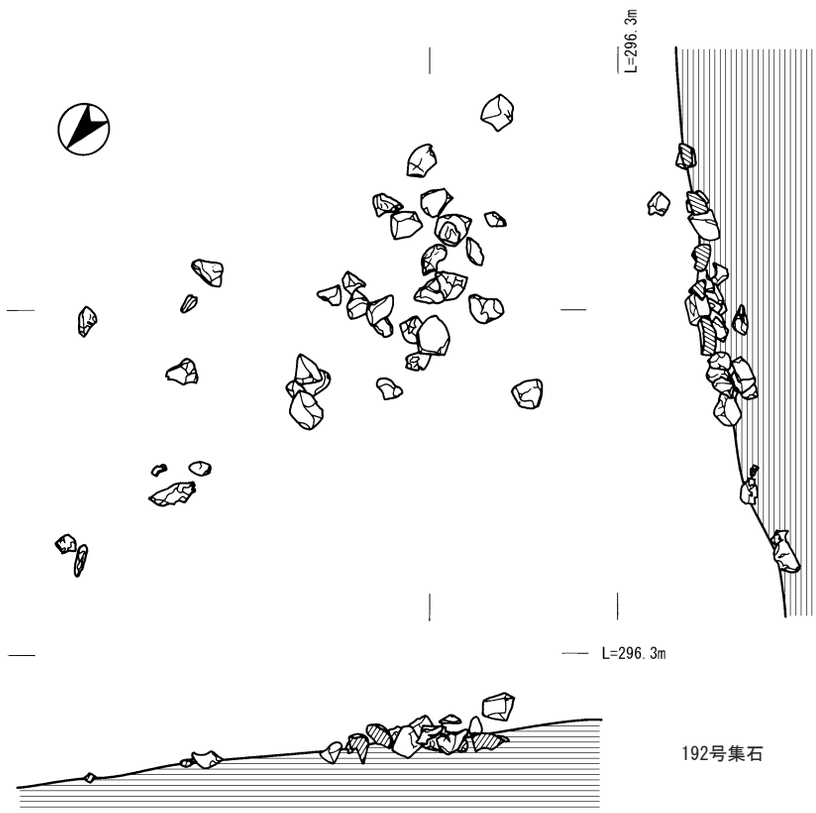
第151図　Ⅶ層遺構実測図（82）



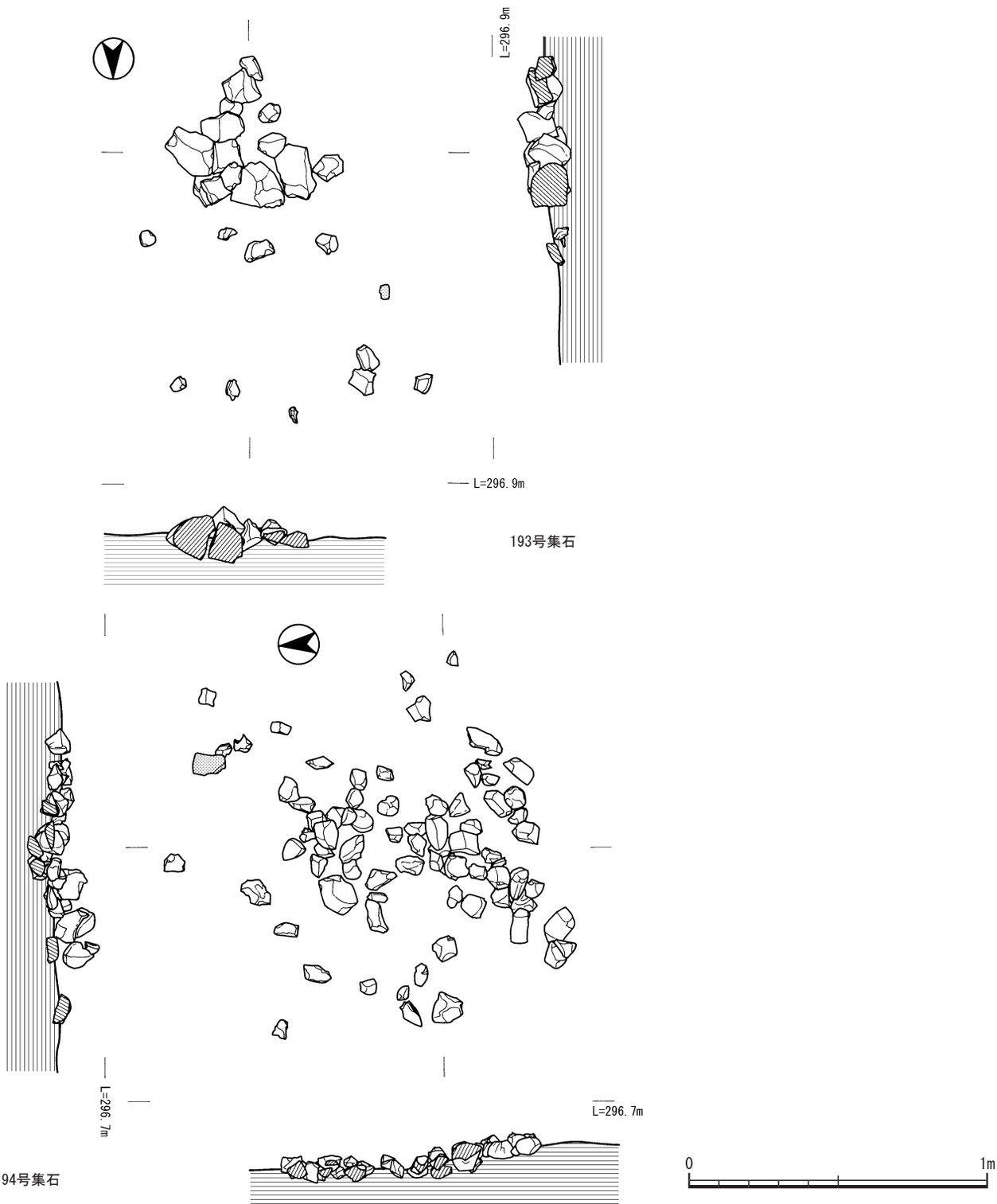


第152図　Ⅶ層遺構実測図（83）





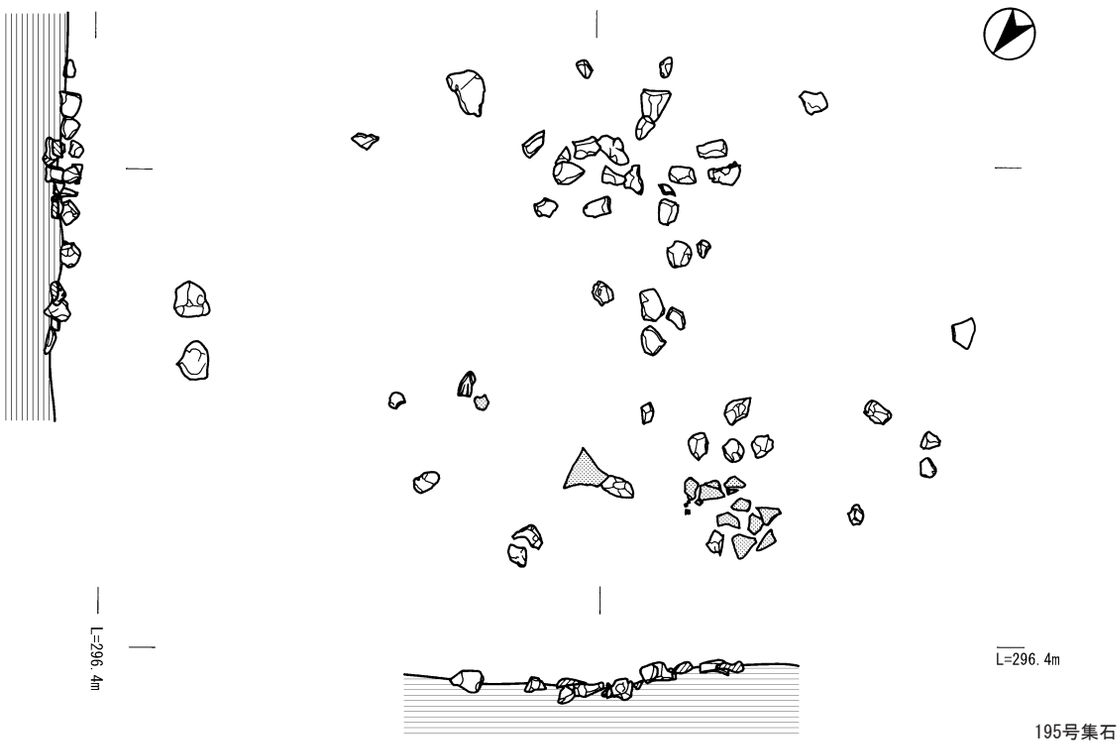
第153図　Ⅶ層遺構実測図（84）



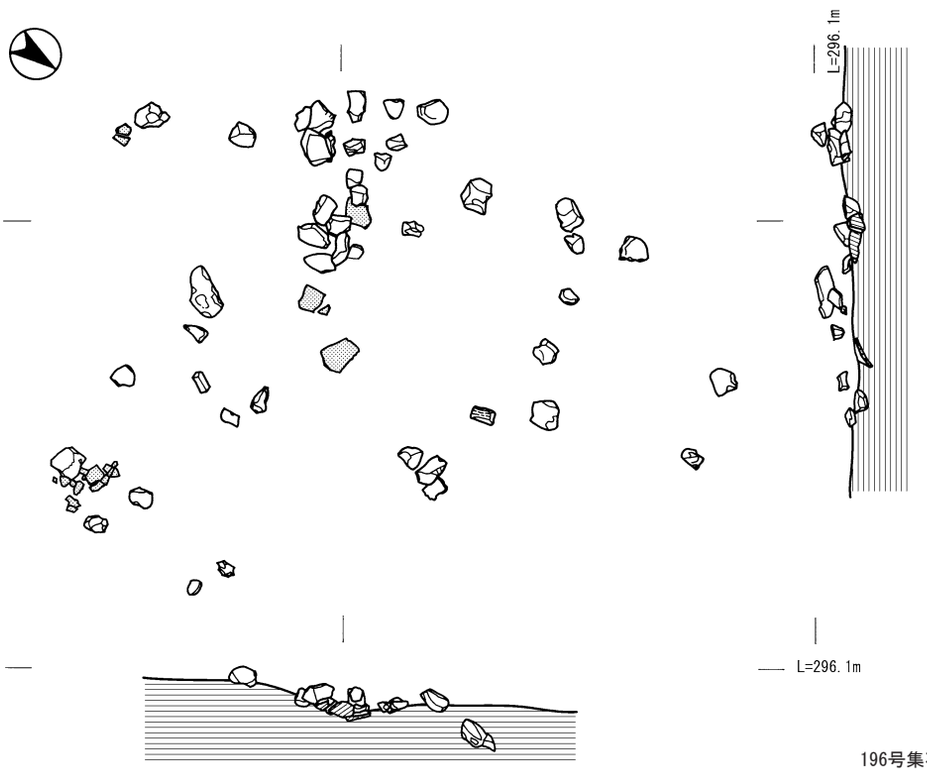
第154図　Ⅶ層遺構実測図（85）

第33表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（24）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
175	146	ⅢB	120	102	–	–	–	–	–
176	147	ⅢB	249	171	–	–	–	–	–
177	148	Ⅱ	123	72	–	–	–	–	–
178	148	ⅢA	105	99	–	–	–	–	–
179	148	Ⅱ	161	130	–	–	–	–	–
180	149	Ⅱ	131	97	–	–	–	–	–
181	149	Ⅱ	120	77	–	–	–	–	–
182	149	ⅢA	109	105	–	–	–	–	–
183	149	ⅢA	78	69	–	–	–	–	–
184	150	ⅢA	311	235	–	–	–	–	–
185	151	ⅢB	112	54	–	–	–	–	–
186	151	ⅠA	102	74	1	90	76	10	140



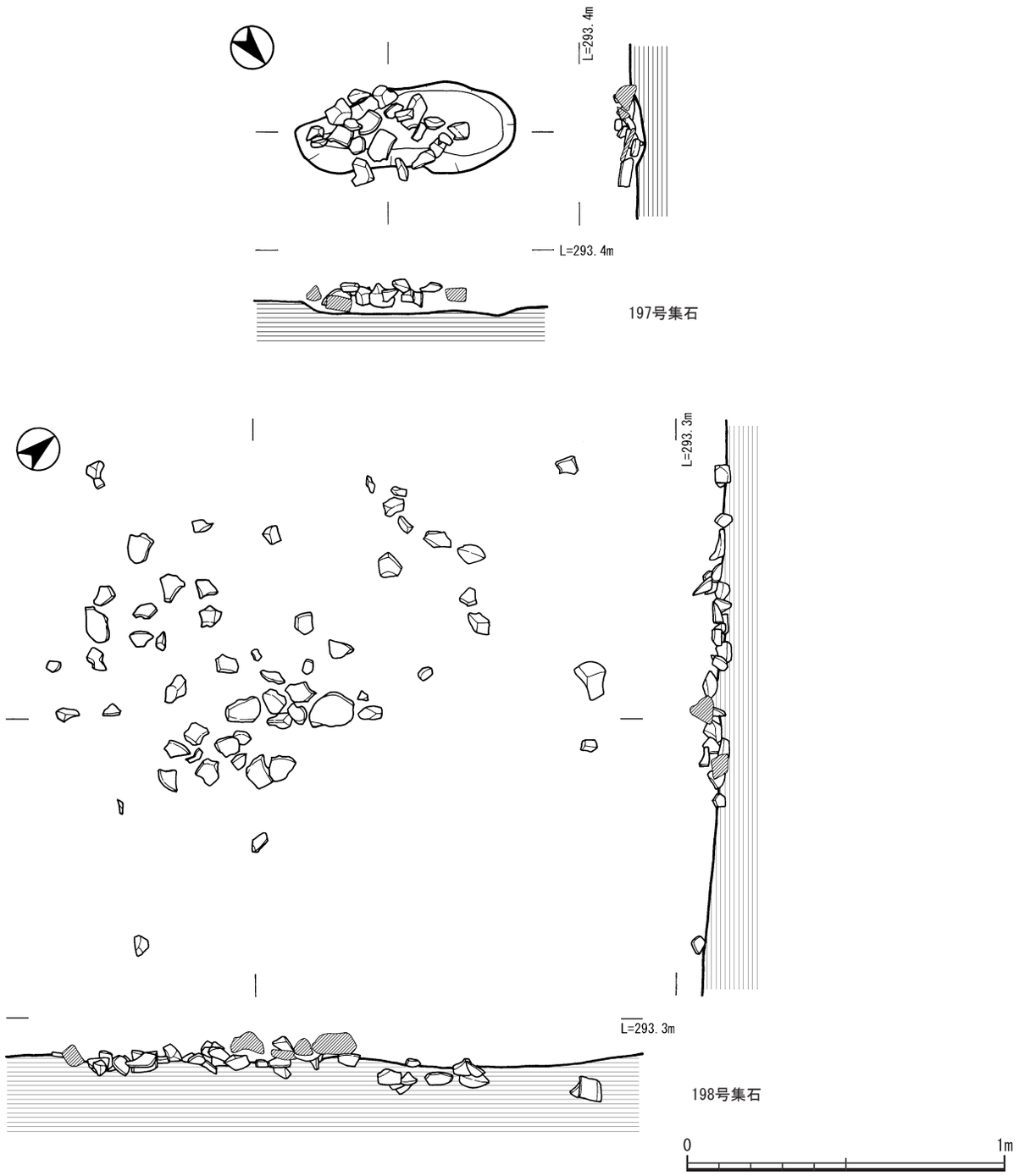
195号集石



196号集石

0 1m

第155図　Ⅶ層遺構実測図（86）

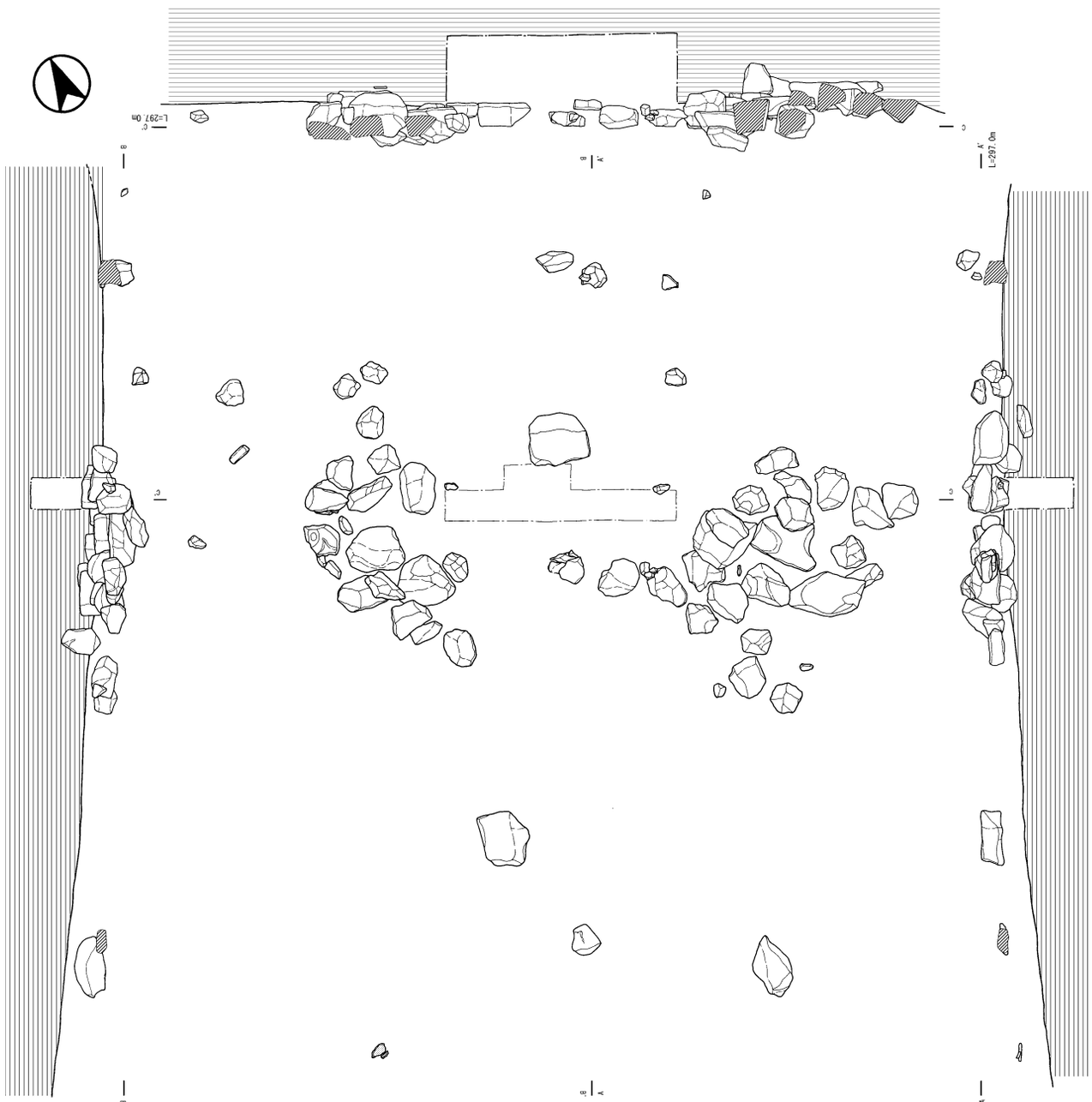


第156図　Ⅶ層遺構実測図（87）

第34表　Ⅷ～Ⅶ層集石観察表（25）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
187	151	ⅢB	107	51	-	-	-	-	-
188	151	ⅢA	114	78	-	-	-	-	-
189	152	ⅢA	135	128	-	-	-	-	-
190	152	ⅢA	178	118	-	-	-	-	-
191	153	Ⅱ	142	135	-	-	-	-	-
192	153	ⅢA	130	128	-	-	-	-	-

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
193	154	Ⅱ	122	98	-	-	-	-	-
194	154	Ⅱ	138	130	-	-	-	-	-
195	155	ⅢB	214	136	-	-	-	-	-
196	155	ⅢB	183	134	-	-	-	-	-
197	156	ⅠA	51	32	1	70	25	5	21
198	156	ⅢA	176	157	-	-	-	-	-



構成礫			
重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材
1414.5	46%	46%	輝石安山岩(43%),頁岩(6%),軽石(51%)

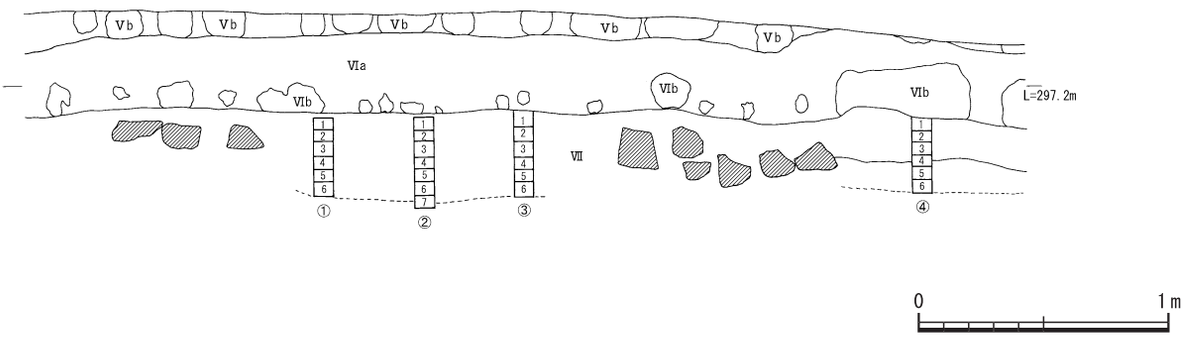
第157図　Ⅶ層遺構実測図（88）

１号配石遺構(第157図)

耳取遺跡Ⅰ－３・４区の馬の背状位置に長軸約291cm，短軸約170cm，中央部が空白の状態で検出した。30cmを越す安山岩と軽石を丁寧に配置し，周辺に散在する大きな礫はこの一部と推定される。中央部は，140cm×40cmの空白域である。墓壙の可能性も考慮し，遺構内及び遺構外のリン・カルシウムの科学分析を行った。分析結果の詳細は，次ページに記したが，明確な結果は得られていない。

なお，第23図の遺構配置図に見るように，Ｆ～Ⅰ－３～４区の１号配石遺構を起点に，179号・178号・196号・192号・189号・181号・173号・39号等の集石遺構が計画的に配された状況が見られる。

Ⅶ層配石遺構の自然科学分析状況



第158図　配石遺構サンプリング位置図

第35表　１号配石遺構のリン・カルシウム分析結果

地点名	試料番号	土性	土色		P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)
1	2	SiC	10YR2/1	黒	1.65	2.29
	4	SiC	10YR1.7/1	黒	1.81	2.53
	6	SiC	10YR1.7/1	黒	2.07	3.01
2	1	SiC	10YR2/2	黒褐	1.52	2.12
	2	SiC	10YR2/2	黒褐	1.75	2.13
	3	SiC	10YR2/1	黒	1.77	2.19
	4	SiC	10YR2/2	黒褐	1.65	2.05
	5	SiC	10YR2/1	黒	2.18	2.54
	6	SiC	10YR2/1	黒	2.18	2.61
	7	SiC	10YR2/1	黒	2.27	2.89
3	2	SiC	10YR2/3	黒褐	1.72	2.37
	4	SiC	10YR2/2	黒褐	1.78	2.42
	6	SiC	10YR2/1	黒	1.90	2.96
4	2	SiC	10YR2/3	黒褐	1.54	2.29
	4	SiC	10YR2/1	黒	1.61	2.68
	6	SiC	10YR2/1	黒	1.51	3.11

土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
SiC･･･シルト質埴土（粘土25～45%、シルト45～75%、砂0～30%）

科学分析採集地点は，西側から１～４地点までとし、４地点は遺構外の部分の資料を採集した。

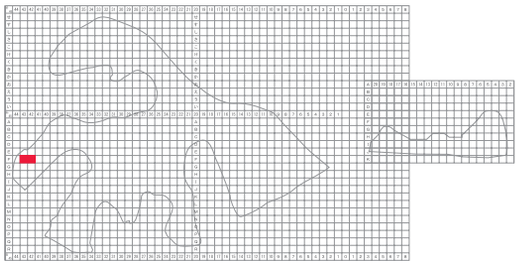
資料は民間の企業に委託し分析したものである。リン酸，カルシウム含量共に天然賦存量の範囲であるが，リン酸含有量は下層にいくほど多くなり，層位的変化は比較的明瞭であり，遺構外の４地点ではそれが認められない。

７　散礫

耳取遺跡のＧ～Ｉ-３～６区にかけては，集石遺構の隙間を埋めるように，礫群を構成しない礫(散礫)が確認されている。それら散礫の一部，Ｇ・Ｈ-６区の150㎡についてその数量を計測し，第36表に示した。1,256点の礫がドットで取り上げられたが，一部を紛失し，892個がカウントの対象となった。それによると，１㎡当たり８個の密度になる。礫１点140g平均値で，そのほとんどが破砕している。したがって，構造的に集石遺構として取り扱った礫の数も考慮すると，大量の礫が持ち込まれたとみられる。

第36表　Ⅶ層礫観察表

グリッド	総礫数	構成礫				
		重量平均値(g)	被熱率(%)	破砕率(%)	石材1	石材2
G・H-6(耳取)	892	140.4	78	97	円礫(52%)，角礫(48%)	輝石安山岩(60%)，砂岩(1%)，頁岩(33%)，その他(6%)



第159図　Ⅵ層遺構配置図１（1/200）

第160図　Ⅵ層遺構配置図２（1/200）

８　Ⅵ層の土坑

本遺跡のⅥ層（Ⅵa層）とⅦ層間には，桜島火山噴出物（Ｐ-11，約7,400年前，Ⅵb層）が堆積し明確な区分が可能である。Ｐ-11軽石の堆積状況は良好で，約15cmの層厚が確認され，Ⅵ層として取り扱った遺構は，その上部のⅥa層（茶褐色～淡褐色土層）で検出されている。

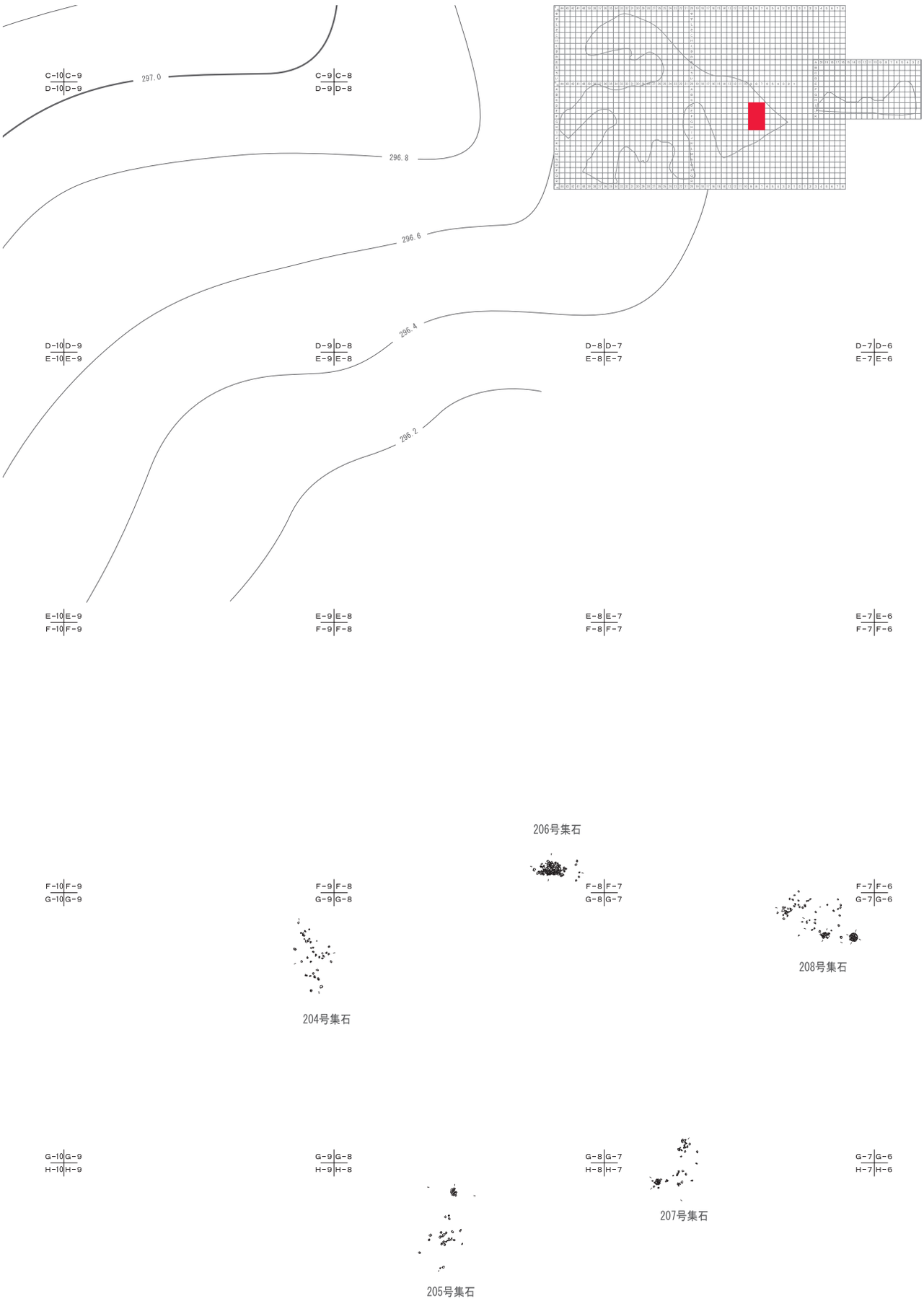
桐木遺跡では，41号土坑１基を検出している。

41号土坑（第169図）

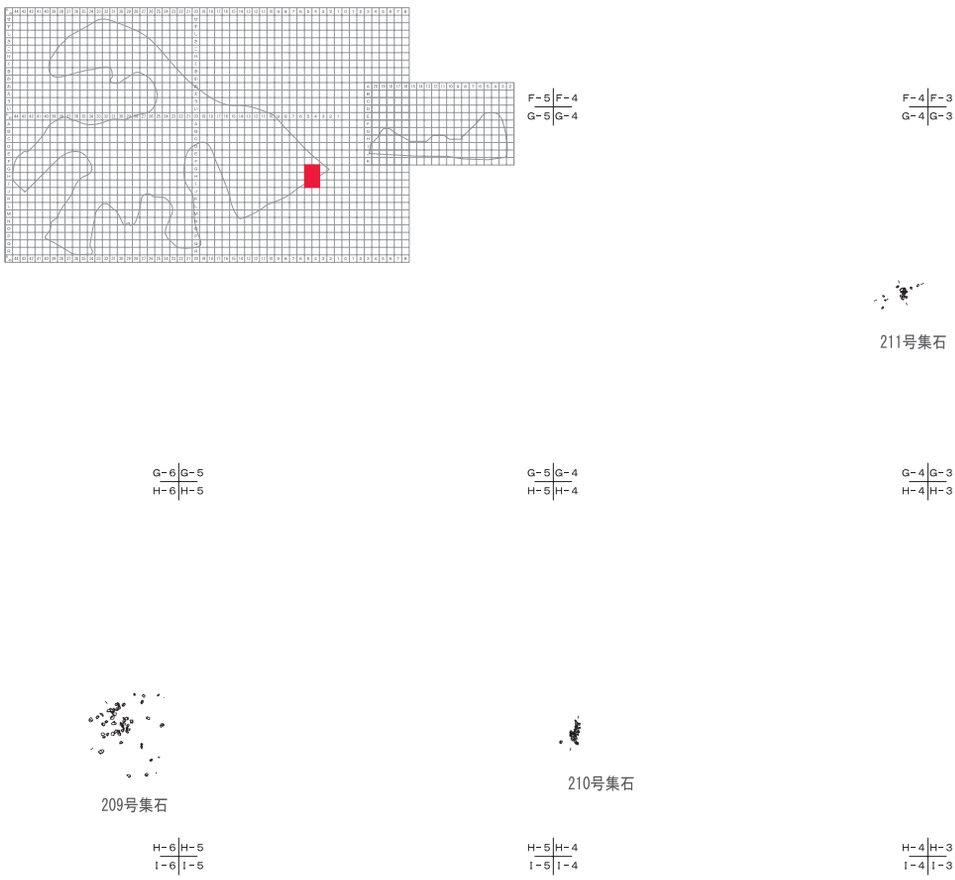
Ⅶ層上面で検出し，土坑はⅥa層を主体にＰ-11軽石が混在した埋土で，埋土１はＰ-11軽石を含むがその量が少なくなる。したがって，明確な区分は難しい。時期の認定については，埋土中のＰ-11軽石が混在する要因が，土坑掘削することにより人為的に生じたと判断し，Ⅵ層（縄文時代早期後葉）の土坑として取り扱った。遺跡を南北に二分する大きな谷のⅠ-22区南側縁辺部で検出し，平面プラン78cm×33cm+α，検出面からの深さ約29cmで，Ⅸ層の薩摩火山灰上面まで掘り込んでいた。

第161図　Ⅵ層遺構配置図３（1/200）

第162図　Ⅵ層遺構配置図４（1/200）



第163図　Ⅵ層遺構配置図５（1/200）



第164図　Ⅵ層遺構配置図６（1/200）

９　Ⅵ層の集石遺構

集石遺構は，桐木遺跡で13基(199号～211号)，耳取遺跡で11基(212号～222号)検出している。Ⅴa層のアカホヤ火山灰層の下位で検出するパターンが一般的であった。Ⅷ層・Ⅶ層段階の集石遺構に比べ小規模のものが多く，その数も大きく減少している。

199号集石遺構(第169図)

桐木遺跡Ｆ-43区で検出し，上面観54cm×45cmの楕円形で，12cmの掘り込み遺構を伴い，底面はⅦ層に設けられている。礫は拳大の角礫で，ほとんどが輝石安山岩である。まばらに炭化物が確認される。Ⅰ Ｂ類

200号集石遺構(第169図)

桐木遺跡Ｂ-13区で検出し，39cm×25cmの範囲に角礫９個が存在する。掘り込み遺構は無く，炭化物も検出できなかった。Ⅲ Ａ類

201号集石遺構(第169図)

桐木遺跡け-27区で検出し，178cm×92cmの範囲に角礫18個が散在する。礫がやや集中傾向から遺構の中心部らしき痕跡も読みとれるが，判然としない。Ⅲ Ｂ類

202号集石遺構(第170図)

桐木遺跡Ｂ-11区の尾根状の所で検出し，178cm×144cmの範囲に拳大の角礫30個で構成する。一部礫が集まる箇所が遺構の中心部と推測される。掘り込み遺構は確認できていない。Ⅲ Ａ類

203号集石遺構(第170図)

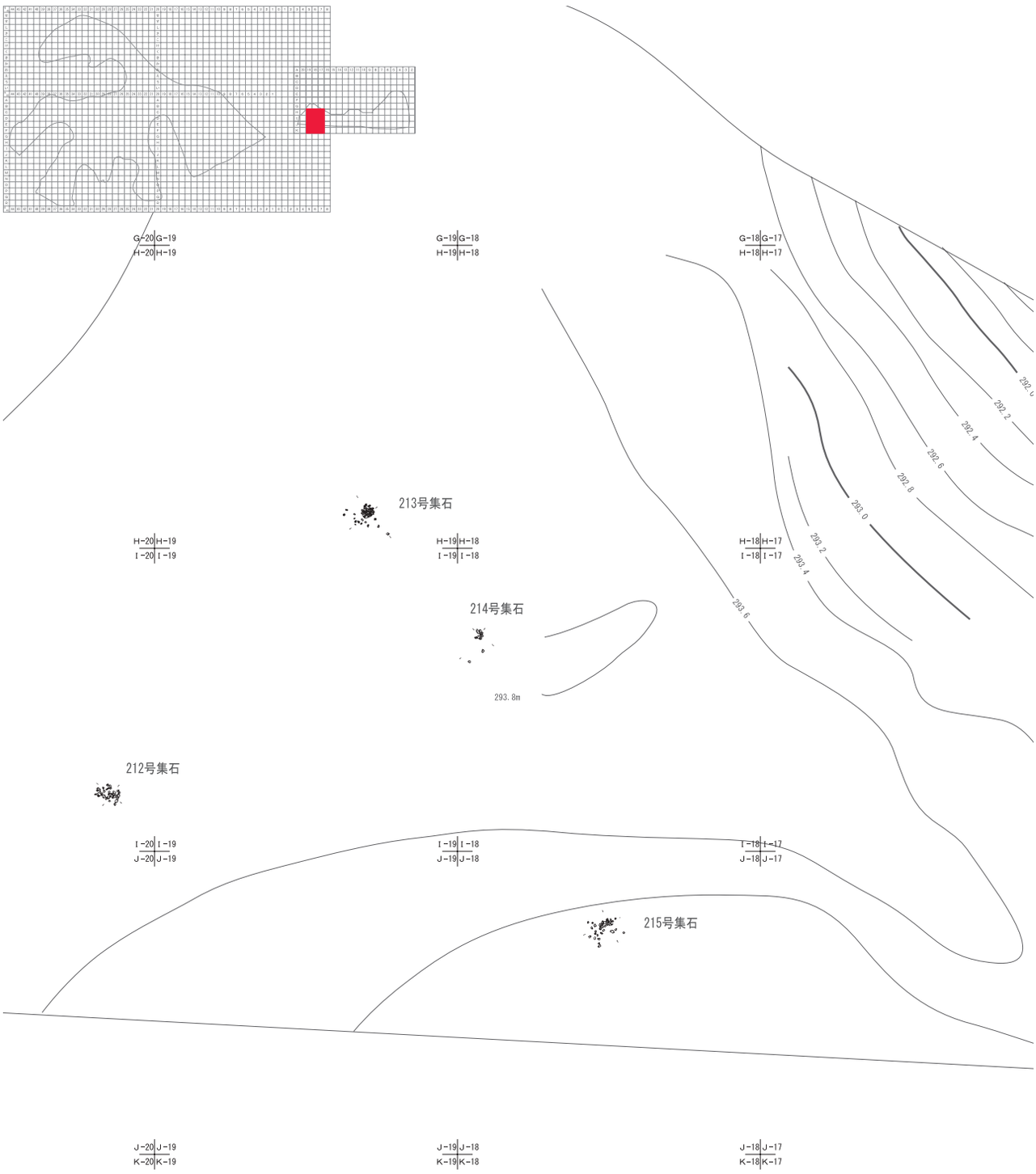
桐木遺跡Ａ-11区で検出した。北方向の国道10号線側へ傾斜が急になる位置に，141cm×125cmの範囲に34個の礫を使用していた。掘り込み遺構は確認していない。Ⅲ Ａ類

204号集石遺構(第171図)

桐木遺跡Ｇ-８・９区で検出し，263cm×134cmの範囲に角礫41個が存在する。礫は散在し，掘り込みは確認できなかった。Ⅲ Ｂ類

205号集石遺構(第172図)

桐木遺跡Ｈ-８区で検出した。30cm×24cmの範囲に礫20個が集中し，礫の下位はⅥb層を掘り込まれたと解釈できる。さらに，約170cm西側に礫集中箇所があるが，掘り込み遺構は確認できていない。これらについて１基とカウントしているが，別個の可能性もある。使用礫は，輝石安山岩である。Ⅱ類



第165図　Ⅵ層遺構配置図７（1/200）

206号集石遺構(第173図)

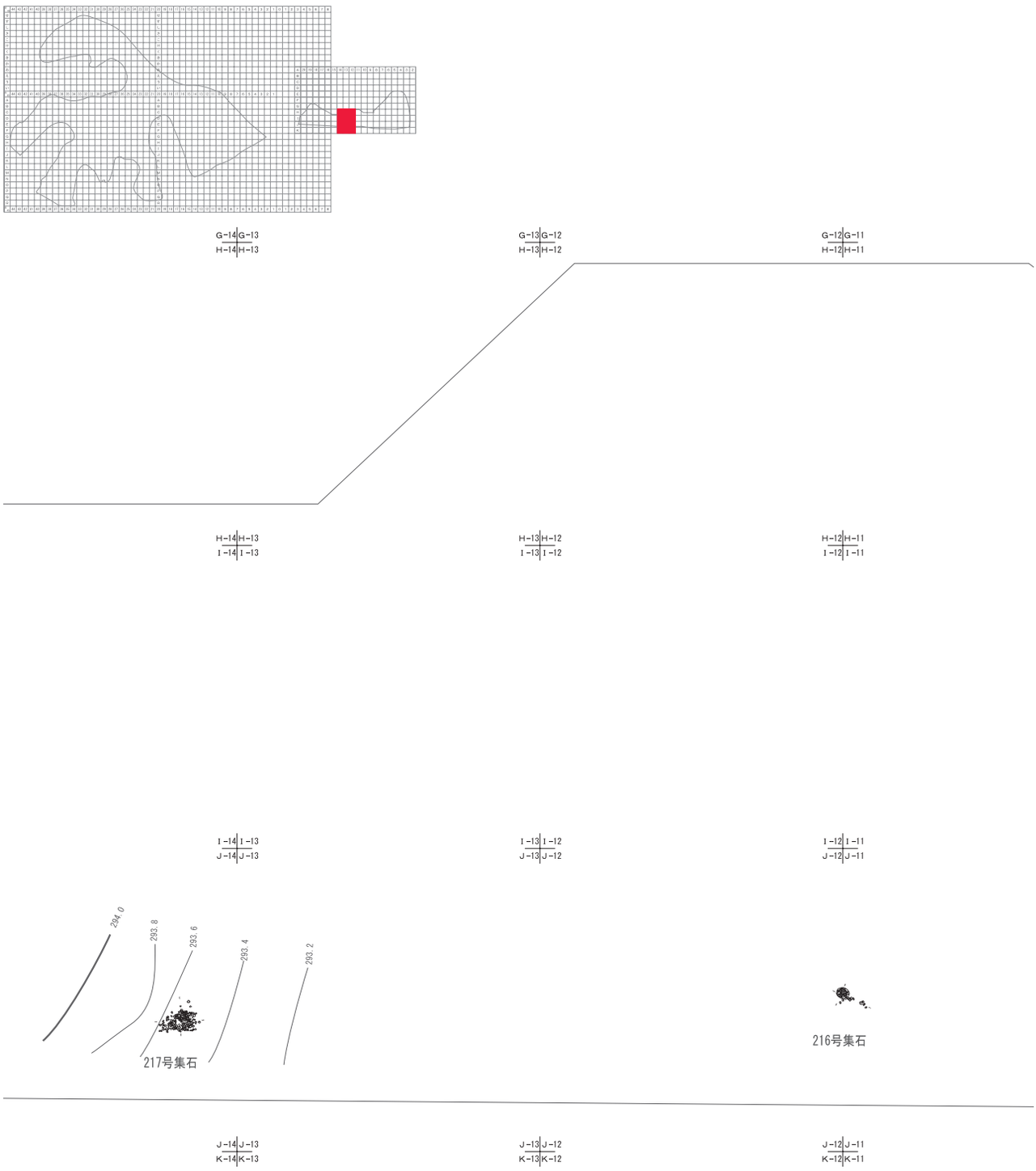
桐木遺跡Ｆ－８区で検出した。径73cm×50cm，深さ21cmの掘り込み遺構に，礫113個が密集して残される。礫のほとんどが被熱し，半数は破砕，炭化物も多量に検出される。炭化物は，下部ほど大きい。ＩＡ類

207号集石遺構(第173図)

桐木遺跡Ｇ・Ｈ－７区で検出し，礫集中部と散礫部から成る。集中部は，明確な掘り込み遺構の掘り込みラインは把握できていないが，礫の残存状況や断面観察からはその存在が想定される。一方，散礫部の下位は明確な掘り込み遺構は確認できず，むしろ遺構を伴わないとみられる。なお，これらについても１基としたが，個別の可能性もある。礫は輝石安山岩を使用し，被熱している。Ⅱ類

208号集石遺構(第174図)

桐木遺跡Ｇ－７区で検出された。礫集中部と散礫部から成る。①の掘り込み遺構は30cm×30cm，深さ12cmで，礫が密集する。②の掘り込み遺構は30cm×28cm，深さ13cmで，拳大の礫が密集する。①と②の距離は80cm程，②の西



方向に散礫部が広がる。ＩＡ類

209号集石遺構(第175図)

桐木遺跡Ｈ－６区で検出し，222cm×215cmの範囲に礫52個が存在する。密な集中は見られないが，集石の中心部は想定される。ⅢＡ類

210号集石遺構(第175図)

桐木遺跡Ｈ－４区で検出し，60cm×30cmの範囲に礫が23個集中していた。拳大の角礫を使用し，掘り込みラインは明確でないが，掘り込みが想定される。Ⅱ類

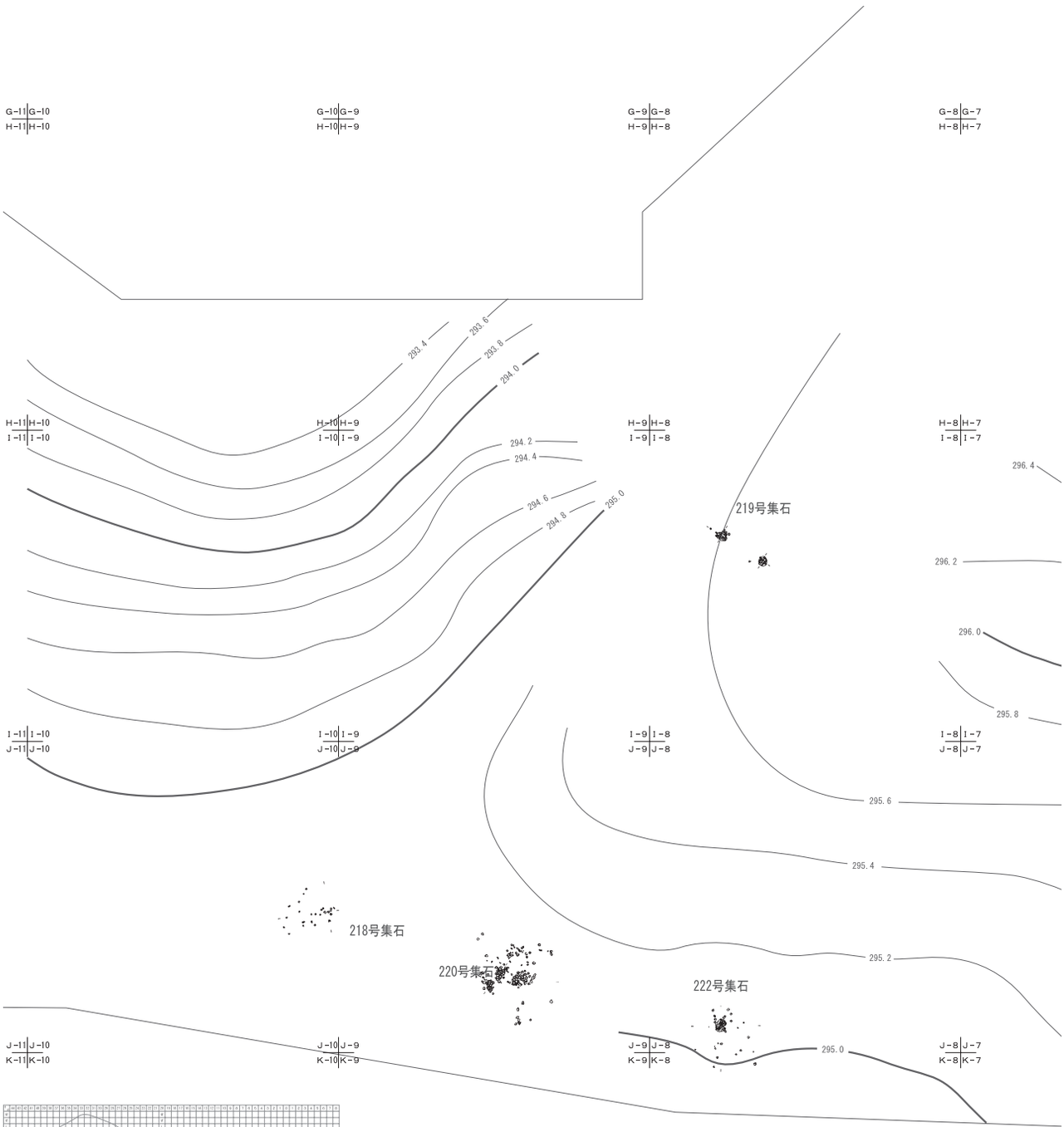
211号集石遺構(第175図)

桐木遺跡Ｇ－４区で検出し，116cm×44cmの範囲に礫19個が残される。集石の中心部は想定できるが，掘り込みははっきりしない。ⅢＡ類

212号集石遺構(第176図)

耳取遺跡のＩ-20区で検出し，82cm×63cmの範囲に礫35個が集中する。礫は集中するが掘り込み遺構の存在は確認できていない。ⅢＡ類

第166図　Ⅵ層遺構配置図８（1/200）



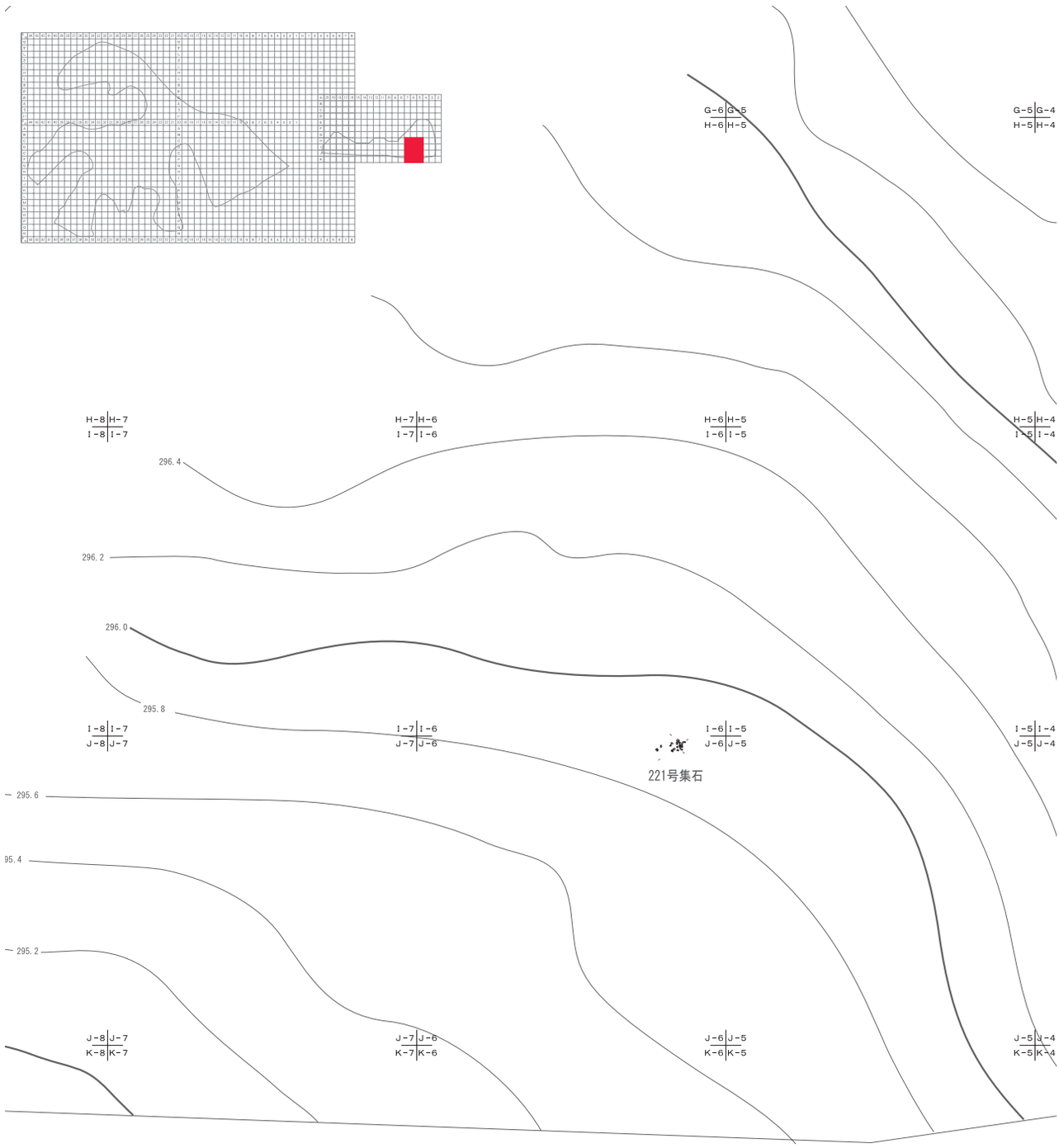
213号集石遺構(第176図)

耳取遺跡Ｈ-19区で検出した。38cm×38cm，深さ７cmの掘り込み遺構に拳大の礫28個がぎっしり残されていた。なお，遺構の西側には，礫20個が散逸し，遺構内礫群と関係すると見られる。ＩＡ類

214号集石遺構(第176図)

耳取遺跡Ｉ-18区で検出し，礫９個が密集する場と，散逸礫から成る。掘り込み遺構は確認できなかった。ⅢＡ類

第167図　Ⅵ層遺構配置図９（1/200）



215号集石遺構(第176図)

耳取遺跡Ｊ-18区で検出し，114cm×92cmの範囲に礫38個が集中する。掘り込み遺構は確認していないが，礫群が拡散したと判断される。ⅢＡ類

216号集石遺構(第176図)

耳取遺跡Ｊ-11・12区で検出した。径42cm×36cm，深さ18cmの掘り込み遺構内に礫36個が密集して残される。遺構底面は，円形で平坦に仕上げられている。ＩＡ類

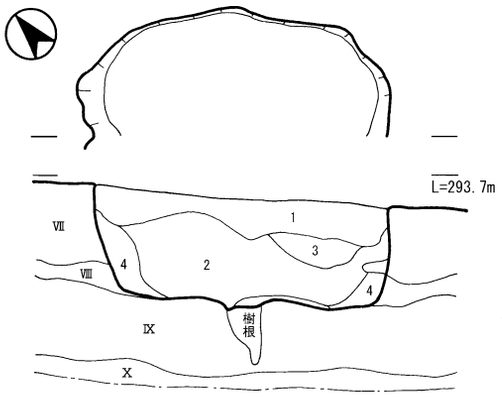
217号集石遺構(第177図)

耳取遺跡Ｊ-14区で検出し，５cm前後の角礫を159個使用していた。明確な掘り込み遺構は確認していないが，礫群が拡散した状況と判断される。Ⅱ類

218号集石遺構(第177図)

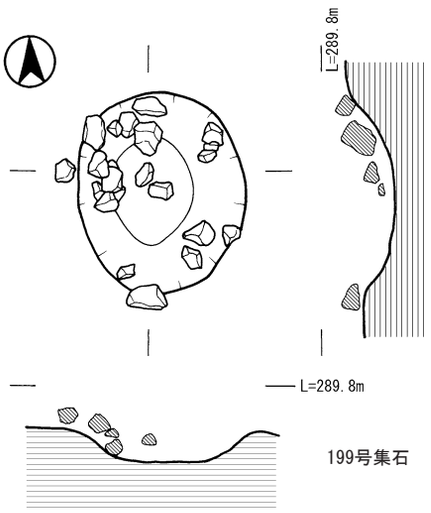
耳取遺跡Ｊ－９・10区で検出し，172cm×140cmの範囲に礫25個が散在する状況で検出した。ⅢＢ類

第168図　Ⅵ層遺構配置図10（1/200）

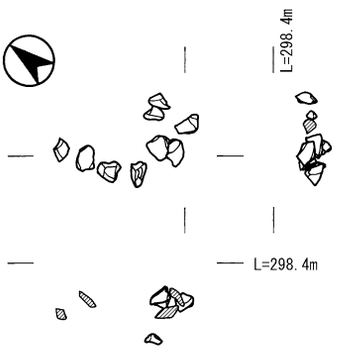


41号土坑

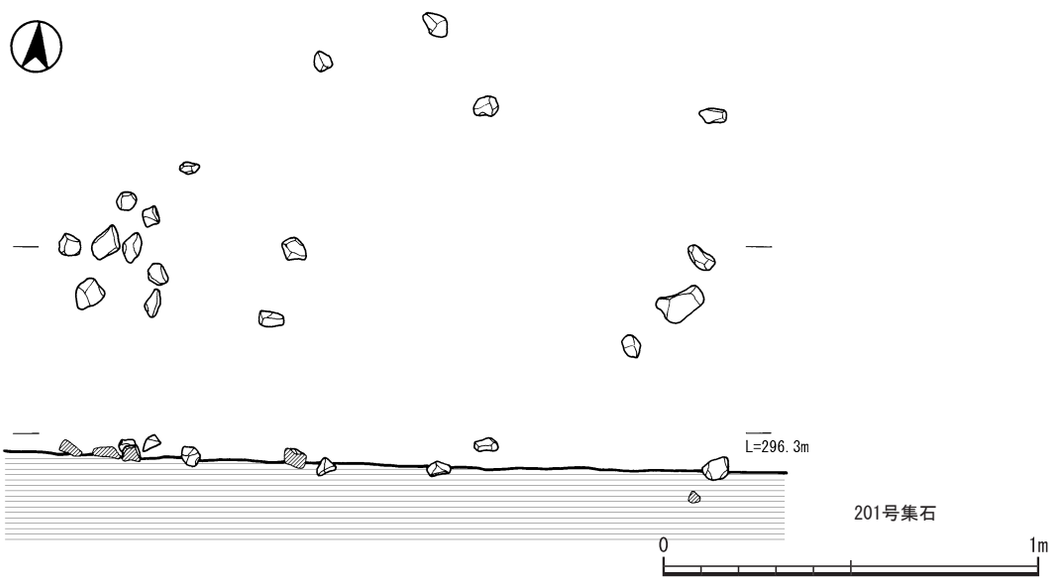
1	暗橙色土。Ⅴb層に黄色パミスが混入。
2	茶褐色土。Ⅵa層に黄色パミスが混入。
3	茶褐色土。２に類似するが黄色パミスは少量混入。
4	黒褐色土。Ⅷ層に黄色パミスがわずかに混入。



199号集石



200号集石

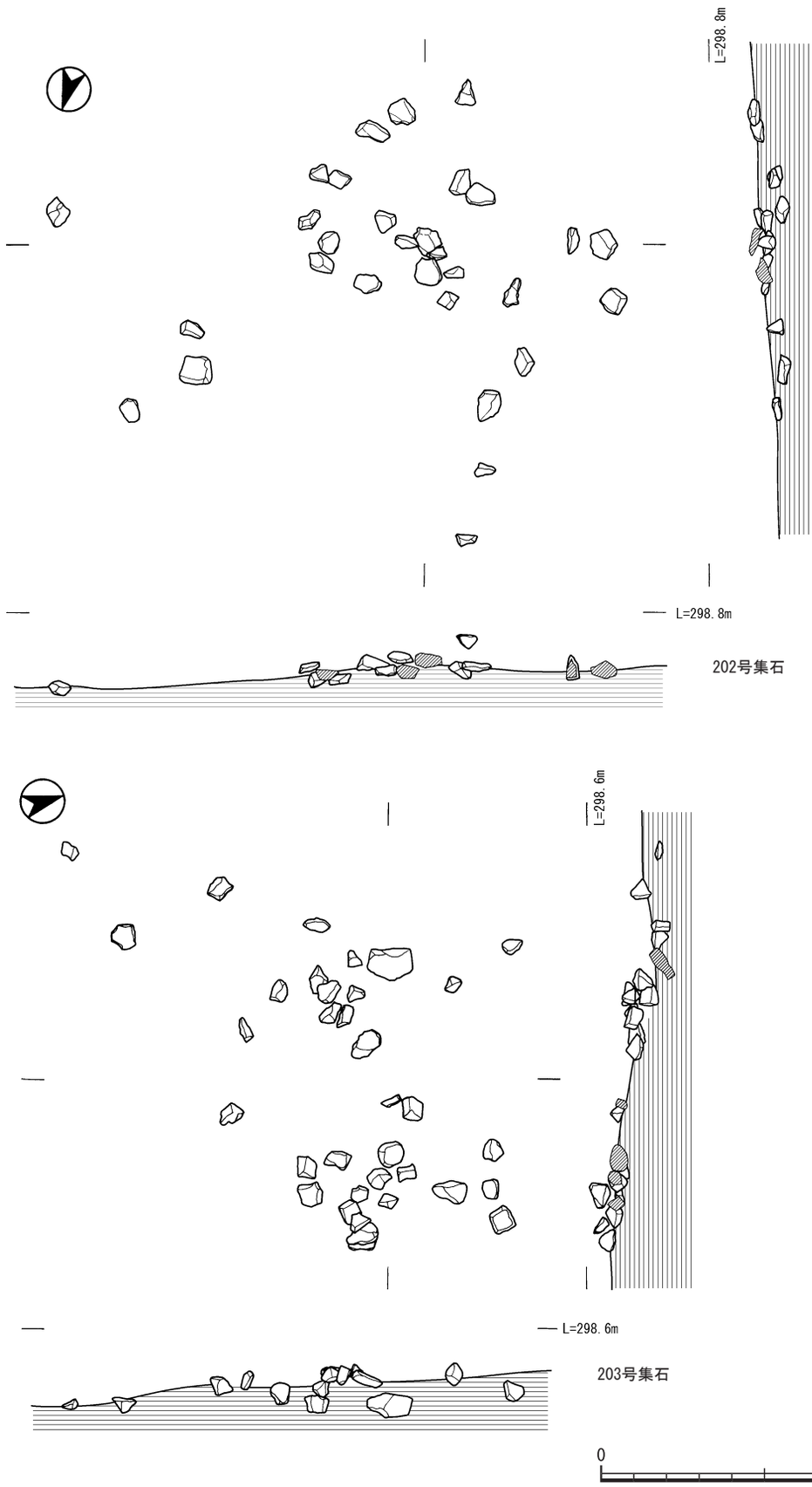


201号集石

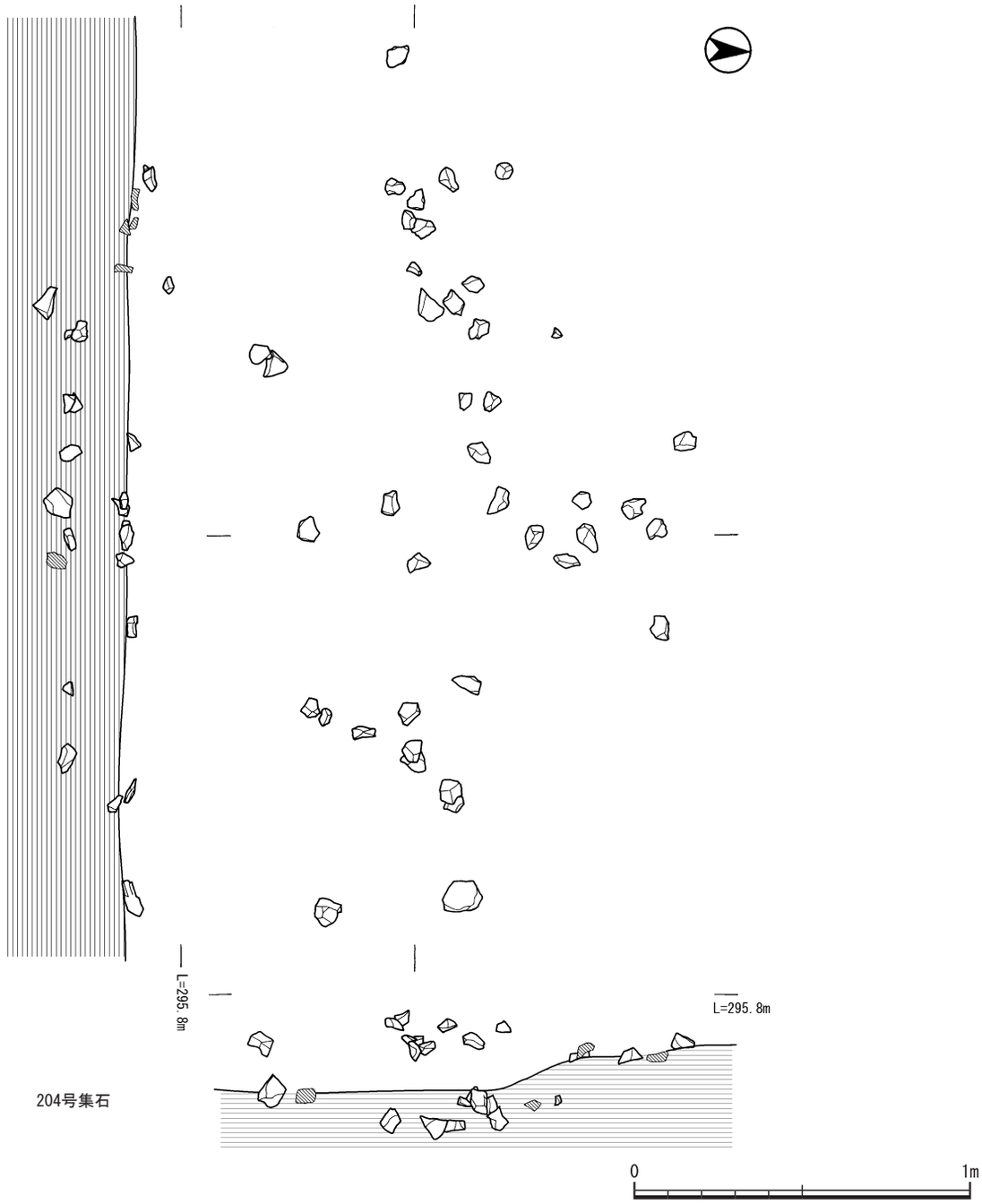
第169図　Ⅵ層遺構実測図（１）

第37表　Ⅵ層土坑観察表

報告書No	挿図No	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅
41	169	78	33+α	29	65	33+α



第170図　Ⅵ層遺構実測図（２）



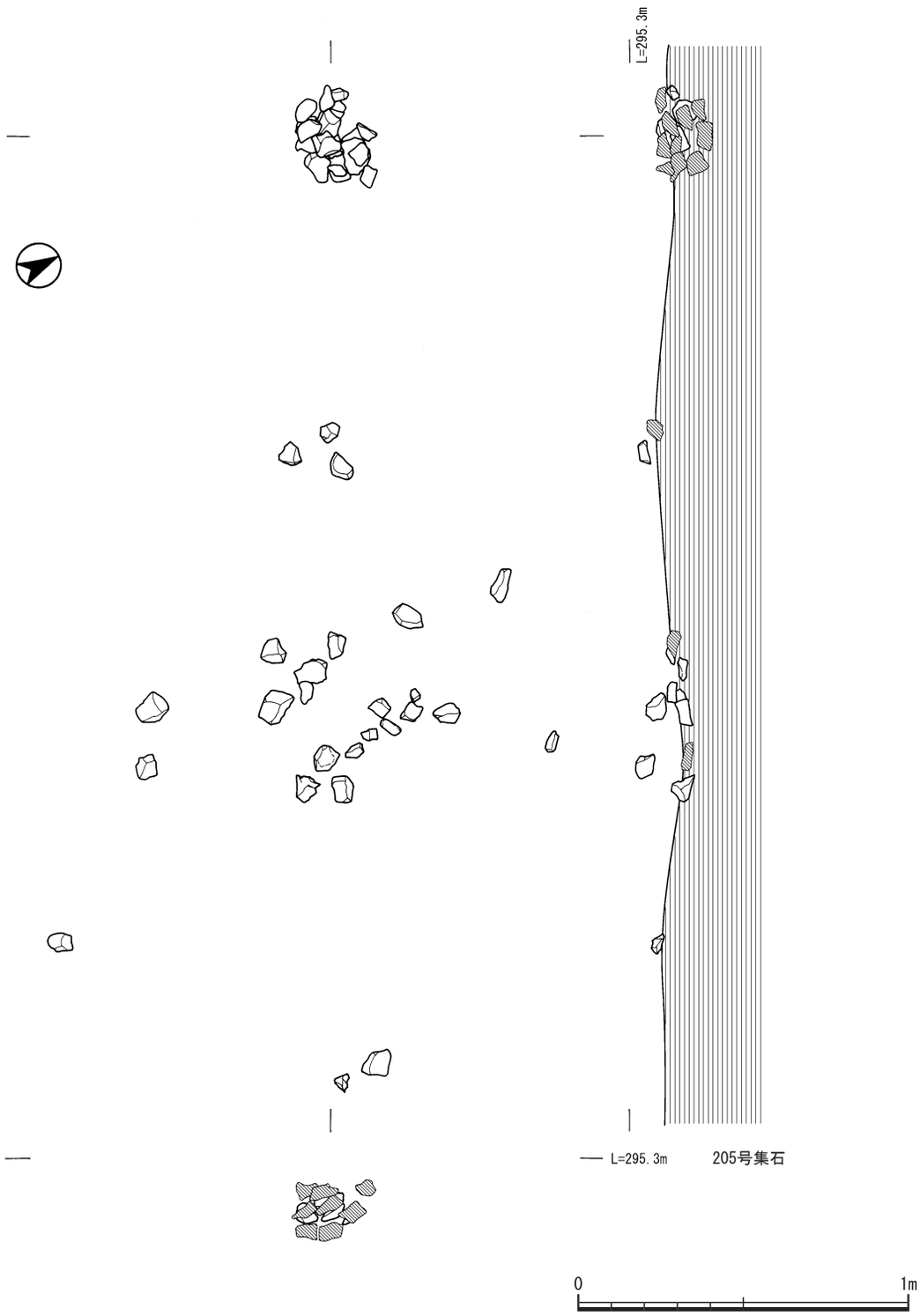
第171図　Ⅵ層遺構実測図（３）

219号集石遺構(第177図)

耳取遺跡Ｉ－８区で検出した。集石①の掘り込み遺構は径35cm×23cm，深さ12cmで10cm程の礫が23個が残される。集石②の掘り込み遺構は30cm×28cm，深さ７cmで礫17個が残される。①，②共に輝石安山岩の角礫を使用し，そのほとんどが被熱している。炭化物は，集石①でわずかに確認している。ＩＡ類

第38表　Ⅵ層集石観察表（１）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
199	169	ⅠB	57	50	1	54	45	12	21
200	169	ⅢA	39	25	－	－	－	－	－
201	169	ⅢB	178	92	－	－	－	－	－
202	170	ⅢA	178	144	－	－	－	－	－
203	170	ⅢA	141	125	－	－	－	－	－
204	171	ⅢB	263	134	－	－	－	－	－



第172図　Ⅵ層遺構実測図（４）

220号集石遺構(第178図)

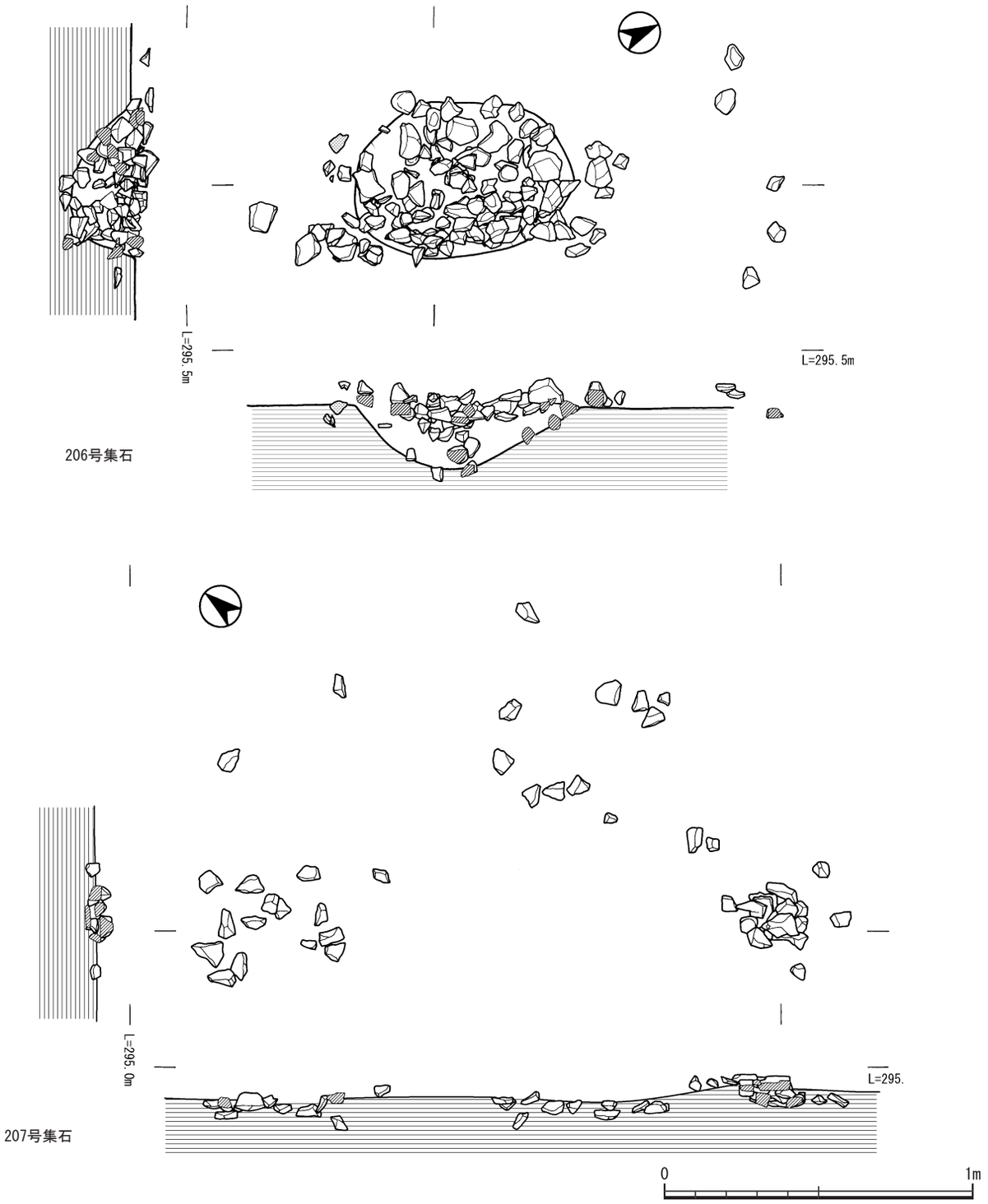
耳取遺跡Ｊ－９区，Ⅴb層下位で検出した。土が黒色に変色する部分(ア)，礫が平面的に集中する部分(イ)及び(ウ)，礫が積み上げた状況で集中する部分(エ)から成る。中でも，(エ)の礫群は赤変が著しく，熱によると見られる破砕礫が顕著に観察されている。Ⅱ類

221号集石遺構(第179図)

耳取遺跡Ⅰ・Ｊ－６区で検出した。94cm×53cmの範囲に礫24個が集中する。掘り込み遺構は確認していないが，礫の残存状況や断面観察からは遺構の存在が想定できる。Ⅱ類

222号集石遺構(第179図)

耳取遺跡Ｊ－８区で検出した。径41×26cm，深さ７cmの浅い皿状の掘り込み遺構を伴い，角礫を27個が残され，周辺に礫が散在する。ＩＡ類

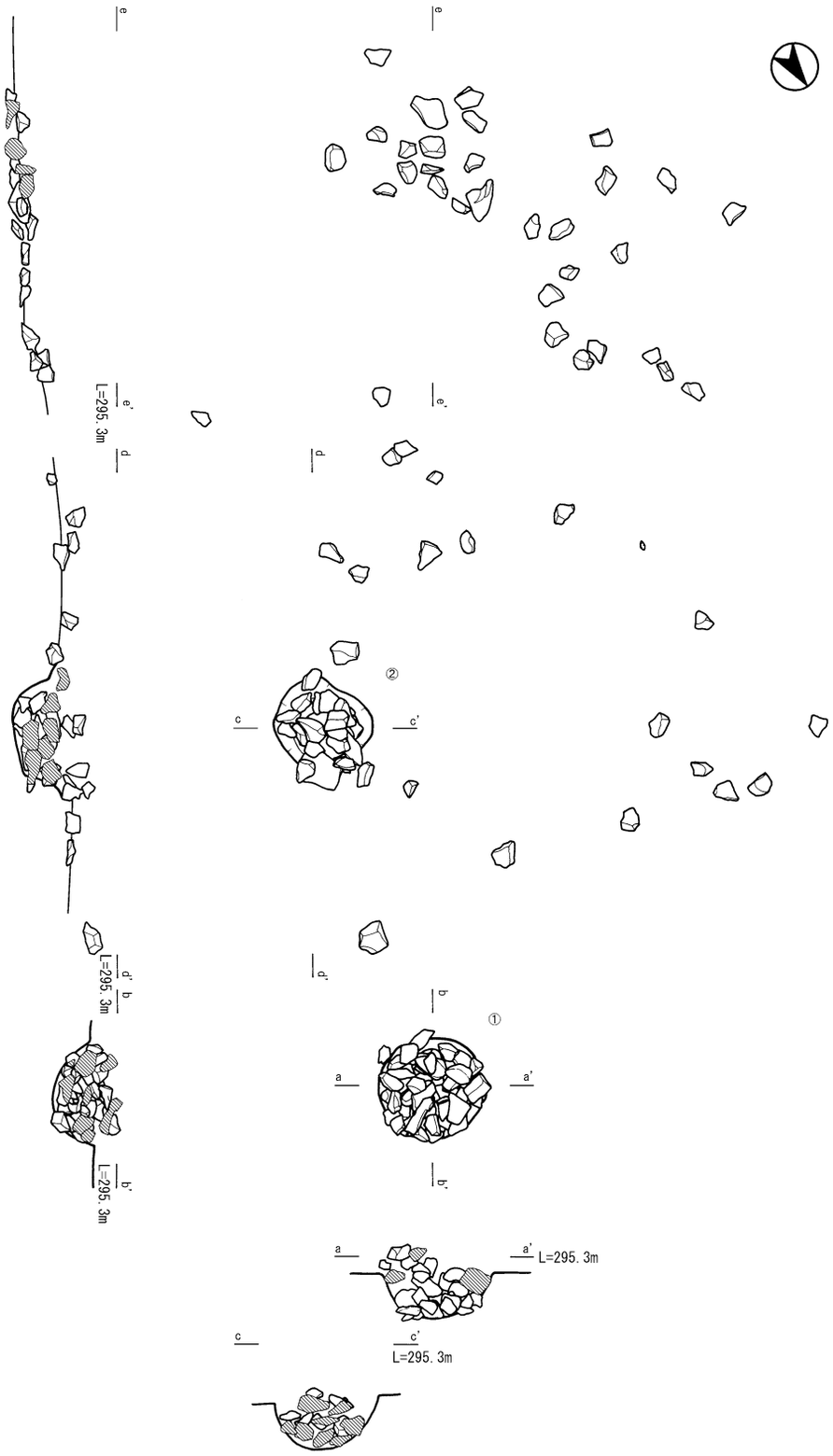


第173図　Ⅵ層遺構実測図（５）

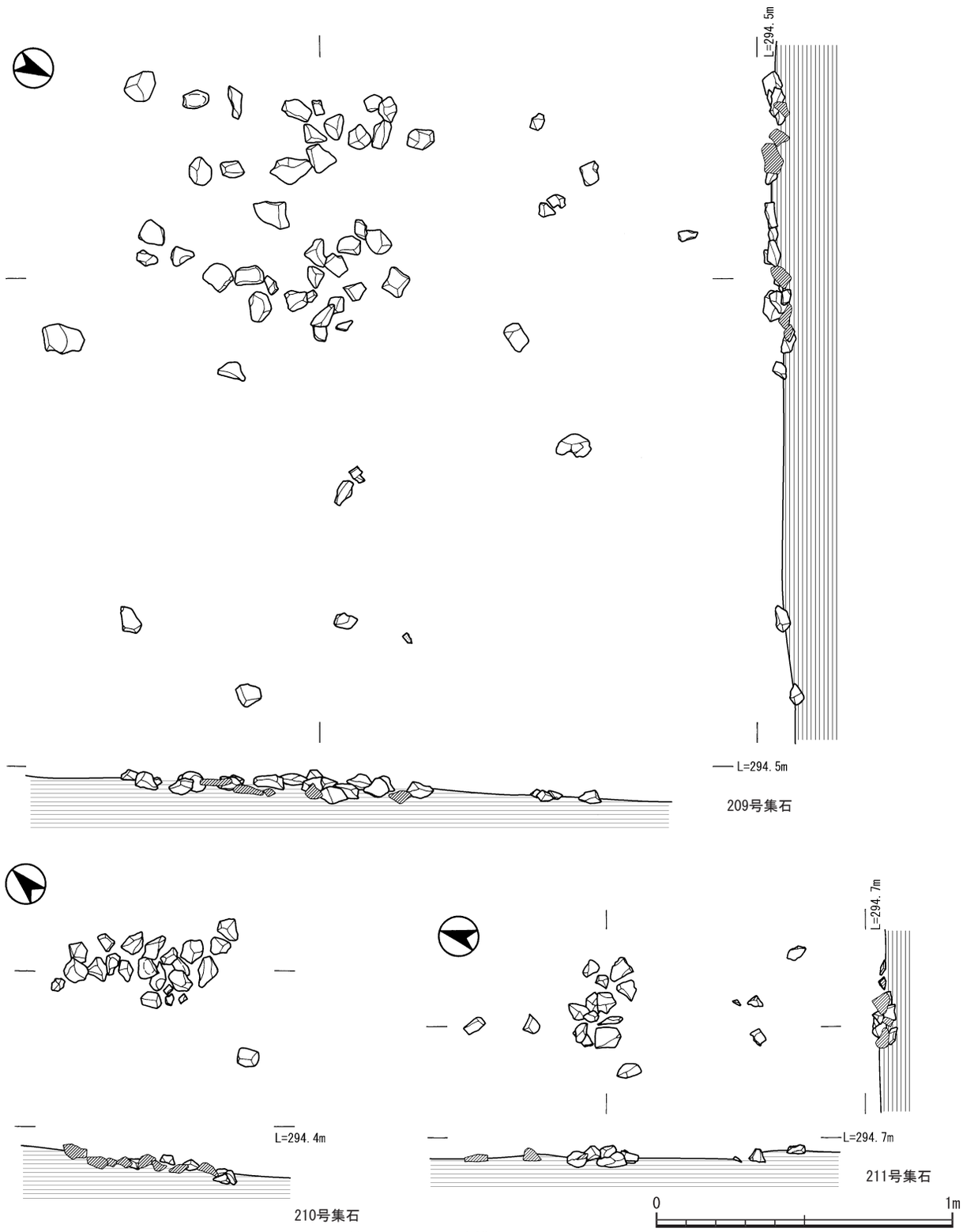
第39表　Ⅵ層集石観察表（２）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
205	172	Ⅱ	305	154	-	-	-	-	-
206	173	ⅠA	173	81	1	73	50	21	113

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
207	173	Ⅱ	214	124	-	-	-	-	-
208	174	ⅠA	312	182	1	30	30	12	30
					2	30	28	13	24



第174図　Ⅵ層遺構実測図（６）

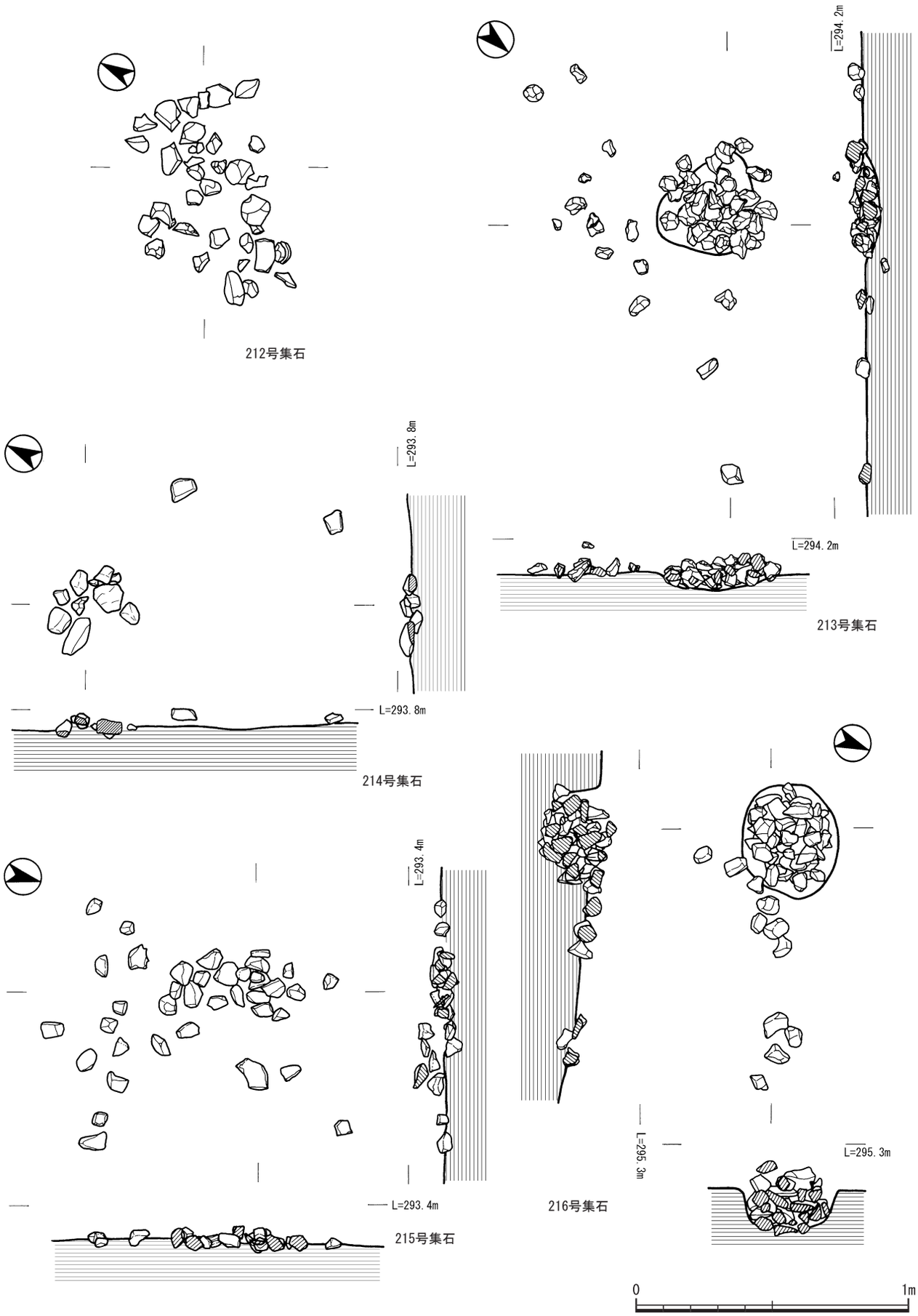


第175図　Ⅵ層遺構実測図（７）

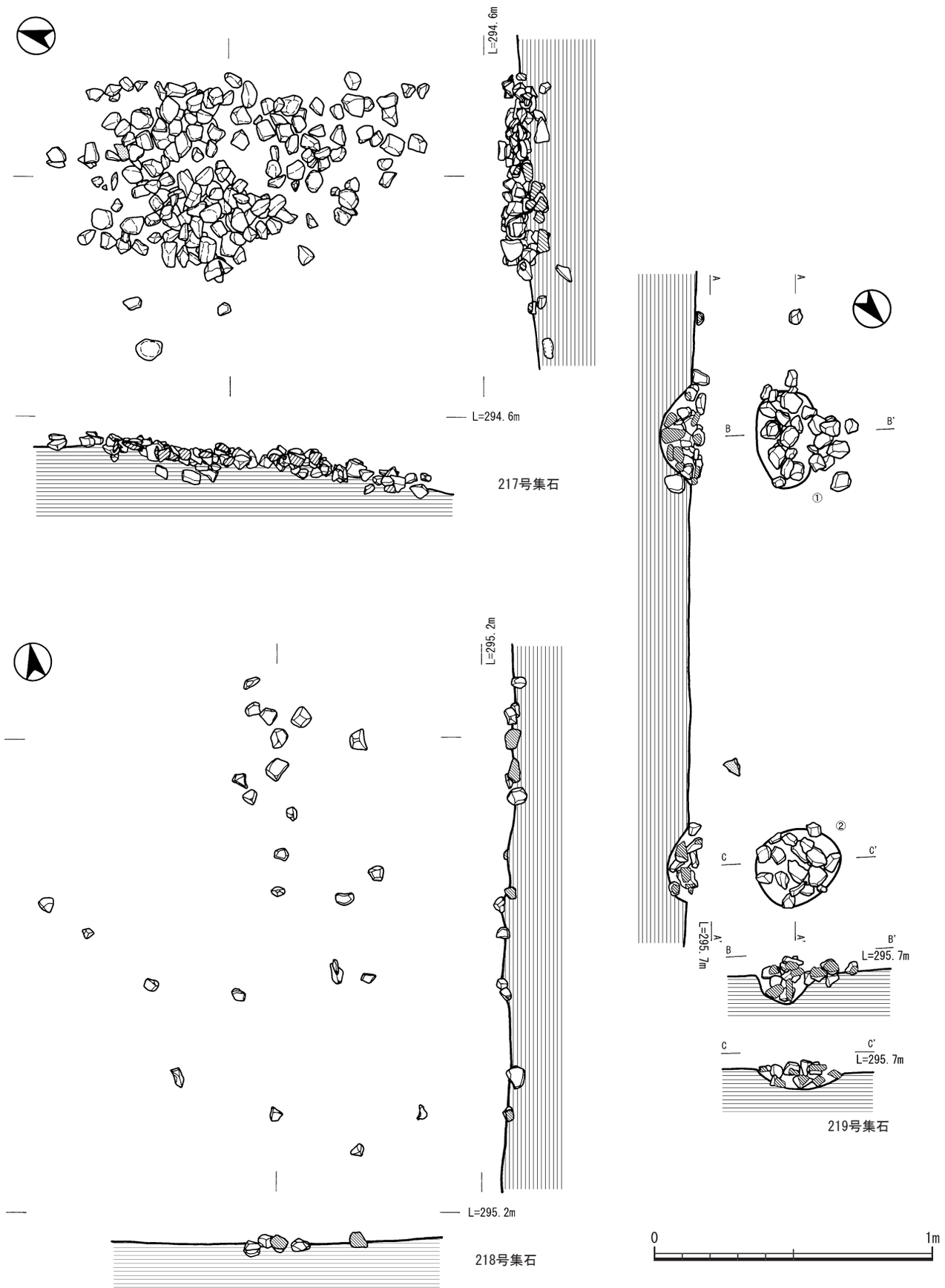
第40表　Ⅵ層集石観察表（３）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
209	175	ⅢA	222	215	－	－	－	－	－
210	175	Ⅱ	70	50	－	－	－	－	－

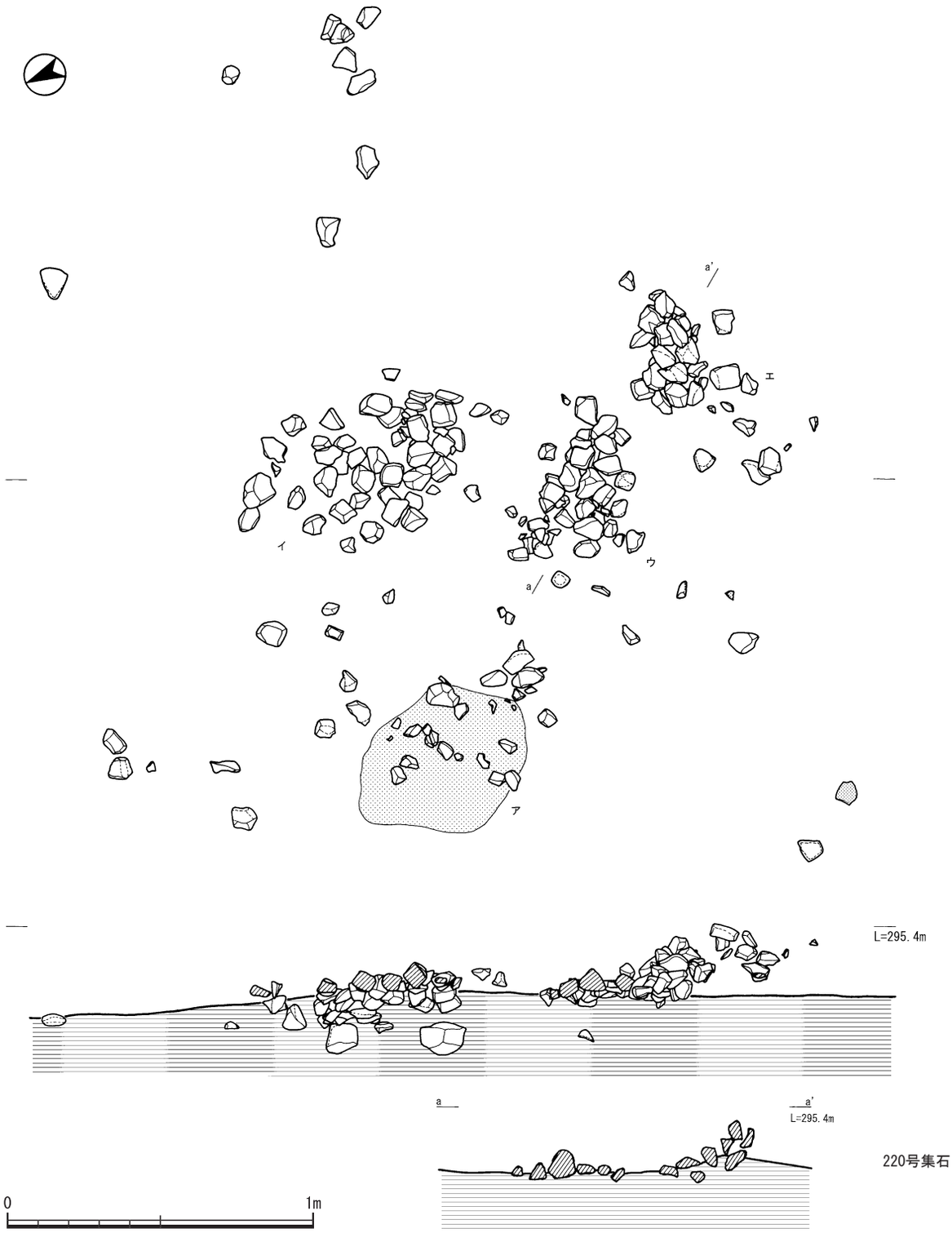
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
211	175	ⅢA	116	44	－	－	－	－	－
212	176	ⅢA	82	63	－	－	－	－	－



第176図　Ⅵ層遺構実測図（８）



第177図　Ⅵ層遺構実測図（９）

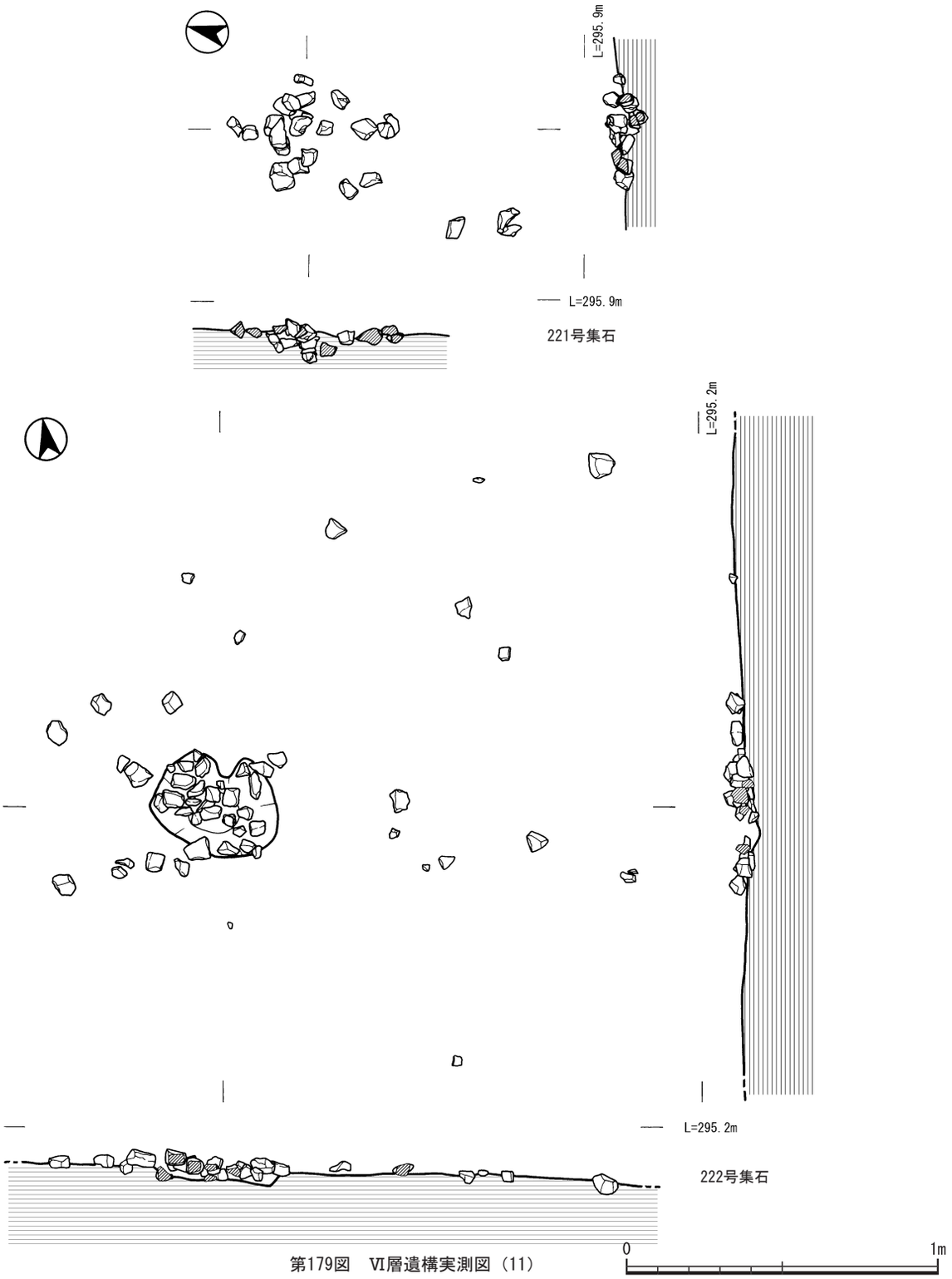


第178図　Ⅵ層遺構実測図（10）

第41表　Ⅵ層集石観察表（４）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
213	176	ⅠA	154	94	1	38	38	7	28
214	176	ⅢA	108	65	–	–	–	–	–
215	176	ⅢA	114	92	–	–	–	–	–

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
216	176	ⅠA	113	51	1	42	36	18	36
217	177	Ⅱ	138	104	–	–	–	–	–



第179図　Ⅵ層遺構実測図（11）

第42表　Ⅵ層集石観察表（５）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
218	177	ⅢB	172	140	–	–	–	–	–
219	177	ⅠA	216	49	1	35	23	12	23
					2	30	28	7	17

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み				
			長径(cm)	短径(cm)	No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	礫数(個)
220	178	Ⅱ	280	267	–	–	–	–	–
221	179	Ⅱ	94	53	–	–	–	–	–
222	179	ⅠA	197	190	1	41	26	7	27

第３節　土器

１　概要

縄文時代早期の時期の発掘調査は，アカホヤ火山灰層であるＶｂ層と薩摩火山灰層であるⅨ層との間の，Ⅵ層・Ⅶ層・Ⅷ層を遺物包含層として，桐木耳取遺跡それぞれ各グリッドごとに進捗状況に応じて適宜行われた。

その結果，Ⅵ層からⅧ層にかけて出土した縄文時代早期の時期に属する遺物は，早期全般にわたり，27,000余点にのぼるほど多量で，しかも多種多様な土器や石器であった。

特に土器は17,000余点が出土し，そのうち5,000余点について精査した結果，下記のように15群40類81タイプに分類できる程，多型式にわたる土器が出土したことが，成果として注目できた。

第１群土器

全体器形は，口縁部から底部まで直線的な胴部形態で，底部は厚手の平底器形を呈し，円筒形と角筒形と上面観がレモン形になると考えられる器形（以後，レモン形とよぶ。）とがある。文様は，口縁部文様帯や口唇部には刻みや刺突文を，胴部文様帯には横位方向あるいは斜位方向の貝殻条痕文を施す土器である。いわゆる従来，河口貞徳により設定された前平式土器の一群に相当する。胴部の施文的特徴や口縁部の器形的特徴などから４類７タイプ12種に細別した。

第２群土器

全体器形は，口縁部が外反し，口唇部が平坦面を形成する土器である。胴部は直線的で，平底の底部を呈する土器である。文様は，口唇部には刻みを施し，口縁部文様帯には貝殻刺突文を横位方向に巡らし，胴部文様帯には貝殻押引文を横位方向に施すのが特徴である。いわゆる従来，河口貞徳により設定された吉田式土器に相当する。

第３群土器

全体器形は，口縁部が外反もしくは直行し，胴部が円筒形で，底部は平底を呈する土器である。文様は，丸みを帯びた口唇部には斜位方向の刻みを連続して巡らし，口縁部文様帯には貝殻刺突文を斜位方向や羽状に施す。胴部文様帯には貝殻条痕文による綾杉文を縦位方向に施し，胴部下端には縦位方向の刻みを巡らす。いわゆる従来，河口貞徳により設定された石坂式土器に相当する。胴部の施文的特徴や口縁部の器形的特徴などから５類９タイプに細別した。

第４群土器

全体器形は，口縁部が若干内弯し，口唇部が内傾する平坦面を作出する土器である。胴部は直線的にすぼまる円筒形を呈し，底部は平底を呈する特徴を有する。口縁部文様帯には貝殻刺突文を横位方向に，胴部文様帯には貝殻刺突文を斜位方向や羽状に施す。いわゆる従来，新東晃一により設定された下剥峯式土器に相当する。胴部の施文的特徴や口縁部の器形的特徴から４タイプに細別した。

第５群土器

全体器形は，口縁部が内弯し，口縁形態が平口縁を呈し，口唇部が内傾し，底部は平底を呈する土器である。胴部は中央部が若干ふくらみ，下半部にかけてすぼまる器形を呈する。文様は，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて貝殻状の施文具で櫛描状に沈線文を施す。いわゆる従来，新東晃一により設定された桑ノ丸式土器に相当する。胴部の施文的特徴から４タイプに細別した。

第６群土器

全体器形には，口縁部が外反し胴部下半部はすぼまる器形や，口縁部が強く外に屈曲し，胴部は直線的にすぼまる器形や，胴部外面が弯曲する器形などがあり，８類に大別することが可能である。押型文を施す文様には，横位方向に施す土器や，縦位方向に施す土器，両者を組み合わせる土器，斜位方向の帯状施文を行う土器など，胴部の施文的特徴などからさらに11タイプに細別した。

第７群土器

全体器形は，底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる円筒形で，底部は平底を呈する，器壁の厚さが厚い土器である。文様は口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて貝殻腹縁部を使用した条痕文を，横位方向に十数条巡らす土器である。いわゆる従来の円筒形条痕文土器に相当する。

第８群土器

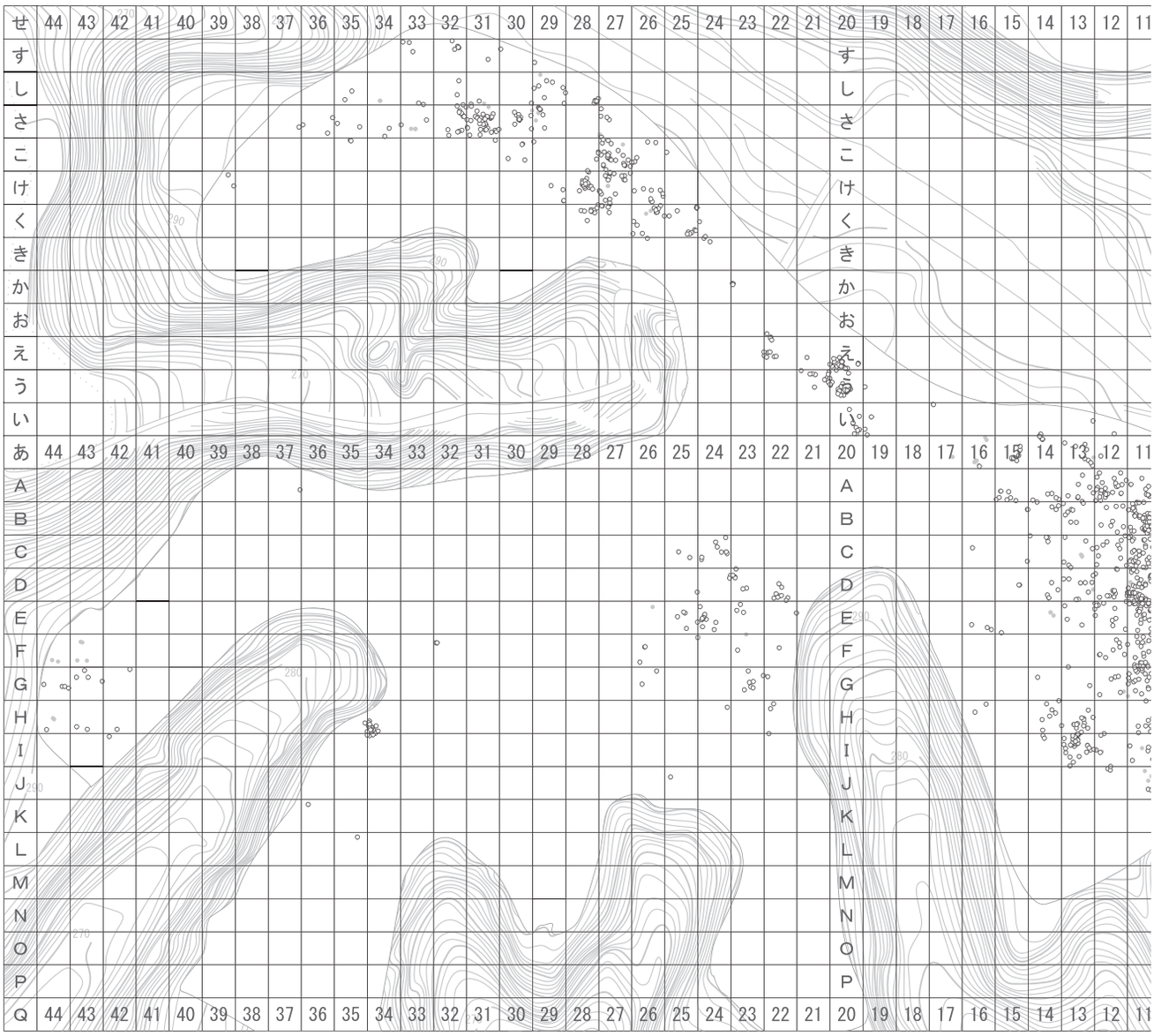
全体器形は，口縁部が大きく外反し，頸部でくびれ，胴部中央よりやや下方で張り出し，上げ底気味の小さな平底の器形を呈する土器である。胴部内面中央部には「しぼり」といわれる屈曲ラインが，明瞭に観察できる特徴を有する。文様は，間延びした山形押型文を施すことが多い。いわゆる従来，寺師見国により設定された手向山式土器に相当する。

第９群土器

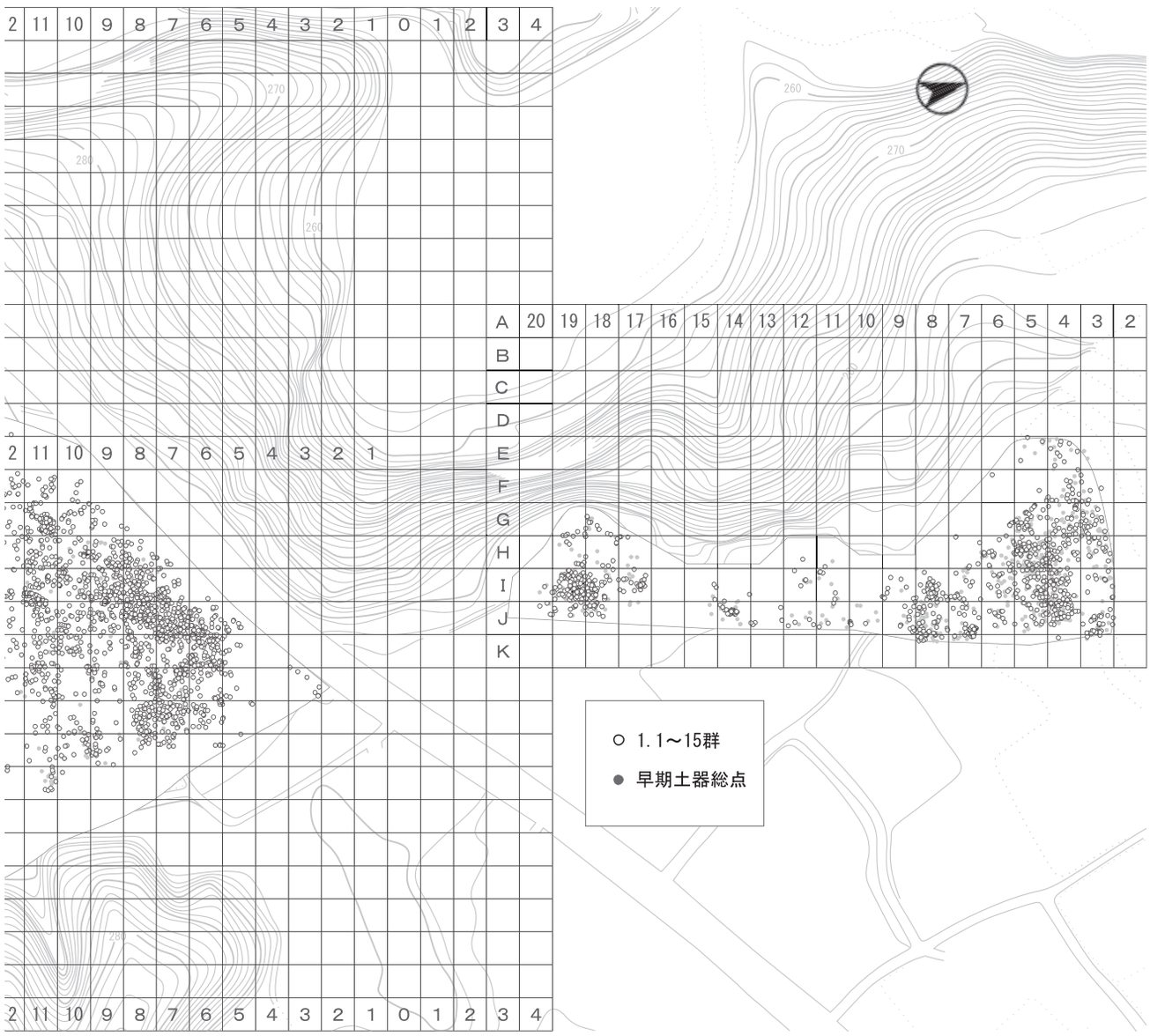
全体器形は，口縁形態が波状口縁を呈し，口唇部は丸く収め，口縁部は肥厚せずそのまま外反する器形を呈する土器で，深鉢形土器と壺形土器とがある。文様は，口縁部文様帯から頸部文様帯にかけては刻目突帯を横位方向に巡らし，頸部文様帯から胴部文様帯にかけては波頂部下に瘤状突起と縦位方向に連続した突帯とを貼付する。胴部文様帯には単節斜行縄文を施す土器である。いわゆる従来の妙見式土器に相当する。胴部の施文的特徴などから２類に細別した。

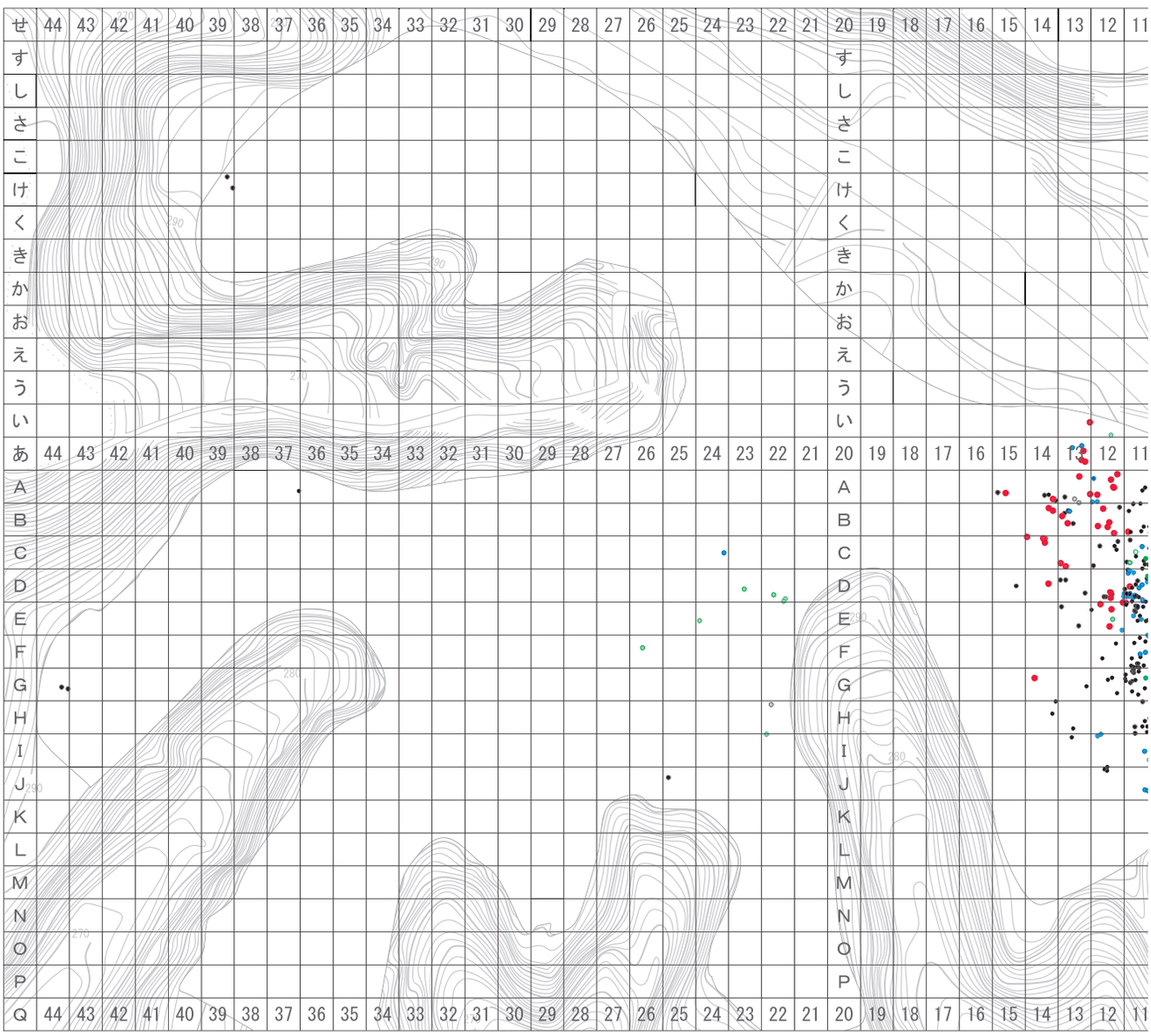
第10群土器

全体器形や器種構成など第９群土器と共通し，文様構成でも頸部文様帯から胴部文様帯にかけては共通点が多いが，口縁部文様帯に刻目突帯を施さずに，沈線文と刺突連点文とで文様を構成する特徴など異質な点もあり，第９群土器とは分別が可能とし，第10群土器とした。

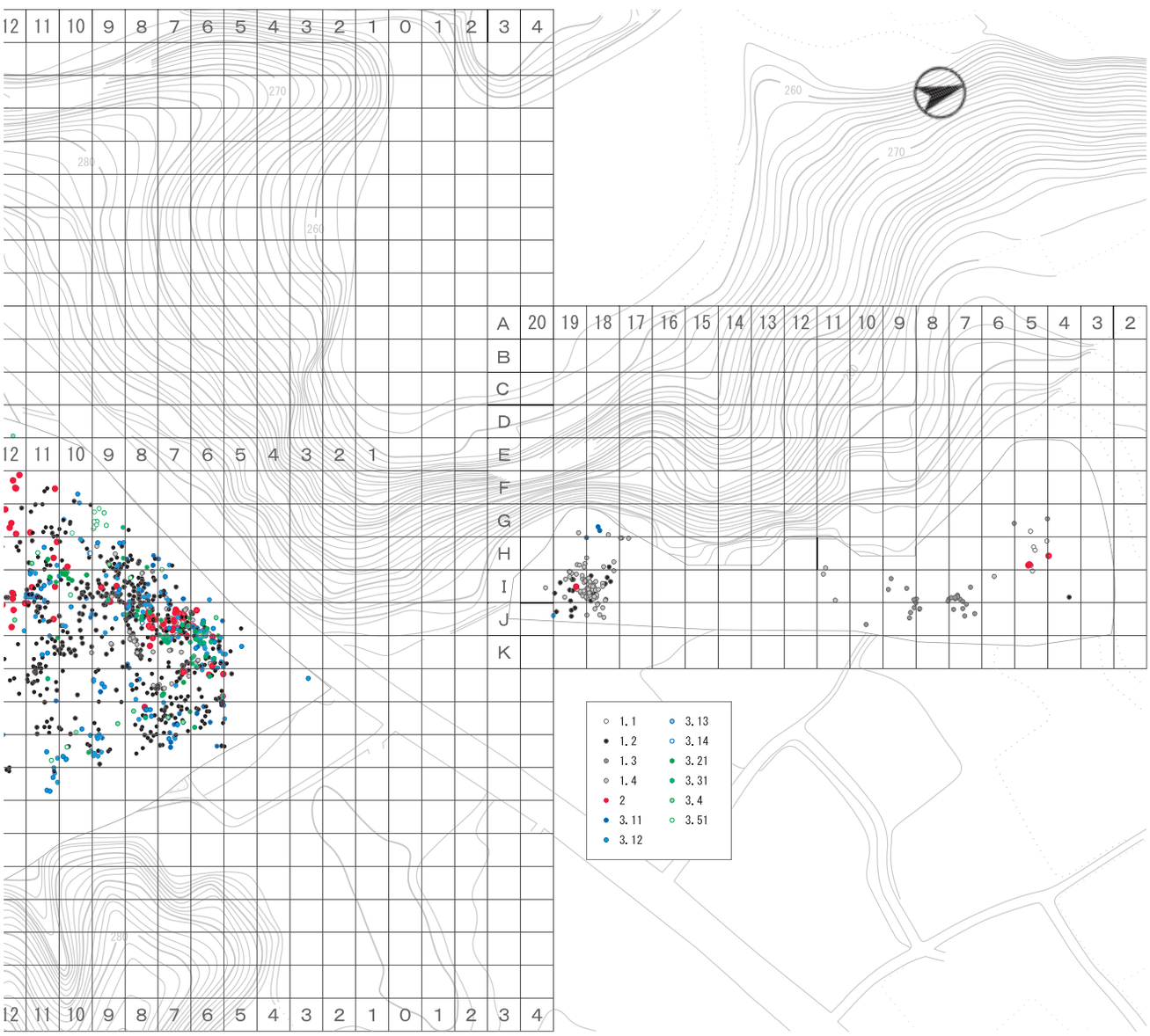


第180図　縄文早期土器分布図１（早期土器，1/2000）


2 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
○ 1.1～15群
● 早期土器総点



第181図　縄文早期土器分布図２（早期前葉土器，1/2000）


12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
1.1
1.2
1.3
1.4
2
3.11
3.12
3.13
3.14
3.21
3.31
3.4
3.51

第11群土器

全体器形は，直線的に外に開く口縁部を肥厚させ，やや膨らむ胴部は上半部もしくは中央部が最大径となる。底部に向かって若干すぼまり，底部は上げ底となる。文様は，胴部文様帯では胴部上端から胴部下端まで結節縄文を施す。いわゆる従来，河口貞徳により設定された平栫式土器に相当する。口縁部の器形的特徴から２類に細別した。

第12群土器

全体器形は，口縁部がラッパ状に開き，胴部が筒状の器形を呈する土器である。文様は，口唇部や口縁部文様帯には沈線文や刻みや刺突連点文を，胴部文様帯には網目撚糸文や，貝殻または篦による格子状文や平行沈線文などを施す土器である。いわゆる従来，河口貞徳により設定された塞ノ神式土器に相当し，河口編年に基づき４細別した。

第13群土器

全体器形としては３種類ある。即ち，胴部が膨らみ頸部はゆるくしまり口縁部が外反する器形と，口縁部がバケツ状に直線的に外反する器形と，口縁部が内弯気味に立ち上がる器形とがあり，いずれも底部は若干上げ底を呈する。また文様は，胴部文様帯には貝殻腹縁による波状を呈する貝殻押引文と，直線上の条線文とを施すのが特徴である。いわゆる従来の苦浜式土器に相当する。

第14群土器

全体器形としては３種類ある。即ち，口縁部が直線的に外に開き，胴部から底部にかけて直線的にすぼまる器形と，口縁部から胴部上半にかけて直立し，胴部下半から底部にかけてゆるやかにすぼまる，いわゆる「砲弾形」を呈する器形と，口縁部がやや内弯し，胴部中央部が膨らみ最大径があり，胴部下半部から底部にかけては直線的にすぼまる器形とがある。底部は平底あるいは若干の上げ底を呈する。いわゆる従来，河口貞徳や高橋信武などにより設定された右京西式土器，鎌石橋式土器などを含む土器に相当するが，本報告では「後葉条痕文土器」として一括して報告する。

第15群土器

第１群土器から第14群土器までに分類できなかった特殊な土器について本群にまとめた。

以上の状況を南九州の早期土器編年に照らせば，編年上のほぼ全土器群が桐木耳取遺跡から出土していることを明らかにし得た。このことは桐木耳取遺跡では，縄文時代早期全般にわたり時期により程度の差こそあれ，脈々と人々の生活が行われ，遺跡が形成されたと言える。

また桐木耳取遺跡での早期土器群の出土状況のうち，平面分布的には大きく耳取調査区は２地区に，桐木調査区は３地区の，合わせて５地区に分けられそうである(第180図参照)。

まず，耳取調査区では，北側地区と南側地区との２地区に分けられる。耳取調査区北側地区では主に耳取調査区Ｅ～Ｋ-３～９区を中心として土器が分布している。Ⅸ層上面での標高が，293.2～296.8ｍを示す区域になる。また，耳取調査区南側地区では主に耳取調査区Ｇ～Ｊ-17～20区を中心として土器が分布している。Ⅸ層上面での標高が，291.8～293.4ｍを示す区域になる。

つぎに桐木調査区では，北側地区と西側地区と南側地区との３地区に分けられる。桐木調査区北側地区では主に桐木調査区い～Ｉ-３～16区を中心として土器が分布している。Ⅸ層上面での標高が293.6～298.2ｍを示す区域になる。また，桐木調査区西側地区では主に桐木調査区す～い-19～36区を中心として土器が分布している。Ⅸ層上面での標高が290.4～297.8ｍを示す区域になる。さらに，桐木調査区南側地区では主に桐木調査区Ｃ～Ｊ-22～26区を中心として土器が分布している。Ⅸ層上面での標高が292.0～294.4ｍを示す区域になる。

また桐木耳取遺跡での早期土器群の出土状況のうち，層位的には傾向としては把握できるものの，明瞭に分層されて出土してはいない。

したがって本報告においては，現在行われている南九州土器編年にあわせて，第１群土器から第３群土器を縄文早期前葉土器群に，第４群土器から第８群土器を縄文早期中葉土器群に，第９群土器から第15群土器を縄文早期後葉の土器群に時期区分して，以下各土器群について詳述する。

では，まず縄文時代早期前葉に属する土器群から，時期毎に報告を行うことにする。

(例言・観察表等略号について)

１　「取上No(グリッド/層位)」の項目の記載では，調査区および調査年度にしたがい，下記のように記号で示し，発掘調査時における遺物台帳等との整合性を図った。

○　桐木遺跡(平成８～11年度)
◎　桐木Ｂ遺跡(平成12年度)
●　桐木Ｂ遺跡(平成13年度)
▲　耳取遺跡(平成11/12年度)

２　「胎土」の項目の記載では，石英および長石については一般的な生成鉱物であるため，特に記載しなかった。また，下記鉱物については略号を用いた。

雲-雲母，角-角閃石，滑-滑石，輝-輝石，黒-黒雲母，曜-黒曜石，赤粒-赤色粒，白粒-白色粒

３　「備考」の項目の記載について

１　胎土に砂粒あるいは細粒の粒度のある鉱物がほとんど観察されず，微粒度の鉱物で構成された土器については「胎土精選」として特記した。

２　特に含有量の多い鉱物あるいは粒度の大きな鉱物については「混和材」として特記した。

３　土器面に炭化物の付着が認められた個体については「ス付着」と記載し，実測図に示した。

２　縄文時代早期前葉の土器群

桐木耳取遺跡で出土した縄文時代早期前葉の時期に属する土器は，概要の項で示したように３群に大別できた。

さて出土分布図から縄文時代早期前葉の土器群は，主に桐木調査区北側地区に集中しており，その他には耳取調査区北側地区や耳取調査区南側地区の一部でもまとまって出土していることが指摘できる(第181図参照)。

さらに，土器型式別に細別が可能であるため，順次報告を行うことにする。

第１群土器(第189図～第206図16～137)

第１群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴から，さらに４類７タイプ12種に分類できた。

本群に属する土器は層位的にはⅧ層とⅦ層とを中心に出土しているが，上層のⅥ層やⅤ層から出土した土器片との接合もみられることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかったことが認められる。

第１群土器第１類土器(分類記号1.1，第189図16～22)

第１群土器第１類土器に属すると判断した土器片は，７点出土し，全点を資料化した。

器形的特徴としては，口縁部から胴部まで直線的な円筒形を呈する深鉢形土器であることが挙げられる。

また施文的特徴としては，口唇端部には深い刻みを施し，口唇部内面に段を有する特徴を挙げることができる。口縁部文様帯外面には貝殻や櫛状工具で羽状文を施し，胴部文様帯には貝殻による条痕文を横位方向に巡らせる土器である。

調整方法としては，内器面では横位方向の貝殻による条痕調整を行う土器片と，木製工具によるハケ調整の後にナデ調整を行う土器片とが観察できた。

また本類土器の胎土中鉱物については，角閃石や雲母，細かい粒度の鉱物片などで構成され，特に角閃石の含有量が多いことと，黒雲母を含む土器片が出土していないことが，注目できた。

以上の特徴から本類に属する土器は，鹿児島県指宿市岩本遺跡で出土した土器を標識とする岩本式土器に比定できる。

さて出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｈ-５区周辺に集中していることが指摘できる(第182図，第185図～第188図参照)。

第１群土器第２類土器(分類記号1.2，第190図～第196図23～95)

第１群土器第２類土器に属する土器を73点資料化した。

器形的特徴としては，口縁部から底部まで直線的な胴部と，平底の底部とを呈する円筒形深鉢形土器で，口唇部は平坦面を形成することが挙げられる。底部は，円盤状の底面部分と，底面端部から胴部下端部を一体化させて断面形がＬ字状を呈する部分とを接合し，成形している。なお本遺跡では，円筒形土器が出土し，第１タイプ土器(分類記号1.21)とした。

施文的特徴としては，口唇上端部に刺突文を，口縁部文様帯外面には篦状工具による縦長の刻みを横位方向に巡らす土器であることが指摘できる。また胴部文様帯では，胴部下端部にかけて貝殻腹縁部による横位方向の条痕文を施す。

以上の特徴から本類に属する土器は，鹿児島県鹿児島市前平遺跡出土土器を標識とする前平式土器に比定できる。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて篦状工具による縦位方向あるいは斜位方向のケズリ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。その他に，ケズリ調整後に粗いナデ調整を行う土器や，ケズリ調整をほぼ消すほどのナデ調整が行われている土器も観察できた。また点数的には少数であったが，最終調整として丁寧なナデ調整や，ミガキに近いナデ調整を行い，直前調整の痕跡が観察できなかった土器も中には見受けられた。しかし，これらの調整方法の違いと相関関係を高く示す他の属性は無かった。

また底部内器面では，指頭痕調整がそのまま残る土器が多く観察できたほか，木製工具によるハケ調整が行われた土器も観察できた。外器面では木製工具によるハケ調整の後にナデ調整が行われた土器が多かった。

本類土器の胎土中鉱物は，主に輝石や角閃石などで構成され，特に輝石を含む土器の点数が多いことが観察できたことと，細かい粒度の鉱物だけでなく粗い粒度の鉱物が含まれる土器も多く，粒径が大きな小礫が含まれる土器も観察できたことが，注目できた。

胎土中鉱物における特異的な例である第192図37は，本類土器のうち１点のみ黒雲母を含み，角閃石を含有していないことが，特記できる。この土器は，本類に属する他の土器とでは，胎土中鉱物以外の属性では違いが観察できないことから，土器の産地や製作技法の問題を含めて，注目できる。

本類土器は，径の大きさの違いから４種に形式分類することができた。すなわち，

第１種土器(分類記号1.211，第190図23～26，第196図95)は，口径30cm弱，底径20cm強を測る円筒形深鉢形土器である。

第２種土器(分類記号1.212，第190図～第191図27～35，第196図79,91,93)は，口径20cm弱，底径15cm強を測る円筒形深鉢形土器である。

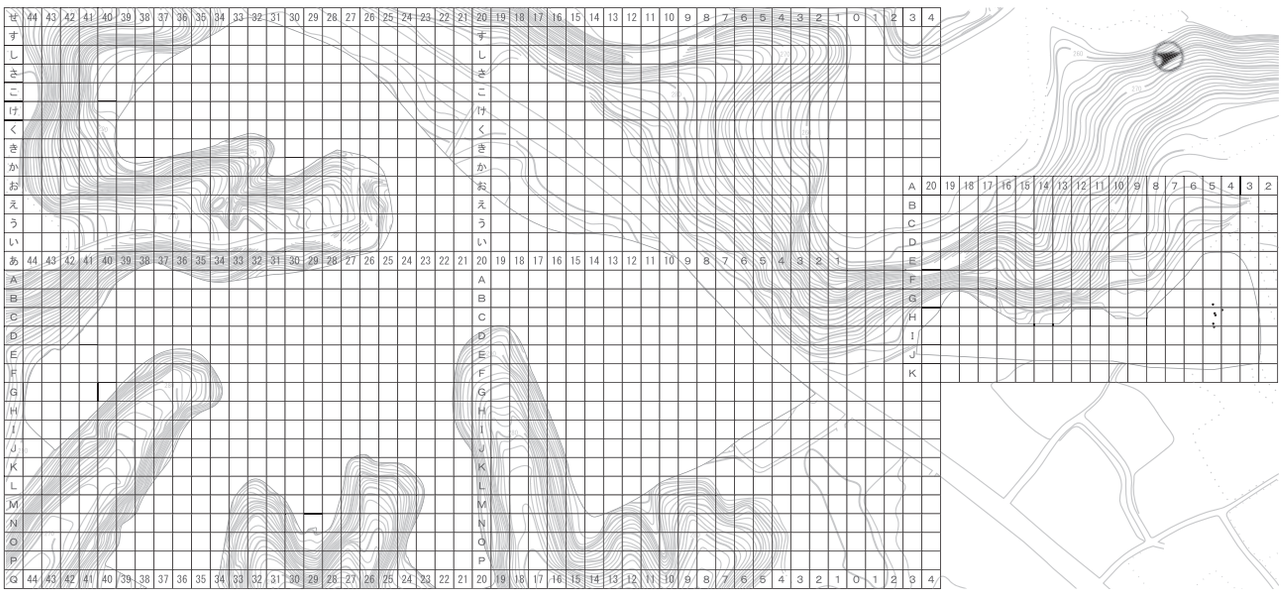
第３種土器(分類記号1.213，第192図～第193図36～55)は，口径15cm弱，底径10cm強を測る円筒形深鉢形土器である。

第４種土器(分類記号1.214，第194図56～72)は，口径10cm強，底径10cm前後を測る円筒形深鉢形土器である。

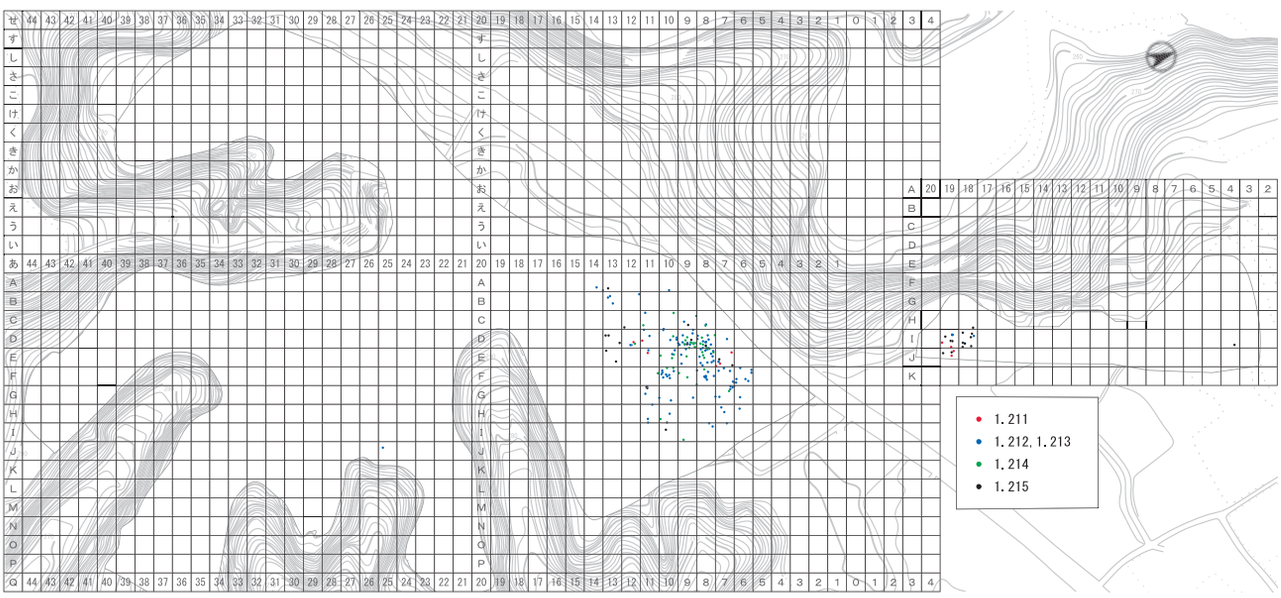
以上の４種類であった。なお，径を出せなかった土器片については，第５種土器(分類記号1.215，第195図73～78，第196図80～90,92,94)に分類した。

これらの形式差は，先に示した器形的特徴，施文的特徴，調整方法，胎土中鉱物の種類などの諸属性とのいずれの間にも高い相関関係は観察できなかった。このことからこの形式差は同一型式内のセットとしてとらえられる。

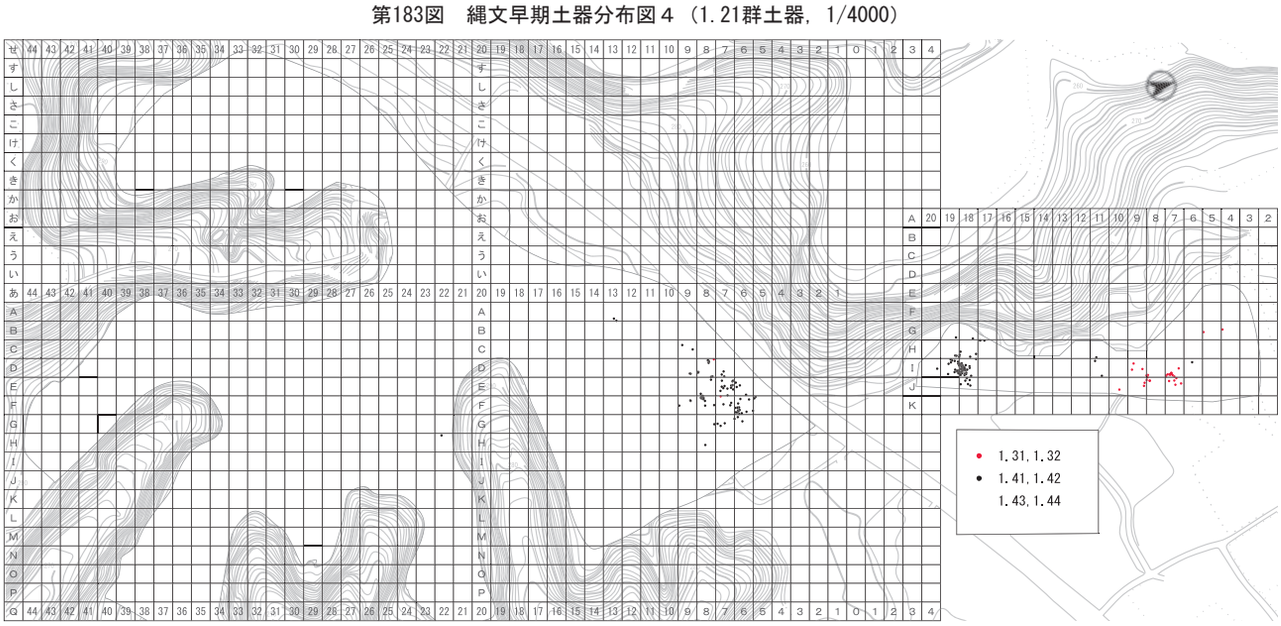
さて出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ⅰ-18・19区周辺と，桐木調査区北側地区のう



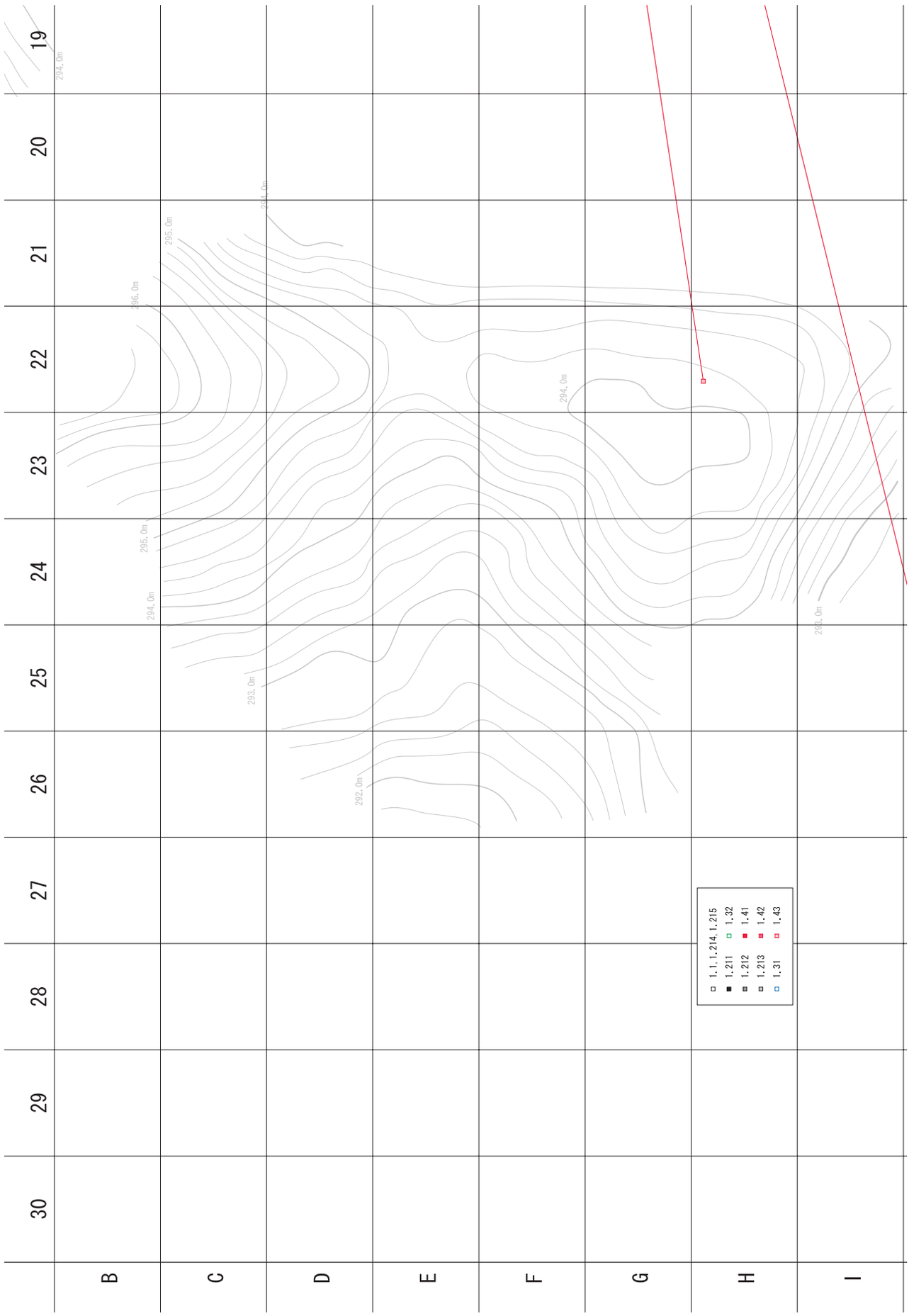
第182図　縄文早期土器分布図３（1.1群土器，1/4000）



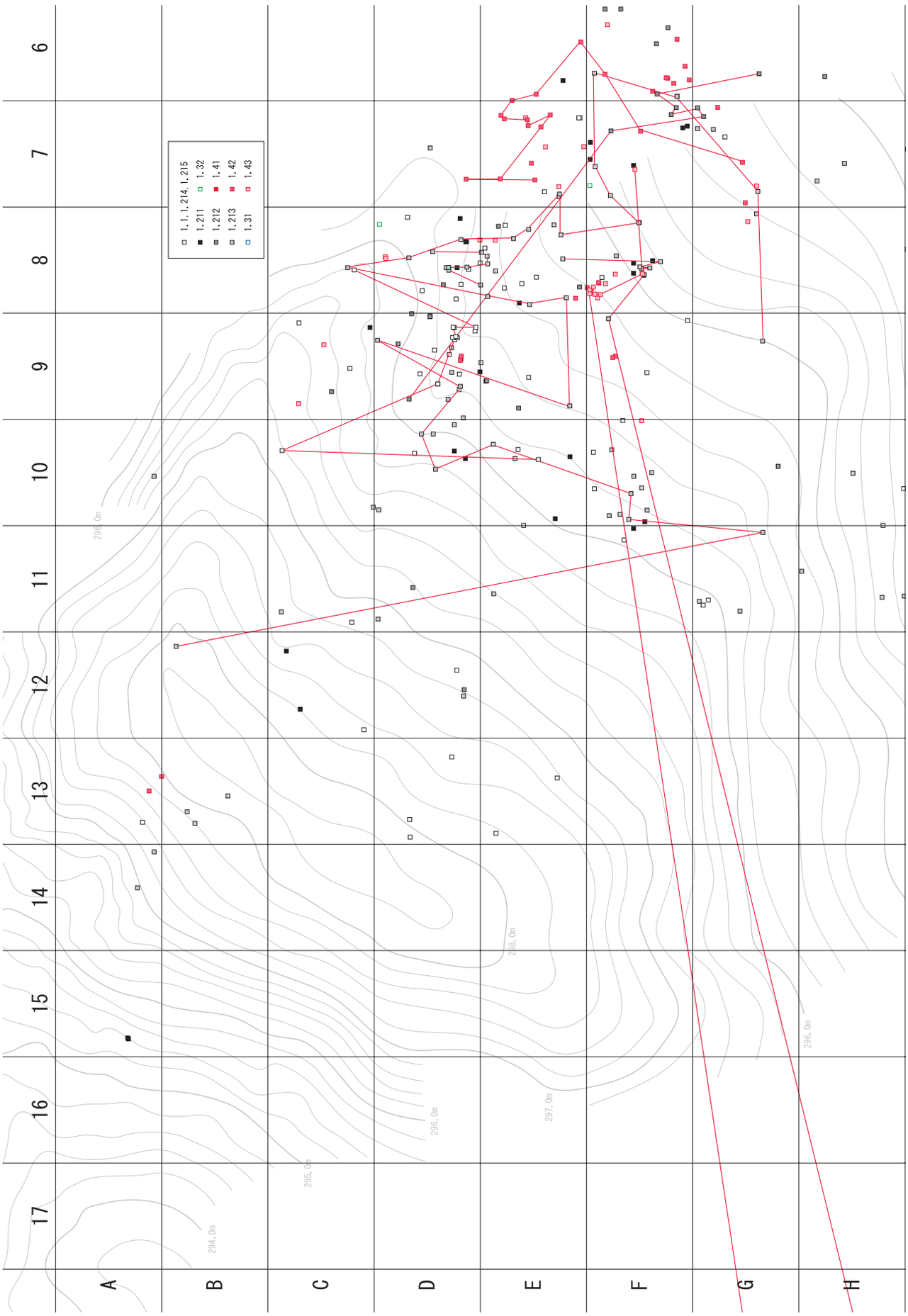
第183図　縄文早期土器分布図４（1.21群土器，1/4000）



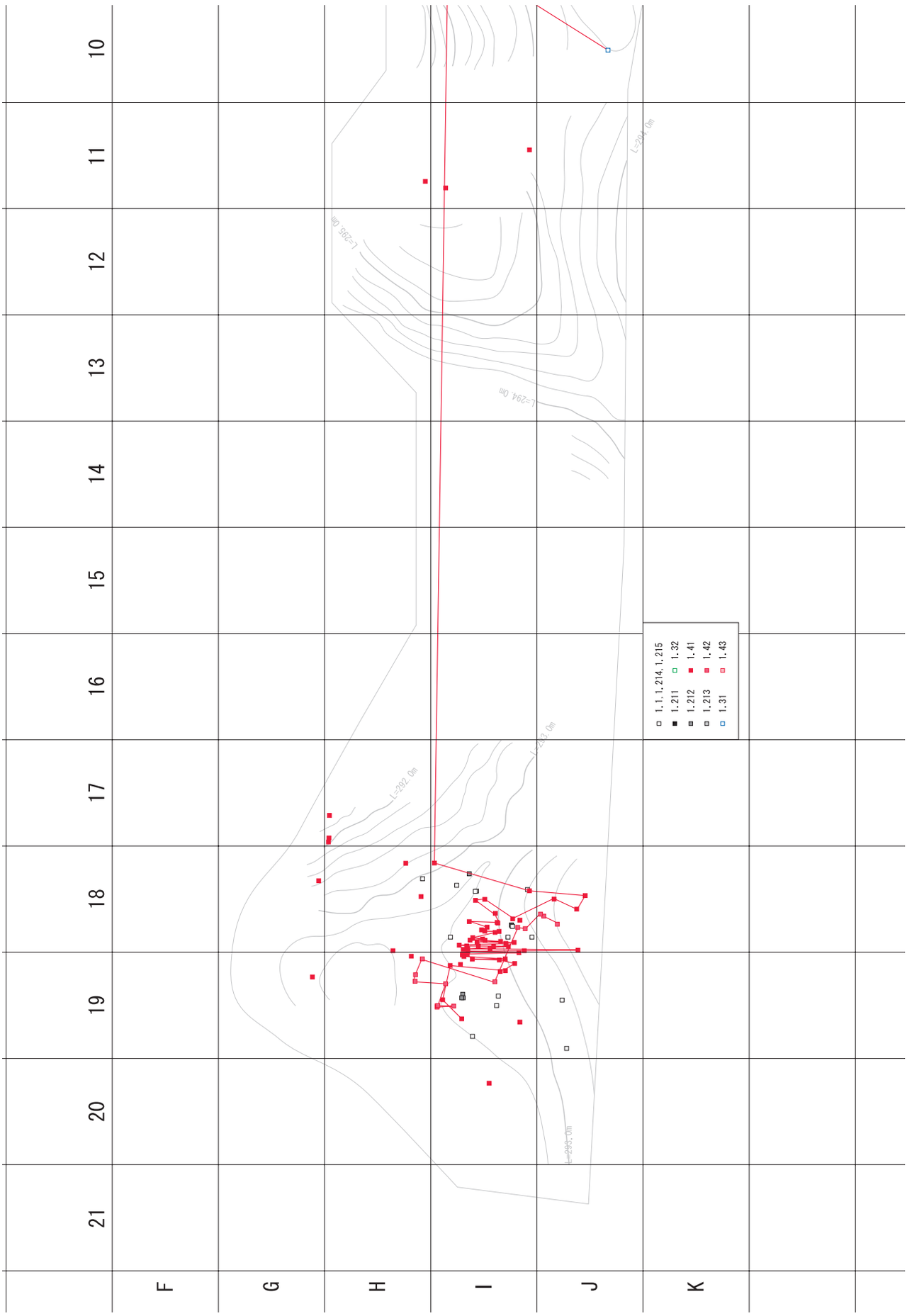
第184図　縄文早期土器分布図５（1.3群土器/1.4群土器，1/4000）



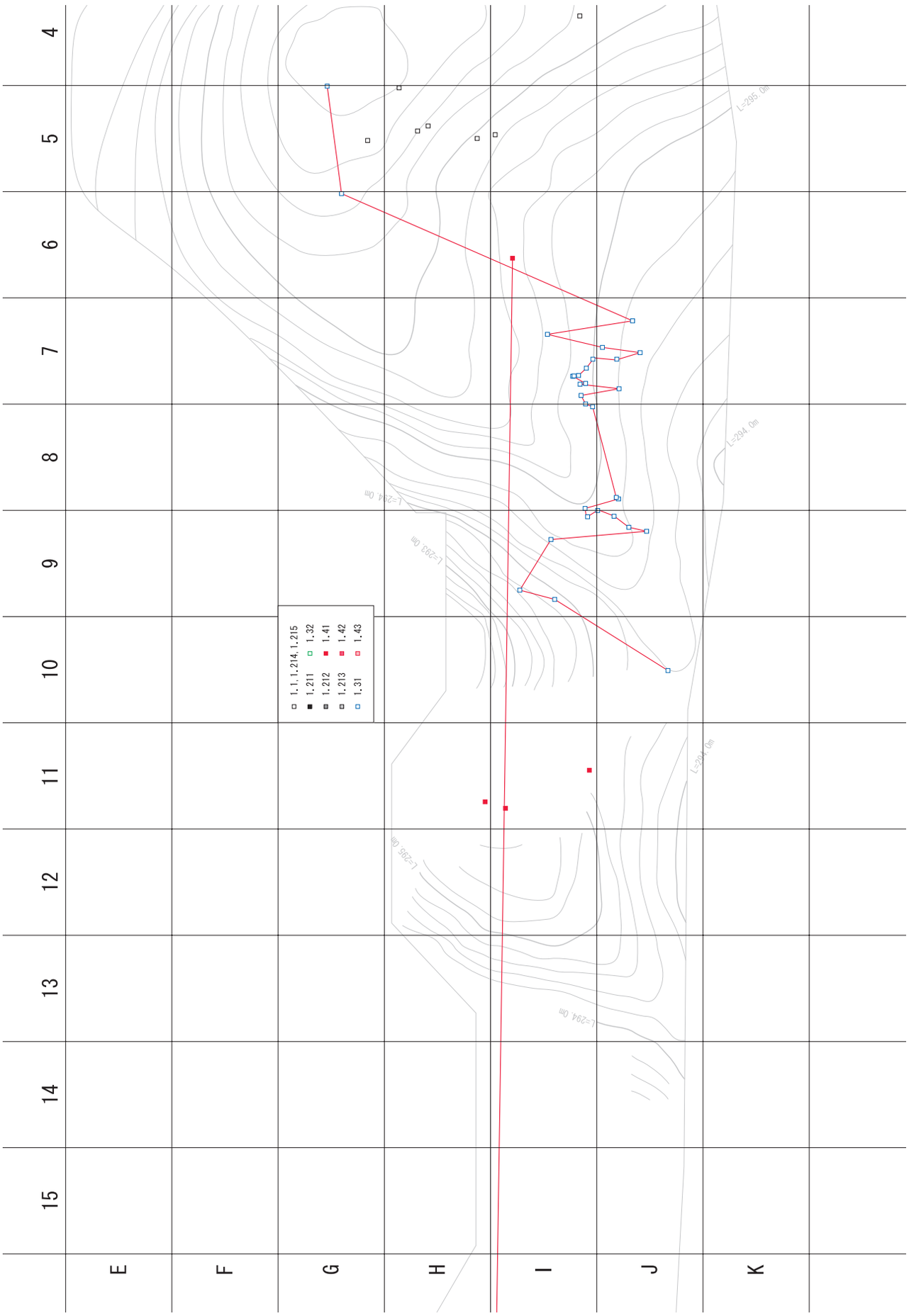
第185図　縄文早期土器分布図６（第１群土器１，1/500）



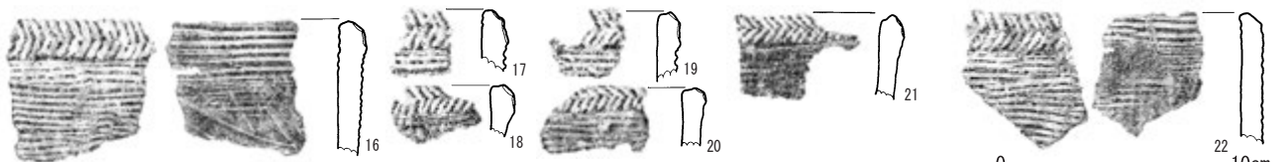
第186図　縄文早期土器分布図７（第１群土器２，1/500）



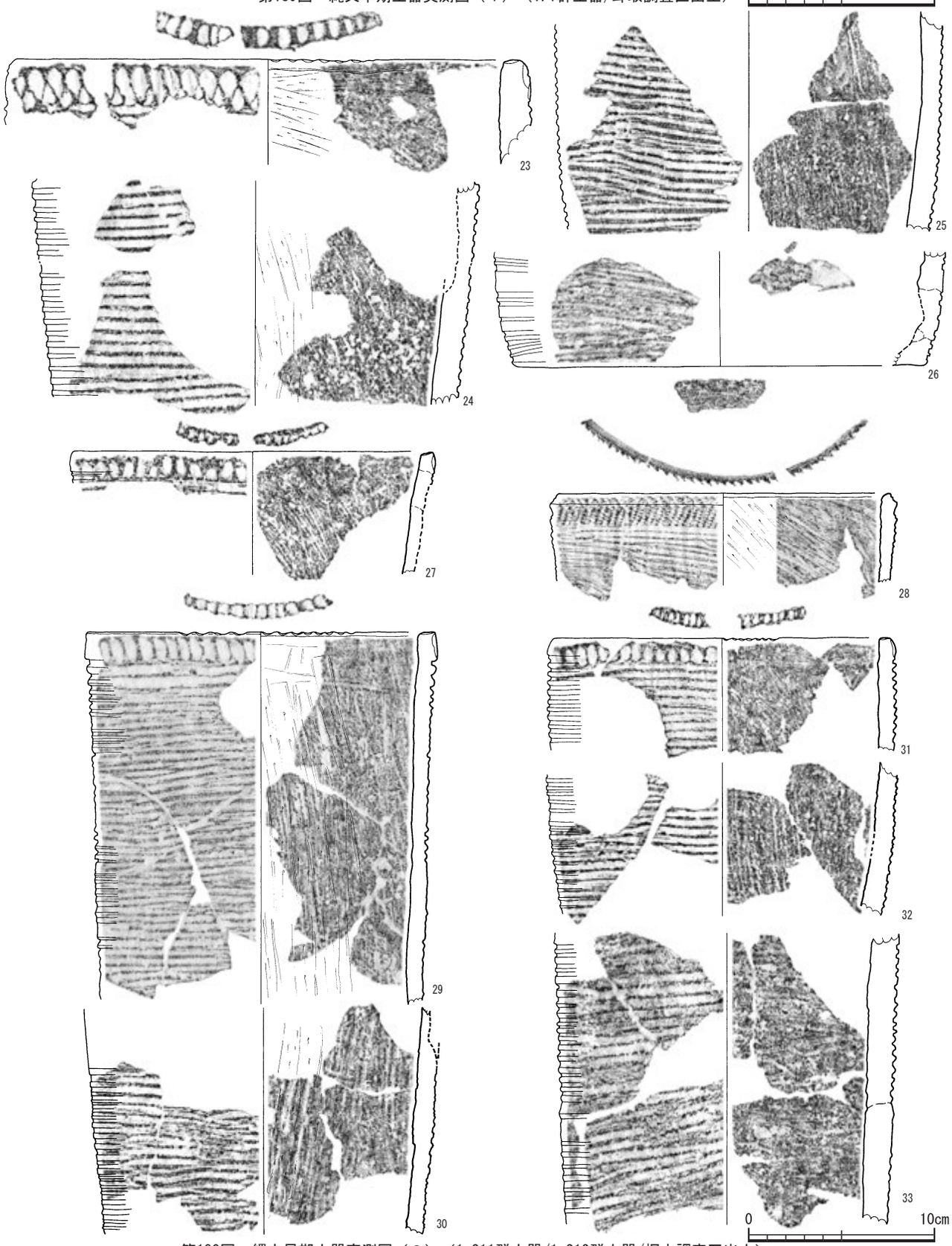
第187図　縄文早期土器分布図８（第１群土器３，1/500）



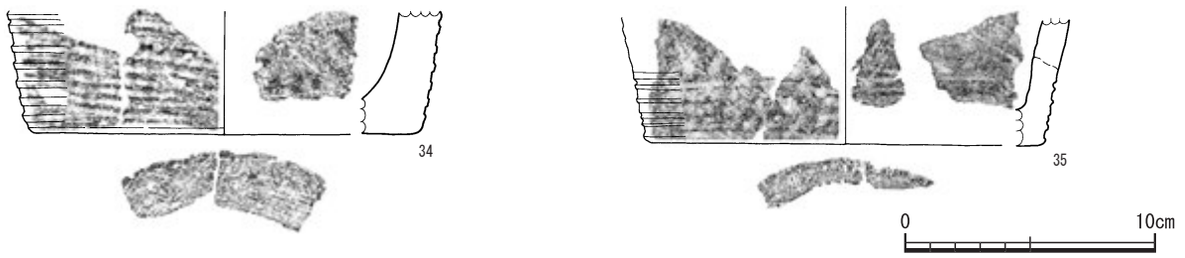
第188図　縄文早期土器分布図９（第１群土器４，1/500）



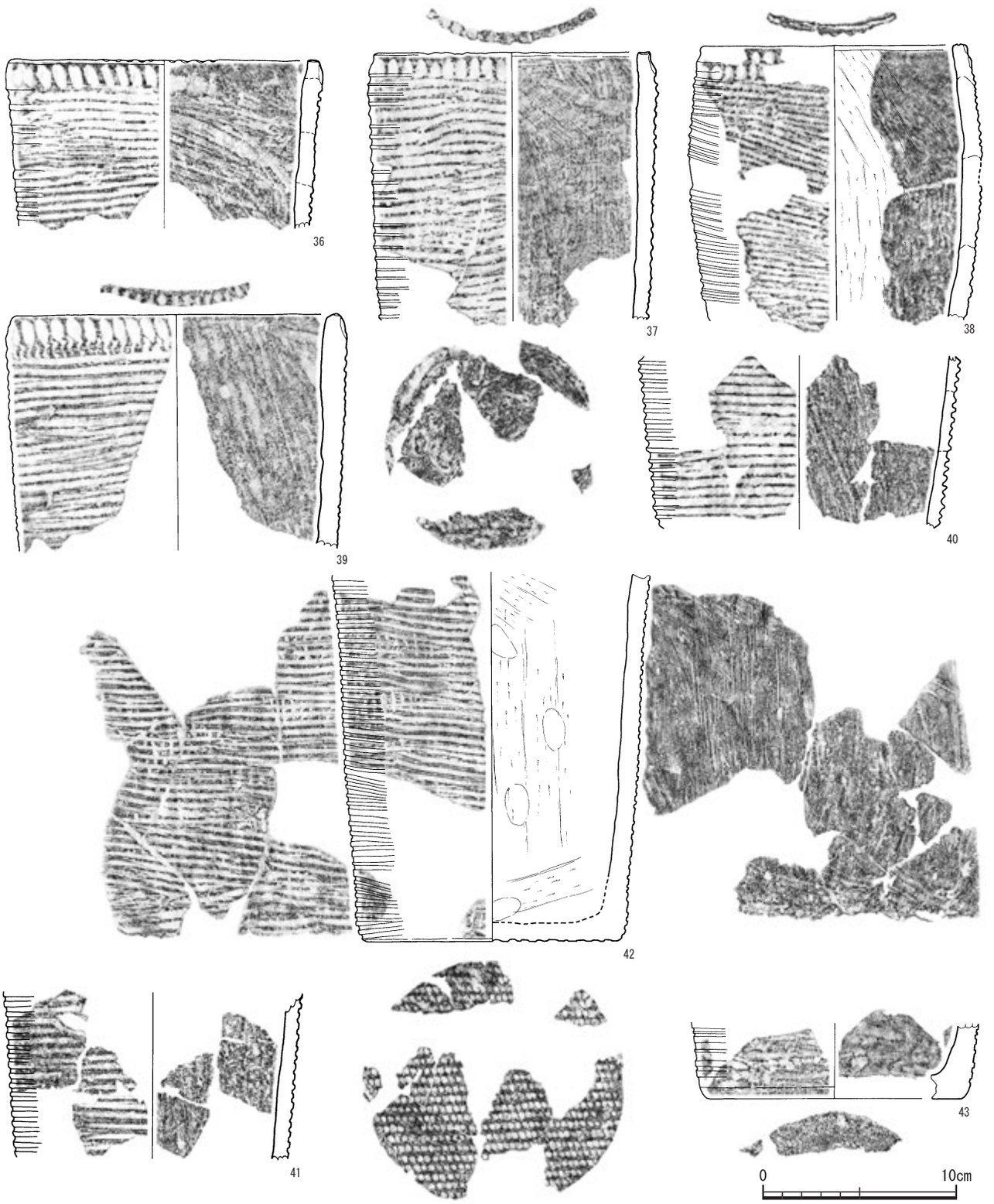
第189図　縄文早期土器実測図（１）（1.1群土器/耳取調査区出土）



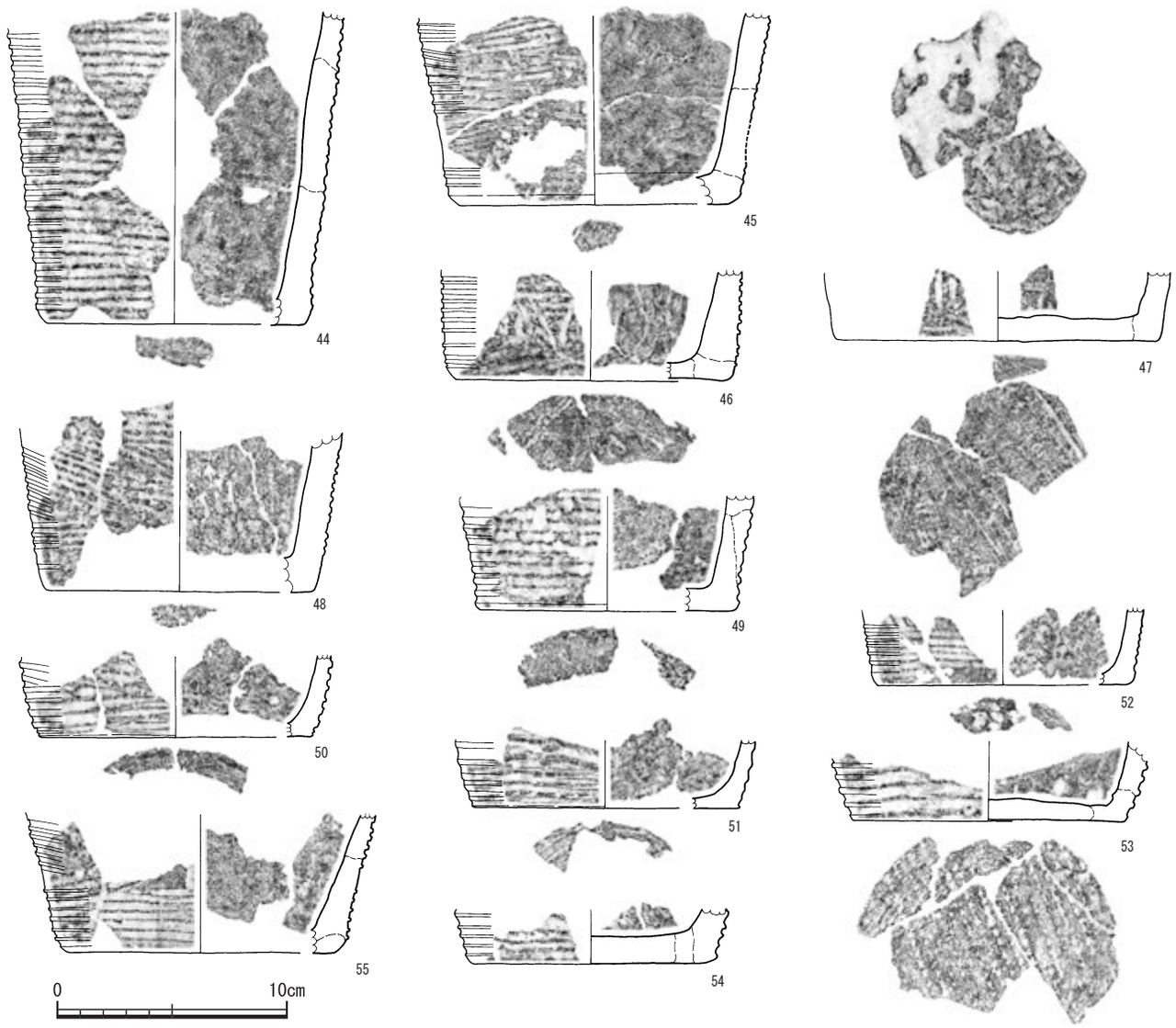
第190図　縄文早期土器実測図（２）（1.211群土器/1.212群土器/桐木調査区出土）



第191図　縄文早期土器実測図（３）（1.212群土器/桐木調査区出土）



第192図　縄文早期土器実測（４）（1.213群土器/桐木調査区出土）



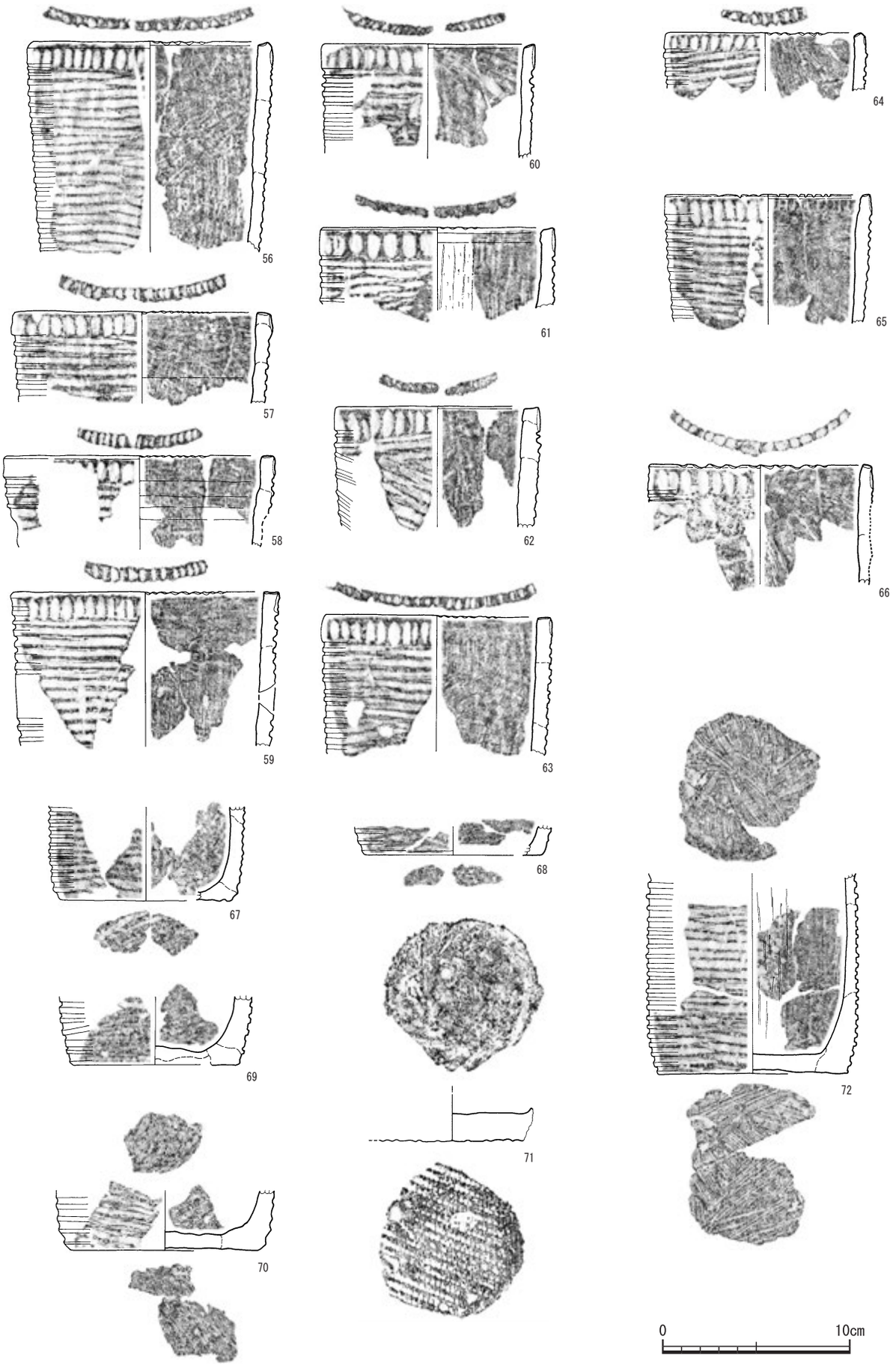
第193図　縄文早期土器実測図（５）（1.213群土器/桐木調査区出土）

第43表　縄文早期土器観察表（１）（１群土器-１）

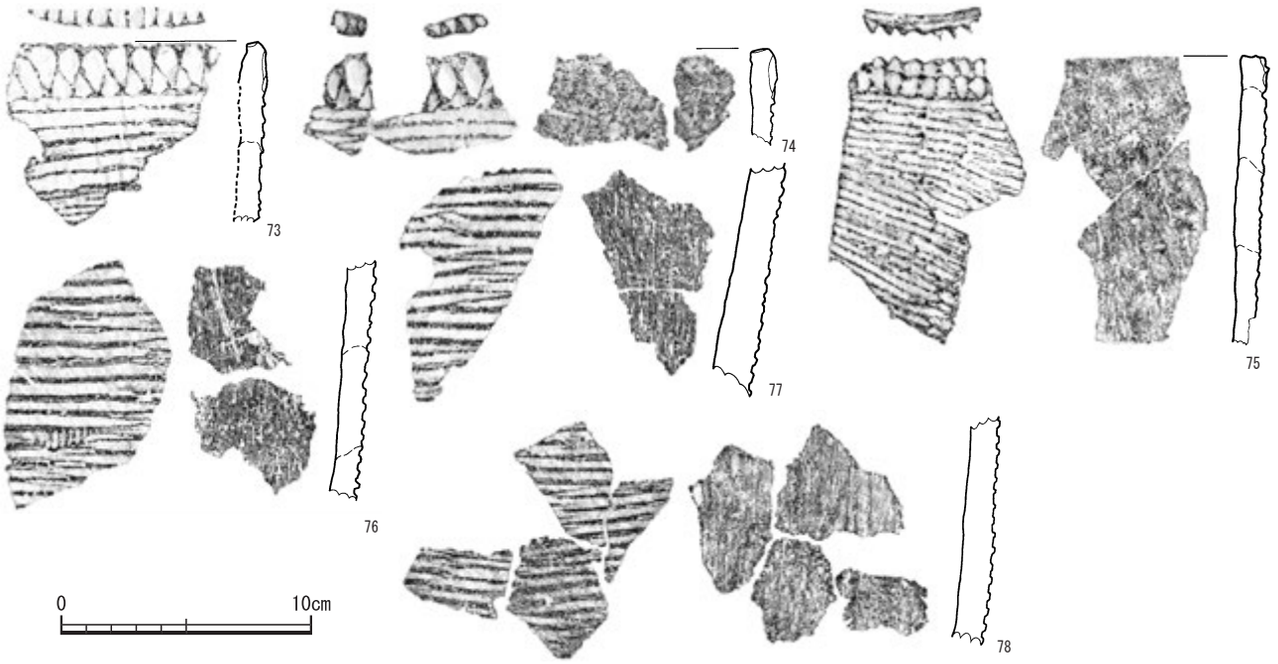
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
189	16	1.1	▲13765(H-5/Ⅷ)	角,雲,細粒	横貝殻条痕	-	混和材:角閃石
189	17	1.1	▲10800(H-5/Ⅶ)	角,雲,細粒	横貝殻条痕	-	-
189	18	1.1	▲16200(G-5/Ⅶ)	角,雲,細粒	ハケ→ナデ	-	-
189	19	1.1	▲13243(I-5/Ⅶ)	角,雲,細粒	横貝殻条痕	-	-
189	20	1.1	▲19501(-/-)	角,雲,細粒	ハケ→ナデ	-	-
189	21	1.1	▲16387(H-5/Ⅶ)	角,雲,細粒	ハケ→ナデ	-	-
189	22	1.1	▲10734(H-5/Ⅶ)	角,雲,細粒	貝殻条痕	-	-
190	23	1.211	○59175(E-7/Ⅶ) ○59200(E-8/Ⅶ下)	輝,角,砂粒	横ケズリ,斜ケズリ	化粧土剥落	-
190	24	1.211	○37018(D-11/Ⅷ下) ○37086(E-11/Ⅷ上)	輝,赤粒砂粒	斜ケズリ→ナデ	-	-
190	25	1.211	○58659(E-7/Ⅷ)	角,細粒	ケズリ	-	-
190	26	1.211	○37030(D-12/Ⅷ下)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
190	27	1.212	○41956(D-9/Ⅷ) ○42138(D-9/Ⅷ)	輝,赤粒細粒	横ケズリ,斜ケズリ	-	-
190	28	1.212	○58778(F-6/Ⅶ) ○60602(F-6/Ⅶ下) ○63341(H-6/Ⅶ)	輝,細粒	斜ケズリ	-	-
190	29	1.212	○37362(D-9/Ⅷ) ○58866(F-6/Ⅶ) ○59021(F-7/Ⅷ) ○60089(F-7/Ⅷ) ○60091(F-7/Ⅷ) ○60838(G-7/Ⅷ) ○60847(G-6/Ⅷ) ○62882(G-7/Ⅶ)	角,細粒	ケズリ	-	-
190	30	1.212	○40628(D-8/Ⅶ) ○42502(D-9/Ⅷ) ○42705(C-9/Ⅷ)	白粒,角,輝,砂粒	縦ケズリ	-	-
190	31	1.212	○35323(E-9/Ⅶ) ○36776(E-9/Ⅷ)	輝,砂粒	横ケズリ,斜ケズリ	ケズリ, 口唇部:ケズリ	-
190	32	1.212	○40540(D-9/Ⅶ) ○60245(E-8/Ⅷ)	輝,砂粒,赤粒 白粒,角	縦ケズリ→ナデ	-	-
190	33	1.212	○53759(E-9/Ⅹ) ○58986(F-6/Ⅷ) ○60146(F-6/Ⅷ)	角,砂粒	縦ケズリ	-	-

第44表　縄文早期土器観察表（２）（１群土器-２）

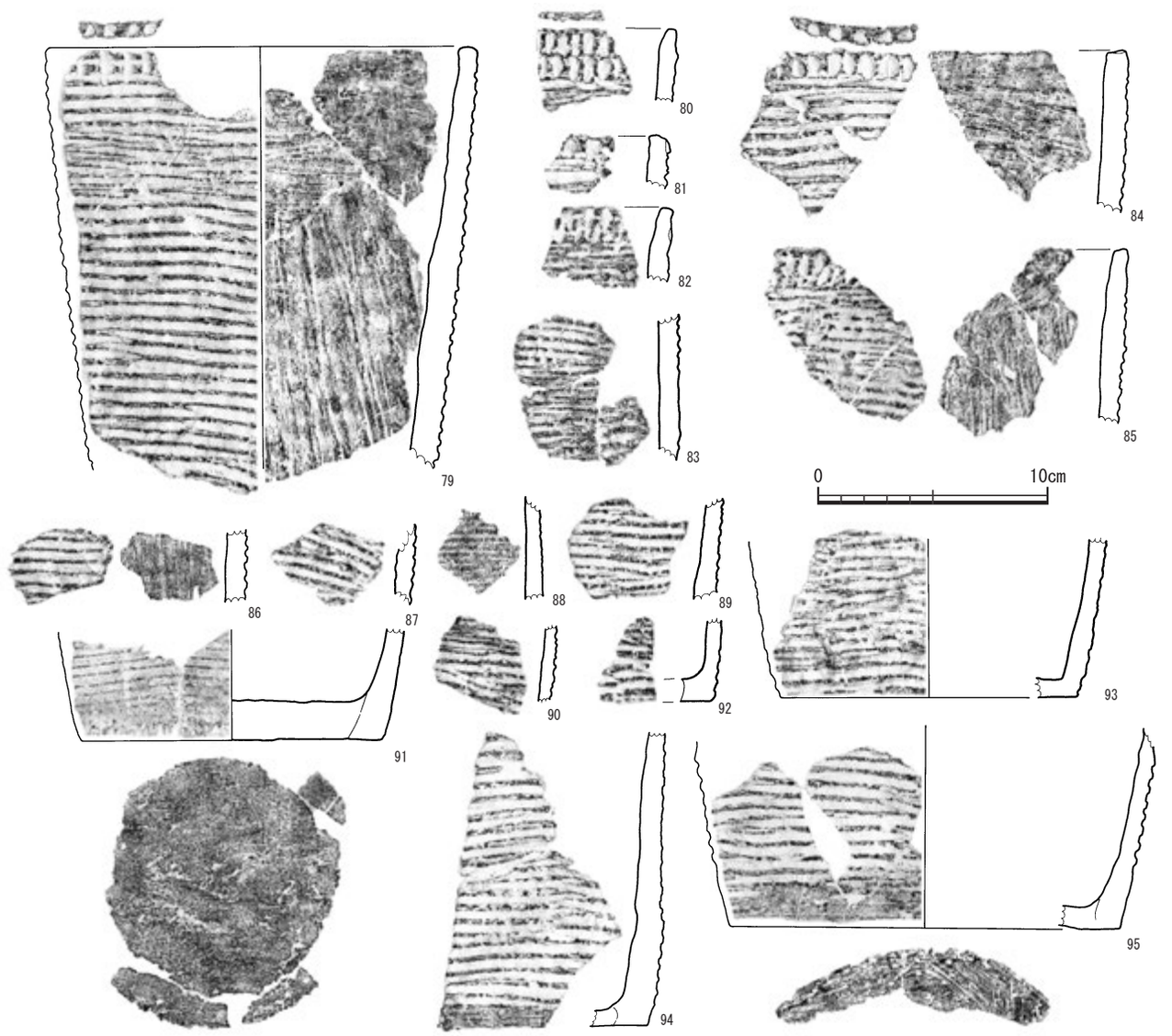
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
191	34	1.212	○36969(D-11/Ⅶ下) ○55170(G-10/Ⅶ)	角,微粒	ナデ	ナデ	-
191	35	1.212	○37036(D-12/Ⅷ上) ○60196(E-8/Ⅷ)	輝,細粒	ナデ	-	-
192	36	1.213	○42005(E-8/Ⅷ上) ○60454(F-6/Ⅷ)	角,輝,砂粒	工具斜ケズリ	-	-
192	37	1.213	○35241(E-10/Ⅶ) ○35252(E-9/Ⅶ下) ○36651(D-9/Ⅵ) ○37368(D-10/Ⅷ) ○37922(D-10/Ⅷ) ○40962(C-8/Ⅷ上) ○41987(E-8/Ⅷ上) ○42060(D-8/Ⅷ) ○42101(D-8/Ⅷ) ○42242(D-9/Ⅷ) ○55231(G-9/Ⅶ下) ○56664(B-12/Ⅹ) ○58897(F-6/Ⅶ) ○59197(E-7/Ⅶ) ○59212(F-7/Ⅷ) ○59337(E-8/Ⅶ下) ○60168(F-7/Ⅷ) ○60198(E-8/Ⅷ) ○60210(E-8/Ⅷ) ○60295(E-8/Ⅷ) ○60454(F-6/Ⅷ) ○60649(E-8/Ⅶ下) ○60699(F-8/Ⅷ上) ○60977(G-7/Ⅷ) ○66748(F-10/Ⅷ) ○66764(F-10/Ⅷ) ○67354(G-11/Ⅶ下)	輝,黒,細粒	工具横ケズリ,斜ケズリ, 縦ケズリ	-	-
192	38	1.213	○66742(F-10/Ⅷ) ○66746(F-10/Ⅷ) ○66749(F-10/Ⅷ)	角,輝,砂粒	斜ケズリ→ナデ, 縦ケズリ→ナデ	-	-
192	39	1.213	○37037(D-12/Ⅷ上) ○38367(E-11/Ⅷ) ○42439(A-10/Ⅶ) ○66185(G-11/Ⅷ)	角	工具斜ケズリ, 工具縦ケズリ	-	-



第194図　縄文早期土器実測図（６）（1.214群土器/桐木調査区出土）



第195図　縄文早期土器実測図（７）（1.215群土器/桐木調査区出土）



第196図　縄文早期土器実測図（８）（1.211群土器/1.212群土器/1.215群土器/耳取調査区出土）

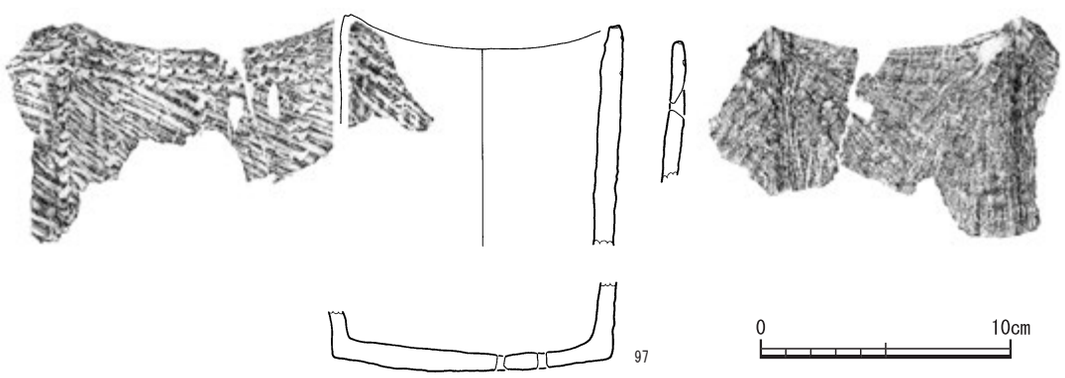
第45表　縄文早期土器観察表（３）（１群土器-３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
192	40	1.213	○37403(D-10/Ⅶ横転) ○38750(C-10/Ⅶ) ○60679(F-8/Ⅶ)	輝,砂粒	縦ケズリ	-	-
192	41	1.213	○66230(G-11/Ⅶ) ○66267(H-11/Ⅶ) ○66913(H-10/Ⅶ下)	角,輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	ナデ	-
192	42	1.213	○55020(J-25/Ⅲb) ○60672(E-8/Ⅶ下) ○65773(F-9/Ⅶ) ○65788(F-8/Ⅶ) ○65790(F-8/Ⅶ) ○65850(F-8/Ⅶ) ○65855(F-8/Ⅶ) ○65856(F-8/Ⅶ) ○65857(F-8/Ⅶ) ○65858(F-8/Ⅶ)	角	ケズリ→ナデ,指頭痕	-	-
192	43	1.213	○60744(D-7/Ⅶ) ○62896(G-7/Ⅶ下) ○64410(I-8/Ⅶ) ○66399(I-8/Ⅶ)	角,細粒	ナデ	-	-
193	44	1.213	○50815(A-14/Ⅶ) ○53636(B-13/Ⅶ下) ○53647(A-14/Ⅶ)	角,砂粒	ナデ	-	-
193	45	1.213	○60947(G-8/Ⅶ)	輝,細粒	ミガキに近い 丁寧なナデ	-	胎土精選
193	46	1.213	○61455(H-7/Ⅶ) ○61485(H-7/Ⅶ上) ○62866(G-7/Ⅶ) ○66977(I-7/Ⅶ)	角,微粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
193	47	1.213	○59300(E-7/Ⅶ下) ○60175(E-8/Ⅶ) ○65965(F-10/Ⅶ下)	角,細粒	ナデ	ナデ, ケズリ→ナデ	-
193	48	1.213	○37538(C-11/Ⅶ下) ○37644(D-11/Ⅶ)	輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
193	49	1.213	○50798(B-13/Ⅶ) ○53632(B-13/Ⅶ)	角,細粒	横ナデ	-	-
193	50	1.213	○65347(F-10/Ⅵ下) ○66761(F-10/Ⅶ)	輝,微粒	ナデ	-	胎土精選
193	51	1.213	○35735(D-10/Ⅵ下) ○40755(D-9/Ⅶ)	角,輝,細粒	ナデ	ケズリ→ナデ	-
193	52	1.213	○67996(H-11/Ⅶ) ○68004(H-11/Ⅶ)	赤粒輝,砂粒	ハケ→粗いナデ	-	-
193	53	1.213	○36654(D-9/Ⅵ) ○37894(D-9/Ⅶ上) ○37924(D-10/Ⅶ) ○41261(D-9/Ⅶ) ○51330(D-9/Ⅶ上)	微粒	ナデ	板状圧痕	-
193	54	1.213	○1245(D-8/Ⅶ) ○1492(D-8/Ⅶ) ○40632(D-8/Ⅶ) ○40634(D-8/Ⅶ上) ○40646(D-8/Ⅶ下) ○40861(E-8/Ⅵ) ○40892(E-8/Ⅶ) ○40897(E-8/Ⅶ) ○42477(E-8/Ⅶ)	角,細粒	ナデ	ナデ	-
193	55	1.213	○35224(E-10/Ⅶ) ○65993(F-10/Ⅶ下)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
194	56	1.214	○38759(E-9/Ⅶ) ○66046(F-8/Ⅶ)	輝,角,砂粒	縦ケズリ, 縦ケズリ→斜ケズリ, 縦ケズリ	-	-
194	57	1.214	○41996(E-8/Ⅶ) ○42506(D-8/Ⅶ)	輝,微粒	横ケズリ,斜ケズリ	-	-
194	58	1.214	○37639(C-11/Ⅶ) ○59413(E-8/Ⅶ)	輝,雲,微粒	斜ケズリ	-	-
194	59	1.214	○37387(D-10/Ⅶ) ○42464(D-8/Ⅶ)	輝,微粒	横,斜,縦ケズリ	-	補修孔:心心距離2.8cm, 形態は縦長, 長さ1.7cm,幅0.4cm
194	60	1.214	○38088(D-9/Ⅶ) ○38450(E-10/Ⅶ) ○65977(F-10/Ⅶ)	角,細粒	斜ケズリ	-	-
194	61	1.214	○37029(D-12/Ⅶ下) ○66085(F-11/Ⅶ)	輝	横ケズリ, 縦ケズリ→ナデ	-	-
194	62	1.214	○42492(D-8/Ⅶ) ○66425(H-10/Ⅶ下)	角,輝,細粒	ナデ,横ケズリ→ナデ, 縦ケズリ→ナデ	-	-
194	63	1.214	○66044(F-9/Ⅶ) ○67020(F-10/Ⅶ)	赤粒角,輝	ナデ,縦ケズリ→ナデ	-	-
194	64	1.214	○55647(E-8/Ⅶ) ○59458(E-8/Ⅶ下)	角	縦ケズリ→斜ケズリ	-	-
194	65	1.214	○40599(D-8/Ⅶ) ○59416(E-8/Ⅶ) ○60485(G-7/Ⅶ) ○66453(I-9/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ケズリ,斜ケズリ	-	-
194	66	1.214	○36819(E-10/Ⅶ下) ○66755(F-10/Ⅶ) ○67023(F-9/Ⅶ)	輝,細粒,砂粒	横ケズリ,斜ケズリ	-	-
194	67	1.214	-394??(-/-) -42??(-/-)	輝,細粒	ナデ	-	-
194	68	1.214	○50219(D-9/Ⅶ) ○50242(D-9/Ⅶ)	輝,角,微粒	ナデ	-	-
194	69	1.214	○50231(D-9/Ⅶ) ○54122(C-9/Ⅶ)	角,細粒	ナデ	-	胎土精選
194	70	1.214	○40918(D-8/Ⅶ下) ○41958(D-9/Ⅶ下)	輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
194	71	1.214	○1684(E-9/Ⅶ)	角,輝,細粒	工具ナデ→ユビナデ	-	-
194	72	1.214	○36661(D-9/Ⅵ) ○37298(E-10/Ⅶ) ○41959(D-9/Ⅶ下) ○42149(C-10/Ⅶ上) ○42219(C-8/Ⅶ) ○51341(D-9/Ⅶ) ○51344(D-9/Ⅶ下) ○51347(D-9/Ⅶ下) ○51348(D-9/Ⅶ) ○51361(D-9/Ⅶ)	角,細粒	ケズリ→ナデ	-	-

第46表　縄文早期土器観察表（４）（１群土器-４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
195	73	1.215	○60250(E-7/Ⅶ)	輝,角,砂粒	ナデ	-	-
195	74	1.215	○42049(D-8/Ⅶ下) ○50225(D-9/Ⅶ)	角,赤粒細粒	ナデ	-	-
195	75	1.215	○60054(E-7/Ⅶ) ○60614(E-7/Ⅶ下)	砂粒	ナデ,縦ケズリ→ナデ	-	-
195	76	1.215	○37888(D-9/Ⅶ) ○42765(C-9/Ⅶ)	輝,細粒	縦ケズリ	-	-
195	77	1.215	-427??(-/-) -4270?(-/-)	角	縦ケズリ	-	-
195	78	1.215	○53285(E-13/Ⅶ) ○53337(E-13/Ⅶ) ○66187(G-11/Ⅶ) ○66189(G-11/Ⅶ)	輝,細粒	縦ケズリ	-	-
196	79	1.212	▲2428(I-18/Ⅶ) ▲2466(I-18/Ⅶ)	角,雲,砂粒	縦ケズリ, ハケ→粗いナデ	-	-
196	80	1.215	▲4536(I-18/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
196	81	1.215	▲2465(I-18/Ⅶ)	角,雲,細粒	横ハケ→粗いナデ	-	-
196	82	1.215	▲11092(J-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
196	83	1.215	▲2404(I-18/Ⅵa) ▲2732(I-18/Ⅶ下)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
196	84	1.215	▲1957(I-19/Ⅶ)	角,雲,砂粒, 赤粒	横,斜ハケ→粗いナデ	-	-
196	85	1.215	▲2718(I-18/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ, 斜ケズリ→粗いナデ	-	-
196	86	1.215	▲2445(I-18/Ⅶ)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
196	87	1.215	▲2722(I-18/Ⅶ下)	角,雲,細粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
196	88	1.215	▲838(I-4/Ⅶ)	角,雲,砂粒, 赤粒	斜貝殻条痕→ナデ	-	-
196	89	1.215	▲5042(H-18/Ⅹ)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
196	90	1.215	▲1913(I-19/Ⅶ)	角,雲,細粒, 赤粒	縦ケズリ→ナデ	-	混和材:角閃石
196	91	1.212	▲2038(I-19/Ⅶ) ▲2067(I-19/Ⅶ) ▲2068(I-19/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	底面:ハケ→ナデ	-
196	92	1.215	▲3416(I-18/Ⅹ)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	底面:ハケ→ナデ	-
196	93	1.212	▲2527(I-18/Ⅶ)	輝,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	底面:ハケ→ナデ	-
196	94	1.215	▲1887(I-19/Ⅶ) ▲11151(J-19/Ⅵa)	角,輝,雲,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	底面:ハケ→ナデ	-
196	95	1.211	▲2048(I-19/Ⅶ) ▲2055(I-19/Ⅶ) ▲11150(J-19/Ⅶ) ▲11152(J-19/Ⅶ)	角,雲,砂粒, 赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	底面:ハケ→ナデ	-
197	96	1.31	▲7111(J-7/Ⅶ横転) ▲8842(I-7/Ⅶ横転) ▲8866(I-7/Ⅶ横転) ▲9053(J-9/Ⅶ) ▲9056(J-8/Ⅵa) ▲9097(J-7/Ⅶ横転) ▲9375(I-7/Ⅵb) ▲9495(J-8/Ⅶ) ▲9564(I-9/Ⅵa) ▲9973(J-7/Ⅶ) ▲9975(J-7/Ⅶ) ▲9976(J-7/Ⅶ) ▲10420(I-7/Ⅶ) ▲10421(I-7/Ⅶ) ▲10422(I-7/Ⅶ) ▲10423(I-7/Ⅶ) ▲10425(I-7/Ⅶ) ▲10429(I-7/Ⅶ) ▲10431(I-7/Ⅶ) ▲10432(I-8/Ⅶ) ▲10462(I-8/Ⅵa) ▲10499(G-5/Ⅶ) ▲10530(J-9/Ⅴa) ▲10940(J-10/Ⅴa) ▲13751(G-6/Ⅶ) ▲15254(I-9/Ⅵa) ▲15264(I-9/Ⅶ上) ▲15286(I-9/Ⅶ上) ▲15298(J-9/Ⅹ) ▲18164(J-9/Ⅶ下)	角,輝,雲,細粒	斜貝殻ケズリ →粗いナデ	底面:横ハケ →ナデ	混和材:角閃石
198	97	1.32	○42553(D-8/Ⅶ) ○59208(F-7/Ⅶ上)	角,輝,細粒	ケズリ	ケズリ	-
199	98	1.41	▲2735(H-18/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
199	99	1.41	▲1379(I-11/Ⅶ)	角,輝,微粒, 赤粒	横工具ナデ	-	-
199	100	1.41	▲2468(I-18/Ⅶ) ▲4632(H-17/Ⅶ) ▲4634(H-17/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	混和材:黒雲母
199	101	1.41	▲3937(H-19/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
199	102	1.41	▲5038(H-18/Ⅹ)	輝,角,細粒	縦ケズリ→斜ハケ	-	-
199	103	1.41	▲4631(H-17/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
199	104	1.41	▲2076(I-19/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
199	105	1.41	▲3648(H-18/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
199	106	1.41	▲2053(I-19/Ⅶ) ▲3926(I-18/Ⅶ)	角,赤粒砂粒	横ハケ→粗いナデ	-	-
199	107	1.41	▲1376(H-11/Ⅶ下) ▲11603(I-11/Ⅶ)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
199	108	1.41	▲3309(G-19/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
199	109	1.41	▲3329(G-18/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
199	110	1.41	▲2713(I-20/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ハケナデ	-	-

第197図　縄文早期土器実測図（９）（1.31群土器/耳取調査区出土）

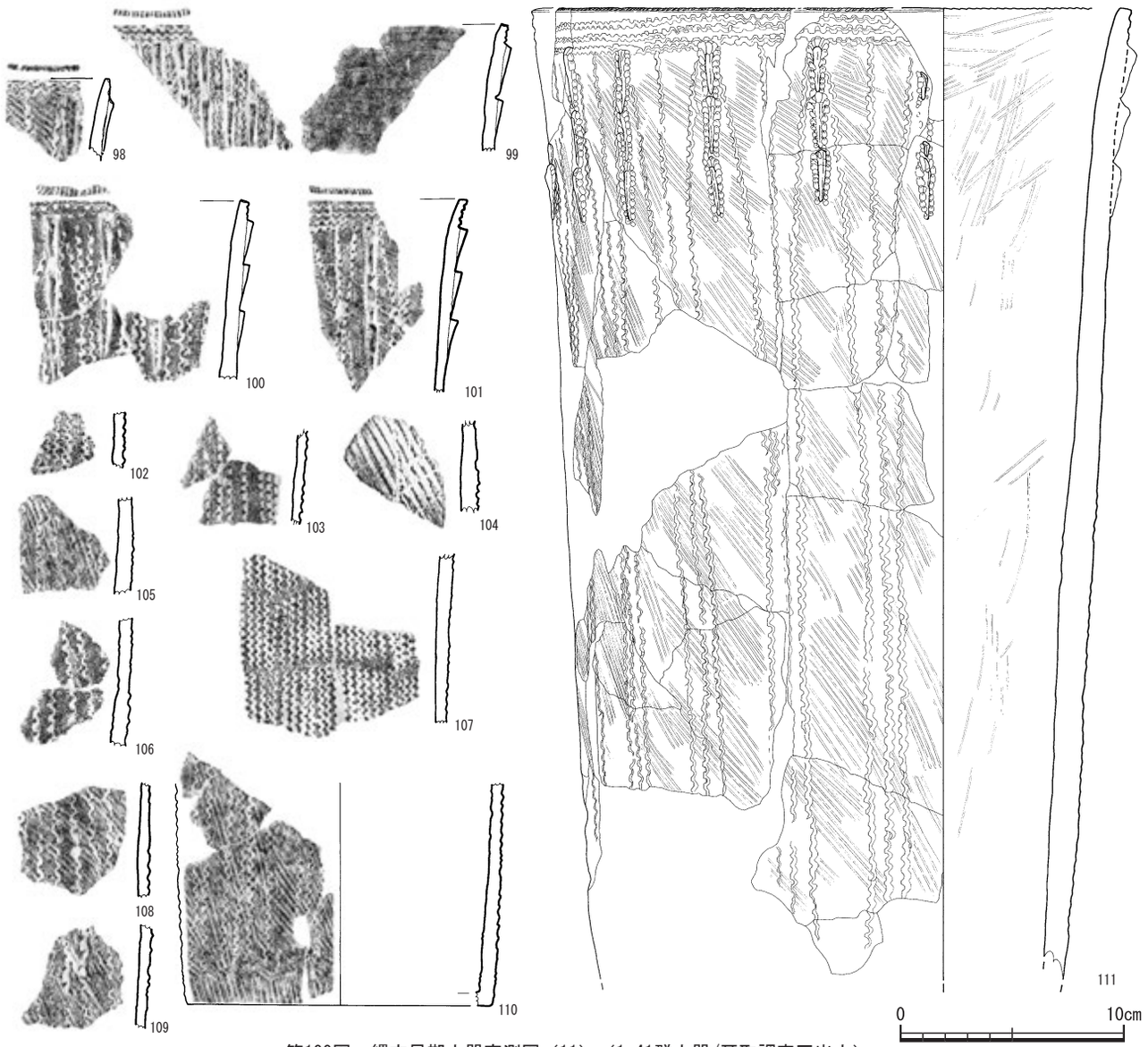


第198図　縄文早期土器実測図（10）（1.32群土器/桐木調査区出土）

ち，特に桐木調査区Ａ～Ｉ－６～14区周辺とに集中していることを指摘できる(第183図，第185図～第188図参照)。

この第１群土器第２類土器の主たる分布域は，第１群土器第１類土器や第１群土器第３類土器の主たる分布域とは異なるのに対して，第１群土器第４類土器の主たる分布域と共通する状況を明らかにしている。この状況は，これらの土器群との間に時期差がある可能性を示すと共に，生活の「場」が短い期間のうちで変遷したことを示している。

ここで特に注目できるのは，第192図42，第193図53，第194図71の３点である。このうち42,71には底部外面全面に回転施文による単節斜行縄文(ＲＬ)が，53には底面外面に撚りの痕跡がある簾状の圧痕が観察できることである。類例としては，鹿児島県指宿市岩本遺跡において，本類土器と同様の文様構成が観られる土器の底部に，同様の圧痕が観察できる資料が出土しており，注目ができる。



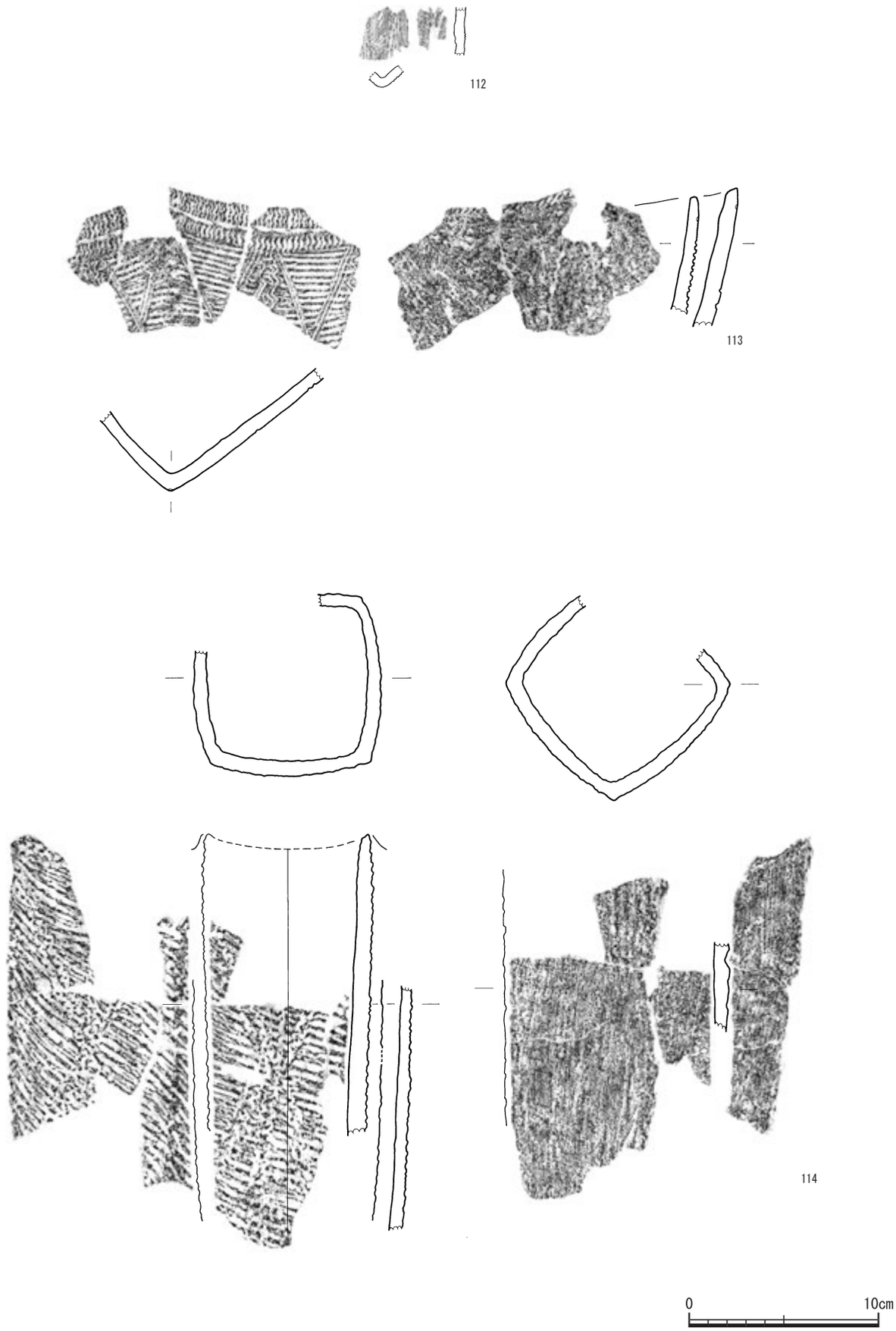
第199図　縄文早期土器実測図（11）（1.41群土器/耳取調査区出土）

第47表　縄文早期土器観察表（５）（１群土器-５）

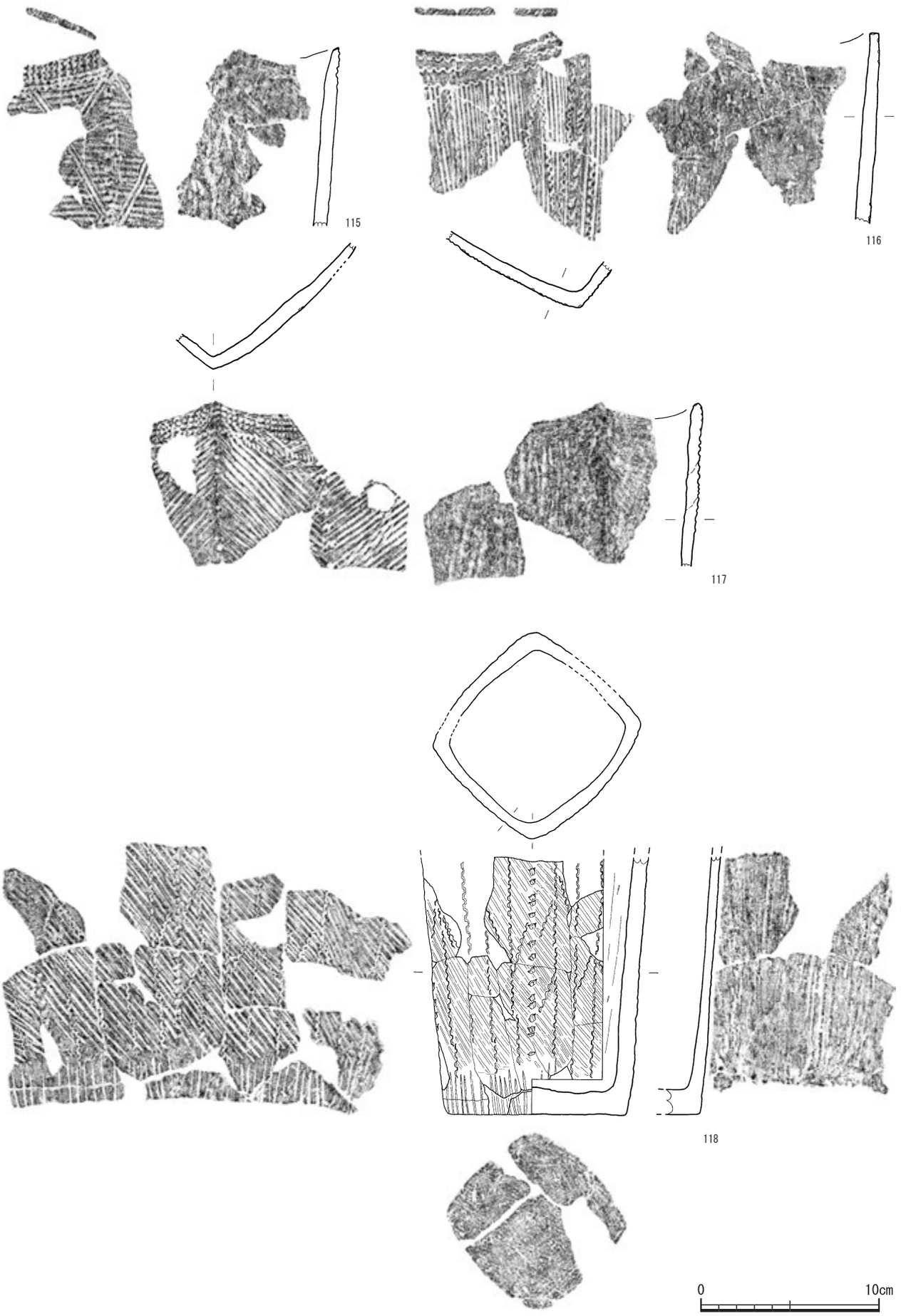
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
199	111	1.41	▲1599(I-6/Ⅲb) ▲1884(I-19/Ⅶ) ▲1929(I-19/Ⅶ) ▲1946(I-19/Ⅶ) ▲1997(I-19/Ⅶ) ▲2001(I-19/Ⅶ) ▲2026(I-19/Ⅶ) ▲2027(I-19/Ⅶ) ▲2028(I-19/Ⅶ) ▲2077(I-19/Ⅶ) ▲2096(I-19/Ⅶ) ▲2097(I-19/Ⅶ) ▲2147(I-19/Ⅶ) ▲2162(I-19/Ⅶ) ▲2163(I-19/Ⅶ) ▲2169(I-18/Ⅶ) ▲2173(I-18/Ⅶ) ▲2177(I-18/Ⅷ上) ▲2178(I-18/Ⅶ) ▲2386(I-18/Ⅴa) ▲2388(I-18/Ⅵa) ▲2416(I-18/Ⅶ) ▲2423(I-18/Ⅶ) ▲2424(I-18/Ⅶ) ▲2430(I-18/Ⅶ) ▲2462(I-18/Ⅶ) ▲2463(I-18/Ⅵa下) ▲2561(I-19/Ⅶ) ▲2564(I-18/Ⅶ) ▲2580(I-18/Ⅶ) ▲2581(I-18/Ⅶ) ▲2589(I-18/Ⅶ) ▲2590(I-18/Ⅶ) ▲2592(I-18/Ⅶ) ▲2593(I-18/Ⅶ) ▲2597(I-18/Ⅶ) ▲2598(I-18/Ⅶ) ▲2721(I-18/Ⅶ下) ▲3337(I-18/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	縦,斜ケズリ→粗いナデ	-	混和材:角閃石,赤色粒多量

第48表　縄文早期土器観察表（６）（１群土器-６）

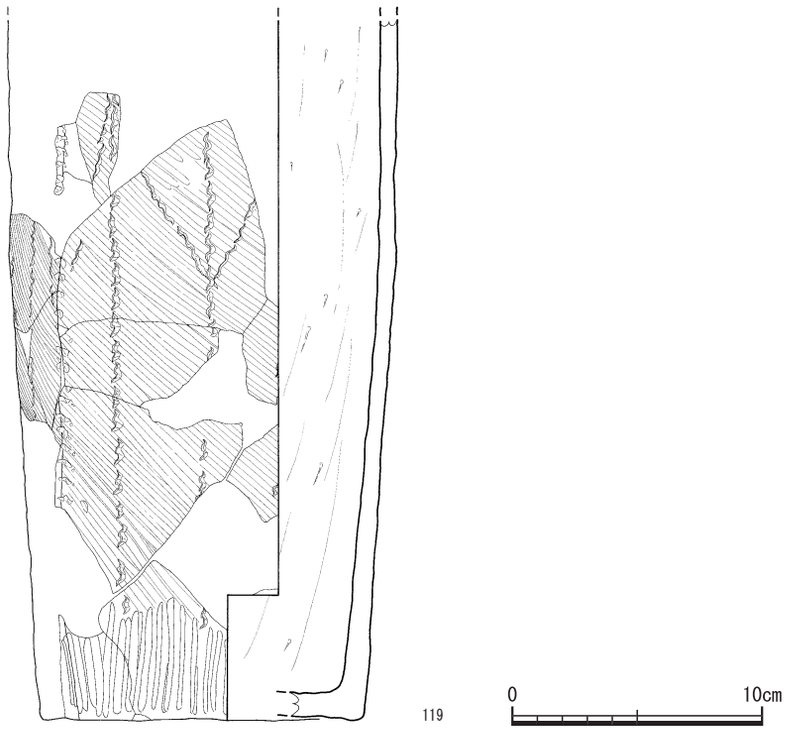
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
199	111	1.41	▲3924(I-18/Ⅷ) ▲3925(I-18/Ⅷ) ▲3929(I-18/Ⅷ) ▲3931(I-18/Ⅶ) ▲3932(I-18/Ⅶ) ▲3934(I-18/Ⅶ) ▲3941(I-18/Ⅶ) ▲4154(I-18/Ⅹ) ▲11134(J-18/Ⅶ) ▲11142(J-18/Ⅶ) ▲11210(J-18/Ⅶ) ▲11214(J-18/Ⅷ)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	縦,斜ケズリ→粗いナデ	-	混和材:角閃石,赤色粒多量
200	112	1.42	○58929(F-6/Ⅶ) ○58988(F-6/Ⅷ上)	角,細粒	縦ケズリ→ナデ,ケズリ	-	-
200	113	1.42	○65764(F-8/Ⅶ) ○65862(F-8/Ⅷ) ○65912(F-8/Ⅷ) ○65913(F-8/Ⅷ)	輝,細粒	ケズリ	-	-
200	114	1.42	○41258(D-9/Ⅷ) ○41263(D-9/Ⅷ) ○60197(E-8/Ⅷ) ○60265(E-7/Ⅷ) ○62880(G-7/Ⅶ) ○65872(F-9/Ⅶ下) ○65873(F-9/Ⅶ下)	角,砂粒	ケズリ	-	-
201	115	1.42	○60980(G-7/Ⅷ)	輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
201	116	1.42	○58848(F-6/Ⅶ) ○58851(F-6/Ⅶ) ○58992(F-6/Ⅶ下) ○60081(F-6/Ⅷ) ○60114(F-6/Ⅷ) ○60118(F-6/Ⅷ)	角,細粒,輝	ケズリ	-	胎土精選
201	117	1.42	○50807(A-13/Ⅷ) ○53657(A-13/Ⅷ下)	輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-



第200図　縄文早期土器実測図（12）（1.42群土器/桐木調査区出土）



第201図　縄文早期土器実測図（13）（1.42群土器/桐木調査区出土）



第202図　縄文早期土器実測図（14）（1.42群土器/耳取調査区出土）

第49表　縄文早期土器観察表（７）（１群土器-７）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
201	118	1.42	○58610(E-7/Ⅶ) ○58656(E-7/Ⅷ) ○58658(E-7/Ⅷ) ○58673(E-6/Ⅶ下) ○58696(E-6/Ⅷ) ○59029(F-7/Ⅷ) ○59487(E-7/Ⅶ下) ○59537(E-7/Ⅷ上) ○60031(E-6/Ⅷ) ○60283(E-7/Ⅷ) ○60286(E-7/Ⅷ) ○60294(E-7/Ⅷ) ○60607(F-6/Ⅷ下) ○60709(G-7/Ⅷ) ○61183(D-7/Ⅷ)	白粒,角	ケズリ,ユビナデ	-	-
202	119	1.42	▲1949(I-19/Ⅶ) ▲2004(I-19/Ⅷ) ▲2011(I-19/Ⅷ) ▲2012(I-19/Ⅷ) ▲2040(I-19/Ⅷ) ▲2074(I-19/Ⅷ) ▲2406(H-19/Ⅵa) ▲2444(H-19/Ⅶ) ▲2585(I-18/Ⅷ) ▲2587(I-18/Ⅷ) ▲3647(H-19/Ⅶ) ▲11176(J-18/Ⅶ) ▲11181(J-18/Ⅶ) ▲11209(J-18/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	底面:ケズリ→ナデ	混和材:黒雲母,細粒多量
203	120	1.43	○60163(F-7/Ⅷ) ○65763(F-8/Ⅶ) ○65765(F-8/Ⅶ) ○65767(F-8/Ⅶ) ○65790(F-8/Ⅶ) ○69229(H-22/Ⅶ)	輝,角,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	外面スス付着
203	121	1.43	○60784(G-7/Ⅷ上) ○60952(G-8/Ⅶ)	輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
203	122	1.43	○60698(F-8/Ⅷ)	雲,角,細粒	ケズリ	-	混和材:角閃石
203	123	1.43	○54100(C-9/Ⅷ) ○56566(C-9/Ⅹ)	角,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-

第50表　縄文早期土器観察表（８）（１群土器-８）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
203	124	1.43	○58796(F-6/Ⅶ) ○60290(E-7/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ	-	混和材:角閃石
203	125	1.43	○40672(D-8/Ⅶ) ○40673(D-8/Ⅶ) ○65863(F-8/Ⅶ) ○65864(F-8/Ⅶ)	砂粒,角,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
204	126	1.43	○42541(E-8/Ⅷ) ○42582(D-8/Ⅷ) ○67029(F-10/Ⅷ)	角,細粒	ケズリ	-	混和材:角閃石
204	127	1.43	○59296(E-7/Ⅷ) ○60066(E-7/Ⅷ)	輝,砂粒	ケズリ	工具ケズリ	-
204	128	1.43	○60280(E-7/Ⅷ) ○65768(F-8/Ⅶ) ○65780(F-8/Ⅶ上) ○65781(F-8/Ⅶ上)	輝,砂粒	ナデ	-	-
205	129	1.44	○46695(D-8/Ⅷ下) ○60260(E-7/Ⅷ)	角,細粒	ケズリ→ユビナデ	-	混和材:角閃石
205	130	1.44	○65659(H-8/Ⅶ)	角,雲,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	-
205	131	1.44	○40675(D-8/Ⅶ) ○42105(D-8/Ⅷ下)	角,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
205	132	1.44	○42026(D-8/Ⅷ) ○42494(D-8/Ⅷ)	輝,微粒	縦ケズリ	-	胎土精選
205	133	1.44	○58266(F-5/Ⅶ) ○58730(F-6/Ⅶ) ○59243(F-7/Ⅶ) ○60079(F-6/Ⅶ) ○60084(F-7/Ⅶ)	角,黒,細粒	縦ケズリ	-	-
205	134	1.44	○42482(D-8/Ⅷ上) ○42552(D-8/Ⅷ)	黒,角,細粒	縦ケズリ	-	-
205	135	1.44	○60082(F-6/Ⅷ) ○60116(F-6/Ⅷ)	輝,細粒	ナデ	-	-
205	136	1.44	○58702(E-6/Ⅶ下) ○58874(F-6/Ⅶ) ○60115(F-6/Ⅷ) ○60424(G-6/Ⅶ) ○60459(F-6/Ⅶ) ○60465(G-6/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→ナデ,	-	-
206	137	1.44	▲2455(I-19/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→ハケナデ	-	-

第１群土器第３類土器(分類記号1.3，第197・198図96～97)

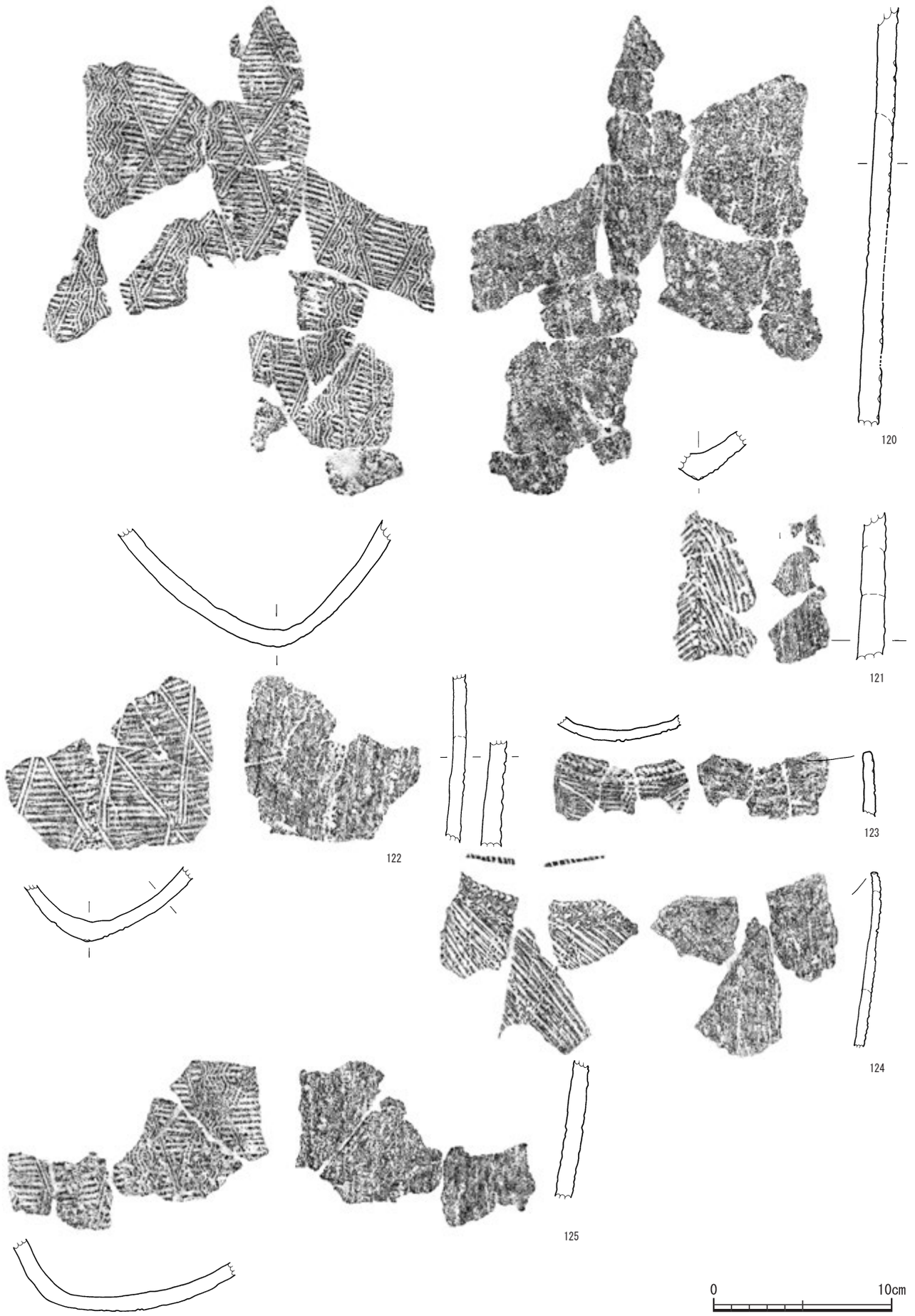
第１群土器第３類土器に属する土器を２点資料化した。

器形的特徴としては，円筒形土器と角筒形土器とがあり，円筒形土器を第１タイプ土器(分類記号1.31，第197図96)に，角筒形土器を第２タイプ土器(分類記号1.32，第198図97)に分類した。直行する口縁部から底部まで直線的な胴部と，平底の底部とを呈する深鉢形土器で，円筒形土器では欠損し不明であるが，角筒形土器では口唇部が平坦面を形成する特徴が挙げられる。

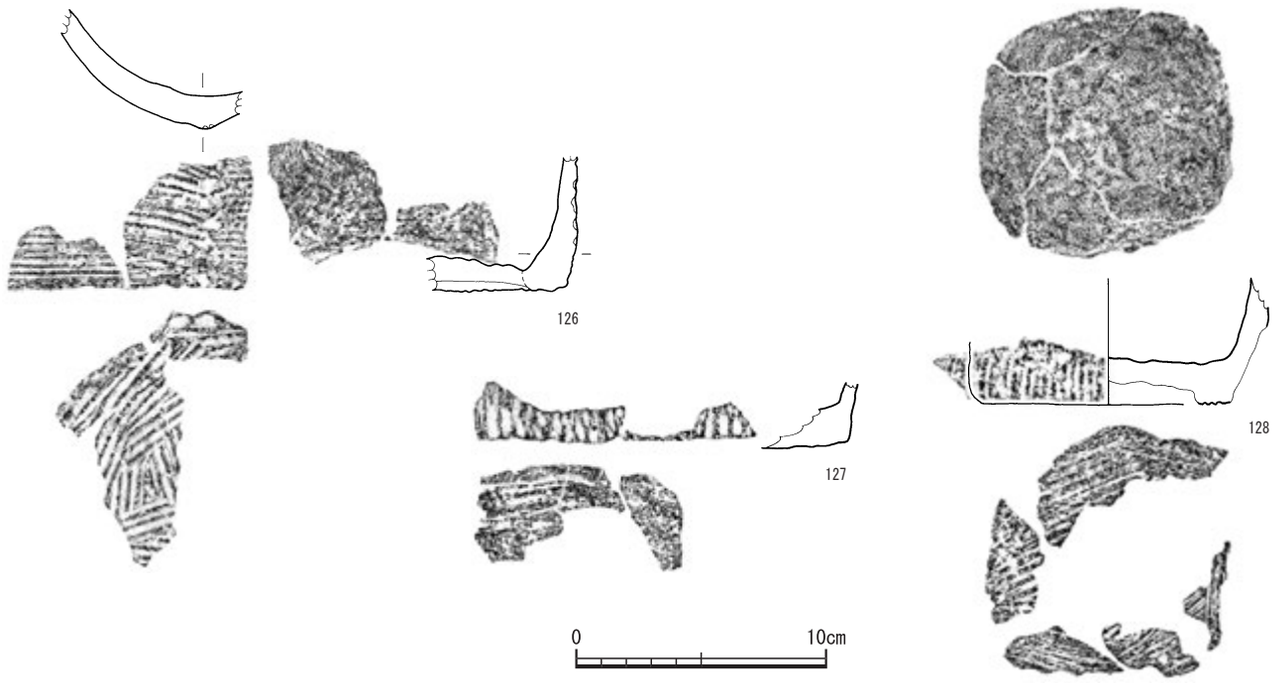
施文的特徴としては，角筒形土器では口唇上端部に刺突文を，口縁部文様帯外面には貝殻刺突文を横位方向に２条巡らす土器であることが挙げられる。胴部文様帯には，胴部下端部外面にかけて全体にわたり，貝殻腹縁部による斜位方向の条痕文を施す。

調整方法としては，内器面ではケズリ調整後に粗いナデ調整を行う土器が観察できた。また，底部は外器面では木製工具によるハケ調整の後にナデ調整が行われていた。

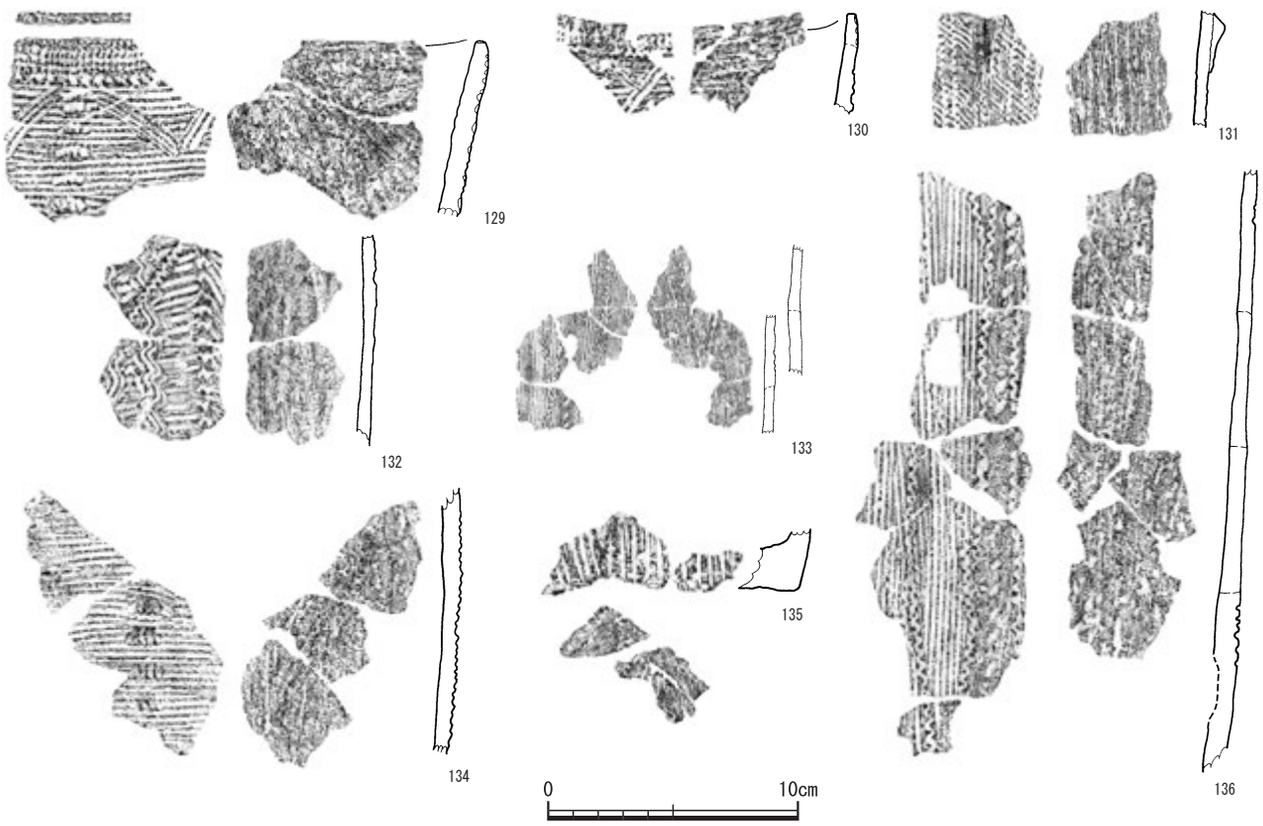
本類土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石などで構成さ



第203図　縄文早期土器実測図（15）（1.43群土器/桐木調査区出土）



第204図　縄文早期土器実測図（16）（1.43群土器/桐木調査区出土）



第205図　縄文早期土器実測図（17）（1.44群土器/桐木調査区出土）

第206図　縄文早期土器実測図（18）（1.44群土器/耳取調査区出土）

れ，特に多量の角閃石を含有していた。

さて出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ⅰ・Ｊ－７～９区周辺に集中していることを指摘できる(第184図，第185図～第188図参照)。この分布域は第１群土器第２類土器や第１群土器第４類土器の主たる分布域とは異なっていることが，注目できる。

ここで注目できるのは，本類に属する土器は第２類土器と第４類土器との過渡期に位置付けられる土器群と考えられる可能性が指摘できることである。

すなわち，本類に属する土器は，従来，第１群土器第２類土器に分類される土器であった。しかし，本遺跡では第１群土器第２類土器とは明らかに主たる分布域が大きく異なることや，施文的特徴では第１群土器第２類土器と第１群土器第４類土器との折衷的特徴を示すことなどが指摘できる。さらに，施文的特徴以外の諸属性では共通する特徴を有していることが挙げられる。以上のことから，第１群土器第３類土器は第２類土器と第４類土器との過渡期の土器群として，本報告では細別を試みた。なお，本類に属する土器の点数が少ないために，径の大きさの違いによる細別はできなかった。

第１群土器第４類土器(分類記号1.4，第199図～第206図98～137)

第１群土器第４類土器に属する土器を40点資料化した。

器形的特徴としては，円筒形土器と角筒形土器とレモン形を呈する土器とがあり，円筒形土器を第１タイプ土器(分類記号1.41，第199図98～111)に，角筒形土器を第２タイプ土器(分類記号1.42，第200図～第202図112～119)に，レモン形を呈する土器を第３タイプ土器(分類記号1.43，第203・204図120～128)に，形状が不明な土器を第４タイプ土器(分類記号1.44，第205・206図129～137)に分類した。

全体的な器形では，口縁部が直行し，胴部から底部までは直線的で，底部は平底を呈する深鉢形土器で，口唇部は平坦面を形成する特徴を指摘できる。また，底部から立ち上がる胴部下端部の器壁の厚さが極端に薄いことも特徴の一つに挙げることができる。さらに，円筒形土器の口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は直線的に外に開く形態であるのに対して，角筒形土器の口縁形態は波状口縁を呈し，口縁部は直行する形態である特徴を有している。

施文的特徴としては，口唇上端部には刻みを施し，口縁部文様帯外面には貝殻刺突文を横位方向に２条もしくは３条巡らし，胴部文様帯では胴部下端部外面にかけて斜位方向の貝殻条痕文を地文としてその上に，斜位方向あるいは縦位方向の貝殻刺突文を重ねて施すことが指摘できる。また，胴部下端部では縦位方向の刻みを施すのが一般的である。

ここで注目できる点として２点挙げることができる。

第１に，角筒形土器やレモン形を呈する土器の中には，胴部文様帯では胴部下端部外面にかけて，貝殻条痕文に重ねて施文する貝殻刺突文に加えて，さらに流水状の貝殻条痕文を縦位方向に重ねる土器や，角の部分に貝殻腹縁部による押引文を縦位方向に施す土器がみられることを指摘できる。

第２に，角筒形土器の中には口縁部文様帯外面に縦位方向の貝殻刺突文を１列ないしは２列巡らす土器(113,115)がみられることを指摘できる。この種の土器は３号住居内でも出土している。

以上の特徴から本類に属する土器は，鹿児島県鹿児島市加栗山遺跡出土土器を標識とする加栗山式土器に比定できる。

さて施文的特徴における特異的な例としては，第199図107を挙げることができる。この土器は，胴部文様帯外面に貝殻条痕文に重ねて施文する縦位方向の貝殻刺突文を，極端に密接して施す円筒形土器である。類例としては，鹿児島県指宿市小牧３Ａ遺跡を挙げることができる。前迫亮一により小牧３Ａタイプに分類された，今後注意を要する土器である。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて篦状工具による縦位方向あるいは斜位方向のケズリ調整後に粗いナデ調整を行う土器が多数を占めた。その他に，ケズリ調整を最終調整としている土器も多くみられた。しかし，第１群土器第２類土器にみられた最終調整として丁寧なナデ調整やミガキに近いナデ調整を行い，それ以前の調整の痕跡が観察できなかった土器は見受けられなかった。

本類土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石などで構成されており，特に角閃石が多量に含有する土器が多く観察できたことと，角筒形土器には胎土が精選されていた土器や赤色粒を多く含む土器が多かったことが注目できた。

胎土中鉱物における特異的な例としては，第202図119を挙げることができる。本類土器のうち１点だけではあるが，黒雲母を特に多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

さて出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ⅰ・Ｊ-18・19区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｇ－５～９区周辺とに集中していることを指摘できる(第184図，第185図～第188図参照)。

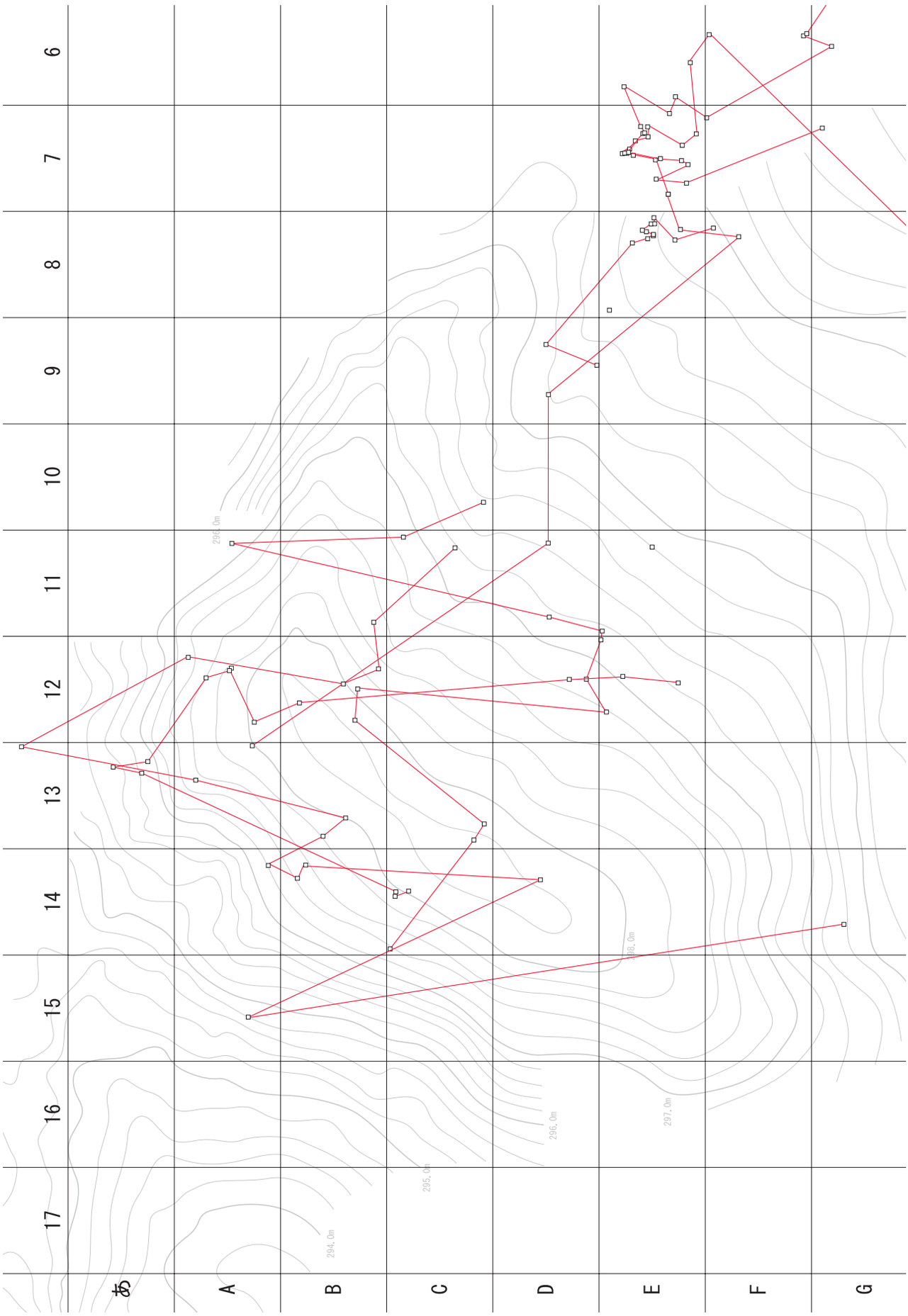
出土状況における特徴的な点として，円筒形土器のうち，口縁部にくさび状の突帯を縦位方向に貼付する土器は，耳取調査区南側地区に集中している状況が見られことが挙げられる。分布域が限定され出土することは，時期差を示している可能性もあり，今後注意を要する土器である。

第２群土器(第210図～第212図138～147)

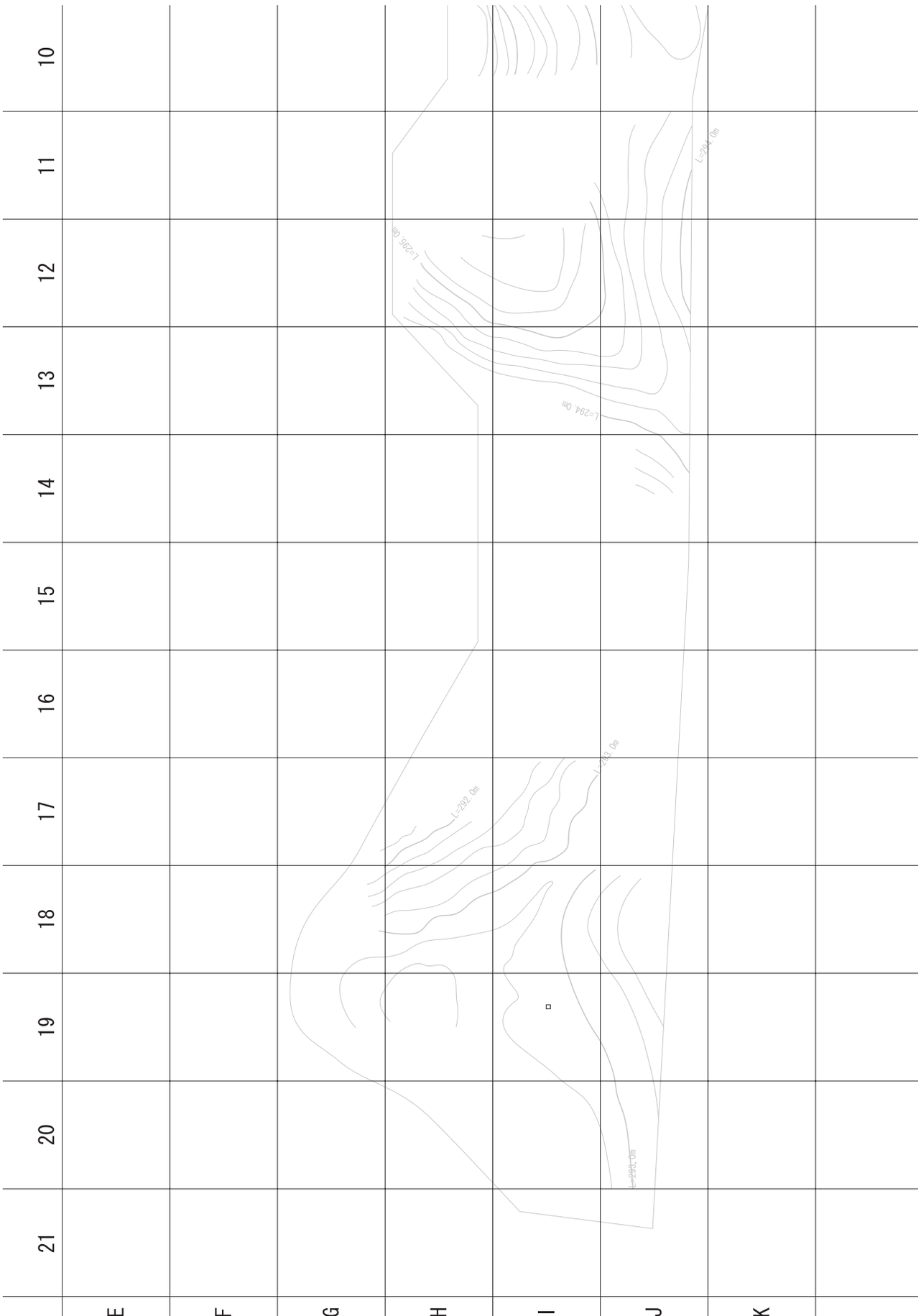
第２群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。本群に属する土器は層位的にはⅧ層とⅦ層とを中心に出土しているが，より上層のⅥ層やⅤ層から出土した土器片との接合もみられることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかったことが認められる。第２群土器に属する土器を10点資料化した。

器形的特徴としては，口唇部は平坦面を形成し，口縁部は外反し，口縁部から胴部まで直線的で，平底の底部を呈する円筒形深鉢形土器であることが挙げられる。

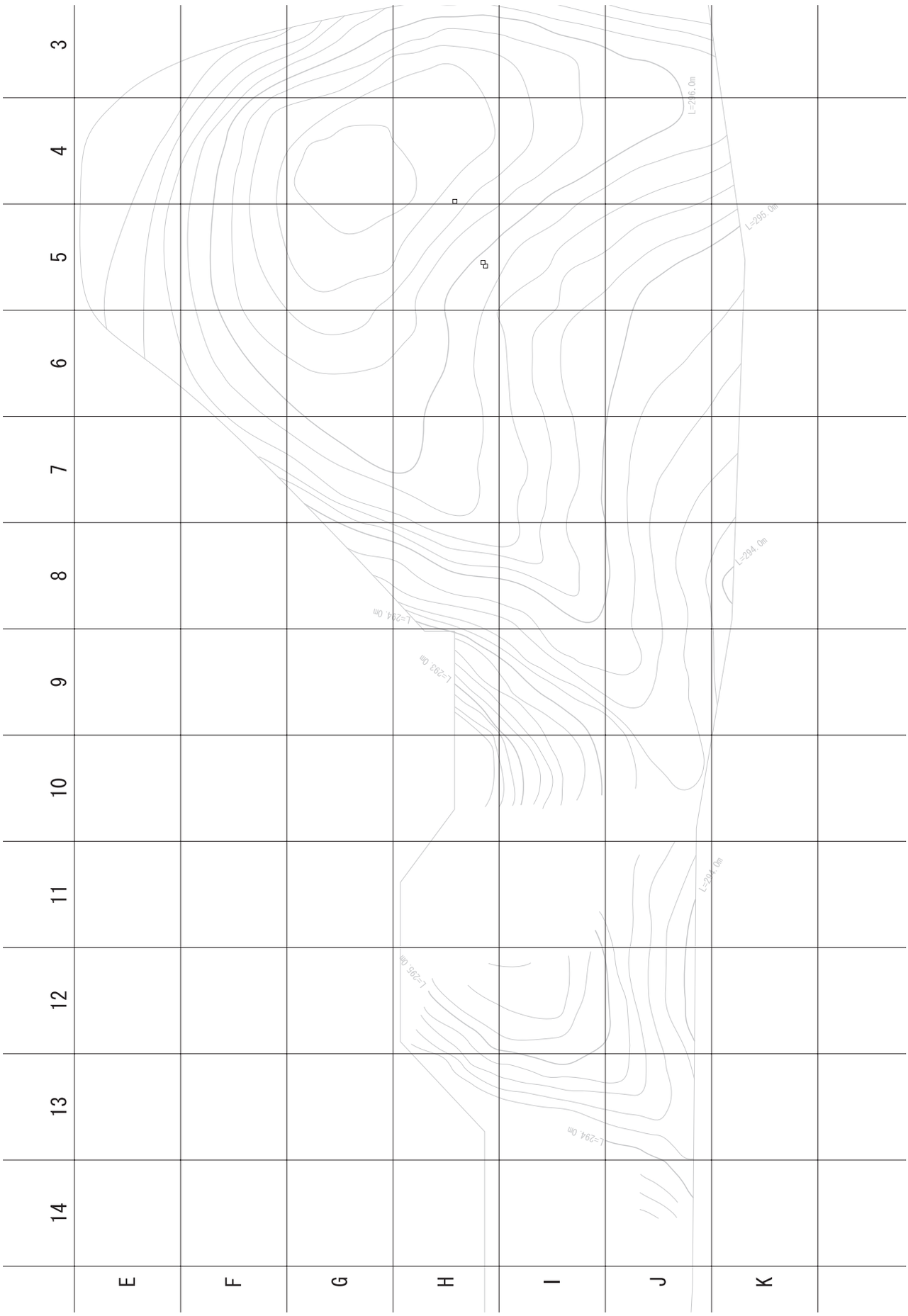
本遺跡では本群土器は径の大きさの異なる土器が２種類出土した。すなわち口径20cm強，底径15cm強を測る土器(第210・211図139,140,141,143)と，口径15cm弱，底径10cm強を



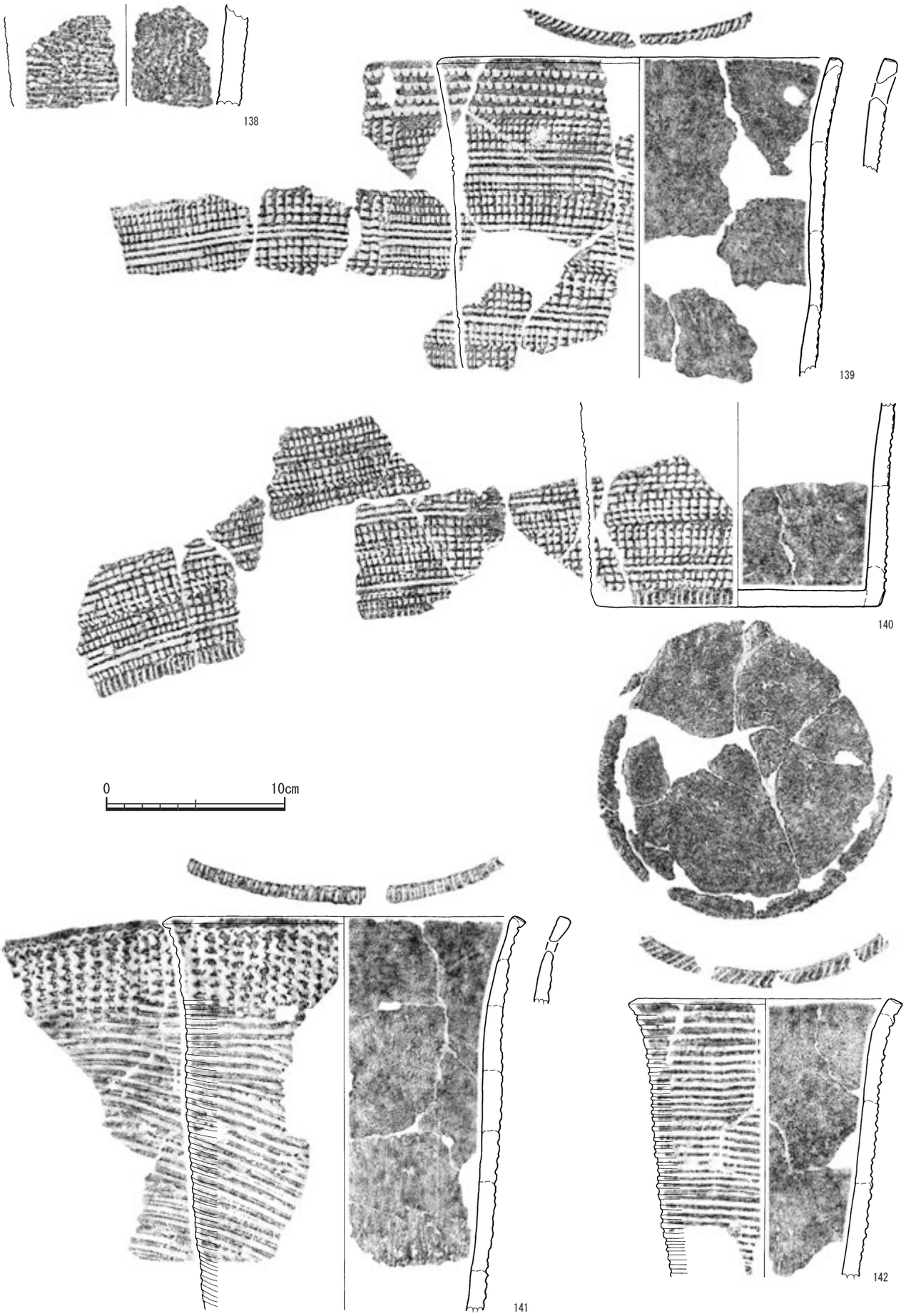
第207図　縄文早期土器分布図10（第２群土器１，1/500）



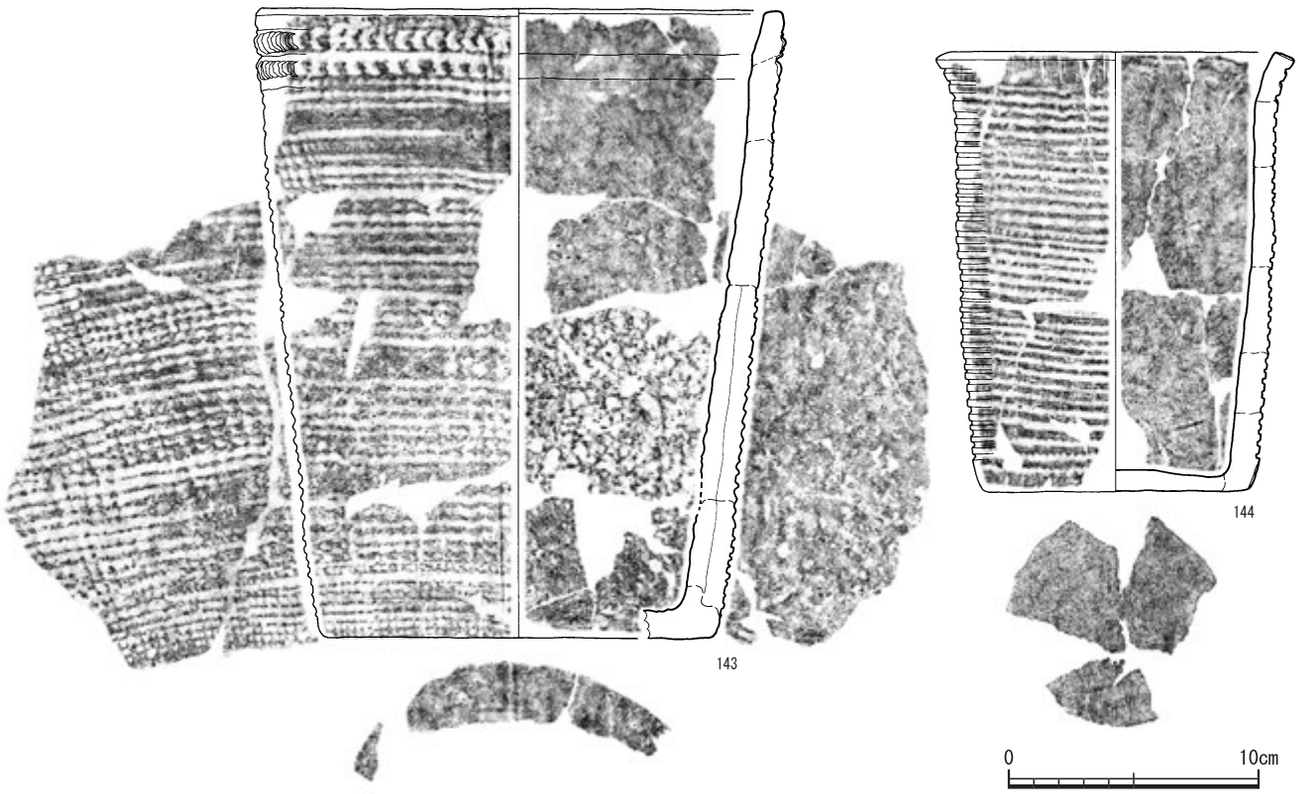
第208図　縄文早期土器分布図11（第２群土器２，1/500）



第209図　縄文早期土器分布図12（第２群土器３，1/500）



第210図　縄文早期土器実測図（19）（2群土器/桐木調査区出土）



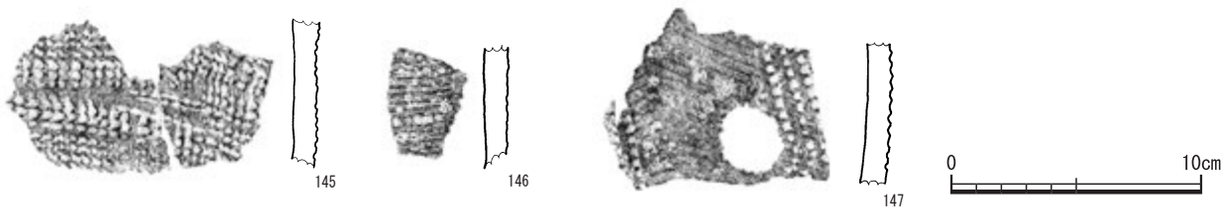
第211図　縄文早期土器実測図（20）（2群土器/桐木調査区出土）

第51表　縄文早期土器観察表（９）（２群土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
210	138	2	○9391(A-12/Ⅳ)	角,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
210	139	2	○35136(D-9/Ⅵ) ○36951(D-11/Ⅶ下) ○51523(A-13/Ⅴa) ○58642(E-7/Ⅶ) ○58804(F-6/Ⅶ) ○59147(E-7/Ⅶ) ○59250(E-7/Ⅶ) ○59518(E-7/Ⅶ) ○59521(E-7/Ⅶ) ○59526(E-7/Ⅶ) ○60174(E-8/Ⅶ) ○60251(E-7/Ⅶ) ○60251(E-7/Ⅶ) ○60264(E-7/Ⅶ) ○60288(E-7/Ⅶ) ○60384(E-6/Ⅶ) ○60637(E-7/Ⅶ下) ○60686(F-8/Ⅶ) ○66960(H-8/Ⅶ)	繊,黒,砂粒	ナデ,斜ハケ→ナデ	ナデ	混和材:黒雲母
210	140	2	○58174(E-7/Ⅶ) ○58627(E-7/Ⅶ) ○58645(E-7/Ⅶ) ○58647(E-7/Ⅶ下) ○58671(E-7/Ⅶ) ○58683(E-6/Ⅶ) ○58922(G-6/Ⅶ) ○59014(F-7/Ⅶ) ○59156(E-7/Ⅶ下) ○59274(E-7/Ⅶ) ○59287(E-7/Ⅶ) ○59520(E-7/Ⅶ) ○59528(E-7/Ⅶ) ○60259(E-7/Ⅶ) ○60270(E-7/Ⅶ) ○60401(E-6/Ⅶ) ○60418(G-6/Ⅵ下) ○60469(G-6/Ⅶ) ○61783(F-6/Ⅶ) ○61785(F-6/Ⅶ) ○62925(G-7/Ⅶ)	砂粒,黒	斜ハケ→ナデ,ナデ	-	-
210	141	2	◎16998(A-11/Ⅶ) ○36320(D-12/Ⅶ) ○37509(C-11/Ⅶ) ○37554(D-11/Ⅶ) ○38382(E-11/Ⅶ) ○38404(E-12/Ⅶ) ○38749(C-10/Ⅶ) ○38869(B-12/Ⅶ) ○39220(E-12/Ⅶ) ○40165(B-12/Ⅶ横転) ○50767(C-13/Ⅵ) ○50974(C-13/Ⅵ) ○57800(C-14/Ⅶ)	角,雲,繊	縦ケズリ→工具横ナデ	-	補修孔, 外径11mm, 内径7mm

第52表　縄文早期土器観察表（10）（２群土器-２）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
210	142	2	◎9724(あ-13/Ⅶ) ◎9726(あ-13/Ⅶ) ◎9749(あ-13/Ⅶ) ◎11252(A-12/Ⅶ下) ○10011(D-12/Ⅴ下) ○34874(E-12/Ⅶ) ○34878(E-12/Ⅶ) ○37862(A-12/Ⅶ) ○37878(A-12/Ⅶ) ○38830(B-12/Ⅶ) ○51045(C-14/Ⅵ) ○51046(C-14/Ⅵ) ○51587(C-14/Ⅶ)	繊,黒,砂粒	ナデ	-	-
211	143	2	◎11207(A-13/Ⅶ下) ◎13375(A-12/Ⅶ) ◎22847(い-13/Ⅶ) ○37502(C-11/Ⅶ) ○38782(B-11/Ⅶ) ○38871(B-12/Ⅶ) ○38886(B-12/Ⅶ) ○50771(B-13/Ⅶ) ○51051(D-14/Ⅶ) ○53635(B-13/Ⅶ) ○53641(A-14/Ⅶ下) ○53655(B-14/Ⅶ) ○53656(B-14/Ⅶ下) ○53659(A-15/Ⅶ) ○68072(G-14/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
211	144	2	○38757(D-9/Ⅶ) ○40545(D-9/Ⅶ) ○58590(E-8/Ⅶ) ○59339(E-8/Ⅶ) ○59466(E-8/Ⅶ) ○60186(F-8/Ⅶ) ○60240(E-8/Ⅶ) ○60295(E-8/Ⅶ) ○60600(E-8/Ⅶ下) ○60645(E-8/Ⅶ下) ○60648(E-8/Ⅶ下) ○60650(E-8/Ⅶ下) ○60651(E-8/Ⅶ下)	砂粒,角,黒	横ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
212	145	2	▲13248(H-5/Ⅶ) ▲13250(H-5/Ⅶ)	黒,繊,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
212	146	2	▲9780(H-4/Ⅶ上)	繊,細粒	斜貝殻条痕	-	-
212	147	2	▲1978(I-19/Ⅶ)	繊,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	細粒多量



第212図　縄文早期土器実測図（21）（2群土器/耳取調査区出土）

測る土器(第210・211図142,144)とである。しかし出土点数が少なく，一般的な現象なのかあるいは本遺跡に特異的な現象なのかを明らかにすることが出来ず，第１群土器第２類土器のように形式分類を行うには至らなかった。

また，一般的な施文的特徴としては，口唇部には縦位方向の刻みを巡らし，胴部文様帯には横位方向に数条の貝殻押引文と数条の貝殻条痕文とを交互に施し，胴部下端部には縦位方向の刻みを施すことが指摘できる。特に，口縁部文様帯や胴部文様帯では文様構成が多様なことは注目できる。

まず口縁部文様帯では４種類の文様構成が確認できる。

第１種は，横位方向に貝殻刺突文を数条巡らす土器(第210図139，142)である。

第２種は，口縁部文様帯上端部に横位方向の貝殻刺突文を１条巡らした下位に，縦位方向の貝殻刺突文を連続して横位方向に施す土器(第210図141)である。

第３種は，口縁部文様帯上端部に施される横位方向の貝殻刺突文が消失し，縦位方向の半截竹管状の工具による「Ｃ」字状の刺突文を２条巡らす土器(第211図143)である。

第４種は，口縁部文様帯の貝殻刺突文が消失し，胴部文様帯に施される文様構成である横位方向の貝殻押引文が口縁部文様帯にも施される土器(第211図144)である。

また，胴部文様帯に施される貝殻押引文には２種類の文様構成が確認できる。

第１種は，施文の深さが深く貝殻押引文であることが明瞭な土器である。

第２種は，施文の深さが浅く施文下場でようやく貝殻押引文であることが確認できる土器である。

本遺跡では本群に属する土器は若干しか出土しておらず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて施される文様構成の差が，時期差を示すものか，個体差などを示すものかを明らかにできなかった。

以上の特徴から本類に属する土器は，鹿児島県吉田町大原遺跡出土土器を標識とする吉田式土器に比定できる。

調整方法としては，内器面では斜位ないしは横位方向の木製工具によるハケ調整の後に，ナデ調整もしくは丁寧なナデ調整やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が多く観察できた。しかし第１群土器で数多く観察できたケズリ調整が器面に痕跡として残された土器は少なかった。また底面外面にはナデ調整が施される。

本群土器の胎土中鉱物は，主に黒雲母や輝石などで構成される土器と，角閃石などで構成される土器とが観察できた。また特に，黒雲母を多量に含む土器が観察できたことや，細かい粒度の鉱物で構成された土器と粗い粒度の鉱物を含む土器など，同一型式の中で製作作法が異なる土器が確認できたことは注目できる。

さて出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ-19区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区い～Ｇ-６～15区周辺とに集中していることを指摘できる(第207図～第209図参照)。

第２群土器小結

本群に属する土器と同様の土器が多数出土している遺跡としては，鹿児島県根占町大中原遺跡を挙げることができる。

大中原遺跡においても，本遺跡の口縁部文様帯第１種・第２種・第３種と同様の文様構成が行われている土器が出土している。すなわち，口縁部文様帯第１種は大中原８類土器に，口縁部文様帯第２種は大中原５類土器に，口縁部文様帯第３種は大中原７類土器に，比定できる。

また大中原遺跡では，大中原５類土器と，大中原７類土器と，大中原８類土器とでは出土分布域が異なる傾向のあることが確認されている。

ただし，本遺跡における口縁部文様帯第４種に属する，口縁部文様帯の貝殻刺突文が消失し，胴部文様帯に施される横位方向の貝殻押引文が，口縁部文様帯にも施される土器は，大中原遺跡では出土していないことが指摘できる。

本群土器の細別が時間差による違いなのか，種類の豊富さを示しているのか，今後注意を要する土器である。

第３群土器(第220図～第244図148～337)

第３群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴から，さらに５類９タイプ18種に分類できた。なお本群土器の器形は全て円筒形土器である。

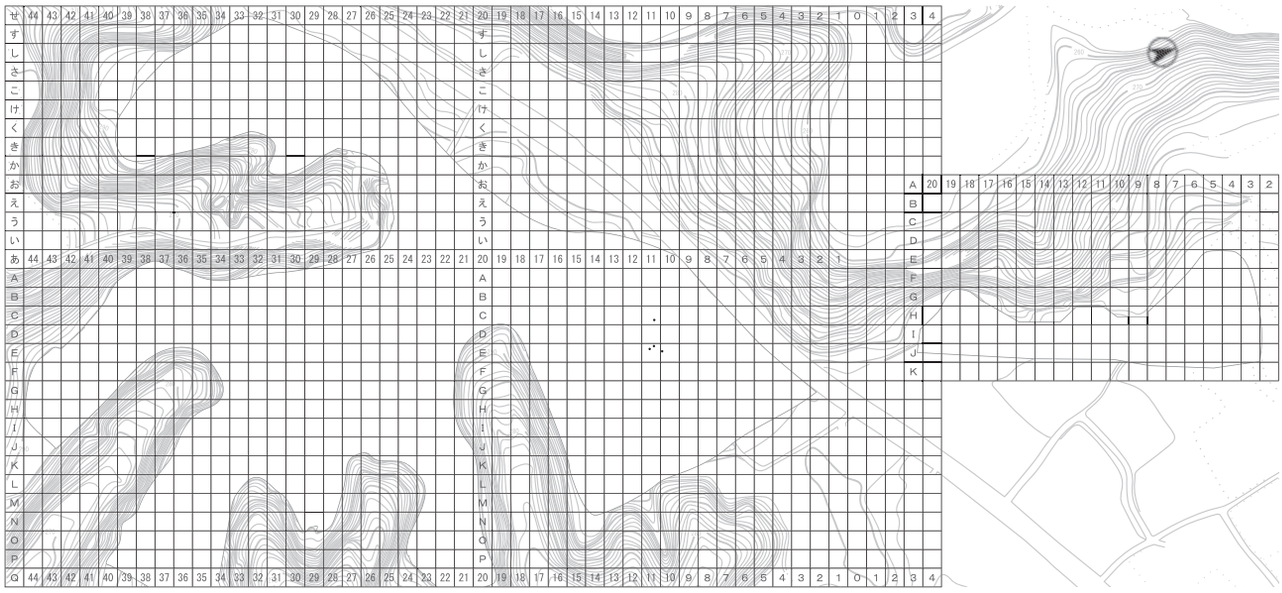
本群に属する土器は層位的にはⅧ層とⅦ層とを中心に出土しているが，より上層のⅥ層やⅤ層から出土した土器片との接合もみられることから，地層の横転や後世の撹乱の激しさが認められる。

さて，出土分布図から本群に属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｂ～Ｉ-６～12区周辺に集中していることを指摘できる(第213図～第219図参照)。

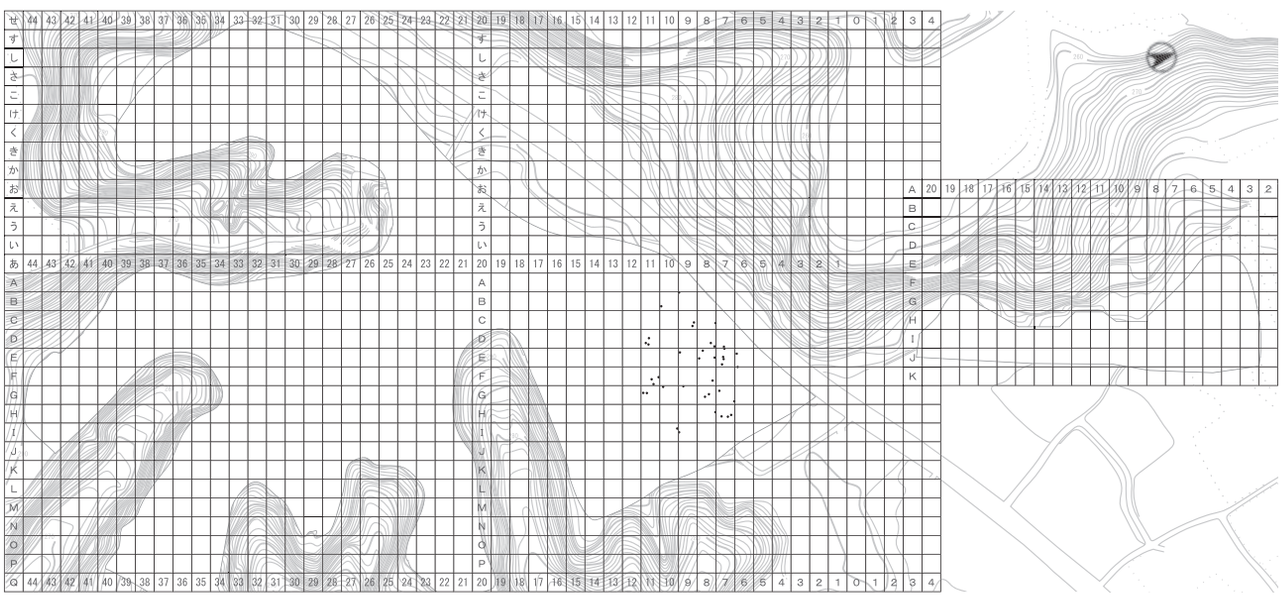
第３群土器第１類土器(分類記号3.1，第220図～第234図148～256，第236図266・267，第240図～第244図279～337)

第３群土器第１類土器に属する土器を170点資料化した。

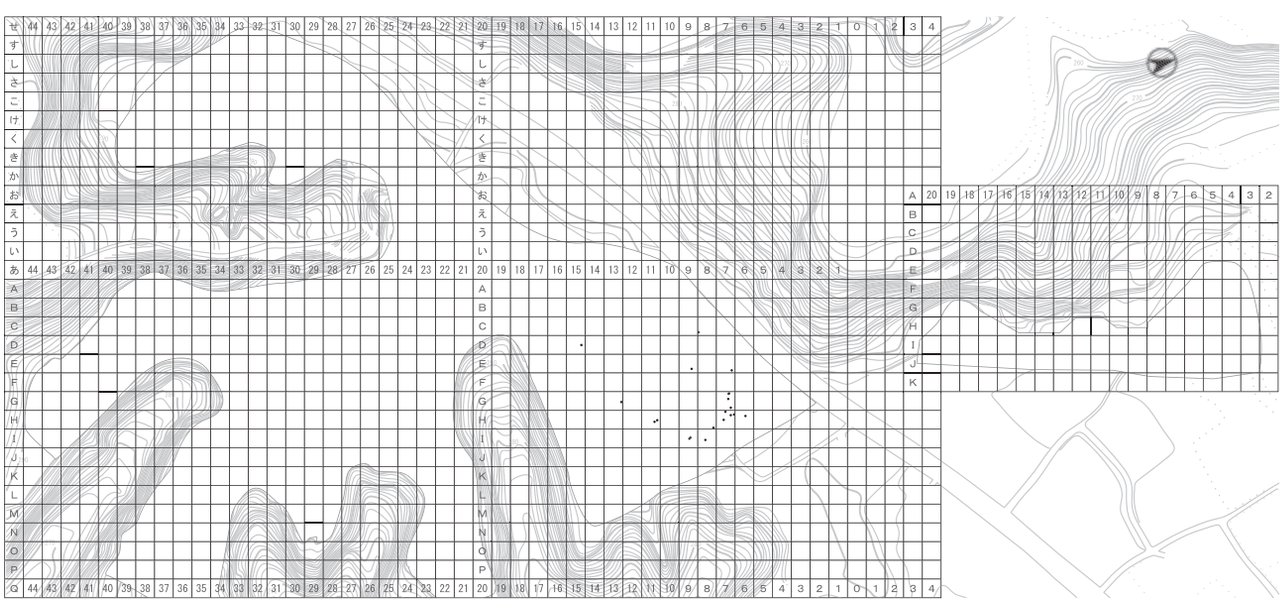
器形的特徴としては，口縁部は外反もしくは直行し，胴部は中央部でやや膨らむか，あるいは直線的な胴部形態を呈する円筒形で，底部は平底であることが挙げられる。



第213図　縄文早期土器分布図13（3.11群土器，1/4000）

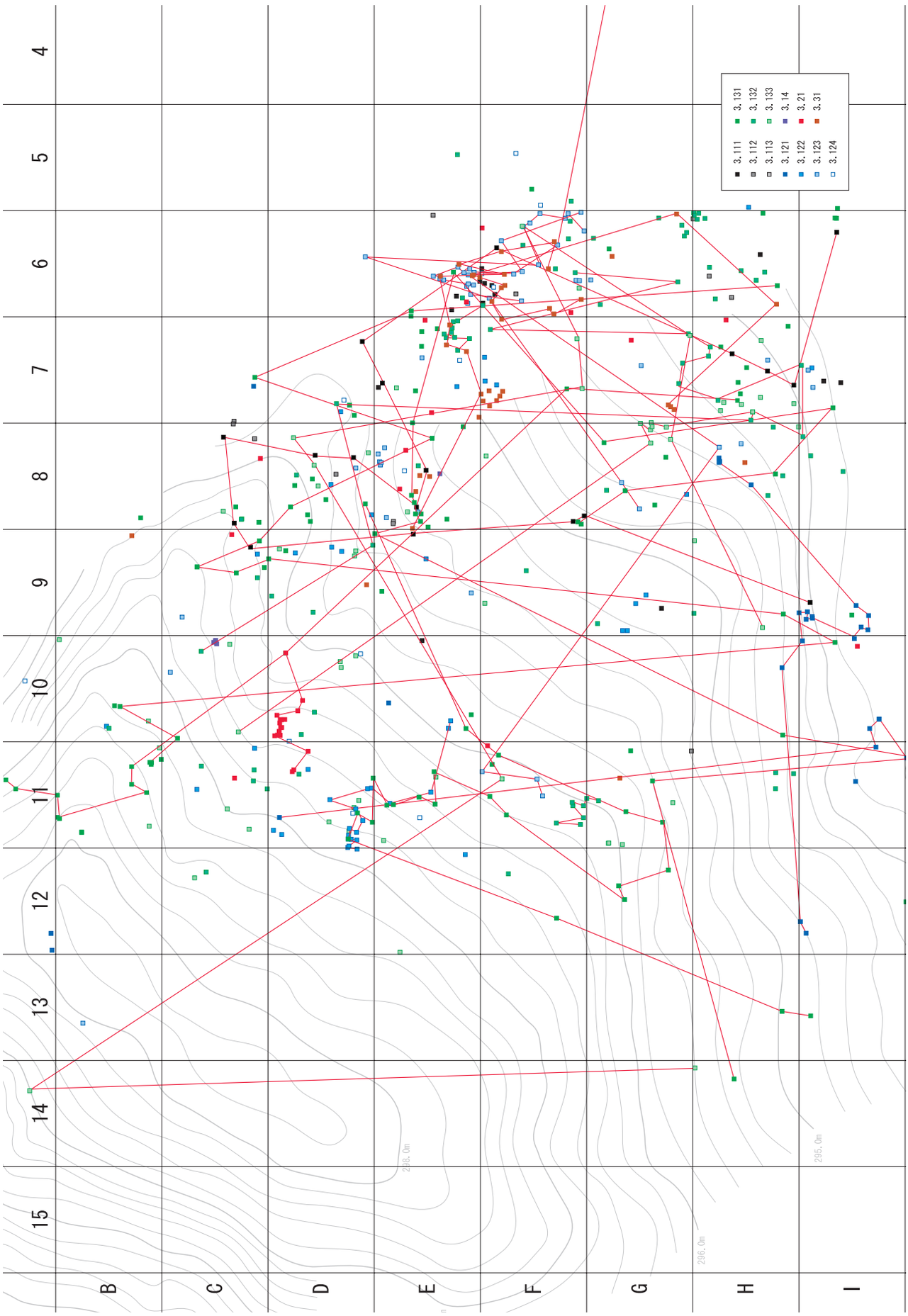


第214図　縄文早期土器分布図14（3.12群土器，1/4000）

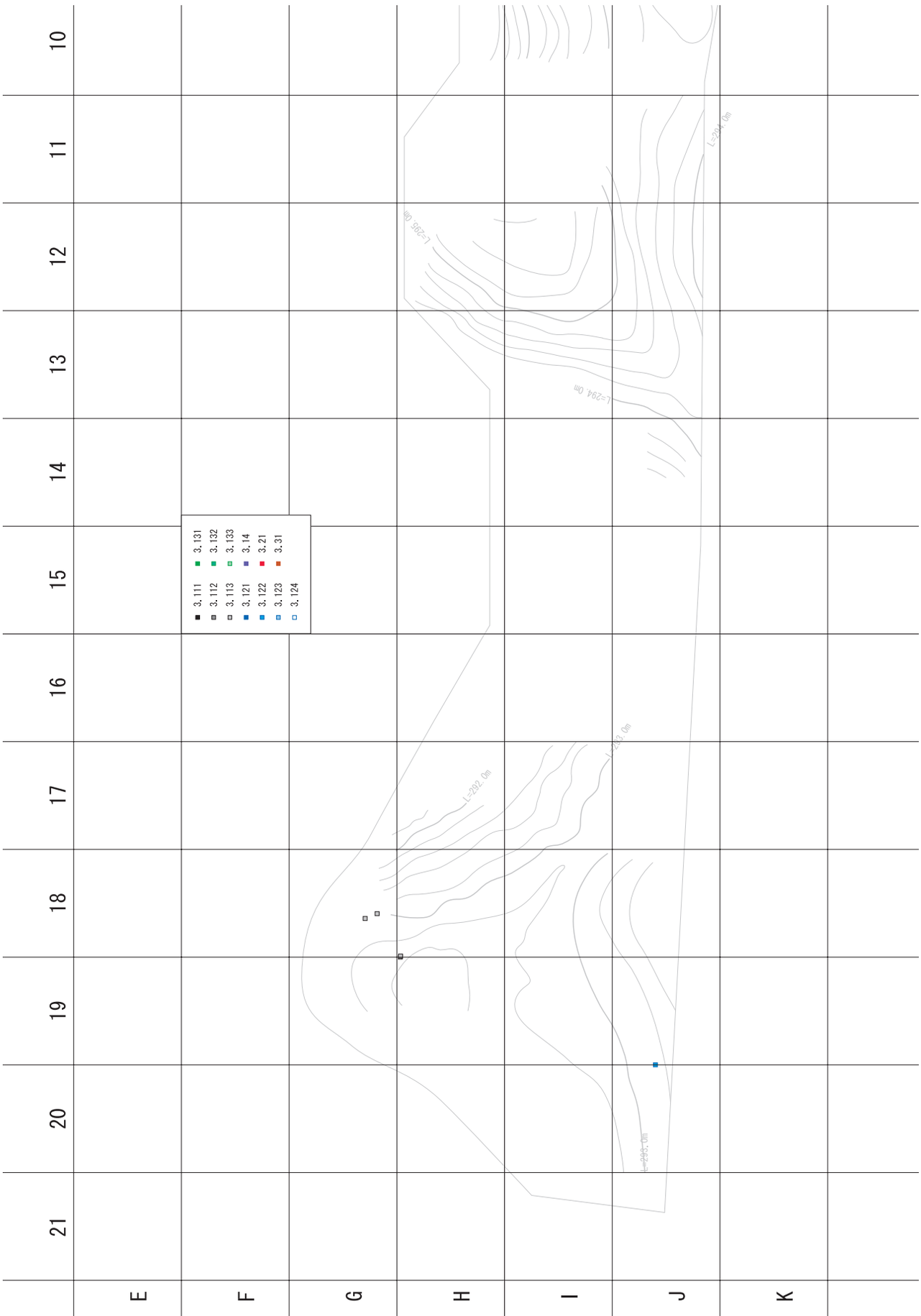


第215図　縄文早期土器分布図15（3.13群土器，1/4000）

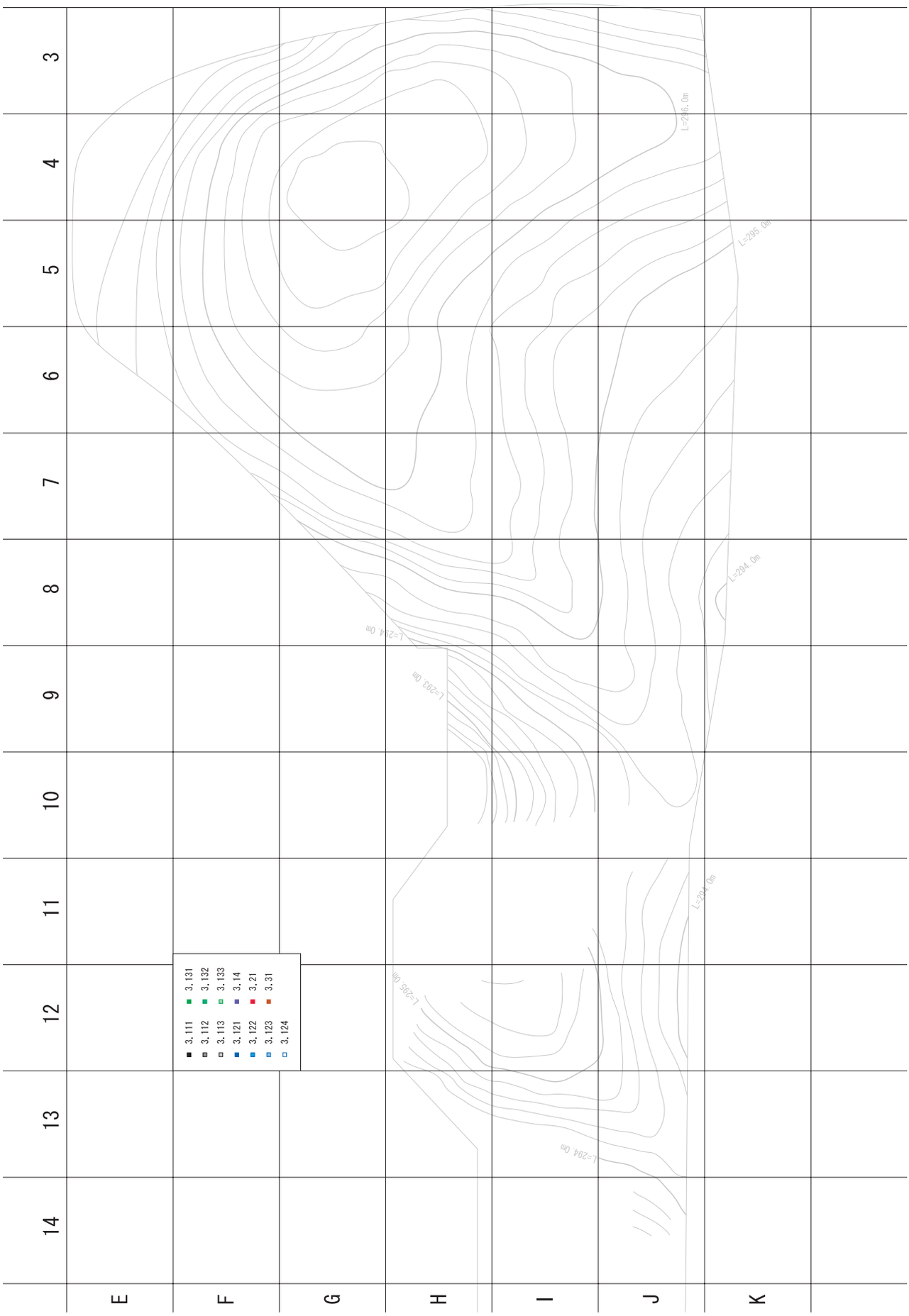
第216図　縄文早期土器分布図16（第３群土器１，1/500）



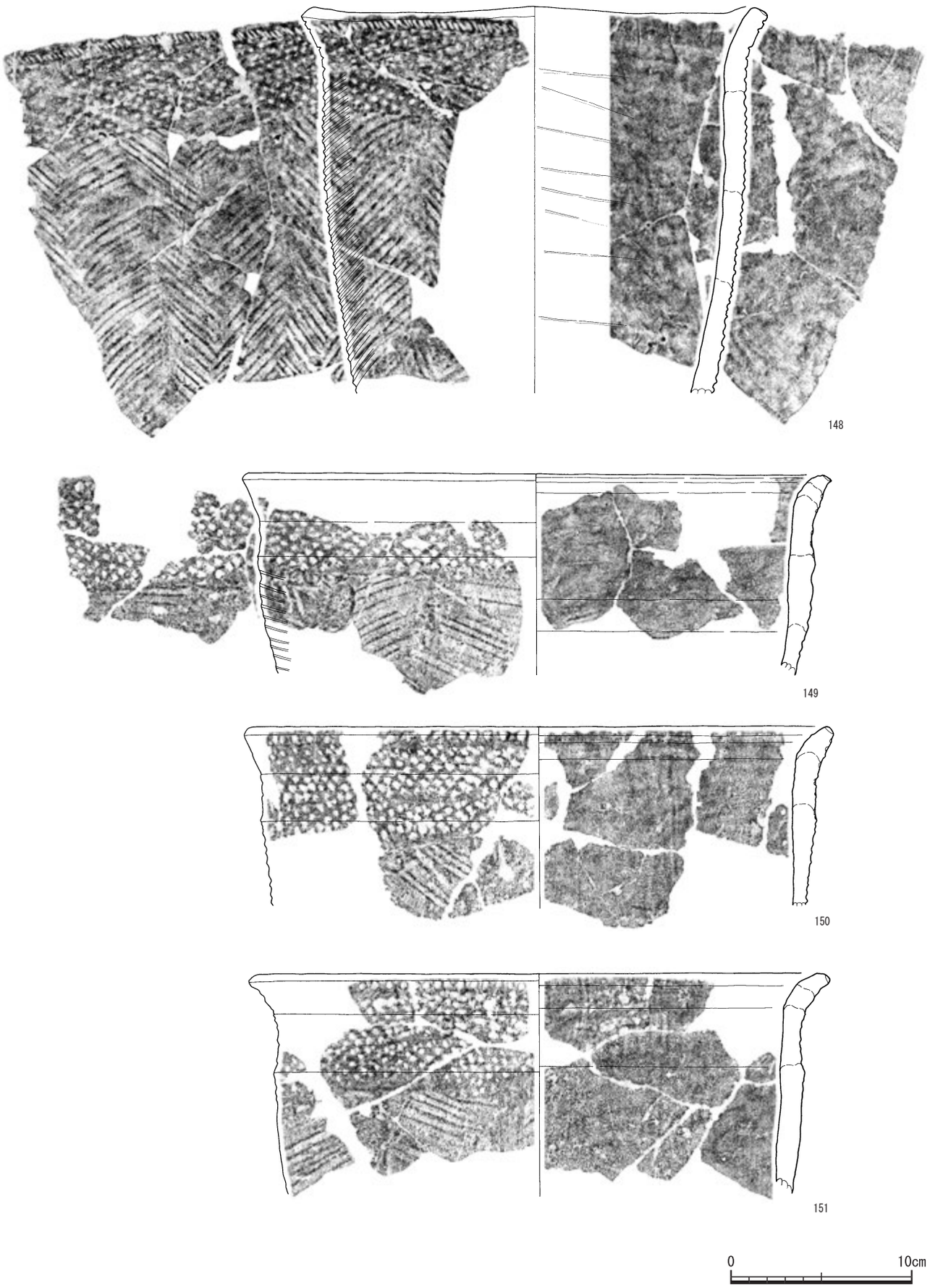
第217図　縄文早期土器分布図17（第３群土器２，1/500）



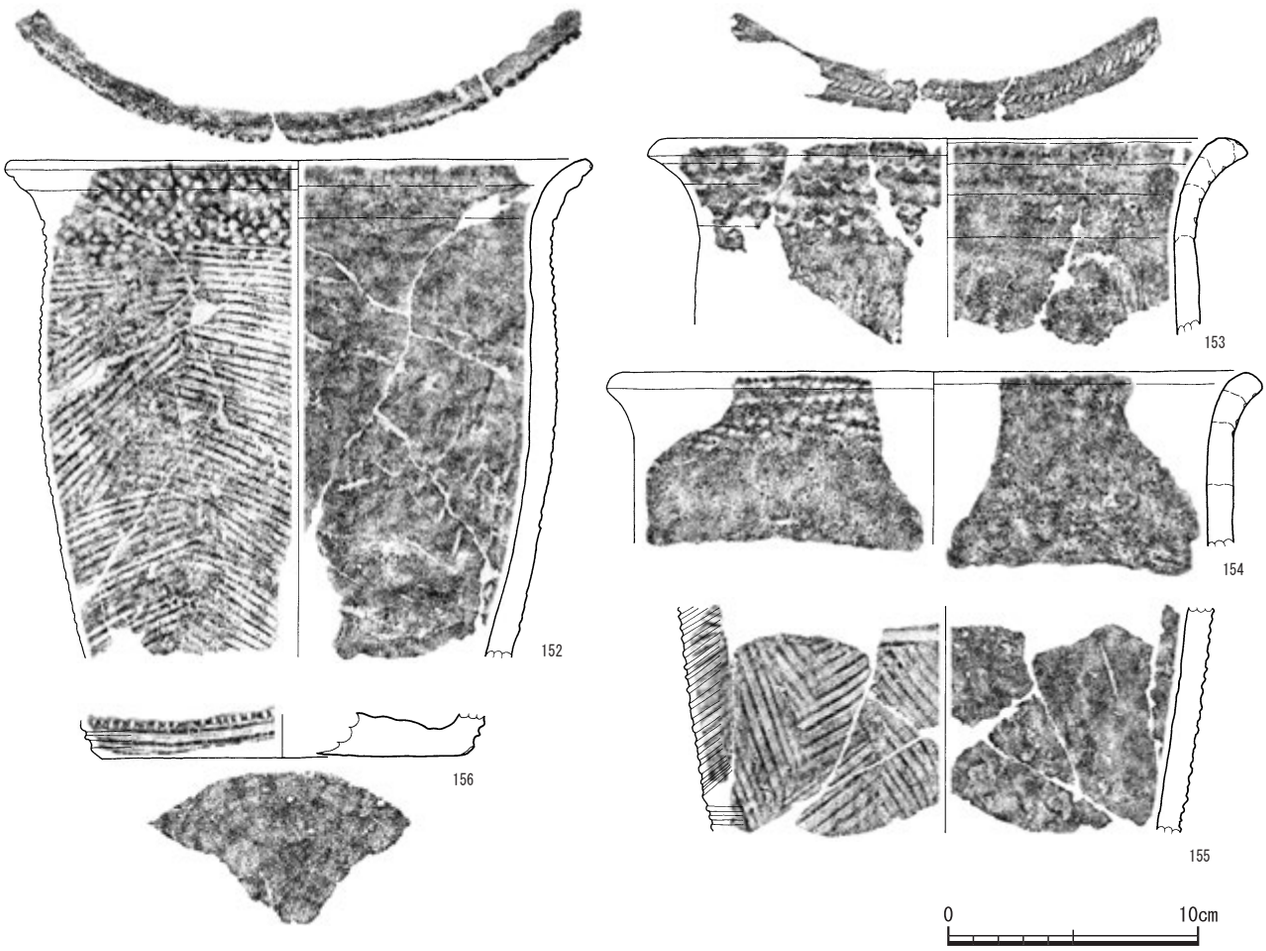
第218図　縄文早期土器分布図18（第３群土器３，1/500）



第219図　縄文早期土器分布図19（第３群土器４，1/500）



第220図　縄文早期土器実測図（22）（3.111群土器/桐木調査区出土）



第221図　縄文早期土器実測図（23）（3.112群土器/桐木調査区出土）

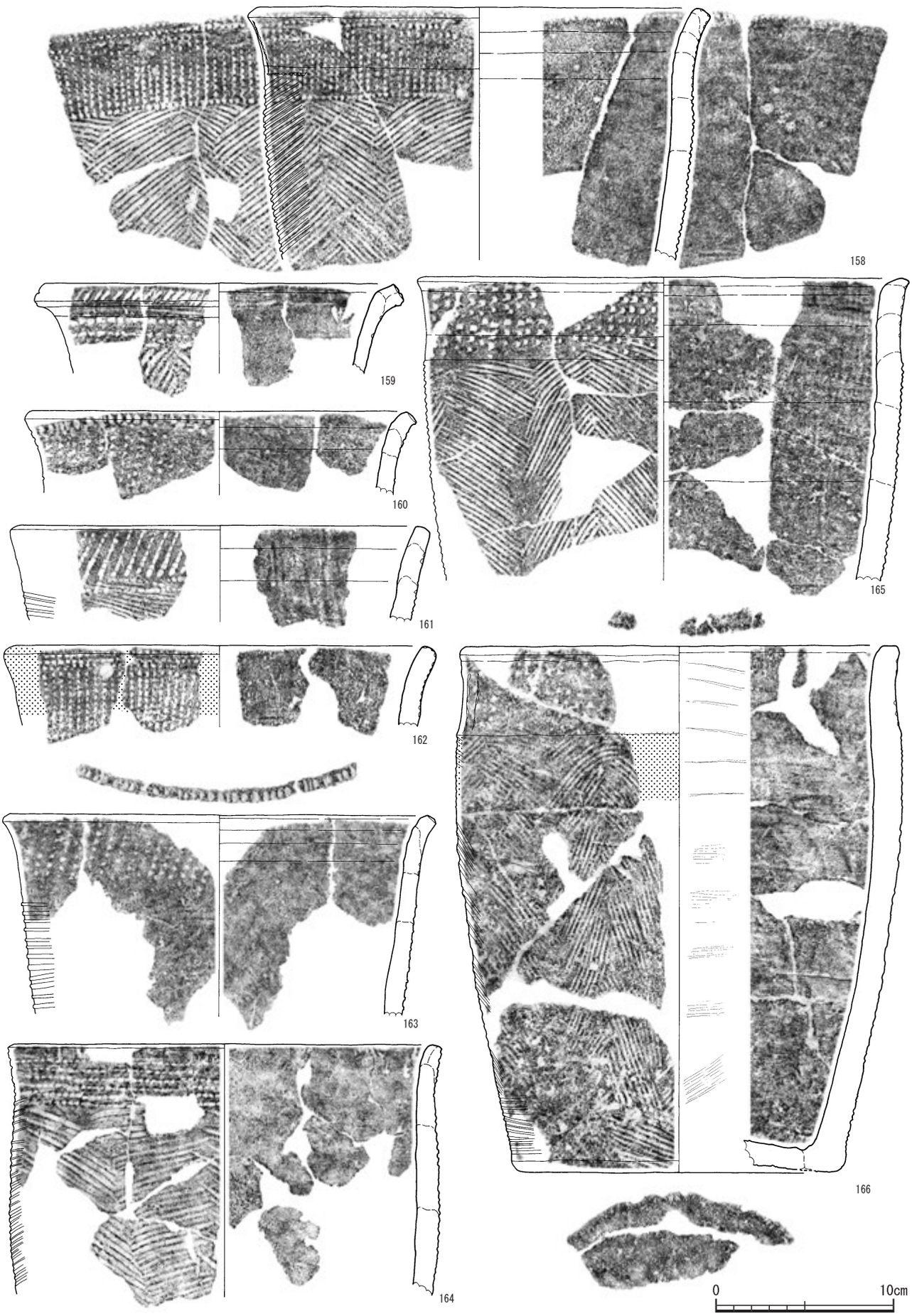
第53表　縄文早期土器観察表（11）（３群土器−１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
220	148	3.111	○1543(D-8/Ⅶ) ○40703(D-8/Ⅶ) ○40999(C-8/Ⅶ下) ○42526(C-9/Ⅷ) ○55316(C-8/Ⅷ) ○55620(E-8/Ⅶ下) ○58633(E-7/Ⅶ) ○58654(D-7/Ⅷ) ○58799(F-6/Ⅷ) ○59384(E-9/Ⅷ) ○60231(E-8/Ⅷ) ○63248(I-6/Ⅷ) ○63271(H-7/Ⅷ) ○63300(H-7/Ⅶ) ○63329(H-7/Ⅷ) ○65795(F-8/Ⅶ) ○65815(F-8/Ⅶ) ○66858(I-9/Ⅷ)	砂粒	木製工具斜ナデ	−	−
220	149	3.111	○58163(E-6/Ⅶ) ○58895(F-6/Ⅶ) ○58903(F-6/Ⅶ) ○59113(E-6/Ⅷ上) ○60047(E-6/Ⅷ)	黒,輝,角,砂粒	丁寧なナデ	−	−
220	150	3.111	○59505(E-7/Ⅷ) ○60039(F-6/Ⅷ) ○63201(H-6/Ⅷ)	輝,黒,砂粒	ヘラナデ	−	−
220	151	3.111	○35232(E-10/Ⅵ) ○55181(G-9/Ⅷ) ○58180(F-6/Ⅶ) ○58896(F-6/Ⅶ) ○64448(I-7/Ⅶ下) ○64450(I-7/Ⅷ)	細粒,角,輝	ナデ	−	−
221	152	3.112	○58138(E-6/Ⅶ) ○58998(F-6/Ⅶ下) ○60851(H-6/Ⅶ下) ○63168(H-6/Ⅷ) ○66938(G-11/Ⅷ下)	角,細粒	横ヘラナデ,斜ヘラナデ	−	−
221	153	3.112	○41515(C-7/Ⅶ) ○42226(C-8/Ⅷ上)	角,輝,砂粒	ヘラナデ	口唇部: ヘラナデ,ナデ	−
221	154	3.112	◎1549(A-12/Ⅴa上)	角,砂粒	ナデ	口唇部:ナデ	−
221	155	3.112	○41968(E-8/Ⅷ) ○42092(D-8/Ⅷ) ○42225(C-8/Ⅷ上) ○63161(H-6/Ⅷ)	輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
221	156	3.112	○41967(E-8/Ⅷ上)	輝,細粒	ナデ	ナデ	−

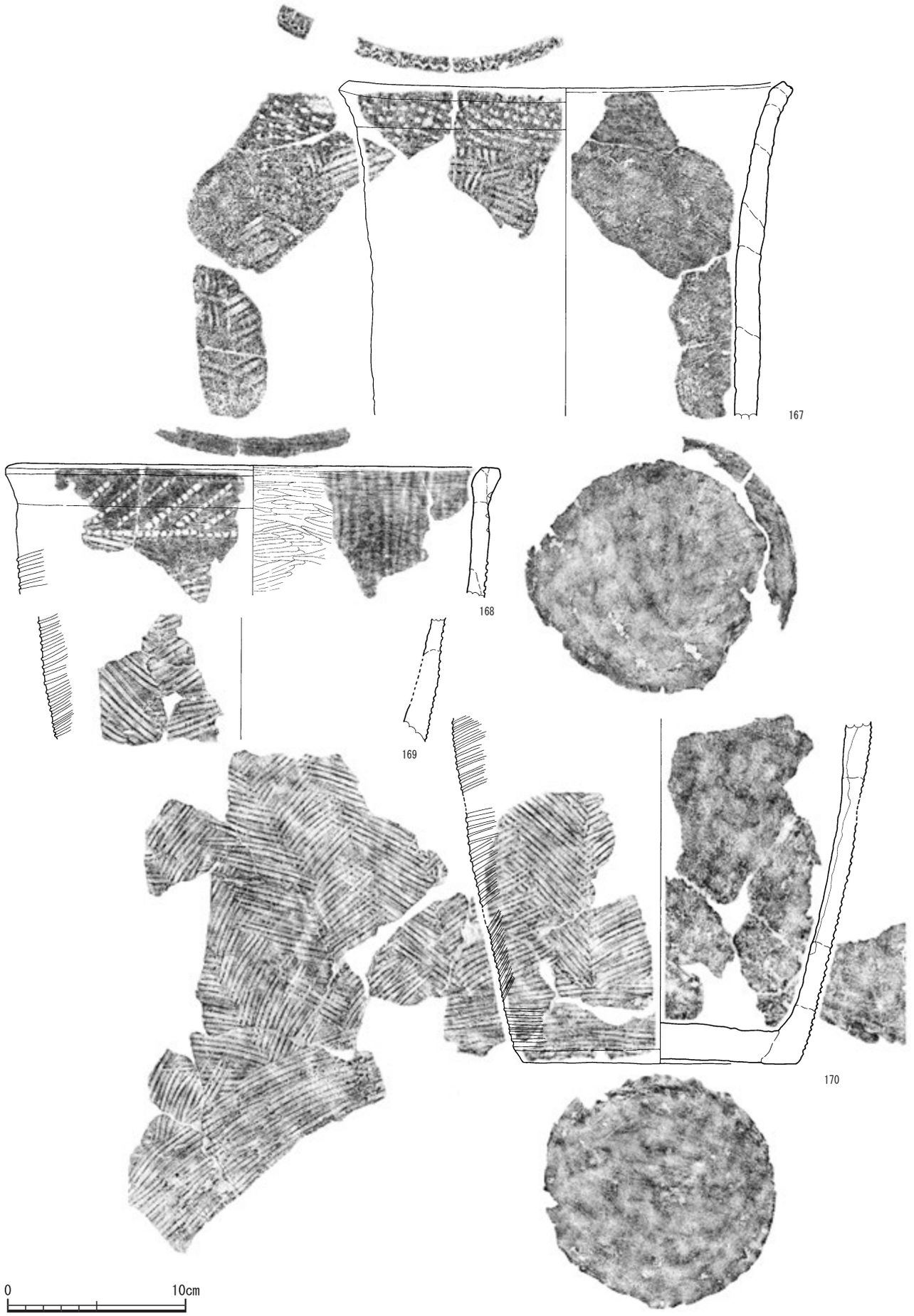
第54表　縄文早期土器観察表（12）（３群土器−２）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
222	157	3.121	○55749(H-8/Ⅶ) ○55751(H-8/Ⅶ) ○55752(H-8/Ⅶ) ○66518(H-8/Ⅷ) ○66707(I-9/Ⅷ) ○66710(I-9/Ⅷ) ○66840(I-9/Ⅷ) ○66845(I-9/Ⅷ) ○66849(I-9/Ⅷ) ○66852(I-9/Ⅷ) ○66856(I-9/Ⅷ) ○66870(I-10/Ⅷ) ○66877(I-10/Ⅷ) ○66902(H-10/Ⅷ下) ○66930(I-9/Ⅷ) ○67902(I-12/Ⅷ) ○67903(I-12/Ⅷ下)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	−	−
223	158	3.121	◎9744(あ-13/Ⅶ) ◎9747(あ-13/Ⅷ) ○38828(A-12/Ⅷ) ○38929(A-12/Ⅶ) ○40443(E-10/Ⅶ) ○61195(C-7/Ⅷ下) ○66850(I-9/Ⅷ)	角,砂粒	ハケナデ	−	外面スス付着
223	159	3.122	○60(B-10/Ⅶ) ○39870(C-9/Ⅵ) ○40831(C-11/Ⅶ) ○40843(C-11/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	−	−
223	160	3.122	○35171(E-10/Ⅶ下) ○57290(−/Ⅷ) ○59282(E-7/Ⅷ)	輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
223	161	3.122	○37122(E-12/Ⅷ上) ○63335(I-7/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ケズリ→横ナデ	−	−
223	162	3.122	○37567(D-11/Ⅷ)	角,細粒	ハケナデ	−	−
223	163	3.122	○59159(F-7/Ⅶ下) ○59162(F-7/Ⅶ上) ○59215(F-7/Ⅶ下) ○62726(H-5/Ⅷ)	角,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
223	164	3.122	○36766(E-9/Ⅷ) ○42127(D-7/Ⅷ) ○55188(G-9/Ⅷ横転) ○55189(G-9/Ⅷ横転) ○55223(G-9/Ⅷ) ○55224(G-9/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
223	165	3.121	○67814(I-11/Ⅷ) ○67849(J-11/Ⅷ) ○67960(J-11/Ⅷ)	角,砂粒	横ハケ→ヘラナデ	口唇部:ナデ	外面スス付着

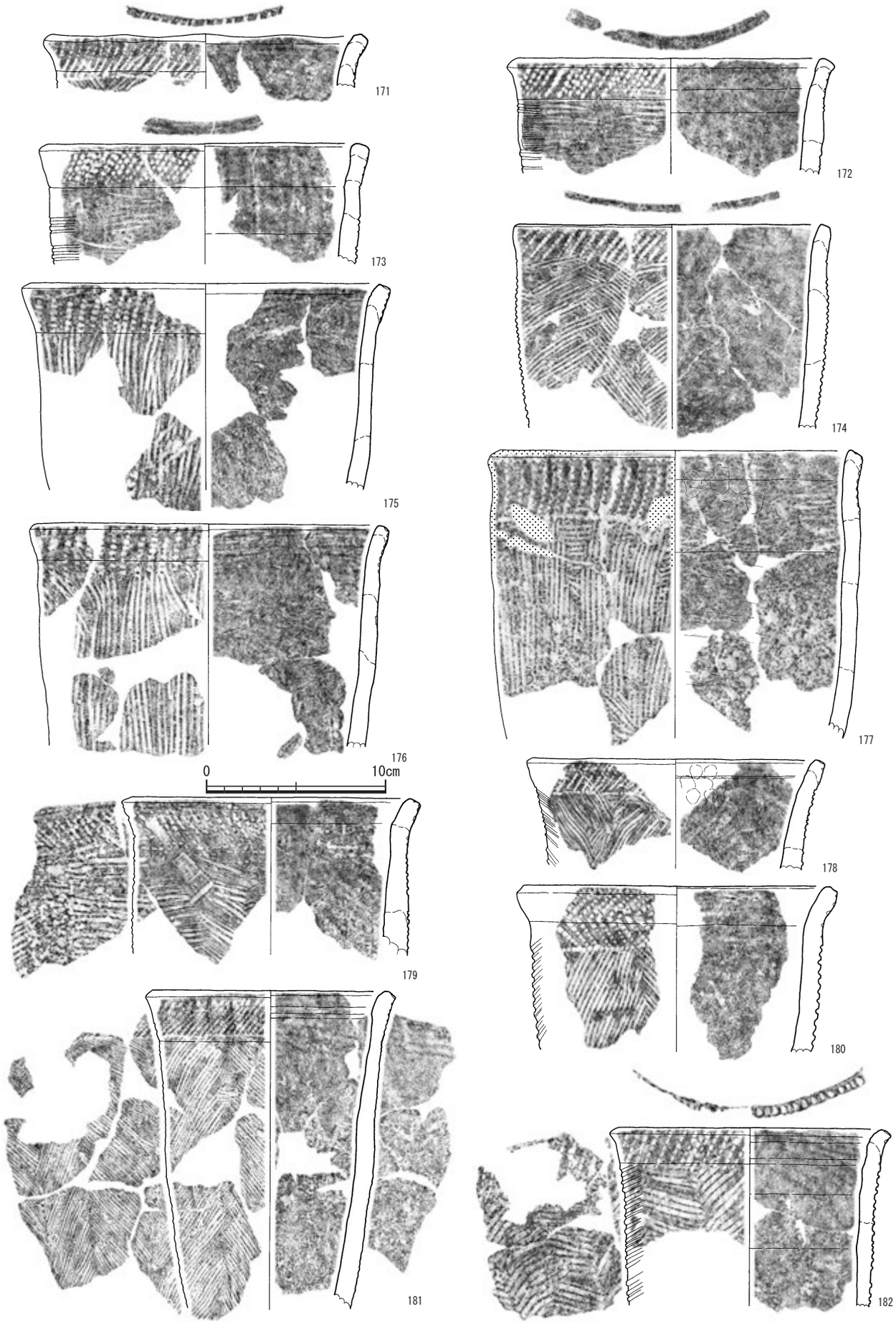
第222図　縄文早期土器実測図（24）（3.121群土器/桐木調査区出土）



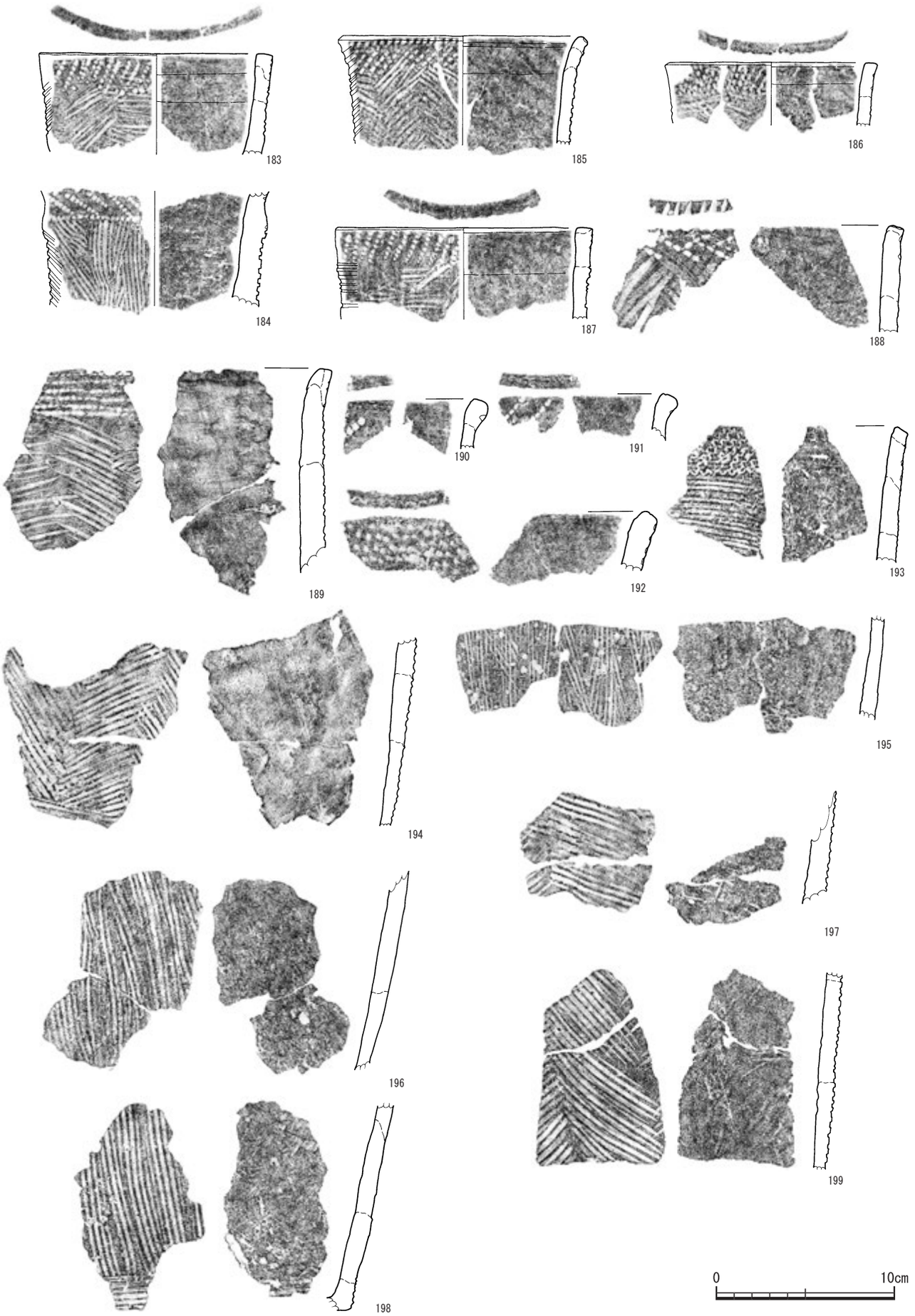
第223図　縄文早期土器実測図（25）（3.121群土器/3.122群土器/桐木調査区出土）



第224図　縄文早期土器実測図（26）（3.122群土器/桐木調査区出土）



第225図　縄文早期土器実測図（27）（3.123群土器/桐木調査区出土）



第226図　縄文早期土器実測図（28）（3.124群土器/3.125群土器/桐木調査区出土）

第55表　縄文早期土器観察表（13）（３群土器-３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
223	166	3.121	○16797(D-11/Ⅴ下) ○66630(I-11/Ⅷ) ○66632(J-11/Ⅷ) ○66646(I-10/Ⅷ) ○66647(I-10/Ⅷ下) ○66715(I-10/Ⅷ) ○67821(J-11/Ⅷ) ○67827(J-11/Ⅷ) ○67868(J-11/Ⅷ)	角,砂粒	ヘラナデ,横ハケ→丁寧なナデ,ナデ	口唇部ナデ	外面スス付着
224	167	3.122	○40548(D-9/Ⅶ) ○40612(D-8/Ⅶ) ○40639(D-8/Ⅶ) ○41494(D-9/Ⅶ上) ○55613(D-9/Ⅷ) ○65685(G-8/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
224	168	3.122	○37021(D-11/Ⅷ下) ○37645(D-11/Ⅷ)	輝,砂粒	ミガキ	-	-
224	169	3.122	-???38(-/-) -3?216(-/-)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
224	170	3.122	○36252(D-11/Ⅶ) ○36337(D-12/Ⅶ) ○36989(D-11/Ⅶ下) ○37002(D-11/Ⅶ下) ○37008(D-11/Ⅶ下) ○37009(D-11/Ⅶ下) ○37010(D-11/Ⅶ上) ○37012(D-11/Ⅶ下) ○37013(D-11/Ⅶ下) ○37072(E-11/Ⅶ) ○37089(E-11/Ⅶ下) ○37285(E-10/Ⅶ下) ○37668(D-11/Ⅶ) ○37673(D-11/Ⅶ) ○37679(D-11/Ⅶ) ○37682(D-11/Ⅶ) ○37686(D-11/Ⅶ)	角,細粒,砂粒	ハケナデ	ヘラケズリ→ハケナデ	-
225	171	3.123	○50796(B-13/Ⅷ) ○60052(E-6/Ⅷ)	角,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
225	172	3.123	○42559(E-8/Ⅷ)	角,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
225	173	3.123	○40916(E-8/Ⅶ) ○42538(E-8/Ⅷ) ○63298(H-7/Ⅷ) ○63334(I-7/Ⅷ)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
225	174	3.123	○41984(E-8/Ⅷ上) ○55654(E-8/Ⅷ) ○57862(C-24/ⅥIa)	角,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
225	175	3.123	○42056(D-8/Ⅷ上) ○55712(H-8/Ⅶ) ○60490(G-7/Ⅷ)	角,黒,細粒	ハケ→丁寧なヘラナデ	-	細かいヘラナデによる口唇部部整形
225	176	3.123	○60121(F-6/Ⅷ) ○60122(F-6/Ⅷ) ○60127(G-6/Ⅷ)	輝,黒,細粒	丁寧なナデ	-	-
225	177	3.123	○58755(F-6/Ⅷ) ○58769(F-6/Ⅷ) ○58774(F-6/Ⅶ) ○58900(F-6/Ⅶ) ○58929(F-6/Ⅶ) ○58980(F-6/Ⅶ下) ○60016(D-6/Ⅷ) ○60096(F-6/Ⅷ) ○60462(F-6/Ⅷ) ○65738(G-8/Ⅶ上) ○65743(G-8/Ⅶ)	赤粒角,輝,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	-
225	178	3.123	○37303(E-9/Ⅷ)	角,輝,細粒	ハケナデ,指頭痕→ハケナデ	-	-

第56表　縄文早期土器観察表（14）（３群土器-４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
225	179	3.123	○42542(E-8/Ⅷ) ○42571(E-8/Ⅷ) ○60276(E-7/Ⅷ) ○63340(I-7/Ⅶ)	角,砂粒	ケズリ→丁寧なナデ	-	-
225	180	3.123	○818(F-11/Ⅶ) ○55758(H-8/Ⅶ上) ○58191(F-6/ⅥIb) ○58258(F-6/Ⅶ) ○58796(F-6/Ⅶ) ○60027(E-6/Ⅷ) ○66300(F-11/Ⅷ) ○66804(F-11/Ⅷ)	角	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
225	181	3.123	○58158(E-6/Ⅶ) ○58707(E-6/Ⅶ) ○58709(E-6/Ⅶ) ○58710(E-6/Ⅶ) ○59002(F-6/Ⅶ下) ○60019(E-6/Ⅷ) ○60026(E-6/Ⅷ) ○60029(E-6/Ⅷ) ○60050(E-6/Ⅷ) ○60107(F-6/Ⅷ) ○60145(F-6/Ⅷ) ○60313(G-3/Ⅷ) ○60383(E-6/Ⅷ) ○60388(E-6/Ⅷ下) ○60388(E-6/Ⅷ下) ○60392(E-6/Ⅷ) ○60393(E-6/Ⅷ)	角,細粒	ヘラナデ,ケズリ→ナデ	-	混和材:角閃石,施文具の貝殻肋が特に細かい.
225	182	3.123	○276(C-9/Ⅶ) ○42147(C-10/Ⅷ上)	角,黒,細粒	ハケ→ヘラナデ	-	-
226	183	3.124	○58177(F-6/ⅥIb) ○60040(F-6/Ⅷ)	角,微粒	ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
226	184	3.124	○58745(F-5/Ⅷ)	角,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
226	185	3.124	○38435(D-10/Ⅶ) ○42437(A-10/Ⅶ) ○59434(E-8/Ⅶ上)	角,輝,砂粒,黒	ナデ	-	-
226	186	3.124	○34860(E-11/Ⅶ) ○36996(D-11/Ⅷ上) ○40745(D-10/Ⅷ上)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
226	187	3.124	○59150(E-7/Ⅶ下) ○60768(D-7/Ⅶ)	輝,角,細粒	ナデ,ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
226	188	3.124	○58974(F-5/Ⅶ下)	輝,黒,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
226	189	3.125	○42435(A-10/Ⅶ)	角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	-	外面スス付着
226	190	3.125	○36219(D-11/Ⅶ)	輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
226	191	3.125	○36247(D-11/Ⅴ)	角	ハケ→ヘラナデ	ナデ	-
226	192	3.125	○42061(D-8/Ⅷ) ○61171(D-7/Ⅶ下)	輝,砂粒	ヘラナデ	-	-
226	193	3.125	○58213(F-6/Ⅶ)	輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
226	194	3.125	○59097(E-6/Ⅶ下)	輝,黒,砂粒	ヘラナデ	-	-
226	195	3.125	○63180(H-6/Ⅶ) ○63181(H-5/Ⅶ)	角,輝,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
226	196	3.125	○41517(D-7/Ⅶ下) ○60076(F-6/Ⅷ)	角,黒,砂粒	ケズリ→丁寧なナデ	-	-
226	197	3.125	○35251(E-10/Ⅶ下) ○41939(D-9/Ⅷ)	輝,砂粒,黒	ハケ→ヘラナデ	-	-
226	198	3.125	○66505(H-7/Ⅷ)	角,輝,黒,細粒	丁寧なナデ	-	-
226	199	3.125	○40462(C-9/Ⅶ) ○40465(C-9/Ⅶ)	角	ハケ→ナデ	-	-

このうち口縁部形態により５タイプに分けることができるのが特徴として挙げられる。そこで，

口縁部が外反する器形を第１タイプ土器(分類記号3.11)に，口縁部が外に開く器形を第２タイプ土器(分類記号3.12)に，口縁部が直行する器形を第３タイプ土器(分類記号3.13)に，口縁部が内弯する器形を第４タイプ土器(分類記号3.14)に，形状が不明な土器を第５タイプ土器(分類記号3.15)に分類した。

第３群土器第１類土器第１タイプ土器(分類記号3.11，第220図～第221図148～156)

第３群土器第１類土器第１タイプ土器は，第３群土器第１類土器のうち，口縁部が外反する土器である。

器形的特徴として，口唇端部形態が舌状を呈する土器と，丸味を帯びた土器とがあることを指摘できる。いずれの口唇端部形態においても，胴部は中央部でやや膨らむ器形を呈する特徴がある。

施文的特徴としては，口唇上端部には斜位方向の刻みを連続して巡らし，口縁部文様帯には貝殻刺突文を羽状(第220図～第221図148,150,151,154)や斜位方向(第220図～第221図149,152,153)に施すことが挙げられる。また，胴部文様帯には貝殻条痕文による綾杉文を縦位方向に施し，胴部下端部には縦位方向の刻みの下部に，横位方向の貝殻条痕文を巡らすのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて篦状工具もしくは木製工具による横位方向あるいは斜位方向のナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。また点数的には少数であったが，最終調整の直前調整として木製工具によるハケ調整を行う土器や，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器も中には見受けられた。

本タイプ土器の胎土中鉱物は，主に輝石や角閃石などで構成され，特に角閃石を含有する土器点数が多いことと，細かい粒度の鉱物だけでなく粗い粒度の鉱物が含まれる土器も多いことと，また黒雲母を含有する土器も観察できたことが，注目できた。

また本タイプ土器は，径の大きさの違いから２種に形式分類することができた。すなわち，

第１種土器(分類記号3.111，第220図148～151)は，口径30cm強，胴部最大径30cm前後を測る円筒形深鉢形土器である。

第２種土器(分類記号3.112，第221図152～156)は，口径25cm前後，胴部最大径20cm前後，底径15cm前後を測る円筒形深鉢形土器である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｅ-10・11区周辺に集中していることを指摘できる(第213図・第216図～第219図参照)。この範囲は第３群土器第１類土器のなかでは最も狭く，注目できる。

第３群土器第１類土器第２タイプ土器(分類記号3.12，第222図～第226図157～199)

第３群土器第１類土器第２タイプ土器は，第３群土器第１類土器のうち，口縁部が外に開く器形の土器である。

器形的特徴としては，口唇端部形態が平坦面を形成し，胴部最大径が胴部上端に位置し，胴部がほぼ直線的になる円筒形土器であることが挙げられる。

施文的特徴としては，口唇上端部には斜位方向の刻みを連続して巡らし，口縁部文様帯には貝殻刺突文を縦位方向や斜位方向に施すことが指摘できる。縦位方向に施す例としては第222・223図157,158,162などが挙げられ，斜位方向に施す例としては第223図～第225図161,168,181などがある。

また，口縁部文様帯と胴部文様帯との境には，貝殻刺突文を横位方向に１条巡らし，胴部文様帯には貝殻条痕文による綾杉文や羽状文を縦位方向に施すことを挙げられる。そして胴部下端部には，貝殻条痕文を斜位方向や横位方向に巡らすのが特徴である。

ここで注目できるのは，胴部文様帯の文様構成である。本群土器の代表的な指標は，胴部文様帯の「綾杉文」である。この文様構成は，厳密には「羽状文」である。しかし，貝殻による工具１単位毎に施される羽状文の交差する部分が，まるで１本の軸のように見えるほど緻密に施されているところから，「綾杉文」といわれる。第３群土器第１類土器第１タイプ土器では，大部分の土器を「綾杉文」の範疇に入れることができる。これに対して，第３群土器第１類土器第２タイプ土器では，多くの土器は貝殻による工具数単位毎に交互に施される「羽状文」であるか，あるいは胴部上端部のみに交差部があり，胴部下半部では縦位垂下文である。したがって第２タイプ土器には，「綾杉文」の範疇に入れることのできる土器は少ないことが，指摘できる。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて直前調整として木製工具によるハケ調整を行った後に，篦状工具もしくは木製工具による横位方向，あるいは斜位方向のナデ調整，あるいは丁寧なナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。

また点数的には少数であったが，ミガキ調整を最終調整として行う土器も中には見受けられた。これに対して，ケズリ調整の痕跡が観察できる土器は少なかった。

本タイプ土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石などで構成され，特に角閃石を含有する点数が多いことと，細かい粒度の鉱物だけでなく粗い粒度の鉱物が含まれる土器も多いことは，第３群土器第１類土器第１タイプ土器と同様である。

ここでは，黒雲母を含有する土器の割合が第１タイプ土器よりも高いことが注目できる。

また本タイプ土器は，径の大きさの違いから４種に形式分類することができた。すなわち，

第１種土器(分類記号3.121，第222・223図157・158，第223図165・166)は，口径30cm前後，胴部最大径25cm前後，底径20cm弱を測る土器である。

第２種土器(分類記号3.122，第223図159～164，第224図167～170)は，口径25cm前後，胴部最大径20cm強～25cm弱，底径15cmを測る土器である。

第３種土器(分類記号3.123，第225図171～182)は，口径20cm前後，胴部最大径15cm強～20cm弱を測る土器である。

第４種土器(分類記号3.124，第226図183～188)は，口径15cm弱，胴部最大径10cm強～15cm弱を測る土器である。

以上の４種類であった。なお径を測ることのできなかった土器片は，第５種土器(分類記号3.125，第226図189～199)に分類した。

これらの形式差は，先に示した器形的特徴，施文的特徴，調整方法，胎土中鉱物などの諸属性とのいずれの間にも高い相関関係はみられなかった。このことから，この形式差が同一型式内のセットであると，指摘できることを示している。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｂ～Ｉ-６～11区周辺に集中していることを指摘できる(第214図・第216図～第219図参照)。この範囲は第３群土器第１類土器のなかでは最も密集して出土しており，注目できる。

第３群土器第１類土器第３タイプ土器(分類記号3.13，第227図～第234図200～256)

第３群土器第１類土器第３タイプ土器は，第３群土器第１類土器のうち，口縁部が直行する器形あるいは胴部最大径が口径よりも大きくなる器形の土器である。

器形的特徴としては，口唇端部形態には平坦面を形成する土器と，丸味を帯びた土器とがあることが指摘できる。また，胴部最大径が胴部上端に位置し，胴部形態が直線的になることを挙げることができる。

ここで注目できるのは，次の２点である。

第１は，このタイプに属する土器のなかには，口縁部に瘤状突起を２方向に貼付する土器が現れることである。瘤状突起には，口縁上端部を上限として断面形で口縁部から横に張り出すタイプと，口唇上端部にかぶせるように断面形で斜め上方に張り出すタイプとがある。特に張り出すタイプの土器は，見かけ上，口縁形態は波頂部が２つある波状口縁を呈する土器に比せられ，このことは重要である。

第２は，第234図249・250の瘤状突起片である。これらの土器が特異的であるのは，突起部を横位方向に貫通した直径５㎜ほどの穿孔が，棒状工具による焼成前に施されている点である。他の瘤状突起にはみられずに普遍的でないため，

穿孔の用途など不明であり，注目できる。

施文的特徴としては，次の５点を挙げることができる。

まず第１には，口唇上端部には縦位方向に貝殻あるいは木製工具による刻みを連続して巡らすのが特徴である。

また第２には，口縁部文様帯には貝殻刺突文を縦位方向(第227図～第229図206,210,217など)や横位方向(第227図・第229図～第231図208,223,225,227など)あるいは斜位方向(第227・228図209,211，第231図230など)もしくは羽状(第227図201，第229・230図220,226など)など様々な方向に施すという種類の豊富な土器であることが挙げられる。

さらに第３には，第３群土器第１類土器第２タイプ土器で主体的に観察できた，口縁部文様帯と胴部文様帯との境に貝殻刺突文を横位方向に１条巡らす手法は，第３タイプ土器では少量であった。

第４には，胴部文様帯に貝殻条痕文による綾杉文や羽状文を縦位方向に施すことが挙げられる。第３群土器第１類土器第３タイプ土器では，第３群土器第１類土器第１タイプ土器で主体的な，「綾杉文」が施される土器が量的に多かった。これに対して，第３群土器第１類土器第２タイプ土器で主体的な，「羽状文」が施される土器は量的に少なかった。

また第５には，胴部下端部に貝殻条痕文を斜位方向や横位方向に施す土器が観察できるのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて木製工具によるハケ調整を行った後に，篦状工具もしくは木製工具による横位方向，あるいは斜位方向のナデ調整，あるいは丁寧なナデ調整を最終調整とする土器が多数を占めた。

また，第３群土器第１類土器第１タイプ土器では観察できずに，第３群土器第１類土器第２タイプ土器では少数見受けられたミガキ調整を最終調整としてを行う土器は，本タイプ土器では観察できなかった。これに対して，第３群土器第１類土器第１タイプ土器や第２タイプ土器では少なかったケズリ調整の痕跡が観察できる土器は，第３群土器第１類土器第３タイプ土器ではある程度の割合を占めた。

本タイプ土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石などで構成される土器が多いことを特徴とする。また，黒雲母が含有される土器は第３群土器第１類土器第１タイプ土器や第３群土器第１類土器第２タイプ土器よりもかなり高い割合を占めることも挙げることができる。

また，鉱物の粒度では粗い粒度の鉱物が含まれる土器の割合は第１タイプ土器や第２タイプ土器よりかなり低く，細かい粒度の鉱物で構成される土器が多いことが指摘できる。

また本タイプ土器では，径の大きさの違いから３種に形式分類することができた。すなわち，

第１種土器(分類記号3.131，第227図～第229図200～217，第230図224～226)は，口径25cm強～30cm弱を測る土器である。

第２種土器(分類記号3.132，第229図218～223，第231図～第232図227～238)は，口径20cm強～25cm弱，底径15cm強を測る土器である。

第３種土器(分類記号3.133，第233図～第234図239～256)は，口径15cm強～20cm弱，底径10cm弱を測る土器である。

第３群土器第１類土器第１タイプ土器や第２タイプ土器と同様に，第３タイプ土器でもこれらの形式差は，先に示した器形的特徴，施文的特徴，調整方法，胎土中鉱物などの諸属性とのいずれの間にも高い相関関係はみられなかった。このことは，この形式差が同一型式内のセットであると，とらえられることを示している。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｉ－６～13区周辺に集中していることを指摘できる(第215図～第219図参照)。この範囲は第３群土器第１類土器のなかでは最もまばらに出土しており，注目できる。

第３群土器第１類土器第４タイプ土器(分類記号3.14，第236図266・267)

第３群土器第１類土器第４タイプ土器は，第３群土器第１類土器のうち，口縁部が内弯する器形の土器である。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口唇端部形態は内傾する平坦面を形成し，胴部形態は若干ふくらみ，底部は平底を呈する土器であることが挙げられる。胴部最大径が胴部上部に位置する円筒形土器である。

施文的特徴としては，分類できた２点の資料共に，口唇上端部には文様を施さず，口縁部文様帯には貝殻刺突文を横位方向に４条巡らし，胴部文様帯には貝殻条痕文による綾杉文を縦位方向に施す土器であることが挙げられる。胴部下半部から底部にかけては接合資料がないため不明である。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけてケズリ調整の後に粗いナデ調整を行う土器や，木製工具によるハケ調整を行った後に，篦状工具もしくは木製工具のナデ調整を行う土器が観察できた。

本タイプ土器の胎土中鉱物は，主に黒雲母と粗い粒度の鉱物とで構成される土器が多いことを特徴とする。胎土中に黒雲母が含有される量は多く，混和材として含ませた可能性が高いことが指摘できることは，第３群土器第１類土器のなかでは特異的である。

本タイプに属する土器は，本遺跡では出土点数が２点と極めて少なく，特徴を網羅することは困難である。しかしながら，器形的特徴としては第５群土器と共通する土器であることから，今後注意を要する土器である。

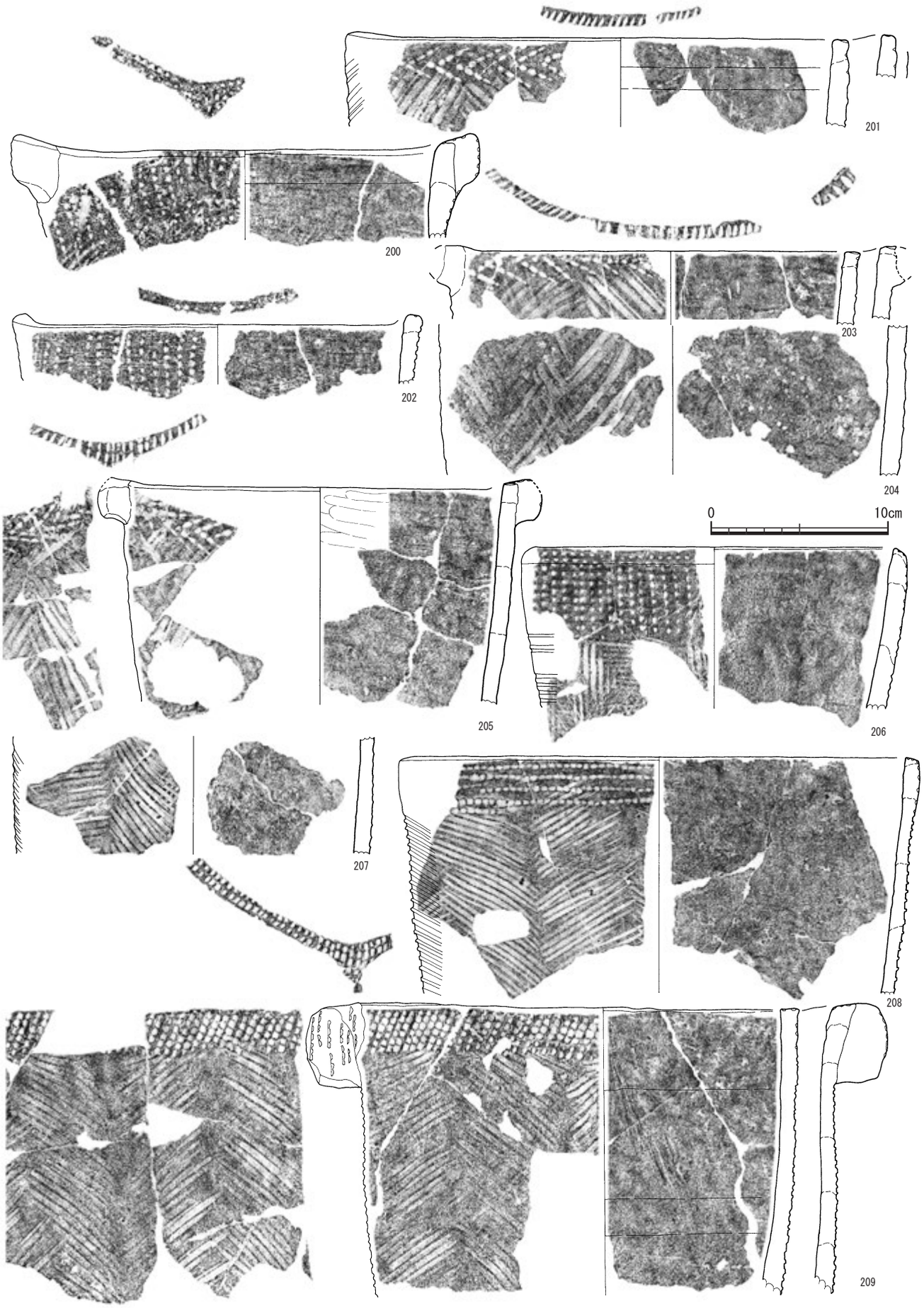
第３群土器第２類土器(分類記号3.2，第237図268～272)

第３群土器第２類土器に属する土器を５点資料化した。

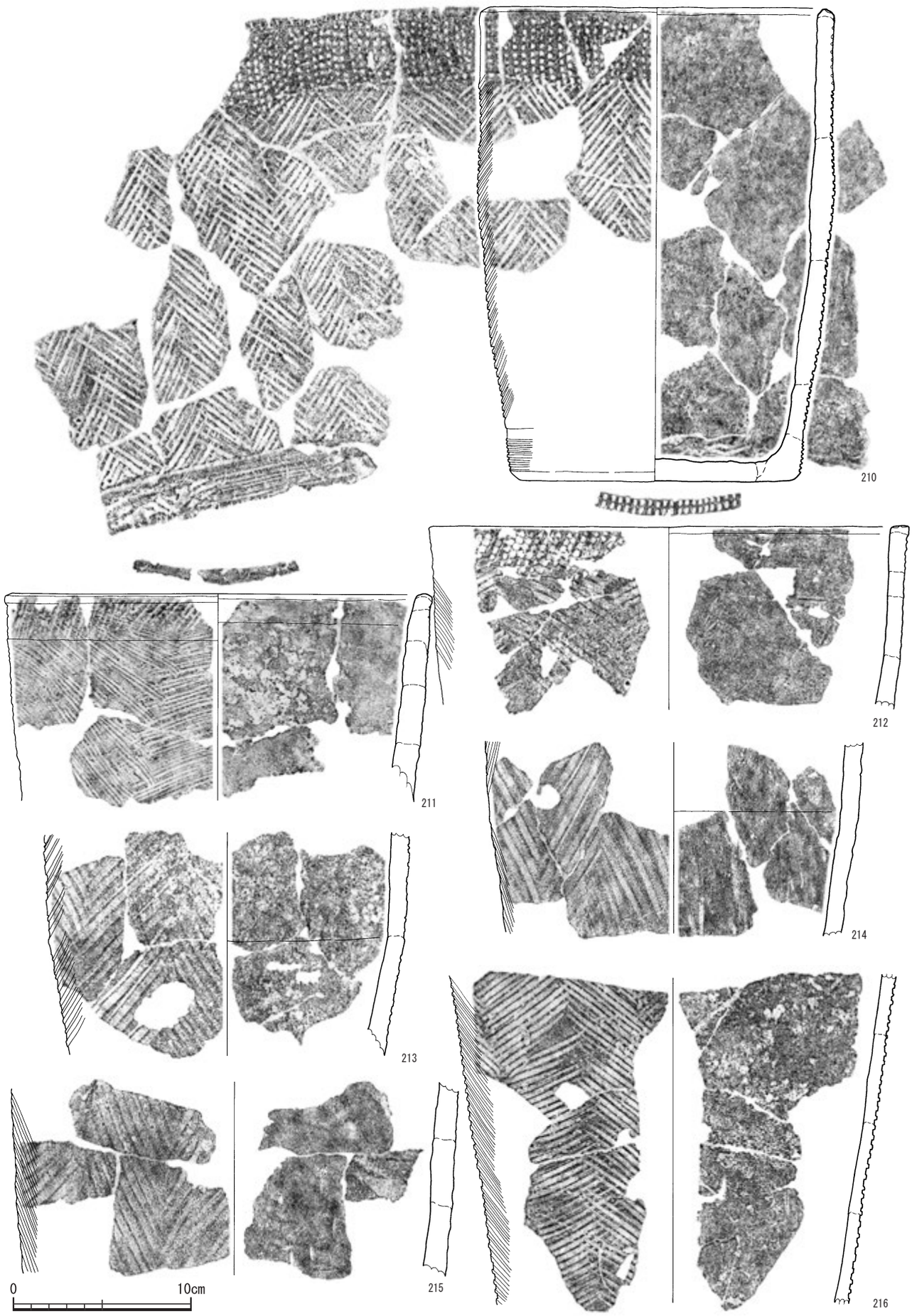
器形的特徴としては，口縁部は直線的に外に開き，胴部は底部にかけて緩やかにすぼまる円筒形で，底部は平底を呈することが挙げられる。このうち口唇部形態には，上端部が丸く舌状を呈する器形と，上端部が平坦部を形成する器形とが本遺跡から出土した。

施文的特徴としては，２種類の土器を指摘できる。

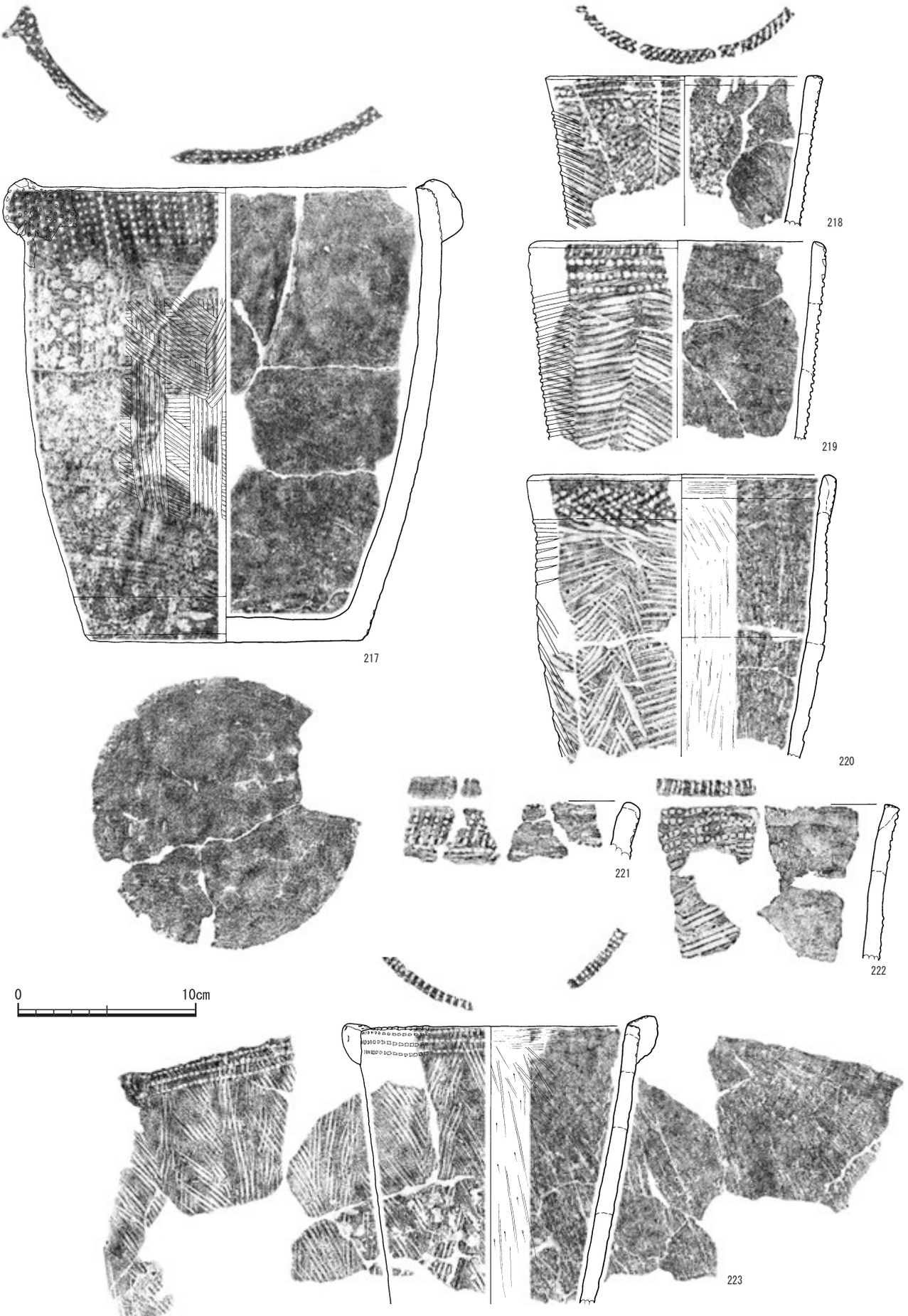
第１は，口縁部文様帯には斜位方向の貝殻条痕文を連続し



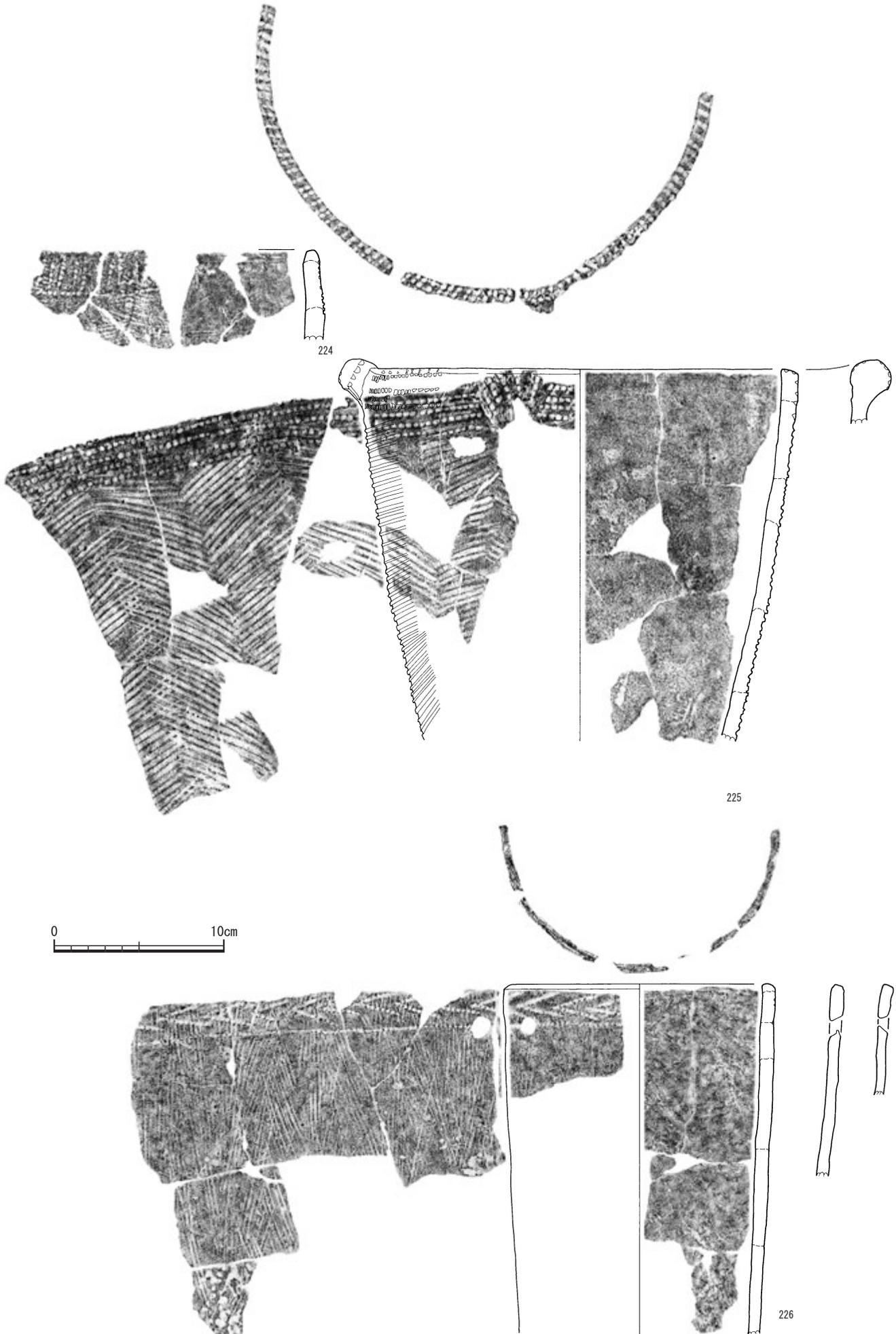
第227図　縄文早期土器実測図（29）（3.131群土器/桐木調査区出土）



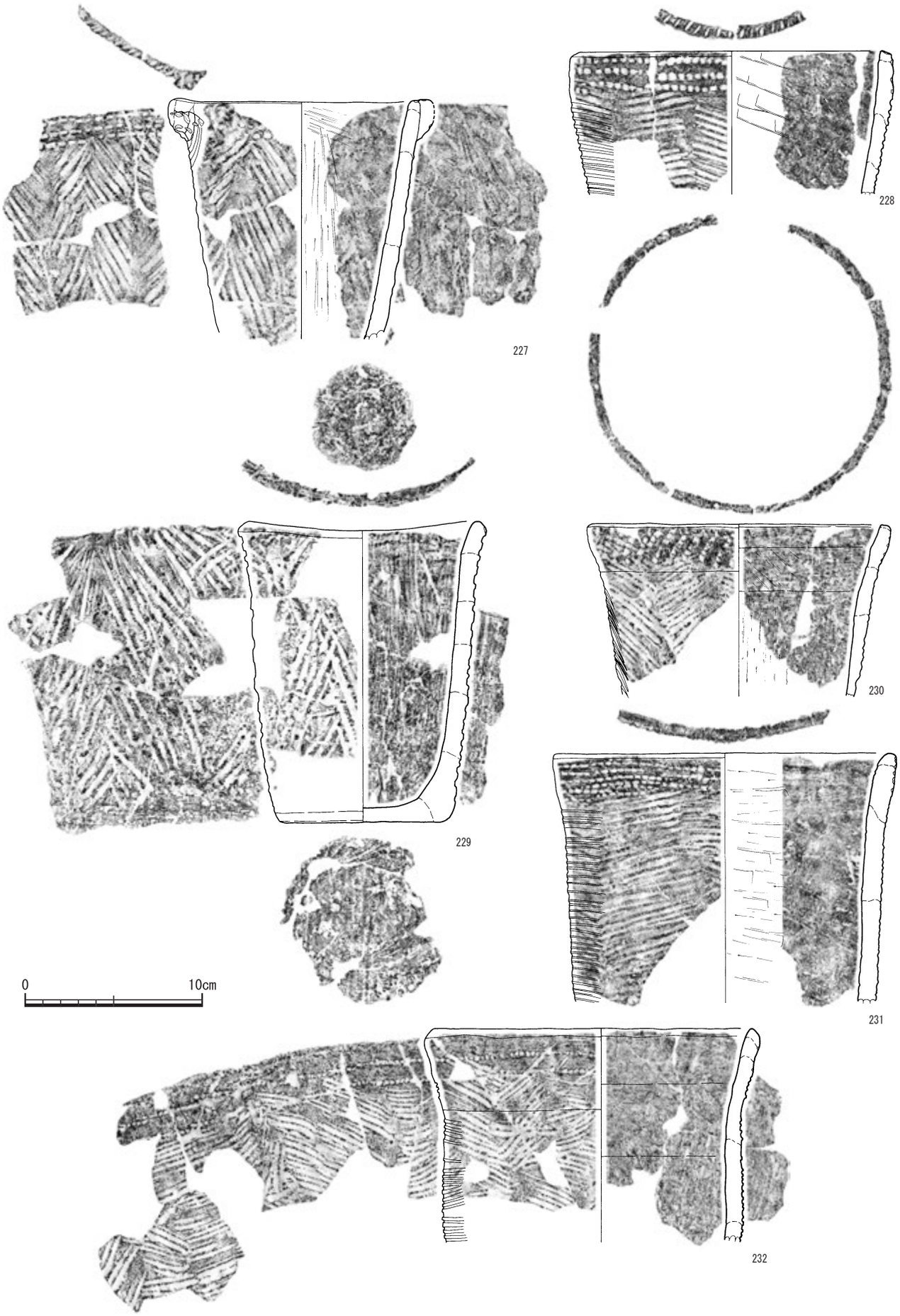
第228図　縄文早期土器実測図（30）（3.131群土器/桐木調査区出土）



第229図　縄文早期土器実測図（31）（3.131群土器/3.132群土器/桐木調査区出土）



第230図　縄文早期土器実測図（32）（3.131群土器/桐木調査区出土）



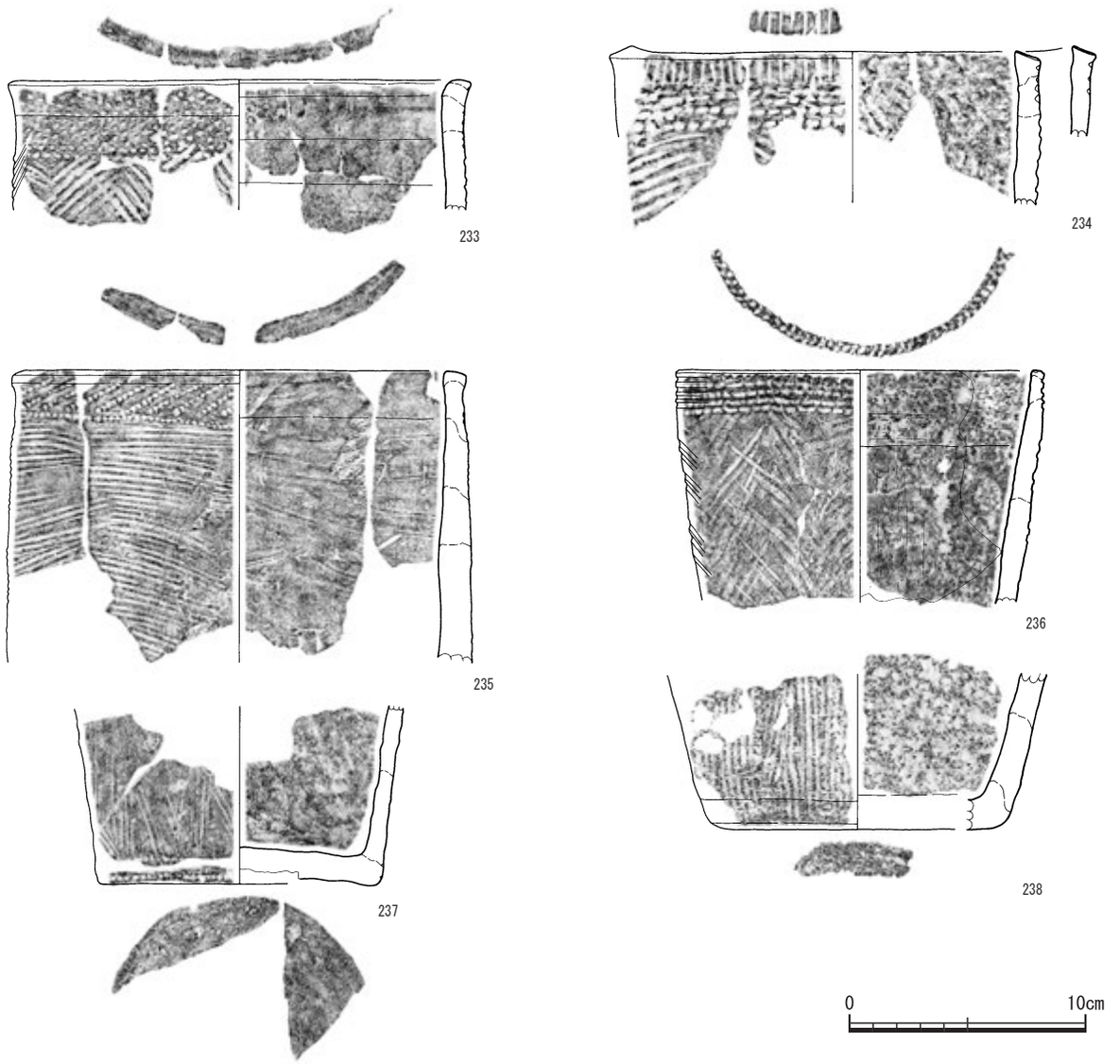
第231図　縄文早期土器実測図（33）（3.132群土器/桐木調査区出土）

第57表　縄文早期土器観察表（15）（３群土器−５）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
227	200	3.131	○55253(G-8/Ⅶ) ○66983(G-8/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
227	201	3.131	○41514(D-8/Ⅶ上) ○60415(G-6/Ⅶ下)	黒,白粒,輝,角	丁寧なナデ	−	−
227	202	3.131	○59199(E-8/Ⅶ下) ○61472(H-7/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→ナデ	−	−
227	203	3.131	○59527(E-7/Ⅶ) ○59533(E-7/Ⅶ) ○60732(D-7/Ⅶ) ○65337(F-11/ⅥIa) ○66220(G-11/Ⅶ下)	黒,輝,砂粒	丁寧なナデ	−	−
227	204	3.131	○42077(D-8/Ⅶ) ○63262(H-7/Ⅶ)	輝,黒,砂粒,白粒	ケズリ→ナデ	−	−
227	205	3.131	○36853(E-10/Ⅶ) ○58672(E-6/Ⅶ下) ○59513(E-7/Ⅶ) ○60730(D-7/Ⅶ) ○65796(F-8/Ⅶ)	黒,細粒	ハケ→ヘラナデ	−	−
227	206	3.131	○36774(E-9/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	−	−
227	207	3.131	○72(B-10/Ⅶ) ○40458(B-11/Ⅶ)	角,細粒	ケズリ→ナデ	−	−
227	208	3.131	○46681(B-8/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
227	209	3.131	○37180(B-11/Ⅶ上) ○37252(B-11/Ⅶ) ○37488(D-10/Ⅶ) ○37989(B-11/Ⅶ上) ○38770(B-11/Ⅶ) ○38774(B-11/Ⅶ) ○42613(A-11/Ⅶ横転) ○55905(B-11/Ⅶ) ○56767(A-11/Ⅶ) ○60911(H-7/Ⅶ) ○60953(F-7/Ⅶ)	輝,黒,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	−	−
228	210	3.131	○34851(E-11/Ⅶ) ○36993(D-11/Ⅶ上) ○37010(D-11/Ⅶ上) ○37060(E-11/Ⅶ上) ○37080(E-11/Ⅶ上) ○37090(E-11/Ⅶ) ○37289(E-10/Ⅶ下) ○38335(E-11/Ⅶ) ○38392(D-11/Ⅶ横転) ○38423(D-11/Ⅶ) ○40615(D-8/Ⅶ) ○57285(G-12/Ⅶ) ○66059(F-11/Ⅶ下) ○66069(F-11/Ⅶ) ○66205(G-11/Ⅶ) ○66241(G-11/Ⅶ) ○66270(G-12/Ⅶ	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ,ナデ, 横ハケ→ナデ	口唇部:ケズリ	口唇部:内傾面を形成
228	211	3.131	○59379(E-8/Ⅶ) ○60219(E-8/Ⅶ) ○61400(F-5/ＸⅠ)	角,砂粒	横縦ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	−
228	212	3.131	◎38059(A-37/Ⅲb) ○38005(B-11/Ⅶ下) ○38804(B-11/Ⅶ)	黒,細粒	ハケ→ナデ	−	−
228	213	3.131	○67885(J-12/Ⅶ) ○67886(J-12/Ⅶ) ○67887(J-12/Ⅶ)	輝,黒,砂粒	ハケ→粗いナデ	−	−
228	214	3.131	○40666(D-8/Ⅶ) ○40926(D-8/Ⅶ下) ○42022(D-8/Ⅶ上) ○60300(E-8/Ⅶ) ○66843(I-9/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	ヘラケズリ→ナデ	丁寧なナデ	−
228	215	3.131	○42238(C-9/Ⅶ) ○42517(C-8/Ⅶ) ○59535(E-7/Ⅶ上)	黒,輝,白粒,砂粒	ケズリ→ナデ	−	外面スス付着
228	216	3.131	○41944(D-9/Ⅶ) ○61475(H-7/Ⅶ上) ○63306(H-7/Ⅶ)	角,黒,輝,細粒	横ナデ→ナデ	−	−
229	217	3.131	○41964(E-9/Ⅶ下) ○41998(E-8/Ⅶ上) ○55626(E-8/Ⅶ下) ○59475(E-7/Ⅶ下) ○60021(E-6/Ⅶ) ○60211(E-8/Ⅶ) ○64445(I-7/Ⅶ) ○65046(H-14/Ⅲb) ○65834(G-8/Ⅶ) ○65844(G-8/Ⅶ) ○65868(F-8/Ⅶ) ○66244(G-11/Ⅶ) ○66472(H-8/Ⅶ) ○66528(H-10/Ⅶ) ○67004(E-8/Ⅶ) ○67820(J-11/Ⅶ)	輝,黒,砂粒	ハケナデ→丁寧なナデ	−	−
229	218	3.132	○64406(I-8/Ⅶ) ○65689(H-8/Ⅶ) ○66320(H-8/Ⅶ) ○66353(H-9/Ⅶ下) ○66386(I-8/Ⅶ下)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
229	219	3.132	○58927(F-6/Ⅶ) ○58933(F-6/Ⅶ) ○60136(F-6/Ⅶ)	角,細粒	丁寧な斜ナデ	−	−
229	220	3.132	○36663(D-9/Ⅵ) ○40944(C-8/Ⅶ) ○40998(C-8/Ⅶ下) ○41937(D-9/Ⅶ上) ○42107(D-8/Ⅶ) ○42727(C-9/Ⅶ上) ○55202(G-9/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ,斜ハケ, 縦ケズリ→ナデ	−	−
229	221	3.132	○55670(H-8/Ⅶ) ○67967(H-11/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	−
229	222	3.132	○66818(F-12/Ⅶ)	黒	斜ハケ→斜ヘラナデ	−	−

第58表　縄文早期土器観察表（16）（３群土器−６）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
229	223	3.132	○66132(F-11/Ⅶ) ○66162(F-11/Ⅶ) ○66163(F-11/Ⅶ下) ○66169(G-11/Ⅶ) ○66171(F-11/Ⅶ) ○66173(F-11/Ⅶ) ○66175(F-11/Ⅶ) ○66181(G-11/Ⅶ)	角,輝,細粒	ケズリ→粗いナデ	−	−
230	224	3.131	○40953(C-8/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	−	外面スス付着
230	225	3.131	○244(B-10/Ⅶ) ○37443(C-10/Ⅶ上) ○38764(B-11/Ⅶ) ○38765(B-11/Ⅶ) ○38766(B-11/Ⅶ) ○41934(D-9/Ⅶ下) ○42183(C-9/Ⅶ上) ○42192(C-9/Ⅶ上) ○42198(C-9/Ⅶ上) ○42198(C-9/Ⅶ上) ○42514(D-8/Ⅶ下) ○59470(E-8/Ⅶ) ○59540(E-6/Ⅶ) ○61194(C-7/Ⅶ下) ○63239(H-6/Ⅶ) ○66653(I-10/Ⅶ) ○66927(H-9/Ⅶ)	角,細粒	ヘラナデ, ハケ→丁寧なナデ	−	−
230	226	3.131	○62733(I-5/Ⅶ) ○63222(H-6/Ⅶ下) ○63250(I-6/Ⅶ) ○63251(I-6/Ⅶ) ○63291(H-7/Ⅶ)	輝,角,細粒	スス付着, 斜ケズリ→ナデ	−	外面スス付着,補修孔の心心距離は20.5mm, A12は1.5mm,12.5mm,内径6mm,B12外径10.5mm,6.5mm,内径4.5mm
231	227	3.132	○241(B-10/Ⅶ) ○35773(D-10/Ⅵ上) ○35783(D-10/Ⅵ下) ○36960(D-11/Ⅶ下) ○37621(C-11/Ⅶ) ○37623(C-11/Ⅶ) ○37626(C-11/Ⅶ)	角,細粒	横,斜ケズリ,縦ケズリ	−	−
231	228	3.132	○58256(F-5/Ⅶ上) ○60140(F-6/Ⅶ)	角,輝,細粒	ケズリ→斜ヘラナデ	−	−
231	229	3.132	○1466(C-10/Ⅶ) ○41464(D-7/Ⅶ) ○51363(D-9/Ⅶ上) ○60072(F-7/Ⅶ) ○60123(F-6/Ⅶ) ○60467(G-6/Ⅶ) ○60806(G-7/Ⅶ) ○60822(G-7/Ⅶ) ○60958(G-7/Ⅶ) ○60959(H-7/Ⅶ) ○60969(H-7/Ⅶ下) ○61456(H-7/Ⅶ) ○61464(H-7/Ⅶ) ○61466(H-7/Ⅶ) ○65704(I-8/Ⅶ下) ○66977(I-7/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ, 縦ケズリ→粗いナデ, 横ハケ→ナデ	口唇部ナデ	−
231	230	3.132	○58904(F-6/Ⅶ) ○59116(E-7/Ⅶ下) ○59117(E-7/Ⅶ下) ○59120(E-7/Ⅶ) ○59121(E-7/Ⅶ) ○59124(E-7/Ⅶ) ○59134(E-7/Ⅶ) ○59144(E-7/Ⅶ) ○59265(E-7/Ⅶ) ○60293(E-7/Ⅶ)	黒,細粒	ナデ, 斜ケズリ→粗いナデ, 縦ケズリ→粗いナデ	−	−
231	231	3.132	○67971(H-11/Ⅶ) ○67974(H-11/Ⅶ)	角,砂粒,白粒,赤粒	横ケズリ→ナデ	−	−
231	232	3.132	○60406(G-6/Ⅶ下) ○60856(G-6/Ⅶ) ○60970(H-6/Ⅶ) ○60971(H-6/Ⅶ) ○61921(G-6/Ⅹ) ○63169(H-6/Ⅶ) ○63178(H-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ケズリ,斜ケズリ, 縦ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	−
232	233	3.132	○58551(H-6/ⅥIa) ○63156(H-6/Ⅶ) ○63195(H-6/Ⅶ) ○63197(H-6/Ⅶ下)	角,細粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	−
232	234	3.132	○37515(C-11/Ⅶ) ○37970(C-12/Ⅶ下)	細粒,角	横ハケ→ナデ	−	−
232	235	3.132	○59435(E-8/Ⅶ上) ○60398(E-6/Ⅶ) ○60447(G-6/Ⅶ)	角,輝	指頭痕→横, 斜ヘラナデ→ナデ	口唇部:ナデ	−
232	236	3.132	○66728(F-9/Ⅸ)	黒,細粒	横ケズリ,縦ケズリ	−	内面スス付着,外面スス付着
232	237	3.132	○58926(G-6/Ⅶ) ○60853(H-6/Ⅶ) ○60855(G-6/Ⅶ) ○60972(H-6/Ⅶ下)	細粒,角,輝	ナデ	−	−
232	238	3.132	○60368(E-5/Ⅶ) ○65835(G-8/Ⅶ)	輝,砂粒	−	−	−
233	239	3.133	○36272(D-11/Ⅶ横転) ○37112(E-11/Ⅶ下) ○37606(C-11/Ⅶ) ○37987(B-11/Ⅶ) ○40453(B-10/Ⅶ) ○40854(B-11/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→ヘラナデ	−	外面スス付着
233	240	3.133	○37007(D-11/Ⅶ下) ○63277(H-7/Ⅶ)	輝,黒,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	−	−
233	241	3.133	○37370(D-10/Ⅶ) ○37373(D-10/Ⅶ) ○37379(D-10/Ⅶ) ○38596(D-9/Ⅴ) ○59306(F-8/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ, 斜ケズリ→粗いナデ	−	−
233	242	3.133	○51156(C-10/Ⅶ) ○53299(E-12/Ⅵ) ○63337(H-7/Ⅵ)	黒	ケズリ→斜ナデ, 丁寧なナデ	−	−
233	243	3.133	○65174(F-9/Ⅶ)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−



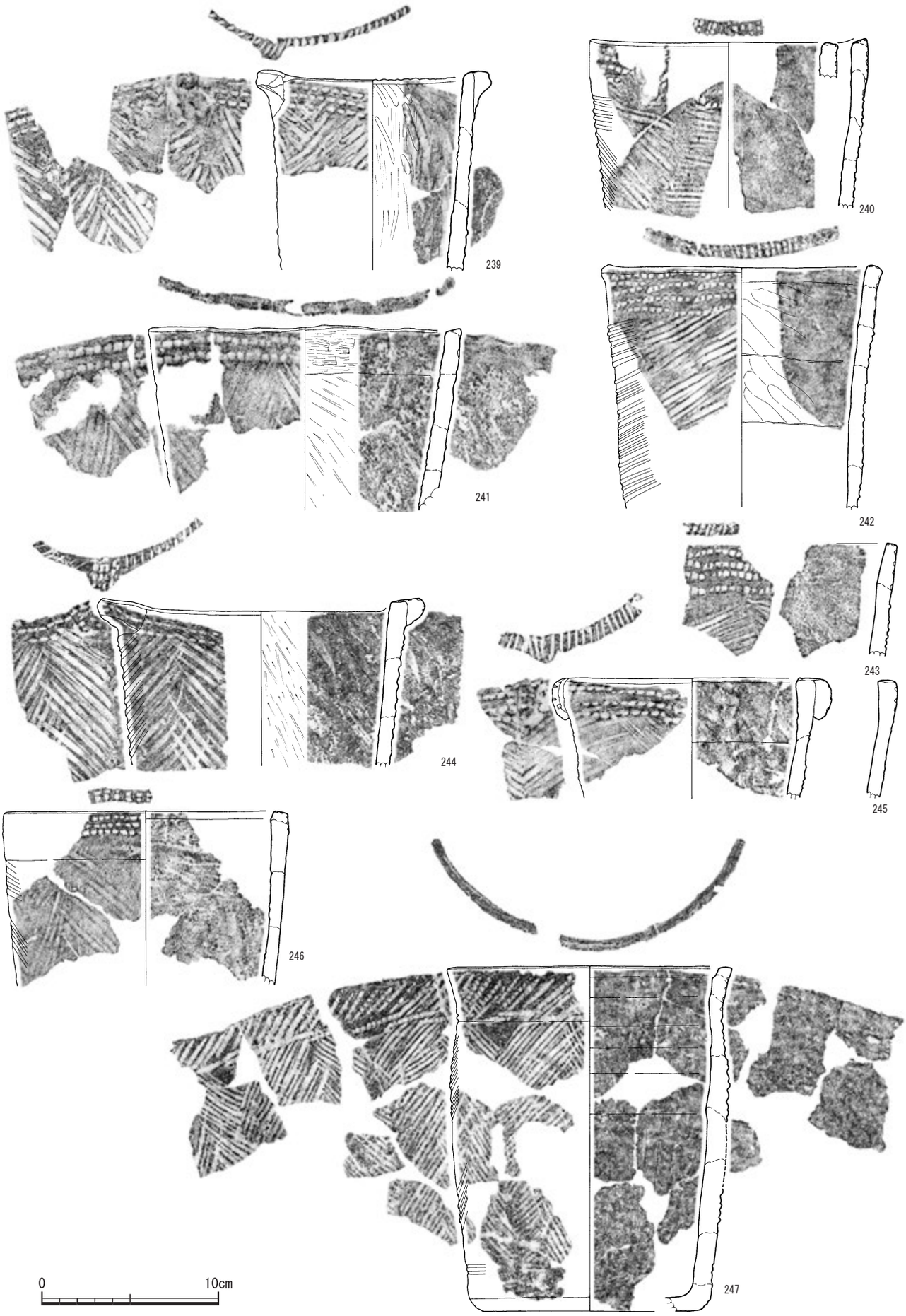
第232図　縄文早期土器実測図（34）（3.132群土器/桐木調査区出土）

第59表　縄文早期土器観察表（17）（３群土器-７）

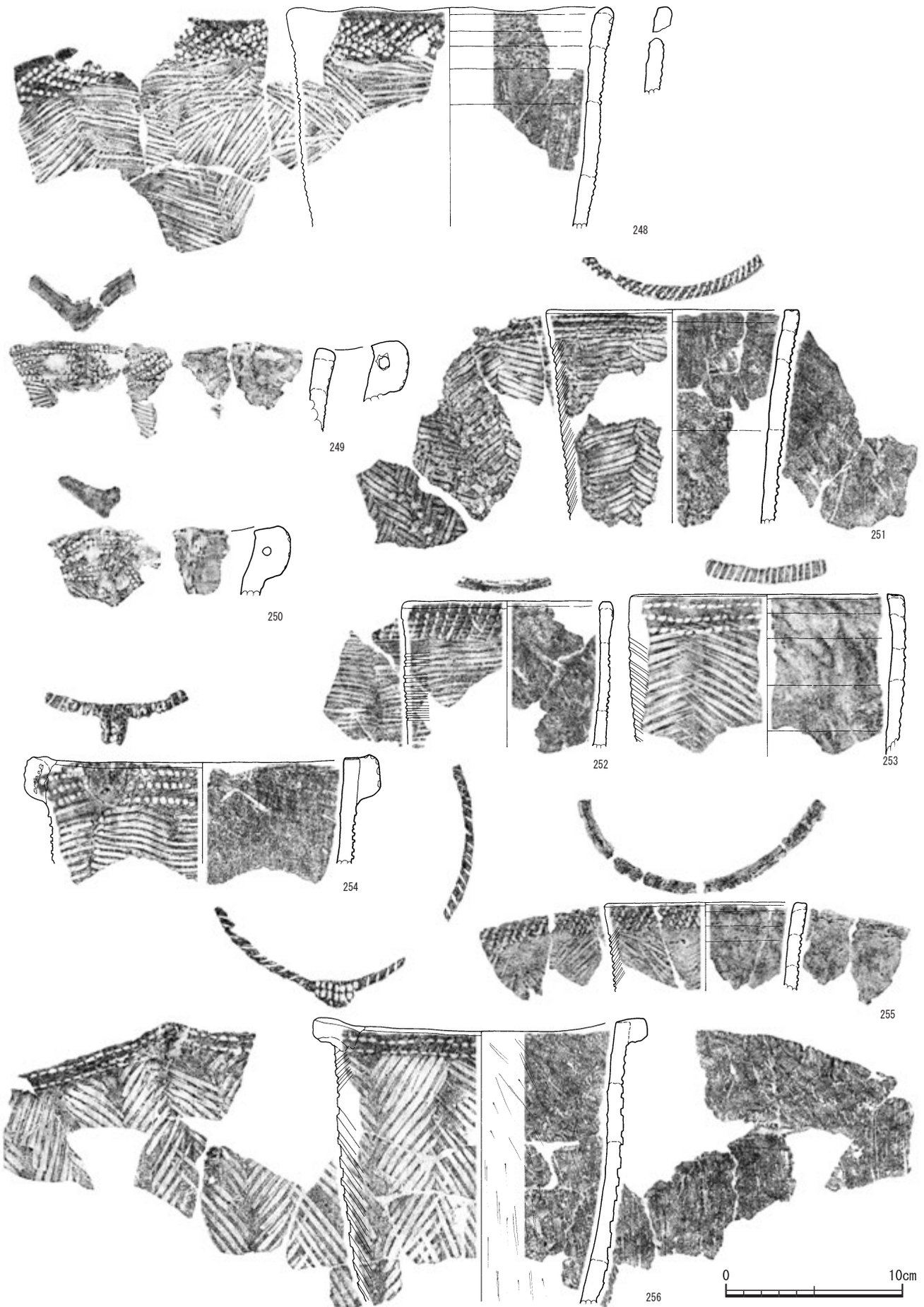
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
233	244	3.133	○66962(H-8/Ⅷ上)	角,細粒	ケズリ→粗いナデ	-	-
233	245	3.133	○37969(C-12/Ⅷ)	角,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
233	246	3.133	○66195(G-11/Ⅷ) ○66197(G-11/Ⅶ下) ○66304(G-11/Ⅷ)	白粒,黒	ケズリ→粗いハケナデ	-	外面スス付着
233	247	3.133	○38746(C-10/Ⅷ) ○60944(G-8/Ⅷ) ○60945(G-7/Ⅷ) ○60946(G-8/Ⅷ) ○60947(G-8/Ⅷ) ○60949(G-8/Ⅷ) ○61466(H-7/Ⅷ) ○66989(G-8/Ⅷ)	輝,角,細粒	ハケ→ヘラナデ, 丁寧なナデ	-	-
234	248	3.133	○40643(D-8/Ⅷ) ○40951(C-8/Ⅷ) ○42407(B-10/Ⅷ) ○42533(D-8/Ⅷ)	角,細粒	斜ヘラケズリ, 縦ヘラケズリ	-	補修孔:外径10mm, 内径4mm
234	249	3.133	○41533(E-8/Ⅶ下) ○65700(H-9/Ⅶ)	白粒,角	ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	混和材:角閃石
234	250	3.133	○58615(E-7/Ⅶ)	角,細粒	ヘラ→ナデ	口唇部:ナデ	焼成前穿孔
234	251	3.133	○61453(H-7/Ⅷ上) ○61458(H-7/Ⅷ) ○61489(H-7/Ⅷ下) ○63318(H-7/Ⅷ)	角,細粒	ヘラナデ→丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
234	252	3.133	○66785(G-11/Ⅷ)	輝,角,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
234	253	3.133	○39223(C-11/Ⅷ横転)	角,細粒	斜ヘラケズリ→ナデ	-	-
234	254	3.133	○60120(F-6/Ⅷ)	角,輝,細粒	斜ケズリ→ナデ	-	-
234	255	3.133	○36990(D-11/Ⅶ下) ○36992(D-11/Ⅷ上) ○37061(E-11/Ⅷ) ○51346(D-9/Ⅶ) ○54136(D-9/Ⅷ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
234	256	3.133	○40679(D-8/Ⅶ) ○42095(D-8/Ⅷ下) ○50813(A-14/Ⅷ) ○55261(G-8/Ⅷ) ○58781(F-6/Ⅷ)	角,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-

第60表　縄文早期土器観察表（18）（３群土器-８）

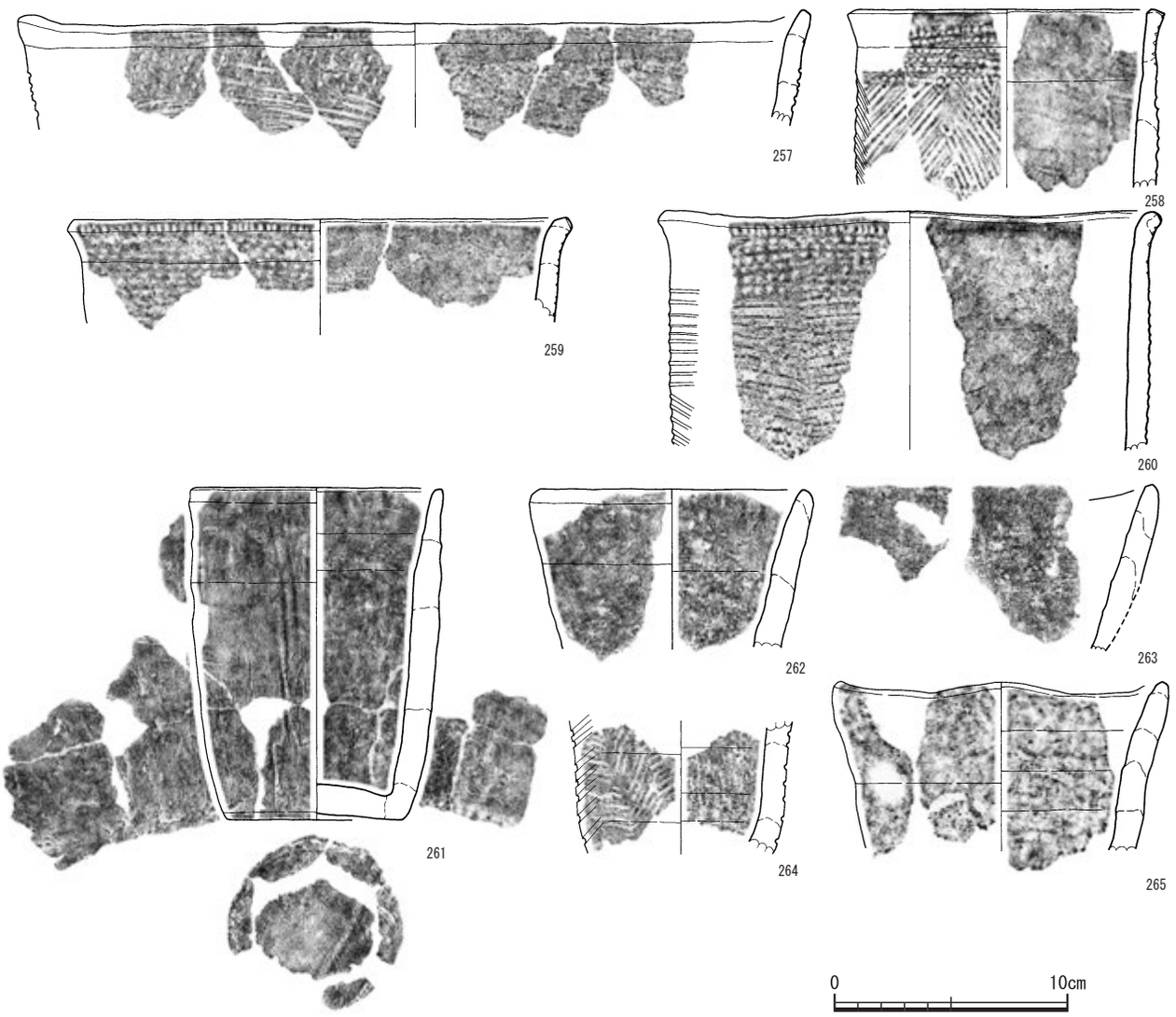
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
234	256	3.133	○60573(F-7/Ⅷ) ○61415(G-7/Ⅷ) ○62061(F-7/Ⅹ) ○66065(F-11/Ⅷ) ○66923(H-9/Ⅷ) ○68081(H-14/Ⅷ)	角,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
235	257	3.4	◎15444(い-12/Ⅶ) ○60042(E-6/Ⅷ) ○61473(H-7/Ⅷ)	輝,砂粒	丁寧なナデ, 斜ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	-
235	258	3.4	○37638(C-11/Ⅷ) ○42718(C-9/Ⅷ)	角,輝,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
235	259	3.4	○63276(H-7/Ⅷ) ○65686(H-8/Ⅶ) ○66421(H-10/Ⅷ)	角,砂粒	ハケナデ	ナデ	外面スス付着
235	260	3.4	○37130(E-12/Ⅶ下)	輝,細粒	ハケナデ→布ナデ	-	-
235	261	3.51	○42351(B-9/Ⅵ) ○42353(B-9/Ⅶ) ○42356(B-9/Ⅵ下) ○42425(B-9/Ⅶ下) ○42757(B-9/Ⅷ) ○51147(B-10/Ⅷ) ○51426(B-9/Ⅷ) ○51427(B-9/Ⅶ) ○51432(B-9/Ⅶ) ○52562(B-9/Ⅷ)	角,砂粒,輝	横ハケ→ナデ, 縦ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ, 縦→ナデ	-
235	262	3.51	○37605(C-11/Ⅷ)	角,微粒	縦ハケ→粗いナデ, 横ハケ→粗いナデ	横ハケ→ナデ, 縦ハケ→ナデ	-
235	263	3.51	○36673(D-10/Ⅵ)	角,輝,砂粒	ナデ,ハケ→粗いナデ	口唇部:ナデ, ハケ→ナデ	-
235	264	3.51	○66650(I-10/Ⅷ) ○67816(I-11/Ⅷ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
235	265	3.51	○41438(D-7/Ⅶ下) ○42122(D-8/Ⅷ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	指頭痕→ナデ	-
236	266	3.14	○1226(C-10/Ⅷ) ○1481(C-10/Ⅷ) ○1482(C-10/Ⅷ) ○1767(C-10/Ⅷ)	砂粒,黒	ヘラナデ, 斜ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母
236	267	3.14	○60711(E-8/Ⅷ下)	黒,砂粒	ハケ→ナデ	口唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母



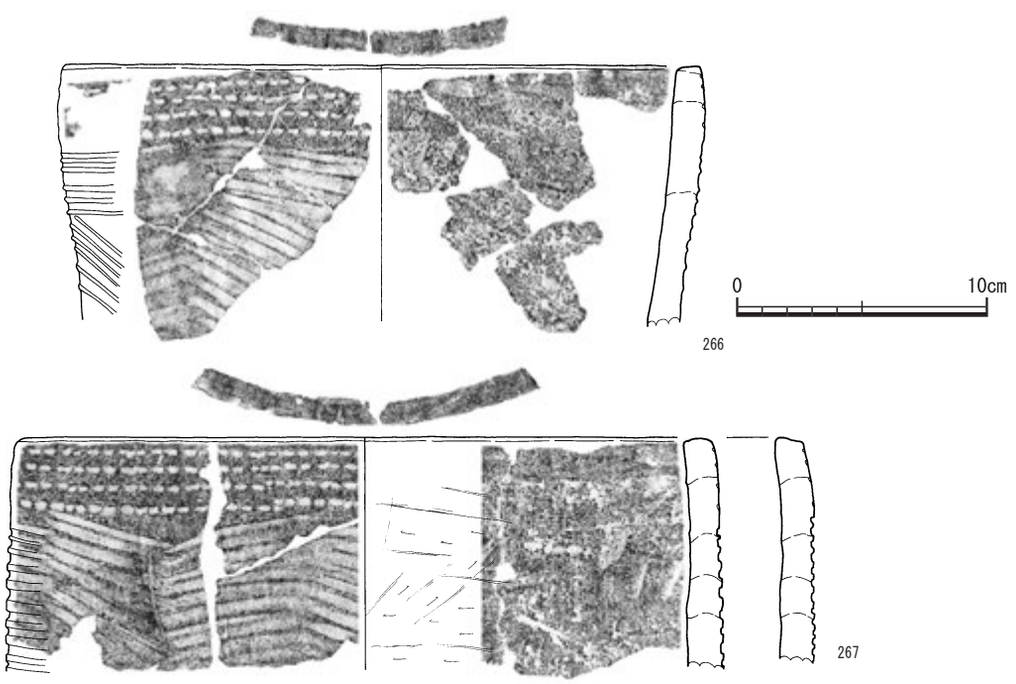
第233図　縄文早期土器実測図（35）（3.133群土器/桐木調査区出土）



第234図　縄文早期土器実測図（36）（3.133群土器/桐木調査区出土）



第235図　縄文早期土器実測図（37）（3.4/3.51群土器/桐木調査区出土）



第236図　縄文早期土器実測図（38）（3.14群土器/桐木調査区出土）

て巡らし，胴部文様帯には胴部下端部まで貝殻条痕文を縦位方向に施すのが特徴である。

第２は，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて胴部下端部まで貝殻条痕文を縦位方向に施すのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて木製工具によるハケ調整を行った後に，横位方向あるいは斜位方向のナデ調整を最終調整としている土器の多いのが特徴である。また，最終調整として胴部に斜位方向の貝殻条痕を施す土器も観察できた。

本類土器の胎土中鉱物は，主に角閃石などで構成され，鉱物の粒度では粗い粒度の鉱物を多く含む土器と，細かい粒度の鉱物を多く含む土器とに分かれることが注目できた。

第３群土器第３類土器(分類記号3.3，第238・239図273～278)

第３群土器第３類土器に属する土器を６点資料化した。

器形的特徴としては，口唇端部に外傾する平坦面を形成させ，胴部最大径が胴部上半部に位置し，胴部は底部にかけて緩やかにすぼまる円筒形土器であることが挙げられる。本類に属する底部と接合できず，底部の形状は不明である。

施文的特徴としては，口唇上端部には横位方向の貝殻刺突文を２条連続して巡らし，口縁部文様帯には貝殻刺突文を斜位方向に施し，口縁部文様帯と胴部文様帯との境には貝殻刺突文を横位方向に１条巡らすことが挙げられる。

また，胴部文様帯には貝殻条痕文による綾杉文や羽状文を縦位方向に施した上に，斜格子状の貝殻刺突文を重ねて施すという特徴が本類土器を細別した分類基準のうち，最大の指標である。

ここで特に注目できるのは，本類土器の貝殻条痕文は，工具１単位毎に施される羽状文の交差する部分がまるで１本の軸のように見えるほど緻密に施されている「綾杉文」部分と，工具数単位毎に交互に施される「羽状文」部分とが，同一個体内に観察できることである。

以上の特徴から本類土器は，器形的特徴や口縁部文様帯における施文的特徴など，第３群土器第１類土器第２タイプ土器の特徴と共通する点が多いことが，まず指摘できる。さらにその上で，胴部文様帯において「二重施文」を施すなど文様構成などに特異的な特徴も多いため，本報告では細別を試みた。今後注意を要する土器である。

第３群土器第４類土器(分類記号3.4，第235図257～260)

第３群土器第４類土器に属する土器を４点資料化した。

器形的特徴としては，第３群土器第１類土器第２タイプ土器の指標である，口縁部が外に開く器形を呈するが，口唇部内面と口唇上端部と口唇外面部とにそれぞれ篦状工具による平坦面を作出させていることが異なる特徴として指摘できる。この特徴こそが本類を細別した最大の指標である。また特に，口唇上端部に外傾する平坦面を作出する点は，第３群土器第３類土器と共通する特徴である。胴部形態は，第３群土器第１類土器第２タイプ土器と同様，ほぼ直線的になる円筒形を呈している。

施文的特徴としては，口唇端部には刻みを連続して巡らし，口縁部文様帯には貝殻刺突文を斜位方向に施す土器(第235図257)や横位方向に数条施す土器(第235図258～260)がみられることが指摘できる。また口縁部文様帯には，貝殻刺突文を施文後にナデ調整を施し，文様をつぶしている特徴が挙げられる。この特徴は，第６群土器第１類土器第１タイプ土器と共通する手法であり，他の群ではみられない特徴であることを特に指摘しておく。さて胴部文様帯には第３群土器第１類土器第２タイプ土器と同様，貝殻条痕文による綾杉文や羽状文を縦位方向に施していることが挙げられる。

また調整方法については，特に257・258では口縁部内面を横位方向に篦状工具による調整を行うことで，口縁部内面と胴部内面との境にわずかな段差を生じさせていることが注目できる。

以上の特徴から本類土器は第３群土器第１類土器第２タイプ土器と共通する特徴が多いものの，器形的特徴や口縁部文様帯における施文的特徴など第３群土器第１類土器から第３類土器の中に分類するには特異な特徴も多いため，本報告では細別を試みた。今後注意を要する土器である。

第３群土器第５類土器(分類記号3.5，第235図261～265)

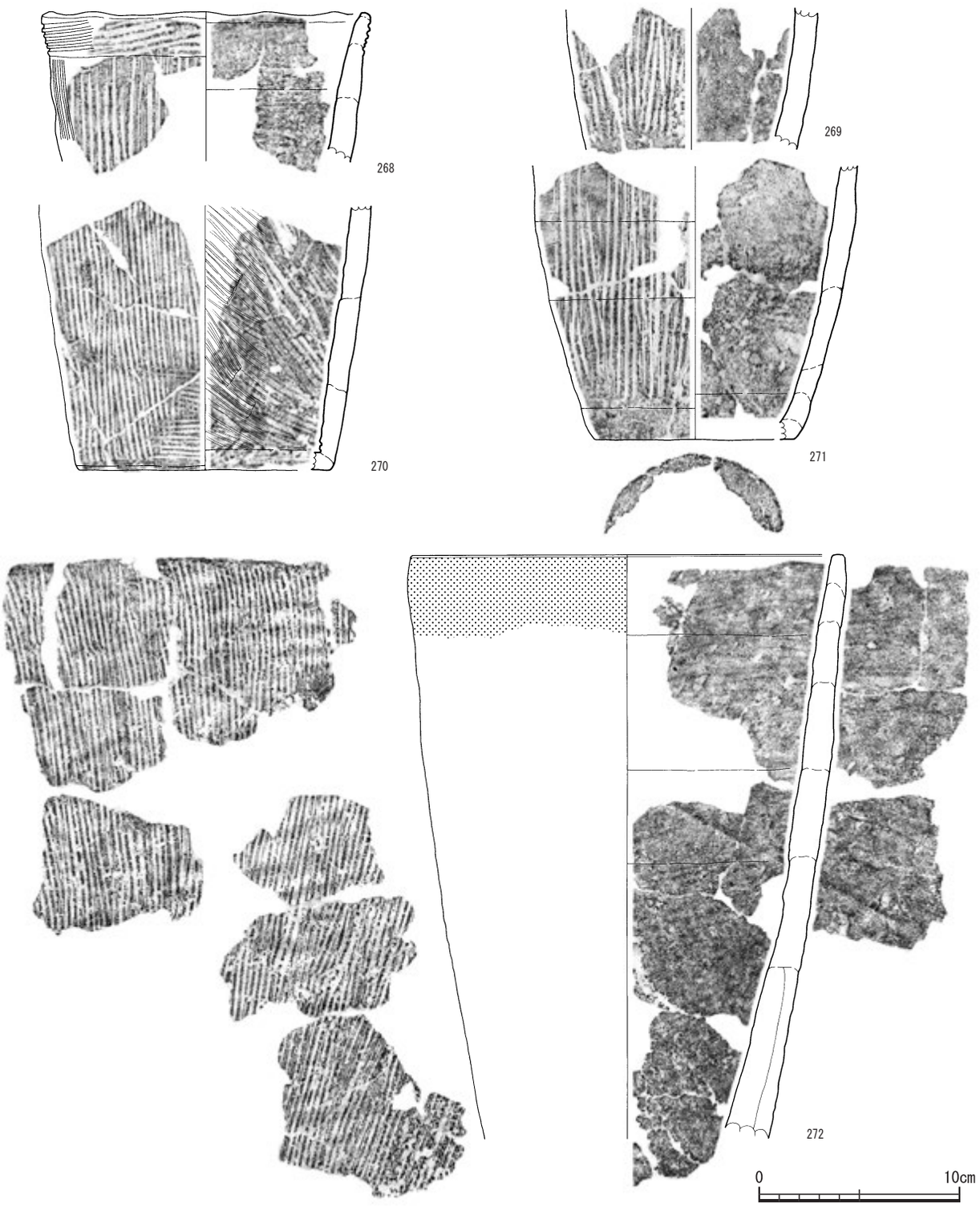
第３群土器第１類土器から第４類土器までに帰属できない特徴を有する土器を，第５類土器に帰属させた。

261は，無文の深鉢形土器である。口縁部や底部の製作技法などの器形的特徴や，調整方法や胎土中鉱物などのその他の諸属性から，第３群土器に帰属すると判断した。器形的特徴などからは第３群土器第１類土器第３タイプ土器の有文土器に対応する無文土器であると考えられる。第３種土器よりも更に一回り小型の土器である。

262,263,265は無文鉢形土器で，調整方法や胎土中鉱物などから，第３群土器に帰属すると判断した。器形的特徴としては口縁形態に２種類有り，262は平口縁を呈し，263,265は波状口縁を呈することが挙げられる。

264は有文鉢形土器である。胴部文様帯の文様構成は，この土器が第３群土器に帰属することを示している。器形的特徴としては胴部下半部において緩やかな屈曲部があることが第３群土器のなかでは特異的な点として指摘できる。

鉢形土器は本遺跡では他に例が無く，特異的であり，今後注意を要する土器である。



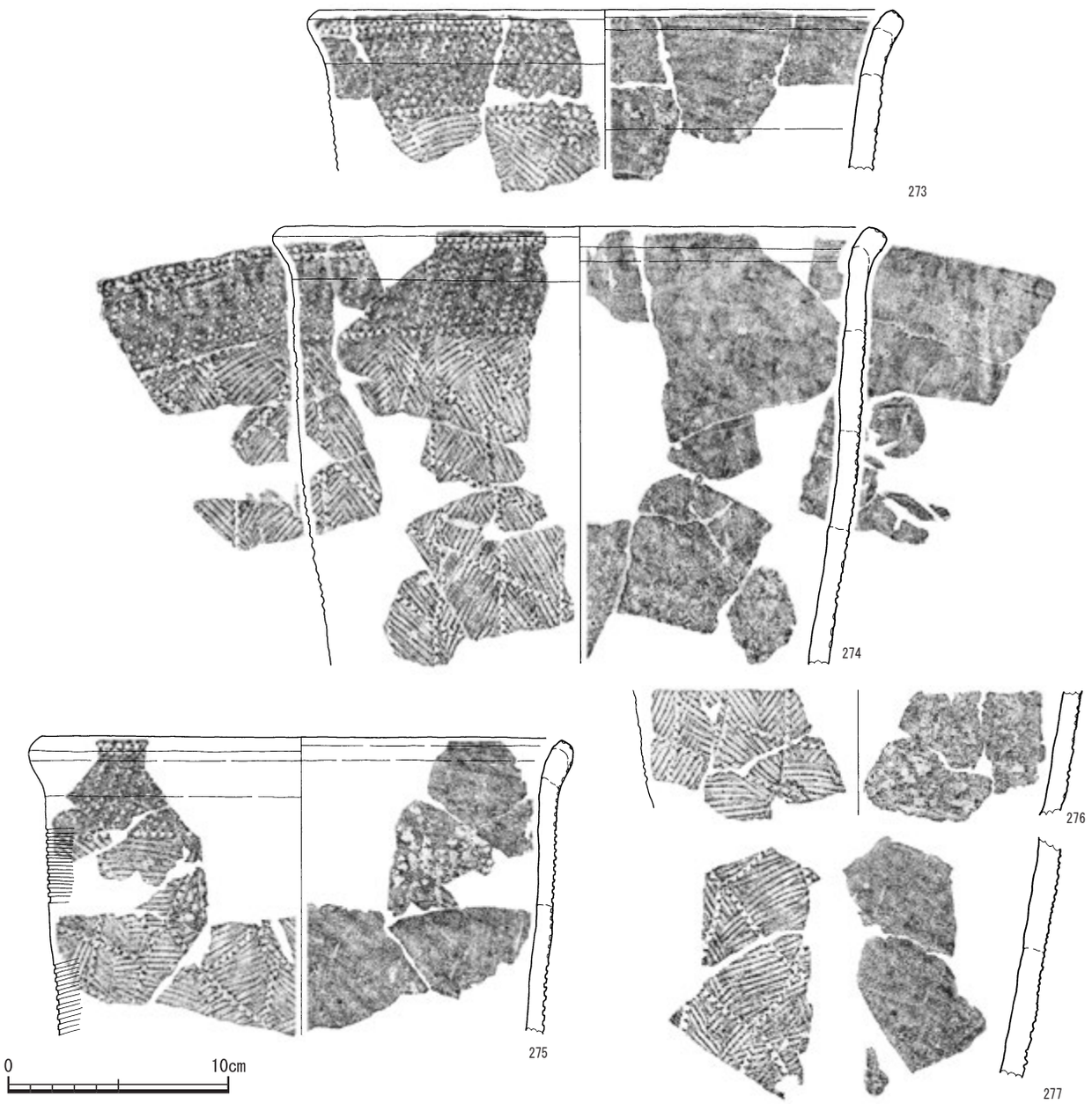
第237図　縄文早期土器実測図（39）（3.21群土器/桐木調査区出土）

第61表　縄文早期土器観察表（19）（３群土器-９）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
237	268	3.21	○59482(E-7/Ⅷ) ○60242(E-8/Ⅷ) ○66797(F-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	横ハケナデ	口唇部:ヘラナデ,ヘラナデ	-
237	269	3.21	○58663(E-7/Ⅶ) ○60399(E-6/Ⅷ)	角,細粒	ナデ	-	-
237	270	3.21	○60454(F-6/Ⅷ) ○60965(G-7/Ⅷ) ○63255(H-7/Ⅷ)	角,細粒	貝殻条痕斜粗いケズリ	-	-
237	271	3.21	○37520(C-11/Ⅷ下) ○40977(C-8/Ⅶ) ○42000(E-8/Ⅷ上) ○42527(C-9/Ⅷ) ○58726(F-6/Ⅷ) ○66868(I-10/Ⅷ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	木製工具ナデ	-

第62表　縄文早期土器観察表（20）（３群土器-10）

237	272	3.21	○35776(D-10/Ⅵ下) ○35778(D-10/Ⅷ) ○36694(D-10/Ⅵ) ○36955(D-11/Ⅷ下) ○36958(D-11/Ⅷ下) ○36959(D-11/Ⅷ下) ○37397(D-10/Ⅷ横転) ○37398(D-10/Ⅷ横転) ○37399(D-10/Ⅷ横転) ○37400(D-10/Ⅷ横転) ○37406(D-10/Ⅷ横転) ○37408(D-10/Ⅷ横転) ○37409(D-10/Ⅷ横転) ○37410(D-10/Ⅷ横転) ○37474(D-10/Ⅷ) ○37475(D-10/Ⅷ) ○37488(D-10/Ⅷ)	角,砂粒	工具ナデ→ユビナデ	-	混和材:角閃石,外面スス付着,外面化粧土



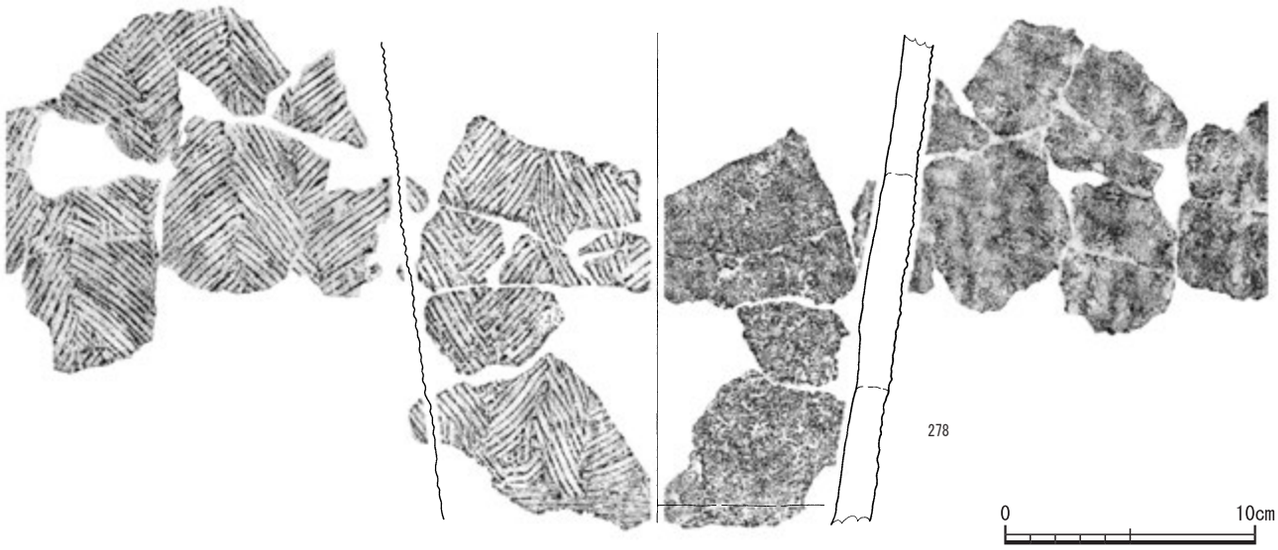
第238図　縄文早期土器実測図（40）（3.31群土器/桐木調査区出土）

第63表　縄文早期土器観察表（21）（３群土器-11）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
238	273	3.31	○42760(B-9/Ⅶ) ○56794(H-8/Ⅶ) ○59184(E-7/Ⅶ) ○60417(G-6/Ⅶ下)	輝,砂粒	ヘラナデ	-	-
238	274	3.31	○59118(E-7/Ⅶ) ○59152(E-7/Ⅶ上) ○59266(E-7/Ⅶ) ○59391(E-8/Ⅶ) ○60019(E-6/Ⅶ) ○60036(E-6/Ⅶ) ○60188(F-7/Ⅶ) ○60469(G-6/Ⅶ) ○60797(G-7/Ⅶ) ○60799(G-7/Ⅶ) ○60935(G-7/Ⅶ下) ○63241(H-6/Ⅶ)	輝,細粒	横ヘラナデ, ハケ→丁寧なナデ	-	-
238	275	3.31	○59067(F-7/Ⅶ) ○59084(F-7/Ⅶ下) ○59209(F-7/Ⅶ上) ○59211(F-7/Ⅶ) ○59219(F-7/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	胎土精選
238	276	3.31	○59221(F-7/Ⅶ) ○59419(E-8/Ⅶ下) ○60661(E-8/Ⅶ下) ○60662(E-8/Ⅶ下)	輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
238	277	3.31	○37883(D-9/Ⅶ) ○66216(G-11/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-

第64表　縄文早期土器観察表（22）（３群土器-12）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
239	278	3.31	○58184(F-6/Ⅶ) ○58188(F-6/Ⅶ) ○58197(F-6/Ⅶ) ○58831(F-6/Ⅶ) ○58852(F-6/Ⅶ) ○58901(F-6/Ⅶ) ○60022(E-6/Ⅶ) ○60037(E-6/Ⅶ) ○60076(F-6/Ⅶ) ○60083(F-6/Ⅶ) ○60086(F-6/Ⅶ) ○60111(F-6/Ⅶ) ○60155(F-7/Ⅶ) ○60389(E-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ナデ	-	-
240	279	3.15	○59052(E-7/Ⅶ下) ○59158(E-7/Ⅶ)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
240	280	3.15	○60060(E-7/Ⅶ) ○60621(E-7/Ⅶ下)	雲,角,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
240	281	3.15	○37494(C-11/Ⅶ) ○42055(D-8/Ⅶ上) ○47065(K-36/Ⅳ上)	黒,砂粒	ハケナデ	-	砂粒多量
240	282	3.15	○37674(D-11/Ⅶ) ○60147(F-6/Ⅶ) ○65734(G-8/Ⅶ) ○66176(G-11/Ⅶ下)	黒,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
240	283	3.15	◎15074(A-11/-)	黒,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
240	284	3.15	○9393(A-12/Ⅳ) ○9395(A-12/Ⅳ) ○55236(G-8/Ⅶ) ○61448(H-8/Ⅶ上)	角,細粒	ハケナデ→丁寧なナデ	-	-



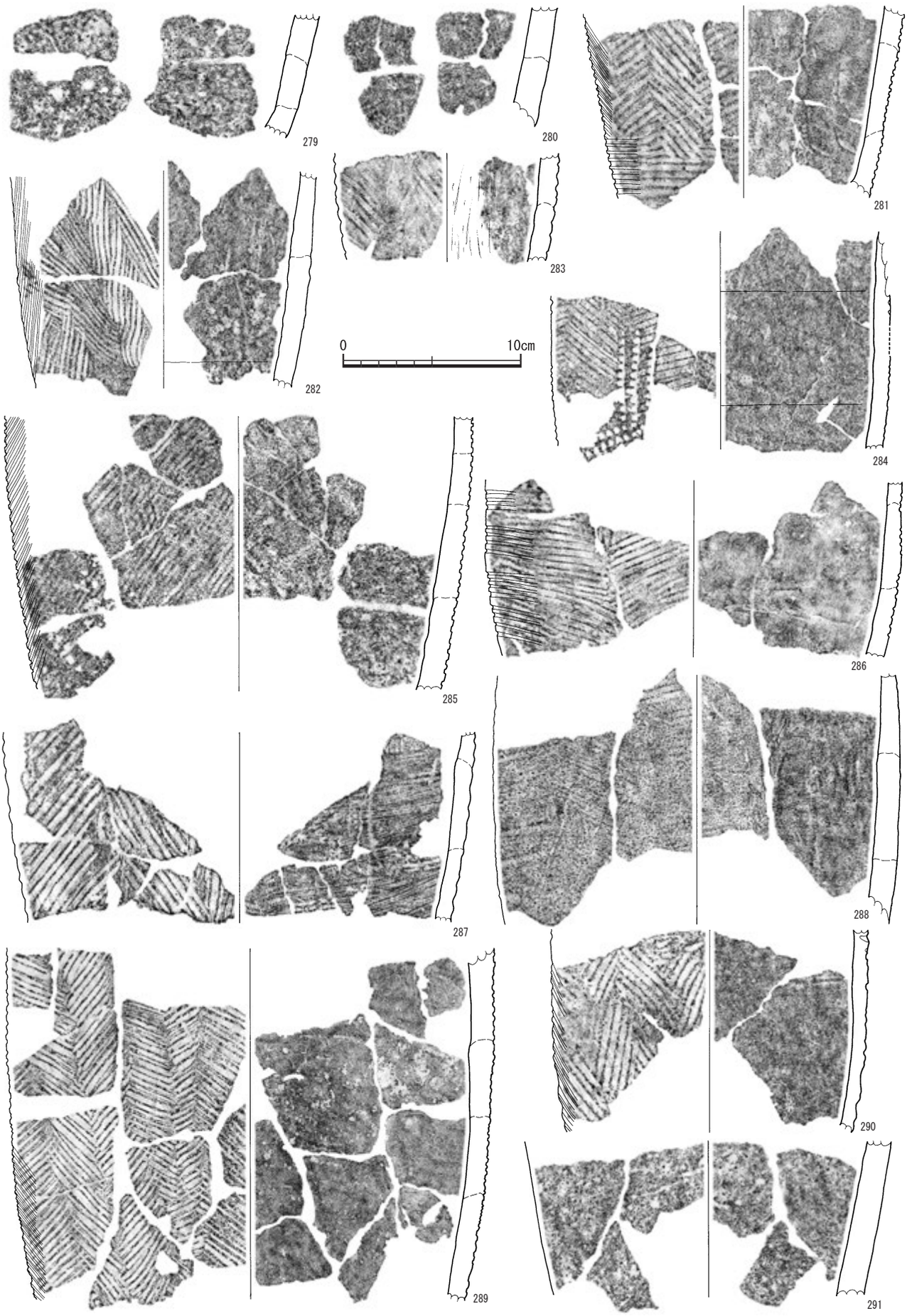
第239図　縄文早期土器実測図（41）（3.31群土器/桐木調査区出土）

第65表　縄文早期土器観察表（23）（３群土器-13）

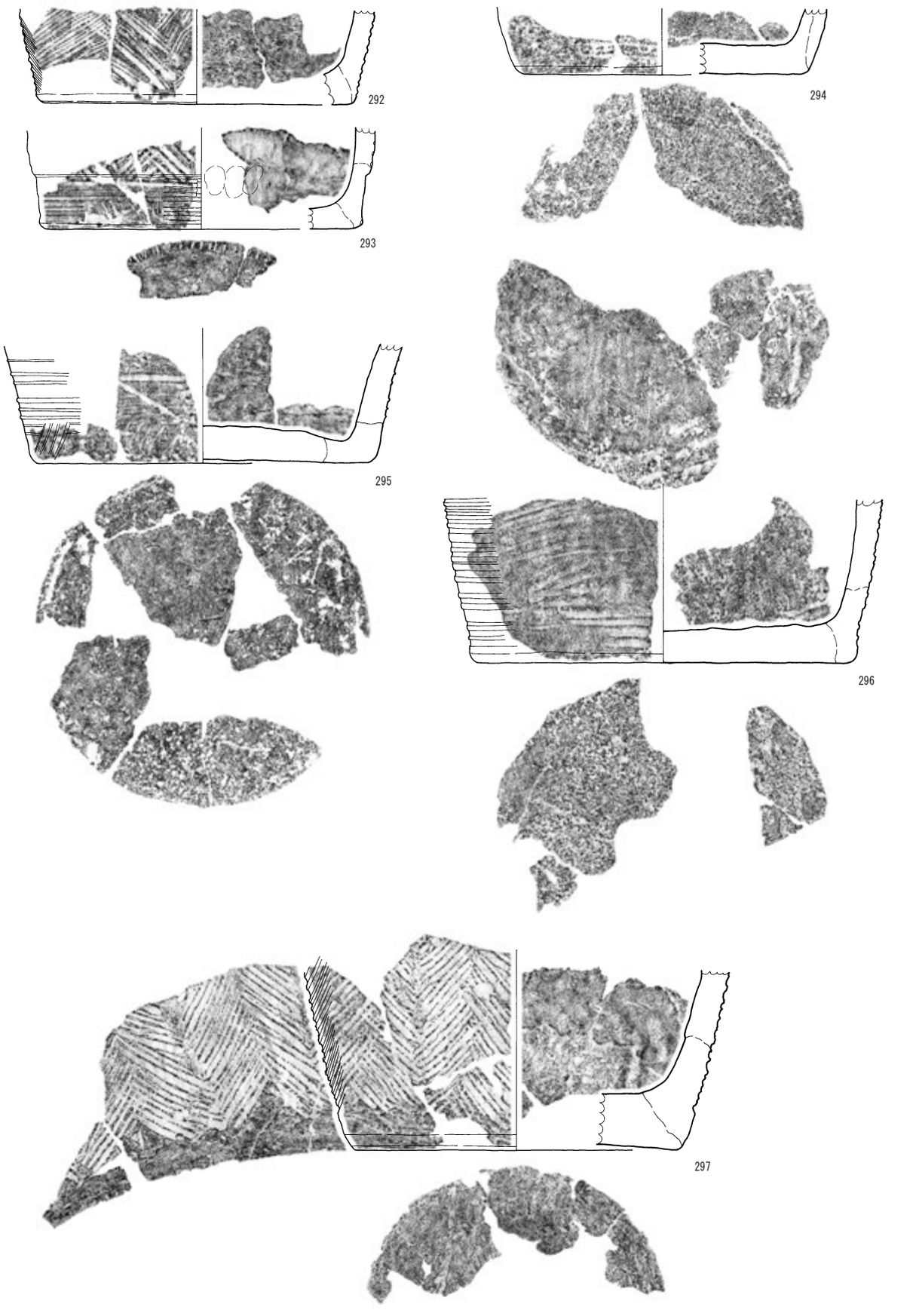
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
240	285	3.15	○42068(D-8/Ⅷ上) ○59256(E-7/Ⅷ) ○60055(E-7/Ⅷ) ○60071(F-7/Ⅷ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
240	286	3.15	○58741(F-5/Ⅷ) ○68080(F-13/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
240	287	3.15	○11432(B-11/Ⅴ下) ○35958(B-11/Ⅴb) ○36561(B-11/Ⅵ) ○36568(B-11/Ⅵ) ○36571(B-11/Ⅵ) ○36574(B-11/Ⅵ) ○37156(B-11/Ⅵ) ○37162(B-11/Ⅵ)	輝,砂粒	工具斜ハケ→ナデ	-	-
240	288	3.15	○38346(E-11/Ⅶ) ○38347(E-11/Ⅶ) ○38426(D-11/Ⅶ) ○43453(E-11/Ⅶ)	角,輝,砂粒	指頭痕,ハケ→ナデ	-	-
240	289	3.15	○42006(E-8/Ⅷ上) ○59006(F-7/Ⅷ上) ○59007(F-7/Ⅷ上) ○59102(E-6/Ⅶ上) ○59130(E-7/Ⅷ) ○59425(E-8/Ⅶ下) ○59433(E-8/Ⅶ上) ○59444(E-8/Ⅶ) ○59453(E-8/Ⅷ) ○60229(E-8/Ⅷ) ○61169(D-7/Ⅶ下) ○61420(G-7/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ケズリ→丁寧なナデ	-	-
240	290	3.15	○43419(C-10/Ⅷ) ○43420(C-10/Ⅷ)	角,輝,細粒	斜,横ハケ→ナデ	-	-
240	291	3.15	○29235(D-12/Ⅴ下) ○59241(F-7/Ⅷ)	輝,雲,砂粒	ナデ	-	-
241	292	3.151	○41970(E-8/Ⅷ) ○47985(C-13/Ⅴa)	角,砂粒	ハケ→ナデ,指頭痕	丁寧なナデ	-
241	293	3.151	◎39396(こ-30/Ⅳ上)	輝,細粒	ナデ	貝殻ナデ	-
241	294	3.151	-?(-/-) -568??(-/-)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
241	295	3.151	○58668(E-7/Ⅶ) ○58718(E-6/Ⅶ) ○59251(E-7/Ⅷ) ○59259(E-7/Ⅷ) ○62701(I-5/Ⅷ) ○63265(H-7/Ⅷ)	角,砂粒,輝	ハケ→ナデ,指頭痕	ハケ→ナデ	-
241	296	3.151	○36850(E-10/Ⅶ下) ○68024(I-12/Ⅷ)	輝,黒,砂粒	ケズリ→粗いナデ	-	-
241	297	3.151	○42194(C-9/Ⅶ下) ○58144(E-5/Ⅶ) ○58150(E-6/Ⅶ) ○59418(E-8/Ⅷ) ○60241(E-8/Ⅷ)	砂粒,角,輝	ハケ→ナデ	ナデ,ハケ→ナデ	-
242	298	3.151	○58639(E-7/Ⅷ) ○66781(G-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	底端部に刻み
242	299	3.151	○59043(F-7/Ⅷ上) ○59450(E-8/Ⅷ) ○59462(E-8/Ⅶ下)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
242	300	3.151	○42124(D-7/Ⅷ) ○58697(E-6/Ⅷ)	輝,細粒	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	-
242	301	3.151	○59123(E-7/Ⅷ) ○59245(E-7/Ⅷ) ○59246(E-7/Ⅷ) ○59545(E-7/Ⅷ)	輝,砂粒	ハケ→ナデ,ユビナデ	-	-
242	302	3.151	○37106(E-11/Ⅶ下) ○42118(D-8/Ⅴ横転) ○59478(E-8/Ⅷ) ○60233(E-8/Ⅷ) ○60978(G-7/Ⅷ) ○66022(G-10/Ⅷ)	輝,砂粒	ナデ	-	-

第66表　縄文早期土器観察表（24）（３群土器-14）

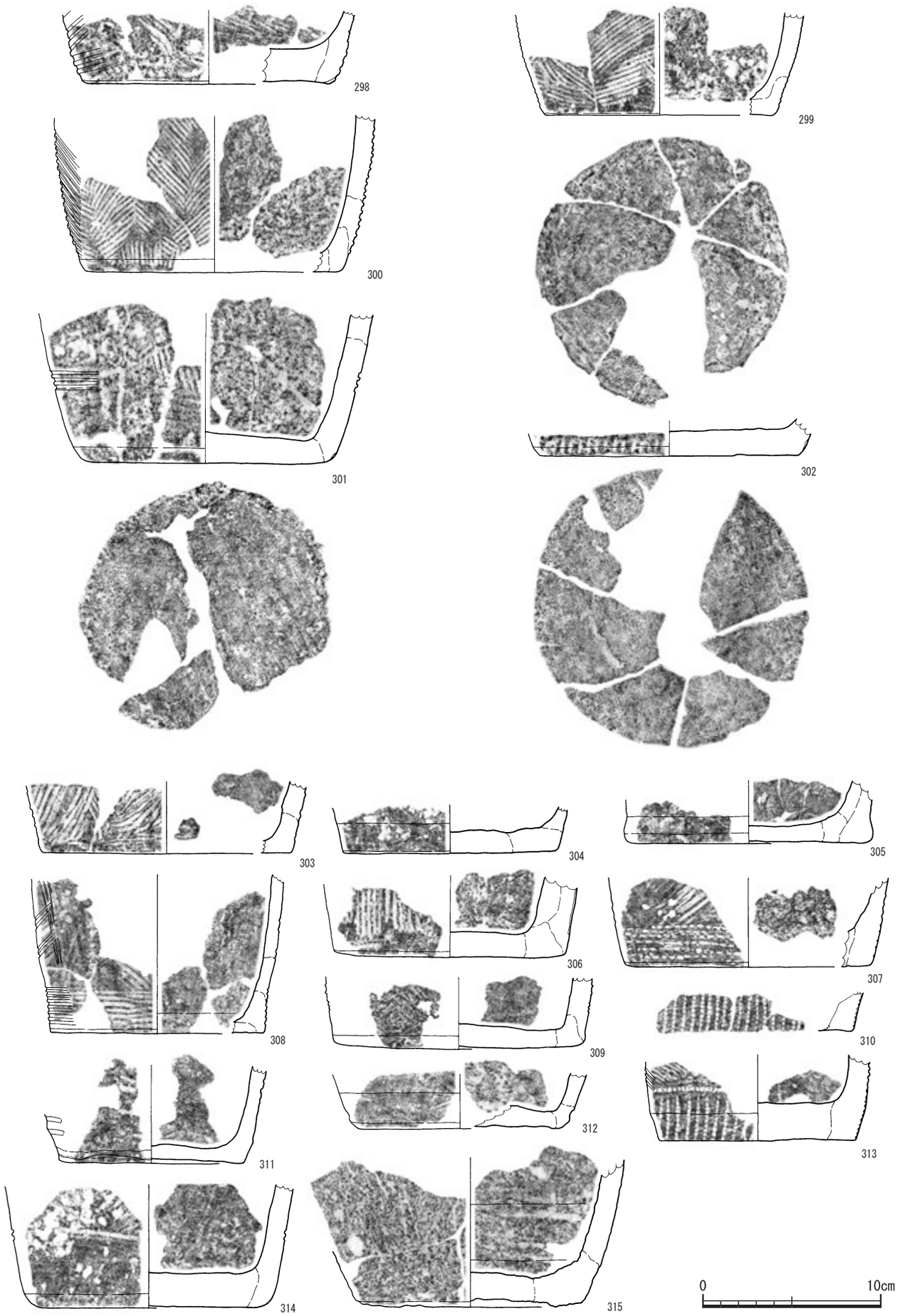
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
242	303	3.151	○37394(D-10/Ⅶ横転) ○66684(I-10/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ナデ	ナデ	内面全体に化粧土
242	304	3.151	○40894(E-8/Ⅶ) ○42084(D-8/Ⅷ) ○42530(D-8/Ⅷ下) ○66812(F-11/Ⅷ)	黒,砂粒	工具ナデ→ユビナデ	丁寧なナデ	-
242	305	3.151	○86(B-10/Ⅶ) ○106(B-10/Ⅶ)	砂粒,角	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	-
242	306	3.151	○2077(E-9/Ⅶ) ○35264(E-9/Ⅶ下)	角,砂粒	ナデ,ユビナデ	-	-
242	307	3.151	○58002(E-7/Ⅵa) ○59143(E-7/Ⅷ)	角,砂粒,赤粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	-
242	308	3.151	○37078(E-11/Ⅶ下) ○66614(H-11/Ⅶ) ○66714(I-10/Ⅷ)	角,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ	-
242	309	3.151	○59270(E-7/Ⅷ) ○63339(I-7/Ⅶ) ○65836(G-8/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
242	310	3.151	○61462(H-8/Ⅷ) ○66834(I-9/Ⅶ下)	角,砂粒	-	丁寧なナデ	明瞭な接合痕
242	311	3.151	○65918(F-10/Ⅷ上) ○65918(F-10/Ⅷ上) ○66050(F-10/Ⅷ) ○66737(F-10/Ⅶ) ○66738(F-10/Ⅶ) ○67008(F-9/Ⅷ)	黒,細粒	横ハケ→ナデ, ユビ→ナデ	粗いナデ	-
242	312	3.151	○35427(C-10/Ⅶ横転) ○35806(C-10/Ⅶ)	輝,砂粒	ケズリ→粗いナデ, ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ, ハケ→ナデ	-
242	313	3.151	○55737(H-8/Ⅶ) ○66516(H-8/Ⅷ)	角,砂粒	ハケ→ナデ	ミガキ	-
242	314	3.151	○42536(E-8/Ⅷ) ○59461(E-8/Ⅷ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ,ヘラナデ	ナデ	-
242	315	3.151	○849(E-9/Ⅵa) ○850(E-9/Ⅵa) ○36694(D-10/Ⅵ) ○37056(E-11/Ⅷ) ○40644(D-8/Ⅶ) ○40921(D-8/Ⅶ下)	輝,細粒	ヘラケズリ→粗いナデ, ヘラケズリ→粗いナデ	-	-
243	316	3.151	○58126(E-6/Ⅶ) ○60224(E-8/Ⅷ) ○60666(E-8/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	ナデ	底面に白色粒物,底面に数か所貝殻で刺した跡あり
243	317	3.151	○42529(D-8/Ⅷ下) ○59077(F-7/Ⅶ下) ○60929(G-7/Ⅶ下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→粗いナデ	-
243	318	3.151	○64438(I-8/Ⅶ) ○66160(F-11/Ⅶ)	角,輝,砂粒	指頭痕	ケズリ→ナデ	-
243	319	3.151	○60845(-/Ⅷ) ○64449(I-7/Ⅶ)	砂粒,輝,白粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	-
243	320	3.151	○66167(F-11/Ⅶ) ○66903(H-10/Ⅶ)	角,輝,細粒	ケズリ→ナデ	-	-
243	321	3.151	○36170(C-11/Ⅶ) ○36189(C-11/Ⅶ) ○37960(C-11/Ⅷ)	角,砂粒	工具ナデ,ユビナデ	-	-
243	322	3.151	○36691(D-10/Ⅵ) ○36770(E-9/Ⅷ)	砂粒,角,輝	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	器壁が薄い
243	323	3.151	○60195(E-7/Ⅶ) ○60297(E-7/Ⅶ) ○60825(G-7/Ⅶ)	角,輝,細粒	指頭痕,ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
244	324	3.113	▲3328(G-18/Ⅶ) ▲3646(H-18/Ⅶ) ▲3946(H-18/Ⅶ) ▲5324(G-18/Ⅶ)	角,黒,輝,細粒	縦ハケ→ナデ	-	-
244	325	3.15	▲1975(I-19/Ⅶ) ▲1985(I-19/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
244	326	3.15	▲16156(J-9/Ⅵa) ▲19514(-/-)	輝,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	砂粒多量
244	327	3.15	▲3316(G-18/Ⅶ) ▲3332(G-18/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
244	328	3.122	▲11091(J-20/Ⅷ)	角,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
244	329	3.15	▲2060(I-19/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
244	330	3.15	▲4377(I-17/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-



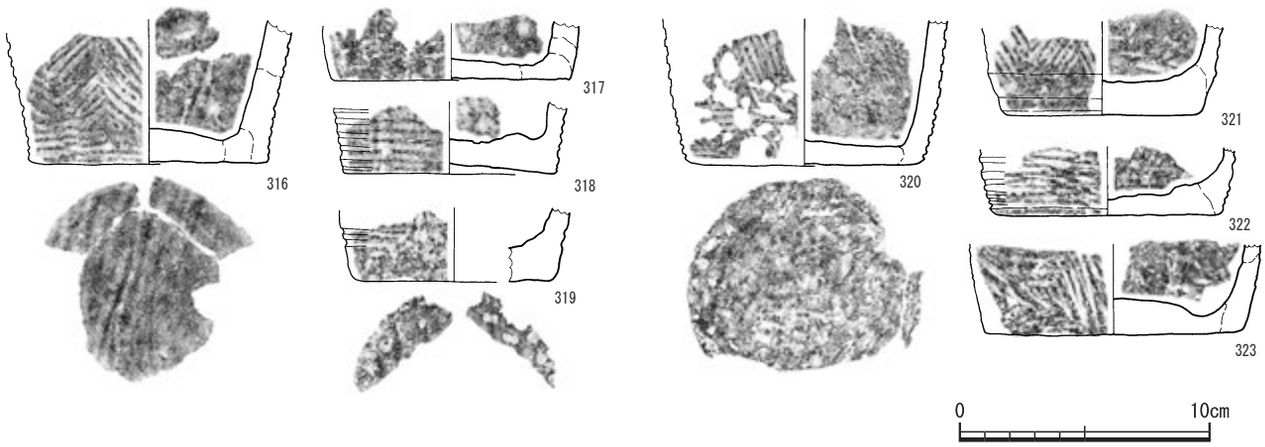
第240図　縄文早期土器実測図（42）（3.15群土器/桐木調査区出土）



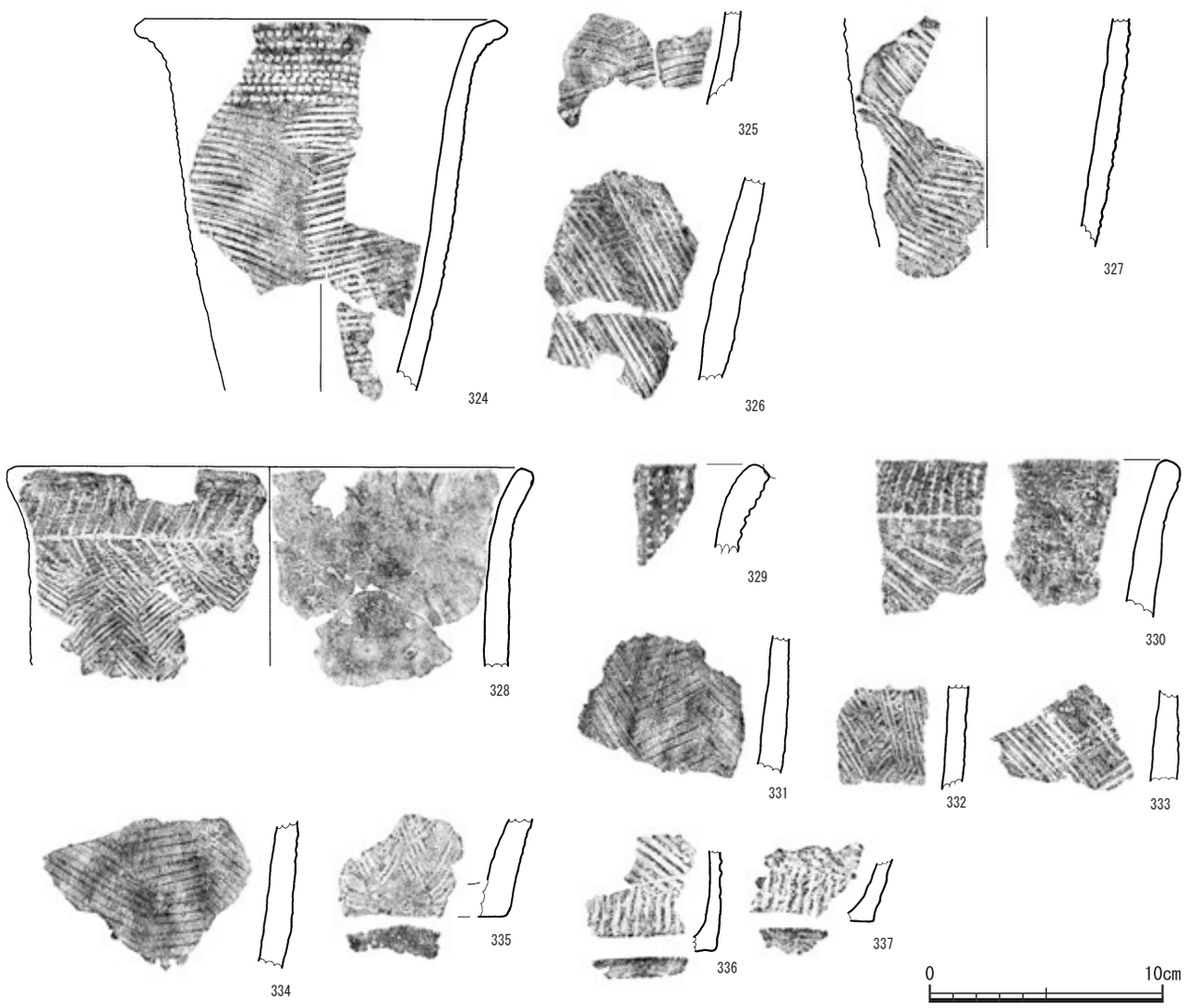
第241図　縄文早期土器実測図（43）（3.151群土器/桐木調査区出土）



第242図　縄文早期土器実測図（44）（3.151群土器/桐木調査区出土）



第243図　縄文早期土器実測図（45）（3.151群土器/桐木調査区出土）



第244図　縄文早期土器実測図（46）（3.113群土器/3.122群土器/3.151群土器/耳取調査区出土）

第67表　縄文早期土器観察表（25）（３群土器-15）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
244	331	3.15	▲2083(I-19/Ⅷ)	繊,細粒	ハケ→ナデ	-	-
244	332	3.15	▲11083(J-20/Ⅶ)	角,繊,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
244	333	3.15	▲15248(I-10/Ⅶ)	角,砂粒	斜ケズリ→粗い	-	砂粒多量
244	334	3.15	▲2031(I-19/Ⅶ)	角,繊,細粒	ハケ→ナデ	-	-

第68表　縄文早期土器観察表（26）（３群土器-16）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
244	335	3.151	▲11090(J-20/Ⅶ)	角,繊,細粒	-	-	混和材:角閃石
244	336	3.151	▲1925(I-19/Ⅵa) ▲1995(I-19/Ⅶ)	角,繊,雲,細粒	縦ケズリ→ナデ	底面:ハケ→ナデ	-
244	337	3.151	▲2020(I-19/Ⅶ)	繊,角,雲,細粒	縦ケズリ→粗いナデ	底面:ハケ→ナデ	-

３　縄文時代早期中葉の土器群

桐木耳取遺跡で出土した縄文時代早期中葉の時期に属する土器は，概要の項で示したように５群に大別できた。

さて出土分布図から縄文時代早期中葉の土器群は，主に耳取調査区北側地区および耳取調査区南側地区に集中していることが指摘できる。そして桐木調査区西側地区では部分的にまとまって出土し，桐木調査区南側地区や桐木調査区北側地区では点々と散在して出土している(第182図参照)状況が指摘できる。

これらの土器群はさらに，土器型式別に細別が可能であるため，順次報告を行うことにする。

第４群土器(第251図～第261図338～408)

第４群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴から，さらに４類に分類できた。

本群に属する土器は層位的にはⅦ層とを中心にⅧ層でも出土しているが，上層のⅥ層やⅤ層からも出土しており，地層の横転や後世の撹乱が激しかったことが認められる。

第４群土器第１類土器(分類記号4.1，第251図～第254図338～351)

第４群土器第１類土器に属する土器を14点資料化した。

器形的特徴としては２種類に分けられるといえる。

第１タイプ土器は，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は若干内弯して，口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。そして，胴部は直線的にすぼまり，底部は平底を呈するのが特徴である(第251図～第252図338～346)。

第２タイプ土器は，口縁形態は平口縁を呈し，口縁上端部のみが若干内弯する以外は，口縁部はほぼ直行する。特に口縁上端部外面はほぼ45°の角度で丸く削られている。見かけ上，口縁部の内弯形態を強調するのが特徴である(第254図349～351)。

施文的特徴としては，波状を呈する貝殻刺突文が本類土器細別の指標である。口縁部文様帯には横位方向に貝殻刺突文を数条巡らし，胴部文様帯全面には羽状あるいは鋸歯状の貝殻刺突文を縦位方向あるいは斜位方向に施し，さらに胴部下端部には羽状文を１列横位方向に巡らす特徴がある。

調整方法としては，内器面では，木製工具によるハケ調整の後にナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。また，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器も中には見受けられた。しかし，これらの調整方法の違いと相関関係を高く示す他の属性は無かった。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石を含む土器と，主に黒雲母を含む土器とに分かれた。また粗い粒度の鉱物が含まれる土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も共に多かったが，角閃石を含む土器には細かい粒度の鉱物で構成される土器が多く観られた。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｂ～Ｆ－７～10区周辺に集中していることを指摘できる(第246図・第249・250図参照)。この分布域は，次の第４群土器第２類土器や第３類土器そして第４類土器の分布域とは明らかに異なっており(第246・247図・第249・250図参照)，注目できる。

第４群土器第２類土器(分類記号4.2，第255・256図352～376)

第４群土器第２類土器に属する土器を25点資料化した。

器形的特徴としては第１類土器と同様に２種類に分けられることが特徴である。

第１タイプ土器は，口縁形態が平口縁を呈し，口縁部が若干内弯し，口唇部が水平あるいは内傾する平坦面を作出する。また，胴部は直線的にすぼまり，底部は平底もしくは若干の上げ底となるのが特徴である(第256図359～376)。器形的には第４群土器第１類土器第１タイプ土器と共通する。

第２タイプ土器は，口縁形態は平口縁を呈し，口縁上端部が若干内弯し，口縁部はほぼ直行する。特に口縁上端部外面は，ほぼ45°の角度で丸く削られ，見かけ上，口縁部の内弯形態を強調するのが特徴である(第255図352～358)。器形的には第４群土器第１類土器第２タイプ土器と共通する。

施文的特徴としては，「コ」字状を呈する貝殻押引文が本類土器細別の指標である。口縁部文様帯には横位方向に貝殻押引文を数条から十数条施す土器と，羽状に貝殻押引文を横位方向に巡らす土器とが挙げられる。また，胴部文様帯は胴部下端部にかけて全面にわたり，横位方向に貝殻押引文を施す土器と，縦位方向に羽状もしくは鋸歯状の貝殻押引文を施す土器とに分けられることが指摘できる。

調整方法としては，内器面では，木製工具によるハケ調整の後に丁寧なナデ調整を最終調整としている土器が多数を占めた。また，第４群土器第１類土器では主体であった最終調整としてナデ調整に止める土器や，ミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器も少量見受けられることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石を含む土器と，主に黒雲母を含む土器とがあるのは，第４群土器第１類土器と共通している。また，細かい粒度の鉱物で構成される土器が多く観られたことは，第４群土器第１類土器とは様相を異にしている。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｋ－２～６区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｄ・Ｅ-11～16区周辺とに集中していることが指摘できる(第246図・第249・250図参照)。この分布域は，桐木調査区北側地区のなかでも第４群土器第１類土器の分布域とは異なる状況にある。また，第４群土器第３類土器の分布域とは，耳取調査区北側地区では重なるのに対して，桐木調査区北側地区では異なることが指摘できる。

ここで注目できるのは，第１タイプ土器に分類した土器は耳取調査区北側地区から出土しているのに対して，第２タイプ土器に分類した土器は桐木調査区北側地区から出土しており，第４群土器第２類土器のなかでも分布域を異にすることである。この状況は，器形的には類似する第４群土器第１類

土器とは異なる状況であり，解釈には慎重を要する。

第４群土器第３類土器(分類記号4.3，第257図～第259図377～404)

第４群土器第３類土器に属する土器を28点資料化した。

器形的特徴としては口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は若干内弯し，口唇部は内傾する平坦面を作出することが挙げられる。次に，胴部形態では直線的にすぼまる土器が主体を占めるが，弯曲しながらすぼまる土器(第259図404)もあり，２種に分けることが可能である。さらに資料化できた底部形態は第257図389の１点ではあるが，若干の上げ底を呈することが指摘できる。

施文的特徴としては，文様構成で４タイプに分類できる。

第１タイプ土器は，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて箆状工具による羽状文を横位方向に連続して施す土器(第257図～第259図377,379,381,382,384,396,397)である。

第２タイプ土器は，口縁部文様帯には貝殻刺突文を横位方向に数条施し，その直下以下には箆状工具による羽状文を横位方向(第257図～第259図378,380,383,386)あるいは縦位方向(第257図385)に施す土器である。

第３タイプ土器は，胴部文様帯に貝殻刺突文を横位方向に３～４条巡らした部分と，箆状工具による羽状文を横位方向に数条施した部分とを交互に施す土器(第257図～第259図388,389,393,395,398～404)である。

第４タイプ土器は，胴部文様帯に箆状工具による連続した刺突文で縦位方向に沈線文と羽状文とを施文する部分を，交互に施しながら胴部全面に横位方向に施文する土器(第258・259図387,395)である。

本群においては，口縁部から底部まで接合した事例が少なく，口縁部文様帯と胴部文様帯との組合わせは不明である。

調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めた。この状況は第４群土器第２類土器に比べ，更にナデ調整が丁寧であることが指摘できる。また，第４群土器第１類土器で主体であった直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられることは，第４群土器第２類土器と同様である。

しかし，これらの調整方法の違いと高い相関関係を示す他の属性は無かった。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母や輝石などからなる土器が多数観られた。特に黒雲母を多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

また，粗い粒度の鉱物が含まれる土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も共に多かったが，第４群土器第１類土器や第２類土器と比べて，その含まれる割合は共に多い状況が指摘できる。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｈ-３～５区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ａ-11区周辺と，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ～Ｈ-21～26区周辺とに集中していることを指摘できる(第247図・第249・250図参照)。この分布域は，耳取調査区では第４群土器第２類土器の分布域とは重なる。しかし，桐木調査区では第４群土器第１類土器や第２類土器の分布域とは異なることが指摘でき，注目できる。

第４群土器第４類土器(分類記号4.4，第260・261図405～408)

第４群土器第４類土器に属する土器を４点資料化した。

本類土器は，施文的特徴では本群に属する土器ではあるが，器形的特徴などの諸属性ではどの類にも帰属し得なかった土器である。今後注意を要する土器として本類に細別した。

耳取調査区Ｊ-８区で出土した第260図405,406は，同一個体の土器である。

器形的特徴としては，口縁部から胴部上半にかけて強く外反し，胴部はほぼ直行する器形を呈する特徴を有している。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，箆状工具による羽状文を縦位方向に数段ずつ施した後に横位方向に巡らす部分と，貝殻刺突文を横位方向に数条施す部分とを交互に施し，第４群土器第３類土器と同様の文様を構成することである。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に最終調整としてナデ調整を行う土器である。この調整方法は，第４群土器第１類土器で主体であった方法である。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石と輝石で構成され，粗い粒度の鉱物が含まれる土器であった。

耳取調査区Ｈ～Ｉ-３～７区周辺で出土した第261図407,408は鉢形土器である。

器形的特徴としては，口縁部は短く外に開き，胴部は外面は膨らみ基本的には直立する形態であることが指摘できる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部上半にかけては貝殻刺突文による羽状文を横位方向に巡らし，胴部上半から胴部下半にかけては貝殻刺突文と貝殻条痕文とで文様を構成していることが挙げられる。文様構成からは第４群土器第２類土器に類似する土器である。

調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器である。この調整方法は，第４群土器第３類土器で主体であった方法である。

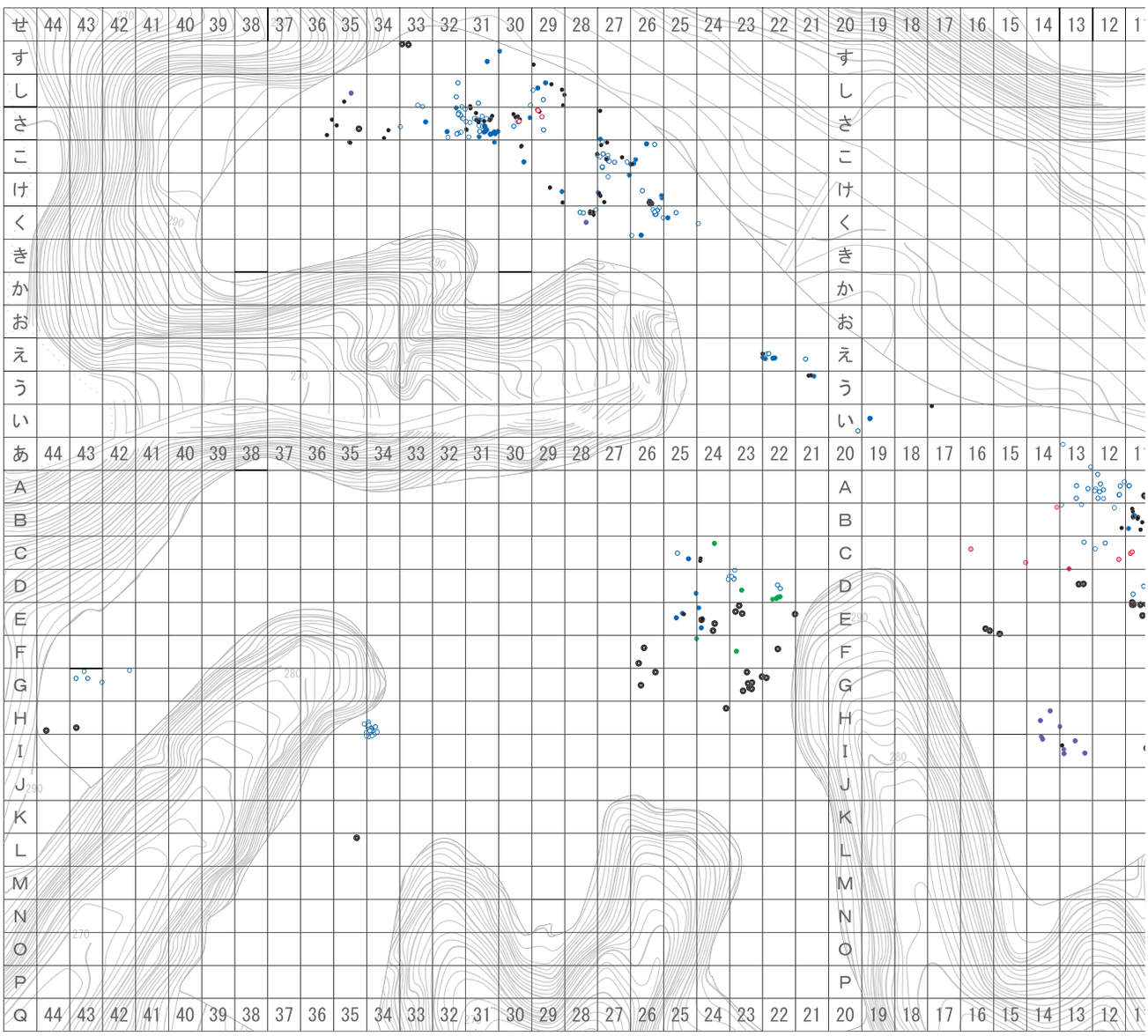
本類土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母と輝石，雲母で構成され，細かい粒度の鉱物を含む土器であった。

これらの土器群は，他の土器と比べて，それぞれ器形的特徴や調整方法と施文的特徴との間に高い相関関係は認められない特異な土器であり，今後注意を要する。

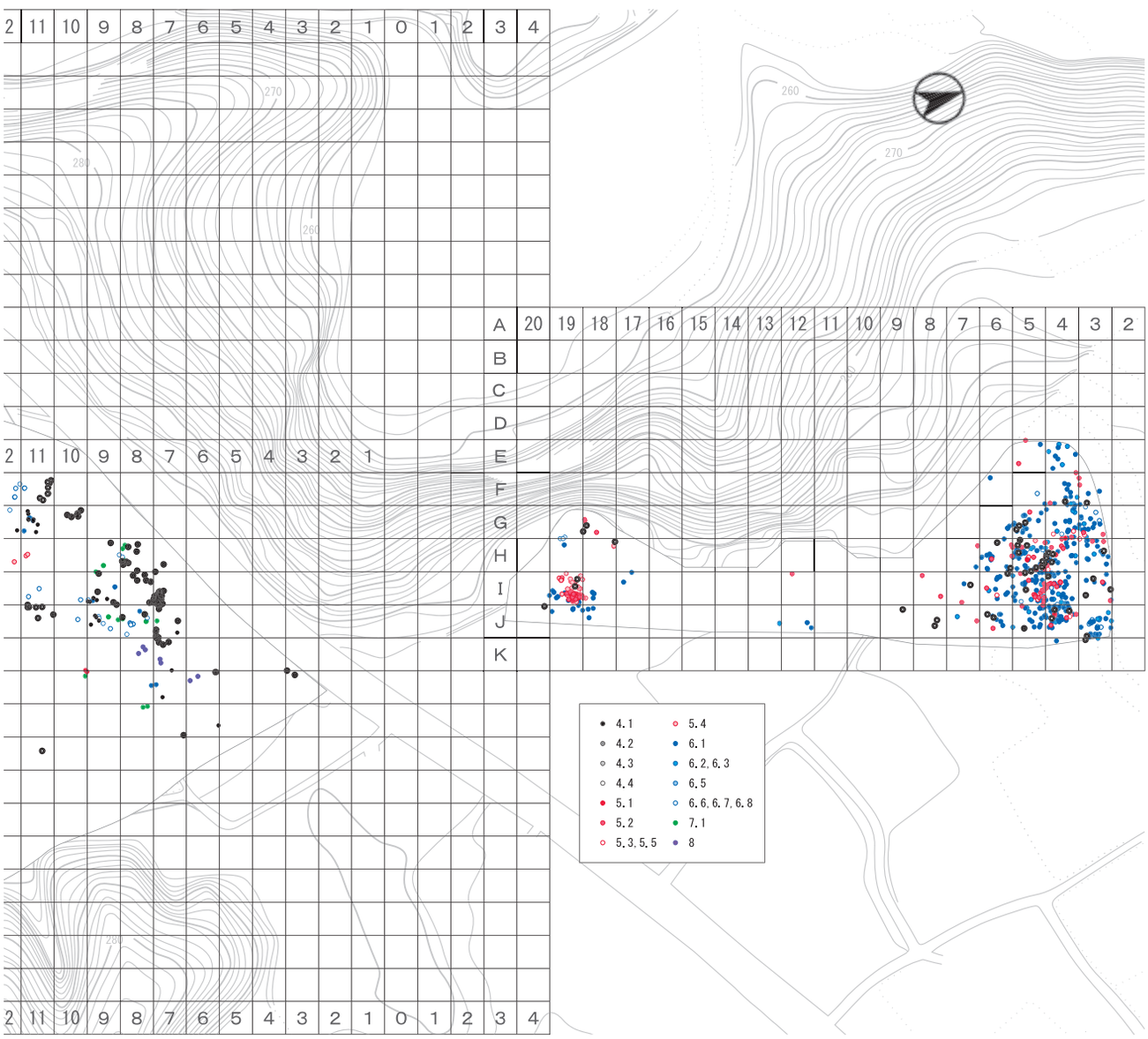
第５群土器(第264図～第273図409～461)

第５群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴から，さらに５類に分類できた。

本群に属する土器は層位的には主にⅦ層を中心に出土して



第245図　縄文早期土器分布図20（1/2000）


2 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
4.1
4.2
4.3
4.4
5.1
5.2
5.3,5.5
5.4
6.1
6.2,6.3
6.5
6.6,6.7,6.8
7.1
8

いるが，より下層であるⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土しており，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

第５群土器第１類土器(分類記号5.1，第264・265図409～412)

第５群土器第１類土器に属する土器を４点資料化した。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は若干内弯し，口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。また胴部は直線的にすぼまるのが特徴である。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，貝殻もしくは櫛歯状工具による斜方向の押引文(条痕文)を横位方向に施した後に，直下の段には合わせて羽状文になるように，斜方向の押引文(条痕文)を横位方向に施すのが，本類細別の最大の特徴である。

調整方法としては，内器面では，ミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器や，篦状工具によるナデ調整を行う土器が多くみられた。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に輝石や雲母で構成され，粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴である。ここで注目できるのは，赤色の粒子が多く含まれることである。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ－４・５区周辺に集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。この分布域は，第５群土器第２類土器や第３類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第５群土器第２類土器(分類記号5.2，第266図～第269図413～445)

第５群土器第２類土器に属する土器を33点資料化した。

器形的特徴としては，口縁形態が平口縁を呈し，口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第266図413,422)と，口縁部が若干内弯して口唇部は内傾する平坦面を作出する土器(第269図439,440)とがあることが指摘できる。また，胴部は直線的あるいはやや緩やかにすぼまり，底部は平底を呈するのが特徴である。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，貝殻もしくは櫛歯状工具による斜方向の押引文(条痕文)を組み合わせて施した羽状文を，横位方向に巡らすのが，本類細別の最大の特徴である。

調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられる。この特徴は，第４群土器第３類土器に観られた調整方法に近い状況であることが指摘できる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成されるのが特徴である。

ここで注目できるのは，４点である。

第１に，量的には角閃石を含む土器が多く，黒雲母を含む土器は少ないことが挙げられる。

第２に，角閃石も黒雲母も共に胎土中に多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

第３に，粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴であるが，黒雲母を含む土器については，胎土が精選され，微粒のみで構成されていることが指摘できる。

第４に，黒曜石を含む土器が多いことである。また赤色の粒子が多く含まれるの第５群土器第１類土器と同様であり，共に今後注意を要する。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｅ～Ｊ－３～８区周辺と，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｉ-18・19区周辺とに集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。この分布域は，耳取調査区北側地区では第５群土器第１類土器や第３類土器の分布域と重なり，耳取調査区南側地区では第５群土器第４類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第５群土器第３類土器(分類記号5.3，第270図446～450)

第５群土器第３類土器に属する土器を５点資料化した。

本類に属する土器は，器形的特徴では第５群土器第１類土器や第２類土器に属する土器ではあるが，施文的特徴などの諸属性ではどの類にも帰属し得なかった土器である。今後注意を要する土器として，本類に細別した。

第270図446～448は深鉢形土器の口縁部資料である。

器形的特徴としては，口縁形態が平口縁を呈し，口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第270図446)と，口縁部が直線的に外に開き口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第270図447,448)とがあることが指摘できる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯に貝殻もしくは篦状工具による斜方向の押引文を横位方向に巡らすことが挙げられる。しかも，第５群土器第１類土器や第２類土器に比べて施文単位の長さは長く，幅は広いのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器であり，なかには初期の調整であるケズリ調整が観られる土器もあった。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成されるのが特徴である。

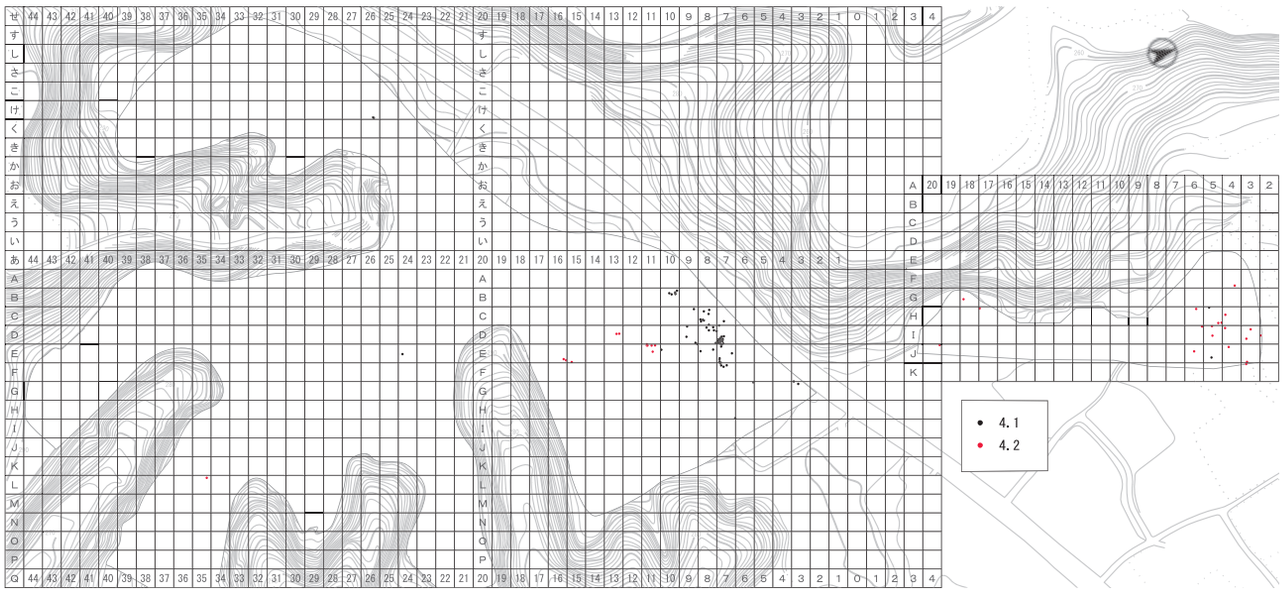
第270図449は底部資料である。

器形的特徴としては，底面が若干上げ底を呈することが，施文的特徴としては，胴部文様帯にかけて貝殻刺突文を横位方向に数条施すことが指摘できる。

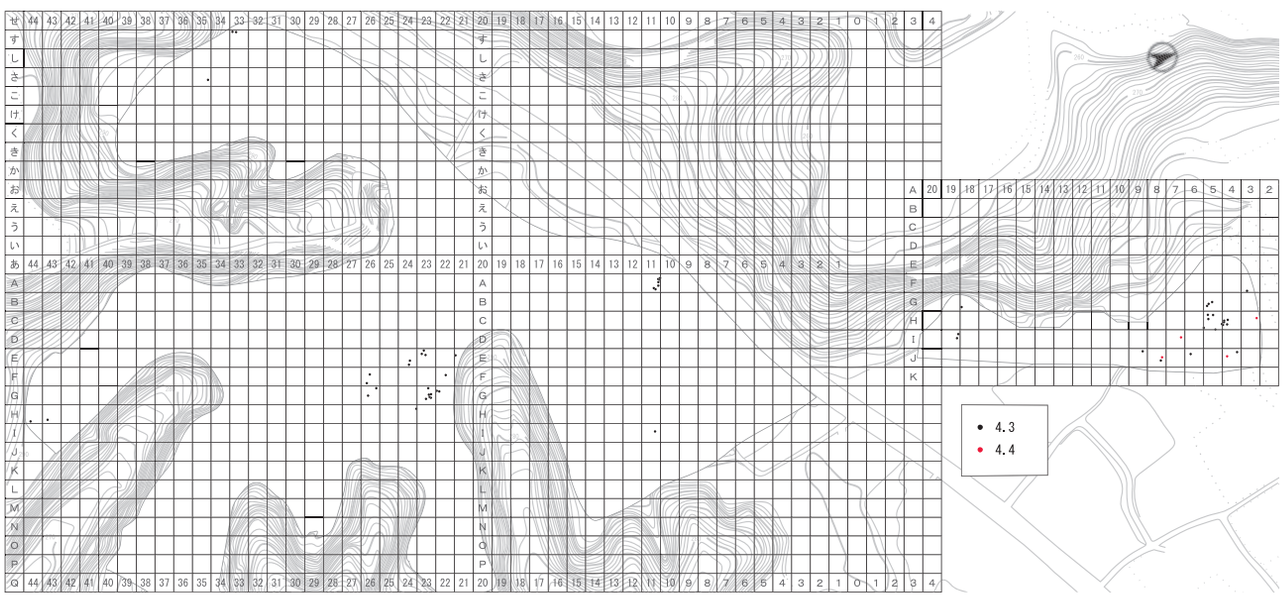
また調整方法としては，内器面では最終調整としてミガキ調整が，底面ではミガキに近い丁寧なナデ調整が行われていることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成され，粗い粒度の鉱物を含む土器であるのが特徴である。

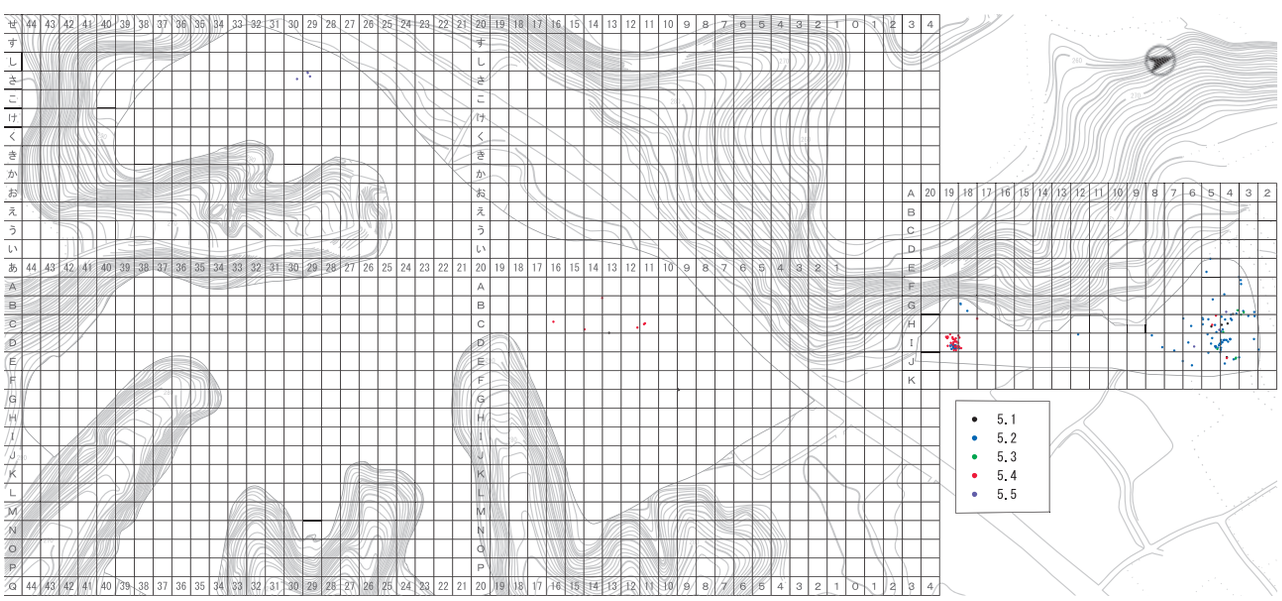
さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｊ－３～５区周辺に



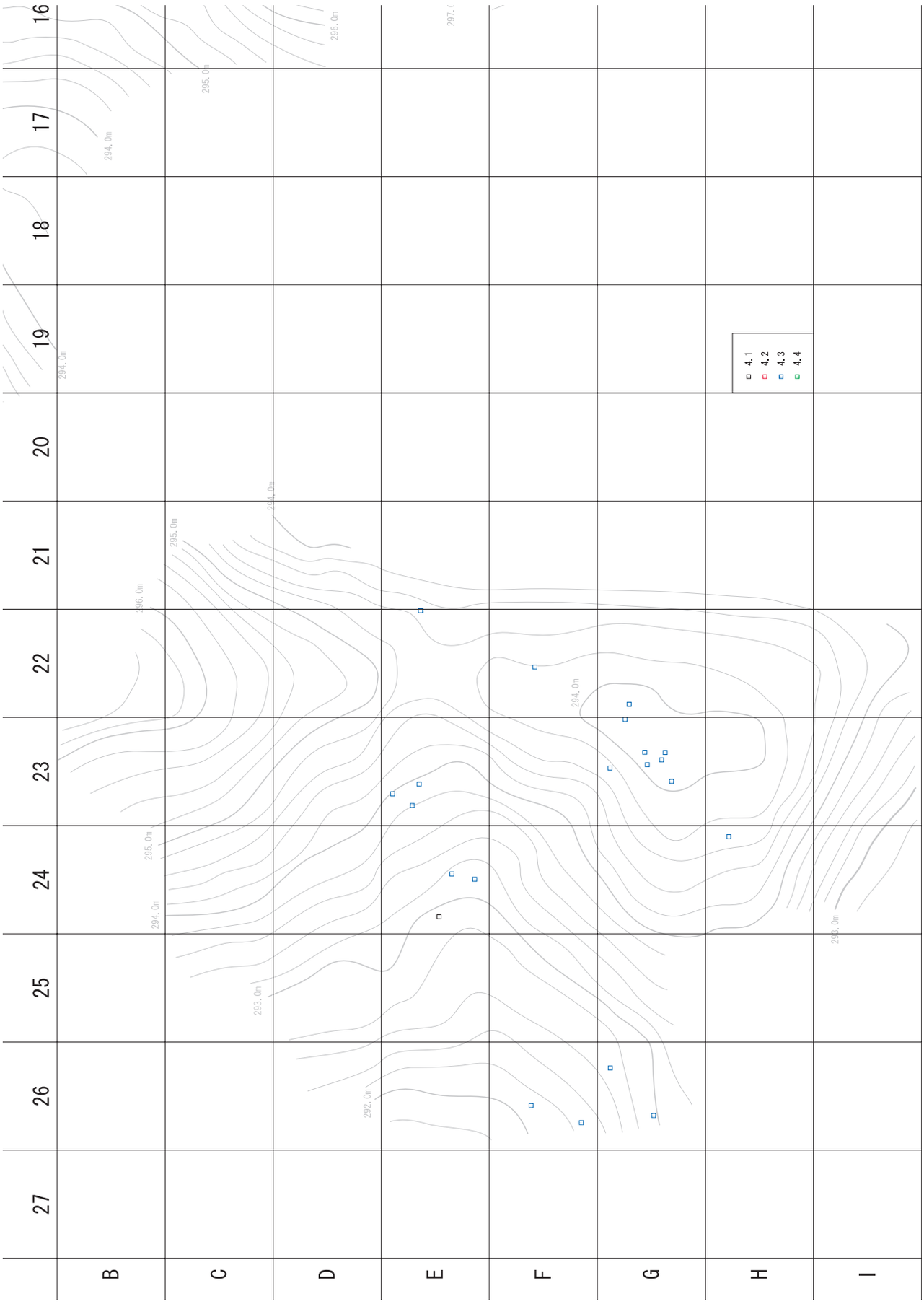
第246図　縄文早期土器分布図21（4.1群土器/4.2群土器，1/4000）



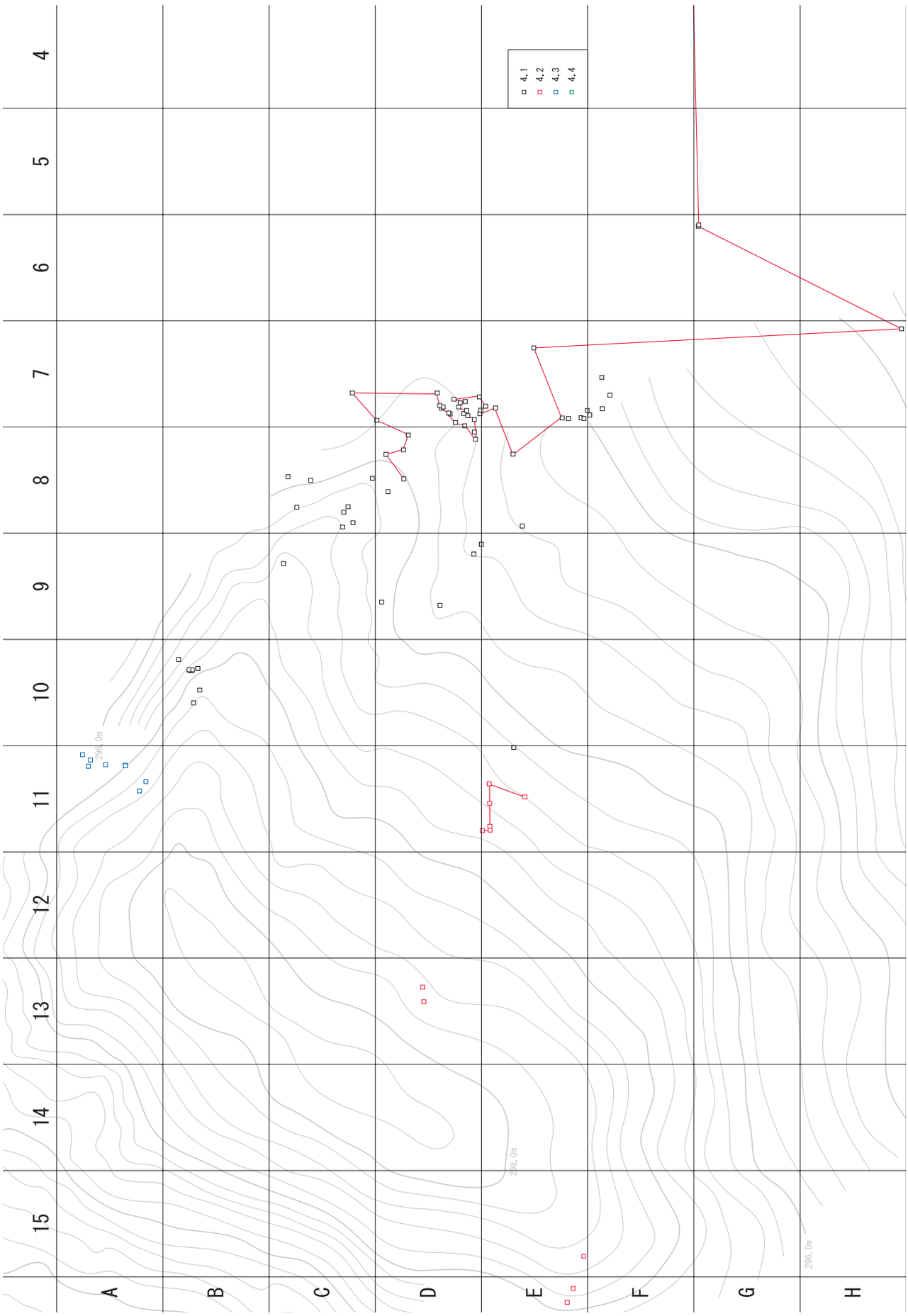
第247図　縄文早期土器分布図22（4.3群土器/4.4群土器，1/4000）



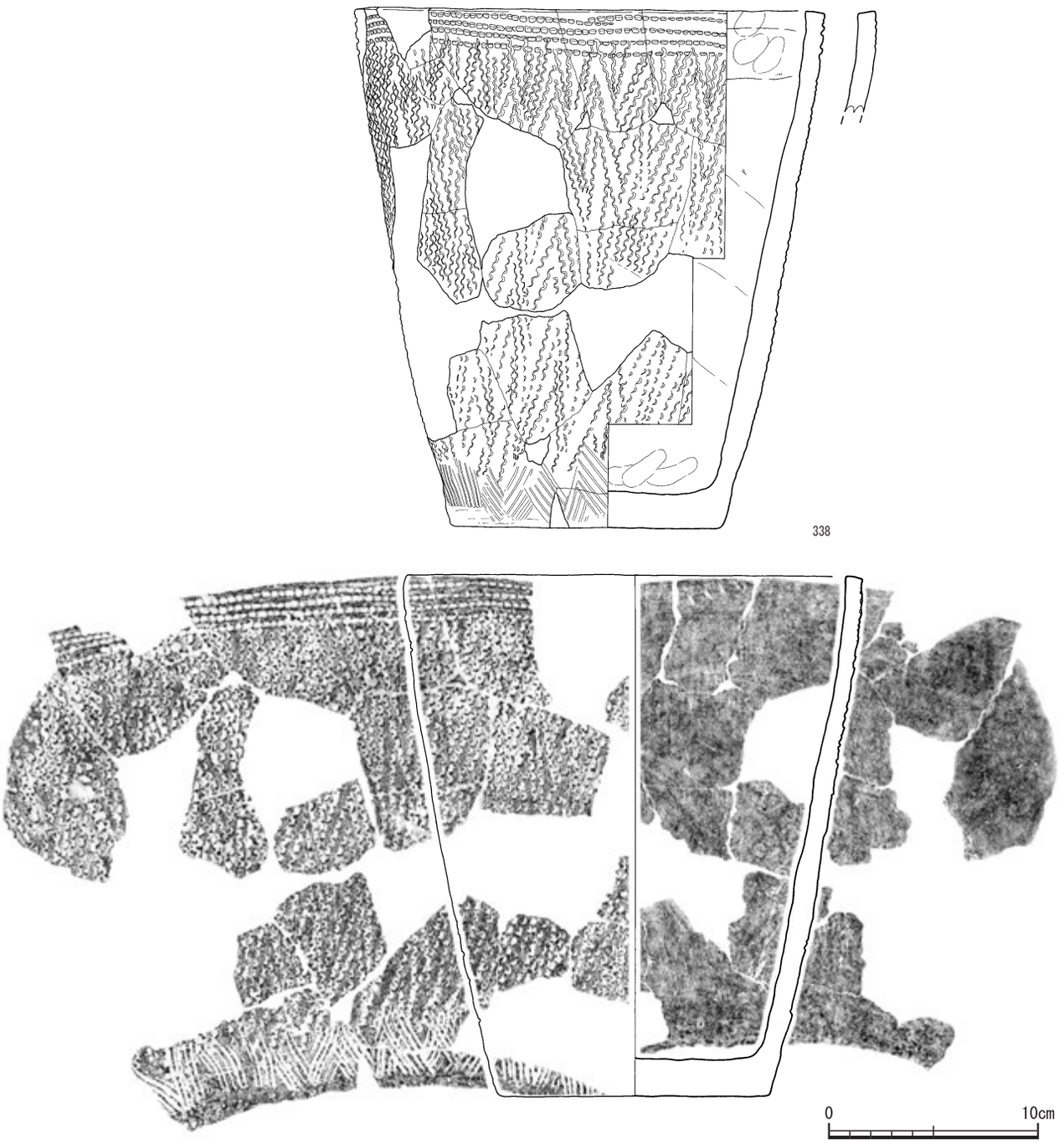
第248図　縄文早期土器分布図23（5群土器，1/4000）



第249図　縄文早期土器分布図24（第4群土器1，1/500）



第250図　縄文早期土器分布図25（第４群土器２，1/500）



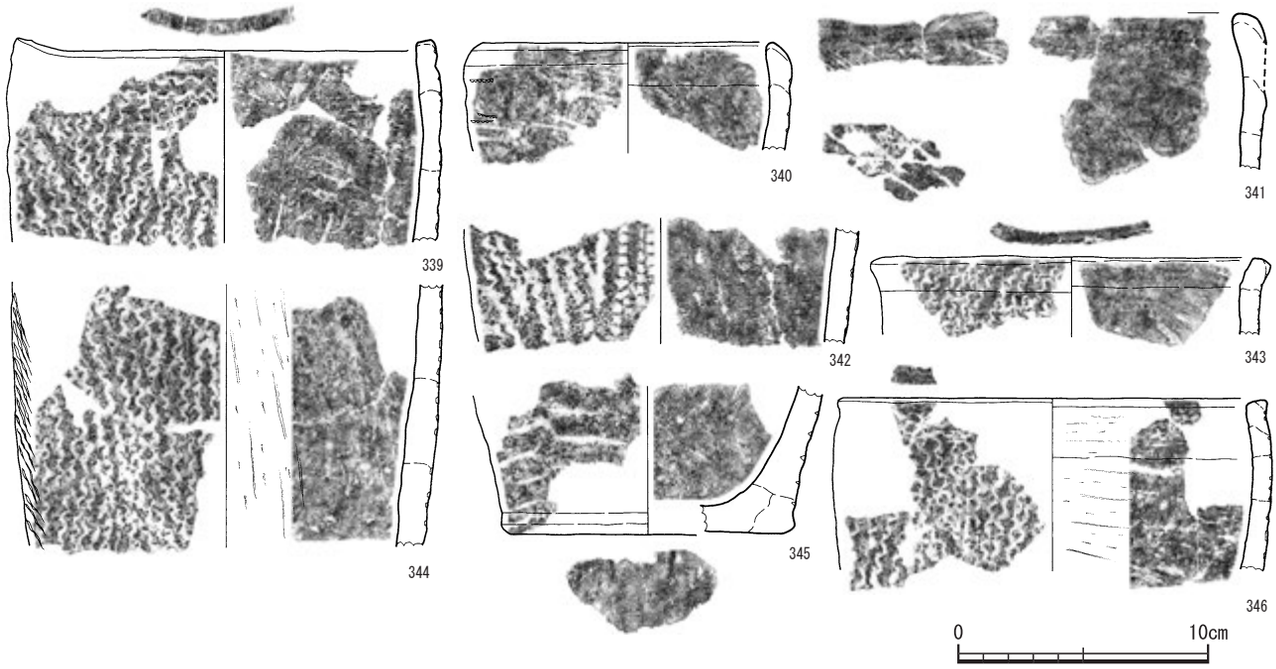
第251図　縄文早期土器実測図（47）（4.1群土器/桐木調査区出土）

第69表　縄文早期土器観察表（27）（4群土器-1）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
251	338	4.1	○2193(D-8/Ⅶ) ○40677(D-8/Ⅶ) ○40683(D-8/Ⅶ) ○40720(D-8/Ⅶ) ○40729(D-7/Ⅶ) ○41439(D-7/Ⅶ下) ○41452(D-7/Ⅶ上) ○41463(D-7/Ⅶ) ○41465(D-7/Ⅶ) ○42069(D-8/Ⅷ) ○42107(D-8/Ⅷ) ○42125(D-7/Ⅷ下) ○42126(D-7/Ⅷ) ○42128(D-7/Ⅷ) ○55270(D-7/Ⅲ) ○58599(E-7/Ⅶ) ○58644(E-7/Ⅶ) ○59299(E-7/Ⅷ)	黒,砂粒	丁寧なナデ	-	-

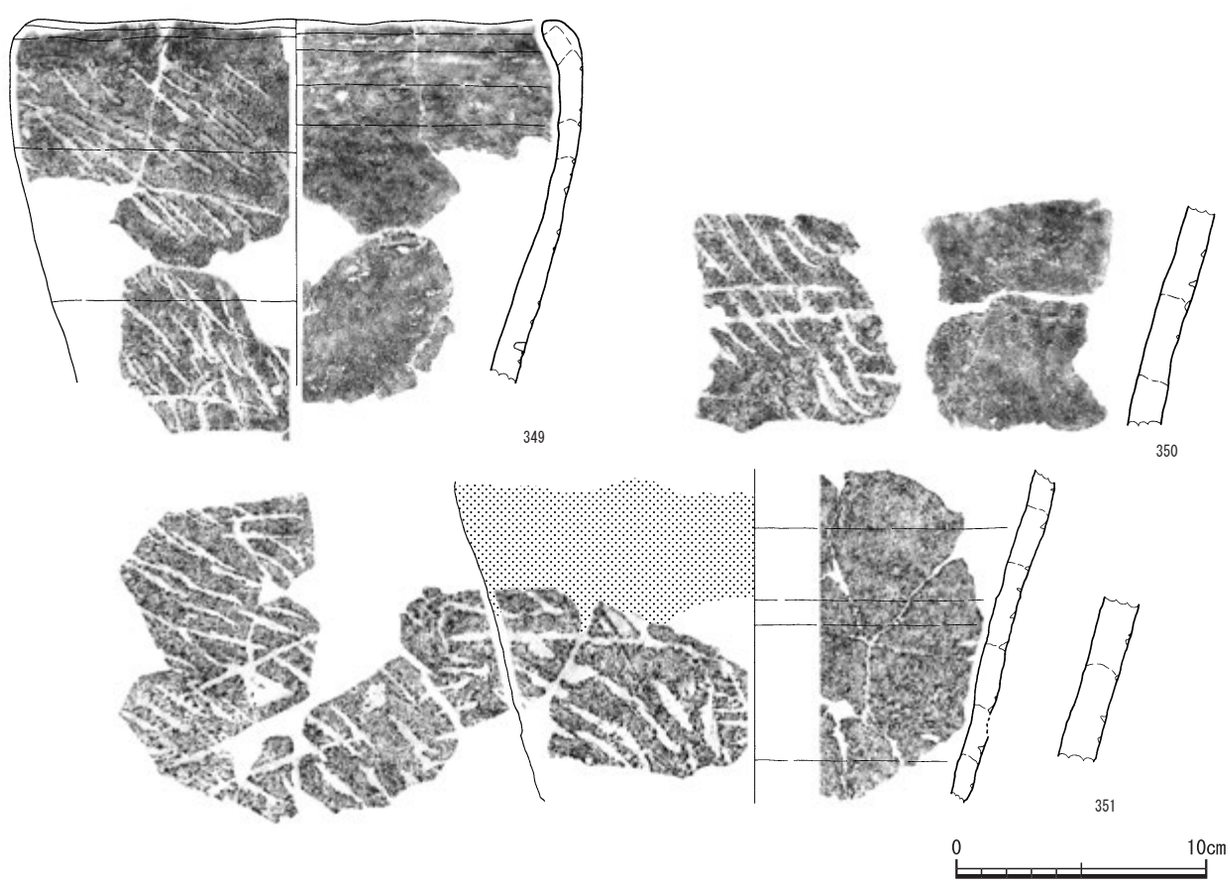
第70表　縄文早期土器観察表（28）（4群土器-2）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
251	338	4.1	○59498(D-7/Ⅶ) ○60242(E-8/Ⅷ) ○60345(F-3/Ⅷ上) ○60471(G-6/Ⅷ) ○60472(G-6/Ⅷ) ○60715(E-7/Ⅶ) ○60718(D-7/Ⅶ) ○60725(D-7/Ⅶ) ○60726(D-7/Ⅶ) ○60728(D-7/Ⅶ) ○60733(D-7/Ⅶ) ○60734(D-7/Ⅵ下) ○60766(D-7/Ⅶ) ○61176(D-7/Ⅷ) ○61184(D-7/Ⅷ) ○61188(D-7/-) ○61196(C-7/Ⅷ下) ○62372(G-3/Ⅹ) ○63294(H-7/Ⅷ)	黒,砂粒	丁寧なナデ	-	-

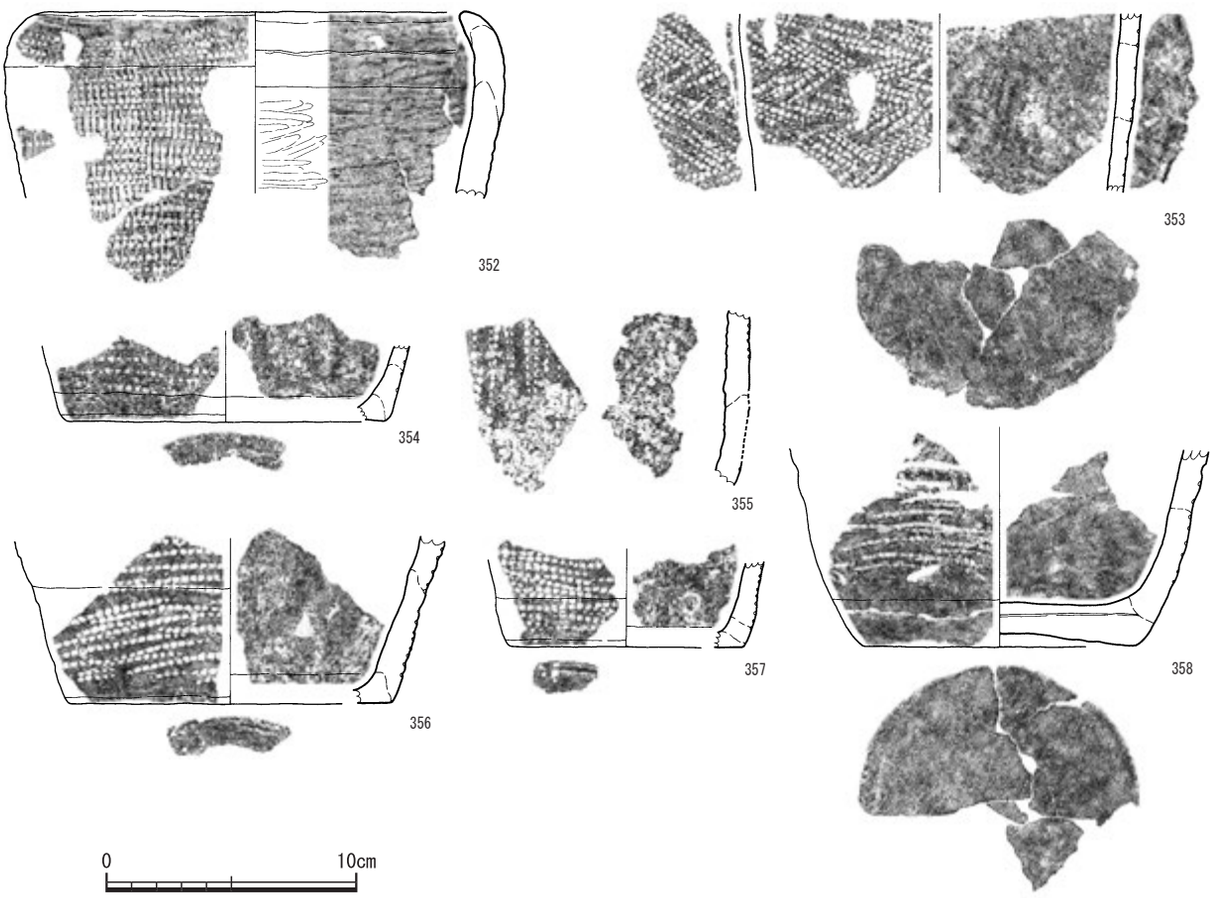


第252図　縄文早期土器実測図（48）（4.1群土器/桐木調査区出土）

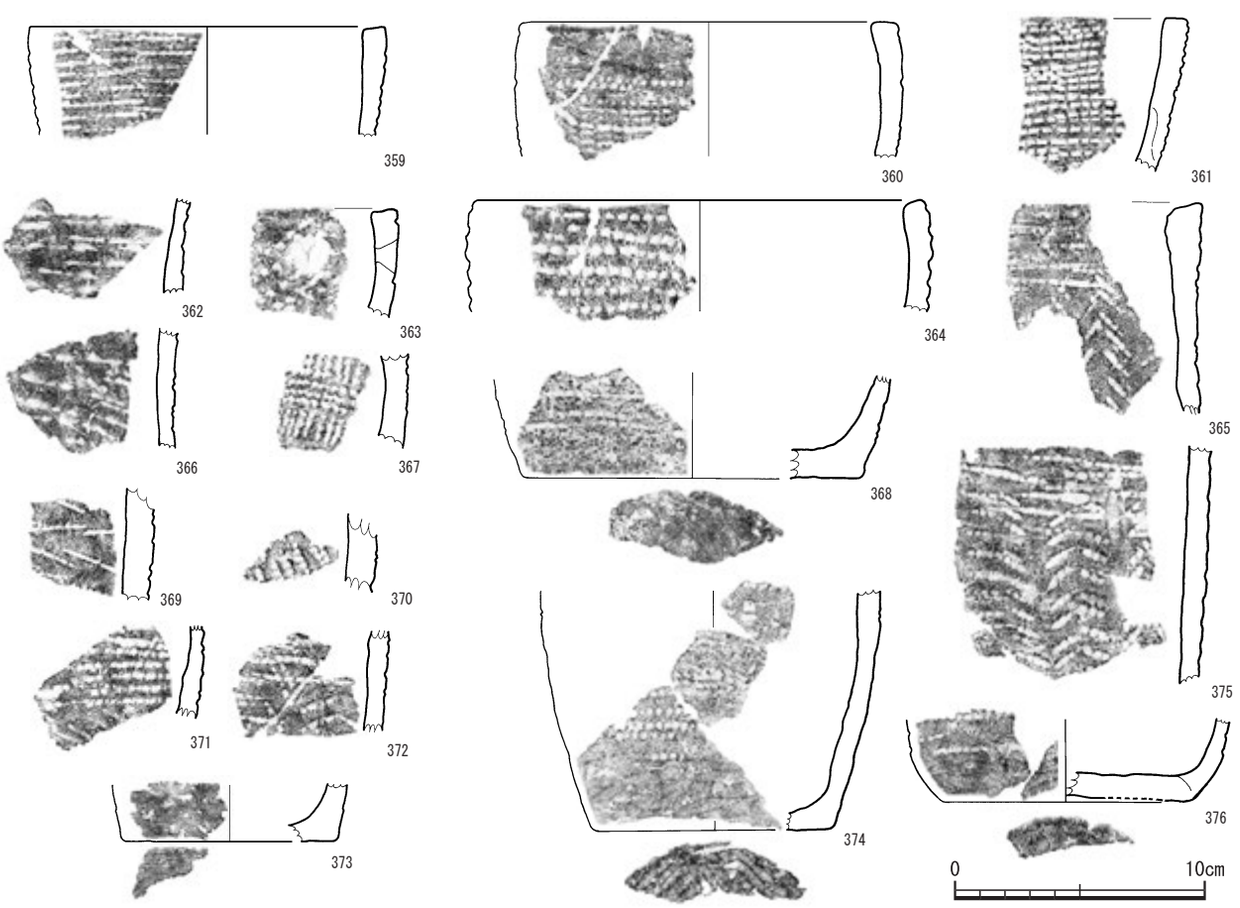
第253図　縄文早期土器実測図（49）（4.1群土器/耳取調査区出土）



第254図　縄文早期土器実測図（50）（4.1群土器/桐木調査区出土）

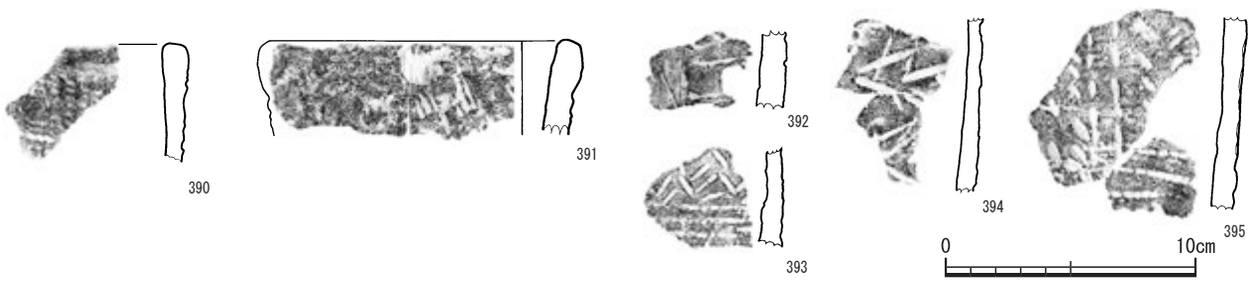


第255図　縄文早期土器実測図（51）（4.2群土器/桐木調査区出土）

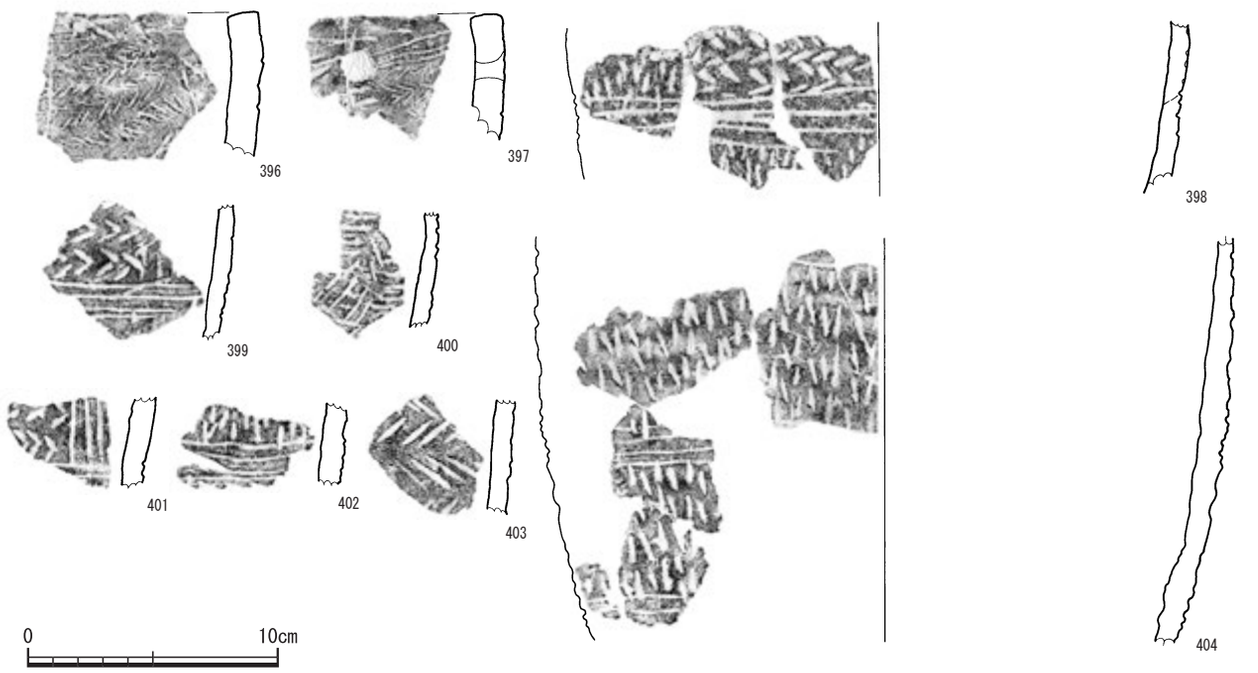


第256図　縄文早期土器実測図（52）（4.2群土器/耳取調査区出土）

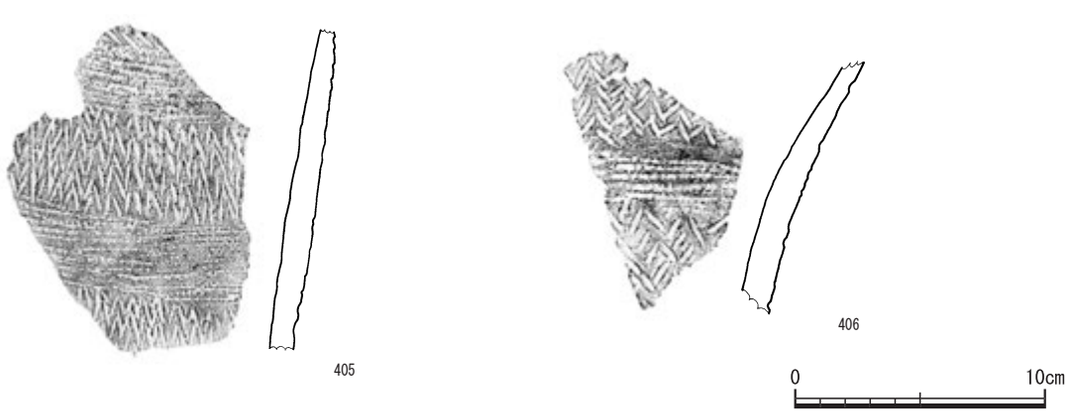
第257図　縄文早期土器実測図（53）（4.3群土器/桐木調査区出土）



第258図　縄文早期土器実測図（54）（4.3群土器/耳取調査区出土）



第259図　縄文早期土器実測図（55）（4.3群土器/耳取調査区出土）



第260図　縄文早期土器実測図（56）（4.4群土器/耳取調査区出土）

第261図　縄文早期土器実測図（57）（4.4群土器/耳取調査区出土）

第71表　縄文早期土器観察表（29）（4群土器−３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
252	339	4.1	○40956(C-8/Ⅶ) ○40967(C-8/Ⅶ) ○41409(C-8/Ⅶ) ○42211(C-8/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→ナデ, 斜ケズリ→ナデ	−	−
252	340	4.1	○68224(E-24/Ⅷ)	角,細粒	ナデ	−	−
252	341	4.1	○42403(B-10/Ⅶ) ○42405(B-10/Ⅶ)	角,細粒	ナデ,丁寧なナデ	口唇部:ナデ	−
252	342	4.1	○59182(F-7/Ⅷ上)	黒,細粒	ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母
252	343	4.1	○38448(E-11/Ⅷ)	角,黒	ナデ	−	外面スス付着, 内面スス付着
252	344	4.1	○40954(C-8/Ⅶ) ○54130(D-9/Ⅷ)	黒,砂粒	縦ケズリ→ナデ	−	−
252	345	4.1	○42401(B-10/Ⅶ)	輝,細粒	ナデ	−	−
252	346	4.1	○40668(D-8/Ⅶ) ○40947(C-8/Ⅶ) ○50245(D-9/Ⅶ) ○60213(E-8/Ⅶ)	黒,砂粒	ナデ,ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	−
353	347	4.1	▲969(J-5/Ⅲb)	黒,輝,細粒	模工具ナデ	−	混和材:黒雲母
353	348	4.1	▲13833(H-5/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	−	−
254	349	4.1	○42411(B-10/Ⅶ下) ○52189(B-10/Ⅶ) ○一括(−/−)	角,砂粒	丁寧なナデ	−	−
254	350	4.1	○98(B-10/Ⅶ) ○41938(D-9/Ⅷ上)	角,細粒	横ハケ→丁寧なナデ, 指頭痕→ナデ	−	−
254	351	4.1	○42401(B-10/Ⅶ) ○42404(B-10/Ⅶ) ○42459(B-10/Ⅶ下) ○42459(B-10/Ⅶ下)	角,細粒	縦ハケ→丁寧なナデ	−	−
255	352	4.2	○34856(E-11/Ⅶ) ○37151(E-11/Ⅶ) ○38336(E-11/Ⅶ) ○38354(E-11/Ⅶ上) ○38364(E-11/Ⅶ) ○38393(E-11/Ⅶ横転)	黒	ハケ→丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
255	353	4.2	○51586(D-13/Ⅶ) ○52109(D-13/Ⅶ)	黒,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
255	354	4.2	○53690(E-16/Ⅶ)	輝,細粒,白粒	縦ケズリ→ナデ, 横ハケ→ナデ	ナデ	−
255	355	4.2	○68120(L-35/Ⅶ下)	砂粒,雲	ケズリ→粗いナデ	−	−
255	356	4.2	○53688(E-16/Ⅶ)	輝,細粒	縦ハケ→ナデ	ナデ	−
255	357	4.2	○53686(E-15/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	ナデ	−
255	358	4.2	◎一括(−/−)	角,輝,細粒	丁寧なナデ	丁寧なナデ	底部内面: 板状貼付
256	359	4.2	▲9208(J-6/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
256	360	4.2	▲10207(I-5/Ⅶ) ▲10642(I-4/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
256	361	4.2	▲19455(−/−)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
256	362	4.2	▲3315(G-18/Ⅵa)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母
256	363	4.2	▲16076(H-6/Ⅶ下)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
256	364	4.2	▲13675(I-6/Ⅶ) ▲13700(I-6/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
256	365	4.2	▲12758(J-3/Ⅶ) ▲12759(K-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
256	366	4.2	▲19445(−/−)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
256	367	4.2	▲0(−/−)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
256	368	4.2	▲8108(I-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	砂粒多量
256	369	4.2	▲11072(J-20/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→ナデ	−	−
256	370	4.2	▲19507(−/−)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
256	371	4.2	▲5711(H-18/Ⅶ)	黒,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	−	−
256	372	4.2	▲12752(I-3/Ⅶ樹根)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
256	373	4.2	▲14358(H-4/Ⅶ樹根)	黒,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	底面:丁寧なナデ	−
256	374	4.2	▲10686(I-5/Ⅶ) ▲13919(H-5/Ⅶ) ▲13923(H-5/Ⅶ)	黒,輝,細粒	丁寧な斜ナデ	底面:ミガキに近いナデ	−
256	375	4.2	▲8115(I-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
256	376	4.2	▲10290(J-4/Ⅶ) ▲12724(F-4/Ⅶ樹根)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	砂粒多量

第72表　縄文早期土器観察表（30）（4群土器−４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
257	377	4.3	◎18017(H-44/Ⅶ) ◎18026(H-43/Ⅶ)	黒,砂粒	ハケ→ナデ	丁寧なナデ	混和材:黒雲母
257	378	4.3	○68291(G-26/Ⅷ)	輝,黒,砂粒	ハケ→粗いナデ	−	細粒多量
257	379	4.3	○68909(G-23/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ナデ	−	砂粒多量,補修孔:外径9.5mm,内径6mm
257	380	4.3	○68298(G-26/Ⅶ) ○68523(G-22/Ⅶ) ○69504(F-22/Ⅶ下)	黒,砂粒	ハケ→ナデ	−	砂粒多量
257	381	4.3	○70758(E-22/Ⅶ) ○70759(E-22/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部:丁寧なナデ	混和材:黒雲母,細粒多量
257	382	4.3	○67809(I-11/Ⅶ)	角	斜ナデ	−	補修孔:外径16mm,内径6mm
257	383	4.3	○68212(F-26/Ⅶ) ○68287(F-26/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	−	−	砂粒多量,補修孔
257	384	4.3	○68262(E-23/Ⅶ) ○68265(E-23/Ⅶ) ○68269(E-23/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部:ナデ	混和材:黒雲母
257	385	4.3	◎10201(A-11/Ⅴ) ◎11629(A-11/Ⅴ) ◎11660(A-11/Ⅴ) ○42309(A-11/Ⅴ)	角,細粒	丁寧なナデ	口唇部:ナデ	−
257	386	4.3	○68969(G-23/Ⅶ) ○70137(H-24/Ⅶ下)	黒,砂粒	丁寧な横ナデ	−	混和材:黒雲母
257	387	4.3	●1833(す-33/Ⅶ) ●50174(す-33/Ⅶ) ●50179(さ-35/Ⅹ)	黒,輝,細粒	ナデ	−	混和材:黒雲母,細粒多量
257	388	4.3	○68644(G-23/Ⅶ) ○68791(G-23/Ⅶ)	黒,砂粒	ナデ	−	混和材:黒雲母,細粒多量
257	389	4.3	○68650(G-23/Ⅶ) ○70612(G-23/Ⅶ) ○70966(G-23/Ⅶ)	白粒,黒,砂粒	縦ケズリ→ナデ,ナデ	ケズリ→ナデ	混和材:黒雲母,砂粒多量
258	390	4.3	▲8896(H-4/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母
258	391	4.3	▲13678(H-6/Ⅶ) ▲15931(G-5/Ⅶ)	角,輝,細粒	縦ケズリ→ナデ	−	−
258	392	4.3	▲12788(H-4/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
258	393	4.3	▲18200(J-8/Ⅹ下)	角,輝,細粒, 赤粒	−	−	−
258	394	4.3	▲3312(G-18/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	丁寧なナデ	−	砂粒多量
258	395	4.3	▲9211(J-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	−	砂粒多量
259	396	4.3	▲10712(H-5/Ⅶ)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母
259	397	4.3	▲9542(F-3/Ⅶ)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い 丁寧なナデ	口唇部: 丁寧なナデ	混和材:黒雲母,補修孔:外径13mm,内径7mm
259	398	4.3	▲7100(J-6/Ⅵa) ▲7837(G-5/Ⅵa) ▲10778(H-5/Ⅶ) ▲19448(−/−)	黒,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
259	399	4.3	▲9689(G-5/Ⅶ)	黒,輝,細粒, 赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
259	400	4.3	▲1983(I-19/Ⅶ) ▲1996(I-19/Ⅶ)	黒,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
259	401	4.3	▲10624(H-4/Ⅶ)	黒,雲,細粒, 赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
259	402	4.3	▲10766(H-5/Ⅶ)	黒,雲,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
259	403	4.3	▲15255(J-9/Ⅶ)	黒,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
259	404	4.3	▲10610(H-4/Ⅶ) ▲10714(H-5/Ⅶ) ▲10738(H-5/Ⅶ) ▲12608(H-5/ⅩⅡ) ▲19424(−/−) ▲19505(−/−)	黒,雲,砂粒, 赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
260	405	4.4	▲19506(−/−)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	−	−
260	406	4.4	▲9085(J-8/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
261	407	4.4	▲7270(I-7/Ⅳ) ▲17828(J-4/Ⅶ)	黒,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,胎土精選
261	408	4.4	▲9324(H-3/Ⅶ)	黒,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,胎土精選

集中していること(第248図・第262・263図参照)や，この分布域が耳取調査区北側地区では第５群土器第１類土器や第２類土器の分布域と重なることが指摘できる。

第５群土器第４類土器(分類記号5.4，第271図451～454)

第５群土器第４類土器に属する土器を４点資料化した。

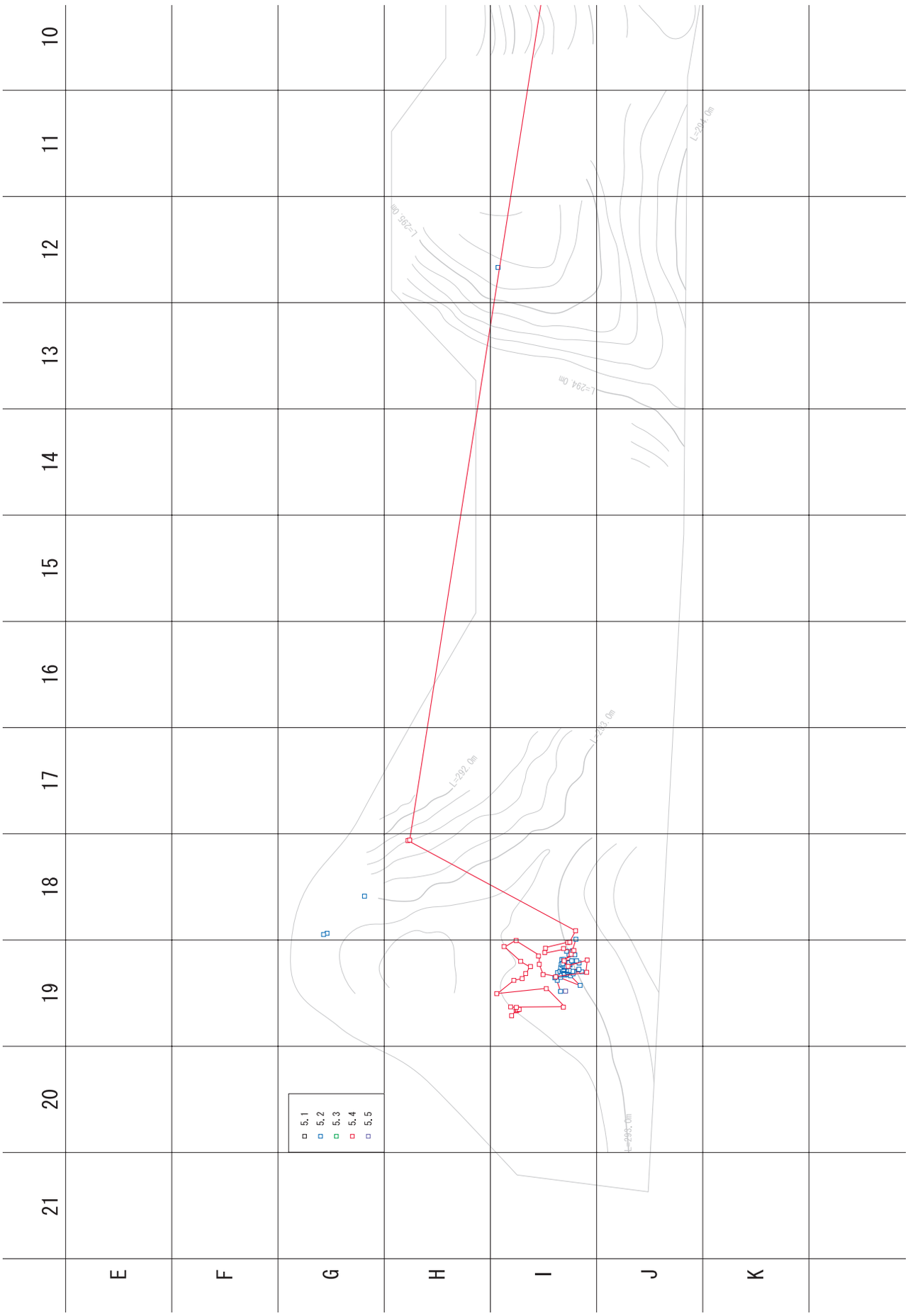
器形的特徴としては，口縁形態が平口縁を呈し，口縁部が直行して口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第271図452)と，口縁部が若干内弯して口唇部は内傾する平坦面を作出する土器(第271図451,453,454)とがあることが指摘できる。また，胴部は直線的にすぼまり，底部は平底を呈するのが特徴である。これらの特徴は第５群土器第２類土器と共通する。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，貝殻腹縁部により流水状の押引文(条痕文)を縦位方向あるいは斜方向に施すのが，本類細別の最大の特徴である。

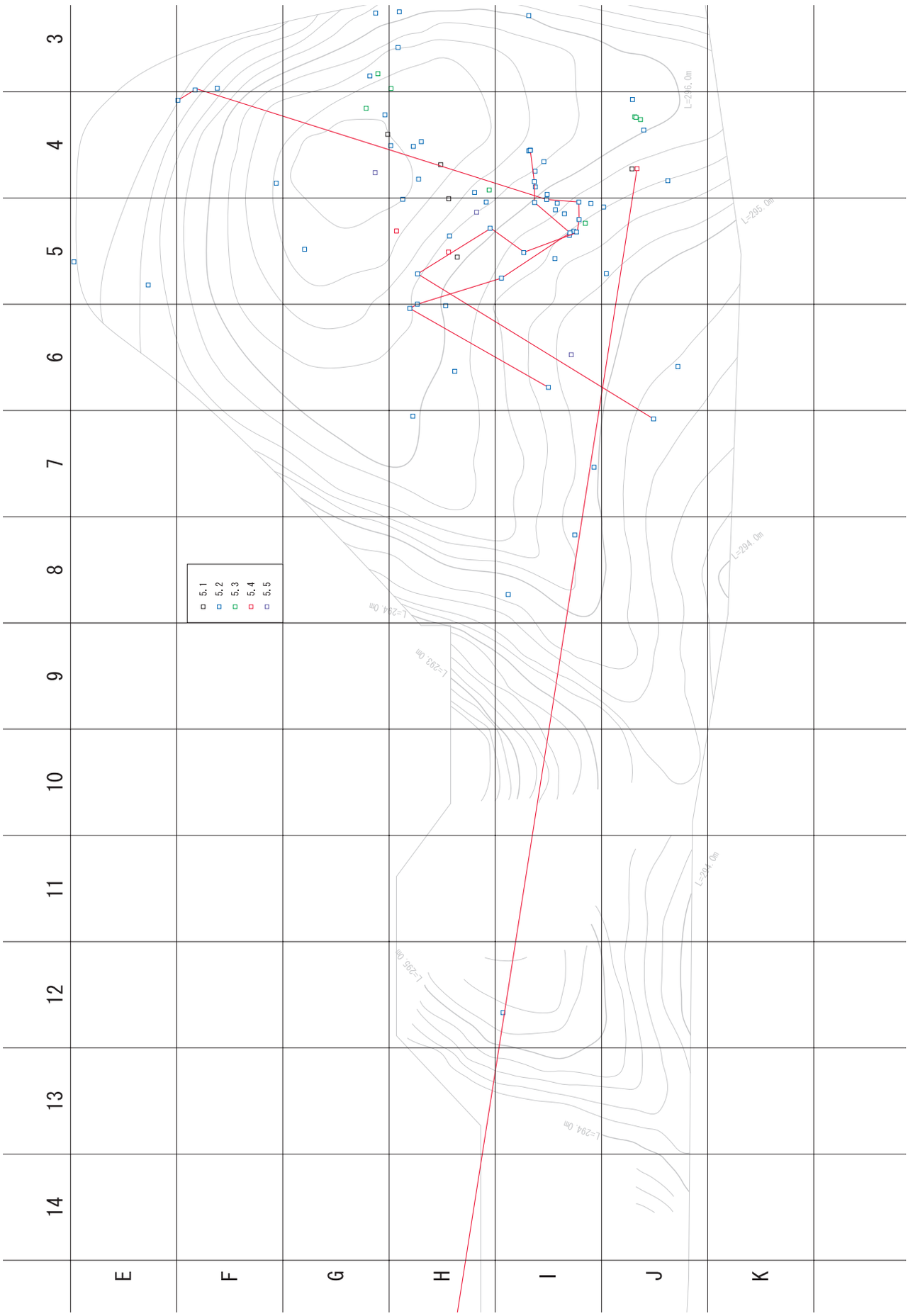
調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整やミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として木製工具によるケズリ調整やハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器も少量みられる。この特徴は，第５群土器第２類土器や第４群土器第３類土器に観られた調整方法に近い状況であることが指摘できる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成されるのが特徴である。また胎土が精選され，細かい粒度の鉱物を含むか，微粒のみで構成される土器が多く，第５群土器のなかでも，胎土が精選されている土器群である。

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ⅰ-18・19区周辺と，桐



第262図　縄文早期土器分布図26（第５群土器１，1/500）



第263図　縄文早期土器分布図27（第５群土器２，1/500）

木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｂ・Ｃ-11～16区周辺とに集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。この分布域は，耳取調査区南側地区では第５群土器第２類土器の分布域と重なり，桐木調査区北側地区では第５群土器のなかでは重なる土器がないことが指摘できる。

第５群土器第５類土器(分類記号5.5，第272・273図455～461)

第５群土器第５類土器に属する土器を７点資料化した。内外面ともに無文の土器である。いずれも胴部下半から底部にかけての資料であり，全体は不明である。器形的特徴としては，胴部は直線的あるいはやや緩やかにすぼまり，底部は平底を呈するのが特徴である。調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。直前調整として木製工具によるハケ調整を行う土器や，ケズリ調整の痕跡が観られることが指摘できる。本類土器の胎土中鉱物としては，主に輝石，雲母で構成され，特に胎土中に粗い粒度の鉱物を多く含むのが特徴である。また，角閃石を含む土器と黒雲母を含む土器とがあることが指摘できる。さて，出土分布図から本類に属する土器は，主に耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｉ-４～６区周辺と，主に桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区さ-29～30区周辺に集中していることを指摘できる(第248図・第262・263図参照)。

第６群土器(第282図～第343図462～768)

第６群土器に属する土器は，押型文土器である。

本群に属する土器は層位的には主にⅦ層を中心に出土している。また，より下層であるⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土しており，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

本群に属する土器は，下記のように器形的特徴から，さらに８類に分類できた。

第１類土器は口縁部内面が屈曲しない土器である。

第２類土器は口縁部内面が弱く屈曲する土器である。

第３類土器は口縁部内面が屈曲する土器である。

第４類土器は特殊土器である。

第５類土器は口縁部が外に開き，胴部外面が弯曲する土器である。

第６類土器は口唇上端部が内傾する平坦面を作出する土器である。

第７類土器は円筒形土器に押型文を施す土器である。

第８類土器は円筒形条痕文土器に押型文を施す土器である。

以下順次，報告を行うことにする。

第６群土器第１類土器(分類記号6.1，第282図～第308図462～624，第318図～第320図682～692)

第６群土器第１類土器に属する土器を174点資料化した。

第６群土器第１類土器は，口縁部内面が屈曲しない土器を指標とする。さらに，器形的特徴としては，口縁形態は概ね平口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部中央部で若干膨らみ，胴部下半部ではすぼまり，底部は平底になることが，共通した特徴として指摘できる。

本類に属する土器は，さらに文様構成などの施文的特徴から６タイプに分類ができる。

以下順次，報告を行うことにする。

第６群土器第１類土器第１タイプ土器(分類記号6.11，第282図～第287図462～502)

器形的特徴としては，口縁部は緩やかに外反し，胴部中央部は若干膨らみ，胴部下半部は直線的にすぼまり，底部は平底になることが指摘できる。また口縁形態には，平口縁を呈する土器(第282図462～464)と，波状口縁を呈する土器(第282図465～468)とがあることが挙げられる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向の押型文を施すのが，本タイプ土器分類の最大の指標である。また口縁部内面端部に「原体条痕」を施し，直下に横位方向の押型文を数条巡らす土器である。

また本タイプ土器には，山形押型文を施す第１種土器(分類記号6.111，第282・283図462～477，第285図486～493)と，楕円押型文を施す第２種土器(分類記号6.112，第284図478～485，第286・287図494～502)との２種類の土器がある。

ここで注目できるのは，本タイプ土器に施される押型文は，第１類土器第１タイプ土器以外の類やタイプに帰属する土器に施される押型文より，文様が微細なことが挙げられる。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器や，直前調整として篦ナデ調整を行う土器や，ミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器も観られた。

ここで注目できるのは，第６群土器第１類土器全般に共通して，調整方法に大きな違いが観られる特徴である。

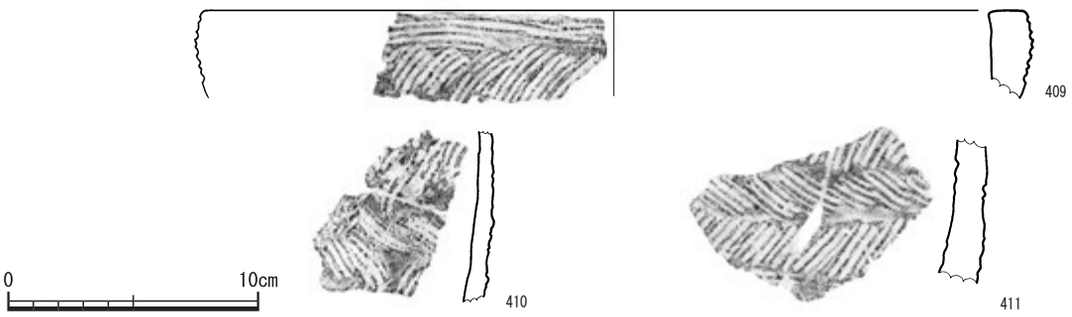
この調整方法において大きな違いが生じる原因の１つとして，部位による違いが挙げられる。口縁部内面は丁寧なナデ調整まで行い，胴部上半では直前調整として縦ケズリを行った後に，最終調整として粗いナデ調整を行い，胴部下半では直前調整として縦位方向もしくは斜位方向のケズリ調整の後に，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器が，本タイプ土器に帰属する土器のなかには観られる。この状況が普遍性があることなのか，今後注意を要する。

さらに外器面では，押型文施文後にナデ調整を行のは，第６群土器では本タイプ土器だけであり，注目できる。

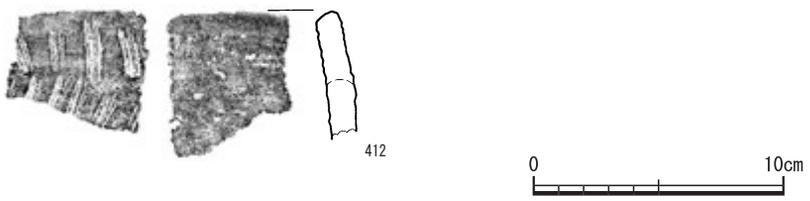
本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成されるのが特徴である。注目できるのは３点である。

まず量的には，角閃石を含む土器が多く，黒雲母を含む土器は少ないことが挙げられる。

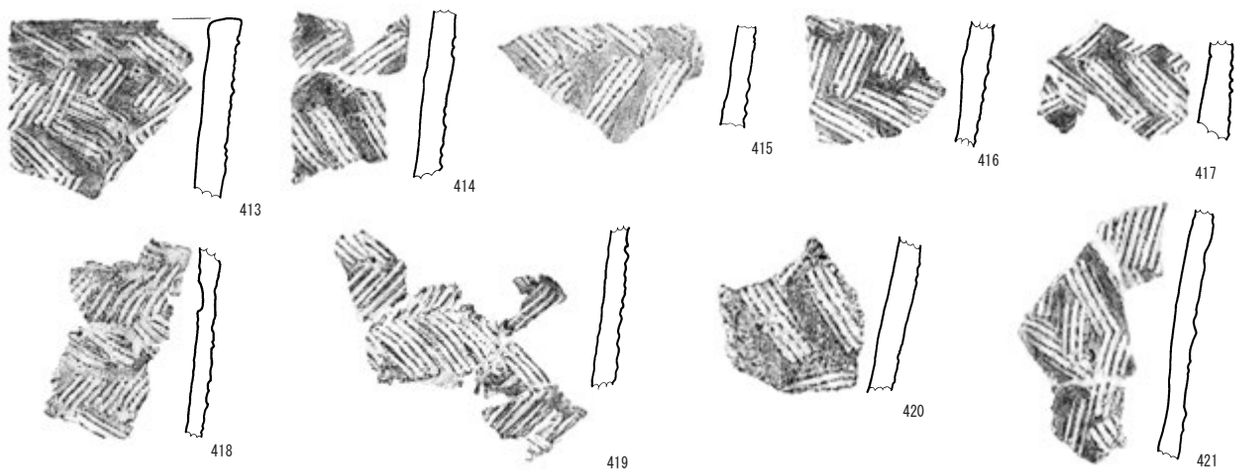
つぎに，角閃石も黒雲母も共に胎土中に多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

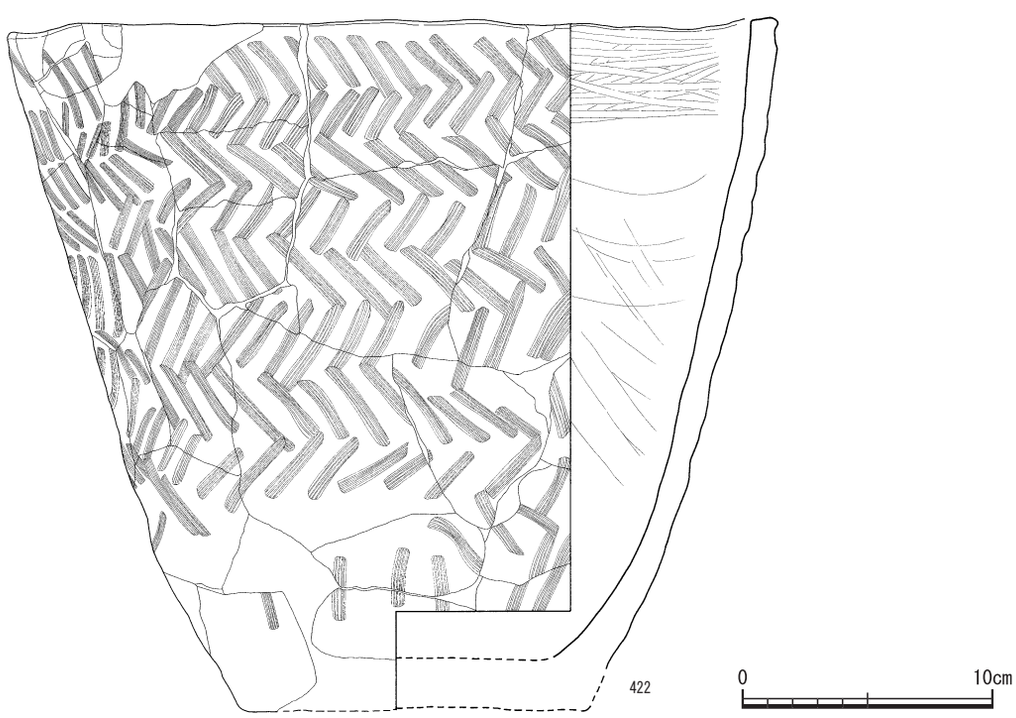


第264図　縄文早期土器実測図（58）（5.1群土器/耳取調査区出土）

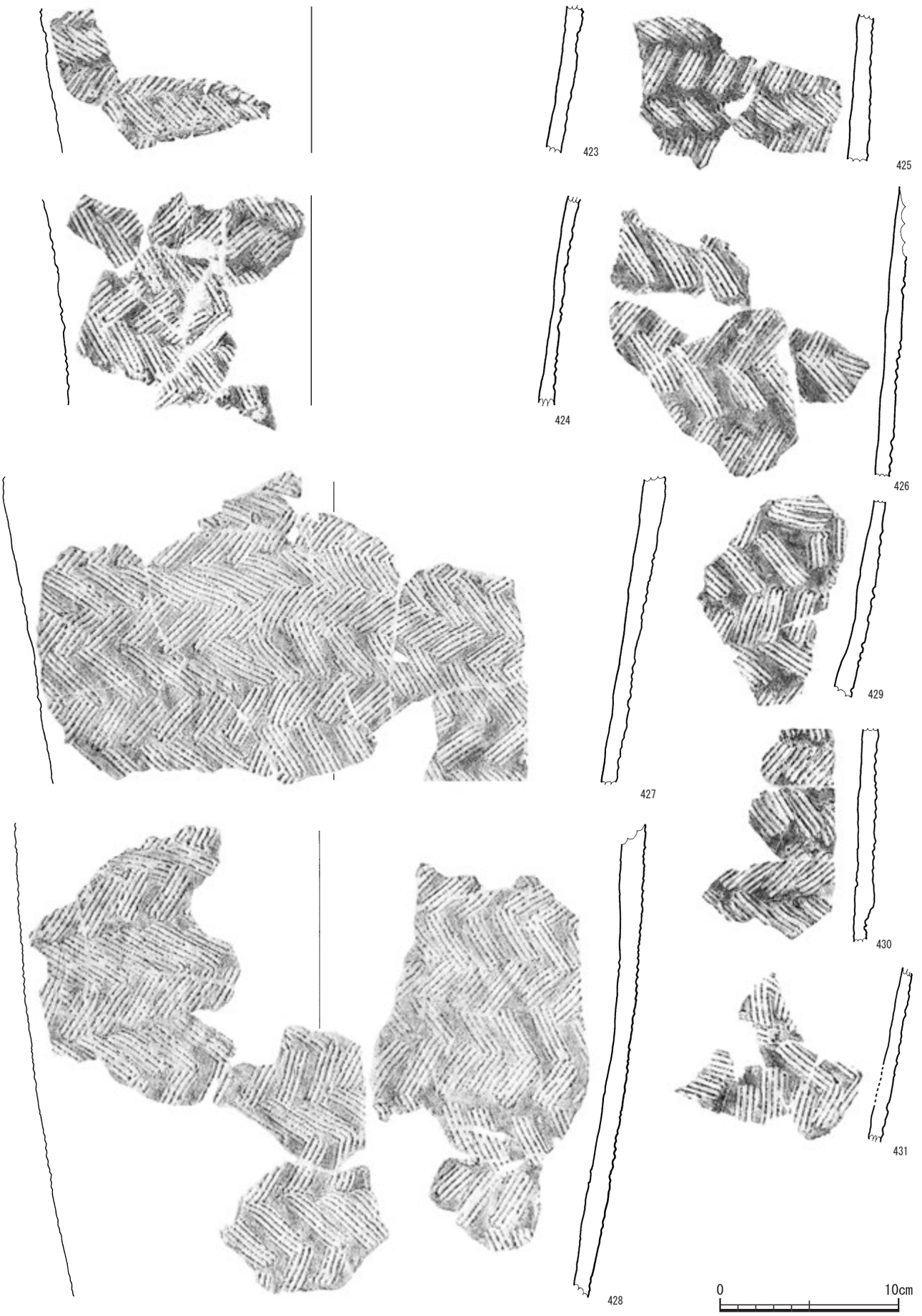


第265図　縄文早期土器実測図（59）（5.1群土器/桐木調査区出土）

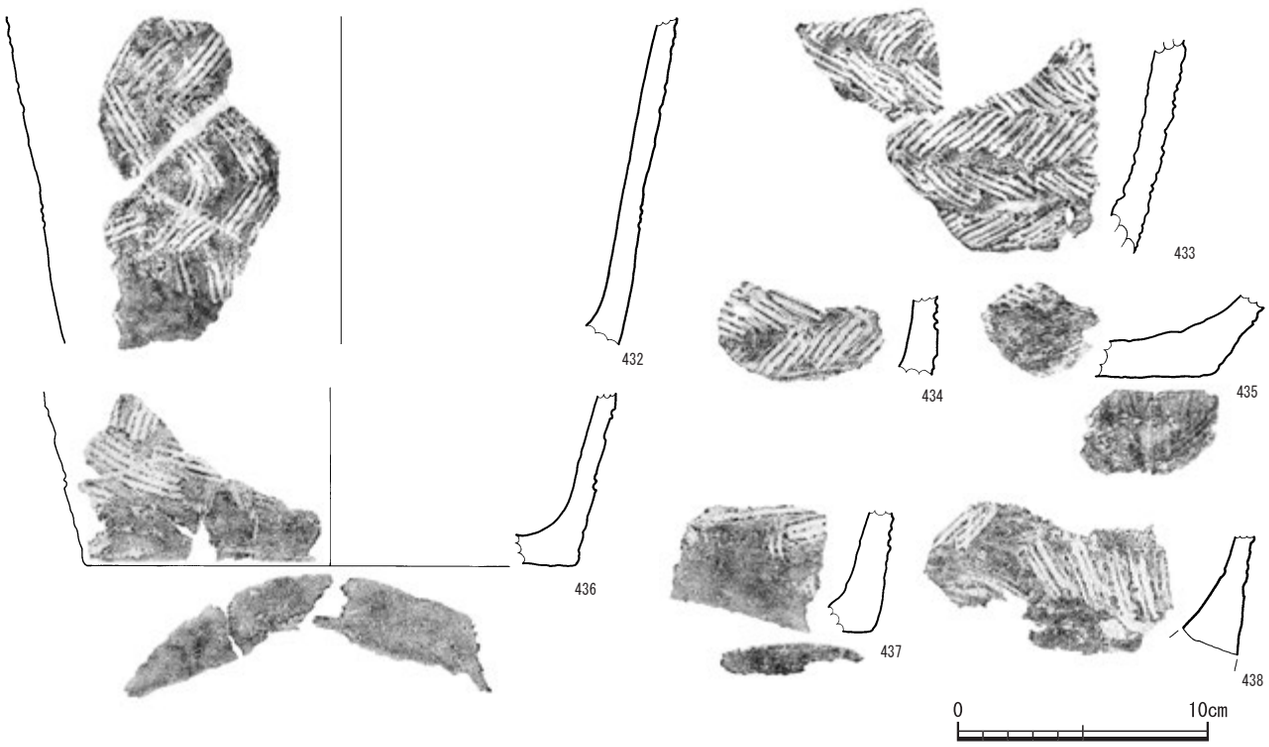




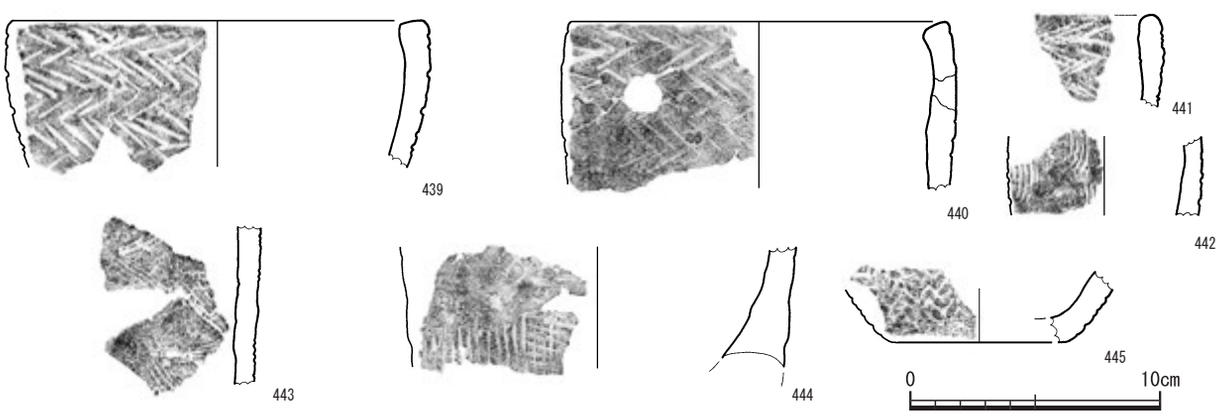
第266図　縄文早期土器実測図（60）（5.2群土器/耳取調査区出土）



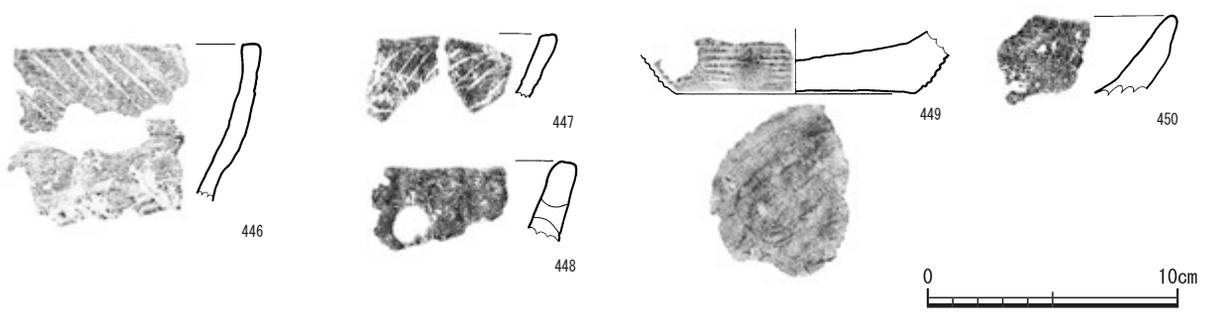
第267図　縄文早期土器実測図（61）（5.2群土器/耳取調査区出土）



第268図　縄文早期土器実測図（62）（5.2群土器/耳取調査区出土）



第269図　縄文早期土器実測図（63）（5.2群土器/耳取調査区出土）



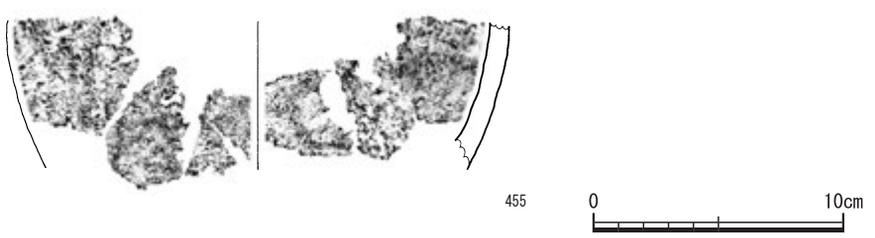
第270図　縄文早期土器実測図（64）（5.3群土器/耳取調査区出土）

さらに，粗い粒度の鉱物を含む土器が多いのが特徴であり，しかも胎土中に含まれる量が特に多い土器も多数観られた。また，黒雲母を含む土器については，胎土が精選され，微粒のみで構成されていることが指摘できる。

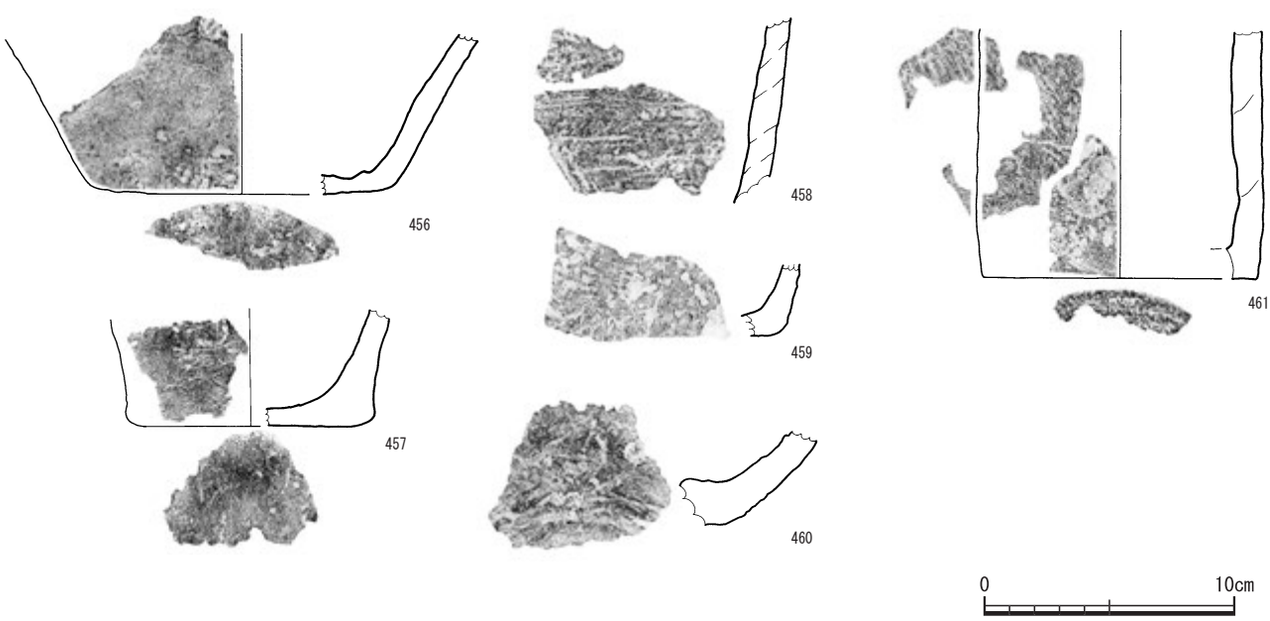
胎土中鉱物についての以上の特徴は，量的な割合では若干の差が認められるものの，第５群土器第２類土器や，第６群土器第１類土器のうち第１タイプ土器から第６タイプ土器まで全般に共通している特徴である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｊ-３～６区周辺と，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ・Ｊ-17～19区周辺とに集中していることを指摘できる(第279

第271図　縄文早期土器実測図（65）（5.4群土器/耳取調査区出土）



第272図　縄文早期土器実測図（66）（5.5群土器/桐木調査区出土）



第273図　縄文早期土器実測図（67）（5.5群土器/耳取調査区出土）

第73表　縄文早期土器観察表（31）（5群土器−１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
264	409	5.1	▲9133(J-4/Ⅷ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
264	410	5.1	▲8919(H-4/Ⅶ) ▲9440(G-4/Ⅶ)	繊,雲,角,砂粒,赤粒	横ケズリ→ハケナデ	−	−
264	411	5.1	▲10626(H-5/Ⅶ) ▲13286(H-5/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	P0871と同一個体
265	412	5.1	○54901(C-13/Ⅶ)	角,細粒	横ヘラナデ	ヘラ条痕ナデ,口唇部:ナデ	外面スス付着
266	413	5.2	▲9944(H-3/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒	ハケ→ナデ	口唇部:丁寧なナデ	−
266	414	5.2	▲12968(I-8/Ⅶ) ▲13193(G-5/Ⅶ) ▲19495(−/−)	角,繊,雲,細粒	丁寧なナデ	−	−
266	415	5.2	▲19433(−/−)	繊,角,雲,細粒,赤粒	丁寧なナデ	−	−
266	416	5.2	▲19436(−/−)	繊,角,雲,細粒,赤粒	丁寧なナデ	−	内面スス付着
266	417	5.2	▲13664(I-4/Ⅶ)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	−
266	418	5.2	▲8885(H-4/Ⅵa) ▲10516(F-3/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
266	419	5.2	▲6891(I-12/Ⅹ Ⅵ) ▲8873(H-4/Ⅵa) ▲9300(G-3/Ⅶ) ▲10615(H-4/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→粗いナデ	−	−
266	420	5.2	▲−(−/−)	繊,角,雲,細粒,赤粒	丁寧なナデ	−	内面スス付着
266	421	5.2	▲9197(J-5/Ⅶ) ▲19490(−/−)	角,繊,雲,細粒	丁寧なナデ	−	内面スス付着
266	422	5.2	▲1914(I-19/Ⅶ) ▲1919(I-19/Ⅶ) ▲1924(I-19/Ⅶ) ▲1934(I-19/Ⅶ) ▲1936(I-19/Ⅶ) ▲1937(I-19/Ⅶ) ▲1941(I-19/Ⅶ) ▲1942(I-19/Ⅶ) ▲1951(I-19/Ⅶ) ▲1953(I-19/Ⅶ) ▲1955(I-19/Ⅶ) ▲1956(I-19/Ⅶ) ▲2008(I-19/Ⅶ) ▲2109(I-19/Ⅶ) ▲2110(I-19/Ⅶ) ▲2111(I-19/Ⅶ) ▲2112(I-19/Ⅶ) ▲2114(I-19/Ⅶ) ▲2115(I-19/Ⅶ) ▲2116(I-19/Ⅶ) ▲2117(I-19/Ⅶ) ▲2119(I-19/Ⅶ) ▲2120(I-19/Ⅶ) ▲2121(I-19/Ⅶ) ▲2123(I-19/Ⅶ) ▲2124(I-19/Ⅶ) ▲2125(I-19/Ⅶ) ▲2126(I-19/Ⅶ) ▲2127(I-19/Ⅶ) ▲2129(I-19/Ⅶ) ▲2130(I-19/Ⅶ) ▲2131(I-19/Ⅶ) ▲2133(I-19/Ⅶ) ▲2136(I-19/Ⅶ) ▲2137(I-19/Ⅶ) ▲2140(I-19/Ⅶ) ▲2142(I-19/Ⅶ) ▲2145(I-19/Ⅶ) ▲2448(I-19/Ⅶ) ▲2450(I-19/Ⅶ) ▲2451(I-19/Ⅶ) ▲2452(I-19/Ⅶ) ▲2453(I-19/Ⅶ) ▲2454(I-19/Ⅶ) ▲2458(I-19/Ⅶ) ▲2473(I-19/Ⅶ) ▲2574(I-18/Ⅷ) ▲2576(I-19/Ⅷ) ▲2577(I-19/Ⅷ) ▲2578(I-19/Ⅷ) ▲2716(I-19/Ⅶ) ▲3417(I-19/Ⅸ) ▲3418(I-19/Ⅶ) ▲3419(I-19/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近い丁寧なナデ	内面スス付着
267	423	5.2	▲9307(G-3/Ⅶ) ▲9437(G-4/Ⅶ) ▲10606(H-4/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒	横ハケ→粗いナデ	−	−
267	424	5.2	▲8963(I-5/Ⅵa) ▲10198(I-5/Ⅶ) ▲10664(I-4/Ⅶ) ▲12741(H-5/Ⅶ) ▲12880(I-5/Ⅶ) ▲13100(I-6/Ⅶ) ▲13657(I-4/Ⅶ) ▲15990(H-6/Ⅶ)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,内面スス付着
267	425	5.2	▲8111(I-3/Ⅶ) ▲17833(J-4/Ⅶ下)	角,繊,雲,砂粒	丁寧なナデ	−	黒耀石
267	426	5.2	▲10670(I-5/Ⅶ) ▲10695(I-5/Ⅶ) ▲12901(H-7/Ⅹ) ▲19498(−/−)	角,繊,雲,砂粒	丁寧なナデ	−	−
267	427	5.2	▲12659(H-6/Ⅶ) ▲12698(I-4/Ⅶ) ▲13666(I-4/Ⅶ) ▲18045(J-6/Ⅶ)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,内面スス付着
267	428	5.2	▲10199(I-5/Ⅶ) ▲10517(F-3/Ⅶ) ▲10665(I-5/Ⅶ) ▲10763(H-5/Ⅶ) ▲12833(F-4/Ⅶ) ▲12865(I-5/Ⅶ) ▲12879(I-5/Ⅶ) ▲12886(I-5/Ⅶ) ▲13223(H-5/Ⅶ) ▲17892(J-7/Ⅶ下) ▲19494(−/−) ▲19496(−/−) ▲19499(−/−)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,内面スス付着

第74表　縄文早期土器観察表（32）（5群土器−２）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
267	429	5.2	▲19430(−/−) ▲19431(−/−)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,内面スス付着
267	430	5.2	▲10133(E-5/Ⅶ) ▲16398(H-5/Ⅶ) ▲19504(−/−)	繊,角,雲,砂粒	横ハケ→粗いナデ	−	−
267	431	5.2	▲8972(I-5/Ⅶ) ▲8979(I-5/Ⅶ) ▲8980(I-5/Ⅶ) ▲16148(J-4/Ⅹ下) ▲18259(J-4/Ⅷ下)	角,繊,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
268	432	5.2	▲10661(I-4/Ⅶ) ▲13655(I-4/Ⅶ) ▲13656(I-4/Ⅶ)	角,繊,雲,砂粒	丁寧なナデ	−	黒耀石,内面スス付着
268	433	5.2	▲10145(E-5/Ⅶ) ▲12874(I-5/Ⅶ)	角,繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
268	434	5.2	▲19052(I-8/ⅩⅦ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
268	435	5.2	▲10417(I-7/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	−	底面:白色化
268	436	5.2	▲10388(H-3/Ⅶ) ▲10523(F-4/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒	縦ハケ→ナデ	−	−
268	437	5.2	▲9311(I-3/Ⅶ)	角,繊,雲,細粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
268	438	5.2	▲10733(H-5/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
269	439	5.2	▲3320(G-18/Ⅶ) ▲3321(G-18/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:丁寧なナデ	面取りによる平坦面形成
269	440	5.2	▲5323(G-18/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:丁寧なナデ	面取りによる平坦面形成
269	441	5.2	▲8966(I-5/Ⅶ)	黒,繊,微粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
269	442	5.2	▲13920(H-5/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	縦ハケ→ナデ	−	−
269	443	5.2	▲13832(H-6/Ⅶ)	黒,繊,微粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母
269	444	5.2	▲10628(H-4/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	−
269	445	5.2	▲12885(J-5/Ⅶ)	角,繊,細粒	ハケ→ナデ	−	接合痕
270	446	5.3	▲9108(J-4/Ⅶ) ▲9109(J-4/Ⅶ) ▲9110(J-4/Ⅶ)	繊,角,雲,微粒	縦ケズリ→横ハケナデ	口唇部:丁寧なナデ	外面スス付着
270	447	5.3	▲8306(G-4/Ⅶ) ▲17058(H-3/Ⅶ)	繊,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	口唇部:丁寧なナデ	−
270	448	5.3	▲9513(G-3/Ⅶ)	繊,角,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	口唇部:丁寧なナデ	砂粒多量
270	449	5.3	▲6158(H-4/Ⅵ横転)	角,繊,砂粒	ミガキ	底面:ミガキに近い丁寧なナデ	砂粒多量
270	450	5.3	▲8978(I-5/Ⅵa)	角,繊,砂粒	ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量
271	451	5.4	▲1158(J-4/Ⅲb) ▲1880(I-19/Ⅶ) ▲1881(I-19/Ⅶ) ▲1882(I-19/Ⅶ) ▲1896(I-19/Ⅴa) ▲1911(I-19/Ⅶ) ▲1927(I-19/Ⅵa) ▲1932(I-19/Ⅶ) ▲1940(I-19/Ⅶ) ▲1944(I-19/Ⅶ) ▲1954(I-19/Ⅶ) ▲1973(I-19/Ⅶ) ▲1974(I-19/Ⅵa) ▲1977(I-19/Ⅶ) ▲1982(I-19/Ⅶ) ▲1986(I-19/Ⅶ) ▲1989(I-19/Ⅶ) ▲1998(I-19/Ⅶ) ▲2004(I-19/Ⅶ) ▲2005(I-19/Ⅶ) ▲2014(I-19/Ⅶ) ▲2015(I-19/Ⅶ) ▲2035(I-19/Ⅶ) ▲2042(I-19/Ⅶ) ▲2132(I-19/Ⅶ) ▲2141(I-19/Ⅶ) ▲2157(I-19/Ⅶ) ▲2160(I-19/Ⅶ) ▲2161(I-19/Ⅶ) ▲2171(I-19/Ⅶ) ▲2172(I-19/Ⅶ) ▲2459(I-19/Ⅶ) ▲2582(I-18/Ⅷ) ▲3428(I-19/Ⅸ) ▲5700(H-18/Ⅶ) ▲5701(H-18/Ⅶ)	角,繊,雲,細粒	縦ケズリ→丁寧なナデ	口唇部:ハケ→丁寧なナデ	外面スス付着
271	452	5.4	▲10735(H-5/Ⅶ)	角,繊,微粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:丁寧なナデ	混和材:角閃石,面取りによる平坦面形成
271	453	5.4	▲13291(H-5/Ⅶ)	角,繊,雲,細粒	ハケ→ナデ	−	−
271	454	5.4	○8296(C-11/Ⅴ下) ○10479(C-11/Ⅴ下) ○11945(−/Ⅴ上) ○22246(C-12/Ⅴ下) ○48888(B-14/Ⅴa)	繊,白粒,黒,細粒	工具ナデ,指頭痕→丁寧なナデ	−	混和材:白色粒,外面スス付着
272	455	5.5	●2421(さ-30/Ⅶ) ●6768(さ-29/Ⅶ) ●50333(さ-29/Ⅶ) ●50334(さ-29/Ⅶ)	黒,繊,細粒	ナデ	ハケナデ	−
273	456	5.5	▲19500(−/−)	繊,雲,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	横ハケ→丁寧なナデ	砂粒多量
273	457	5.5	▲10706(H-5/Ⅶ)	繊,雲,砂粒	縦ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量
273	458	5.5	▲2021(I-19/Ⅷ)	角,繊,砂粒,赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量
273	459	5.5	▲10005(I-6/Ⅶ)	黒,繊,雲,細粒	横ハケ→ナデ	−	−
273	460	5.5	▲19419(−/−)	角,繊,砂粒	指頭痕→斜ハケナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量
273	461	5.5	▲8443(G-4/Ⅶ)	繊,雲,微粒	縦ケズリ→粗いナデ	斜ヘラナデ→丁寧なナデ	胎土精選

図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは次の３点である。

第１には，山形押型文を施文する第１種土器が耳取調査区南側地区を，楕円押型文を施文する第２種土器が耳取調査区北側地区を主たる分布域にしていることが挙げられる。

第２には，耳取調査区南側地区を主たる分布域にしている第６群土器は，第６群土器第１類土器第１タイプ土器第１種土器のみであることが挙げられる。

第３には，耳取調査区北側地区を分布域にしている第６群土器は，第６群土器第１類土器第１タイプ土器第１種土器以外は全てであることが挙げられる。

以上のことから，本タイプ土器群のうち第１種土器と第２種土器との間に時間差がある可能性を含めて，今後注意を要する土器群である。

第６群土器第１類土器第２タイプ土器(分類記号6.12，第288図～第291図503～532，第294・295図538～548)

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁で，口縁部は外反し，胴部中央部は若干膨らみ，胴部下半部では緩やかにすぼまり，底部は平底になることが指摘できる。

この全体的特徴は，第３，４，５タイプ土器に共通する。

口縁部形態には４種類ある。第１は，長めの口縁部が緩やかに外反する土器(第288図503,504)である。第２は，短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第294図538～541)である。第３は，短めの口縁部が急激に外反する土器(第289図505)である。第４は，長めの口縁部が急激に外反する土器(第290図509,512)である。この口縁部形態の差が形式差になるのかは不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すのが，本タイプ土器分類の最大の指標である。また，口縁部内面には横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器が主体を占めている。ただし本タイプ土器に帰属する土器のなかには，口縁部内面に棒状工具による刺突文を１列から２列横位方向に巡らす土器(第294図538,540,541)が観られる。また本タイプ土器には，楕円押型文を施す第１種土器(分類記号6.121，第288図～第291図503～532)と，山形押型文を施す第２種土器(分類記号6.122，第294・295図538～548)との２種類の土器がある。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は，他の第６群土器第１類土器とほぼ同様である。

さて，出土分布図からは次の２点が注目できる。

第１には，本タイプ土器は主に，耳取調査区北側地点のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｋ-３～６区周辺に集中していることである(第280図・第274図～第278図参照)。

第２には，桐木調査区西側地区さ～い-19～32区の範囲内と桐木調査区南側地区Ｃ～Ｅ-24・25区の範囲内とでは部分的に出土していることを指摘できる。

第６群土器第１類土器第３タイプ土器(分類記号6.13，第292・293図533～537，第296図549～556)

器形的特徴としては，第２タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態には，短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第296図549)と，短めの口縁部が急激に外反する土器(第292図533)とがある。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には縦位方向の押型文を施し，胴部文様帯の下半部から底部にかけては横位方向の押型文を施すのが，本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面には，横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器と，山形押型文を施す第２種土器とがある。

ここで注意を要するのは，次の２点である。

第１は，口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけての器形的特徴ならびに施文的特徴は，第６群土器第１類土器第２タイプ土器と共通することである。したがってこの部位だけでは，第２タイプ土器に帰属する土器であるのか，第３タイプ土器に帰属する土器であるのか，現在のところ判別は困難である。

第２は，口縁部文様帯から胴部文様帯の下半部にかけての器形的特徴ならびに施文的特徴は，第６群土器第１類土器第４タイプ土器と共通することである。したがってこの部位だけでは，第２タイプ土器に帰属する土器であるのか，第４タイプ土器に帰属する土器であるのか，現在のところ判別は困難である。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は，他の第６群土器第１類土器とほぼ同様である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地点のうち，特に耳取調査区Ｅ～Ｋ-３～６区周辺に集中していることと，第１種土器が桐木調査区西側地区のさ-31区周辺で出土していることを指摘できる(第281図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第１類土器第４タイプ土器(分類記号6.14，第297・298図557～560)

器形的特徴としては，第２タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態は，短めの口縁部が緩やかに外反する土器である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には斜位方向の押型文を施し，胴部文様帯の下半部から下端部では横位方向の押型文を施すのが，本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器が出土した。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は，他の第６群土器第１類土器とほぼ同様である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｈ-６区周辺に集

中している状況と，Ｇ～Ｊ-３～６区の範囲内で部分的に出土している状況を指摘できる(第299図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第１類土器第５タイプ土器(分類記号6.15，第302・303図561～576)

器形的特徴としては，第２タイプ土器と共通することが指摘できる。口縁部形態は，短めの口縁部が急激に外反する土器である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯全面にかけて外面には斜位方向の押型文を施すのが，本タイプ土器分類の最大の指標である。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には山形押型文を施す第２種土器のみが出土した。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は，他の第６群土器第１類土器とほぼ同様である。ここで注目できるのは，第６群土器第１類土器のなかで本タイプ土器には，黒曜石を含む土器が多い傾向が認められることである。

さて，出土分布図からは次の２点が注目できる。

第１には，本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ-３～６区周辺に集中していることである(第300図・第274図～第278図参照)。

第２には，桐木調査区北側地区Ｂ-11区の範囲内と，桐木調査区西側地区さ-31～33区の範囲内とでは部分的に出土していることを指摘できる。

第６群土器第１類土器第６タイプ土器(分類記号6.16，第304図～第308図577～624)

器形的特徴としては，第２タイプ土器と概ね共通することが指摘できる。口縁形態では平口縁を呈する土器が主体を占めたが，緩やかな波状口縁を呈する土器(第304図577)もみられた。

また口縁部形態には概ね３種類の土器が認められた。第１は，長めの口縁部が緩やかに外反する土器(第304図577)である。第２は，短めの口縁部が緩やかに外反する土器(第304図580～584，第306図607，第308図618,619,621)である。第３は，短めの口縁部が急激に外反する土器(第304図578)である。この口縁部形態の差が，形式差になるのかは不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施すことが指摘できる。口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面には斜位方向の押型文を施した後に，横走する鋸歯文に見かけ上みえるようナデ消すのが，本タイプ土器細別の最大の指標である。また胴部文様帯の下半部から底部にかけては横位方向の押型文を施す。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器(分類記号6.161，第304図～第306図577～609)と，山形押型文を施す第２種土器(分類記号6.162，第307・308図610～624)とがある。

ここで注目できるのは，次の２点である。

第１には，口縁部内面に施文される押型文の圧力が強いために，口縁部と胴部との間が屈曲する第６群土器第２類土器の形態に酷似することである。ただし，本タイプ土器では口縁部内面文様帯直下の最終調整が丁寧なナデ調整である。これに対して第２類土器では，口縁部内面文様帯直下の最終調整は粗いナデ調整であるか，直前調整であるケズリ調整の痕跡が観察できる調整である。この違いから分類を行った。

第２には，口縁部文様帯から胴部文様帯の上半部にかけて外面に，まず斜位方向の押型文を施す特徴は，その文様構成上から，第６群土器第１類土器第４タイプ土器との近縁性が考えられる。しかし，第４タイプ土器には山形押型文を施す土器が認められておらず，注意を要する。

調整方法や本タイプ土器の胎土中鉱物についての状況は，他の第６群土器第１類土器とほぼ同様である。

さて，出土分布図からは次の２点が注目できる。

第１には，本タイプに属する土器は，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｅ～Ｊ-３～６区周辺に集中していることである(第301図・第274図～第278図参照)。

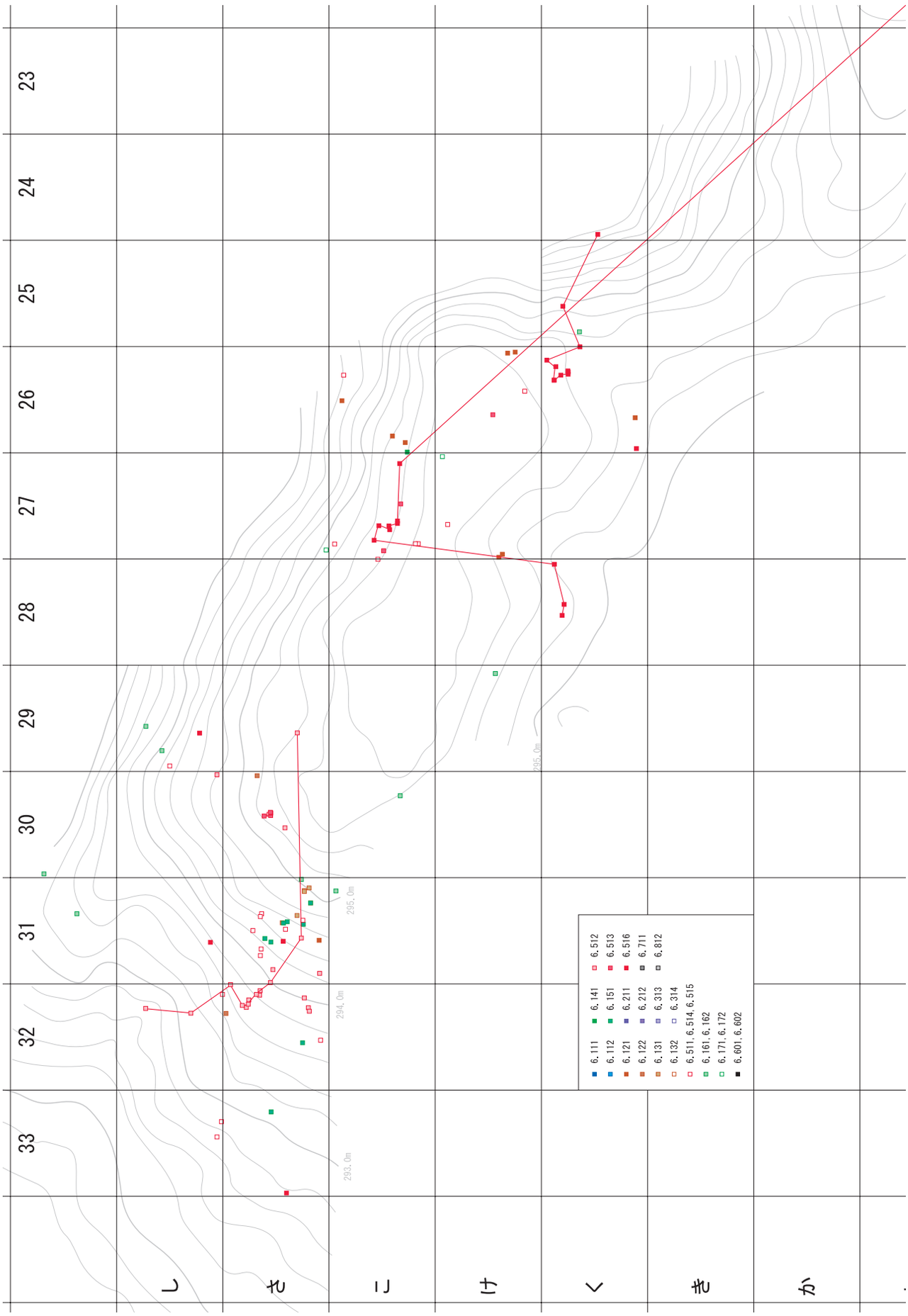
第２には，桐木調査区北側地区Ｂ～Ｅ-８～11区の範囲内と，桐木調査区西側地区す～く-25～31区の範囲内とでは部分的に出土していることを指摘できる。

ここで注目できるのは，耳取調査区北側地区に集中して出土する分布域があり，桐木調査区北側地区や西側地区に広い範囲内で部分的に出土する地点があるという特徴は，第６群土器第１類土器のなかでは，外面全面に横位方向の押型文を施す第１タイプ土器と，外面に斜位方向と横位方向の押型文を施す第４タイプ土器を除く土器群に共通する特徴である。

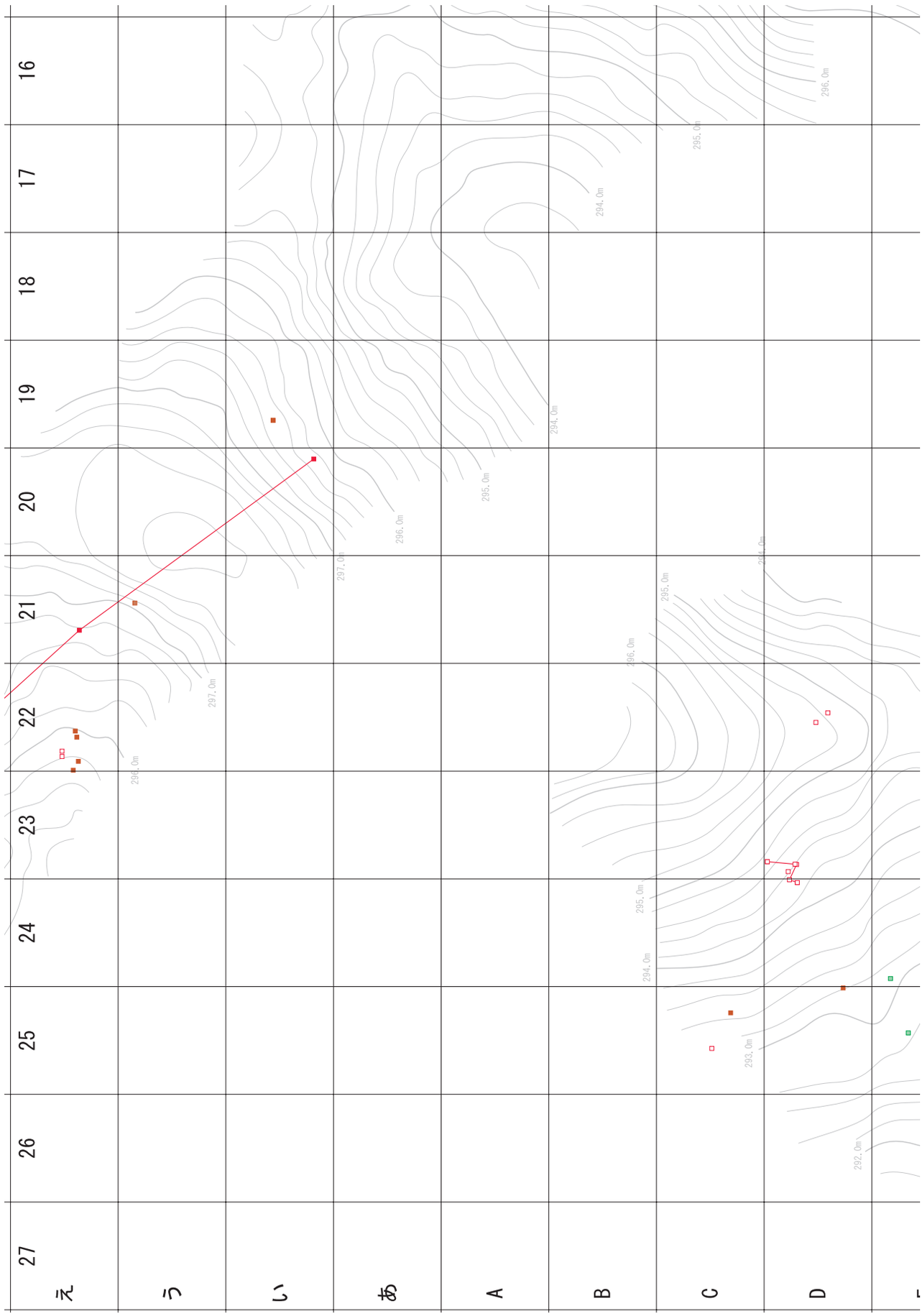
第６群土器第１類土器第７タイプ土器(分類記号6.17，第318図～第320図682～692)

本タイプ土器は，口縁部文様帯外面が無文帯となる土器群である。器形的特徴としては口縁部が外反し，胴部中央部で若干膨らみ，施文的特徴としては口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し，口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らすという特徴を挙げることができる。第319図687を基本的形態とする。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器(分類記号6.171，第318図～第320図682～688,690,692)と，山形押型文を施す第２種土器(分類記号6.172，第320図689～691)とがある。

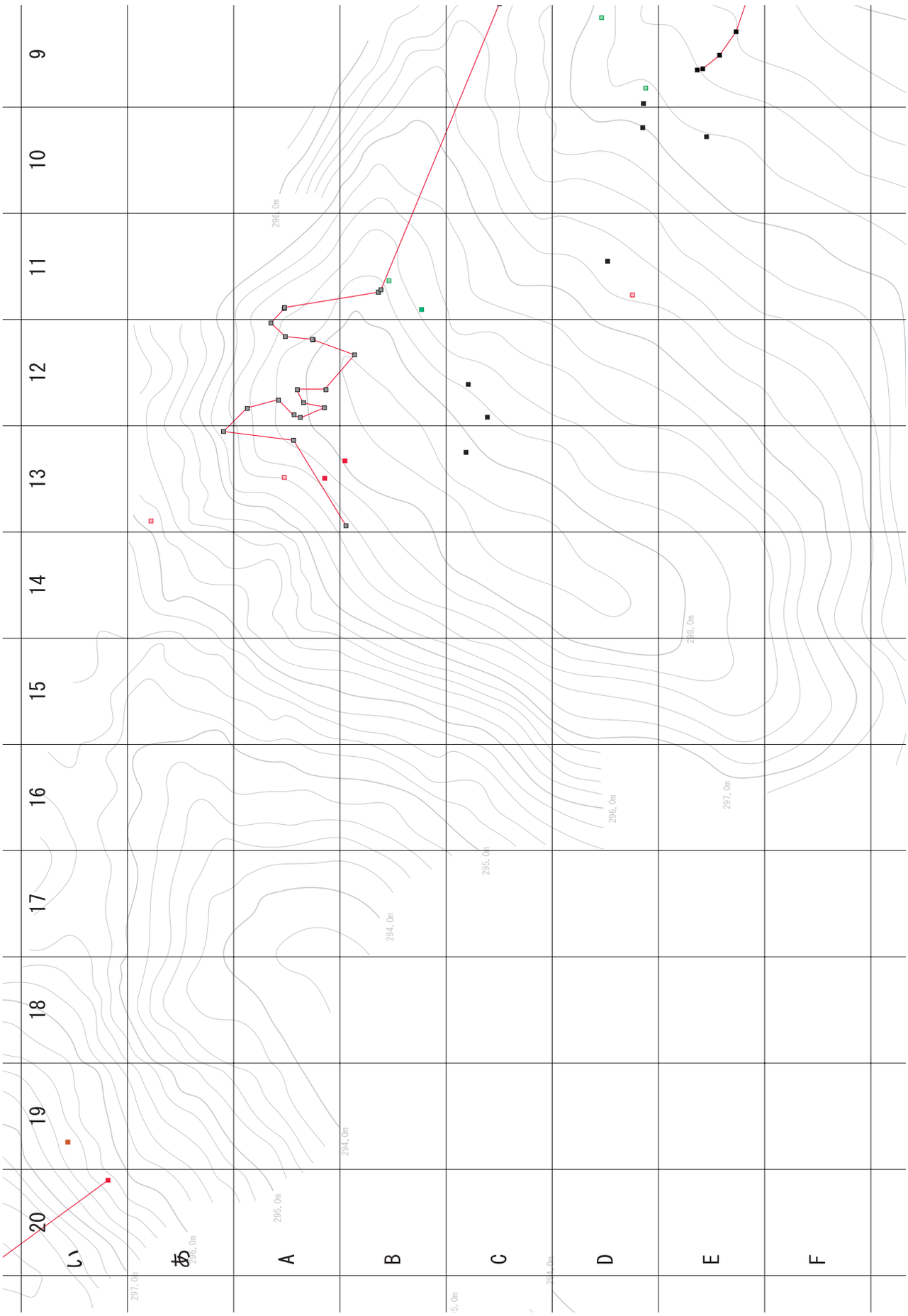
しかし本タイプ土器の分類指標には，次の２点について問題がある。第１には，器形的特徴として第２類土器に属する口縁部形態を呈する土器群(第320図688～692)や，第３類土器に属する口縁部形態を呈する土器群(第318図682～686)を含むことである。第２には，施文的特徴として胴部文様帯に縦位方向に施文する土器群(第319図687，第320図688,692)や横位方向に施文する土器群(第320図689,691)がみられることである。このように分類上に「ぶれ」がある土器群である。したがって今後注意を要する土器群である。



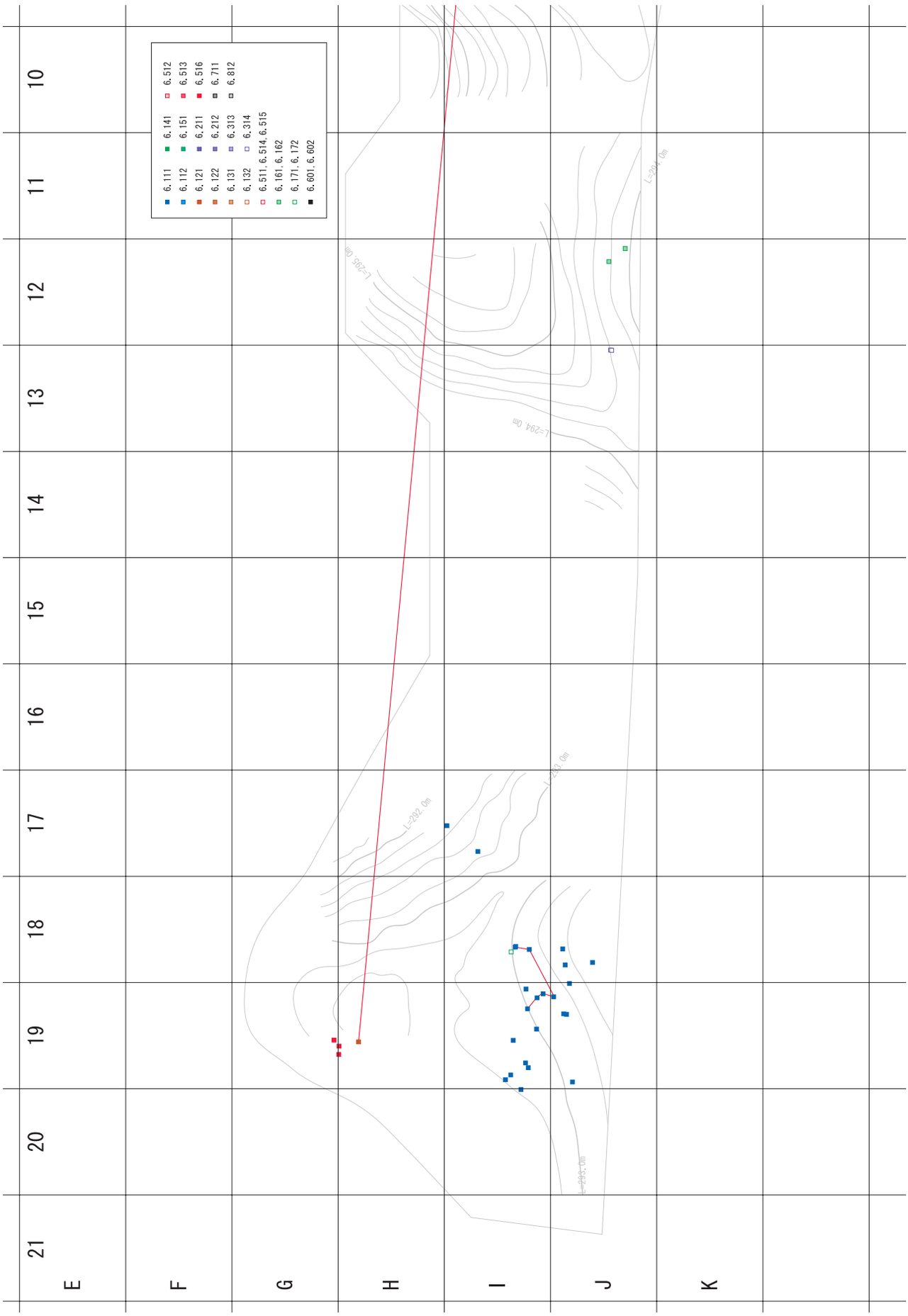
第274図　縄文早期土器分布図28（第６群土器１，1/500）



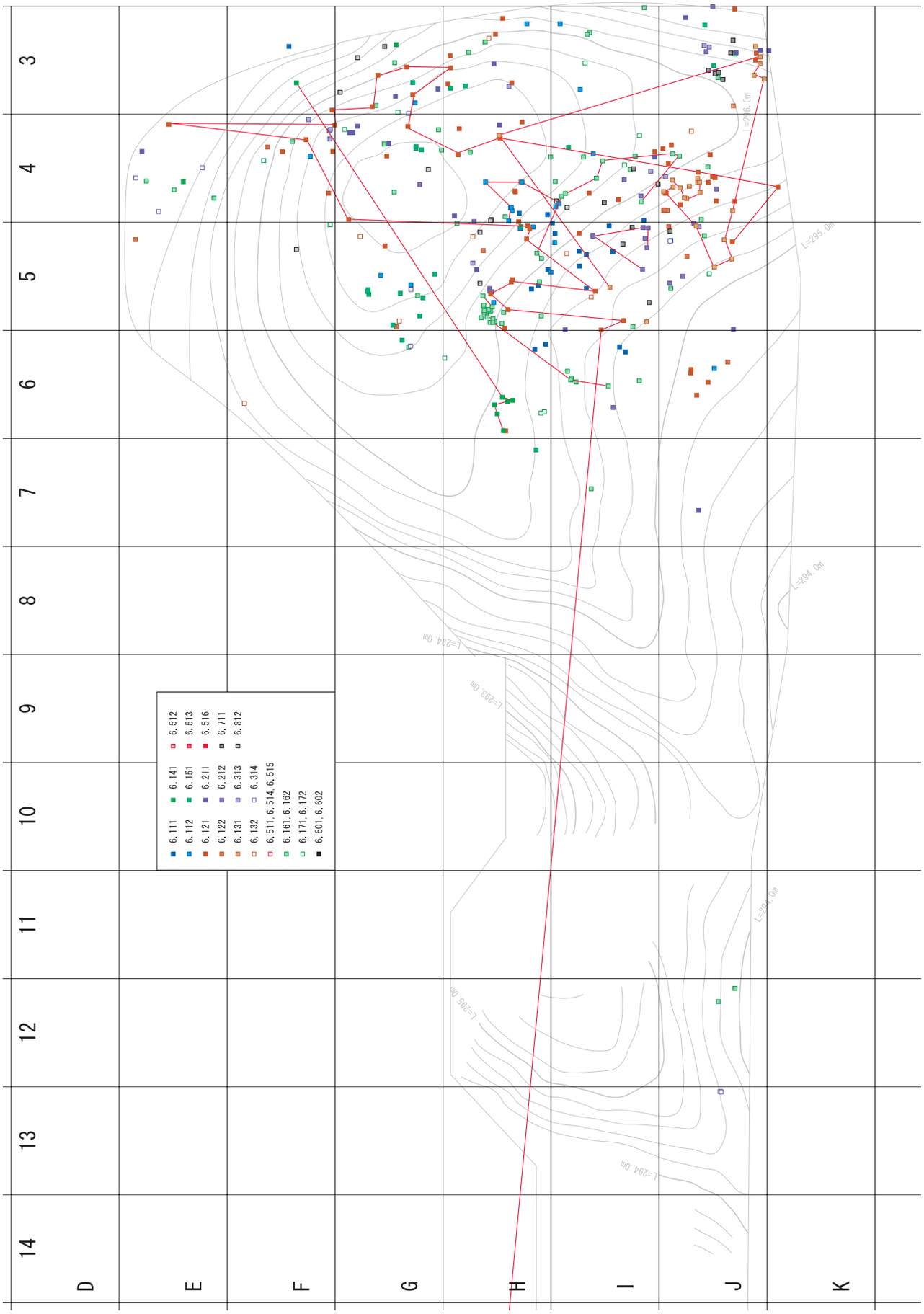
第275図　縄文早期土器分布図29（第６群土器２，1/500）



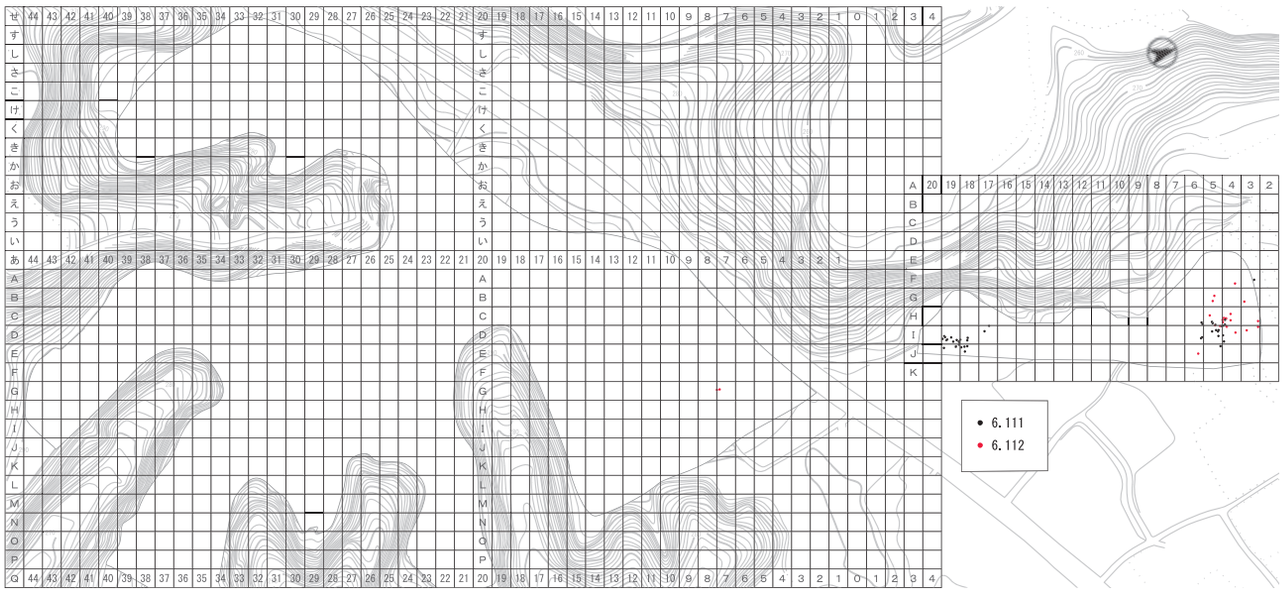
第276図　縄文早期土器分布図30（第６群土器３，1/500）



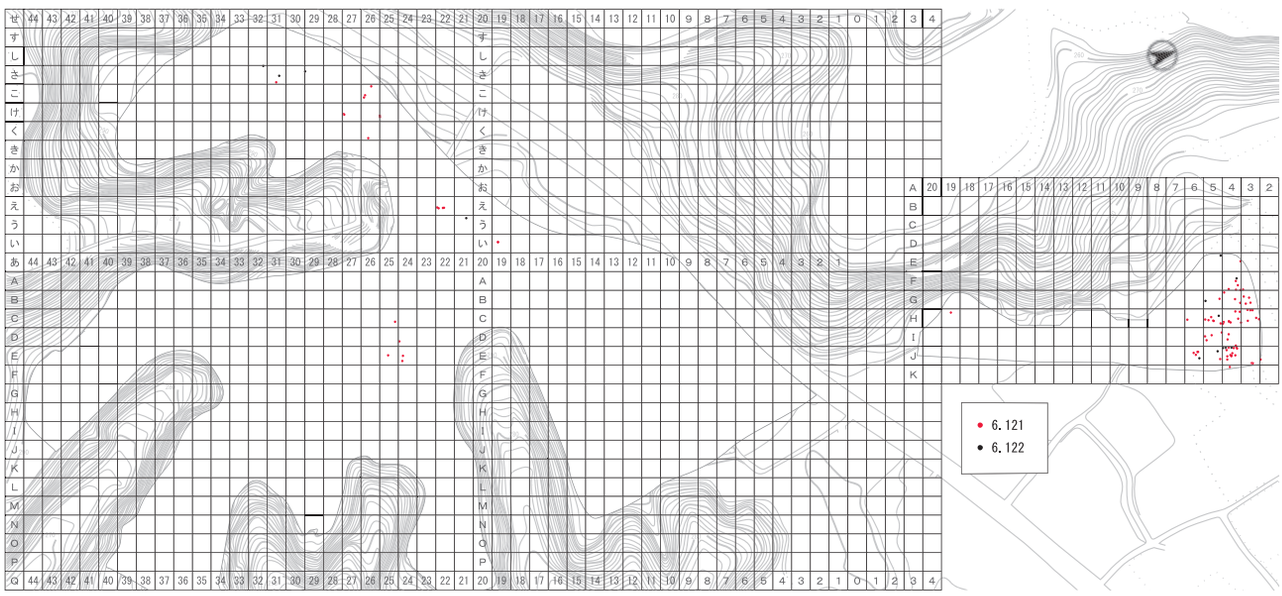
第277図　縄文早期土器分布図31（第６群土器４，1/500）



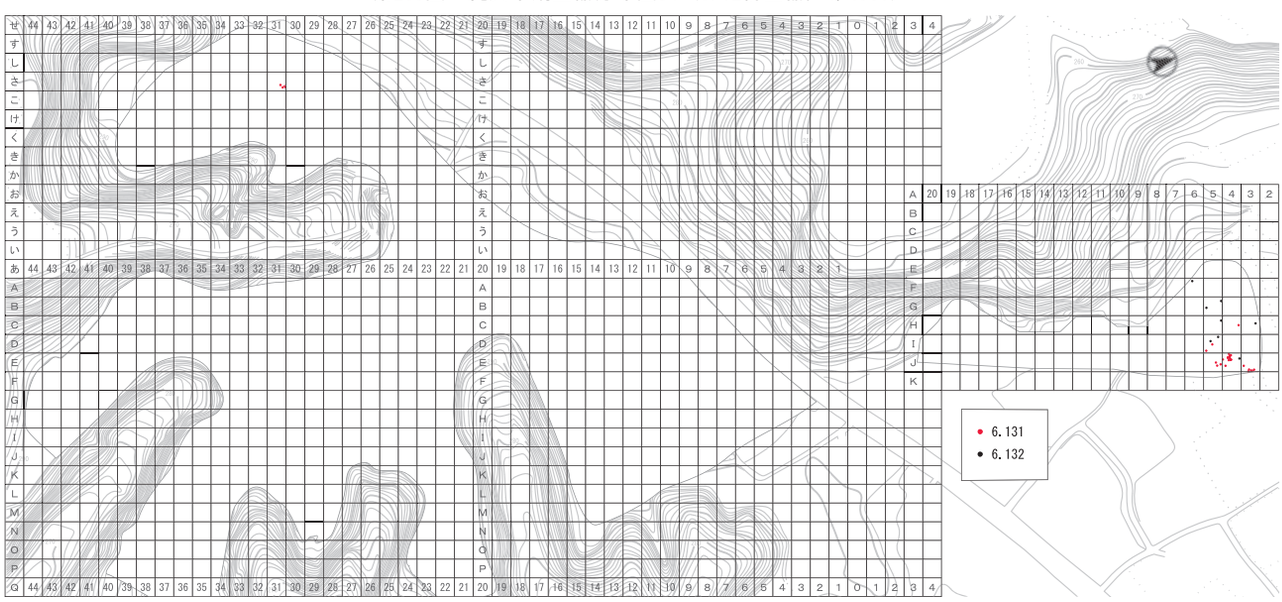
第278図　縄文早期土器分布図32（第６群土器５，1/500）



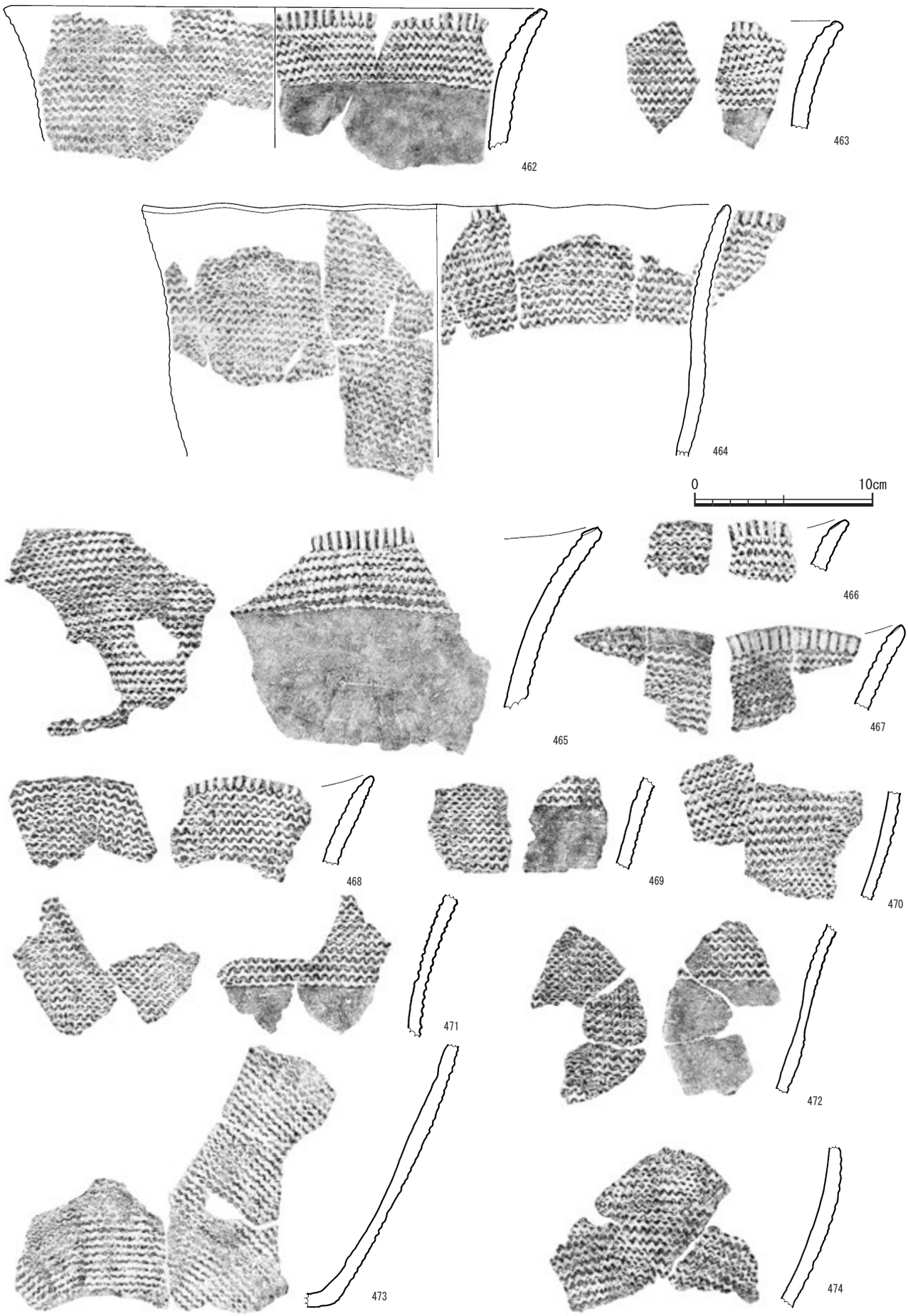
第279図　縄文早期土器分布図33（6.11群土器，1/4000）



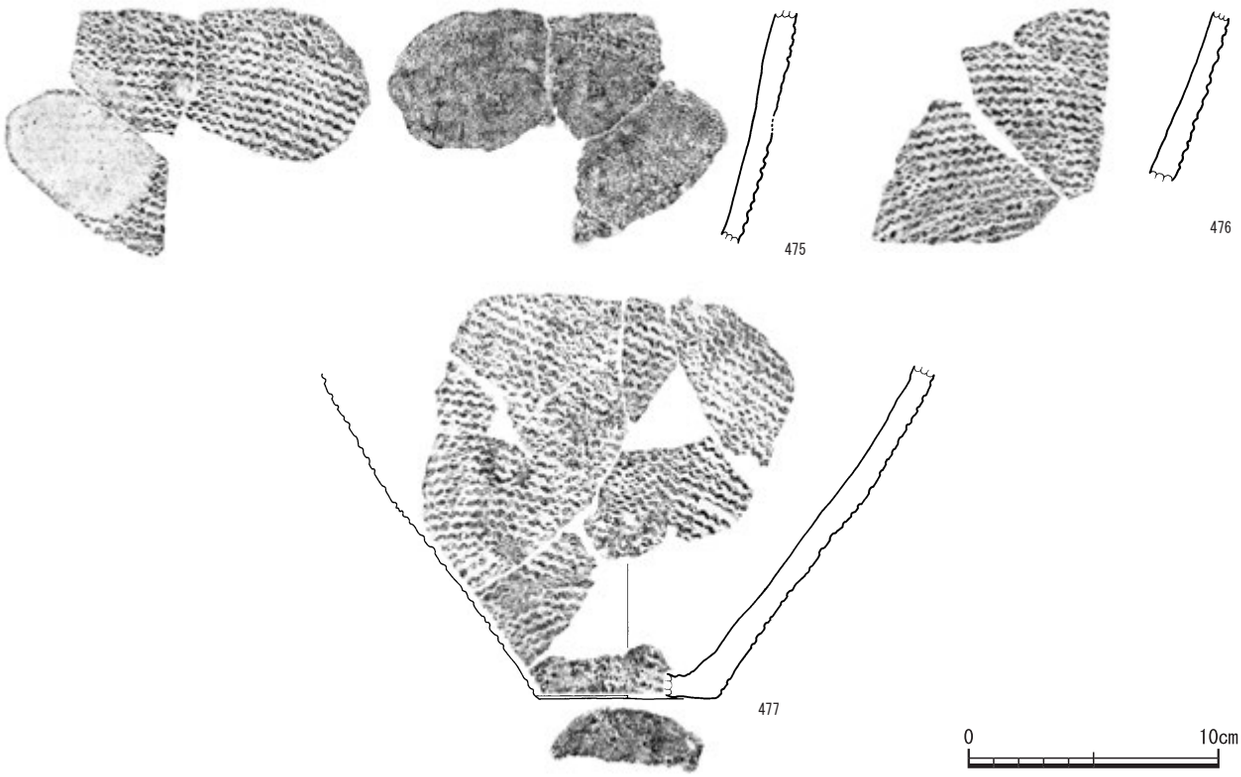
第280図　縄文早期土器分布図34（6.12群土器，1/4000）



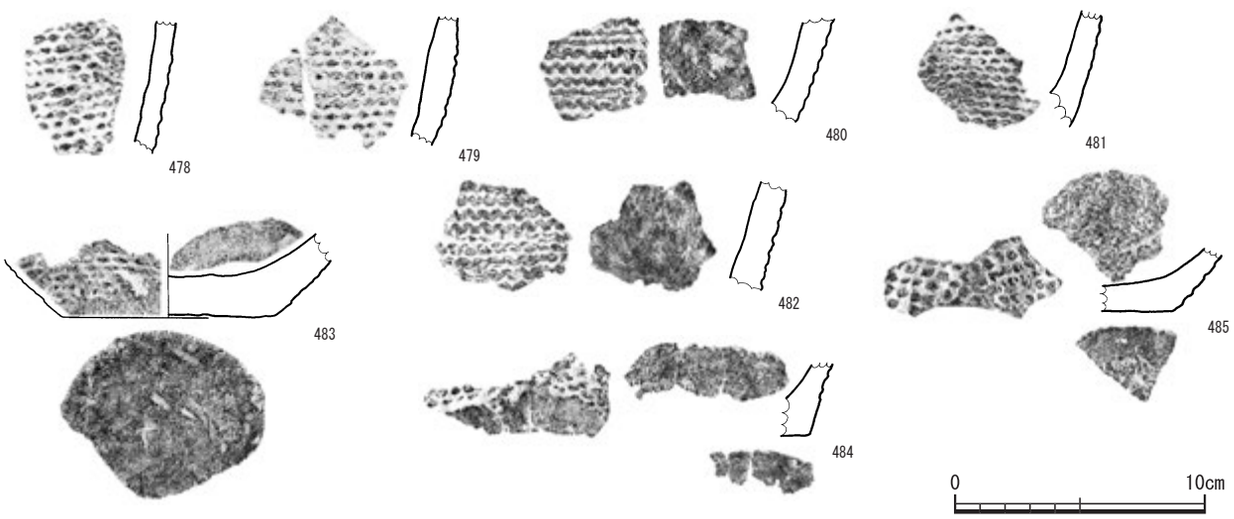
第281図　縄文早期土器分布図35（6.13群土器，1/4000）



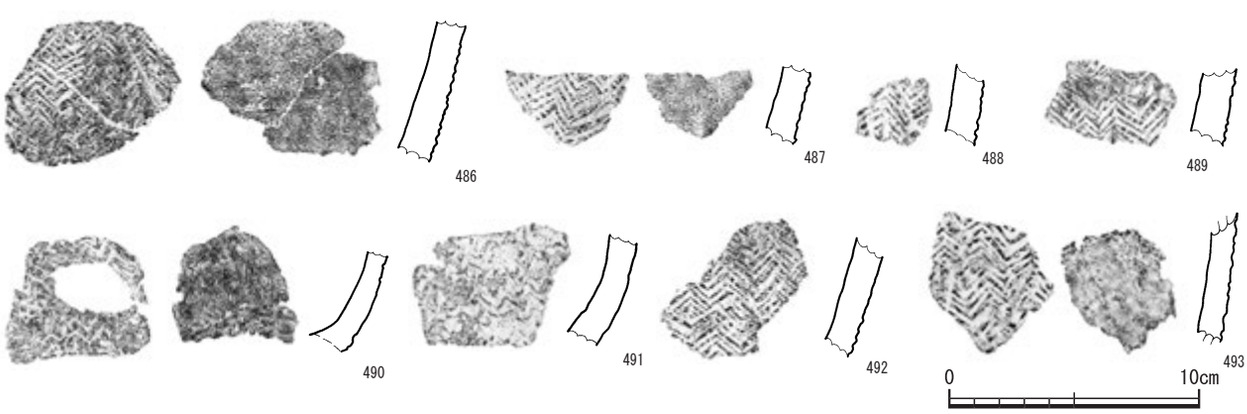
第282図　縄文早期土器実測図（68）（6.111群土器/耳取調査区出土）



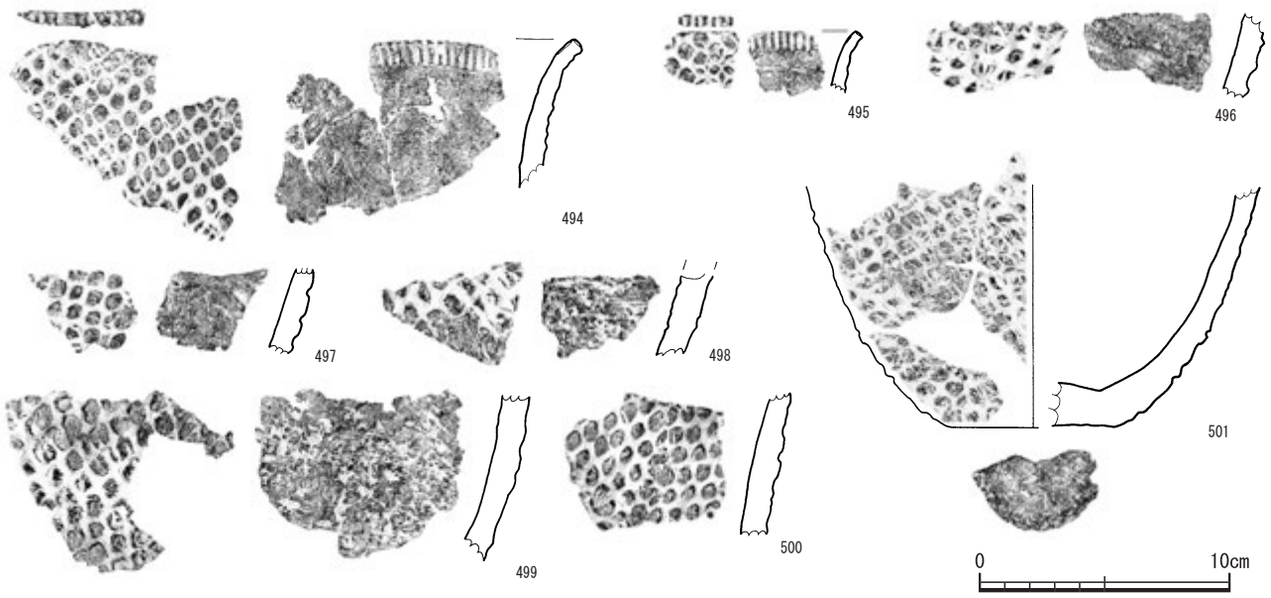
第283図　縄文早期土器実測図（69）（6.111群土器/耳取調査区出土）



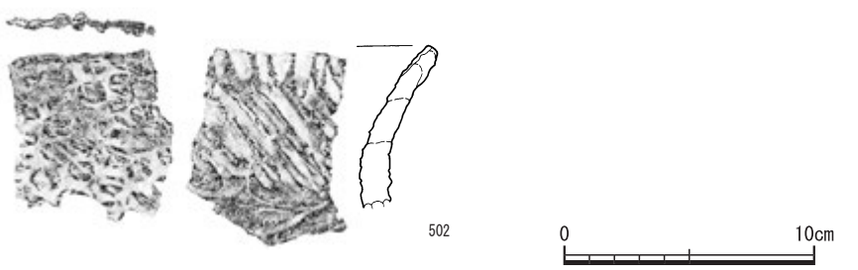
第284図　縄文早期土器実測図（70）（6.112群土器/耳取調査区出土）



第285図　縄文早期土器実測図（71）（6.111群土器/耳取調査区出土）



第286図　縄文早期土器実測図（72）（6.112群土器/耳取調査区出土）



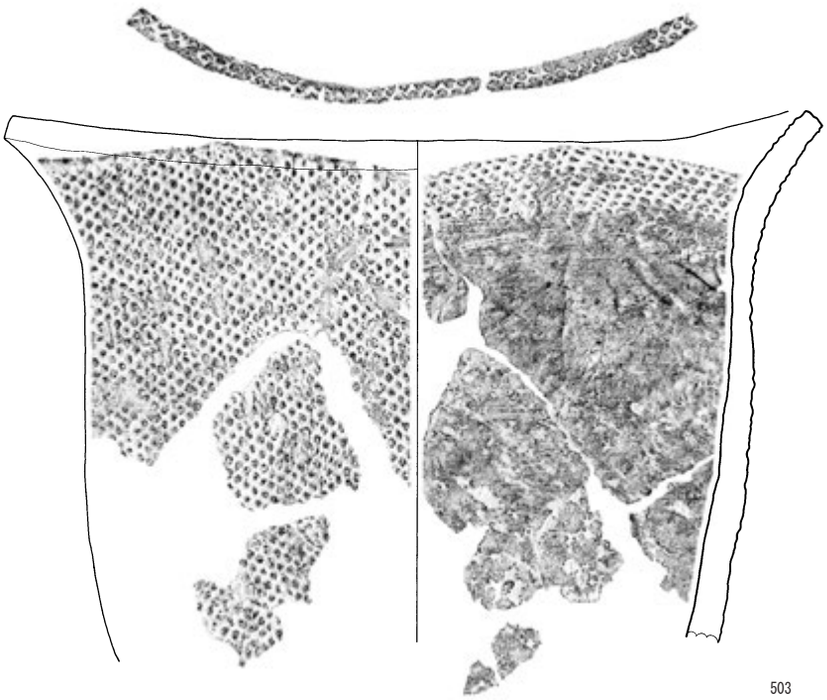
第287図　縄文早期土器実測図（73）（6.112群土器/桐木調査区出土）

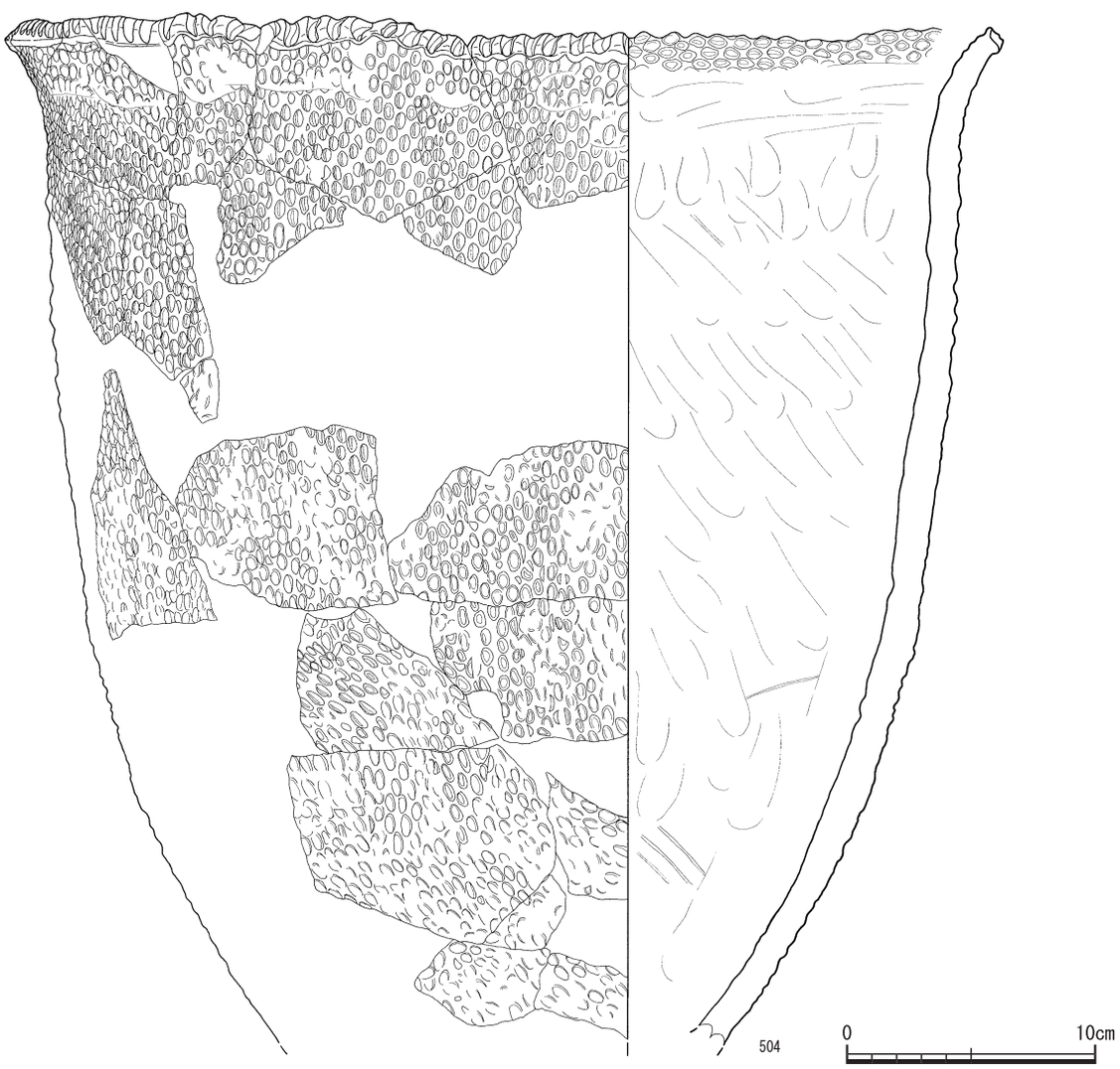
第75表　縄文早期土器観察表（33）（6群土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
282	462	6.111	▲1865(I-20/Ⅶ) ▲2143(I-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ヘラナデ→ナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282	463	6.111	▲1900(I-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ヘラナデ→ナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282	464	6.111	▲2134(I-19/Ⅶ) ▲2421(I-18/Ⅶ) ▲2431(I-18/Ⅶ) ▲2461(I-19/Ⅶ) ▲2464(I-18/Ⅶ下) ▲11159(J-19/Ⅵ) ▲11215(I-19/Ⅶ下)	角,輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	-
282	465	6.111	▲10468(I-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ケズリ→ハケナデ	口唇部:ハケナデ	混和材:角閃石
282	466	6.111	▲1908(I-19/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	-	-	-
282	467	6.111	▲12607(H-5/ⅩⅡ) ▲19425(-/-)	角,輝,砂粒	-	-	-
282	468	6.111	▲4495(I-17/Ⅶ) ▲4543(I-17/Ⅹ)	角,輝,砂粒	-	-	-
282	469	6.111	▲11163(J-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
282	470	6.111	▲1868(I-19/Ⅶ) ▲1918(I-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
282	471	6.111	▲11153(J-19/Ⅶ) ▲11154(J-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
282	472	6.111	▲11140(J-18/Ⅶ) ▲11174(J-18/Ⅶ) ▲11179(J-18/Ⅶ)	角,輝,雲,微粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
282	473	6.111	▲10324(I-5/Ⅶ) ▲10632(H-4/Ⅶ) ▲10678(I-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜,横ケズリ→ハケナデ	-	混和材:角閃石
282	474	6.111	▲1866(I-19/Ⅶ) ▲1899(I-19/Ⅶ) ▲11081(J-19/Ⅷ)	角,輝,雲,砂粒	斜,横ケズリ→ハケナデ	-	混和材:角閃石,黒耀石
283	475	6.111	▲10255(I-5/Ⅶ) ▲10654(I-4/Ⅶ) ▲19402(-/-)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
283	476	6.111	▲8982(I-5/Ⅶ) ▲10276(I-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
283	477	6.111	▲10210(I-5/Ⅶ) ▲10253(I-5/Ⅶ) ▲12786(H-4/Ⅶ) ▲19400(-/-) ▲19405(-/-) ▲19406(-/-) ▲19412(-/-)	角,輝,雲,砂粒	斜,横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
284	478	6.112	▲10524(F-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量
284	479	6.112	▲8264(G-3/Ⅷ)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	砂粒多量

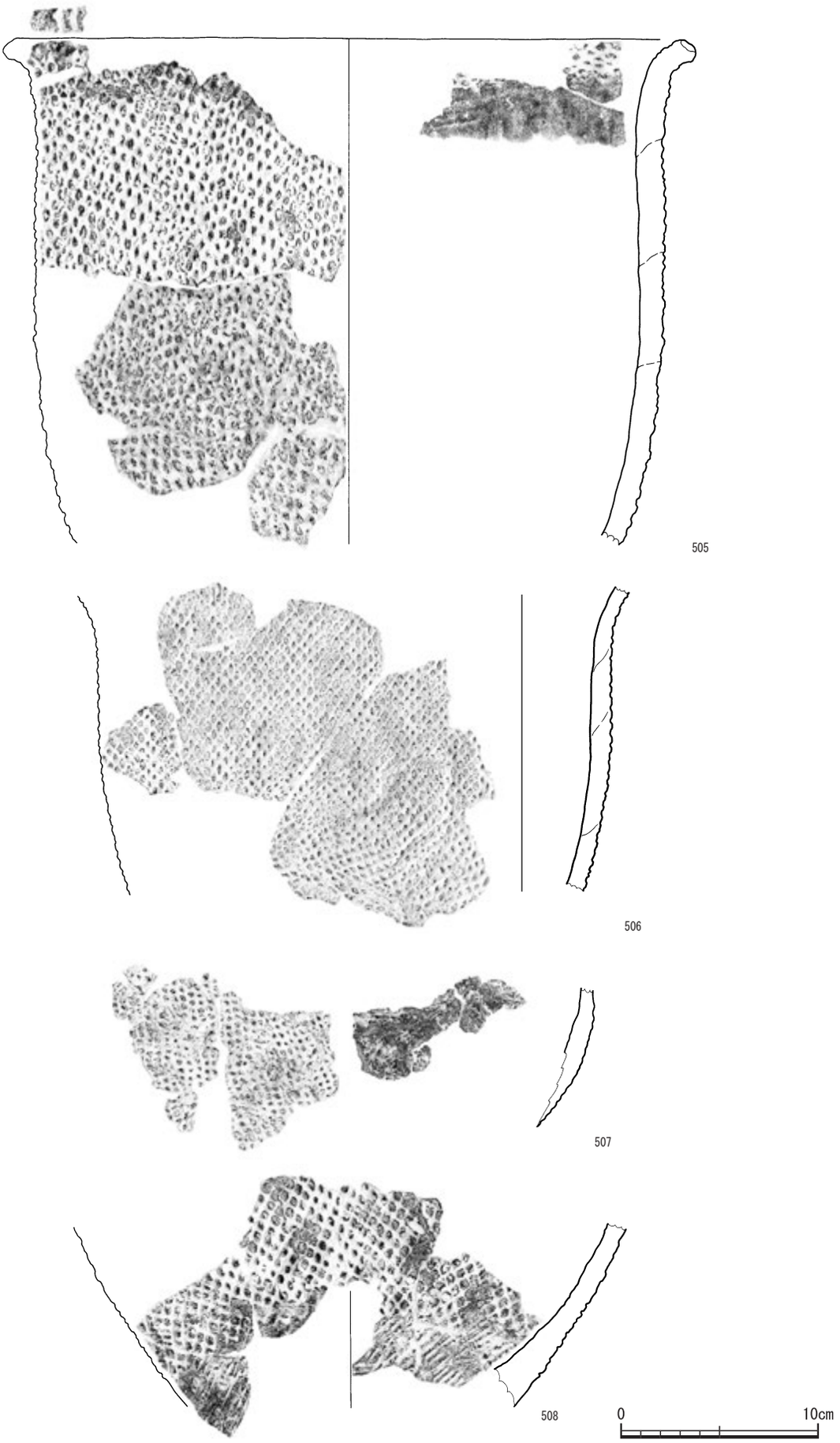
第76表　縄文早期土器観察表（34）（6群土器-２）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
284	480	6.112	▲9972(H-3/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	481	6.112	▲8117(I-3/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
284	482	6.112	▲8946(I-4/Ⅷ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	483	6.112	▲9339(I-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	底面:ハケ→ナデ	砂粒多量
284	484	6.112	▲10787(H-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
284	485	6.112	▲17594(J-6/Ⅷ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
285	486	6.111	▲776(I-6/Ⅲb) ▲13676(H-6/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,砂粒多量,繊維痕
285	487	6.111	▲13249(H-5/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,砂粒多量,接合痕
285	488	6.111	▲15938(I-5/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
285	489	6.111	▲10797(H-5/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,砂粒多量,接合痕
285	490	6.111	▲10305(J-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石
285	491	6.111	▲12844(F-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	黒耀石
285	492	6.111	▲19446(-/-)	黒,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母,砂粒多量
285	493	6.111	▲12743(H-6/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,砂粒多量
286	494	6.112	▲10250(I-5/Ⅶ) ▲15987(H-5/Ⅶ)	輝,角,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
286	495	6.112	▲10236(H-5/Ⅶ)	輝,角,細粒	斜ハケ→ナデ	-	-
286	496	6.112	▲9772(H-5/Ⅶ上)	輝,角,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	497	6.112	▲12789(H-4/Ⅶ)	輝,角,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	498	6.112	▲13074(G-5/Ⅶ)	黒,輝,細粒	横ハケ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
286	499	6.112	▲8684(G-5/Ⅶ)	黒,輝,細粒	横ハケ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
286	500	6.112	▲8960(I-4/Ⅶ下)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
286	501	6.112	▲6143(H-4/Ⅶ横転) ▲6275(H-4/Ⅶ横転) ▲9779(H-4/Ⅶ上) ▲9784(H-4/Ⅶ) ▲10638(I-4/Ⅶ) ▲12829(H-4/Ⅶ)	輝,角,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	底面:白色化	-
287	502	6.112	○60926(G-7/Ⅶ) ○65824(G-8/Ⅶ)	輝,砂粒	縦原体条痕,斜原体条痕,ケズリ→ナデ	口唇部:ナデ	外面スス付着

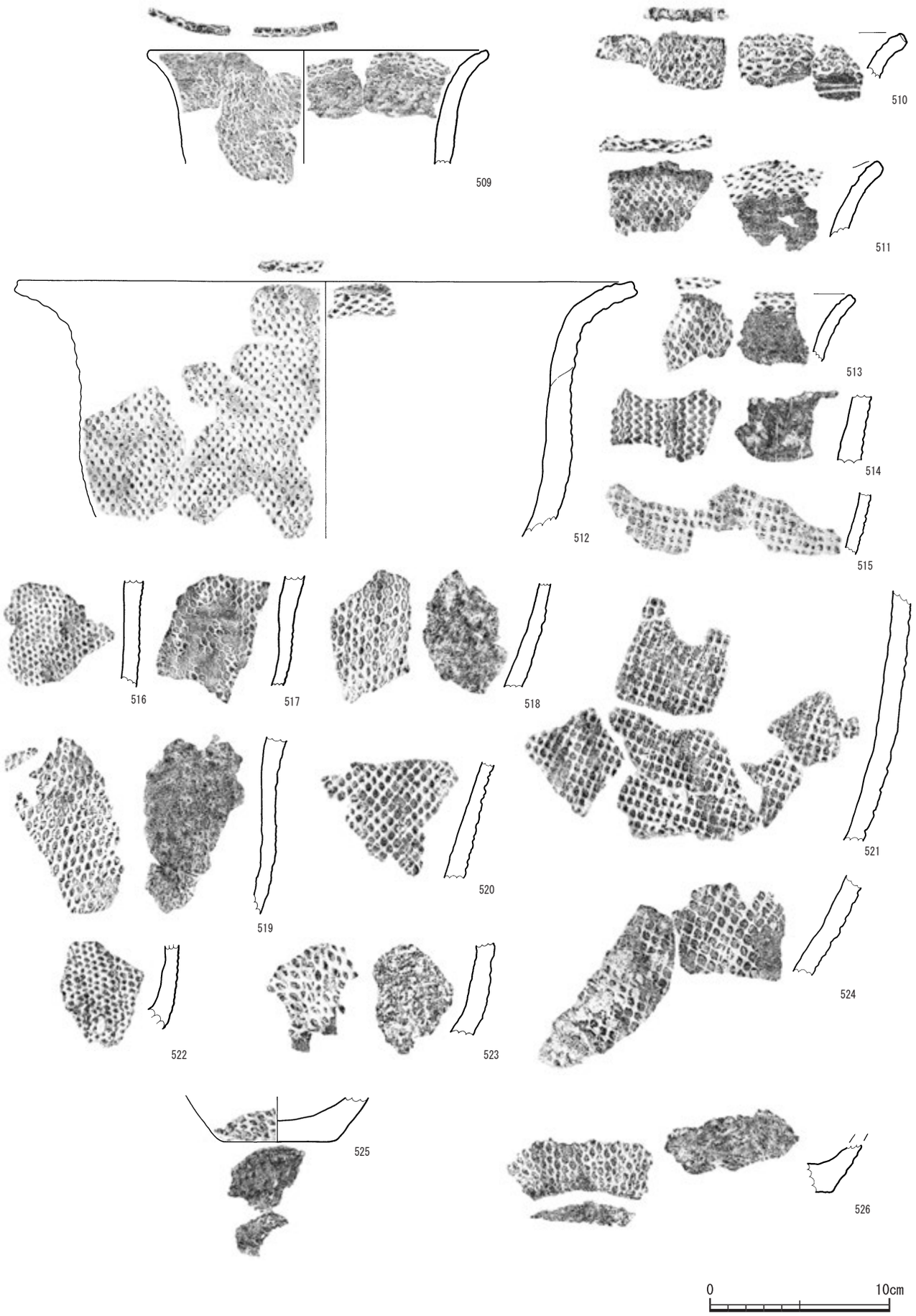




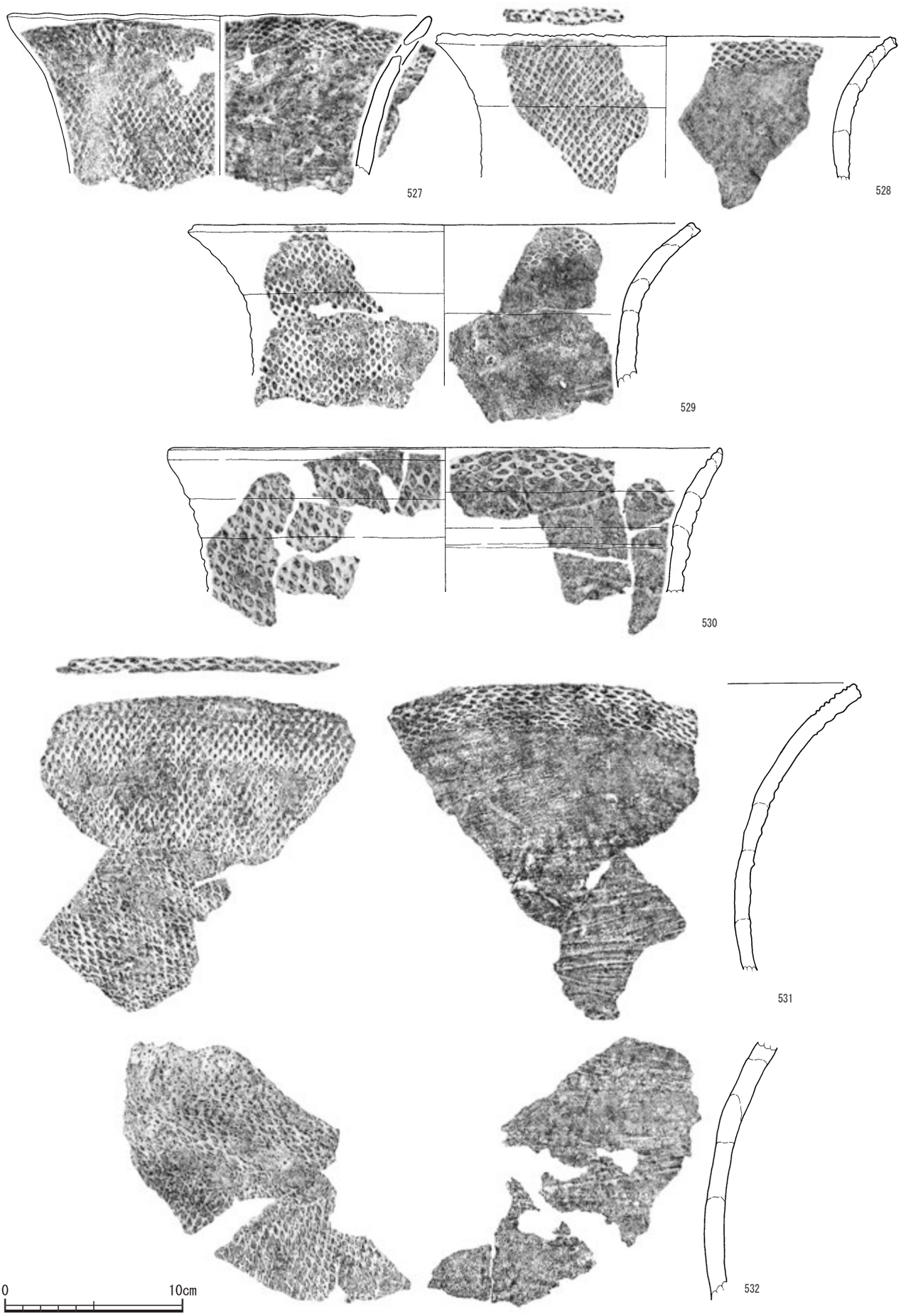
第288図　縄文早期土器実測図（74）（6.121群土器/耳取調査区出土）



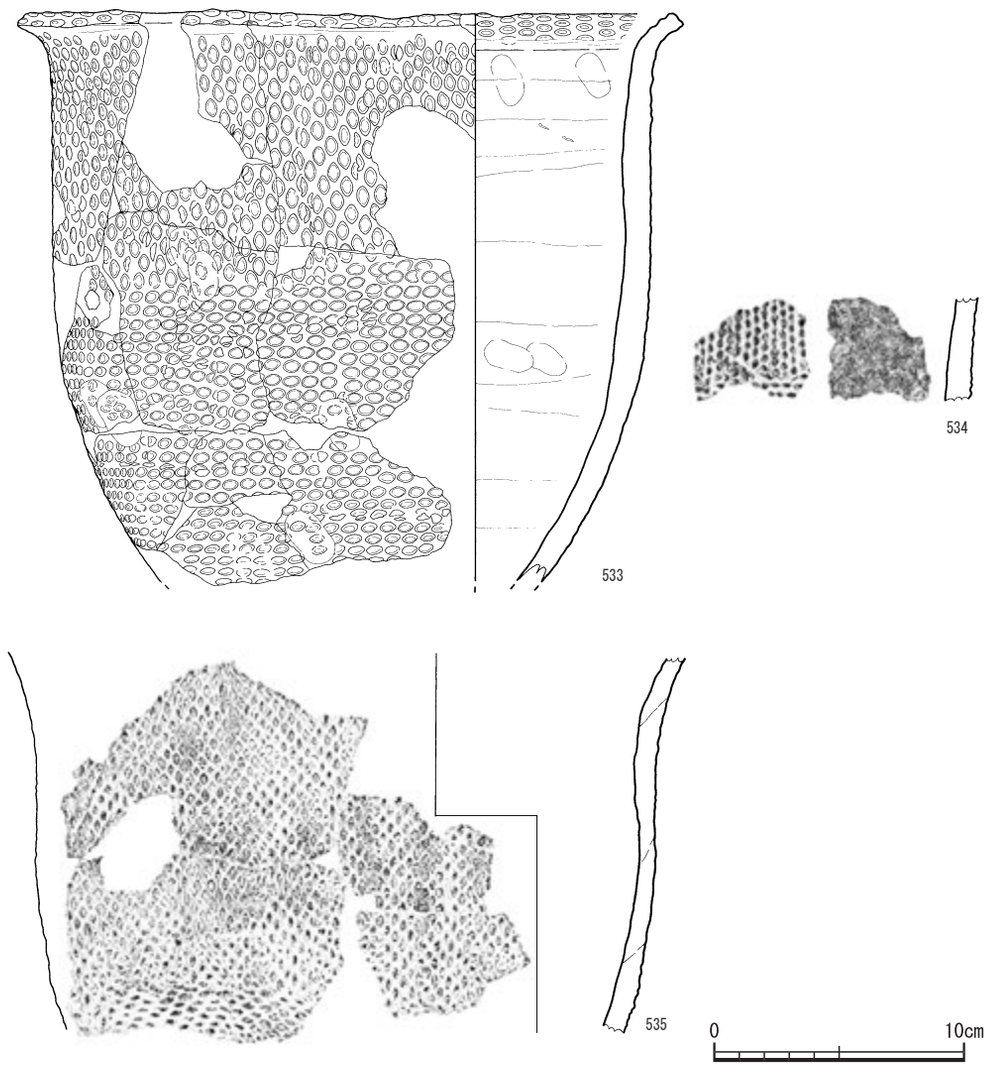
第289図　縄文早期土器実測図（75）（6.121群土器/耳取調査区出土）



第290図　縄文早期土器実測図（76）（6.121群土器/耳取調査区出土）



第291図　縄文早期土器実測図（77）（6.121群土器/桐木調査区出土）



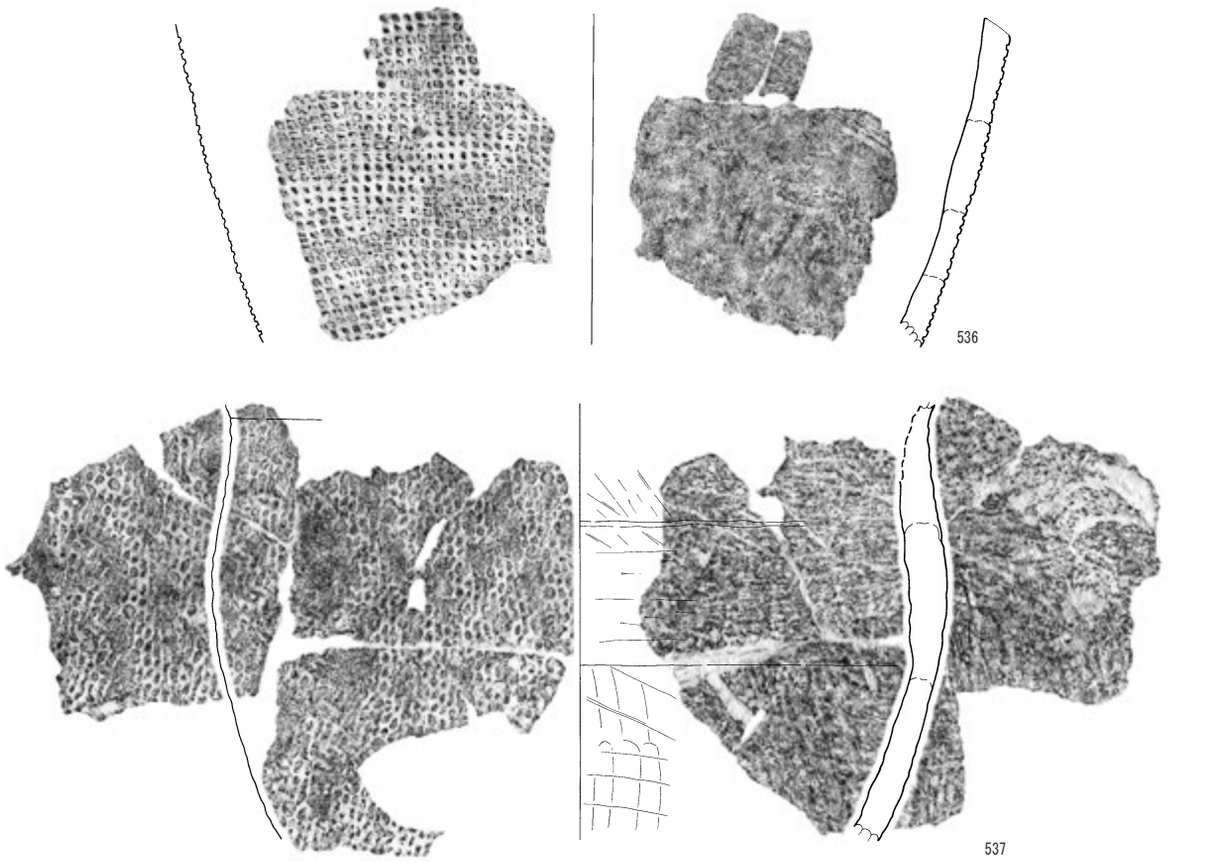
第292図　縄文早期土器実測図（78）（6.131群土器/耳取調査区出土）

第77表　縄文早期土器観察表（35）（6群土器−３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
288	503	6.121	▲19456(−/−) ▲19457(−/−) ▲19458(−/−) ▲19459(−/−) ▲19460(−/−) ▲19461(−/−) ▲19462(−/−) ▲19463(−/−) ▲19464(−/−) ▲19465(−/−) ▲19466(−/−) ▲19467(−/−) ▲19468(−/−) ▲19469(−/−) ▲19470(−/−)	黒,角,輝,砂粒,赤粒	斜,横ケズリ→粗いナデ	−	黒耀石,鉄石英
288	504	6.121	▲914(J-5/Ⅲb) ▲1201(K-4/Ⅲb) ▲5265(H-19/ⅩⅡ) ▲8277(G-4/Ⅶ) ▲8381(G-4/Ⅶ) ▲8869(H-4/Ⅵa) ▲9026(I-5/Ⅵa) ▲9119(J-4/Ⅷ) ▲9515(G-3/Ⅶ) ▲9517(G-3/Ⅶ) ▲9555(G-3/Ⅶ) ▲9892(F-4/Ⅶ上) ▲10174(E-4/Ⅶ) ▲10387(H-3/Ⅶ) ▲10471(I-5/Ⅶ) ▲10474(I-5/Ⅶ) ▲10510(F-3/Ⅶ) ▲10559(F-4/Ⅶ) ▲10707(H-5/Ⅶ) ▲10710(H-5/Ⅶ) ▲10711(H-5/Ⅶ) ▲10758(H-5/Ⅶ) ▲10795(H-5/Ⅶ) ▲13000(H-4/Ⅶ樹根) ▲13269(H-5/Ⅶ) ▲13287(H-5/Ⅶ) ▲16964(G-3/Ⅶ) ▲19416(−/−) ▲19486(−/−)	角,輝,雲,細粒	横,斜ハケナデ →丁寧なナデ	−	胎土精選

第78表　縄文早期土器観察表（36）（6群土器−４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
289	505	6.121	▲9936(H-3/Ⅶ上) ▲9950(H-3/Ⅶ) ▲10600(H-4/Ⅶ) ▲10679(I-5/Ⅶ) ▲10794(H-5/Ⅶ) ▲19480(−/−) ▲19481(−/−)	輝,角,雲,細粒	ケズリ→丁寧なナデ	−	−
289	506	6.121	▲9258(J-3/Ⅶ) ▲19474(−/−) ▲19475(−/−) ▲19477(−/−) ▲19478(−/−)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
289	507	6.121	▲19483(−/−)	角,輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	−
289	508	6.121	▲8250(H-3/Ⅶ) ▲10260(I-4/Ⅶ) ▲10598(H-4/Ⅶ) ▲13645(I-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	−	内面スス付着
290	509	6.121	▲10278(J-4/Ⅶ) ▲10291(J-4/Ⅶ) ▲10335(J-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	−	砂粒多量
290	510	6.121	▲9344(H-3/Ⅶ) ▲9969(H-3/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	−	−	−
290	511	6.121	▲17816(J-4/Ⅵa)	輝,角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
290	512	6.121	▲10283(J-4/−) ▲10285(J-4/Ⅶ) ▲17819(J-4/Ⅶ) ▲17830(J-4/Ⅶ上) ▲17834(J-4/Ⅶ) ▲17998(J-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	口縁:丁寧なナデ,胴部上半:縦ケズリ→粗いナデ,胴部下半:縦ケズリ→丁寧なナデ	−	砂粒多量
290	513	6.121	▲17812(J-4/Ⅶ上)	輝,雲,細粒,赤粒	ハケ→ナデ	−	−
290	514	6.121	▲9139(J-4/Ⅶ)	輝,雲,微粒	丁寧なナデ	−	胎土精選
290	515	6.121	▲9200(J-6/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
290	516	6.121	▲10583(G-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	ハケ→ナデ	−	−
290	517	6.121	▲13635(I-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	胴部上半:斜ケズリ→粗いナデ,胴部下半:斜ケズリ→丁寧なナデ	−	−



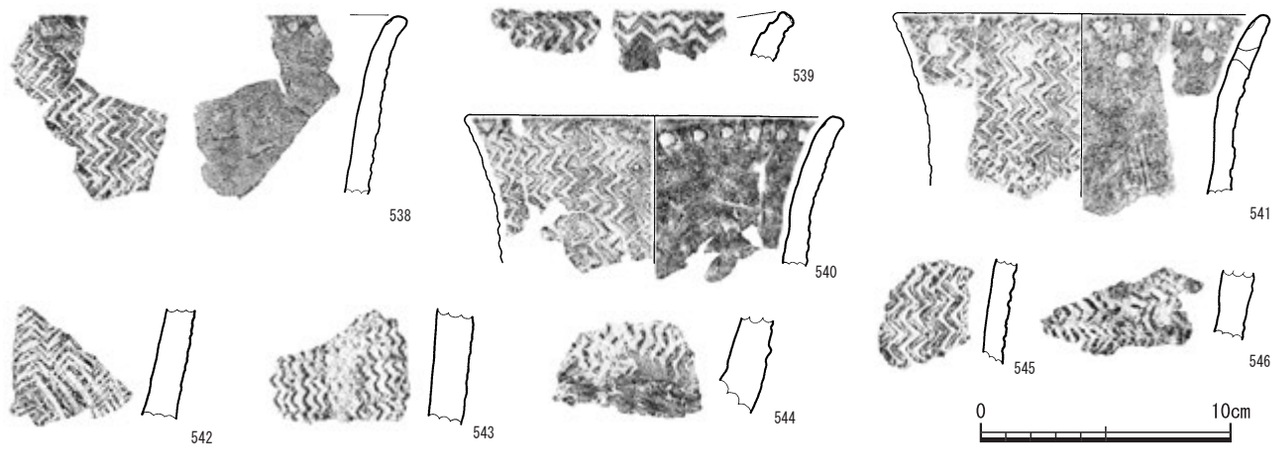
第293図　縄文早期土器実測図（79）（6.131群土器/桐木調査区出土）

第79表　縄文早期土器観察表（37）（6群土器−５）

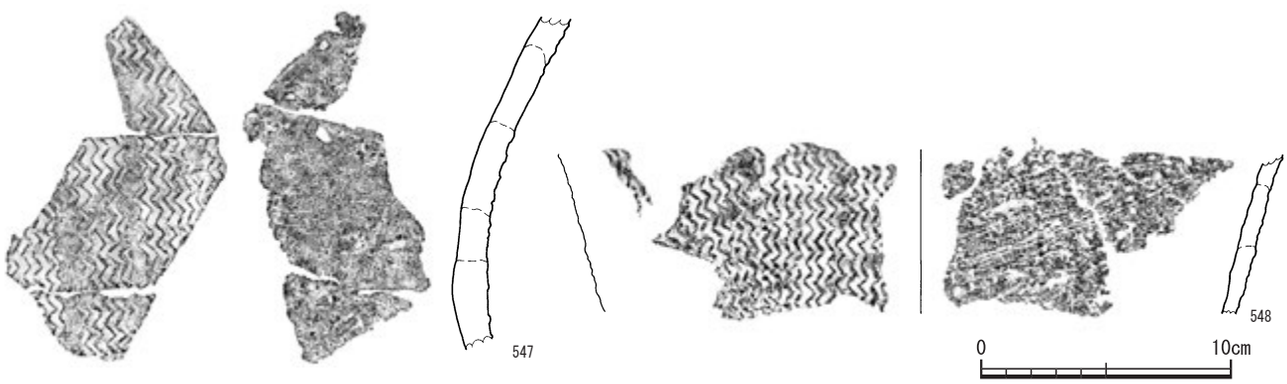
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
290	518	6.121	▲8613(G-5/Ⅷ)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
290	519	6.121	▲9898(F-4/Ⅷ) ▲9908(F-4/Ⅷ上)	黒,輝,砂粒	縦,斜ケズリ→ハケナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
290	520	6.121	▲9209(J-6/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,砂粒多量
290	521	6.121	▲9201(J-6/Ⅷ) ▲9204(J-6/Ⅷ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→斜工具ナデ	−	−
290	522	6.121	▲6273(H-4/Ⅷ横転) ▲6551(H-4/Ⅷ横転)	黒,輝,雲,微粒	横ハケ→粗いナデ	−	黒曜石
290	523	6.121	▲12653(H-6/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
290	524	6.121	▲9775(H-4/Ⅶ上) ▲9785(H-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	−	内面スス付着
290	525	6.121	▲9249(J-3/Ⅶ) ▲9250(J-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→粗いナデ	底面:ハケ→ナデ	砂粒多量
290	526	6.121	▲10593(F-4/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
291	527	6.121	●6981(い-19/Ⅶ) ●6982(い-19/Ⅶ) ●7103(え-22/Ⅶ) ●7108(え-22/Ⅶ) ●7148(え-22/Ⅶ) ●7152(え-22/Ⅶ)	角,輝,細粒	指頭痕→ナデ	−	補修孔,外径12.5mm,内径7mm
291	528	6.121	●2378(さ-31/Ⅶ)	砂粒,角,輝	ケズリ→丁寧なナデ	−	−
291	529	6.121	●51000(け-27/Ⅶ) ●51002(け-27/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母
291	530	6.121	○57472(D-25/Ⅶ下) ○57875(C-25/Ⅶ下) ○68206(E-25/Ⅶ下) ○68234(E-24/Ⅶ) ○68252(E-24/Ⅶ)	砂粒,輝	ナデ	ナデ	−
291	531	6.121	◎32938(く-26/Ⅶ下) ◎32969(け-26/Ⅶ下) ●51124(こ-26/Ⅶ)	角,砂粒	指頭痕,横ハケ →粗いナデ	−	外面スス付着
291	532	6.121	◎32970(け-26/Ⅶ下) ●51114(こ-26/Ⅶ) ●51128(こ-26/Ⅶ)	輝,赤粒角	ナデ,横ケズリ →粗いナデ	−	−
292	533	6.131	▲6108(H-4/Ⅷ横転) ▲7696(J-5/Ⅵa上) ▲8204(J-3/Ⅶ) ▲8207(J-3/Ⅶ) ▲9120(J-4/Ⅶ) ▲9122(J-4/Ⅶ) ▲9125(J-4/Ⅶ) ▲9132(J-4/Ⅶ) ▲9134(J-4/Ⅶ) ▲9136(J-4/Ⅶ) ▲9138(J-4/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	−	−

第80表　縄文早期土器観察表（38）（6群土器−６）

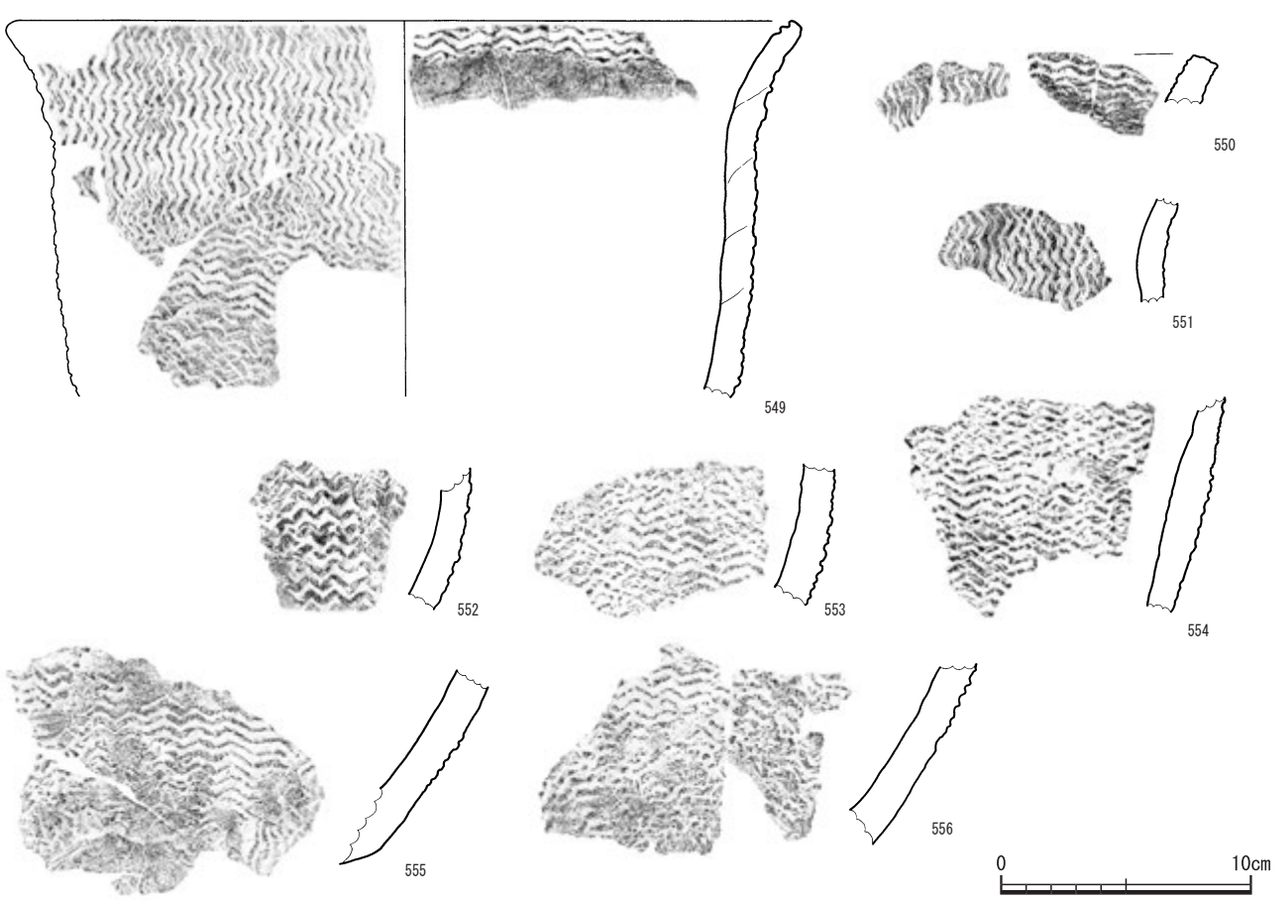
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
292	533	6.131	▲9154(J-5/Ⅶ) ▲9185(J-4/Ⅶ) ▲9243(J-3/Ⅶ) ▲9247(J-3/Ⅶ) ▲10289(J-4/Ⅶ) ▲10330(J-4/Ⅶ) ▲10694(I-5/Ⅶ) ▲17835(J-4/Ⅶ) ▲17847(J-5/Ⅶ) ▲17849(J-5/Ⅶ上)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	−	−
292	534	6.131	▲10475(I-5/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:黒雲母,細粒多量
292	535	6.131	▲9130(J-4/Ⅶ) ▲9253(J-3/Ⅶ) ▲12757(J-3/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
293	536	6.131	○一括(−/−) ○一括(−/−)	角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	−	−
293	537	6.131	●50037(さ-31/Ⅶ) ●50040(さ-31/Ⅶ) ●50041(さ-31/Ⅶ) ●50043(さ-31/Ⅶ) ●50044(さ-31/Ⅶ)	角,輝,砂粒	粗いケズリ,縦→横ヘラ,工具ケズリ	−	−
294	538	6.122	▲10296(J-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
294	539	6.122	▲13827(G-5/Ⅶ)	黒,砂粒,赤粒	ハケ→ユビナデ	−	−
294	540	6.122	▲10288(J-4/Ⅶ) ▲10331(J-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
294	541	6.122	▲9164(J-5/Ⅶ) ▲10332(J-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石,補修孔:A外径8mm,内径5mm,B外径9mm,内径6mm
294	542	6.122	▲17575(J-6/Ⅷ)	黒,輝,砂粒	縦ケズリ→丁寧なナデ	−	砂粒多量
294	543	6.122	▲10149(E-5/Ⅶ)	角,雲,砂粒	丁寧なナデ	−	細粒多量
294	544	6.122	▲12614(H-5/ⅩⅡ)	角,輝,砂粒,赤粒	斜ハケ→ナデ	−	砂粒多量
294	545	6.122	▲10334(J-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	丁寧なナデ	−	混和材:角閃石
294	546	6.122	▲9926(F-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	−	黒曜石
295	547	6.122	●1751(さ-32/Ⅶ) ●2401(さ-30/Ⅶ) ●7181(う-21/Ⅶ)	黒,砂粒	横ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母,砂粒多量
295	548	6.122	●50027(さ-31/Ⅶ)	黒,砂粒	斜ハケ→ナデ	ナデ	混和材:黒雲母
296	549	6.132	▲10395(H-3/Ⅶ) ▲10680(I-5/Ⅶ) ▲10692(I-5/Ⅶ)	輝,角,細粒	口縁,胴部上半:丁寧なナデ,胴部下半:横ケズリ →粗いナデ	−	−
296	550	6.132	▲9465(G-5/Ⅶ上)	輝,砂粒,赤粒	−	口唇部:ハケ →ナデ	−



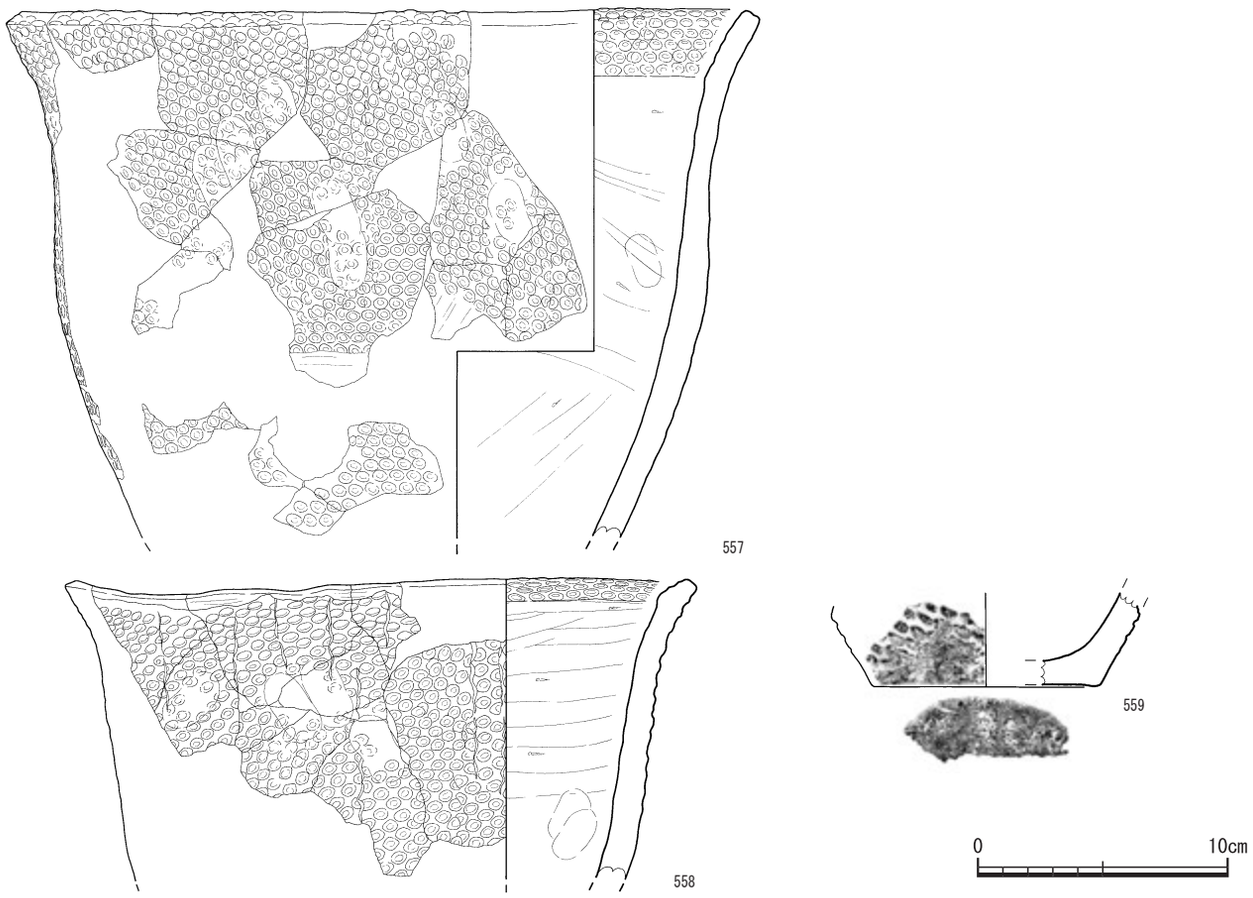
第294図　縄文早期土器実測図（80）（6.122群土器/耳取調査区出土）



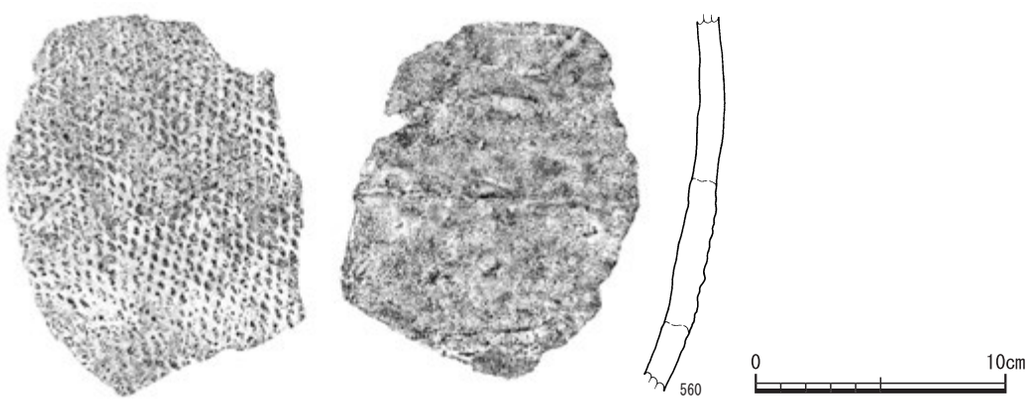
第295図　縄文早期土器実測図（81）（6.122群土器/桐木調査区出土）



第296図　縄文早期土器実測図（82）（6.132群土器/耳取調査区出土）



第297図　縄文早期土器実測図（83）（6.141群土器/耳取調査区出土）



第298図　縄文早期土器実測図（84）（6.141群土器/桐木調査区出土）

第81表　縄文早期土器観察表（39）（6群土器-７）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
296	551	6.132	▲0(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
296	552	6.132	▲13869(F-6/-)	黒,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
296	553	6.132	▲19509(-/-)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
296	554	6.132	▲0(-/-)	輝,雲,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
296	555	6.132	▲9107(J-4/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	底面:横ハケ→ナデ	-
296	556	6.132	▲10723(H-5/Ⅶ) ▲13086(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
297	557	6.141	▲9548(F-3/Ⅶ) ▲12640(H-6/Ⅶ) ▲12643(H-6/Ⅶ) ▲12647(H-6/Ⅶ) ▲12658(H-6/Ⅶ) ▲12660(H-6/Ⅶ) ▲12661(H-6/Ⅶ)	黒,輝,角,砂粒	斜ケズリ→横ハケナデ	-	-
297	558	6.141	▲9526(G-3/Ⅶ) ▲19488(-/-)	輝,黒,砂粒,赤粒	横ヘラナデ→ナデ	-	細粒多量
297	559	6.141	▲12695(E-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	底面:丁寧なナデ	-
298	560	6.141	●9802(こ-26/Ⅶ)	角,砂粒	ケズリ→ハケナデ	ナデ	-

第82表　縄文早期土器観察表（40）（6群土器-８）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
302	561	6.151	●2065(さ-33/Ⅶ) ●2372(さ-31/Ⅶ) ●2396(さ-31/Ⅶ) ●50028(さ-31/Ⅶ) ●50030(さ-31/Ⅶ) ●50037(さ-31/Ⅶ)	黒,細粒	横ケズリ→粗いナデ,縦ヘラケズリ→粗いハケナデ	ナデ	-
302	562	6.151	●1766(さ-32/Ⅶ) ●50031(さ-31/Ⅶ)	黒,角,細粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	外面スス付着
302	563	6.151	○37999(B-11/Ⅷ) ○38014(B-11/Ⅷ上)	角,輝,雲	横ハケ→ナデ	ナデ	-
303	564	6.151	▲10713(H-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	黒曜石
303	565	6.151	▲847(I-4/Ⅷ)	輝,細粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	黒曜石
303	566	6.151	▲9934(H-3/Ⅶ上)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
303	567	6.151	▲12630(G-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	黒曜石,砂粒多量
303	568	6.151	▲9695(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石,砂粒多量
303	569	6.151	▲9265(J-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石,細粒多量
303	570	6.151	▲8156(H-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	砂粒多量

第６群土器第２類土器(分類記号6.2，第312図～第314図625～665)

第６群土器第２類土器に属する土器を41点資料化した。

本類土器は，口縁部内面から胴部内面にかけて緩やかに屈曲し，口縁部外面から胴部外面にかけて屈曲せずに緩やかな外反形態を呈する土器を指標とする。また本類土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類を行うことができず，１種類に限られるという特徴がある。

第６群土器第２類土器第１タイプ土器(分類記号6.21，第312図～第314図625～665)

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部中央部でほとんど膨らまずに，ほぼ直線的な胴部形態を呈することが挙げられる。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器(分類記号6.211，第312・313図625～647)と，山形押型文を施す第２種土器(分類記号6.212，第314図648～665)とがある。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは粗いナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母や輝石で構成される土器と，主に角閃石や輝石で構成される土器とがあることが指摘できる。特に注目できるのは，２点である。

まず，黒雲母を含む土器が量的に多いことと，胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

つぎに，粗い粒度の鉱物を含む土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も多いのが特徴である。しかも，胎土中に含まれる量が特に多い土器も多数観られた。また，全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。これらの特徴は，第６群土器第１類土器に比べて対照的な点であり，本類土器の特徴の１つに挙げられる特徴である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ－２～７区周辺に集中していること(第309図・第274図～第278図参照)，桐木調査区内では出土が確認できていないことなどが指摘できる。これらの特徴についても胎土中鉱物についての特徴と同様に，第６群土器第１類土器に比べて対照的な点であり，本類土器の特徴の１つに挙げられる。

第６群土器第３類土器(分類記号6.3，第315図～第317図666～681)

第６群土器第３類土器に属する土器を16点資料化した。

本類土器は，口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲し，口縁部外面がほぼ直線的形態もしくは緩やかに外に開く形態を呈する土器を指標とする。本類土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性による分類を行うことができず，第２類土器と同様に１種類に限られるという特徴がある。

第６群土器第３類土器第１タイプ土器(分類記号6.31，第315図～第317図666～681)

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁端部外面から胴部外面にかけてほぼ直線的な形態，もしくは口縁部外面が緩やかに外に開く形態を呈する特徴がある。また口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲し，胴部内面は直線的になる特徴が指摘できる。さらに本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが指摘できる。さらに口縁部内面には横位方向の押型文を１条から数条巡らす特徴がある。また本タイプ土器では楕円押型文を施す第３種土器(分類記号6.313，第315図666～675)と，山形押型文を施す第４種土器(分類記号6.314，第316・317図676～681)とがある。

調整方法としては，第６群土器第２類土器第１タイプ土器と共通する特徴がある。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成される土器が多く，黒雲母を含む土器は少なかったことが挙げられる。また，細かい粒度の鉱物が多量に含まれる土器が多数観られたこと，全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。

このように本類土器では，器形的特徴や施文的特徴，調整方法については第６群土器第２類土器と共通する点の多いことや，また胎土中鉱物のように第６群土器第２類土器とは若干異なる属性があることが指摘できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｅ～Ｊ－３～６区周辺に集中していること(第310図・第274図～第278図参照)，桐木調査区内では出土が確認できないことが指摘できる。これらのことも第６群土器第２類土器と共通し，注目できる。

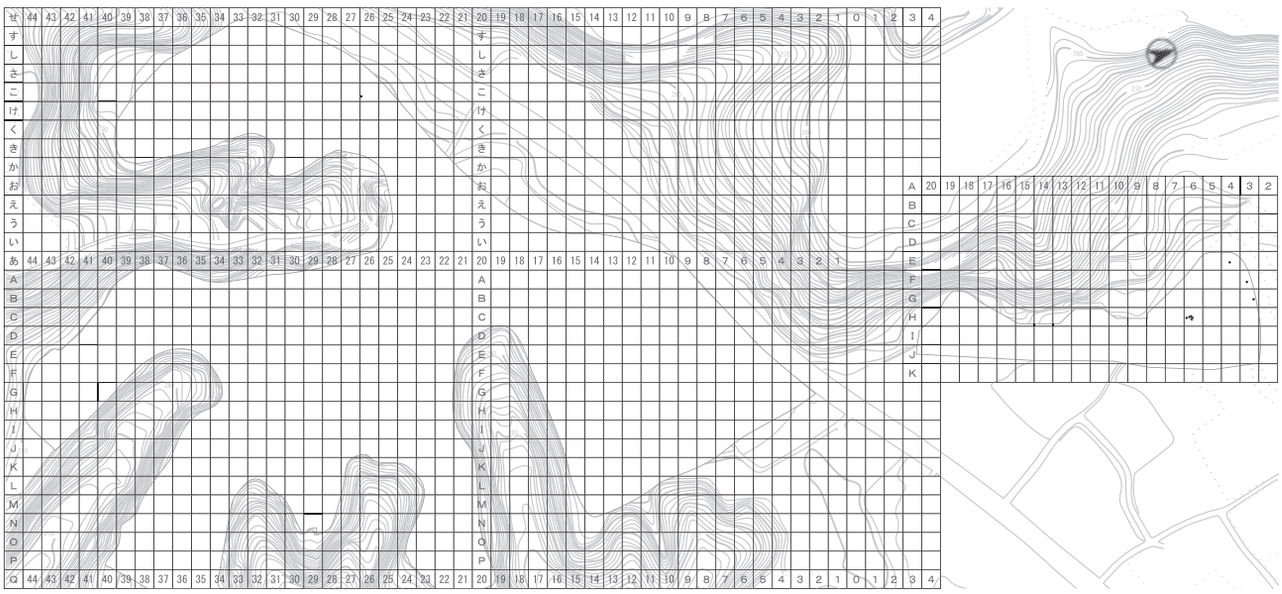
第６群土器第４類土器(分類記号6.4，第322図699～702)

第６群土器第４類土器に属する土器を４点資料化した。

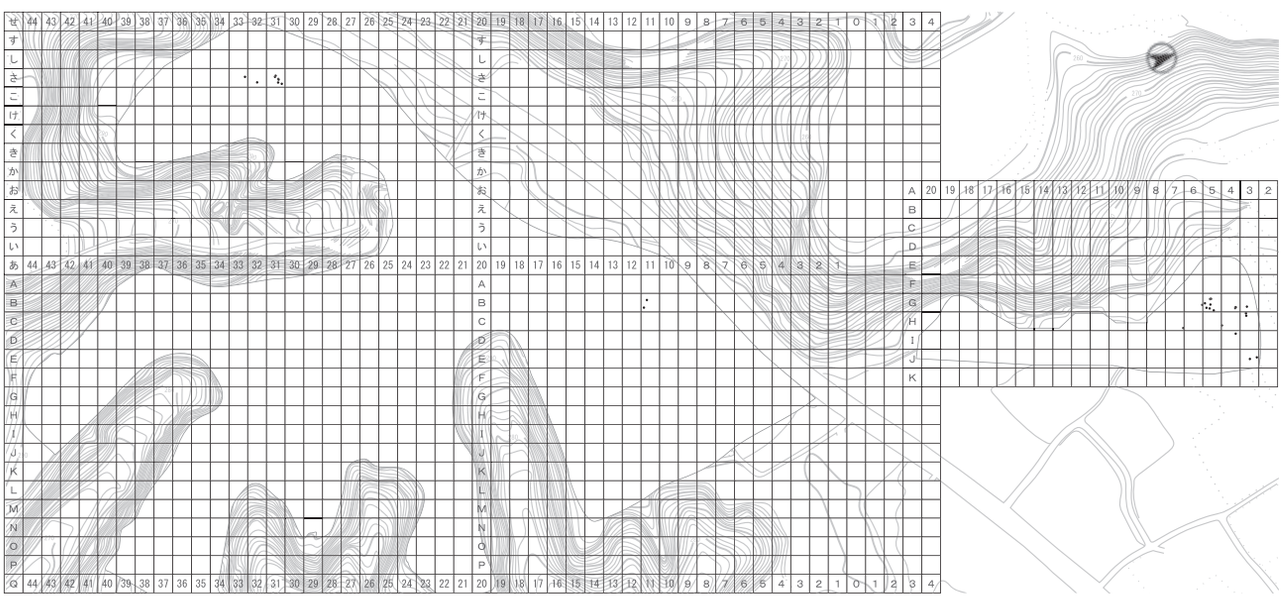
本類土器は，特殊な土器群である。

第322図699,700は小型有文土器である。口縁部から胴部下半部にかけてほぼ直線的な形態を呈し，底部は平底である。施文は外面全面に横位方向の山形押型文。内器面の調整方法はナデ調整。また胎土中鉱物は主に角閃石や輝石，雲母で構成される。特に胎土中に角閃石を多く含む土器が多くあり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

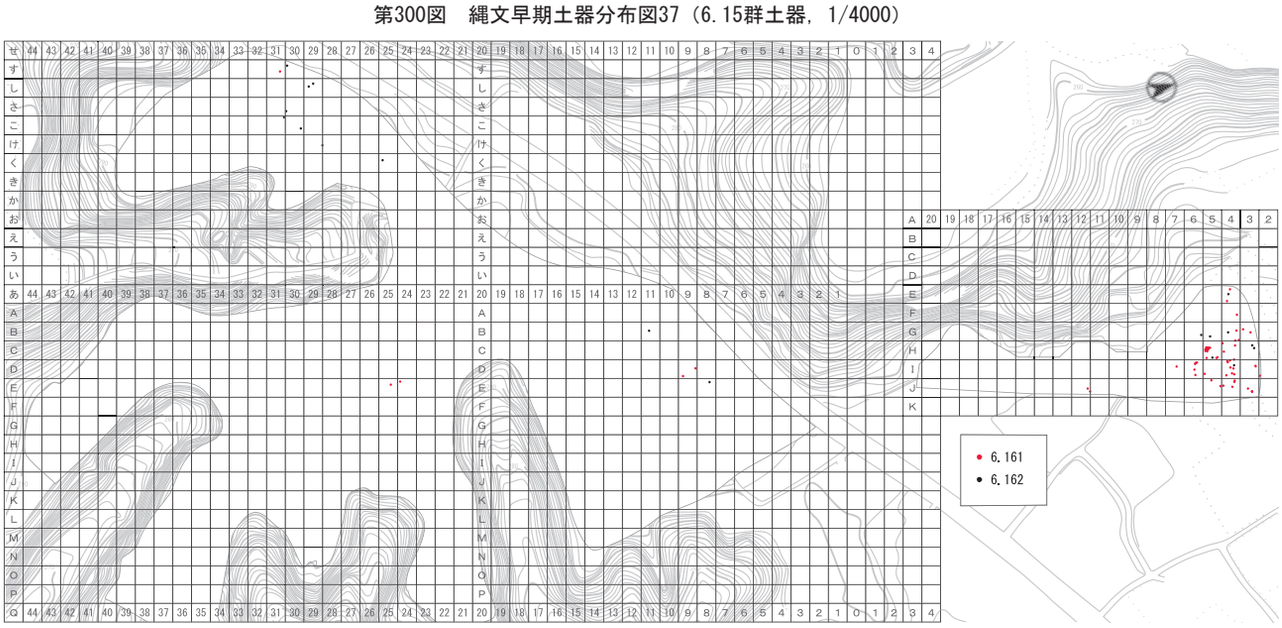
第322図701は，いわゆる「短枝回転文土器」と呼ばれる，木の枝と考えられる工具を回転させ施文した土器の胴部片



第299図　縄文早期土器分布図36（6.14群土器，1/4000）

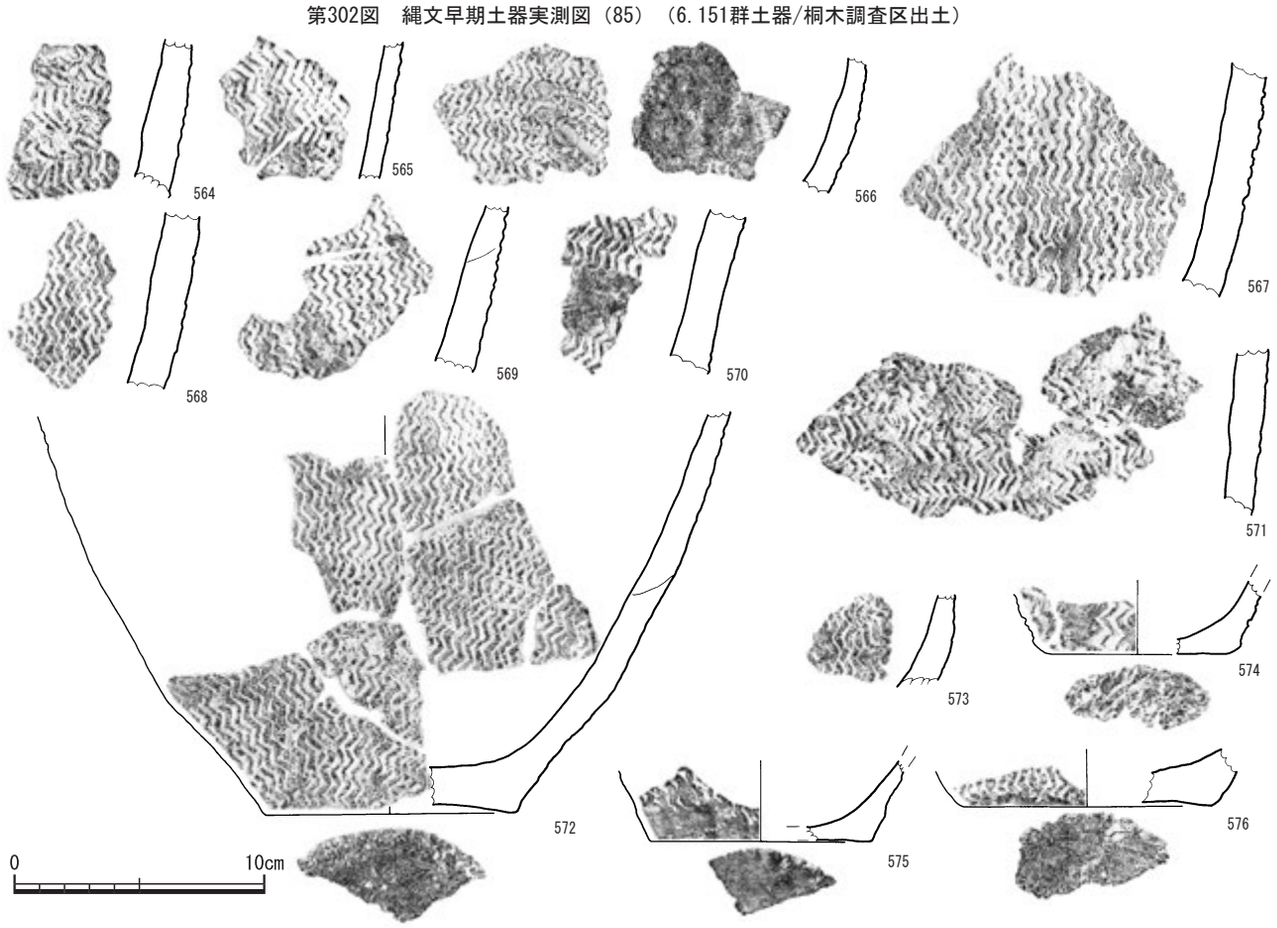


第300図　縄文早期土器分布図37（6.15群土器，1/4000）

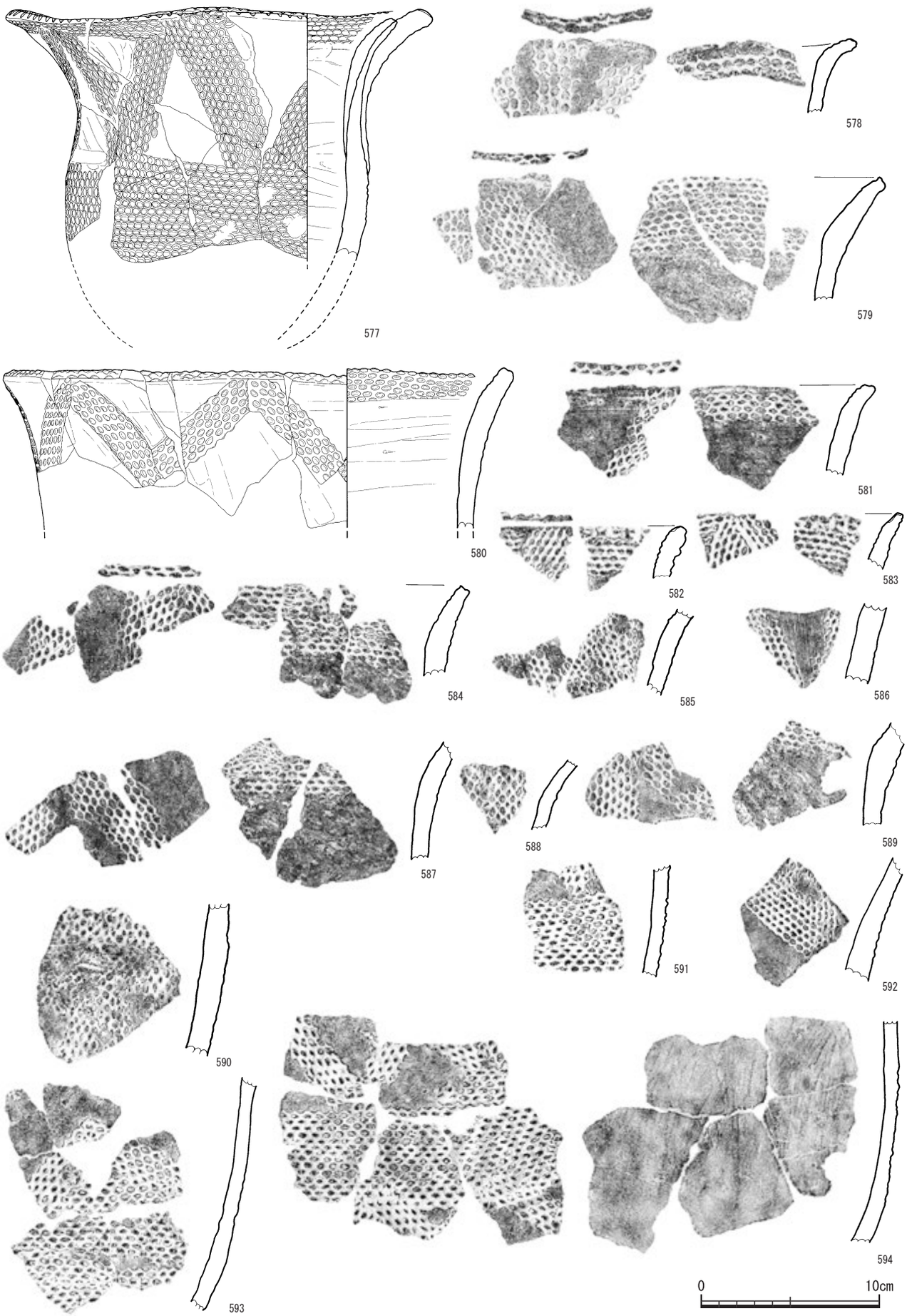


第301図　縄文早期土器分布図38（6.16群土器，1/4000）

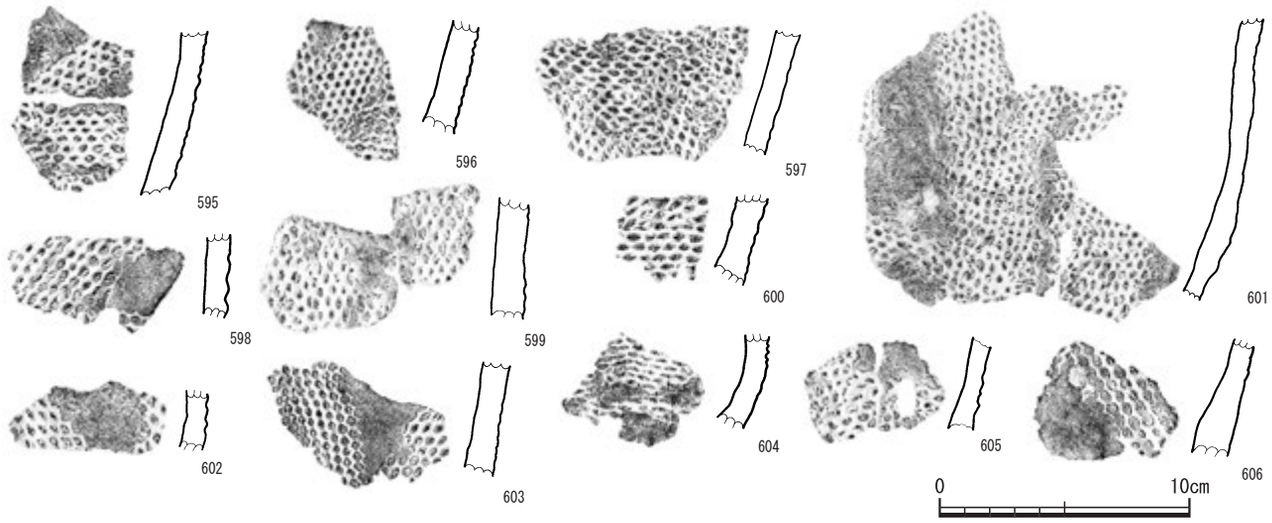
第302図　縄文早期土器実測図（85）（6.151群土器/桐木調査区出土）



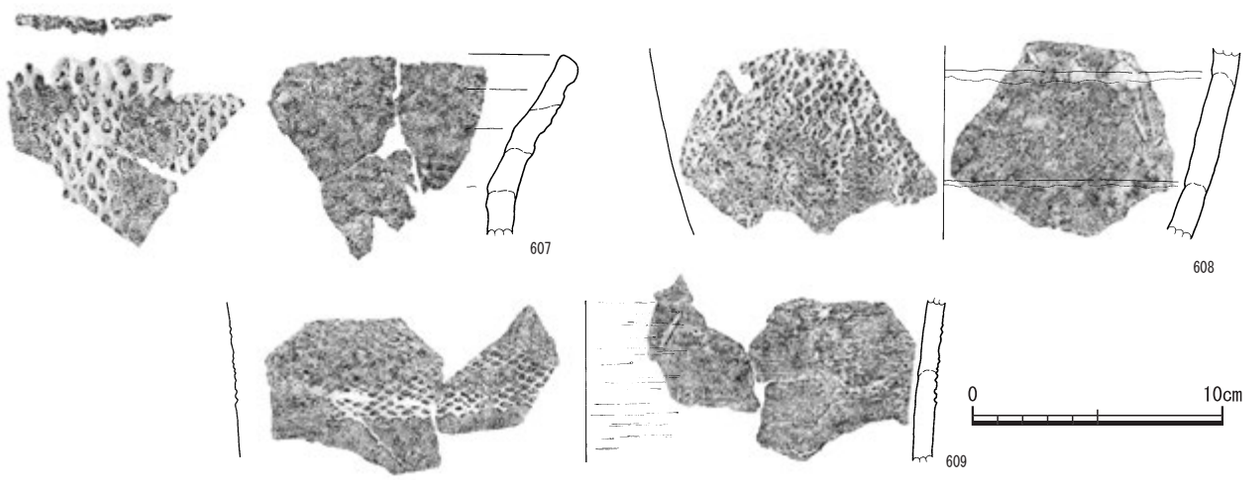
第303図　縄文早期土器実測図（86）（6.151群土器/耳取調査区出土）



第304図　縄文早期土器実測図（87）（6.161群土器/耳取調査区出土）



第305図　縄文早期土器実測図（88）（6.161群土器/耳取調査区出土）



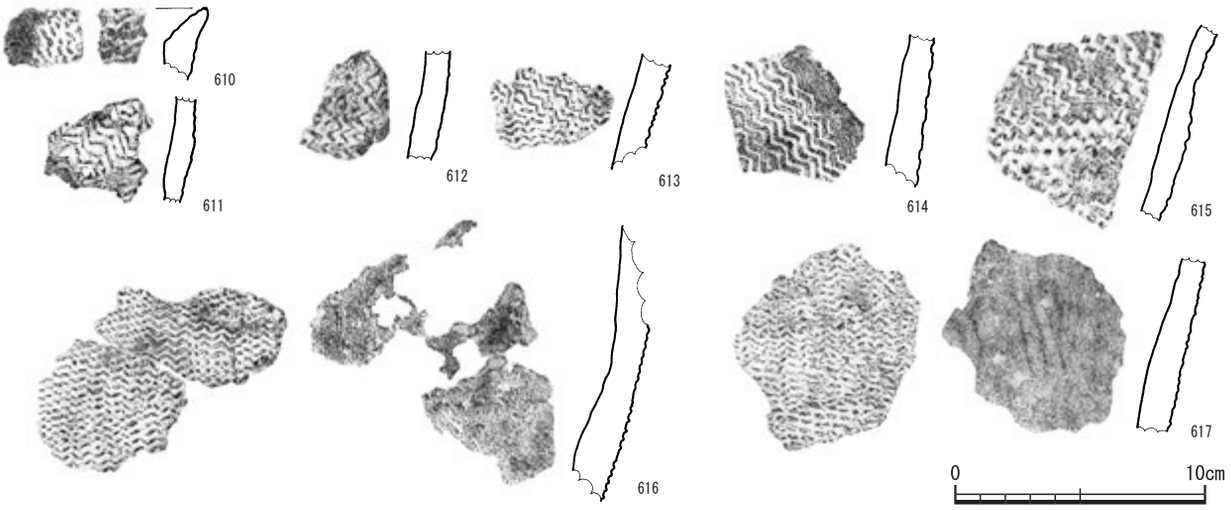
第306図　縄文早期土器実測図（89）（6.161群土器/桐木調査区出土）

第83表　縄文早期土器観察表（41）（6群土器-９）

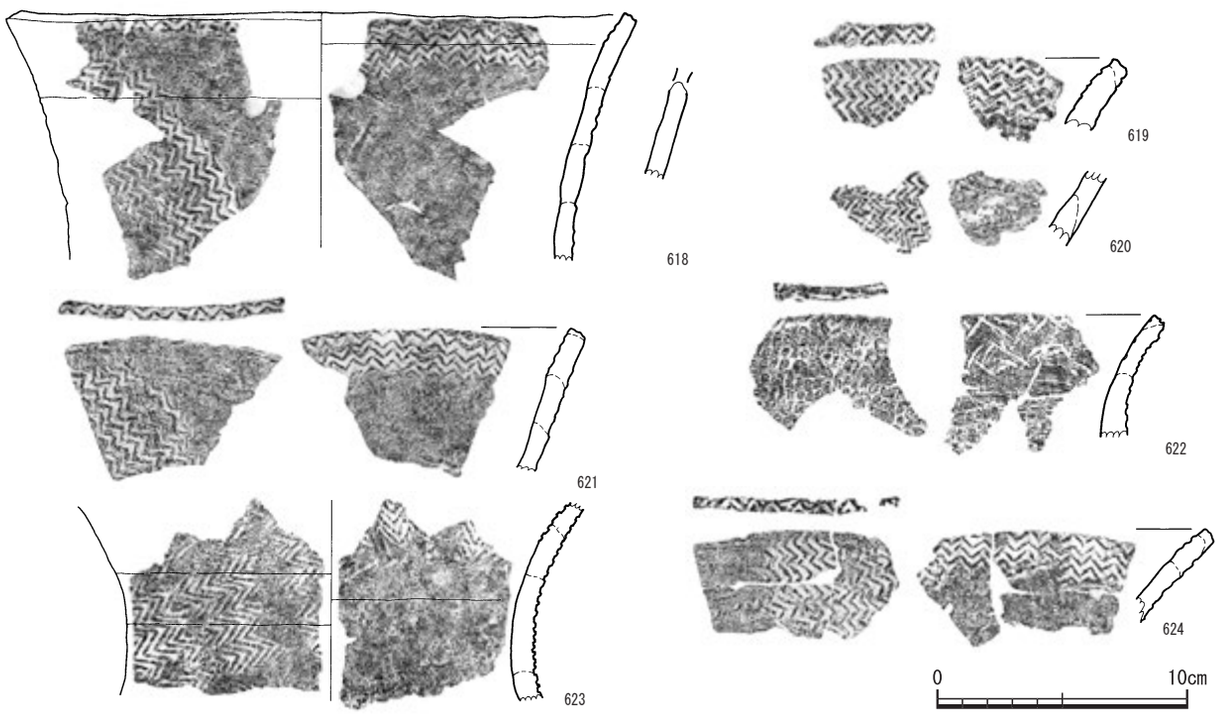
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
303	571	6.151	▲8316(G-4/Ⅶ) ▲9274(J-3/Ⅷ下) ▲9297(G-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	ハケ→丁寧なナデ	-	砂粒多量
303	572	6.151	▲7900(G-5/Ⅶ) ▲8695(G-5/Ⅶ) ▲9666(G-5/Ⅶ) ▲9667(G-5/Ⅶ) ▲9705(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	縦ケズリ→ナデ	底面:丁寧なナデ	砂粒多量
303	573	6.151	▲7908(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
303	574	6.151	▲10582(G-4/Ⅶ) ▲10588(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	底面:工具ナデ	黒耀石,砂粒多量
303	575	6.151	▲12663(H-7/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	底面:ミガキに近い丁寧なナデ	混和材:黒雲母
303	576	6.151	▲12634(G-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	斜ハケ→ナデ	底面:ハケ→丁寧なナデ	砂粒多量
304	577	6.161	▲9199(J-4/Ⅶ) ▲10284(J-4/Ⅶ) ▲10648(I-4/Ⅶ) ▲10653(I-4/Ⅶ) ▲13224(H-5/Ⅶ) ▲13227(H-5/Ⅶ) ▲13652(I-4/Ⅶ) ▲13658(I-4/Ⅶ) ▲13659(I-4/Ⅶ) ▲19491(-/-) ▲19492(-/-)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
304	578	6.161	▲12841(E-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
304	579	6.161	▲9312(I-3/Ⅶ) ▲10566(F-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
304	580	6.161	▲10010(I-6/Ⅶ上) ▲10019(I-6/Ⅶ) ▲10760(H-5/Ⅶ) ▲10770(H-5/Ⅶ) ▲10773(H-5/Ⅶ) ▲10774(H-5/Ⅶ) ▲10775(H-5/Ⅶ) ▲10776(H-5/Ⅶ) ▲10779(H-5/Ⅶ) ▲10785(H-5/Ⅶ) ▲10789(H-5/Ⅶ) ▲10793(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
304	581	6.161	▲16018(H-5/Ⅷ)	角,輝,細粒	工具ナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	細粒多量
304	582	6.161	▲15986(I-4/Ⅷ)	輝,雲,砂粒	-	-	-

第84表　縄文早期土器観察表（42）（6群土器-10）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
304	583	6.161	▲18600(H-4/Ⅷ)	輝,角,雲,砂粒	-	-	-
304	584	6.161	▲8110(I-3/Ⅶ) ▲9314(I-3/Ⅷ下)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
304	585	6.161	▲9148(J-4/Ⅶ) ▲9157(J-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	縦ハケ→ナデ	-	砂粒多量
304	586	6.161	▲10625(H-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	工具ナデ→丁寧なナデ	ミガキに近い丁寧なナデ	-
304	587	6.161	▲8948(I-4/Ⅶ) ▲10650(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	斜ヘラナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
304	588	6.161	▲17814(J-4/Ⅵa)	輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	-
304	589	6.161	▲15973(J-5/Ⅷ)	輝,雲,砂粒	斜工具ナデ→丁寧なナデ	-	-
304	590	6.161	▲8213(J-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
304	591	6.161	▲15935(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	縦ヘラナデ→丁寧なナデ	-	細粒多量
304	592	6.161	▲10983(J-12/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	工具ナデ→丁寧なナデ	ユビナデ	-
304	593	6.161	▲10002(I-6/Ⅶ上) ▲10017(I-6/Ⅶ) ▲10020(I-6/Ⅶ) ▲10022(I-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	縦ケズリ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
304	594	6.161	▲10733(H-5/Ⅶ) ▲10772(H-5/Ⅶ) ▲10780(H-5/Ⅶ) ▲12611(H-5/ⅩⅡ) ▲12626(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	縦ケズリ→ナデ,丁寧な縦ナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	595	6.161	▲13719(H-5/Ⅶ) ▲13720(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧な縦ナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	596	6.161	▲10996(J-12/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	斜,横ハケ→ナデ	-	-
305	597	6.161	▲8236(J-3/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
305	598	6.161	▲9436(G-4/Ⅶ)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	599	6.161	▲8212(J-3/Ⅶ) ▲8214(J-3/Ⅶ)	黒,輝,砂粒,赤粒	ハケ→ユビナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	600	6.161	▲10169(E-4/Ⅶ上)	輝,砂粒,赤粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	-
305	601	6.161	▲9295(G-3/Ⅶ) ▲9556(G-3/Ⅶ) ▲10604(H-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	縦,斜ケズリ→粗いナデ,斜ハケナデ	-	-
305	602	6.161	▲10106(I-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	603	6.161	▲9439(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-



第307図　縄文早期土器実測図（90）（6.162群土器/耳取調査区出土）



第308図　縄文早期土器実測図（91）（6.162群土器/桐木調査区出土）

第85表　縄文早期土器観察表（43）（6群土器-11）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
305	604	6.161	▲9382(I-7/VIa)	輝,雲,羅,砂粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	細粒多量
305	605	6.161	▲15936(H-5/Ⅶ) ▲15937(H-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	縦ケズリ→丁寧なナデ	ユビナデ	-
305	606	6.161	▲8274(G-4/Ⅶ)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ユビナデ →丁寧なナデ	-
306	607	6.161	○68181(E-25/Ⅶ) ○68219(E-24/Ⅶ)	輝	指頭痕→ナデ	-	-
306	608	6.161	●50130(す-31/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
306	609	6.161	○37352(D-9/Ⅶ) ○41950(D-9/Ⅶ)	雲,赤粒細粒	横ケズリ→ナデ	-	外面スス付着
307	610	6.162	▲8150(H-3/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ユビナデ	-
307	611	6.162	▲8945(I-4/Ⅶ)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	-
307	612	6.162	▲10177(E-4/Ⅶ)	輝,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	-
307	613	6.162	▲13155(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
307	614	6.162	▲19440(-/-)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ユビナデ	細粒多量
307	615	6.162	▲12635(G-6/Ⅶ)	角,雲,砂粒	-	-	細粒多量
307	616	6.162	▲9492(G-4/Ⅶ) ▲10799(H-5/Ⅶ)	角,雲,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	-
307	617	6.162	▲9947(H-3/Ⅶ)	角,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石,黒耀石,細粒多量
308	618	6.162	●50529(し-29/Ⅶ) ●50611(し-29/Ⅶ)	輝,細粒	斜ハケ→ナデ	-	-
308	619	6.162	○37190(B-11/Ⅶ上)	角,細粒	-	-	-
308	620	6.162	○42537(E-8/Ⅶ)	黒,砂粒	横ケズリ	-	混和材:黒雲母

第86表　縄文早期土器観察表（44）（6群土器-12）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
308	621	6.162	●51179(く-25/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
308	622	6.162	●2435(さ-31/Ⅶ)	角,細粒	ナデ,横ハケ→粗いナデ	-	-
308	623	6.162	●50121(こ-30/Ⅶ) ●50456(け-29/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
308	624	6.162	●50102(こ-31/Ⅶ) ●50129(す-30/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
312	625	6.211	▲12761(K-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	細粒多量
312	626	6.211	▲9514(G-3/Ⅶ)	黒,輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	627	6.211	▲18261(J-5/Ⅶ下)	黒,輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	628	6.211	▲12613(I-5/ⅩⅡ)	黒,輝,砂粒,赤粒	横ヘラナデ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
312	629	6.211	▲10557(G-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	630	6.211	▲9420(G-4/Ⅶ上)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	631	6.211	▲9425(G-4/Ⅶ上)	輝,雲,砂粒,粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	632	6.211	▲9251(J-3/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	633	6.211	▲8867(H-4/VIa)	黒,輝,細粒	ハケ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母
312	634	6.211	▲9094(J-7/Ⅶ横転)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
312	635	6.211	▲10617(H-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
312	636	6.211	▲10172(E-4/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	637	6.211	▲10746(H-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-

で，器形は胴部中央部でほとんど膨らまずに，胴部下半で緩やかにすぼまる形態を呈している。調整方法としてはケズリ調整の痕跡をとどめ，最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。胎土中鉱物としては黒雲母と粗い粒度の鉱物で構成される。これらの鉱物は特に胎土中に多く含まれ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

第322図702は小型無文土器である。口縁部外面が緩やかに外に開き，胴部中央部でほとんど膨らまずに，胴部下半で緩やかにすぼまり，底部は若干の上げ底形態を呈する。

第６群土器第５類土器(分類記号6.5，第321図693～698，第326図～第335図703～738)

第６群土器第５類土器に属する土器を42点資料化した。

本類土器は，胴部中央部で球形状に大きく弯曲する形態を呈する土器を指標とする。さらに器形的特徴としては，口縁形態では平口縁もしくは緩やかな波状口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部中央部で若干膨らみ，胴部下半部で緩やかにすぼまり，底部は平底あるいは若干の上げ底形態を呈することが，共通した特徴として指摘できる。

本類に属する土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器(分類記号6.51，第321図693～698，第326図～第335図703～738)

器形的特徴としては，口縁部には大きく緩やかに外反する形態の土器と，短く強く外反する形態の土器とがあるのが特徴である。また，胴部上半部はなで肩形となり，胴部中央部で球形状を呈することが指摘できる。

施文的特徴としては，胴部上半部から胴部下端部にかけて胴部文様帯全面に縦位方向の押型文を施すことが，本タイプ土器分類の最大の指標である。また，本タイプ土器は施文具の違いから下記のように６種に分類できる。

第１種土器は楕円押型を施文具とする土器である。

第２種土器は撚糸を施文具とする土器である。

第３種土器は網目撚糸を施文具とする土器である。

第４種土器は山形押型を施文具とする土器である。

第５種土器は縄を施文具とする土器である。

第６種土器は変形撚糸を施文具とする土器である。

以下，種ごとに詳述していく。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第１種土器(分類記号6.511，第321図693～698)

本種土器は，全体形態がうかがえる資料が少ないために，器形的特徴など判明しない土器群である。

本種土器では径の大きさの違いから，中型土器(第321図693～695)，小型土器(第321図696)，特殊小型土器(第321図697,698)に形式分類ができそうであるが，詳細は不明である。

施文的特徴としては胴部上半部から胴部下端部まで胴部文様帯全面に，楕円押型文を縦位方向に施す特徴がある。

調整方法としては，最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石を含む土器と，主に黒雲母を含む土器とが挙げられる。また細かい粒度の鉱物を含む土器と，粗い粒度の鉱物を含む土器とがある。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区け～さ-26～31区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｄ-22区とで部分的に出土していることが指摘できる(第323図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは，桐木調査区西側地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は，第６群土器第５類土器第１タイプ土器では，特に第１種土器の他には第５種土器および第６種土器にも共通してみられる特徴である。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第２種土器(分類記号6.512，第326図703～707)

器形的特徴としては，口縁部には短く強く外反する形態の土器(第326図703,704)と，大きく緩やかに外反する形態の土器(第326図705)とがあるのが特徴である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の撚糸文を数条巡らす土器(第326図705)と，口縁部内面を無文にする土器(第326図703,704)とがある。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることを指摘できる。また，直前調整としては木製工具によるハケ調整や，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や粗い粒度の鉱物で構成される土器が多く観察でき，また黒雲母を含む土器も観られたことが挙げられる。

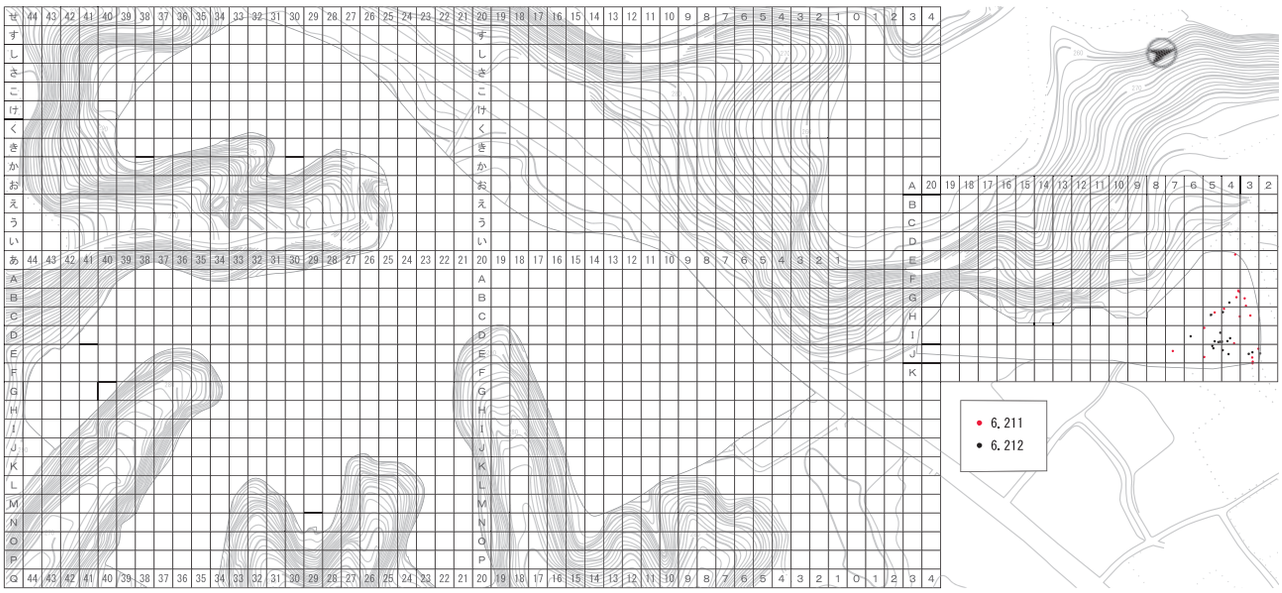
さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区さ・し-29～32区周辺に集中していることが指摘できる(第324図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第３種土器(分類記号6.513，第327図708～711)

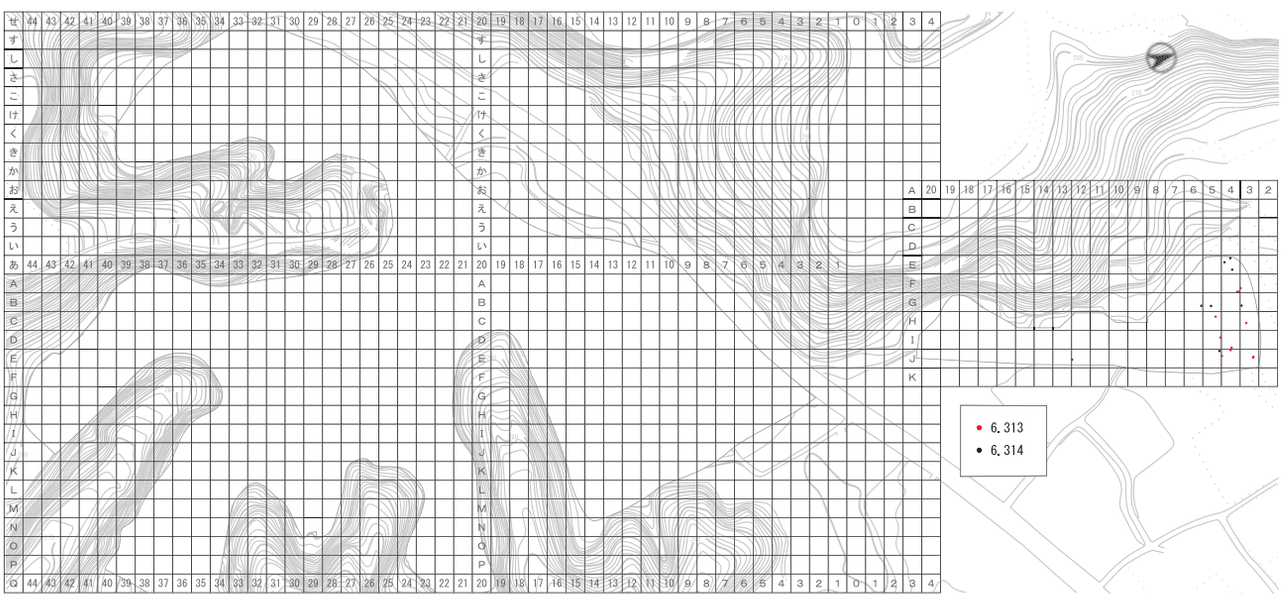
器形的特徴としては，口縁部は緩やかに外反し，胴部は緩やかに底部へ移行するのが特徴である。底部は平底となる特徴がある。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の網目撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の網目撚糸文を１条巡らすのが特徴である。

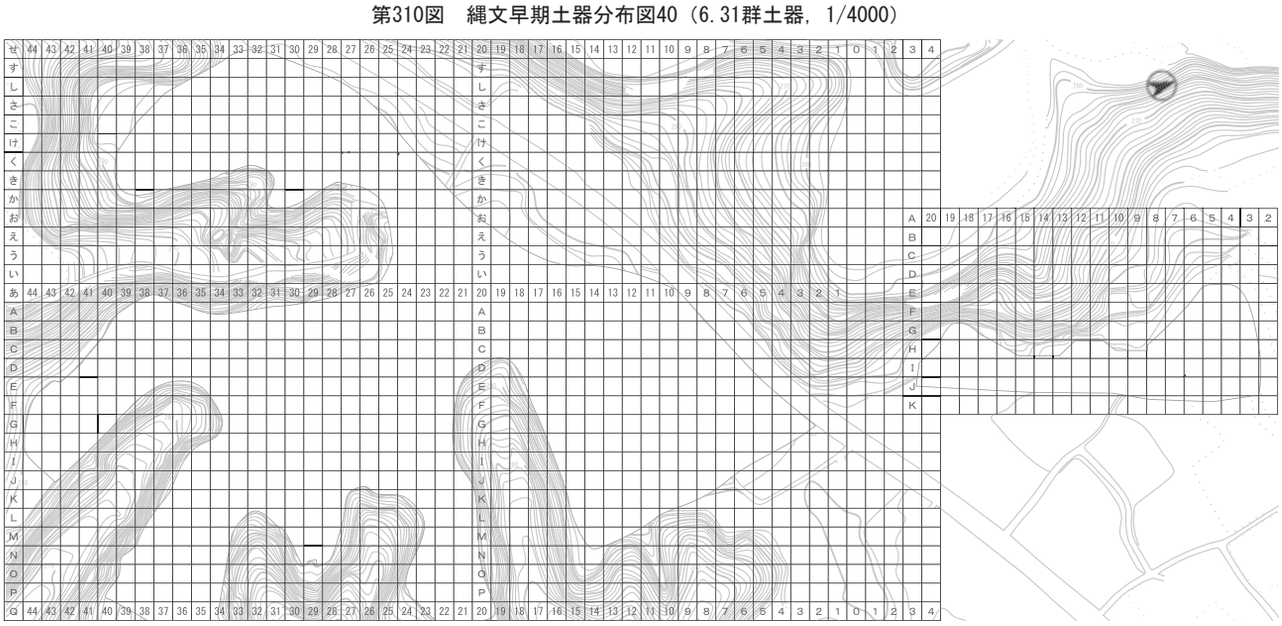
ここで注目できるのは，第327図709である。この土器は胴部下半部の土器片であり，土器片上端部には接合痕が観察で



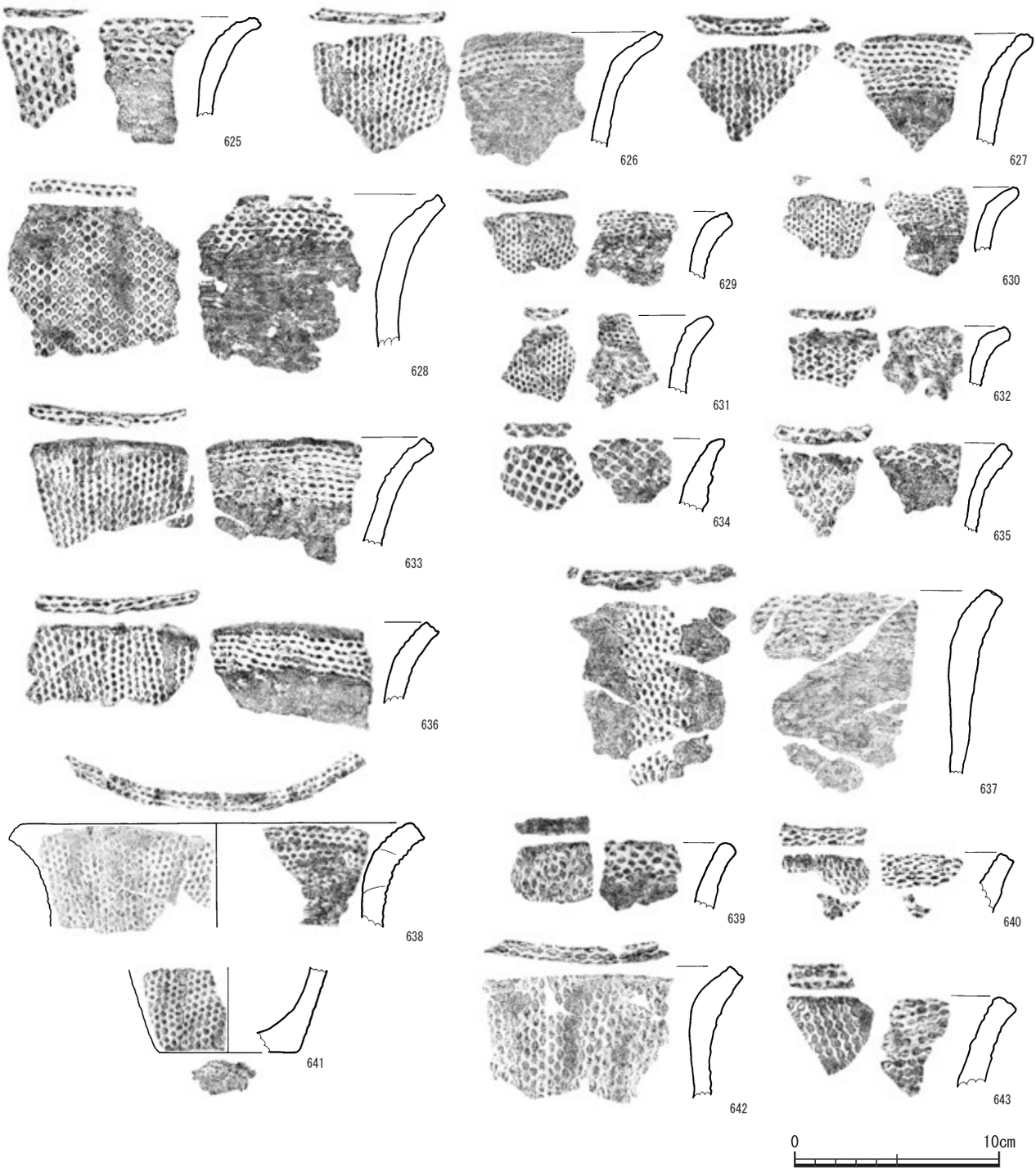
第309図　縄文早期土器分布図39（6.21群土器，1/4000）



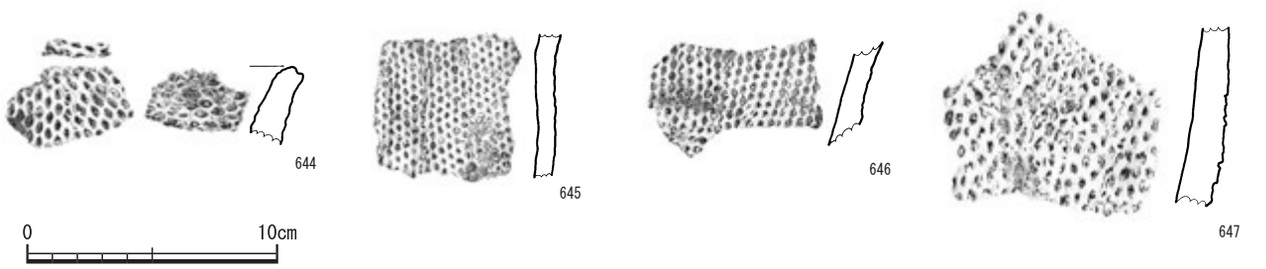
第310図　縄文早期土器分布図40（6.31群土器，1/4000）



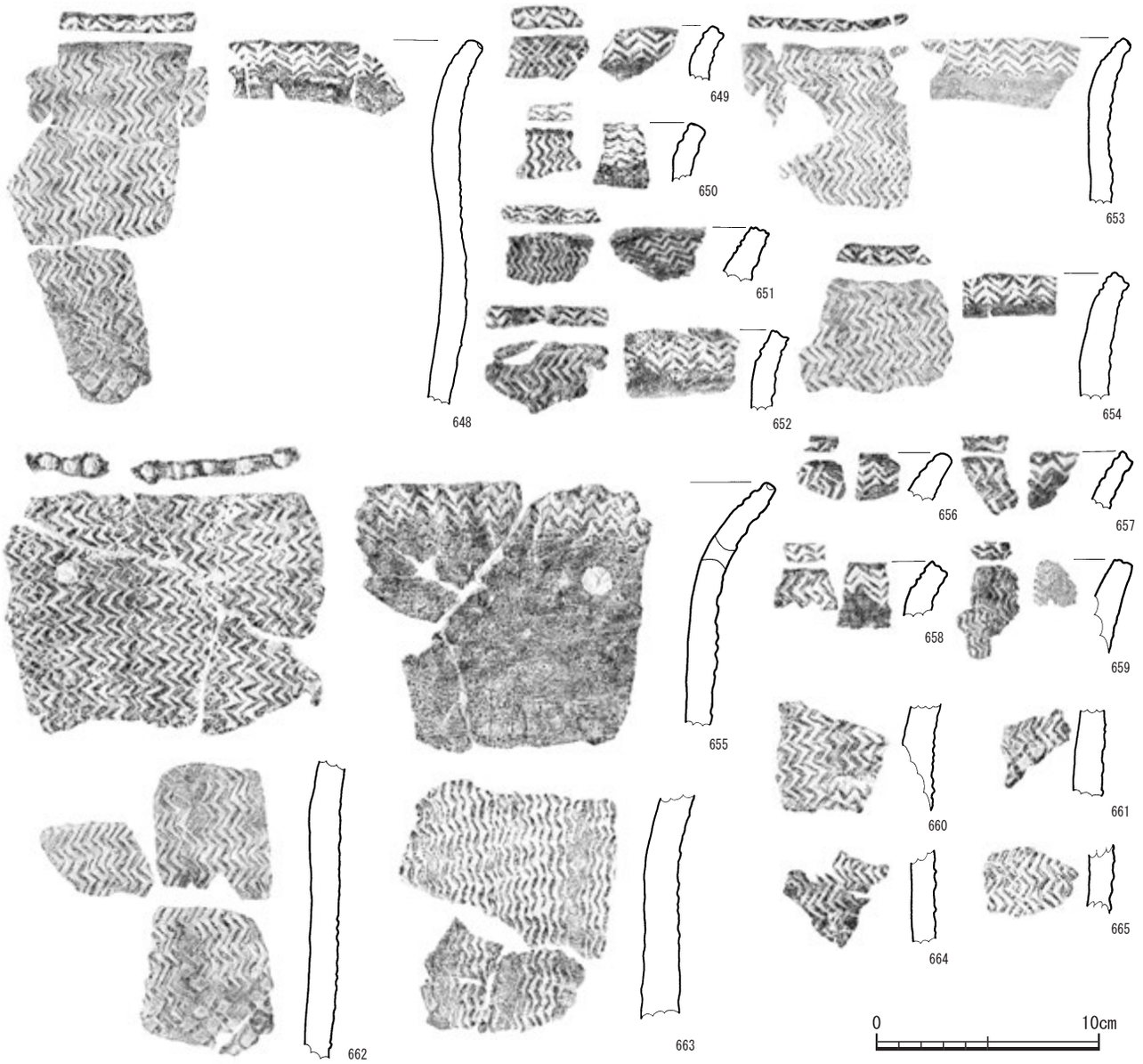
第311図　縄文早期土器分布図41（6.4群土器，1/4000）



第312図　縄文早期土器実測図（92）（6.211群土器/耳取調査区出土）



第313図　縄文早期土器実測図（93）（6.211群土器/耳取調査区出土）



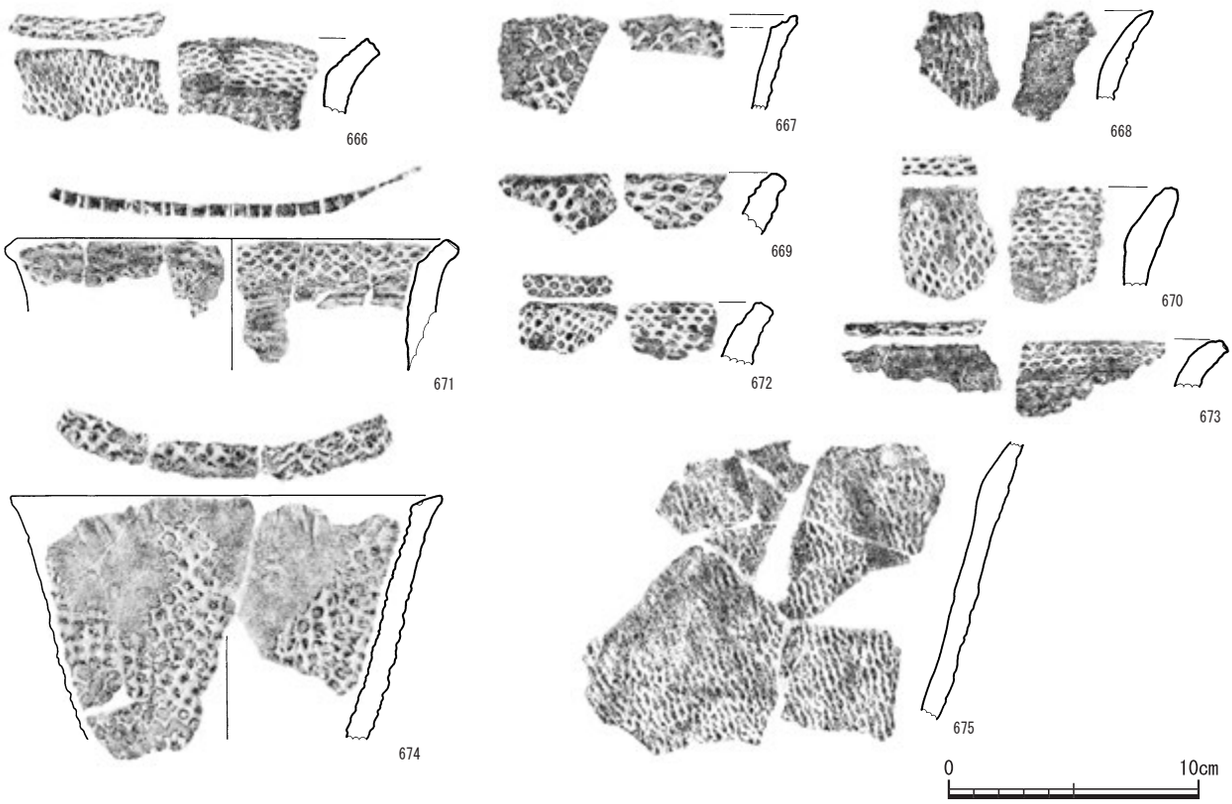
第314図　縄文早期土器実測図（94）（6.212群土器/耳取調査区出土）

第87表　縄文早期土器観察表（45）（6群土器-13）

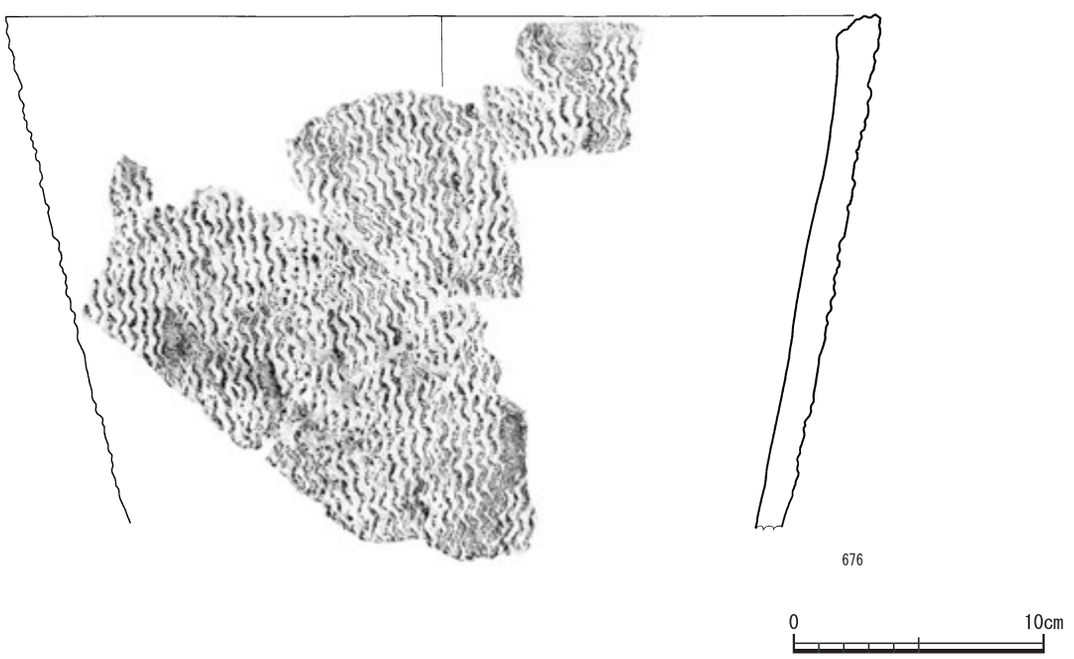
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
312	638	6.211	▲19444(-/-) ▲19471(-/-)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	639	6.211	▲8210(J-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	-
312	640	6.211	▲9963(H-3/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	641	6.211	▲19415(-/-)	輝,雲,細粒	ハケ→ナデ	底面:白色化	-
312	642	6.211	▲9537(G-3/Ⅶ)	黒,輝,細粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	-
312	643	6.211	▲8275(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
313	644	6.211	▲12884(I-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	-	-	-
313	645	6.211	▲19472(-/-)	輝,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
313	646	6.211	▲9263(J-3/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
313	647	6.211	▲19429(-/-)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	胎土精選
314	648	6.212	▲8972(I-5/Ⅶ) ▲10195(I-5/Ⅶ) ▲10201(I-5/Ⅶ) ▲10675(I-5/Ⅶ) ▲13688(I-5/Ⅶ)	輝,角,砂粒	横ケズリ→ユビナデ	-	胎土精選
314	649	6.212	▲9170(J-5/Ⅵa)	輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
314	650	6.212	▲18002(J-4/Ⅶ下)	角,輝,雲,細粒	-	-	-
314	651	6.212	▲8428(G-4/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	-	-	-
314	652	6.212	▲8952(I-4/Ⅵa)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
314	653	6.212	▲12776(J-3/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ユビナデ	-	胎土精選
314	654	6.212	▲13639(I-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ケズリ→ナデ	-	胎土精選
314	655	6.212	▲10753(H-5/Ⅶ) ▲10756(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	補修孔:外径12mm,内径6mm

第88表　縄文早期土器観察表（46）（6群土器-14）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
314	656	6.212	▲9151(J-5/Ⅶ)	輝,黒,細粒	-	-	-
314	657	6.212	▲9989(I-6/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
314	658	6.212	▲9259(J-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
314	659	6.212	▲19487(-/-)	輝,角,砂粒	-	-	-
314	660	6.212	▲10755(H-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
314	661	6.212	▲8975(I-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
314	662	6.212	▲8231(J-3/Ⅶ) ▲13210(J-3/Ⅶ上)	輝,角,砂粒,赤粒	横ケズリ→ユビナデ	-	胎土精選
314	663	6.212	▲10720(H-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→ユビナデ	-	-
314	664	6.212	▲10309(J-5/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
314	665	6.212	▲19434(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ユビナデ	-	-
315	666	6.313	▲8251(H-3/Ⅶ)	黒,輝,細粒	横ケズリ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
315	667	6.313	▲13636(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
315	668	6.313	▲9418(F-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
315	669	6.313	▲10744(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	-	-	細粒多量
315	670	6.313	▲19439(-/-)	角,輝,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
315	671	6.313	▲10674(I-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	-
315	672	6.313	▲9155(J-5/Ⅵa)	輝,雲,砂粒	-	-	細粒多量
315	673	6.313	▲10288(J-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	ユビナデ	細粒多量
315	674	6.313	▲8229(J-3/Ⅶ) ▲8230(J-3/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	ハケ→ユビナデ	細粒多量



第315図　縄文早期土器実測図（95）（6.313群土器/耳取調査区出土）



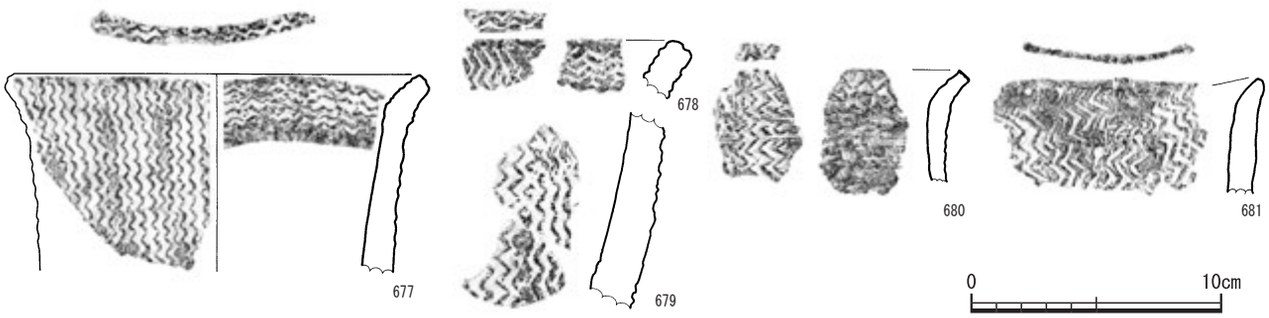
第316図　縄文早期土器実測図（96）（6.314群土器/耳取調査区出土）

きる。この接合痕部の外面には土器片外面の文様につながる網目撚糸文が施されている。この特徴は，第６群土器では観察できる特徴であり，本種土器が押型文の規範の中で製作されたことを如実に示す好例である。

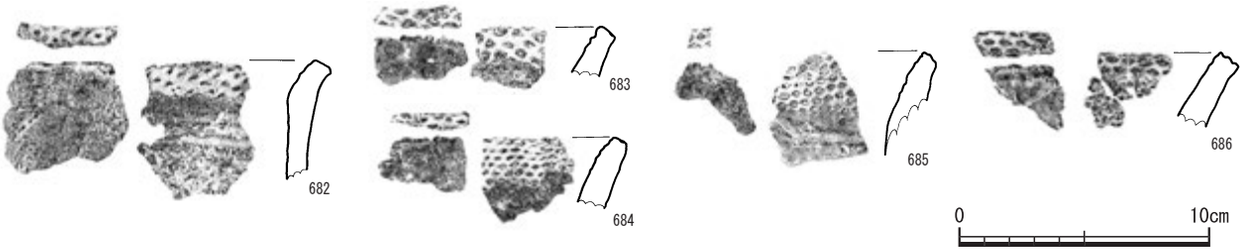
調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整もしくは粗いナデ調整を行う土器が主体を占めることを指摘できる。

ここで注目できるのは，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すことである。この特徴は，第６群土器のなかでは本種土器以外には，第５類土器第１タイプ土器第５種土器と第６種土器のみに認められる特徴である。

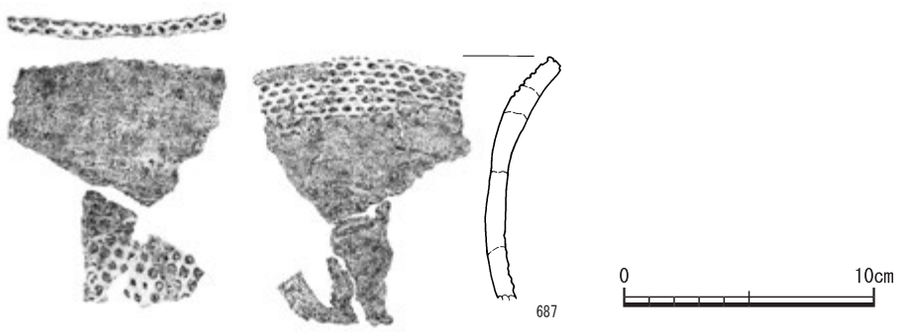
本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成される土器が多く，また粗い粒度の鉱物を含む土器も観られたことが挙げられる。



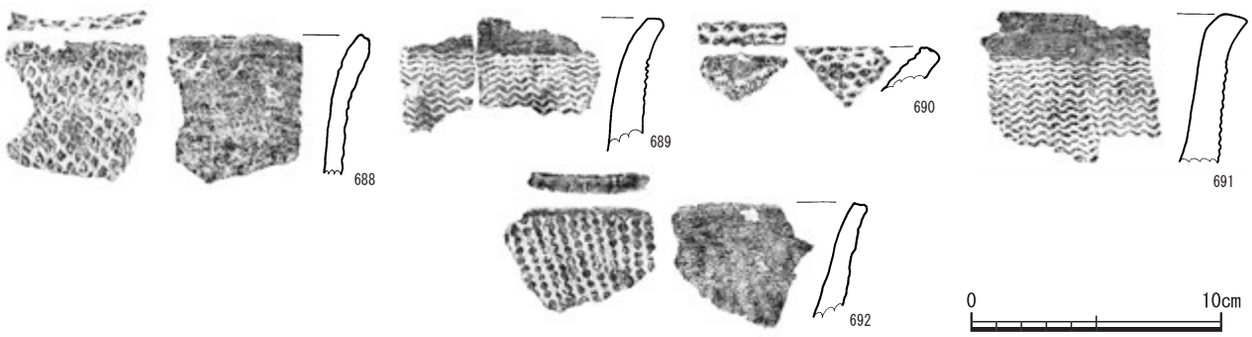
第317図　縄文早期土器実測図（97）（6.314群土器/耳取調査区出土）



第318図　縄文早期土器実測図（98）（6.171群土器/耳取調査区出土）



第319図　縄文早期土器実測図（99）（6.171群土器/桐木調査区出土）



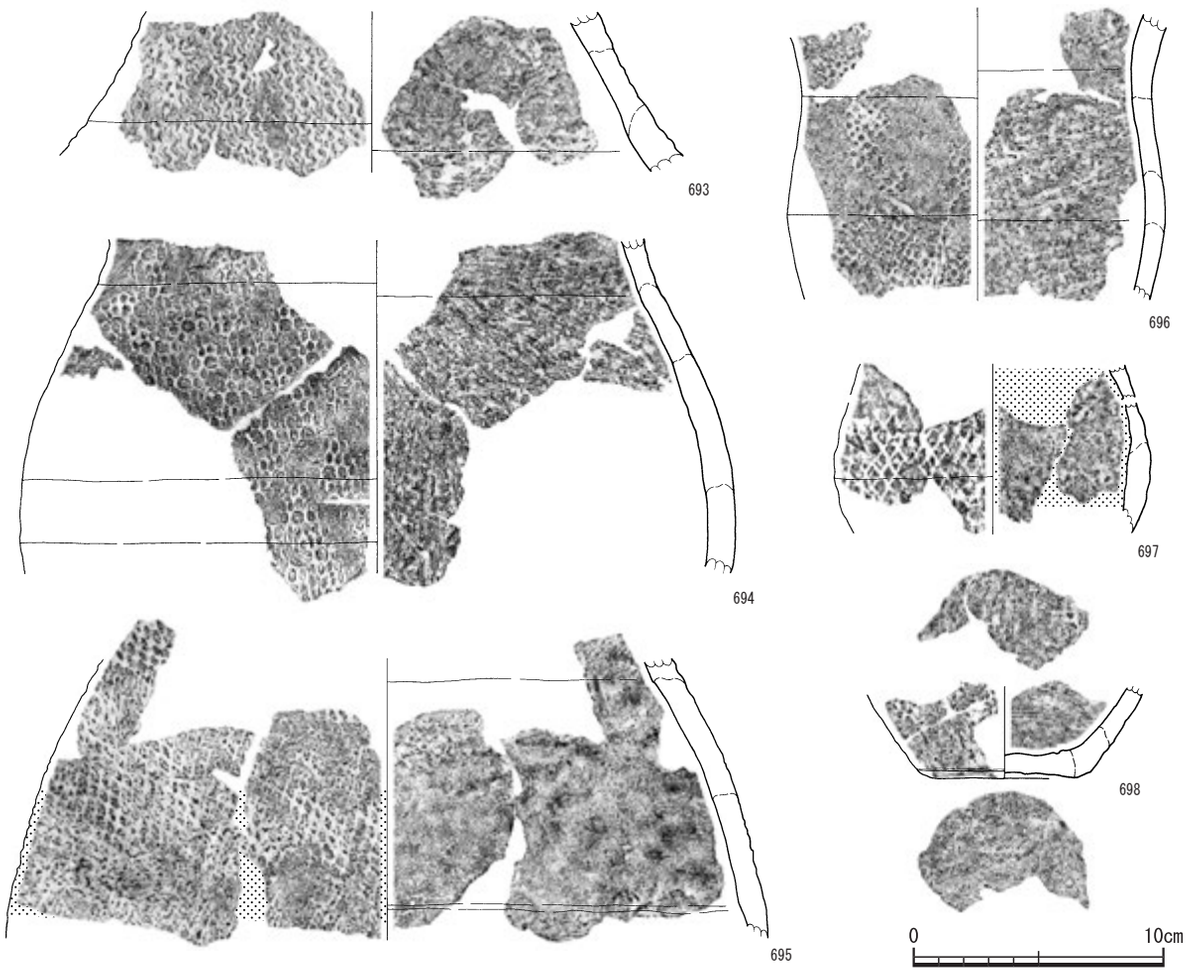
第320図　縄文早期土器実測図（100）（6.171群土器/6.172群土器/耳取調査区出土）

第89表　縄文早期土器観察表（47）（6群土器-15）

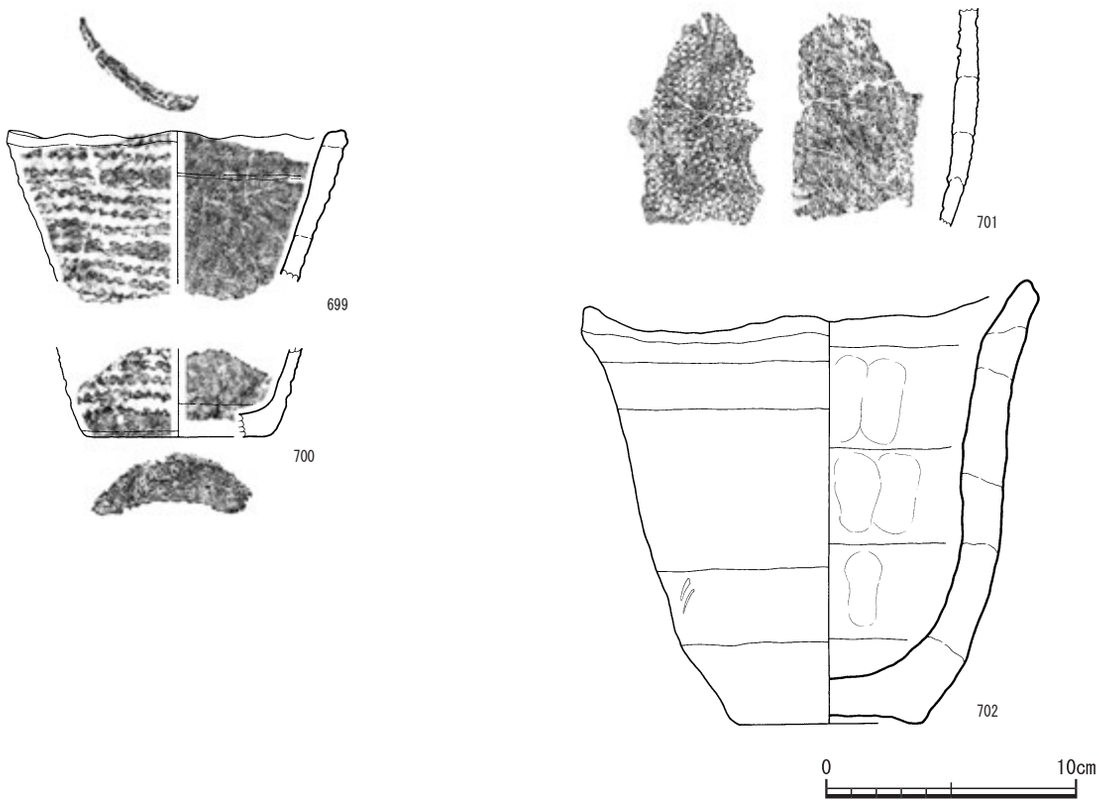
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
315	675	6.313	▲9986(F-4/Ⅶ) ▲10562(F-4/Ⅶ) ▲10563(F-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
316	676	6.314	▲10156(E-4/Ⅶ) ▲10170(E-4/Ⅶ) ▲12677(E-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	斜,横ケズリ→粗いナデ	-	-
317	677	6.314	▲10304(J-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
317	678	6.314	▲12636(G-6/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	-	-	-
317	679	6.314	▲11014(J-13/Ⅶ) ▲11016(J-13/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
317	680	6.314	▲13076(G-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
317	681	6.314	▲10503(G-3/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
318	682	6.171	▲10558(G-4/Ⅶ)	輝,黒,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	斜ヘラナデ→ユビナデ	-
318	683	6.171	▲836(I-4/Ⅵa)	輝,黒,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→丁寧なナデ	-

第90表　縄文早期土器観察表（48）（6群土器-16）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
318	684	6.171	▲7974(F-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
318	685	6.171	▲17851(J-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横工具ナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ユビナデ	-
318	686	6.171	▲8113(I-3/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→丁寧なナデ	-
319	687	6.171	●9307(ナ-27/Ⅶ) ●51173(さ-27/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
320	688	6.171	▲9925(F-4/Ⅶ上)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
320	689	6.172	▲9409(H-6/Ⅵa) ▲10478(H-6/Ⅶ) ▲12638(H-6/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
320	690	6.171	▲10649(I-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	-	横ハケ→ナデ	-
320	691	6.172	▲10506(G-3/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ,ミガキに近い丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
320	692	6.171	▲2422(I-18/Ⅶ)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近い丁寧なナデ	-



第321図　縄文早期土器実測図（101）（6.511群土器/桐木調査区出土）



第322図　縄文早期土器実測図（102）（6.4群土器/桐木/耳取調査区出土）

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区け～さ-26～30区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第324図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第４種土器(分類記号6.514，第328図712・713)

器形的特徴としては，口縁部は大きく外反し，胴部上半部に屈曲部があるのが特徴である。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の山形押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の山形押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の山形押型文を巡らすのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行う土器であることが挙げられる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に輝石や雲母，粗い粒度の鉱物で構成されることが指摘できる。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第５種土器(分類記号6.515，第329,330図714～721)

器形的特徴としては，口縁部が短く強く外反する形態の土器(第329図714,716)と，短く緩やかに外反する形態の土器(第330図718)とがあるのが特徴である。底部形態については，接合資料がないため，詳細は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向に縄文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の縄文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の縄文を１条巡らす土器(第329図714,716)と，口縁部内面を無文にする土器(第330図718)とがある。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整としては木製工具によるハケ調整や箆ナデ調整あるいはケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

また，第３種土器の項で先述したように本種土器においても，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石で構成される土器が多く，また粗い粒度の鉱物を含む土器や細かい粒度の鉱物で構成される土器も観られたことが挙げられる。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区さ・し-29～33区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ・Ｄ-23区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第６種土器(分類記号6.516，第332図～335図722～738)

器形的特徴としては，口縁部が大きく緩やかに外反する形態の土器(第333図725，第334図726,727)と，直線的に外に開く形態の土器(第334図728,730～732)とがあるのが特徴である。また，胴部下半部では丸味をもちながらすぼまる形態を呈する土器が特に注目できる。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向および斜位方向の変形撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面は無文にする土器である。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整および丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整としては木製工具による横方向や斜方向のハケ調整や，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。また，第３種土器や第５種土器の項で先述したように本種土器においても，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石で構成される土器や，主に輝石・雲母で構成される土器が多く，また細かい粒度の鉱物を多く含む土器も観られたことが挙げられる。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区く～こ-24～28区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｈ・Ｉ-34区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図～第278図参照)。ここで示した桐木調査区西側地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は，先述したように第１種土器や第５種土器にも共通してみられる特徴である。

特に注目できるのは，第334図726である。この土器には口縁部下端から胴部上端にかけて補修孔と考えられる孔が２つ並んで穿たれている。その間隔は心心距離で32㎜を測る。

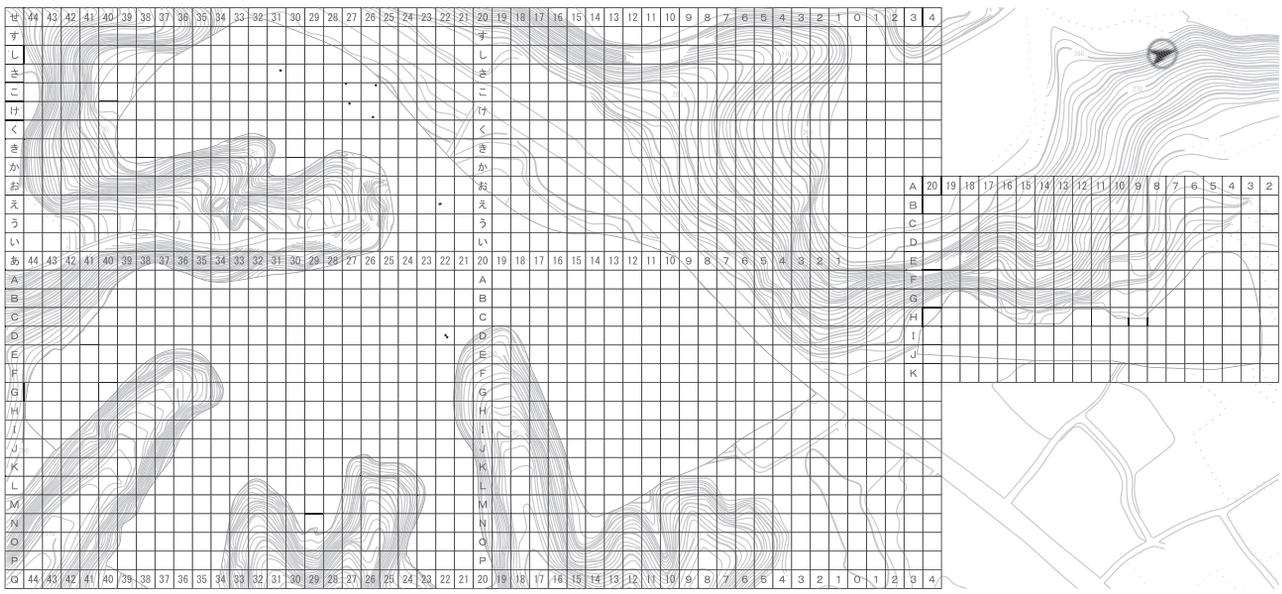
第６群土器第６類土器(分類記号6.6，第339・340図739～746)

第６群土器第６類土器に属する土器を８点資料化した。

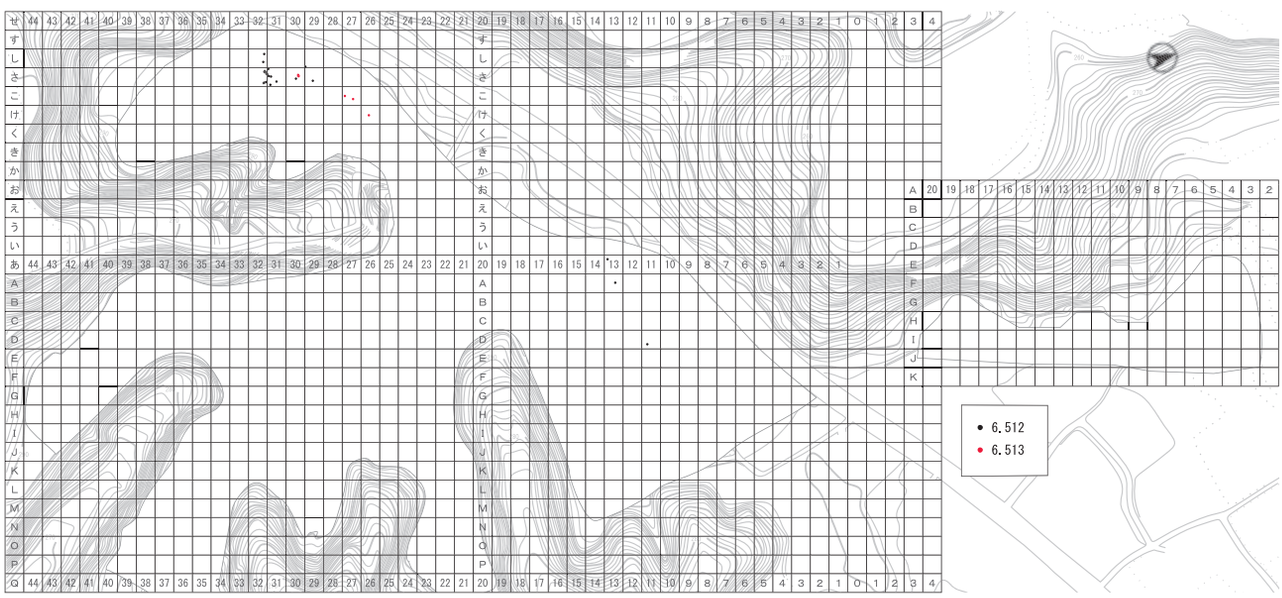
本類土器は，口唇上端部が内傾する平坦面を作出する土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は若干内弯して，口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。また，胴部は直線的にすぼまるのが特徴である。底部形態は平底となる。

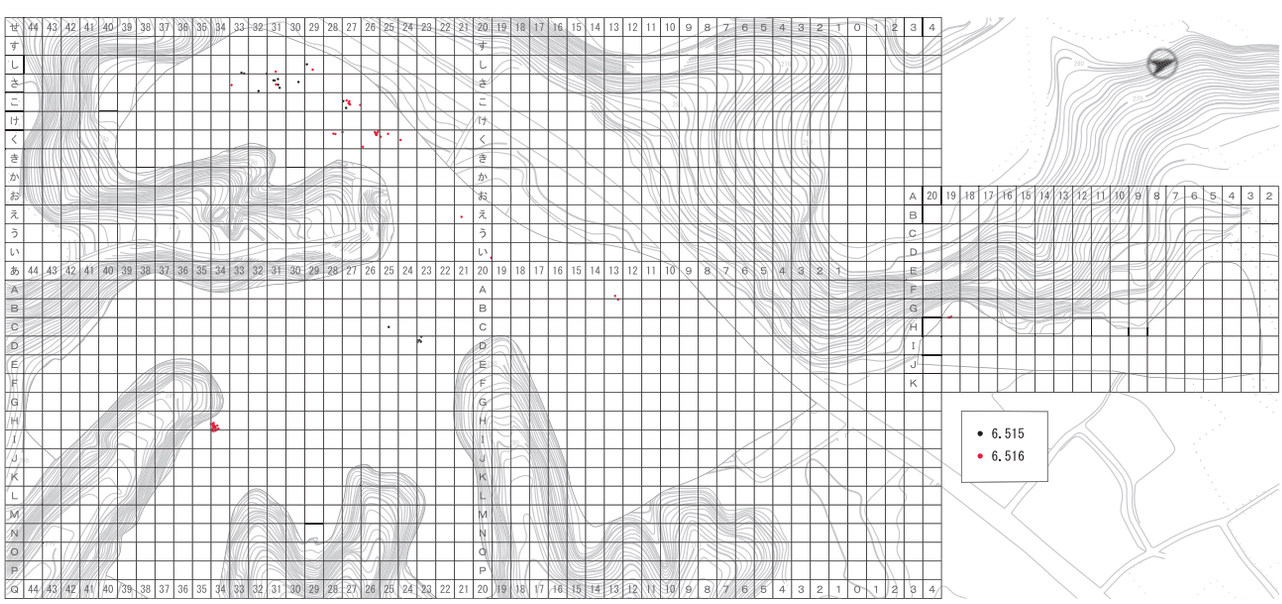
施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向に押型文を施し，口縁部文様帯には横位方向に押型文を１条施すのが特徴である。また，胴部文様帯には胴部下端部にかけて全面にわたり，横位方向に押型文を施す土器(第339図741～744)と，縦位方向に押型文を施す土器(第339図739,740,742)とに分けられることが指摘できる。また本タイプ土器では，山形押型文を施す第１種土器(分類記号6.601，第339図739,740,742)と，楕円押型文を施す第２種土器(分類記号6.602，第339・340図741,743～746)との２種類の土器がある。



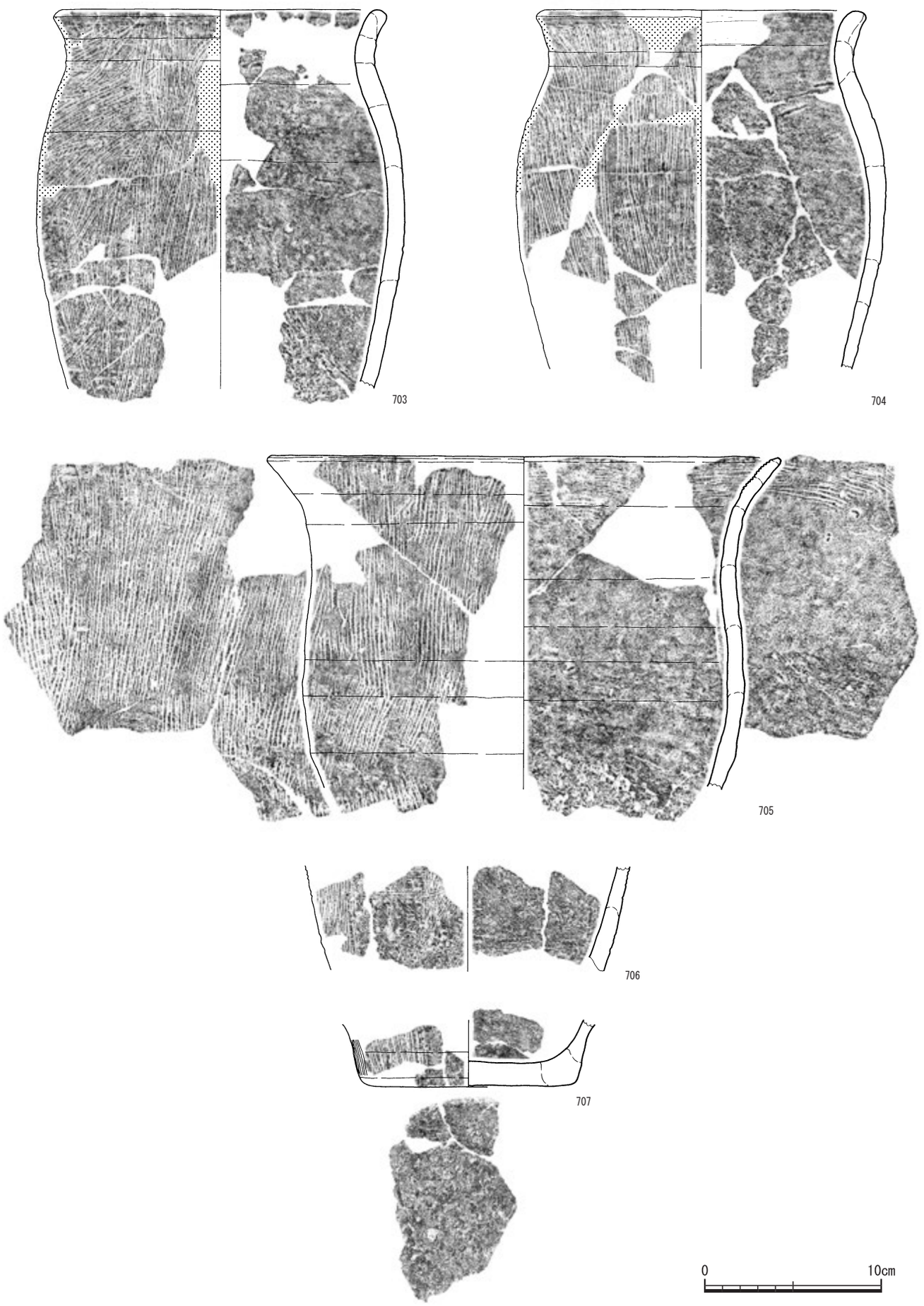
第323図　縄文早期土器分布図42（6.511群土器，1/4000）



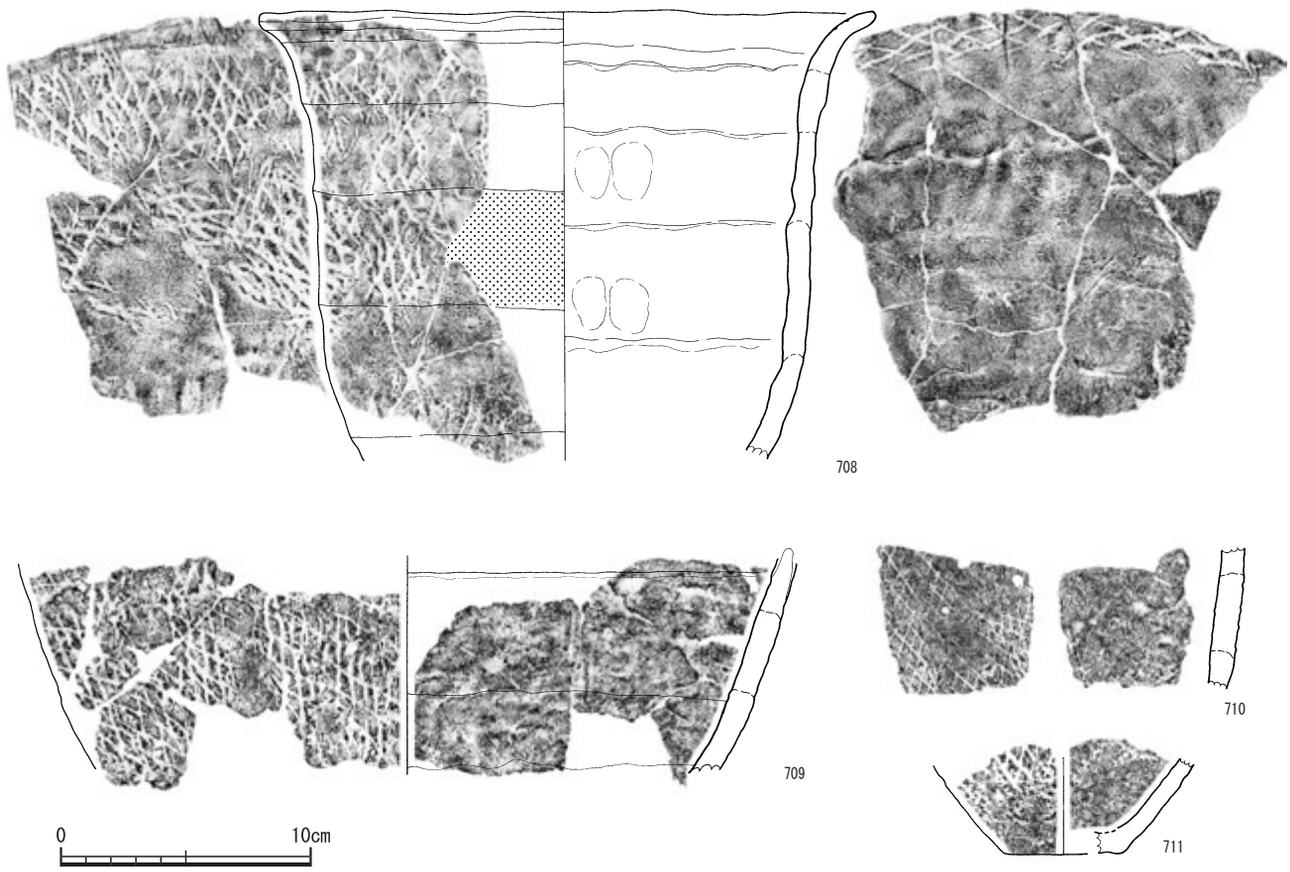
第324図　縄文早期土器分布図43（6.512群土器/6.513群土器，1/4000）



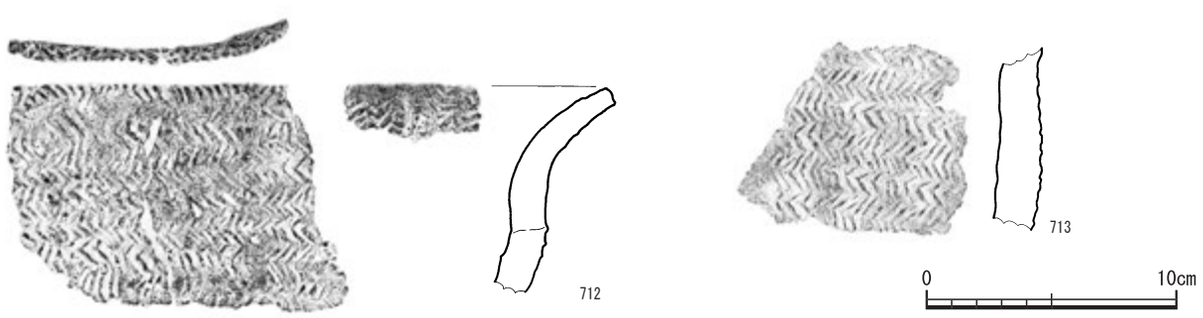
第325図　縄文早期土器分布図44（6.515群土器/6.516群土器，1/4000）



第326図　縄文早期土器実測図（103）（6.512群土器/桐木調査区出土）



第327図　縄文早期土器実測図（104）（6.513群土器/桐木調査区出土）



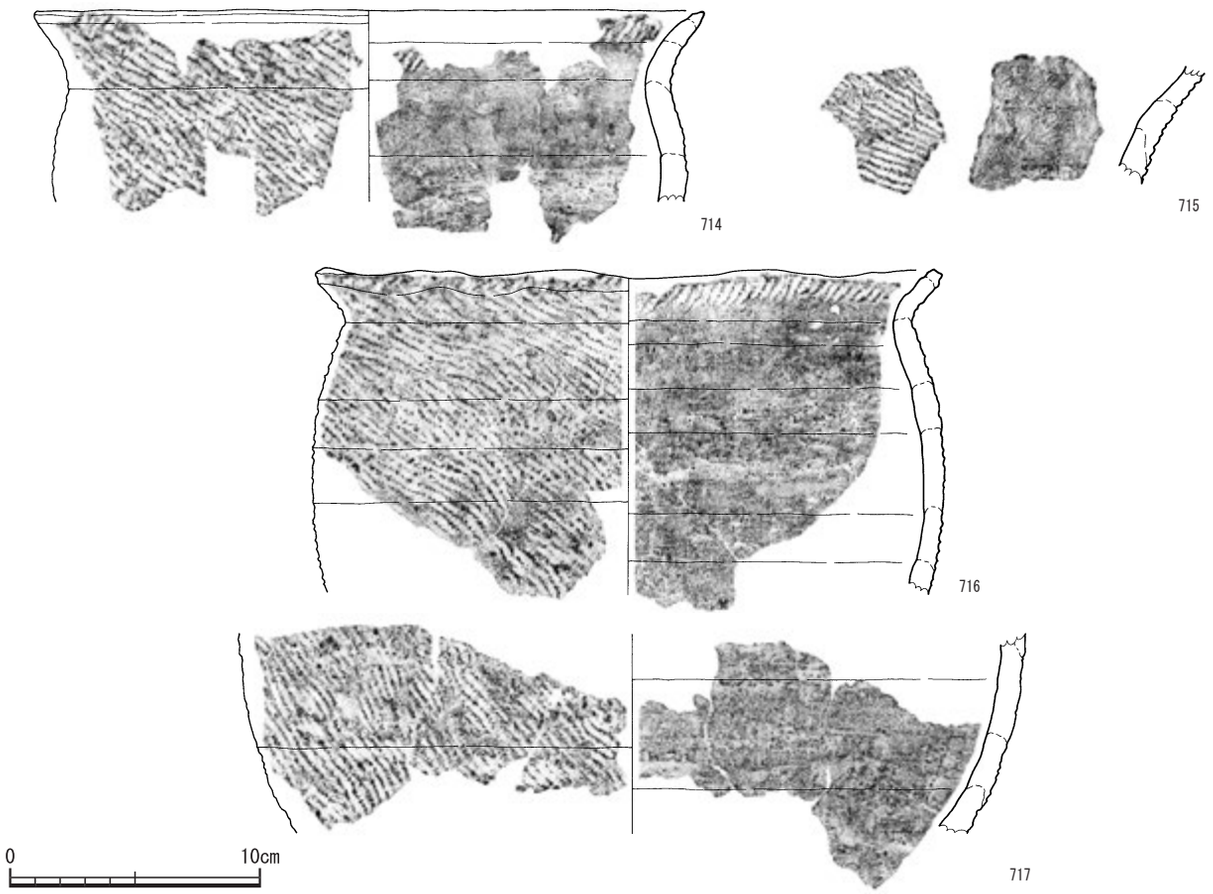
第328図　縄文早期土器実測図（105）（6.514群土器/耳取調査区出土）

第91表　縄文早期土器観察表（49）（6群土器-17）

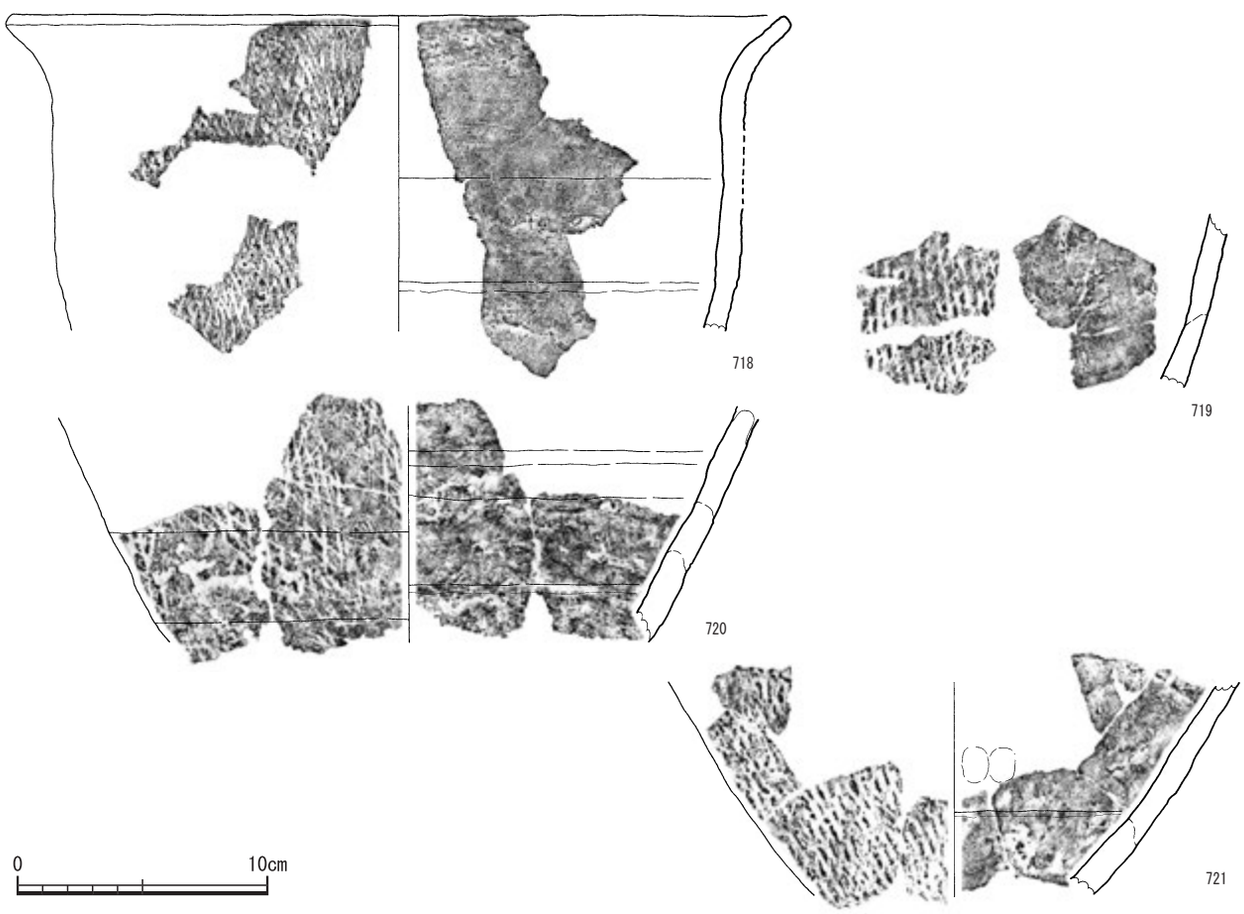
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
321	693	6.511	●集石A8-1(-/-)	角,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
321	694	6.511	●2394(さ-31/Ⅶ) ●50023(さ-31/Ⅶ)	角,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ, 横ハケ→粗いナデ, 縦ケズリ→粗いナデ	-	-
321	695	6.511	◎32988(け-26/Ⅶ下) ●50935(け-27/Ⅶ) ●51131(こ-26/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	外面スス付着, 砂粒多量
321	696	6.511	○71721(D-22/Ⅶ下) ○71726(D-22/Ⅶ)	黒,砂粒	ナデ,斜ケズリ→粗いナデ	-	-
321	697	6.511	●50374(こ-27/Ⅶ) ●一括(-/-)	雲,輝,細粒	ナデ	-	内面スス付着
321	698	6.511	●7114(え-22/Ⅶ) ●7116(え-22/Ⅶ)	砂粒	横ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	内面スス付着
322	699	6.4	●51371(く-25/Ⅶ) ●51371(く-25/Ⅶ) ●51372(く-25/Ⅶ) ●51372(く-25/Ⅶ) ●51373(く-25/Ⅶ)	角	ナデ	ナデ,口唇部:丁寧なナデ	混和材:角閃石
322	700	6.4	●51379(く-28/Ⅶ)	角,輝,砂粒	縦ナデ	-	-
322	701	6.4	●51023(く-27/Ⅶ)	黒,赤粒砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量, 内面スス付着
322	702	6.4	▲13105(I-7/Ⅶ下)	輝,角,雲,細粒	横ケズリ→粗いナデ	横ハケ →丁寧なナデ	爪痕有り
326	703	6.512	●1730(さ-32/Ⅶ) ●2306(さ-32/Ⅶ) ●2316(さ-32/Ⅶ) ●2374(さ-31/Ⅶ) ●2426(さ-30/Ⅶ) ●51641(し-30/Ⅶ)	黒,砂粒,角,滑	ヘラナデ,ケズリ →丁寧なナデ	口唇部:ヘラナデ	外面スス付着

第92表　縄文早期土器観察表（50）（6群土器-18）

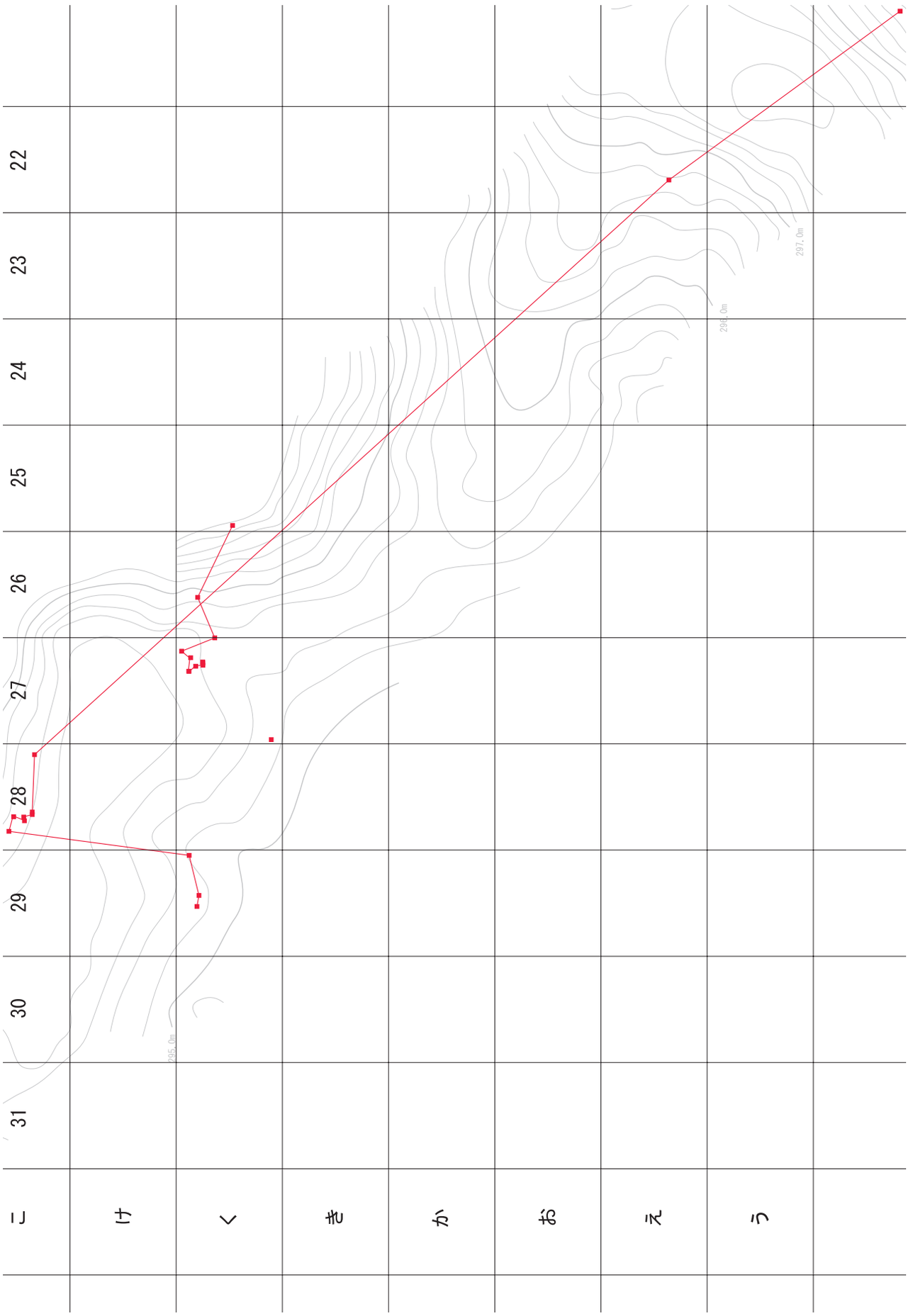
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
326	704	6.512	●1715(さ-32/Ⅶ) ●1725(さ-31/Ⅶ) ●1742(さ-32/Ⅶ) ●1747(さ-32/Ⅶ) ●1794(さ-32/Ⅶ) ●2331(し-32/Ⅶ) ●2336(し-32/Ⅶ) ●2438(さ-31/Ⅶ) ●50506(さ-29/Ⅶ)	角,砂粒,滑	ヘラナデ, 横ケズリ→ナデ	口唇部:ヘラナデ	外面スス付着
326	705	6.512	◎9741(あ-13/Ⅶ) ◎11208(A-13/Ⅶ下) ○9719(D-11/Ⅴ下)	砂粒,輝,角	横,横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	外面スス付着
326	706	6.512	●1746(さ-32/Ⅶ) ●1795(さ-31/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	貝殻条痕	-
326	707	6.512	●1740(さ-32/Ⅶ) ●1741(さ-32/Ⅶ) ●1745(さ-32/Ⅶ)	角	ナデ	-	-
327	708	6.513	◎32989(け-26/Ⅶ下)	角,砂粒	指頭痕→ナデ	-	外面スス付着
327	709	6.513	●2415(さ-30/Ⅶ) ●2422(さ-30/Ⅶ) ●2425(さ-30/Ⅶ) ●2445(さ-30/Ⅶ) ●2446(さ-30/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ナデ	-	内面スス付着
327	710	6.513	●50718(こ-27/Ⅶ)	輝,砂粒	粗いナデ	口唇部:ナデ	内面スス付着
327	711	6.513	●51165(こ-27/Ⅶ)	輝,雲,細粒	ナデ	ナデ	内面スス付着
328	712	6.514	▲0(-/-) ▲19454(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	砂粒多量
328	713	6.514	▲19438(-/-)	輝,雲,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量



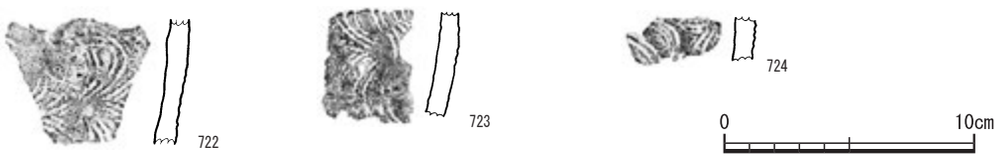
第329図　縄文早期土器実測図（106）（6.515群土器/桐木調査区出土）



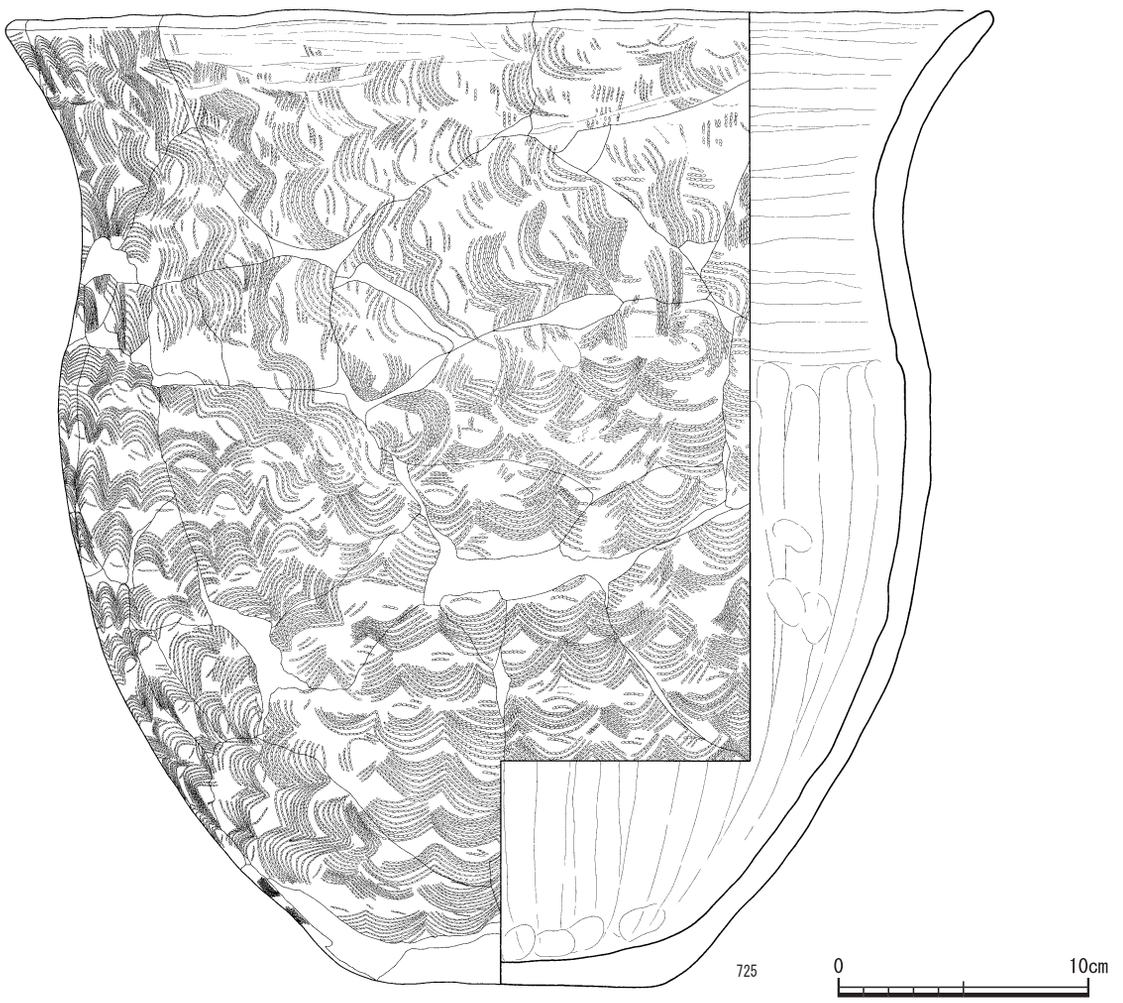
第330図　縄文早期土器実測図（107）（6.515群土器/桐木調査区出土）

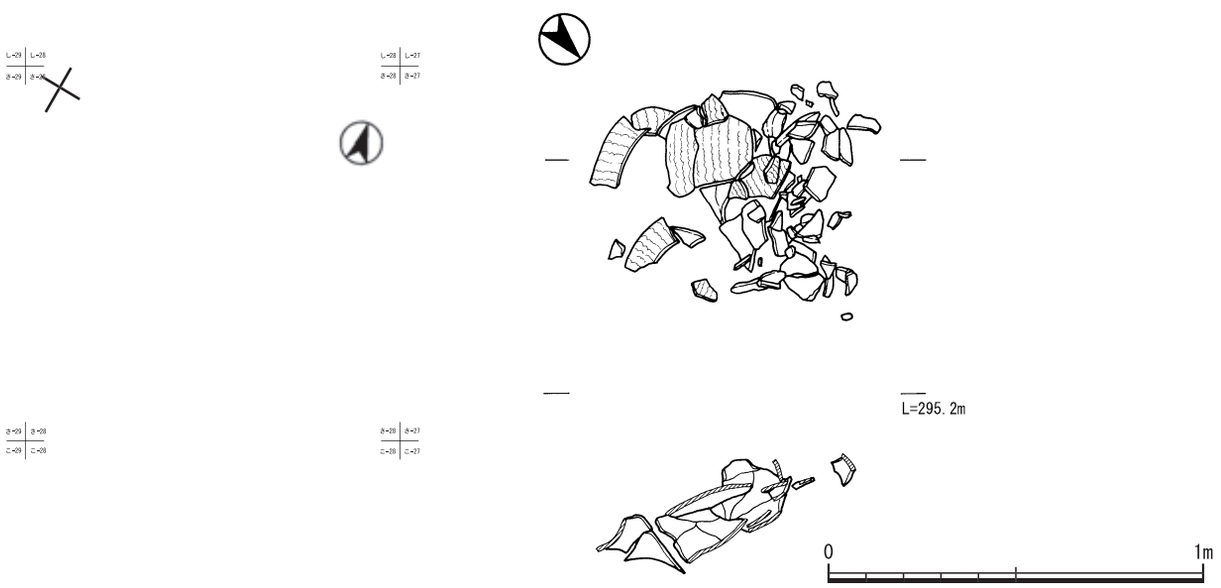


第331図　縄文早期土器分布図45（第6.516群土器，1/500）

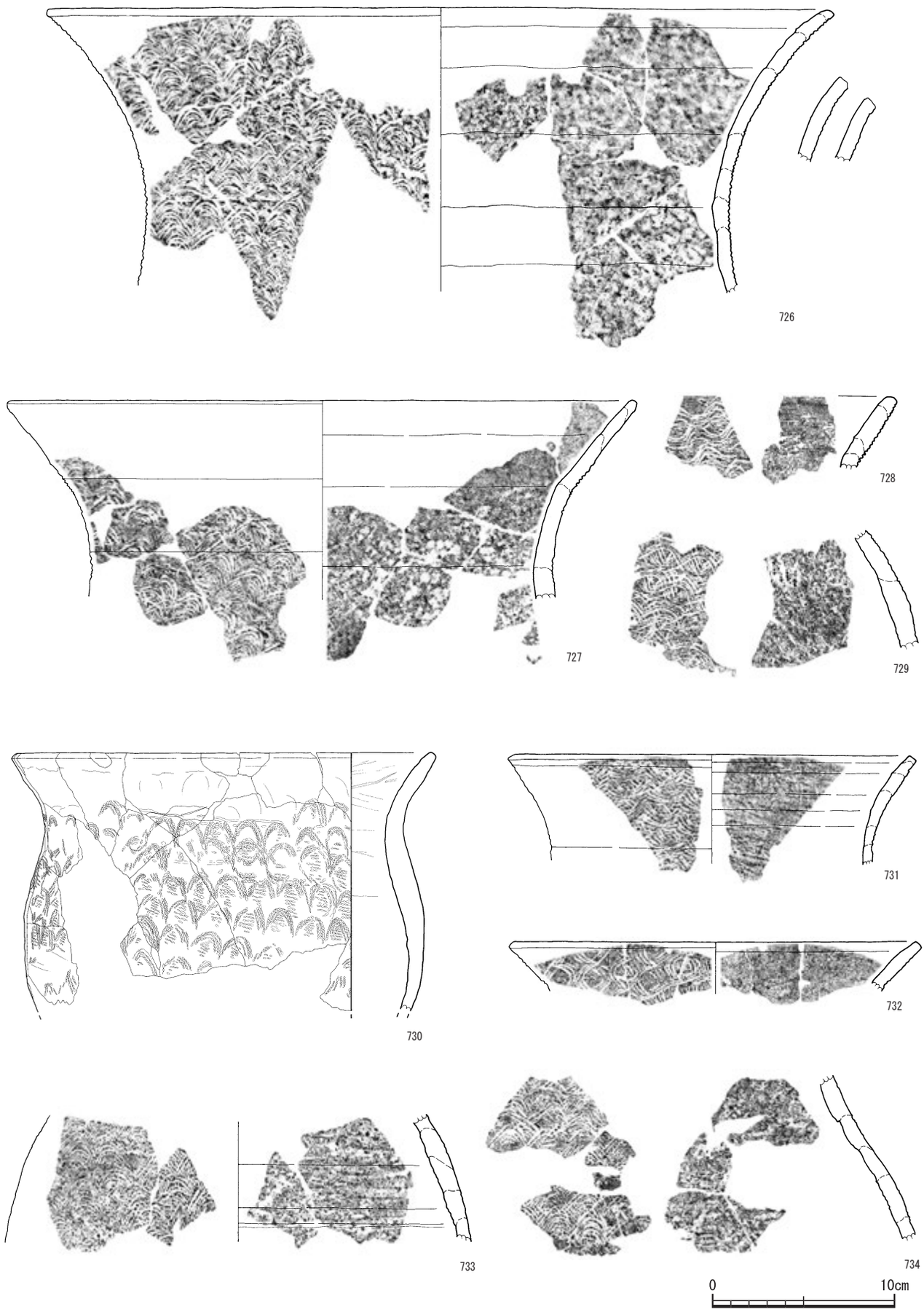


第332図　縄文早期土器実測図（108）（6.516群土器/耳取調査区出土）

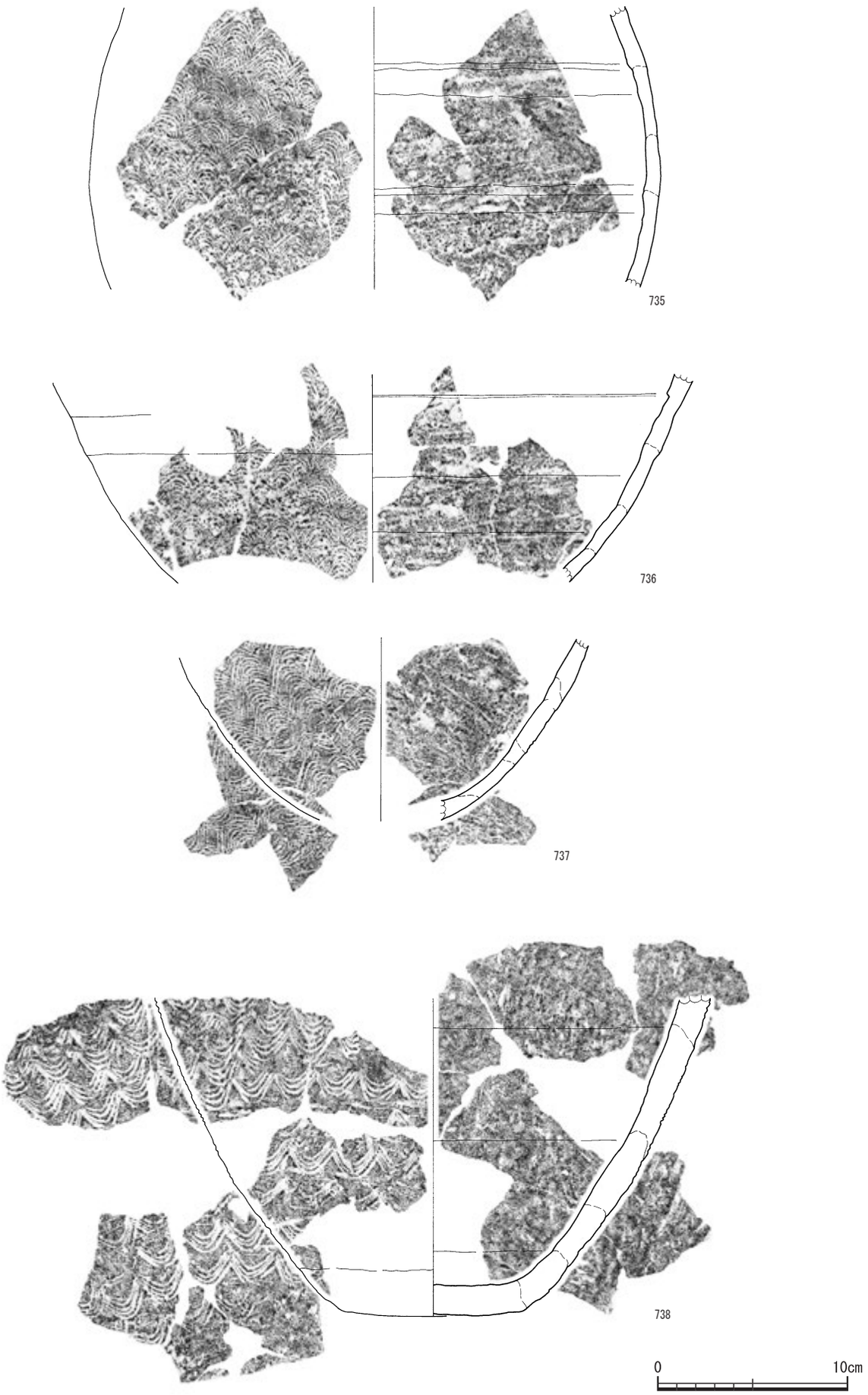




第333図　縄文早期土器実測図（109）（6.516群土器/桐木調査区出土）/（725）土器出土状況図



第334図　縄文早期土器実測図（110）（6.516群土器/桐木調査区出土）



第335図　縄文早期土器実測図（111）（6.516群土器/桐木調査区出土）

第93表　縄文早期土器観察表（51）（６群土器-19）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
329	714	6.515	○57432(D-23/Ⅶ下) ○57464(D-24/Ⅶ下)	角,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	–	–
329	715	6.515	●50682(こ-28/Ⅶ)	角	ナデ	–	–
329	716	6.515	○57430(D-23/Ⅶ下) ○57433(D-23/Ⅶ下) ○57463(D-24/Ⅶ下) ○57464(D-24/Ⅶ下) ○57888(D-23/Ⅶ)	輝,細粒	ヘラケズリ→ハケナデ	口唇部:ナデ	–
329	717	6.515	○57430(D-23/Ⅶ下) ○57878(C-25/Ⅶ下)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→ナデ	–	外面スス付着,内面スス付着
330	718	6.515	●2098(し-33/Ⅶ) ●2099(し-33/Ⅶ) ●50527(し-29/Ⅶ)	角,細粒	木製工具ナデ→ナデ	口唇部:ナデ	混和材:角閃石
330	719	6.515	●1762(さ-32/Ⅶ) ●2382(さ-31/Ⅶ) ●50009(さ-31/Ⅶ)	角,細粒	ヘラナデ	–	–
330	720	6.515	●2423(さ-30/Ⅶ) ●50901(こ-27/Ⅶ) ●50902(こ-27/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ,スス付着	–	内面スス付着
330	721	6.515	●1750(し-32/Ⅶ) ●2357(さ-31/Ⅶ) ●2365(さ-31/Ⅶ) ●2384(さ-31/Ⅶ)	角,細粒,輝	指頭痕ナデ	–	–
332	722	6.516	▲3303(G-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	斜ハケ→丁寧なナデ	–	胎土精選
332	723	6.516	▲3304(H-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	–	胎土精選,内面スス付着
332	724	6.516	▲3645(H-19/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	–	内面スス付着
333	725	6.516	●ヨリ12(-/-) ●ヨリ13(-/-) ●ヨリ15(-/-) ●ヨリ17(-/-) ●ヨリ18(-/-) ●ヨリ19(-/-) ●ヨリ20(-/-) ●ヨリ22(-/-) ●ヨリ26(-/-) ●ヨリ28(-/-) ●ヨリ30(-/-) ●ヨリ32(-/-) ●ヨリ35(-/-) ●ヨリ36(-/-) ●ヨリ37(-/-) ●ヨリ39(-/-) ●ヨリ4(-/-) ●ヨリ42(-/-) ●ヨリ43(-/-) ●ヨリ44(-/-) ●ヨリ45(-/-) ●ヨリ46(-/-) ●ヨリ47(-/-) ●ヨリ49(-/-) ●ヨリ5(-/-) ●ヨリ51(-/-) ●ヨリ52(-/-) ●ヨリ55(-/-) ●ヨリ56(-/-) ●ヨリ6(-/-) ●ヨリ62(-/-) ●ヨリ63(-/-) ●ヨリ64(-/-) ●ヨリ65(-/-) ●ヨリ8(-/-) ●ヨリ9(-/-)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	口縁部:斜,横ケズリ→ヘラナデ,胴部:縦,横ケズリ→ナデ	底面:回転ヘラ切り離し	–

第94表　縄文早期土器観察表（52）（６群土器-20）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
334	726	6.516	○68130(I-34/Ⅶ) ○68131(I-34/Ⅶ) ○68133(I-34/Ⅶ) ○68143(H-34/Ⅶ) ○68144(H-34/Ⅶ) ○68157(H-34/Ⅶ) ○68160(H-34/Ⅶ) ○68163(H-34/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ,指頭痕→粗いナデ	口唇部:横ハケ→丁寧なナデ	補修孔:外径13mm,内径7mm,心心距離32mm
334	727	6.516	○68135(H-34/Ⅶ) ○68139(H-34/Ⅶ) ○68145(H-34/Ⅶ) ○68154(H-34/Ⅶ) ○68155(H-34/Ⅶ) ○68162(H-34/Ⅶ)	輝,細粒	ハケ→ナデ	–	外面スス付着
334	728	6.516	●6776(し-29/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近いヘラナデ	–
334	729	6.516	◎33599(く-26/Ⅶ)	角,細粒	ヘラケズリ→ハケナデ	–	内面スス付着
334	730	6.516	●6990(い-20/Ⅶ) ●7156(え-21/Ⅶ) ●50680(こ-27/Ⅶ) ●50693(こ-27/Ⅶ) ●50694(こ-27/Ⅶ) ●50698(こ-27/Ⅶ) ●50712(こ-27/Ⅶ) ●50732(こ-27/Ⅶ) ●51152(こ-27/Ⅶ) ●51249(く-28/Ⅶ) ●51256(く-28/Ⅶ) ●51258(く-28/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	口縁部:斜,横ケズリ→粗いナデ,胴部:横ケズリ→粗いナデ	–	–
334	731	6.516	●2079(さ-33/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	–
334	732	6.516	○50802(B-13/Ⅶ) ○50806(A-13/Ⅶ)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	–
334	733	6.516	○68129(I-35/Ⅶ) ○68134(I-34/Ⅶ)	細粒,輝	横ヘラケズリ→粗いナデ	–	–
334	734	6.516	○68141(H-34/Ⅶ) ○68142(H-34/Ⅶ) ○68146(H-34/Ⅶ) ○68153(H-34/Ⅶ)	輝,砂粒	ナデ,横ハケ→粗いナデ	–	–
335	735	6.516	○68132(I-34/Ⅶ)	砂粒,輝	横ケズリ→粗いナデ	–	–
335	736	6.516	○68150(H-34/Ⅶ) ○68152(H-34/Ⅶ) ○68159(H-35/Ⅶ) ○68161(H-34/Ⅶ)	雲,輝,細粒	横ハケ→ナデ	–	–
335	737	6.516	●2345(し-31/Ⅶ) ●2385(さ-31/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	–	–
335	738	6.516	◎19028(く-26/Ⅴ) ◎19030(く-26/Ⅴ) ◎19793(く-26/Ⅵ) ◎32950(く-26/Ⅶ下) ◎32952(く-26/Ⅶ下) ◎32964(く-26/Ⅶ下) ◎32964(く-26/Ⅶ下) ◎37923(く-26/Ⅶ) ●51176(く-26/Ⅶ) ●51182(く-25/Ⅶ) ●51369(く-24/Ⅶ)	砂粒,角	ケズリ→丁寧なナデ	ハケ→ナデ	砂粒多量

調整方法としては，内器面では，最終調整として木製工具によるハケ調整の後に，丁寧なナデ調整を行う土器が多数を占めることが挙げられる。最終調整としてミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器や，直前調整としてケズリ痕跡が観られる土器も少量見受けられることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母や輝石などからなる土器が多数観られた。特に胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できることと，粗い粒度の鉱物が含まれる土器が多かったことが，特徴として挙げられる。

さて，出土分布図から本タイプ土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に，桐木調査区Ｂ～Ｅ-８～13区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第336図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは，器形的特徴や施文的特徴，調整方法，本類土器の胎土中鉱物などの諸属性については，第４群土器第１類土器や第２類土器などの特徴と共通する点を数多く含んでおり，第６群土器第６類土器と第４群土器第１類土器や第２類土器などとの共時性を含めた関連性について，今後注意を要する土器群である。

第６群土器第７類土器(分類記号6.7，第341・342図747～759)

第６群土器第７類土器に属する土器を13点資料化した。

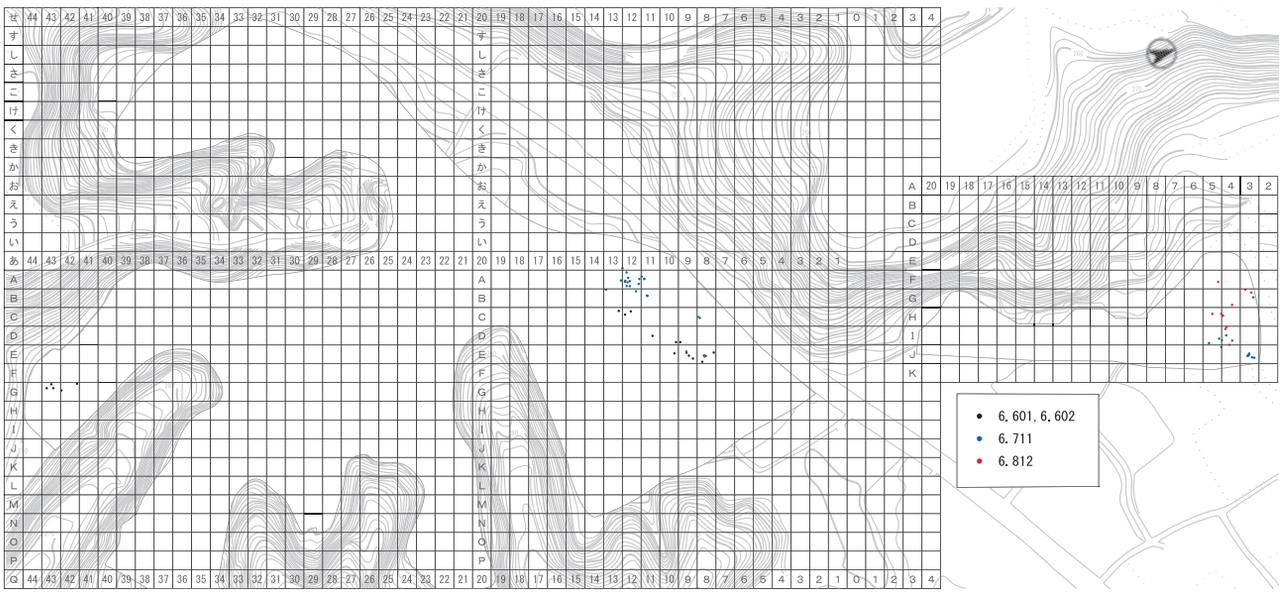
本類土器は，円筒形土器に押型文を施す土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口唇端部に平坦面を形成し，口縁部が直行することが指摘できる。また，胴部最大径が胴部上端に位置し，胴部形態が直線的で，底部は平底となるのが特徴である。これらの特徴は，第３群土器第１類土器第３タイプ土器の特徴と共通するのが多いことを指摘できる。

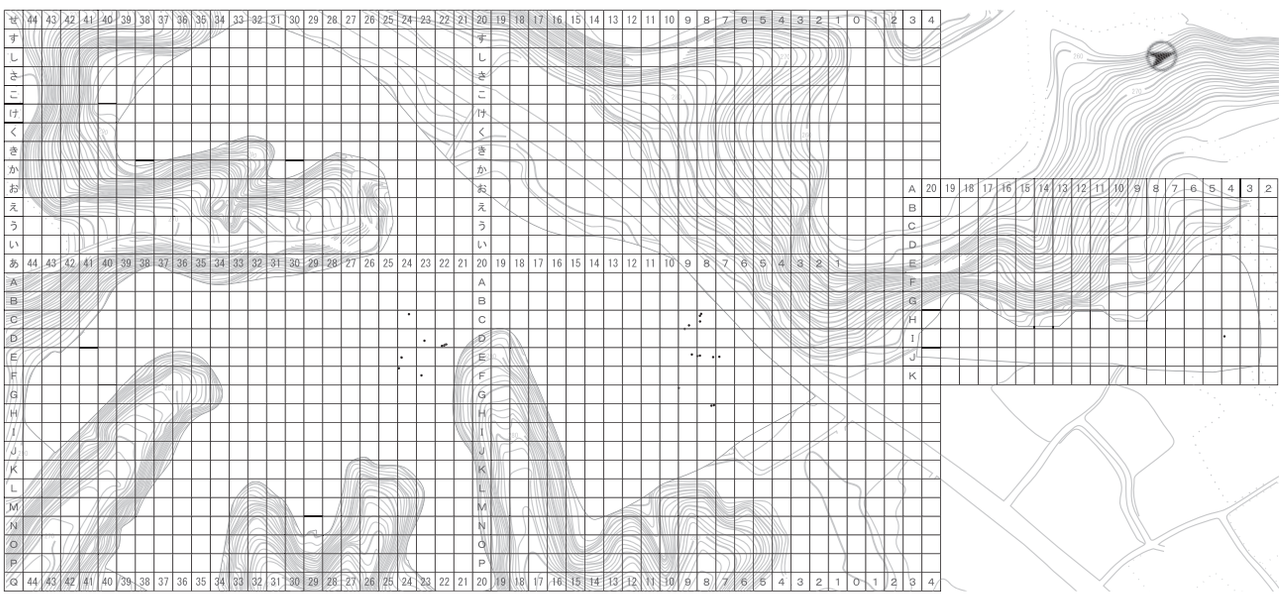
施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部下端部まで胴部文様帯の外面全面に，縦位方向あるいは斜位方向の格子目押型文を施すのが，本類細別の指標である。また口唇部文様帯と口縁部文様帯内面とは無紋帯となることが指摘できる。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて箆状工具によるケズリ調整を行った後に，木製工具による横位方向あるいは斜位方向のナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を最終調整とする土器が多数を占めることが挙げられる。

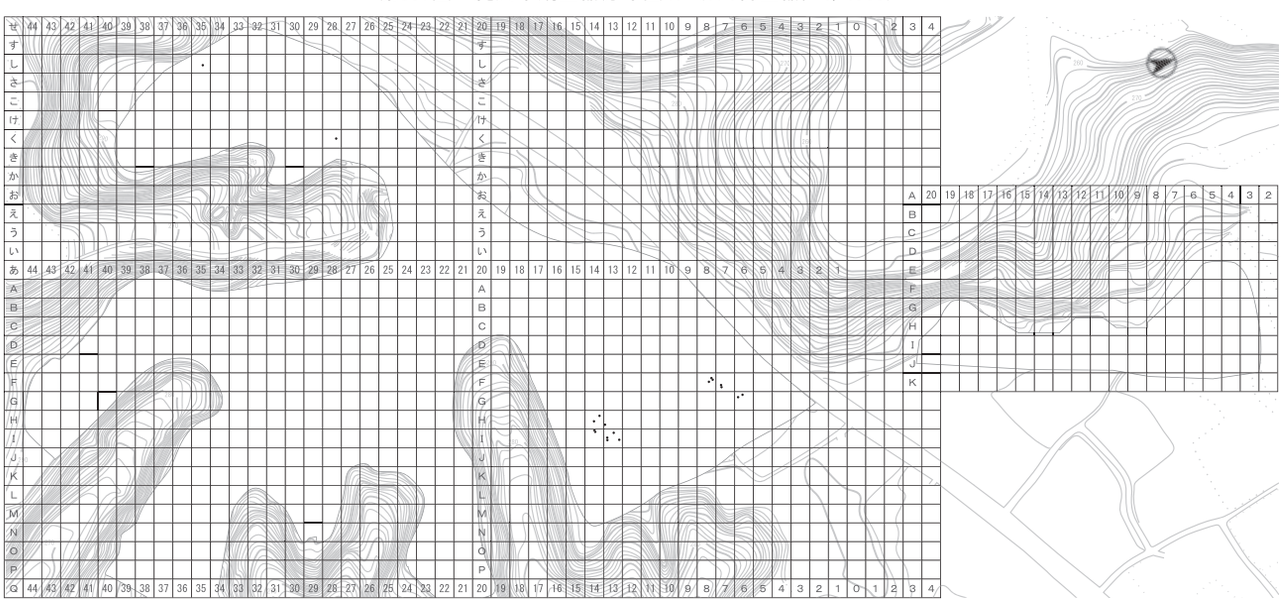
本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母



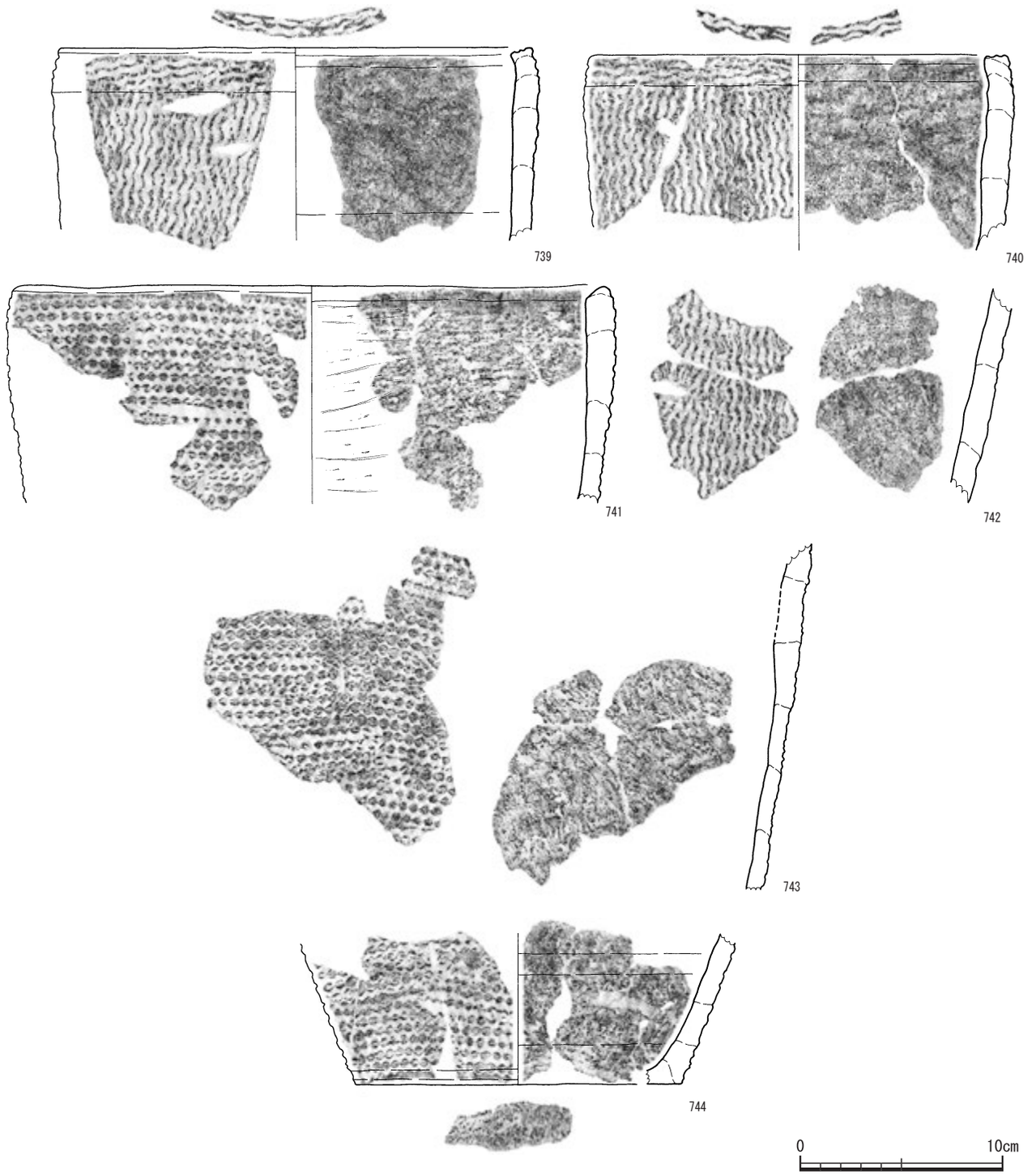
第336図　縄文早期土器分布図46（6.6群土器/6.7群土器/6.8群土器，1/4000）



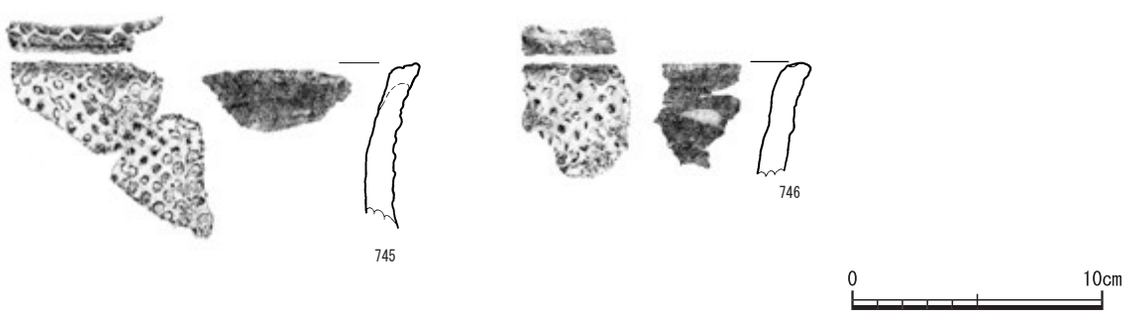
第337図　縄文早期土器分布図47（7.1群土器，1/4000）



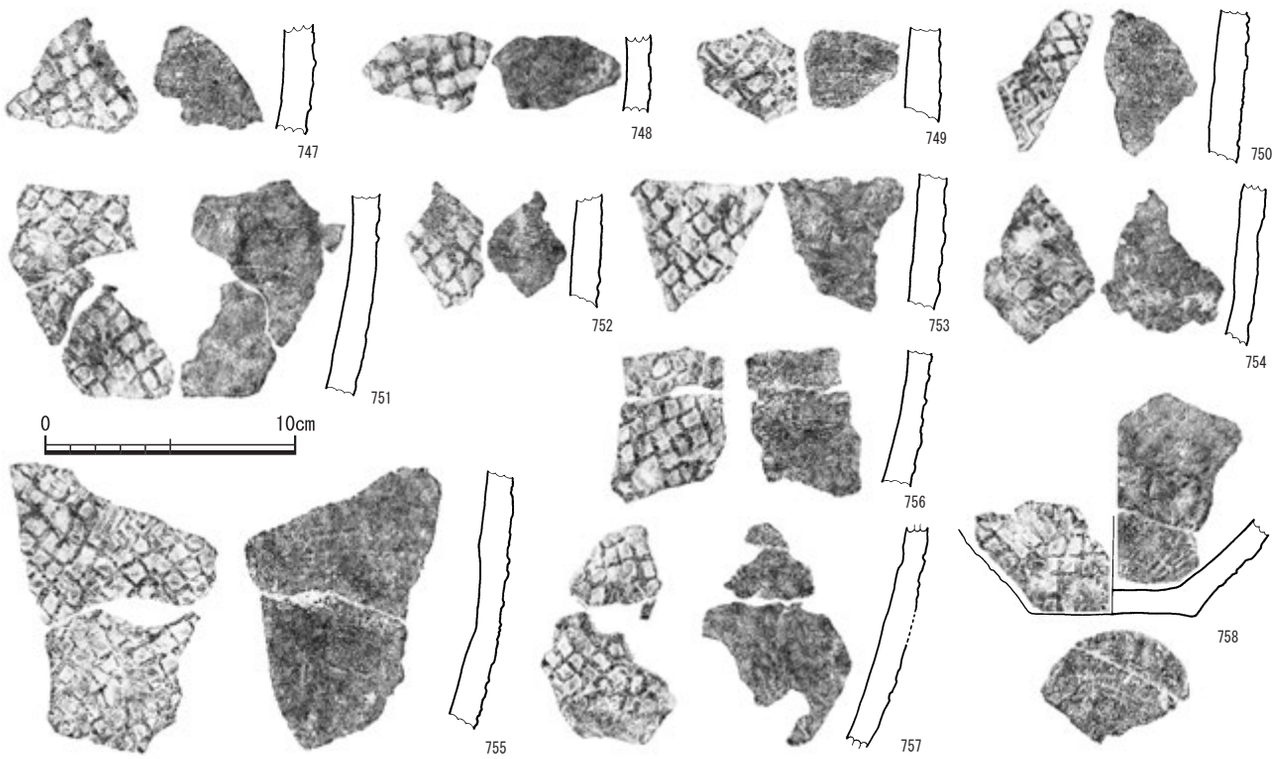
第338図　縄文早期土器分布図48（8群土器，1/4000）



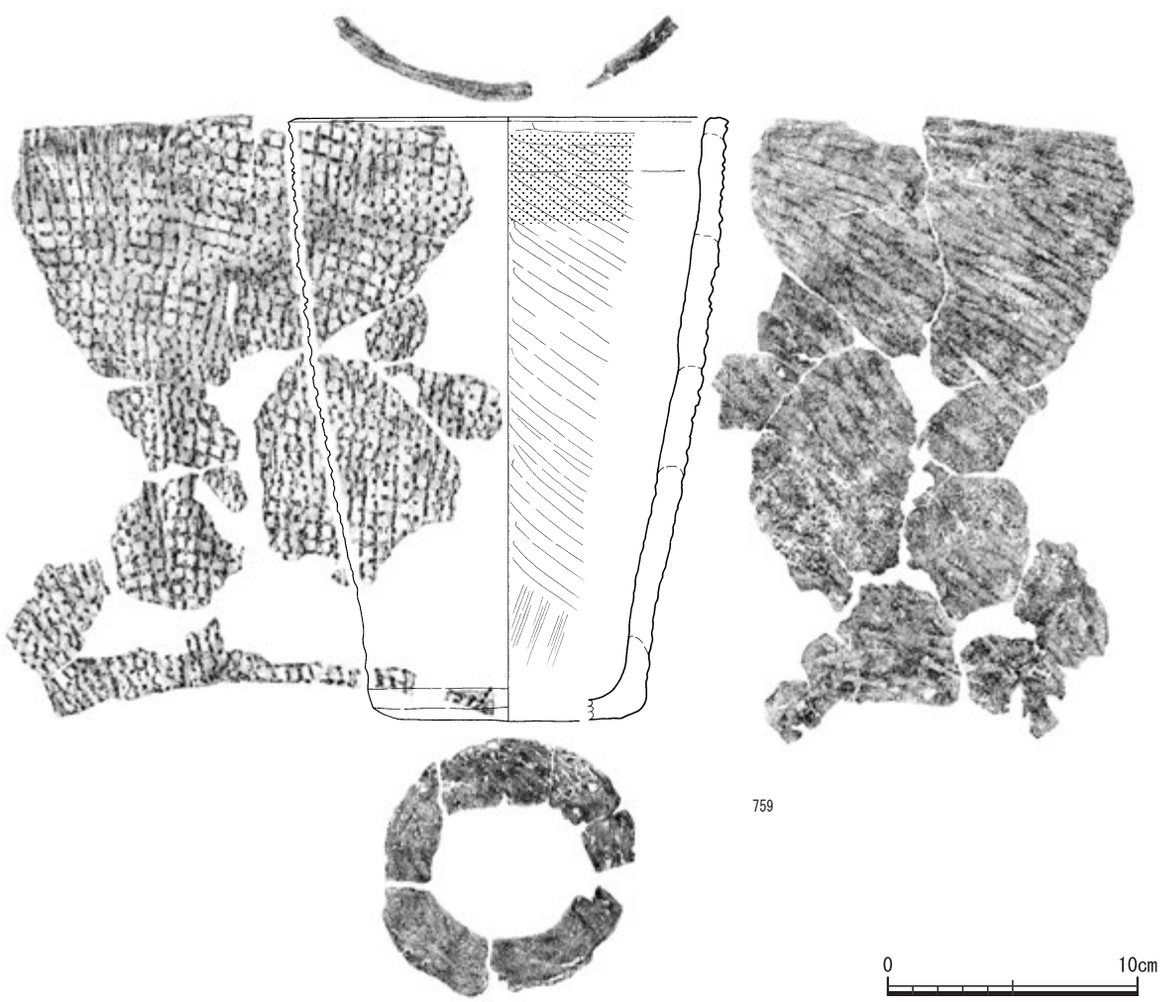
第339図　縄文早期土器実測図（112）（6.601群土器/6.602群土器/桐木調査区出土）



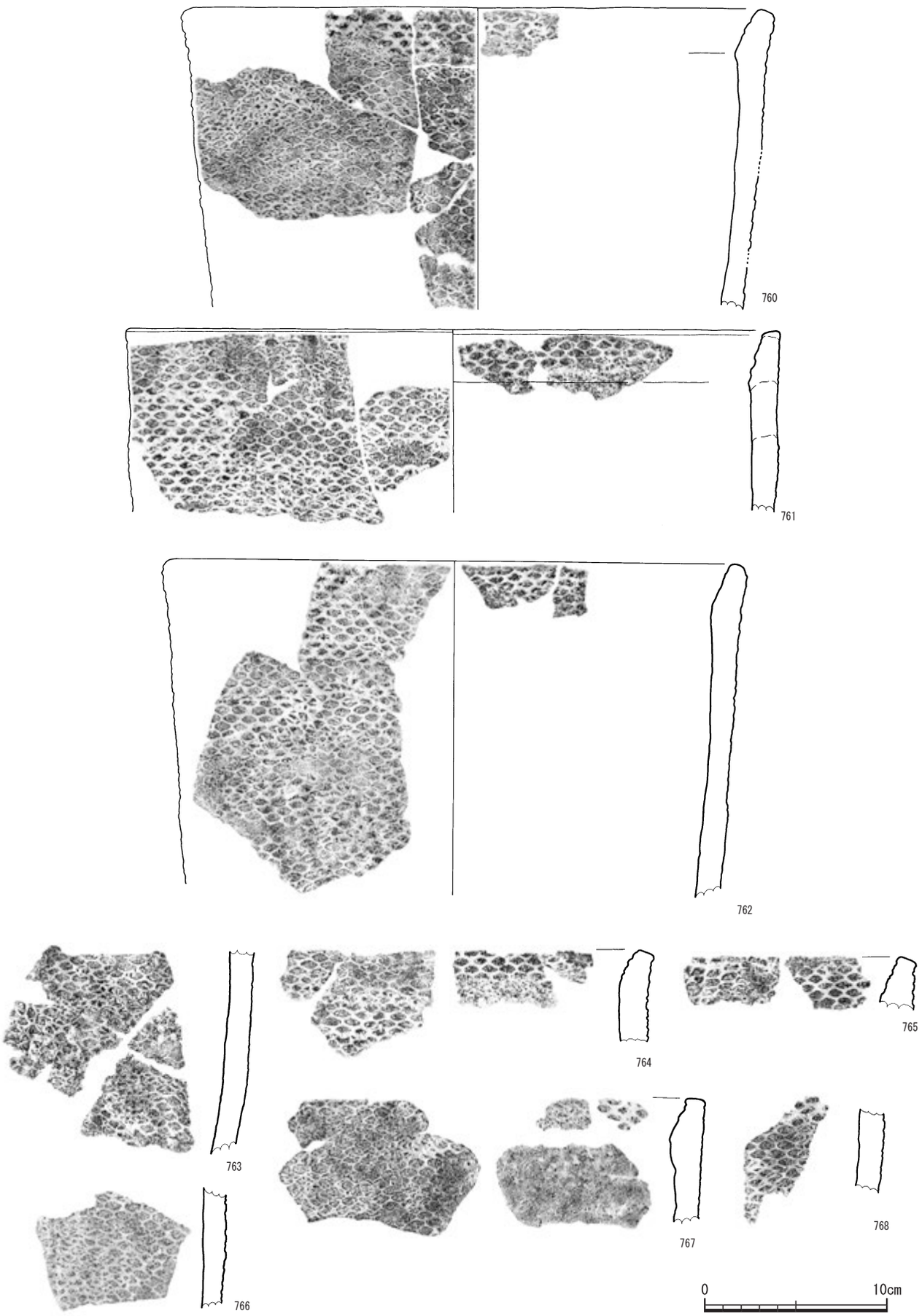
第340図　縄文早期土器実測図（113）（6.602群土器/耳取調査区出土）



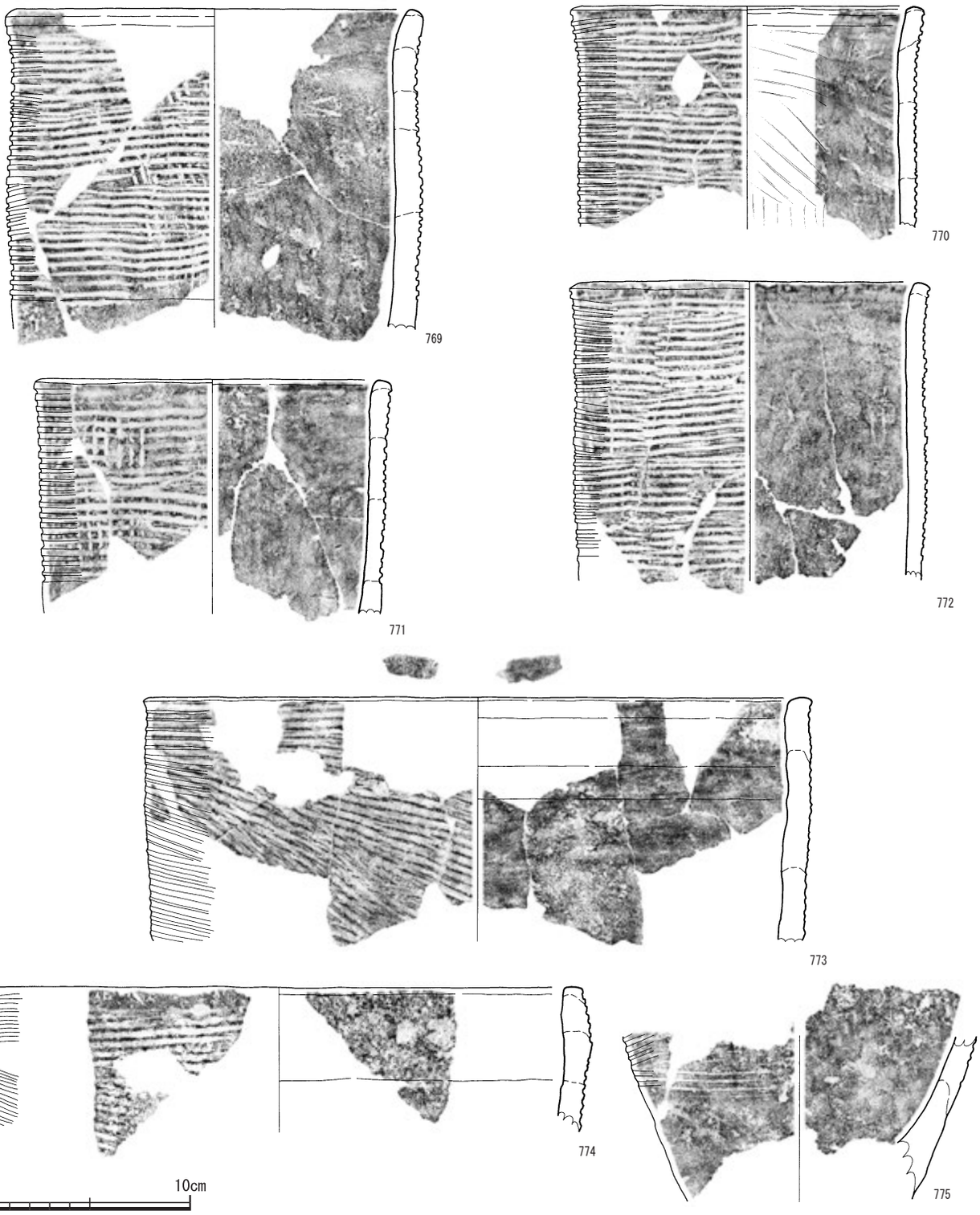
第341図　縄文早期土器実測図（114）（6.711群土器/耳取調査区出土）



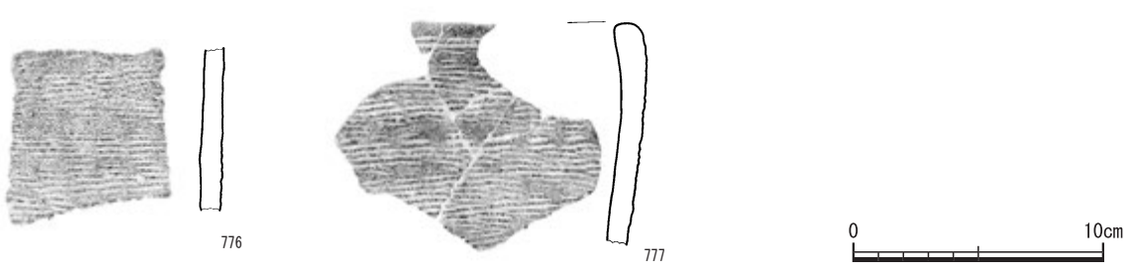
第342図　縄文早期土器実測図（115）（6.711群土器/桐木調査区出土）



第343図　縄文早期土器実測図（116）（6.812群土器/耳取調査区出土）



第344図　縄文早期土器実測図（117）（7.1群土器/桐木調査区出土）



第345図　縄文早期土器実測図（118）（7.1群土器/耳取調査区出土）

第95表　縄文早期土器観察表（53）（6群土器-21）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
339	739	6.601	●10484(G-43/Ⅶ) ●一括(-/-)	黒,砂粒	工具ナデ→ナデ	-	-
339	740	6.601	◎18102(G-43/Ⅶ) ●10477(G-43/Ⅶ) ●10479(G-43/Ⅶ)	黒,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
339	741	6.602	○3667(C-13/Ⅳ) ○35226(E-10/Ⅶ下) ○36250(D-11/Ⅴ) ○36670(D-10/Ⅵ) ○40756(D-9/Ⅷ) ○59426(E-8/Ⅷ)	黒,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	口唇部:ナデ	-
339	742	6.601	●10523(G-42/Ⅶ) ○10438(C-12/Ⅴ下)	黒,砂粒	横ハケ→粗いナデ	-	砂粒多量
339	743	6.602	○40058(C-12/Ⅹ) ○59426(E-8/Ⅷ) ○60648(E-8/Ⅷ下)	黒,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	ナデ	混和材:黒雲母
339	744	6.602	○1699(E-9/Ⅶ) ○2038(E-9/Ⅶ) ○2042(E-9/Ⅶ) ○35276(E-9/Ⅶ下) ○59371(E-8/Ⅶ下) ○59408(E-8/Ⅶ下) ○59409(E-8/Ⅶ下) ○59411(E-8/Ⅶ上)	黒,細粒	斜ケズリ粗いナデ,横ケズリ→粗いナデ	ナデ	混和材:黒雲母
340	745	6.602	▲19488(-/-)	黒,輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ,横ハケ→ナデ	-	-
340	746	6.602	▲19484(-/-)	輝,角,雲,細粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ,横ハケ→ナデ	-	細粒多量
341	747	6.711	▲10317(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	748	6.711	▲10314(I-4/Ⅶ)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	749	6.711	▲13650(I-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	750	6.711	▲9283(J-3/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	751	6.711	▲8221(J-3/Ⅶ) ▲9272(J-3/Ⅶ下)	輝,角,黒,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	752	6.711	▲19493(-/-)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	753	6.711	▲19497(-/-)	輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	754	6.711	▲9528(G-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	755	6.711	▲12775(J-3/Ⅶ) ▲13210(J-3/Ⅶ上)	輝,雲,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	756	6.711	▲10188(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	757	6.711	▲10303(J-5/Ⅶ) ▲12877(I-5/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	-	黒耀石,胎土精選
341	758	6.711	▲8216(J-3/Ⅶ)	輝,黒,細粒,赤粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	底面:ハケ→ナデ	黒耀石,胎土精選
342	759	6.711	◎9721(あ-13/Ⅶ) ◎11248(A-12/Ⅶ下) ◎11251(A-12/Ⅶ下) ◎11262(A-12/Ⅶ) ◎13371(A-11/Ⅶ) ◎13372(A-11/Ⅶ) ◎13374(A-12/Ⅶ) ○37236(A-12/Ⅶ上) ○37237(A-12/Ⅶ上) ○37785(B-12/Ⅶ) ○37856(A-12/Ⅶ) ○37997(B-11/Ⅶ) ○37999(B-11/Ⅶ) ○38052(A-12/Ⅶ) ○38054(A-12/Ⅶ) ○38058(A-12/Ⅶ上) ○38827(A-12/Ⅶ) ○40188(A-12/Ⅶ脚) ○40490(C-9/Ⅶ) ○40949(C-8/Ⅶ下) ○50811(A-13/Ⅶ) ○53638(B-13/Ⅶ下)	角,輝,砂粒	ケズリ→斜ヘラナデ	口唇部:ヘラナデ	混和材:角閃石,内面スス付着
343	760	6.812	▲8959(I-4/Ⅶ) ▲10639(I-4/Ⅶ) ▲16276(H-5/Ⅶ下) ▲19417(-/-) ▲19418(-/-) ▲19420(-/-) ▲19421(-/-) ▲19426(-/-)	輝,角,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-

第96表　縄文早期土器観察表（54）（6群土器-22/7群土器/8群土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
343	761	6.812	▲10622(H-4/Ⅶ) ▲10750(H-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
343	762	6.812	▲8410(G-4/Ⅶ) ▲9543(G-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	-
343	763	6.812	▲10542(F-5/Ⅶ) ▲10641(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
343	764	6.812	▲19450(-/-)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ケズリ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	765	6.812	▲10621(H-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	-	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	766	6.812	▲12849(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
343	767	6.812	▲8271(G-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横,斜ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	細粒多量
343	768	6.812	▲19449(-/-)	角,輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	細粒多量
344	769	7.1	○37316(E-9/Ⅶ) ○59383(E-9/Ⅶ下) ○60211(E-8/Ⅶ)	砂粒	ハケ→ナデ,縦ヘラナデ	口唇部:ハケ→ナデ,横ハケ→ナデ	-
344	770	7.1	○60240(E-8/Ⅶ)	砂粒,黒	丁寧な横ナデ,斜ナデ	-	-
344	771	7.1	○55193(G-10/Ⅶ)	砂粒,角	丁寧なナデ	-	-
344	772	7.1	○40948(C-8/Ⅶ下) ○41424(C-8/Ⅶ) ○41426(C-8/Ⅶ下)	角,砂粒	丁寧なナデ	口唇部:ナデ	-
344	773	7.1	○57459(D-23/Ⅶ下) ○68230(F-24/Ⅶ下) ○71066(F-23/Ⅶ) ○71729(D-22/Ⅶ) ○71733(D-22/Ⅶ) ○71734(D-22/Ⅶ) ○71735(D-22/Ⅶ)	角,砂粒	ナデ,ケズリ→丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
344	774	7.1	○57889(C-24/Ⅶ)	角,砂粒	ナデ	-	-
344	775	7.1	○42181(C-9/Ⅶ上) ○51167(D-9/Ⅶ) ○55760(H-8/Ⅶ) ○55763(H-8/Ⅶ) ○60252(E-7/Ⅶ)	輝,角,砂粒	ハケ→丁寧なナデ	丁寧なナデ	-
345	776	7.1	▲13665(I-4/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	胎土精選
345	777	7.1	▲0(-/-)	輝,角,雲,微粒	ミガキに近い丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近い丁寧なナデ	胎土精選
347	778	8	●土10(-/-) ●土12(-/-) ●土13(-/-) ●土14(-/-) ●土15(-/-) ●土16(-/-) ●土17(-/-) ●土18(-/-) ●土19(-/-) ●土2(-/-) ●土20(-/-) ●土21(-/-) ●土22(-/-) ●土23(-/-) ●土24(-/-) ●土27(-/-) ●土28(-/-) ●土3(-/-) ●土30(-/-) ●土4(-/-) ●土5(-/-) ●土7(-/-) ●土8(-/-) ●土9(-/-)	輝,砂粒,角,赤粒	横ハケ→ナデ	-	外面スス付着
349	779	8	●8632(く-28/Ⅶ)	黒,砂粒	指頭痕→ナデ,ハケナデ	-	混和材:黒雲母,外面スス付着
349	780	8	●1553(し-35/Ⅶ)	角,細粒	指頭痕→ナデ	口唇部:工具ナデ	-
349	781	8	○67894(I-13/Ⅶ) ○67938(I-13/Ⅶ下) ○67939(I-13/Ⅶ) ○67944(I-14/Ⅶ下) ○67945(I-14/Ⅶ) ○67956(I-13/Ⅶ下) ○68042(H-13/Ⅶ) ○68049(H-14/Ⅵa) ○68076(H-14/Ⅶ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
349	782	8	●土10(-/-) ●土11(-/-) ●土4(-/-)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	補修孔:外径9mm,内径6mm

で構成され，また細かい粒度の鉱物を多く含む土器が主体を占めることが指摘できる。ここで注目できるのは，本類に帰属する土器の多くに黒曜石を含ませた可能性の高いことが特記できる

さて，出土分布図から本類に属する土器は主に，耳取調査区北側地点のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ-３～５区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区あ～Ｂ-11～13区周辺とに集中していることが指摘できる(第336図・第274～278図参照)。この分布域は，第４群土器第３類土器の分布域と概ね重なることが指摘でき，注目できる。

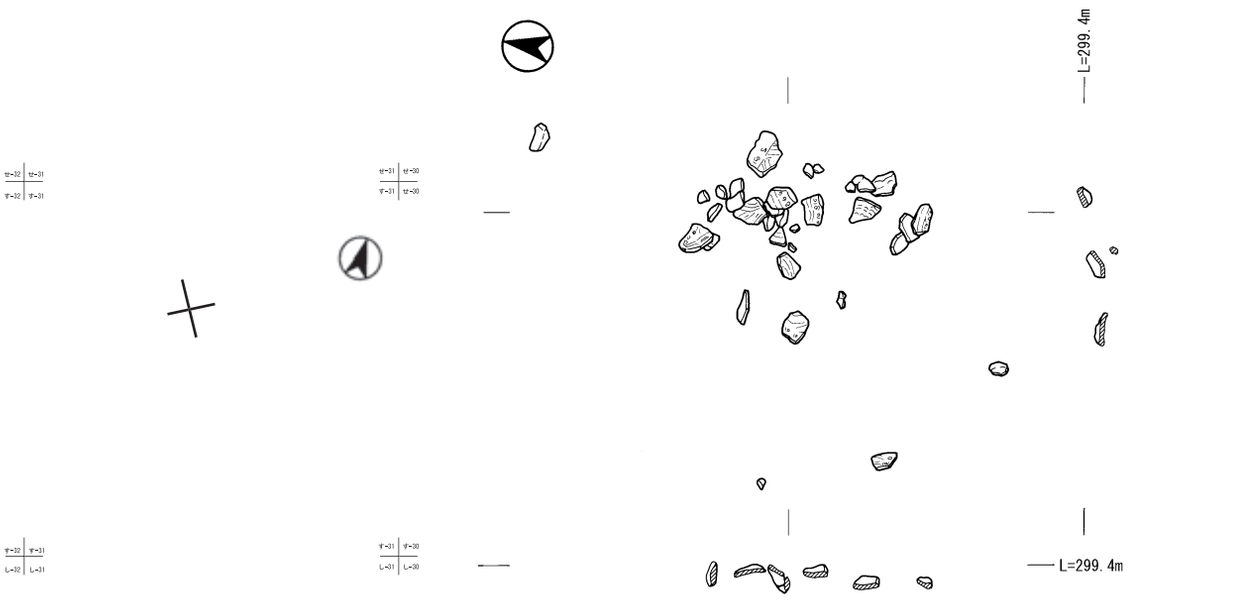
第６群土器第８類土器(分類記号6.8，第343図760～768)

第６群土器第８類土器に属する土器を９点資料化した。

本類土器は，第７群土器に属する円筒形条痕文土器に押型文を施す土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口唇端部に水平な平坦面を作出し，口縁部外面から胴部にかけては，ほとんど膨らまず，直行して胴部下半部へ移行するのが特徴である。また口縁部内面と胴部内面の境は強く「く」字状に屈曲し，胴部内面は直線的になることが指摘できる。さらに本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向の押型文を施すことが指摘できる。さらに口縁部内面には横位方



第346図　(778) 土器出土状況図

向の押型文を１条から数条巡らす特徴がある。また本類土器では，第２種土器に分類できる粗大な楕円押型文を施す土器のみが観られた。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具による横位方向あるいは斜位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また口唇上端部においても同様の調整が行われる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成されることが指摘できる。また，粗い粒度の鉱物と細かい粒度の鉱物とで構成されることと，細かい粒度の鉱物が胎土中に含まれる量が特に多いことが指摘できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｆ～Ｉ-３～５区周辺に集中していること(第336図・第274図～第278図参照)，桐木調査区では確認できていないことなどが指摘できる。

ここで注目できるのは，器形的特徴として口縁部内面と胴部内面の境が強く屈曲し，口縁部外面から胴部外面にかけてほぼ直線的形態を呈するという特徴は，第６群土器第３類土器と共通する特徴である。しかし第６群土器第３類土器は，縦位方向の押型文を施すのが特徴であり本類土器の施文的特徴と異なる点であり，今後注意を要する。

第７群土器(第344・345図769～777)

第７群土器に属する土器は，いわゆる円筒形条痕文土器である。本群に属する土器は層位的には，主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層であるⅧ層や上層のⅥ層やⅤ層からも出土しており，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

器形的特徴としては，口縁形態が平口縁を呈し，胴部下半から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる，円筒形を呈する土器であることが指摘できる。

さらに口縁部形態から次の３種に分類できる。

第１は，口縁部が若干外に開き，胴部がわずかに膨らむ土器(第344図769,777)である。

第２は，口縁部から胴部にかけて直行する土器(第344図771,772)である。

第３は，口縁部が内傾もしくは内弯し，口唇部は水平な平坦面を作出する土器(第344図774，第345図777)である。

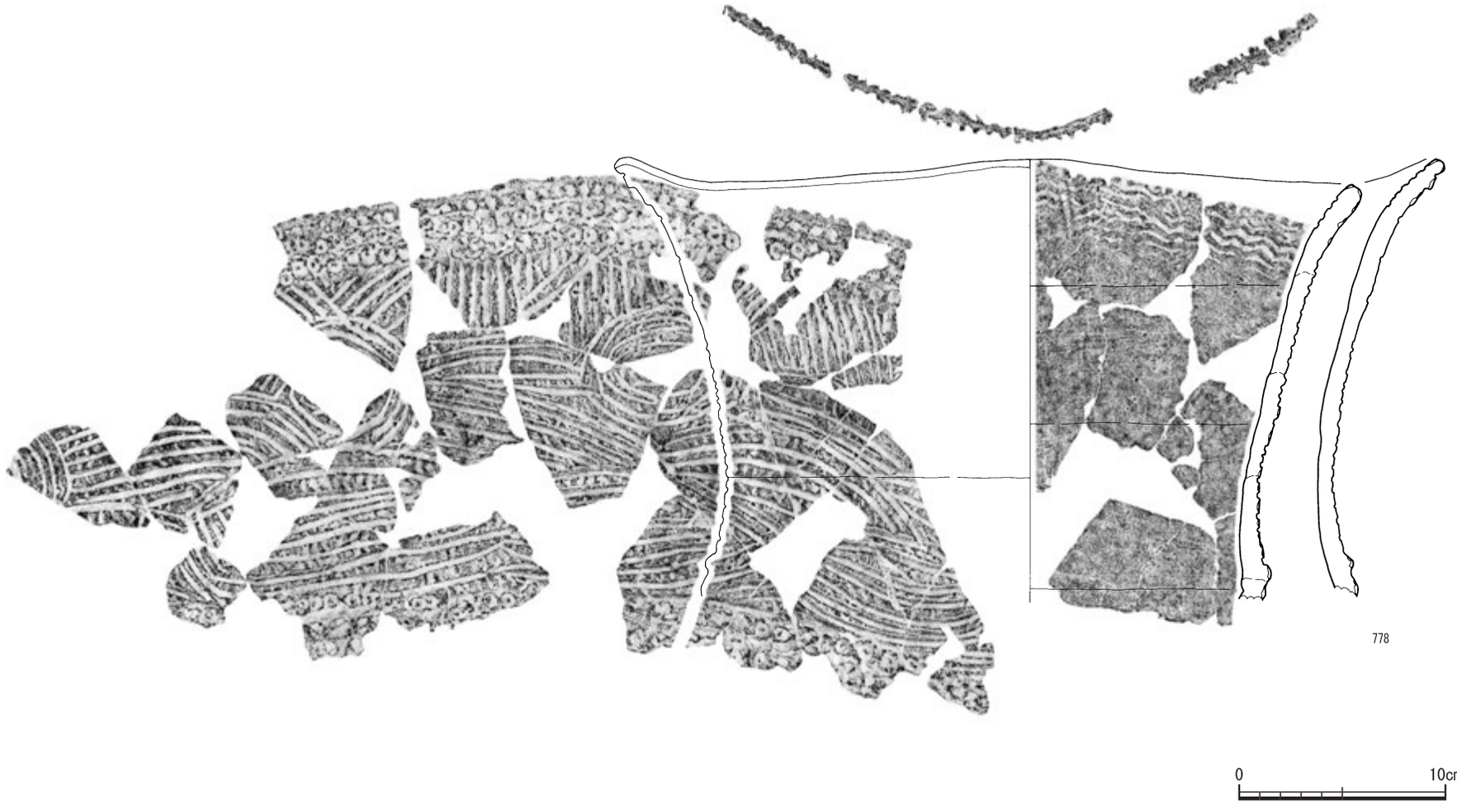
施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて，貝殻腹縁部を使用した条痕文を横位方向あるいは斜位方向に数十条巡らす(第344図770,774)のが特徴である。また横位方向の貝殻条痕文の下には，縦位方向の貝殻条痕が窺える土器(第344図769,771,772)もある。

本類土器は，水ノ江和同により一野式とされ，また木崎康弘により中原式とされた土器群である。

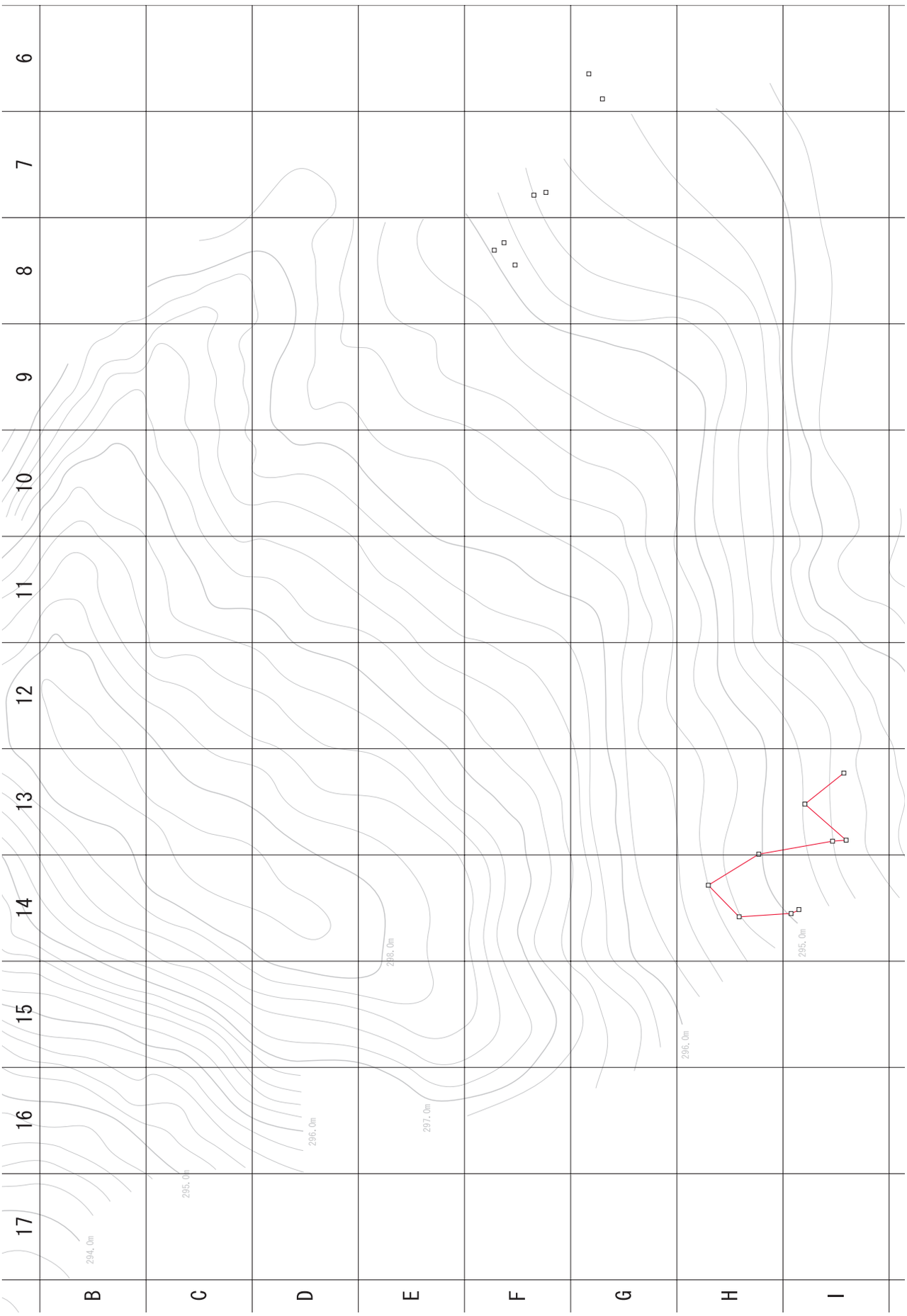
調整方法としては，内器面では，最終調整として丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として木製工具によるハケ調整を行う土器や，最終調整としてミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器が観られることが指摘できる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石と粗い粒度の鉱物とで構成される土器が多いことが指摘できる。また細かい粒度の鉱物で構成される土器(第345図776,777)は，胎土が精選されていることが指摘できる。

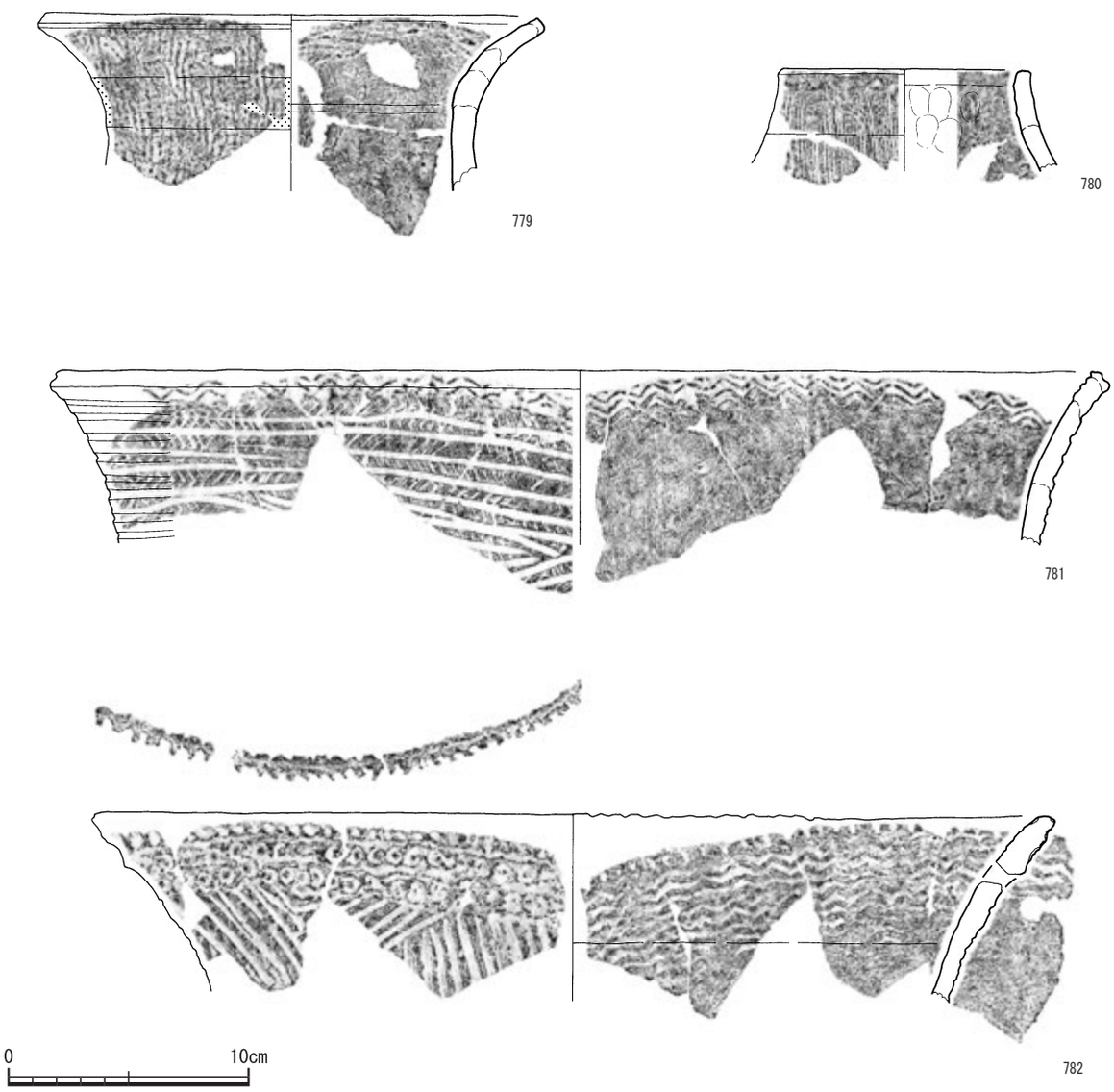
さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｈ-７～９区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ～Ｆ-22～24区周辺とに部分的に出土していること(第337図・第274図～第278図参照)が指摘できる。



第347図　縄文早期土器実測図（119）（8.0群土器/桐木調査区出土）



第348図　縄文早期土器分布図49（第８群土器，1/500）



第349図　縄文早期土器実測図（120）（8.0群土器/桐木調査区出土）

第８群土器(第347・349図778～782)

第８群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。第８群土器に属する土器を５点資料化した。

本遺跡からは深鉢形土器(第347図778，第349図779,781,782)と壺形土器(第349図780)とが出土した。

深鉢形土器は，器形的特徴としては，口縁部が大きく外反し，頸部がくびれるのが特徴である。本遺跡からは胴部中央部から底部にかけての接合資料が無く，詳細は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には，口唇内面部と口唇外面部とに刻みを施す土器(第347図778，第349図782)と，横位方向に山形押型文を施す土器(第349図781)とがあるのが特徴である。口縁部文様帯には，２～３条横位方向に貼付した突帯上には先端が中空の棒状工具により刺突連点文を施す土器(第347図778，第348図782)がある。頸部文様帯には棒状工具による沈線で直線文や曲線文，折帯文を構成するのが特徴である。これらの土器のなかには，地文として縦位方向に山形押型文を施す土器(第347図778，第349図781)がみうけられる。頸部文様帯と胴部文様帯との境には刺突連点文を施す突帯を横位方向に巡らす。さらに口縁部内面には横位方向に山形押型文を施している。

本遺跡から出土した壺形土器は，器形的特徴としては，口縁部がほぼ直行し，無頸壺に近いタイプの土器である。肩部はなで肩を呈するのが特徴である。施文的特徴としては，原体幅約14㎜を測る撚糸文を縦位方向に施すのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具

による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整として指頭押圧調整の痕跡が観られる土器があることも指摘できる。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成されることが指摘できる。また，粗い粒度の鉱物で構成される土器と細かい粒度の鉱物とで構成される土器とがあることや，本遺跡から出土した黒雲母を含む土器は少なかったが，胎土中に多く含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｆ・Ｇ−６〜８区周辺と，桐木調査区Ｈ・Ｉ−13・14区周辺とに集中していること(第338図・第348図参照)が指摘できる。

４　縄文時代早期後葉の土器群

桐木耳取遺跡で出土した縄文時代早期後葉の時期に属する土器は，概要の項で示したように７群に大別できた。

さて出土分布図から縄文時代早期後葉の土器群は，耳取調査区北側地区および耳取調査区南側地区，桐木調査区北側地区そして桐木調査区西側地区に散在して出土したことが指摘できる(第350図参照)。本群に属する土器は層位的にはⅦ層を中心にⅧ層でも出土しており，後世の撹乱が認められる。

さらに，土器型式別に細別が可能であるため，順次報告を行うことにする。

第９群土器(第362・363図783〜786)

第９群土器に属する土器は，その頸部文様帯における施文的特徴の違いからさらに２類に分類できた。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域が認められる。

第９群土器に属する土器を４点資料化した。

共通した特徴としては，次の４点を挙げることができる。

器形的特徴では，口縁形態が波状口縁を呈し，口唇部は丸く収め，口縁部形態は肥厚せず大きく外反し，頸部から胴部上半部にかけてすぼまることが指摘できる。

また施文的特徴では，口唇部文様帯上端に刻みを施し，口縁部文様帯上端に刻みを施した貼付突帯を横位方向に数条巡らすことが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整もしくは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。直前調整としてケズリ調整の痕跡を残す土器も観られる。

胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石と概ね細かい粒度の鉱物とで構成され，特に胎土が精選されている土器がみられることが特記できる。

第９群土器第１類土器(分類記号9.1，第362図783)

第９群土器第１類土器に属する土器を１点を資料化した。

器形的特徴としては，胴部下半から底部までの接合資料がないため，先述の「共通した特徴」の域を出ない。

施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯にかけて，棒状工具を使用した山形状の二重平行沈線文を縦位方向に施すことが本類細別の最大の指標である。

さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ−17〜19区周辺に集中していること(第351図・第354・355図参照)が指摘できる。

第９群土器第２類土器(分類記号9.2，第362・363図784〜786)

第９群土器第２類土器に属する土器を３点を資料化した。

器形的特徴としては，第362図784では，胴部中央部で強く屈曲し，胴部下半部では直線的にすぼまることが指摘でき，「共通した特徴」に属する形態である。施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯上半部にかけては単節斜行縄文(ＬＲ)を施すことと，胴部中央の屈曲部に刻みを施した貼付突帯を横位方向に２条巡らすこととを，挙げることができる。

ここで注目できるのは，第363図785・786であり，共に頸部下端部から胴部にかけての資料で，全体形は不明である。

器形的特徴としては，頸部下端部から胴部上端部にかけて屈曲し，胴部上半部は緩やかに膨らむことが指摘できる。

また施文的特徴としては，２タイプが認められる。

まず第１のタイプに属する第363図785は，頸部文様帯から胴部文様帯では波頂部下に瘤状突起と縦位方向に連続した突帯とを貼付した後に，棒状工具を使用して斜位方向や縦位方向の沈線文と，刺突連点文とで文様を構成する土器である。

また第２のタイプに属する第363図786は，胴部文様帯には単節斜行縄文(ＲＬ)を施し，頸部下端から胴部上端にかけての屈曲部には，刻みを施した貼付突帯を横位方向に１条巡らす土器である。

さて，出土分布図からは，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区く〜こ−26〜28区周辺では集中して出土していることと，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ〜Ｈ−７〜11区周辺では部分的に出土していること(第351図・第354・355図参照)が指摘できる。

第10群土器(第364図787〜792)

第10群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層からも出土している。

第10群土器に属する土器を７点資料化した。

本遺跡からは深鉢形土器(第364図787,788,790〜792)と，壺形土器(第364図789)とが出土した。

本遺跡出土の深鉢形土器では，器形的特徴としては，口縁形態が，ごく浅い波状口縁を呈する土器(第364図787)と，平口縁を呈する土器(第364図788)とがあることを指摘できる。また口唇部が丸く収まり，口縁部形態は肥厚せずそのまま外反するする特徴は，第９群土器と共通である。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には縦位方向や斜位方向の沈線文を施すのが本群細別の最大の指標である。さらに胴部文様帯には，単節斜行縄文(ＲＬ)を縦位方向に施す土器(第364図790,791)と，沈線文と刺突連点文とで文様を構成する土器(第364図792)とがあるのを指摘できる。

本遺跡出土の壺形土器は，頚部から胴部上半部にかけての資料が出土した。器形的特徴としては，頸部と肩部との境は内面で特に強く屈曲し，胴部中央部にかけて強く張る形態を呈するのが特徴である。

施文的特徴としては，頸部文様帯から胴部文様帯にかけて単節斜行縄文(ＲＬ)を縦位方向および横位方向に施した後に，頸部文様帯から肩部文様帯には横位方向と縦位方向の沈線文で文様を構成するのを挙げることができる。

本群土器の調整方法では，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整あるいは縦位方向のケズリ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行うのが特徴である。

本群土器の胎土中鉱物は，主に角閃石や輝石と概ね細かい粒度の鉱物とで構成されていることが指摘できる。また，本遺跡から出土した黒雲母を含む土器は少なかったが，胎土中には多量に含む土器であり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｄ・Ｅ-７・８区周辺では部分的に出土し，桐木調査区Ｈ・Ｉ-12～14区周辺では集中して出土していること(第352図・第356・357図参照)が指摘できる。

第11群土器(第365～368図793～822)

第11群土器に属する土器は，その器形的特徴および施文的特徴からの違いからさらに２類に分類できた。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

第11群土器に属する土器を30点資料化した。

共通した特徴としては，次の２点を挙げることができる。

器形的特徴としては，まず口縁形態には浅い波状口縁を呈する土器と，平口縁を呈する土器とがあることが指摘できる。頸部から口縁部にかけて外反し，胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には，沈線文と刺突連点文とで山形文，波状文，折帯文や曲線文などの文様を構成する土器と，棒状工具により羽状文を施す土器とがある。また胴部文様帯には，結節縄文を施すのが本群土器細別の最大の指標である。

本群土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また，横位方向のケズリ調整の痕跡が認められる土器がある。

本群土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石などで構成される土器と，主に黒雲母と輝石などで構成される土器とがみられた。角閃石でも黒雲母でもともに胎土中に多量に含む土器があり，混和材として含ませた可能性の高いことなどが特記できる。また，細かい粒度の鉱物で構成される土器が主体を占め，粗い粒度の鉱物で構成される土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物の粒度がさらに精選された土器も見受けられた。

ここで注目できるのは，第366図804および第368図815の２点である。共に外面に化粧土が塗布され，赤く発色しているのが特徴である。

第11群土器第１類土器(分類記号11.1，第365図793～799，第366図800,801)

第11群土器第１類土器に属する土器を７点を資料化した。

器形的特徴としては，口縁形態には，浅い波状口縁を呈する土器(第365図793，第366図800・801)と，平口縁を呈する土器(第365図794・795)とを指摘できる。口縁部は頸部にかけて外反し，端部には小さな三角形状の突帯を巡らせ，肥厚帯部を作出する。胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口唇部上端と口縁下端部とには棒状工具による刻みを施し，口縁部文様帯には沈線文で，山形文や波状文などの文様を構成させるのが特徴である。胴部文様帯には縦位方向に結節縄文を施す。本遺跡で出土した施文原体は，２段左撚(ＬＲ)の原体で施文する土器が主体を占めていることを指摘できる。

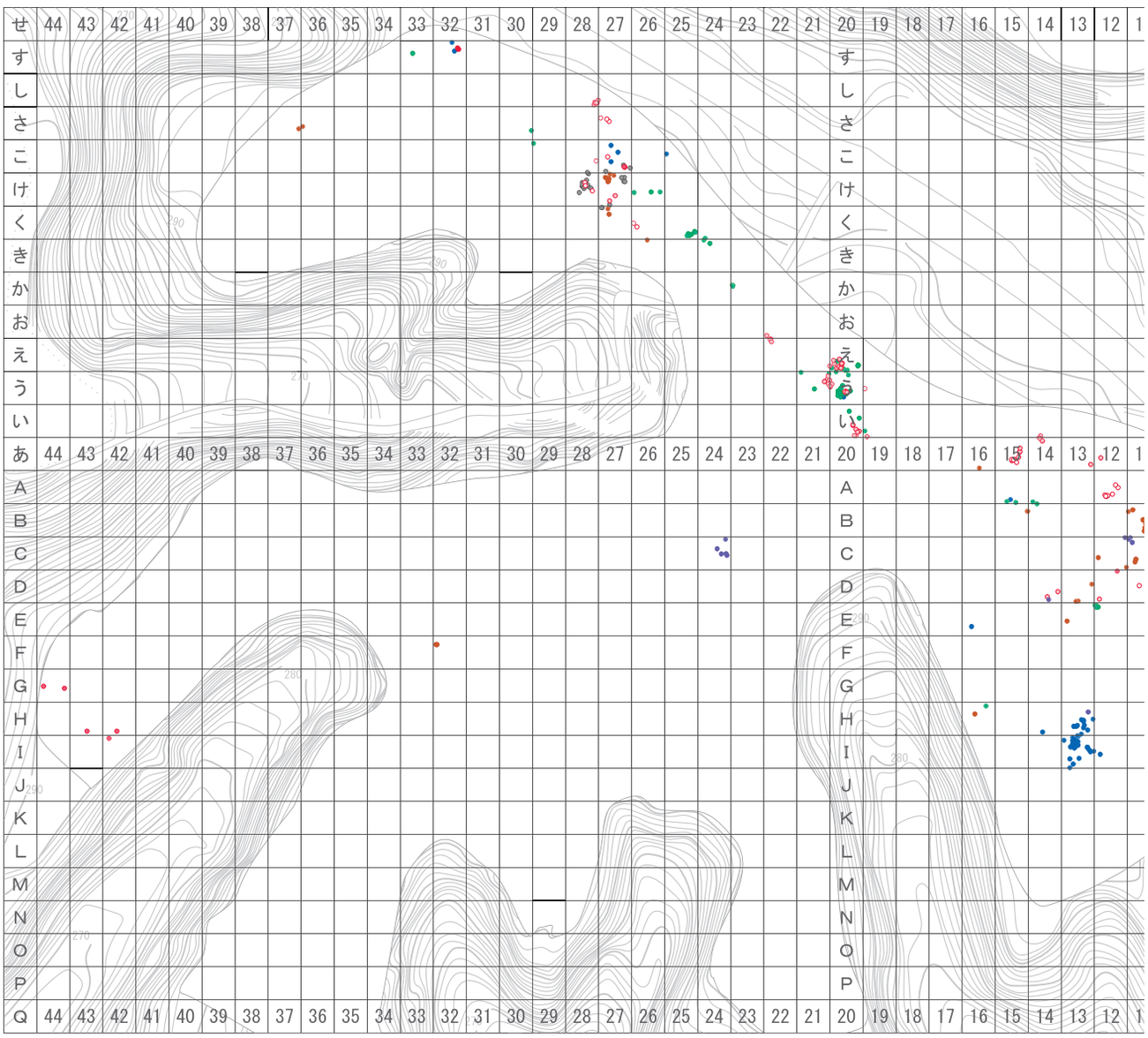
さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ・Ｊ-18・19区周辺では集中して出土していること(第353図・第358～361図参照)が指摘できる。

第11群土器第２類土器(分類記号11.2，第366～368図802～822)

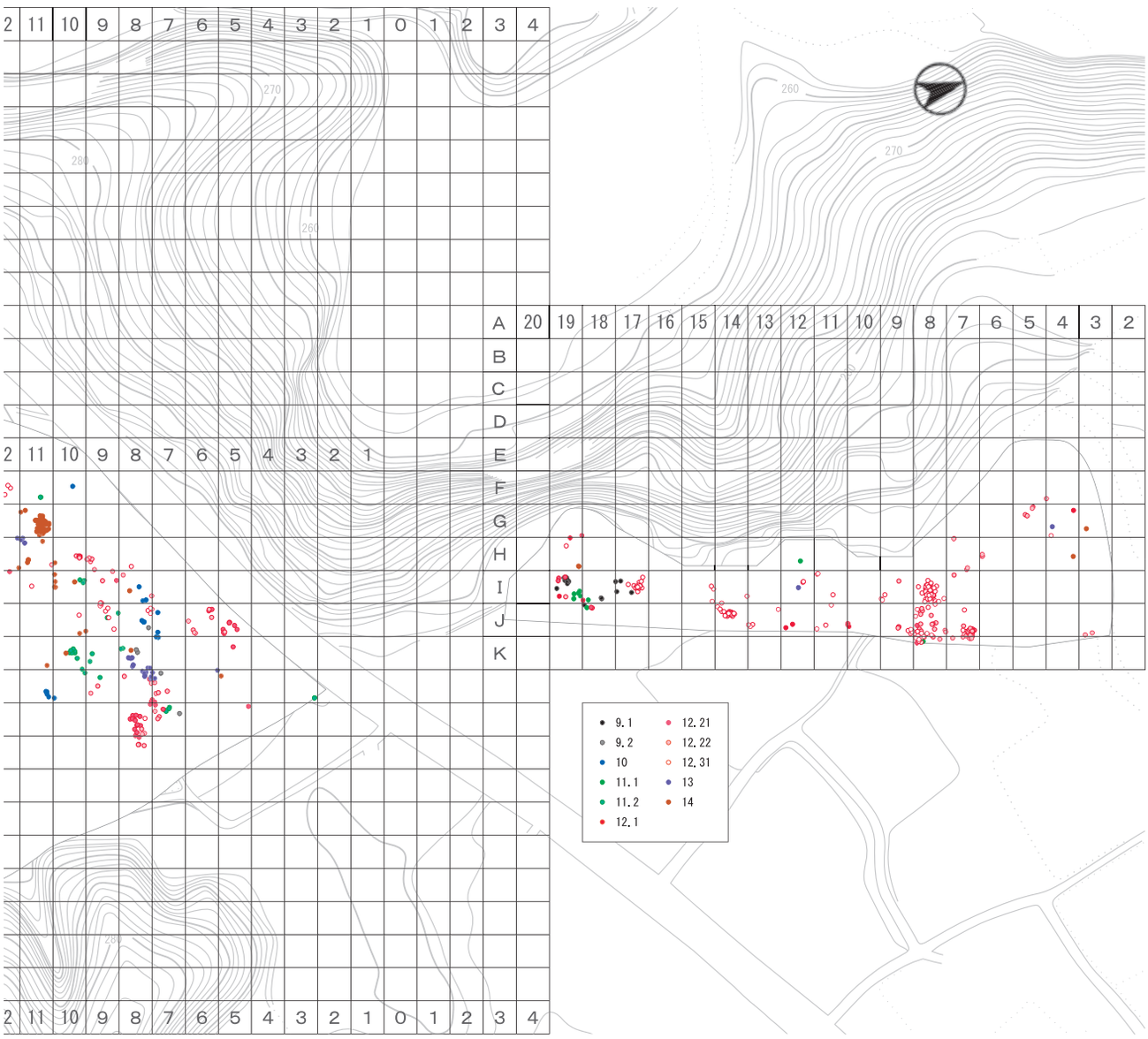
第11群土器第２類土器に属する土器を23点を資料化した。

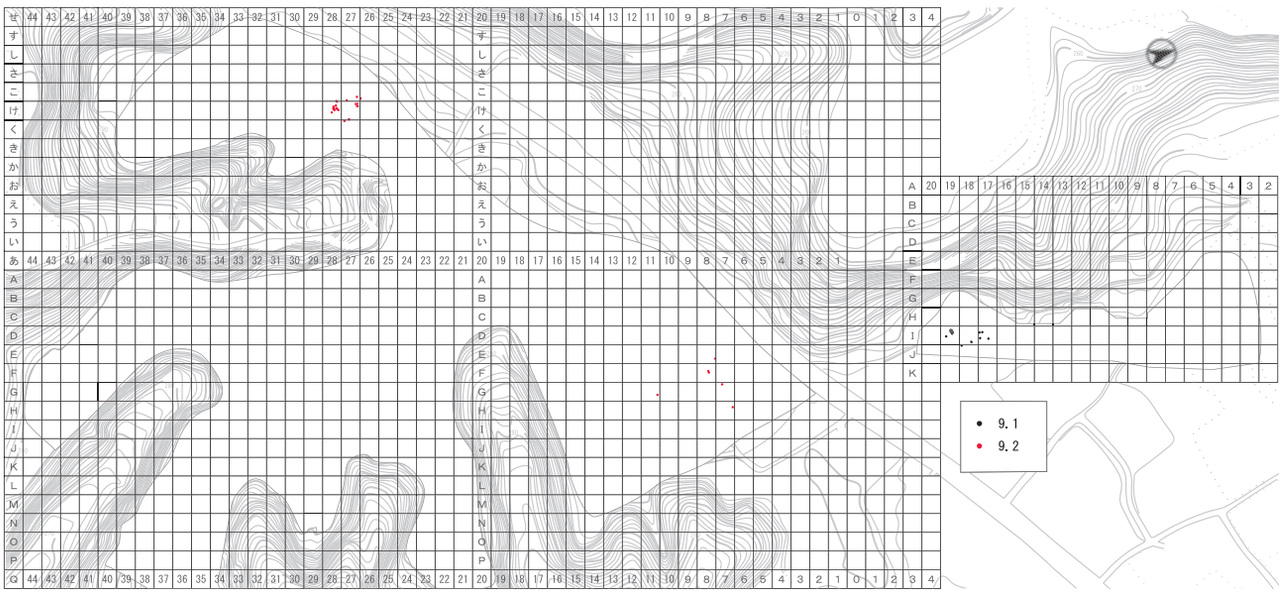
器形的特徴としては，口縁形態には，浅い波状口縁を呈する土器(第366図802～804，第367図805,806,808,809,811，第368図813)と，平口縁を呈する土器(第367図807・810，第368図812)とを指摘できる。口縁部には，外反形態を呈する土器(第366図804，第367図805,807～811)と，直立形態を呈する土器(第366図803，第367図806，第368図812・813)の２種類が認められる。

口縁部形態には２種類がある。第１種は，口縁端部に粘土を張り付けて，幅広の口縁部肥厚帯を作出する土器(第366図

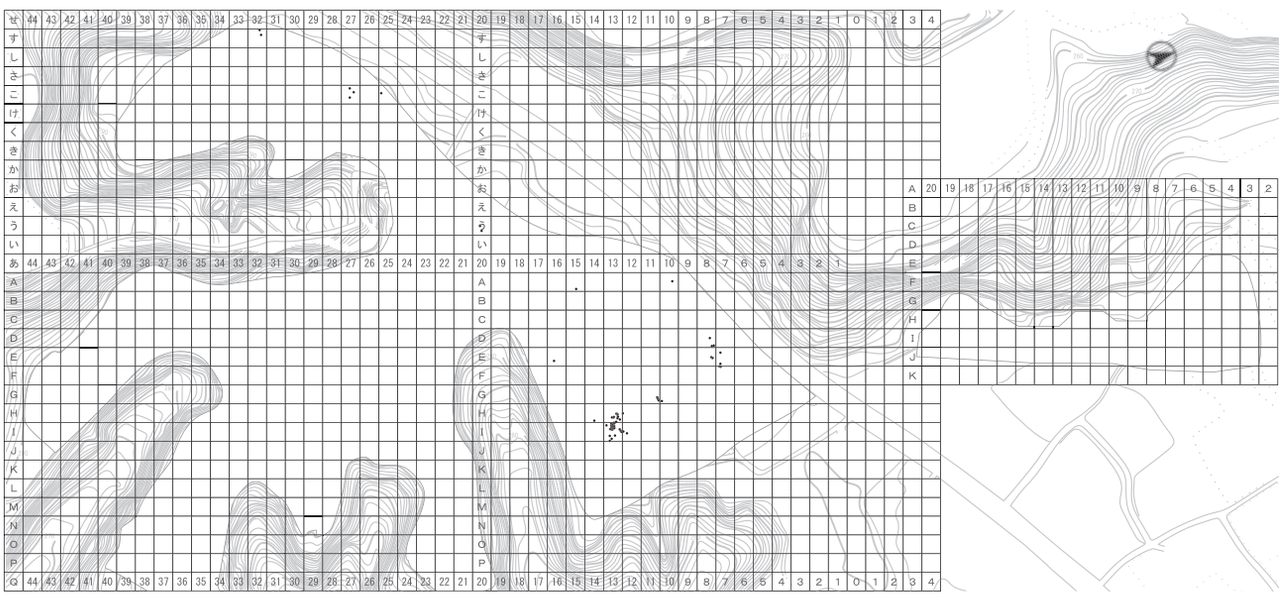


第350図　縄文早期土器分布図50（1/2000）

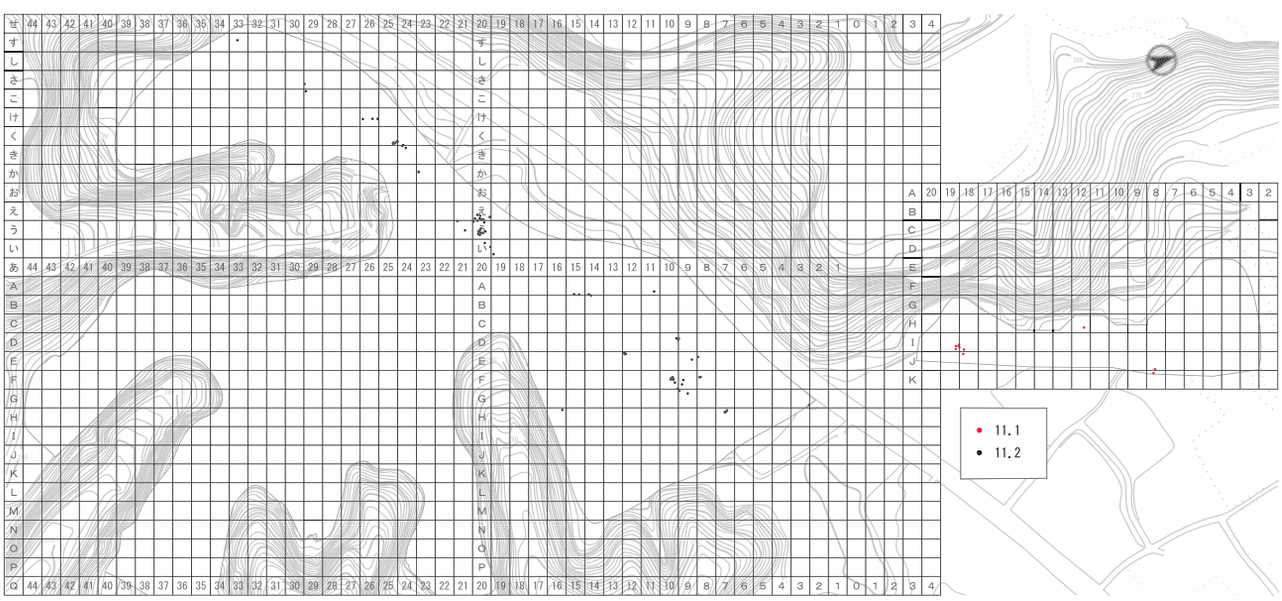

2 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
9.1
9.2
10
11.1
11.2
12.1
12.21
12.22
12.31
13
14



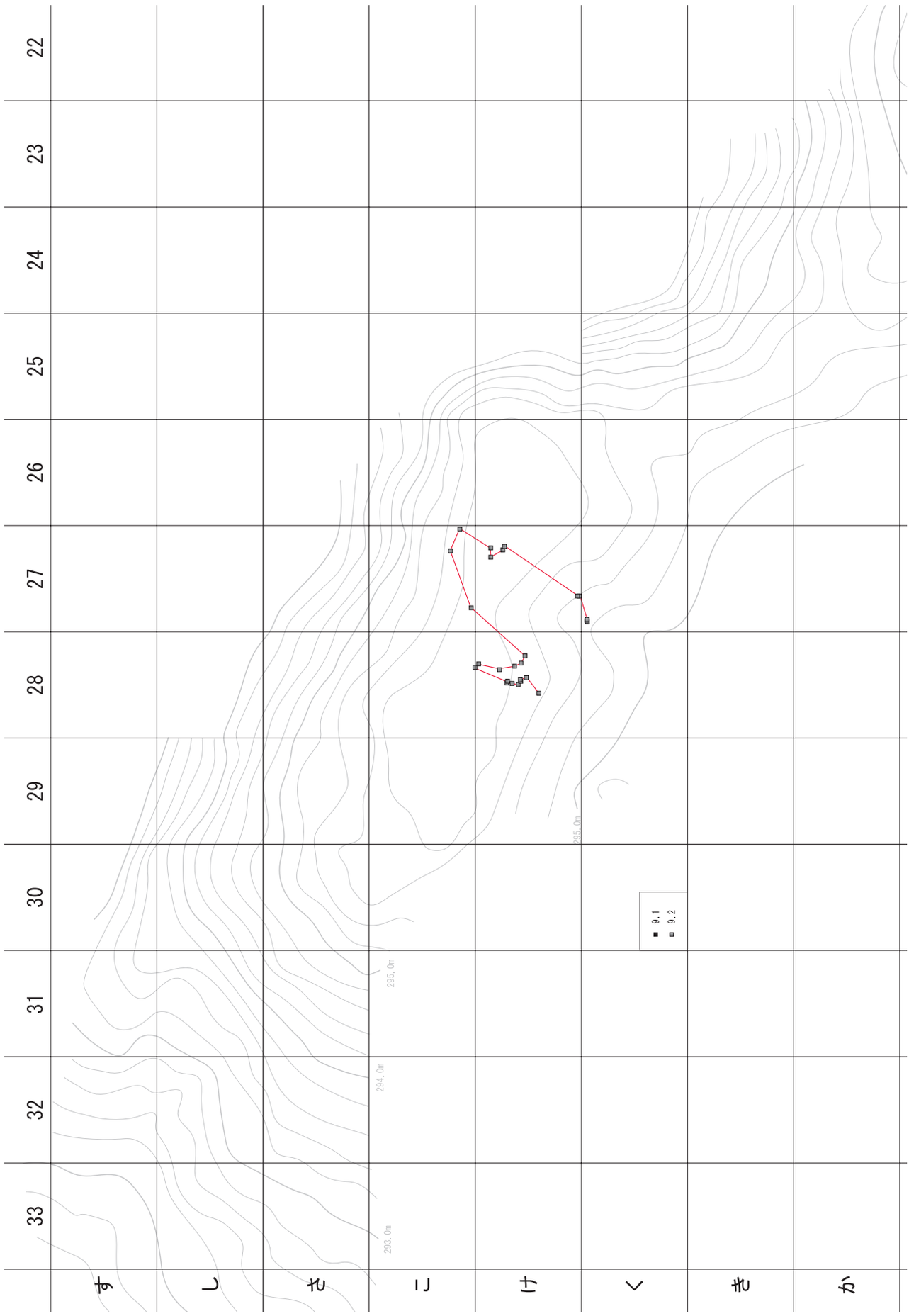
第351図　縄文早期土器分布図51（9.1群土器/9.2群土器，1/4000）



第352図　縄文早期土器分布図52（10群土器，1/4000）

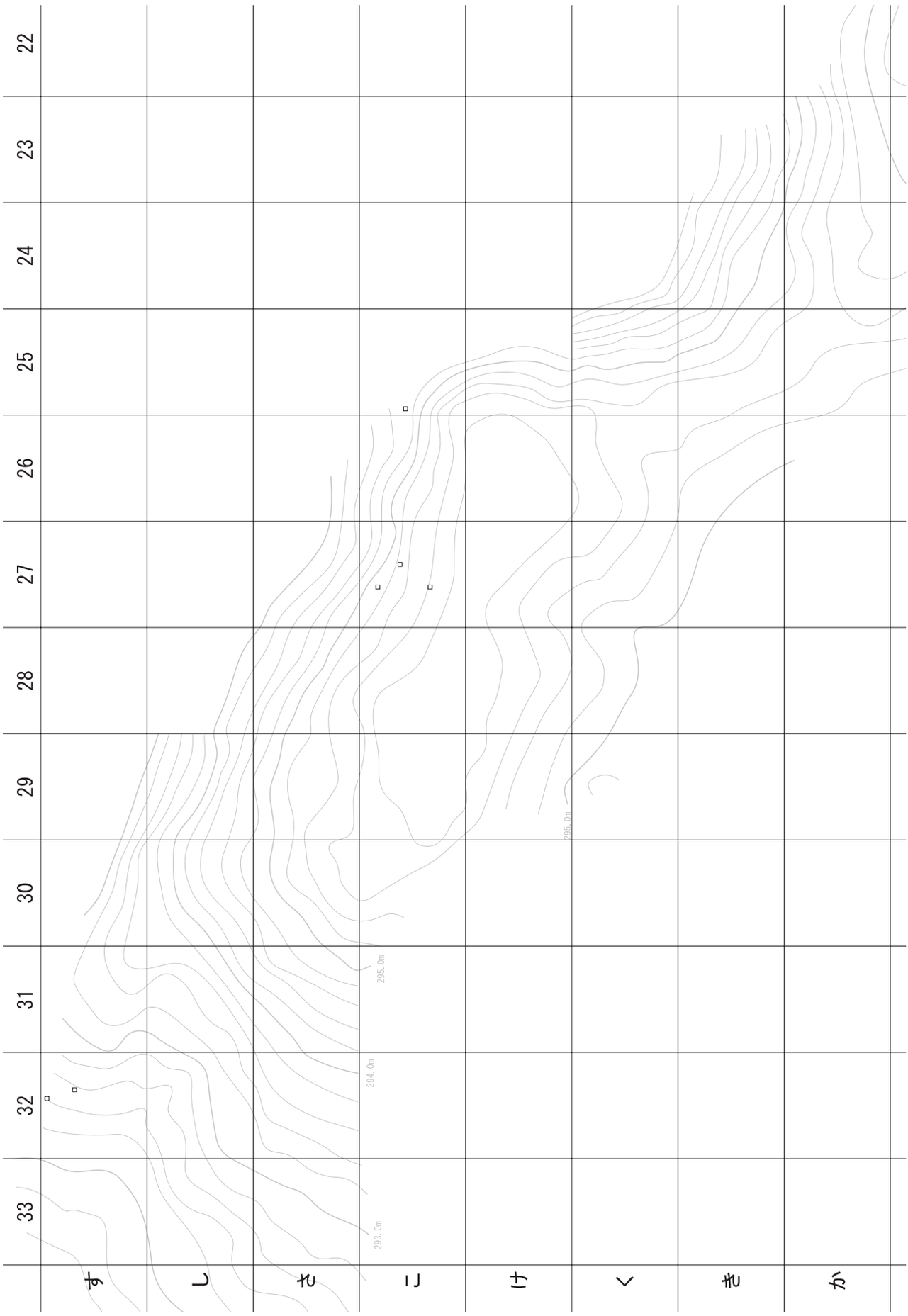


第353図　縄文早期土器分布図53（11.1群土器/11.2群土器，1/4000）

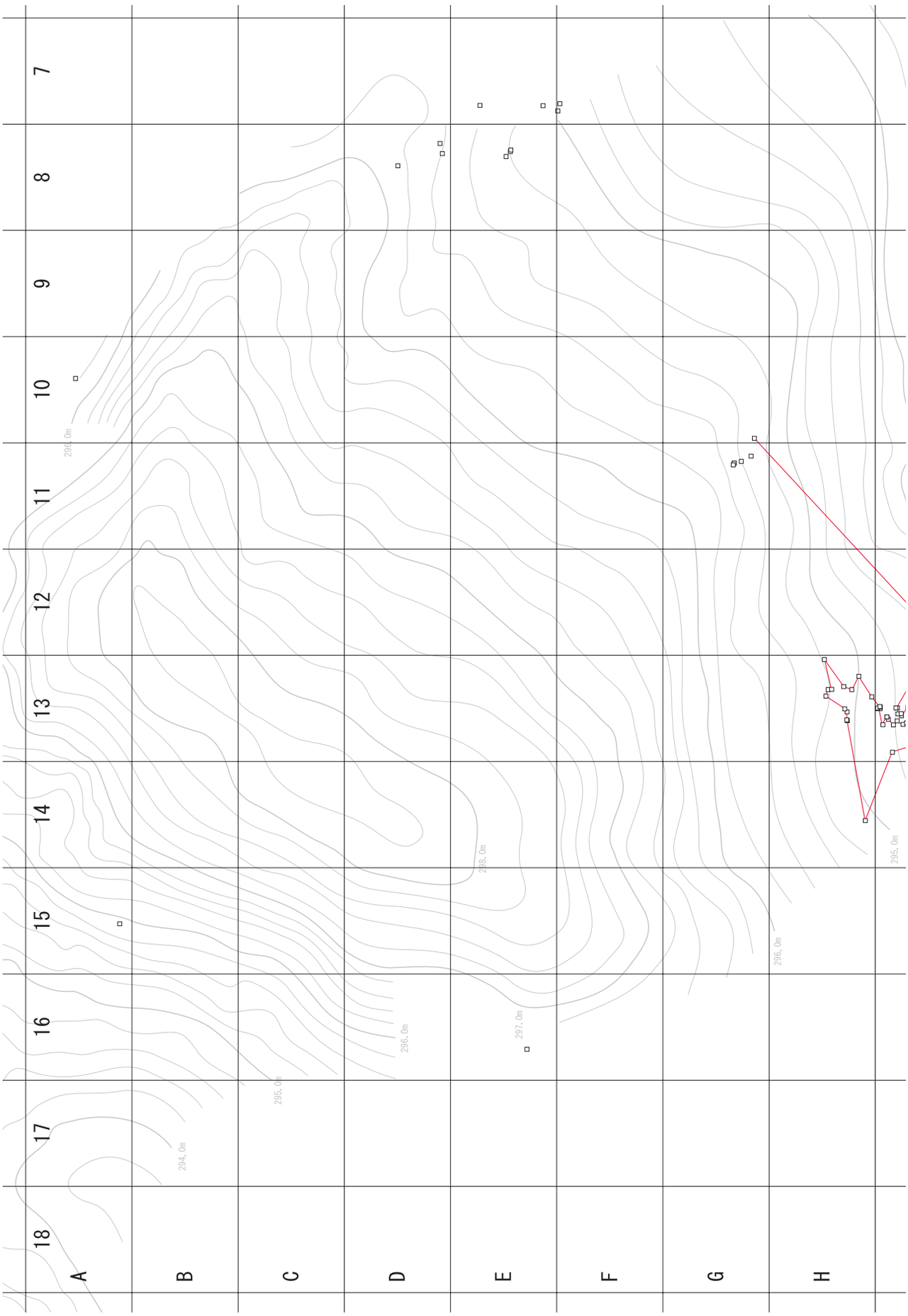


第354図　縄文早期土器分布図54（第９群土器1，1/500）

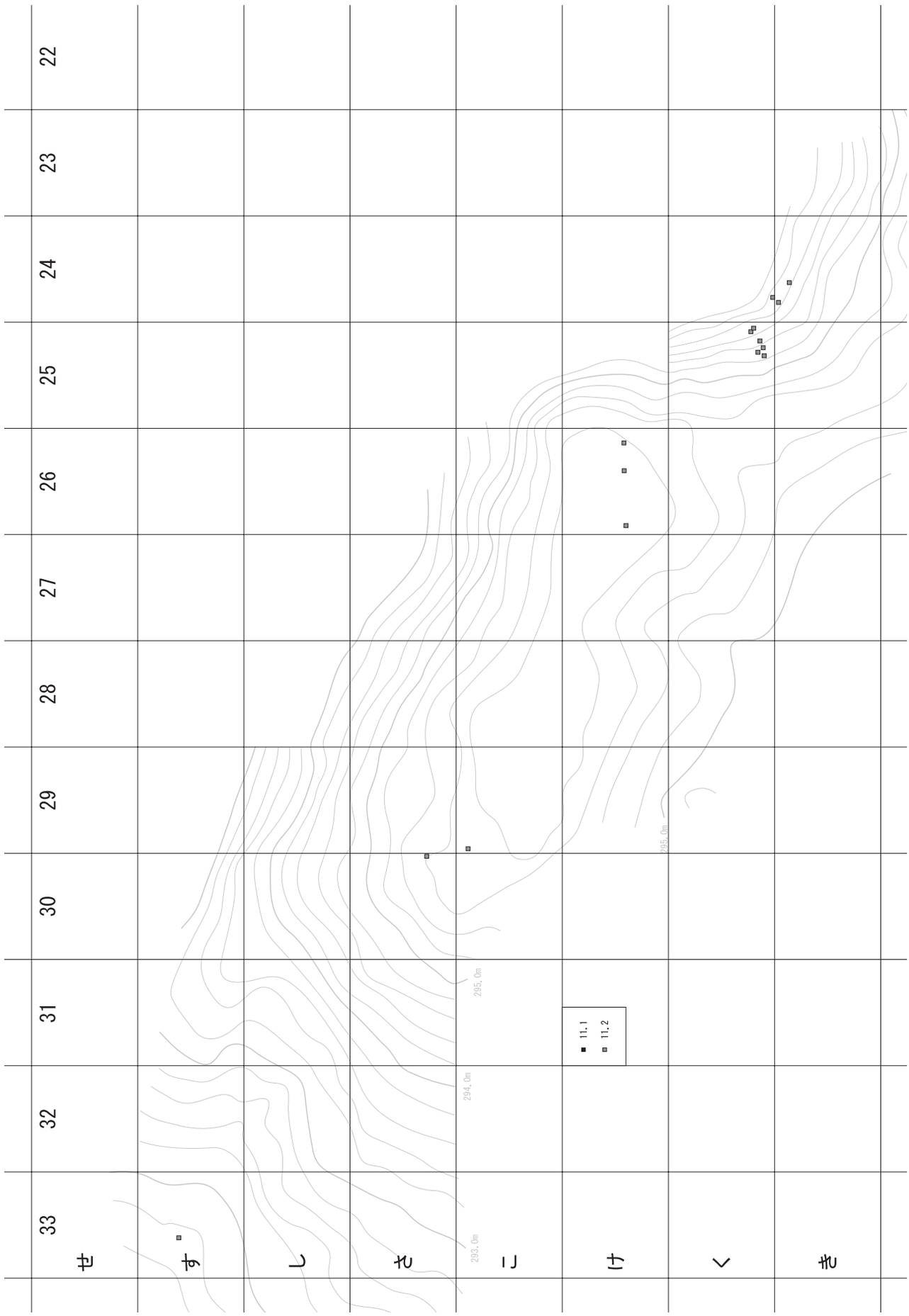
第355図　縄文早期土器分布図55（第９群土器２，1/500）



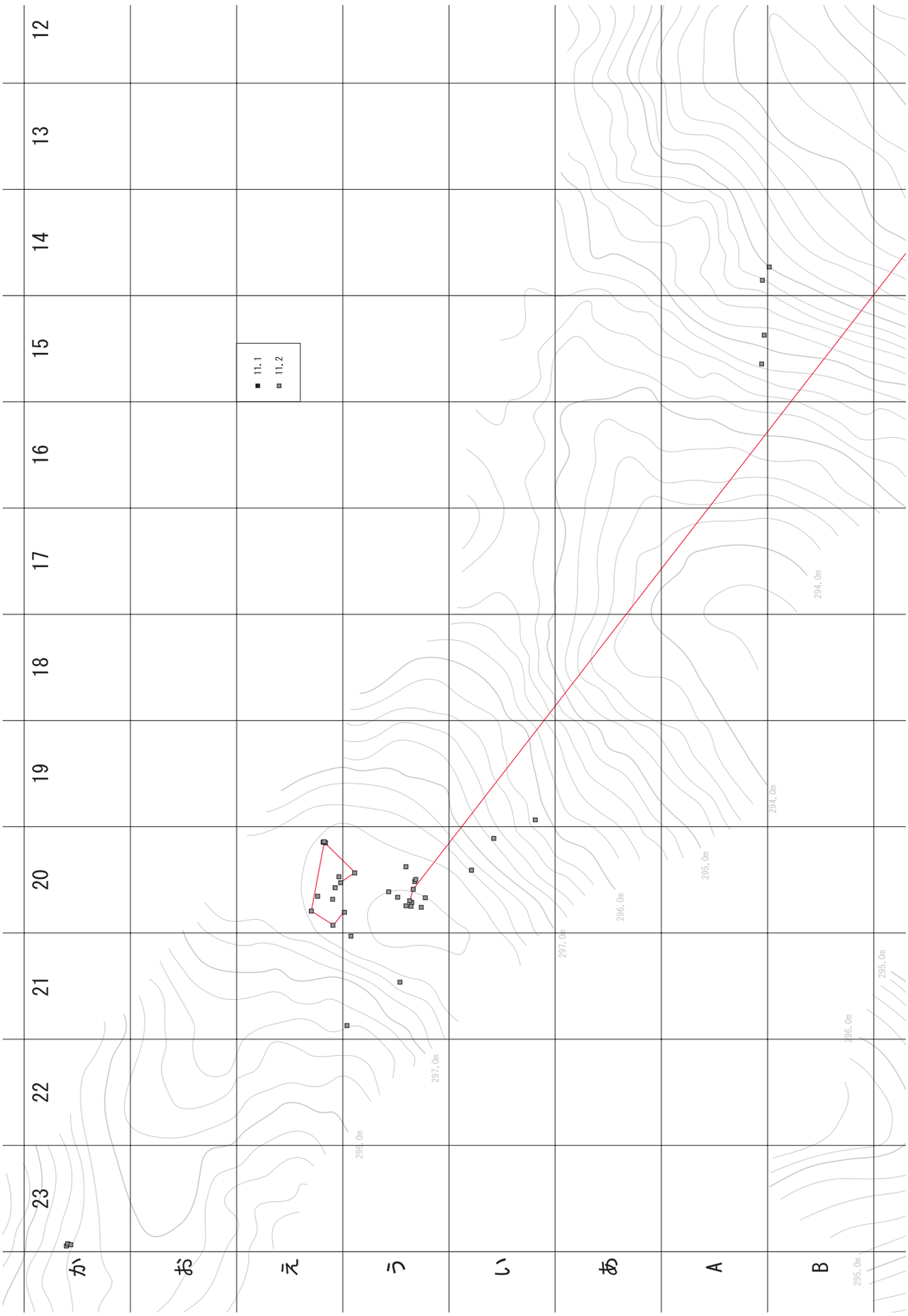
第356図　縄文早期土器分布図56（第10群土器１，1/500）



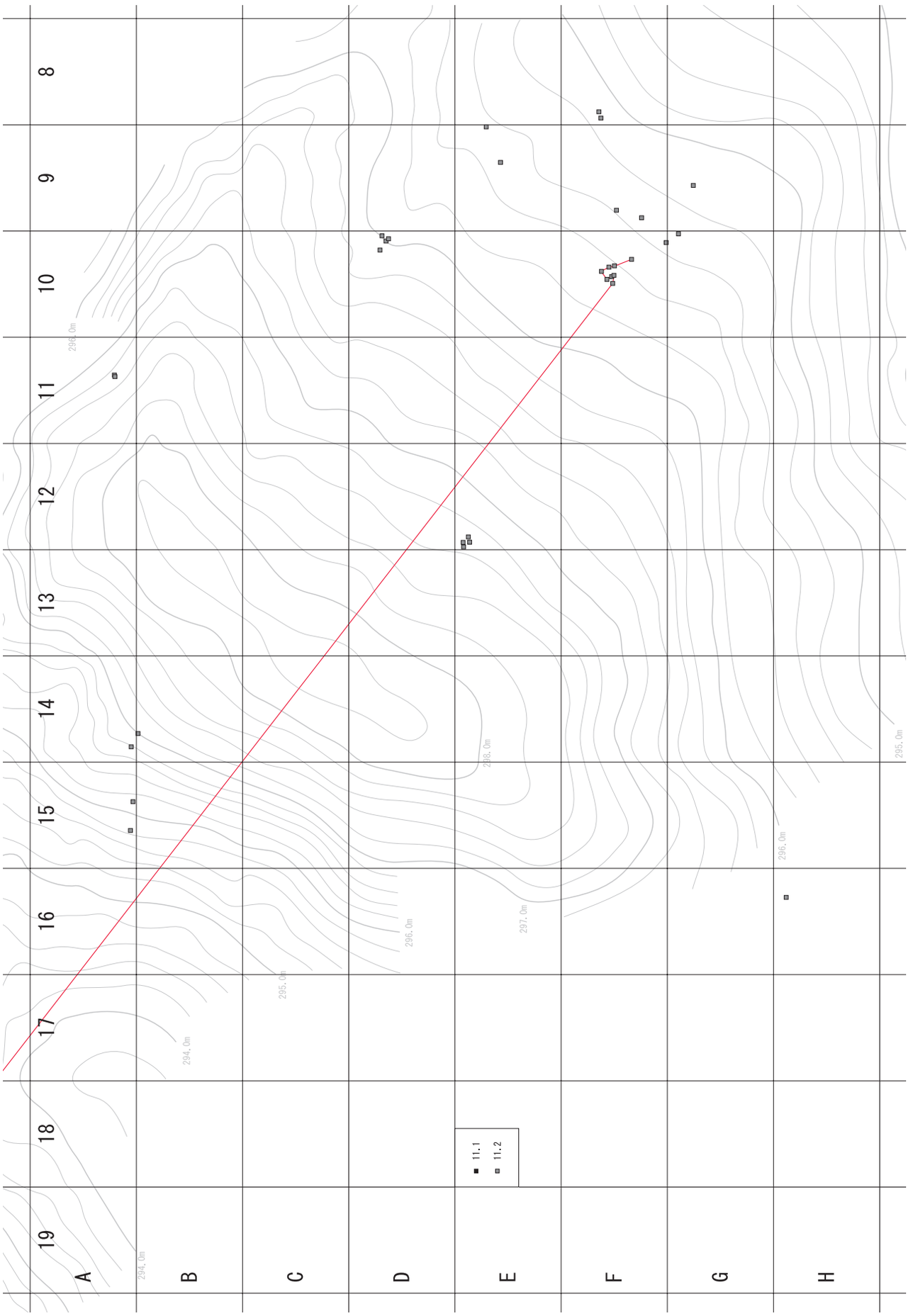
第357図　縄文早期土器分布図57（第10群土器２，1/500）



第358図　縄文早期土器分布図58（第11群土器１，1/500）

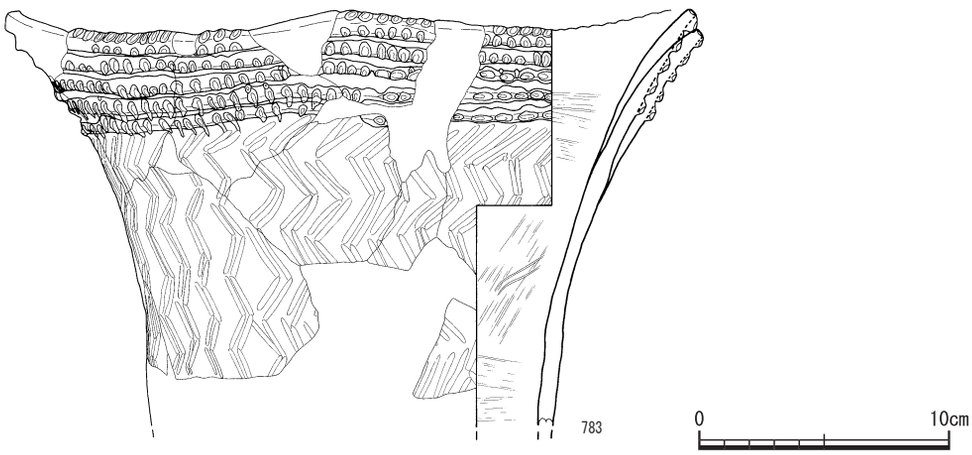


第359図　縄文早期土器分布図59（第11群土器２，1/500）

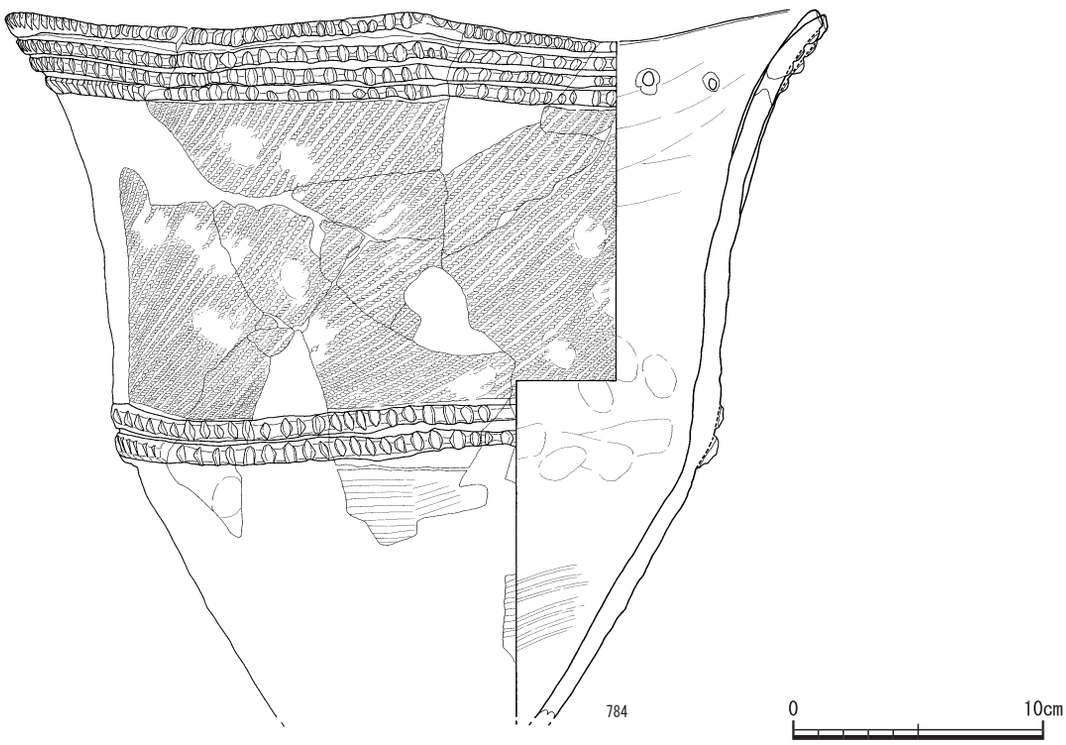


第360図　縄文早期土器分布図60（第11群土器３，1/500）

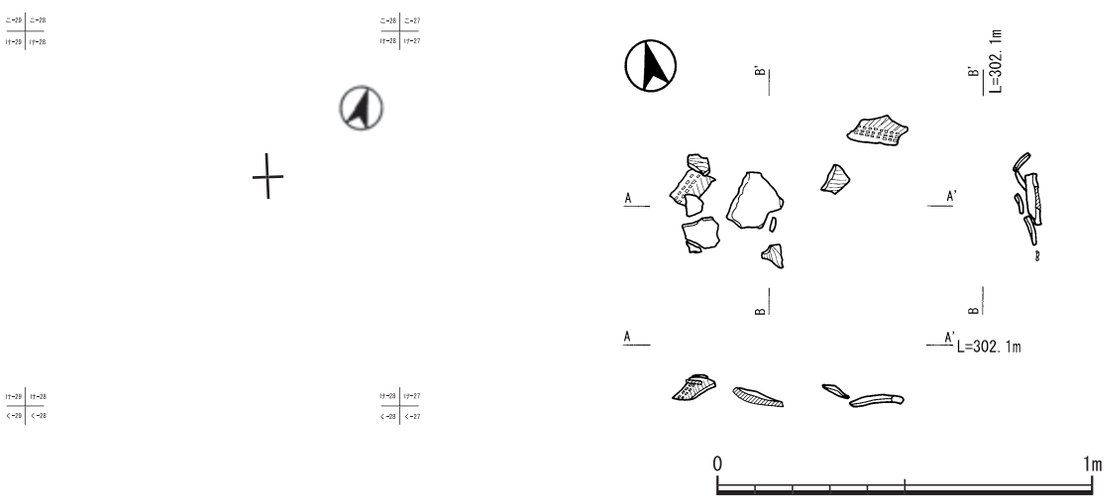
第361図　縄文早期土器分布図61（第11群土器４，1/500）



（9.1群土器/耳取調査区出土）

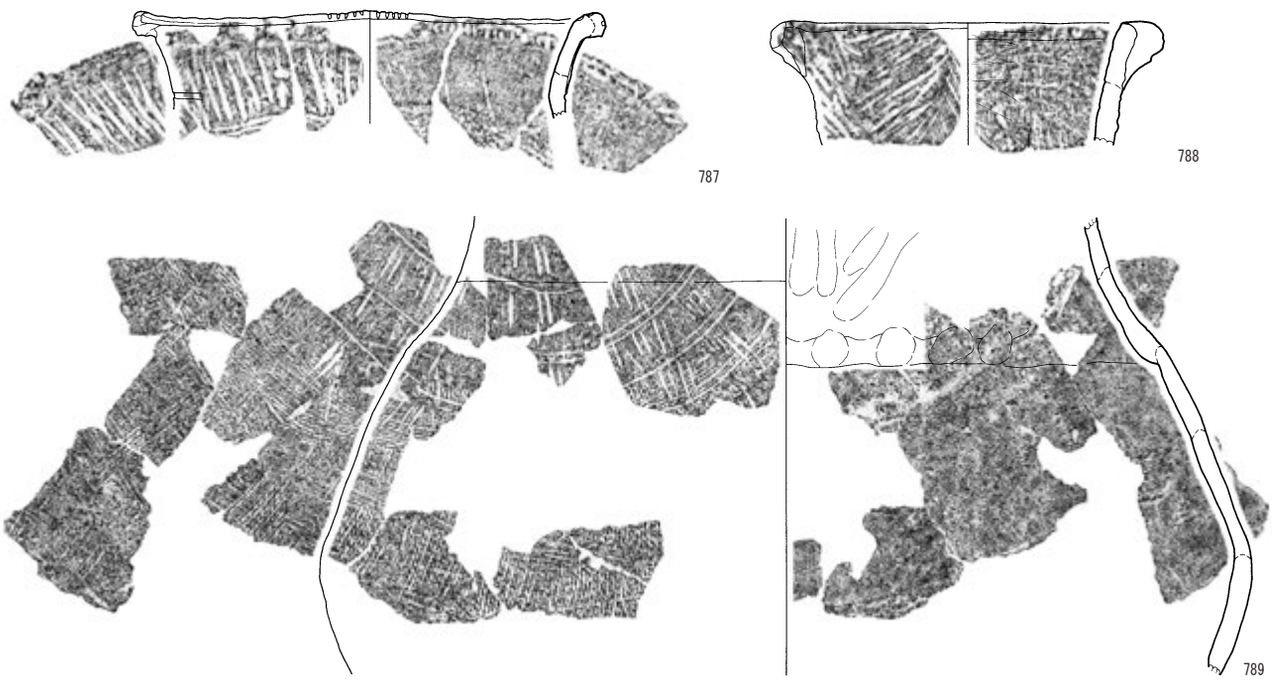


（9.2群土器/桐木調査区出土）

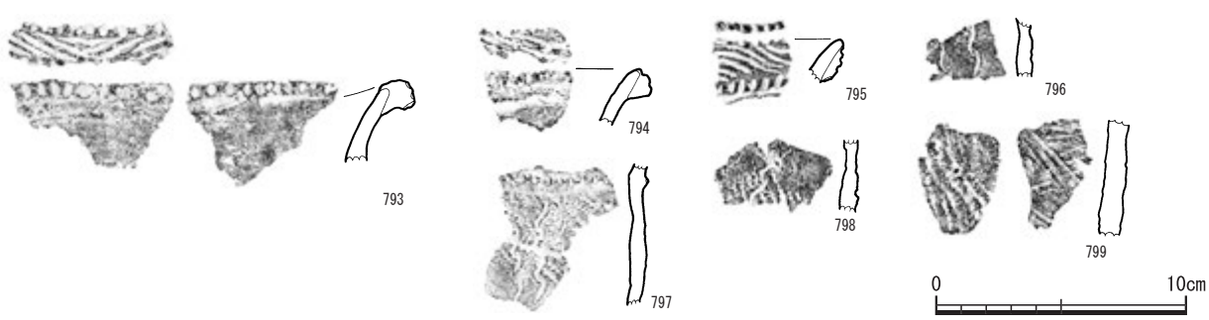


第362図　縄文早期土器実測図（121）（9群土器）/（784）土器出土状況図

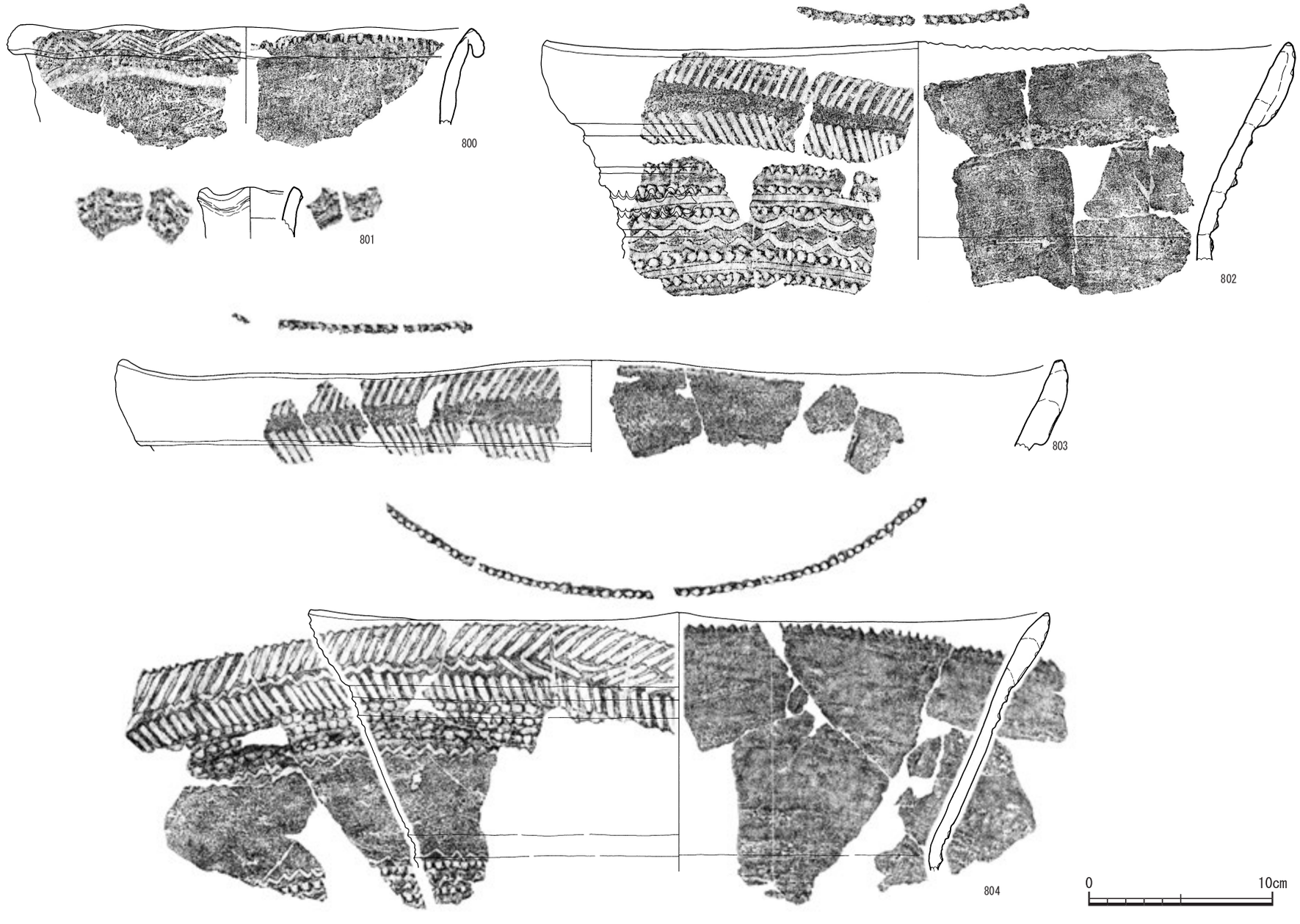
第363図　縄文早期土器実測図（122）（9.2群土器/桐木調査区出土）



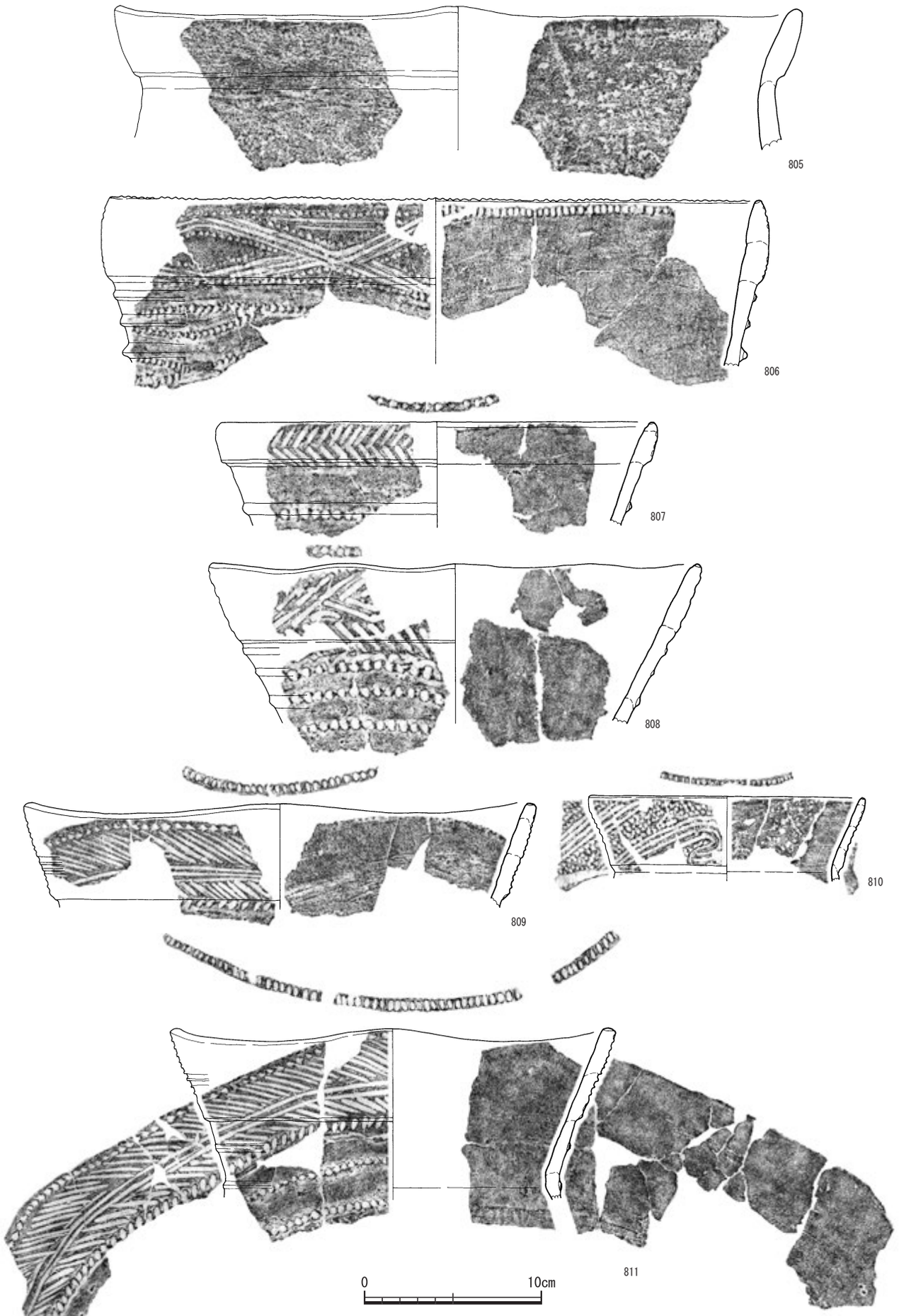
第364図　縄文早期土器実測図（123）（10群土器/桐木調査区出土）



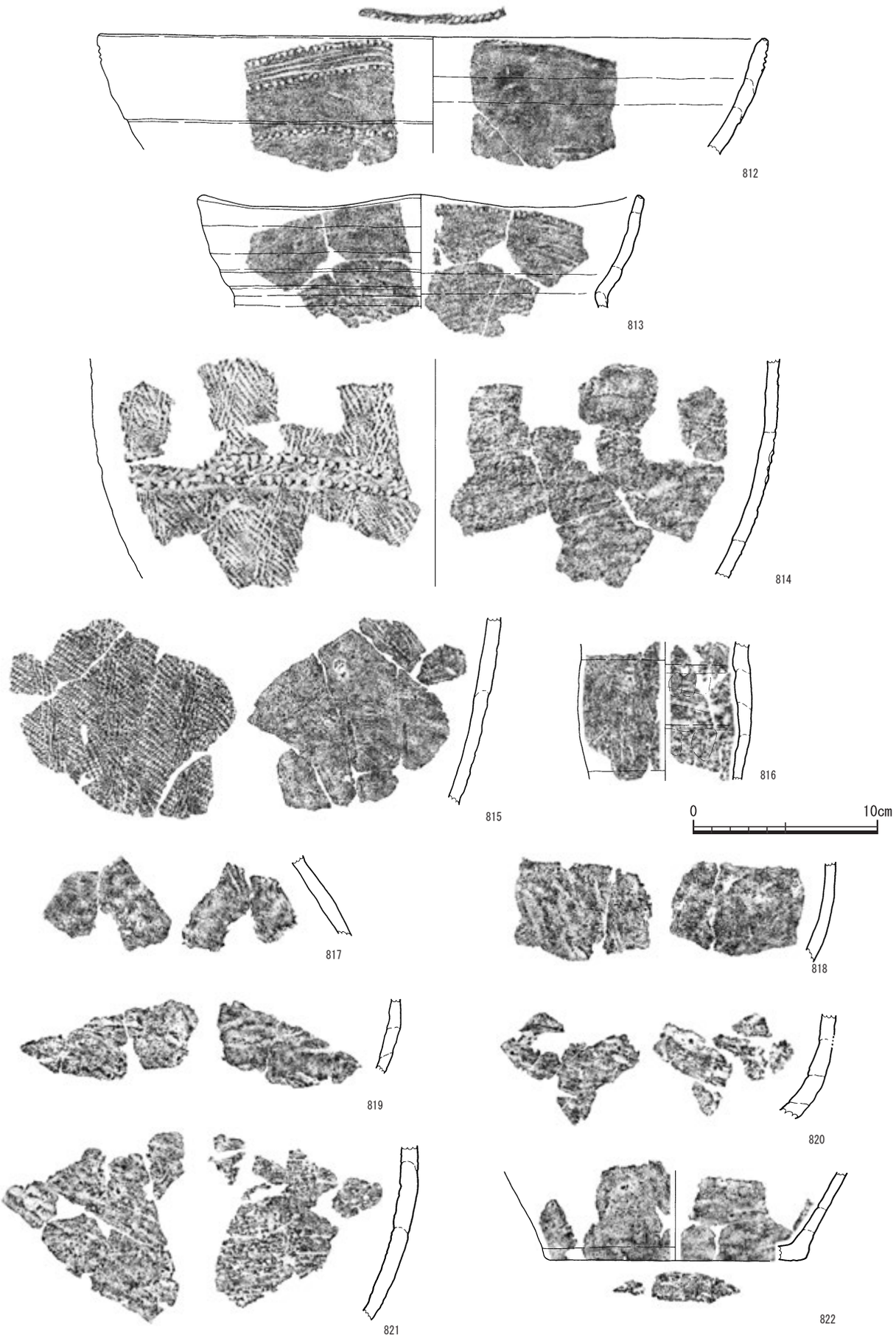
第365図　縄文早期土器実測図（124）（11.1群土器/耳取調査区出土）



第366図　縄文早期土器実測図（125）（11.2群土器/桐木調査区出土）



第367図　縄文早期土器実測図（126）（11.2群土器/桐木調査区出土）



第368図　縄文早期土器実測図（127）（11.2群土器/桐木調査区出土）

第97表　縄文早期土器観察表（55）（９群土器/10類土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
362	783	9.1	▲1890(I-19/Ⅶ) ▲1961(I-19/Ⅶ) ▲1962(I-19/Ⅶ) ▲1963(I-19/Ⅶ) ▲1965(I-19/Ⅶ) ▲1966(I-19/Ⅶ) ▲1967(I-19/Ⅶ) ▲1968(I-19/Ⅶ) ▲1970(I-19/Ⅶ) ▲1971(I-19/Ⅶ) ▲2017(I-19/Ⅶ) ▲2039(I-19/Ⅶ) ▲2040(I-19/Ⅶ) ▲2041(I-19/Ⅶ) ▲2434(I-18/Ⅶ) ▲2521(I-17/Ⅶ) ▲2523(I-17/Ⅶ) ▲2554(I-17/Ⅶ) ▲4605(I-17/Ⅶ) ▲11207(J-18/Ⅶ)	角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	丁寧なナデ	胎土精選
362	784	9.2	●50736(こ-27/Ⅶ) ●50796(こ-28/Ⅶ) ●50798(け-28/Ⅶ) ●50820(け-28/Ⅶ) ●50824(け-28/Ⅶ) ●50826(け-28/Ⅶ) ●50833(け-28/Ⅶ) ●50834(け-28/Ⅶ) ●50835(け-28/Ⅶ) ●50839(け-28/Ⅶ) ●50842(け-28/Ⅶ) ●50843(け-28/Ⅶ) ●50847(け-28/Ⅶ) ●50855(け-28/Ⅶ) ●50865(け-28/Ⅶ) ●50906(こ-27/Ⅶ) ●50915(け-27/Ⅶ) ●50916(け-27/Ⅶ) ●50917(け-27/Ⅶ) ●50918(け-27/Ⅶ) ●51021(け-27/Ⅶ) ●51022(け-27/Ⅶ) ●51127(こ-27/Ⅶ) ●51245(く-27/Ⅶ) ●51246(く-27/Ⅶ) ●51247(く-27/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒,赤粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	外面ヌス付着,補修孔:A:外径13mm,内径5mm,B:外径12mm,内径4mm
363	785	9.2	○66249(G-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
363	786	9.2	○59318(E-8/Ⅶ下) ○60590(G-7/Ⅷ) ○60680(F-8/Ⅷ) ○60682(F-8/Ⅷ) ○63260(H-7/Ⅷ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面ヌス付着
364	787	10	○66249(G-11/Ⅷ) ○66261(G-11/Ⅷ)	角,輝,砂粒	ナデ,ケズリ→ナデ	-	-
364	788	10	◎20533(A-10/Ⅴ)	輝,細粒	横,斜ケズリ→ナデ	-	-
364	789	10	○66030(G-10/Ⅶ下) ○67893(I-13/Ⅷ) ○67895(I-13/Ⅷ) ○67896(I-13/Ⅷ) ○67897(I-13/Ⅷ) ○67898(I-13/Ⅷ) ○67899(I-12/Ⅷ) ○67908(I-13/Ⅷ) ○67909(I-13/Ⅷ) ○67911(I-13/Ⅶ下) ○67912(I-13/Ⅷ) ○67913(I-13/Ⅷ) ○67917(I-13/Ⅷ) ○67918(I-13/Ⅷ) ○67919(I-13/Ⅷ) ○67920(I-13/Ⅷ) ○67921(I-13/Ⅷ) ○67923(I-13/Ⅶ下) ○67924(I-13/Ⅷ) ○67925(I-13/Ⅷ) ○67926(I-13/Ⅷ) ○67926(I-13/Ⅷ) ○67927(I-13/Ⅷ) ○67929(I-13/Ⅶ上) ○67930(I-13/Ⅷ) ○67930(I-13/Ⅷ) ○67932(I-13/Ⅷ) ○67934(I-13/Ⅷ) ○67935(I-13/Ⅷ) ○67936(I-13/Ⅷ) ○67937(I-13/Ⅷ) ○67940(I-13/Ⅷ) ○67941(I-13/Ⅷ) ○67942(I-13/Ⅷ) ○67942(I-13/Ⅷ) ○67953(I-13/Ⅷ上) ○67954(I-13/Ⅶ下) ○67955(I-13/Ⅶ下) ○67957(I-13/Ⅷ) ○67958(I-13/Ⅷ) ○68027(H-13/Ⅷ) ○68029(H-13/Ⅷ) ○68030(H-13/Ⅷ) ○68032(H-13/Ⅷ) ○68033(H-13/Ⅷ) ○68034(H-13/Ⅷ) ○68035(H-13/Ⅷ) ○68036(H-13/Ⅷ) ○68038(H-13/Ⅷ) ○68039(H-13/Ⅷ) ○68040(H-13/Ⅷ) ○68045(H-14/Ⅷ) ○68065(H-13/Ⅷ)	黒,砂粒	ハケナデ→指頭痕	-	混和材:黒雲母,器壁の厚さが特に薄い

第98表　縄文早期土器観察表（56）（10群土器-２/11類土器-１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
364	790	10	●50700(こ-27/Ⅶ) ●50706(こ-27/Ⅶ)	輝,細粒	ナデ	-	-
364	791	10	●50714(こ-27/Ⅶ) ●51136(こ-25/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	ナデ	-
364	792	10	○66249(G-11/Ⅷ) ○66309(G-11/Ⅷ) ○66783(G-11/Ⅷ)	角,砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	-
365	793	11.1	▲11166(J-18/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
365	794	11.1	▲2392(I-18/Ⅵa)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
365	795	11.1	▲3679(H-12/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	-
365	796	11.1	▲1943(I-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	丁寧なナデ	-	-
365	797	11.1	▲2022(I-19/Ⅵa) ▲2449(I-19/Ⅶ)	角,輝,微粒	丁寧なナデ	-	-
365	798	11.1	▲1947(I-19/Ⅶ) ▲2144(I-19/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	胎土精選
365	799	11.1	▲16163(K-8/Ⅵa) ▲18182(J-8/Ⅶ)	輝,雲,微粒	斜貝殻条痕→ナデ	-	胎土精選
366	800	11.2	●2176(す-33/Ⅶ) ○2T一括(-/-)	黒,細粒	工具ハケナデ	-	混和材:黒雲母
366	801	11.2	○56769(A-11/Ⅶ横転) ○57661(A-11/Ⅶ)	角,細粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ,横ハケ→ナデ	-
366	802	11.2	○34900(E-12/Ⅶ) ○34901(E-12/Ⅶ) ○34904(E-12/Ⅶ) ○53275(E-12/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	ヘラナデ	混和材:角閃石
366	803	11.2	◎19038(け-26/Ⅵa) ●6976(い-20/Ⅶ上) ●50472(こ-29/Ⅶ) ●51383(さ-30/Ⅶ)	輝,角,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
366	804	11.2	●1641(え-20/Ⅶ) ●1642(え-20/Ⅶ) ●1643(え-20/Ⅶ) ●1643(え-20/Ⅶ) ●6919(う-20/Ⅶ) ●6923(う-20/Ⅶ) ●6929(え-20/Ⅶ) ●6937(え-20/Ⅶ) ●6940(え-20/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ヘラ丁寧なナデ	-	外面化粧土塗布
867	805	11.2	○51682(H-16/Ⅲb)	角,輝,砂粒	横ケズリ→ナデ	横ハケナデ	-
867	806	11.2	●1665(え-20/Ⅶ) ●7069(え-20/Ⅶ) ●7075(え-20/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ,ケズリ→丁寧なナデ	-	-
867	807	11.2	○35743(D-10/Ⅵ下) ○36689(D-10/Ⅵ)	角,細粒	ナデ	ヘラナデ	-
867	808	11.2	○55196(G-10/Ⅶ) ○55209(G-9/Ⅶ) ○65921(F-10/Ⅶ上)	輝,細粒	丁寧なナデ,斜ハケナデ	横ハケナデ	-
867	809	11.2	○50824(A-14/Ⅷ) ○50825(B-14/Ⅷ) ○53662(A-15/Ⅶ)	角,細粒	丁寧なナデ,ハケナデ	-	-
867	810	11.2	○35289(E-9/Ⅶ下) ○59385(E-9/Ⅶ下) ○65109(F-8/Ⅶ) ○65775(F-8/Ⅶ上)	角,細粒	横ハケ→ナデ	横ケズリ	-
867	811	11.2	○50840(A-15/Ⅷ)	角,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
868	812	11.2	○60306(G-3/Ⅷ) ○60307(G-3/Ⅷ)	輝,細粒	横ケズリ→ナデ	横ケズリ	-
868	813	11.2	○60901(H-7/Ⅷ) ○60903(H-7/Ⅷ) ○60905(H-7/Ⅷ上) ○60906(H-7/Ⅷ上)	角,輝	横ケズリ→ナデ	横ハケ→ナデ	無文土器
868	814	11.2	●6851(う-20/Ⅶ) ●6858(う-20/Ⅶ) ○65190(F-10/Ⅶ) ○65953(F-10/Ⅶ下) ○65954(F-10/Ⅶ下) ○65957(F-10/Ⅶ下) ○65958(F-10/Ⅶ下) ○65959(F-10/Ⅶ下) ○65960(F-10/Ⅶ下) ○65961(F-10/Ⅶ下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
868	815	11.2	●6842(う-20/Ⅶ) ●6914(う-20/Ⅶ) ●7125(う-21/Ⅶ)	角,輝,細粒	丁寧なナデ	-	化粧土塗布
868	816	11.2	●6934(え-20/Ⅶ) ●6984(い-20/Ⅶ上) ●7139(い-19/Ⅶ)	輝,細粒,白粒	工具ナデ	工具ナデ	内面ヌス付着
868	817	11.2	●9270(き-24/Ⅶ) ●51201(く-25/Ⅶ)	角,細粒	縦ケズリ→横ハケナデ	ハケナデ	-
868	818	11.2	●9274(く-24/Ⅶ) ●9275(き-24/Ⅶ)	角,雲	横ハケナデ	ナデ	-
868	819	11.2	●51194(く-25/Ⅶ) ●51196(く-25/Ⅶ) ●51202(く-25/Ⅶ)	角,細粒	横ナデ	ナデ	混和材:角閃石
868	820	11.2	●9350(か-23/Ⅶ) ●9351(か-23/Ⅶ)	黒,細粒,赤粒	横ケズリ,粗いナデ	-	外面ヌス付着
868	821	11.2	●9352(か-23/Ⅶ) ●9358(か-23/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒白粒	横ケズリ	ナデ	外面ヌス付着
868	822	11.2	●51193(く-25/Ⅶ) ●51217(く-25/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-

802)である。第２種は，口縁部下を削ること(第366図803・804，第367図805～807)や，口縁部と頸部との境に横位方向の刻目突帯を巡らすことで，「見かけの肥厚帯」を作出する土器(第367図808～811，第368図812・812)である。

胴部形態は中央部が緩やかに膨らむ直立した形態を呈することが挙げられる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯には沈線文と刺突連点文とで文様を構成し，山形文や波状文や折帯文や曲線文などを施す土器や，棒状工具により羽状文を施す土器と，文様を施さずに無文にする土器(第367図805，第368図813)とがあることが指摘できる。また頸部文様帯には，横位方向に刻目突帯を数条巡らすだけの土器や，数条巡らした刻目突帯間に波状沈線文を施す土器などに分類できる。

胴部文様帯には縦位方向に結節縄文を施す。本遺跡で出土した施文原体は，２段左撚(ＬＲ)の原体で施文する土器が主体を占めていることを指摘できる。

ここで注目できるのは，無文土器が出土していることである(第368図817～822)。出土点数が少ないために，全体器形は不明である。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区から桐木調査区西側地区にかけて，特に桐木調査区Ａ～Ｈ-７～15区からい～さ-20～29区周辺で部分的に出土していること(第353図・第358～361図参照)が指摘できる。

第12群土器(第377～397図823～925)

第12群土器に属する土器を103点資料化した。

本群に属する土器は，層位的には主にⅦ層を中心に出土しているが，より下層のⅧ層や，上層のⅥ層やⅤ層からも出土していることから，地層の横転や後世の撹乱が激しかった区域があることが認められる。

第12群土器に属する土器は，その器形的特徴および施文的特徴の違いから，河口編年に基づき３類５種に分類した。

第12群土器第１類土器(分類記号12.1，第377～378図823～832)

器形的特徴として，口縁形態は，波状口縁を呈する土器(第377・378図823・824・828～832)が主体であり，なかには平口縁を呈する土器(第378図825・826)もあることが挙げられる。また，口縁部は内弯状に外反しながら中程でさらに屈曲する，いわゆる「二重口縁」を呈し，口唇部上端に平坦面を形成するのが特徴である。頸部から口縁部にかけてラッパ状に屈曲する。胴部上半から底部にかけては，接合資料が無く，詳細は不明である。

ここで注目できるのは，口縁屈曲部形態である。屈曲部外面では明瞭な稜線を呈し，屈曲部内面では稜線は不明瞭となる土器が多くみられることである。なかには，屈曲部内外面共に明瞭な稜線を呈する土器(第377図823)もみられる。

施文的特徴としては，口唇平坦面に斜位方向あるいは縦位方向の刻みを施し，口縁部文様帯には沈線文と刺突連点文とで直線文や山形文，曲線文などの文様を構成することを指摘できる。また，口縁屈曲部には１条から２条の刻目微隆帯文が巡る特徴が挙げられる。ところで口唇内面端部では，波頂部に縦位方向もしくは弧状に沈線文を施すのが特徴となる。

本類土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向もしくは斜位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。

本類土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石などで構成される土器と，角閃石と輝石で構成されている土器に黒雲母を加える土器がみられた。また，細かい粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，粗い粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物の粒度がさらに精選された土器も見受けられた。

ここで注目できるのは，本類土器の調整方法や胎土中鉱物の特徴は，第11群土器の特徴と酷似していることであり，土器製作技法状の近縁性が指摘できる。

さて，出土分布図からは，耳取調査区中央地区のうち，特に耳取調査区Ｊ-10～12区周辺で部分的に出土していること(第369図・第372～376図参照)が指摘できる。この地区を主な分布域にする土器群は珍しく，また第11群土器の主な分布域とも，第12群土器の他の類に属する土器群の主な分布域とも異なり特異的であることが，注目できる。

第12群土器第２類土器(分類記号12.2，第379～389図833～880)

第12群土器に属する土器のうち，撚糸文を施文具として文様を構成する土器を本類に分類した。河口編年に基づき，(網目)撚糸文をそのまま施す第１種土器と，(網目)撚糸文を枠線で囲んで文様を構成する第２種土器とに細別を行った。

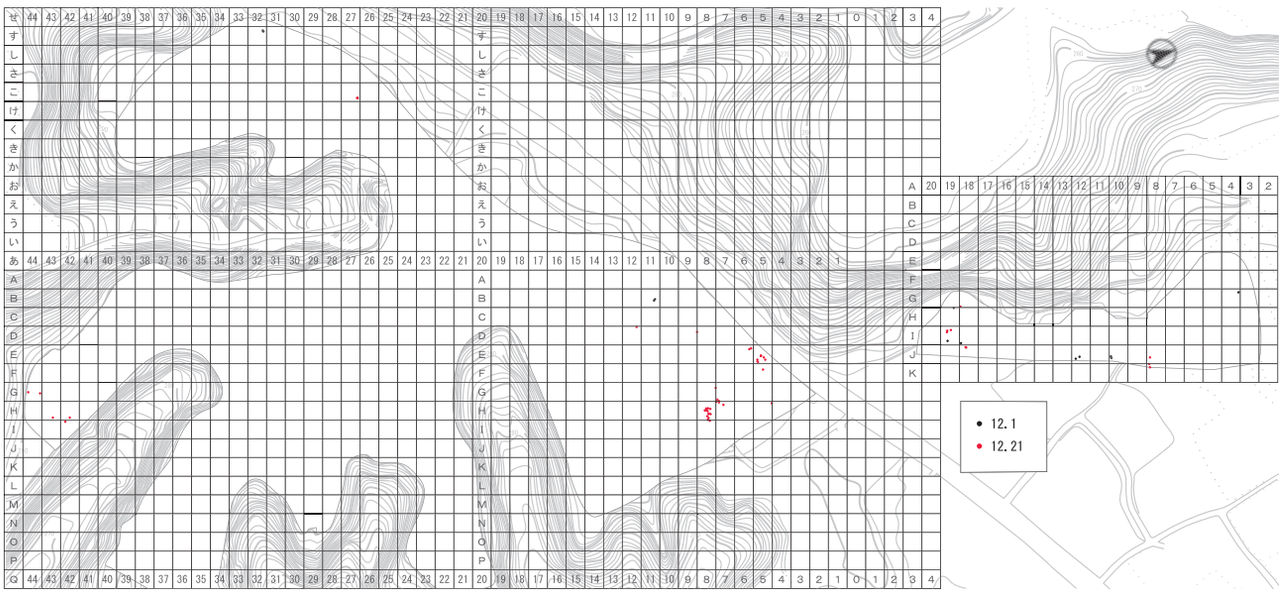
第12群土器第２類土器第１種土器(分類記号12.21，第379～381図833～850)

本種に属する出土土器には，深鉢形土器と壺形土器とがある。深鉢形土器の器形的特徴として，口縁形態は，波状口縁を呈する土器(第379図833・834)と，平口縁を呈する土器(第379図835・836，第381図849)とを挙げることができる。

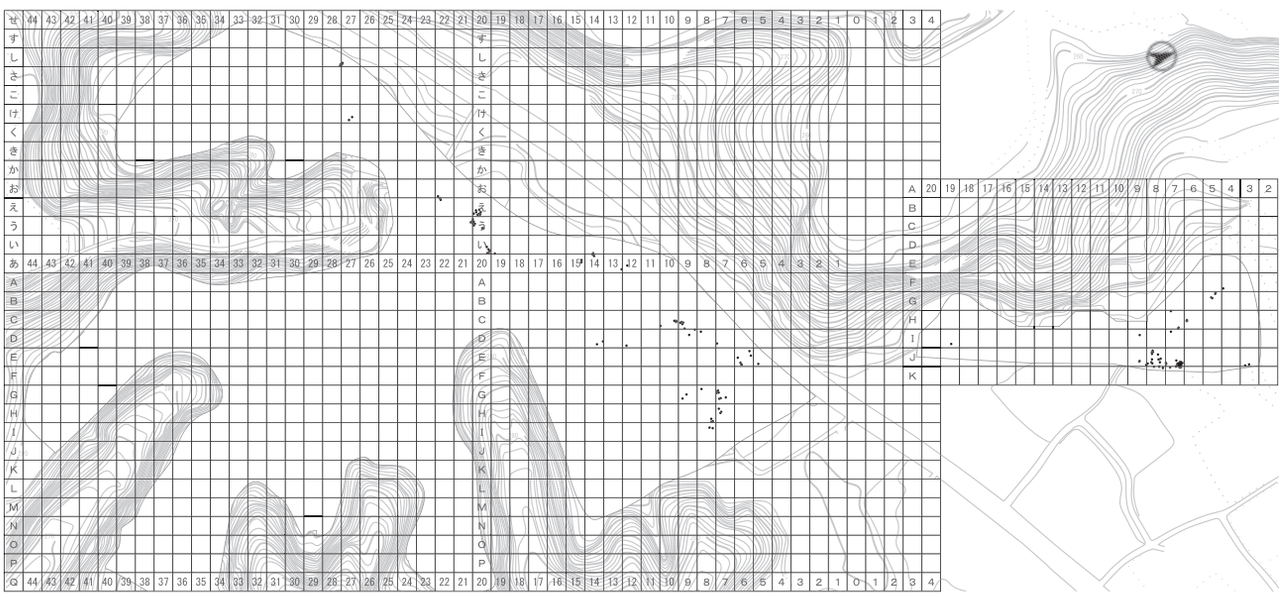
胴部から口縁部にかけてラッパ状に開く口縁部形態には，直線的になる土器(第379図833)と，わずかに内弯形態を呈する土器(第379図834～836，第381図849)が指摘できる。

さらに，口縁部内面と胴部内面との境には明瞭な稜線を形成(第380図8837・838・840・841)し，胴部形態は円筒形を呈し，底部は上げ底(第380図844)となる特徴を挙げることができる。

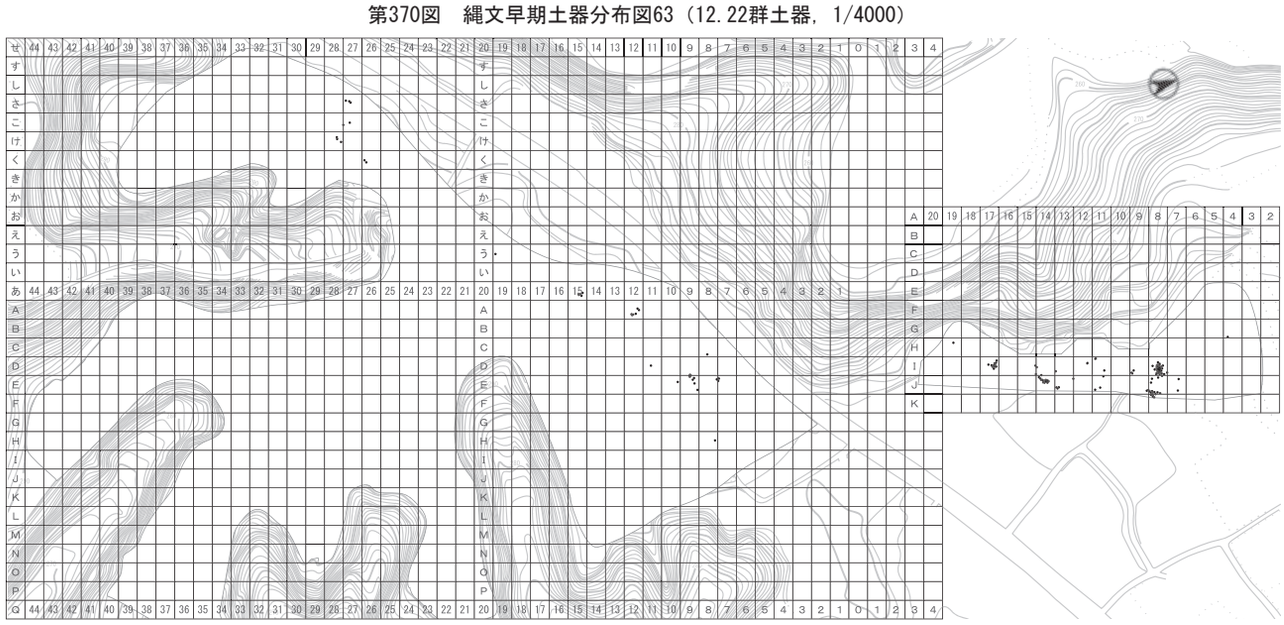
施文的特徴としては，口唇部文様帯には斜位方向あるいは縦位方向の刻みを施し，中には羽状文を構成する土器(第379図833)もみられる。また口縁部文様帯には，沈線文や刺突連



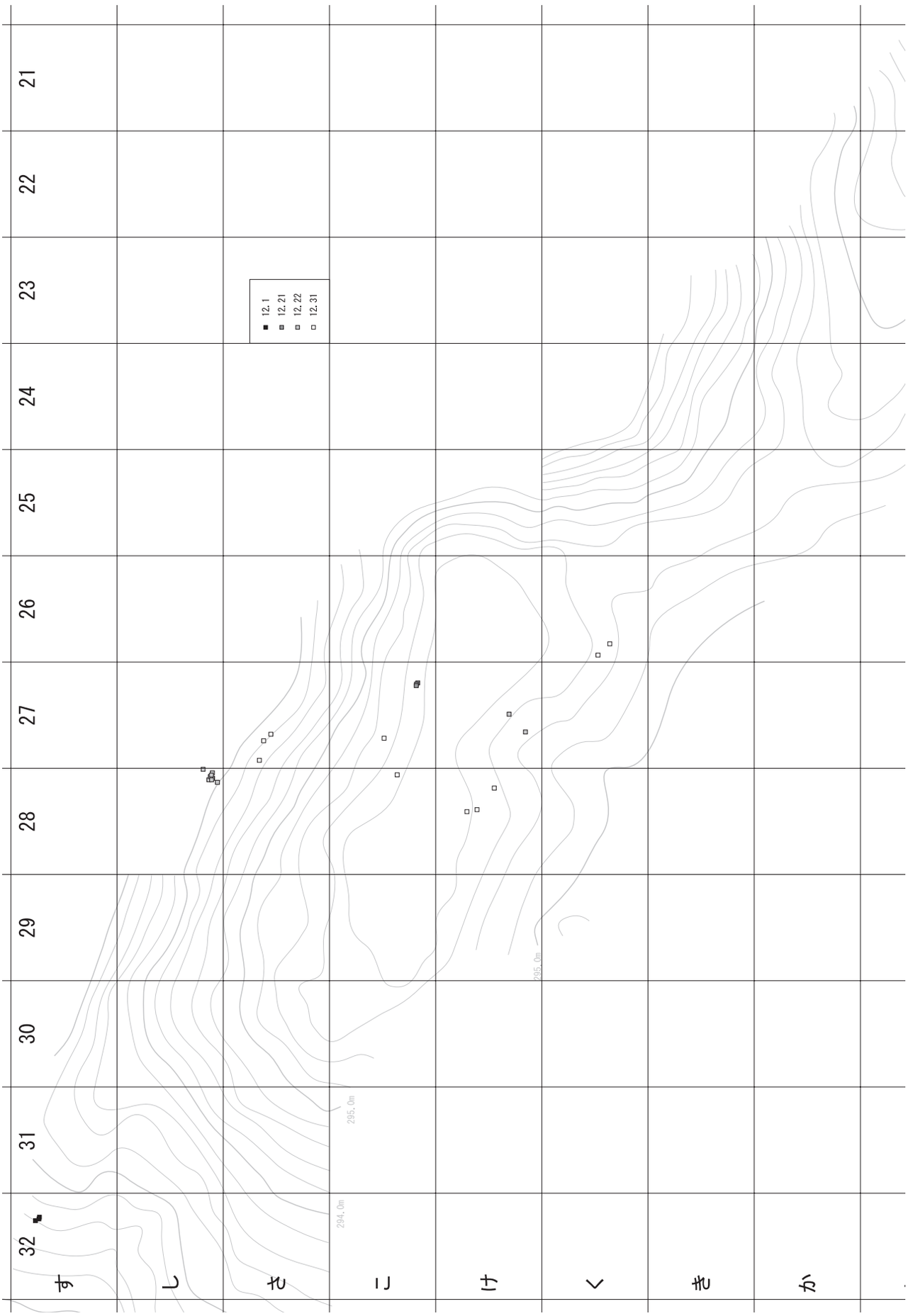
第369図　縄文早期土器分布図62（12.1群土器/12.21群土器，1/4000）



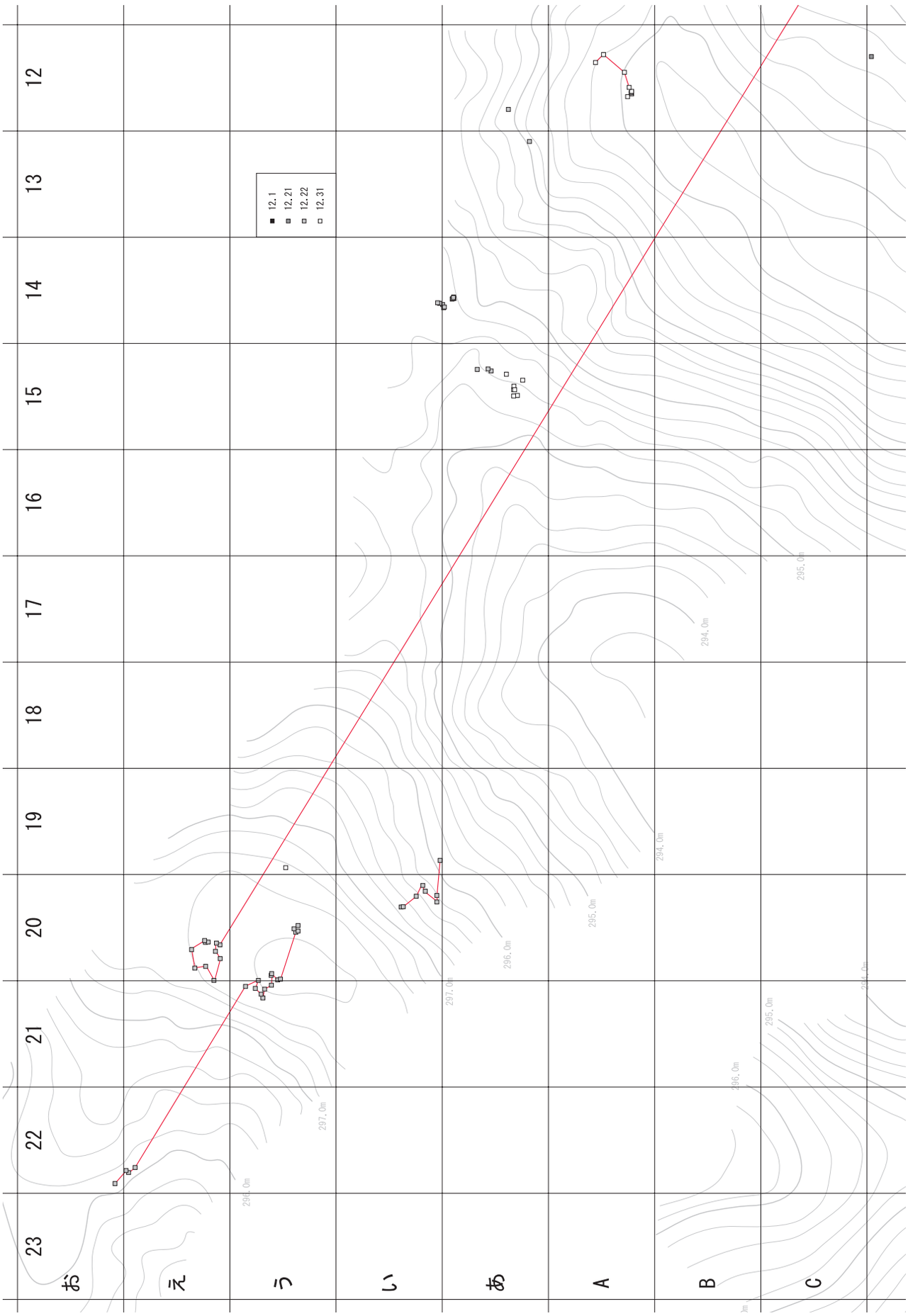
第370図　縄文早期土器分布図63（12.22群土器，1/4000）



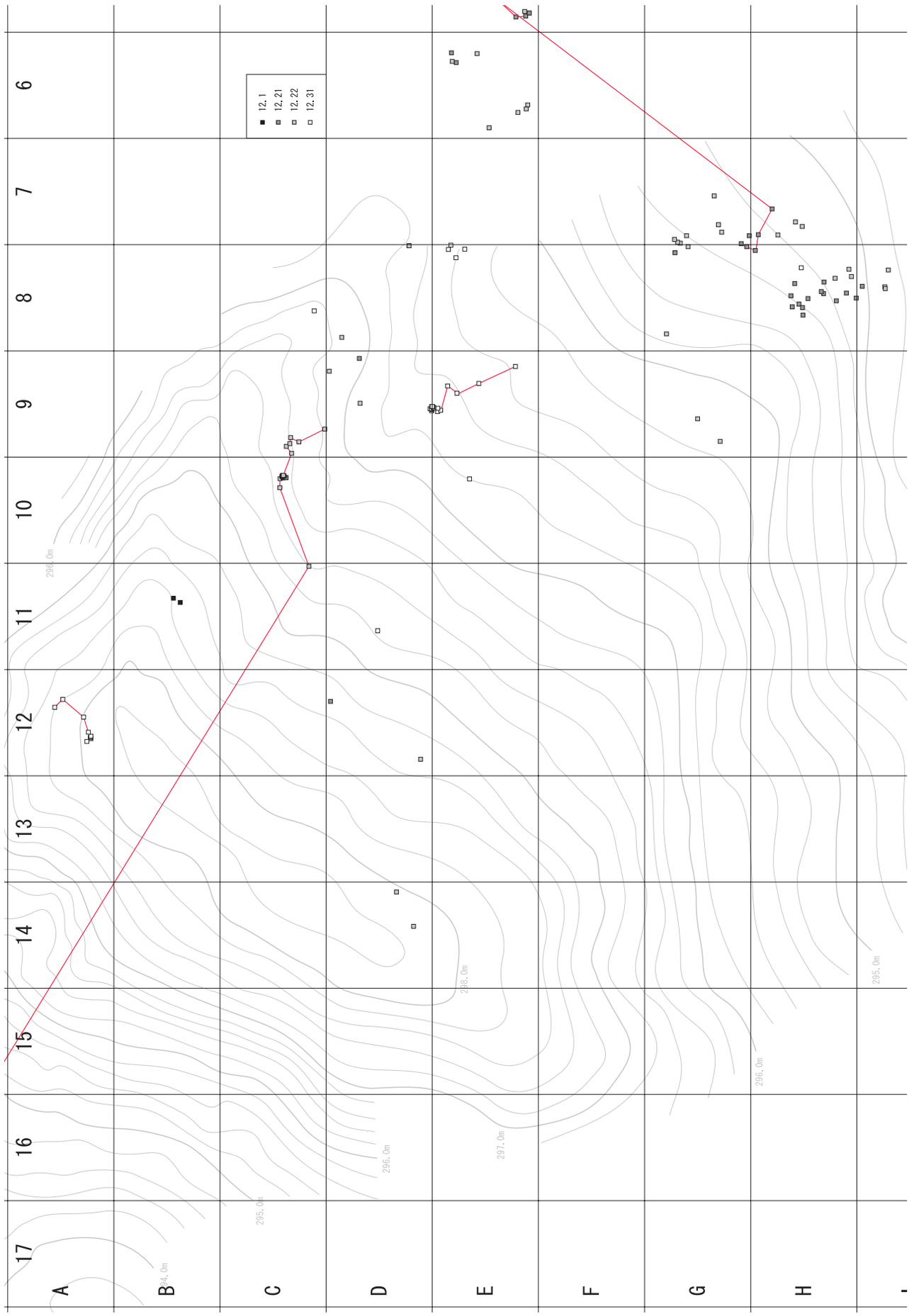
第371図　縄文早期土器分布図64（12.31群土器，1/4000）



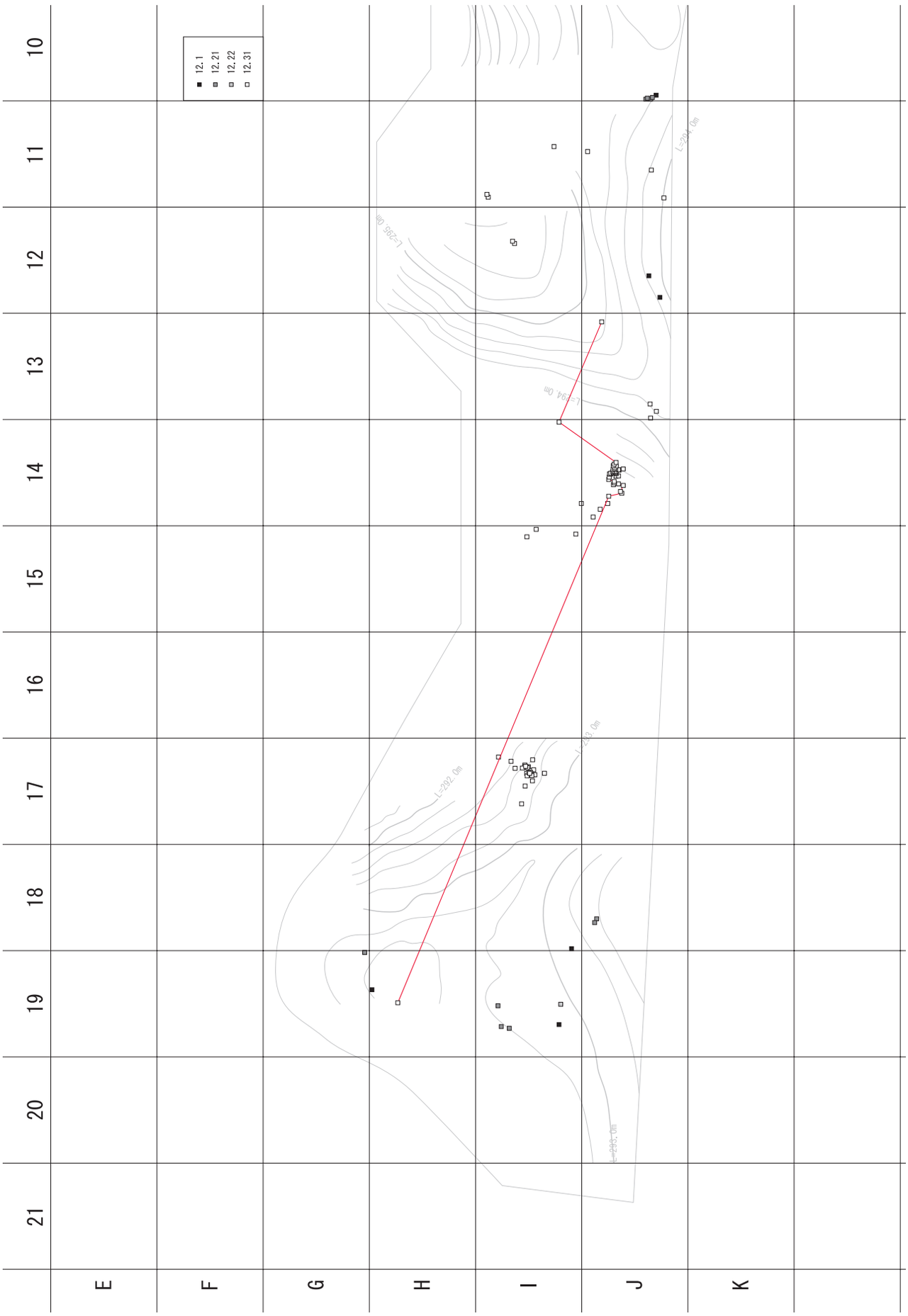
第372図　縄文早期土器分布図65（第12群土器１，1/500）



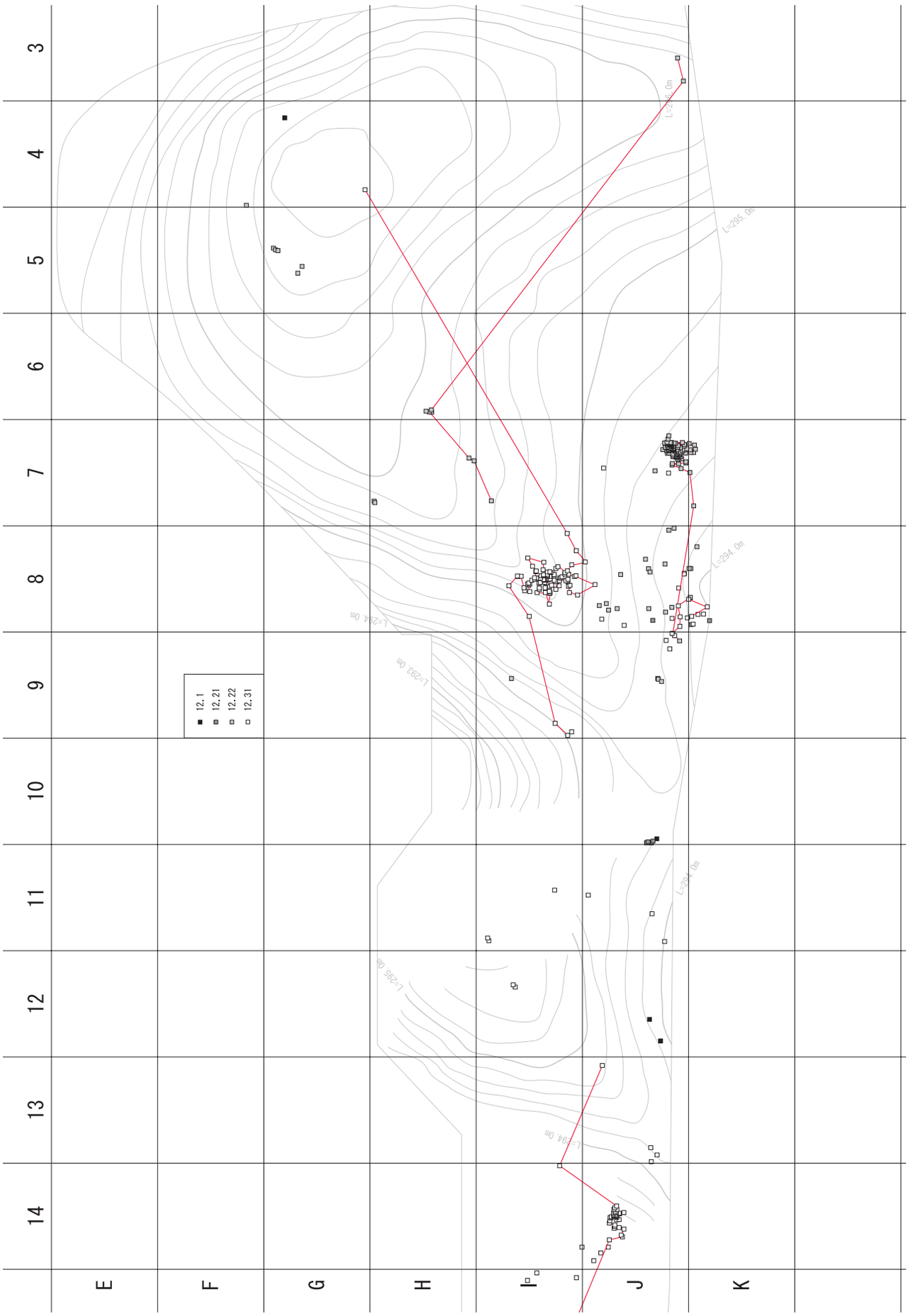
第373図　縄文早期土器分布図66（第12群土器２，1/500）



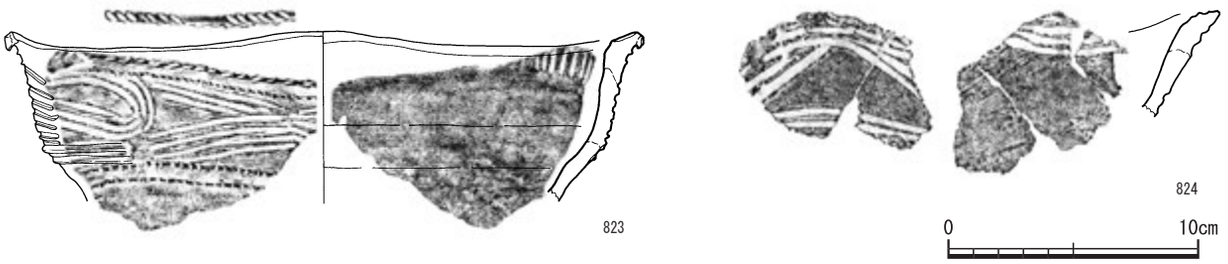
第374図　縄文早期土器分布図67（第12群土器３，1/500）



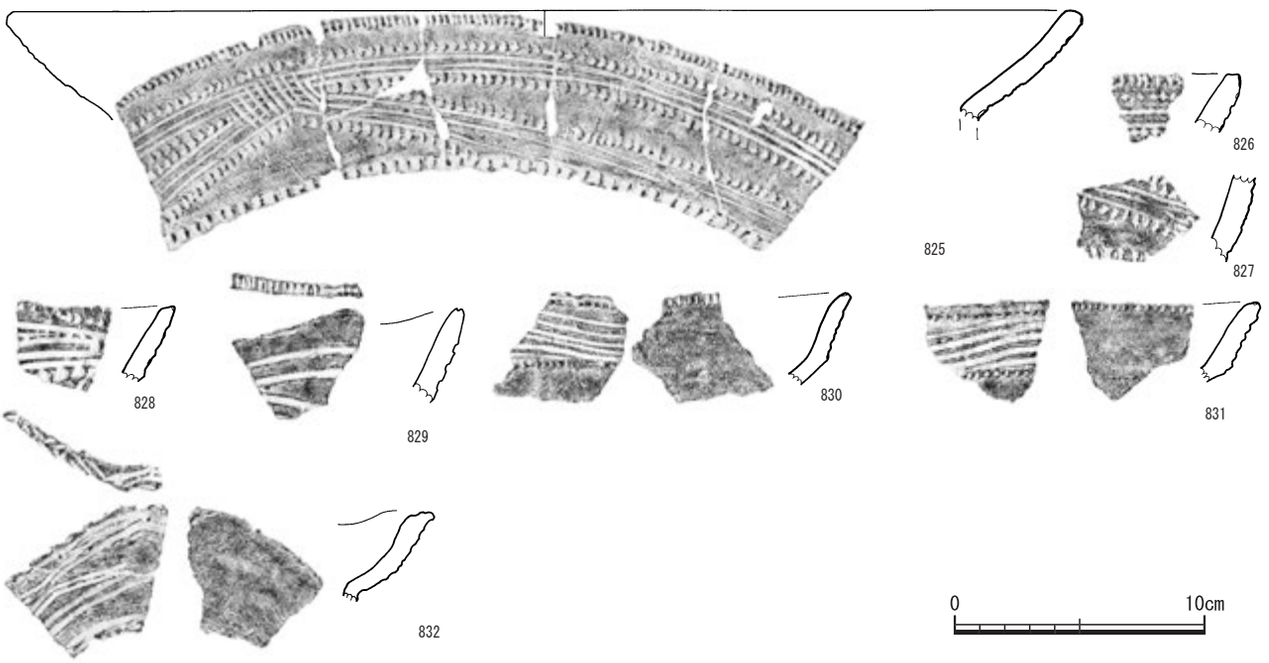
第375図　縄文早期土器分布図68（第12群土器４，1/500）



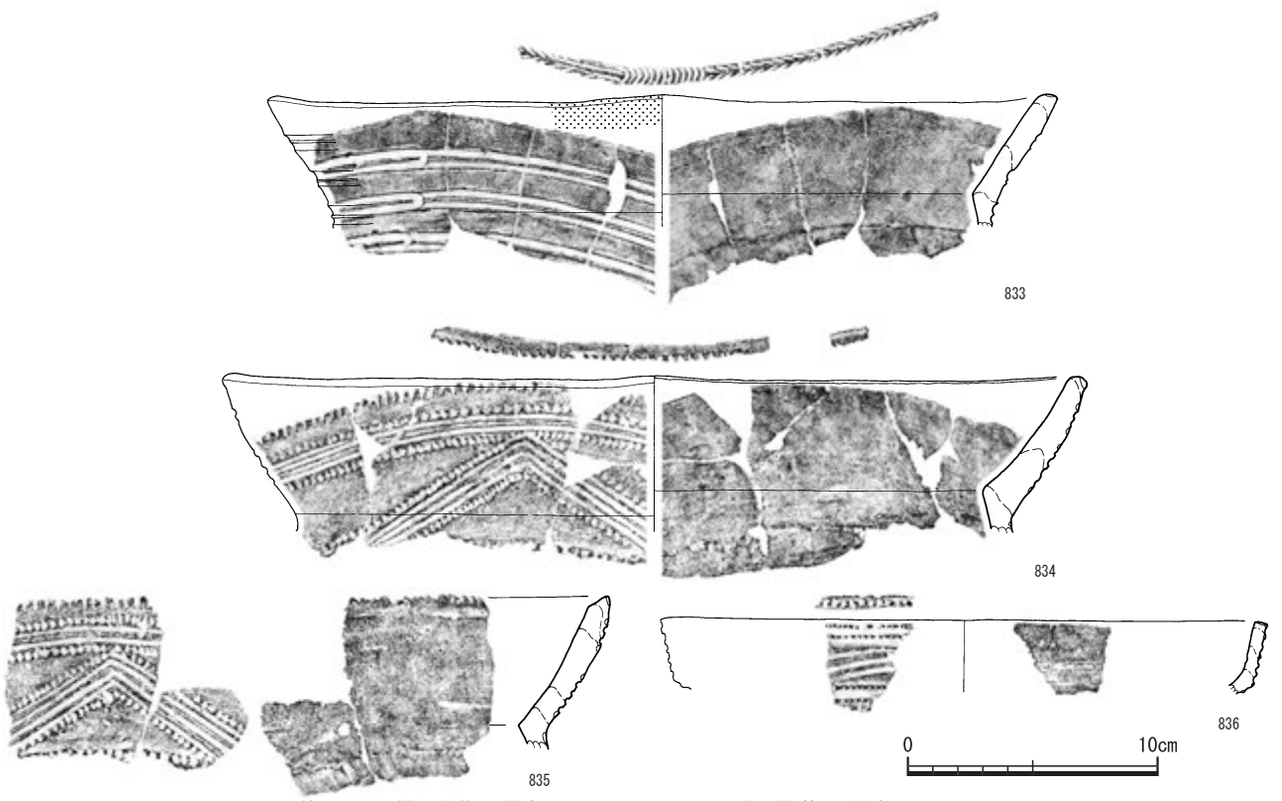
第376図　縄文早期土器分布図69（第12群土器５，1/500）



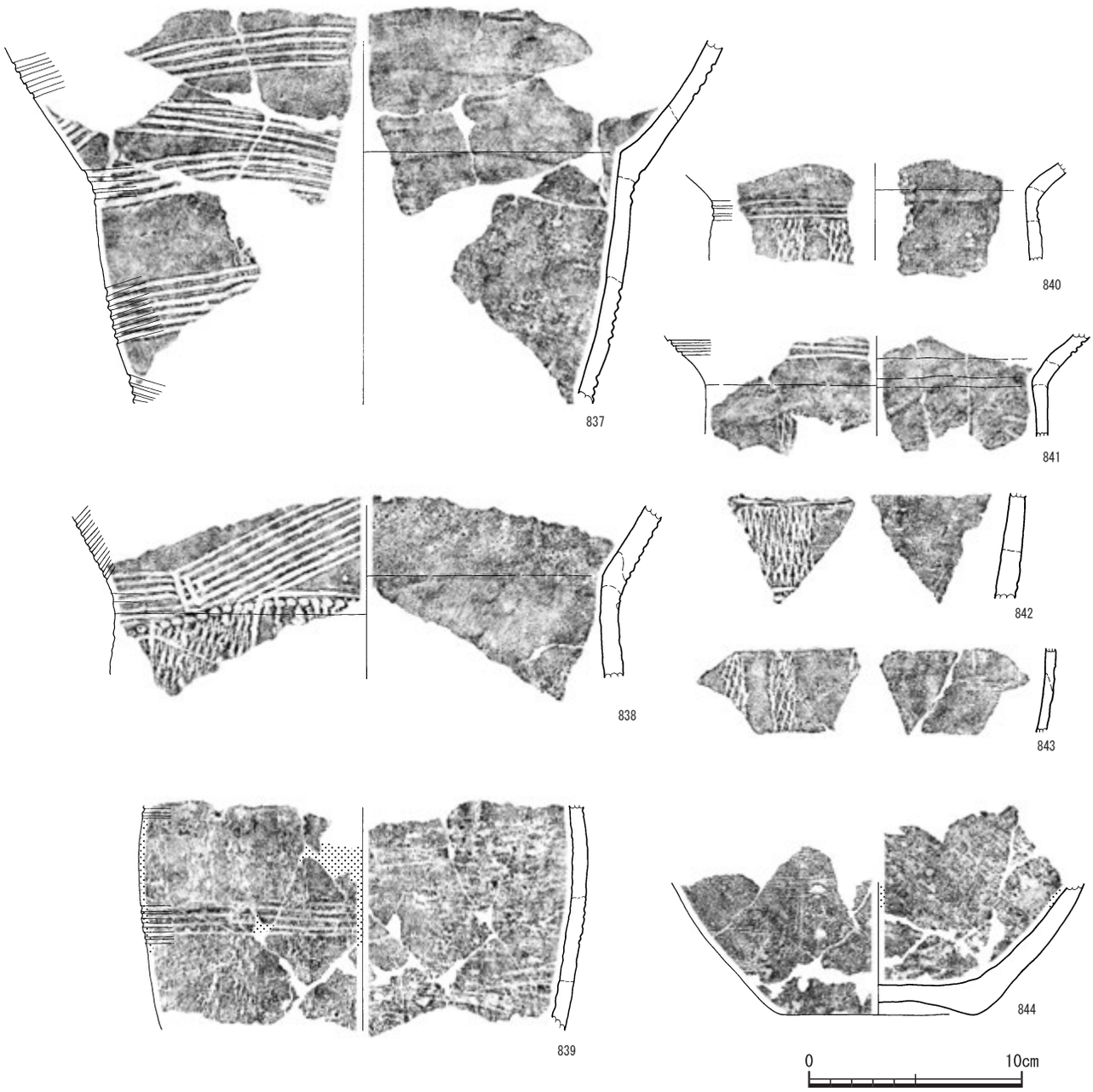
第377図　縄文早期土器実測図（128）（12.1群土器/桐木調査区出土）



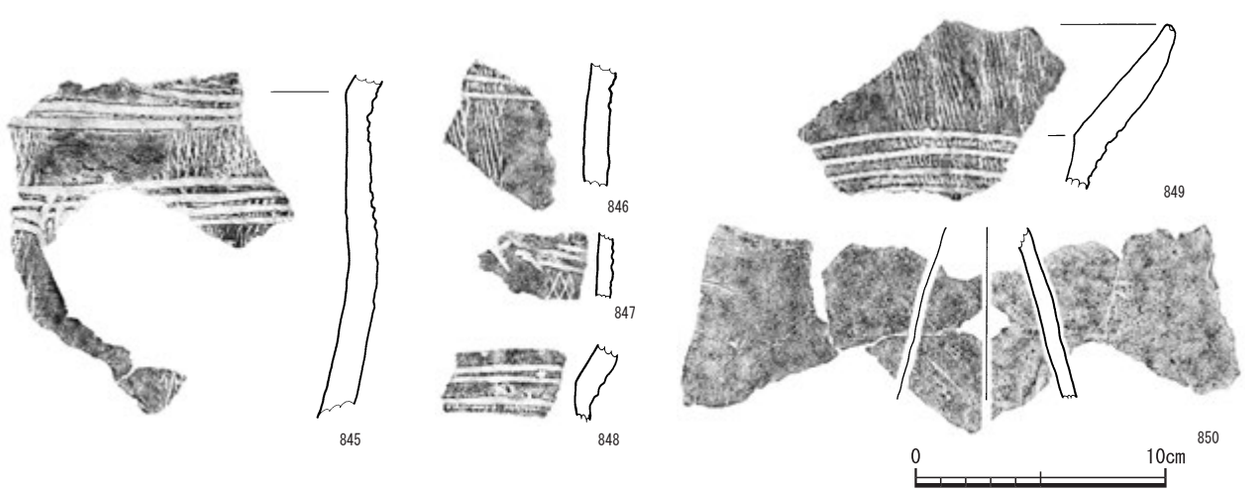
第378図　縄文早期土器実測図（129）（12.1群土器/耳取調査区出土）



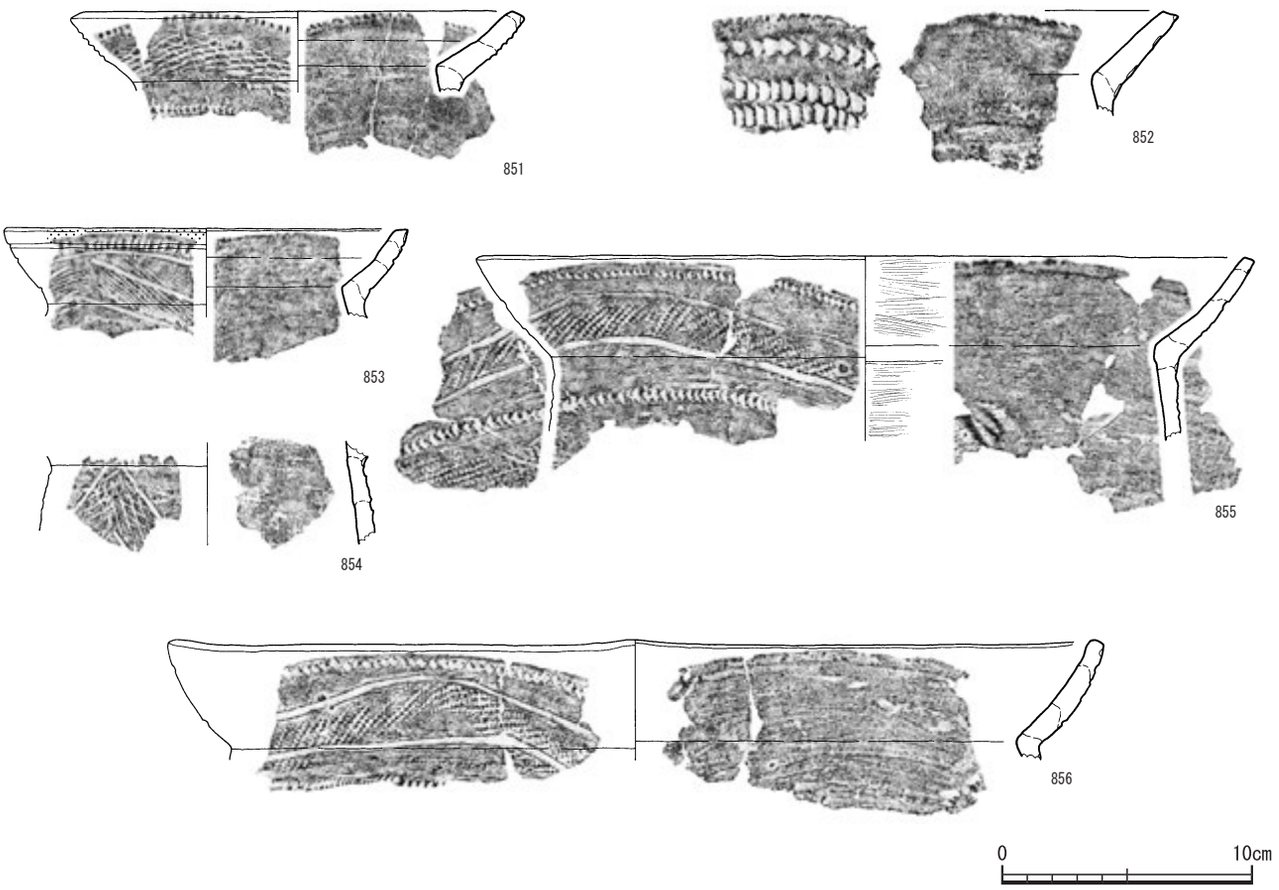
第379図　縄文早期土器実測図（130）（12.21群土器/桐木調査区出土）



第380図　縄文早期土器実測図（131）（12.21群土器/桐木調査区出土）



第381図　縄文早期土器実測図（132）（12.21群土器/耳取調査区出土）



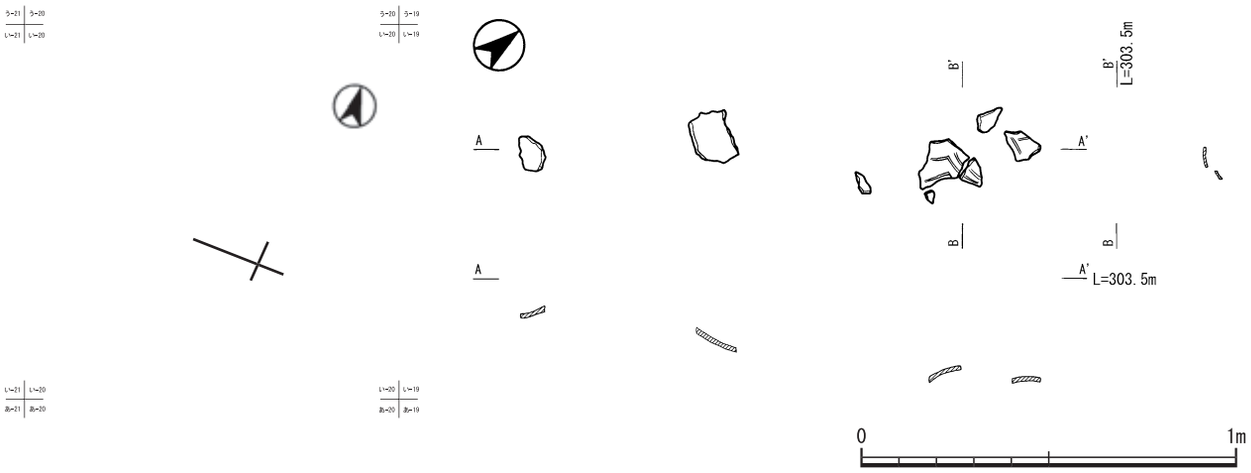
第382図　縄文早期土器実測図（133）（12.22群土器/桐木調査区出土）

第99表　縄文早期土器観察表（57）（12群土器-１）

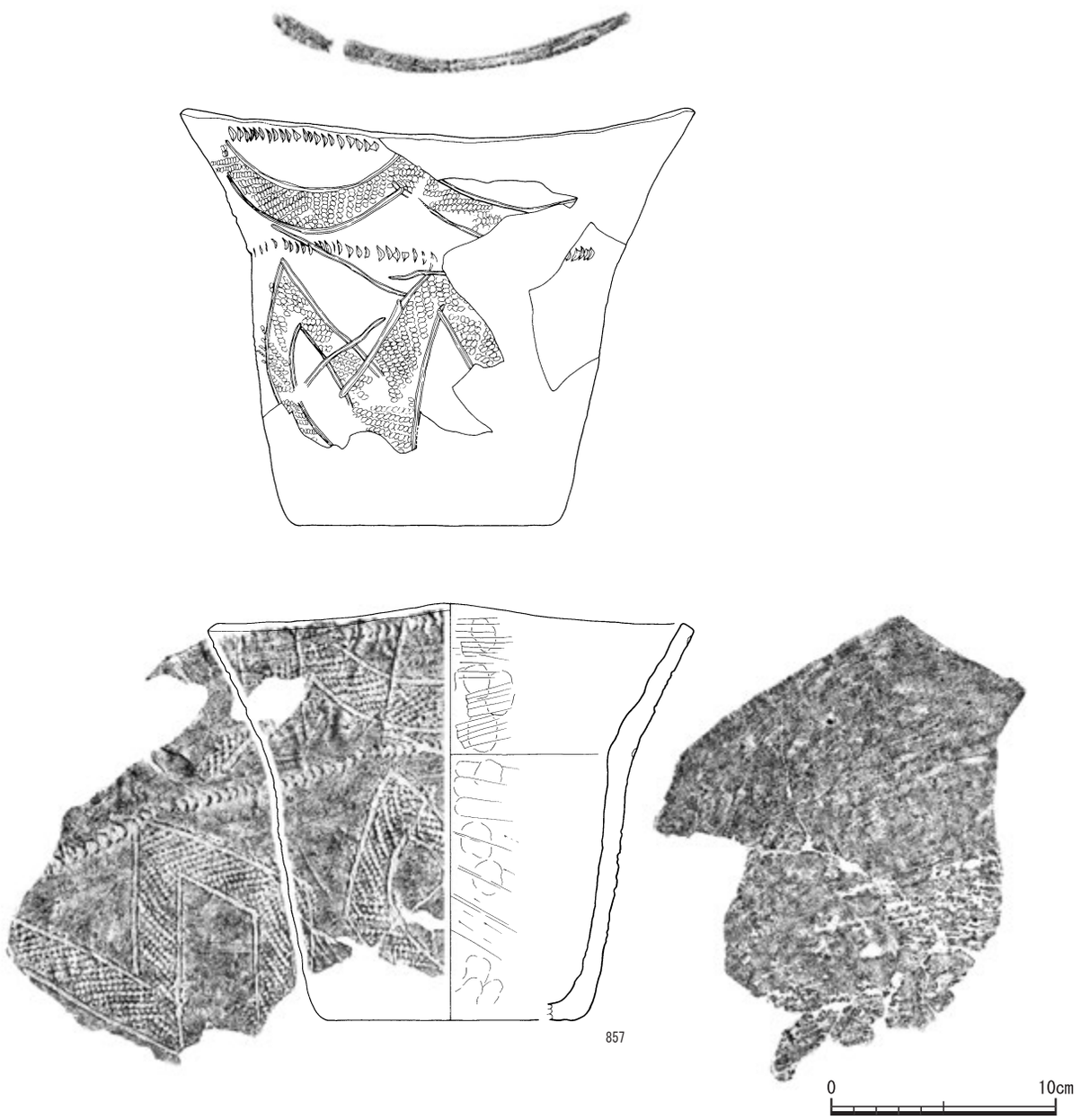
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
377	823	12.1	●一括(-/-)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	波頂部には口唇部内面に施す
377	824	12.1	●50147(す-32/Ⅶ) ●50148(す-32/Ⅶ) ●50169(す-32/Ⅶ)	輝,細粒	丁寧なナデ	-	-
378	825	12.1	▲11109(J-10/Ⅶ) ▲11110(J-10/Ⅶ) ▲11111(J-10/Ⅶ) ▲11119(J-10/Ⅶ) ▲11120(J-10/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	口唇部: 横ハケ→ナデ	胎土精選
378	826	12.1	▲2565(I-18/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	口唇部 :横ハケ→ナデ	-
378	827	12.1	▲11112(J-10/Ⅶ)	黒,角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
378	828	12.1	▲1898(I-19/Ⅶ)	黒,角,輝,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部: 横ハケ→ナデ	-
378	829	12.1	▲3301(H-19/Ⅶ)	角,輝,微粒	斜ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
378	830	12.1	▲11013(J-12/Ⅶ)	角,黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
378	831	12.1	▲11010(J-12/Ⅶ)	角,黒,輝,雲,微粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
378	832	12.1	▲9422(G-4/Ⅶ上)	輝,雲,微粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
379	833	12.21	○55701(H-8/Ⅶ) ○65633(I-8/Ⅶ) ○66317(H-8/Ⅶ) ○66318(H-8/Ⅶ)	砂粒,角	横ハケ→丁寧なナデ	-	外面ス ス付着
379	834	12.21	○58143(E-5/Ⅶ) ○58145(E-5/Ⅶ) ○58723(E-5/Ⅶ) ○60367(E-5/Ⅶ上) ○60372(E-5/Ⅶ) ○60375(E-5/Ⅶ)	砂粒,輝	ナデ,横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
379	835	12.21	○58723(E-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	面取りによる平坦面形成
379	836	12.21	○58281(F-5/Ⅶ上)	細粒,角	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
380	837	12.21	○60376(E-5/Ⅶ下) ○60376(E-5/Ⅶ下) ○60907(H-7/Ⅶ上) ○60916(H-7/Ⅶ下) ○60921(H-8/Ⅶ下) ○60922(G-8/Ⅶ下) ○60923(G-7/Ⅶ下)	角,細粒	横ハケ→ナデ,横ケズリ→粗いナデ	-	-
380	838	12.21	○25722(D-12/Ⅴ下)	輝,角,雲,砂粒	ナデ	-	-
380	839	12.21	◎18083(H-43/Ⅶ) ●10512(I-42/Ⅶ) ●10515(H-42/Ⅶ)	角,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
380	840	12.21	◎16206(G-44/ⅦIb)	角,細粒	横ハケ→ナデ	ハケナデ	-
380	841	12.21	○65721(G-8/Ⅶ)	雲,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
380	842	12.21	○60800(G-7/Ⅶ下)	角,輝,細粒	ヘラナデ	-	-

第100表　縄文早期土器観察表（58）（12群土器-２）

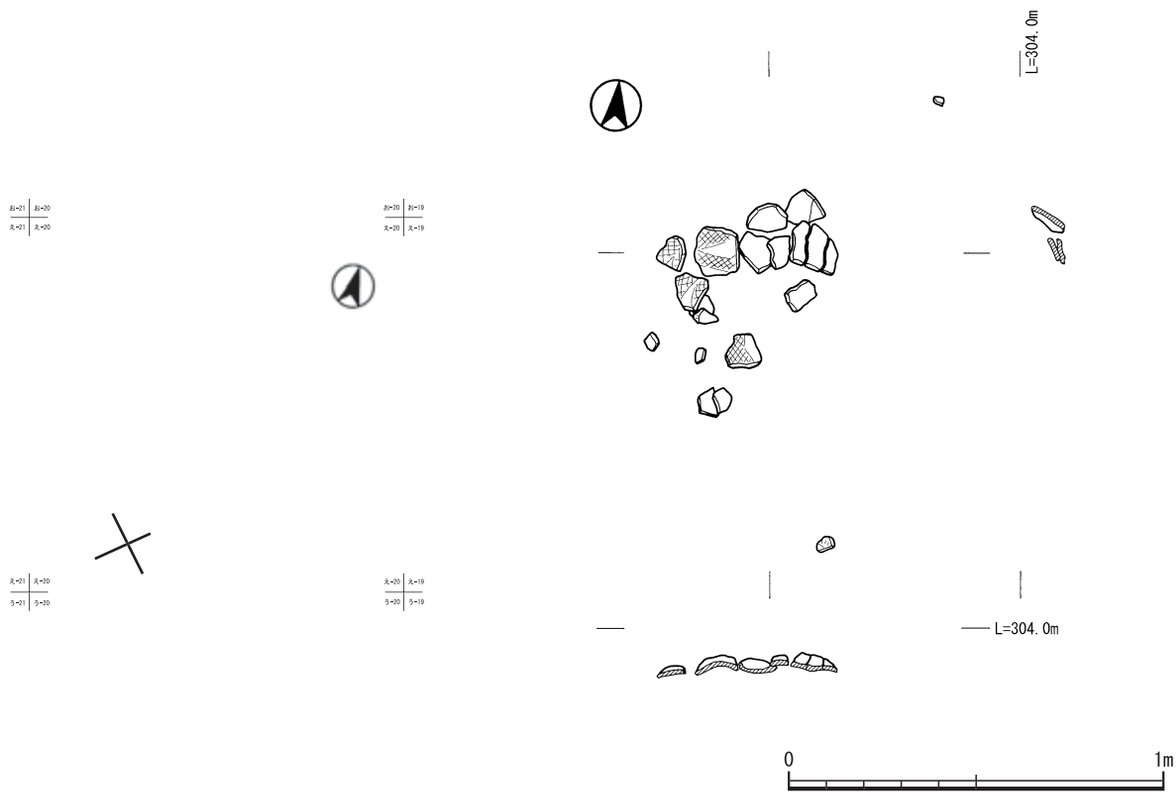
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
380	843	12.21	◎18227(G-44/Ⅶ)	角,細粒	丁寧なナデ	-	外面ス ス付着
380	844	12.21	●51139(こ-27/Ⅶ) ●51140(こ-27/Ⅶ) ●51141(こ-27/Ⅶ)	輝,細粒	ナデ	ハケ→工具ナデ	内面ス ス付着
381	845	12.21	▲17279(K-8/Ⅶ上) ▲17283(K-8/Ⅶ上) ▲17343(J-8/Ⅶ)	角,輝,黒,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
381	846	12.21	▲3653(G-19/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	黒曜石, 細粒多量
381	847	12.21	▲11173(J-18/Ⅶ)	輝,黒,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
381	848	12.21	▲11171(J-18/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	-
381	849	12.21	▲3653(G-19/Ⅶ)	黒,角,輝,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母, 黒曜石, 細粒多量
381	850	12.21	▲1877(I-19/Ⅶ) ▲1878(I-19/Ⅶ) ▲1964(I-19/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ユビナデ	縦,斜ハケ →丁寧なナデ	-
382	851	12.22	○40514(D-9/Ⅶ) ○40580(D-8/Ⅶ) ○50215(D-9/Ⅶ)	砂粒,角,雲	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
382	852	12.22	●6825(し-28/Ⅶ)	輝,雲,細粒	工具ハケナデ	-	-
382	853	12.22	○61219(D-8/Ⅶ下)	輝,角,細粒	ヘラ丁寧なナデ	-	外面ス ス付着
382	854	12.22	○55681(H-8/Ⅶ) ○61219(D-8/Ⅶ下)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
382	855	12.22	○60507(G-7/Ⅶ上) ○60793(G-7/Ⅶ下) ○60927(G-7/Ⅶ上) ○65713(G-7/Ⅶ) ○65714(G-7/Ⅶ) ○65715(G-7/Ⅶ) ○65748(G-8/Ⅶ上)	砂粒,角,輝	ハケナデ	ハケナデ	ス ス付着
382	856	12.22	○60931(G-7/Ⅶ) ○65718(G-8/Ⅶ)	角,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	面取りによる平坦面形成
384	857	12.22	●6987(い-20/Ⅶ) ●6988(い-20/Ⅶ) ●6989(い-20/Ⅶ上) ●6990(い-20/Ⅶ) ●6991(い-20/Ⅶ) ●6992(い-20/Ⅶ上) ●6993(い-20/Ⅶ) ●7140(い-19/Ⅶ) ●一括(-/-) ●塞1(-/-) ●塞2(-/-) ●塞3(-/-) ●塞4(-/-) ●塞5(-/-) ●塞6(-/-) ●塞7(-/-) ●塞8(-/-)	角,砂粒,細粒	ヘラナデ→指頭痕, 指頭痕	ヘラナデ	混和材:角閃石



第383図　（857）土器出土状況図



第384図　縄文早期土器実測図（134）（12.22群土器/桐木調査区出土）



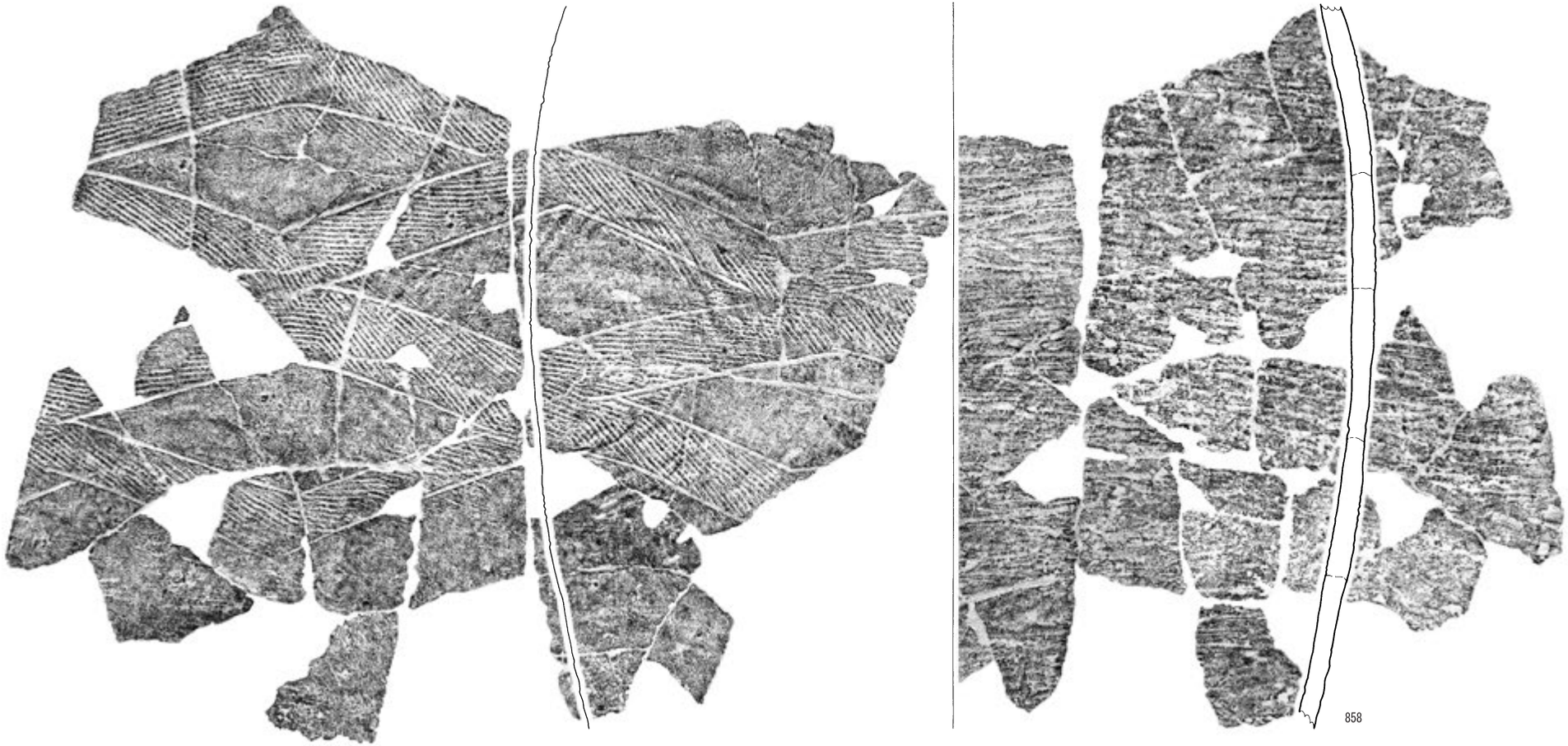
第385図　（858）土器出土状況図

第101表　縄文早期土器観察表（59）（12群土器−３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
386	858	12.22	●6933(え-20/Ⅶ) ●6936(え-20/Ⅶ) ●6939(え-20/Ⅶ) ●6943(え-20/Ⅶ) ●6944(え-20/Ⅶ) ●6945(え-20/Ⅶ) ●6949(え-20/Ⅶ) ●6952(え-20/Ⅶ) ●7072(え-20/Ⅶ) ●7074(え-20/Ⅶ) ●7170(え-20/Ⅶ) ●塞1(-/-) ●塞10(-/-) ●塞11(-/-) ●塞12(-/-) ●塞13(-/-) ●塞14(-/-) ●塞15(-/-) ●塞2(-/-) ●塞3(-/-) ●塞4(-/-) ●塞5(-/-) ●塞6(-/-) ●塞7(-/-) ●塞8(-/-) ●塞9(-/-) ○746(C-10/Ⅶ) ○747(C-10/Ⅶ) ○748(C-10/Ⅶ) ○749(C-10/Ⅶ) ○751(C-10/Ⅶ) ○752(C-10/Ⅶ) ○753(C-10/Ⅶ) ○754(C-10/Ⅶ) ○784(C-10/Ⅶ) ○785(C-10/Ⅶ) ○786(C-10/Ⅶ) ○787(C-10/Ⅶ) ○788(C-10/Ⅶ) ○1214(C-10/Ⅶ) ○1217(C-10/Ⅶ) ○40477(C-9/Ⅶ) ○40478(C-9/Ⅶ) ○40479(C-9/Ⅶ) ○40833(C-11/Ⅶ) ○41482(C-9/Ⅶ下) ○51158(C-9/Ⅶ) ○51165(C-9/Ⅶ)	輝,雲,角,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	-

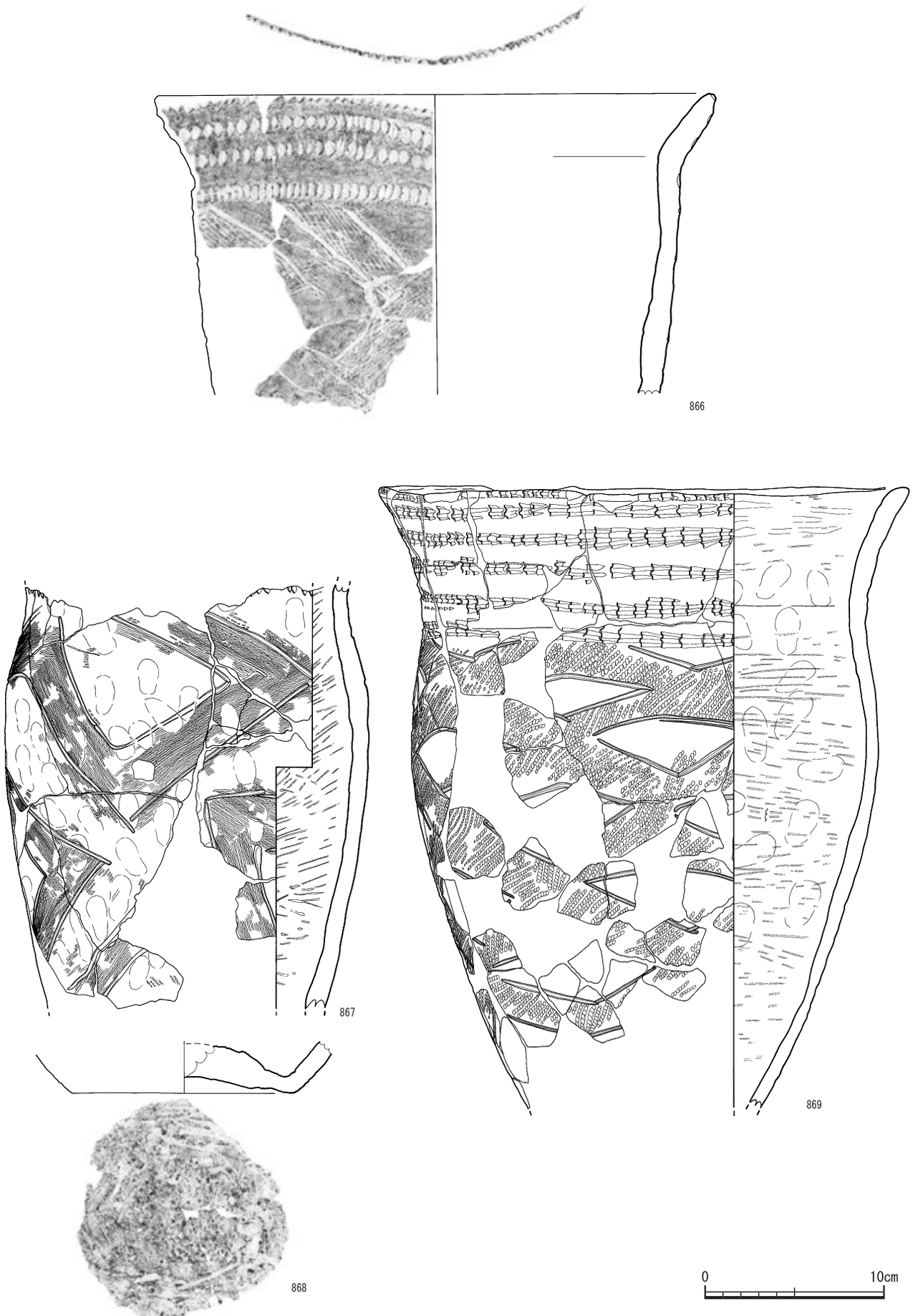
第102表　縄文早期土器観察表（60）（12群土器−４）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
387	859	12.22	○6812(D-14/Ⅴ下)	角,輝,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ	-
387	860	12.22	○6818(D-14/Ⅴ下) ○6824(D-12/Ⅴ上)	雲,細粒	斜ケズリ→ナデ,ナデ	ナデ	-
387	861	12.22	●6834(う-20/Ⅶ) ●6835(う-20/Ⅶ) ●6859(う-20/Ⅶ) ●6860(う-20/Ⅶ) ●6862(う-20/Ⅶ) ●6865(う-20/Ⅶ) ●7021(え-22/Ⅶ) ●7022(え-22/Ⅶ) ●7025(え-22/Ⅶ) ●7032(お-22/Ⅶ) ●7050(う-21/Ⅶ) ●7051(う-21/Ⅶ) ●7052(う-21/Ⅶ) ●7055(う-21/Ⅶ) ●7057(う-21/Ⅶ) ●7059(う-21/Ⅶ) ●7164(う-20/Ⅶ) ●7165(う-20/Ⅶ) ●7168(う-20/Ⅶ) ●一括(-/-)	輝,砂粒	貝殻条痕, 斜ケズリ→粗いナデ	丁寧なナデ	-
387	862	12.22	○58053(E-6/Ⅵa) ○58159(E-6/Ⅶ) ○58164(E-6/Ⅶ)	雲,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
387	863	12.22	○55663(H-8/Ⅶ) ○64418(I-8/Ⅶ) ○64435(H-8/Ⅶ)	輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
387	864	12.22	◎9410(あ-15/Ⅶ) ◎9411(あ-15/Ⅶ)	角,細粒	ケズリ→粗いナデ	丁寧なナデ, 円周状に ハケナデ, 底面:白色化	-
387	865	12.22	◎9413(あ-15/Ⅶ)	角,砂粒	ケズリ→粗いナデ	ナデ,ハケナデ	-
388	866	12.22	▲9474(G-5/Ⅶ上) ▲9475(G-5/Ⅶ上) ▲9476(G-5/Ⅶ上)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
388	867	12.22	▲8206(J-3/Ⅶ) ▲9239(J-3/Ⅶ) ▲9361(I-7/Ⅵa横転) ▲12646(H-6/Ⅶ) ▲12647(H-6/Ⅶ) ▲12654(H-6/Ⅶ上) ▲12665(H-7/Ⅶ) ▲12666(H-7/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母, 細粒多量
388	868	12.22	▲7932(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	底面:ハケ →粗いナデ	-

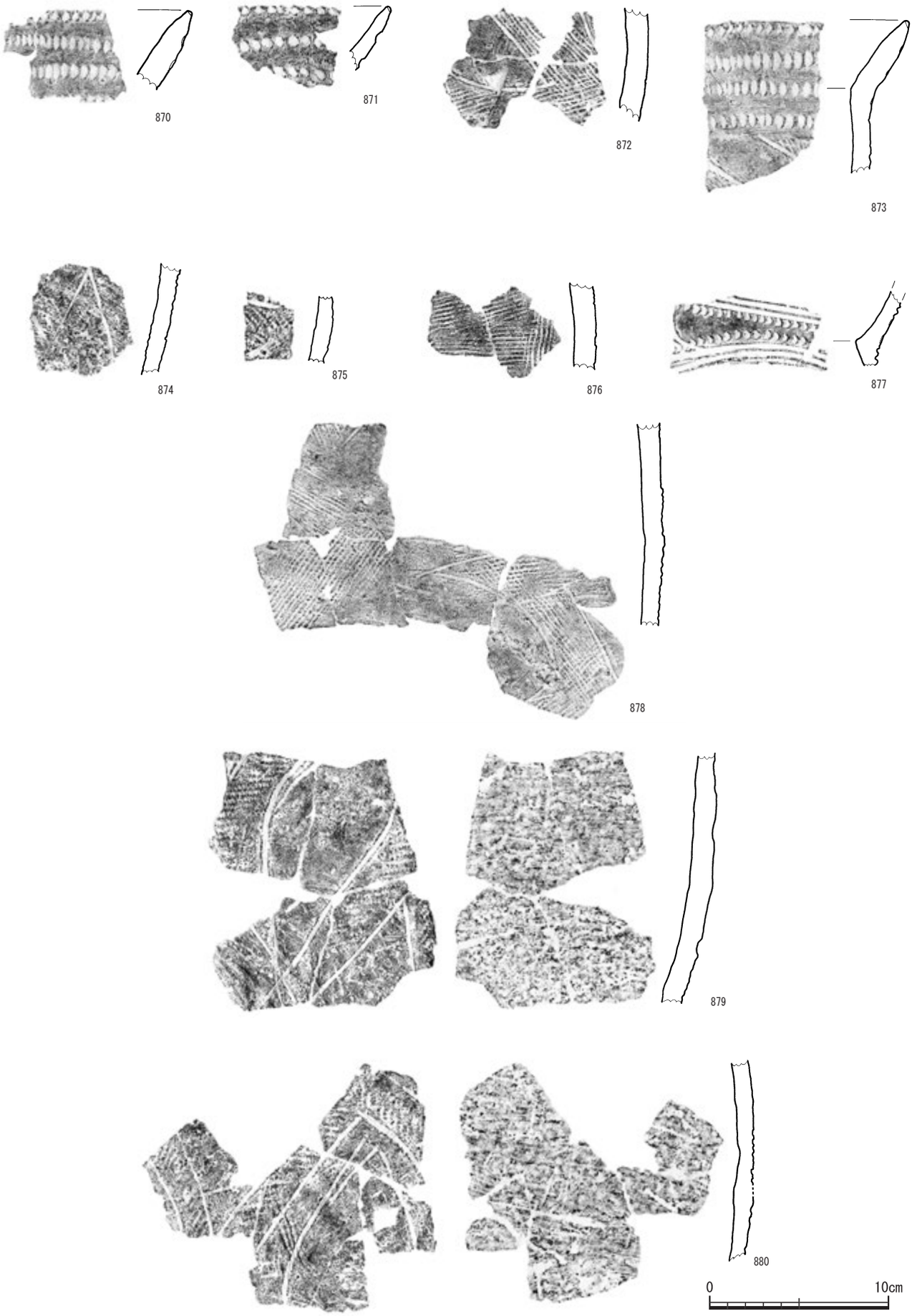


第386図　縄文早期土器実測図（135）（12.22群土器/桐木調査区出土）

第387図　縄文早期土器実測図（136）（12.22群土器/桐木調査区出土）



第388図　縄文早期土器実測図（137）（12.22群土器/耳取調査区出土）



第389図　縄文早期土器実測図（138）（12.22群土器/耳取調査区出土）

第103表　縄文早期土器観察表（61）（12群土器−５）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
388	869	12.22	▲16175(J-7/Ⅵa) ▲16176(J-7/Ⅵa) ▲16177(J-7/Ⅵa) ▲16178(J-7/Ⅵa) ▲16179(J-7/Ⅵa) ▲16181(J-7/Ⅵa) ▲16187(J-7/Ⅵa) ▲17353(K-7/Ⅶ) ▲17356(J-7/Ⅶ) ▲17358(K-7/Ⅵ) ▲17360(K-7/Ⅶ) ▲17361(K-7/Ⅶ) ▲17362(J-7/Ⅵ) ▲17366(J-7/Ⅶ) ▲17367(J-7/Ⅶ) ▲17368(J-7/Ⅶ) ▲17372(J-7/Ⅶ) ▲17374(J-7/Ⅶ) ▲17377(J-7/Ⅶ) ▲17379(J-7/Ⅶ) ▲17380(J-7/Ⅶ) ▲17382(J-7/Ⅶ) ▲17384(J-7/Ⅶ) ▲17385(J-7/Ⅶ) ▲17386(J-7/Ⅶ) ▲17387(J-7/Ⅶ) ▲17388(J-7/Ⅶ) ▲17389(J-7/Ⅶ) ▲17391(J-7/Ⅶ) ▲17392(J-7/Ⅶ) ▲17393(J-7/Ⅶ) ▲17394(J-7/Ⅶ) ▲17395(J-7/Ⅶ) ▲17396(J-7/Ⅶ) ▲17397(J-7/Ⅶ) ▲17399(J-7/Ⅶ) ▲17401(J-7/Ⅶ) ▲17402(J-7/Ⅶ) ▲17403(J-7/Ⅶ) ▲17404(J-7/Ⅶ) ▲17436(J-7/Ⅵ) ▲17438(J-7/Ⅵ) ▲17439(J-7/Ⅵ) ▲17441(J-7/Ⅵ) ▲17442(J-7/Ⅵ) ▲17443(J-7/Ⅵ) ▲17444(J-7/Ⅵ) ▲17445(J-7/Ⅵ) ▲17446(J-7/Ⅵ) ▲17447(J-7/Ⅵ) ▲17448(J-7/Ⅵ) ▲17450(J-7/Ⅵ) ▲17452(J-7/Ⅵ) ▲17455(J-7/Ⅶ) ▲17457(J-7/Ⅵ) ▲17460(J-7/Ⅵ) ▲17953(J-9/Ⅶ) ▲18020(K-7/Ⅶ) ▲18036(K-7/Ⅶ) ▲18037(K-7/Ⅶ) ▲18041(K-7/Ⅶ) ▲18049(J-7/Ⅶ) ▲18050(J-7/Ⅶ) ▲18051(J-7/Ⅶ) ▲18052(J-7/Ⅶ) ▲18053(J-7/Ⅶ) ▲18054(J-7/Ⅶ) ▲18056(J-7/Ⅶ) ▲18057(J-7/Ⅶ) ▲18058(J-7/Ⅶ) ▲18059(J-7/Ⅶ) ▲18060(J-7/Ⅶ)	黒,輝,細粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:横, 斜ケズリ→粗いナデ	口唇部: ハケ→ナデ	−

第104表　縄文早期土器観察表（62）（12群土器−６）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
388	869	12.22	▲18061(J-7/Ⅶ) ▲18063(J-7/Ⅶ) ▲18064(J-7/Ⅶ) ▲18065(J-7/Ⅶ) ▲18067(J-7/Ⅶ) ▲18068(J-7/Ⅶ) ▲18069(J-7/Ⅶ) ▲18071(J-7/Ⅶ) ▲18074(J-7/Ⅶ) ▲18075(J-7/Ⅶ) ▲18076(J-7/Ⅶ) ▲18077(J-7/Ⅶ) ▲18079(J-7/Ⅶ) ▲18080(J-7/Ⅶ) ▲18082(J-7/Ⅶ) ▲18087(J-7/Ⅶ) ▲18088(J-7/Ⅶ) ▲18089(J-7/Ⅶ) ▲18093(J-7/Ⅶ) ▲18095(J-7/Ⅶ) ▲18096(J-7/Ⅶ) ▲18097(J-7/Ⅶ) ▲18099(J-7/Ⅶ) ▲18100(J-7/Ⅶ) ▲18105(J-7/Ⅶ) ▲18119(J-7/Ⅶ) ▲18121(J-7/Ⅶ) ▲18122(J-7/Ⅶ) ▲18124(J-7/Ⅶ) ▲18125(J-7/Ⅶ) ▲18126(J-7/Ⅶ) ▲18144(J-7/Ⅶ) ▲18147(J-7/Ⅶ) ▲18148(J-7/Ⅶ) ▲18180(J-9/Ⅶ上)	黒,輝,細粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:横, 斜ケズリ→粗いナデ	口唇部: ハケ→ナデ	−
389	870	12.22	▲7975(F-4/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒 ,赤粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	−
389	871	12.22	▲12653(H-6/Ⅶ)	黒,輝,細粒	斜ハケ→ナデ	斜ハケ→ナデ	混和材:黒雲母
389	872	12.22	▲1670(J-8/Ⅴ) ▲17251(J-8/Ⅶ下) ▲17253(J-8/Ⅵ下) ▲17345(J-8/Ⅶ) ▲17957(J-8/Ⅵa)	角,輝,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	−	−
389	873	12.22	▲7929(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横,斜ハケ→ナデ	横,斜ハケ→ナデ	−
389	874	12.22	▲18254(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→粗いナデ	斜ハケ→粗いナデ	−
389	875	12.22	▲18269(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	−	−
389	876	12.22	▲9087(J-8/Ⅶ) ▲16174(J-7/Ⅵa)	輝,雲,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	−	−
389	877	12.22	▲1906(I-19/Ⅶ)	角,輝,細粒	胴部上端:横ハケ→ナデ, 口縁部:横ハケ →丁寧なナデ	−	胎土精選
389	878	12.22	▲9062(J-8/Ⅶ) ▲9066(J-8/Ⅶ) ▲17298(J-8/Ⅵ下) ▲17334(J-9/Ⅵ) ▲17947(J-9/Ⅶ) ▲18162(J-9/Ⅶ下)	輝,角,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→丁寧なナデ	−	−
389	879	12.22	▲9064(J-8/Ⅶ) ▲12956(H-7/Ⅶ) ▲12957(H-7/Ⅶ) ▲17240(K-8/Ⅶ上)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横,斜ケズリ→粗いナデ	−	−
389	880	12.22	▲15262(I-9/Ⅶ) ▲17246(J-8/Ⅶ上) ▲17265(K-8/Ⅶ) ▲17266(K-8/Ⅶ) ▲17270(K-8/Ⅶ上) ▲17295(J-8/Ⅶ上) ▲17939(K-8/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	−	−

点文で直線文や山形文，曲線文などの文様を構成する土器と撚糸文を施す土器(第381図849)があることを指摘できる。さらに胴部文様帯には縦位方向の(網目)撚糸文を施すのが特徴である。その後，上に重ねて横位方向の沈線文を数条ずつ，胴部文様帯上端部，中央部もしくは下端部の数か所に巡らすことが指摘できる。また網目撚糸文の幅には，１単位毎に無文帯を設ける土器(第380図843)と，数単位を１単位とし施文する土器(第380図838,842)とがある。

さて，本遺跡から出土した本種に属する唯一の壺形土器が第381図850である。その器形的特徴から，小型土器に属する「長頸壺」の頸部と判断できる，無文土器である。接合資料が無く，全体形は不明である。

以上の特徴から本種土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ａ式ａに分類できる土器群である。

本種土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。わずかではあるが，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器や，最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。

本種土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。また，粗い粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，細かい粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。さらに胎土中の鉱物に黒耀石を含ませる土器や，黒雲母が胎土中に多量に含む土器があり，混和材として含ませた可能性の高い土器など見受けられることが特記できる。

ここで注目できるのは，第380図838である。この土器には

滑石と判断できる鉱物が含まれていることや，また土器片が固結化している点でも，本種土器のなかでも特異的である。

さて，出土分布図からは，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ⅰ・Ｊ-18・19区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ-５・６区周辺と，桐木調査区Ｈ-８・９区周辺とで部分的に出土していること(第369図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域は，第11群土器第２類土器の主な分布域や，次に述べる第12群土器第２類土器第２種土器の主な分布域と，部分的に重なる地点はあるが，概ね異なる分布域を示しており，注目できる。

第12群土器第２類土器第２種土器(分類記号12.22，第382～389図851～880)

器形的特徴としては，口縁形態がほぼ平口縁を呈する土器(第382図851～853,855・856，第388図866・869，第389図870・871・873)と，緩やかな波状口縁を呈す土器(第384図857)とがあるのを指摘できる。

胴部から口縁部にかけてラッパ状に開く口縁部形態には，直線的になる土器(第382図852，第384図857，第388図866,869，第389図873)と，わずかに内弯形態を呈する土器(第382図851,853,855,856，第389図870，871)とがあるのは，第12群土器第２類土器第１種土器との共通点であると指摘できる。

さらに，口縁部内面と胴部内面との境には明瞭な稜線を形成する土器も見受けられるが，稜線が不明瞭である土器の割合が，第12群土器第２類土器第１種土器と比べて高いことが特徴として挙げることができる。

胴部形態には，直線的に底部へすぼまる土器(第384図857，第388図866)と，胴部上半が膨らみを呈し，底部へ緩やかに移行する土器(第386図858，第388図867,869)とがある。胴部下端から底部にかけての形態には，直線的に立ち上がる土器(第387図864・865)と，すぼまりながら上げ底となる土器(第387図861，第388図868)とが挙げることができる。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には，刻みを施す土器(第382図851・852，第388図866,869，第389図870,871,873)と，無文化する土器(第382図853・855・856，第384図857)とがあることが指摘できる。また口縁部文様帯には，特に上端部と下端部とに篦状工具もしくは半截竹管状工具による刻みを横位方向に数条巡らす。さらに口縁部文様帯および胴部文様帯には，網目撚糸文(第382図851,853，第387図859,860,863，第389図873)あるいは撚糸文(第382図855・856，第384図857，第386図858，第387図862,864,865，第388図869，第389図872,874～880)を施し，その上に棒状工具を用いて幾何学的な篦枠文を描いた後に，その枠外の部分をナデ消すことで文様を構成していることが，本種土器細別の最大の指標として挙げられる。

以上の特徴から本種土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ａ式bに分類できる土器群である。

本種土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。さらに最終調整としてナデ調整を行う土器の多くは，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器であることが特徴として指摘できる。このことは，第12群土器第２類土器第１種土器よりもナデ調整の程度が粗めになる傾向を示していることが，注目できる。

本種土器の胎土中鉱物は，主に角閃石と輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。また，粗い粒度の鉱物で構成されている土器が主体を占め，細かい粒度の鉱物で構成されている土器は少ないことが指摘できる。

ここで注目できるのは，耳取調査区で出土した土器には黒雲母が多量に含まれる土器があり，また，桐木調査区で出土した土器には角閃石が多量に含まれる土器があり，それぞれ混和材として含ませた可能性が高いことが特記できる。

さて，出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｃ～Ｈ-５～10区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｅ-５・６区周辺と，桐木調査区あ-14・15区周辺と，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区い～お-20～22区周辺とで部分的に出土していること(第370図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域は，第11群土器第２類土器第１種土器と部分的に重なる地点がある。しかし，第１種土器では部分的にまとまる分布を示すのに対して，第２種土器では非常に広範囲に拡がる土器群であり，この様相は第12群土器第３類土器と共通する分布域であり，注目できる。

第12群土器第３類土器(分類記号12.3，第390～397図881～925)

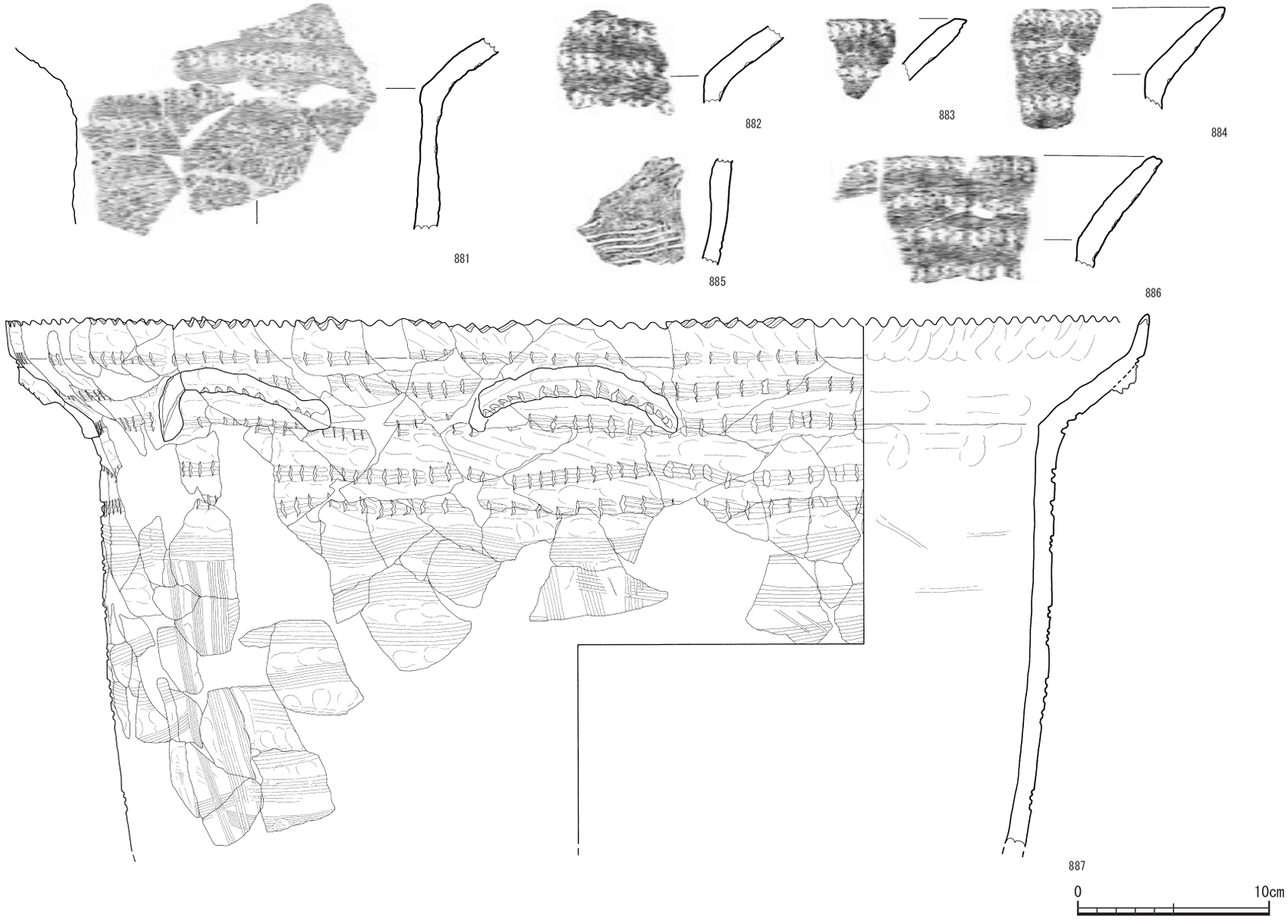
第12群土器に属する土器のうち，貝殻を施文具として刺突文や条痕文などの文様を構成する土器を本類に分類した。河口編年に基づき，貝殻による刺突文や条痕文をそのまま施す第１種土器と，貝殻による刺突文や条痕文を枠線で囲んで文様を構成する第２種土器とに細別を行った。その結果，本遺跡からは第１種土器のみが出土しており，分類を行うことはできなかった。

本類土器では，器形的特徴としては，口縁形態がほぼ平口縁を呈する土器が主体を占め，波状口縁を呈する土器(第393図890)は１点だけと少なかった。

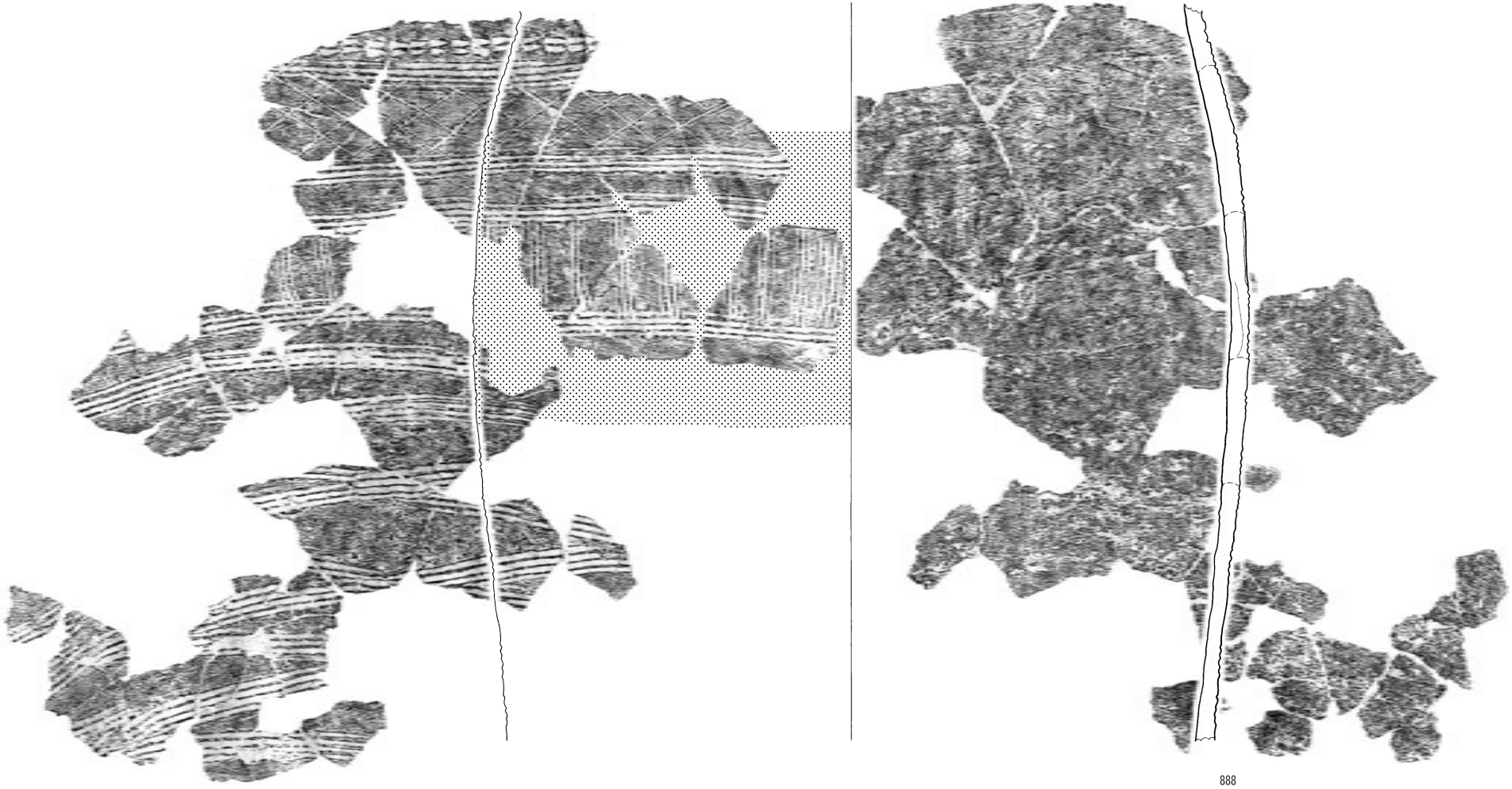
口縁部形態からは，次の３タイプが認められ，施文的特徴との相関関係は以下の通りである。

第１タイプ土器(第394図892)は，器形的特徴としては，短い口縁部が外反する形態を呈する土器である。口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭である。胴部上半から胴部下半にかけての接合資料は無く，詳細は不明である。

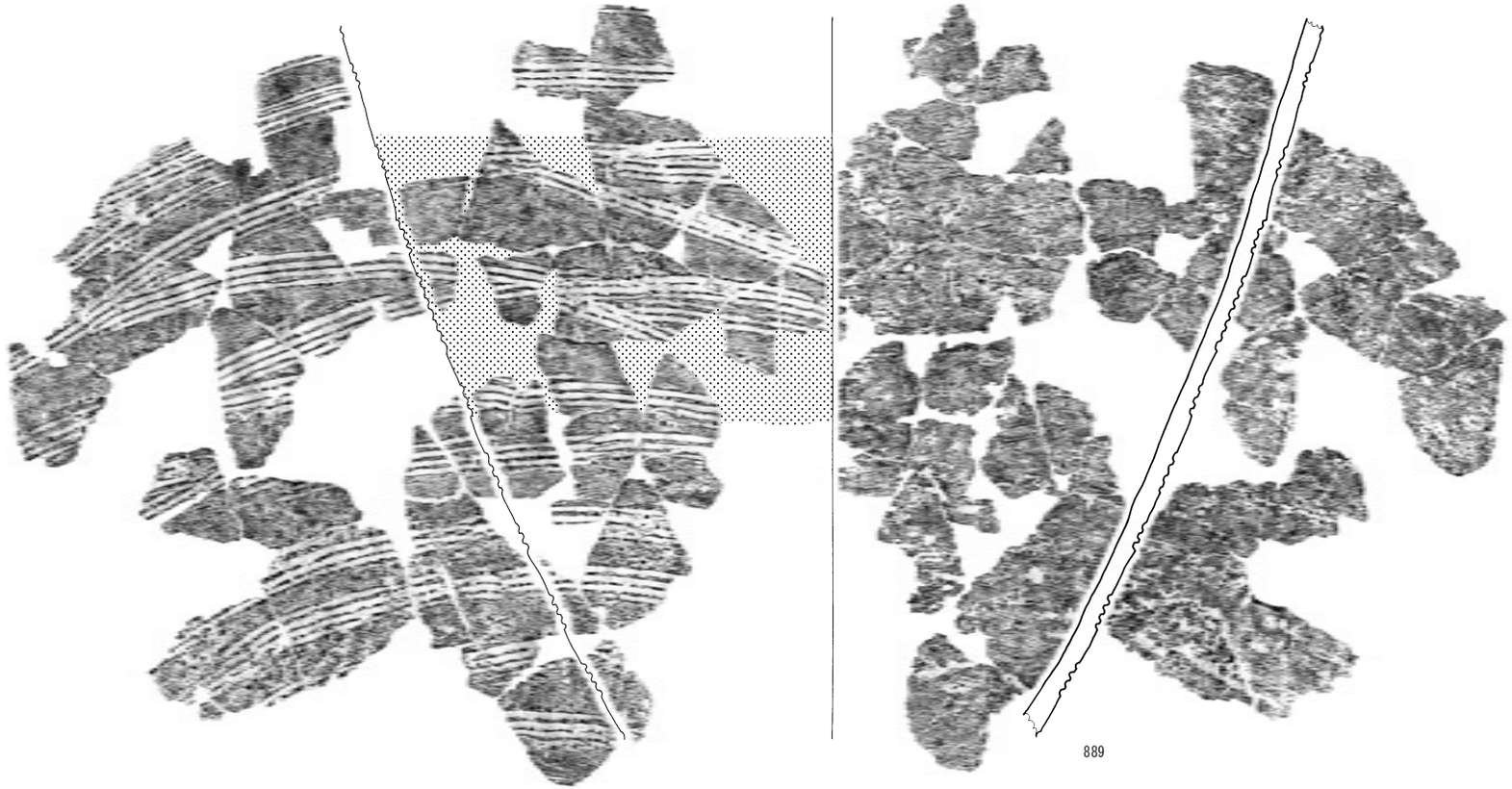
施文的特徴としては，口縁部文様帯には横位方向に数条の



第390図　縄文早期土器実測図（139）（12.31群土器/耳取調査区出土）



第391図　縄文早期土器実測図（140）（12.31群土器/桐木調査区出土）



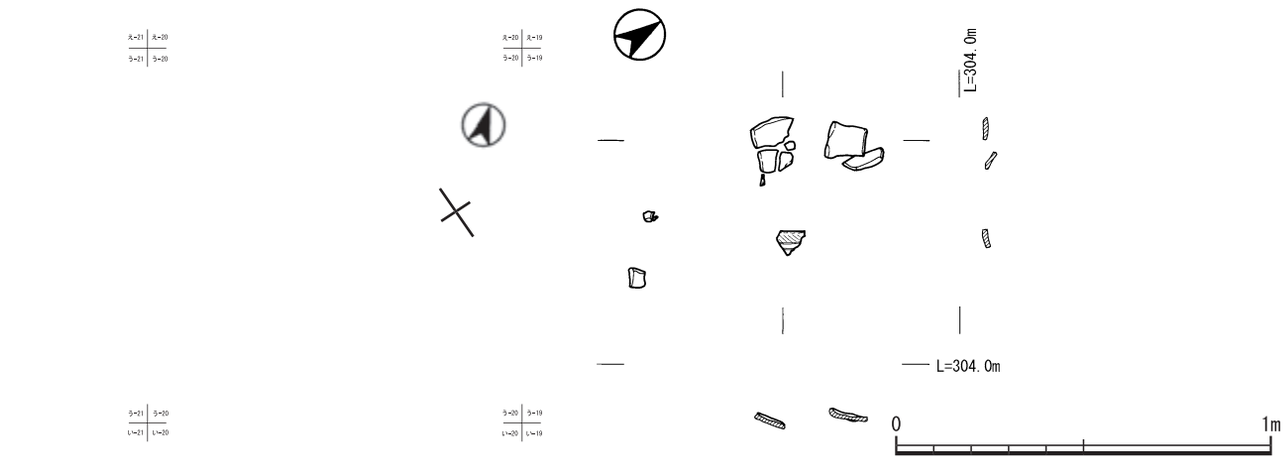
第392図　縄文早期土器実測図（141）（12.31群土器/桐木調査区出土）

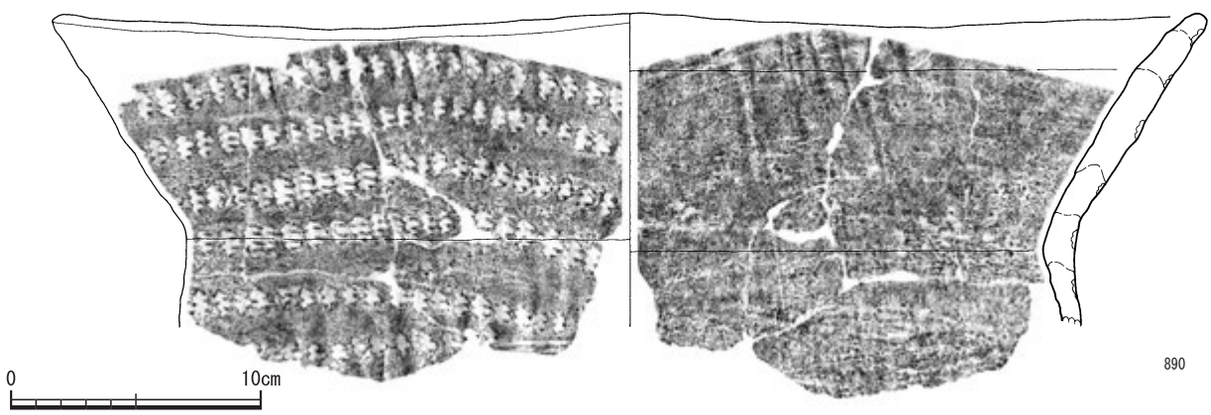
第105表　縄文早期土器観察表（63）（12群土器−７）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
390	881	12.31	▲16161(K-8/Ⅵa) ▲17284(K-8/Ⅶ上) ▲17288(J-8/Ⅶ上) ▲17348(K-8/Ⅶ) ▲17935(J-8/Ⅶ) ▲17943(J-9/Ⅵa) ▲17951(J-9/Ⅶ) ▲18181(J-8/Ⅶ下)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	−	細粒多量
390	882	12.31	▲17264(J-8/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	−	細粒多量
390	883	12.31	▲17941(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	−	−
390	884	12.31	▲17340(J-9/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	−	砂粒多量
390	885	12.31	▲10987(J-11/Ⅵa)	輝,黒,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	−	−
390	886	12.31	▲17275(K-8/Ⅶ上) ▲17276(K-8/Ⅶ上) ▲17282(K-8/Ⅶ上) ▲17286(J-8/Ⅶ上) ▲17949(J-8/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	口唇部:横ハケ→ナデ	−
390	887	12.31	▲9078(J-8/Ⅵa) ▲9363(I-8/Ⅵa) ▲9366(I-8/Ⅵa) ▲9368(I-8/Ⅵa) ▲9453(G-4/Ⅶ) ▲9562(I-8/Ⅵa) ▲9567(I-8/Ⅵa) ▲9568(I-8/Ⅵa) ▲9569(I-8/Ⅵa) ▲9570(I-8/Ⅵa) ▲9572(I-8/Ⅵa) ▲9574(I-8/Ⅵa) ▲9575(I-8/Ⅵa) ▲9576(I-8/Ⅵa) ▲9577(I-8/Ⅵa) ▲9578(I-8/Ⅵa) ▲9580(I-8/Ⅵa) ▲9581(I-8/Ⅵa) ▲9582(I-8/Ⅵa) ▲9583(I-8/Ⅵa) ▲9584(I-8/Ⅵa) ▲9586(I-8/Ⅵa) ▲9587(I-8/Ⅵa) ▲9588(I-8/Ⅵa) ▲9589(I-8/Ⅵa) ▲9590(I-8/Ⅵa) ▲9595(I-8/Ⅵa) ▲9596(I-8/Ⅵa) ▲9597(I-8/Ⅵa) ▲9598(I-8/Ⅵa) ▲9603(I-8/Ⅵa) ▲9604(I-8/Ⅵa) ▲9607(I-8/Ⅵa) ▲9609(I-8/Ⅵa) ▲9610(I-8/Ⅵa) ▲9612(I-8/Ⅵa) ▲9613(I-8/Ⅵa) ▲9614(I-8/Ⅵa) ▲9615(I-8/Ⅵa) ▲9617(I-8/Ⅵa) ▲9618(I-8/Ⅵa) ▲9619(I-8/Ⅵa) ▲9620(I-8/Ⅵa) ▲9621(I-8/Ⅵa) ▲9622(I-8/Ⅵa) ▲9623(I-8/Ⅵa) ▲9624(I-8/Ⅵa) ▲9625(I-8/Ⅵa) ▲9626(I-8/Ⅵa) ▲9627(I-8/Ⅵa) ▲9628(I-8/Ⅵa) ▲9629(I-8/Ⅵa) ▲9631(I-8/Ⅵa) ▲9634(I-8/Ⅵa) ▲9635(I-8/Ⅵa) ▲9638(I-8/Ⅵa) ▲9639(I-8/Ⅵa) ▲9642(I-8/Ⅵa) ▲9643(I-8/Ⅵa) ▲9644(I-8/Ⅵa) ▲9646(I-8/Ⅵa) ▲9647(I-8/Ⅵa) ▲9649(I-8/Ⅶ) ▲9650(I-8/Ⅶ) ▲9651(I-8/Ⅶ) ▲9653(I-8/Ⅵa) ▲9654(I-8/Ⅶ) ▲9655(I-8/Ⅵa) ▲9657(I-8/Ⅵa) ▲9658(I-8/Ⅵa) ▲9659(I-8/Ⅵa) ▲9660(I-8/Ⅵa) ▲9661(I-8/Ⅵa) ▲9662(I-8/Ⅵa) ▲9663(I-8/Ⅵa) ▲10441(I-8/Ⅶ) ▲10443(I-8/Ⅶ) ▲10444(I-8/Ⅶ) ▲10447(I-8/Ⅶ) ▲10450(I-8/Ⅶ) ▲10451(I-8/Ⅶ) ▲10456(I-8/Ⅶ) ▲10457(I-8/Ⅶ) ▲10458(I-8/Ⅶ) ▲10531(J-8/Ⅶ) ▲12973(I-8/Ⅶ) ▲12974(I-8/Ⅸ下) ▲15249(I-9/Ⅶ) ▲15250(I-9/Ⅶ) ▲15251(I-9/Ⅶ)	輝,角,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	−	−

第106表　縄文早期土器観察表（64）（12群土器−８）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
391	888	12.31	◎1801-10(−/−) ◎1801-22(−/−) ◎1801-23(−/−) ◎1801-25(−/−) ◎1801-26(−/−) ◎1801-9(−/−) ◎1802-10(−/−) ◎1802-105(−/−) ◎1802-109(−/−) ◎1802-11(−/−) ◎1802-110(−/−) ◎1802-113(−/−) ◎1802-120(−/−) ◎1802-121(−/−) ◎1802-128(−/−) ◎1802-133(−/−) ◎1802-14(−/−) ◎1802-151(−/−) ◎1802-16(−/−) ◎1802-160(−/−) ◎1802-167(−/−) ◎1802-170(−/−) ◎1802-178(−/−) ◎1802-194(−/−) ◎1802-20(−/−) ◎1802-209(−/−) ◎1802-210(−/−) ◎1802-211(−/−) ◎1802-216(−/−) ◎1802-219(−/−) ◎1802-226(−/−) ◎1802-254(−/−) ◎1802-257(−/−) ◎1802-261(−/−) ◎1802-27(−/−) ◎1802-31(−/−) ◎1802-34(−/−) ◎1802-36(−/−) ◎1802-37(−/−) ◎1802-4(−/−) ◎1802-40(−/−) ◎1802-42(−/−) ◎1802-44(−/−) ◎1802-46(−/−) ◎1802-48(−/−) ◎1802-51(−/−) ◎1802-57(−/−) ◎1802-59(−/−) ◎1802-6(−/−) ◎1802-63(−/−) ◎1802-65(−/−) ◎1802-67(−/−) ◎1802-69(−/−) ◎1802-71(−/−) ◎1802-73(−/−) ◎1802-78(−/−) ◎1802-79(−/−) ◎1802-89(−/−) ◎1802-9(−/−) ◎1802-92(−/−) ◎1802-93(−/−) ◎1802-99(−/−)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母,細粒多量,外面スス付着
392	889	12.31	◎1802-104(−/−) ◎1802-108(−/−) ◎1802-120(−/−) ◎1802-123(−/−) ◎1802-125(−/−) ◎1802-130(−/−) ◎1802-131(−/−) ◎1802-138(−/−) ◎1802-168(−/−) ◎1802-176(−/−) ◎1802-186(−/−) ◎1802-188(−/−) ◎1802-19(−/−) ◎1802-191(−/−) ◎1802-193(−/−) ◎1802-194(−/−) ◎1802-2(−/−) ◎1802-21(−/−) ◎1802-23(−/−) ◎1802-237(−/−) ◎1802-24(−/−) ◎1802-32(−/−) ◎1802-33(−/−) ◎1802-38(−/−) ◎1802-43(−/−) ◎1802-45(−/−) ◎1802-47(−/−) ◎1802-53(−/−) ◎1802-54(−/−) ◎1802-55(−/−) ◎1802-60(−/−) ◎1802-61(−/−) ◎1802-62(−/−) ◎1802-64(−/−) ◎1802-70(−/−) ◎1802-74(−/−) ◎1802-76(−/−) ◎1802-81(−/−) ◎1802-98(−/−)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	−	混和材:黒雲母,細粒多量,外面スス付着
393	890	12.31	●塞10(−/−) ●塞5(−/−) ●塞6(−/−) ●塞7(−/−) ●塞8(−/−) ●塞9(−/−)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	−
394	891	12.31	○40964(C-8/Ⅵ撹乱) ○58023(E-8/Ⅶ) ○58026(E-8/Ⅶ) ○58585(E-8/Ⅶ) ○58597(E-8/Ⅶ)	砂粒,角,輝	貝殻条痕→丁寧なナデ	口唇部:ナデ	−
394	892	12.31	○55713(H-8/Ⅶ)	輝,砂粒	貝殻条痕→ナデ,横ハケ→ナデ	−	−
394	893	12.31	●6957(う-19/Ⅷ)	輝,細粒	横ナデ,斜ナデ	−	−





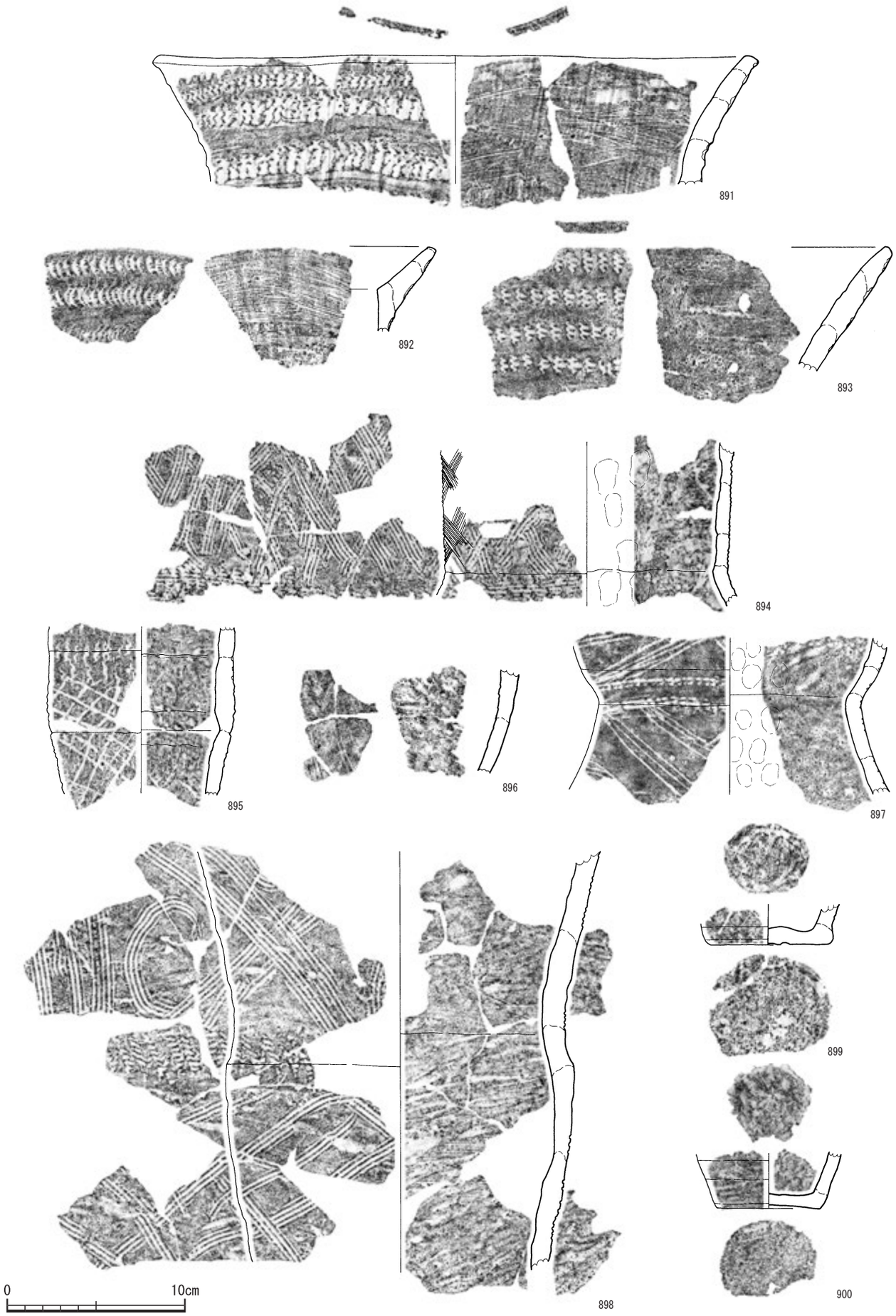
第393図　縄文早期土器実測図（142）（12.31群土器/桐木調査区出土）/（890）土器出土状況図

第107表　縄文早期土器観察表（65）（12群土器-９）

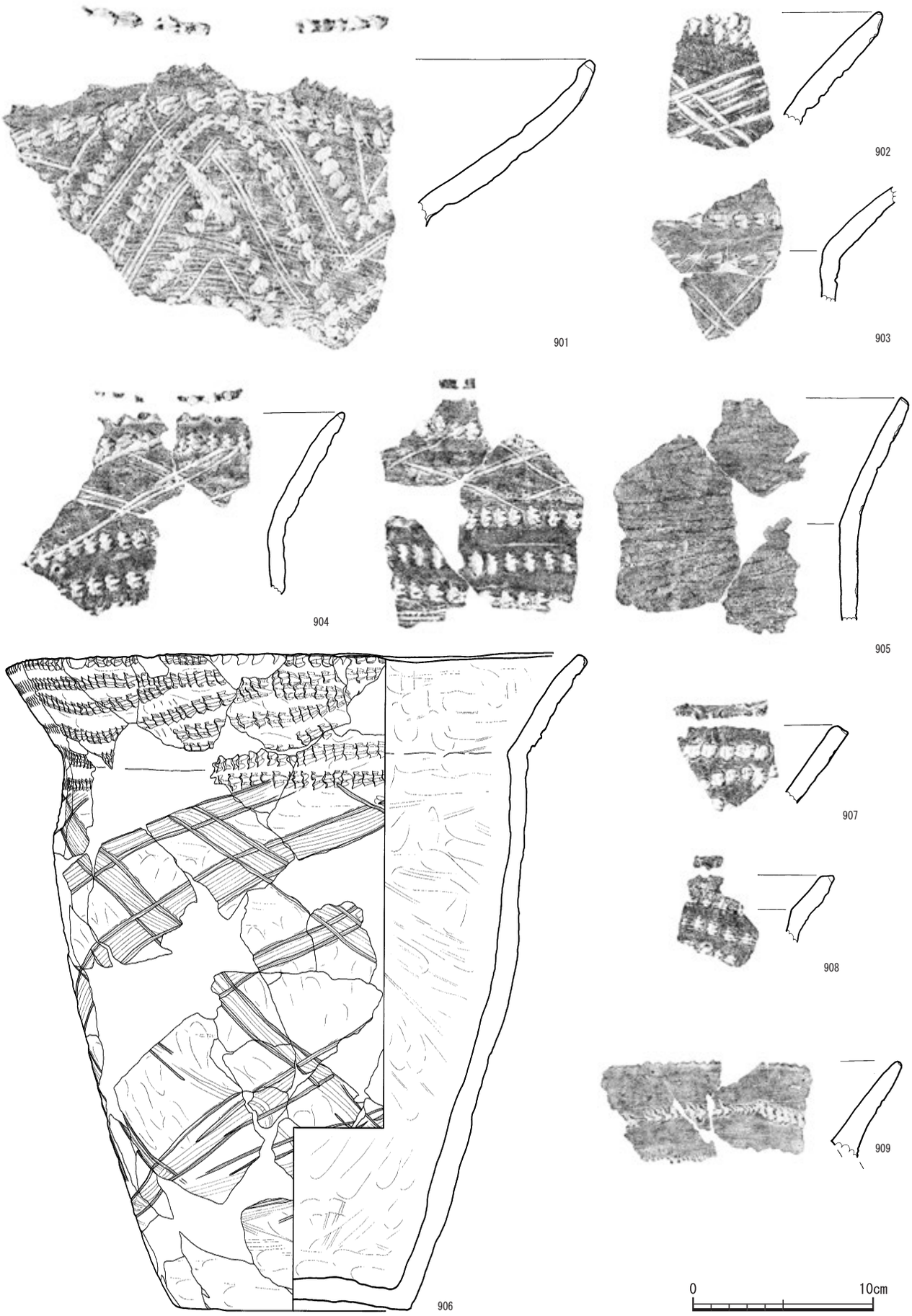
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
394	894	12.31	◎1487(A-12/Ⅳ) ◎8792(A-12/Ⅵ) ○36734(A-12/Ⅵ) ○36739(A-12/Ⅵ) ○36742(A-12/Ⅵ) ○36743(A-12/Ⅵ) ○36744(A-12/Ⅵ) ○36752(A-12/Ⅵ) ○37249(A-12/Ⅵ下)	黒,細粒	指頭痕→横ハケナデ	-	混和材:黒雲母
394	895	12.31	◎9359(あ-15/Ⅵa) ◎9362(あ-15/Ⅵa) ◎9407(あ-15/Ⅵ下)	角,砂粒	横ハケ→ナデ, 縦ケズリ→粗いナデ	-	-
394	896	12.31	◎50747(-/-) ●50697(こ-27/Ⅶ) ●50748(こ-28/Ⅶ)	角,砂粒	横ケズリ→粗いナデ, ススト付着	-	外面ススト付着
394	897	12.31	○3180(D-11/Ⅲb)	角,砂粒	指頭痕→ナデ	-	-
394	898	12.31	○32821(E-9/Ⅵ) ○32829(E-9/Ⅵ) ○32837(E-9/Ⅵ) ○32839(E-9/Ⅵ) ○32848(E-9/Ⅵ) ○32850(E-9/Ⅵ) ○33797(E-9/Ⅵ) ○38061(D-9/Ⅵa) ○38062(D-9/Ⅵa) ○38064(D-9/Ⅵa) ○38065(D-9/Ⅵa) ○38066(E-9/Ⅵa) ○38067(E-9/Ⅵa) ○38069(E-9/Ⅵa) ○38074(E-9/Ⅵb) ○38075(D-9/Ⅵa) ○38077(D-9/Ⅵa)	輝,黒,砂粒	横ハケ→ナデ, 横ケズリ→ナデ, 斜ケズリ→粗いナデ	-	-
394	899	12.31	◎9361(あ-15/Ⅵa) ◎9363(あ-15/Ⅵa)	角,砂粒	横ハケナデ,指頭痕, ハケナデ	横ハケナデ	-
394	900	12.31	○54023(E-10/Ⅹ Ⅱ)	黒,細粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
395	901	12.31	▲9056(J-8/Ⅵa)	輝,角,雲,砂粒 ,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
395	902	12.31	▲2487(I-17/Ⅴ)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
395	903	12.31	▲10972(J-11/Ⅵa)	輝,角,砂粒, 赤粒	横ケズリ→ナデ	-	-
395	904	12.31	▲3436(I-15/Ⅵa) ▲3488(J-14/Ⅵa) ▲10914(J-13/Ⅴb下)	輝,雲,砂粒	斜ヘラケズリ→ナデ	-	細粒多量
395	905	12.31	▲11021(J-13/Ⅵa) ▲11023(J-13/Ⅵa) ▲19513(-/-)	輝,角,雲,細粒 ,赤粒	胴部上端: 斜ヘラケズリ→ナデ, 口縁部:横ヘラケズリ →丁寧なナデ	-	細粒多量

第108表　縄文早期土器観察表（66）（12群土器-10）

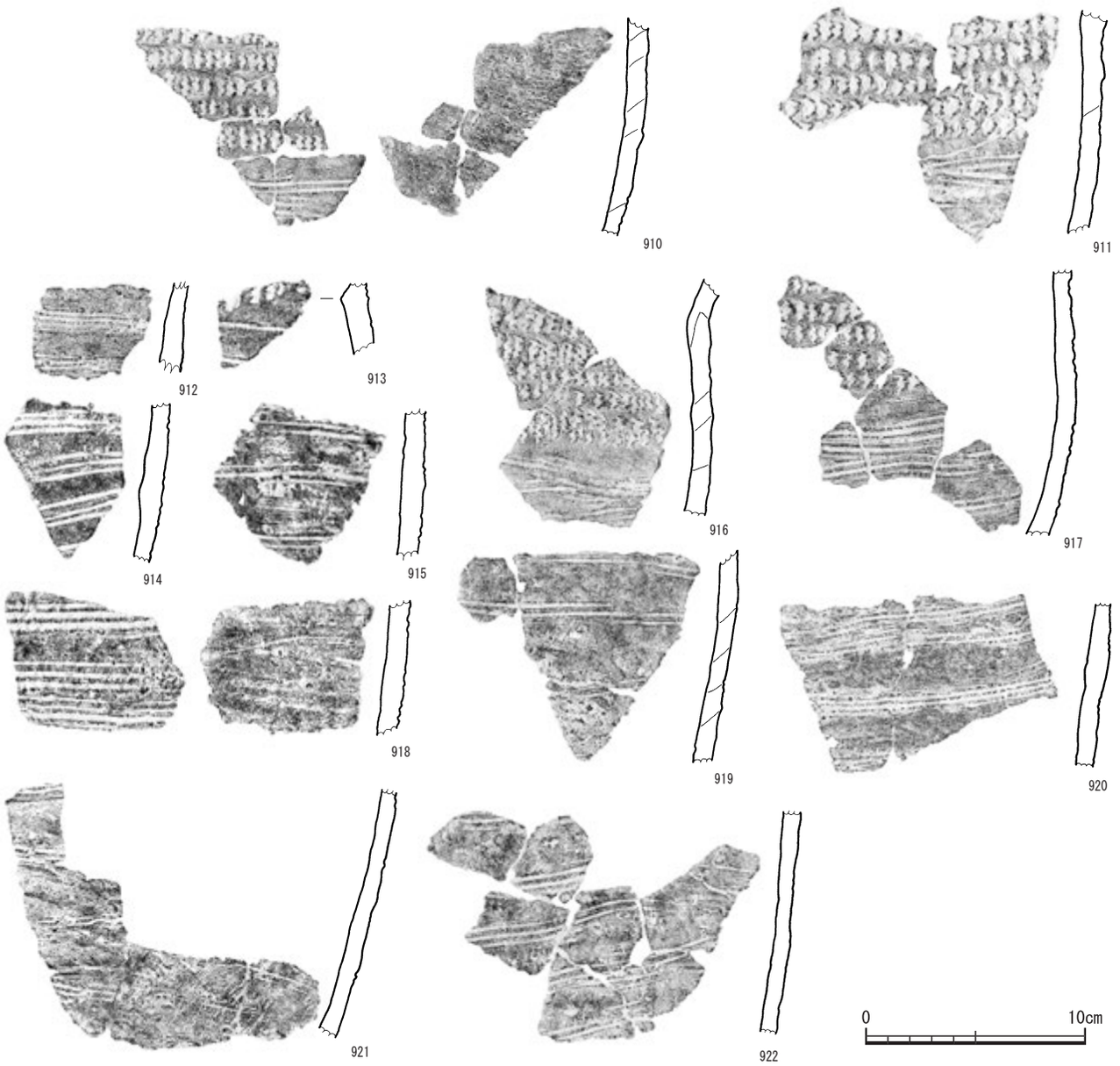
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
395	906	12.31	▲3242(J-13/Ⅶ) ▲3246(I-14/Ⅶ) ▲3260(J-14/Ⅶ) ▲3261(J-14/Ⅶ) ▲3262(J-14/Ⅶ) ▲3263(J-14/Ⅶ) ▲3264(J-14/Ⅶ) ▲3265(J-14/Ⅶ) ▲3268(J-14/Ⅶ) ▲3271(J-14/Ⅶ) ▲3272(J-14/Ⅶ) ▲3273(J-14/Ⅶ) ▲3471(J-14/Ⅶ) ▲3472(J-14/Ⅶ) ▲3473(J-14/Ⅶ) ▲3476(J-14/Ⅶ) ▲3477(J-14/Ⅶ) ▲3479(J-14/Ⅶ) ▲3480(J-14/Ⅶ) ▲3481(J-14/Ⅶ) ▲3482(J-14/Ⅶ) ▲3483(J-14/Ⅶ) ▲3487(J-14/Ⅶ) ▲3514(J-14/Ⅶ) ▲3515(J-14/Ⅶ) ▲3517(J-14/Ⅶ) ▲3519(J-14/Ⅶ) ▲3520(J-14/Ⅶ) ▲5270(H-19/Ⅹ Ⅱ) ▲5615(J-14/Ⅶ) ▲5617(J-14/Ⅶ) ▲11039(J-14/Ⅵa) ▲11040(J-14/Ⅶ上) ▲11041(J-14/Ⅶ上) ▲11042(J-14/Ⅶ上) ▲11197(J-14/Ⅵa) ▲11199(J-14/Ⅶ) ▲11201(J-14/Ⅶ) ▲11205(J-14/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	口縁部:横ハケ→ナデ, 胴部:斜, 横ケズリ→粗いナデ	-	黒耀石
395	907	12.31	▲4464(I-11/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
395	908	12.31	▲1368(I-11/Ⅵa)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	混和材:黒雲母, 細粒多量
395	909	12.31	▲17937(J-8/Ⅶ) ▲18116(J-7/Ⅶ)	輝,角,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
396	910	12.31	▲2492(I-17/Ⅴa) ▲2500(I-17/Ⅴa) ▲2512(I-17/Ⅴa) ▲2536(I-17/Ⅶ) ▲2542(I-17/Ⅶ)	黒,輝,砂粒, 赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
396	911	12.31	▲2505(I-17/Ⅵa) ▲2532(I-17/Ⅶ) ▲2546(I-17/Ⅶ) ▲2560(I-17/Ⅶ)	角,輝,雲,燿, 砂粒,	斜ハケ→工具ナデ	-	細粒多量
396	912	12.31	▲1367(I-11/Ⅵa)	黒,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	混和材:黒雲母, 細粒多量



第394図　縄文早期土器実測図（143）（12.31群土器/桐木調査区出土）



第395図　縄文早期土器実測図（144）（12.31群土器/耳取調査区出土）



第396図　縄文早期土器実測図（145）（12.31群土器/耳取調査区出土）

第397図　縄文早期土器実測図（146）（12.31群土器/耳取調査区出土）

第109表　縄文早期土器観察表（67）（12群土器-11）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
396	913	12.31	▲10982(J-11/VIa)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	細粒多量
396	914	12.31	▲3281(I-12/VIa)	角,輝,雲,砂粒	斜ケズリ→ハケナデ	-	細粒多量
396	915	12.31	▲2508(I-17/VIa)	輝,雲,羅,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
396	916	12.31	▲2481(I-17/V下) ▲2541(I-17/VII)	角,輝,雲,砂粒	斜ケズリ→工具ハケナデ	-	-
396	917	12.31	▲2476(I-17/IV下) ▲2538(I-17/VII) ▲2548(I-17/VII) ▲2549(I-17/VII) ▲2550(I-17/VII)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	斜ケズリ→工具ハケナデ	-	細粒多量
396	918	12.31	▲17339(J-9/VII)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
396	919	12.31	▲2530(I-17/VII) ▲2539(I-17/VII) ▲2543(I-17/VII)	角,輝,砂粒	斜ハケ→工具ナデ	横ハケ→ナデ	砂粒多量

第110表　縄文早期土器観察表（68）（12群土器-12）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
396	920	12.31	▲19511(-/-) ▲19512(-/-)	輝,角,砂粒,赤粒	斜,横ケズリ→粗いナデ	斜,横ハケ→ナデ	細粒多量
396	921	12.31	▲3434(I-15/VIa) ▲3493(J-14/VIa) ▲3496(J-14/VII) ▲3500(I-14/VIa) ▲3504(I-15/Vb)	輝,角,細粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	斜,横ハケ→ナデ	細粒多量
396	922	12.31	▲2483(I-17/V) ▲2494(I-17/Va) ▲2496(I-17/Va) ▲2509(I-17/Va) ▲2535(I-17/VII) ▲2537(I-17/VII) ▲2540(I-17/VII)	角,輝,砂粒,赤粒	斜ハケ→ナデ	-	砂粒多量
397	923	12.31	▲5524(J-7/VII横転)	輝,角,細粒	貝殻条痕,横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	胎土精選
397	924	12.31	▲9045(J-8/VII)	輝,角,微粒	横ハケ→ナデ	斜ハケ→ナデ	胎土精選
397	925	12.31	▲3686(I-12/VII)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ユビナデ	-	-

貝殻による刺突連点文を数条を施すのが特徴である。

第２タイプ土器(第390図881～886，第393図890，第394図893，第395図906，第396図910～922など)は，器形的特徴としては，長い口縁部が直線的に外反する土器であることが指摘できる。口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭である。胴部形態は口縁部直下で膨らむため，胴部最大径が胴部上半にある。胴部中央部から下半部にかけてはほぼ直線的に底部にむけてすぼまる土器である。底部は上げ底を呈する。

ここで注目できるのは，第395図901である。口縁部の長さが長く外反する形態であること，口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭であることから，本タイプ土器に帰属させた。ただし，本タイプ土器における口縁部形態の指標が直線的に外反する土器であるのに対して，この土器は内弯形態を呈する点で特異的である。この形態を呈する土器は本遺跡からは１点のみの出土であった。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯上半にかけては，貝殻腹縁による横位方向あるいは斜位方向の刺突連点文もしくは押引文を組み合わせで様々な文様が構成されること(第393図890，第396図910・911・916・917)を指摘できた。胴部文様帯には棒状工具あるいは叉状工具による横位方向もしくは斜位方向あるいは縦位方向の条痕文を施す土器(第391・392図888・889，第396図910～922)が特徴となることが指摘できる。

第３タイプ土器(第394図891，894～900，第395図902～905，第397図923・924)は，器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し(第395図902～905，第397図923・924)，長い口縁部がわずかに外反する土器を挙げることができる。また，口縁部と胴部の境が不明瞭になる土器である。胴部は中央部でわずかに膨らむため，胴部最大径が胴部中央にある。胴部中央部から下半部にかけては，ほぼ直線的に底部にむけてすぼまる土器である。

また注目できるのは，径の大きさの違いから数タイプに分けることができそうである。点数が少ないため，明瞭に断言はできないものの，中型土器(第394図894,898)と，小型土器(第394図897)と，小型特殊土器(第394図895)とに，最低限分けることができそうである。

施文的特徴としては，口縁部文様帯および胴部文様帯に，貝殻もしくは棒状工具や叉状工具を用いて横位方向あるいは斜位方向の刺突連点文と，斜格子状の沈線文とで文様が構成されるのが特徴である。

以上の特徴から本類土器は，河口貞徳により設定された塞ノ神Ｂ式ｄに分類できる土器群である。

本類土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のケズリ調整あるいはハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整もしくは丁寧なナデ調整を行うのが特徴である。また最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器がある。

さらに最終調整としてナデ調整を行う土器のほとんどは，直前調整としてケズリ調整の痕跡が観られる土器であることが特徴として指摘できる。このことは，第12群土器第２類土器第２種土器よりもナデ調整の程度がさらに粗めになる傾向を示していることが，注目できる。

本類土器の胎土中鉱物は，主に輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。そして，角閃石を含む土器と，黒雲母を含む土器との割合は同程度であり，それぞれ多量に含まれる土器があり，混和材として含ませた可能性が高いことが特記できる。

また，粗い粒度の鉱物が含まれる土器の割合は高い状況がみられた。そして粗い粒度の鉱物においても，細かい粒度の鉱物においても，多量に含まれる土器が多く出土しており，混和材として含ませた可能性が高いことが指摘できる。

さらに，胎土が極めて精選された土器が，多数出土したことである。

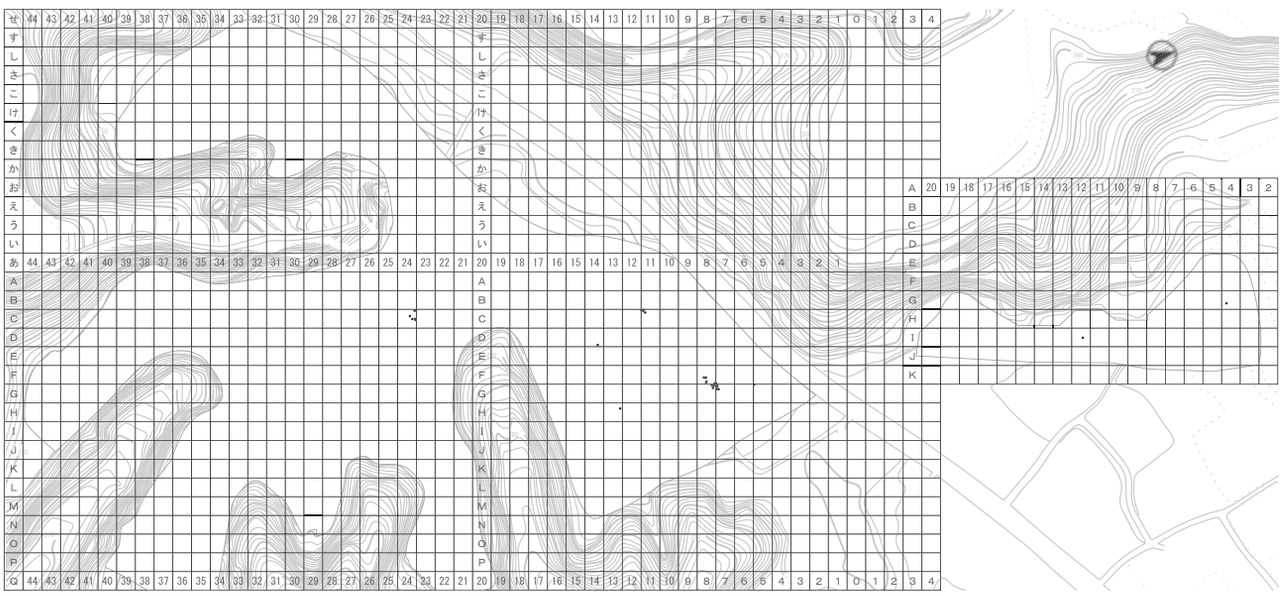
ここで注目できるのは，調整方法においても，胎土中鉱物の含有内容においても，差異が大きいことである。この違いは土器製作技法の根本的な差といっても過言ではなく，製作集団の違いを示している可能性がある。

さて，出土分布図からは，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ～Ｊ-７～11区周辺と，耳取調査区南側地区のうち，特に耳取調査区Ｉ～Ｊ-14～17区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区あ～Ｅ-７～15区周辺と，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区く～さ-26～28区周辺とで広範囲ではあるが，部分的に出土していること(第371図・第372～376図参照)が指摘できる。この分布域が広範囲に拡がるという特徴は，先に述べたように，第12群土器第２類土器第２種土器と共通する特徴であり，注目できる。

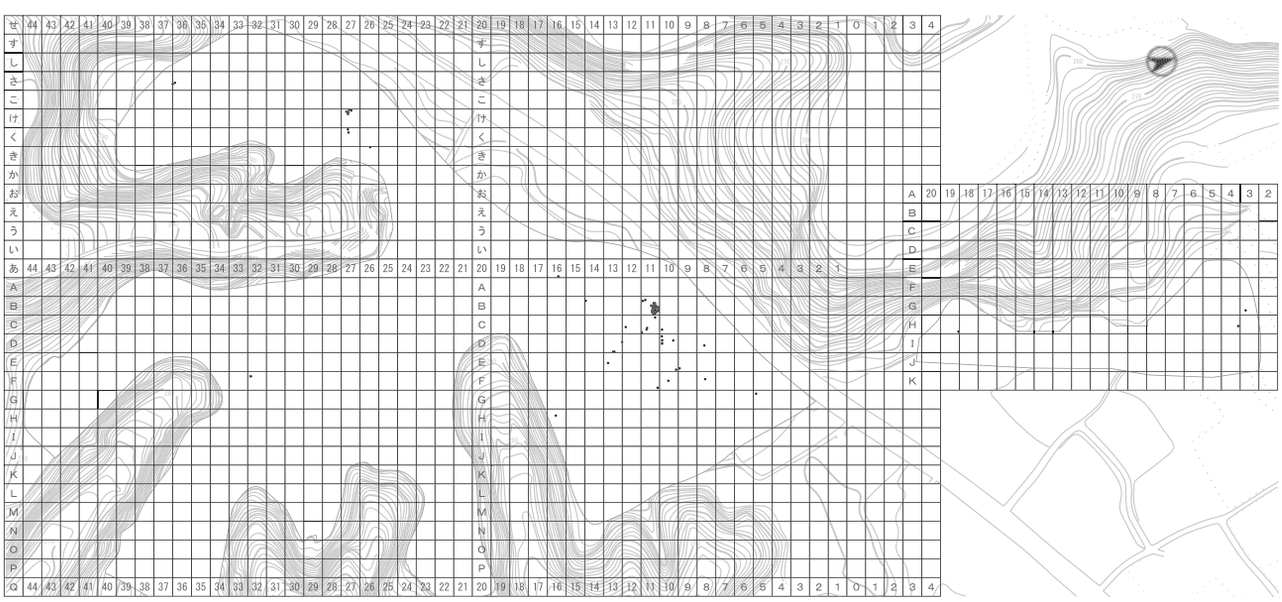
最後に，非常に特異的な形態を呈する，第390図887と第397図925の２個体の土器について指摘して，この項を終えることにする。

第390図887は，口径約60cm，胴部最大径約50cmを測る，超大型の深鉢形土器である。器形的特徴として，口縁形態は平口縁を呈すること，長く直線的な外反する口縁部形態であること，口縁部内面と胴部内面との境をなす稜線は明瞭であること，胴部最大径が胴部上半にあり，胴部中央部から下半部にかけてはほぼ直線的に底部にむけてすぼまる形態であることなどが指摘できる。さらに施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部文様帯上半にかけては，貝殻腹縁による横位方向の刺突連点文もしくは押引文文様が構成されることを挙げることができる。以上のことから，この土器は第２タイプ土器に帰属する土器と判断できる。

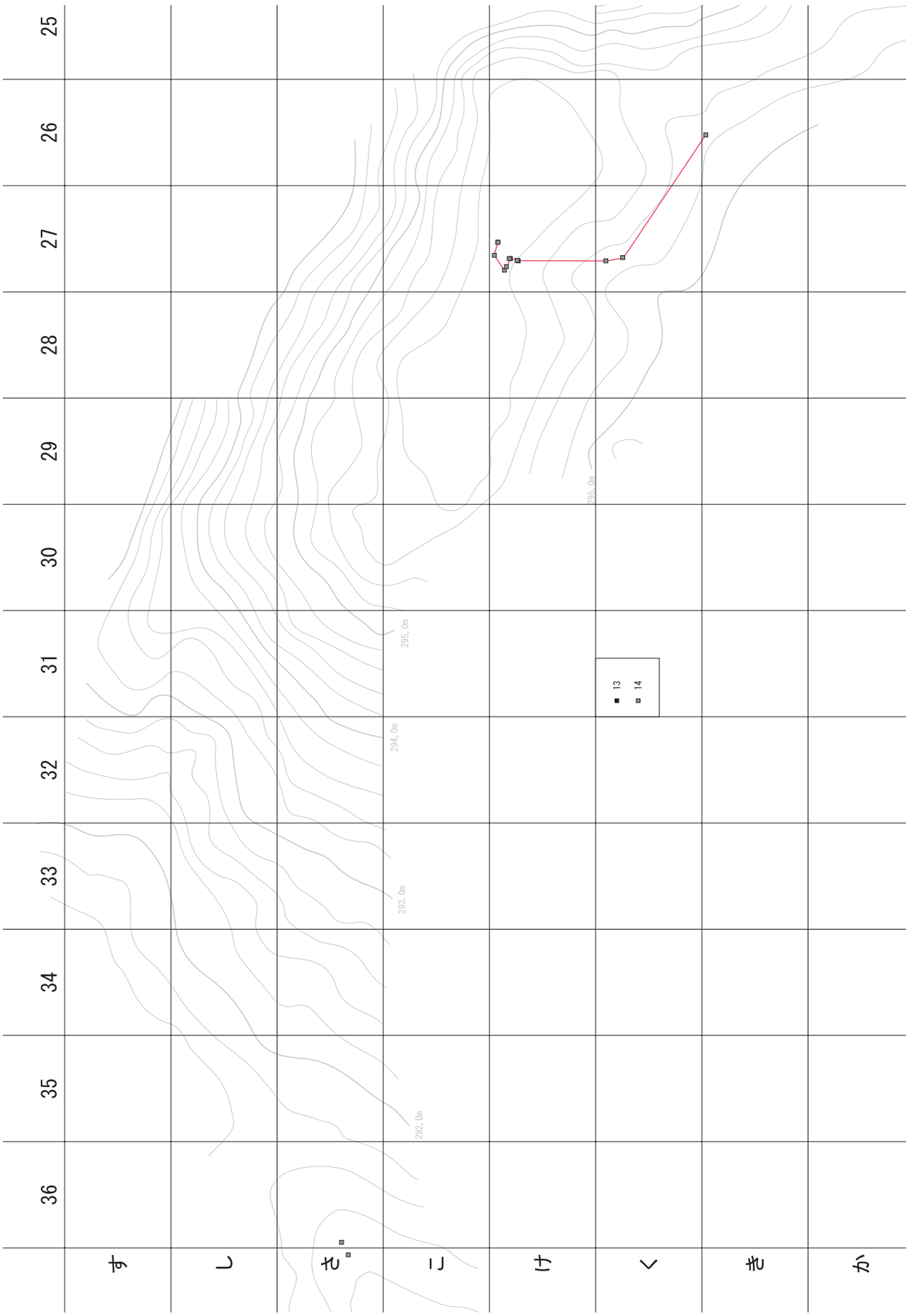
ただし特異的であるのは，通常の深鉢形土器と比べて大きさが非常に大きいことと，外反する口縁部の先端部分が直立する形態を呈することと，口縁下部に幅約10cmを測る三日月状の突起を横位方向に貼り付けることである。この突起



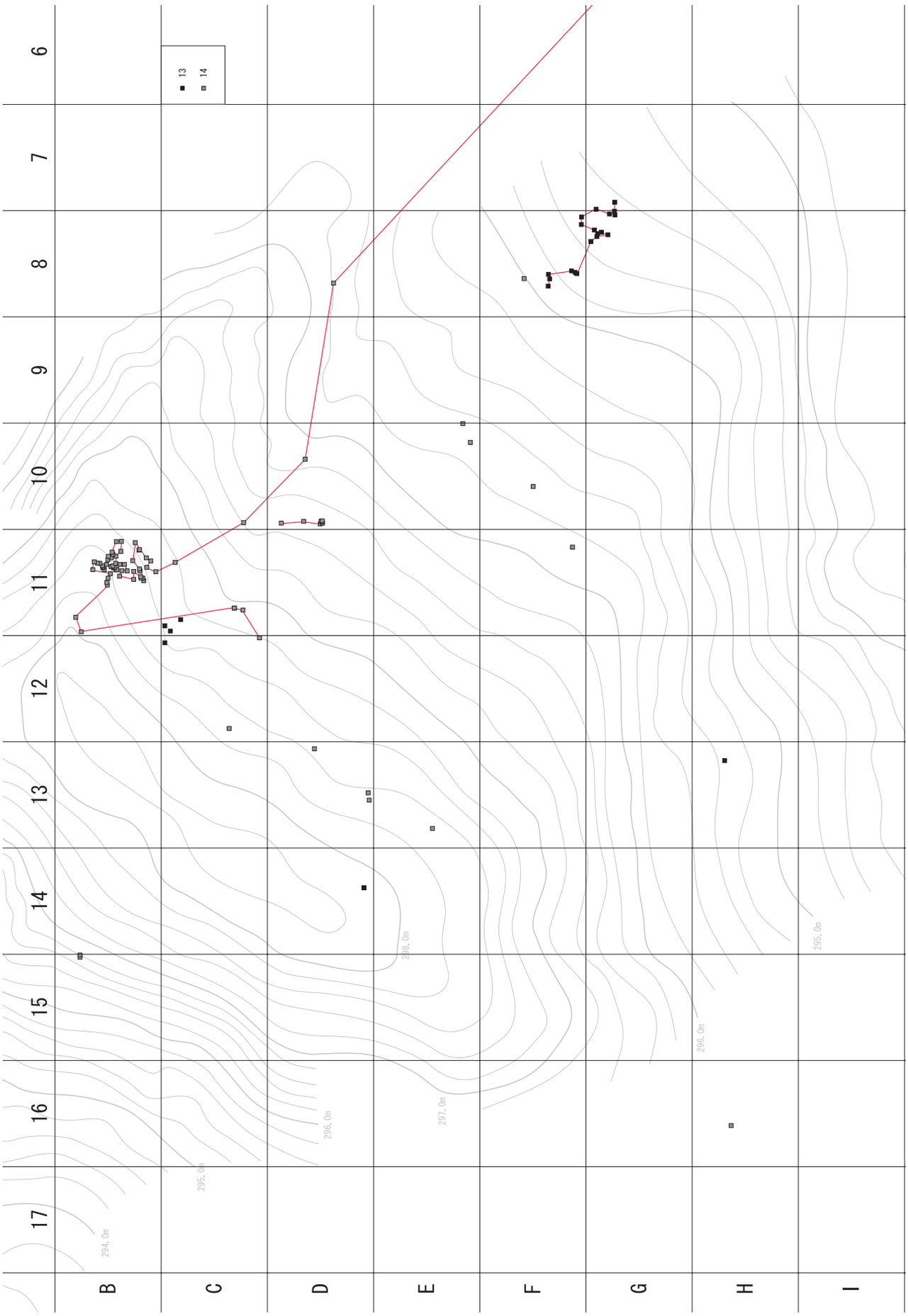
第398図　縄文早期土器分布図70（13群土器，1/4000）



第399図　縄文早期土器分布図71（14群土器，1/4000）



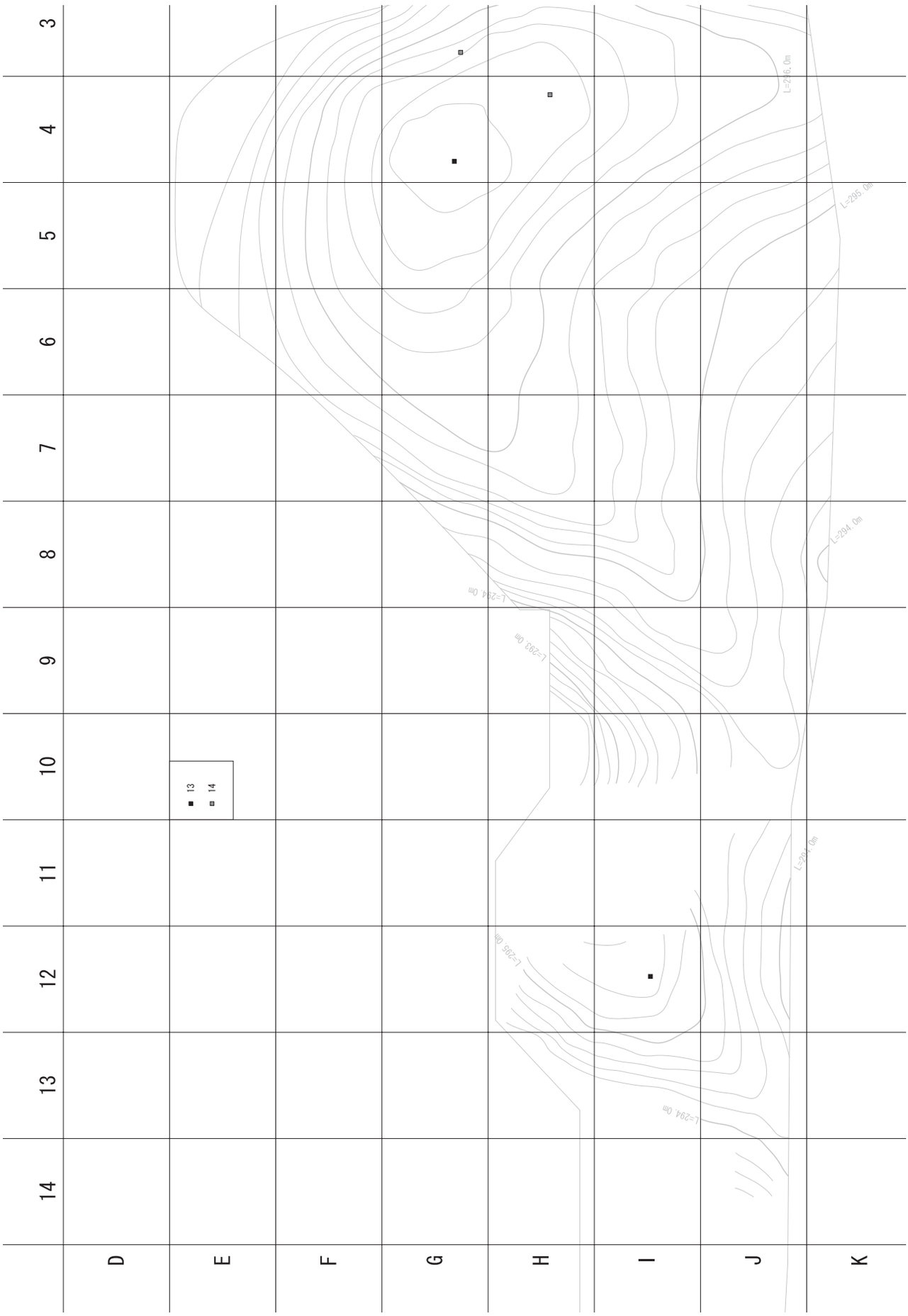
第400図　縄文早期土器分布図72（第13・14群土器１，1/500）



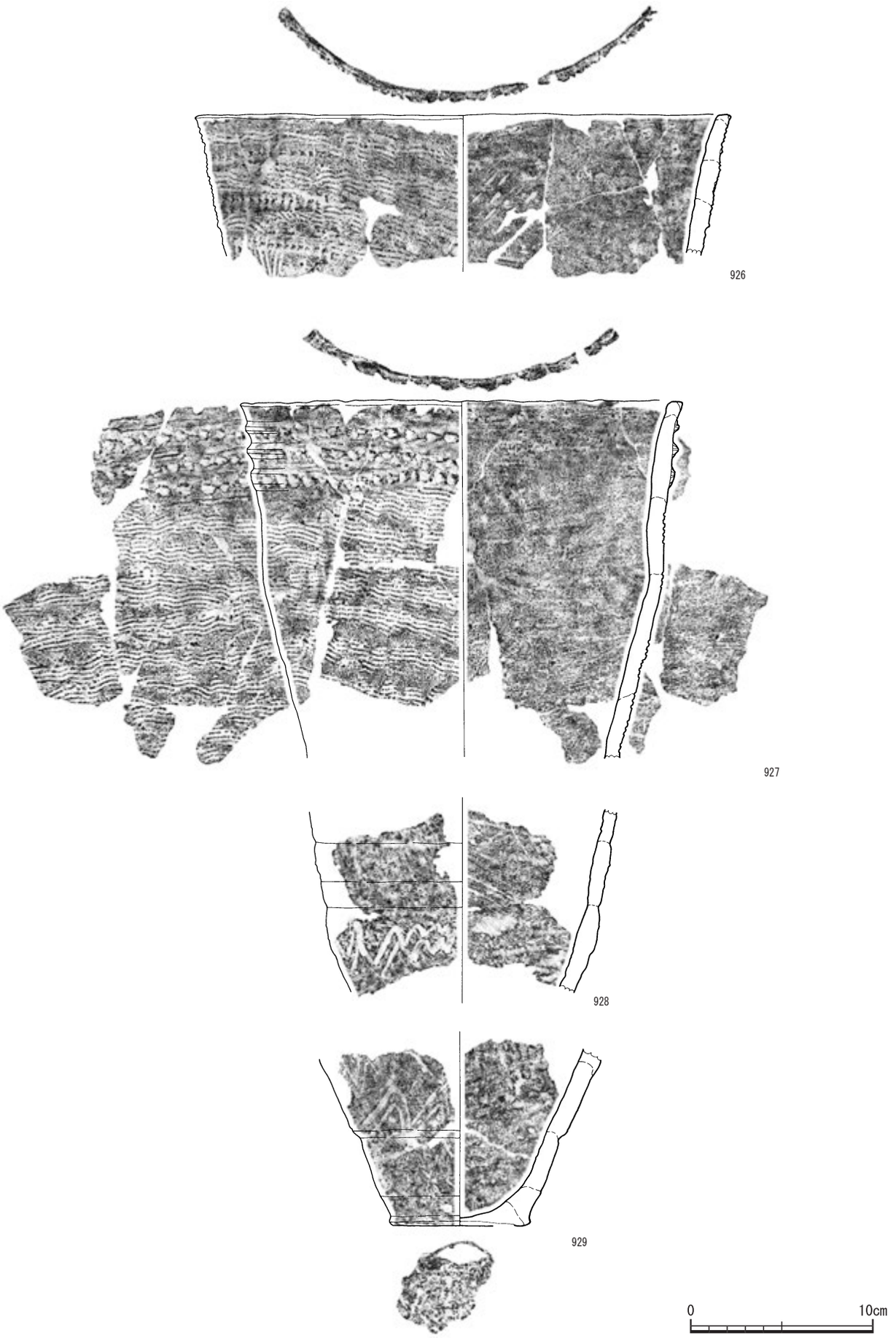
第401図　縄文早期土器分布図73（第13・14群土器２，1/500）

第402図　縄文早期土器分布図74（第13・14群土器３，1/500）

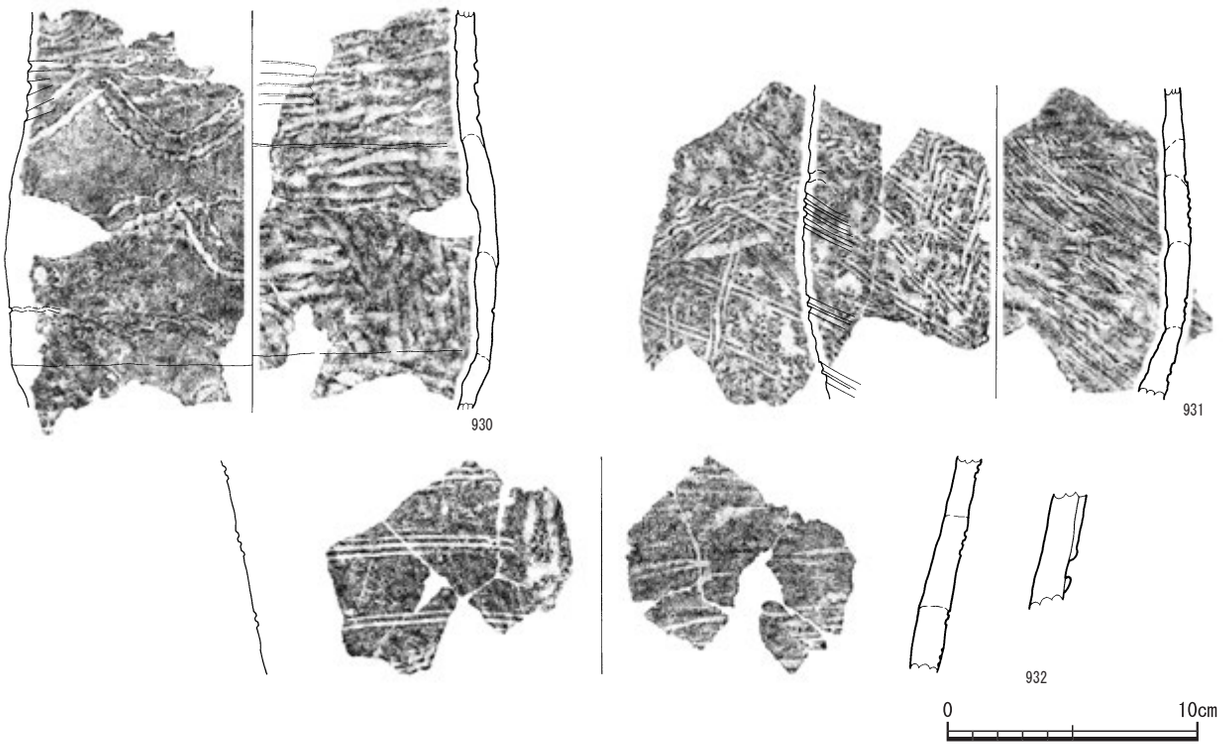
第403図　縄文早期土器分布図75（第13・14群土器４，1/500）



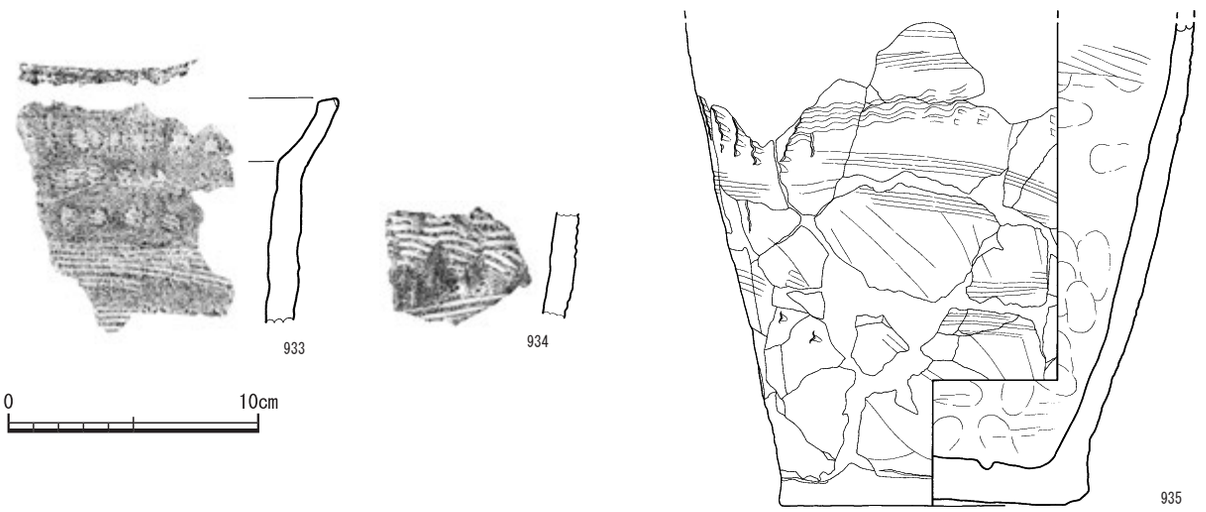
第404図　縄文早期土器分布図76（第13・14群土器５，1/500）

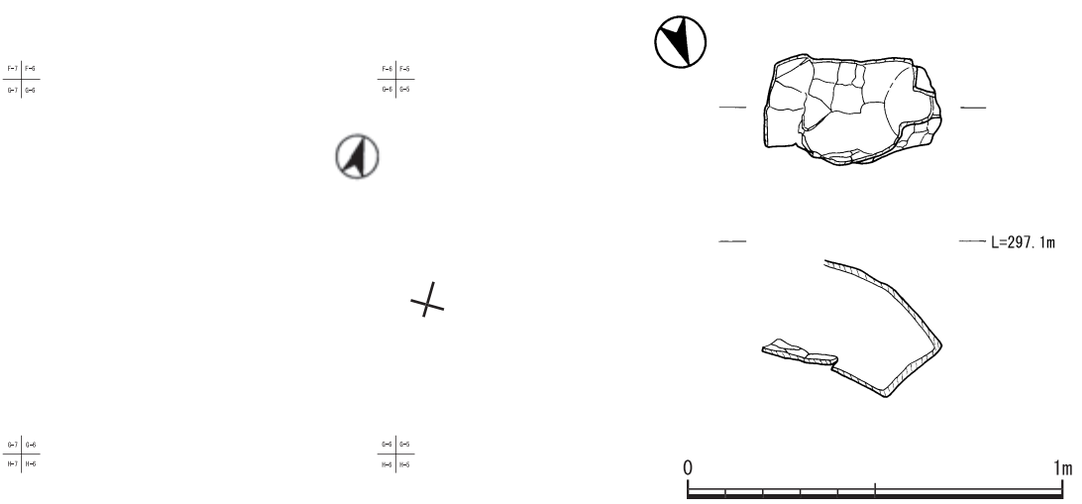


第405図　縄文早期土器実測図（147）（13群土器/桐木調査区出土）

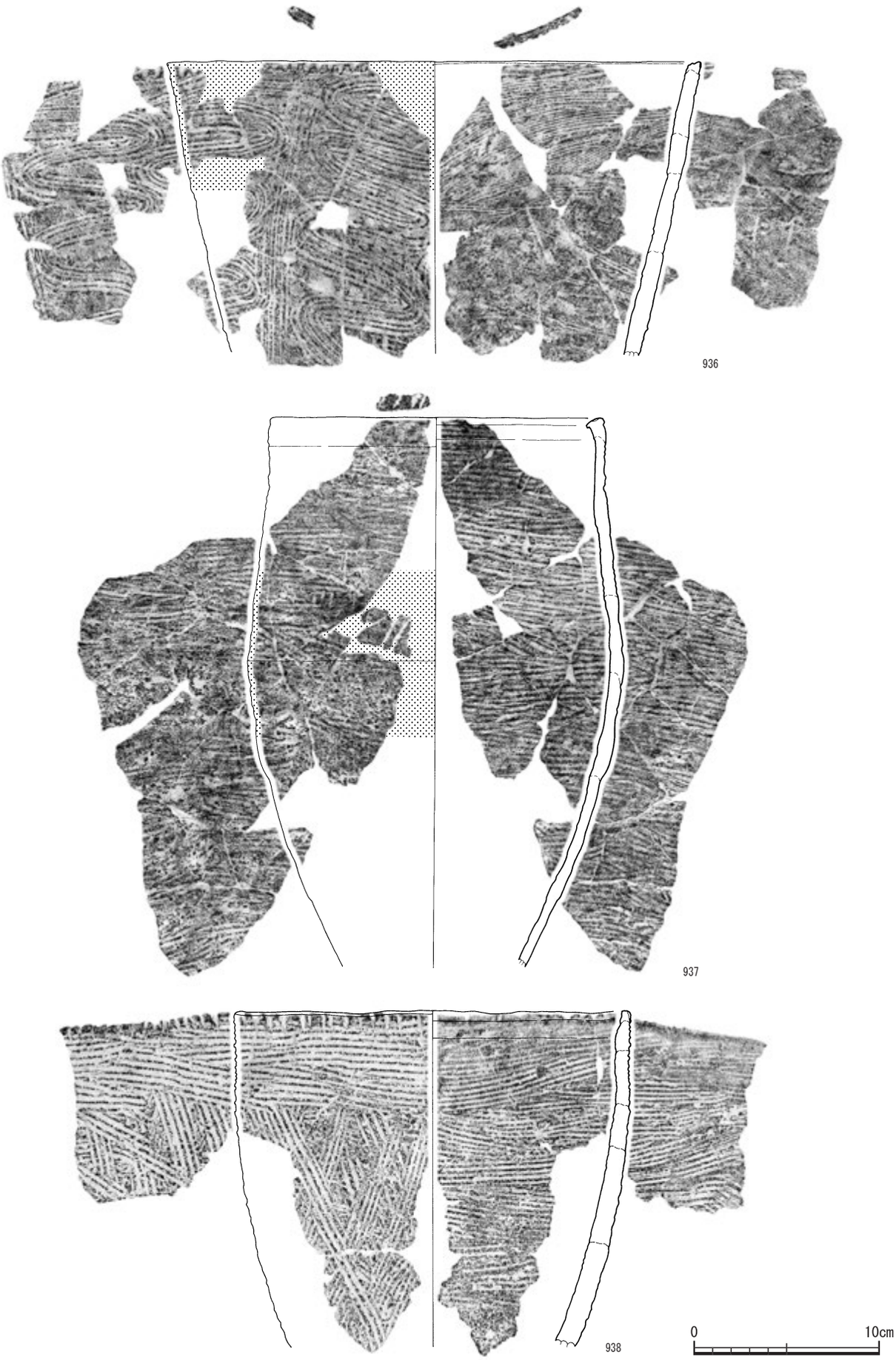


第406図　縄文早期土器実測図（148）（13群土器/桐木調査区出土）

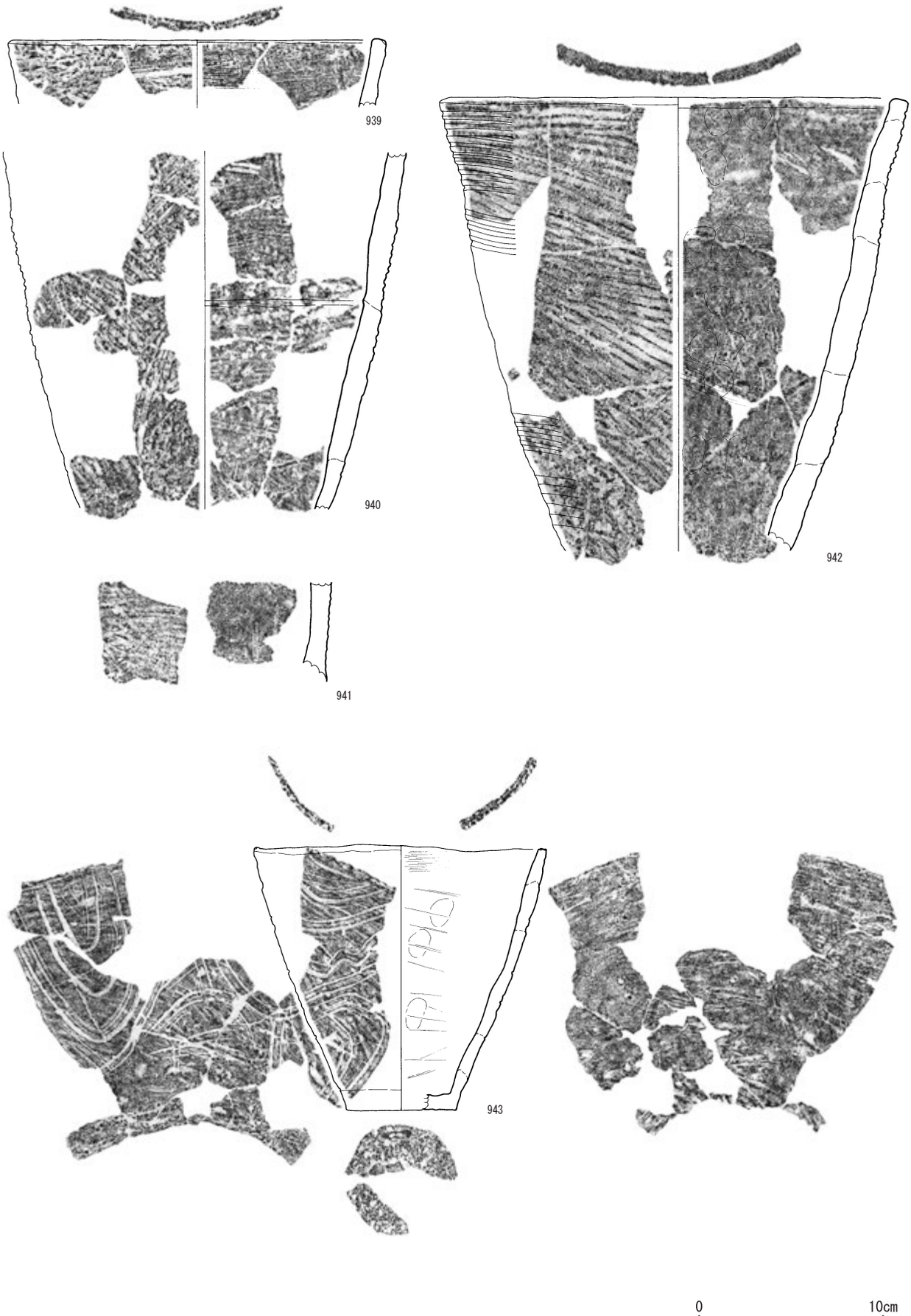




第407図　縄文早期土器実測図（149）（13群土器/耳取調査区出土）/（935）土器出土状況図

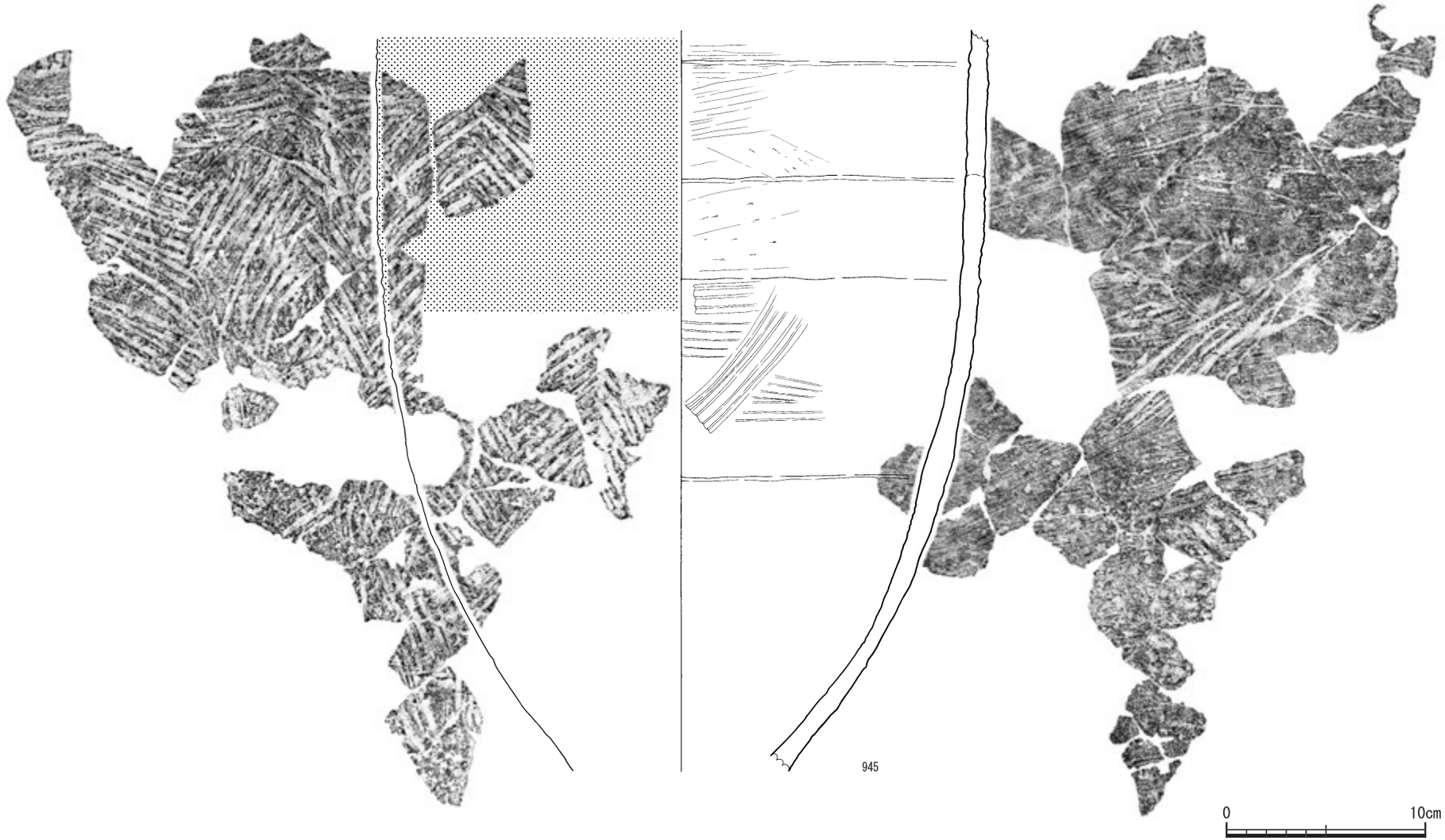


第408図　縄文早期土器実測図（150）（14群土器/桐木調査区出土）



第409図　縄文早期土器実測図（151）（14群土器/桐木調査区出土）

第410図　縄文早期土器実測図（152）（14群土器/桐木調査区出土）



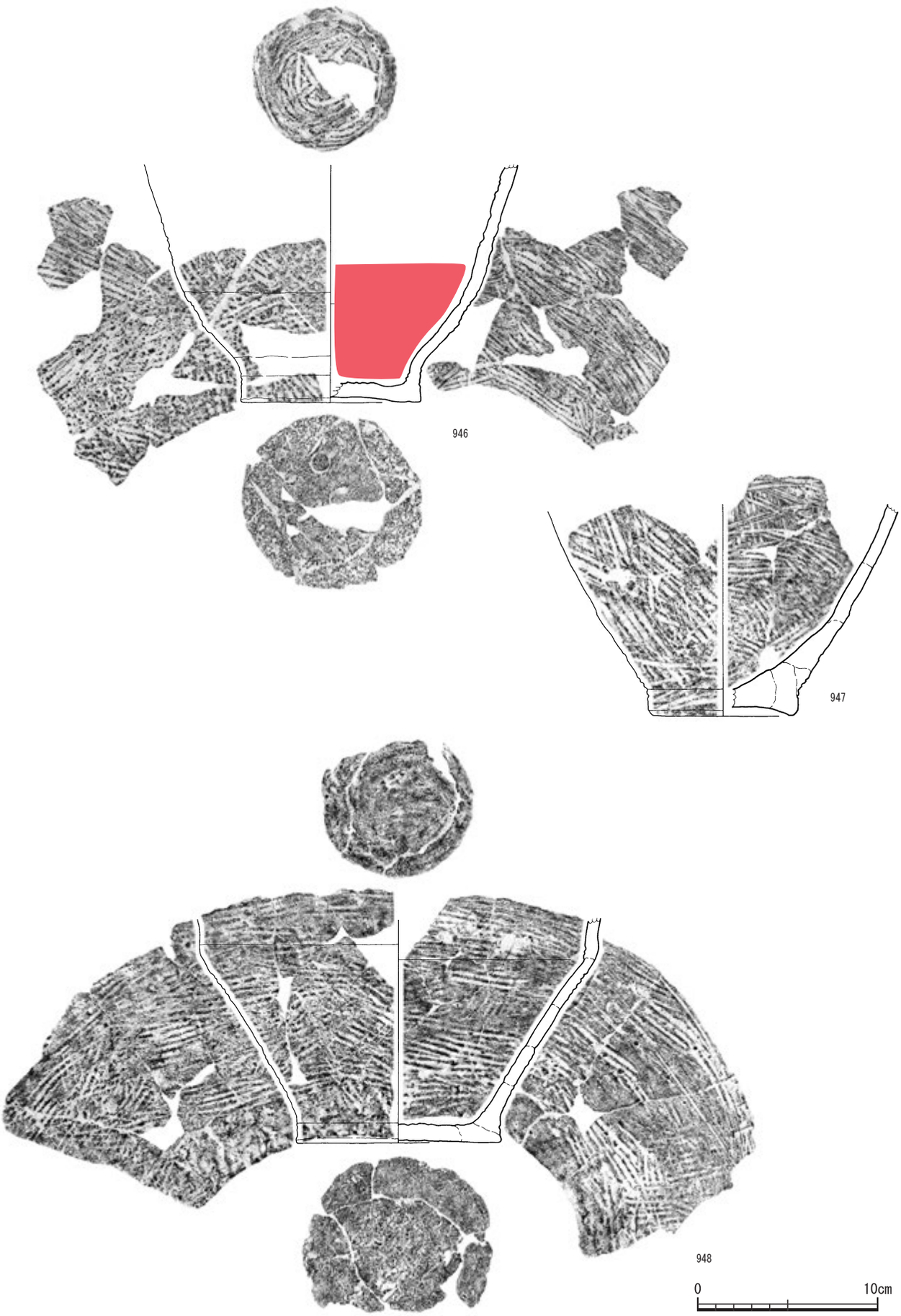
第411図　縄文早期土器実測図（153）（14群土器/桐木調査区出土）

第111表　縄文早期土器観察表（69）（13群土器−１/14群土器−１）

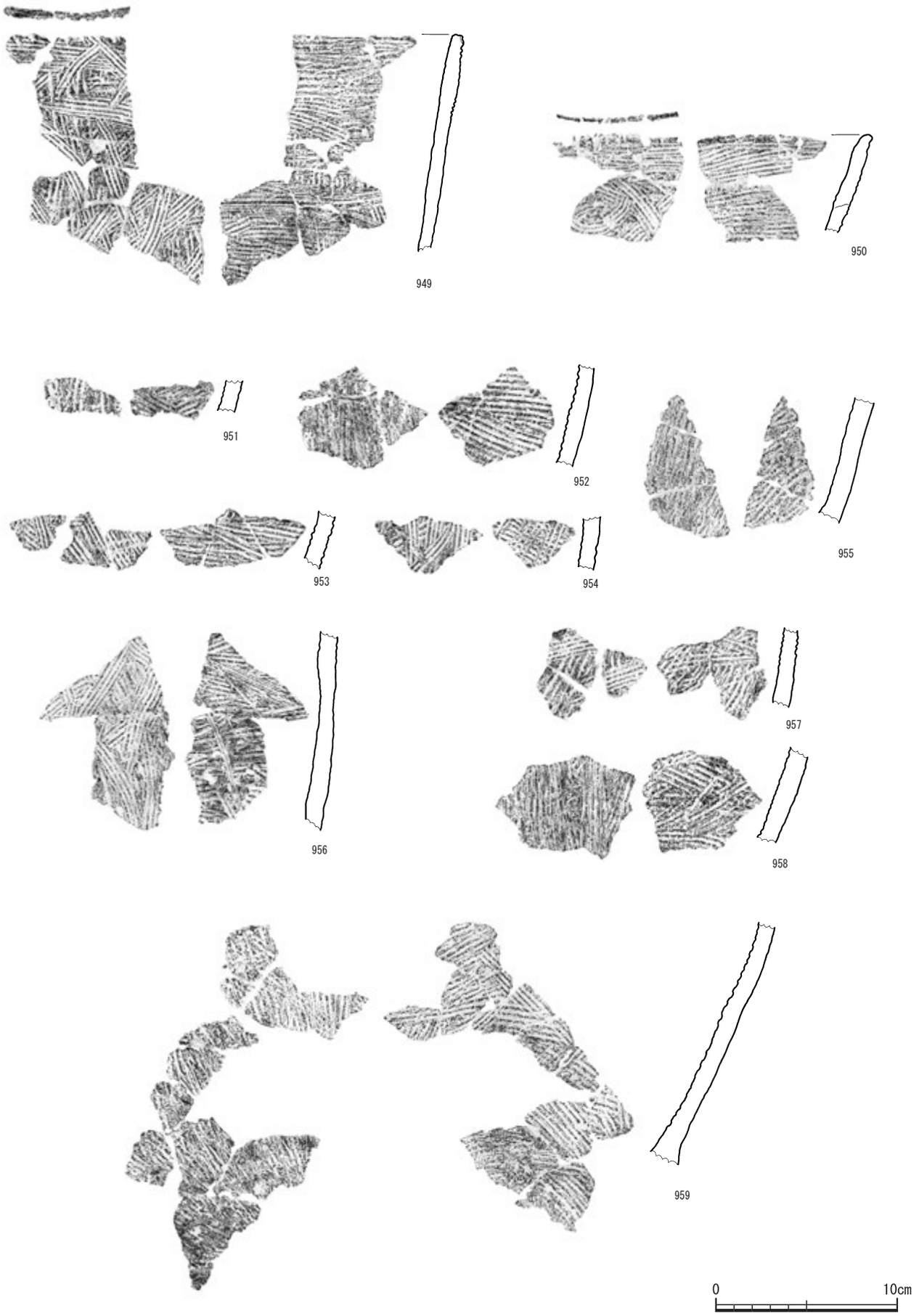
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
405	926	13	○57858(C-24/Ⅵa) ○57862(C-24/Ⅵa) ○57863(C-24/Ⅵa) ○57867(C-24/Ⅵa) ○57870(C-24/Ⅵa) ○59872(H-13/Ⅲb)	雲,輝,砂粒	横ハケ→ナデ, 斜ケズリ→ナデ	−	−
405	927	13	○58446(F-8/Ⅵa) ○58447(F-8/Ⅵa) ○58448(G-8/Ⅵa) ○58452(G-8/Ⅵa) ○58453(G-8/Ⅵa) ○58454(G-8/Ⅵa) ○58457(G-8/Ⅵa) ○58458(G-8/Ⅵa) ○58466(G-7/Ⅴa) ○58467(G-8/Ⅵa) ○58469(G-8/Ⅵa) ○58470(G-8/Ⅵa) ○58471(G-7/Ⅴa) ○65127(F-8/Ⅵa) ○65129(F-8/Ⅵa) ○65130(F-8/Ⅵa) ○65134(F-8/Ⅵa) ○65135(F-8/Ⅵa) ○65137(F-8/Ⅵa)	輝,角,砂粒	貝殻条痕→ナデ	−	−
405	928	13	○47305(D-14/Ⅵa)	黒,砂粒	斜ケズリ→ナデ	ハケ→ナデ,横ハケ→ナデ	−
405	929	13	○47305(D-14/Ⅵa)	黒,角,砂粒	ケズリ→ナデ	横ハケ→ナデ	−
406	930	13	○47305(D-14/Ⅵa)	黒,細粒	貝殻条痕→粗いナデ	ハケ→粗いナデ	混和材:黒雲母
406	931	13	○36174(C-11/Ⅶ) ○36175(C-11/Ⅶ) ○36393(C-11/Ⅵ) ○38905(C-12/Ⅵ)	輝,砂粒	斜ケズリ→粗いナデ	−	−
406	932	13	○58243(G-6/Ⅶ)	砂粒	横ハケ→ナデ	−	外面スス付着
407	933	13	▲3278(I-12/Ⅵa)	黒,輝,砂粒	斜ハケ→横工具ナデ	横ハケ→ナデ	混和材:黒雲母
407	934	13	▲7890(G-4/Ⅵa)	角,輝,雲,細粒	ハケ→丁寧なナデ	縦ハケ→ナデ	細粒多量
407	935	13	▲19300(−/−)	輝,黒,砂粒, 赤粒	横ヘラナデ→ナデ	斜ハケ→ナデ	−
408	936	14	◎32430(き-26/Ⅴ) ◎39270(け-27/Ⅵa) ◎39271(け-27/Ⅵa) ◎39272(け-27/Ⅵa) ◎39274(け-27/Ⅴ) ◎39274(け-27/Ⅴ) ◎39291(け-27/Ⅵa) ◎39292(け-27/Ⅵa) ◎39294(け-27/Ⅵa) ◎39295(け-27/Ⅵa) ◎39310(く-27/Ⅵa) ◎39312(く-27/Ⅵa) ●一括(−/−) ●一括(−/−)	角,細粒	斜,横貝殻条痕	−	外面スス付着
408	937	14	●一括(−/−)	角,細粒	ヘラ,横貝殻条痕→ナデ	ナデ	外面スス付着
408	938	14	○46905(F-32/Ⅵa上) ○46906(F-32/Ⅵa上)	角,細粒	斜貝殻条痕,横貝殻条痕	−	−
409	939	14	○59719(S-45/Ⅵa) ○59720(S-45/Ⅵa) ○59721(S-45/Ⅵa)	輝,砂粒	横ケズリ	−	−
409	940	14	○59705(S-45/Ⅵa) ○59714(S-45/Ⅵa) ○59717(S-45/Ⅵa) ○59718(S-45/Ⅵa) ○59720(S-45/Ⅵa) ○59724(S-45/Ⅵa) ○59738(S-45/Ⅵa)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	−	混和材:角閃石
409	941	14	◎6975(あ-16/Ⅶ)	角,砂粒	指頭痕,ナデ	横条痕→ナデ	ごく浅い横条痕
409	942	14	○10362(C-12/Ⅴ下)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ,指頭痕	−	混和材:角閃石
409	943	14	◎40571(さ-37/Ⅵ) ◎一括(−/−) ●1525(さ-36/Ⅳb)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→ナデ	−	−
410	944	14	○59702(S-45/Ⅵa) ○59710(S-45/Ⅵa) ○59714(S-45/Ⅵa) ○59717(S-45/Ⅵa) ○59718(S-45/Ⅵa) ○59720(S-45/Ⅵa) ○59722(S-45/Ⅵa) ○59726(S-45/Ⅵa) ○59731(S-45/Ⅵa) ○59733(S-45/Ⅵa) ○59735(S-45/Ⅵa) ○59738(S-45/Ⅵa)	角,細粒	横ハケ→ナデ, 横ケズリ, 横貝殻条痕	−	外面スス付着
411	945	14	○51719(H-16/Ⅲb) ○59702(S-45/Ⅵa) ○59704(S-45/Ⅵa) ○59707(S-45/Ⅵa) ○59714(S-45/Ⅵa) ○59717(S-45/Ⅵa) ○59718(S-45/Ⅵa) ○59719(S-45/Ⅵa) ○59720(S-45/Ⅵa) ○59722(S-45/Ⅵa) ○59723(S-45/Ⅵa) ○59725(S-45/Ⅵa) ○59728(S-45/Ⅵa) ○59729(S-45/Ⅵa) ○59735(S-45/Ⅵa)	輝,雲,角,砂粒	横ハケ→ナデ,斜ケズリ,横貝殻条痕→斜貝殻条痕	−	外面スス付着
412	946	14	○21273(D-10/Ⅳ) ○21274(D-10/Ⅳ) ○21276(D-10/Ⅳ) ○21277(D-10/Ⅳ) ○21386(D-10/Ⅳ) ○28350(D-10/Ⅴ下) ○28355(D-10/Ⅴ下) ○30919(D-10/Ⅴ上)	輝,細粒	横貝殻条痕→ナデ	−	パイプ状ベンガラ塗布

第112表　縄文早期土器観察表（70）（14群土器−２）

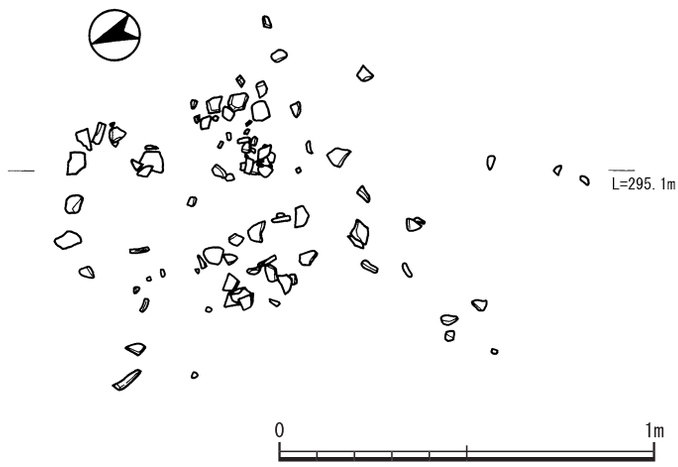
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
412	947	14	○5085(B-11/Ⅲa下) ○11432(B-11/Ⅴ下) ○11517(B-11/Ⅴ下) ○11529(B-11/Ⅴ上) ○30298(B-11/Ⅴ下) ○31416(C-10/Ⅴ下) ○35575(C-11/Ⅵ) ○35578(C-11/Ⅵ) ○35618(C-11/Ⅵ) ○35618(C-11/Ⅵ) ○35649(C-12/Ⅵ) ○35948(B-11/Ⅴa) ○35952(B-11/Ⅴb) ○35953(B-11/Ⅴb) ○35954(B-11/Ⅴb) ○35966(B-11/Ⅴa) ○36157(B-11/Ⅴb) ○36529(B-11/Ⅵ) ○36530(B-11/Ⅵ) ○36531(B-11/Ⅵ) ○36532(B-11/Ⅵ) ○36533(B-11/Ⅵ) ○36535(B-11/Ⅵ) ○36536(B-11/Ⅵ) ○36541(B-11/Ⅵ) ○36542(B-11/Ⅵ) ○36543(B-11/Ⅵ) ○36545(B-11/Ⅵ) ○36547(B-11/Ⅵ) ○36548(B-11/Ⅵ) ○36549(B-11/Ⅵ) ○36550(B-11/Ⅵ) ○36551(B-11/Ⅵ) ○36552(B-11/Ⅵ) ○36555(B-11/Ⅵ) ○36558(B-11/Ⅵ) ○36562(B-11/Ⅵ) ○36564(B-11/Ⅵ) ○36565(B-11/Ⅵ) ○36566(B-11/Ⅵ) ○36567(B-11/Ⅵ) ○36569(B-11/Ⅵ) ○36570(B-11/Ⅵ) ○36572(B-11/Ⅵ) ○36573(B-11/Ⅵ) ○36575(B-11/Ⅵ) ○36576(B-11/Ⅵ) ○37154(B-11/Ⅵ) ○37155(B-11/Ⅵ) ○37161(B-11/Ⅵ上) ○37163(B-11/Ⅵ) ○37164(B-11/Ⅵ) ○37165(B-11/Ⅵ) ○37166(B-11/Ⅵ) ○37167(B-11/Ⅵ) ○37171(B-11/Ⅵ) ○37173(B-11/Ⅵ) ○37183(B-11/Ⅵ) ○37933(D-10/Ⅷ) ○40629(D-8/Ⅶ) ○58308(G-5/Ⅵa)	角,細粒	貝殻条痕	底面:ナデ	−
412	948	14	○1323(F-11/−)	輝,細粒	横貝殻条痕 →ユビナデ,ナデ	条痕→ナデ, 貝殻条痕→ナデ	−
413	949	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,雲,細粒	斜,横貝殻条痕	口唇部:ハケ →ナデ	細粒多量
413	950	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,耀,細粒 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	胎土精選
413	951	14	▲19301(−/−)	輝,角,細粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	952	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	953	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	954	14	▲19301(−/−)	輝,角,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	955	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	角,輝,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	956	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	957	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,細粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	−
413	958	14	▲19301(−/−)	角,輝,砂粒, 赤粒	斜,横貝殻条痕	−	細粒多量
413	959	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	角,輝,雲,細粒 ,赤粒	斜,横貝殻条痕	−	細粒多量



第412図　縄文早期土器実測図（154）（14群土器/桐木調査区出土）

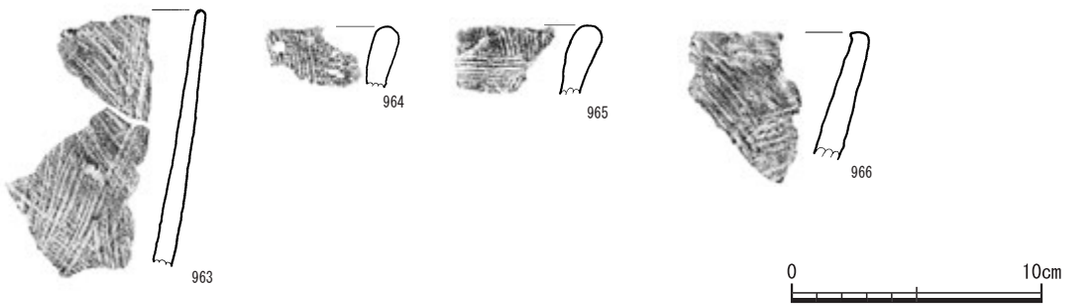


第413図　縄文早期土器実測図（155）（14群土器/耳取調査区出土）

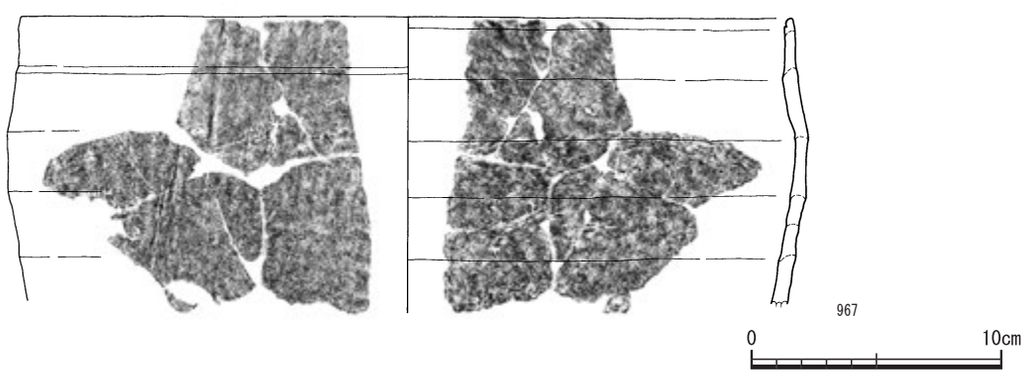


第414図　（949～962）土器出土状況図

第415図　縄文早期土器実測図（156）（14群土器/耳取調査区出土）



第416図　縄文早期土器実測図（157）（14群土器/耳取調査区出土）



第417図　縄文早期土器実測図（158）（15群土器/桐木調査区出土）

第113表　縄文早期土器観察表（71）（14群土器−３）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
415	960	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	輝,角,雲,細粒,赤粒	斜,横貝殻条痕	−	外面スス付着,細粒多量
415	961	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	角,輝,雲,細粒,赤粒	斜,横貝殻条痕	−	細粒多量

第114表　縄文早期土器観察表（72）（14群土器−４/15群土器−１）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
415	962	14	▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−) ▲19301(−/−)	角,輝,雲,細粒,赤粒	斜,横貝殻条痕	−	細粒多量
416	963	14	▲2407(H−19/VIa) ▲2408(H−19/VIa)	輝,雲,微粒	横ハケ→ナデ	−	胎土精選
416	964	14	▲8868(H−4/VIa)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	−	細粒多量
416	965	14	▲8261(G−3/VII)	輝,角,雲,細粒	丁寧なナデ	−	細粒多量
416	966	14	▲19515(−/−)	輝,細粒	貝殻条痕→横ハケナデ	−	胎土精選
417	967	15	○58147(E−5/VII) ○58717(E−6/VIII) ○60018(E−6/VIII) ○60309(G−3/VIII) ○60378(E−6/VIII) ○60753(D−7/VII) ○60754(D−7/VII) ○61729(D−7/VIII)	輝,角,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	−

は，その大きさや貼付されている位置から，把手と判断できる。いずれにしても，通常の深鉢形土器とは異なる用途に使用されたと考えられる土器である。

また第397図925は，「無頸壺」形態を呈する，壺形土器の口縁部から頸部にかけての資料である。本群に属する壺形土器はこの１点の出土である。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口唇上端部は若干内傾する平坦面を作出することが指摘できる。

施文的特徴としては，口縁部文様帯から頸部文様帯にかけて横位方向の沈線文を多条にわたり巡らすのが特徴である。

第13群土器(第405～407図926～935)

第13群土器に属する土器を10点資料化した。

本群に属する土器は，層位的には主にⅥａ層を中心に出土しているが，より下層のⅦ層からも出土していることから，遺物の若干の移動のあることが認められる。

第13群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口唇部端部は水平あるいは若干内傾する平坦面を作出する。口縁部形態には外反する土器(第407図927,933)と，口縁部がバケツ状に直線的に外反する土器(第405図926)とが，本遺跡から出土した。頸部形態はゆるくしまり，胴部形態は中央部あるいは胴部下半が膨らむ形態を指摘できる。胴部下半から胴部下端にかけては直線的にすぼまり，底部は若干の上げ底となる平底形態である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には口唇端部外面に貝殻腹縁による刻みを巡らし(第405図927)，口縁部文様帯には貝殻腹縁による刻目を施した突帯を横位方向に数条施す特徴を挙げることができる。また胴部文様帯には，貝殻腹縁による条痕文を横位方向に巡らす部分と，貝殻腹縁による波状押引文を横位方向に巡らす部分とを，交互に施す土器(第405図927，第407図934・935)が多くみられた。その他には，貝殻押引文と，貝殻もしくは叉条工具による斜格子沈線文や弧状沈線文とを組み合わせることで文様を構成している土器(第406図930・931)もみうけられた。さらには口縁部文様帯から胴部文様帯にかけては，この文様の上からコブ状の突帯を縦位に施す土器(第406図932)もあった。胴部文様帯下半から底部にかけては叉条工具などで振幅の大きな波状沈線文を横位方向に１条巡らす土器(第405図928・928)が，特徴的である。

以上の特徴から本類土器は，苦浜式土器に分類できる土器群である。

本類土器の調整方法としては，内器面では直前調整として木製工具による横位方向のハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整を行うのが特徴である。また最終調整として篦状工具によるナデ調整を行う土器や，丁寧なナデ調整を行う土器がある。

さらに最終調整としてナデ調整あるいは粗いナデ調整を行う土器のほとんどは，直前調整として横位方向もしくは斜位方向のケズリ調整の痕跡が観られる土器であることが特徴として指摘できる。この調整は，第12群土器第３類土器第２種土器と共通する技法であり，注目できる。

本類土器の胎土中鉱物は，主に輝石，雲母などで構成される土器が主体を占める特徴がある。そして，角閃石を含む土器と，黒雲母を含む土器との割合は同程度である。また，それぞれ多量に含まれる土器があり，混和材として含ませた可能性が高いことが特記できる。

また，粗い粒度の鉱物が含まれる土器の割合は高い状況がみられた。そして，なかには細かい粒度の鉱物において，多量に含まれる土器が多く出土しており，混和材として含ませた可能性が高いことが指摘できる。

ここで注目できるのは，調整方法においても，胎土中鉱物の含有内容においても，第12群土器第３類土器との共通性が高いことであり，第12群土器第３類土器の項で述べた問題点が，本群土器にも指摘できる。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｆ・Ｇ-７・８区周辺と，桐木調査区Ｃ-11区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ-24区周辺とで広範囲に，そして部分的に出土していること(第398図・第400～404図参照)が指摘できる。この分布域が広範囲に拡がるという特徴は，先に述べたように，第12群土器第２類土器第２種土器や第３種土器と共通する特徴であり，注目できる。

第14群土器(第408～416図936～966)

第14群土器に属する土器を31点資料化した。

本群に属する土器は，層位的には主にⅥａ層を中心に出土しているが，より下層のⅦ層や上層のⅤ層からも出土していることから，遺物の若干の移動のあることが認められる。

第14群土器に属する土器は，その施文的特徴および器形的特徴からも分類を行うことはできなかった。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈する土器(第408図936～938，第409図939,942,943，第413図949・950，第415図960，第416図963～966)と，波状口縁を呈する土器(第410図944)とがあるのが指摘できる。口唇部端部は，水平あるいは若干内傾する平坦面を作出する土器が主体を占めるが，なかには舌状を呈する土器(第415図960，第416図963～966)がある。口縁部形態にはバケツ状に胴部から口縁部にかけて直線的に外反する土器が主体を占めるが，なかには胴部が緩やかに膨らみ口縁部が直立する土器(第408図938，第410図944)や，胴部が中央部で張り，口縁部が内弯する土器(第408図937)も本遺跡から出土した。胴部形態は，胴部上半から口縁部にかけての形態の如何に関わらず，胴部下半では直線的に底部へすぼまる形態を呈する。平底もしくは若干の上げ底となる形態を呈する底部は，立ち上がり部から外に張

り出す形態であるのが特徴である。

ここで注目できるのは，胴部下半から底部にかけて緩やかに移行する形態の土器(第410・411図944・945)があることである。これらの土器は，全体器形が砲弾形となり，注目できる。

施文的特徴は，口唇部文様帯には刻みを施す土器と，刻みを施さずに施文を行わない土器とがあることが挙げられる。また，口縁部文様帯には横位方向の貝殻条痕文を，胴部文様帯には胴部下端部にかけて斜位方向や斜格子状の貝殻条痕文を，施すのが主体を占める特徴である。なかには，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて器面全面に貝殻や棒状工具を用いた流水状の条痕文を施す土器(第408図936，第409図943)が観られた。

ここで注目できるのは，第412図946である。この土器の内面には赤色顔料が塗布されており，科学分析からパイプ状のベンガラと同定された土器である。

本群土器の調整方法としては，内器面では最終調整として貝殻条痕調整を行うのが特徴であり，ナデ調整やハケ調整を行った痕跡が観られないのが特徴である。

本群土器の胎土中鉱物は，主に角閃石，輝石および細かい粒度の鉱物などで構成される土器が主体を占める特徴がある。また，細かい粒度の鉱物において，多量に含まれる土器が多く出土しており，混和材として含ませた可能性が高いことが指摘できる。特に，胎土中の鉱物が精選されていることが注目できる。

さて，出土分布図からは，桐木調査区北側地区のうち，特に桐木調査区Ｂ-11区周辺で集中的に出土し，桐木調査区Ｃ～Ｆ-８～13区周辺で広範囲に，そして部分的に出土していること(第399図・第400～404図参照)が指摘できる。この分布域が集中的出土区域がありながらも，広範囲に拡がるという特徴は，先に述べた第12群土器第２類土器第２種土器や第３種土器，そして第13群土器とは異なる特徴であり，注目できる。

第４節　石器

縄文時代早期の石器は，桐木遺跡から耳取遺跡にかけての約600mの範囲にいくつかの集中部を持ちながら出土している。

層位的にはⅧ層～Ⅵ層が主体を占めるが，土層の堆積状況は地点によって異なり，また，土器の分布状況等から複数の時期の遺物が重複して存在している可能性が高いため，便宜的に一括して取り扱う。

個々の石器の所属時期等については作業上の制約から十分検討できなかった。今後必要に応じて個別的な検討・評価が必要である。個々の石器の出土区，層位等を実測図にも添付し，石材別の分布図をエリア別に示した。

石材分類については，肉眼的特徴による分類を基本とし，第Ⅲ文化層の分類基準を準用した。エリア・ブロックの設定についても同様である。

第１エリア

く～さ-36～39区付近に分布する。

け-38区に径5m程の遺物集中部を確認し，第１ブロックとした。黒曜石Ⅲ類を主体とするエリアであり，二次加工痕剥片などが散見される。968は横広の剥片のエンド側に押圧剥離を施している。969にも押圧剥離による調整痕が観察されるが上部は破断している。

第２エリア

き～せ-25～35区ににかけて分布する。

チャートを主体とする遺物集中部が確認され，第２～第４ブロックとした。け・こ-27・28区にも石器の集中部が認められるが，これ以外の出土状況はやや緩慢である。

エリア内のブロックを構成する石材はいずれもチャートを主体としている。抽出された石器もチャートが主体であり，チャートを素材とする石器製作が行われた可能性が高い。

975は灰白色のチャートを使用し，脚部は両方とも破断している。977も小型の石鏃で素材の専ら主要剥離面側から二次加工を施し，先端は破断している。

エリア内からはこのほかに玉髄，黒曜石Ⅱ類，黒曜石Ⅲ類，安山岩，頁岩など，多様な石材を使用した石器が出土している。石鏃の形状は使用する石材によってやや特徴が看取でき，玉髄はやや小型で浅い抉りを造り出すもの(979～982)，黒曜石Ⅲ類は比較的大型で浅い抉りを造り出すもの(983・984・990)，チャートは大型で深い抉りをもつもの(998・1000・1001)等がみられる。このほかに石錐，削器，両極石核等がみられる。

第３エリア

あ～か-18～24区にかけて分布する。石器が集中して出土する地点はなく，製品単体での出土が多い。

製作される石鏃の形状や使用石材も多様であり，石器群としての一括性は低いものと推測される。

第４エリア

Ａ～Ｉ-37～44区にかけて分布する。周辺で遺物の出土が確認されていないためエリアとして一括したが，遺物分布はＦ～Ｉ-42～44区付近に集中し，Ｃ・Ｄ-39・40区付近にまばらな分布がある。

チャート製の鍬形鏃２点(1056・1057)と石斧３点(1058～1060)の出土が特徴的である。1058は背面に自然面をもつ剥片を素材とし，周縁に整形剥離を施して製品としている。背面の刃部付近および左側縁の一部には細かな剥離痕が観察され，背面の刃部付近の剥離痕は打角がほぼ垂直に近い。おそらく石斧の使用痕と考えられる。

1059は白い縞状の節理を呈するホルンフェルスを使用する。素材はおそらく長円形の扁平な円礫であり，側縁を整形剥離，上下端を敲打によって整形している。明確な刃部の作出は行われておらず，未製品あるいは半加工段階で遺棄されたものとみられる。1060は風化面が肌色を呈する輝石安山岩の大型剥片を素材としている。荒割りした素材剥片の左側縁と下端部の一部に調整剥離を施している。このほかにハンマー，磨石・石皿等が出土している。磨石には磨面及び側縁部を平坦に面取りする意匠がみられるものが含まれている。

第５エリア

Ｂ～Ｉ-21～26区付近に分布する。特にＥ～Ｈ-22～24区付近は濃密な分布を示し，ほとんどチャートのみで構成される遺物集中部が複数検出されている。(第５～第９ブロック)

各ブロックでは石鏃とその未製品を中心に石核，剥片等が検出されている。組成されている石鏃の形状は鍬形鏃やそれに類する大型の石鏃(1078・1079・1089～1091・1097・1118)，が多いが，チャート製の小型の石鏃(1073～1075)や黒曜石Ⅲ類を使用するもの(1096)等が散見される。

周辺のブロック外では，チャート製のほか安山岩・玉髄・頁岩などを使用した石鏃，削器，二次加工痕剥片，石核等が多くみられる。また，数は少ないが磨石・敲石・ハンマー・石皿などの礫石器も出土している。

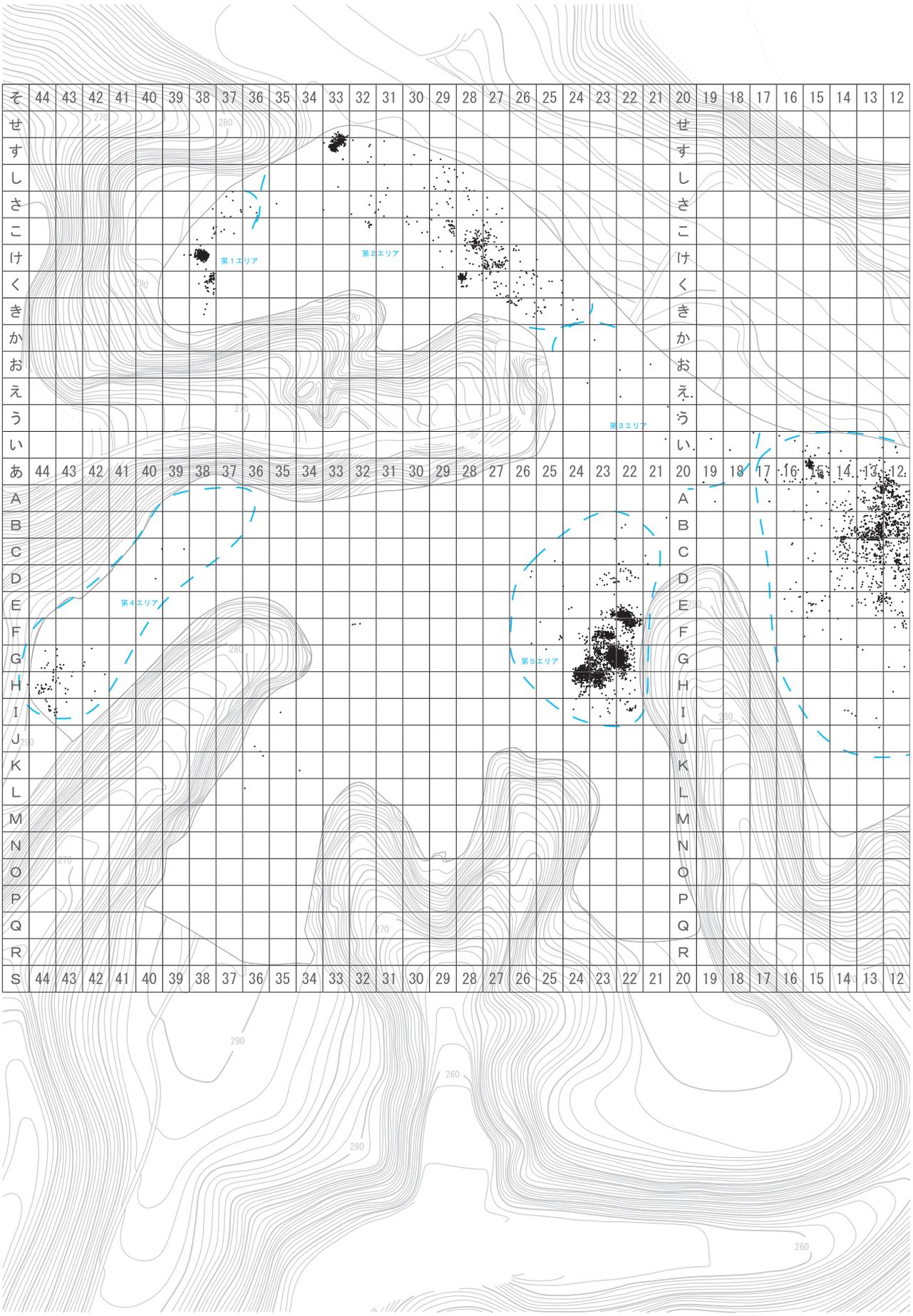
第６エリア

第６エリアは，い～Ｊ-２～17区までを包括した。

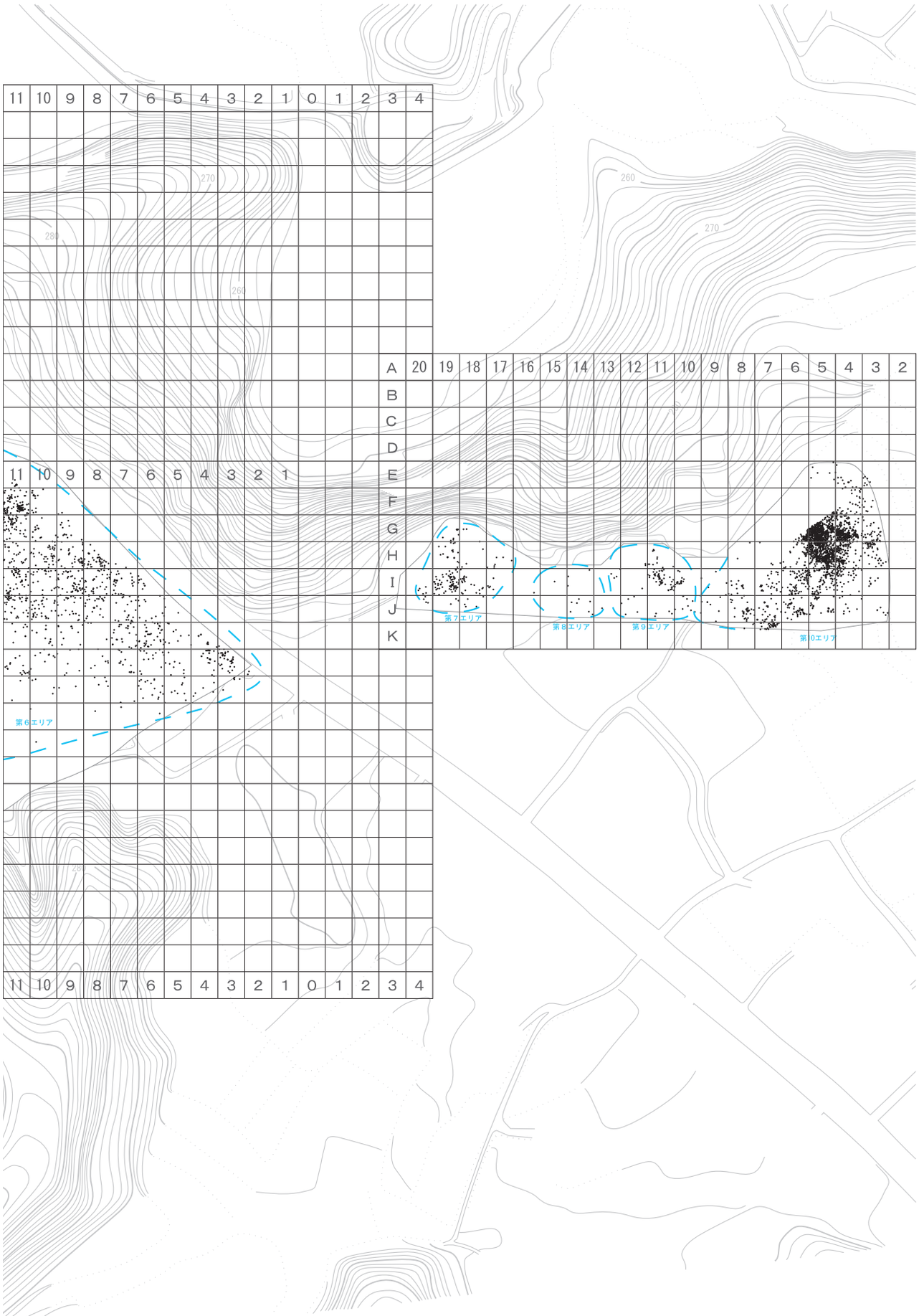
エリア内の遺物分布は明確な空白域をもたず広範囲に分布する。出土状況を石材別にみれば，石材別の分布状況には一定の集中域が確認できる。しかし，分布状況が緩慢で連続的なためにこれらを平面的分布から明確に区分することは困難である。従ってやむを得ず，便宜的に一括して提示した。個々の石器の所属時期等については出土層位や使用石材，石器製作技術等を考慮して総合的に判断する必要がある。

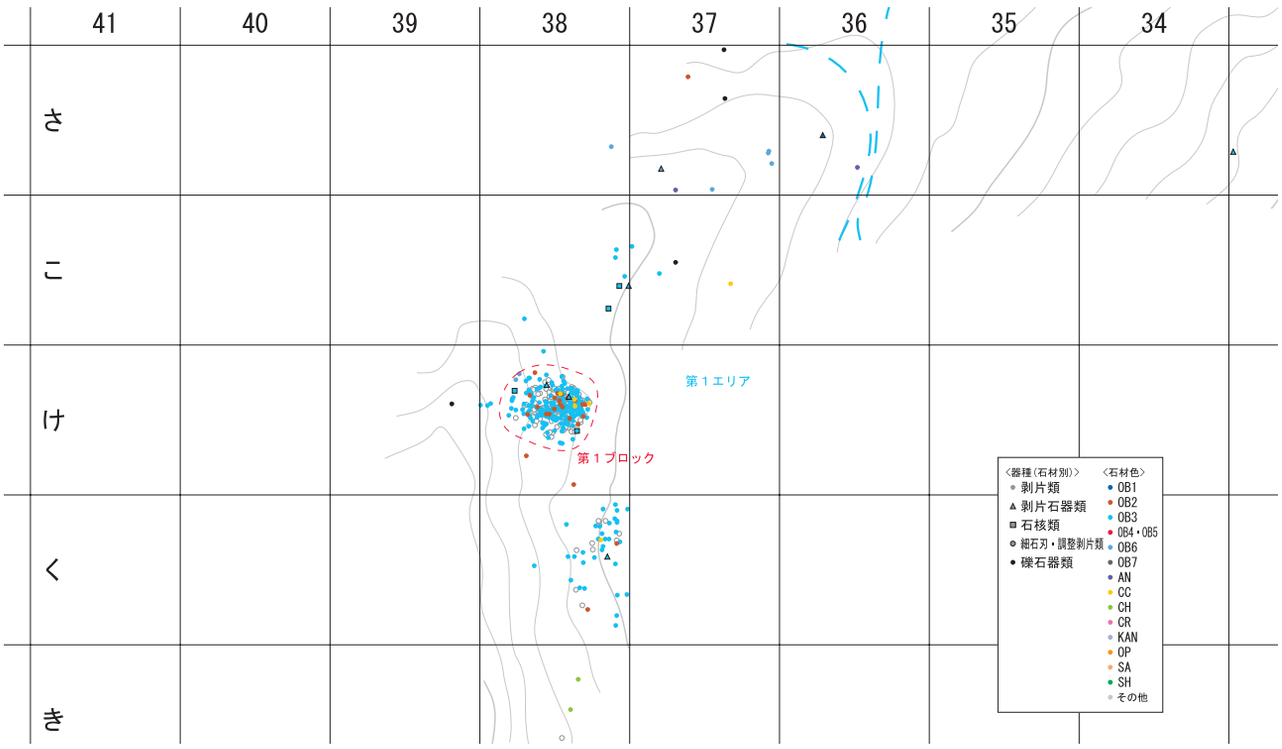
1190～1323は石鏃及びその未製品である。いわゆる小型の正三角形鏃から大型の鍬形鏃まで，様々な形状の石鏃が出土している。使用石材と形状については，小型正三角形鏃(1190・1192～1195・1197等)には黒曜石Ⅲ類が多く使用され，大型の鍬形鏃には安山岩，チャート，玉髄などの非黒曜石石材が多用されるなど，ゆるやかな傾向がみられる。なお，一部には，小型で側縁に鋸歯状の加工を施し，三角形の深い抉りを施すものが散見されるが，これらは上層のⅤ層に帰属する可能性もあり，慎重な評価が必要である。

1324～1334は石錐である。素材を縦に利用し，形状を細長い二等辺三角形状に仕上げるもの(1324・1325)のほか，厚手の不定形剥片を利用する比較的大型のもの(1327～1332)等が

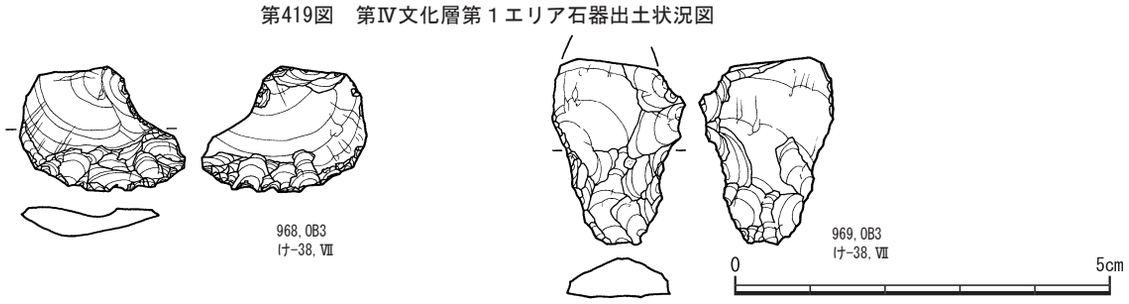


第418図　第Ⅳ文化層エリア配置図

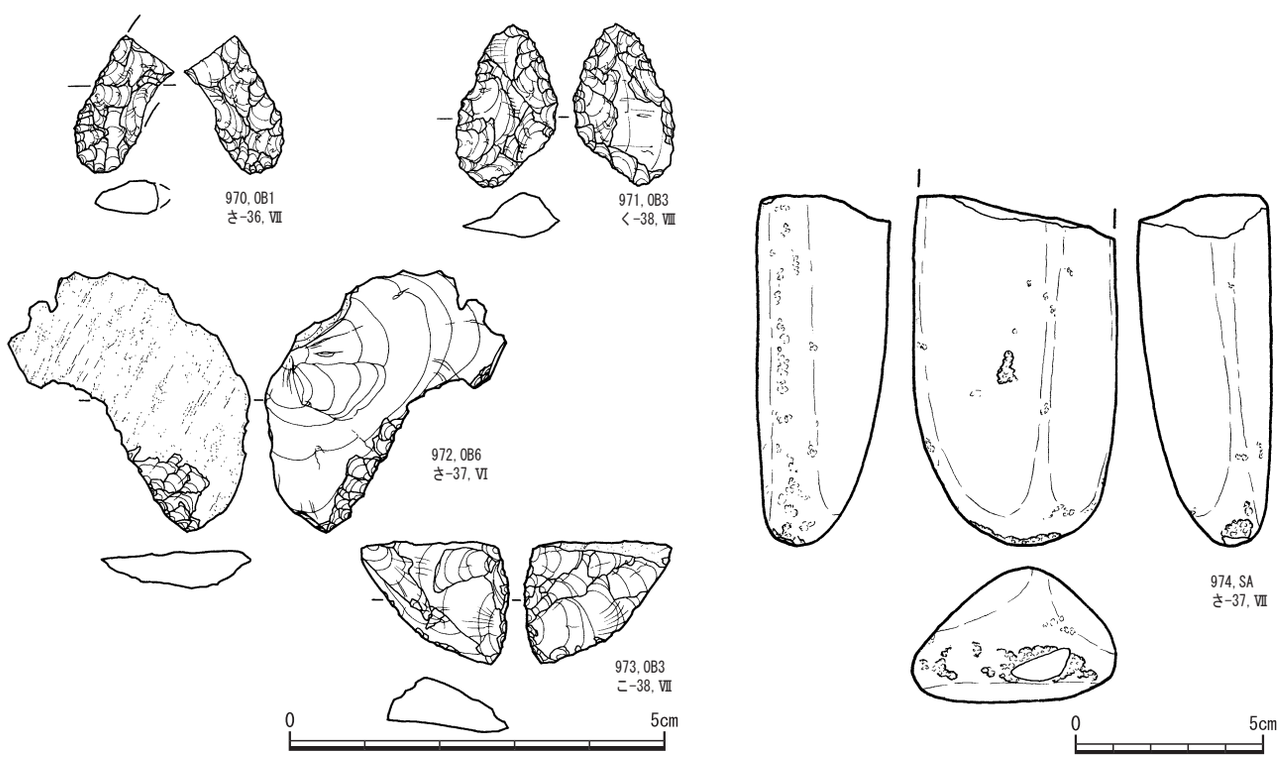

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
270
280
260
260
270
280
第6エリア
第7エリア
第8エリア
第9エリア
第10エリア



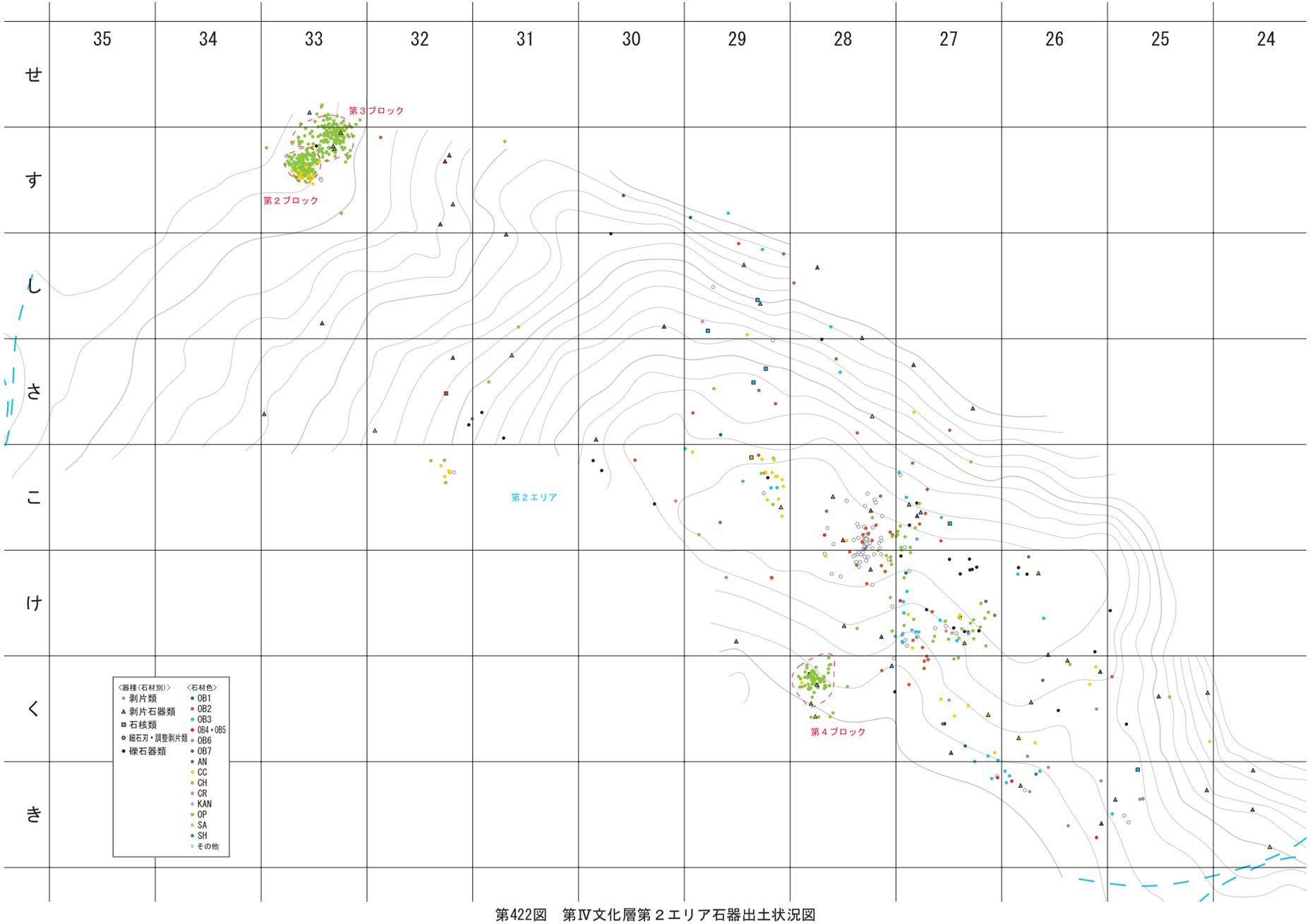
第419図　第Ⅳ文化層第１エリア石器出土状況図



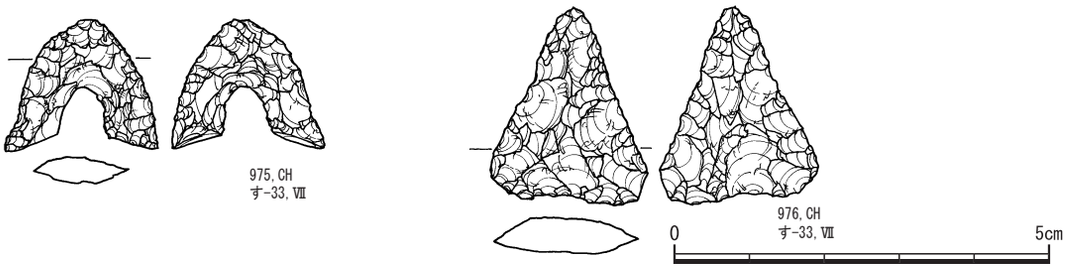
第420図　第Ⅳ文化層第１エリア第１ブロック出土石器実測図



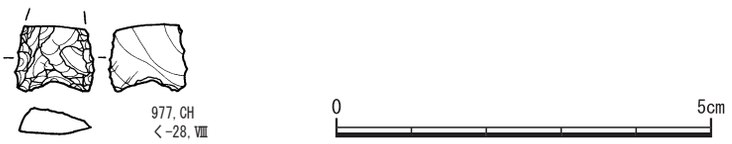
第421図　第Ⅳ文化層第１エリアブロック外出土石器実測図



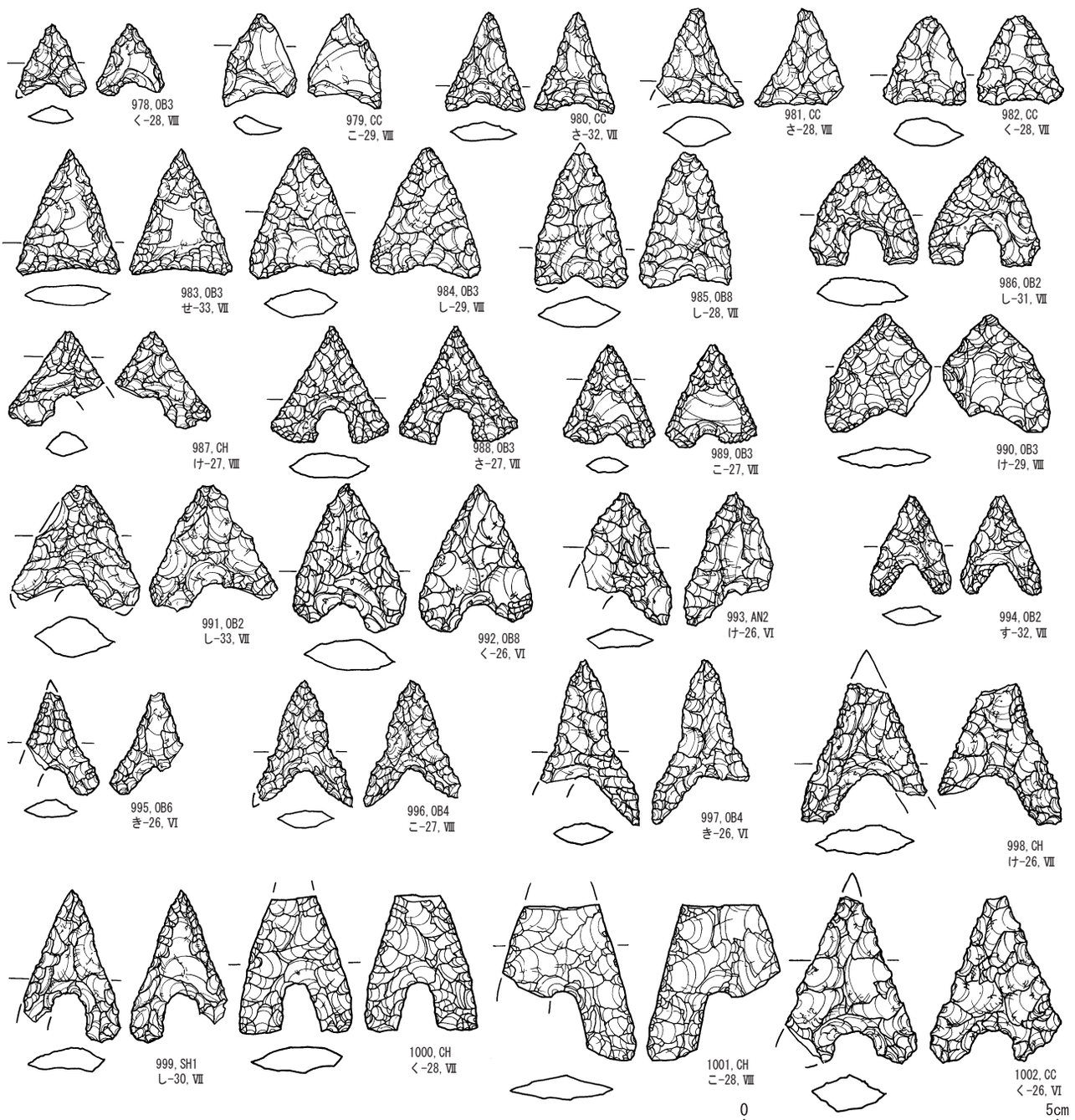
第422図　第Ⅳ文化層第２エリア石器出土状況図



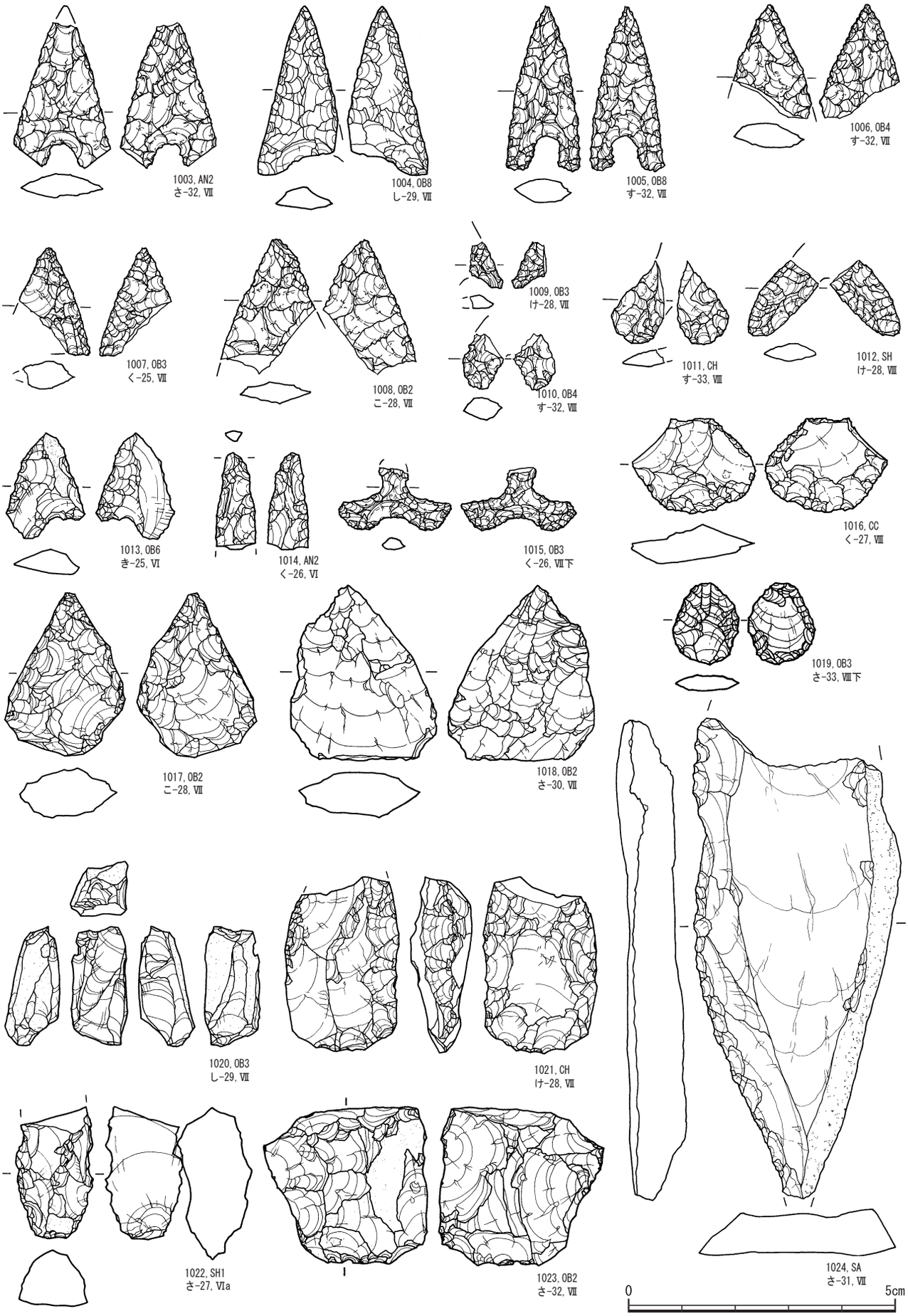
第423図　第Ⅳ文化層第２エリア第３ブロック出土石器実測図



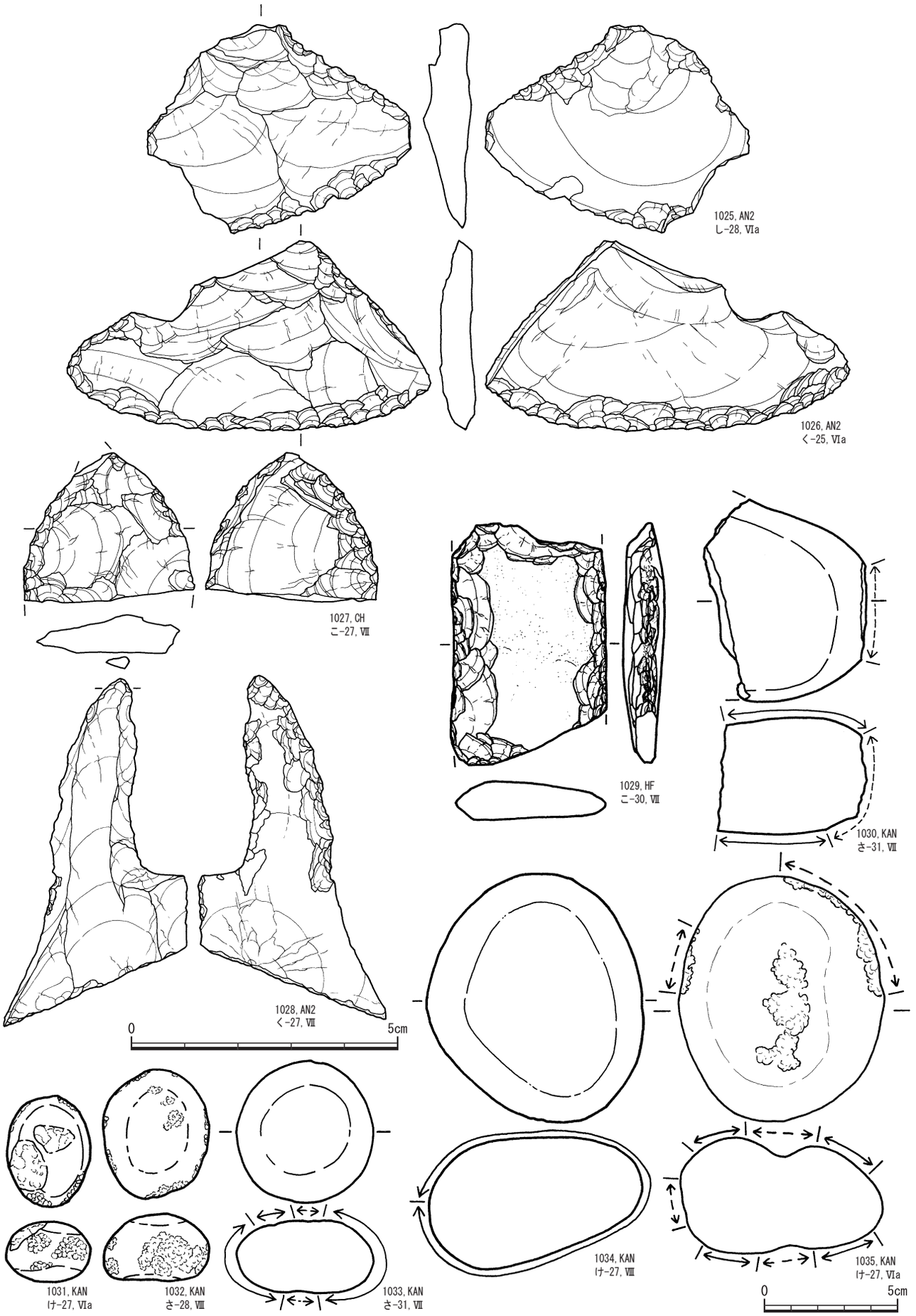
第424図　第Ⅳ文化層第２エリア第４ブロック出土石器実測図



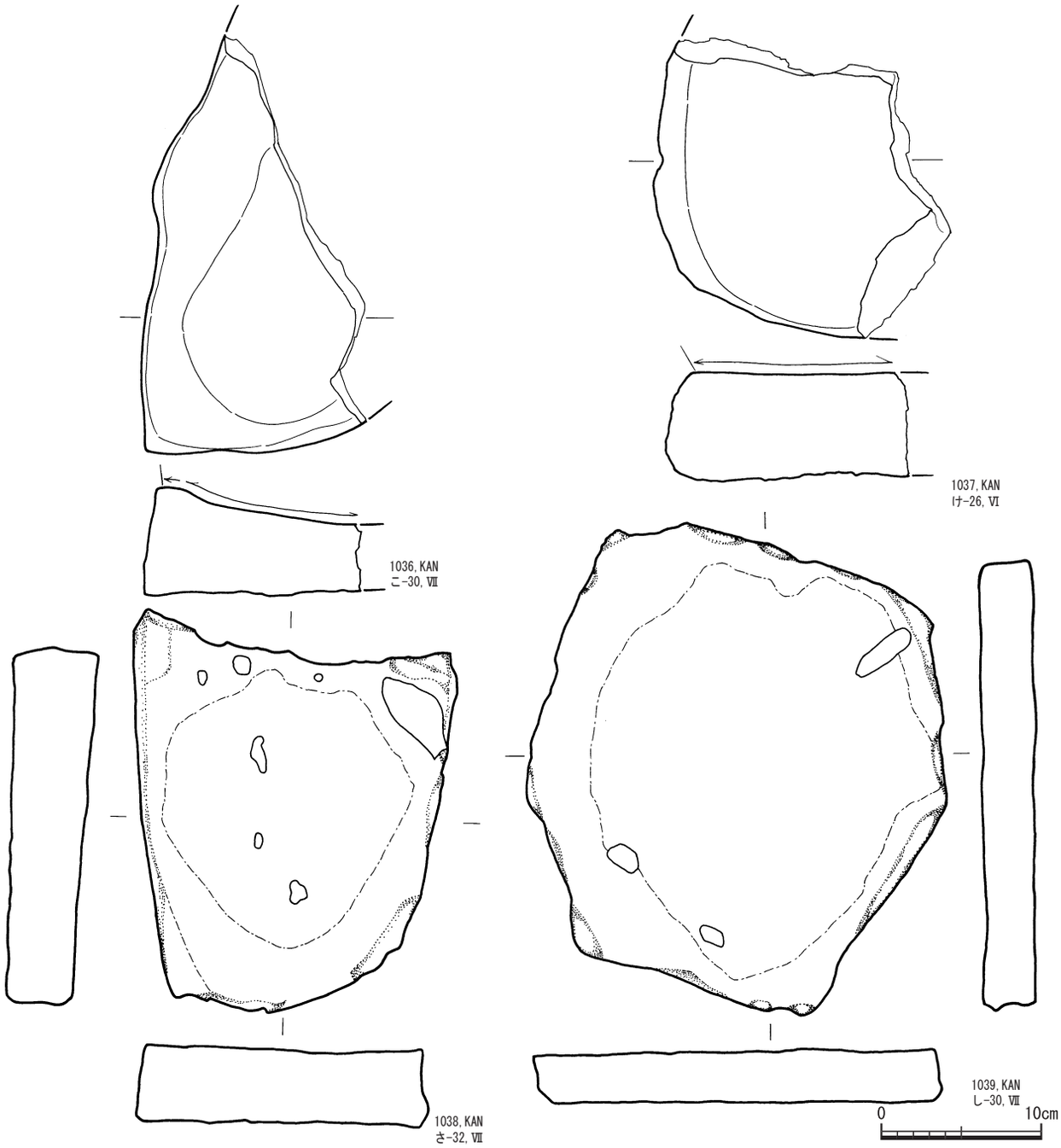
第425図　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器実測図（１）



第426図　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器実測図（２）



第427図　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器実測図（３）



第428図　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器実測図（４）

第115表　第Ⅳ文化層第１エリア第１ブロック出土石器観察表

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
420	968	A01	B01	石鏃	未製品	OB3	17	22.2	3.6	1.1	◎41043(け-38/Ⅶ)
420	969	A01	B01	石鏃	未製品	OB3	25.2	18.1	5.2	1.9	◎40696(け-38/Ⅶ)

第116表　第Ⅳ文化層第１エリア出土石器観察表

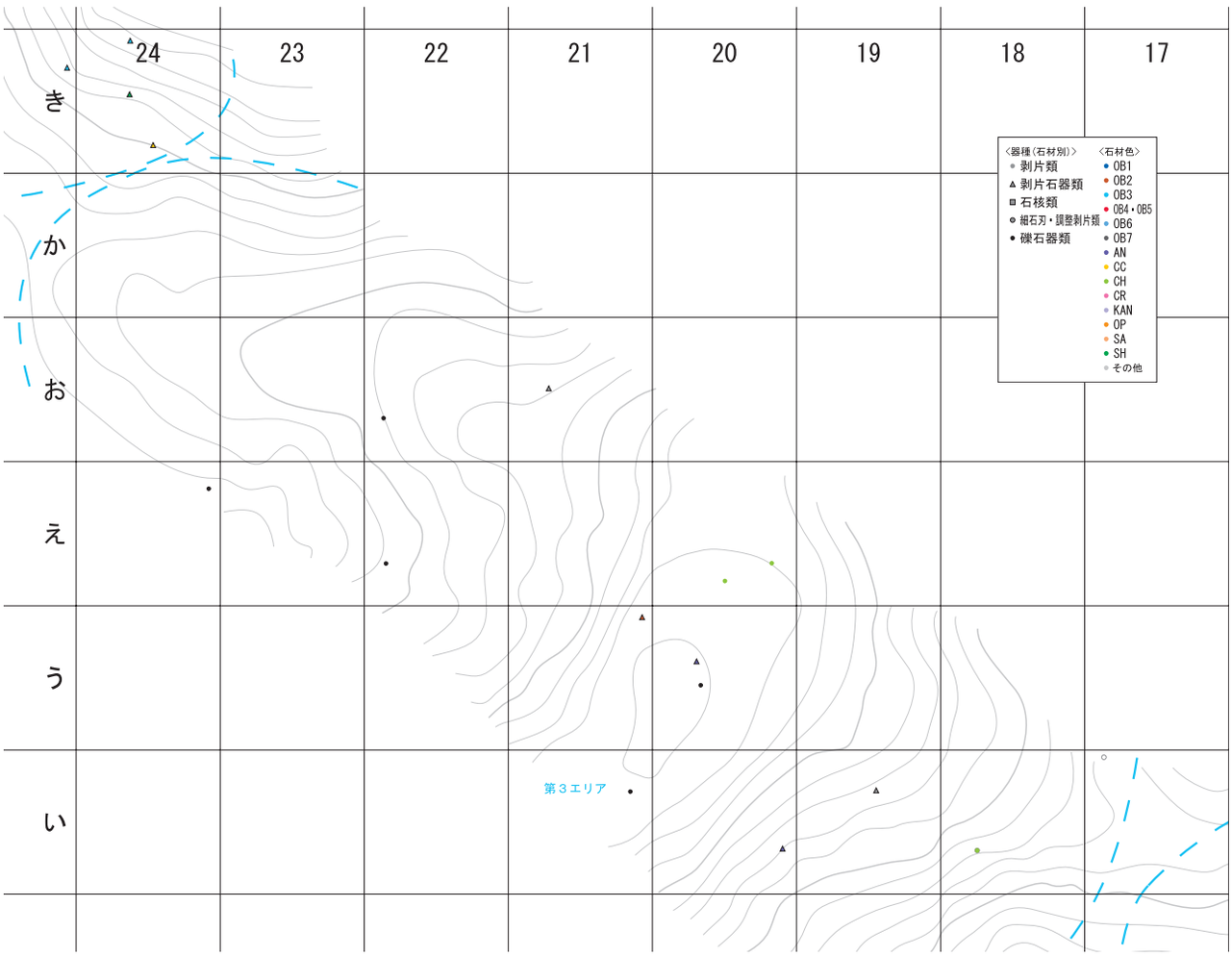
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
421	970	A01	B00	石鏃	－	OB1	18.6	13.4	4.5	0.8	●1712(さ-36/Ⅶ)
421	971	A01	B00	石鏃	未製品	OB3	21.8	13.7	5.3	1.1	◎27644(く-38/Ⅶ)
421	972	A01	B00	削器	－	OB6	35.2	32.4	5.5	3.5	◎40567(さ-37/Ⅵ)
421	973	A01	B00	二次加工痕剥片	－	OB3	16.5	19.9	6	1.6	◎40641(こ-38/Ⅶ)
421	974	A01	B00	砥石	－	SA	93.9	55.1	37.6	219	◎40648(さ-37/Ⅶ)

第117表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（１）

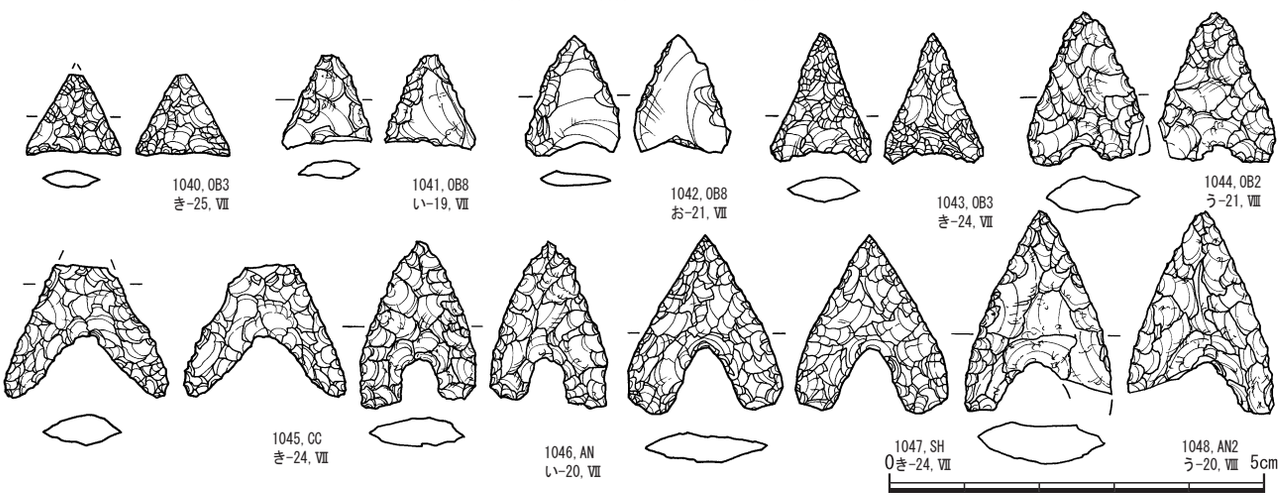
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
423	975	A02	B03	石鏃	－	CH	17.4	20.6	3.6	1	●1969(す-33/Ⅶ)
423	976	A02	B03	石鏃	－	CH	26.6	21.4	4.8	2.1	●1943(す-33/Ⅶ)
424	977	A02	B04	石鏃	－	CH	9.2	10.7	3.5	0.44	●51324(く-28/Ⅶ)
425	978	A02	B00	石鏃	－	OB3	11.6	11	2.8	0.23	●51248(く-28/Ⅶ)
425	979	A02	B00	石鏃	－	CC	15.3	11.8	3.1	0.44	●50575(こ-29/Ⅶ)

第118表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（２）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
425	980	A02	B00	石鏃	－	CC	16.3	13	2.9	0.37	●1780(さ-32/Ⅶ)
425	981	A02	B00	石鏃	－	CC	15.8	14.3	4.7	0.58	●50625(さ-28/Ⅶ)
425	982	A02	B00	石鏃	－	CC	14.4	14	4.5	0.7	●9010(く-28/Ⅶ)
425	983	A02	B00	石鏃	－	OB3	20.2	16.5	3.4	0.84	●2008(せ-33/Ⅶ)
425	984	A02	B00	石鏃	－	OB3	20.9	17.8	4.6	1.2	●50553(し-29/Ⅶ)
425	985	A02	B00	石鏃	－	OB8	21.7	14.8	4.1	0.99	●6807(し-28/Ⅶ)
425	986	A02	B00	石鏃	－	OB2	17.7	17.9	4.5	0.96	●50134(し-31/Ⅶ)
425	987	A02	B00	石鏃	－	CH	15.6	15.4	3.7	0.53	●50975(け-27/Ⅶ)
425	988	A02	B00	石鏃	－	OB3	18.9	19	3.8	0.75	●51105(さ-27/Ⅶ)
425	989	A02	B00	石鏃	－	OB3	16.6	14.8	2.8	0.49	●51158(こ-27/Ⅶ)
425	990	A02	B00	石鏃	－	OB3	18.9	17.2	3.2	0.74	●10507(け-29/Ⅶ)
425	991	A02	B00	石鏃	－	OB2	20.3	20.6	6.1	1.5	●2100(し-33/Ⅶ)
425	992	A02	B00	石鏃	－	OB8	23.7	18.2	5.1	1.4	◎19773(く-26/Ⅵ)
425	993	A02	B00	石鏃	－	AN2	21.2	14.4	2.9	0.58	◎32411(け-26/Ⅵ)
425	994	A02	B00	石鏃	－	OB2	16	13.2	3.3	0.4	●50146(す-32/Ⅶ)
425	995	A02	B00	石鏃	－	OB6	16.4	11.9	2.8	0.32	◎33590(き-26/Ⅵ)
425	996	A02	B00	石鏃	－	OB4	20.3	15.6	2.5	0.43	●51174(こ-27/Ⅶ)
425	997	A02	B00	石鏃	－	OB4	26.4	15.7	3.5	0.71	◎33606(き-26/Ⅵ)



第429図　第Ⅳ文化層第３エリア石器出土状況図



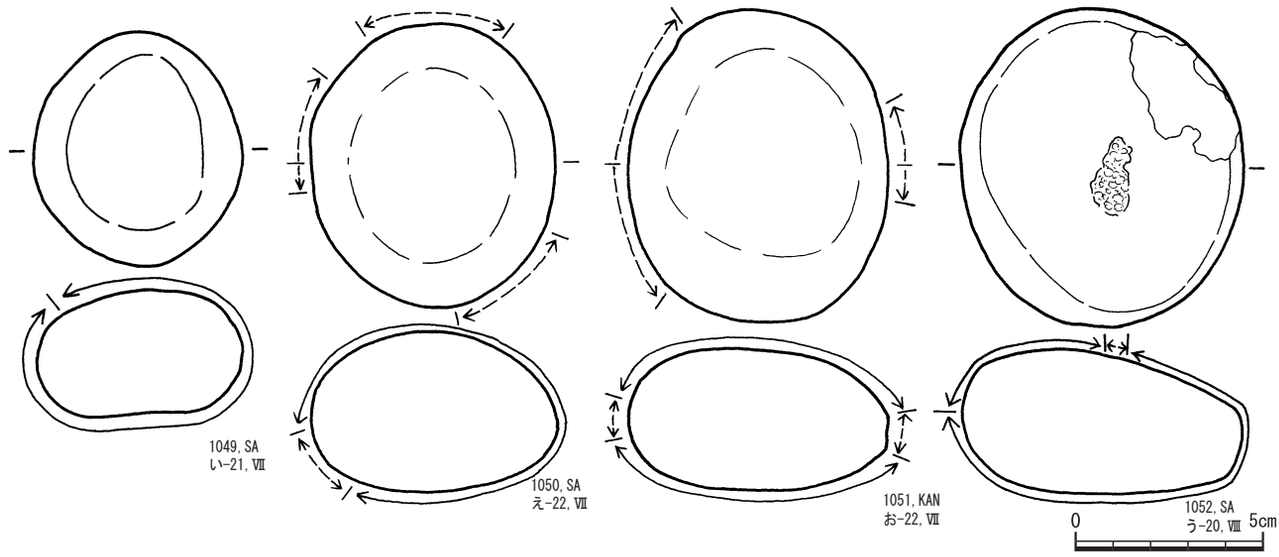
第430図　第Ⅳ文化層第３エリア出土石器実測図（１）

第119表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（３）

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
425	998	A02	B00	石鏃	－	CH	22.7	19.9	4.5	1.4	◎32404(け-26/Ⅶ)
425	999	A02	B00	石鏃	－	SH1	24.6	15.7	4.6	0.96	●2403(し-30/Ⅶ)
425	1000	A02	B00	石鏃	－	CH	22.1	18.2	3.5	1.3	●8643(く-28/Ⅶ)
425	1001	A02	B00	石鏃	－	CH	25	21.4	3.7	1.7	●8806(こ-28/Ⅶ)
425	1002	A02	B00	石鏃	－	CC	26.8	21	5.4	2.1	◎19783(く-26/Ⅵ)
426	1003	A02	B00	石鏃	－	AN2	27.4	18.2	4.3	1.7	●1748(さ-32/Ⅶ)
426	1004	A02	B00	石鏃	－	OB8	31.8	15.3	4.5	1.4	●50533(し-29/Ⅶ)
426	1005	A02	B00	石鏃	－	OB8	31.1	14.2	4.4	1.4	●50140(す-32/Ⅶ)
426	1006	A02	B00	石鏃	－	OB4	21.6	15.1	4.9	1.1	●50141(す-32/Ⅶ)
426	1007	A02	B00	石鏃	－	OB3	20.4	13.6	4.9	0.65	●51208(く-25/Ⅶ)

第120表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（４）

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
426	1008	A02	B00	石鏃	－	OB2	25.5	17.5	4.7	1.3	●50744(こ-28/Ⅶ)
426	1009	A02	B00	石鏃	－	OB3	8.8	6.6	2.7	0.1	●51044(け-28/Ⅶ)
426	1010	A02	B00	石鏃	－	OB4	10.7	7.8	4.2	0.25	●50144(す-32/Ⅶ)
426	1011	A02	B03	石鏃	－	CH	15.9	9.8	3	0.36	●4379(す-33/Ⅶ)
426	1012	A02	B00	石鏃	－	SH	14.3	13.3	3.3	0.44	●51036(け-28/Ⅶ)
426	1013	A02	B00	石鏃	未製品	OB6	20.1	15	4.6	0.83	◎38230(き-25/Ⅵ)
426	1014	A02	B00	石錐	－	AN2	18.4	8	3.8	0.46	◎19794(く-26/Ⅵ)
426	1015	A02	B00	異形石器	－	OB3	12	21.8	3.3	0.43	◎32963(く-26/Ⅶ下)
426	1016	A02	B00	二次加工痕剥片	－	CC	17.9	23.1	6.5	2.1	◎42199(く-27/Ⅶ)
426	1017	A02	B00	石錐	－	OB2	31	22.7	9.5	6.6	●50767(こ-28/Ⅶ)



第431図　第Ⅳ文化層第３エリア出土石器実測図（２）

ある。

1235～1344は石匙である。玉髄や安山岩，黒曜石Ⅱ類を使用したものが目立つ。

1345～1376・1467～1469は削器，掻器，二次加工痕剥片，微細剥離痕剥片等である。頁岩や安山岩，チャートを使用する大型の削器(1356・1358・1359・1467・1468等)が特徴的である。

1377～1423はチップ，剥片，二次加工痕剥片，微細剥離痕剥片等である。一部，下層からの浮き上がりと考えられるものが混在している。

1424～1466，1470は石核，細石刃核及びそれに関連する資料である。細石刃核は下層からの浮き上がりと考えられる。

1471～1475は磨製石斧である。1471は刃部が欠損するが全面が丁寧に研磨されている。1472はホルンフェルスの扁平な礫を素材とし，整形剥離ののち研磨して製品としている。1473はホルンフェルスの剥片を横位に利用し，周辺に細かい整形剥離を加えて製品としたものである。1475は大型の素材に粗い整形剥離を施し，刃部を研磨している。刃部の左半分は欠損している。

1476～1541はハンマー，磨石，敲石，凹石等である。砂岩や輝石安山岩等の石材が多用されている。

1476～1479は小型の円礫を素材としている。敲打痕が上下端に部分的に集中する。1480～1483は磨面が顕著にみとめられたため磨石としたが，敲打痕が顕著に観察され，ハンマーとしても使用されたものとみられる。敲打痕が側面を全周するように形成されている。

1484・1485は細長い円礫を素材としている。上下端の一部に敲打痕が観察される。

1486～1509・1511～1541は磨石，敲石，凹石である。掌大の円礫を素材とするものが多い。磨面の形成が顕著でないものも多いが，磨面が明確に形成されるものも，磨面が広く平坦に形成され断面形状が隅丸方形に近い形状になるもの(1514・1524・1526・1528・1533・1534・1539等)と，一つの面に複数の磨面が形成されるもの(1525・1537)がみられる。

また，側面を整形し，正面形が方形になる特徴的な磨石も数点散見される(1518・1519等)。

側縁には敲打痕が観察されるものが多く，敲打痕が上下左右の側面の一部に集中するもの側面を全周するものがある。また，一部には磨面の中央部に直径１cm前後の窪みを持つものがある。

1542・1547～1553は石皿，台石等である。砂岩を使用するものが多いが，一部には花崗岩や輝石安山岩を使用したものがある。素材の形状を生かしたものが多いが，1548だけは丁寧な整形が施されている。

第７エリア

耳取調査区Ｇ～Ｊ-17～20区付近に分布する。石鏃や削器，環状石斧などが出土している。

1554～1567は石鏃である。小型正三角形鏃や大型の鍬形鏃など，多様な形態の石鏃がみられる。1569は異形石器とした。安山岩Ⅱ類を使用し，丁寧な押圧剥離によって調整を行っている。

1574は先端部が欠損しているが磨製石鏃である。表裏及び側面を丁寧に整形している。

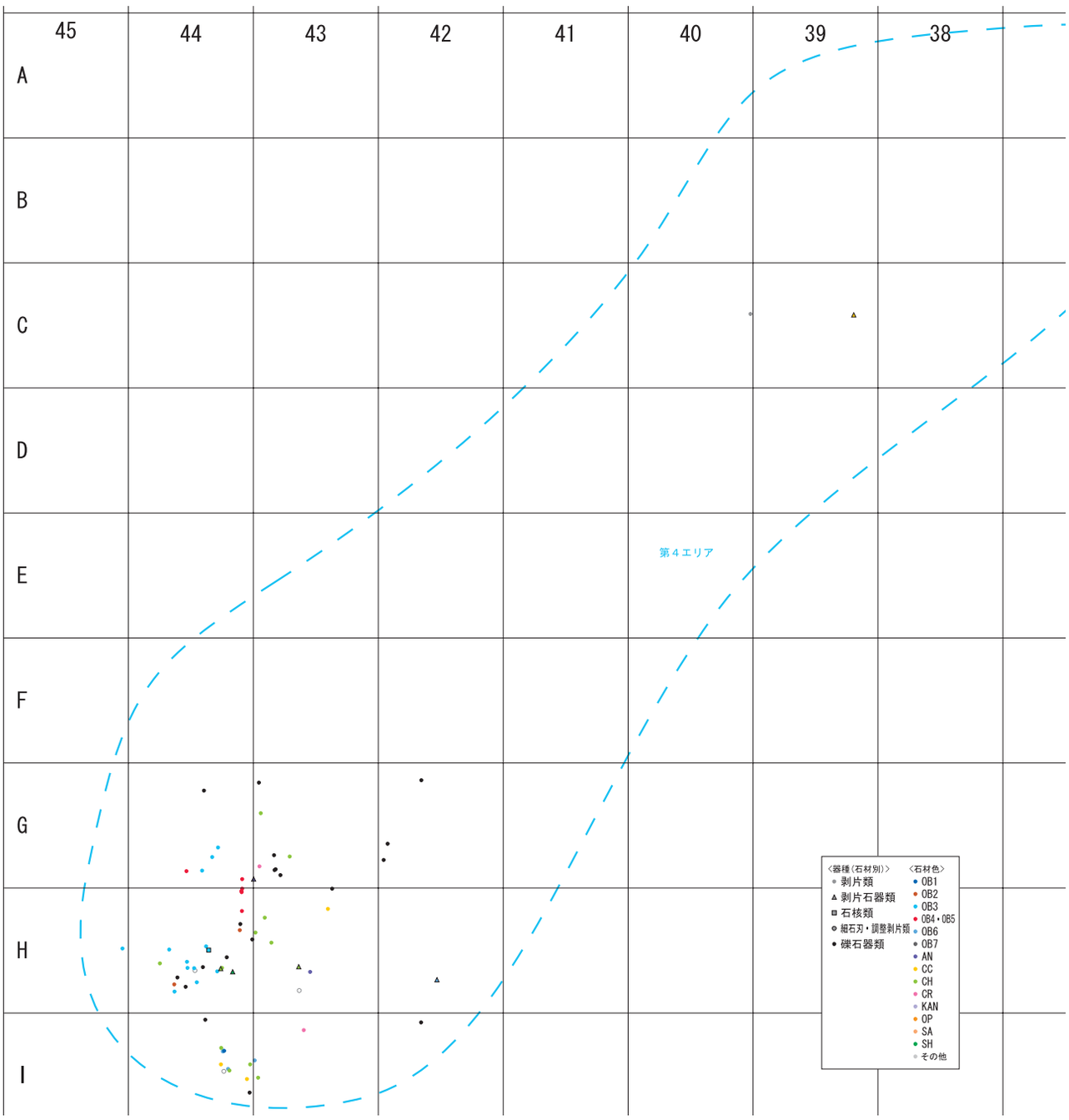
1576は背面に自然面をもつ大型の剥片を素材とする削器である。素材剥片に主に背面側から二次加工を加え，製品としている。

1600は環状石斧である。やや粗めの砂岩を使用し，全面を丁寧に研磨して整形している。周縁には細かい剥離痕が観察される。

第８エリア

Ｉ・Ｊ-14区付近を中心に分布する。石器の出土は少なく，分布状態は極めて希薄だが，出土遺物には環状石斧(1604)が含まれている。1601は石鏃，1602は削器，1603は剥片である。

環状石斧は輝石安山岩を素材とし，やはり全面を丁寧に研磨して整形している。周縁には細かい剥離痕が多数観察される。中央付近で破断し，ところどころ表面が剥落している。



第432図　第Ⅳ文化層第４エリア石器出土状況図

第９エリア

Ｈ・Ｉ-10・11区付近に分布する。

頁岩と玉髄を主体に構成さている。石器は石鏃を中心に削器等が出土している。石鏃は比較的小型で基部に明確な抉りを作出しないもの(1605・1606)と比較的大型で深い抉りを作出する鍬形鏃(1607)がある。1611は縦長の素材の左側縁に二次加工を加え，製品としている。

第10エリア

Ｅ～Ｋ-３～８区を中心に分布する。チャートと黒曜石Ⅲ類を主体としている。

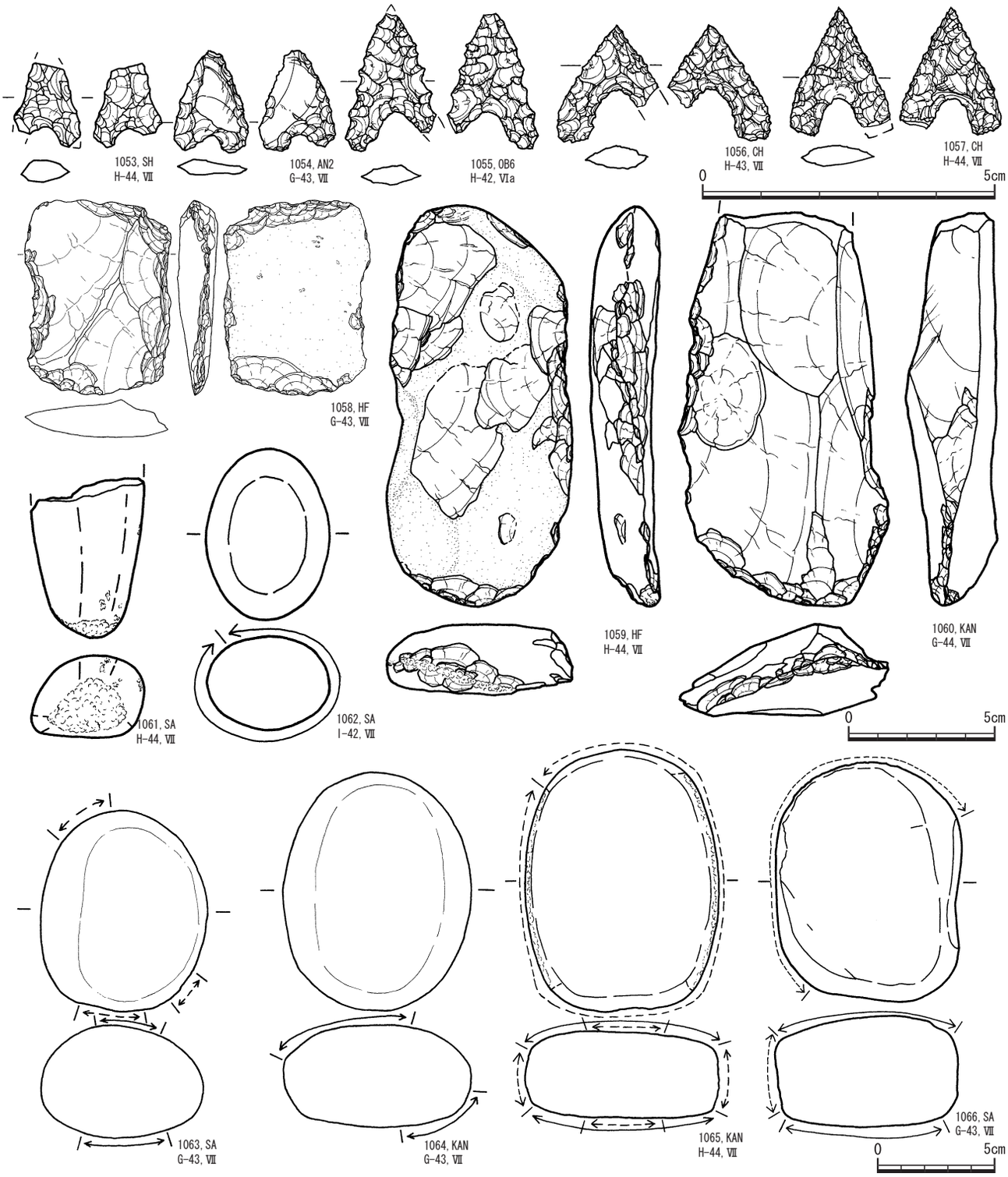
1616～1715・1724～1741は石鏃およびそれに関連する未製品等である。

石鏃は小型正三角形鏃(1616～1623等)と鍬形鏃(1647～1684等)に大きく二分される。小型正三角形鏃には黒曜石Ⅲ類が多用され，鍬形鏃にはチャートが多用されるなど，製品の形状による石材の偏差は比較的明瞭である。これに黒曜石Ⅱ類，黒曜石Ⅵ類，黒曜石Ⅷ類，安山岩などを使用した石鏃が少量みられる。

1716・1717・1719～1721は異形石器とした。安山岩を使用するものが多く，黒曜石Ⅲ類を使用するものが１点のみ確認できる。

安山岩製の製品はいずれも比較的幅の広い押圧剥離によって整形され，全体的にやや摩耗している。

1742・1743は石錐である。1742は素材剥片を縦位に使用し打点付近に二次加工を加えて基部とし，両側縁の形状を整えて機能部を削出している。1743は二次加工が全面に及び，素



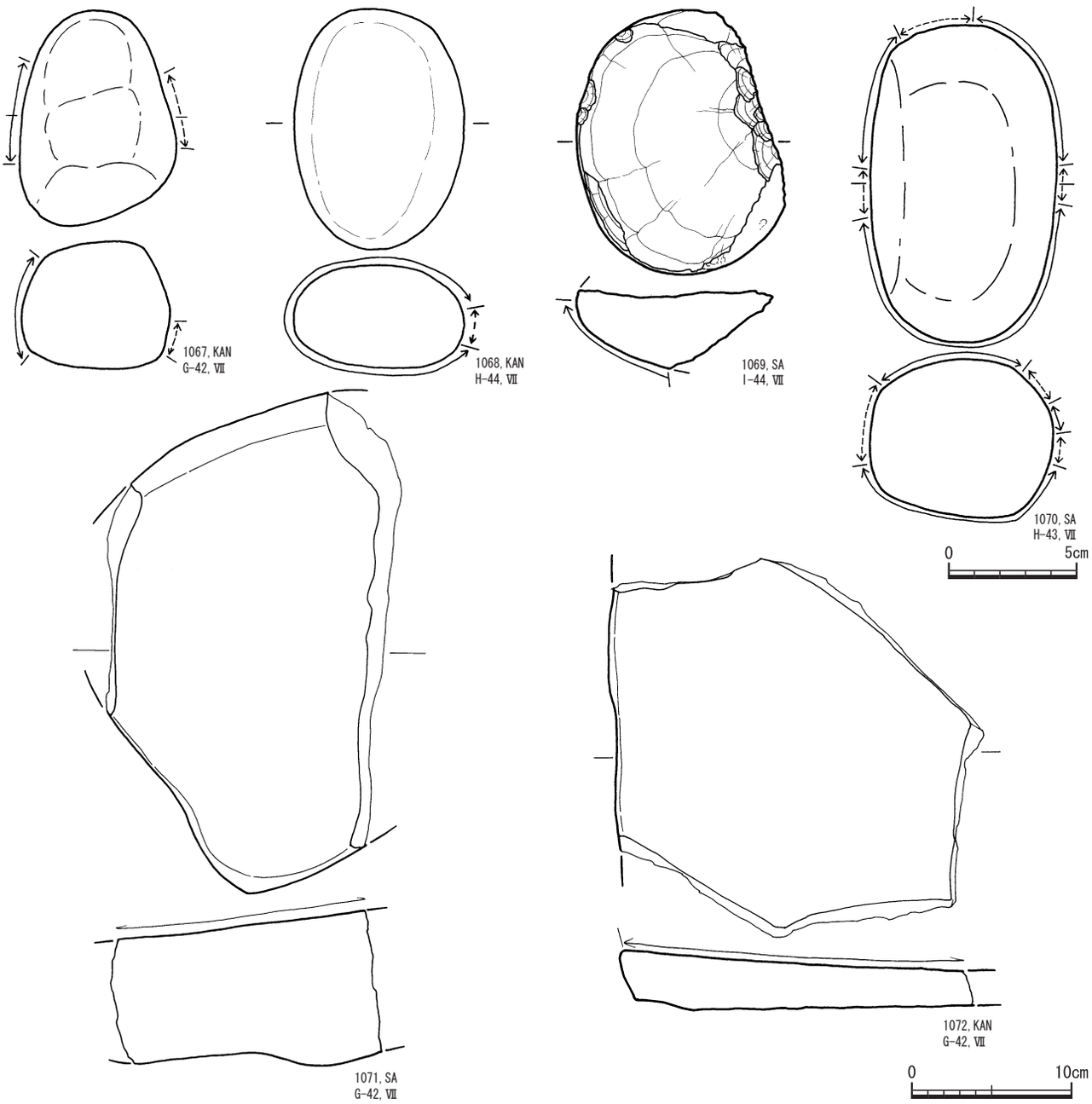
第433図　第Ⅳ文化層第４エリア出土石器実測図（１）

第121表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（５）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
426	1018	A02	B00	二次加工痕剥片	－	OB2	33.1	27.7	9.3	6.3	●2433(さ-30/Ⅶ)
426	1019	A02	B00	二次加工痕剥片	－	OB3	15.5	12.9	3.8	0.49	◎28335(さ-33/Ⅶ下)
426	1020	A02	B00	両極石核	－	OB3	22.7	10.7	9.7	2.6	●50514(し-29/Ⅶ)
426	1021	A02	B00	削器	－	CH	33.4	21.6	10.9	8	●50874(け-28/Ⅶ)
426	1022	A02	B00	二次加工痕剥片	－	SH1	25.2	14.8	11.2	4.5	●51095(さ-27/Ⅵa)
426	1023	A02	B00	石核	－	OB2	29.9	31.2	14.8	12	●1755(さ-32/Ⅶ)
426	1024	A02	B00	削器	－	SA	90.2	39.2	10.5	38	●2359(さ-31/Ⅶ)
427	1025	A02	B00	石匙	未製品	AN2	39.1	49.9	9.3	14	●6791(し-28/Ⅵa)
427	1026	A02	B00	石匙	－	AN2	36	68.7	6.5	14	●51184(く-25/Ⅵa)
427	1027	A02	B00	二次加工痕剥片	－	CH	28.2	32.6	9	8	●50685(こ-27/Ⅶ)
427	1028	A02	B00	石錐	－	AN2	64.7	35.5	6.9	9.2	◎42191(く-27/Ⅶ)

第122表　第Ⅳ文化層第２エリア出土石器観察表（６）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
427	1029	A02	B00	磨製石斧	－	HF	91.4	59.4	15	111	●50104(こ-30/Ⅶ)
427	1030	A02	B00	磨石	－	KAN	76.7	61.9	43.2	290	●1726(さ-31/Ⅶ)
427	1031	A02	B00	磨石	－	KAN	42.5	32	21.4	39	◎39273(け-27/Ⅵa)
427	1032	A02	B00	ハンマー	－	KAN	49.2	40.6	24.6	63	●50650(さ-28/Ⅶ)
427	1033	A02	B00	磨石	/凹	KAN	54.2	52	28.3	103	●50003(さ-31/Ⅶ)
427	1034	A02	B00	磨石	－	KAN	94.1	84.5	51	380	●51222(け-27/Ⅶ)
427	1035	A02	B00	磨石	/敲/凹	KAN	92.7	78	43	360	◎39289(け-27/Ⅵa)
428	1036	A02	B00	石皿	－	KAN	263.1	141.7	69.2	3300	●50106(こ-30/Ⅶ)
428	1037	A02	B00	石皿	－	KAN	188.1	186.9	77.2	3900	◎19796(け-26/Ⅵ)
428	1038	A02	B00	石皿	－	KAN	253.5	203.9	59	4600	●2312(さ-32/Ⅶ)
428	1039	A02	B00	石皿	－	KAN	308.9	264.3	32.2	4400	◎42213(し-30/Ⅶ)



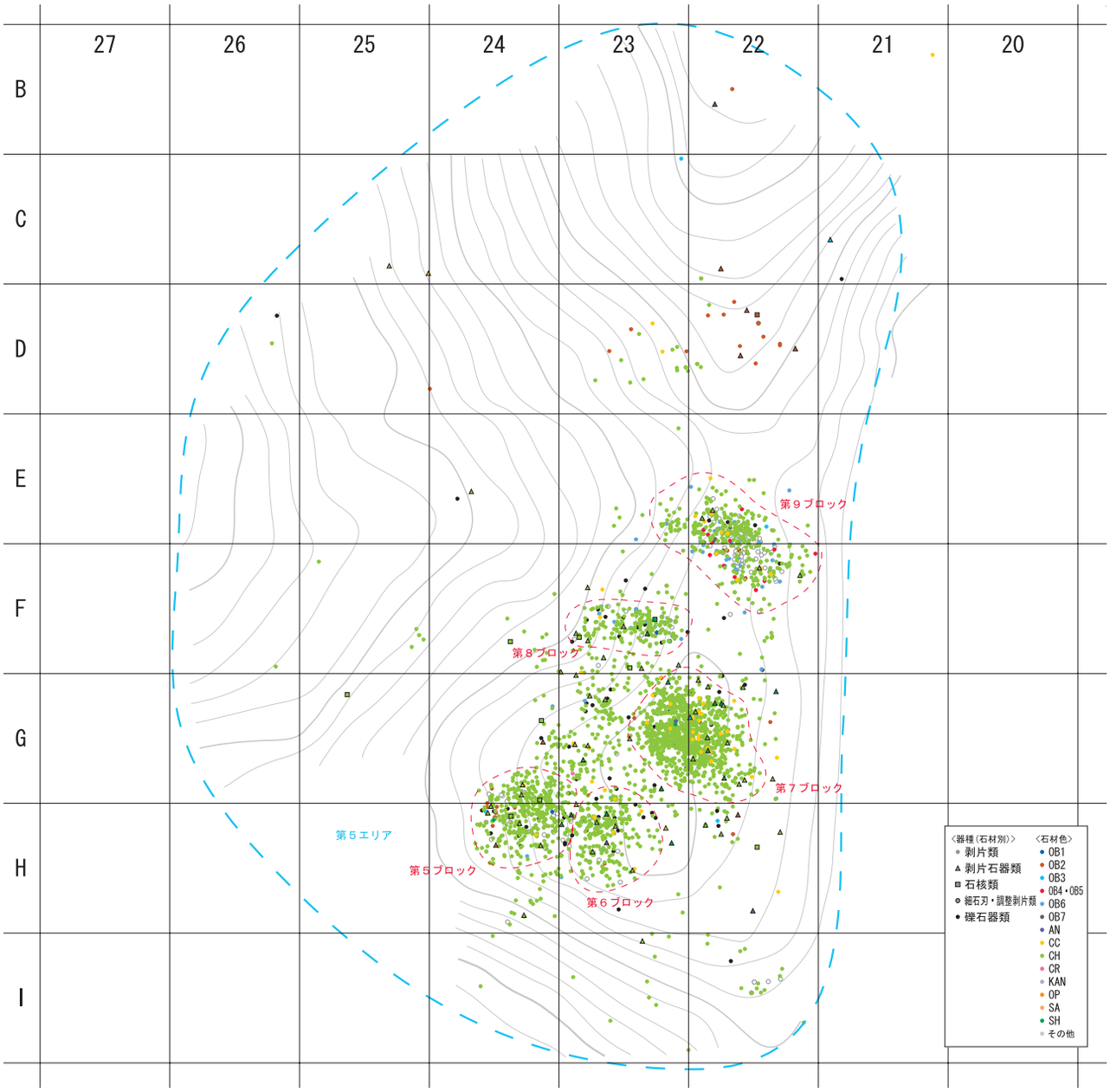
第434図　第Ⅳ文化層第４エリア出土石器実測図（２）

第123表　第Ⅳ文化層第３エリア出土石器観察表

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
430	1040	A03	B00	石鏃	－	OB3	11.1	12.6	2.1	0.19	●9296(き-25/Ⅶ)
430	1041	A03	B00	石鏃	未製品	OB8	12.9	12.3	2.8	0.29	●6980(い-19/Ⅶ)
430	1042	A03	B00	石鏃	－	OB8	15.9	13.1	2	0.35	●7043(お-21/Ⅶ)
430	1043	A03	B00	石鏃	－	OB3	17.7	13.4	3.4	0.5	●9271(き-24/Ⅶ)
430	1044	A03	B00	石鏃	－	OB2	20.1	15.8	4.7	1	●7180(う-21/Ⅶ)
430	1045	A03	B00	石鏃	－	CC	17.8	21.8	3.5	0.91	●9287(き-24/Ⅶ)
430	1046	A03	B00	石鏃	－	AN	22.5	15.8	3.1	1	●7137(い-20/Ⅶ)
430	1047	A03	B00	石鏃	－	SH	24	20.5	3.9	1.2	●9256(き-24/Ⅶ)
430	1048	A03	B00	石鏃	－	AN2	27.2	19.7	5	1.9	●6915(う-20/Ⅶ)
431	1049	A03	B00	磨石	/敲	SA	63.2	56.4	32.8	164	●6973(い-21/Ⅶ)
431	1050	A03	B00	磨石	/敲	SA	76.3	66	43	261	●7149(え-22/Ⅶ)
431	1051	A03	B00	磨石	/敲	KAN	84	70.4	39.2	33207	●10475(お-22/Ⅶ)
431	1052	A03	B00	磨石	/敲	SA	85.7	76.5	38.3	310	●6964(う-20/Ⅶ)

第124表　第Ⅳ文化層第４エリア出土石器観察表

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
433	1053	A04	B00	石鏃	－	SH	14.6	11.9	3.5	0.52	◎18072(H-44/Ⅶ)
433	1054	A04	B00	石鏃	－	AN2	17.4	13.3	2.7	0.5	◎18038(G-43/Ⅶ)
433	1055	A04	B00	石鏃	－	OB6	23.3	15.8	3.6	0.83	●10516(H-42/Ⅵa)
433	1056	A04	B00	石鏃	－	CH	19.9	17.7	4.2	0.75	◎18089(H-43/Ⅶ)
433	1057	A04	B00	石鏃	－	CH	22.1	17.5	3.4	0.82	◎18091(H-44/Ⅶ)
433	1058	A04	B00	打製石斧	－	HF	67	50.2	12.7	55	◎18035(G-43/Ⅶ)
433	1059	A04	B00	打製石斧	未製品	HF	138	64.3	22.5	266	◎18078(H-44/Ⅶ)
433	1060	A04	B00	打製石斧	－	KAN	135.5	72.9	30.6	256	◎18128(G-44/Ⅶ)
433	1061	A04	B00	ハンマー	－	SA	55.2	39.5	27.4	73	◎18010(H-44/Ⅶ)
433	1062	A04	B00	磨石	－	SA	59.5	42.8	32.2	104	●10513(I-42/Ⅶ)
433	1063	A04	B00	磨石	/敲	SA	86.7	72	47.2	400	◎18033(G-43/Ⅶ)
433	1064	A04	B00	磨石	/敲	KAN	102.7	81.1	44	520	◎18034(G-43/Ⅶ)
433	1065	A04	B00	磨石	/敲	KAN	113	83.5	36.3	610	◎18075(H-44/Ⅶ)
433	1066	A04	B00	磨石	/敲	SA	103.2	80.3	46.2	550	◎18051(G-43/Ⅶ)
434	1067	A04	B00	磨石	－	KAN	85.1	62.1	49.2	360	●10482(G-42/Ⅶ)
434	1068	A04	B00	磨石	/敲	KAN	94.7	67.1	40.8	370	◎18074(H-44/Ⅶ)
434	1069	A04	B00	磨石	/敲	SA	104.3	82.3	37.5	304	◎18117(I-44/Ⅶ)
434	1070	A04	B00	磨石	/敲	SA	124.9	73.7	62.7	870	◎18115(H-43/Ⅶ)
434	1071	A04	B00	石皿	－	SA	314.2	185.4	97.2	8900	●10481(G-42/Ⅶ)
434	1072	A04	B00	石皿	－	KAN	237.7	236	38.4	2890	●10521(G-42/Ⅶ)



第435図　第Ⅳ文化層第５エリア石器出土状況図

材面を残さない。

1744～1819は削器，掻器，楔形石器，二次加工痕剥片，微細剥離痕剥片等である。チャートを使用したものが多いが，黒曜石Ⅱ類や頁岩，安山岩，玉髄などを使用したものが少量確認できる。大型の安山岩Ⅱ類の剥片を素材とする削器(1787)や楔形石器(1810)などが含まれる。

1818～1826・1829は石核である。石材は黒曜石が多く，比較的小型のものが多い。1824は全周に自然面を残す原礫である。

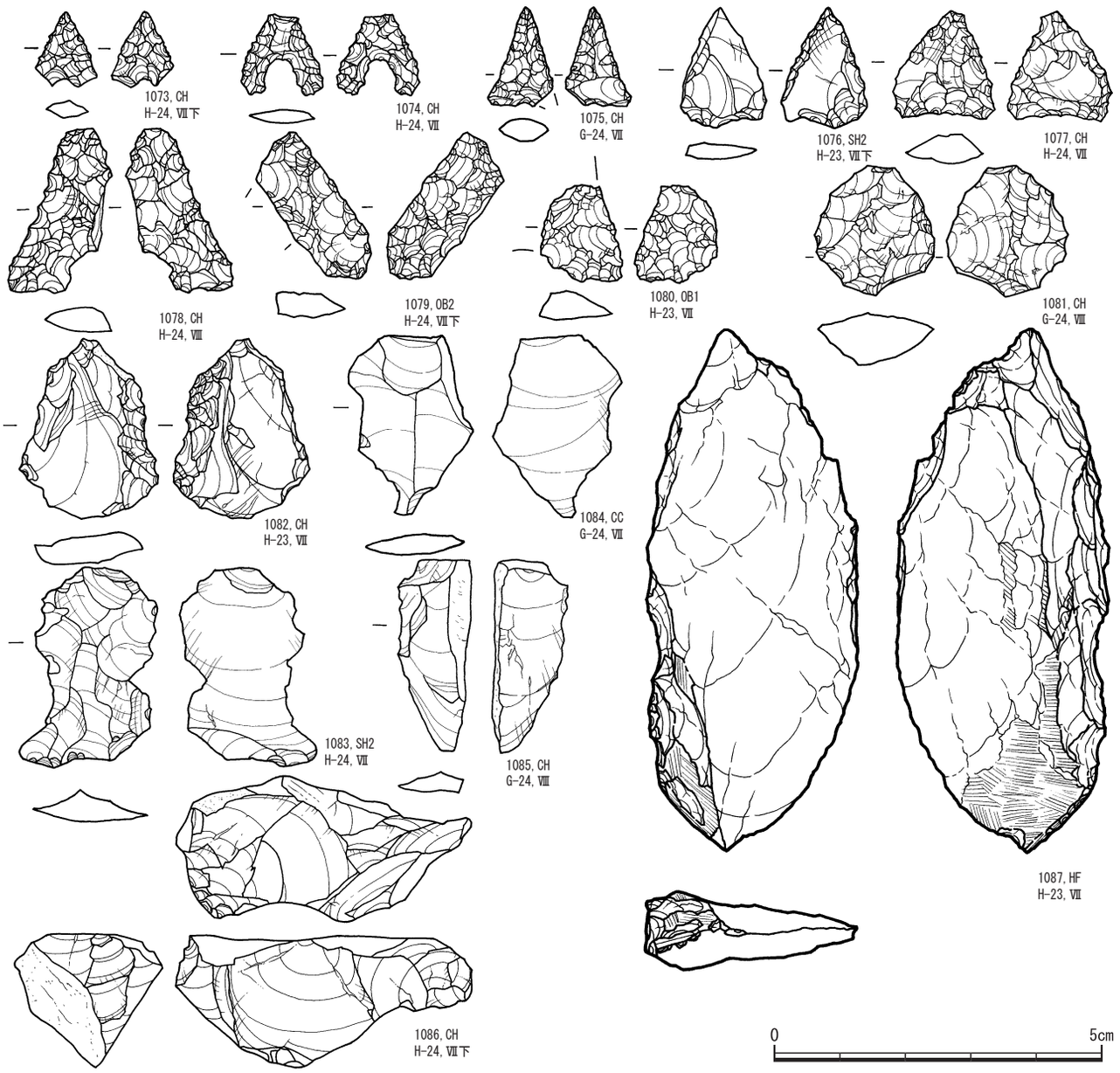
1830・1831は磨製石斧である。いずれも薄く扁平なホルンフェルスの礫を素材としている。1830は素材に周縁から粗い整形剥離を加え，刃部を研磨して製品としている。1831は小型の素材の形状をそのまま活かし，周縁部を研磨して整形し，製品にしている。1832，1833は磨石である。側面には敲打痕が顕著に観察できる。

1836・1837は環状石斧である。いずれも輝石安山岩を素材とし，全面を丁寧に研磨して整形している。周縁部には細かい剥離痕がところどころに観察される。全体の1/3～1/4を残し，破断している。1836は裏面の大部分，1837は表裏の一部が剥落している。

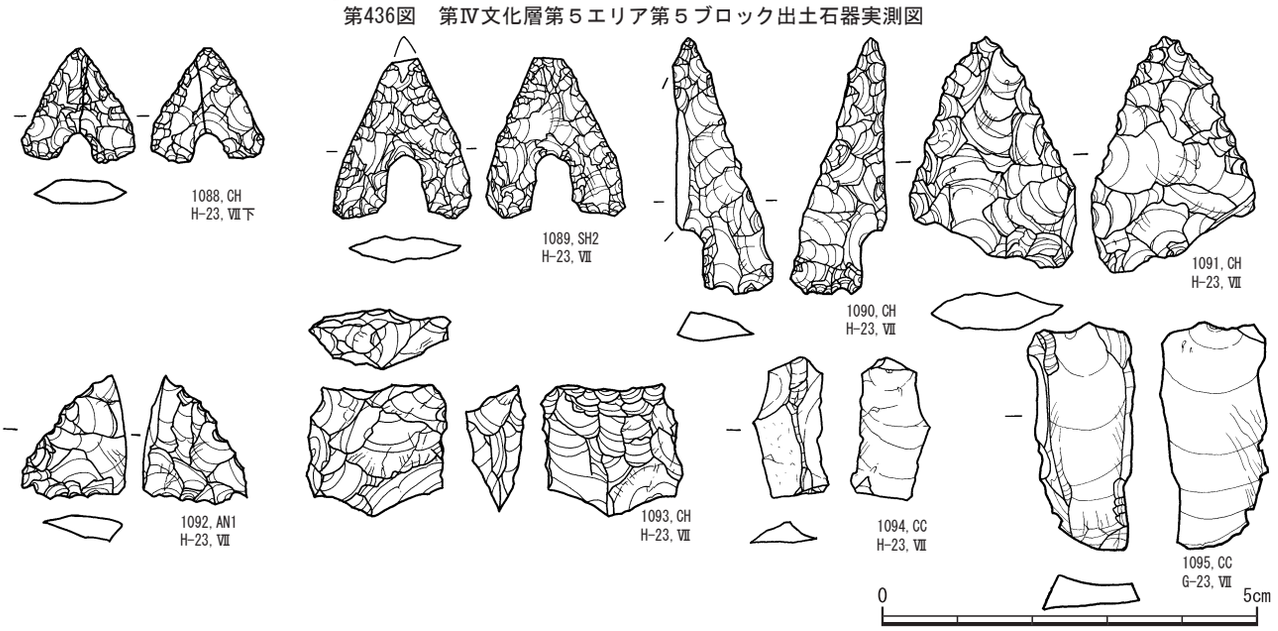
1838～1840は石皿である。1838は輝石安山岩の板状の礫を素材としている。1839は軟質の凝灰岩を使用している。この２つは磨面が平坦で目立った整形の痕跡は見受けられない。

1840は大型の輝石安山岩の礫を素材としているが磨面が比較的顕著で皿状に窪む。下端部がわずかに欠損している。

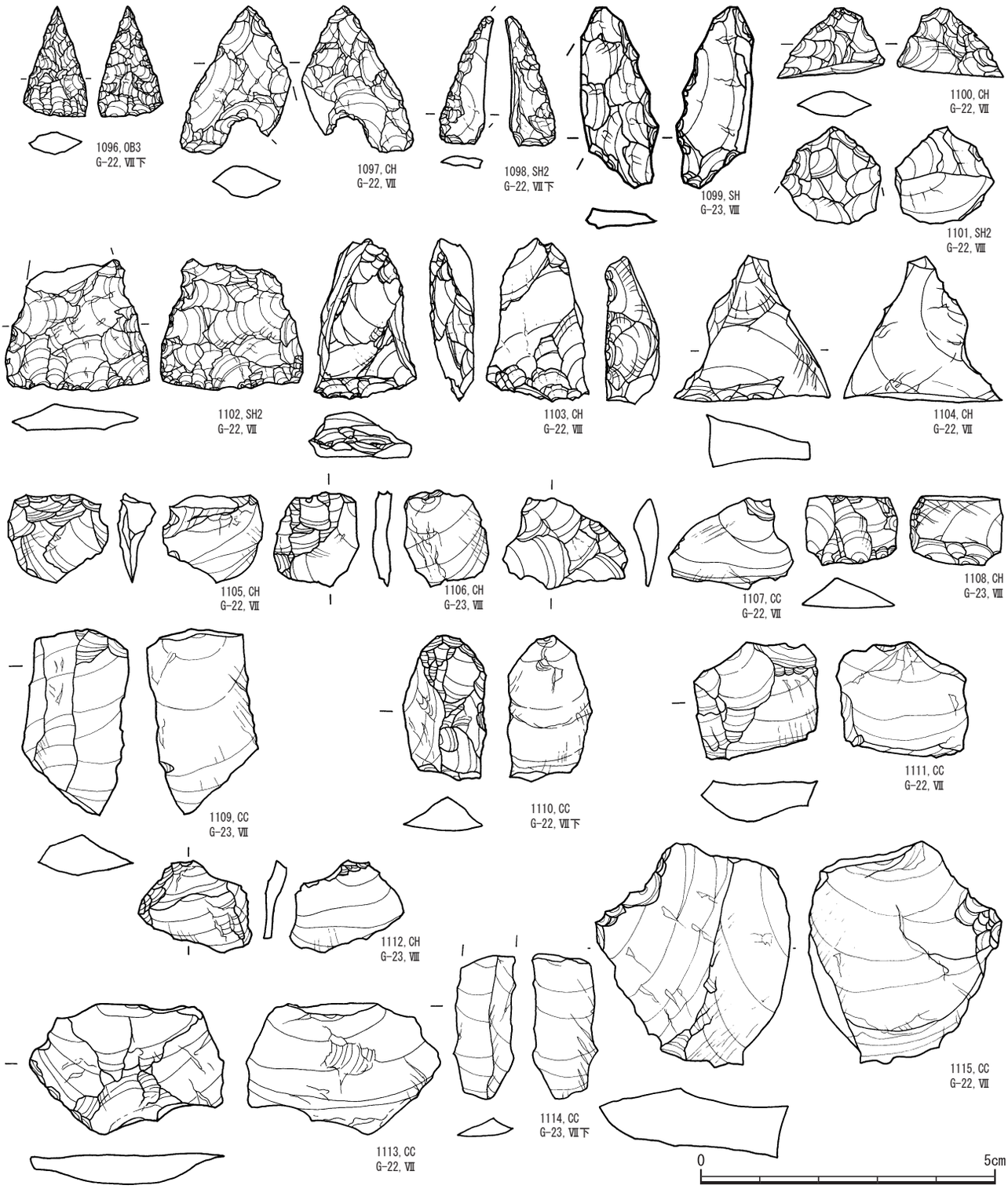
1841～1848はエリア外から出土した資料である。石鏃，削器，ハンマー，磨石等が確認できる。



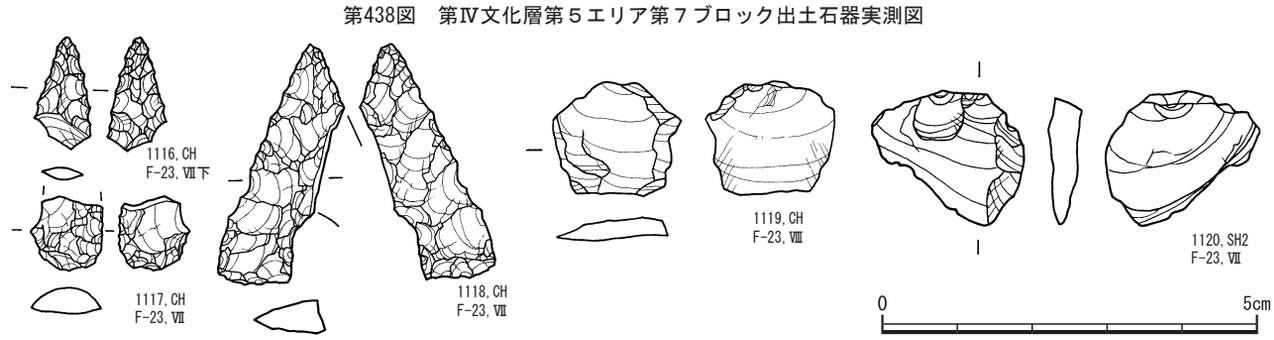
第436図　第Ⅳ文化層第５エリア第５ブロック出土石器実測図



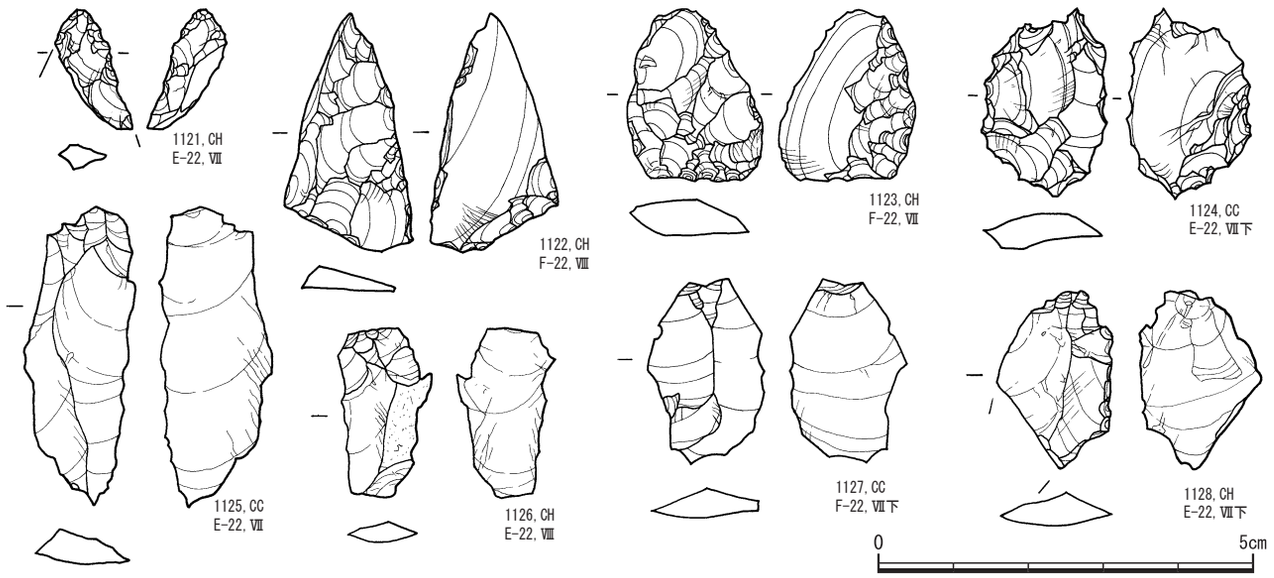
第437図　第Ⅳ文化層第５エリア第６ブロック出土石器実測図



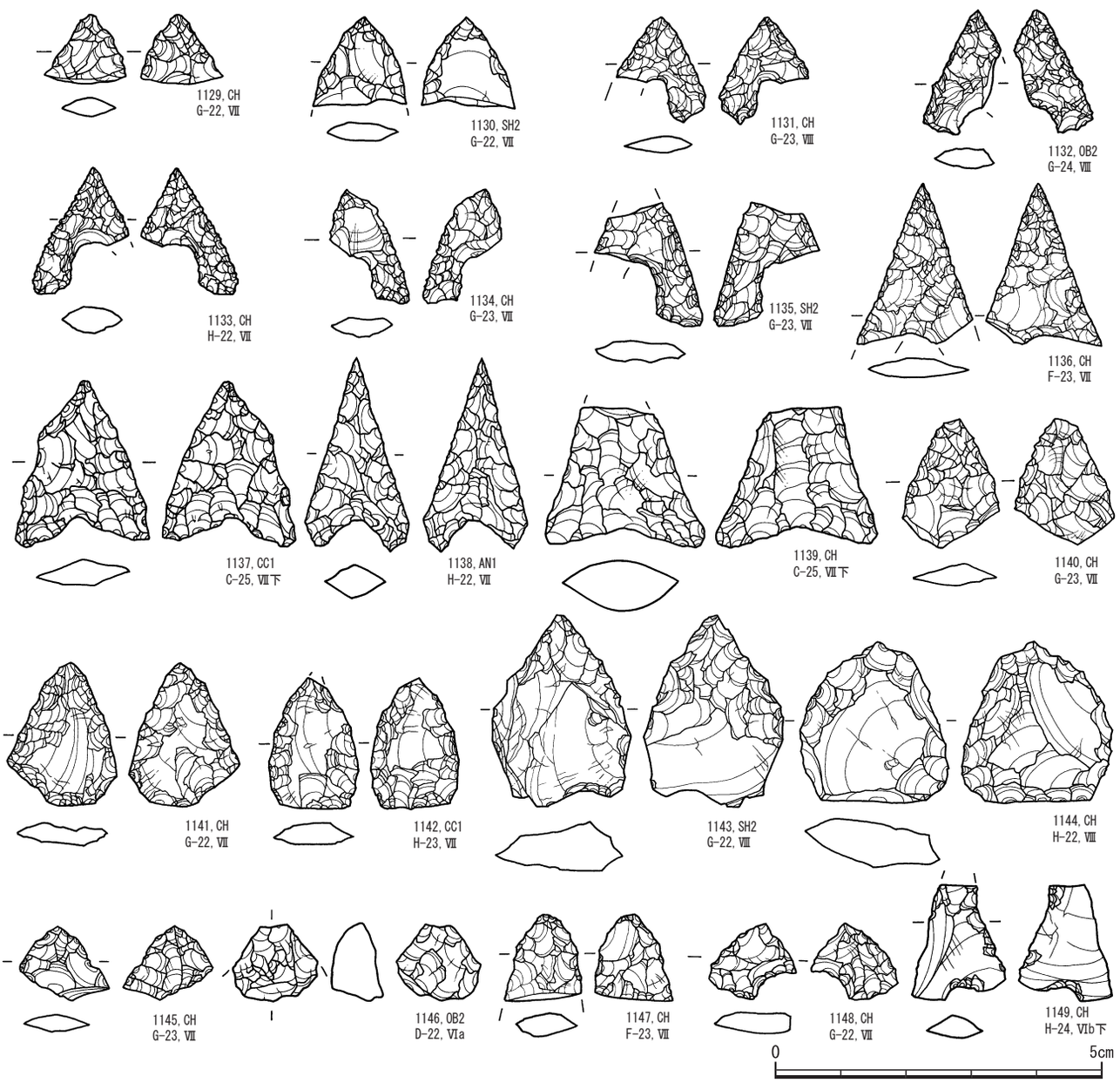
第438図　第Ⅳ文化層第５エリア第７ブロック出土石器実測図



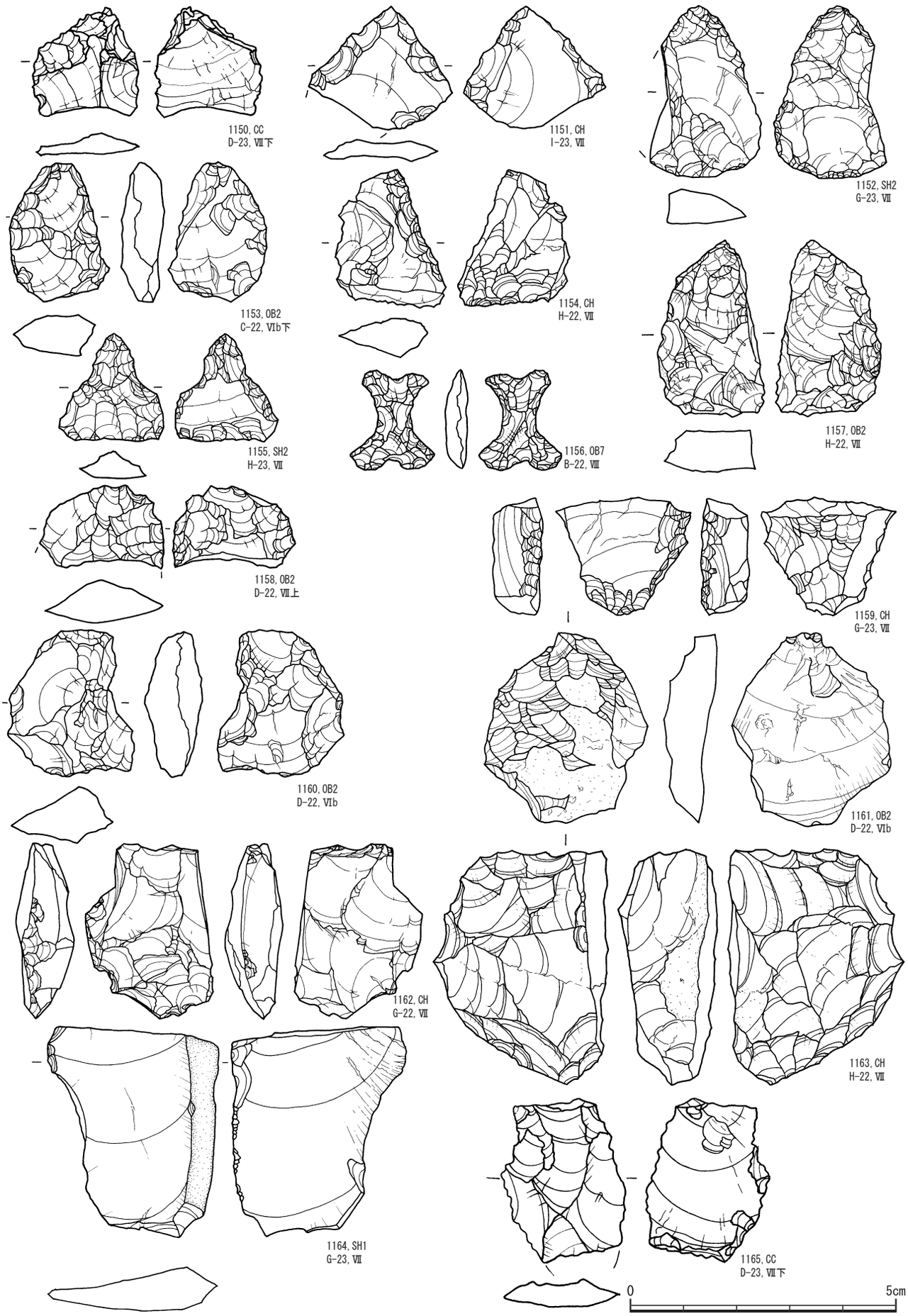
第439図　第Ⅳ文化層第５エリア第８ブロック出土石器実測図



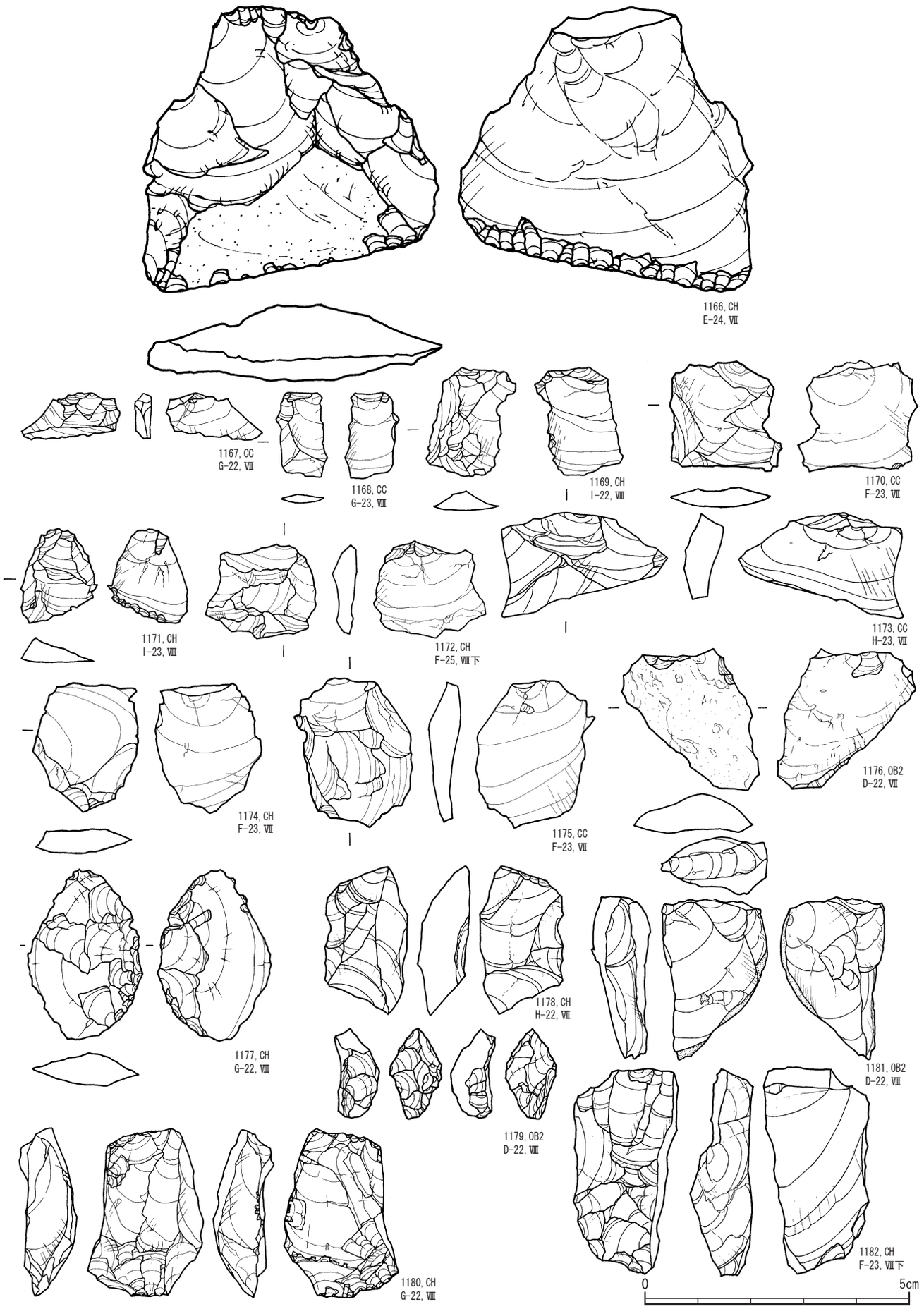
第440図　第Ⅳ文化層第５エリア第９ブロック出土石器実測図



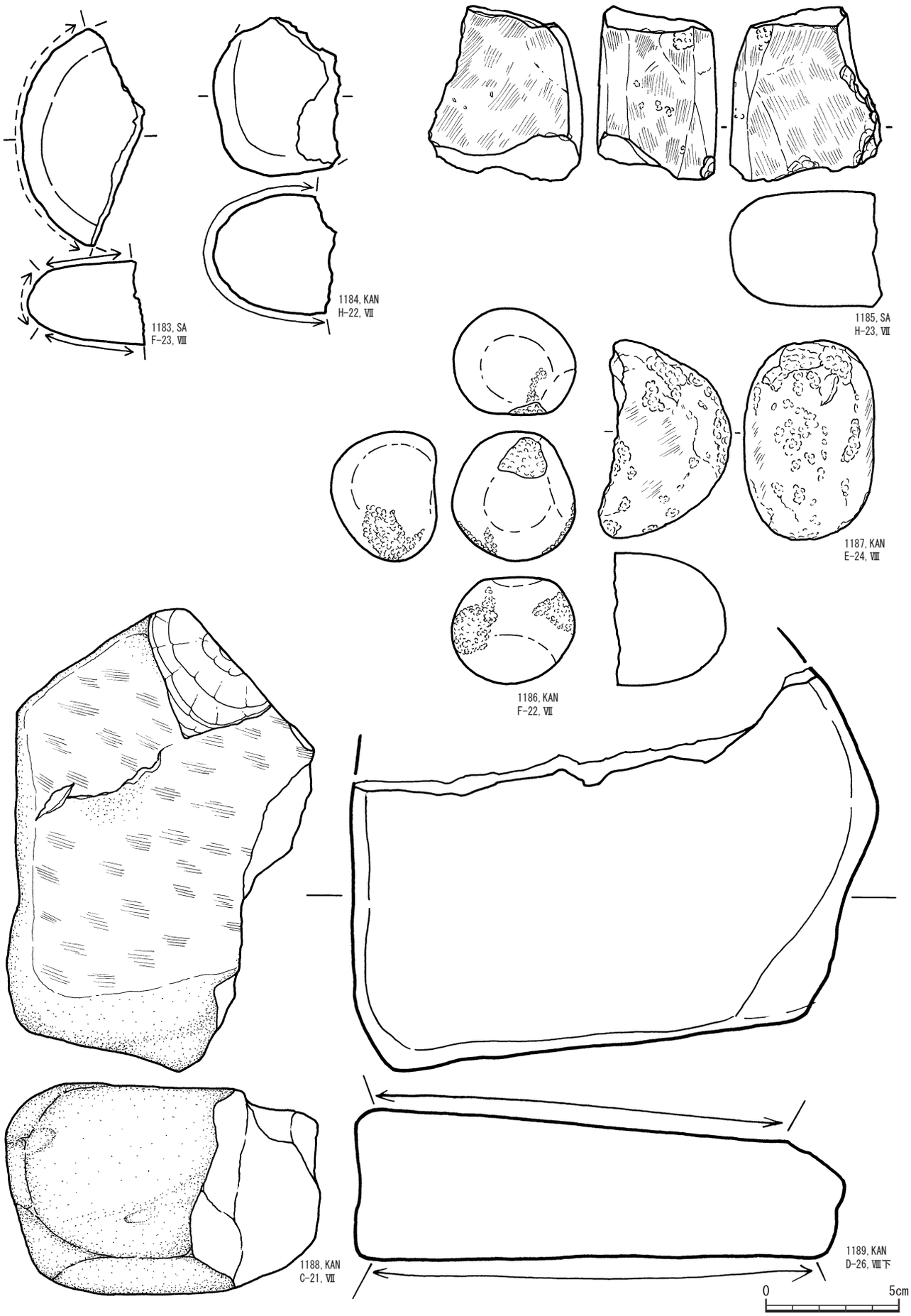
第441図　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器実測図（１）



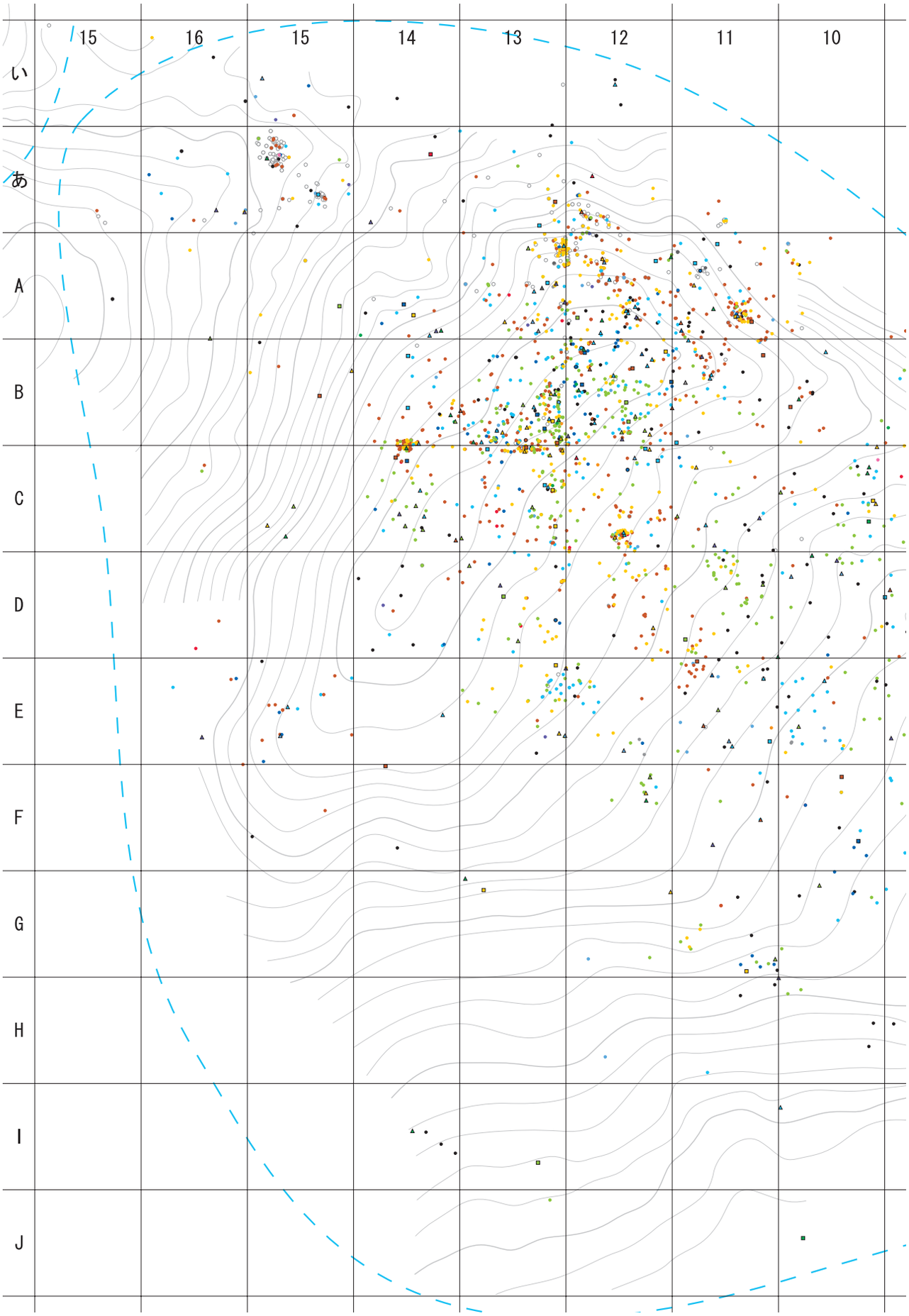
第442図　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器実測図（２）



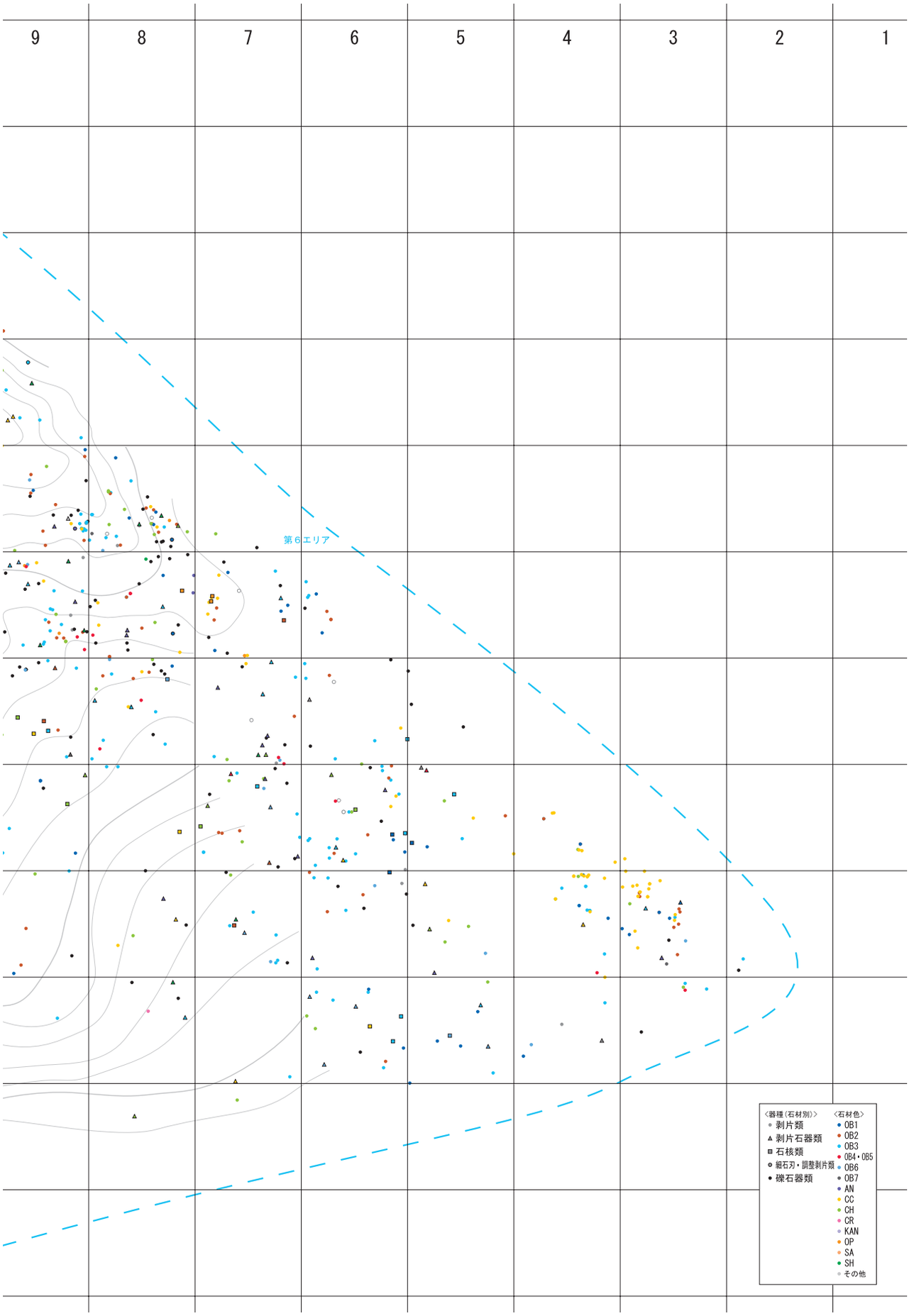
第443図　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器実測図（３）

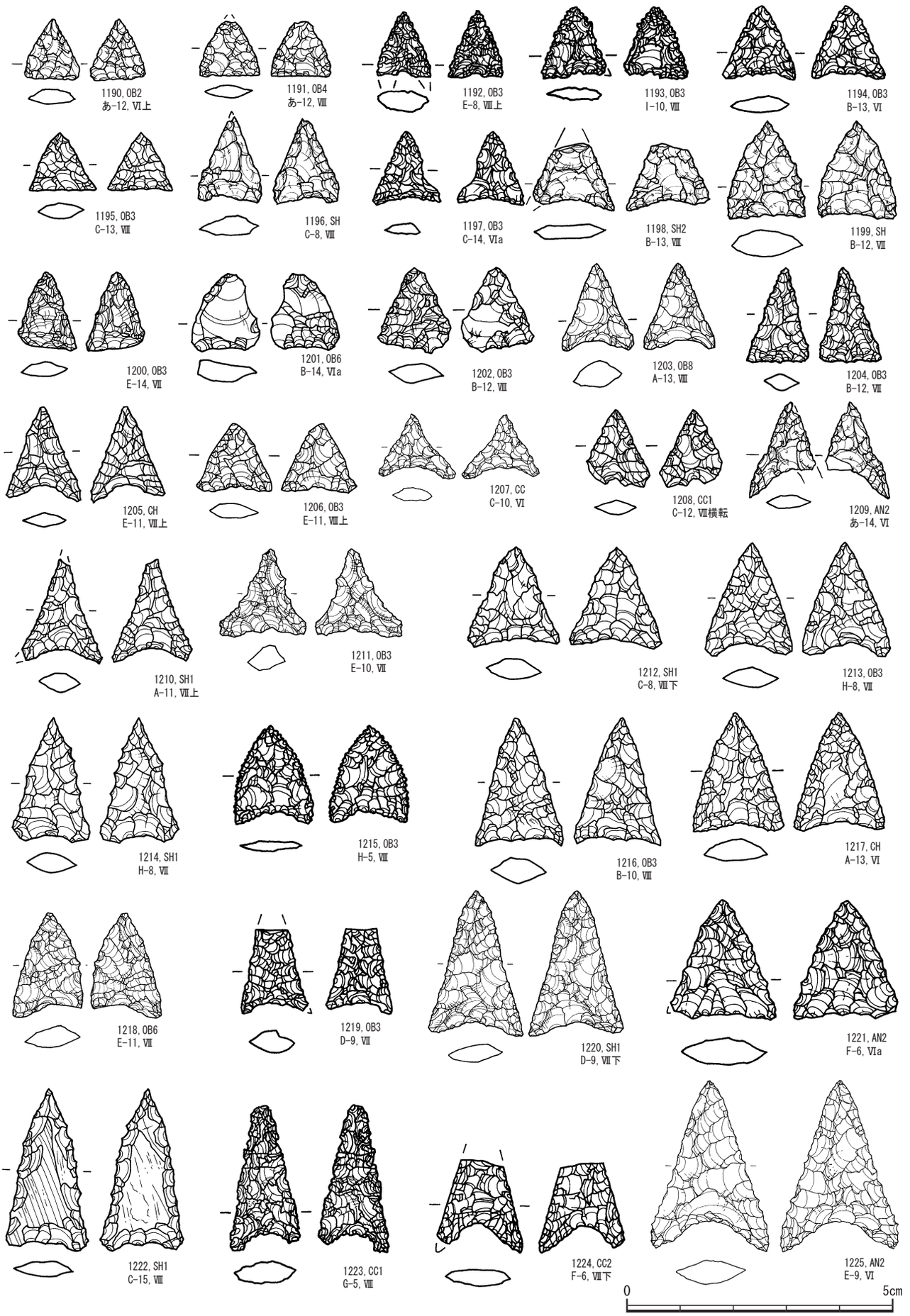


第444図　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器実測図（４）

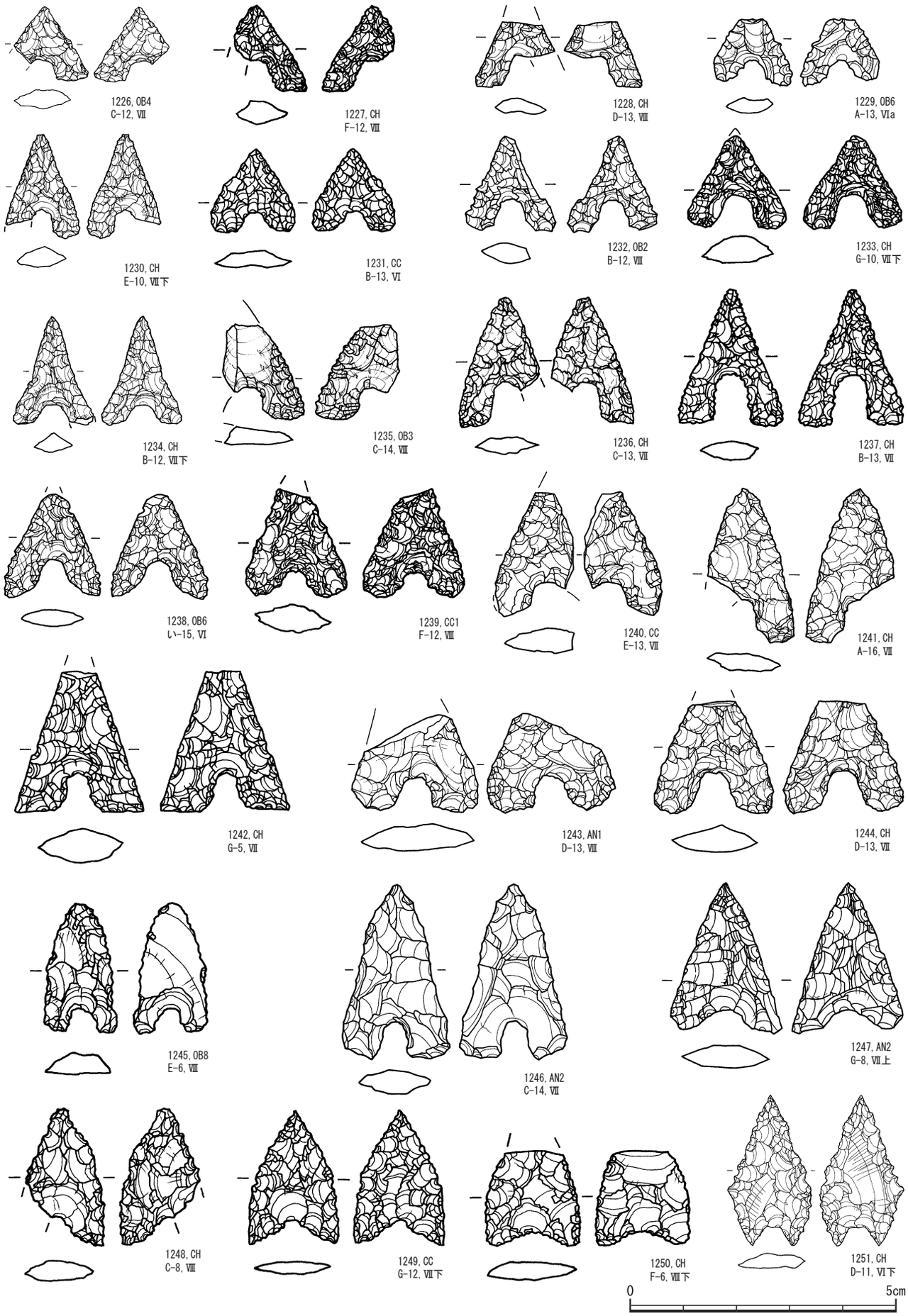


第445図　第Ⅳ文化層第６エリア石器出土状況図

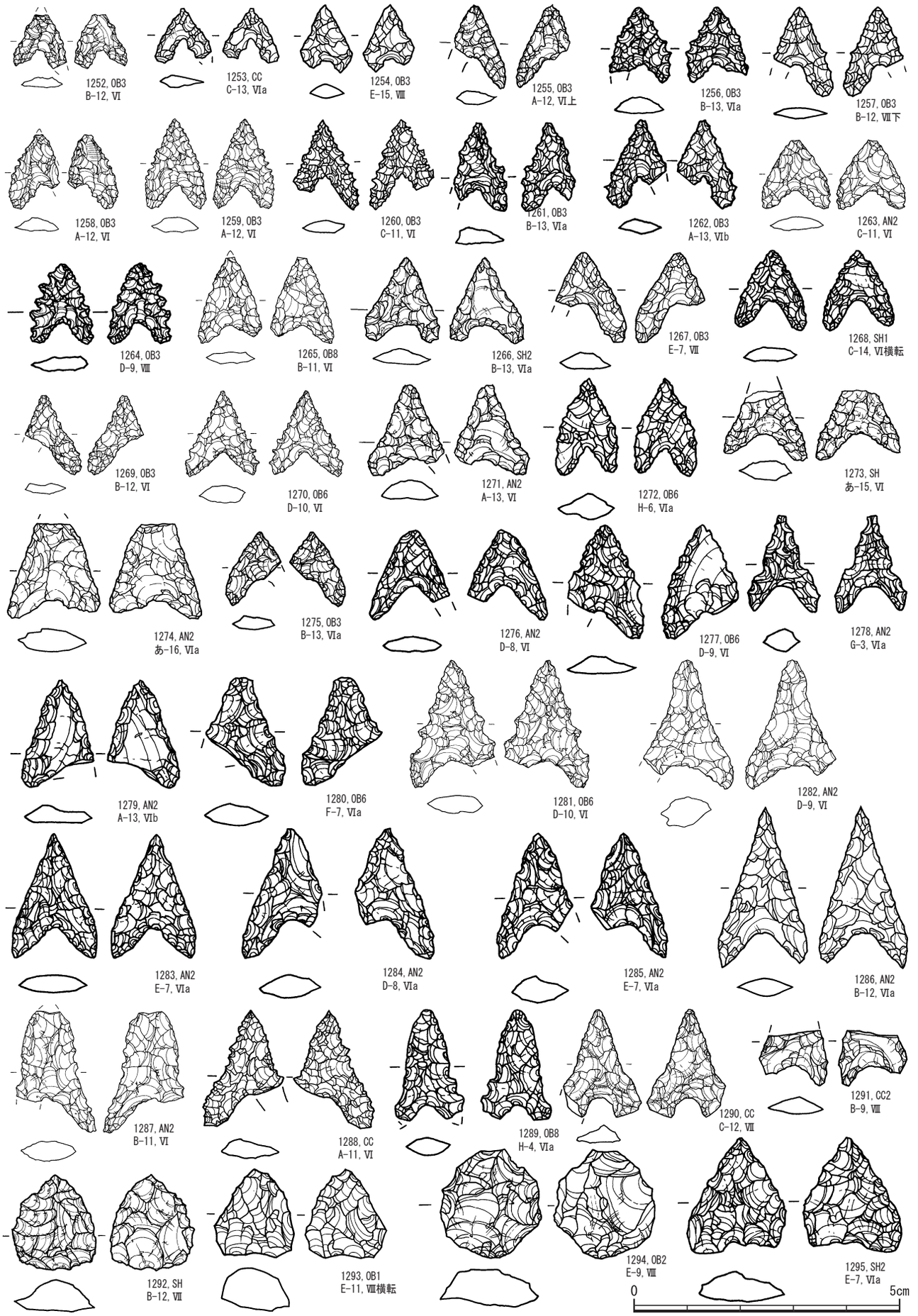

9
8
7
6
5
4
3
2
1
第６エリア
〈器種（石材別）〉
剥片類
剥片石器類
石核類
細石刃・調整剥片類
礫石器類
〈石材色〉
OB1
OB2
OB3
OB4・OB5
OB6
OB7
AN
CC
CH
CR
KAN
OP
SA
SH
その他



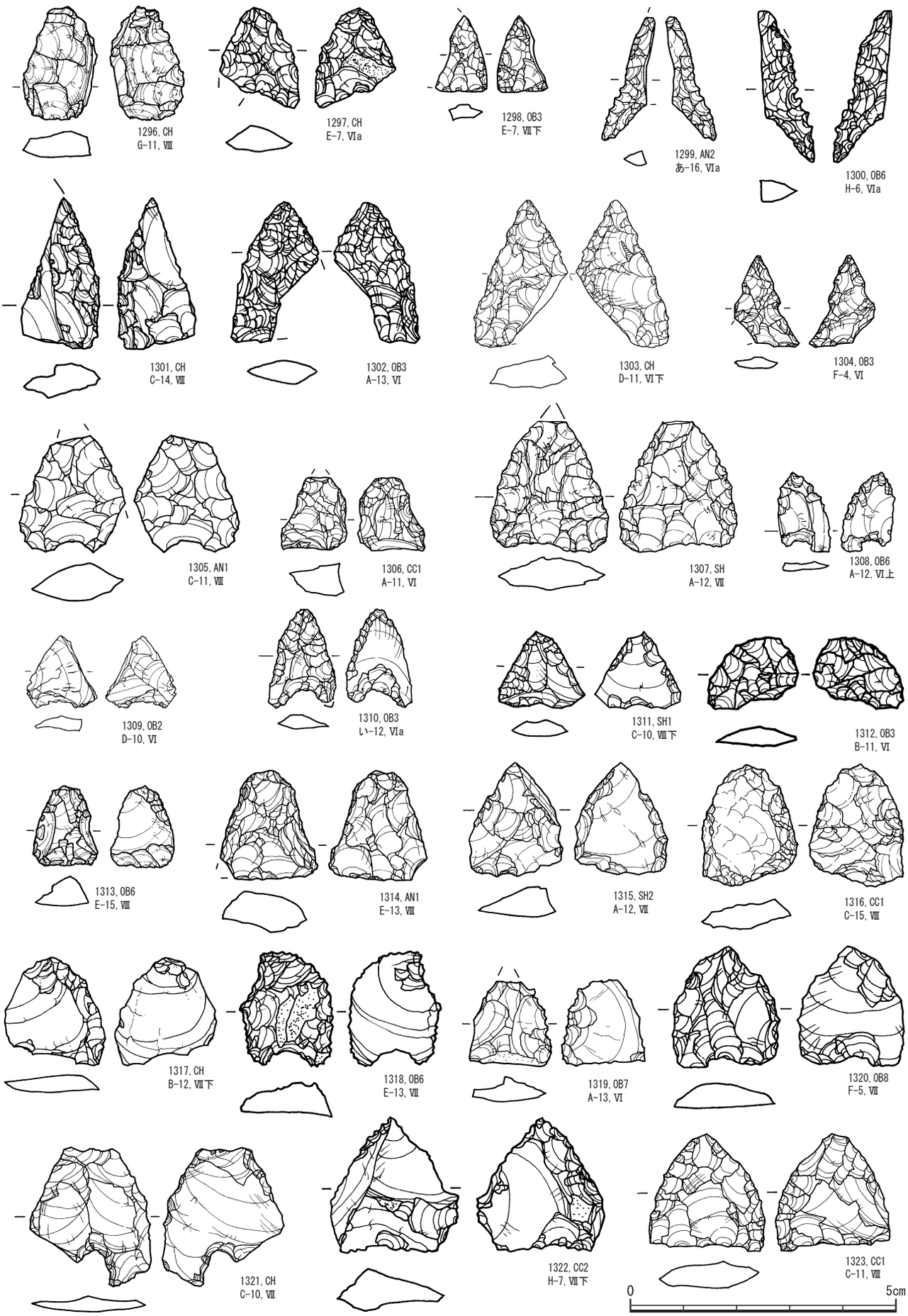
第446図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（１）



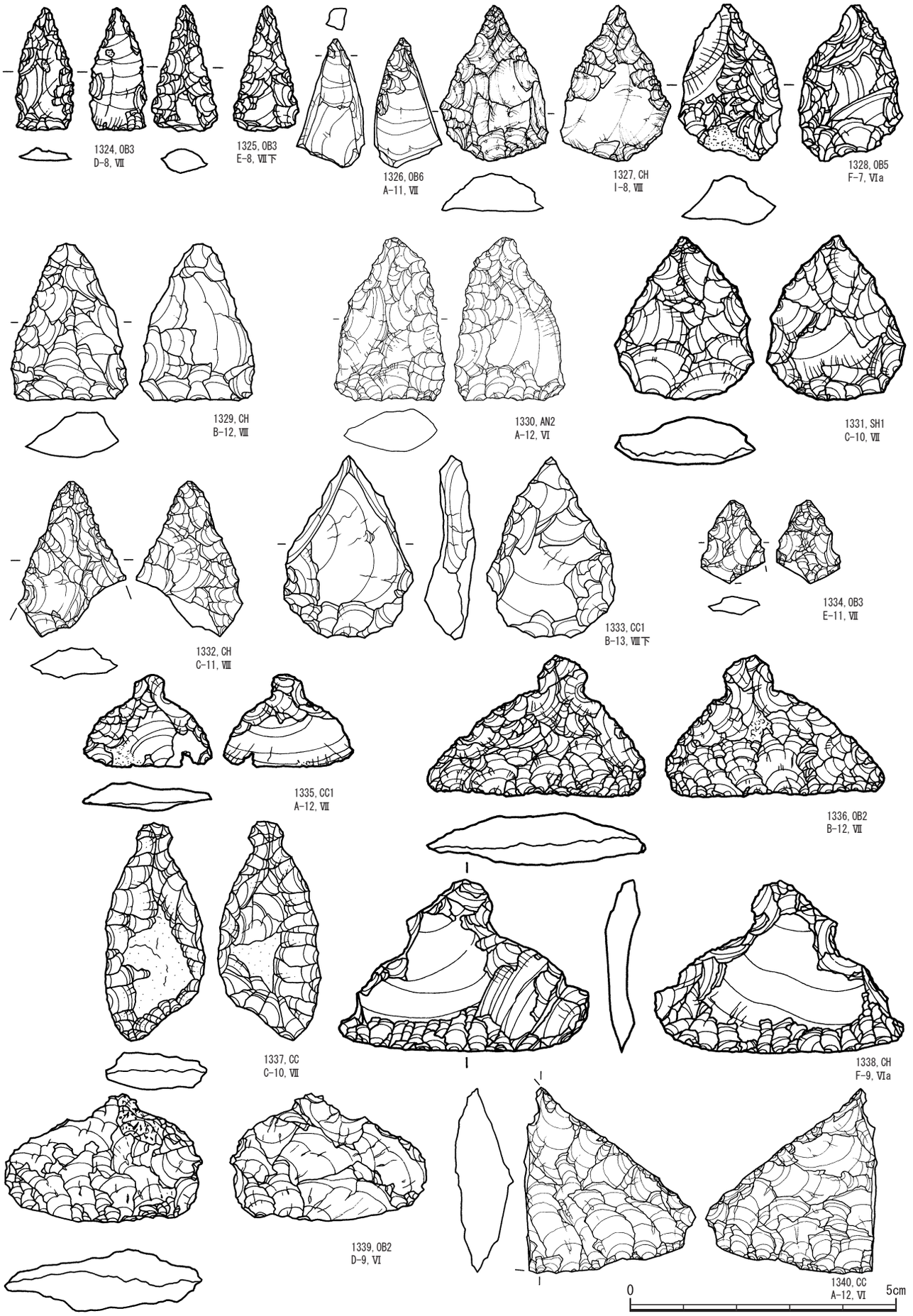
第447図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（２）



第448図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（３）

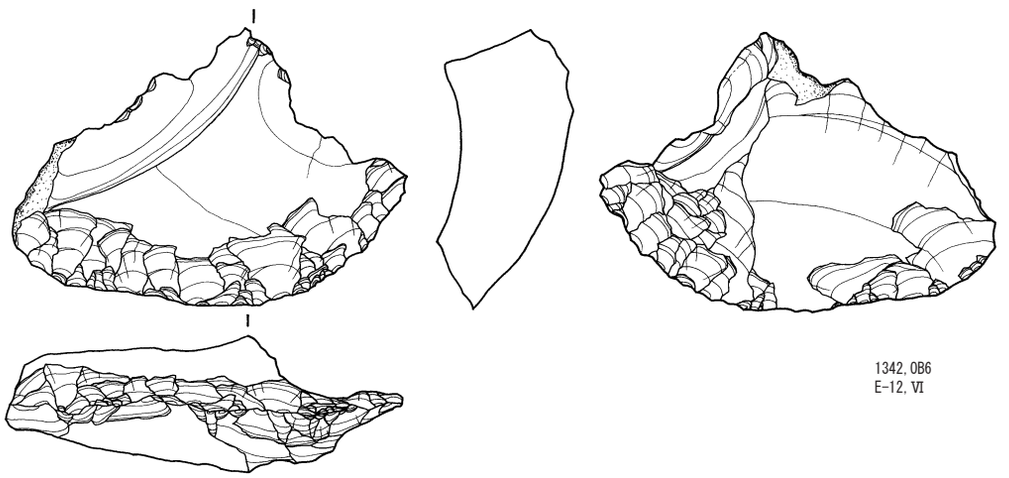


第449図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（４）

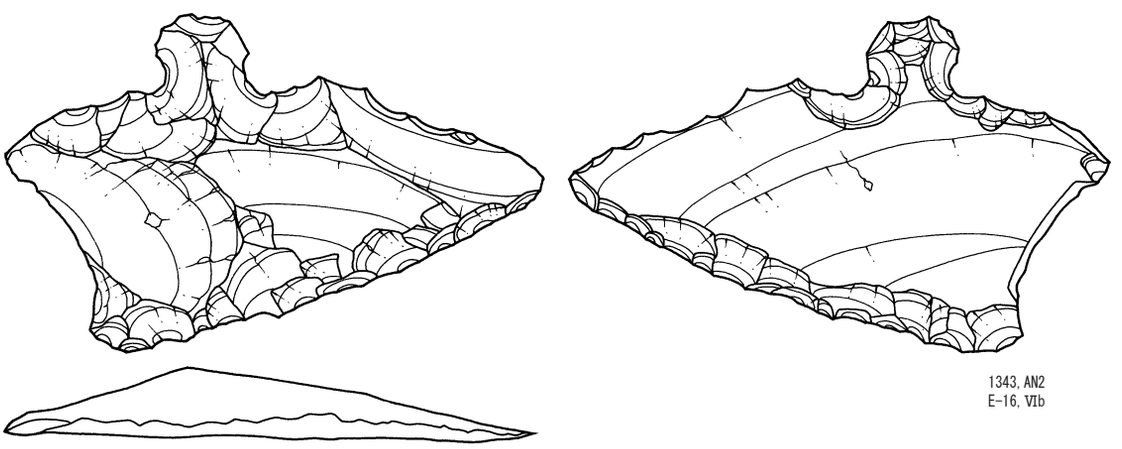


第450図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（５）

1341, AN2
G-5, VIa

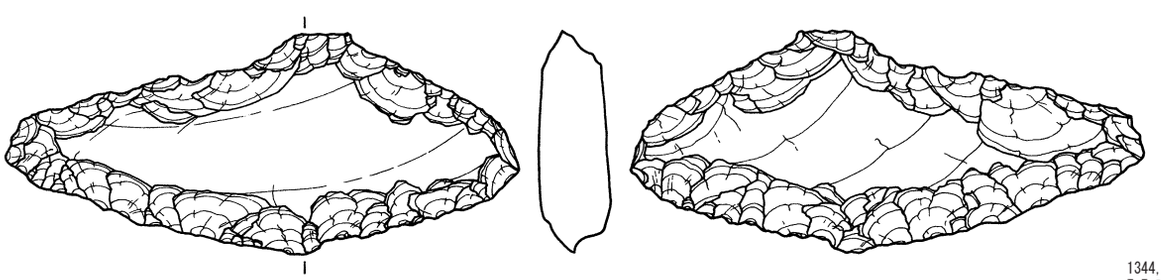


1342, OB6
E-12, VI



1343, AN2
E-16, VIb

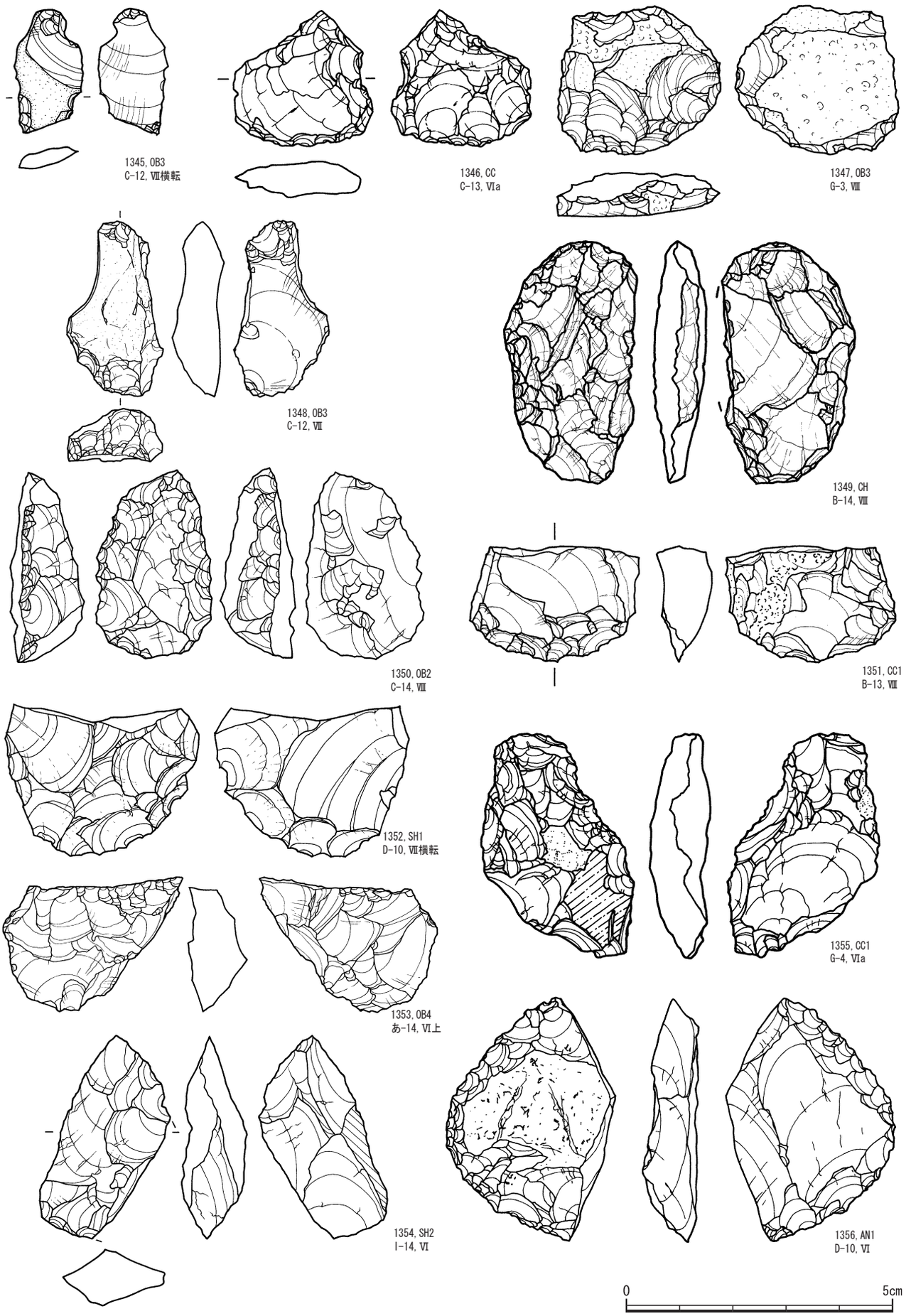
0 5cm



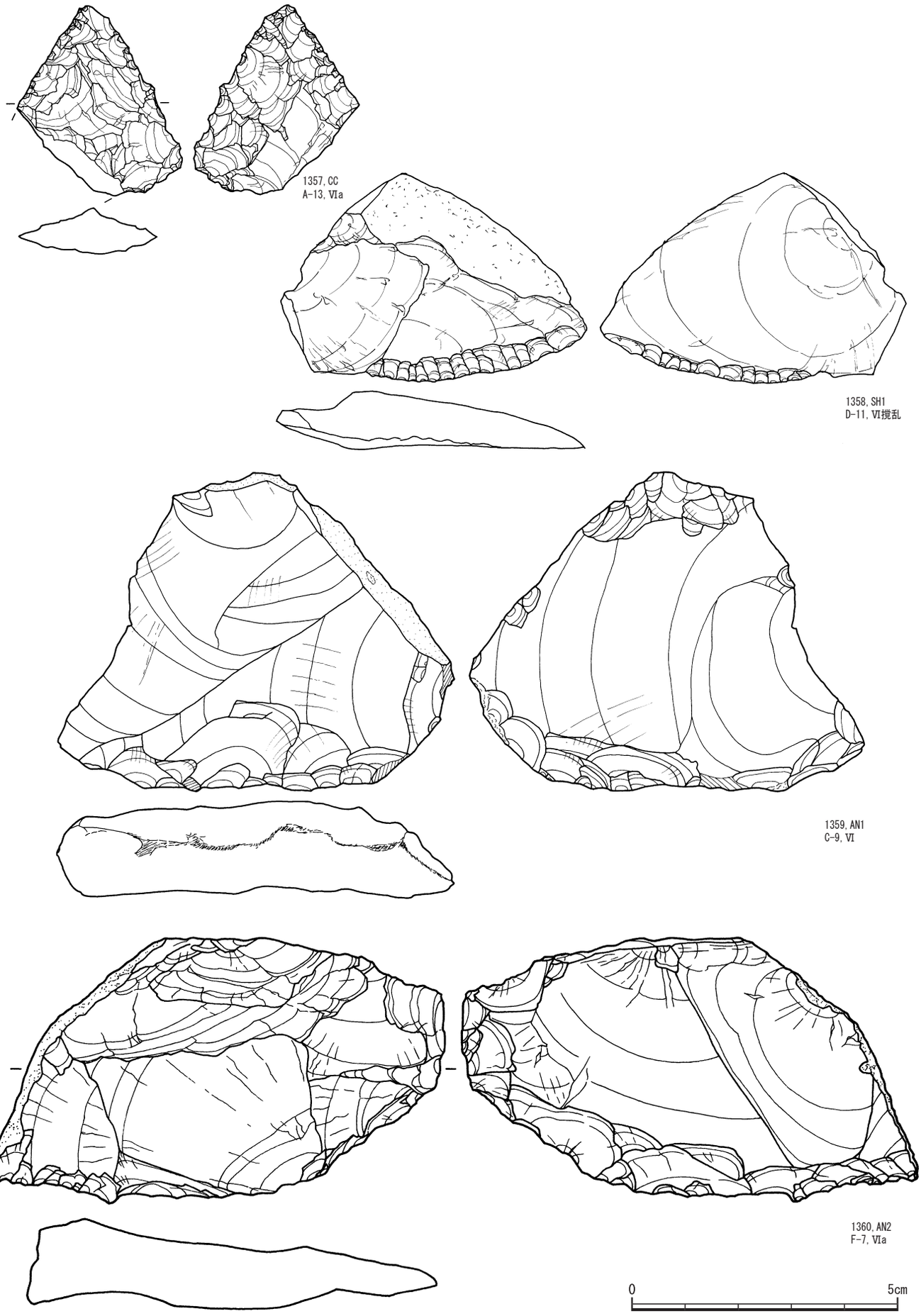
1344, AN2
E-7, VIa

0 5cm

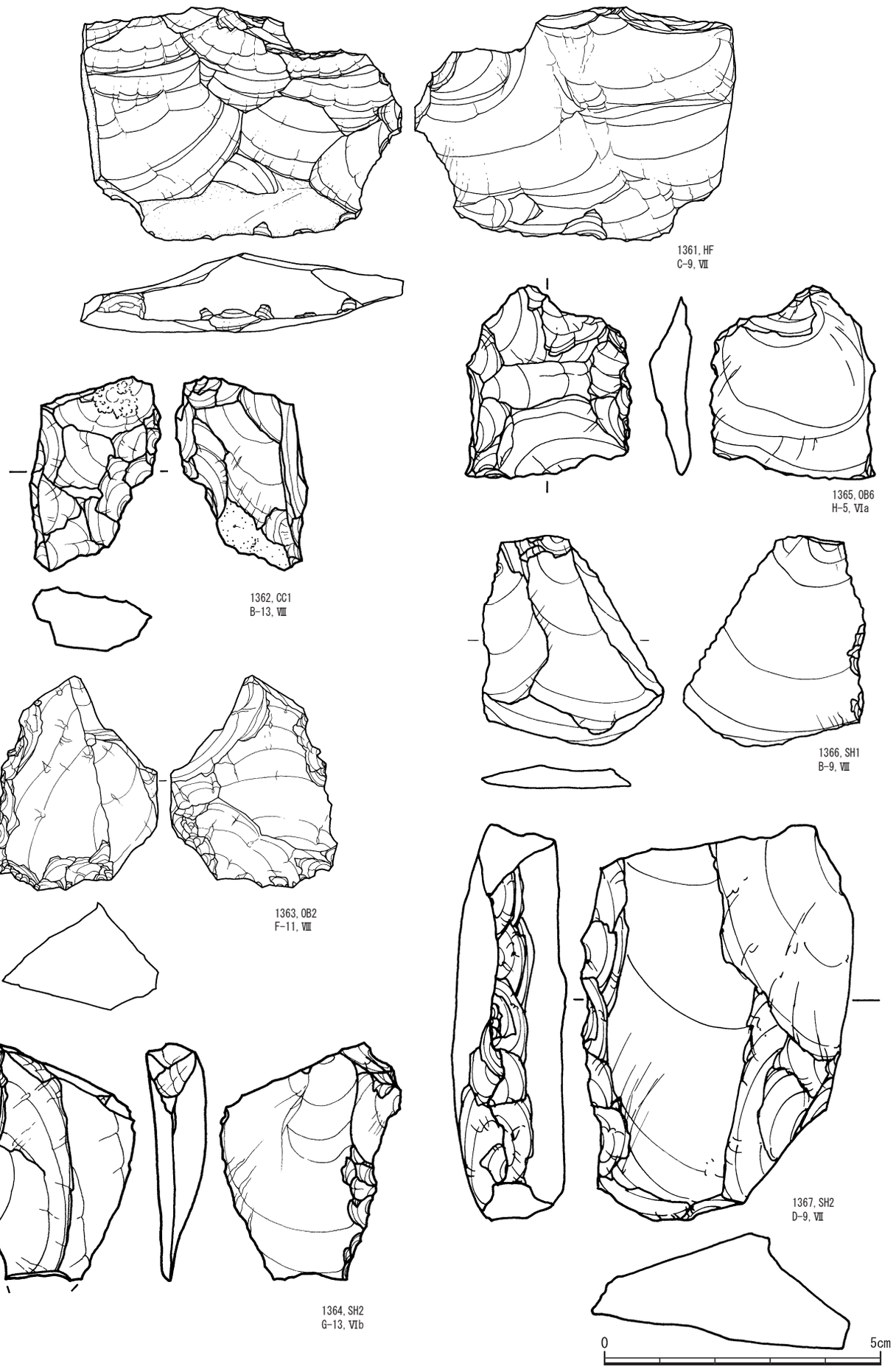
第451図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（６）



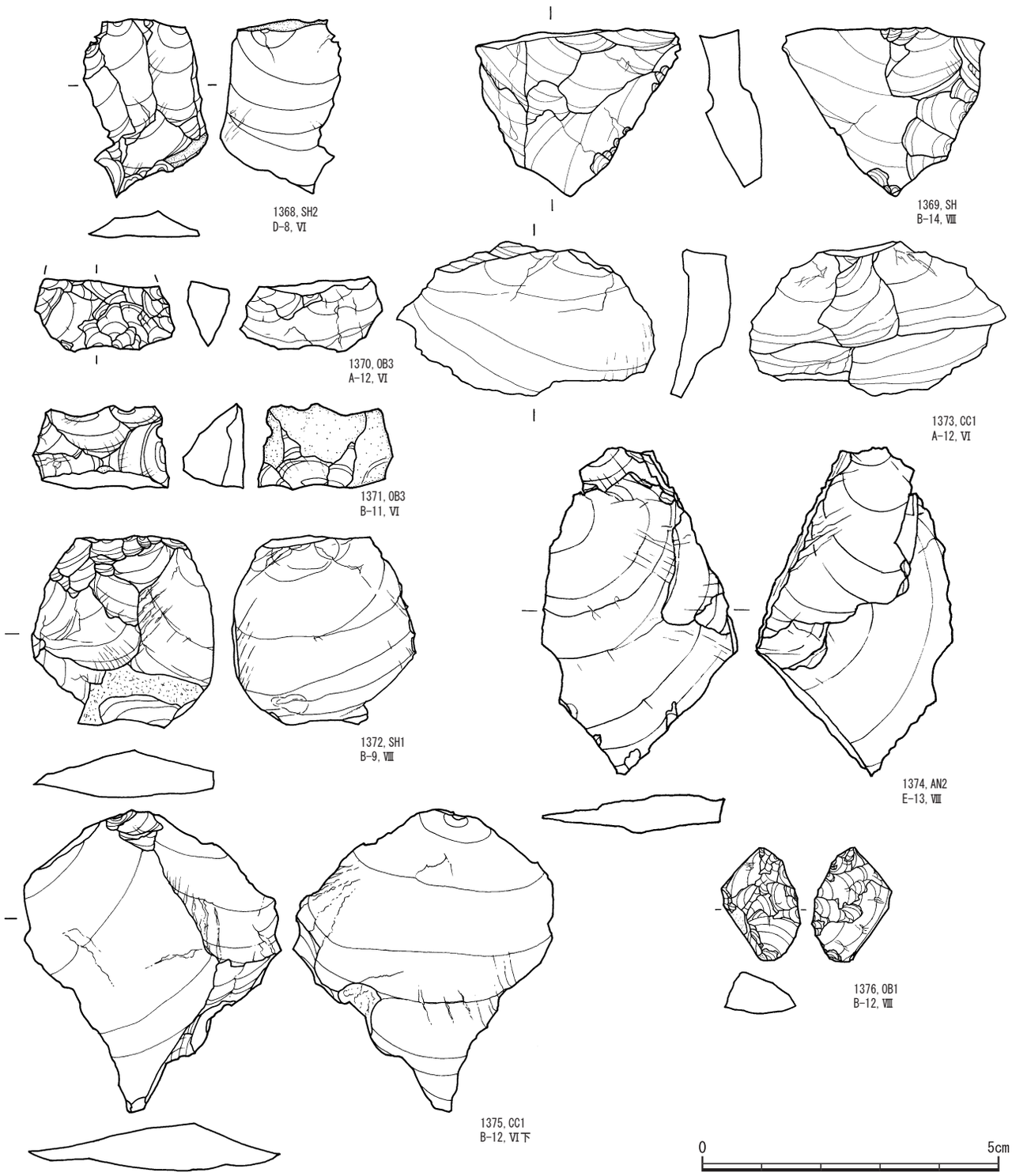
第452図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（７）



第453図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（８）



第454図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（９）



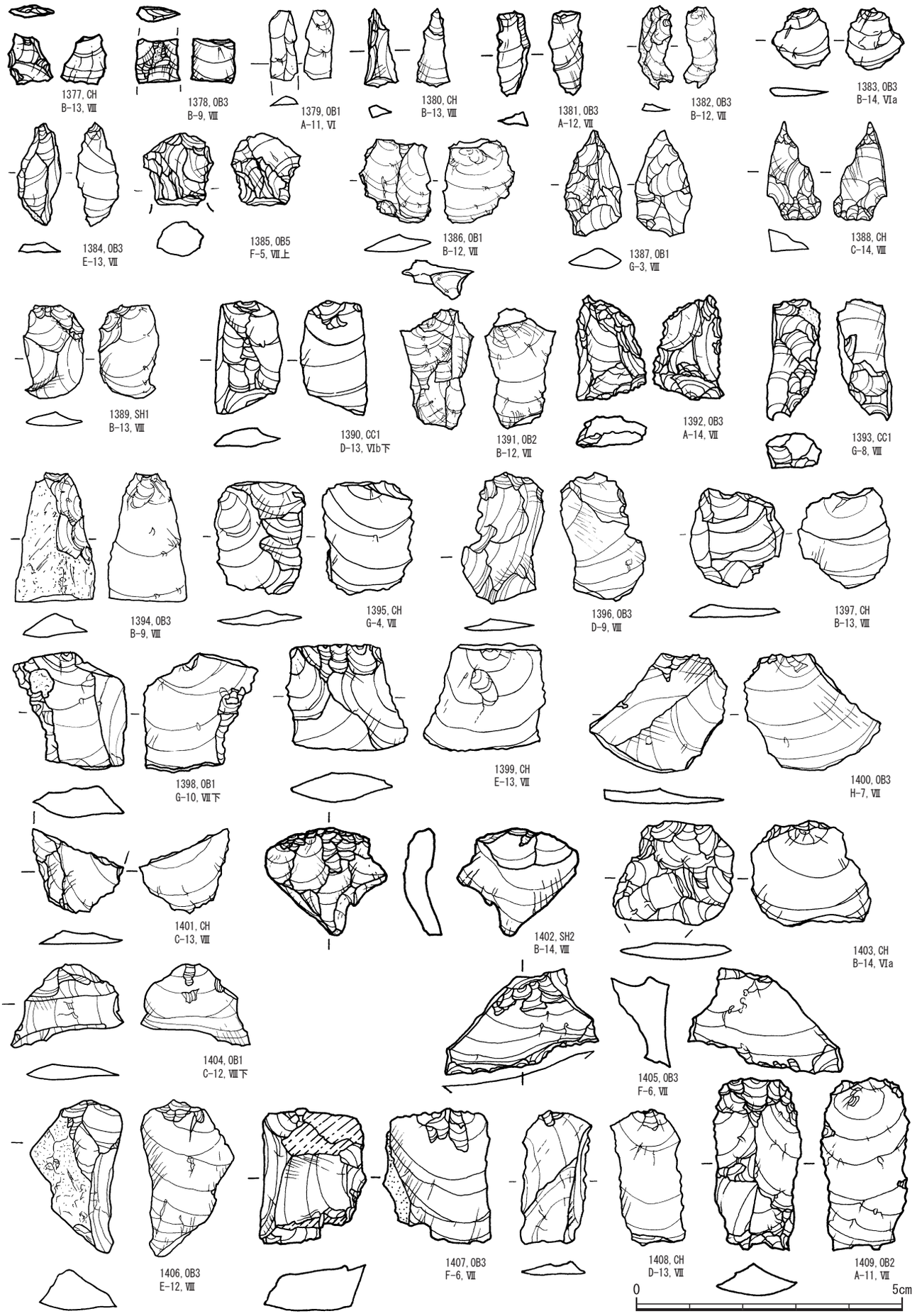
第455図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（10）

第125表　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器観察表（１）

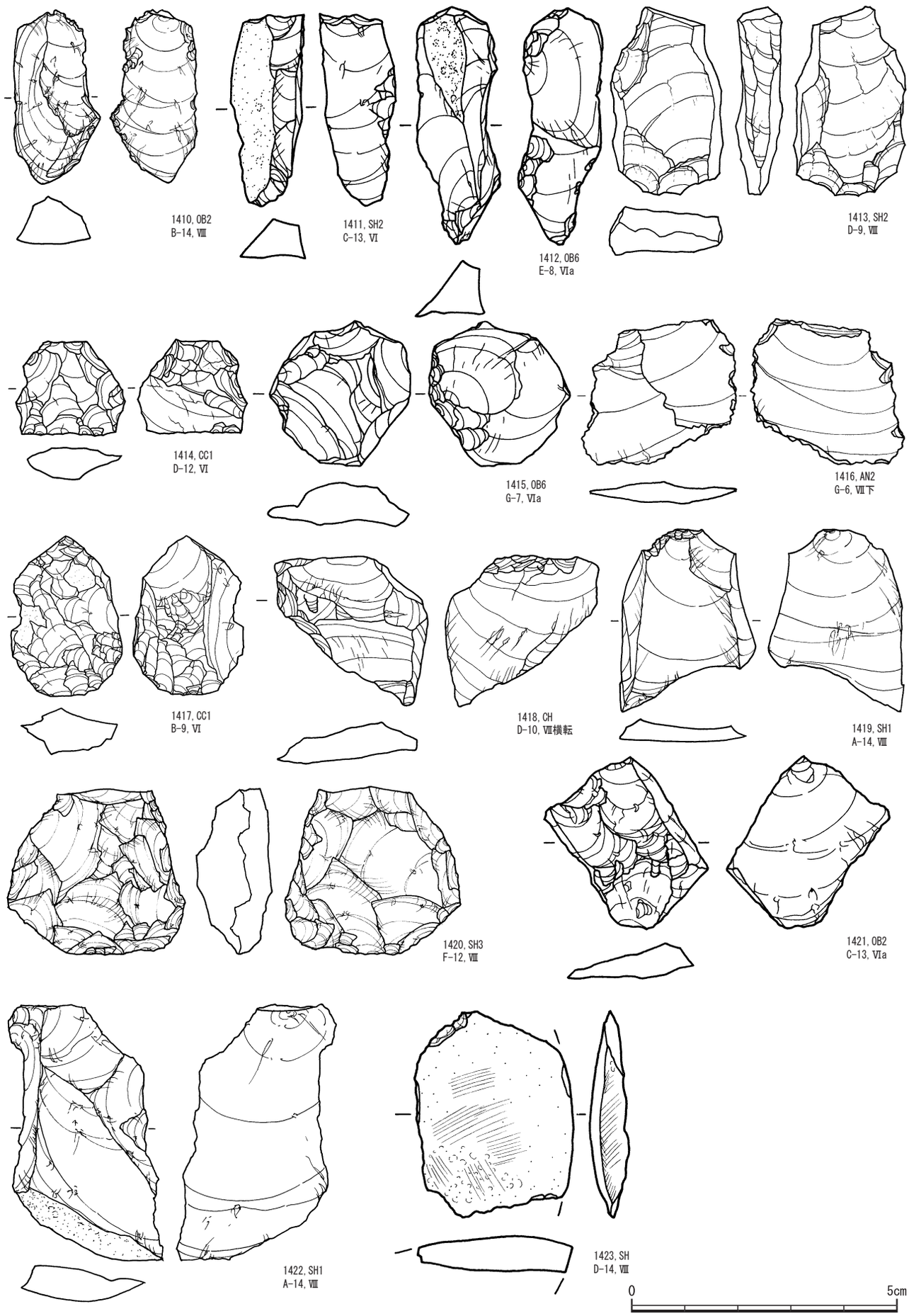
挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/ｸﾞﾘｯﾄﾞ)
436	1073	A05	B05	石鏃	－	CH	11.8	9.7	2.9	0.26	○70085(H-24/Ⅶ下)
436	1074	A05	B05	石鏃	－	CH	12.5	12.8	2.3	0.3	○70019(H-24/Ⅶ)
436	1075	A05	B05	石鏃	未製品	CH	15.3	10.3	2.2	0.34	○69922(G-24/Ⅶ)
436	1076	A05	B05	石鏃	未製品	SH2	18.7	13.4	3.1	0.69	○70242(H-23/Ⅶ下)
436	1077	A05	B05	石鏃	未製品	CH	17	16.2	4.4	1.1	○70130(H-24/Ⅶ)
436	1078	A05	B05	石鏃	－	CH	25.2	16.6	4	1.1	○69980(H-24/Ⅷ)
436	1079	A05	B05	石鏃	－	OB2	22.7	18.1	4.1	1.1	○70000(H-24/Ⅶ下)
436	1080	A05	B05	石鏃	－	OB1	15.1	12.9	4.7	0.81	○69037(H-23/Ⅶ)
436	1081	A05	B05	石鏃	未製品	CH	30.2	28.3	7.8	2.8	○70209(G-24/Ⅶ)
436	1082	A05	B05	二次加工痕剥片	－	CH	27.7	21.1	6.1	3.4	○69035(H-23/Ⅶ)
436	1083	A05	B05	剥片	－	SH2	30.6	21.2	4.2	2.5	○70013(H-24/Ⅶ)

第126表　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器観察表（２）

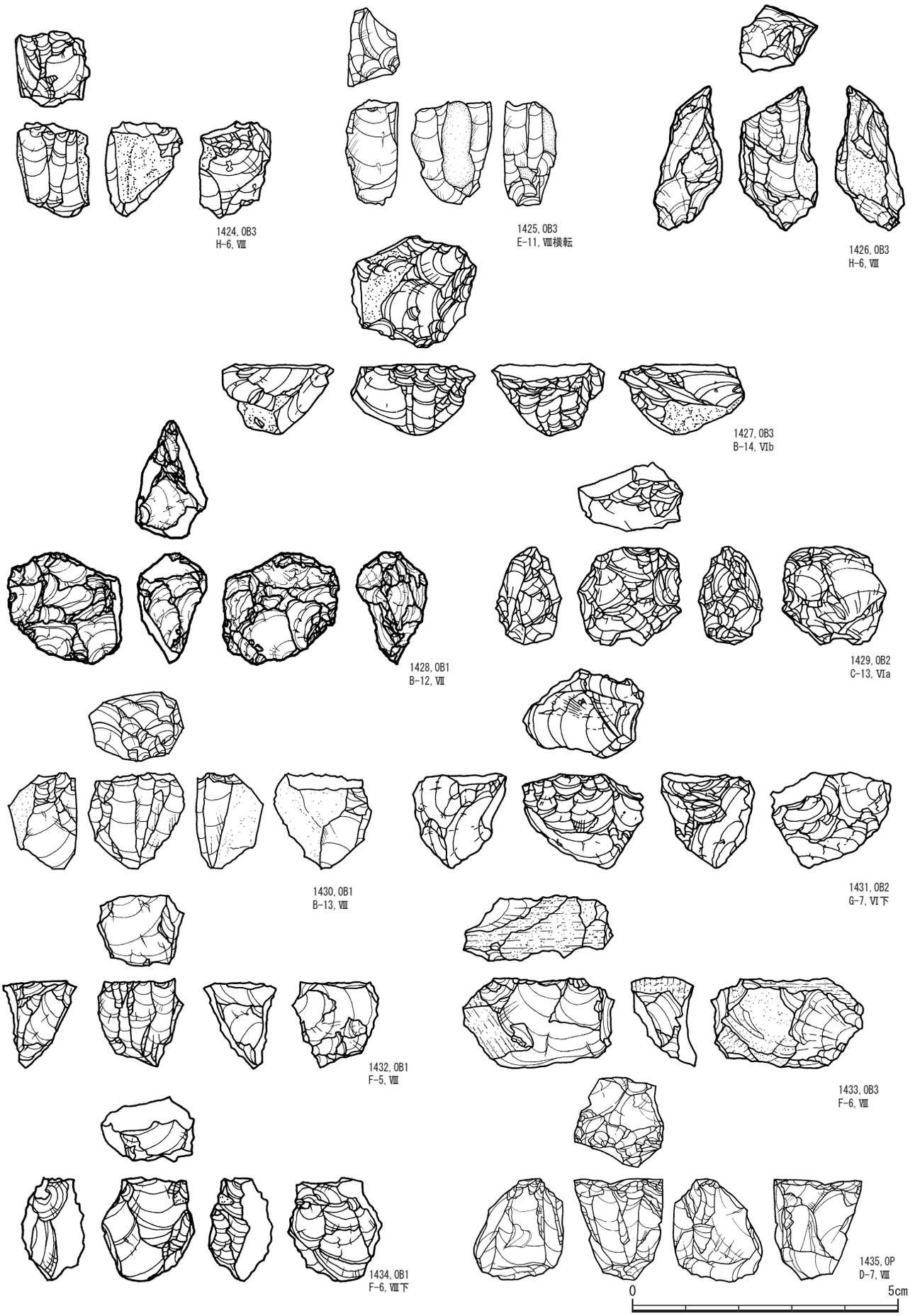
挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/ｸﾞﾘｯﾄﾞ)
436	1084	A05	B05	剥片	－	CC	28	19.9	4.1	1.7	○69976(G-24/Ⅶ)
436	1085	A05	B05	剥片	－	CH	29.6	11.7	4.8	1.1	○69949(G-24/Ⅶ)
436	1086	A05	B05	石核	－	CH	20.4	45.5	21.7	17	○70092(H-24/Ⅶ下)
436	1087	A05	B05	打製石斧	－	HF	80.3	32.9	11.7	26	○69043(H-23/Ⅶ)
437	1088	A05	B06	石鏃	－	CH	15.4	15.3	3.1	0.52	○70255(H-23/Ⅶ下)
437	1089	A05	B06	石鏃	－	SH2	21.6	18.4	3.2	1	○69158(H-23/Ⅶ)
437	1090	A05	B06	石鏃	－	CH	34.3	13	2.4	1	○69170(H-23/Ⅶ)
437	1091	A05	B06	石鏃	未製品	CH	31.6	22	6.1	3.5	○69098(H-23/Ⅶ)
437	1092	A05	B06	石鏃	－	AN1	17.3	14.1	3.3	0.62	○69119(H-23/Ⅶ)
437	1093	A05	B06	二次加工痕剥片	－	CH	17.9	19.2	8.3	2.5	○70280(H-23/Ⅶ)
437	1094	A05	B06	剥片	－	CC	19.3	10.7	4.3	0.52	○69084(H-23/Ⅶ)



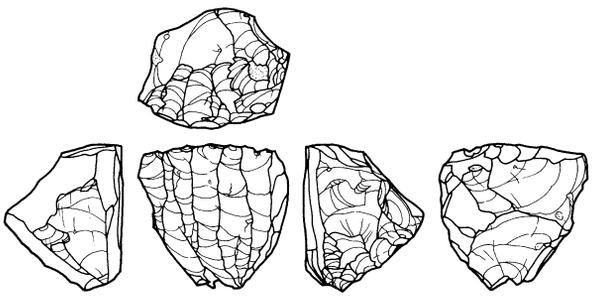
第456図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（11）

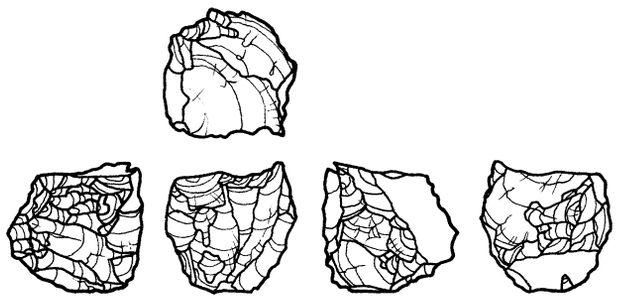


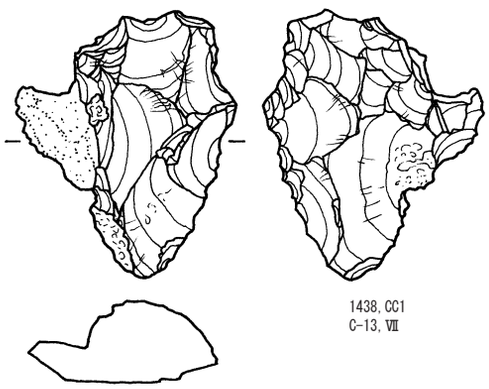
第457図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（12）

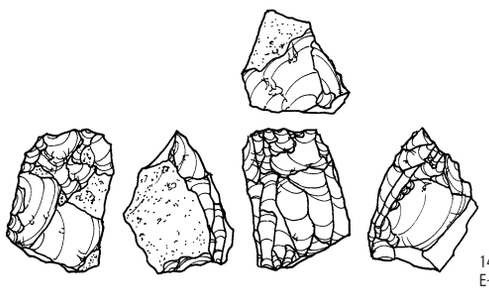


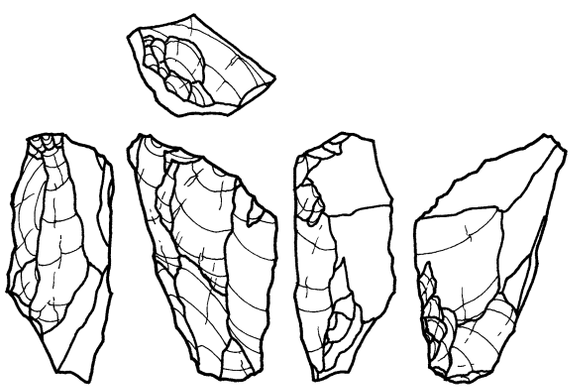
第458図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（13）

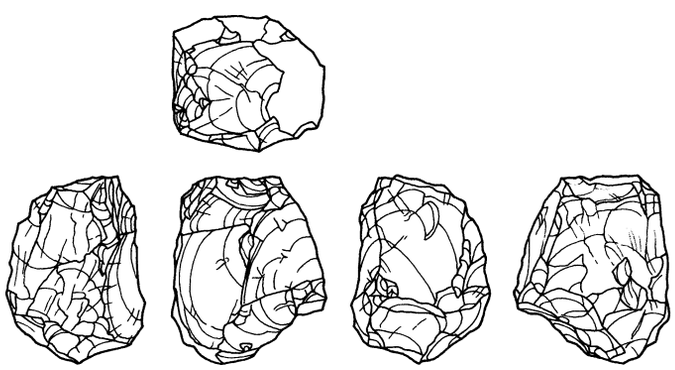


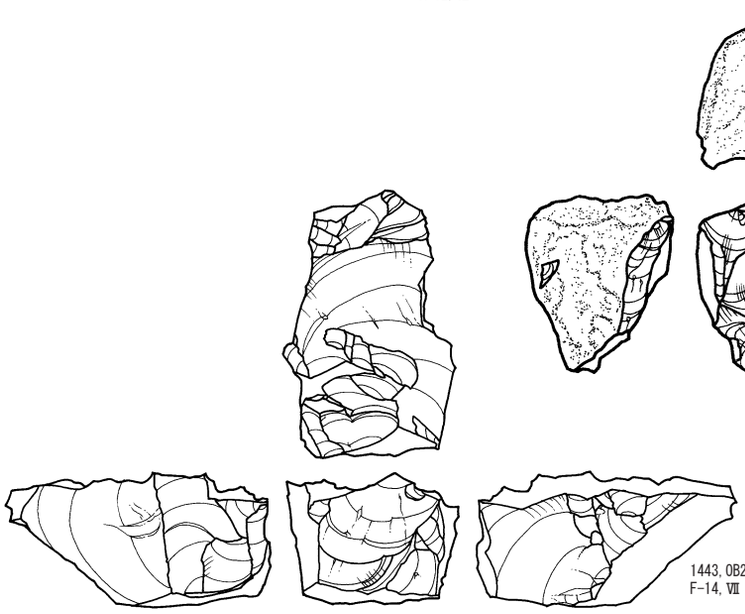


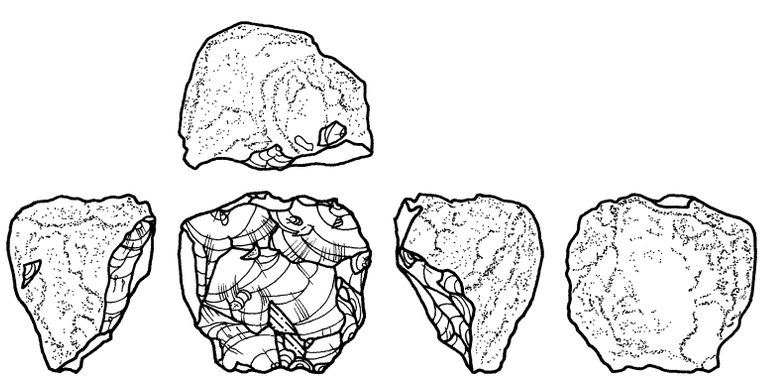




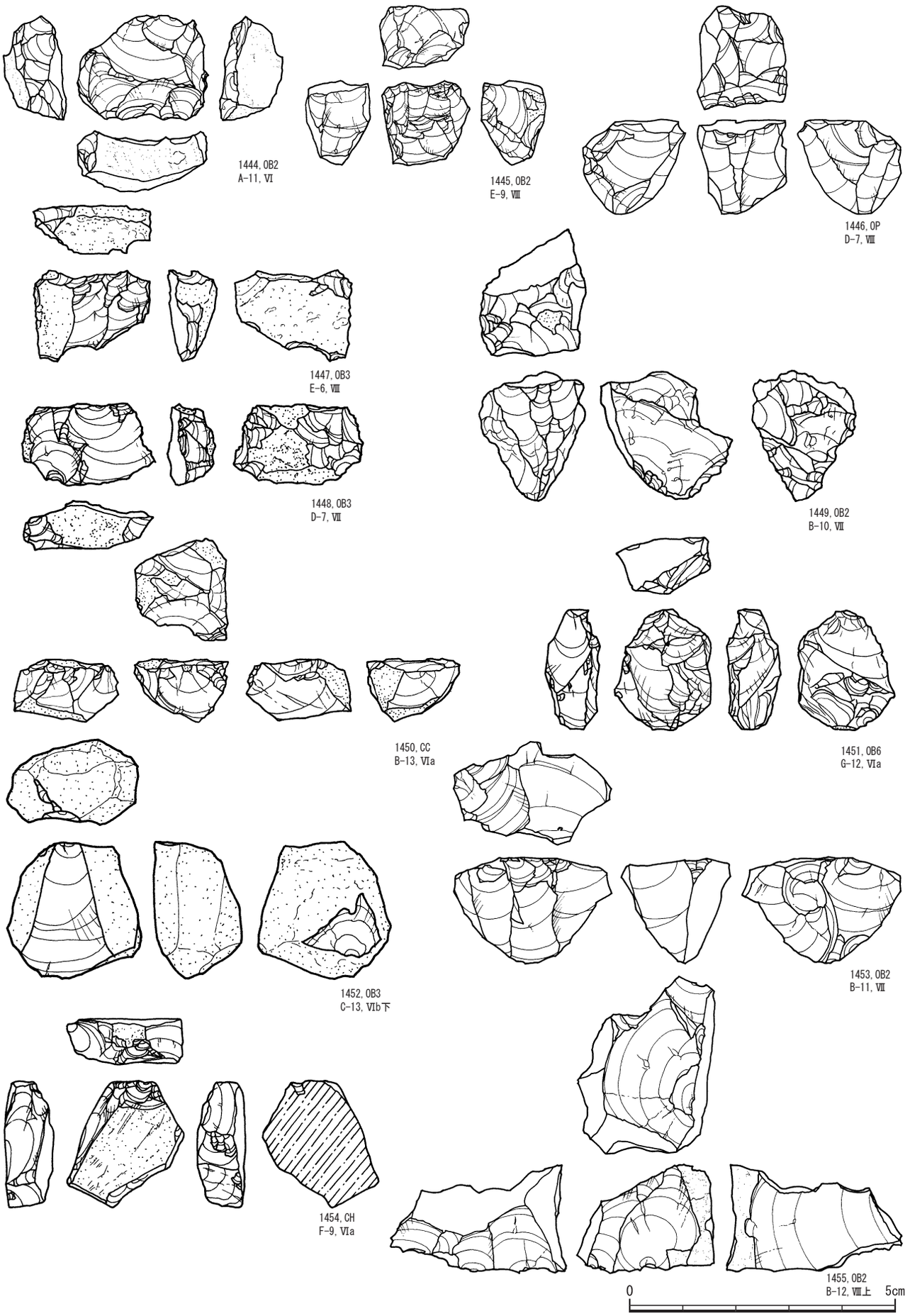




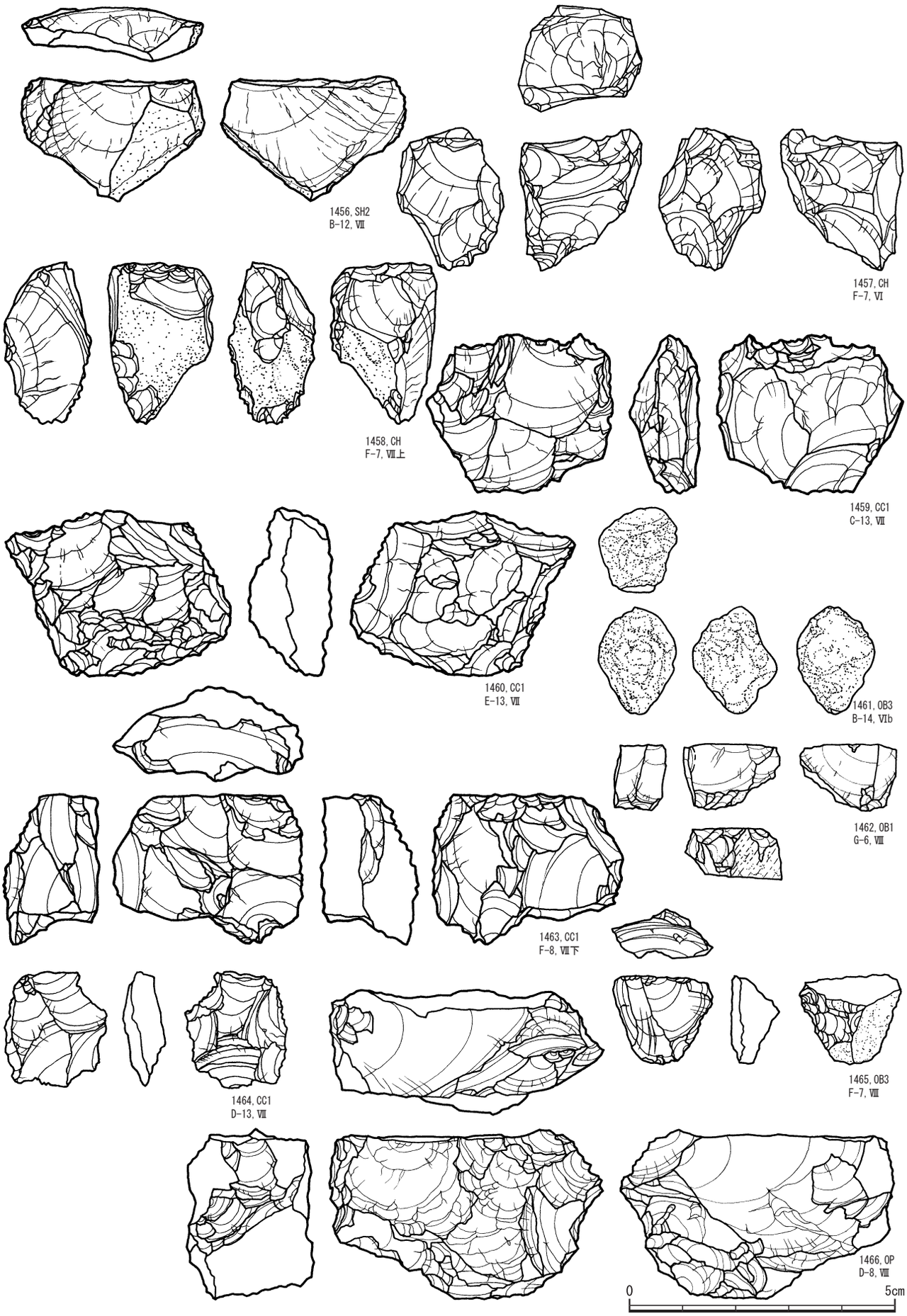




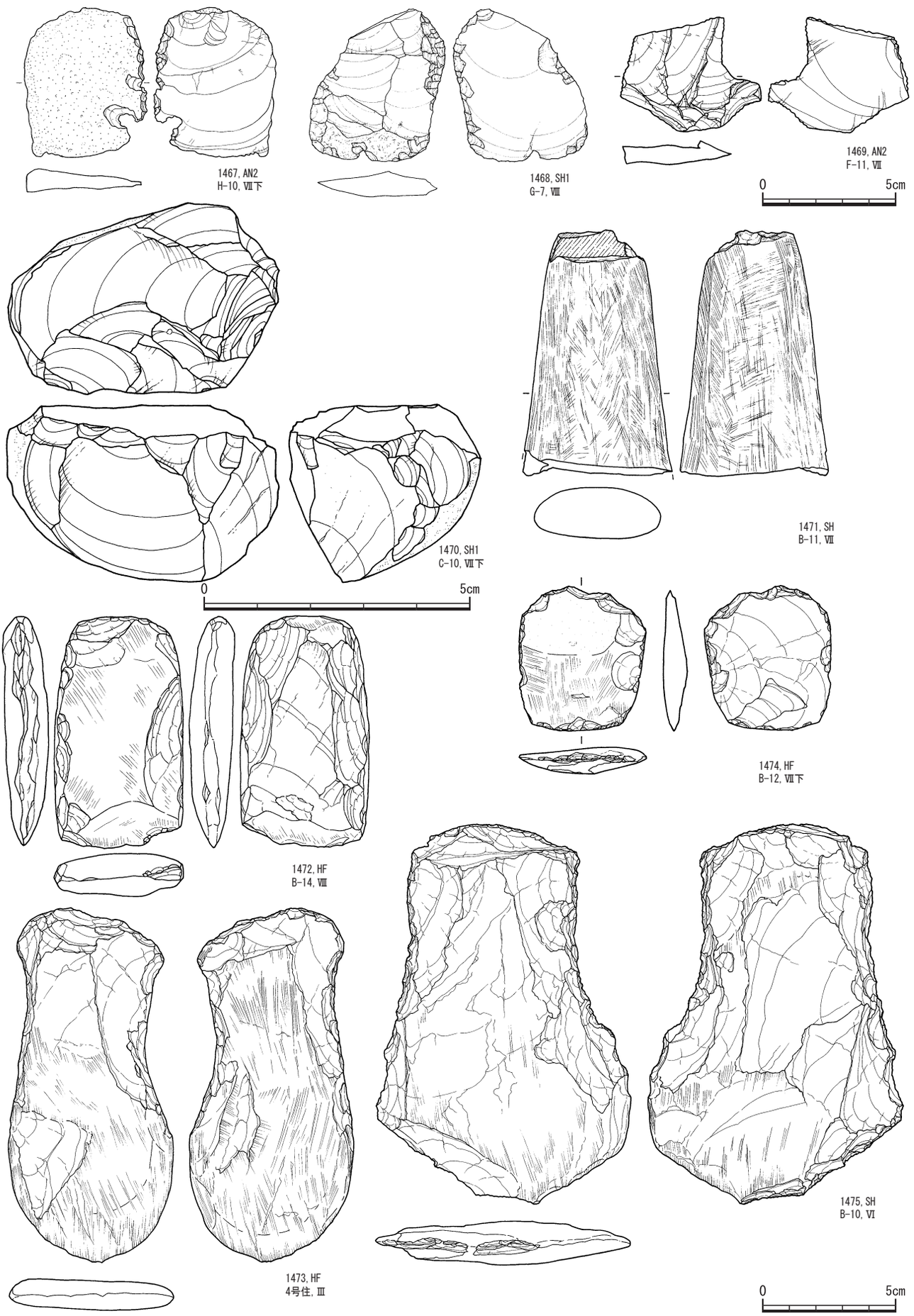
第459図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（14）



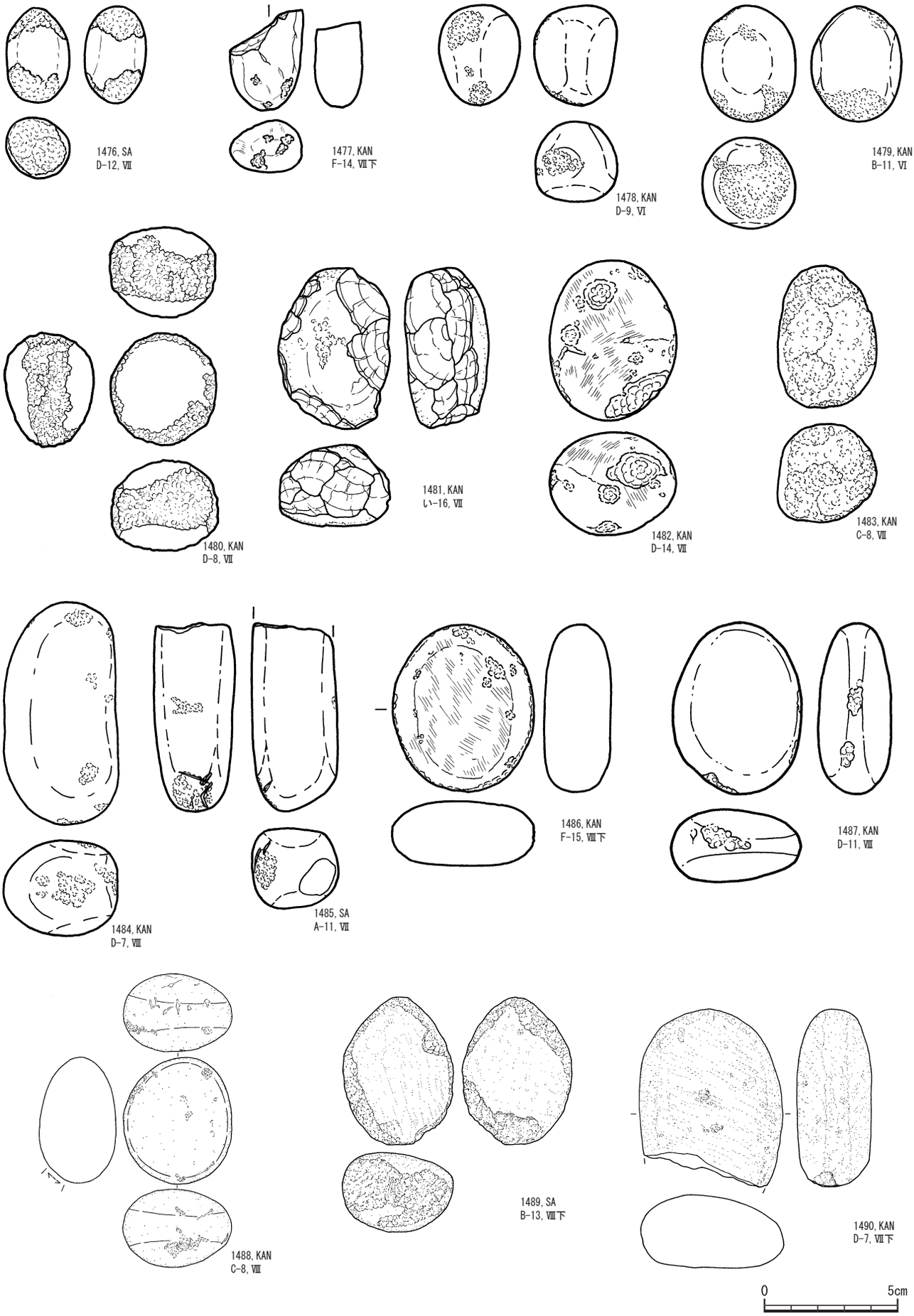
第460図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（15）



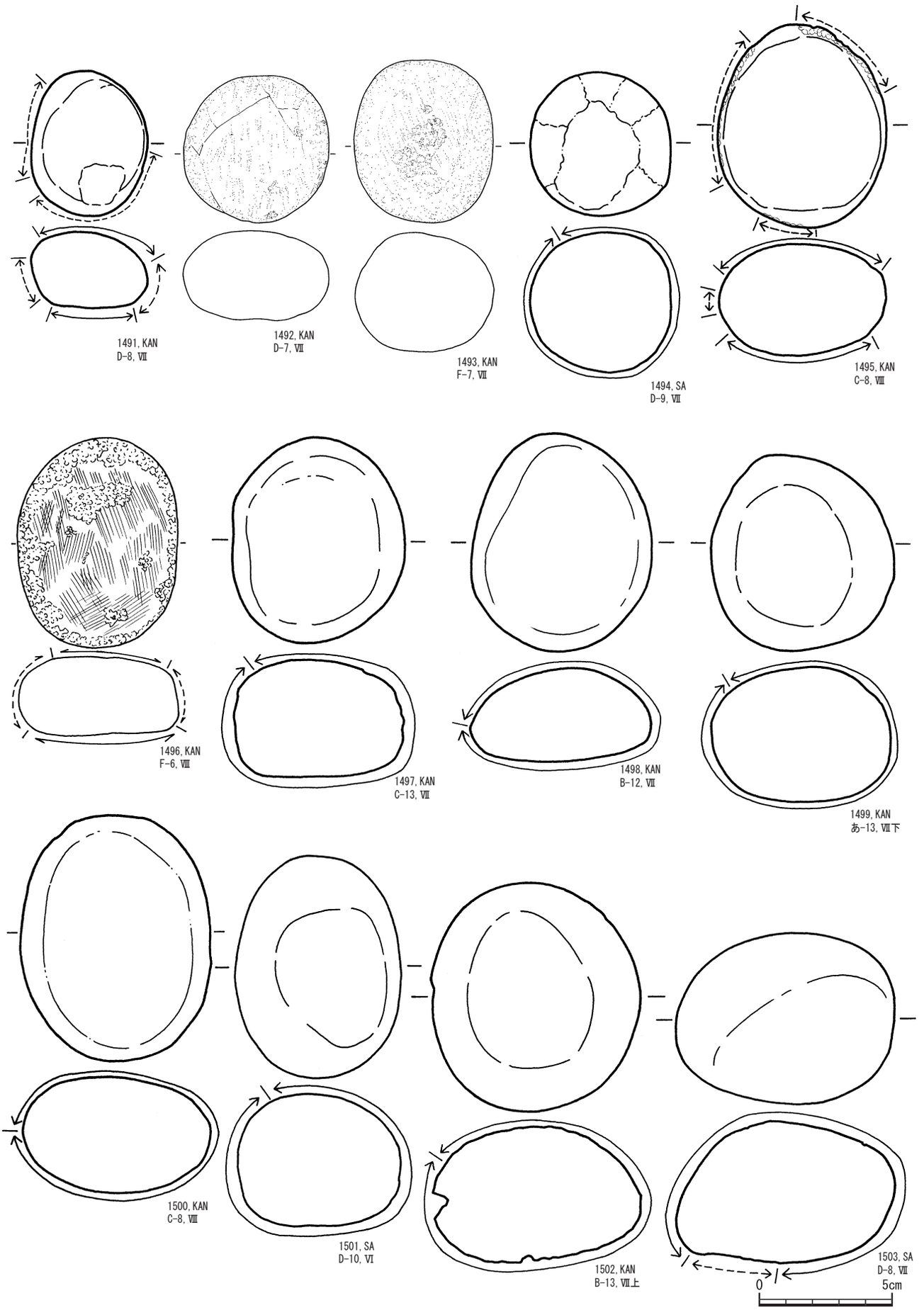
第461図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（16）



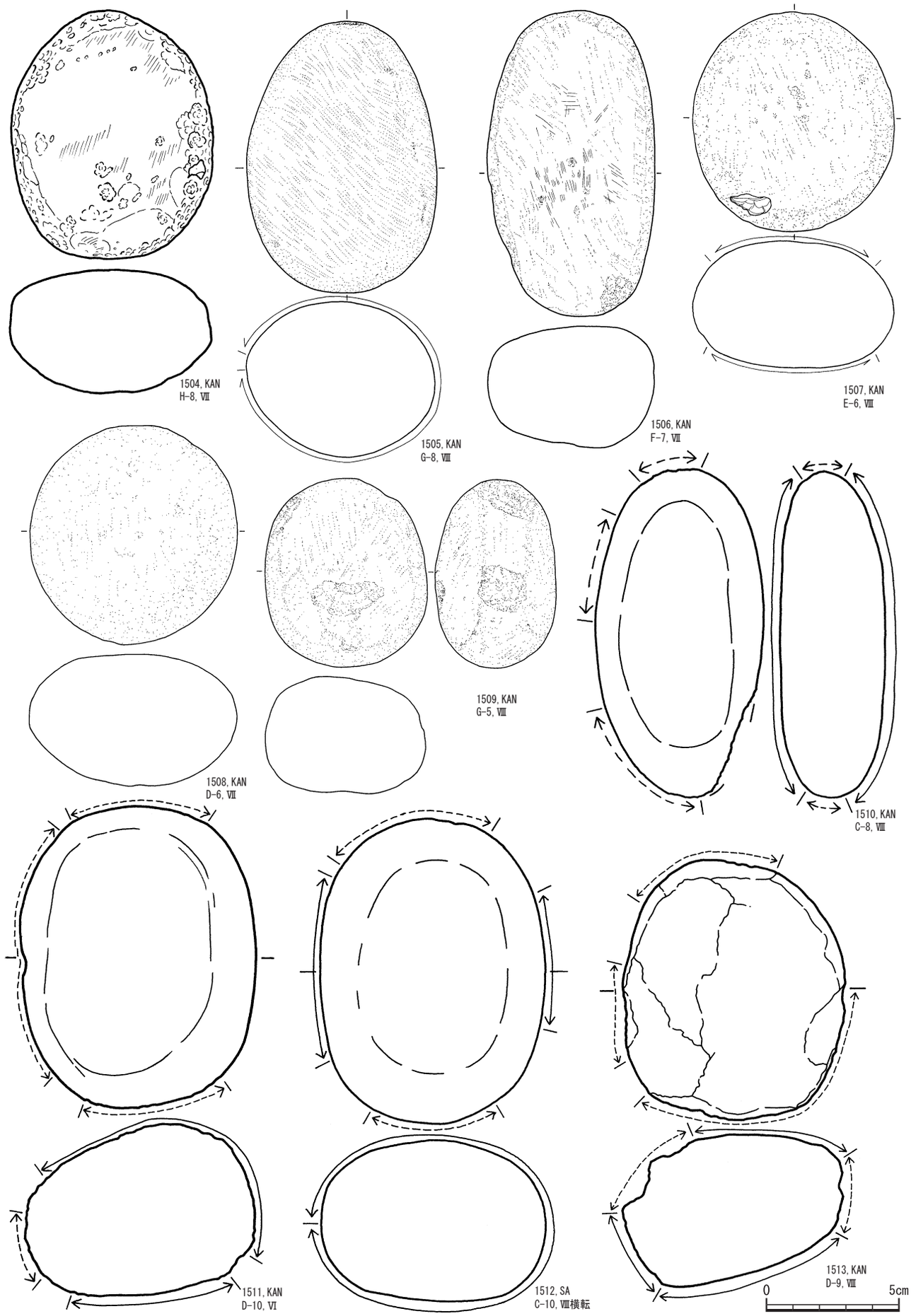
第462図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（17）



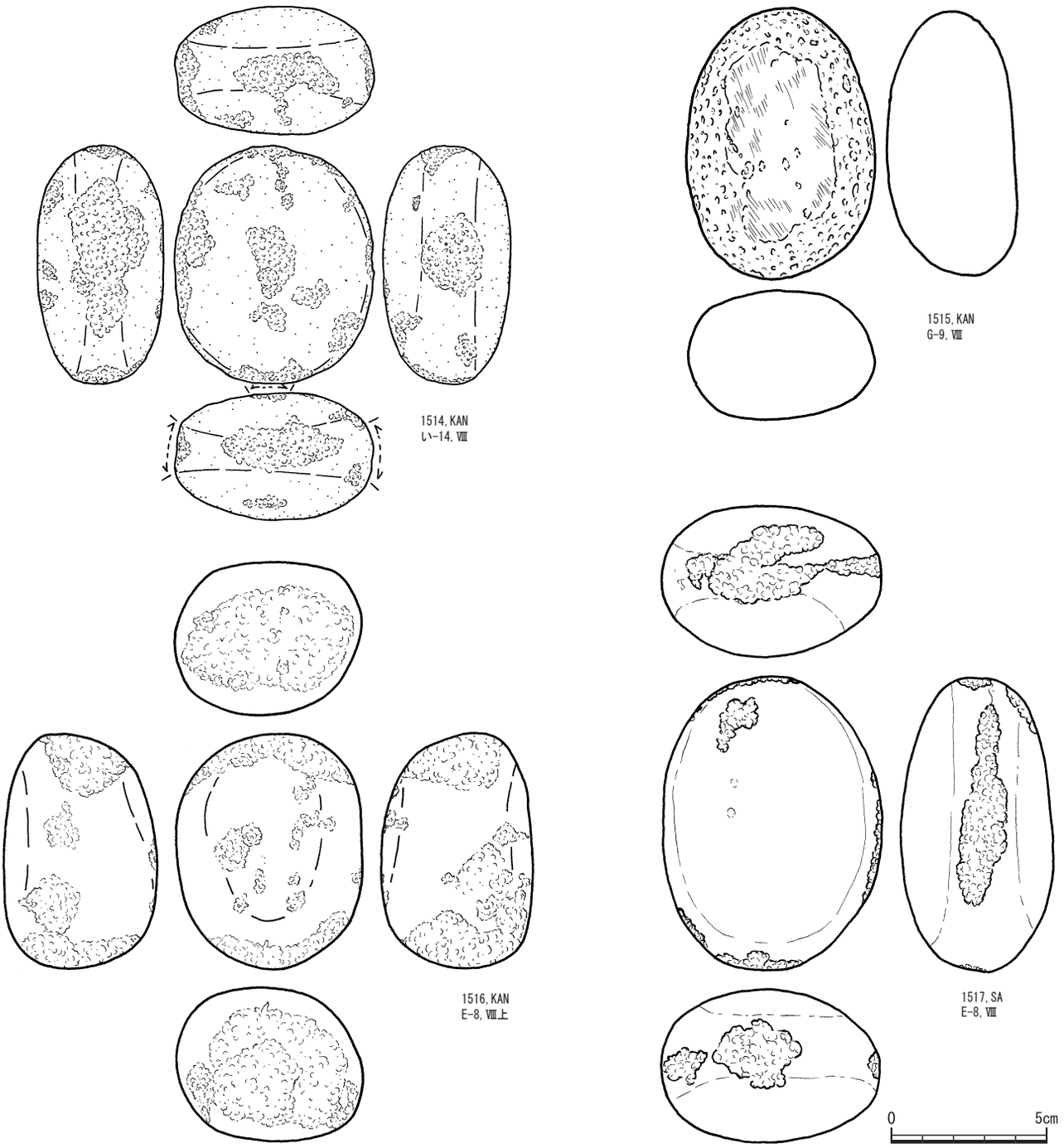
第463図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（18）



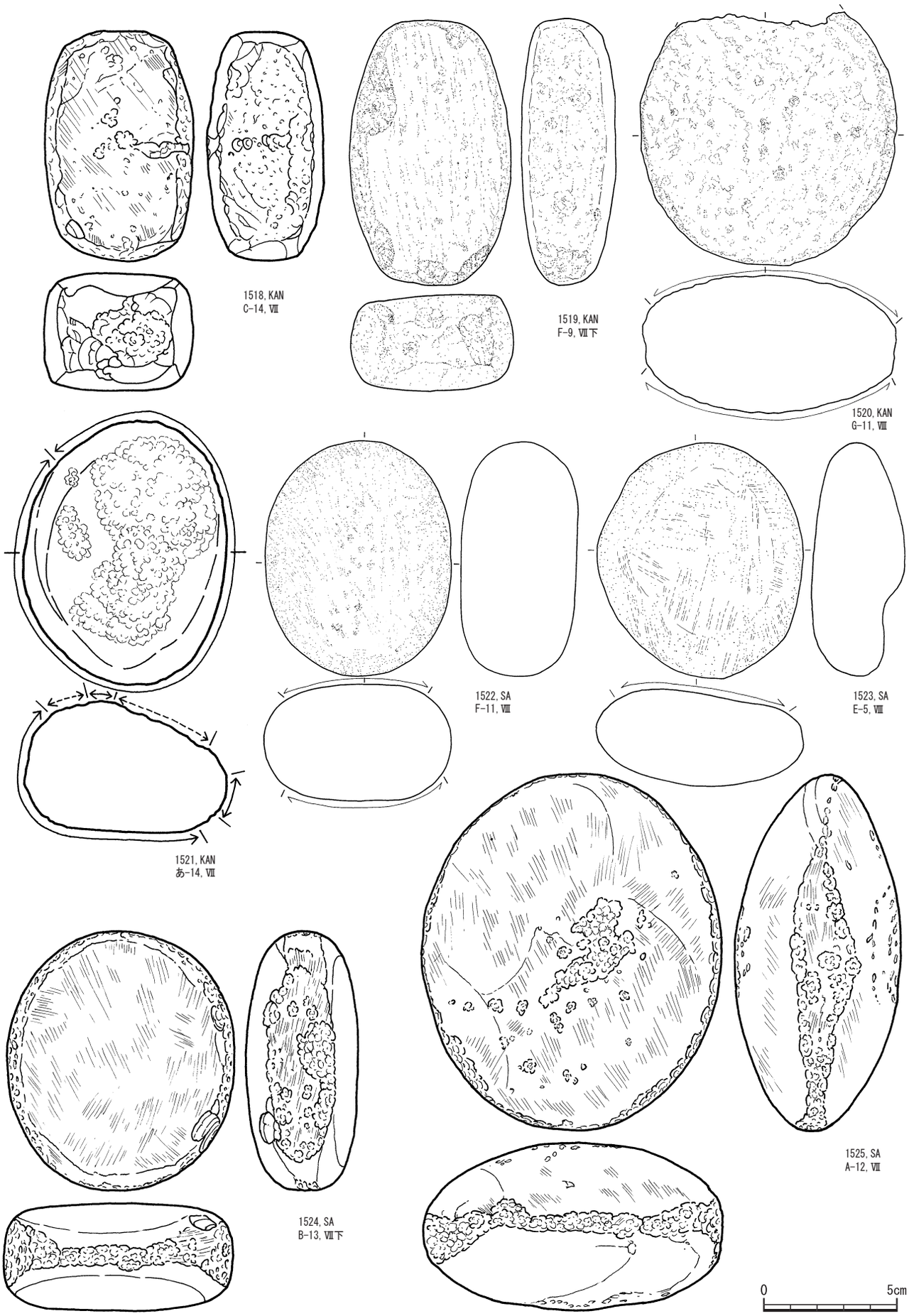
第464図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（19）



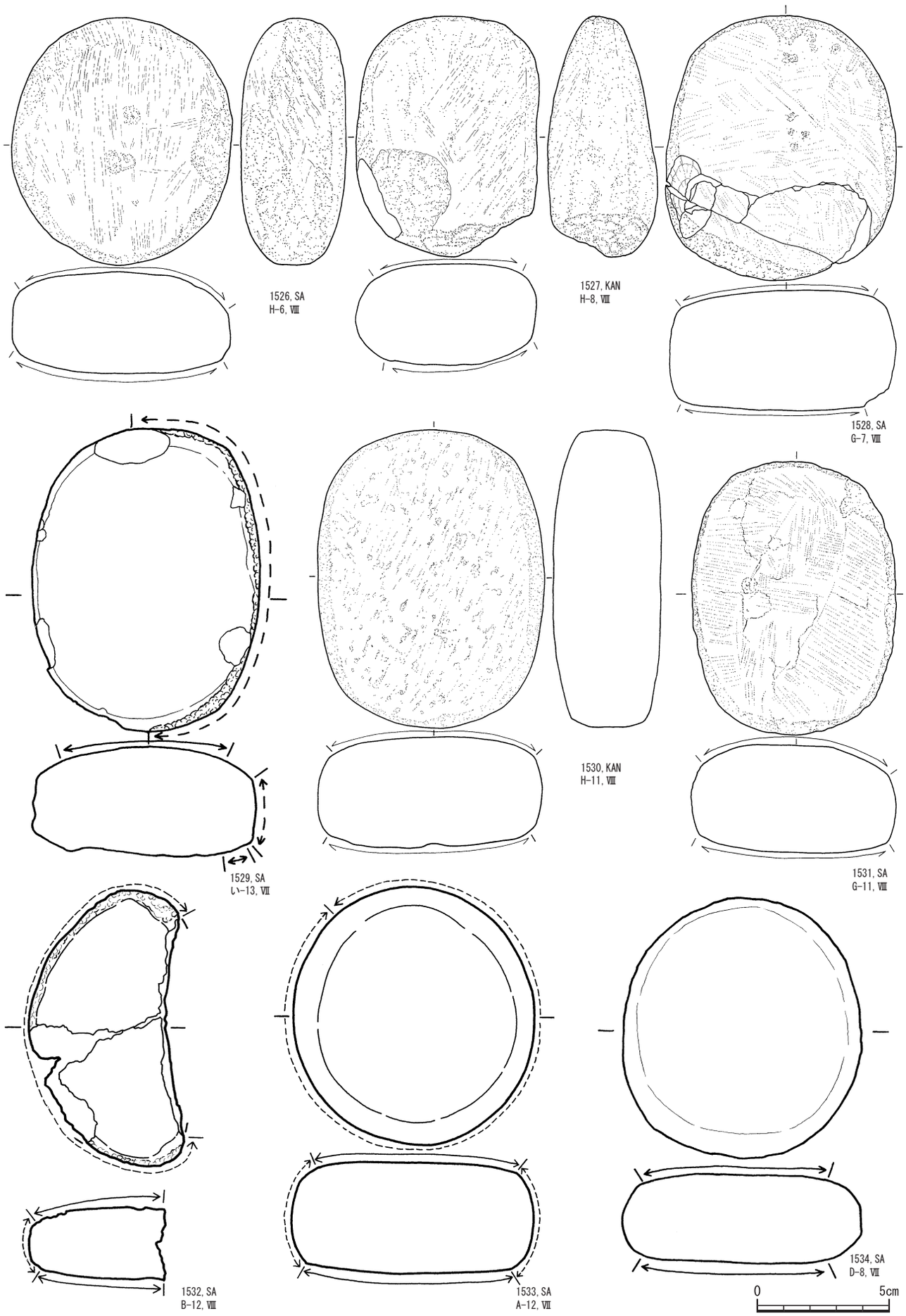
第465図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（20）



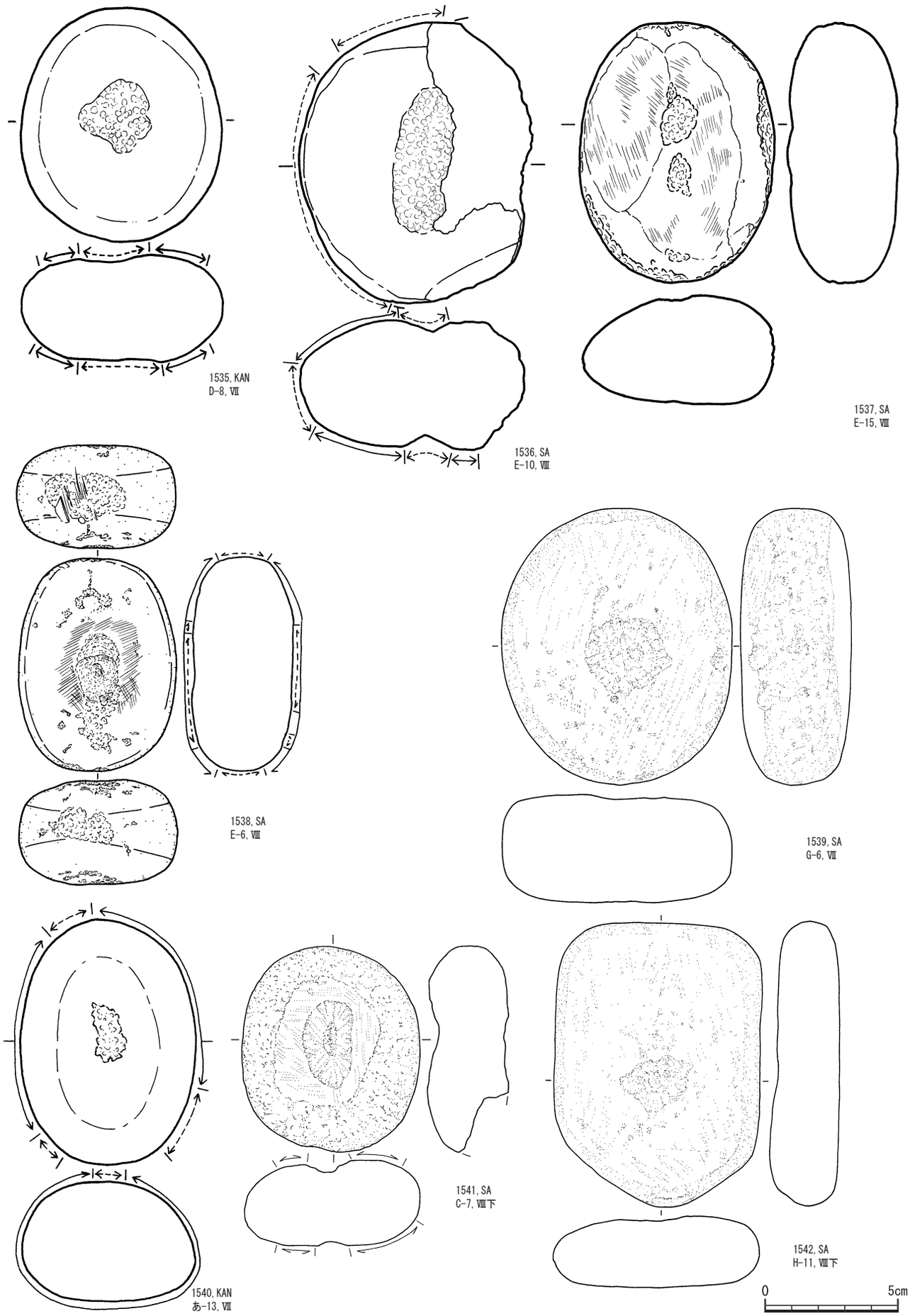
第466図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（21）



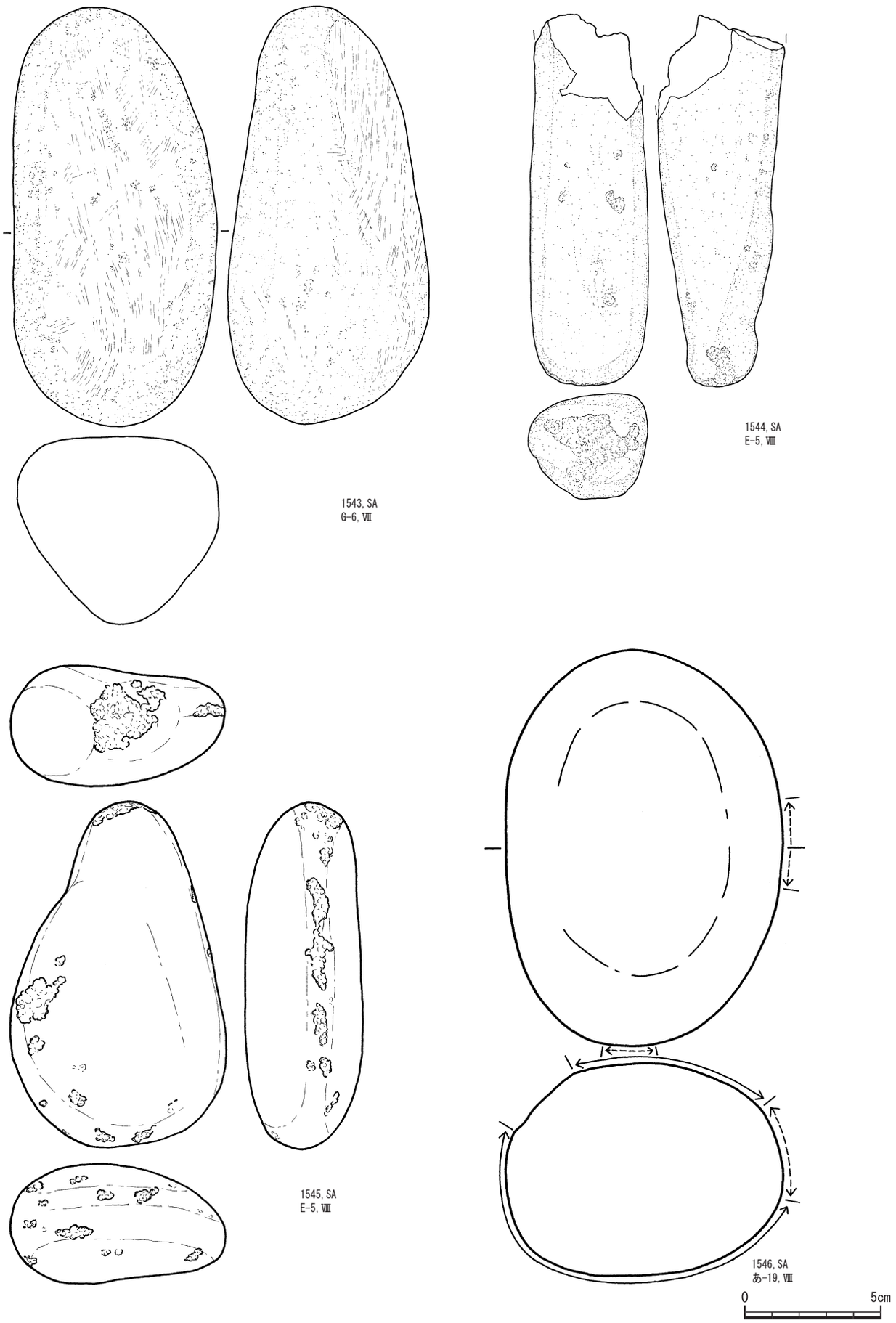
第467図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（22）



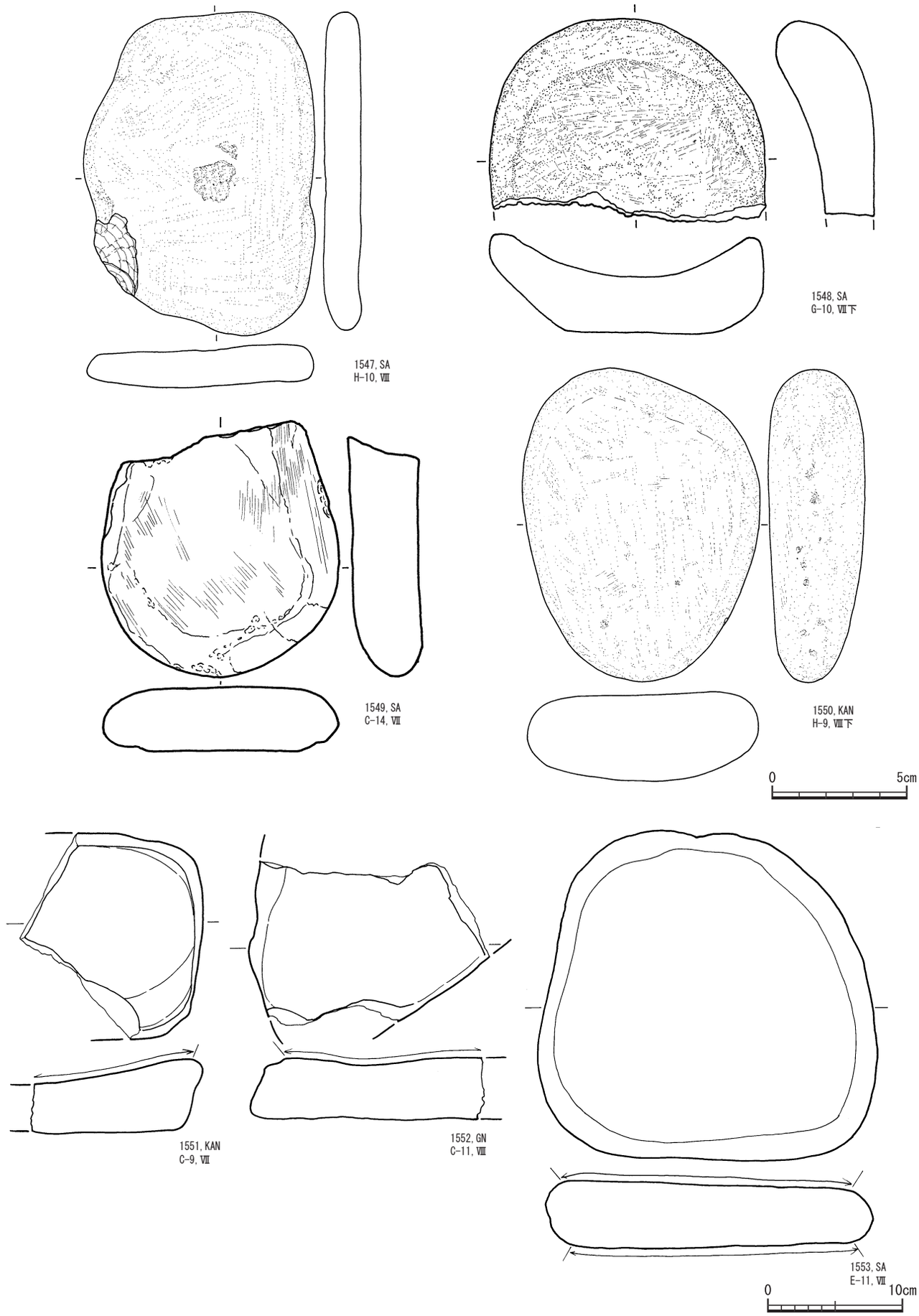
第468図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（23）



第469図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（24）



第470図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（25）



第471図　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器実測図（26）

第127表　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器観察表（３）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
437	1095	A05	B06	剥片	－	CC	30.5	14.7	3.7	1.8	○69034(G-23/Ⅷ)
438	1096	A05	B07	石鏃	－	OB3	19	11	3.7	0.53	○70420(G-22/Ⅶ下)
438	1097	A05	B07	石鏃	－	CH	25.1	19.2	5.2	1.8	○68540(G-22/Ⅶ)
438	1098	A05	B07	石鏃	未製品	SH2	22.3	8.7	1.7	0.31	○70320(G-22/Ⅶ下)
438	1099	A05	B07	チップ	－	SH	31.1	13.4	2.1	0.39	○70564(G-23/Ⅷ)
438	1100	A05	B07	石鏃	－	CH	12.1	18.2	4.4	0.78	○68408(G-22/Ⅶ)
438	1101	A05	B07	二次加工痕剥片	－	SH2	16.7	17	7.8	1.6	○70435(G-22/Ⅷ)
438	1102	A05	B07	石鏃	－	SH2	22.5	24.5	4.7	2.8	○68561(G-22/Ⅶ)
438	1103	A05	B07	二次加工痕剥片	－	CH	28	17.7	7.8	3.4	○70363(G-22/Ⅷ)
438	1104	A05	B07	抉入石器	－	CH	25.1	27.1	8.2	3.8	○68439(G-22/Ⅶ)
438	1105	A05	B07	抉入石器	－	CH	15	17.2	6.6	1	○70437(G-22/Ⅶ)
438	1106	A05	B07	剥片	－	CH	16.7	14.5	3.3	0.72	○70514(G-23/Ⅷ)
438	1107	A05	B07	剥片	－	CC	15.7	21.4	4	1	○68443(G-22/Ⅶ)
438	1108	A05	B07	二次加工痕剥片	－	CH	12	16.1	4.4	0.87	○68778(G-23/Ⅷ)
438	1109	A05	B07	剥片	－	CC	31.7	19.1	7.4	4.2	○68929(G-23/Ⅷ)
438	1110	A05	B07	剥片	－	CC	25	14.6	7.4	1.9	○70312(G-22/Ⅶ下)
438	1111	A05	B07	剥片	－	CC	19.9	22.6	6.4	3.3	○68392(G-22/Ⅶ)
438	1112	A05	B07	剥片	－	CH	15.9	19.7	2.2	0.53	○70529(G-23/Ⅷ)
438	1113	A05	B07	剥片	－	CC	22.5	33.2	5.3	3.8	○68524(G-22/Ⅶ)
438	1114	A05	B07	剥片	－	CC	24.8	11.4	2.7	0.68	○70960(G-23/Ⅶ下)
438	1115	A05	B07	剥片	－	CC	38	33.1	11	14	○68368(G-22/Ⅶ)
439	1116	A05	B08	石鏃	－	CH	15.3	8.1	2.3	0.22	○69452(F-23/Ⅶ下)
439	1117	A05	B08	石鏃	－	CH	10.1	9.7	2.8	0.3	○69371(F-23/Ⅶ)
439	1118	A05	B08	石鏃	－	CH	31.6	18.3	3.7	1.2	○69456(F-23/Ⅶ)
439	1119	A05	B08	剥片	－	CH	15.3	17.4	2.4	1.5	○69380(F-23/Ⅷ)
439	1120	A05	B08	二次加工痕剥片	－	SH2	18.2	20.8	3.9	1	○69330(F-23/Ⅶ)
440	1121	A05	B09	石鏃	－	CH	16.2	10.9	2.9	0.3	○69840(E-22/Ⅶ)
440	1122	A05	B09	石鏃	－	CH	32.1	17.3	3	1.4	○69560(F-22/Ⅷ)
440	1123	A05	B09	石鏃	未製品	CH	23	18.4	7.7	2.4	○69575(F-22/Ⅶ)
440	1124	A05	B09	剥片	－	CC	25.6	16.8	5.5	2.2	○69869(E-22/Ⅶ下)
440	1125	A05	B09	剥片	－	CC	40.2	15.3	6.4	2.9	○69751(E-22/Ⅶ)
440	1126	A05	B09	剥片	－	CH	22.9	13.4	3.9	0.79	○70729(E-22/Ⅷ)
440	1127	A05	B09	剥片	－	CC	24.6	15.8	4	1.1	○69565(F-22/Ⅶ下)
440	1128	A05	B09	微細剥離痕剥片	－	CH	24.1	16.5	3.8	1.3	○70725(E-22/Ⅶ下)
441	1129	A05	B00	石鏃	－	CH	10.8	12.8	3.5	0.41	○68327(G-22/Ⅶ)
441	1130	A05	B00	石鏃	－	SH2	14.2	14.5	3.2	0.62	○68512(G-22/Ⅶ)
441	1131	A05	B00	石鏃	－	CH	16.5	13.9	2.6	0.36	○70693(G-23/Ⅷ)
441	1132	A05	B00	石鏃	－	OB2	18.9	12.3	3.8	0.49	○71124(G-24/Ⅷ)
441	1133	A05	B00	石鏃	－	CH	19.5	15.1	3.7	0.51	○75475(H-22/Ⅶ)
441	1134	A05	B00	石鏃	－	CH	17.7	12.2	2.9	0.41	○68992(G-23/Ⅶ)
441	1135	A05	B00	石鏃	－	SH2	19.2	16.4	2.3	0.52	○68957(G-23/Ⅶ)
441	1136	A05	B00	石鏃	－	CH	25.1	17.9	3	0.95	○69325(F-23/Ⅶ)
441	1137	A05	B00	石鏃	－	CC1	25.5	20.5	3.9	1.4	○57894(C-25/Ⅶ下)
441	1138	A05	B00	石鏃	－	AN1	30	16.1	6.6	1.5	○71758(H-22/Ⅶ)
441	1139	A05	B00	石鏃	－	CH	21.8	25	7.3	3.1	○57876(C-25/Ⅶ下)
441	1140	A05	B00	石鏃	－	CH	19.4	15.4	3.8	0.97	○68984(G-23/Ⅶ)
441	1141	A05	B00	石鏃	未製品	CH	22.1	17.2	2.6	0.98	○68574(G-22/Ⅶ)
441	1142	A05	B00	石鏃	－	CC1	20.3	13.7	3	0.86	○69213(H-23/Ⅶ)
441	1143	A05	B00	石鏃	－	SH2	29.5	21.6	6.8	4.1	○70772(G-22/Ⅶ)
441	1144	A05	B00	石鏃	未製品	CH	25	23.3	7	4.9	○71191(H-22/Ⅶ)
441	1145	A05	B00	石鏃	－	CH	11.5	13.9	2.6	0.31	○70924(G-23/Ⅶ)
441	1146	A05	B00	抉入石器	－	OB2	11.8	13.2	7	0.93	○71704(D-22/Ⅵa)
441	1147	A05	B00	石鏃	－	CH	13.5	12.1	3.3	0.48	○69250(F-23/Ⅶ)
441	1148	A05	B00	石鏃	－	CH	12	13.4	3.6	0.44	○68330(G-22/Ⅶ)
441	1149	A05	B00	石鏃	未製品	CH	18.1	14.6	3.6	0.63	○71797(H-24/Ⅵb下)
442	1150	A05	B00	剥片	－	CC	21	20.5	4.2	1.5	○57437(D-23/Ⅶ下)
442	1151	A05	B00	石鏃	未製品	CH	23.2	26.9	4.2	2.4	○71770(I-23/Ⅶ)
442	1152	A05	B00	石鏃	未製品	SH2	32.6	21.4	6.6	3.9	○68615(G-23/Ⅶ)
442	1153	A05	B00	削器	－	OB2	26.5	18.8	7.1	3.5	○71711(C-22/Ⅵb下)
442	1154	A05	B00	抉入石器	－	CH	25.8	21.3	8.2	4	○69229(H-22/Ⅶ)
442	1155	A05	B00	石鏃	－	SH2	20.6	19.6	4.1	1.1	○69211(H-23/Ⅶ)
442	1156	A05	B00	異形石器	－	OB7	19.1	15.8	4.2	0.42	○57834(B-22/Ⅷ)
442	1157	A05	B00	二次加工痕剥片	－	OB2	33.4	20	8.3	6.3	○69244(H-22/Ⅶ)
442	1158	A05	B00	二次加工痕剥片	－	OB2	15.7	23.3	8.8	2.6	○71708(D-22/Ⅶ上)
442	1159	A05	B00	掻器	－	CH	22.4	25.6	9.1	5.7	○70892(G-23/Ⅶ)
442	1160	A05	B00	抉入石器	－	OB2	27.9	24.1	11.2	5.7	○71723(D-22/Ⅵb)
442	1161	A05	B00	剥片	－	OB2	36.6	30.2	9.1	7.4	○71725(D-22/Ⅵb)
442	1162	A05	B00	抉入石器	－	CH	33	24.4	10.4	9	○68566(G-22/Ⅶ)
442	1163	A05	B00	石核	－	CH	44.7	33.4	17.2	31	○69238(H-22/Ⅶ)
442	1164	A05	B00	二次加工痕剥片	－	SH1	39.7	33.2	8.2	11	○69000(G-23/Ⅶ)
442	1165	A05	B00	剥片	－	CC	31	23.5	7.7	5.2	○57452(D-23/Ⅶ下)
443	1166	A05	B00	石匙	－	CH	54.1	56.1	14.8	35	○68239(E-24/Ⅶ)
443	1167	A05	B00	剥片	－	CC	9	18.4	3	0.4	○70462(G-22/Ⅶ)
443	1168	A05	B00	剥片	－	CC	16.4	10.4	2.5	0.31	○69030(G-23/Ⅷ)
443	1169	A05	B00	剥片	－	CH	20.6	16.9	4.4	1.1	○71745(I-22/Ⅷ)
443	1170	A05	B00	剥片	－	CC	21.2	22.9	4.1	2.1	○69414(F-23/Ⅶ)
443	1171	A05	B00	剥片	－	CH	17.9	15.2	5	0.96	○71775(I-23/Ⅷ)
443	1172	A05	B00	剥片	－	CH	18.5	21.4	4	1.4	○68217(F-25/Ⅷ下)
443	1173	A05	B00	剥片	－	CC	20.2	31.3	5.4	2.6	○69198(H-23/Ⅶ)

第128表　第Ⅳ文化層第５エリア出土石器観察表（４）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
443	1174	A05	B00	石鏃	未製品	CH	24.7	20.4	6.1	2.4	○69416(F-23/Ⅷ)
443	1175	A05	B00	剥片	－	CC	28.1	22.8	5.7	2.9	○68983(F-23/Ⅷ)
443	1176	A05	B00	剥片	－	OB2	26.7	26.2	6.4	3.6	○71722(D-22/Ⅷ)
443	1177	A05	B00	二次加工痕剥片	－	CH	32.6	21.8	7.7	4.2	○70447(G-22/Ⅷ)
443	1178	A05	B00	楔形石器	－	CH	28.2	16.1	9.3	3.9	○69241(H-22/Ⅶ)
443	1179	A05	B00	石核	－	OB2	17.4	9.8	8.1	0.95	○71707(D-22/Ⅷ)
443	1180	A05	B00	楔形石器	－	CH	32.1	21.9	9.2	7.5	○70463(G-22/Ⅷ)
443	1181	A05	B00	剥片	－	OB2	30.9	19.9	10.3	6.1	○71710(D-22/Ⅷ)
443	1182	A05	B00	楔形石器	－	CH	39.3	20.2	11.3	8.2	○69470(F-23/Ⅶ下)
444	1183	A05	B00	磨石	/敲	SA	82.6	47.2	32.5	123	○69360(F-23/Ⅷ)
444	1184	A05	B00	磨石	/敲	KAN	60.3	48.2	45	155	○69225(H-22/Ⅶ)
444	1185	A05	B00	磨石	/敲	SA	66.1	57.5	45.4	251	○71767(H-23/Ⅶ)
444	1186	A05	B00	磨石	/敲	KAN	49.5	47.1	39.7	122	○69508(F-22/Ⅶ)
444	1187	A05	B00	磨石	/敲	KAN	75.2	50.5	45	216	○68235(E-24/Ⅷ)
444	1188	A05	B00	台石	－	KAN	174.5	116.3	80.8	1930	○71705(C-21/Ⅷ)
444	1189	A05	B00	石皿	－	KAN	152.4	199.4	58.8	2370	○57896(D-26/Ⅷ下)

第129表　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器観察表（１）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
446	1190	A06	B00	石鏃	－	OB2	11.8	10.5	2.8	0.25	◎7573(あ-12/Ⅵ上)
446	1191	A06	B00	石鏃	－	OB4	10.6	11.4	2.4	0.21	◎11245(あ-12/Ⅷ)
446	1192	A06	B00	石鏃	－	OB3	12.9	10.5	3.5	0.33	○59393(E-8/Ⅷ上)
446	1193	A06	B00	石鏃	－	OB3	13.8	12.2	2.7	0.32	○66643(I-10/Ⅷ)
446	1194	A06	B00	石鏃	－	OB3	14	14	2.6	0.36	○49537(B-13/Ⅵ)
446	1195	A06	B00	石鏃	－	OB3	11.2	12.3	2.9	0.25	○52113(C-13/Ⅷ)
446	1196	A06	B00	石鏃	－	SH	16.3	12.6	3.9	0.56	○55349(C-8/Ⅷ)
446	1197	A06	B00	石鏃	－	OB3	14	12.9	2.1	0.24	○48501(C-14/Ⅵa)
446	1198	A06	B00	石鏃	－	SH2	12.9	15.9	2.8	0.44	○57396(B-13/Ⅷ)
446	1199	A06	B00	石鏃	－	SH	19.7	15	4.4	0.83	○56210(B-12/Ⅶ)
446	1200	A06	B00	石鏃	－	OB3	15.1	11.2	2.7	0.34	○53345(E-14/Ⅶ)
446	1201	A06	B00	石鏃	未製品	OB6	14.6	13.1	3.3	0.5	○50480(B-14/Ⅵa)
446	1202	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.1	13.8	4	0.67	○38877(B-12/Ⅷ)
446	1203	A06	B00	石鏃	－	OB8	16.3	13.5	5	0.59	○50801(A-13/Ⅷ)
446	1204	A06	B00	石鏃	－	OB3	18	11.8	3.6	0.42	○38847(B-12/Ⅶ)
446	1205	A06	B00	石鏃	－	CH	18.3	14.1	3.2	0.42	○37081(E-11/Ⅷ上)
446	1206	A06	B00	石鏃	－	OB3	13.3	14.3	3	0.41	○37070(E-11/Ⅷ上)
446	1207	A06	B00	石鏃	－	CC	12.1	14.7	2.4	0.23	○42375(C-10/Ⅵ)
446	1208	A06	B00	石鏃	－	CC1	14.8	11.9	2.8	0.35	○34375(C-12/Ⅷ横転)
446	1209	A06	B00	石鏃	－	AN2	18.3	12.2	2.4	0.25	◎8949(あ-14/Ⅵ)
446	1210	A06	B00	石鏃	－	SH1	19.5	15.3	3.4	0.52	○56775(A-11/Ⅷ上)
446	1211	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.7	16.5	4.4	0.64	○37343(E-10/Ⅶ)
446	1212	A06	B00	石鏃	－	SH1	19.3	17.6	4.2	0.99	○42591(C-8/Ⅷ下)
446	1213	A06	B00	石鏃	－	OB3	21.7	16.7	4.4	0.9	○55711(H-8/Ⅶ)
446	1214	A06	B00	石鏃	－	SH1	23.7	15.1	3.9	0.95	○55766(H-8/Ⅶ)
446	1215	A06	B00	石鏃	－	OB3	18.5	15.3	2.3	0.51	○62713(H-5/Ⅷ)
446	1216	A06	B00	石鏃	－	OB3	24.2	16.4	5.1	1.2	○51439(B-10/Ⅷ)
446	1217	A06	B00	石鏃	－	CH	22.6	17.3	3.8	1.2	◎8823(A-13/Ⅵ)
446	1218	A06	B00	石鏃	－	OB6	19.9	13.4	5.1	0.94	○34845(E-11/Ⅶ)
446	1219	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.3	12.7	4.4	0.63	○50211(D-9/Ⅶ)
446	1220	A06	B00	石鏃	－	SH1	27.5	18	3.7	1.4	○41930(D-9/Ⅶ下)
446	1221	A06	B00	石鏃	－	AN2	22.6	19.8	5.2	1.5	○58207(F-6/Ⅵa)
446	1222	A06	B00	磨製石鏃	－	SH1	30.8	15.9	3	1.2	○52119(C-15/Ⅷ)
446	1223	A06	B00	石鏃	－	CC1	27.9	13.6	4.5	1.1	○58935(G-5/Ⅷ)
446	1224	A06	B00	石鏃	－	CC2	17.1	16.3	3.3	0.77	○58990(F-6/Ⅶ下)
446	1225	A06	B00	石鏃	－	AN2	32.3	22.3	4.9	1.9	○33778(E-9/Ⅵ)
447	1226	A06	B00	石鏃	－	OB4	14.2	14.2	3.9	0.46	○36345(C-12/Ⅶ)
447	1227	A06	B00	石鏃	－	CH	16.5	13.9	3.6	0.45	○66285(F-12/Ⅷ)
447	1228	A06	B00	石鏃	－	CH	12.5	14.8	3.4	0.38	○51576(D-13/Ⅷ)
447	1229	A06	B00	石鏃	－	OB6	12.9	15	2.9	0.39	○49102(A-13/Ⅵa)
447	1230	A06	B00	石鏃	－	CH	19.7	14	3.9	0.64	○35168(E-10/Ⅶ下)
447	1231	A06	B00	石鏃	－	CC	15.8	15.8	3	0.6	○49547(B-13/Ⅵ)
447	1232	A06	B00	石鏃	－	OB2	18.3	17.1	3.9	0.65	○38021(B-12/Ⅷ)
447	1233	A06	B00	石鏃	－	CH	17.8	18.7	4.9	0.84	○66043(G-10/Ⅶ下)
447	1234	A06	B00	石鏃	－	CH	20.6	15.2	3.8	0.69	○37795(B-12/Ⅶ下)
447	1235	A06	B00	石鏃	－	OB3	18	16	3.4	0.67	○57382(C-14/Ⅷ)
447	1236	A06	B00	石鏃	－	CH	23.9	15.7	3.6	0.88	○50766(C-13/Ⅷ)
447	1237	A06	B00	石鏃	－	CH	26.1	19.9	3.7	1.1	○50777(B-13/Ⅷ)
447	1238	A06	B00	石鏃	－	OB6	19.8	18.4	3	0.64	◎9420(い-15/Ⅵ)
447	1239	A06	B00	石鏃	－	CC1	20.7	19.3	5.3	1.4	○66279(F-12/Ⅷ)
447	1240	A06	B00	石鏃	－	CC	23.4	14.8	4.7	1.3	○53330(E-13/Ⅷ)
447	1241	A06	B00	石鏃	－	CH	29.1	16.8	3.5	1.2	○53669(A-16/Ⅷ)
447	1242	A06	B00	石鏃	－	CH	26.8	24.5	6	2.5	○62001(G-5/Ⅷ)
447	1243	A06	B00	石鏃	－	AN1	18.9	24.3	4.9	1.8	○51580(D-13/Ⅷ)
447	1244	A06	B00	石鏃	－	CH	21.4	22.8	5.2	1.9	○48152(D-13/Ⅷ)
447	1245	A06	B00	石鏃	－	OB8	25	14.2	3.9	1.1	○58690(E-6/Ⅷ)
447	1246	A06	B00	石鏃	－	AN2	33.3	20.5	4.5	2.1	○51054(C-14/Ⅷ)
447	1247	A06	B00	石鏃	－	AN2	28.7	21.2	4.3	1.5	○65730(G-8/Ⅶ上)
447	1248	A06	B00	石鏃	－	CH	25.9	15.4	3.5	1.1	○55318(C-8/Ⅷ)
447	1249	A06	B00	石鏃	－	CC	25.6	17.4	2.8	0.96	○66190(G-12/Ⅶ下)

第130表　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器観察表（２）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
447	1250	A06	B00	石鏃	－	CH	18.1	18.1	3.6	1.3	○60608(F-6/Ⅷ下)
447	1251	A06	B00	石鏃	－	CH	28.4	15.9	3.1	1.1	○35640(D-11/Ⅵ下)
448	1252	A06	B00	石鏃	－	OB3	10.3	10	2.2	0.16	○36637(B-12/Ⅵ)
448	1253	A06	B00	石鏃	－	CC	10.4	10.7	2.1	0.12	○51473(C-13/Ⅵa)
448	1254	A06	B00	石鏃	－	OB3	12.8	9.8	3.2	0.28	○57759(E-15/Ⅷ)
448	1255	A06	B00	石鏃	－	OB3	15.6	10.2	2.9	0.2	◎7476(A-12/Ⅵ上)
448	1256	A06	B00	石鏃	－	OB3	14.4	12	2.8	0.26	○49114(B-13/Ⅵa)
448	1257	A06	B00	石鏃	－	OB3	17	11.4	2.1	0.24	○37809(B-12/Ⅷ下)
448	1258	A06	B00	石鏃	－	OB3	14.1	9.6	2.7	0.21	○36733(A-12/Ⅵ)
448	1259	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.9	11.6	2.8	4.4	○36732(A-12/Ⅵ)
448	1260	A06	B00	石鏃	－	OB3	17	12.2	2.1	0.23	○35572(C-11/Ⅵ)
448	1261	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.8	10.3	3.1	0.3	○50485(B-13/Ⅵa)
448	1262	A06	B00	石鏃	－	OB3	16.9	11.4	2.3	0.29	◎10539(A-13/Ⅵb)
448	1263	A06	B00	石鏃	－	AN2	13.2	13	2.4	0.32	○35571(C-11/Ⅵ)
448	1264	A06	B00	石鏃	－	OB3	15.4	12.2	3	0.34	○51170(D-9/Ⅷ)
448	1265	A06	B00	石鏃	－	OB8	16.2	12	2.4	0.33	○36598(B-11/Ⅵ)
448	1266	A06	B00	石鏃	－	SH2	16.4	13.9	3	0.43	○50663(B-13/Ⅵa)
448	1267	A06	B00	石鏃	－	OB3	17	13.3	3	0.33	○58641(E-7/Ⅷ)
448	1268	A06	B00	石鏃	－	SH1	15.3	13.6	2.7	0.35	○50084(C-14/Ⅵ横転)
448	1269	A06	B00	石鏃	－	OB3	14.9	10.6	2	0.17	○37221(B-12/Ⅵ)
448	1270	A06	B00	石鏃	－	OB6	16.3	14	3.2	0.4	○35104(D-10/Ⅵ)
448	1271	A06	B00	石鏃	－	AN2	17.2	14.3	3.6	0.54	◎8815(A-13/Ⅵ)
448	1272	A06	B00	石鏃	－	OB6	18.6	12	4.9	0.6	○58545(H-6/Ⅵa)
448	1273	A06	B00	石鏃	－	SH	13.4	16	3.7	0.53	◎8988(あ-15/Ⅵ)
448	1274	A06	B00	石鏃	－	AN2	18.1	17.5	4.3	1	◎6973(あ-16/Ⅵa)
448	1275	A06	B00	石鏃	－	OB3	14.2	10.7	2.4	0.19	○72643(B-13/Ⅵa)
448	1276	A06	B00	石鏃	－	AN2	17.2	15.2	2.9	0.47	○611(D-8/Ⅵ)
448	1277	A06	B00	石鏃	－	OB6	21.7	14.7	3.2	0.59	○49995(D-9/Ⅵ)
448	1278	A06	B00	石鏃	－	AN2	18.5	13.8	4	0.47	○58420(G-3/Ⅵa)
448	1279	A06	B00	石鏃	－	AN2	20.4	13.8	3.2	0.67	○51548(A-13/Ⅵb)
448	1280	A06	B00	石鏃	－	OB6	20.4	15.3	4	0.76	○58106(F-7/Ⅵa)
448	1281	A06	B00	石鏃	－	OB6	24.1	16	3.8	0.95	○35092(D-10/Ⅵ)
448	1282	A06	B00	石鏃	－	AN2	24.4	17.1	5.4	1.2	○39797(D-9/Ⅵ)
448	1283	A06	B00	石鏃	－	AN2	23.4	16.2	3.1	0.72	○58034(E-7/Ⅵa)
448	1284	A06	B00	石鏃	－	AN2	24.8	15	4.1	0.87	○1239(D-8/Ⅵa)
448	1285	A06	B00	石鏃	－	AN2	23.6	14.6	4.5	0.84	○58014(E-7/Ⅵa)
448	1286	A06	B00	石鏃	－	AN2	30.7	16.8	3.5	1	○51485(B-12/Ⅵa)
448	1287	A06	B00	石鏃	－	AN2	22.9	15.3	4.1	0.86	○36590(B-11/Ⅵ)
448	1288	A06	B00	石鏃	－	CC	22.4	15.3	3.6	0.6	○75494(A-11/Ⅵ)
448	1289	A06	B00	石鏃	－	OB8	21	13.5	3	0.56	○58440(H-4/Ⅵa)
448	1290	A06	B00	石鏃	－	CC	20.5	15	3.2	0.71	○38945(C-12/Ⅷ)
448	1291	A06	B00	石鏃	未製品	CC2	10.6	13.1	3.5	0.37	○51422(B-9/Ⅷ)
448	1292	A06	B00	石鏃	未製品	SH	18.3	16.1	5.8	1.6	○56226(B-12/Ⅷ)
448	1293	A06	B00	石鏃	未製品	OB1	17	15.5	7.3	1.6	○32568(E-11/Ⅷ横転)
448	1294	A06	B00	抉入石器	－	OB2	20.7	19.3	8.4	2.5	○37338(E-9/Ⅷ)
448	1295	A06	B00	石鏃	未製品	SH2	21.7	18.8	6	1.7	○58002(E-7/Ⅵa)
449	1296	A06	B00	石鏃	未製品	CH	21.7	14.1	5.6	1.7	○66263(G-11/Ⅷ)
449	1297	A06	B00	石鏃	－	CH	19	15.4	4.6	0.84	○58008(E-7/Ⅵa)
449	1298	A06	B00	石鏃	－	OB3	14.7	9.7	2.9	0.27	○58652(E-7/Ⅶ下)
449	1299	A06	B00	石鏃	－	AN2	23.5	9.7	2.5	0.27	◎6971(あ-16/Ⅵa)
449	1300	A06	B00	石鏃	－	OB6	28.8	11.2	4	0.69	○58555(H-6/Ⅵa)
449	1301	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CH	28.7	15	7.2	2.1	○51561(C-14/Ⅷ)
449	1302	A06	B00	石鏃	－	OB3	26.7	16.4	4.6	1.2	○49503(A-13/Ⅵ)
449	1303	A06	B00	石鏃	未製品	CH	27.8	17.6	5.5	1.9	○35639(D-11/Ⅵ下)
449	1304	A06	B00	石鏃	－	OB3	17.6	12.6	2.1	0.28	○75731(F-4/Ⅵ)
449	1305	A06	B00	石鏃	－	AN1	22.2	20.1	6.6	2.6	○37499(C-11/Ⅷ)
449	1306	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CC1	14.1	12.9	6	1	○42625(A-11/Ⅵ)
449	1307	A06	B00	石鏃	－	SH	24.8	22.4	6.3	3	◎11256(A-12/Ⅷ)
449	1308	A06	B00	石鏃	－	OB6	15.2	10.4	1.8	0.23	◎7484(A-12/Ⅵ上)
449	1309	A06	B00	剥片	－	OB2	13.6	13.4	3	0.41	○35079(D-10/Ⅵ)
449	1310	A06	B00	石鏃	－	OB3	18.6	12.6	2.8	0.5	◎13856(い-12/Ⅵa)
449	1311	A06	B00	石鏃	－	SH1	14.8	16.4	3.8	0.69	○42155(C-10/Ⅷ下)
449	1312	A06	B00	石鏃	未製品	OB3	13.7	17.4	4	0.76	○36579(B-11/Ⅵ)
449	1313	A06	B00	石鏃	－	OB6	15.6	12.1	5	0.71	○57770(E-15/Ⅷ)
449	1314	A06	B00	石鏃	－	AN1	20.8	18.7	6.9	2.5	○53356(E-13/Ⅷ)
449	1315	A06	B00	石鏃	未製品	SH2	21.2	17.7	5.9	1.9	○37868(A-12/Ⅵ)
449	1316	A06	B00	石鏃	－	CC1	23.2	18	5	1.8	○52120(C-15/Ⅷ)
449	1317	A06	B00	石鏃	未製品	CH	20.5	19.4	4.3	1.4	○38865(B-12/Ⅷ下)
449	1318	A06	B00	石鏃	未製品	OB6	21.9	17.8	6.2	1.9	○53331(E-13/Ⅷ)
449	1319	A06	B00	石鏃	未製品	OB7	16.4	15.9	4.4	1	◎8819(A-13/Ⅵ)
449	1320	A06	B00	石鏃	－	OB8	22.8	20.3	4.8	1.9	○58267(F-5/Ⅷ)
449	1321	A06	B00	石鏃	未製品	CH	26.3	23.2	4	1.8	○38441(C-10/Ⅷ)
449	1322	A06	B00	石鏃	未製品	CC2	25.4	24.3	10.3	4.3	○64453(H-7/Ⅶ下)
449	1323	A06	B00	石鏃	－	CC1	22.3	21.7	5	2.3	○37537(C-11/Ⅷ)
450	1324	A06	B00	石鏃	－	OB3	23.4	11	3.4	0.72	○1286(D-8/Ⅷ)
450	1325	A06	B00	石鏃	－	OB3	23.9	12.6	4.4	1.1	○59424(E-8/Ⅶ下)
450	1326	A06	B00	石錐	－	OB6	24.7	12.9	7	2	○46672(A-11/Ⅷ)
450	1327	A06	B00	石錐	－	CH	29.5	21	6.4	3.5	○66379(I-8/Ⅷ)
450	1328	A06	B00	石鏃	未製品	OB5	29.6	19.9	9.6	3.9	○57997(F-7/Ⅵa)

第131表　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器観察表（３）

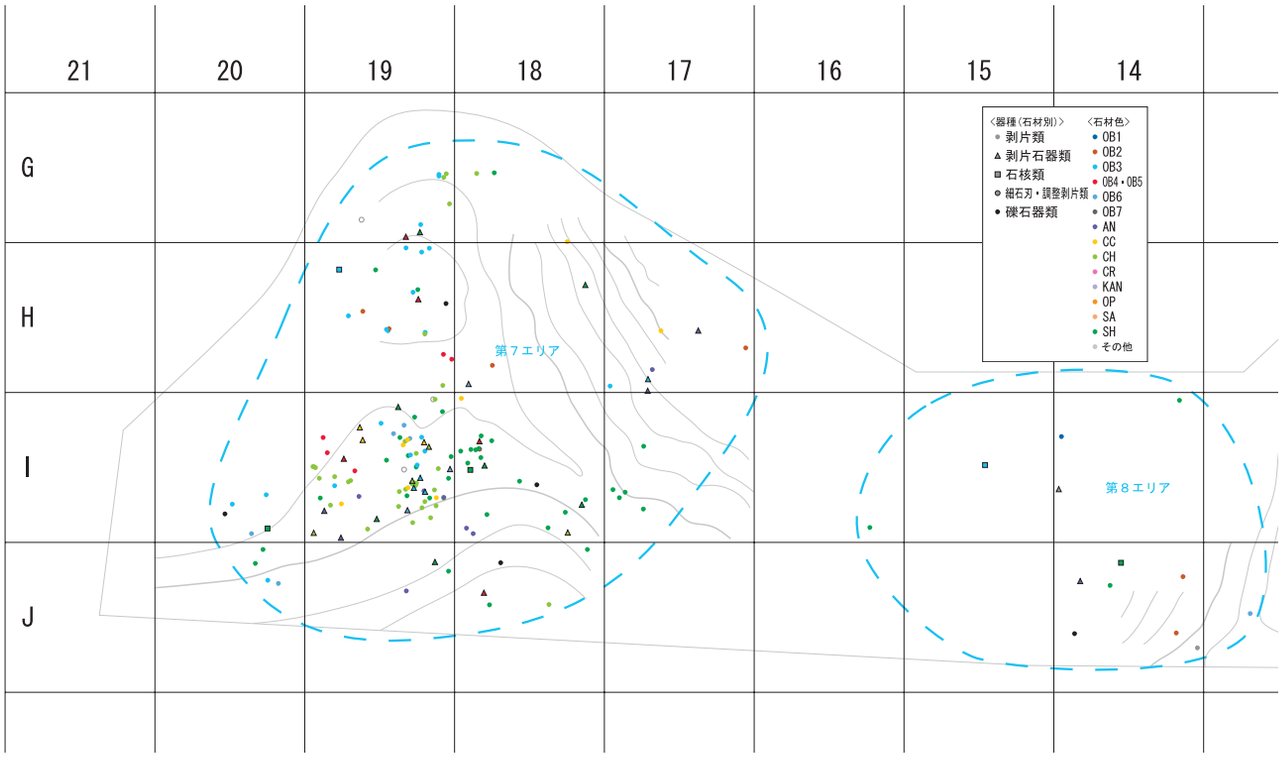
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
450	1329	A06	B00	石鏃	未製品	CH	29.9	21.8	8.5	4.7	○38880(B-12/Ⅷ)
450	1330	A06	B00	石鏃	未製品	AN2	30.8	20.9	8.3	4.6	○36755(A-12/Ⅵ)
450	1331	A06	B00	石鏃	未製品	SH1	31.4	26.4	9	5.8	○41472(C-10/Ⅷ)
450	1332	A06	B00	石鏃	未製品	CH	29.4	20.2	7.7	2.5	○37705(C-11/Ⅷ)
450	1333	A06	B00	削器	－	CC1	34.2	24.3	8.3	6.1	○57623(B-13/Ⅷ下)
450	1334	A06	B00	石鏃	未製品	OB3	15.9	12.3	3.6	0.53	○34822(E-11/Ⅷ)
450	1335	A06	B00	石匙	－	CC1	17.7	24.8	4.8	1.5	○38821(A-12/Ⅷ)
450	1336	A06	B00	石匙	－	OB2	27	41.5	9.9	7	○37775(B-12/Ⅷ)
450	1337	A06	B00	石匙	－	CC	41.4	19.7	7.1	4.8	○50205(C-10/Ⅷ)
450	1338	A06	B00	石匙	－	CH	32.8	47.1	6.5	7.5	○65187(F-9/Ⅵa)
450	1339	A06	B00	削器	－	OB2	24.2	37.2	10.6	7.9	○35147(D-9/Ⅵ)
450	1340	A06	B00	石匙	－	CC	35	32.5	13.2	9	◎8799(A-12/Ⅵ)
451	1341	A06	B00	石匙	－	AN2	25.4	55.1	8	8.7	○58565(G-5/Ⅵa)
451	1342	A06	B00	二次加工痕剥片	－	OB6	37.5	53	15.5	20.6	○32554(E-12/Ⅵ)
451	1343	A06	B00	石匙	－	AN2	45	72.4	9.6	19	○53692(E-16/Ⅵb)
451	1344	A06	B00	石匙	－	AN2	37.2	86	10.3	32	○58005(E-7/Ⅵa)
452	1345	A06	B00	削器	－	OB3	23.9	13.3	4.5	0.83	○34370(C-12/Ⅷ横転)
452	1346	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CC	26	26.5	8.1	4.6	○50718(C-13/Ⅵa)
452	1347	A06	B00	二次加工痕剥片	－	OB3	28.2	30.9	7.8	7.2	○60328(G-3/Ⅷ)
452	1348	A06	B00	掻器	－	OB3	33.3	18.1	9.9	4.7	○36371(C-12/Ⅵ)
452	1349	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CH	45.7	25.4	9.7	13	○57689(B-14/Ⅷ)
452	1350	A06	B00	削器	－	OB2	35.3	22.4	13.3	8.5	○57540(C-14/Ⅷ)
452	1351	A06	B00	楔形石器	－	CC1	22.1	32.2	10.6	7.3	○57427(B-13/Ⅷ)
452	1352	A06	B00	二次加工痕剥片	－	SH1	28.6	36.8	12.9	12	○37402(D-10/Ⅷ横転)
452	1353	A06	B00	石核	－	OB4	25.5	33.6	10	6.1	◎8944(あ-14/Ⅵ上)
452	1354	A06	B00	二次加工痕剥片	－	SH2	38.3	24.4	13.1	6.9	○67965(I-14/Ⅵ)
452	1355	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CC1	42.4	28.9	11	9.3	○58395(G-4/Ⅵa)
452	1356	A06	B00	削器	－	AN1	45.8	32.1	10.7	15	○35107(D-10/Ⅵ)
453	1357	A06	B00	石匙	未製品	CC	35.8	31.4	10.2	7.6	○49100(A-13/Ⅵa)
453	1358	A06	B00	削器	－	SH1	39.8	57.7	11	18	○38420(D-11/Ⅵ撹乱)
453	1359	A06	B00	削器	－	AN1	60.3	74.6	17	64	○39869(C-9/Ⅵ)
453	1360	A06	B00	石匙	未製品	AN2	50	86.2	15.8	63	○58019(F-7/Ⅵa)
454	1361	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	HF	42.6	58.3	13.8	32	○40494(C-9/Ⅷ)
454	1362	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CC1	35.5	24.3	12.2	9.3	○53623(B-13/Ⅷ)
454	1363	A06	B00	削器	－	OB2	38.6	30.5	18.6	15	○66124(F-11/Ⅷ)
454	1364	A06	B00	二次加工痕剥片	－	SH2	43.3	33.1	10	12	○68075(G-13/Ⅵb)
454	1365	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	OB6	35.3	30.3	6.2	5.9	○58571(H-5/Ⅵa)
454	1366	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	SH1	38.3	33.2	5.2	5	○52560(B-9/Ⅷ)
454	1367	A06	B00	二次加工痕剥片	－	SH2	72	49.7	21.1	73	○40565(D-9/Ⅷ)
455	1368	A06	B00	剥片	－	SH2	29.5	20.6	5.5	3.1	○39832(D-8/Ⅵ)
455	1369	A06	B00	削器	－	SH	28.7	34.3	9.5	7.5	○57691(B-14/Ⅷ)
455	1370	A06	B00	石鏃	未製品	OB3	13	24.2	7.1	1.6	○36748(A-12/Ⅵ)
455	1371	A06	B00	石核	－	OB3	14.7	23	10.3	3	○36605(B-11/Ⅵ)
455	1372	A06	B00	剥片	－	SH1	32.2	31.2	8.9	8.1	○51425(B-9/Ⅷ)
455	1373	A06	B00	剥片	－	CC1	26.2	43.4	8.9	7	○36746(A-12/Ⅵ)
455	1374	A06	B00	剥片	－	AN2	55.7	33.5	9.8	11	○53334(E-13/Ⅷ)
455	1375	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	CC1	51.3	44.2	8.4	12	○37203(B-12/Ⅵ下)
455	1376	A06	B00	二次加工痕剥片	－	OB1	19.6	13.7	7	1.4	○38959(B-12/Ⅷ)
456	1377	A06	B00	チップ	－	CH	9.7	8.8	1.9	0.12	○57400(B-13/Ⅷ)
456	1378	A06	B00	細石刃	－	OB3	8.7	8.7	2.4	0.15	○52559(B-9/Ⅷ)
456	1379	A06	B00	細石刃	－	OB1	13.2	5.8	2	0.11	◎11705(A-11/Ⅵ)
456	1380	A06	B00	剥片	－	CH	14.9	6.5	2.7	0.24	○57412(B-13/Ⅷ)
456	1381	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	OB3	16.1	6.8	4.3	0.24	○56025(A-12/Ⅵ)
456	1382	A06	B00	細石刃	－	OB3	15.4	6.5	2.3	0.18	○56207(B-12/Ⅷ)
456	1383	A06	B00	剥片	－	OB3	11.9	11.2	1.9	0.19	○50680(B-14/Ⅵa)
456	1384	A06	B00	剥片	－	OB3	19.8	8.2	2.6	0.28	○53296(E-13/Ⅵ)
456	1385	A06	B00	掻器	－	OB5	13.9	13.3	7.1	1.1	○58268(F-5/Ⅷ上)
456	1386	A06	B00	ブランク	－	OB1	16	13.7	4.4	0.72	○56225(B-12/Ⅷ)
456	1387	A06	B00	石鏃	未製品	OB1	20.2	11	8.7	0.76	○60313(G-3/Ⅷ)
456	1388	A06	B00	石鏃	－	CH	18.6	10.2	4.2	0.56	○51563(C-14/Ⅷ)
456	1389	A06	B00	剥片	－	SH1	17.7	11.5	3.8	0.65	○57399(B-13/Ⅷ)
456	1390	A06	B00	剥片	－	CC1	21.8	12.9	3.5	1.1	○48143(D-13/Ⅵb下)
456	1391	A06	B00	剥片	－	OB2	22.8	13.7	5.6	1.2	○56212(B-12/Ⅷ)
456	1392	A06	B00	石鏃	未製品	OB3	20	13.6	5.7	1.4	○50818(A-14/Ⅷ)
456	1393	A06	B00	石鏃	未製品	CC1	23	10.6	6.3	1.6	○65825(G-8/Ⅷ)
456	1394	A06	B00	剥片	－	OB3	24.4	15	7.4	1.9	○52642(B-9/Ⅷ)
456	1395	A06	B00	剥片	－	CH	21.6	17.5	5.2	1.2	○58959(G-4/Ⅷ)
456	1396	A06	B00	剥片	－	OB3	24.4	16.2	4	1	○50400(D-9/Ⅷ)
456	1397	A06	B00	剥片	－	CH	19.2	17.6	2.4	0.63	○57391(B-13/Ⅷ)
456	1398	A06	B00	剥片	－	OB1	22.7	21.8	6	2.8	○66035(G-10/Ⅷ下)
456	1399	A06	B00	剥片	－	CH	20.5	23.1	6.5	2.7	○53332(E-13/Ⅷ)
456	1400	A06	B00	剥片	－	OB3	22.1	25.9	3.6	1.4	○63293(H-7/Ⅷ)
456	1401	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	CH	16.2	17.1	3.3	0.62	○57372(C-13/Ⅷ)
456	1402	A06	B00	剥片	－	SH2	20.6	23	5.6	1.8	○57690(B-14/Ⅷ)
456	1403	A06	B00	剥片	－	CH	20.1	22.8	3.8	1.5	○50713(B-14/Ⅵa)
456	1404	A06	B00	調整剥片	－	OB1	15.6	20.8	4.1	0.72	○37976(C-12/Ⅷ下)
456	1405	A06	B00	削器	－	OB3	20.2	29.4	10.7	4.3	○58195(F-6/Ⅷ)
456	1406	A06	B00	剥片	－	OB3	29.6	17.8	9.4	2.9	○37139(E-12/Ⅷ)
456	1407	A06	B00	剥片	－	OB3	25.7	20.6	9.3	4.7	○58853(F-6/Ⅷ)

第132表　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器観察表（４）

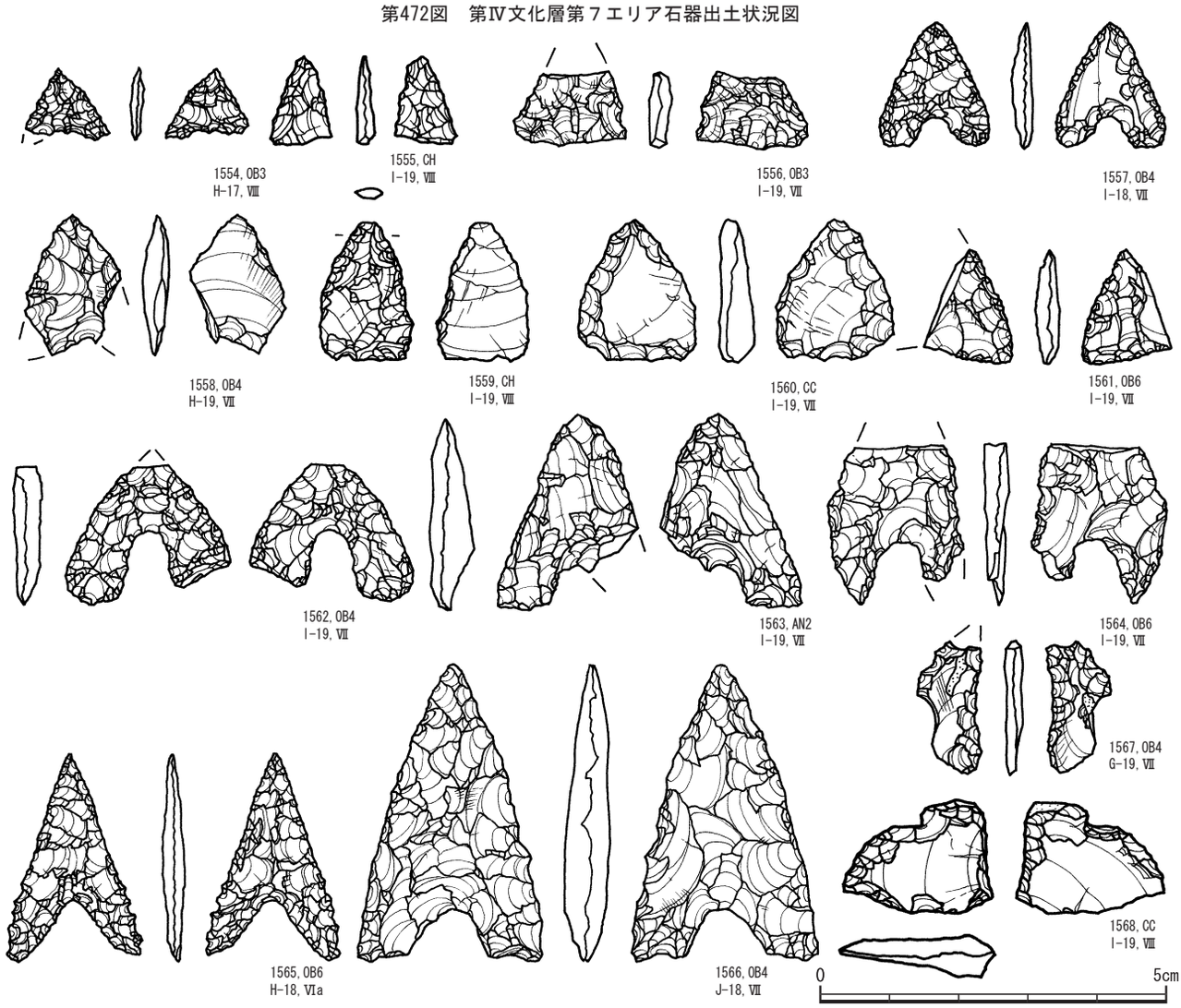
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
456	1408	A06	B00	剥片	－	CH	25.9	14.4	2.8	0.79	○48142(D-13/Ⅶ)
456	1409	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	OB2	32.7	17	7	3	○56046(A-11/Ⅶ)
457	1410	A06	B00	剥片	－	OB2	32.8	16.6	9.1	4.2	○57694(B-14/Ⅶ)
457	1411	A06	B00	剥片	－	SH2	36.5	14.7	7.5	3.7	○50952(C-13/Ⅵ)
457	1412	A06	B00	石核	－	OB6	44.8	16.3	11	5.9	○57983(E-8/Ⅵa)
457	1413	A06	B00	楔形石器	－	SH2	35.9	21.4	8.1	7.7	○56460(D-9/Ⅶ)
457	1414	A06	B00	削器	－	CC1	18	20.9	7.7	2.2	○35671(D-12/Ⅵ)
457	1415	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	OB6	27.5	26.8	8.6	5.6	○58509(G-7/Ⅵa)
457	1416	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	AN2	27.6	29.2	4.1	3.3	○60404(G-6/Ⅶ下)
457	1417	A06	B00	掻器	－	CC1	30.2	21.1	8.9	5.1	○42360(B-9/Ⅵ)
457	1418	A06	B00	剥片	－	CH	28.8	29.2	9.7	4.6	○37392(D-10/Ⅶ横転)
457	1419	A06	B00	剥片	－	SH1	34.5	25.7	3.6	2.9	○56169(A-14/Ⅶ)
457	1420	A06	B00	二次加工痕剥片	－	SH3	31.8	33.4	14.3	12	○66278(F-12/Ⅶ)
457	1421	A06	B00	剥片	－	OB2	32.8	31	7.4	5.2	○50757(C-13/Ⅵa)
457	1422	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	SH1	48.6	30.4	7.4	8.3	○56160(A-14/Ⅶ)
457	1423	A06	B00	磨製石斧	－	SH	－	－	6.5	9.1	○51574(D-14/Ⅶ)
458	1424	A06	B00	細石刃核	－	OB3	14.5	14.3	8.1	3.6	○63184(H-6/Ⅶ)
458	1425	A06	B00	細石刃核	－	OB3	19.8	10.1	14.9	2.9	○34812(E-11/Ⅶ横転)
458	1426	A06	B00	細石刃核	－	OB3	12.8	15	10.1	3.7	○63218(H-6/Ⅶ)
458	1427	A06	B00	石核	－	OB3	13.5	23.8	20.5	5.5	○50828(B-14/Ⅵb)
458	1428	A06	B00	ブランク	－	OB1	22.5	13.8	24.7	4.8	○56216(B-12/Ⅶ)
458	1429	A06	B00	石核	－	OB2	18.8	19.8	12.43	4.1	○50633(C-13/Ⅵa)
458	1430	A06	B00	細石刃核	－	OB1	18.1	18.6	12.2	4.5	○53627(B-13/Ⅶ)
458	1431	A06	B00	石核	－	OB2	18.3	22.9	17.8	6.1	○60708(G-7/Ⅵ下)
458	1432	A06	B00	細石刃核	－	OB1	13.6	16.6	13.1	3.3	○58751(F-5/Ⅶ)
458	1433	A06	B00	石核	－	OB3	12.6	28.5	11.2	4.6	○58747(F-6/Ⅶ)
458	1434	A06	B00	細石刃核	－	OB1	12.5	17.7	11.6	4.3	○61789(F-6/Ⅶ下)
458	1435	A06	B00	細石刃核	－	OP	19.1	16.7	15.8	4.3	○55283(D-7/Ⅶ)
459	1436	A06	B00	細石刃核	－	OB1	19.7	20	16.1	5.4	○37201(B-12/Ⅶ)
459	1437	A06	B00	細石刃核	－	OB2	17.5	18	17.3	5.3	○57798(C-14/Ⅶ)
459	1438	A06	B00	石核	－	CC1	36.3	29.7	7.1	2	○50935(C-13/Ⅶ)
459	1439	A06	B00	細石刃核	－	OB3	19.1	14.5	15.8	3	○36785(E-9/Ⅶ)
459	1440	A06	B00	石核	－	CH	33.4	20.6	13.5	7	○37866(A-12/Ⅶ)
459	1441	A06	B00	石核	－	OB2	25.3	21	20.9	11	○50618(B-13/Ⅵa)
459	1442	A06	B00	石核	－	OB2	24	25.6	19	12	○38374(E-11/Ⅵ撹乱)
459	1443	A06	B00	石核	－	OB2	17.8	23.2	35.5	14	○68093(F-14/Ⅶ)
460	1444	A06	B00	石核	－	OB2	19.9	24.9	10.5	5	○42639(A-11/Ⅵ)
460	1445	A06	B00	細石刃核	－	OB2	16.2	16.8	11.9	3.3	○36781(E-9/Ⅶ)
460	1446	A06	B00	細石刃核	－	OP	17.9	17	20.5	2.9	○55279(D-7/Ⅶ)
460	1447	A06	B00	石核	－	OB3	9.4	22.5	9.3	2.9	○60009(E-6/Ⅶ)
460	1448	A06	B00	掻器	－	OB3	15.4	24.7	8.8	3.4	○60755(D-7/Ⅵ)
460	1449	A06	B00	細石刃核	－	OB2	24.9	19.8	23.3	7.7	○44(B-10/Ⅶ)
460	1450	A06	B00	石核	－	CC	12.2	17.8	19.2	3.9	○49118(B-13/Ⅵa)
460	1451	A06	B00	剥片	－	OB6	22.8	18.5	10.5	3.7	○53595(G-12/Ⅵa)
460	1452	A06	B00	石核	－	OB3	26.1	25.4	16	11	○50753(C-13/Ⅵb下)
460	1453	A06	B00	石核	－	OB2	20.3	30.1	19.4	8.1	○41333(B-11/Ⅶ)
460	1454	A06	B00	石核	－	CH	24.2	22.1	7.6	3.6	○65183(F-9/Ⅵa)
460	1455	A06	B00	石核	－	OB2	20.7	26.1	33.3	13	○37786(B-12/Ⅶ上)
461	1456	A06	B00	剥片	－	SH2	23.8	35.2	9.6	7.9	○56224(B-12/Ⅶ)
461	1457	A06	B00	石核	－	CH	26.8	23.3	17.3	6.9	○60557(F-7/Ⅵ)
461	1458	A06	B00	二次加工痕剥片	－	CH	30.7	20.4	18	7.7	○59074(F-7/Ⅶ上)
461	1459	A06	B00	石核	－	CC1	30.3	35.4	8.3	13	○50944(C-13/Ⅶ)
461	1460	A06	B00	石核	－	CC1	31.3	42.7	15	18	○53277(E-13/Ⅶ)
461	1461	A06	B00	原礫	－	OB3	20.6	14.9	14.4	3.9	○50821(B-14/Ⅵb)
461	1462	A06	B00	細石刃核	－	OB1	12.8	18.5	9.7	3.1	○60461(G-6/Ⅶ)
461	1463	A06	B00	石核	－	CC1	28.7	36.3	16.3	16	○60696(F-8/Ⅶ下)
461	1464	A06	B00	剥片	－	CC1	22.1	19.5	7.8	3	○48364(D-13/Ⅶ)
461	1465	A06	B00	石核	－	OB3	16.5	19.2	9.2	1.9	○59237(F-7/Ⅶ)
461	1466	A06	B00	石核	－	OP	32.7	52.7	24.3	37	○61213(D-8/Ⅶ)
462	1467	A06	B00	削器	－	AN2	56.6	46.2	10.8	30	○66485(H-10/Ⅶ下)
462	1468	A06	B00	削器	－	SH1	57.5	50.9	11.3	29	○60712(G-7/Ⅶ)
462	1469	A06	B00	微細剥離痕剥片	－	AN2	43.6	53.1	11.7	20	○66135(F-11/Ⅶ)
462	1470	A06	B00	石核	－	SH1	33.5	51.4	34.1	74	○43423(C-10/Ⅶ下)
462	1471	A06	B00	磨製石斧	－	SH	92.8	56	20.1	140	○37991(B-11/Ⅶ)
462	1472	A06	B00	磨製石斧	－	HF	87.3	49.1	15	103	○50835(B-14/Ⅶ)
462	1473	A06	B00	打製石斧	－	SH	133.6	62.2	10.2	134	○73(B-10/Ⅶ)
462	1474	A06	B00	打製石斧	－	HF	54.6	47.9	9.2	28	○38849(B-12/Ⅶ下)
462	1475	A06	B00	打製石斧	－	SH	143.2	96.5	15.9	252	○75(B-10/Ⅵ)
463	1476	A06	B00	ハンマー	－	SA	36.3	24.4	21.1	24	○36313(D-12/Ⅶ)
463	1477	A06	B00	ハンマー	－	KAN	38.4	28.2	19.2	27	○68088(F-14/Ⅶ下)
463	1478	A06	B00	ハンマー	－	KAN	38.4	31.9	29.2	47	○36658(D-9/Ⅵ)
463	1479	A06	B00	ハンマー	－	KAN	44.4	36	33.7	72	○36604(B-11/Ⅵ)
463	1480	A06	B00	磨石	/敲	KAN	42.8	40.6	33.5	83	○40662(D-8/Ⅶ)

第133表　第Ⅳ文化層第６エリア出土石器観察表（５）

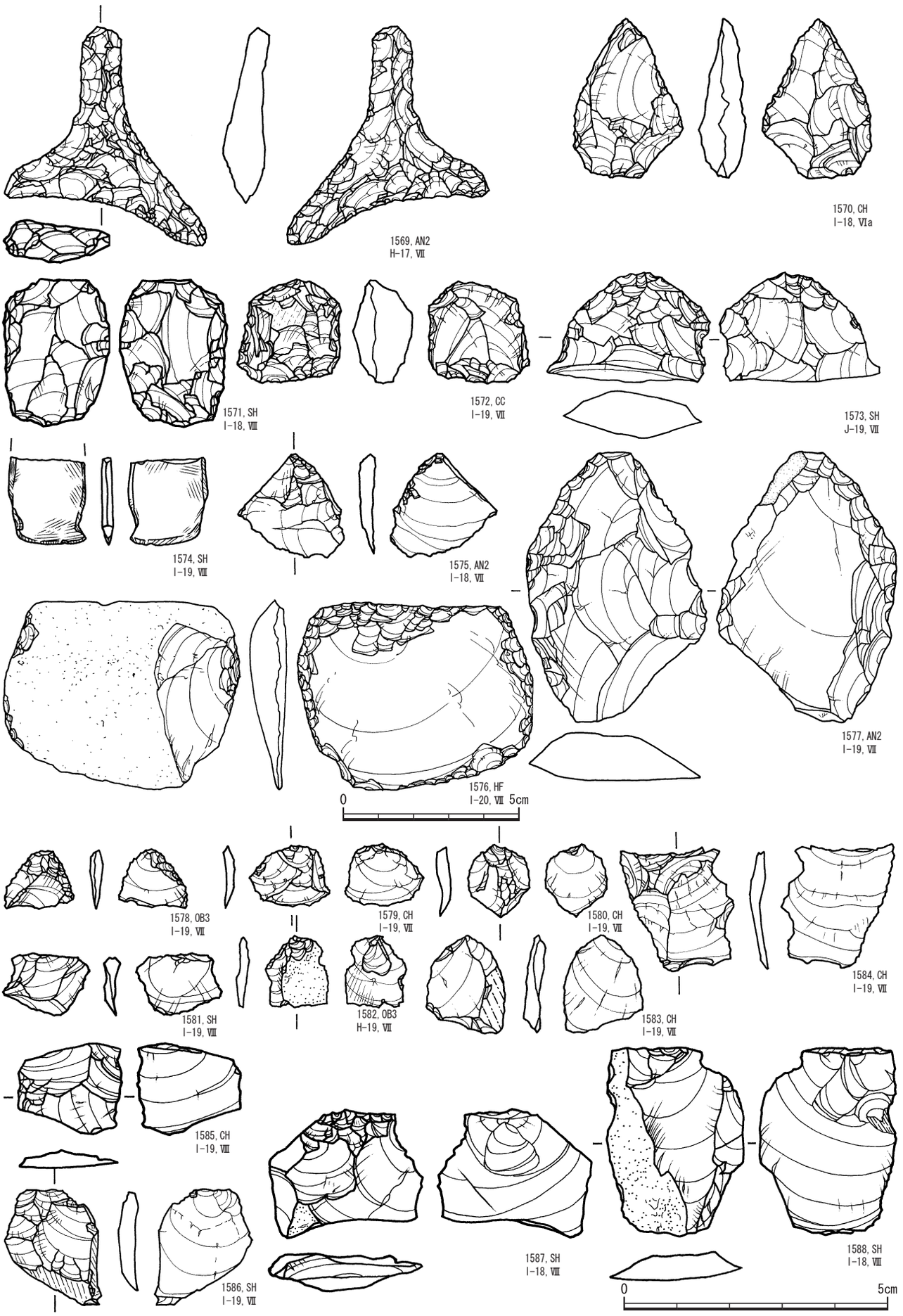
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
463	1481	A06	B00	磨石	－	KAN	61	42.6	30	101	◎6963(い-16/Ⅶ)
463	1482	A06	B00	磨石	/敲	KAN	60.9	48.4	38.2	143	○51052(D-14/Ⅶ)
463	1483	A06	B00	磨石	/敲	KAN	54.2	37.9	35.9	76	○41505(C-8/Ⅶ)
463	1484	A06	B00	ハンマー	－	KAN	84.4	43.8	35	165	○42558(D-7/Ⅶ)
463	1485	A06	B00	敲石	－	SA	71.3	33.2	30.9	104	○38809(A-11/Ⅶ)
463	1486	A06	B00	磨石	/敲	KAN	63.5	53.7	24.4	129	○68084(F-15/Ⅶ下)
463	1487	A06	B00	磨石	/敲	KAN	65.3	49.4	27.4	109	○37706(D-11/Ⅶ)
463	1488	A06	B00	ハンマー	－	KAN	47.8	41	28.6	76	○42228(C-8/Ⅶ)
463	1489	A06	B00	ハンマー	－	SA	55.7	41.5	28.1	89	○56289(B-13/Ⅶ下)
463	1490	A06	B00	磨石	/敲	KAN	67.2	54.7	28	144	○61168(D-7/Ⅶ下)
464	1491	A06	B00	磨石	/敲	KAN	55.4	44.5	28.6	104	○40688(D-8/Ⅶ)
464	1492	A06	B00	磨石	/敲	KAN	55.7	54.9	36.4	155	○60752(D-7/Ⅶ)
464	1493	A06	B00	磨石	－	KAN	61.6	53.3	46.4	232	○59016(F-7/Ⅶ)
464	1494	A06	B00	敲石	－	SA	54.8	53.6	52.8	215	○40551(D-9/Ⅶ)
464	1495	A06	B00	磨石	/敲	KAN	77.2	64.3	42.4	283	○42554(C-8/Ⅶ)
464	1496	A06	B00	磨石	/敲	KAN	79.7	61.1	30.1	181	○58803(F-6/Ⅶ)
464	1497	A06	B00	磨石	/敲	KAN	78.2	65.8	45.6	360	○50942(C-13/Ⅶ)
464	1498	A06	B00	磨石	－	KAN	83	68.6	34.4	237	○38846(B-12/Ⅶ)
464	1499	A06	B00	磨石	/敲	KAN	74.7	69.8	51.1	390	◎11249(あ-13/Ⅶ下)
464	1500	A06	B00	磨石	/敲	KAN	93.5	72.6	45	445	○42565(C-8/Ⅶ)
464	1501	A06	B00	磨石	/敲	SA	84.3	63.2	49.7	318	○36675(D-10/Ⅵ)
464	1502	A06	B00	磨石	/敲	KAN	87	80	51.1	505	○49559(B-13/Ⅶ上)
464	1503	A06	B00	磨石	－	SA	65.3	83.1	56.2	410	○40681(D-8/Ⅶ)
465	1504	A06	B00	磨石	/敲/凹	KAN	94.5	76.8	47.5	430	○55744(H-8/Ⅶ)
465	1505	A06	B00	磨石	/敲	KAN	102.9	72.2	59.2	600	○65846(G-8/Ⅶ)
465	1506	A06	B00	磨石	/敲	KAN	115.8	64.1	46.7	525	○62884(F-7/Ⅶ)
465	1507	A06	B00	磨石	/敲	KAN	83.3	76.2	47.9	461	○60011(E-6/Ⅶ)
465	1508	A06	B00	磨石	/敲	KAN	83	78.6	51.3	401	○60759(D-6/Ⅶ)
465	1509	A06	B00	磨石	/敲	KAN	71.4	61.8	45.8	289	○62486(G-5/Ⅶ)
465	1510	A06	B00	ハンマー	－	KAN	124.5	64.3	30.9	390	○42563(C-8/Ⅶ)
465	1511	A06	B00	磨石	－	KAN	114.8	90	63.6	850	○36692(D-10/Ⅵ)
465	1512	A06	B00	磨石	/敲	SA	115.8	85.8	60.1	810	○35420(C-10/Ⅶ横転)
465	1513	A06	B00	磨石	/敲	KAN	99.1	84.7	59.2	630	○41948(D-9/Ⅶ)
466	1514	A06	B00	磨石	/敲	KAN	77.2	65	38.8	219	◎9755(い-14/Ⅶ)
466	1515	A06	B00	磨石	/敲	KAN	88.1	61.7	41.4	334	○55234(G-9/Ⅶ)
466	1516	A06	B00	磨石	/敲	KAN	76.7	60.7	48.6	337	○42486(E-8/Ⅶ上)
466	1517	A06	B00	磨石	/敲	SA	95.3	71.3	48.5	440	○42579(E-8/Ⅶ)
467	1518	A06	B00	磨石	/敲	KAN	87.3	56.7	43.9	338	○51050(C-14/Ⅶ)
467	1519	A06	B00	磨石	/敲	KAN	100.6	61.1	35.4	324	○65871(F-9/Ⅶ下)
467	1520	A06	B00	磨石	/敲	KAN	98.6	96.7	51.4	550	○66771(G-11/Ⅶ)
467	1521	A06	B00	磨石	－	KAN	100.1	77.4	48	430	◎9740(あ-14/Ⅶ)
467	1522	A06	B00	磨石	/敲	SA	88.7	70.3	44.7	401	○66799(F-11/Ⅶ)
467	1523	A06	B00	磨石	/敲	SA	89	77.8	35.4	330	○60010(E-5/Ⅶ)
467	1524	A06	B00	磨石	/敲	SA	98.2	86.1	42.8	545	○50374(B-13/Ⅶ下)
467	1525	A06	B00	磨石	/敲	SA	134.7	113.7	61.8	1250	○51507(A-12/Ⅶ)
468	1526	A06	B00	磨石	/敲	SA	94.2	84.1	40	450	○63202(H-6/Ⅶ)
468	1527	A06	B00	磨石	/敲	KAN	91.4	70.2	42.3	381	○66958(H-8/Ⅶ)
468	1528	A06	B00	磨石	/敲	SA	100.6	87.7	46.8	610	○60474(G-7/Ⅶ)
468	1529	A06	B00	磨石	/敲	SA	115.7	87	40.8	580	◎9754(い-13/Ⅶ)
468	1530	A06	B00	磨石	/敲	KAN	113.5	86.3	40.9	680	○66619(H-11/Ⅶ)
468	1531	A06	B00	磨石	/敲	SA	104.4	77.8	41	440	○66214(G-11/Ⅶ)
468	1532	A06	B00	磨石	/敲	SA	105.4	59.5	27.7	201	○38837(B-12/Ⅶ)
468	1533	A06	B00	磨石	/敲	SA	98.9	92	42.7	610	○37241(A-12/Ⅶ)
468	1534	A06	B00	磨石	/敲	SA	99.5	91.3	33.6	435	○40682(D-8/Ⅶ)
469	1535	A06	B00	磨石	/敲/凹	KAN	88.9	76.5	40.3	400	○40686(D-8/Ⅶ)
469	1536	A06	B00	磨石	/敲/凹	SA	106.4	88.6	48.9	550	○36807(E-10/Ⅶ)
469	1537	A06	B00	磨石	/敲	SA	98.8	74.3	41.4	430	○57776(E-15/Ⅶ)
469	1538	A06	B00	磨石	/敲/凹	SA	80.6	59.9	45.2	290	○60400(E-6/Ⅶ)
469	1539	A06	B00	磨石	/敲	SA	104.4	87.5	41.5	610	○58241(G-6/Ⅶ)
469	1540	A06	B00	磨石	/敲	KAN	93	66.9	46.5	445	◎9753(あ-13/Ⅶ)
469	1541	A06	B00	磨石	/敲/凹	SA	77.5	67.5	30.4	231	○61200(C-7/Ⅶ下)
469	1542	A06	B00	台石	－	SA	107.4	78.8	26.5	390	○66613(H-11/Ⅶ下)
470	1543	A06	B00	砥石	－	SA	154.3	75.2	71.1	1140	○60412(G-6/Ⅶ)
470	1544	A06	B00	敲石	棒状礫素材	SA	136.8	43.9	44.4	304	○60154(E-5/Ⅶ)
470	1545	A06	B00	台石	－	SA	127.5	80.1	43.4	530	○60371(E-5/Ⅶ)
470	1546	A06	B00	磨石	/敲	SA	146.4	102.5	78.4	1850	◎8979(あ-19/Ⅶ)
471	1547	A06	B00	石皿	－	SA	120.6	86.7	10.2	273	○66413(H-10/Ⅶ)
471	1548	A06	B00	台石	－	SA	72.2	102.4	33	474	○66024(G-10/Ⅶ下)
471	1549	A06	B00	台石	－	SA	95.9	89.1	26	320	○51053(C-14/Ⅶ)
471	1550	A06	B00	石皿	－	KAN	116.2	88.8	35.6	2560	○66921(H-9/Ⅶ下)
471	1551	A06	B00	石皿	－	KAN	154.3	137.1	58	1570	○40489(C-9/Ⅶ)
471	1552	A06	B00	石皿	－	GN	122.9	180.1	47	1520	○37496(C-11/Ⅶ)
471	1553	A06	B00	石皿	－	SA	246.7	253.6	51	5200	○38452(E-11/Ⅶ)



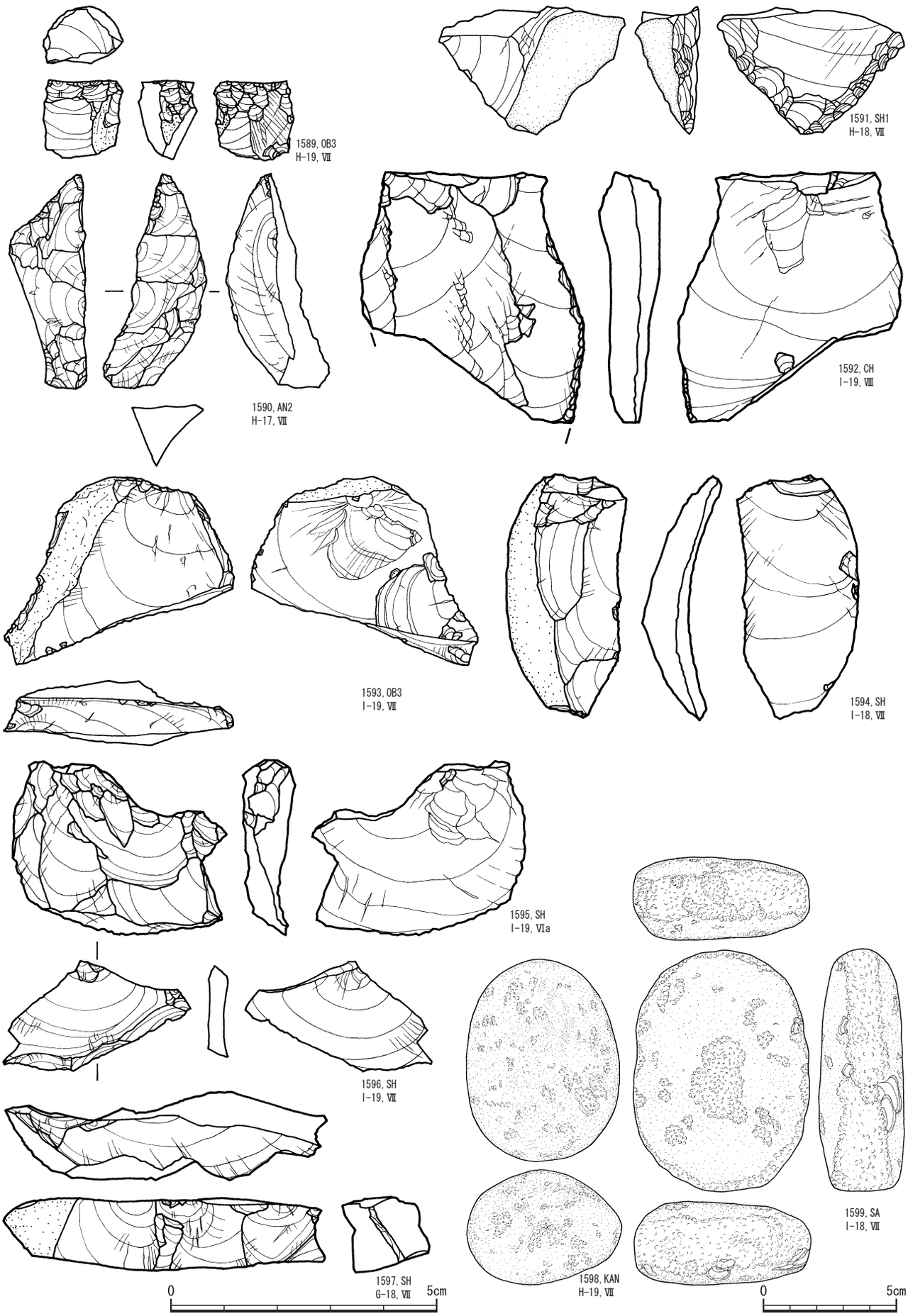
第472図　第Ⅳ文化層第７エリア石器出土状況図



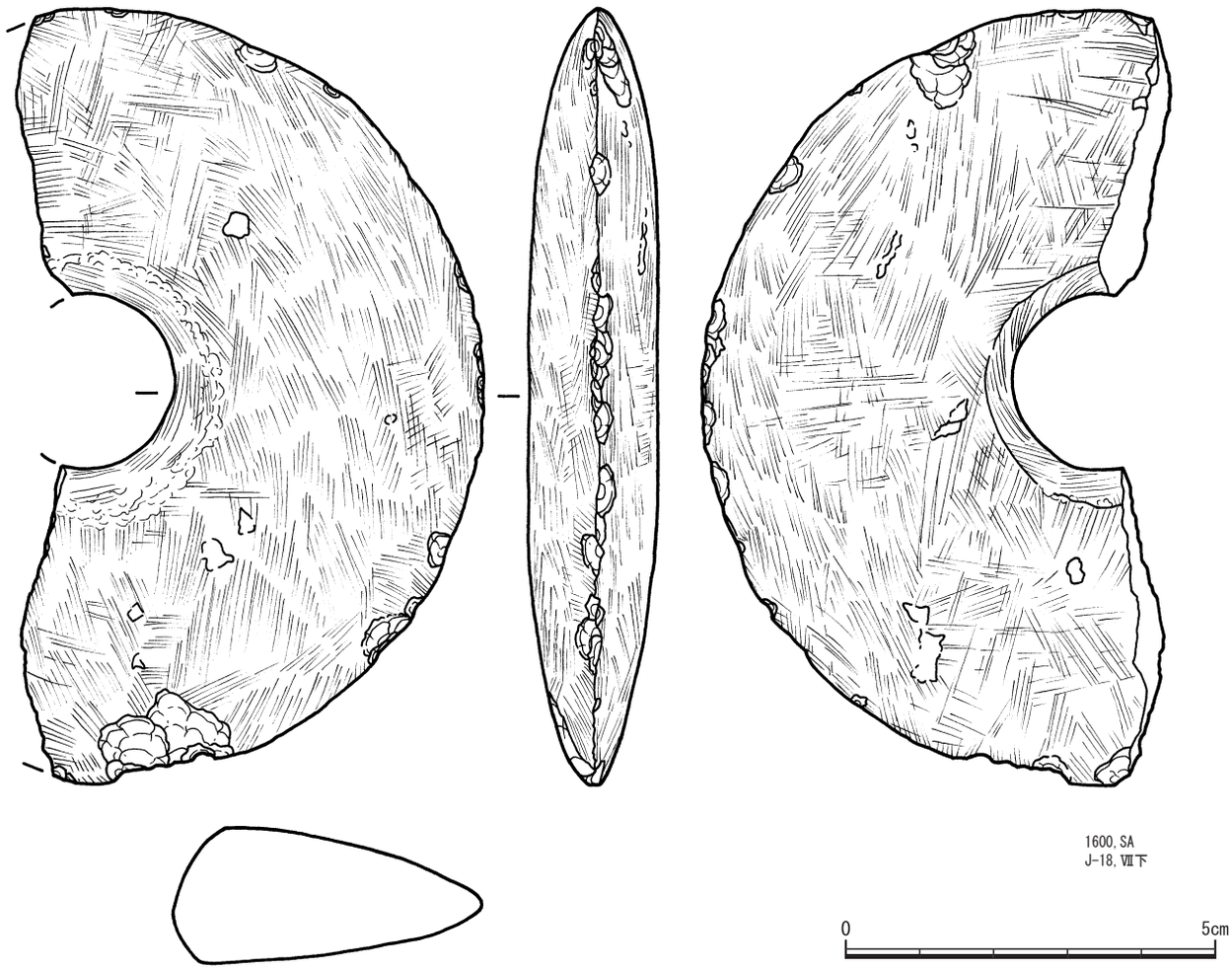
第473図　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器実測図（１）



第474図　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器実測図（２）



第475図　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器実測図（３）



第476図　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器実測図（４）

第134表　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器観察表（１）

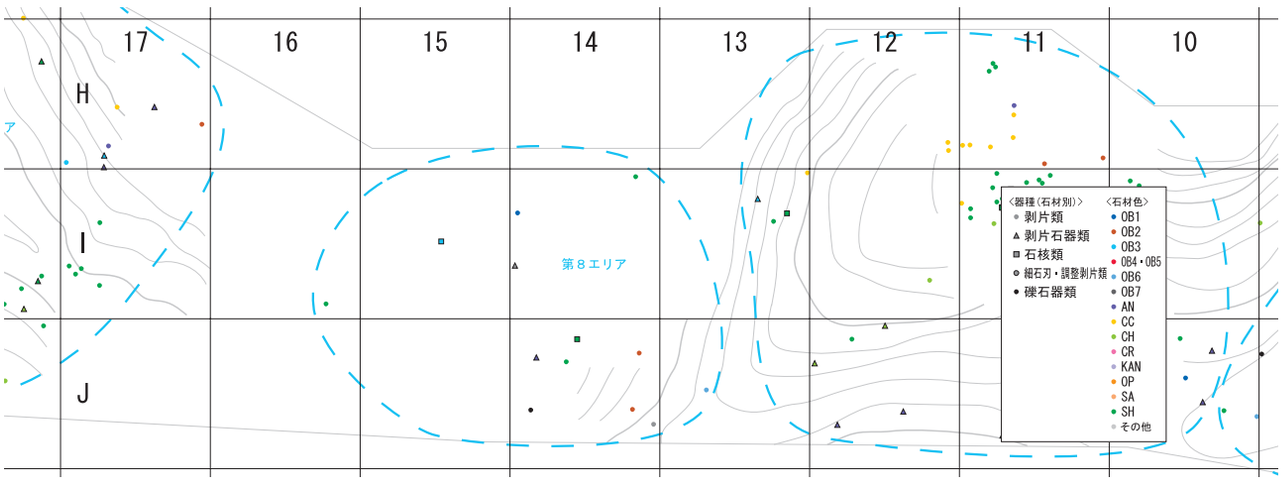
挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
473	1554	A07	B00	石鏃	－	OB3	10.3	12.2	1.6	0.13	▲4579(H-17/Ⅷ)
473	1555	A07	B00	石鏃	－	CH	12.7	9.3	2.2	0.24	▲1984(I-19/Ⅷ)
473	1556	A07	B00	石鏃	未製品	OB3	11.5	16.3	3.1	0.61	▲2447(I-19/Ⅶ)
473	1557	A07	B00	石鏃	－	OB4	18.2	16.1	3.1	0.62	▲2412(I-18/Ⅶ)
473	1558	A07	B00	石鏃	未製品	OB4	20.4	14.2	3.3	0.74	▲2741(H-19/Ⅶ)
473	1559	A07	B00	石鏃	未製品	CH	20.3	13.7	2.2	0.68	▲1990(I-19/Ⅷ)
473	1560	A07	B00	石鏃	未製品	CC	20.7	17.4	5	1.8	▲3630(I-19/Ⅶ)
473	1561	A07	B00	石鏃	－	OB6	16.8	13.2	3.5	0.54	▲2164(I-19/Ⅶ)
473	1562	A07	B00	石鏃	－	OB4	20	23.9	4.4	1.6	▲1888(I-19/Ⅶ)
473	1563	A07	B00	石鏃	－	AN2	28.1	20.7	5.7	2.4	▲1863(I-19/Ⅶ)
473	1564	A07	B00	石鏃	－	OB6	23.2	19.8	3.3	1.3	▲1922(I-19/Ⅶ)
473	1565	A07	B00	石鏃	－	OB6	30.1	19.6	3.3	0.98	▲2405(H-18/Ⅵa)
473	1566	A07	B00	石鏃	－	OB4	43.1	27.2	6.1	5.4	▲11137(J-18/Ⅶ)
473	1567	A07	B00	石鏃	未製品	OB4	19.2	9.7	2.3	0.41	▲3308(G-19/Ⅶ)
473	1568	A07	B00	石匙	－	CC	16.4	21.7	6.1	1.7	▲2033(I-19/Ⅶ)
474	1569	A07	B00	異形石器	－	AN2	41.5	38.6	7.7	4.3	▲4502(H-17/Ⅶ)
474	1570	A07	B00	二次加工痕剥片	－	CH	30.5	21.1	8.3	4.5	▲2398(I-18/Ⅵa)
474	1571	A07	B00	楔形石器	－	SH	28.2	20.8	6.3	3.7	▲2600(I-18/Ⅷ)
474	1572	A07	B00	掻器	－	CC	19.7	19.5	10.7	3.5	▲1886(I-19/Ⅶ)
474	1573	A07	B00	削器	－	SH	20.9	30.6	8.3	5.4	▲11157(J-19/Ⅶ)
474	1574	A07	B00	磨製石鏃	－	SH	16.9	15.4	1.6	0.76	▲2086(I-19/Ⅶ)
474	1575	A07	B00	剥片	－	AN2	19.9	20.5	3	0.83	▲2571(I-18/Ⅶ)
474	1576	A07	B00	打製石斧	－	HF	53	66.1	11	42	▲11069(I-20/Ⅶ)
474	1577	A07	B00	削器	－	AN2	51.7	34.4	10	17	▲11093(I-19/Ⅶ)
474	1578	A07	B00	石鏃	未製品	OB3	11.4	13.3	2.2	0.26	▲2010(I-19/Ⅶ)
474	1579	A07	B00	剥片	－	CH	12.1	15.2	1.8	0.3	▲1931(I-19/Ⅶ)
474	1580	A07	B00	剥片	－	CH	14	12.1	2.2	0.32	▲2159(I-19/Ⅶ)
474	1581	A07	B00	剥片	－	SH	12	16.6	1.6	0.33	▲2088(I-19/Ⅶ)
474	1582	A07	B00	剥片	－	OB3	13.9	11.9	2	0.33	▲4227(H-19/Ⅶ)
474	1583	A07	B00	剥片	－	CH	18.7	15.4	3.1	0.89	▲2138(I-19/Ⅶ)
474	1584	A07	B00	剥片	－	CH	23.7	21.8	5	1.6	▲1926(I-19/Ⅶ)
474	1585	A07	B00	剥片	－	CH	17.7	20.1	4	1.1	▲1901(I-19/Ⅶ)
474	1586	A07	B00	剥片	－	SH	22.3	18.9	4.1	1.5	▲2009(I-19/Ⅶ)

第135表　第Ⅳ文化層第７エリア出土石器観察表（２）

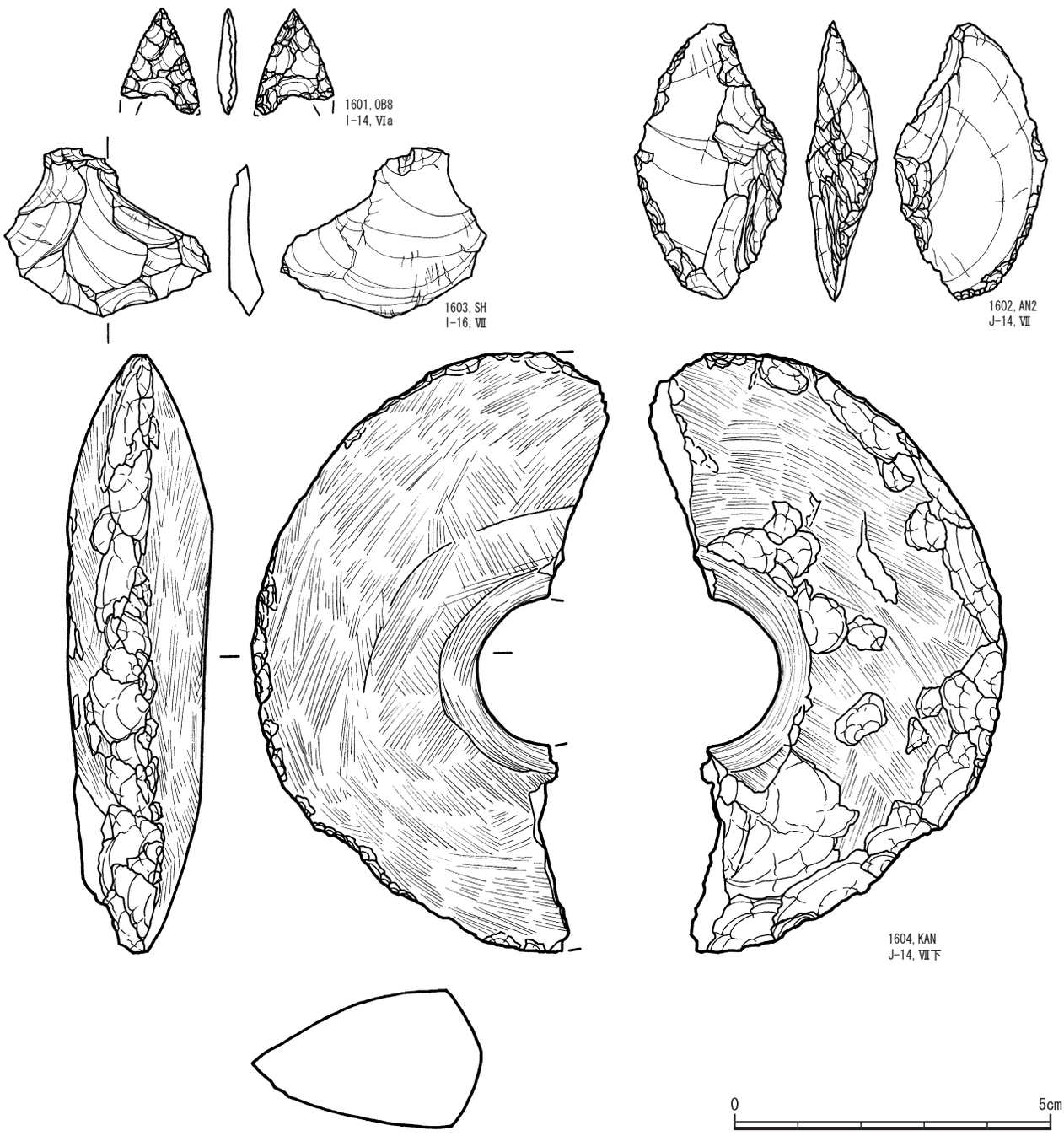
挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
474	1587	A07	B00	剥片	－	SH	24.7	29.6	6	4.2	▲2596(I-18/Ⅷ)
474	1588	A07	B00	剥片	－	SH	35.8	26.2	5.5	6.1	▲2591(I-18/Ⅷ)
475	1589	A07	B00	細石刃核	－	OB3	15	15.3	10.5	2.4	▲3307(H-19/Ⅶ)
475	1590	A07	B00	二次加工痕剥片	－	AN2	40.5	19.7	14	5.3	▲4511(H-17/Ⅶ)
475	1591	A07	B00	二次加工痕剥片	－	SH1	24	35.4	12	6.5	▲5702(H-18/Ⅶ)
475	1592	A07	B00	微細剥離痕剥片	－	CH	47.4	42.5	10.5	20	▲2019(I-19/Ⅷ)
475	1593	A07	B00	掻器	－	OB3	35.7	43	11.3	14	▲1948(I-19/Ⅶ)
475	1594	A07	B00	剥片	－	SH	46.1	23.3	15.4	8.8	▲3928(I-18/Ⅶ)
475	1595	A07	B00	微細剥離痕剥片	－	SH	32.9	40.4	9.4	10	▲1905(I-19/Ⅵa)
475	1596	A07	B00	剥片	－	SH	20.9	35.4	4.6	2.5	▲1960(I-19/Ⅶ)
475	1597	A07	B00	剥片	－	SH	14.6	60.8	17	12	▲3327(G-18/Ⅶ)
475	1598	A07	B00	磨石	－	KAN	76.4	57.9	42.8	272	▲2740(H-19/Ⅶ)
475	1599	A07	B00	磨石	/敲	SA	91.2	66.5	32.7	312	▲2442(I-18/Ⅶ)
476	1600	A07	B00	環状石斧	－	SA	105.3	64.1	17	141	▲11208(J-18/Ⅶ下)

第136表　第Ⅳ文化層第８～第９エリア出土石器観察表

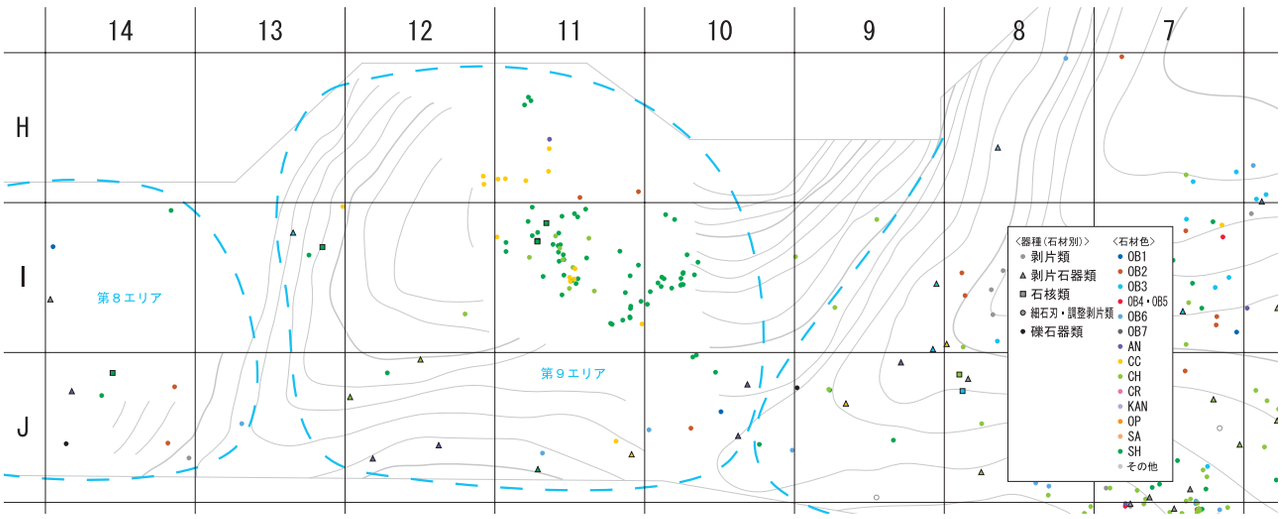
挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
478	1601	A08	B00	石鏃	－	OB8	16.7	12.6	2.9	0.43	▲3506(I-14/Ⅵa)
478	1602	A08	B00	削器	－	AN2	44	24.5	10.9	7.4	▲3489(J-14/Ⅶ)
478	1603	A08	B00	剥片	－	SH	27.1	32.8	6	4.3	▲5619(I-16/Ⅶ)
478	1604	A08	B00	環状石斧	－	KAN	95.2	56.8	22.7	111	▲11188(J-14/Ⅶ下)
480	1605	A09	B00	石鏃	－	OB3	14.8	10.7	3.8	0.43	▲3274(I-13/Ⅶ)
480	1606	A09	B00	石鏃	－	CH	22.1	13.8	3	0.91	▲3239(J-12/Ⅶ)
480	1607	A09	B00	石鏃	－	AN2	22.5	19.4	4	1.6	▲11012(J-12/Ⅶ)
480	1608	A09	B00	二次加工痕剥片	－	CC1	16.1	22.1	6.7	2.5	▲11054(J-11/Ⅵa)
480	1609	A09	B00	削器	－	SH	24.9	26.3	9.9	6.8	▲10977(J-11/Ⅵa)
480	1610	A09	B00	削器	－	CH	31.8	24.3	8.3	5.1	▲3241(J-12/Ⅶ)
480	1611	A09	B00	削器	－	AN2	44	22.5	7.4	7.8	▲11001(J-12/Ⅶ)
480	1612	A09	B00	剥片	－	OB2	23.1	24.2	6	2.4	▲11222(H-11/Ⅷ)
480	1613	A09	B00	剥片	－	CC	18.5	15.4	5.6	1.2	▲4475(I-13/Ⅷ)
480	1614	A09	B00	石核	－	SH	37.9	46.8	15.3	22	▲1384(I-11/Ⅶ)
480	1615	A09	B00	石核	－	SH2	33.6	44.6	31	134	▲4040(I-13/Ⅷ)



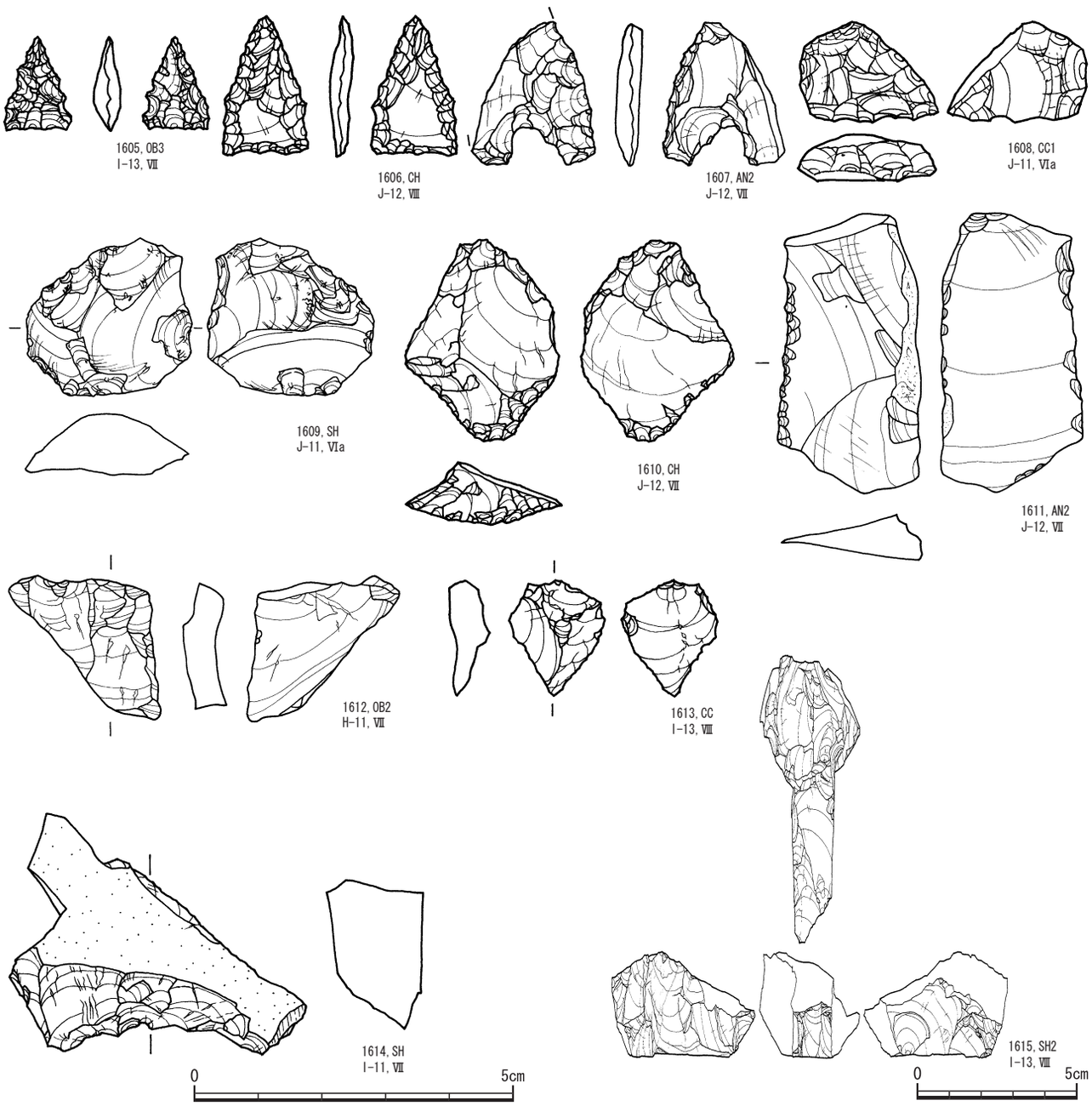
第477図　第Ⅳ文化層第８エリア石器出土状況図



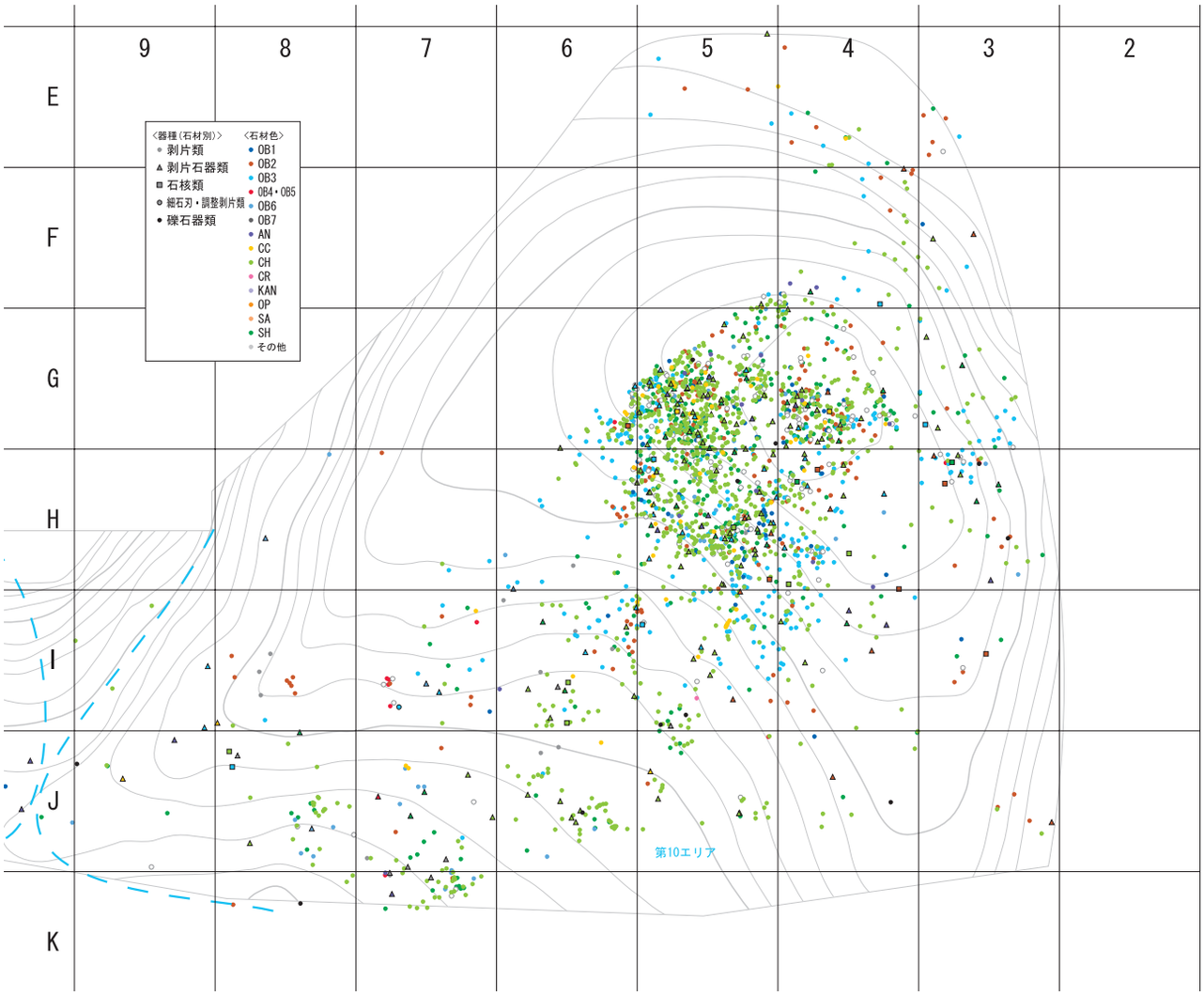
第478図　第Ⅳ文化層第８エリア出土石器実測図



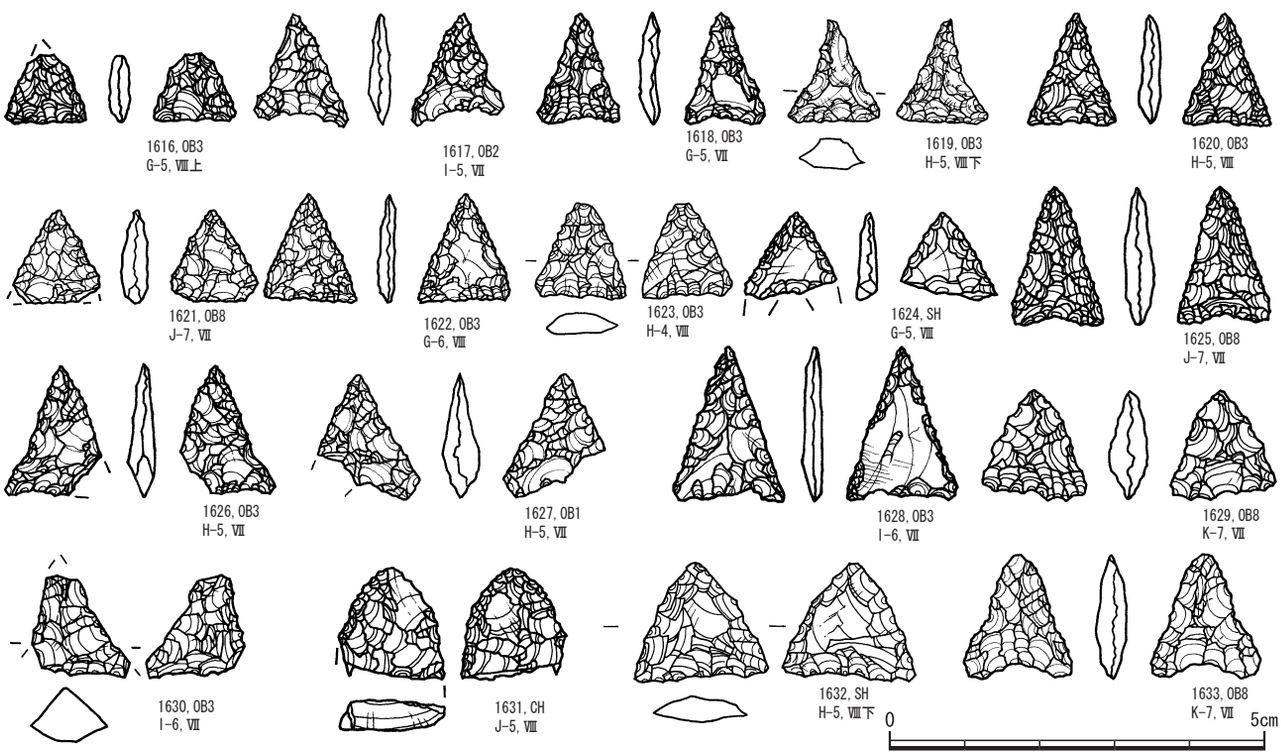
第479図　第Ⅳ文化層第９エリア石器出土状況図



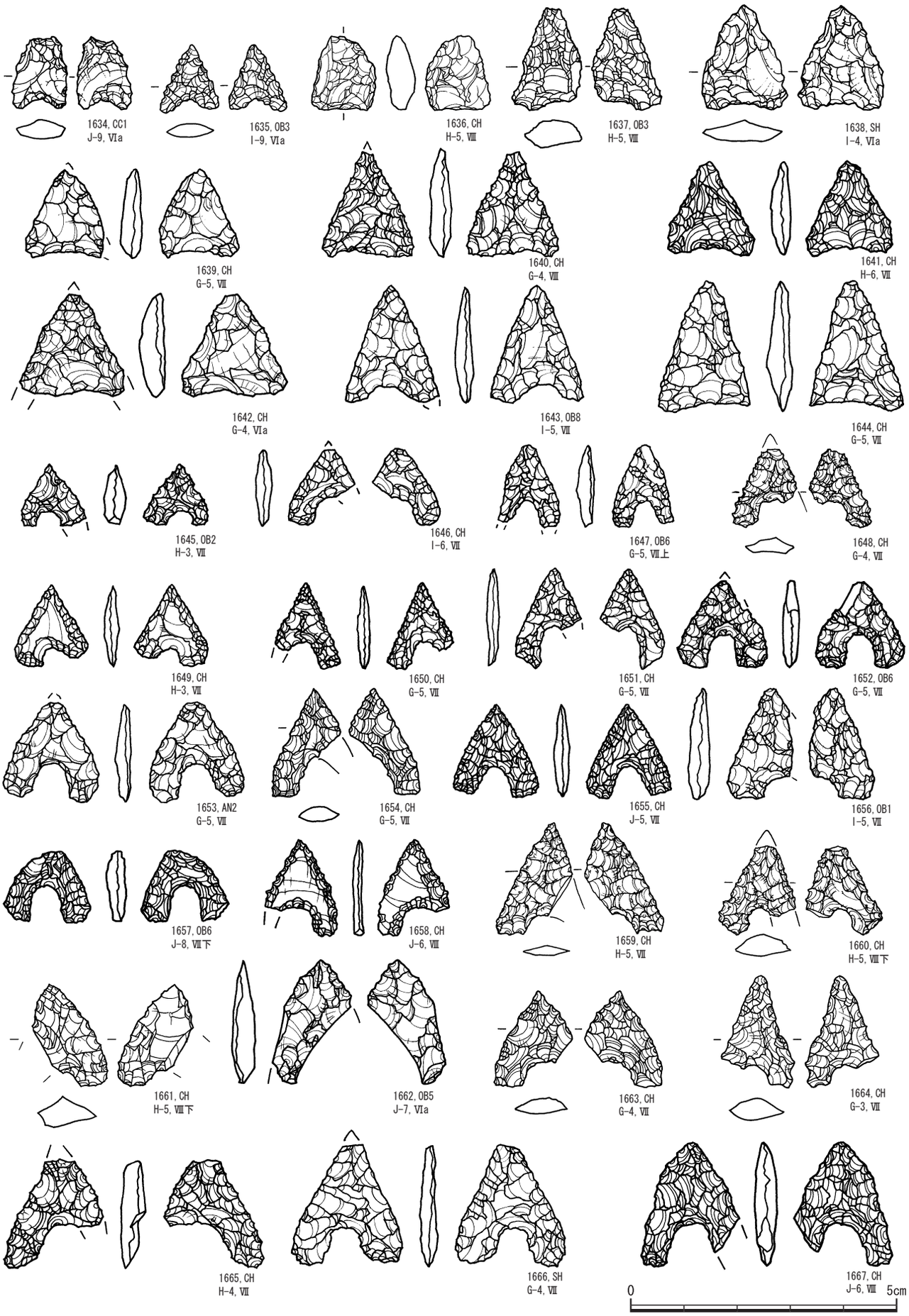
第480図　第Ⅳ文化層第９エリア出土石器実測図



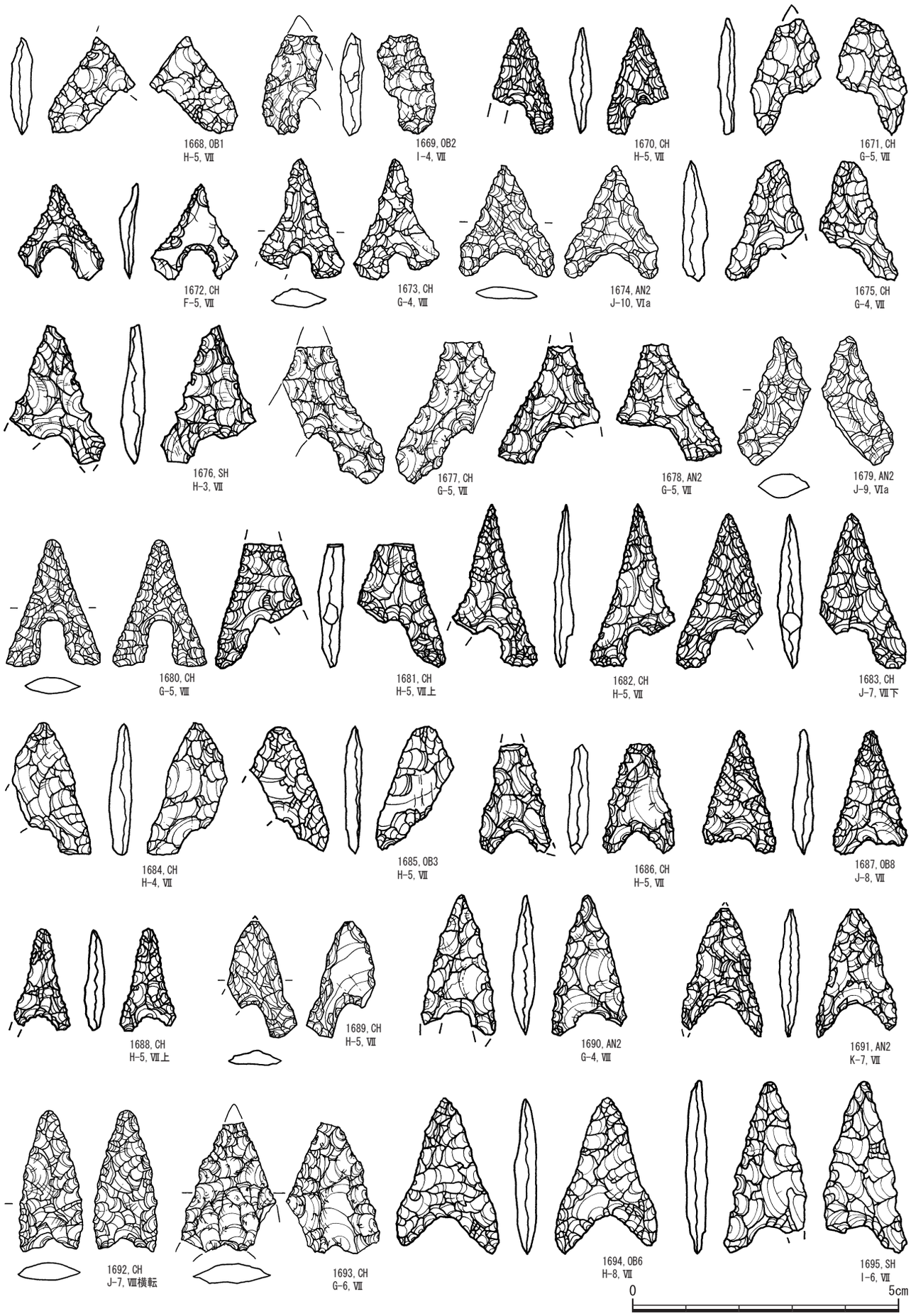
第481図　第Ⅳ文化層第10エリア石器出土状況図



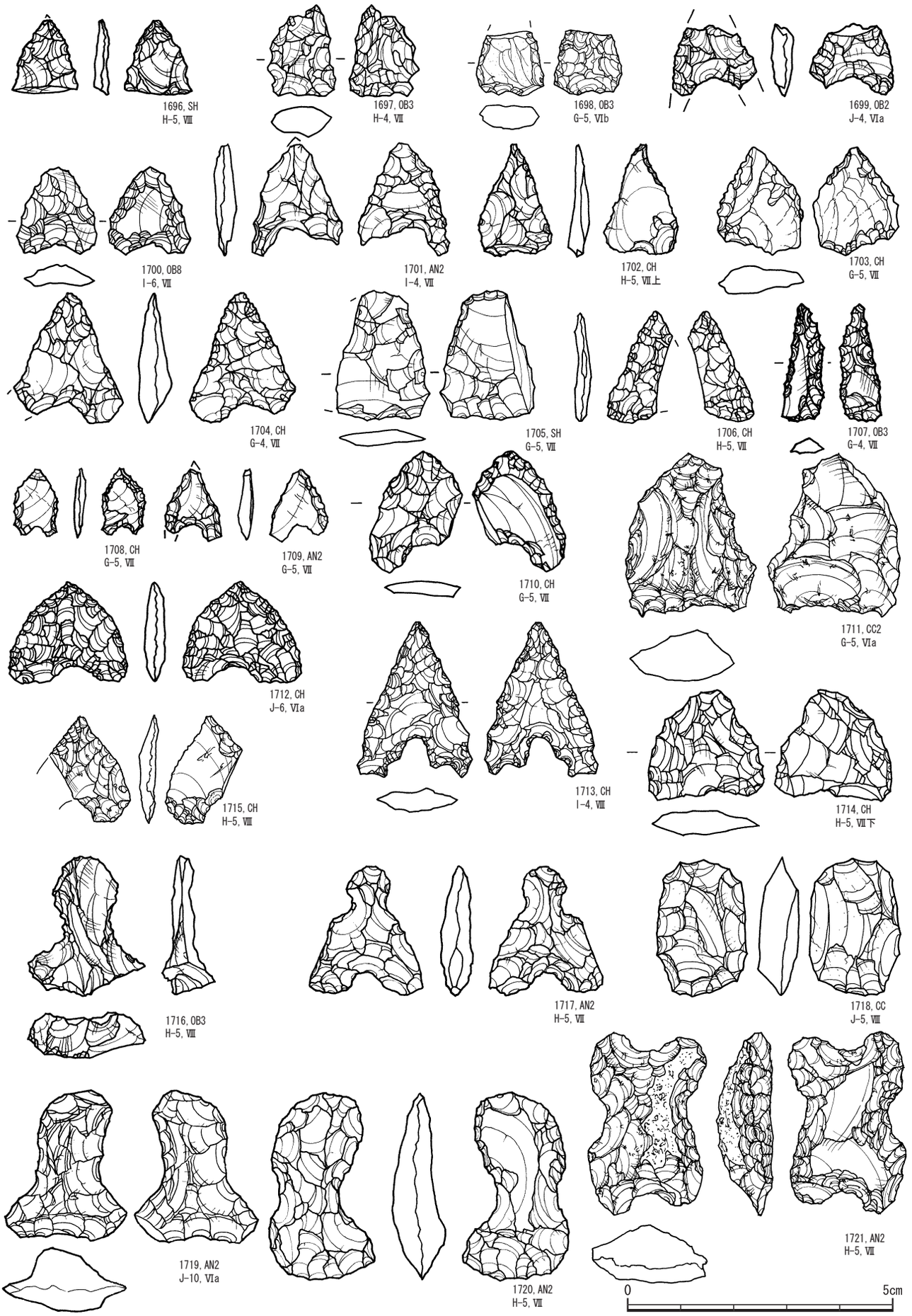
第482図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（１）



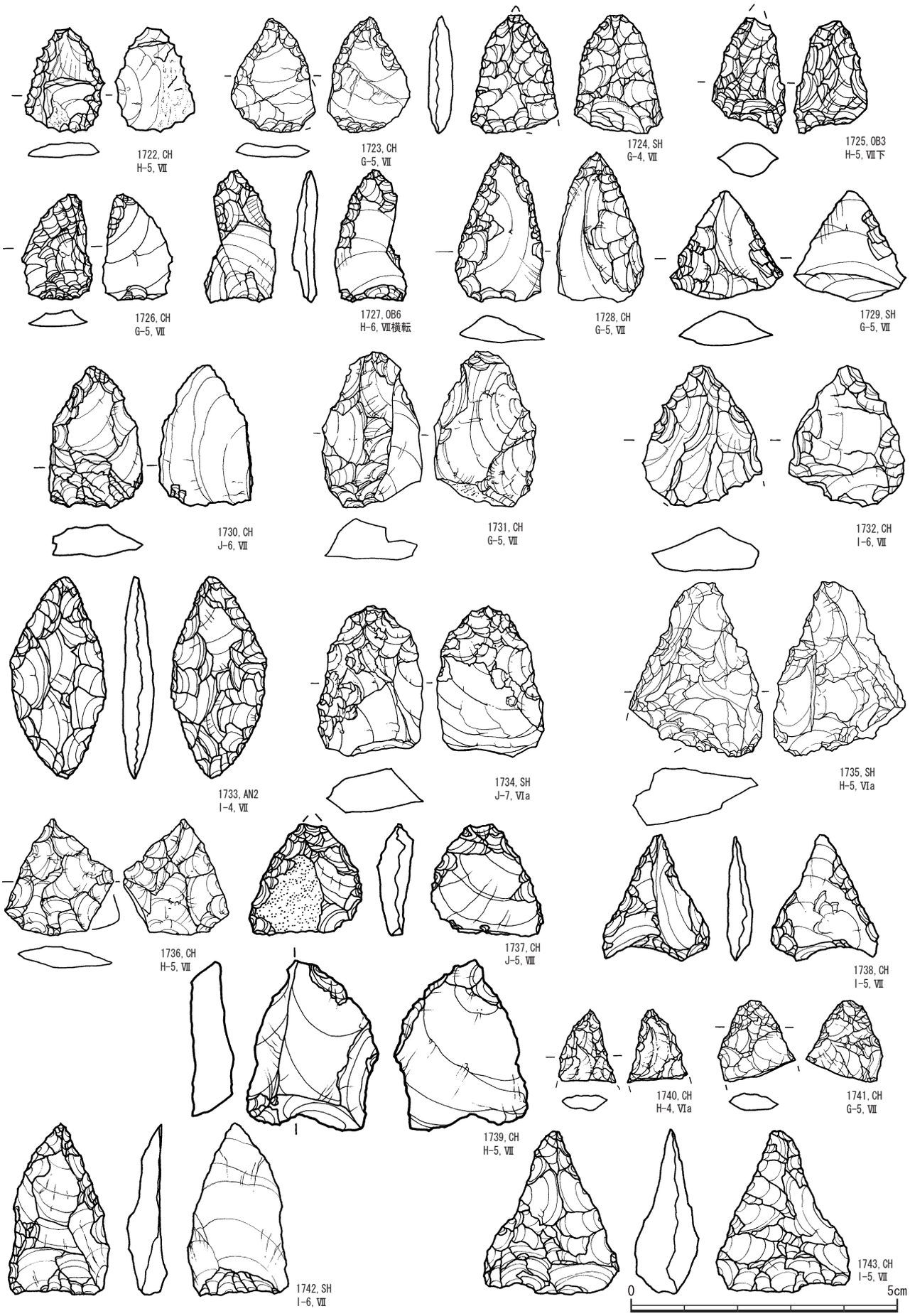
第483図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（２）



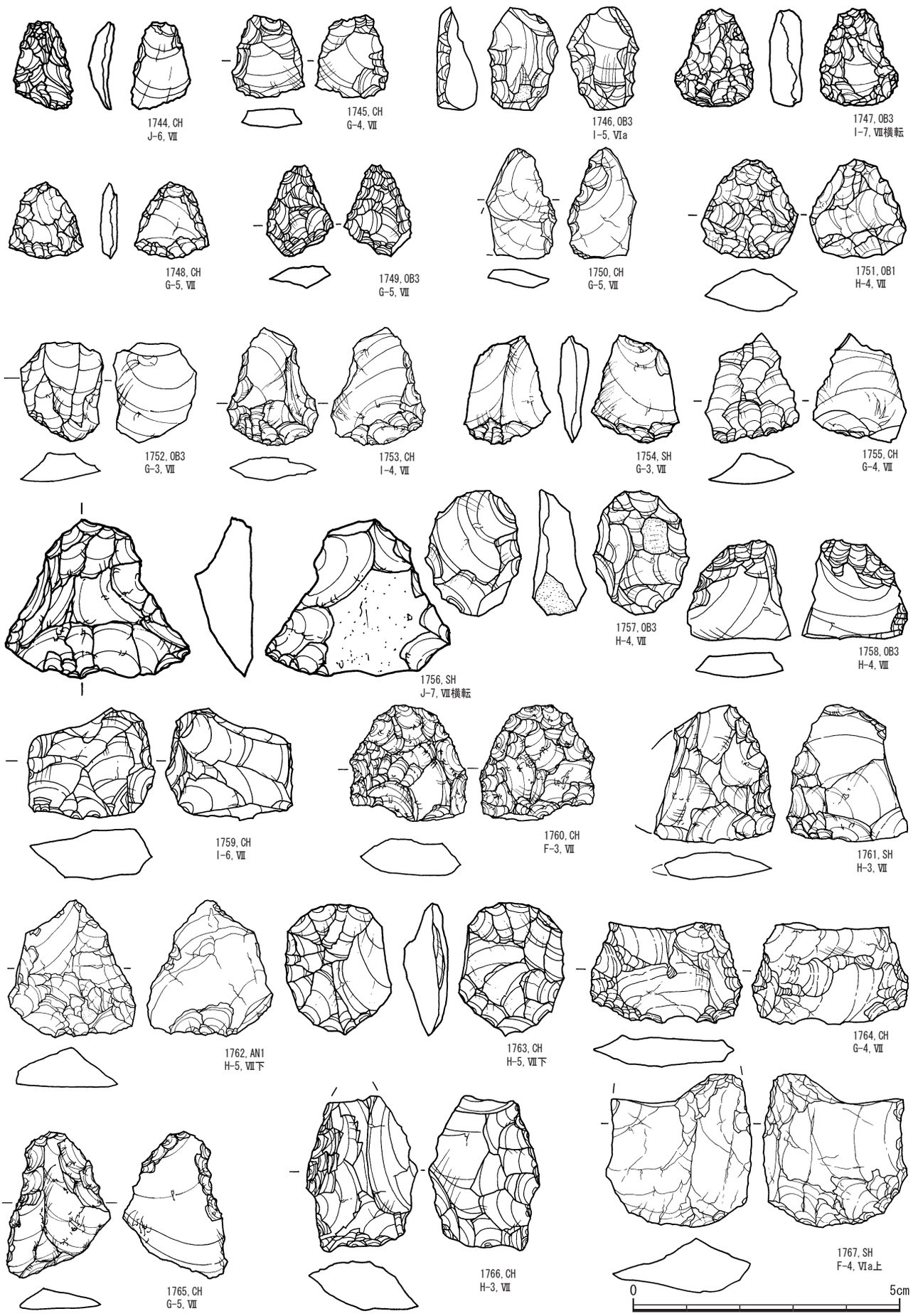
第484図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（３）



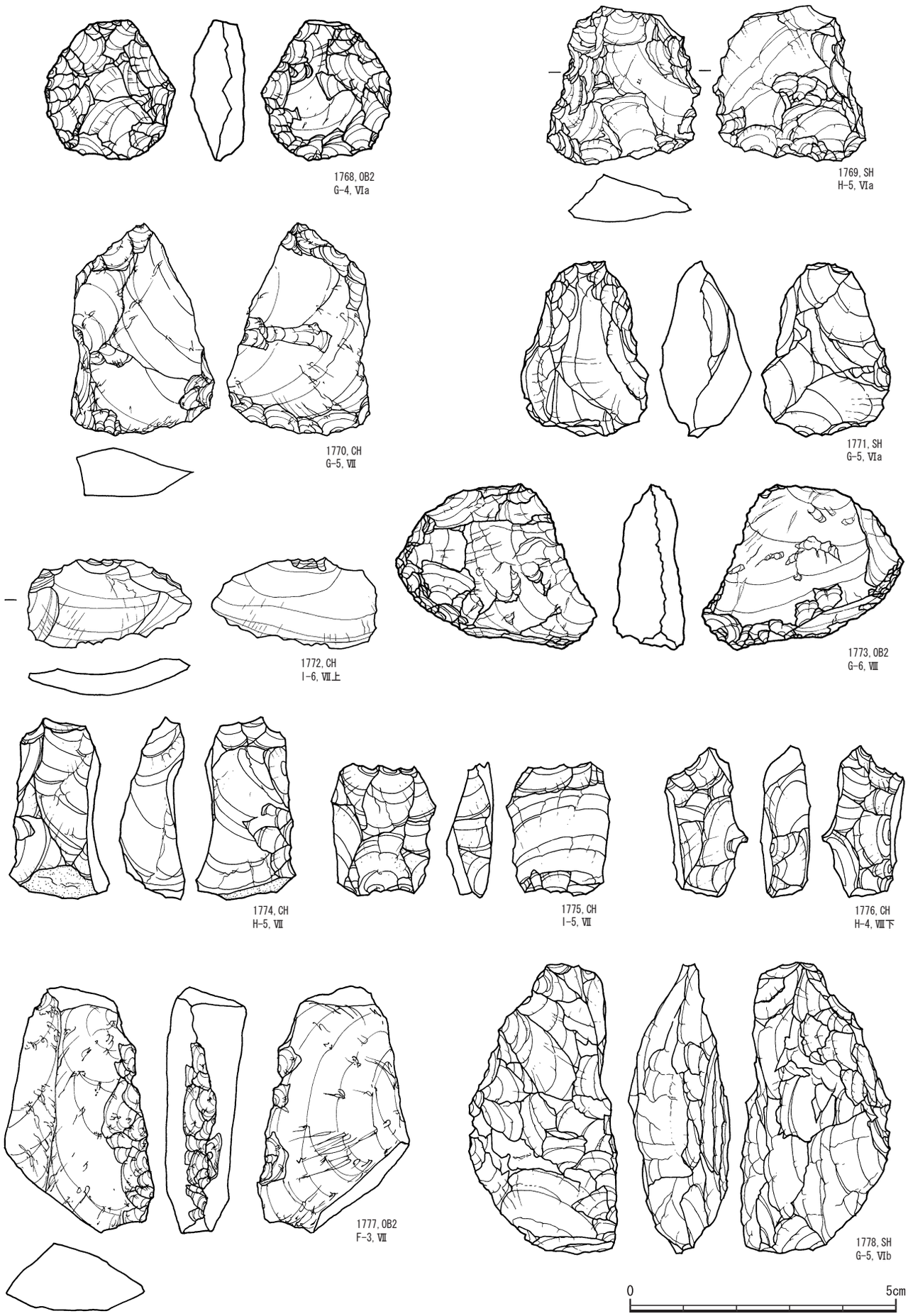
第485図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（４）



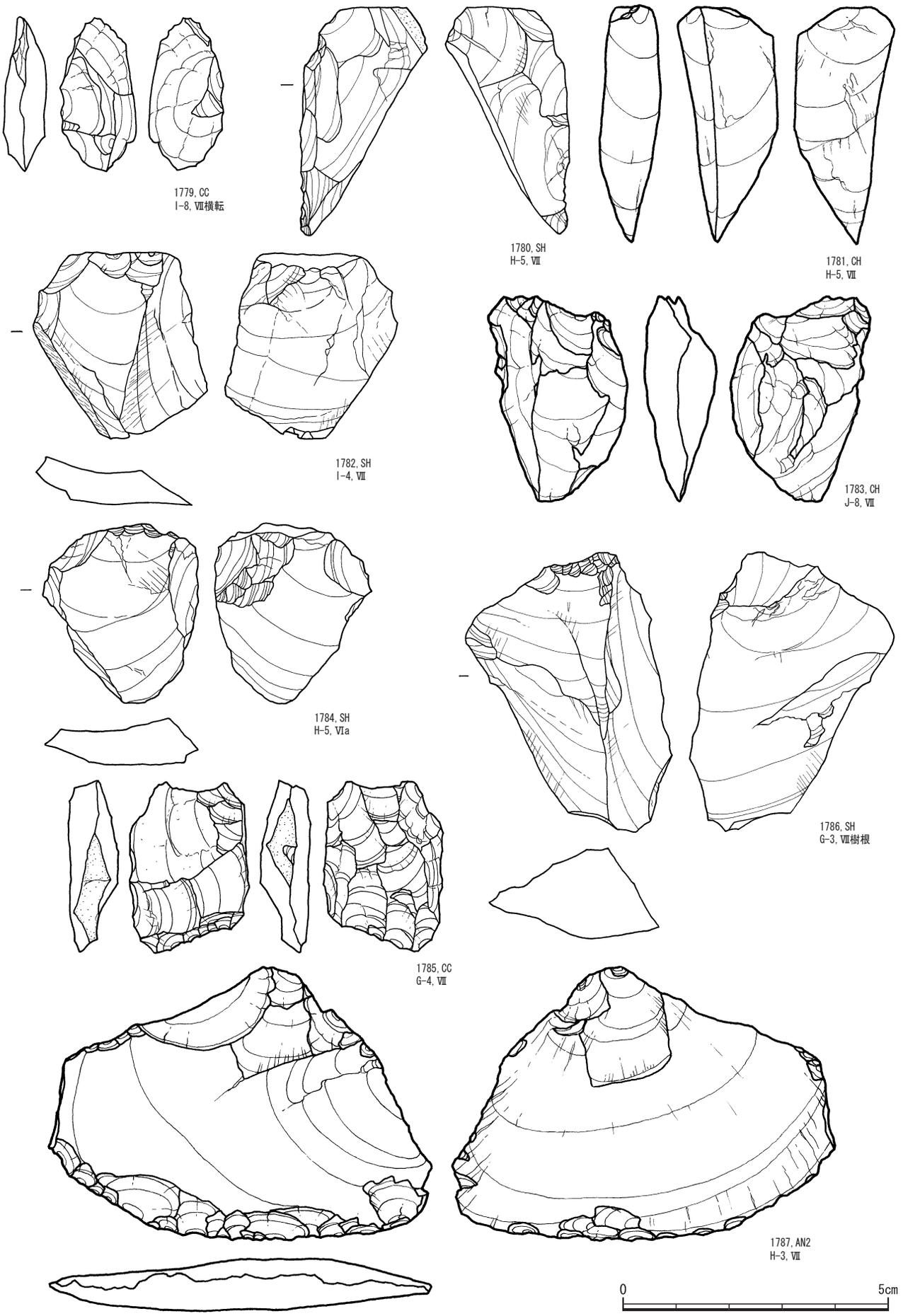
第486図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（５）



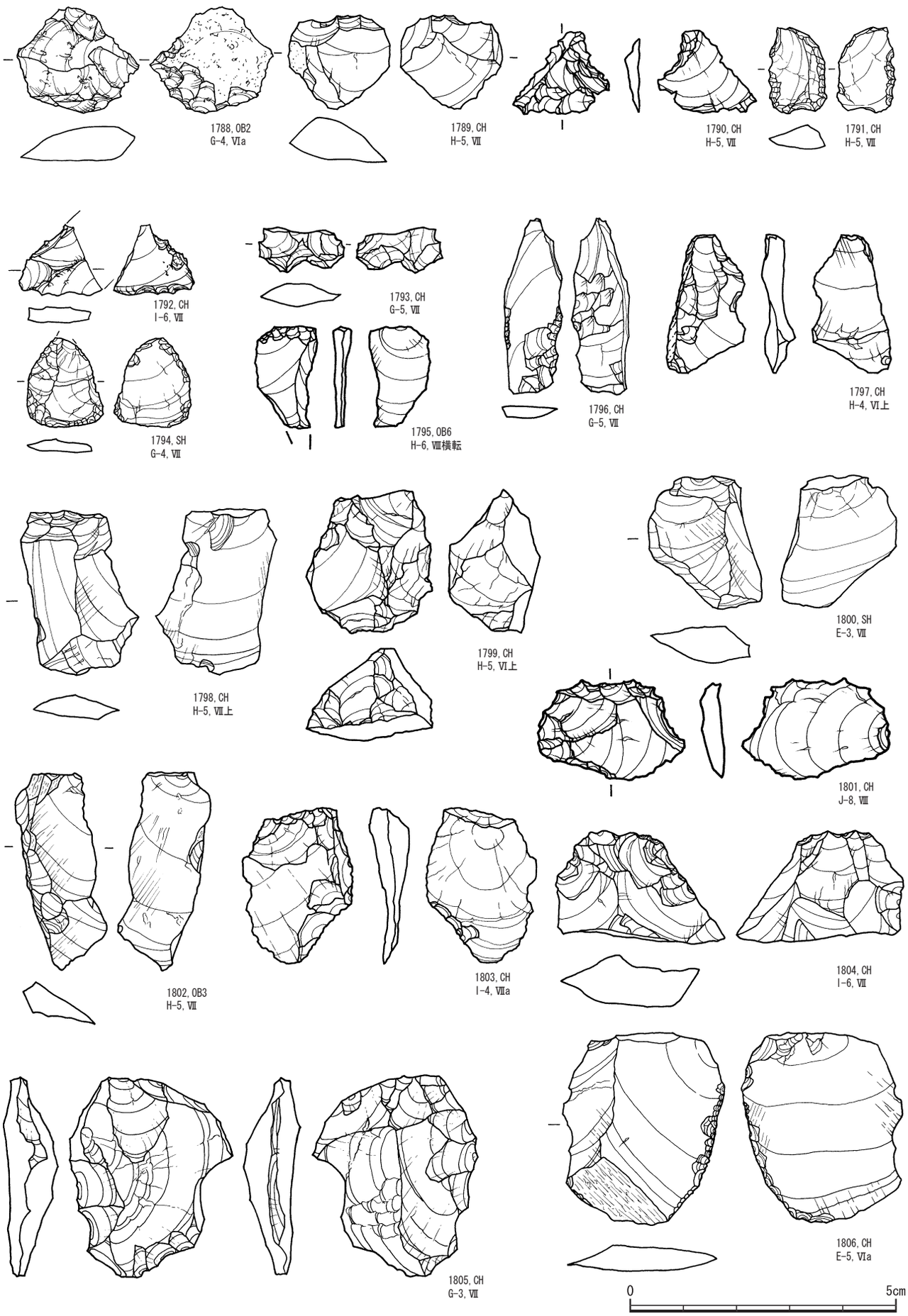
第487図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（６）



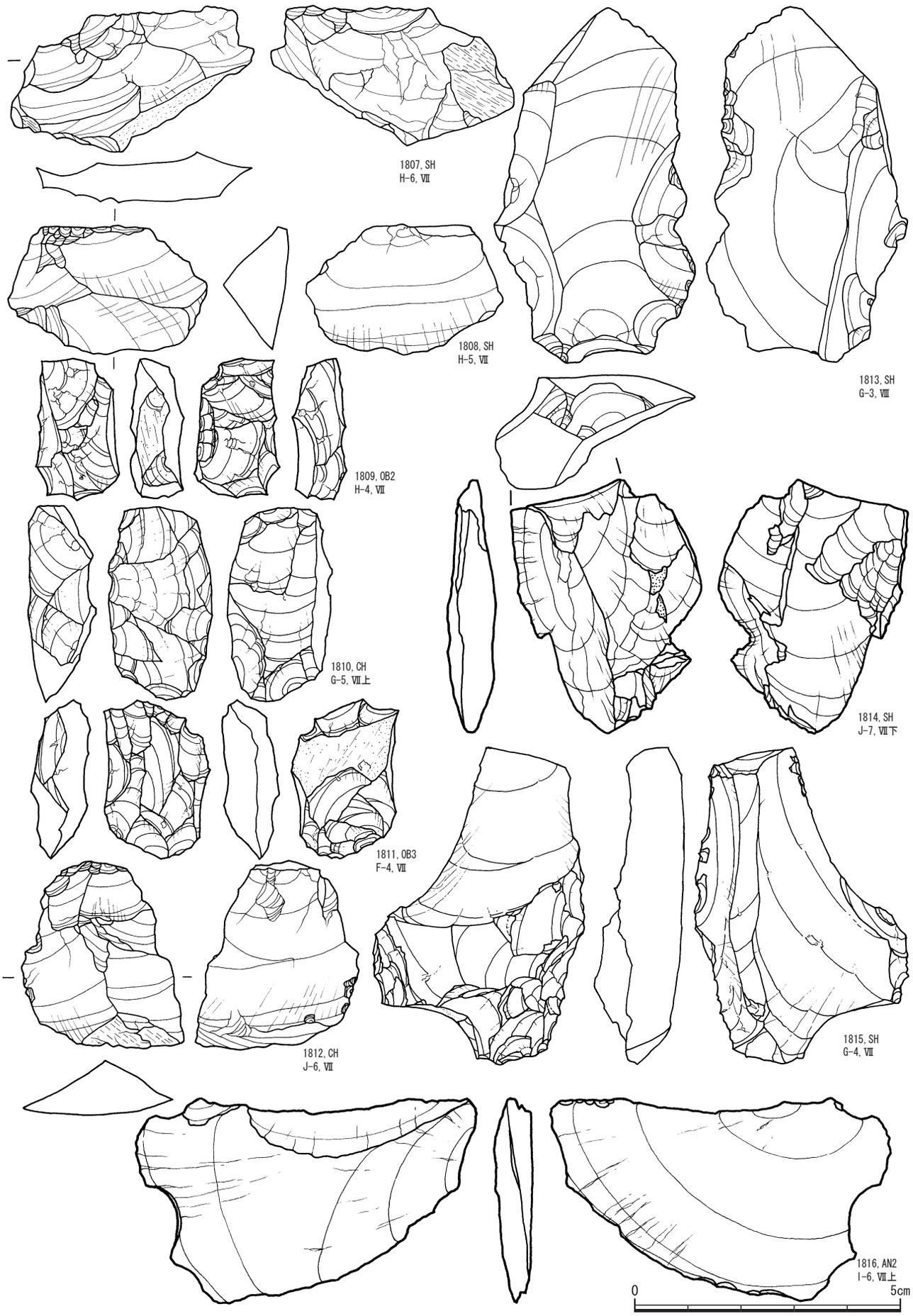
第488図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（７）



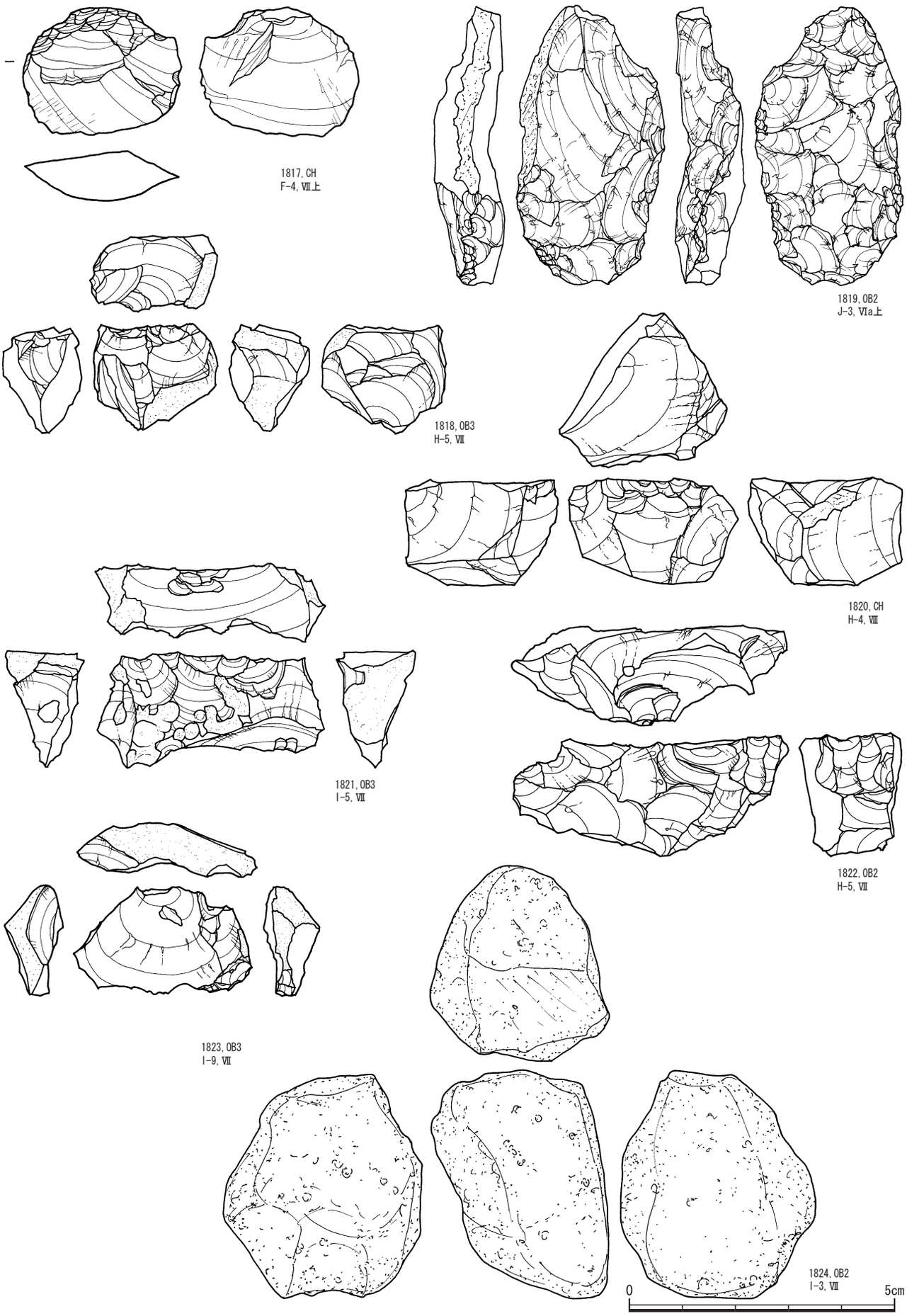
第489図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（８）



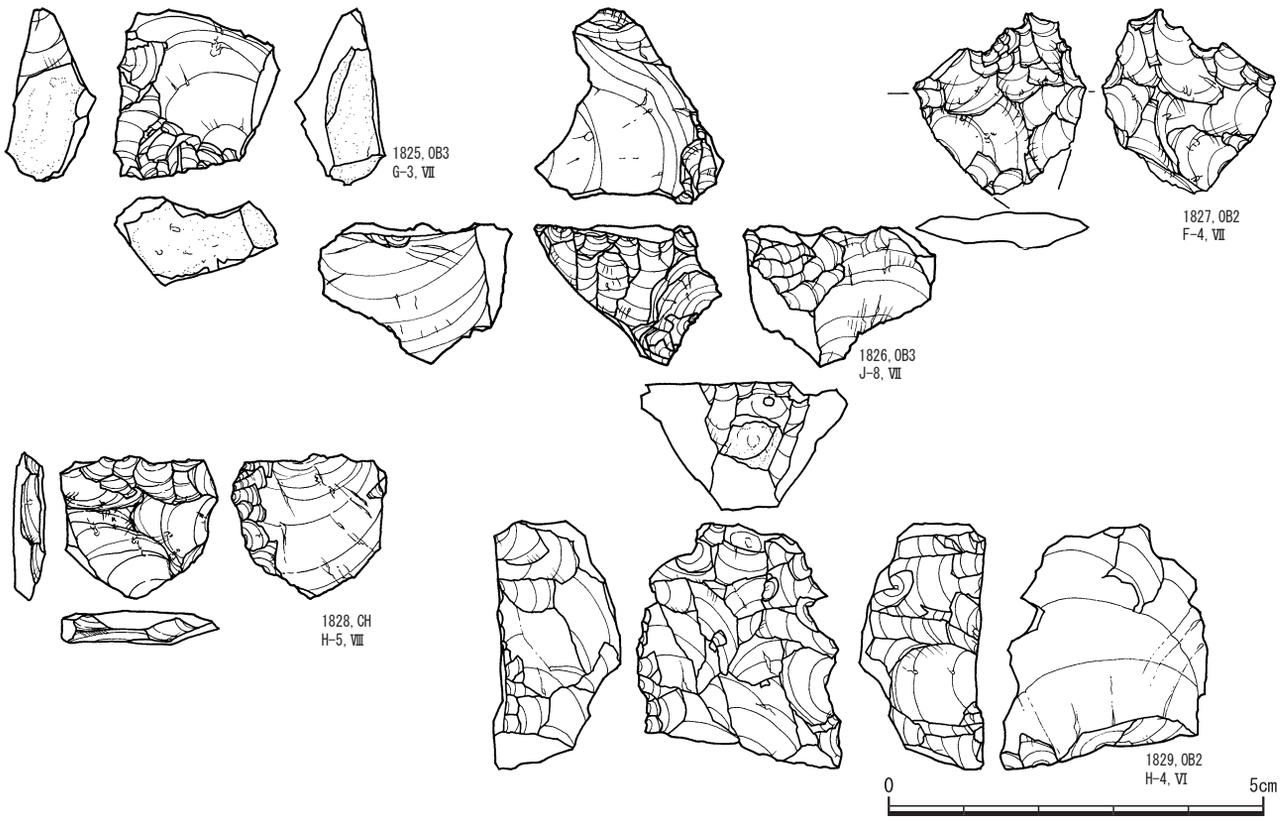
第490図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（９）

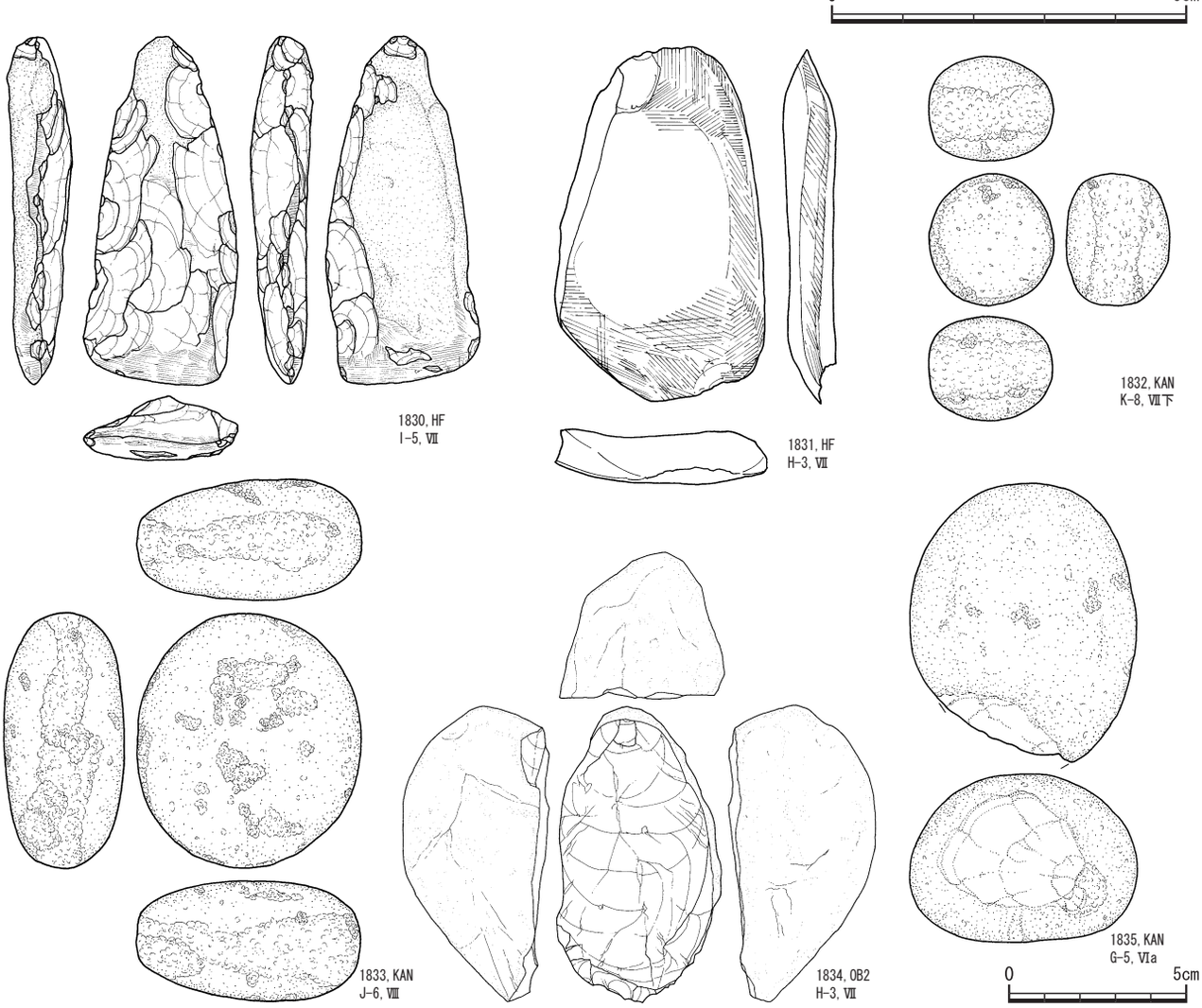


第491図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（10）

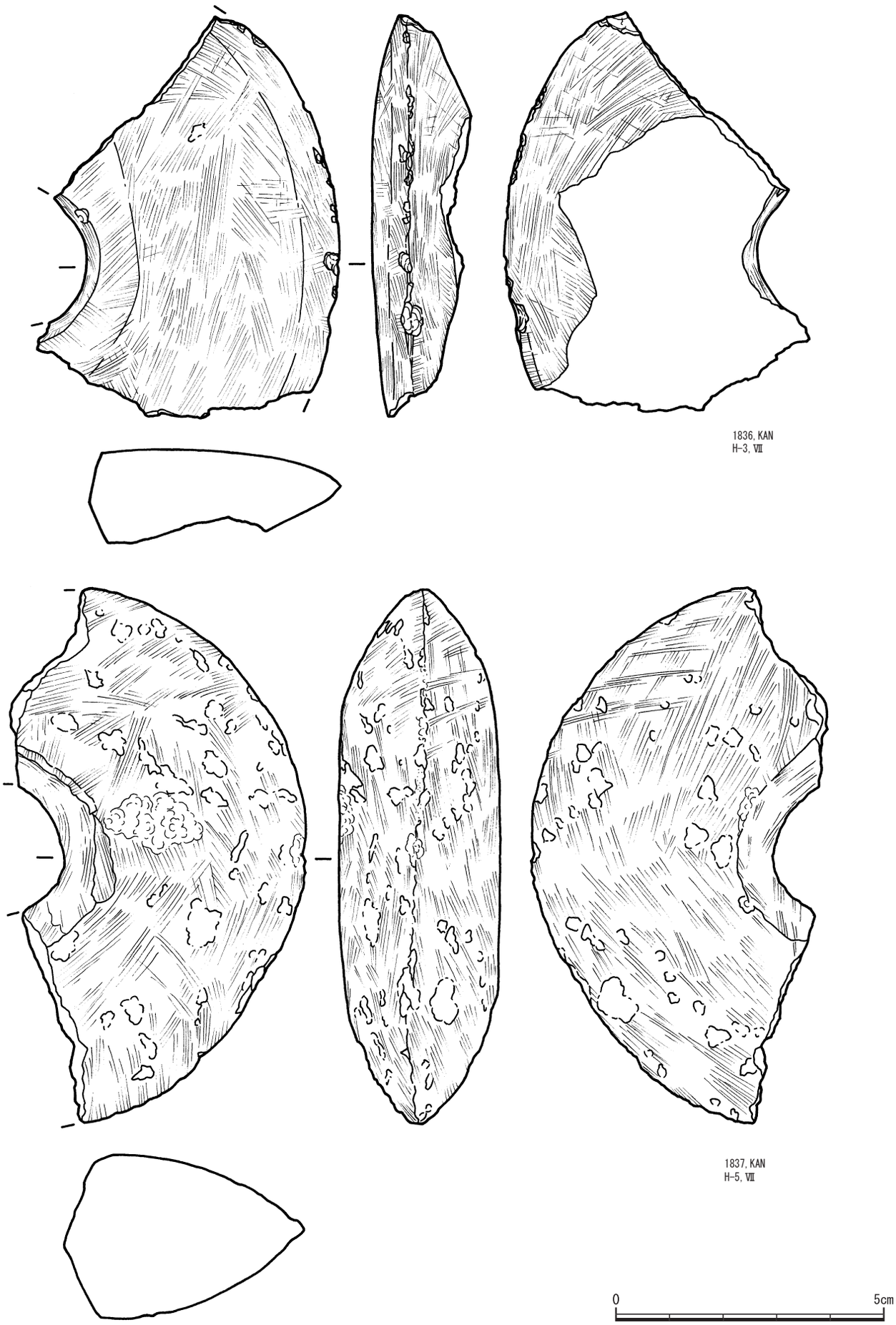


第492図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（11）

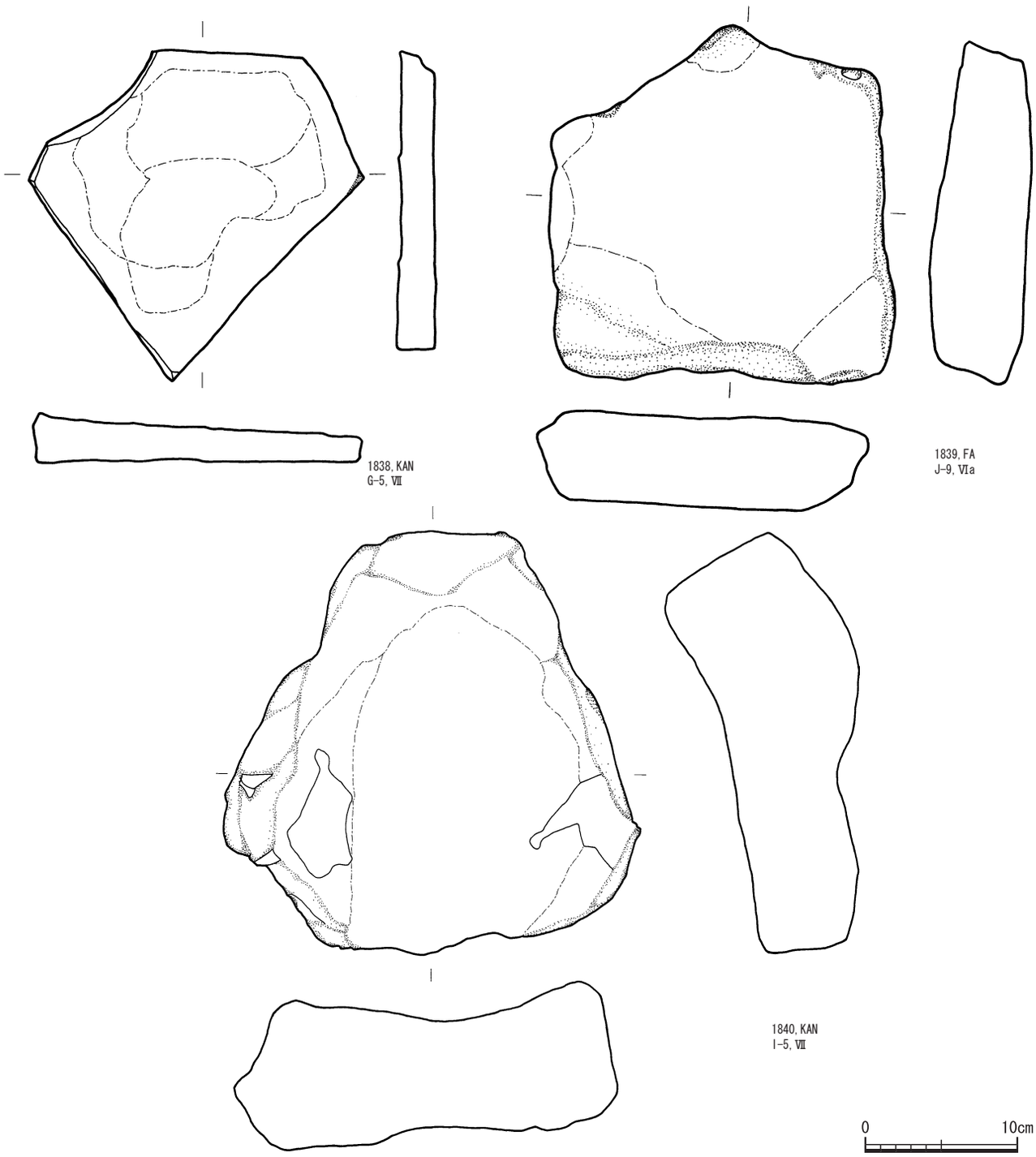




第493図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（12）



第494図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（13）



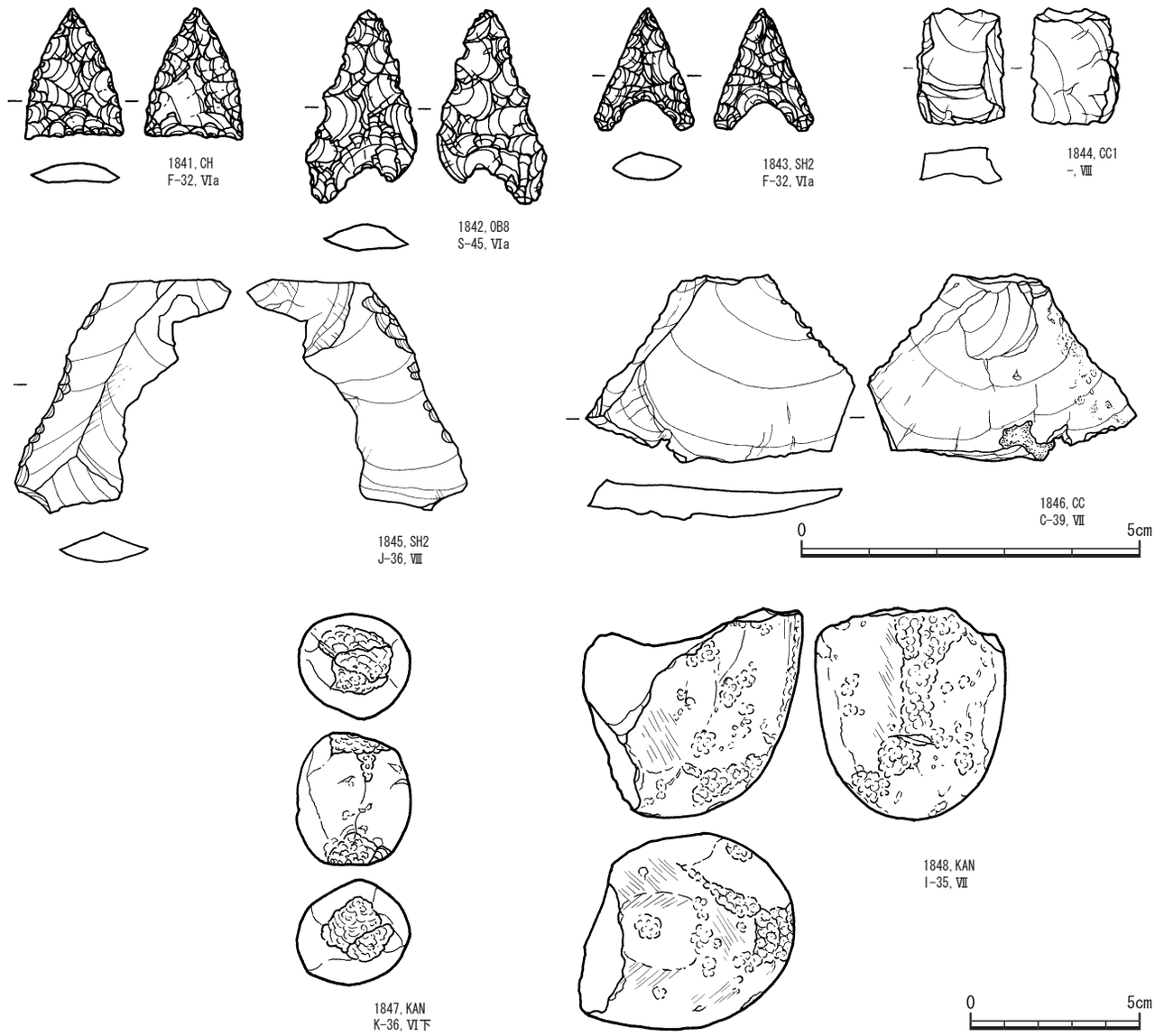
第495図　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器実測図（14）

第137表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（１）

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
482	1616	A10	B00	石鏃	－	OB3	9.3	11.2	2.8	0.24	▲17505(G-5/Ⅷ上)
482	1617	A10	B00	石鏃	－	OB2	15.1	12.6	2.9	0.3	▲10200(I-5/Ⅶ)
482	1618	A10	B00	石鏃	－	OB3	15.1	11	2.2	0.25	▲13140(G-5/Ⅶ)
482	1619	A10	B00	石鏃	石鏃	OB3	13.5	12	4.2	0.41	▲16643(H-5/Ⅷ下)
482	1620	A10	B00	石鏃	石鏃	OB3	14.1	10.8	2.8	0.27	▲16134(H-5/Ⅶ)
482	1621	A10	B00	石鏃	－	OB8	12.4	11.9	3.3	0.37	▲18145(J-7/Ⅶ)
482	1622	A10	B00	石鏃	－	OB3	14.7	12.5	2.1	0.26	▲17783(G-6/Ⅶ)
482	1623	A10	B00	石鏃	－	OB3	12.9	12.1	2.5	0.32	▲12801(H-4/Ⅶ)
482	1624	A10	B00	石鏃	－	SH	11.9	13.1	2.1	0.28	▲17778(G-5/Ⅶ)
482	1625	A10	B00	石鏃	－	OB8	18.5	12.6	3.8	0.53	▲18110(J-7/Ⅶ)
482	1626	A10	B00	石鏃	－	OB3	17.1	14.2	3.1	0.41	▲10728(H-5/Ⅶ)
482	1627	A10	B00	石鏃	－	OB1	16.7	13.8	4.6	0.52	▲13387(H-5/Ⅶ)
482	1628	A10	B00	石鏃	－	OB3	20.7	15.1	2.3	0.52	▲10062(I-6/Ⅶ)
482	1629	A10	B00	石鏃	－	OB8	14.7	14.3	5	0.57	▲18152(K-7/Ⅶ)
482	1630	A10	B00	石鏃	－	OB3	14	13.4	6.1	0.69	▲10074(I-6/Ⅶ)

第138表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（２）

挿図No	図No	エリア	ﾌﾞﾛｯｸ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
482	1631	A10	B00	石鏃	－	CH	15.1	14.4	3.9	0.86	▲18012(J-5/Ⅷ)
482	1632	A10	B00	石鏃	－	SH	16	18	3.3	0.82	▲16663(H-5/Ⅷ下)
482	1633	A10	B00	石鏃	－	OB8	16.8	14.9	4.1	0.62	▲18021(K-7/Ⅶ)
483	1634	A10	B00	石鏃	未製品	CC1	13.8	10.7	4.4	0.47	▲15229(J-9/Ⅵa)
483	1635	A10	B00	石鏃	－	OB3	12.6	11.1	2.4	0.22	▲10529(I-9/Ⅵa)
483	1636	A10	B00	掻器	－	CH	14.2	12.6	6.5	0.99	▲17800(H-5/Ⅷ)
483	1637	A10	B00	石鏃	－	OB3	19.3	13.4	5.1	0.73	▲13264(H-5/Ⅷ)
483	1638	A10	B00	石鏃	－	SH	19.8	16.3	4.1	0.91	▲8939(I-4/Ⅵa)
483	1639	A10	B00	石鏃	－	CH	16.8	15.2	4.1	0.87	▲9510(G-5/Ⅶ)
483	1640	A10	B00	石鏃	石鏃	CH	18.8	17	3.9	1.1	▲8544(G-4/Ⅷ)
483	1641	A10	B00	石鏃	－	CH	18.1	16.5	3.5	0.74	▲15991(H-6/Ⅶ)
483	1642	A10	B00	石鏃	－	CH	19.5	20.1	4.6	1.7	▲5336(G-4/Ⅵa)
483	1643	A10	B00	石鏃	－	OB8	22.4	17.7	3.3	0.76	▲10187(I-5/Ⅶ)
483	1644	A10	B00	石鏃	－	CH	24.7	17.9	4.6	1.4	▲13755(G-5/Ⅶ)
483	1645	A10	B00	石鏃	－	OB2	11.7	12.4	3.9	0.33	▲9928(H-3/Ⅶ)



第496図　第Ⅳ文化層エリア外出土石器実測図

第139表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（３）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
483	1646	A10	B00	石鏃	－	CH	14.6	13	3.1	0.37	▲10069(I-6/Ⅶ)
483	1647	A10	B00	石鏃	－	OB6	15.6	11.8	3.3	0.36	▲9702(G-5/Ⅶ上)
483	1648	A10	B00	石鏃	－	CH	15	11.9	3.2	0.41	▲9455(G-4/Ⅶ)
483	1649	A10	B00	石鏃	－	CH	15.5	14.1	2.7	0.43	▲9957(H-3/Ⅶ)
483	1650	A10	B00	石鏃	－	CH	16.5	12.8	2.6	0.3	▲13066(G-5/Ⅶ)
483	1651	A10	B00	石鏃	－	CH	19	12.3	2.5	0.33	▲8733(G-5/Ⅶ)
483	1652	A10	B00	石鏃	－	OB6	16.5	17	3	0.57	▲13182(G-5/Ⅶ)
483	1653	A10	B00	石鏃	－	AN2	19.1	18	2.7	0.69	▲9678(G-5/Ⅶ)
483	1654	A10	B00	石鏃	－	CH	20.2	13.5	3	0.49	▲7951(G-5/Ⅶ)
483	1655	A10	B00	石鏃	－	CH	17.9	16.2	3	0.51	▲17846(J-5/Ⅶ)
483	1656	A10	B00	石鏃	－	OB1	21.2	12.6	3.8	0.88	▲13219(I-5/Ⅶ)
483	1657	A10	B00	石鏃	－	OB6	13.8	16.7	3.1	0.45	▲17247(J-8/Ⅶ下)
483	1658	A10	B00	石鏃	－	CH	18.3	13.6	1.6	0.32	▲17583(J-6/Ⅶ)
483	1659	A10	B00	石鏃	－	CH	21	15	2.2	0.52	▲13236(H-5/Ⅶ)
483	1660	A10	B00	石鏃	－	CH	16.7	14.6	3.7	0.7	▲16627(H-5/Ⅶ下)
483	1661	A10	B00	石鏃	－	CH	19.4	14.4	4.1	0.79	▲16664(H-5/Ⅶ下)
483	1662	A10	B00	石鏃	－	OB5	23.6	14.9	4.1	0.89	▲7130(J-7/Ⅵa)
483	1663	A10	B00	石鏃	－	CH	18.4	14.8	3.6	0.65	▲8566(G-4/Ⅶ)
483	1664	A10	B00	石鏃	－	CH	21.1	14	4.4	0.79	▲9983(G-3/Ⅶ)
483	1665	A10	B00	石鏃	－	CH	20.6	19	4.6	1.2	▲8872(H-4/Ⅶ)
483	1666	A10	B00	石鏃	－	SH	23.2	20.9	3	1.1	▲9449(G-4/Ⅶ)
483	1667	A10	B00	石鏃	－	CH	23.5	18.8	4.1	1.3	▲17579(J-6/Ⅶ)
484	1668	A10	B00	石鏃	－	OB1	18.4	16.6	4.1	0.83	▲13380(H-5/Ⅶ)
484	1669	A10	B00	石鏃	－	OB2	19.1	9.3	4.3	0.76	▲1228(I-4/Ⅶ)
484	1670	A10	B00	石鏃	－	CH	20.3	11.7	3.9	0.53	▲15922(H-5/Ⅶ)
484	1671	A10	B00	石鏃	－	CH	22.3	13.4	3.1	0.72	▲9693(G-5/Ⅶ)

第140表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（４）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
484	1672	A10	B00	石鏃	－	CH	18.2	16.5	2.4	0.4	▲13049(F-5/Ⅶ)
484	1673	A10	B00	石鏃	－	CH	22.9	16.2	3.4	0.69	▲8507(G-4/Ⅶ)
484	1674	A10	B00	石鏃	－	AN2	21.4	17.8	2.5	0.62	▲15235(J-10/Ⅵa)
484	1675	A10	B00	石鏃	－	CH	22.5	15	4.6	0.91	▲13024(G-4/Ⅶ)
484	1676	A10	B00	石鏃	－	SH	26.1	18.1	4.4	1.3	▲8153(H-3/Ⅶ)
484	1677	A10	B00	石鏃	－	CH	26.8	18.9	5	1.4	▲7967(G-5/Ⅶ)
484	1678	A10	B00	石鏃	－	AN2	22.2	19.9	4.2	1.1	▲10341(G-5/Ⅶ)
484	1679	A10	B00	石鏃	－	AN2	24.4	13.6	5.2	1	▲15227(J-9/Ⅵa)
484	1680	A10	B00	石鏃	－	CH	23.9	17.8	3	0.67	▲8677(G-5/Ⅶ)
484	1681	A10	B00	石鏃	－	CH	23.5	16.7	4.4	1.3	▲9767(H-5/Ⅶ上)
484	1682	A10	B00	石鏃	－	CH	30.7	16.1	3.2	2.9	▲9881(H-5/Ⅶ)
484	1683	A10	B00	石鏃	－	CH	29.3	16.5	4.8	1.3	▲17891(J-7/Ⅶ下)
484	1684	A10	B00	石鏃	－	CH	25.1	15.2	4.4	1.2	▲10614(H-4/Ⅶ)
484	1685	A10	B00	石鏃	－	OB3	23.4	14.9	3.2	0.65	▲9835(H-5/Ⅶ)
484	1686	A10	B00	石鏃	－	CH	20.8	13.7	3.7	0.96	▲10239(H-5/Ⅶ)
484	1687	A10	B00	石鏃	－	OB8	23.4	14.2	3.8	0.77	▲9497(J-8/Ⅶ)
484	1688	A10	B00	石鏃	－	CH	19.5	10.8	3.6	0.46	▲9770(H-5/Ⅶ上)
484	1689	A10	B00	石鏃	－	CH	22	13	3	0.58	▲9739(H-5/Ⅶ)
484	1690	A10	B00	石鏃	－	AN2	26.6	14.4	4.4	1.2	▲8535(G-4/Ⅶ)
484	1691	A10	B00	石鏃	－	AN2	24.3	15.4	3.9	0.92	▲7115(K-7/Ⅶ)
484	1692	A10	B00	石鏃	－	CH	26.6	12.2	3.3	0.93	▲9098(J-7/Ⅶ横転)
484	1693	A10	B00	石鏃	－	CH	24.8	17.6	3.9	1.7	▲13727(G-6/Ⅶ)
484	1694	A10	B00	石鏃	－	OB6	29.6	19.4	4.2	1.5	▲12963(H-8/Ⅶ)
484	1695	A10	B00	石鏃	－	SH	32.4	15.9	4.2	1.5	▲10479(I-6/Ⅶ)
485	1696	A10	B00	石鏃	－	SH	14.2	13	2.8	0.38	▲17748(H-5/Ⅶ)
485	1697	A10	B00	石鏃	未製品	OB3	17.5	13.4	5.5	1.2	▲9844(H-4/Ⅶ)

第141表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（５）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
485	1698	A10	B00	石鏃	－	OB3	12.4	13	4.4	0.78	▲7868(G-5/Ⅵb)
485	1699	A10	B00	石鏃	－	OB2	13.6	16.1	4	0.64	▲7667(J-4/Ⅵa)
485	1700	A10	B00	石鏃	－	OB8	16.9	15.7	3.8	0.83	▲10009(I-6/Ⅶ)
485	1701	A10	B00	石鏃	未製品	AN2	21.5	17.4	3.7	0.89	▲8941(I-4/Ⅶ)
485	1702	A10	B00	石錐	－	CH	21.1	14.3	3.5	0.76	▲9760(H-5/Ⅶ上)
485	1703	A10	B00	石鏃	未製品	CH	20.6	16.4	5.1	1.5	▲9707(G-5/Ⅶ)
485	1704	A10	B00	石鏃	－	CH	24.7	20.2	6.1	2.1	▲8439(G-4/Ⅶ)
485	1705	A10	B00	石鏃	未製品	SH	24.5	18.1	3.7	1.7	▲13138(G-5/Ⅶ)
485	1706	A10	B00	石鏃	－	CH	20.9	12.6	3.1	0.62	▲9864(H-5/Ⅶ)
485	1707	A10	B00	石錐	－	OB3	22.4	8.2	2.9	0.47	▲8461(G-4/Ⅶ)
485	1708	A10	B00	石鏃	－	CH	12.7	8.6	1.5	0.16	▲8655(G-5/Ⅶ)
485	1709	A10	B00	石鏃	－	AN2	13.8	11.2	2.4	0.28	▲8634(G-5/Ⅶ)
485	1710	A10	B00	石鏃	－	CH	22.9	17.8	3.2	1.3	▲10485(G-5/Ⅶ)
485	1711	A10	B00	石核	－	CC2	30.1	24.9	10.6	7.3	▲7850(G-5/Ⅵa)
485	1712	A10	B00	石鏃	－	CH	19.3	22.6	3.8	1.5	▲16186(J-6/Ⅵa)
485	1713	A10	B00	石鏃	－	CH	29.3	21.6	4.6	2	▲15955(I-4/Ⅶ)
485	1714	A10	B00	石鏃	未製品	CH	21.3	22.3	4.9	1.9	▲16284(H-5/Ⅶ下)
485	1715	A10	B00	石鏃	－	CH	20.5	14.7	2.9	0.67	▲16002(H-5/Ⅶ)
485	1716	A10	B00	剥片	－	OB3	26.6	22.2	8.5	2	▲16014(H-5/Ⅶ)
485	1717	A10	B00	異形石器	－	AN2	24.5	21.7	5.7	2.3	▲13294(H-5/Ⅶ)
485	1718	A10	B00	楔形石器	－	CC	26.2	17.5	6.8	3.4	▲9181(J-5/Ⅶ)
485	1719	A10	B00	異形石器	－	AN2	29	23.6	11.9	4.7	▲15238(J-10/Ⅵa)
485	1720	A10	B00	異形石器	－	AN2	35.8	20.3	9.6	5.3	▲13297(H-5/Ⅶ)
485	1721	A10	B00	異形石器	－	AN2	34.5	22.5	10.6	7.2	▲10493(H-5/Ⅶ)
486	1722	A10	B00	石錐	－	CH	19.9	15.2	3	0.81	▲9854(H-5/Ⅶ)
486	1723	A10	B00	石錐	－	CH	21.9	15.7	2.8	0.78	▲16192(G-5/Ⅶ)
486	1724	A10	B00	石鏃	未製品	SH	22.4	16.8	4.6	1.5	▲8550(G-4/Ⅶ)
486	1725	A10	B00	石鏃	－	OB3	21.3	14	5.9	1.5	▲16281(H-5/Ⅶ下)
486	1726	A10	B00	石錐	－	CH	20.1	13.3	3.2	0.79	▲13117(G-5/Ⅶ)
486	1727	A10	B00	石鏃	未製品	OB6	25	13.8	4	1	▲7770(H-6/Ⅶ横転)
486	1728	A10	B00	石錐	－	CH	28.3	16.6	5.3	1.8	▲13191(G-5/Ⅶ)
486	1729	A10	B00	石鏃	未製品	SH	21	21.3	7.1	1.8	▲13069(G-5/Ⅶ)
486	1730	A10	B00	石錐	－	CH	26.6	17.9	5.6	2.5	▲17419(J-6/Ⅶ)
486	1731	A10	B00	二次加工痕剥片	－	CH	29.4	19.3	8.7	4.6	▲9706(G-5/Ⅶ)
486	1732	A10	B00	石錐	－	CH	26.6	21.9	7.9	4.2	▲10100(I-6/Ⅶ)
486	1733	A10	B00	二次加工痕剥片	－	AN2	38.1	18.2	6.9	3.6	▲855(I-4/Ⅶ)
486	1734	A10	B00	石鏃	未製品	SH	28.6	20.3	8.5	4.5	▲7113(J-7/Ⅵa)
486	1735	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	32.9	24.8	10.7	6.1	▲8934(H-5/Ⅵa)
486	1736	A10	B00	石鏃	未製品	CH	21.9	20	4.2	1.7	▲10731(H-5/Ⅶ)
486	1737	A10	B00	石鏃	未製品	CH	21.3	21.4	5.9	2.3	▲18017(J-5/Ⅶ)
486	1738	A10	B00	石錐	－	CH	23.8	20.4	3.9	1.4	▲10112(I-5/Ⅶ)
486	1739	A10	B00	剥片	－	CH	32.4	25.4	8.1	5.7	▲16115(H-5/Ⅶ)
486	1740	A10	B00	石鏃	－	CH	14	11.5	3	0.4	▲9793(H-4/Ⅵa)
486	1741	A10	B00	石鏃	－	CH	15.6	14.6	3.5	0.64	▲17188(G-5/Ⅶ)
486	1742	A10	B00	石錐	－	SH	32.7	19.2	7.2	3.2	▲10477(I-6/Ⅶ)
486	1743	A10	B00	石錐	－	CH	30.7	25.4	12	5.8	▲10209(I-5/Ⅶ)
487	1744	A10	B00	剥片	－	CH	16.5	11.4	4.1	0.56	▲18047(J-6/Ⅶ)
487	1745	A10	B00	抉入石器	－	CH	15.8	13.9	4.4	0.87	▲7993(G-4/Ⅶ)
487	1746	A10	B00	削器	－	OB3	19.5	13.7	7.9	1.3	▲9025(I-5/Ⅵa)
487	1747	A10	B00	掻器	－	OB3	18.4	14.9	6.1	1.6	▲7737(I-7/Ⅶ横転)
487	1748	A10	B00	石鏃	－	CH	14.5	14.2	3.1	0.66	▲10346(G-5/Ⅶ)
487	1749	A10	B00	二次加工痕剥片	－	OB3	17.4	12.9	4.6	0.75	▲9704(G-5/Ⅶ)
487	1750	A10	B00	石錐	－	CH	21	13.1	2.7	0.69	▲7964(G-5/Ⅶ)
487	1751	A10	B00	石鏃	未製品	OB1	18.8	18.3	7.8	2.4	▲9827(H-4/Ⅶ)
487	1752	A10	B00	剥片	－	OB3	18.9	15.8	5.6	1.5	▲10399(G-3/Ⅶ)
487	1753	A10	B00	削器	－	CH	22.2	17.9	4.7	1.6	▲13651(I-4/Ⅶ)
487	1754	A10	B00	剥片	－	SH	20.5	16.7	5.3	1.3	▲16967(G-3/Ⅶ)
487	1755	A10	B00	剥片	－	CH	20.6	17.6	6.1	1.4	▲9831(G-4/Ⅶ)
487	1756	A10	B00	石匙	未製品	SH	29.7	34.4	11.2	8.6	▲9096(J-7/Ⅶ横転)
487	1757	A10	B00	削器	－	OB3	23.5	18.3	9.7	3.1	▲9829(H-4/Ⅶ)
487	1758	A10	B00	石鏃	未製品	OB3	19.1	20	5.1	1.6	▲12813(H-4/Ⅶ)
487	1759	A10	B00	石核	－	CH	21.3	24	9.4	5.6	▲9997(I-6/Ⅶ)
487	1760	A10	B00	削器	－	CH	21.9	21.7	7	3.8	▲10564(F-3/Ⅶ)
487	1761	A10	B00	石鏃	未製品	SH	25.9	22.9	6	4	▲10394(H-3/Ⅶ)
487	1762	A10	B00	剥片	－	AN1	25.7	23.8	8.8	3.9	▲16272(H-5/Ⅶ下)
487	1763	A10	B00	削器	－	CH	25.1	20	8.2	3.4	▲16274(H-5/Ⅶ下)
487	1764	A10	B00	石鏃	未製品	CH	19.3	29.5	6.3	4	▲8000(G-4/Ⅶ)
487	1765	A10	B00	削器	－	CH	27.8	19.8	6.2	2.5	▲13792(G-5/Ⅶ)
487	1766	A10	B00	二次加工痕剥片	－	CH	29.2	21	8.5	5.7	▲10044(H-3/Ⅶ)
487	1767	A10	B00	削器	－	SH	29	27.3	9.5	6.1	▲7876(F-4/Ⅵa上)
488	1768	A10	B00	削器	－	OB2	26.6	24.7	9.9	6.6	▲5339(G-4/Ⅵa)
488	1769	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	29.5	29	9	6.5	▲9008(H-5/Ⅵa)
488	1770	A10	B00	削器	－	CH	40.2	27.1	10	10	▲7938(G-5/Ⅶ)
488	1771	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	33	24.4	17.4	10	▲7848(G-5/Ⅵa)
488	1772	A10	B00	石錐	－	CH	17.3	31.5	5.4	1.8	▲9995(I-6/Ⅶ上)
488	1773	A10	B00	石核	－	OB2	31.4	38.2	14	12	▲17545(G-6/Ⅶ)
488	1774	A10	B00	二次加工痕剥片	－	CH	34.6	19	11.5	7	▲13222(H-5/Ⅶ)
488	1775	A10	B00	二次加工痕剥片	二次加工痕剥片	CH	19.2	23.3	7.5	4.2	▲12868(I-5/Ⅶ)
488	1776	A10	B00	石核	－	CH	28.7	15.7	9.1	4.4	▲12995(H-4/Ⅶ下)

第142表　第Ⅳ文化層第10エリア出土石器観察表（６）

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
488	1777	A10	B00	削器	－	OB2	46.6	28.9	13.9	17	▲13614(F-3/Ⅶ)
488	1778	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	55.1	28.4	17.6	24	▲7867(G-5/Ⅵb)
489	1779	A10	B00	石錐	－	CC	28.8	14.3	8	2.5	▲1630(I-8/Ⅶ横転)
489	1780	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	43.1	23.7	10.2	7.6	▲13307(H-5/Ⅶ)
489	1781	A10	B00	剥片	－	CH	45	19.3	10.8	7.7	▲10745(H-5/Ⅶ)
489	1782	A10	B00	剥片	－	SH	35.3	32.8	9	9.4	▲10637(I-4/Ⅶ)
489	1783	A10	B00	石核	－	CH	38.9	26.8	12.5	12	▲9494(J-8/Ⅶ)
489	1784	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	34.2	29.8	11.3	10	▲8932(H-5/Ⅵa)
489	1785	A10	B00	石核	－	CC	32.3	22.9	10.2	7.6	▲7991(G-4/Ⅶ)
489	1786	A10	B00	剥片	－	SH	52.8	38.8	17	26	▲12738(G-3/Ⅶ樹根)
489	1787	A10	B00	削器	－	AN2	52.1	72.5	9.6	35	▲8133(H-3/Ⅶ)
490	1788	A10	B00	剥片	－	OB2	20.2	23.4	7.4	2.6	▲7888(G-4/Ⅵa)
490	1789	A10	B00	剥片	－	CH	17.9	19.4	9.3	2.9	▲13335(H-5/Ⅶ)
490	1790	A10	B00	二次加工痕剥片	－	CH	15.7	18.8	3.7	0.54	▲16114(H-5/Ⅶ)
490	1791	A10	B00	抉入石器	－	CH	16.3	11.2	4	0.78	▲9816(H-5/Ⅶ)
490	1792	A10	B00	石鏃	未製品	CH	13.5	15.4	2.8	0.52	▲13101(I-6/Ⅶ)
490	1793	A10	B00	石鏃	－	CH	8.9	16.5	4.2	0.62	▲9709(G-5/Ⅶ)
490	1794	A10	B00	石鏃	未製品	SH	17	14.7	3	0.66	▲8527(G-4/Ⅶ)
490	1795	A10	B00	剥片	－	OB6	19.1	11.9	2.4	0.44	▲7427(H-6/Ⅶ横転)
490	1796	A10	B00	石鏃	未製品	CH	33.4	11.1	3.7	1.6	▲13056(G-5/Ⅶ)
490	1797	A10	B00	剥片	－	CH	26.2	15.1	5.4	1.2	▲6276(H-4/Ⅵ上)
490	1798	A10	B00	剥片	－	CH	31.4	23	5.7	3.1	▲9771(H-5/Ⅶ上)
490	1799	A10	B00	石核	－	CH	27.2	24	17	9.6	▲7645(H-5/Ⅵ上)
490	1800	A10	B00	剥片	－	SH	25.1	22	7.2	3.3	▲13624(E-3/Ⅶ)
490	1801	A10	B00	微細剥離痕剥片	－	CH	19.3	28.2	6.6	2.4	▲18268(J-8/Ⅶ)
490	1802	A10	B00	剥片	－	OB3	37.6	17.7	9.4	3	▲9746(H-5/Ⅶ)
490	1803	A10	B00	剥片	－	CH	29.4	21	8	2.9	▲848(I-4/Ⅶa)
490	1804	A10	B00	石核	－	CH	21.3	31.6	11.1	7.2	▲10087(I-6/Ⅶ)
490	1805	A10	B00	二次加工痕剥片	－	CH	38.1	31.1	9.5	9.1	▲9301(G-3/Ⅶ)
490	1806	A10	B00	削器	－	CH	36	30.6	6.7	8	▲10162(E-5/Ⅵa)
491	1807	A10	B00	剥片	－	SH	26.5	46	12.2	10	▲13677(H-6/Ⅶ)
491	1808	A10	B00	微細剥離痕剥片	－	SH	24.7	37.3	12.9	9.3	▲13316(H-5/Ⅶ)
491	1809	A10	B00	石核	－	OB2	26.4	16.4	9.9	4.4	▲8880(H-4/Ⅶ)
491	1810	A10	B00	楔形石器	－	CH	36.7	20	12	9.2	▲9737(G-5/Ⅶ上)
491	1811	A10	B00	石核	－	OB3	30.3	20.5	10.8	5.6	▲9419(F-4/Ⅶ)
491	1812	A10	B00	微細剥離痕剥片	－	CH	35.9	31	11	9.6	▲9220(J-6/Ⅶ)
491	1813	A10	B00	削器	－	SH	67	38.1	20.6	36	▲8269(G-3/Ⅶ)
491	1814	A10	B00	剥片	－	SH	48.1	36	8.4	12	▲17896(J-7/Ⅶ下)
491	1815	A10	B00	二次加工痕剥片	－	SH	59.7	40.6	11.5	28	▲10556(G-4/Ⅶ)
491	1816	A10	B00	剥片	－	AN2	38.5	64.5	6.7	12	▲13096(I-6/Ⅶ上)
492	1817	A10	B00	剥片	－	CH	24.5	30.2	9.4	5.3	▲9919(F-4/Ⅶ上)
492	1818	A10	B00	石核	－	OB3	20.8	23.7	15.2	6	▲13333(H-5/Ⅶ)
492	1819	A10	B00	二次加工痕剥片	－	OB2	52.5	28.1	14.3	16	▲8224(J-3/Ⅵa上)
492	1820	A10	B00	石核	－	CH	20.2	32.3	29	18	▲12783(H-4/Ⅶ)
492	1821	A10	B00	石核	－	OB3	22.1	43.1	15	1041	▲10129(I-5/Ⅶ)
492	1822	A10	B00	石核	－	OB2	22.9	52.1	19.4	20	▲13385(H-5/Ⅶ)
492	1823	A10	B00	掻器	－	OB3	20.4	33.9	10.7	4.5	▲10460(I-9/Ⅶ)
492	1824	A10	B00	原礫	－	OB2	43.3	33.7	37.1	57	▲8102(I-3/Ⅶ)
493	1825	A10	B00	石核	－	OB3	22.9	22.3	11.1	4.6	▲9558(G-3/Ⅶ)
493	1826	A10	B00	細石刃核	－	OB3	19.1	25.4	25.6	6.8	▲7144(J-8/Ⅶ)
493	1827	A10	B00	石鏃	未製品	OB2	24.8	23.3	6.3	2.4	▲12834(F-4/Ⅶ)
493	1828	A10	B00	石鏃	未製品	CH	19.5	20.9	3.9	2.1	▲13257(H-5/Ⅶ)
493	1829	A10	B00	石核	－	OB2	33	27.9	17	13	▲8917(H-4/Ⅵ)
493	1830	A10	B00	磨製石斧	－	HF	98.5	44	17.2	84	▲10191(I-5/Ⅶ)
493	1831	A10	B00	磨製石斧	－	HF	100.2	62.1	16.9	155.5	▲10390(H-3/Ⅶ)
493	1832	A10	B00	ハンマー	－	KAN	37.6	35.6	29.6	57	▲18158(K-8/Ⅶ下)
493	1833	A10	B00	磨石	/敲	KAN	72.2	63.6	34.6	218	▲17580(J-6/Ⅶ)
493	1834	A10	B00	石核	－	OB2	83.4	46.6	39.8	154	▲8154(H-3/Ⅶ)
493	1835	A10	B00	磨石	－	KAN	79	64	48.1	327	▲5340(G-5/Ⅵa)
494	1836	A10	B00	環状石斧	－	KAN	74.9	57.4	17.9	73	▲9319(H-3/Ⅶ)
494	1837	A10	B00	環状石斧	－	KAN	100.4	55.8	29.6	168	▲10736(H-5/Ⅶ)
495	1838	A10	B00	石皿	－	KAN	219.2	221.7	31.1	1500	▲13826(G-5/Ⅶ)
495	1839	A10	B00	石皿	－	FA	237.4	229.3	61.2	3400	▲15234(J-9/Ⅵa)
495	1840	A10	B00	石皿	－	KAN	279.5	275.4	175	21kg	▲13698(I-5/Ⅶ)

第143表　第Ⅳ文化層エリア外出土石器観察表

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(層位/グリッド)
496	1841	A00	B00	石鏃	－	CH	19.7	14.7	2.9	0.77	○2383(F-32/Ⅵa)
496	1842	A00	B00	石鏃	－	OB8	29	16.5	4.1	1.3	○59711(S-45/Ⅵa)
496	1843	A00	B00	石鏃	－	SH2	18.3	14.9	3.4	0.59	○2389(F-32/Ⅵa)
496	1844	A00	B00	石鏃	－	CC1	17.5	13.3	6.2	1.4	○57370(－/Ⅷ)
496	1845	A00	B00	微細剥離痕剥片	－	SH2	34.4	32.7	5.8	3.2	○68124(J-36/Ⅷ)
496	1846	A00	B00	微細剥離痕剥片	－	CC	27.9	40	7	6.3	◎33904(C-39/Ⅷ)
496	1847	A00	B00	ハンマー	－	KAN	39.7	34.1	30.4	53	○68123(K-36/Ⅵ下)
496	1848	A00	B00	磨石	/敲	KAN	62.6	65.6	56.5	238	○68128(I-35/Ⅶ)